2020/07/16(木)22:11

科 目 名	社会学 [社介]			授業コード	1010011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	現代社会、社会変動、社会問題
到達目標	・社会学の基本概念について説明できる。 ・社会学の基礎知識を用いて、社会について思考（考察）できる。 ・人間と社会との関りについて、広い視野で物事を捉えつつ、主体的に学ぶことができる。
授業の概要	現代社会の全体像について、また「社会学」という学問分野について、基本的な視点と知識を獲得することを目指した授業を行う。 具体的には、「社会変動の諸相」、「現代社会の特徴」、「現代の主要な社会問題」といったトピックを重視し、学生諸君の社会に対する興味関心を惹起するような講義を行いたい。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験の得点（94%）と授業中に実施する確認小試験の得点（6%）との合計によって成績評価を行う。
フィードバック	授業内確認小試験についての解説等のフィードバックを、事後の授業において行う。
履修に際しての 注意事項	基本的なマナーやルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・社会福祉士養成講座3　社会理論と社会システム』(社会福祉士養成講座編集委員会　編)中央法規	ISBN978-4-8058-3930-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会学はどのような学問か？
事前	テキストの序章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業において詳しい説明がなされた事項について、ノートにまとめる等の復習を行い、知識の定着をはかること。(2時間)

2	近代化と産業化(1) 「近代社会」の出現
事前	テキスト第1章第4節1を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo1の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

3	近代化と産業化(2)　産業化をめぐる諸問題
事前	テキスト第1章第4節2を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo2前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

4	産業化の進展と現代社会
事前	プリントNo2後半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

5	ホロコーストとファシズム
事前	プリントNo3の内容について復習しておくこと。(2時間)
事後	授業中に詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

6	人種とエスニシティ
事前	テキスト第4章第3節1～3を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

7	非西欧社会への視点
事前	テキスト第4章第3節4を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo4の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

8	社会の中の差別、排除
事前	アメリカ合衆国、および南アフリカにおける人種差別について自分なりに調べて、ノートにまとめる等の事前学習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo5の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

9	宗教と文明
事前	テキスト第1章第4節4を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

10	アジア諸地域の近代化
事前	これまでの授業で詳説された事項について、自分なりに復習しておくこと。(2時間)
事後	プリントNo6の内容について復習し、知識の定着をはかること。また、授業内確認小試験において自分が回答できなかった箇所について、学習しておくこと。(2時間)

11	現代における平和と共存の可能性
事前	インドの近代史やマハトマ・ガンジーの業績について、自分なりに調べる等の事前学習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo7の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

12	公害と地球環境問題
事前	主要な環境問題について、自分なりに調べる等の事前学習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo8の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

13	家族とは何か
事前	テキスト第2章第2節1、2を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

14	現代日本の家族変容
事前	テキスト第2章第2節3を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

15	地域社会への視点
事前	テキスト第2章第3節を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo10の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

2020/07/16(木)22:02

科 目 名	基礎演習I [心]			授業コード	1010020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、「捨我精進」の意味を説明できるようになること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎教養を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を修得し、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路について考え、関係する情報を収集すること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業を受けるときの常識、ノートの取り方、図書館の利用方法、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な基礎知識や技能を修得する。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考える機会を設ける。また、授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、レポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○				
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「日本語プレースメントテスト」の実施、建学の精神、入学前課題の確認
事前	大学のホームページで、建学の精神について読んでおくこと。また、入学前課題を見直し、提出の準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	エンカウンター(自己紹介)、大学での授業について
事前	テキストのⅠを読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	講義の基本、ノート・メモのとり方、プリント資料の管理等
事前	Ⅱの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	講義の聞き方と、ノートのとり方の工夫
事前	Ⅱの3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	レポートの書き方について
事前	Ⅲの1と2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	レポート作成と提出にあたっての留意事項、試験に向けた学習の仕方
事前	Ⅲの3と4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	定期試験について、大学の授業の成績評価について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および成績に関する項目、テキストのコラム2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	本の読み方の基本
事前	Ⅱの4，5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	本の読み方の応用
事前	Ⅱの6を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	キャリア形成について
事前	Ⅶの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	Ⅲの5～8を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	レポート作成の技術
事前	Ⅲの9～11、コラム5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	講演「青年期と性」(共同授業)
事前	配布資料を読んでおくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等) (共同授業)
事前	Ⅳの4～7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストの中で、授業で扱った内容にかかわる箇所を流し読みし、振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:18

科 目 名	基礎演習 [社介心]			授業コード	1010031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	大学での学びの基本、基礎教養、社会と社会福祉への視点

到達目標	・広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための基礎教養を身につけることができる。 ・大学生として必要不可欠な基礎知識や、基本的な学びの技術を修得し、他の授業でも活用できる。			
授業の概要	授業を受ける際の基本姿勢、ノートの取り方、資料整理の方法、レポートの書き方、ディスカッション等、大学での学びに必要不可欠な基礎知識や技能の修得を目指した演習を行う。さらに、人間、社会と社会福祉に関する基礎教養を身につけ、自身の進路と関連させて考えることに資する授業にしたい。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・コメントシート（8回） ・ミニレポート（1回）
評価方法 及び評価基準	レポート	授業の終わりに提出するコメントシート（32%）、授業内と事後学習で使用する課題シート（28%）、ミニレポート（40%）として、成績評価を行う。		
フィードバック	提出されたコメントシートに対しては、次の回の授業でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	基本的なマナーやルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III		○					
IV							

V							

テキスト1	配布プリントに沿って授業を行う。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	自己紹介、自身の生活の振り返り
事前	キャンパスガイドに目を通しておく。また、なぜ前年度「基礎演習」の単位を取得できなかったのか、その理由を考える。(30分)
事後	授業の中で詳しく説明されたポイントについて、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

2	大学卒業後の自分について考える
事前	自分が取得したい資格、自分が将来就きたい仕事について、考えておく。なぜその資格を取得したいのか、なぜその仕事に就きたいのか、ノートにまとめておく。(30分)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

3	授業の聞き方、ノートの取り方
事前	第2回目の授業の最後に伝えられたポイントについて予習をしておく。(30分)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

4	相談援助について1　利用者の方との関係づくり
事前	第3回目の授業中に伝えられたポイントについて予習をしておく。(30分)
事後	授業中に配布する「課題シート1」に沿って事後学習に取り組む。(30分)

5	相談援助について2　アセスメント
事前	課題シートを活用し、前回の授業内容について復習しておく。(30分)
事後	授業中に配布する「課題シート2」に沿って事後学習に取り組む。(30分)

6	社会の変化を観る目1　伝統的な社会
事前	第5回の授業の最後で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(30分)
事後	授業中に配布する「課題シート3」に沿って事後学習に取り組む。(30分)

7	社会の変化を観る目2　近代的な社会
事前	課題シートを活用し、前回の授業内容について復習しておく。(30分)
事後	授業中に配布する「課題シート4」に沿って事後学習に取り組む。(30分)

8	メディアと情報について
事前	第7回の授業の最後に伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(30分)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

9	差別と人権について
事前	第8回の授業で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

10	ジェンダーについて
事前	第9回の授業で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(30分)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

11	ミニレポートの作成
事前	第10回の授業の最後に伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(30分)
事後	授業時間内に完成できなかった場合、ミニレポートの作成に取り組む。また、授業内容についてノートにまとめる等して復習する。(30分)

12	社会保障はなぜ必要か
事前	第11回の授業の最後に伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(30分)
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。(30分)

13	障害者福祉について1　知的障害

事前	第12回の授業で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。（30分）
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。（30分）

14	障害者福祉について2　身体障害
事前	第13回の授業で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。（30分）
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。（30分）

15	まとめ　この授業で何を学んだのか
事前	第14回の授業で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。（30分）
事後	授業中に詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行う。（30分）

2020/07/16(木)22:04

科 目 名	基礎演習II [心]			授業コード	1010040
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、聴き方・話し方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、大学で専門分野を学ぶことの意味を理解すること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎能力を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を高め、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路に関連させ、専門知識を学ぶことの意義を知ること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な知識や技能を高める。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考え、他者に説明したり、議論する。授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。後期の最後には、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、プレゼンテーションおよびレポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。プレゼンテーションについては、最終回でコメントをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、2年次の授業について
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅰ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	専門書の読み方について
事前	Ⅴの6、コラム9を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	本の読み方の工夫
事前	Ⅱの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	本の読み方と要約
事前	Ⅱの6、コラム7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	資料収集、情報リテラシーについて
事前	Ⅴの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	資料を活用したレポート・論文の書き方について
事前	Ⅵの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	レポート、定期試験について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および、成績に関する項目を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	大学2年次の留意点
事前	Ⅵの3，4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	「聴きかた」について
事前	Ⅳの1を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	意見を言うこと(話し方)について
事前	Ⅳの1，2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	レポート作成にかかわるこれまでの学びをまとめておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	プレゼン・発表のテーマ設定
事前	自らの進路について考え、その進路に必要な基礎知識を調べてくること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	プレゼン・発表の仕方について
事前	プレゼンテーションに関するこれまでの学びを振り返っておくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等)(共同授業)
事前	プレゼンテーションの準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅱ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)20:36

科 目 名	社会福祉学総論I [介心]			授業コード	1010052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	社会と生活のしくみの全体像、社会福祉の歴史、社会福祉の原理
到達目標	・社会福祉の分野に関連する個人と集団、社会をめぐるさまざまな分野の知識を習得し、援助の実践の場でそれらを活用できる。 ・社会福祉の原理や歴史に関して、包括的かつ体系的に説明できる。 ・社会保障制度の概要、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度の現状と課題について説明できる。
授業の概要	この授業では、現代社会における社会福祉の意義、福祉政策の基盤と概要、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の基底にある理念や思想、福祉に関連する社会と生活のしくみの全体像、現代の社会福祉の課題、等について取り上げて解説する。 なお、理念や理論の話から授業をはじめると、内容が抽象的であるため、多くの学生諸君にとって「とっつきにくい」ということがしばしば起こる。そこでこの授業では、まず具体的な社会福祉の歴史を概観し、その内容から理論や概念の話につなげていく、という工夫を試みる。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験の得点(95%)、および授業中に実施する小試験の得点(5%)の合計により評価する。	
フィードバック	授業中に実施する小試験については、事後の授業において解説等のフィードバックを行う。		
履修に際しての 注意事項	基本的なルールを守れない学生に関しては、厳しく対応する。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー 4 社会福祉原論 ― 現代社会と福祉』 へるす出版	ISBN978-4-89269-653-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	この授業の主題 ― 社会と生活のしくみの全体を把握する
事前	テキストの「はじめに」と第2章Ⅰを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	配布されたプリントNo1前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

2	社会福祉のはじまり
事前	テキスト第3章ⅠAを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo1後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

3	近代的な社会福祉への転換
事前	テキスト第3章ⅠBを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo2前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

4	社会保障制度の生成(1) イギリス
事前	テキスト第3章IC、Dを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo2後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

5	社会保障制度の生成(2) ドイツ、アメリカ、スウェーデン
事前	テキスト第3章ⅡAを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

6	福祉国家の諸相
事前	テキスト第3章ⅡBを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

7	福祉国家の揺らぎ
事前	テキスト第3章ⅡCを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo4前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

8	グローバリゼーションと社会福祉
事前	テキスト第3章Ⅲを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo4後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

9	危機に直面する社会福祉
事前	プリントNo1～4を精読し、しっかり理解できていない点について調べる等の事前学習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内確認小試験において、自分が正解できなかった箇所について復習し、正確な知識の定着をはかること。(2時間)

10	日本の近代化と慈善事業
事前	プリントNo5前半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

11	社会事業の時代
事前	プリントNo5後半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

12	戦後日本の社会福祉
事前	プリントNo6前半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

13	社会福祉改革の行方
事前	プリントNo6後半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)

事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

14	これからの社会福祉の課題Ⅰ ― 社会保障制度
事前	プリントNo7前半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

15	これからの社会福祉の課題Ⅱ ― 高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度
事前	プリントNo8後半部を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	講義中に詳説されたポイントについて復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

2020/07/16(木)10:34

科 目 名	社会福祉学総論II [介]			授業コード	1010061
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	社会福祉の思想、社会福祉の理論、福祉政策
到達目標	・社会福祉の分野における個人と社会をめぐるさまざまな分野の知識を習得し、援助実践の場等でそれらを活用することができる。 ・社会福祉および福祉政策の原理や基盤に関する主要な議論について、体系的に説明できる。
授業の概要	この授業では、社会福祉と福祉政策に関する理論と概念、近年の社会福祉に関して特に重要な諸論点、福祉政策の現代的課題、福祉政策の国際比較、社会福祉と関連する諸領域における政策、といった分野について学習する。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング
評価方法 及び評価基準	レポート 課題に関するレポートを100%として成績評価を行う。なお、レポートは授業期間中に計2回提出を求める予定。
フィードバック	提出されたレポートに関して、授業内で模範的な回答例の解説等、フィードバックを行う予定である。
履修に際しての 注意事項	基本的なルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー 4 社会福祉原論 ― 現代社会と福祉』へるす出版	ISBN978-4-89269-653-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	この授業で学ぶこと
事前	「社会福祉学総論Ⅰ」で学んだ内容の復習をしておくこと。(2時間)
事後	配布されたプリントNo1の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

2	社会福祉と社会政策に関する概念
事前	テキスト第1章を通読し、わからない用語について意味を調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo2の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

3	社会福祉と社会政策に関する理論
事前	テキスト第2章Ⅰを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

4	社会福祉の思想
事前	テキスト第2章Ⅱを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

5	社会福祉における必要と資源
事前	テキスト第4章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo4の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

6	福祉政策の諸論点Ⅰ 社会的排除と社会的包摂、普遍主義と選別主義
事前	テキスト第5章Ⅰを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo5の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

7	福祉政策の諸論点Ⅱ 自立と依存、自己選択とパターナリズム
事前	プリントNo6を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に提示する課題についてのレポート作成に取り組むこと。(2時間)

8	福祉政策の過程と政策評価
事前	プリントNo7を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に提示された課題についてのレポート作成に取り組むこと。(2時間)

9	社会福祉における政府の役割
事前	テキスト第5章Ⅲを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo8の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

10	社会福祉における市場の役割
事前	テキスト第5章Ⅳを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

11	社会福祉における市民(国民)の役割
事前	テキスト第5章Ⅴを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

12	社会福祉の供給部門と供給過程
事前	テキスト第5章Ⅵを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo10の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

13	福祉政策の国際比較
事前	テキスト第8章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)

事後	授業中に提示された課題についてのレポート作成に取り組むこと。（2時間）

14	福祉政策の関連領域
事前	テキスト第6章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。（2時間）
事後	課題についてのレポート作成に引き続き取り組むこと。（2時間）

15	この授業で何を学んだのか
事前	これまでに配布されたプリントの内容について自分なりに整理し、ノートにまとめる等の事前学習をしておくこと。（2時間）
事後	プリントNo11の内容について復習し、知識の定着をはかること。（2時間）

2020/07/16(木)20:26

科 目 名	社会福祉学総論II [心]			授業コード	1010071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	社会福祉の思想、社会福祉の理論、福祉政策
到達目標	・社会福祉の分野における個人と社会をめぐるさまざまな分野の知識を習得し、援助実践の場等でそれらを活用することができる。 ・社会福祉および福祉政策の原理や基盤に関する主要な議論について、体系的に説明できる。
授業の概要	この授業では、社会福祉と福祉政策に関する理論と概念、近年の社会福祉に関して特に重要な諸論点、福祉政策の現代的課題、福祉政策の国際比較、社会福祉と関連する諸領域における政策、といった分野について学習する。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング
評価方法 及び評価基準	レポート 課題に関するレポートを100%として成績評価を行う。なお、レポートは授業期間中に計2回提出を求める予定。
フィードバック	提出されたレポートに関して、授業内で模範的な回答例の解説等、フィードバックを行う予定である。
履修に際しての 注意事項	基本的なルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー 4 社会福祉原論 ― 現代社会と福祉』へるす出版	ISBN978-4-89269-653-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	この授業で学ぶこと
事前	「社会福祉学総論Ⅰ」で学んだ内容の復習をしておくこと。(2時間)
事後	配布されたプリントNo1の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

2	社会福祉と社会政策に関する概念
事前	テキスト第1章を通読し、わからない用語について意味を調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo2の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

3	社会福祉と社会政策に関する理論
事前	テキスト第2章Ⅰを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

4	社会福祉の思想
事前	テキスト第2章Ⅱを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo3後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

5	社会福祉における必要と資源
事前	テキスト第4章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo4の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

6	福祉政策の諸論点Ⅰ 社会的排除と社会的包摂、普遍主義と選別主義
事前	テキスト第5章Ⅰを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo5の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

7	福祉政策の諸論点Ⅱ 自立と依存、自己選択とパターナリズム
事前	プリントNo6を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に提示する課題についてのレポート作成に取り組むこと。(2時間)

8	福祉政策の過程と政策評価
事前	プリントNo7を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に提示された課題についてのレポート作成に取り組むこと。(2時間)

9	社会福祉における政府の役割
事前	テキスト第5章Ⅲを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo8の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

10	社会福祉における市場の役割
事前	テキスト第5章Ⅳを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9前半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

11	社会福祉における市民(国民)の役割
事前	テキスト第5章Ⅴを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo9後半部の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

12	社会福祉の供給部門と供給過程
事前	テキスト第5章Ⅵを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	プリントNo10の内容について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

13	福祉政策の国際比較
事前	テキスト第8章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)

事後	授業中に提示された課題についてのレポート作成に取り組むこと。（2時間）

14	福祉政策の関連領域
事前	テキスト第6章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。（2時間）
事後	課題についてのレポート作成に引き続き取り組むこと。（2時間）

15	この授業で何を学んだのか
事前	これまでに配布されたプリントの内容について自分なりに整理し、ノートにまとめる等の事前学習をしておくこと。（2時間）
事後	プリントNo11の内容について復習し、知識の定着をはかること。（2時間）

2020/07/16(木)21:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [心]			授業コード	1010080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:49

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1010090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○			少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1010103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	相澤 哲				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)21:28

科 目 名	福祉科教育法I/福祉科教育法 [心]			授業コード	1010121
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	教科「福祉」、学習指導案、模擬授業

到達目標	・教科「福祉」に包含される基本的な内容について説明できる。 ・教育目標、教育内容に応じた指導計画や指導案を作成できる。 ・必要な際は関係諸機関とも連携して、教科に関する教育実践に取り組むことができる。 「履修ファイル」の対応項目：A-4（1）、D-1（1）、D-2（1）～（7）、D-3（1）～（4）			
授業の概要	教科「福祉」の目標と各科目の内容、学習指導要領の理解と展開、指導計画と学習指導案の枠組み、といった事項について解説し、検討する。履修学生は、学びの成果を学習指導案および模擬授業という形で発表する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	学生による模擬授業
評価方法 及び評価基準	レポート	履修学生が作成する学習指導案、学習指導案に基づいて行う模擬授業、授業中に配布する課題シートへの回答を広義のレポートと捉え、学習指導案（30%）、模擬授業（40%）、課題シート（30%）として評価を行う。		
フィードバック	提出された学習指導案や模擬授業に対しては、授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	基本的なマナーやルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	保住芳美編著『高等学校新学習指導要領の展開　福祉科編』明治図書出版株式会社	ISBN978-4-18-850919-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「高等学校学習指導要領解説　福祉編」文部科学省	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	テキスト第I章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行うこと。(2時間)

2	教科「福祉」のねらいと全体構造
事前	テキスト第Ⅱ章を通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習を行い、知識の定着をはかること。(2時間)

3	「社会福祉基礎」の主内容1　生活と福祉、社会福祉の理念、社会福祉の歴史
事前	テキスト44～54ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に配布された「課題シート1」に沿って事後学習を行うこと。(2時間)

4	「社会福祉基礎」の主内容2　社会保障制度、子ども家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉
事前	テキスト55～60ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(1時間)
事後	次回の授業内で実施する「模擬授業の練習」の準備を進めておくこと。(3時間)

5	チャレンジ！模擬授業の練習
事前	「模擬授業の練習」の準備をしておくこと。(3時間)
事後	「模擬授業の練習」で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。(1時間)

6	「介護福祉基礎」の主内容1　介護の意義と役割
事前	テキスト61～64ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業中に配布された「課題シート2」に沿って事後学習を行うこと。(2時間)

7	「介護福祉基礎」の主内容2　高齢者の生活と介護、障害者とICF
事前	テキスト65～73ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

8	「コミュニケーション技術」の主内容
事前	テキスト74～84ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

9	「生活支援技術」の主内容
事前	テキスト85～98ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

10	「介護過程」の主内容
事前	テキスト99～116ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

11	「こころとからだの理解」の主内容1　こころとからだの仕組み
事前	テキスト140～147ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

12	「こころとからだの理解」の主内容2　発達と老化の理解、認知症の理解、障害の理解
事前	テキスト148～157ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

13	学習指導案の概要
事前	第12回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)

事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。（2時間）

14	学習指導案の作成
事前	第13回の授業最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。（1時間）
事後	次回の模擬授業に向けて、学習指導案を作成する。（3時間）

15	模擬授業
事前	作成した学習指導案に基づく模擬授業の準備をしておく。（3時間）
事後	模擬授業で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。（1時間）

2020/07/16(木)10:45

科 目 名	福祉科教育法II/福祉科指導法 [心]			授業コード	1010132
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	相澤 哲				

科目に関する キーワード	教科「福祉」、学習指導案、模擬授業

到達目標	・教育目標、教育内容に応じた指導計画や指導案を作成できる。 ・作成した指導案に基づき、適切に授業を行うことができる。 ・必要な際は関係諸機関とも連携して、教科に関する教育実践に取り組むことができる。 「履修ファイル」の対応項目：A-4（1）、D-1（1）、D-2（1）～（7）、D-3（1）～（4）			
授業の概要	「福祉科教育法Ⅰ」の学習内容を前提とし、教科「福祉」の教育法の理解をさらに深める。教材研究や学習指導案の作成についてより具体的に学び、またそうした学びを踏まえた模擬授業の実践を通して、教育実習に備えるための授業を展開する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	学生による模擬授業
評価方法 及び評価基準	レポート	学習指導案と、作成した指導案に基づいて行う模擬授業をレポートと捉え、学習指導案（40%）、模擬授業（60%）として成績評価を行う。		
フィードバック	提出された学習指導案や模擬授業に対しては、授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	基本的なマナーやルールを守れない学生に対しては、厳格に対応する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	保住芳美編著『高等学校新学習指導要領の展開　福祉科編』明治図書出版株式会社	ISBN978-4-18-850919-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「高等学校学習指導要領解説　福祉編」文部科学省	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	「福祉科教育法Ⅰ」で学んだ内容について、自分なりにノートに整理する等の復習をしておくこと。(3時間)
事後	授業内で詳説された事項について、自分なりにノートに整理する等の事後学習を行うこと。(1時間)

2	学習指導案の詳細
事前	第1回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習を行い、知識の定着をはかること。(2時間)

3	教材研究1 「社会福祉基礎」
事前	第2回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(1時間)
事後	模擬授業に向けて自分なりの教材研究を進めること。(3時間)

4	模擬授業の実践1 「社会福祉基礎」
事前	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をしておくこと。(3時間)
事後	模擬授業で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。(1時間)

5	高校福祉科と地域福祉、ボランティア活動
事前	第4回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

6	学習指導案における評価
事前	第5回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

7	教材研究2 「介護福祉基礎」
事前	第6回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(1時間)
事後	模擬授業に向けて、自分なりに教材研究を進めること。(3時間)

8	模擬授業の実践2 「介護福祉基礎」
事前	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をしておくこと。(3時間)
事後	模擬授業で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。(1時間)

9	「介護総合演習」と「介護実習」について
事前	テキスト117～139ページを通読し、わからなかった用語について調べる等の予習をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で詳説された事項について復習し、知識の定着をはかること。(2時間)

10	教材研究3 「コミュニケーション技術」
事前	第9回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	模擬授業に向けて、自分なりに教材研究を進めること。(2時間)

11	教材研究4 「生活支援技術」
事前	第10回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)
事後	模擬授業に向けて、自分なりに教材研究を進めること。(2時間)

12	模擬授業の実践3 「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
事前	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をしておくこと。(3時間)
事後	模擬授業で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。(1時間)

13	教材研究5 「介護過程」
事前	第12回の授業の最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。(2時間)

事後	模擬授業に向けて、自分なりに教材研究を進めること。（2時間）

14	教材研究6 「こころとからだの理解」
事前	第13回の授業最後部で伝えられたポイントについて予習をしておくこと。（1時間）
事後	次回の模擬授業に向けて、学習指導案を作成する。（3時間）

15	模擬授業の実践4 「介護過程」「こころとからだの理解」
事前	模擬授業の準備をしておく。（3時間）
事後	模擬授業で思うように行かなかった点について、自分なりに省察すること。（1時間）

2020/07/16(木)10:45

科 目 名	障害児教育論 [心]			授業コード	1020011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	新井 雅明				

科目に関するキーワード	障害児教育　特別支援教育　インクルーシブ教育

到達目標	障害児教育全般について触れるが、特に特殊教育から特別支援教育への転換の背景にあるもの、たとえば国際的な潮流であるインクルージョンや障害観の変遷について概観し、各障害別の課題について主体的に学ぶことができる。			
授業の概要	平成19年度の法改正により、従来の特殊教育は特別支援教育へと大きく転換した。過去の障害児教育の歴史や障害観、教育観を学び、これからの特別支援教育の在り方を展望する。そのために障害児教育の理念、教育課程、障害者の理解や支援や指導法について探る。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ペアトークやグループミーティング
評価方法及び評価基準	試験	期末試験による評価50%、および学習意欲、学習態度、授業の理解度を50%として評価する。		
フィードバック	ワークシート等の解説を実施			
履修に際しての注意事項	配付資料をファイルして繰り返し読むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II		○					
III							
IV							

V	○						

テキスト1	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	9784303124243
テキスト2	「特別支援教育のテキスト」 小林　倫代　学研教育みらい　2018	9784058008904
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障害児教育の現状
事前	テキストを事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

2	障害児教育の歴史（世界編）
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

3	障害児教育の歴史（日本編）
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

4	障害児理解の方法
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

5	障害児理解の方法2－手記から理解する－
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

6	障害児理解から支援へ
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

7	障害児者の差別
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

8	障害者への合理的配慮
	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

事前	
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

9	障害児への支援
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

10	障害者への支援計画
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

11	障害者の指導方法-TEACHに学ぶ-
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

12	障害児教育の授業方法(授業のユニバーサルデザイン)
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

13	障害児への個別の教育支援計画
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

14	障害児教育と福祉
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

15	障害児教育論のまとめ
事前	テキストと配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて、加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2020/07/16(木)21:41

科 目 名	特別支援教育概論 [心]			授業コード	1020021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				

科目に関するキーワード	特別支援教育　発達障害　個別の教育支援計画
到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標とする。 本授業の到達目標は以下の3点である。(1)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解すること。(2)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解すること。(3)障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解すること。
授業の概要	平成19年度の法改正により、従来の特殊教育は特別支援教育へと大きく転換した。過去の障害児教育の歴史や障害観、教育観を学び、これからの特別支援教育の在り方を展望する。特別支援教育の理念、教育課程、障害種別の指導法を探る。 障害児教育・特別支援教育全般について触れるが、特に特殊教育から特別支援教育への転換の背景にあるもの、たとえば国際的な潮流であるインクルージョンや障害観の変遷について概観し、各障害別、また特別の教育的ニーズのある児童生徒への指導と、課題について主体的に学ぶことができる。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ペアトークやグループディスカッション
評価方法及び評価基準	レポート	レポート40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動への取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内に実施したワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。 レポートについては、簡単なコメントを記入して返却する。			
履修に際しての注意事項	教職課程に必修の科目であることにかんがみ、教員となるにふさわしい心構えと態度で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 授業時に教材プリント・資料を配布する。また、講義のテーマに関係する参考書および参考資料を、授業の中で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション　ー特別の支援を必要とする児童・生徒ー
事前	シラバスを熟読して、何を学修するのか把握すること。インターネット等で特別支援教育という単語を検索して、定義をノートなどに転記してくること。（学修時間目安2時間）
事後	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

2	特別の支援を必要とする児童・生徒の実態
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

3	特殊教育から特別支援教育へ　ー合理的配慮とは何かー
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

4	インクルーシブ教育システムの理念と制度
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

5	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

6	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の理解
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

7	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒への支援
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

8	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある児童及び生徒の学習上又は生活上の困難の理解
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

9	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある児童及び生徒の学習上又は生活上の困難への支援方法
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

10	「通級による指導」の教育課程上の位置付けと内容
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

11	「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

12	個別の指導計画及び個別の教育支援計画
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

13	特別の教育的ニーズ(母国語や貧困の問題等含む)のある児童及び生徒への学習上又は生活上の困難と支援について
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

14	特別支援教育コーディネーター及び関係機関・家庭の連携支援
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

15	まとめ
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2020/07/16(木)11:05

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1020030
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校教諭、特別支援学校長の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	授業作り 服務 教育者としての資質・能力

到達目標	①学校の教育システムと教師の使命を説明できる。 ②特別支援教育の理念や制度について説明できる。 ③特別支援学校の指導のあり方を説明できる。 ④特別支援学校の教師採用試験への対策を主体的に行うことができる			
授業の概要	①特別支援教育の概要と課題について研究する。 ②特別支援学校の教育の概要と課題について研究する。 ③特別支援学校教員に求められる資質について研究する。 ④特別支援学校教員採用試験への対応を研究する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	文献をまとめ報告する 報告内容に基づき協議をする
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内の報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての注意事項	配付資料をファイルして、繰り返し学習すること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III					○		
IV							

V					○		

テキスト1	授業のユニバーサルデザイン入門 桂 聖 小貫 悟 東洋館出版 2014	9784491030111
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校の教師になるには 松矢勝宏他編 ぺりかん社 2010 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示 文部科学省 海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	平成19年度の法改正によって、従来の特殊教育から特別支援教育へと大きく変わった。この背景には国際的な潮流としてのインクルーシブ教育の理念がある。 特別支援教育や特別支援学校の教育の内容・方法を理解し、特別支援学校教員としての資質を学ぶと同時に、教員採用試験への対策を探る。
事前	テキストあるいは配付された文献を繰り返し読み、要点をまとめるなどして、報告の準備をする。（学修時間目安30分間）
事後	配付された資料等を読み返し、必要な事項を書き込む。返却されたワークシートを読み返すとともに、必要な事項を書き込むこと。（学修時間目安30分間）

2020/07/16(木)20:44

科 目 名	肢体不自由児教育I [心]			授業コード	1020051
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新井 雅明				

科目に関するキーワード	肢体不自由児 教育課程 個別の支援計画 個別の教育支援計画 個別教育計画 自立活動 生きる力 育成すべき資質・能力 コンピテンシー

到達目標	肢体不自由教育の歴史、障害観の変遷を概観し、教育課程の編成を理解する。肢体不自由教育の指導内容・指導方法について、特に障害の多様化・重度重複化に応じた指導のあり方を主体的に学ぶことができる。 【履修ファイルの対応項目:A-4(2)(4)】			
授業の概要	特殊教育は特別支援教育へと大きな転換が図られ、個別のニーズに合わせた指導が求められている。包括的な教育システムの視点から、肢体不自由教育に関する教育課程、アセスメントと個別の支援計画に基づく個別教育計画、指導法や実践例を学びつつ、これからの肢体不自由教育の課題を探る。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ペアトーク グループミーティング
評価方法及び評価基準	試験	試験による評価40%、授業中の課題やワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内に実施したワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての注意事項	肢体不自由教育Ⅰを履修した者は、肢体不自由教育Ⅱを履修すること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II		○					
III							
IV							

V	○						

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	肢体不自由教育の基本とその展開　日本肢体不自由教育研究会　慶応大学出版 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	肢体不自由教育の現状
事前	参考文献を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安2時間)
事後	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2	肢体不自由児とは
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

3	肢体不自由教育の歴史
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

4	教育の仕組と教育課程
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

5	教育課程と学習指導要領
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

6	自立活動の指導
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

7	個別教育計画の作成
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

8	個別教育計画に基づく指導の実際

事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

9	授業作り
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

10	指導案づくり
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

11	学級経営と年間指導計画
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

12	医療的ケア
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

13	福祉との連携
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

14	インクルーシブ教育への展望
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

15	肢体不自由児者教育と人権・まとめ
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2020/07/16(木)21:44

科 目 名	肢体不自由児教育II [心]			授業コード	1020062
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新井 雅明				

科目に関する キーワード	肢体不自由児 教育課程 個別の教育支援計画 自立活動 生きる力

到達目標	肢体不自由の自立活動に焦点を当てた指導のあり方を学ぶ。特に肢体不自由特別支援学校の授業見学において学んだ指導の実際について課題別に研究することができる。 【履修ファイルの対応項目:B-2(1)～(6),C-2(3),D-2(1)～(7),D-3(1)～(5),D-4(1)～(6)】			
授業の概要	特殊教育は特別支援教育へと大きく転換し、個別のニーズに合わせた教育が求められている。肢体不自由教育の理論や実践を学びつつ、特に個々の課題を見据えた自立活動を軸に実際的な指導法のあり方を探る。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業見学で学んだ内容の発表と研究協議 グループディスカッション
評価方法 及び評価基準	試験	試験による評価40%、授業中の発表やワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内に実施したワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての 注意事項	肢体不自由教育Ⅱを履修する者は、肢体不自由教育Ⅰを履修すること 肢体不自由特別支援学校で2日間の授業見学実習を行うこと			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもとのかかわりの基本
事前	参考文献を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

2	生きる力を育む指導
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

3	個別の指導計画
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

4	個別の指導計画の実践
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

5	肢体不自由特別支援学校の教育①小学部
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

6	肢体不自由特別支援学校の教育②中学部
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

7	肢体不自由特別支援学校の教育③高等部
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

8	肢体不自由特別支援学校の教育④地域支援
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

9	他障害を併せ有する子どもの指導
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

10	自立活動の指導
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

11	人間関係の形成。コミュニケーションの指導ー事例を通じてー
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

12	環境の把握、身体の動きの指導
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

13	教材･教具の活用
事前	授業見学の体験を自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

14	医療的ケアの実際と課題
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

15	移行支援教育･まとめ
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2020/07/16(木)20:33

科 目 名	病弱教育論 [心]			授業コード	1020071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				

科目に関する キーワード	病弱・身体虚弱　悪性腫瘍疾患　てんかん

到達目標	病弱・虚弱児の教育課程の編成を理解し、具体な指導内容・指導方法について学ぶ。対象となる疾患の理解とそれに応じた適切な指導のあり方について説明することができる。【履修ファイルの対応項目：A-3（1）（2）】			
授業の概要	何らかの病気のために入院・加療しながら教育を受けている病弱児の教育のあり方を学ぶ。病弱教育の歴史を学び、現在の課題を探る。病院などで教育を受けている病弱児の教育は、学校・家庭・医療機関との密接な連携が必要になるが、望ましい連携のあり方についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	テーマに基づき、資料などをまとめて報告を行い、協議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内の報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての 注意事項	テーマを選択して、資料などをまとめて、模擬授業のように報告する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1	病弱・虚弱児の医療・療育・教育　宮本信也他　金芳堂	9784765316279
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	病弱・虚弱児の教育の現状
事前	教科書を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	教科書の本時に該当する箇所を読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

2	病弱・虚弱児の理解
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

3	特別支援教育時代の新たな疾患 子どもの虐待
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

4	病弱教育史
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

5	教育の仕組
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

6	教育の実際
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

7	教材・教具
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安0.5時間)

事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

8	福祉と教育　病弱教育論まとめ
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:03

科 目 名	視覚障害者指導法 [心]			授業コード	1020082
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校教諭	特別支援学校校長の経験を有する教員が授業を行う。				

科目に関するキーワード	視覚障害 点字 探索活動 定位活動
到達目標	視覚障害教育の教育課程の編成を学び、具体的な指導方法・指導内容について理解する。また、視覚障害教育の歴史を探り、今日的な課題について整理して説明することができる。
授業の概要	視覚障害教育の歴史と現在、および指導内容・指導方法について、学生による報告等のアクティブ・ラーニングの手法も取り入れて、具体的・実践的に学んでいく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / テーマに基づき、資料などをまとめて報告を行い、協議する。
評価方法及び評価基準	レポート / 授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。
フィードバック	授業内の報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。
履修に際しての注意事項	テーマを選択して、資料などをまとめて、模擬授業のように報告する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1	視覚障害教育入門　青柳　まゆみ　鳥山　由子　ジアース教育新社　2012	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	視覚障害教育の現状
事前	教科書を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	教科書の本時に該当する箇所を読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

2	視覚障害者の理解
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

3	教育史
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

4	教育の仕組
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

5	教育の実際
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

6	教材・教具
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

7	視覚障害教育の課題
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

8	福祉と教育　まとめ
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:04

科 目 名	聴覚障害者指導法 [心]			授業コード	1020092
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校教諭	特別支援学校校長の経験を有する教員が授業を行う。				

科目に関するキーワード	聴覚障害　手話　聴覚活用　視覚支援
到達目標	聴覚障害教育の教育課程の編成を理解し、その指導方法や指導内容を学ぶ。また、聴覚障害の歴史を学び、今日的な課題を説明することができる。
授業の概要	聴覚に障害のある児童生徒の指導は、従来は聾学校を中心とする教育制度の中に位置づけられてきた。しかし、特別支援教育の時代を迎えて、その様相が大きく変わってきている。聴覚障害教育の歴史を探り、今日的意義と課題を明らかにする。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	テーマに基づき、資料などをまとめて報告を行い、協議する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内の報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての注意事項	テーマを選択して、資料などをまとめて、模擬授業のように報告する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	改訂版　聴覚障害教育の基本と実際　田研出版株式会社 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	聴覚障害教育の現状
事前	教科書を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安2時間)
事後	教科書の本時に該当する箇所を読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

2	聴覚障害者の理解
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

3	教育史
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

4	教育の仕組
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

5	教育の実際
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

6	教材・教具
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

7	聴覚障害教育の課題
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安2時間)

事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

8	教育と福祉　まとめ
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:50

科 目 名	重複障害者教育指導法 [心]			授業コード	1020102
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校教諭 特別支援学校校長の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	重複障害 生命活動 コミュニケーション行動 信号系活動

到達目標	重度・重複障害児教育における教育課程のあり方を理解し、生命活動を躍進させるようなコミュニケーションの取り方、指導方法や指導内容を学ぶ。重度・重複障害児の実態を把握し、適時適切適度なかかわりをどうすれば良いか、説明ができる。			
授業の概要	障害児教育は教育の原点といわれる。とりわけ重複障害者教育は、原点中の原点である。その意味で、本講義は、障害児教育関連の講義の中でも根幹をなしている。重複障害者の生命活動から出発して、その生命活動を豊かにすることを目指して、どのようにかかわれば良いのか、状況を整えたら良いのか探っていく。そして、共生社会づくりに向けた、「相互に生命活動が革まる」ような関係の構築に迫る。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	自ら選択したテーマに基づき、文献をまとめて報告を行い、協議する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内の報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての注意事項	テーマを選択して、文献をまとめて、模擬授業のように報告する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1	重度・重複障害者の教育のあり方　梅津　八三　特殊教育　no.4 2-5 1974	
テキスト2	重複障害児を育てるなかでの「ことば」 中澤　恵江　発達の遅れと教育　no.345 35-41 1986	
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	重複障害教育の歴史と現状
事前	テキストを事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）
事後	文献の本時に該当する箇所を読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安2時間）

2	重複障害者の理解
事前	自分が選択したテーマに基づいてテキストの該当箇所をまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

3	重複障害者との教育的係わり合い
事前	自分が選択したテーマに基づいてテキストの該当箇所をまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

4	重複障害者と「ことば」
事前	自分が選択したテーマに基づいてテキストの該当箇所をまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

5	教育の実際
事前	自分が選択したテーマに基づいてテキストの該当箇所をまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

6	事例研究
事前	自分が選択したテーマに基づいてまとめる。まとめた内容を他の学生にわかり易く伝える方法を考え、報告する準備をすること。（学修時間目安2時間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間）

7	教材・教具
事前	テキストの該当箇所を事前に読み、内容のアウトラインをまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安2時間）

事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

8	重複障害教育の課題
事前	テキストを読み返して、内容のアウトラインをまとめて、整理しておくこと。(学修時間目安2時間)
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。(学修時間目安2時間)

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:50

科 目 名	特別支援教育実習指導 [心]			授業コード	1020111
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校教諭、特別支援学校長の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	特別支援教育　教育実習　指導案

到達目標	特別支援学校における教育実習のために必要な知識や技術について深く学び、とりわけ児童生徒を念頭に置いた適切な学習指導案の作成ができる。 【履修ファイル対応項目：A-2, A-5（1）（2）, D-5（1）～（3）】			
授業の概要	これまでの講義や養護学校での授業体験・ボランティア体験を通して学んできた知識・技能を活かして、学校での教育実習のあり方を学ぶ。特別支援学校の教育課程、障害児への指導、特に学習指導案づくりに向けて学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	模擬授業等の発表と研究協議
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の報告40%、ワークシートの評価40%、授業中の諸活動へ取組等20%として評価する。		
フィードバック	授業内の模擬授業などの発表や報告については、講評をする。ワークシート等については、次の時間に返却し、その際、解説を加え、適宜講評を加える。			
履修に際しての注意事項	積極的な授業参加が望まれる			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III					○		
IV							

V					○		

テキスト1	特別支援教育実習　実習の手引き（特別支援教育実習指導で配布）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018 さらに適宜紹介する文献	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	テキストを繰り返し読み、要点をまとめるなどして準備する（学修時間30分間）
事後	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

2	特別支援学校の教育課程
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

3	特別支援学校における教育の実際：知的障害
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

4	特別支援学校における教育の実際：肢体不自由
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

5	特別支援学校の学習指導案：知的障害
事前	配付された資料を繰り返し読み、指導案を見返す。リハーサル等をする（学修時間目安30分間）
事後	授業研究会のまとめをワークシートにまとめる。指導案に改善点等を書き入れる。(学習時間目安30分間）

6	特別支援学校の学習指導案：肢体不自由
事前	配付された資料を繰り返し読み、指導案を見返す。リハーサル等をする（学修時間目安30分間）
事後	授業研究会のまとめをワークシートにまとめる。指導案に改善点等を書き入れる。(学習時間目安30分間）

7	特別支援学校の学習指導案：感覚障害など
事前	配付された資料を繰り返し読み、指導案を見返す。リハーサル等をする（学修時間目安30分間）
事後	授業研究会のまとめをワークシートにまとめる。指導案に改善点等を書き入れる。(学習時間目安30分間）

8	特別支援学校の教材研究：文献を通して学ぶ
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

9	特別支援学校の教材研究：知的障害の教材づくり
事前	配付された資料を繰り返し読み、留意点を確認する（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

10	特別支援学校の教材研究：肢体不自由の教材づくり
事前	配付された資料を繰り返し読み、留意点を確認する（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

11	特別支援学校における教員の職務

事前	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

12	特別支援学校における教員の服務
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

13	教育実習の事前準備
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

14	実習先の情報収集・分析
事前	これまでに収集した情報を過不足ないか確認などをする。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

15	まとめ
事前	配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）
事後	返却されたワークシートに必要に応じて加筆修正をするとともに、前回の内容を確認すること。今回配付された資料を繰り返し読み、要点を書き出すなど十分に理解を深めること。（学修時間目安30分間）

2020/07/16(木)22:34

科 目 名	特別支援教育実習 [心]			授業コード	1020123
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	新井 雅明				
特別支援学校の教諭から直接指導を受け実習を行う					

科目に関する キーワード	特別支援教育　教育実習

到達目標	教育実習を通して、学校現場の現状を知ることができる。 教壇に立って、学校教育の実践的知識や技術を習得することができる。 教職に対する自らの適性、教師としての心構えを学ぶことができる。 教育実習に対する評価を踏まえ、教師としての課題を知ることができる。 【履修ファイル対応項目：B-1（7),C-1（2),C2-（4),C-3（1）～（5),C-4（1）～（8),D-（1),D-2（1）～（7),D-3（1）～（5),D-4（1）～（6),D-5（1）～（3)】
授業の概要	学校現場で学校教育を実体験しながら、教員としての資質や欠けている点等を自己検証する機会である。教職志望者にとって、キャリア教育の頂点である。 本科目では、特別支援学校教諭、特別支援学校長の経験を有する本学教員による指導も受けつつ、学校現場にて特別支援学校教諭から直接指導を受けて実習を行う。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	教育実習
評価方法 及び評価基準	―	実習校による評価、学生の自己評価を踏まえて総合的に評価する。		
フィードバック	個別に面接をして、相談にのる。巡回指導の結果は、即時に伝えて、実習に生かさせる。			
履修に際しての 注意事項	実習校への感謝と教職をめざす学生としての自覚を持ち、真摯な態度で実習に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV			○				

V					○		

テキスト1	特別支援教育実習　実習の手引き（特別支援教育実習指導で配付）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領　平成29年4月告示　文部科学省　海文堂出版 2018 加えて適宜紹介する文献	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	教育実習は、授業観察、参加実習、授業実習があるが、大学で学んだ指導理論や指導技術を、実際に児童生徒を対象に発揮することへの課題を探る。 主な学習課題は以下の通りである。 ・学校の組織と教員の役割 ・児童生徒の発達段階に対する理解 ・授業のあり方への理解の深化 ・実践記録の書き方 ・指導教員の指導や助言への考察
事前	実習指導で配付された資料を熟読する。実習の手引きを読み返す。
事後	振り返りの時間に教師としての適性や課題などを書き出し、記録する。今後の学修の計画を作成する。

2020/07/16(木)22:02

科 目 名	基礎演習I [心]			授業コード	1030010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、「捨我精進」の意味を説明できるようになること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎教養を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を修得し、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路について考え、関係する情報を収集すること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業を受けるときの常識、ノートの取り方、図書館の利用方法、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な基礎知識や技能を修得する。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考える機会を設ける。また、授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、レポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○				
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「日本語プレースメントテスト」の実施、建学の精神、入学前課題の確認
事前	大学のホームページで、建学の精神について読んでおくこと。また、入学前課題を見直し、提出の準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	エンカウンター(自己紹介)、大学での授業について
事前	テキストのⅠを読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	講義の基本、ノート・メモのとり方、プリント資料の管理等
事前	Ⅱの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	講義の聞き方と、ノートのとり方の工夫
事前	Ⅱの3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	レポートの書き方について
事前	Ⅲの1と2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	レポート作成と提出にあたっての留意事項、試験に向けた学習の仕方
事前	Ⅲの3と4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	定期試験について、大学の授業の成績評価について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および成績に関する項目、テキストのコラム2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	本の読み方の基本
事前	Ⅱの4，5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	本の読み方の応用
事前	Ⅱの6を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	キャリア形成について
事前	Ⅶの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	Ⅲの5～8を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	レポート作成の技術
事前	Ⅲの9～11、コラム5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	講演「青年期と性」(共同授業)
事前	配布資料を読んでおくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等) (共同授業)
事前	Ⅳの4～7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストの中で、授業で扱った内容にかかわる箇所を流し読みし、振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:04

科 目 名	基礎演習II [心]			授業コード	1030020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、聴き方・話し方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、大学で専門分野を学ぶことの意味を理解すること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎能力を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を高め、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路に関連させ、専門知識を学ぶことの意義を知ること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な知識や技能を高める。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考え、他者に説明したり、議論する。授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。後期の最後には、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、プレゼンテーションおよびレポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。プレゼンテーションについては、最終回でコメントをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、2年次の授業について
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅰ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	専門書の読み方について
事前	Ⅴの6、コラム9を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	本の読み方の工夫
事前	Ⅱの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	本の読み方と要約
事前	Ⅱの6、コラム7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	資料収集、情報リテラシーについて
事前	Ⅴの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	資料を活用したレポート・論文の書き方について
事前	Ⅵの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	レポート、定期試験について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および、成績に関する項目を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	大学2年次の留意点
事前	Ⅵの3，4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	「聴きかた」について
事前	Ⅳの1を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	意見を言うこと(話し方)について
事前	Ⅳの1，2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	レポート作成にかかわるこれまでの学びをまとめておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	プレゼン・発表のテーマ設定
事前	自らの進路について考え、その進路に必要な基礎知識を調べてくること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	プレゼン・発表の仕方について
事前	プレゼンテーションに関するこれまでの学びを振り返っておくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等)(共同授業)
事前	プレゼンテーションの準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅱ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:15

科 目 名	教育社会学 [社]			授業コード	1030031
副 題	「常識」を疑う				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関する キーワード	学校と社会、ジェンダー、隠れたカリキュラム、社会格差

到達目標	学校教育や家庭教育を中心として、教育という営みを「社会学」の視点から理解し、「常識」とされる事柄を疑い、多様な視点から捉えなおすことができるようになること。普段「あたりまえ」と思っていることについて、疑問に思い、追究する姿勢を身につけることをめざす。
授業の概要	「学校とは何か」、「子育てとは何か」、「ジェンダー（男性・女性）とは何か」、といったテーマについて、自らの「常識」を疑ってみることで、教育と社会の関係を追究していく。常識を問い直す作業を通して、教育に関わる問題や課題について再考し、教育社会学の視点から検討していく。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の中で、ワークシートを使いながら、適宜少人数でのディスカッションをする。
評価方法 及び評価基準	レポート	ワークシート（75%）、課題（15%）、自己評価（10%）として評価します。		
フィードバック	毎回ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかで、適宜フィードバックする			
履修に際しての 注意事項	できるだけ受講生の意見を聞き、考えを深める時間を設けたいと思います。積極的に参加してください。また、各講義では、それまでに学習した内容を前提とした話をすることがあります。欠席した場合には、講義の内容についてテキストで自学しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○					
III							
IV							

V	○						

テキスト1	苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗〔著〕『教育の社会学 〔新版〕 ―〈常識〉の問い方、見直し方』、有斐閣	9784641124004
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の中で、適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション: 教育社会学とは何か
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

2	不登校とは何か ―「不登校」概念の問題
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

3	「不登校」の何が「問題」か
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

4	「学校」とは何か
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

5	「学校」の社会的機能とは ―社会化―
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

6	「家庭教育」の社会的位置づけ
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

7	「家庭教育」の役割
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

8	幼児教育と社会
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

9	学校教育におけるジェンダー
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

10	教育においてジェンダーをどう扱うべきか
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

11	隠れたカリキュラムと学校教育
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

12	再生産論からみた社会的不平等
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

13	学校教育と社会格差

事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

14	教育における「平等」と「公正」
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

15	教育は社会を「平和」にすることができるのか
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

2020/07/16(木)10:45

科 目 名	教育原理 [心]			授業コード	1030041
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関するキーワード	人間形成と教育、義務教育制度、学習と評価、教育思想

到達目標	本授業のねらいは、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解することである。 本授業の到達目標は以下の3点である。 (1)教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。(①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。②子供、教員、家庭、学校等教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。) (2)教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。(①家族と社会による教育の歴史を理解している。②近代教育制度の成立と展開を理解している。③現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。) (3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。(①家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。②学校や学習に関わる教育の思想を理解している。③代表的な教育家の思想を理解している。)			
授業の概要	教育の目的や意義、方法、評価、制度等について、学校教育を中心とし、それ以外の場面(家庭教育、社会教育・生涯学習、企業内教育等)にも触れつつ、「教え」と「学び」の概念に焦点を当てながら「教育」の意味を考察していく。その際、現代の「教育」を相対化する視点として、教育の歴史及び思想史をとりあげていく。また、受講生自らが受けてきた教育と学習の歴史を振り返る作業を通して、教育について理解を深めていく。そして、基礎知識や概念を学ぶことで、「教育」という営みについての考えをまとめ、現代のさまざまな教育問題・課題について考察していく。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業の中で、ワークシートを使いながら、適宜少人数でのディスカッションをする。
評価方法及び評価基準	レポート	ワークシート(45%)、課題(35%)、自己評価(20%)として評価します。		
フィードバック	毎回ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかで、適宜フィードバックする			
履修に際しての注意事項	各講義では、それまでに学習した内容を前提とした話をすることがあります。欠席した場合には、講義の内容についてテキストで自学しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II	○						
III							

IV							
V		○					

テキスト1	木村元・小玉重夫・船橋一男〔著〕『教育学をつかむ 改訂版』 有斐閣	9784641177260
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義の中で、適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「教育」とは何か —人間形成と教育、プラトン、ソクラテスから教育思想史を辿る—
事前	自分がこれまでに受けてきた教育を振り返り、「教育」という概念の意味を考えてくること。また、テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

2	発達・成長と教育 —「子ども」と家族・社会—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

3	教えと学び —教育的意図、学習、カリキュラム—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

4	義務教育制度 —近代公教育制度の成り立ち、コメニウスの思想—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

5	社会変動と教育思想 —教師中心から生徒中心への思想的潮流—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

6	教育思想と教育方法 —どのように「教え」るべきか？—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

7	教育における「評価」 ー指導と評価の思想—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

8	何を「教え」，何を「学ぶ」のか？ーカリキュラムのデザイン—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

9	家庭教育と学校教育 ー不登校等からみる教育課題—
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

10	生涯学習社会における「教育」と「学習」ー「教え」と「学び」を支える教育環境 —
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

11	生徒指導・教育相談の思想史ー「教え」と「学び」を支える教育関係、C.ロジャーズの思想 —
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

12	教師の役割と専門性
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

13	学校教育制度の基礎　―教育行政、教育法規―
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

14	特別支援教育と個性に応じた教育　－ガードナーのMI理論－
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

15	何が「よく」て，何が「わるい」のか？　－道徳教育と教育的価値―
事前	テキストの関連する箇所を読み、「道徳」を教育することについて考えておくこと。（1時間）
事後	全15回の授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ノート等を振り返り、総まとめのワークシートを書いてくること。（3時間）

2020/07/16(木)10:59

科 目 名	教職総合講座I [心]			授業コード	1030050
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関する キーワード	一般教養、教職教養、特別支援教育、小論文、面接

到達目標	本講座では、将来教職に就くことを目指す学生に対して、、教員としての一般教養・教職教養を身につけ、将来特別支援教育等の教育現場に役立つ資質能力を育成する。 この授業を履修することにより、教員採用試験に関係することを学び、学生自ら教員採用試験準備を適切かつ効果的に行える能力を育成することができる。また、受験への心構えと学習方法等を学び、模擬試験において自己の到達度を確認しながら、ともに学ぶ学生同士が切磋琢磨することで、教員採用試験への準備を確実に行うことを目標とする。			
授業の概要	将来の教員採用試験を受験するにあたり、そのための学習・準備を適切かつ効果的に行えるよう、支援する。加えて、受験に関するガイダンスや模擬試験等を含め、段階的・総合的に指導を行う受験対策講座である。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回ディスカッションを取り入れる。発表担当する回には、事前に資料を調べ、レジュメを作成してくること。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への取り組み（受講態度10%、課題60%）、模擬試験の得点（30%）により、総合的に評価する。積極的に参加し、自ら学んでいるかどうかが最も重視される評価の観点です。		
フィードバック	授業内で適宜フィードバックします。			
履修に際しての 注意事項	横浜国立大学教員養成講座を合わせて受講することが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	2020年度版 教職教養の要点理解 時事通信出版局 2020年度版 教職教養の演習問題 同上 2020年度版 一般教養の要点整理 同上 2020年度版 一般教養の演習問題 同上 2020年度版 よくわかる特別支援学校(選択) 同上 2020年度版 よくわかる中・高社会(選択) 同上	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	中学校学習指導要領 文部科学省 高等学校学習指導要領 文部科学省 特別支援学校学習指導要領 文部科学省	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス(岩本、小泉、新井(雅))
事前	教員採用試験の基礎知識について調べ、採用試験を受験する自治体を考えておくこと。(2時間)
事後	教員採用試験までの長期スケジュールを立て、学習計画を考えてくること。(2時間)

2	一般教養 学習方法等(岩本、小泉、新井(雅))
事前	一般教養の試験範囲と過去問題を確認し、自らの得意分野と不得意分野についてまとめてくること、(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、自らの学習方法の改善策を考えておくこと。(2時間)

3	一般教養 国語(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

4	一般教養 英語(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

5	一般教養 社会(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

6	一般教養 芸術等(新井(雅))
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

7	一般教養 数学(新井(雅))
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

8	一般教養 理科(新井(雅))
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

9	一般教養 総復習(岩本、小泉、新井(雅))
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。(2時間)

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	

事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	論文　考え方並びに構成（岩本）
事前	配布資料を読んで、論文の基礎を理解しておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

17	論文　表現・記述方法（岩本）
事前	配布資料を読んで、論文作成のポイントを理解しておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

18	教職教養　学習方法（岩本）
事前	テキストの関連する箇所を読んで、教職教養の学習方法について考え、長期の学習計画を考えておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、教職教養問題をいくつか解いておくこと。（2時間）

19	面接への準備（岩本、小泉、新井（雅））
事前	教員採用試験の面接の基礎知識について調べ、採用試験を受験する自治体の特徴を調べておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、面接で聞かれそうな内容をまとめておくこと。（2時間）

20	個人面接（岩本、小泉、新井（雅））
事前	面接で聞かれそうな内容に対する、自身の解答例をまとめておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、面接での応答内容を整理しておくこと。（2時間）

21	模擬試験（岩本、小泉、新井（雅））
事前	授業で扱った内容を復習し、一般教養の内容を整理しておくこと。（2時間）
事後	模擬試験でわからなかった内容や分野について調べ、テキストで学習を深めておくこと。（2時間）

22	模擬試験の振り返り（岩本、小泉、新井（雅））
事前	模擬試験の結果から、自らの得意分野と不得意分野をまとめ、今後の学習計画を立てておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、採用試験までの学習計画を作成しておくこと。（2時間）

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	

事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:12

科 目 名	教職総合講座II [心]			授業コード	1030060
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関するキーワード	教職教養、特別支援教育、小論文、面接

到達目標	本講座では、将来教職に就くことを目指す学生に対して、教員としての一般教養・教職教養および特別支援教育等の教育現場に役立つ資質能力を育成する。 この授業を履修することにより、学生自らが教員採用試験に向けて学習・準備を効果的に進めることができるようになる。また、教職総合講座Ⅰに継続して、模擬試験等で到達度を確認しながら、学生同士で切磋琢磨して、教員採用試験合格に向けた準備を行うことを目標とする。			
授業の概要	教員採用試験を受験するにあたり、試験内容である教職教養、一般教養、論文、面接等の準備を効果的に行えるよう、受験予定の学生を支援する。また、本講座は、受験手続に関するガイダンスや模擬試験を含み、段階的・総合的に受験対策を行う。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回ディスカッションを取り入れる。発表担当する回には、事前に資料を調べ、レジュメを作成してくること。
評価方法及び評価基準	レポート	授業への取り組み（受講態度10%、課題60%）、模擬試験の得点（30%）により、総合的に評価する。積極的に参加し、自ら学んでいるかどうかが最も重視される評価の観点です。		
フィードバック	授業内で適宜フィードバックします。			
履修に際しての注意事項	教職総合講座Ⅰを履修済みであることを履修要件とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV			○				

V					○		

テキスト1	別途指示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	中学校学習指導要領　文部科学省 高等学校学習指導要領　文部科学省 特別支援学校学習指導要領　文部科学省	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス（岩本、小泉、新井（雅））
事前	受験する予定の自治体の教員採用試験日程等を調べ、必要な準備を考えておくこと。（2時間）
事後	教員採用試験までのスケジュールを立て、学習計画を考えてくること。（2時間）

2	過去問題の分析（岩本、小泉、新井（雅））
事前	教職教養の試験範囲と過去問題を確認し、自らの得意分野と不得意分野についてまとめてくること、（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、教職教養で目標点数を取るための計画を考えておくこと。（2時間）

3	教職教養　教育原理:教育課程、学習指導要領（小泉）
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

4	教職教養　教育原理:教育方法、学習指導、生徒指導（小泉）
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

5	教職教養　教育原理:学校・学級経営、その他（小泉）
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

6	教職教養　教育史（新井（雅））
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

7	教職教養　教育心理（新井（雅））
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

8	教職教養　教育法規:教育や学校教育に関する法律（新井（雅））
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

9	教職教養　教育法規;教職員や教育行政に関する法律（岩本、小泉、新井（雅））
事前	テキストの関連する箇所を読んで、問題を解いておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、類似問題を解いておくこと。（2時間）

10	論文　テーマの読み取り（岩本、小泉、新井（雅））
事前	配布資料のテーマの中から一つ選んで、小論文を書いてくること。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、配布資料の課題をやっておくこと。（2時間）

11	論文　表現方法（岩本、小泉、新井（雅））
事前	配布資料の課題をやってくること。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、配布資料の課題をやっておくこと。（2時間）

12	面接への準備　自分を知る（岩本、小泉、新井（雅））
事前	面接で聞かれそうな内容をまとめておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、配布資料の課題をやっておくこと。（2時間）

13	個人面接（岩本、小泉、新井（雅））
事前	面接で聞かれそうな内容に対する、自身の解答例をまとめておくこと。（2時間）

事後	授業で扱った内容を復習し、配布資料の課題をやっておくこと。(2時間)

14	集団面接(岩本、小泉、新井(雅))
事前	集団面接のポイントを調べてくること。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、配布資料の課題をやっておくこと。(2時間)

15	模擬授業(岩本、小泉、新井(雅))
事前	模擬授業の計画をまとめ、教材を準備しておくこと。(2時間)
事後	模擬授業の反省点をまとめ、授業計画と教材を改善すること。(2時間)

16	採用試験の振り返りと自己分析(岩本、小泉、新井(雅))
事前	採用試験の試験内容をまとめておくこと。(2時間)
事後	採用試験でうまくいかなかった点をまとめ、今後の課題をまとめること。(2時間)

17	
事前	
事後	

18	
事前	
事後	

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	

事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)11:05

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1030090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				
小学校・中学校専門指導員、教育相談員、教育センター相談員、スクールカウンセラー等の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	教育哲学、カウンセリング、子どもの支援
到達目標	「教育」の意味を深く理解し、多面的に捉えることができるようになること。そして、各自、教育に関連したテーマを見つけ、そのテーマを追究するための基本的な力を身につけること。また、心理・福祉・教育等の分野における、相談援助に関連する基礎的な理論や技術を身につけることを目標とする。
授業の概要	「教え」と「学び」という概念を中心にしながら、「教育とは何か」について、広く深く考えていく。また、相談援助に関わる基礎的な理論や技術を学び、教育や相談援助に関する研究テーマを各自見つけ、深めていく。 小中専門指導員、教育相談員、教育支援センター相談員、スクールカウンセラー等の経験を有する担当教員が、現場での実務経験を基に授業を行う。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 毎回ディスカッションを取り入れる。発表担当する回には、事前に資料を調べ、レジュメを作成してくること。
評価方法及び評価基準	レポート / 受講態度50%、課題40%、自己評価10%を基本として、授業への取り組みを総合的に評価します。積極的に参加し、自ら学んでいるかどうが（発表、質問・発言、課題への取り組み）が最も重視される評価の観点です。
フィードバック	毎回授業内でフィードバックします。
履修に際しての注意事項	教員採用試験にむけて学ぶ学生にも、それ以外の進路を希望する学生にも、将来役に立つような教育学・スクールカウンセリング等の内容を基礎とする。また、「学び合い」を中心的な学習形式とするため、自ら調べ、自ら学ぶ姿勢を大事にして履修していただきたい。 教員採用試験を受ける人は、必要に応じて関連テキストを購入すること。 特に、教員採用試験を受けない人や、国家試験等を受けない人は、4年次に卒論やゼミ論にチャレンジしていただきたい。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				

III							
IV							
V					○		

テキスト1	木村元・小玉重夫・船橋一男〔著〕『教育学をつかむ 改訂版』 有斐閣	9784641177260
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	國分康孝著（1981）『カウンセリングの理論』、誠信書房、9784414403084 楡木 満生 (編集)、田上 不二夫 (編集) (2011)『カウンセリング心理学ハンドブック (日本カウンセリング学会企画 日本カウンセリング学会「認定カウンセラー養成カリキュラム」)』、金子書房、9784760894413 随時、紹介します。配布プリントを多く利用します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1：オリエンテーションとエンカウンター(自己紹介の仕方) 2：「自分が受けてきた教育」について振り返る 3:キャリアプラン。仕事に必要な基礎力・知識とは何かを考える。 4:研究テーマの探索。 5～11：テキスト『教育学をつかむ』や教育相談・スクールカウンセリング・児童福祉等に関係する文献・資料を読み、「教育」（人を育てること・人が成長すること）の意味をさまざまな角度から議論する。 12～15：傾聴技法および「カウンセリング理論」について担当し発表する。 16～18：社会福祉実習の振り返りから、援助相談の理論と技術について議論する。 19～20：研究の仕方について 21～30：教育に関連して興味を持ったテーマについて各自調べ、プレゼンテーションしてもらい、そのテーマを深めるための議論をする。 議論や発表においては、随時コメントでフィードバックをします。改善を指摘された箇所については、次回以降の発表や議論において、よりよいものに改善されることを望みます。
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、課題がある場合には準備してくること。（1時間）

2020/07/16(木)20:41

科 目 名	教職概論 [心]			授業コード	1030111
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関する キーワード	教職、教員養成と教員採用、教員の服務、専門性、連携

到達目標	本授業の到達目標は、以下の2点である。第1に「教職」がどのような職業であるのか理解し、説明できるようになることである。第2に、教師文化および教師の専門性について学ぶことで教職に対する自らの適性を考え、積極的に教職課程を履修していくこと、教育実習および教員採用試験にむけて主体的に学習していくことの重要性を理解できるようになることである。 【「履修ファイル」の対応項目：A－2（2）（4）、A－4（3）、B－3（3）、C－1（1）】			
授業の概要	教職を目指すうえで必要な基礎知識を学びながら、自らの適性を確かめ、意欲を高めていくことができるようにワークを取り入れていく。教職の意義、教員の役割、職務内容、教員に求められる資質・能力、服務制度・身分保障、教育専門職としての倫理、学校の教育活動の目標・内容、研修制度、教員養成と採用、学校教育の課題等を理解することで、教職への関心と理解を深めることができる内容とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の中で、適宜少人数でのワークやディスカッションをする。
評価方法 及び評価基準	レポート	ワークシート（75%）、課題（15%）、自己評価（10%）として評価します。		
フィードバック	毎回ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかで、適宜フィードバックする			
履修に際しての 注意事項	各講義では、それまでに学習した内容を前提とした話をすることがあります。欠席した場合には、講義の内容についてテキストで自学しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	小島弘道，比神正行，平井貴美代〔著〕『改訂版　教師の条件――授業と学校をつくる力――』学文社	4762026042
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の中で、適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション、教職への道① ： 大学で何を学ぶべきか
事前	テキストの関連する箇所を読み、これまでに出会った「先生」を思い返し、どのような教師が優れているのか、考えてくること。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

2	教職への道②： 教師になることの意味、教員養成のカリキュラム
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

3	教職の歴史： 教師像の変遷と教師論
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

4	教育実習で何を学ぶのか： その歴史・改革・実際
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

5	教師教育の制度①： 教員養成と教員採用
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

6	教師教育の制度②： 教員研修の意義・種類・体系
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

7	教師教育の制度③： 初任者研修の制度、教員研修の課題
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

8	教師の勤務と服務：教師の任用、身分保障、服務、職務と役割
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

9	教師の日常世界①： 新任教師が学ぶこと、教師文化
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

10	教師の日常世界②： 自己管理（ストレスコントロール）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

11	教師の専門性と力量
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

12	教師の専門性とその変容
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

13	学校と教師①： 学校経営、アカウンタビリティ

事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

14	学校と教師②： 新しいタイプの学校と教師
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

15	まとめと討論
事前	テキストの関連する箇所を読んで、これまでの学びを議論できるよう、簡単にまとめてくること。（2時間）
事後	全15回の授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、総まとめのワークシートを書いてくること。（2時間）

2020/07/16(木)21:05

科 目 名	教育方法と技術 [心]			授業コード	1030120
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、番匠 一雅				

科目に関するキーワード	教育方法、学習指導法、指導案・模擬授業、教育機器（ICT）
到達目標	・教育方法の基礎概念と諸理論を理解し、説明できるようになること ・個々のニーズに応じた適切な課題・宿題等を設定する方法を理解し、作成できるようになること ・主としてPCを使用した教材を作成し、教具（PCを含む）を活用するスキルを習得すること ・基本的な学習指導法・集団組織の方法を習得し、指導できるようになること ・PCを利用した学習指導法を習得し、指導できるようになること ・学習指導案・学習教材を製作できるようになること ・自作教材を利用した模擬授業の実演ができるようになること ・指導に応じた評価方法を理解し、評価できるようになること ・教育機器を活用する意義と、情報管理の重要性を理解すること 【「履修ファイル」の対応項目：A－4（2）、D－2（1）～（7）、D－3（1）～（5）、D－4（1）～（6）、D－5（1）～（3）】
授業の概要	現在、私たちの身のまわりではIT化が急速に進展しており、教育の世界においても「情報化」が強力に進められてきています。しかし、ただ単に「情報機器」を使用して授業をすればよいのではありません。教育の目的と学習者の実態等に応じて教育方法を工夫できることが重要です。 本講座は、教職を目指す学生が、将来教師として創造的な授業を生み出すことができるよう、教育方法および技術に関する基礎理論を理解し、基本的な教授方法を習得し、ICT（Information and Communication Technology）を活用して授業ができるようになることを目指します。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループでのディスカッションや、授業案の作成、模擬授業の実践が含まれる。また、ICTを活用して、課題を作成し、提出することがある。
評価方法及び評価基準	レポート	授業に臨む態度（20%）、授業中の作成物およびワークシート（30%）、模擬授業の実演（50%）として評価する。		
フィードバック	ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかで、適宜フィードバックする			
履修に際しての注意事項	取得希望の免許種に応じた『学習指導要領』を参照しながら、受講すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV							

V				○			

テキスト1	『三訂版 教育の方法と技術』平沢茂　図書文化社	9784810087017
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	中学校、高等学校、特別支援学校等の取得希望免許に関する『学習指導要領』及び『学習指導要領解説』	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「教育方法」とは何か(岩本、番匠)
事前	テキストの関連する箇所を読み、「教育方法」とは何を意味しているのかを、理解しておくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

2	「授業」、「学習指導」とは何か(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

3	教授理論(ソクラテス、コメニウス、ルソー)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

4	教授理論(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

5	カリキュラムの類型と教育方法(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

6	「授業」の設計、「教える」ことの意味(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

7	「授業」の組織とクラス運営(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

8	学習における個人差と教育方法(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

9	授業における教師の基本的な役割と基礎技術(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

10	教授方法(講義法:教師中心の指導方法)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

11	教授方法(グループ学習、討議法、劇化法:学習者中心の指導方法)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

12	教育方法とメディア(視聴覚教育の方法)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

13	教師中心の授業案作成(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

14	学習者中心の授業案作成（岩本）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

15	教育方法の理論に関するまとめ（岩本）
事前	前期15回分のテキストの関連する箇所を振り返り、要点を確認しておくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、前期のまとめのワークシートを書いてくること。（1時間）

16	視聴覚教材の作成方法（番匠・岩本）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

17	視聴覚教材の作成（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

18	黒板、ホワイトボード、スライド、PCの使い方と学習指導（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

19	プレゼンテーション技法（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

20	プレゼンテーション技法の実演（番匠）
事前	プレゼンテーションの準備をしてくること。（1時間）
事後	プレゼンテーションの振り返り・評価をしてくること。（1時間）

21	表計算ソフトを活用した学習指導と情報管理（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容を復習しておくこと。（1時間）

22	視聴覚メディアを活用した学習指導（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

23	PCを活用した学習指導、CAI（コンピューター支援による教授法）およびeラーニングシステムの理解（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容を復習しておくこと。（1時間）

24	教育メディアの活用を含んだ学習指導案の作成方法（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、指導案を書いてくること。（1時間）

25	模擬授業の実演①（グループ1）（岩本、番匠）
事前	模擬授業の準備をしてくること。（1時間）
事後	模擬授業の振り返り・評価をしてくること。（1時間）

26	模擬授業の実演②（グループ2）（岩本、番匠）
事前	模擬授業の準備をしてくること。（1時間）
事後	模擬授業の振り返り・評価をしてくること。（1時間）

27	模擬授業の実演③（グループ3）（岩本、番匠）
事前	模擬授業の準備をしてくること。（1時間）
事後	模擬授業の振り返り・評価をしてくること。（1時間）

28	学習指導と教育課程（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

29	学習指導の評価方法（番匠）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

30	教育方法と技術：総括（岩本、番匠）
事前	前期から後期までの、授業全体の振り返りをしてくること。（1時間）
事後	前期から後期までの授業全体を復習し、総まとめのワークシートを書いてくること。（1時間）

2020/07/16(木)21:04

科 目 名	道徳教育の指導法/道徳の理論及び指導法 [心]			授業コード	1030132
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関するキーワード	道徳教育、道徳性の発達、役割取得能力
到達目標	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。本授業では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることを目標とする。 本授業の到達目標は以下の2点である。 (1)道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。(①道徳の本質(道徳とは何か)を説明できる。②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。③子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。) (2)学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 (①学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。③道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。④授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。⑤道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。⑥模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。)
授業の概要	「道徳」とは何かを考察し、「道徳教育」の歴史的経緯を確認する。そして、現代社会における道徳教育の在り方について熟考した後に、道徳教育に関する代表的な思想と理論を確認し、道徳教育のさまざまな授業方法を模擬的に体験しながら学ぶ。様々なアプローチについての授業案の作成と模擬授業の実施も含まれる。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業の中で、ワークシートを使いながら、適宜少人数でのディスカッションをする。また、道徳の授業を模擬体験したり、自ら授業を作って実践してみる。
評価方法及び評価基準	レポート	ワークシートと授業における課題への取り組み(70%)、授業案の作成(20%)、自己評価(10%)として評価する。		

フィードバック	適宜ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかでフィードバックする。模擬授業については、実施後にコメントをフィードバックする。
履修に際しての注意事項	講義の中で行うワークを大切にしてください。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I							
II	○						
III			○				
IV							
V			○				

テキスト1	諸富祥彦 編著『道徳授業の新しいアプローチ10』明治図書 :受講者は全員購入	9784188110188
テキスト2	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－特別の教科　道徳編－』文部科学省(教育出版) :中学校の免許希望者は購入	9784316300849
テキスト3	『高等学校学習指導要領解説―総則編―』文部科学省(東山書房) :高等学校の免許希望者は購入	9784827814804
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション: 「道徳」とは何か。道徳教育の歴史
事前	これまでに自分が受けてきた道徳教育を振り返り、「道徳」とは何か、考えてくること。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

2	現代社会における「道徳教育」の意義(いじめ、情報モラル等)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

3	学習指導要領における「道徳教育」の位置づけ
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

4	人間観(教育思想)と道徳教育に関する諸理論
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

5	隠れたカリキュラムと道徳教育: 機能としての道徳教育(学校の教育活動全体を通じた道徳指導)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

6	道徳性の発達: ピアジェ、コールバーグ、ギリガン
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

7	道徳科の授業設計と、学習指導案作成の基礎知識
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

8	道徳教育における様々なアプローチ①: 価値の明確化、エンカウンター
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

9	道徳教育における様々なアプローチ②: モラルスキル・トレーニング
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

10	道徳教育における様々なアプローチ③: VLF(思いやり育成プログラム)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(2時間)

11	道徳教育における様々なアプローチ④: モラルジレンマ

事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

12	道徳教育における様々なアプローチ⑤： ディベート的討論、批判的思考
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

13	道徳教育における様々なアプローチ⑥： その他（総合単元的学習、教材の工夫）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

14	模擬授業、振り返り
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（2時間）

15	道徳教育・道徳科における評価について
事前	テキストやノートを見返し、これまでの授業での学習内容を振り返っておくこと。（2時間）
事後	全15回授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、総まとめのワークシートを書いてくること。（2時間）

2020/07/16(木)21:28

科 目 名	教職実践演習（中・高） [心]			授業コード	1030142
副 題					
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関するキーワード	教師、資質・能力、チーム支援、学校・学級経営、授業

到達目標	本授業の到達目標は以下の2点である。第1に、これまでの教職課程の履修と自らの人生経験を振り返る作業を通して、4年間の履修の総括および自己分析（課題、長所・短所、コミュニケーションスキルの分析）を行い、客観的に自己評価ができるようになること。第2に、自己分析の結果と教師に必要とされる資質能力とを照らし合わせながら自らの教職への適性を考え、今後のキャリア形成における課題（不足している知識や技能等）と、その課題を解決するために必要な事柄を説明できるようになること。 【「履修ファイル」の対応項目：全て】			
授業の概要	最初に「履修カルテ」や「ライフコース図」（これまで受けてきた教育歴やライフイベントと、今後の予想を図示したもの）を用いて、4年間の教職課程での履修および自らの人生を振り返る作業を行う。また、自己分析の一環として、「話し方、きき方」に関するワークシートや「エゴグラム」等を用いて、コミュニケーション能力および性格の分析を行う。 ①教師としての責任感・意欲・愛情，②社会性や人間関係能力、③スクールカウンセリング（生徒理解と相談）に関する基本的知識と技能、④学校運営、学級経営等の技能、⑤「知ること」や「教えること」への意欲や自信（学習指導の技能）の観点から、自己評価、学生同士の相互評価、指導教員による形成的評価を随時行い、最後にレポートを作成させ総括的に評価する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回ディスカッションを取り入れる。発表や模擬授業を担当する回には、事前に資料を調べ、レジュメや授業案を作成してくること。
評価方法及び評価基準	レポート	筆記試験は実施しない。受講態度（発言、発表、ペアワーク、コミュニケーションスキルの訓練、模擬授業、ロールプレイ）とレポートを基にして総合的に評価を行う。		
フィードバック	毎回授業内でフィードバックします。			
履修に際しての注意事項	「教職実践演習」を受講できるのは、中学校社会、高校公民、高校福祉のいずれかの教育実習が修了している学生（もしくは、その見込み）に限られる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV			○				

V			○		○		

テキスト1	原田恵理子・森山賢一編著『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』(北樹出版、2014年)	9784779304064
テキスト2	本学「履修ファイル」および教育実習に関する書類(教育実習の手引き、教育実習日誌や記録等)	
テキスト3		
参考文献	授業時に教材プリント・資料を配布する。また、講義のテーマに関係する参考書および参考資料を、授業の中で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクションおよび構成的エンカウンター。「履修カルテ」を用いた振り返り(自己分析)と、教育実習の課題の確認。(岩本、小泉)
事前	教育実習日誌を読み返し、自らの課題をまとめておくこと。(2時間)
事後	履修カルテ(履修ファイル)を記入すること。(2時間)

2	「ライフコース図」を用いた振り返り(自己分析)と自らの人生の課題の確認。「話し方、きき方」ワークシートによるコミュニケーションスキルの確認と訓練。(岩本)
事前	コミュニケーション能力について、自らの課題をまとめておくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

3	社会性・人間関係能力について (講義、討論、訓練)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

4	教師に必要とされる資質能力とは何か(講義、ペアワーク、討論)(岩本、小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

5	教師としての責任感・意欲・愛情とは① (教育実習で感じたこと、討論)(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

6	教師としての責任感・意欲・愛情とは② (事例検討、討論)(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

7	スクールカウンセリングに関する基本的知識と技能① (学級経営等の集団指導、特別支援教育とチーム援助、教育相談面接、守秘義務の扱い方)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

8	スクールカウンセリングに関する基本的知識と技能② (アサーション、傾聴訓練、校内連携の方法、保護者対応、クレーム対応、)(岩本)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

9	教科指導に関する技能① (講義、教育実習での経験についてスピーチ)(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

10	教科指導に関する技能② (講義、教育実習での経験についてスピーチ、討論)(小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

11	模擬授業(授業観察の方法、教師役・生徒役でのロールプレイ)(岩本、小泉)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(2時間)
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。(2時間)

12	模擬授業（教師役・生徒役でのロールプレイ、授業案の検討）（岩本、小泉）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。（2時間）

13	模擬授業の授業分析と討論（岩本、小泉）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。（2時間）

14	ゲストティーチャー（現職の教員又は教員勤務経験者）による講話（岩本、小泉、ゲストティーチャー）
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。（2時間）

15	「履修ファイル」の再確認および各自の課題と履修のまとめ（岩本、小泉）
事前	これまでの教職課程でのすべての学びを振り返り、履修ファイルを確認しておくこと。（2時間）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連するテキストや資料を探して学習の補足をすること。（2時間）

2020/07/16(木)21:32

科 目 名	教育実習指導 [心]			授業コード	1030150
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関するキーワード	学校教育、授業計画、実習日誌、報告・連絡・相談
到達目標	本授業の到達目標は、以下の3点である。第1に、教育実習を行う意味を理解すること。その為に、教育実習のガイダンスおよびオリエンテーションを行う。事前指導として、実習期間を有効に活用するための準備についての意識を向上させる。第2に、教育実習において学校教育現場を直接観察・参加することで、教職の意義ややりがいを知ると同時に教職の大変さを知ることととなる。それによって、教員となるための自らの資質を確かめ、教職への意欲を高められるよう指導する。第3に、これまで生徒・学生の視点からみてきた「教育」という営みを，教師の視点から捉えられるようになることを目標とする。 【「履修ファイル」の対応項目：B－1（7）、C－1（2）、C－2（4）、C－3（1）～（5）、C－4（1）～（8）、D－1（1）、D－2（1）～（7）、D－3（1）～（5）、D－4（1）～（6）、D－5（1）～（3）】
授業の概要	事前指導として、教育実習の目的と内容および諸注意・心得について講義を行い、教育実習に行く前に準備しておくべき事柄と教育実習に必要な基礎知識を学ぶ。また、実習校との事前のやり取り、教育実習における実習校における振る舞い等、マナーや基本的な態度についても指導する。そして、教育実習を有意義なものとするために、教職への意識を高められるよう、「履修ファイル」を用いて、教師として必要な資質・能力について確認していく。 事後指導においては、実習報告と討議をおこない、レポートを提出してもらうことで教育実習の経験を批判的に振り返り、自らの足りない知識や技術等の課題を理解させる。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	教育実習の準備に関する内容を、毎回ディスカッションし、自ら必要な事柄を考え、準備をする。
評価方法及び評価基準	レポート	受講態度（30%）・授業における課題（60%）・自己評価（10%）をもとに，総合的に評価します。		
フィードバック	授業内で、適宜フィードバックする。			
履修に際しての注意事項	事後指導においては、個別面談による実習の振り返りの時間を設けます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV		○					

V			○				

テキスト1	本学の教育実習の手引き、教育実習日誌、履修ファイルを使用する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	教育実習を考える会　編、『新編 教育実習の常識―事例にもとづく必須66項』、蒼丘書林 柴田義松・木内剛　編著（2011）、『教育実習ハンドブック〔改訂版〕』、学文社 高野和子・岩田康之　編（2010）、『教育実習 〔教師教育テキストシリーズ15〕』、学文社 その他にも、講義のテーマに関係する参考書および参考資料を授業の中で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、教育実習の意義と目的
事前	教育実習の目的とは何か調べ、考えてくること。（30分）
事後	教育実習に関連するテキスト等を探し、教育実習に対する抱負・実習の目標と自らの課題を書いてくること。（1時間）

2	教育実習とは何か、教育実習の基礎知識
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

3	実習内規の説明、実習の日程と配当等について
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

4	実習の心構え、留意点、「望ましい教育実習生」とは
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

5	実習に対する抱負についてレポート提出・グループディスカッション
事前	実習に対する抱負についてレポートを書いてくること。（30分）
事後	授業でのディスカッション等を受けて、教育実習に対する抱負を書き直してくること。（30分）

6	実習現場の理解（現場の教員による講演）
事前	配布資料を読み、教育実習における留意点を考えてくること。（30分）
事後	授業を受けて考えたことなど、ワークシートを書いてくること。（30分）

7	実習校でのオリエンテーションの受け方等について
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

8	実習のねらいと内容、自己課題の設定
事前	実習の自己課題を考えてまとめてくること。（30分）
事後	実習の目標をまとめ、書いてくること。（30分）

9	安全への配慮と事故への対応
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

10	学習指導案、実習の評価について
事前	授業内容に関連する参考書や資料等を読んでおくこと。（30分）
事後	授業で扱った内容を復習し、関連する文献や資料等を読むこと。（30分）

11	実習テーマ（自己課題）と履修ファイルについて
事前	実習テーマ（自己課題）を考え、書いてくること。（30分）
事後	履修ファイルの指定された箇所を書いておくこと。（30分）

12	実習日誌の書き方、手引きの活用、記録等について
事前	実習ハンドブックの授業に関連する箇所を読んでくること。（30分）
事後	実習ハンドブックの授業で扱った内容に関連する箇所を読んで復習すること。（30分）

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	実習の報告と反省（実習における自己課題の確認、グループディスカッション）、実習日誌・記録と課題の確認
事前	実習の報告をするために、実習日誌・記録を読み返し、反省点（実習における自己課題の確認、グループディスカッション）をまとめてくること。（30分）
事後	反省点（実習における自己課題の確認、グループディスカッション）について、今後それらの課題をどのように補っていくかを考えておくこと。（30分）

17	実習の自己評価、実習現場の評価と自己評価との比較検討
事前	実習の自己評価をまとめてくるこお。（30分）
事後	実習の評価に関して、授業内で指摘された課題について考えておくこと。（30分）

18	実習を通しての自己課題のレポート提出・グループディスカッション
事前	自己課題について、レポートを書いてくること。（30分）
事後	授業を受けて、今後それらの課題をどのように補っていくかを考えておくこと。（30分）

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:33

科 目 名	教育実習I [心]			授業コード	1030163
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関するキーワード	実習、学校教育、授業実践、生徒指導、道徳教育、特別活動
到達目標	①教師の行う多様な仕事を観察し、その一部を直接経験することで、教職の深さと責任の重さ、やりがいを実感すること。 ②実践を通して自らに足りない知識や技術を確認し、教師としての職務を遂行するうえで必要とされる最低限の知識と技能を身につけること。 ③児童・生徒の実態に応じた学習指導計画の立案および教育実践とその評価を通して、学習指導の在り方や計画と実践の関係を理解すること。 ④学習指導、道徳・人権教育、健康・安全教育、特別活動、教育相談・生徒指導等が、学習指導要領および学校における教育目標に基づいて行われていることを理解すること。 ⑤学級担任、校務分掌等の各種業務が、学校の組織的運営のもとに行われていることを理解すること。 ⑥学校教育が、家庭や地域との密接なかかわりのもとに行われていることを理解すること。 上記の6つの目標（共通課題）の他に、「教職実践演習」のための「履修ファイル」を用いて、これまでの大学における学修を振り返り、教育実習での学びをよりよいものにするために、「自己課題」を設定して教育実習に臨むことになります。 【履修ファイル対応項目：B-1（7），C-1（2），C2-（4），C-3（1）～（5），C-4（1）～（8），D-（1），D-2（1）～（7），D-3（1）～（5），D-4（1）～（6），D-5（1）～（3）】
授業の概要	実習校における教育実習である。実習校でのオリエンテーション、講話、観察・見学、参加実習（学習指導、生徒指導、学級経営）、課外活動等への参加などがある。教職課程で学んできた知識や技術が、実際の教育現場ではどのように実践されているのかを確認し、自らの教師としての資質能力、実践的指導力を高めることを目指していく。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習を通して、実践する。
評価方法及び評価基準	―	実習校による評価、学生による自己評価、実習日誌、履修ファイル等を用いて、総合的に評価を行う。		
フィードバック	「教育実習指導」の授業において事後指導が行われる際と、後期の「教職実践演習（中・高）」の授業においてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	目標を定め、自らの課題を意識しながら教育実習を経験してください。そして、教育実習を経験しながらも、その日の実践を振り返り、次の実習に活かせるよう、目標と課題を常に振り返るように努めてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							

II							
III						○	
IV		○					
V			○				

テキスト1	本学「教育実習の手引き」（教育実習指導で配付する）、本学「履修ファイル」、本学「実習ハンドブック」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	上記「授業のねらい・到達目標」が達成されるよう、実習校でのオリエンテーション、講話、観察・見学、参加実習（学習指導、生徒指導、学級経営）、課外活動等への参加をとおして、教師としての資質能力、実践的指導力を高めることを目指していく。
事前	教育実習に向けて、各自必要な準備を滞りなく進めること。（50時間）
事後	教育実習を振り返り、実習日誌をまとめ、自らの課題について考える。（10時間）

2020/07/16(木)22:33

科 目 名	教育実習II [心]			授業コード	1030173
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲、小泉 和博				

科目に関するキーワード	実習、学校教育、授業実践、生徒指導、道徳教育、特別活動
到達目標	①教師の行う多様な仕事を観察し、その一部を直接経験することで、教職の深さと責任の重さ、やりがいを実感すること。 ②実践を通して自らに足りない知識や技術を確認し、教師としての職務を遂行するうえで必要とされる最低限の知識と技能を身につけること。 ③児童・生徒の実態に応じた学習指導計画の立案および教育実践とその評価を通して、学習指導の在り方や計画と実践の関係を理解すること。 ④学習指導、道徳・人権教育、健康・安全教育、特別活動、教育相談・生徒指導等が、学習指導要領および学校における教育目標に基づいて行われていることを理解すること。 ⑤学級担任、校務分掌等の各種業務が、学校の組織的運営のもとに行われていることを理解すること。 ⑥学校教育が、家庭や地域との密接なかかわりのもとに行われていることを理解すること。 上記の6つの目標（共通課題）の他に、「教職実践演習」のための「履修ファイル」を用いて、これまでの大学における学修を振り返り、教育実習での学びをよりよいものにするために、「自己課題」を設定して教育実習に臨むことになります。 【履修ファイル対応項目：B-1（7），C-1（2），C2-（4），C-3（1）～（5），C-4（1）～（8），D-（1），D-2（1）～（7），D-3（1）～（5），D-4（1）～（6），D-5（1）～（3）】
授業の概要	実習校における教育実習（中学校社会科）である。実習校でのオリエンテーション、講話、観察・見学、参加実習（学習指導、生徒指導、学級経営）、課外活動等への参加などがある。教職課程で学んできた知識や技術が、実際の教育現場ではどのように実践されているのかを確認し、自らの教師としての資質能力、実践的指導力を高めることを目指していく。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習を通して、実践する。
評価方法及び評価基準	―	実習校による評価、学生による自己評価、実習日誌、履修ファイル等を用いて、総合的に評価を行う。		

フィードバック	「教育実習指導」の授業において事後指導が行われる際と、後期の「教職実践演習（中・高）」の授業においてフィードバックする。
履修に際しての注意事項	目標を定め、自らの課題を意識しながら教育実習を経験してください。そして、教育実習を経験しながらも、その日の実践を振り返り、次の実習に活かせるよう、目標と課題を常に振り返るように努めてください。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							

II							
III						○	
IV		○					
V			○				

テキスト1	本学「教育実習の手引き」（教育実習指導で配付する）、本学「履修ファイル」、本学「実習ハンドブック」（本学ダイヤリー）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	上記「授業のねらい・到達目標」が達成されるよう、実習校でのオリエンテーション、講話、観察・見学、参加実習（学習指導、生徒指導、学級経営）、課外活動等への参加をとおして、教師としての資質能力、実践的指導力を高めることを目指していく。
事前	教育実習に向けて、各自必要な準備を滞りなく進めること。（50時間）
事後	教育実習を振り返り、実習日誌をまとめ、自らの課題について考える。（10時間）

2020/07/16(木)22:34

科 目 名	道徳教育の指導法/道徳の理論及び指導法 [心]			授業コード	1030183
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 親憲				

科目に関する キーワード	道徳教育、道徳性の発達、役割取得能力
到達目標	価値が多元化した現代社会における道徳教育とはどのようなものであるべきかについて考察し、道徳教育に携わる際の多様なアプローチを理解すること。そして、それぞれの方法の利点と欠点、およびそれらの方法の背景にある思想を理解することを目標とする。さらに、単なる「徳目主義」とならないように、「道徳」を「教育する」ことの意味について、深く議論できるようになることをめざす。 【「履修ファイル」の対応項目：A－4（1）（5）、C－2（1）（4）、C－3（1）～（5）、D－1（1）、D－2（1）～（7）、D－3（1）～（5）】
授業の概要	「道徳」とは何かを考察し、「道徳教育」の歴史的経緯を確認する。そして、現代社会における道徳教育の在り方について討議した後に、道徳教育に関する代表的な思想と理論を確認し、道徳教育のさまざまな方法を体験しながら学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の中で、ワークシートを使いながら、適宜少人数でのディスカッションをする。また、道徳の授業を模擬体験したり、自ら授業を作って実践してみる。
評価方法 及び評価基準	レポート	ワークシートと授業における課題への取り組み（70%）、授業案の作成（20%）、自己評価（10%）として評価する。		
フィードバック	適宜ワークシートで理解度を確認し、重要ポイントについては、次回以降の講義のなかでフィードバックする。模擬授業については、実施後にコメントをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	講義の中で行うワークを大切にしてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III			○				
IV							

V			○				

テキスト1	諸富祥彦 編著『道徳授業の新しいアプローチ10』明治図書 :受講者は全員購入	9784188110188
テキスト2	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－特別の教科　道徳編－』文部科学省(教育出版) :中学校の免許希望者は購入	9784316300849
テキスト3	『高等学校学習指導要領解説―総則編―』文部科学省(東山書房) :高等学校の免許希望者は購入	9784827814804
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
1	イントロダクション: 「道徳」とは何か。道徳教育の歴史
事前	これまでに自分が受けてきた道徳教育を振り返り、「道徳」とは何か、考えてくること。(2時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
2	現代社会における「道徳教育」の意義
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
3	学習指導要領における「道徳教育」の位置づけ
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
4	人間観(教育思想)と道徳教育に関する諸理論
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
5	隠れたカリキュラムと道徳教育: 機能としての道徳教育
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
6	道徳性の発達: ピアジェ、コールバーグ、ギリガン
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
7	道徳教育における様々なアプローチ①: 価値の明確化
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
8	道徳教育における様々なアプローチ②: エンカウンター、ピアカウンセリング
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
9	道徳教育における様々なアプローチ③: モラルスキル・トレーニング
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
10	道徳教育における様々なアプローチ④: VLF(思いやり育成プログラム)
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
11	道徳教育における様々なアプローチ⑤: モラルジレンマ
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)
12	道徳教育における様々なアプローチ⑥: その他
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。(1時間)

13	人権意識と道徳教育
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

14	欧米諸国の道徳教育
事前	テキストの関連する箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後	授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、ワークシートを書いてくること。（1時間）

15	まとめ
事前	テキストやノートを見返し、学習内容を振り返っておくこと。（1時間）
事後	全15回授業で扱った内容に関連するテキストの箇所を復習し、総まとめのワークシートを書いてくること。（2時間）

2020/07/16(木)22:02

科 目 名	基礎演習I [介]			授業コード	1040010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関する キーワード	読む力、書く力、考える力、まとめる力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション力

到達目標	建学の精神「捨我精進」を理解し、説明できるようになる。 学として学んでゆくために必要不可な基礎的知識・技能・思考を修得し、他の授業で活できるようになる。			
授業の概要	学ではさまざまな科を学び、基礎的教養や専的知識・技術をにつける。この授業では、学 として学んでゆくために必要不可な基礎的な知識・技能・思考法について演習を行い修得する。 具体的には、建学の精神、学における授業の受け、ノートの取り、資料や情報の収集と整理法、資料や情報の読み、レポートの書き、問題発や理論的思考、豊かな表現（プレゼンテーション）、建 設的な批判、問題解決について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(35%)、演習課題（レポート）等(35%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。リアクションペーパーの書き方、レポートの書き方で行った演習について、優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	事前・事後の学修と、毎回の授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III						○	
IV		○					

V							

テキスト1	関係資料は「でんでんばん」もしくは毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の受け方1 ～大学で学ぶ意義「捨我精進」とは何か、予習、復習、授業を聴く、質問する～
事前	キャンパスガイドと履修要項を読んでおく。(0.5時間)
事後	大学生となった自分の4年間の目標について考える。(0.5時間)

2	対人関係づくり1 ～人間関係を構築し、他者と自己を理解する(人が好き、人が嫌いの自然さ)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己評価シート」を作成しておく。(0.5時間)
事後	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己紹介を考える」ワークシートに、自己紹介を通じて得た学びを記載すること。(0.5時間)

3	対人関係づくり2 ～コミュニケーション力(話す力、聴く力、質問する力)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布するワークシート「私のコミュニケーションスタイル」を作成しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内の演習で学んだ他者のコミュニケーションスタイルと自分のコミュニケーションスタイルの相違点について理解しておくこと。(0.5時間)

4	授業の受け方2 ～ノートの取り方、リアクションペーパーの書き方～
事前	これまで書いてきたリアクションペーパーについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだノートの取り方、リアクションペーパーの書き方について他の授業でも実践すること。(0.5時間)

5	授業の受け方3 ～優れたリアクションペーパーについて～
事前	これまで作成したノートやリアクションペーパーについて改善点を考えてみること。(0.5時間)
事後	優れた評価を受けたリアクションペーパーと自分のリアクションペーパーの違いを評価し、具体的な改善点について考えること。(0.5時間)

6	◆献を深く読む ～◆献を読んで理解するための演習(要約など)を◆う～
事前	入学前課題のコメントを再確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ文献の読み方を振り返り、入学前課題を振り返ってみること。また、授業内で把握した文献の要約を行うこと。(0.5時間)

7	レポート作成1 ～レポートとは何か～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(1)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した参考レポートと自分のレポートの違いについて確認・考察し、改善点を考察すること。(0.5時間)

8	レポート作成2 ～良いレポートを書くために～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(2)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	これまで学んだ知識・技術を用いて夏休みの課題レポートを作成する。(0.5時間)

9	思考を可視化する ～マインドマップによる思考の可視化～
事前	「マインドマップ」とは何かについて調べておくこと。あなたの「未来」について思いつくキーワードを最低でも20個書き出しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだマインドマップの作成方法に基づき「自分について」というテーマでマインドマップを作成すること。(0.5時間)

	課題レポートのフィードバック分析 ～より良いレポートにするためには～

10	
事前	夏休みの課題として提出したレポートについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で共有した優れたレポートを参考に、自らのレポート作成の改善点について振り返ること。(0.5時間)

11	講演「◆年期と性」外部講師 (共同授業)
事前	「青年期と性」というテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ内容を振り返り、これからの日常生活で何をすべきかについて考えること。(0.5時間)

12	グループワーク1 ～グループワークとは チーム編成、テーマ決定、役割分担、進◆管理～
事前	これまで経験してきたワークショップについて、どのような内容(テーマ、方法、結論等)のものがあったか振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	グループで決定したテーマに関連する情報を調べておくこと。(0.5時間)

13	グループワーク2 ～ワークショップの実践～
事前	適切なブレーンストーミング(みんなで建設的に意見を出し合う)を行うために、事前に決定したテーマに関するアイデアを考え、整理しておくこと。(0.5時間)
事後	ワークショップの成果を生かして、次回のプレゼンテーションに向けた役割分担と発表資料作成を行うこと。(0.5時間)

14	グループワーク3 ～プレゼンテーションの方法～
事前	プレゼンテーションを行うために必要な資料の収集、プレゼンテーションのシナリオなどについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ「プレゼンテーションとは何か」を参考にグループでプレゼンテーション資料の作成を行うこと。(0.5時間)

15	グループワーク4 ～発表 プレゼンテーションの聴き方、評価方法～
事前	適切なプレゼンテーションを行うための予行練習などを行っておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習で学んだすべての知識・技能について、これからの大学生活で生かしていくためには何が必要かを考え続け、実践すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:04

科 目 名	基礎演習II [介]			授業コード	1040020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	問題を発見する力、問題を解決する力、協働・連携する力、ソーシャルワーカーとしての基礎力

到達目標	3年次以降の専門教育に向けた学びの視点を説明できるようになる。 専門職として必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考力を活用できるようになる。 問題発見力および問題解決力を修得し、3年次以降の学びで活用できるようになる。			
授業の概要	大学では さまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。 この授業では基礎演習Iで得た大学生に求められる基礎的な知識・技能・思考力を実践し、専門的な学びにつなげていく。 具体的には、社会福祉の諸問題を発見する力、考える力、調査する力、話し合う力、整理・発信する力などについて学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(30%)、レポート・演習課題等(40%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。グループワーク演習の成果で優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	現代の社会福祉100の論点 Vol.2, 宮武剛（監修）, 全国社会福祉協議会 田園調布学園大学 履修要項, 田園調布学園大学	
参考HP	https://lab.jst.go.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎演習2ガイダンス（福祉の専門性を育むために）
事前	本科目に関するシラバスを確認しておくこと。（0.5時間）
事後	基礎演習Iで学んだ内容について確認しておくこと。（0.5時間）

2	適切な話し合い、カンファレンス、会議の進め方について
事前	小学生から大学生になるまでの間で、複数のメンバーが集まって話し合いを行う「会議」と位置づけられる取り組みへの参加経験を振り返り、どのような会議（名称・種類など）に参加したことがあったか、その会議の意義と課題などについてまとめておくこと。（0.5時間）
事後	事前に資料を渡されたグループメンバーは、次回の会議に向けて資料を十分に読み込んでおくこと。（0.5時間）

3	準備をしない話し合いと準備をした話し合いの演習
事前	資料を渡されたグループは、当日に向けて会議の進行役、会議の進め方や結論づけ方について検討しておくこと。（0.5時間）
事後	準備されない会議と準備された会議を実践的に経験し、これからの会議参加に向けて自分ができることは何かを考えてみること。（0.5時間）

4	社会福祉の課題を考える（1） ～課題となるテーマの発見・調査～
事前	「でんでんばん」または授業で配布した社会福祉の課題（論点）の枠組みについて確認し、興味関心があるテーマを決めておくこと。（0.5時間）
事後	グループメンバー内で決定したテーマ（社会福祉の課題）について、各自で資料を集めまとめておくこと。（0.5時間）

5	社会福祉の課題を考える（2） ～分析・整理～
事前	授業内で行ったテーマに関する情報共有から、フィールドワークの対象となる組織・施設・サービスを考えてみること。（0.5時間）
事後	フィールドワークの実践に向けたスケジュールの確認とフィールドワークで行う質問について考えてみること。（0.5時間）

6	フィールドワーク（1） ～テーマに関する実態調査1～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。（0.5時間）
事後	フィールドワークの進捗状況に基づき、追加調査などが必要ないか検討すること。（0.5時間）

7	フィールドワーク（2） ～テーマに関する実態調査2～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。（0.5時間）
事後	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための準備を行うこと。（0.5時間）

8	テーマ（社会福祉の課題）とフィールドワークに基づく発表
事前	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための最終確認を行っておくこと。（0.5時間）
事後	各グループの発表から得た学びを振り返ること。（0.5時間）

9	興味のある福祉分野の選定とグループ化
事前	フィールドワークで得た経験・知識から、興味のある福祉分野について考えておくこと。（0.5時間）
事後	興味のある福祉分野と専門分野または研究内容が近い本学の教員を調べてみること。（0.5時間）

10	グループでの研究室訪問によるインタビュー計画づくり ～研究内容とゼミ活動等の確認～
事前	教員の研究室への訪問計画を立てるために、対象となる教員のオフィスアワーの確認や事前訪問を行ってインタビュー依頼をする。（0.5時間）

事後	インタビュー計画に基づき、グループでの研究室訪問とインタビューを行うこと。(0.5時間)

11	グループでの研修室訪問結果の発表
事前	グループインタビュー結果を発表するための資料をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	グループインタビュー発表結果から、自分が将来所属したいゼミについて考える。(0.5時間)

12	大学生に求められる研究倫理(共同授業)
事前	倫理および研究倫理とは何かについて文献・インターネット等で調べておくこと。(0.5時間)
事後	THE LABのサイトをアクセスし、大学院生のキム・パークとしてe-ラーニングを受講してみること。(0.5時間)

13	福祉現場に求められる人材を知る(共同授業)
事前	興味のある福祉分野の具体的な仕事内容について資料・文献・インターネットなどを用いて調べておくこと。(0.5時間)
事後	自分が福祉現場に求められる人材になるために、今後、何が必要なのか、そのためには何をすれば良いのか考えてみること。(0.5時間)

14	福祉現場に求められる人材になるために(1) ーグループワークー
事前	福祉現場に求められる人材になるために自分に必要な知識・技能とは何か、そのためには何を行う必要があるのか考える。(0.5時間)
事後	グループワークを通じて得た知識・経験から、これから専門教育を受ける自分に必要な知識・技能について理解を深める。(0.5時間)

15	福祉現場に求められる人材になるために(2) ー専門性への学びの計画を立てるー
事前	次の授業では履修要項のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを用いて、専門教育の学びに関する計画づくりの準備を行う。そのための準備として3年次以降のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	専門演習(ゼミ)での学の目標づくりと、カリキュラムツリーに基づく履修計画を完成させる。(0.5時間)

2020/07/17(金)08:26

科 目 名	介護福祉論 [社心]			授業コード	1040031
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関する キーワード	少子・高齢化、介護問題、尊厳、自立支援

到達目標	1. 社会と人間に関する知識を習得し、様々な福祉問題や社会的環境について理解し説明できる。 2. 介護問題の背景と政策の動向、介護の目的と役割を理解できる。 3. 利用者の尊厳を支え、自立支援を実現するために必要な個別ケアの重要性を理解できる。 4. 介護と医療にかかわる多職種との連携について理解できる。			
授業の概要	本教科では、介護を必要とする人の尊厳を支えるケア、自立支援に関する知識や技能について包括的に学ぶ。 少子・高齢化により、介護を取り巻く社会的ニーズも増大し、多様化してきている。介護の社会的問題の背景を考え、社会的ケアの意義を理解する。また、介護の目的と役割、介護に必要な利用者の理解、生活支援技術について学び、介護とは何か基本的な考え方を習得する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	それぞれの関心ある介護問題につて調べた結果を発表し合い、ディスカッションを行い問題意識を高めていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート課題(50%)、コメントシート（30%）、授業中の参加度（20%）を総合的に評価する		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての 注意事項	授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書15 介護概論』 全国社会福祉協議会 2019	978-4-7935-1302-2
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション 少子・高齢化の背景と政策の動向 グループディスカッション 介護問題についてレポート課題を提示
事前	授業計画にて授業内容を確認しておくこと。少子・高齢化の原因となっている背景についてテキストや文献を活用し下調べをして授業に臨むこと。(1.6時間)
事後	テキストや提示された資料を熟読し、少子・高齢化が起きている背景について十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(2.0時間)

2	介護を必要とする利用者の理解 尊厳を支える介護 介護の定義 介護従事者の職業倫理 グループディスカッション
事前	「社会福祉士および介護福祉士法」から介護福祉士の定義および義務規定・秘密保持義務等についてあらかじめ下調べをしておくこと。(1.6時間)
事後	提示された事例から尊厳を支える介護について自らの考えを整理しておくこと。 介護従事者に求められる職業倫理について、日本介護福祉士会倫理要綱を参考に十分な復習を行うこと。(2.0時間)

3	介護活動の場 在宅介護と施設介護
事前	介護保険制度を例に、在宅サービスと施設サービスの種類について下調べをしておくこと。(1.6時間)
事後	テキストや提示した資料を基に在宅介護と施設介護の特徴を十分読み理解しておくこと。(2.0時間)

4	介護過程とICF
事前	「国際生活機能分類」(ICF)についてあらかじめ下調べをして説明できるように準備しておくこと。(1.6時間)
事後	介護過程のプロセスについて、情報収集とアセスメント、介護計画の立案、実施、評価の一連の流れを説明できるよう十分な復習をしておくこと。(2.0時間)

5	利用者との援助関係を築く基本 コミュニケーション技法 グループディスカッション
事前	介護従事者に必要なコミュニケーションとは何か、信頼関係を作るための基本姿勢について自らの考えをまとめておくこと。(1.6時間)
事後	構音障害や失語症など言語障害をともなう人とのコミュニケーション方法、視覚障害、聴覚障害、認知機能の低下がみられる人とのコミュニケーション方法について説明できるよう十分な復習をしておくこと。(2.0時間)

6	生活支援技術の基本 居住環境の整備、移動、食事、排泄、睡眠、身だしなみ、入浴、緊急時の対応
事前	介護を必要としている人の日常生活の支援には、居住環境整備、移動、食事、排泄、睡眠、身だしなみ、入浴、緊急時の対応などの生活支援技術がある。テキストで介護の技法を下調べしておくこと。(1.6時間)
事後	テキストや提示した資料で学んだ杖歩行、車いすの移動介助、食事介助、トイレ介助、衣服の着脱の介助、身体の清潔の介助など介護の基本原則について知識の定着を図ること。(2.0時間)

7	障害の理解と対応 終末期の介護 認知症の介護 グループディスカッション
事前	加齢による物忘れと認知症による物忘れの違い、認知機能の低下は日常生活にどのような支障がみられるのか、あらかじめ下調べをしておくこと。(1.6時間)
事後	認知症の介護について事例を提示しディスカッションで学んだことを整理し理解を深めること。また、終末期の介護の役割についてテキスト、提示した資料を参考に十分に復習しておくこと。(2.0時間)

8	地域ケアシステム 多職種との連携 介護問題のレポート発表・プレゼンテーション まとめ
事前	地域包括ケアシステムについて地域包括支援センターの役割・機能をテキストで下調べをしておくこと。 介護問題について関心のあるテーマを選び、レポートを作成し発表準備をしておくこと。(1.6時間)
事後	自ら選んだ介護問題の発表後を振り返り、ディスカッションした内容を整理し知識の定着を図ること。(2.0時間)

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:00

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [介]			授業コード	1040040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関する キーワード	文献検索、調査分析の方法、論文の構成、卒業後の進路
到達目標	1. 大学での学びを基に、他者と意見を交換する中から自らの関心領域を見つけることができる。 2. それぞれの適性や興味に応じた調査・研究を可能にするための、基礎的な考え方と関連情報を収集する手法を身につけ、課題解決に至る計画を立てることができる。 3. 介護現場の実践にふれ、自らの将来像を描き、その将来に向かう具体的な道筋を考えることができる。 4. 資格取得に向けて勉学に取り組むことができる。
授業の概要	学生自身が主体的にそれぞれの問題意識の所在を探り、「ゼミナールⅡ」に向けて、各自の研究テーマを決定していく。 具体的には、文献検索、資料整理、グループディスカッション等を実施し、基礎的な研究の手法と考え方を学ぶ。また、これらの過程を通じて、思考力、洞察力を高め、課題探求能力を深めると同時に、コミュニケーション能力、人間力を醸成する。 その他、各種施設見学や講演会などに参加し、卒業後の進路に向けた道筋を考える。 さらに、資格取得に向けた国家試験対策を進めていく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・それぞれの関心領域について調べた結果を発表しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・各種施設見学や講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の進路に向けた道筋を考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に対する取り組みやグループディスカッションへの参加態度、見学、講演会への主体的な参加の状況等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	常に新聞・雑誌、テレビ等で取り上げられている問題について関心をもつこと。 授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	講義や演習、実習の体験等を踏まえて、自らの関心や問題意識に基づいた学習を進めていく。 ＜前期＞ オリエンテーション 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） ＜後期 ＞ 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 「ゼミナールⅡ」での研究に向けた計画書作成 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） 国家試験対策
事前	それぞれの関心領域に沿った資料を読み、説明できるようまとめておく。 見学する施設の情報を収集し、質問事項をまとめておく。（0.5時間）
事後	グループディスカッションや各種施設見学・講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の課題に向けた取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)22:21

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [介]			授業コード	1040050
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	研究の意義、論文の意義、的確な表現と伝達の方法、人間の尊厳
到達目標	1. 生活環境（人的・物的）を生活主体である人間にとって最適化するためにはどうしたら良いのかについて、様々な角度から比較検討し考えて行くことができる。 2. 人間の尊厳に値する生活とは何か、人々のより良い生活の質の向上に自らがどのように貢献していくのか、それらの方向性を見出すことができる。 3. 調査研究の結果を論文としてまとめていくプロセスを通して、論理的・客観的な思考力や表現・伝達の力（技能）、課題解決に向けて計画的に行動していくことができる力を身につける。
授業の概要	各自の関心に基づいて設定した研究テーマに沿って、関連する先行研究・文献を参照しつつ調査・研究を進め、その研究結果を、大学4年間における学習の成果として、卒業論文またはゼミ論文として集大成して行く。 また、メンバーがお互いに調査・研究の進行状況を発表しあい意見交換する機会、および各種講演会に参加し卒業後の自らの生き方について考える機会も並行して設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / ・各自の調査研究の進行状況を報告しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の介護のあるべき姿について考えていく。
評価方法及び評価基準	レポート	学習意欲、学習態度、およびレポート・論文とその発表内容等を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			

IV							
V					○		

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞ 1）研究テーマの確定・研究実施計画 2）調査の計画・準備 3）調査実施 4）調査結果の整理・考察 5）卒業生による講演（合同授業） ＜後期＞ 6）調査結果のまとめ 7）レポート・論文の執筆 8）論文発表準備・発表 9）まとめ 10）卒業生による講演（合同授業） 上記は、1年間の調査研究を中心とした授業の流れになるが、実際の調査研究では、時期、対象、方法、内容、整理・分析法、まとめ方等々は一人一人異なって来る。しかし、共通する問題や解決法も多く存在し、他のメンバーの研究が自らの研究への刺激やヒントとなる場合もあるので、“全員で考える”ことを原則とする。
事前	各自の立てた計画に沿って調査研究を進め、疑問点を明らかにしておく。（0.5時間）
事後	ディスカッションや講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の調査研究の取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)21:56

科 目 名	生きがい活動論/アクティビティ・サービス論 [介]			授業コード	1040071
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	アクティビティ・サービス、介護、生活の快、生活の活性化、多様性

到達目標	1. 高齢者の生きてきた生活史、価値観、生活習慣、生活様式の多様性を説明できる。 2. アクティビティ・サービスの機能・役割を理解し説明できる。 3. ICFの視点から介護を必要とする人のニーズに合ったアクティビティを計画・立案し、多職種と連携し実践することができる。 4. アクティビティ・サービスを実践する上で支援者に必要なコミュニケーション能力を身につけ、対象者に対して共感的な理解を持ち、心情に寄り添うことができる。			
授業の概要	介護を必要としている人がその人らしく生きられるように介護福祉専門職としての能力と態度を学ぶ。また、「尊厳の保持」「自立支援」という観点から介護を必要とする人の日常生活をより豊かに、その人らしく生きていくための支援方法を学ぶ。 対象者一人ひとりの状況を的確に把握した上で、潜在的能力を引出し、心身及び生活の活性化につながるよう、アクティビティ・サービスの基礎知識と技法を習得する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	5名程度のグループに分かれ、課題をもとにグループワークやグループディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート課題（50%）、授業に臨む態度（25%）学外演習に臨む態度（25%）から総合的に評価する。		
フィードバック	提出した課題レポートは、授業内において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	アクティビティ・ワーカーとしての実践力を養うため、授業時間内に介護老人福祉施設に訪問し学外授業（フィールドワーク）を3 回実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III			○				
IV							

V				○			

テキスト1	アクティビティ・サービス協議会編『新訂　アクティビティ・サービス　心身と生活の活性化を支援する』中央法規	978-4-8058-3980-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション
事前	授業計画にて授業内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	「エイジレステスト」の結果を振り返り、高齢者や老いについて先入観や偏見はなかったか振り返りをすること。。 授業の概要やねらい、到達目標が達成できるよう授業内容の理解を深めておくこと。(0.5時間)

2	介護を必要とする人のその人らしさの理解　高齢者の生活史を学ぶ
事前	アクティビティ・サービスについて用語の意味をテキストで確認しておくこと。(0.5時間)
事後	資料を熟読し、高齢者施設で行われているアクティビティ・サービスに触れアクティビティの意味について考えること。 高齢者の生活史を年代別に作成し、自らと比較すること。(0.5時間)

3	介護を必要とする人のその人らしさの理解　人生観や価値観の理解
事前	高齢者の生きてきた時代はどのような時代だったのか、テキストの高齢者の生活史、文化史とはやり歌を参考に提示された年表を完成させること。(0.5時間)
事後	高齢者の生きてきた時代の主な出来事の映像を見ながら、学んだこと考えたことを整理しておくこと。(0.5時間)

4	高齢者の暮らしの実際　健康、生活リズム、生活文化の理解
事前	高齢者の暮らしや健康、生活文化についてテキストの資料で確認しておくこと。(0.5時間)
事後	思い出しカードから自分自身が関心を持ったテーマを選び1分間スピーチを行ったことを振り返り、高齢者の生活をどう理解したのか整理しておくこと。(0.5時間)

5	高齢者の暮らしの実際　日常生活の「快」 基本的なニーズの理解
事前	自分自身の今の生活から衣食住について考えておくこと。(0.5時間)
事後	テキストに書かれている生活の「快」についてワークシートに自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)

6	高齢者の暮らしの理解　レクリエーションとアクティビティの関係
事前	施設で行われているレクリエーションについて自身の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	レクリエーションとアクティビティ・サービスの違いについて具体的に説明できるようにしておくこと。(0.5時間)

7	アクティビティ・サービスの援助の基本とその実際(学外授業フィールドワーク：施設訪問)
事前	介護老人福祉施設の役割や機能、サービス内容について下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	施設で行われているレクリエーショナル・アクティビティに高齢者とともに参加し、体験した内容を実施報告書にまとめておくこと。(0.5時間)

8	日常生活場面でのアクティビティ・サービスの展開　グループディスカッション
事前	施設訪問し、施設サービスについて説明を受け見学し、高齢者と交流したことから学んだこと、考えたことを発表できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	施設で生活している高齢者への余暇活動はどうあるべきか、アクティビティ・サービスの視点に立ち自らの考えを整理しておくこと。(0.5時間)

9	余暇活動場面でのアクティビティ・サービスの展開　グループディスカッション
事前	「日常生活の活性化」「心身の活性化」とは何か、テキストと提示した資料をもとに整理しておくこと。(0.5時間)
事後	テキストのアクティビティ・サービスプログラムについて熟読し、内容を理解しておくこと。(0.5時間)

10	入所施設でのアクティビティ・サービスのニーズ把握(学外授業フィールドワーク：施設訪問)
事前	施設訪問時はグループに分かれて活動するため、事前にグループで各自の役割を決めておくこと。(0.5時間)
事後	施設の余暇活動に参加していた高齢者の活動の様子を振り返り、次回施設訪問時に行うアクティビティプログラム案を各自考えてくること。(0.5時間)

11	アクティビティ・サービス計画の立案　グループディスカッション
事前	テキストからアクティビティ・サービスプログラムの計画・立案の方法について熟読しておくこと。(0.5時間)

事後	アクティビティ・サービスプログラムのテーマに沿って、目的、タイムスケジュール、具体的な内容、留意事項を計画書に落とし込み各自、役割分担を決め計画的に準備を進めておくこと。(0,5時間)

12	アクティビティ・サービスの実践の準備　グループディスカッション
事前	グループで作成したアクティビティ・サービスプログラムを各自、役割分担して計画的に進めておくこと。(0,5時間)
事後	グループで作成したアクティビティ・サービスプログラムの計画書を見直し各自の役割分担を確認しておくこと。(0.5時間)

13	アクティビティ・サービスの実践と評価(学外授業フィールドワーク:施設訪問)
事前	施設訪問に備えてグループで作成したアクティビティ・サービスプログラムのリハーサルを行い、準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	グループで実施したアクティビティ・サービスプログラムを各自、評価表に沿って振り返りをしておくこと。(0.5時間)

14	アクティビティ・サービスの実践と評価に対するグループディスカッション
事前	施設訪問し行ったアクティビティ・サービスプログラムをグループで評価するため、各自発表の準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	高齢者の余暇活動を行うときの支援者に求められる資質についてテキストを熟読し要点をまとめておくこと。(0.5時間)

15	授業のまとめ
事前	テキストを熟読し、介護における日常生活場面のアクティビティ・サービスについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	介護施設で高齢者の生活支援に関わるようになった場合、アクティビティ・サービスをどのように展開するか具体的に考えをまとめておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:43

科 目 名	生きがい活動論/アクティビティ・サービス論 [介]			授業コード	1040081
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	アクティビティ・サービス、介護、生活の快、生活の活性化、多様性
到達目標	1. 高齢者の生きてきた生活史、価値観、生活習慣、生活様式の多様性を説明できる。 2. アクティビティ・サービスの機能・役割を理解し説明できる。 3. ICFの視点から介護を必要とする人のニーズに合ったアクティビティを計画・立案し、多職種と連携し実践することができる。 4. アクティビティ・サービスを実践する上で支援者に必要なコミュニケーション能力を身につけ、対象者に対して共感的な理解を持ち、心情に寄り添うことができる。
授業の概要	介護を必要としている人がその人らしく生きられるように介護福祉専門職としての能力と態度を学ぶ。また、「尊厳の保持」「自立支援」という観点から介護を必要とする人の日常生活をより豊かに、その人らしく生きていくための支援方法を学ぶ。 対象者一人ひとりの状況を的確に把握した上で、潜在的能力を引出し、心身及び生活の活性化につながるよう、アクティビティ・サービスの基礎知識と技法を習得する。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	5名程度のグループに分かれ、課題をもとにグループワークやグループディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート課題（50%）、授業に臨む態度（25%）学外演習に臨む態度（25%）から総合的に評価する。		
フィードバック	提出した課題レポートは、授業内において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	アクティビティ・ワーカーとしての実践力を養うため、授業時間内に介護老人福祉施設に訪問し学外授業フィールドを3 回実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V				○			

テキスト1	アクティビティ・サービス協議会編『新訂　アクティビティ・サービス　心身と生活の活性化を支援する』中央法規	978-4-8058-3980-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション
事前	授業計画にて授業内容を確認し、当該部分の下調べをしてから授業に出席すること。(0.5時間)
事後	授業後は十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(0.5時間)「エイジレステスト」の結果を振り返り、高齢者や老いについて先入観や偏見はなかったか振り返りをすること。。 授業の概要やねらい、到達目標が達成できるよう授業内容の理解を深めておくこと。(0.5時間)

2	介護を必要とする人のその人らしさの理解　高齢者の生活史を学ぶ
事前	アクティビティ・サービスについて用語の意味をテキストで確認しておくこと。(0.5時間)
事後	資料を熟読し、高齢者施設で行われているアクティビティ・サービスに触れアクティビティの意味について考えること。 高齢者の生活史を年代別に作成し、自らと比較すること。(0.5時間)

3	介護を必要とする人のその人らしさの理解　人生観や価値観の理解
事前	高齢者の生きてきた時代はどのような時代だったのか、テキストの高齢者の生活史、文化史とはやり歌を参考に提示された年表を完成させること。(0.5時間)
事後	高齢者の生きてきた時代の主な出来事の映像を見ながら、学んだこと考えたことを整理しておくこと。(0.5時間)

4	高齢者の暮らしの実際　健康、生活リズム、生活文化の理解
事前	高齢者の暮らしや健康、生活文化についてテキストの資料で確認しておくこと。(0.5時間)
事後	思い出しカードから自分自身が関心を持ったテーマを選び1分間スピーチを行ったことを振り返り、高齢者の生活をどう理解したのか整理しておくこと。(0.5時間)

5	高齢者の暮らしの実際　日常生活の「快」 基本的なニーズの理解
事前	自分自身の今の生活から衣食住について考えておくこと。(0.5時間)
事後	テキストに書かれている生活の「快」についてワークシートに自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)

6	高齢者の暮らしの理解　レクリエーションとアクティビティの関係
事前	施設で行われているレクリエーションについて自身の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	レクリエーションとアクティビティ・サービスの違いについて具体的に説明できるようにしておくこと。(0.5時間)

7	アクティビティ・サービスの援助の基本とその実際(学外授業フィールドワーク：施設訪問)
事前	介護老人福祉施設の役割や機能、サービス内容について下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	施設で行われているレクリエーショナル・アクティビティに高齢者とともに参加し、体験した内容を実施報告書にまとめておくこと。(0.5時間)

8	日常生活場面でのアクティビティ・サービスの展開　グループディスカッション
事前	施設訪問し、施設サービスについて説明を受け見学し、高齢者と交流したことから学んだこと、考えたことを発表できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	施設で生活している高齢者への余暇活動はどうあるべきか、アクティビティ・サービスの視点に立ち自らの考えを整理しておくこと。(0.5時間)

9	余暇活動場面でのアクティビティ・サービスの展開　グループディスカッション
事前	「日常生活の活性化」「心身の活性化」とは何か、テキストと提示した資料をもとに整理しておくこと。(0.5時間)
事後	テキストのアクティビティ・サービスプログラムについて熟読し、内容を理解しておくこと。(0.5時間)

10	入所施設でのアクティビティ・サービスのニーズ把握(学外授業フィールドワーク：施設訪問)
事前	施設訪問時はグループに分かれて活動するため、事前にグループで各自の役割を決めておくこと。(0.5時間)
事後	施設の余暇活動に参加していた高齢者の活動の様子を振り返り、次回施設訪問時に行うアクティビティプログラム案を各自考えてくること。(0.5時間)

11	アクティビティ・サービス計画の立案　グループディスカッション
事前	テキストからアクティビティ・サービスプログラムの計画・立案の方法について熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	アクティビティ・サービスプログラムのテーマに沿って、目的、タイムスケジュール、具体的な内容、留意事項を計画書に落とし込み各自、役割分担を決め計画的に準備を進めておくこと。(0,5時間)

12	アクティビティ・サービスの実践の準備　グループディスカッション
事前	グループで作成したアクティビティ・サービスプログラムを各自、役割分担して計画的に進めておくこと。(0,5時間)
事後	グループで作成したアクティビティ・サービスプログラムの計画書を見直し各自の役割分担を確認しておくこと。(0.5時間)

13	アクティビティ・サービスの実践と評価(学外授業フィールドワーク:施設訪問)
事前	施設訪問に備えてグループで作成したアクティビティ・サービスプログラムのリハーサルを行い、準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	グループで実施したアクティビティ・サービスプログラムを各自、評価表に沿って振り返りをしておくこと。(0.5時間)

14	アクティビティ・サービスの実践と評価に対する　グループディスカッション
事前	施設訪問し行ったアクティビティ・サービスプログラムをグループで評価するため、各自発表の準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	高齢者の余暇活動を行うときの支援者に求められる資質についてテキストを熟読し要点をまとめておくこと。(0.5時間)

15	授業のまとめ
事前	テキストを熟読し、介護における日常生活場面のアクティビティ・サービスについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	介護施設で高齢者の生活支援に関わるようになった場合、アクティビティ・サービスをどのように展開するか具体的に考えをまとめておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:27

科 目 名	ケアマネジメント論 [介]			授業コード	1040091
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	ケアマネジメント、生活課題、保険、医療、連携
到達目標	①高齢者の生活課題について知識を取得できる。 ②保健医療との連携について知識を取得できる。 ③介護従事者の倫理について知識を取得できる。 ④高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度について知識を取得できる。
授業の概要	高齢者におけるケアマネジメントについてと介護実践に関わる法制度の理解を深め、介護の連携の方法や、住生活を支援する諸制度についての知識の習得を図る。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	5名程度に分かれ、提示された課題をもとにグループディスカッションやロールプレイを行う。
評価方法及び評価基準	試験	試験（50%）、授業態度（50%）から総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、授業において適宜フードバックし課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	試験は、授業に遅刻せずに参加していないと解答が困難な出題をする。その意味で授業への積極的な参加と予習・復習が必要である。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III						○	
IV							

V				○			

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション　ケアマネジメントの概要
事前	シラバスに記載されている到達目標、授業の概要、授業計画について確認すること。 介護保険制度の仕組みについて調べておくこと。(2.0時間)
事後	介護保険制度の理念とケアマネジメントに係わる法令を確認し理解しておくこと。(2.0時間)

2	ケアマネジメントの位置づけ
事前	介護保険制度について、これまで学んできたことを振り返りまとめておくこと。(2.0時間)
事後	介護保険制度とケアマネジメントの関連について理解したことをまとめ知識の定着を図ること。(2.0時間)

3	ケアマネジメントの機能
事前	ケアマネジメントの定義について調べておくこと。(2.0時間)
事後	提示した資料を熟読しケアマネジメントについて説明できるように知識の定着を図ること。(2.0時間)

4	ケアマネジメントの理論
事前	介護保険制度におけるケアマネジメントの概要について調べておくこと。(2.0時間)
事後	自立支援のためのケアマネジメントの基本について整理し知識の定着を図ること。(2.0時間)

5	ケアマネジメントの展開　インテーク　ロールプレイ
事前	提示した資料で、インテークとは何か熟読して説明できるようにしておくこと。(2.0時間)
事後	学生同士で体験したインテーク場面を振り返り、支援者の基本的態度について整理しておくこと。(2.0時間)

6	ケアマネジメントの展開　アセスメント　グループディスカッション
事前	提示した資料でアセスメントの用語の意味とアセスメント方法について熟読し整理しておくこと。(2.0時間)
事後	事例をもとにアセスメントを行いグループで発表し意見交換した中で、情報収集と分析・判断の根拠は適切であったか振り返り整理しておくこと。(2.0時間)

7	ケアマネジメントの展開　ケアプランの作成① グループディスカッション
事前	事前に介護保険制度で利用できるサービスの種類について下調べをしておくこと。(2.0時間)
事後	提示した資料をもとにケアプラン作成手順について各自熟読し確認しておくこと。(2.0時間)

8	ケアマネジメントの展開　ケアプランの作成② グループディスカッション
事前	ケアプラン作成手順に従い、事例のケアプランを作成し、発表準備をしておくこと。(2.0時間)
事後	他者が作成したケアプランの発表を聞き、学んだ点を整理し確認しておくこと。(2.0時間)

9	ケアマネジメントの展開　サービス担当者会議　ロールプレイ
事前	提示した資料をもとにサービス担当者会議の意義について熟読し知識の定着を図ること。(2.0時間)
事後	サービス担当者会議の進め方や進行について振り返り、要点や留意事項を整理しておくこと。(2.0時間)

10	ケアマネジメントの展開　モニタリング・評価　グループディスカッション
事前	提示した資料をもとにモニタリングの用語の意味や方法について調べ理解を深めておくこと。(2.0時間)
事後	提示した事例をもとに行ったモニタリングを振り返り見直し、気づきを整理しておくこと。(2.0時間)

11	ケアマネジメントの事例　脳血管疾患に関する事例のケアマネジメント　グループディスカッション
事前	提示した事例を熟読し、ケアプランについて気になる点を確認しておくこと。(2.0時間)
事後	提示された事例から生活障害の特徴や療養上の課題、住環境整備の必要性、リハビリテーション、医療をはじめとする多職種との連携などについて振り返り、ケアマネジメントについて理解を深めること。(2.0時間)

12	ケアマネジメントの事例　認知症に関するケアマネジメント　グループディスカッション
事前	提示した事例を熟読し、ケアプランについて気になる点を確認しておくこと。(2.0時間)
	提示された事例から生活障害の特徴や療養上の課題、認知症の利用者におけるアプローチの視点、同居家族に対する支援や地

事後	域との関係、医療をはじめとする多職種との連携などについて振り返り、認知症ケアの考えにもとづいたケアマネジメントについて理解を深めること。(2.0時間)

13	ケアマネジメントの事例　看取りに関するケアマネジメント　グループディスカッション
事前	提示した事例を熟読し、ケアプランについて気になる点を確認しておくこと。(2.0時間)
事後	提示された事例から在宅生活の課題や、看取りに関する医療をはじめとする多職種との連携、利用者家族への関わりなどについて振り返り、ケアマネジメントについて理解を深めること。(2.0時間)

14	多職種連携とケアマネジメント
事前	地域包括ケアについて下調べを行い、様々な職種との連携の必要性について考えを整理しておくこと。(2.0時間)
事後	ケアマネジメントに必要な医療との連携および多職種協働の意義について考えを整理しておくこと。(2.0時間)

15	ケアマネジメントのまとめ　アセスメント～評価
事前	ケアマネジメントと介護との関連性について自分なりにどう理解したか整理しておくこと。(2.0時間)
事後	これまで学んできた内容を整理し、ケアマネジメントについて説明できるようにしておくこと。(2.0時間)

2020/07/16(木)20:44

科 目 名	生活支援技術II/自立に向けた介護II [介]			授業コード	1040102
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関する キーワード	自立、生活支援、入浴・清潔、排泄、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護

到達目標	1.介護者、対象者双方の体験を通して、介護に必要なコミュニケーション能力を身につけ、対象者に対して共感的な理解を持ち心情に寄り添う介護が実践できる。 2.ICFの視点を持ち対象者の心身の状況を的確に把握し、自立に向けた介護方法を選択し実践できる。 3.入浴・清潔、排泄、休息・睡眠などの介護場面に応じて対応できる基礎的な生活支援技術の知識、技術を身につけ、介護の目的、留意点、手順及び根拠を説明できる。 4.人生の最終段階にある人と家族へのケアおよびチームケアについて説明できる。 5.対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用できる。			
授業の概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 自立に向けた介護Ⅱでは、観察とアセスメント、記録と報告、福祉用具の意義と活用方法や自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、休息・睡眠の介護、緊急時の対応、人生の最終段階における介護における技法を学び習得する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	生活支援技術の演習（実技）に際しては、課題にそってグループごとに利用者・介護者双方の体験、グループディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	実技レポート、実技授業内総括、小テスト、学期末試験により総合的に評価する。		
フィードバック	実技終了後に出されたレポート課題については、事後の授業において添削し返却するので定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	実技の時は、授業開始までに実技を行うにふさわしい服装に着替え、遅刻をしないこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○		○	

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座生活支援技術II」中央法規2019	978-4-8058-5767-0
テキスト2	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座生活支援技術I」中央法規2019（「自立に向けた介護I」と同じテキストを使用する。）	978-4-8058-5766-3
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション（講義）
事前	シラバスに記載されている到達目標、授業の概要、授業計画について確認すること。（1時間）
事後	生活支援の知識・技術の習得方法について理解を深めること。（1時間）

2	記録・報告（講義　グループディスカッション・発表）
事前	支援者に求められる記録・報告について自分なりに考えてくること。（0.5時間）
事後	授業で配付した「ケアに役立てる記録の書き方」を復習し、提示した課題に取り組み適切な記録の書き方を理解しておくこと。（1.5時間）

3	観察とアセスメント:主観的・客観的観察（講義　グループディスカッション、発表）
事前	支援者にとって観察はなぜ必要か事前にテキストで下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	授業で提示した食欲不振や夜間不眠がみられる利用者を例に、介護者に必要な観察の視点について再度復習しておくこと。また、医療職へ報告する際の留意点についても再度復習しておくこと。（1.5時間）

4	観察とアセスメント:バイタルサイン（実技）
事前	バイタルサインとは何か、体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法について下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法と基準値について正しく説明できるよう復習すること。また、バイタルサインを正しく測定することの重要性について説明できるようにしておくこと。（1.5時間）

5	自立に向けた清潔保持の介護（講義）
事前	清潔の意義と目的についてテキストを読み込んで理解しておくこと。また、皮膚の構造と機能について、参考書などで下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	実技で学んだ爪切りの介護と足浴の介護についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験での学びや気づきについては提示したシートに整理し十分な復習を行うこと。（1.5時間）

6	自立に向けた入浴の介護（講義）
事前	テキストで入浴の意義と目的、入浴による高齢者の事故について、入浴に関する利用者のアセスメント、利用者の状況に応じた入浴方法、清潔の意義と目的について予習しておくこと。（0.5時間）
事後	安全な入浴の介護方法と清潔保持の介護方法について、テキストと提示した資料を基に復習しておくこと。（1.5時間）

7	自立に向けた清潔保持の介護　爪切り（実技）
事前	配付された資料で爪の構造を確認し、爪切りのチェックリストを熟読して実技に備えること。(0.5時間）
事後	実技で学んだ爪切りの介護方法について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

8	自立に向けた清潔保持の介護　足浴（実技）
事前	テキストと配付された足浴の介護のチェックリストを熟読し、実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ足浴の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

9	自立に向けた入浴の介護　機械浴（実技）
事前	配付された機械浴の介護のチェックリストを熟読し実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ機械浴の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

10	自立に向けた入浴の介護　一般浴（実技）
事前	配付された家庭浴槽での介護のチェックリストを熟読して、実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ家庭浴槽での介護について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

11	身体の清潔の介護　清拭　部分清拭　（実技）
事前	配付された清拭の介護のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ清拭の介護方法についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

12	身体の清潔の介護　清拭　全身清拭　（実技）
事前	配付された全身清拭の介護のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ清拭の介護方法についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

13	自立に向けた排泄の介護　排泄の意義と目的　（講義）
事前	排泄の意義と目的について、テキストを熟読して理解しておくこと。 尊厳のある排泄の介護について自分自身の考えをまとめておくこと。（0.5時間）
事後	排泄のメカニズムにつにいてテキストや配付資料を基に予習しておくこと。（1.5時間）

14	自立に向けた排泄の介護　アセスメントと介護の技法　（講義）
事前	排泄の一連の流れについてテキストや配付の資料を基に確認し、利用者の状況に応じた排泄の介護方法について予習しておくこと。（0.5時間）
事後	排泄の自立を促すために必要なアセスメントについて、テキストや配付資料を熟読して説明できるようにしておくこと。 自らリハビリパンツを着用。排尿した体験を提示したシートに記入し、介護を受ける人の尊厳の保持について十分に考え実技に備えること。（1.5時間）

15	自立に向けた排泄の介護　ポータブルトイレの介助　（実技）
事前	排泄関連の福祉用具について下調べをしておくこと。配付されたチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだポータブルトイレの介護について、チェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

16	自立に向けた排泄の介護　オムツ交換（実技）
事前	排泄パッドの種類と使用方法について下調べをし、オムツ交換の介護方法について配付したチェックリストを熟読し実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだオムツ交換の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

17	自立に向けた排泄の介護　立ちオムツ（実技）
事前	立ちオムツの介護方法、尿器・便器等の使用方法など、テキストと配付資料のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ立おむつのチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

18	自立に向けた排泄の介護　車椅子でのトイレ介助（実技）
事前	車いす使用者のトイレでの排泄介護について、チェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ車いすでのトイレ介助について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 また、学内にある障害者トイレを実際に使用しトイレやトイレ周辺のバリアフリーについて学びを深めること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

19	自立に向けた休息・睡眠の介護　休息・睡眠の意義と目的　（講義　グループワーク）
事前	なぜ睡眠が必要なのか、睡眠のメカニズムと良質な睡眠について、テキストや参考資料から自分なりの考えを整理しておくこと。（0.5時間）
事後	レム睡眠、ノンレム睡眠の特徴、睡眠中に分泌されるホルモンなどテキストと提示した資料を基に復習しておくこと。（1.5時間）

20	休息・睡眠の介護（実技）
事前	高齢者の睡眠障害の特徴と安眠を促す介護の技法について、テキストと提示した資料で確認しておくこと。（0.5時間）
事後	実技で学んだ高齢者の不眠の訴えに対する介護者のアセスメントと介護方法についてテキストや配付資料を見直し知識・技術の定着を図ること。（1.5時間）

21	緊急事故時の対応（講義）
事前	日常生活で起こりうる緊急事故にはどのようなものがあるのか、その原因は何か、予防策について下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	食事関連では誤嚥・窒息・誤薬・異食、入浴関連ではヒートショック・熱傷、移動関連では転倒・表皮剥離・骨折、感染関連では嘔吐下痢・発熱・ノロウイルス・インフルエンザ、災害関連では熱中症などそれぞれについて提示したシートに整理し知識・技術の定

	着を図ること。(1.5時間)

22	口腔ケア　点眼・点鼻　内服(実技)
事前	口腔ケア(義歯の手入れ)、点眼・点鼻、内服(服薬介助・座薬介助)の基本についてテキストや配付の資料を基に下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	実技で学んだ服薬介助、座薬挿入介助について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。(1.5時間)

23	人生の最終段階における介護 家族へのケア・チームケア(講義)
事前	テキストで人生の最終段階における介護について、介護者に求められる役割とは何かテキストと提示した資料を基に予習をしておくこと。(0.5時間)
事後	自分自身のソーシャルマップを作成し、人生の最後をどこで迎えたいか介護施設での看取りの在り方を参考に、提示したシートに自らの考えを整理しておくこと。(1.5時間)

24	人生の最終段階における介護　臨終時の介護と死後の処置(講義)
事前	人生の最終段階における利用者の意思決定のあり方・ケアのあり方について、テキスト提示した資料を熟読し介護者に必要な基本姿勢を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト、提示した資料を熟読し、死に対する身体的・生理的・社会的・霊的側面について、死に対する心理的変化、臨終時の介護、死亡時の介護について知識の定着を図ること。(1.5時間)

25	人生の最終段階における介護　グリーフケア(実技)
事前	グルーフワーク(悲嘆)とは何か、テキストと提示した資料を熟読して理解しておくこと。(0.5時間)
事後	提示した資料を基に、残された家族のグリーフケアのプロセスを確認し、介護職に求められている家族へのグリーフケアの基本姿勢について十分な復習を行うこと。(1.5時間)

26	福祉用具の意義と活用　介護ロボット、対象者の能力に応じた福祉用具の選択と活用(講義)
事前	生活支援に関連する福祉用具について、テキストを熟読し福祉用具の種類と活用方法について確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で提示した障害のある人の居住環境と福祉用具の活用から福祉用具の役割と重要性について説明できること。 介護ロボットが移乗介助、移動支援、排泄支援、見守り支援などで活用されていることについて理解を深めておくこと。(1.5時間)

27	事例課題の検討　ベッド上でのおむつ交換(実技)
事前	提示したベッド上でのオムツ交換の事例を熟読して介護方法を検討し、実技の習熟度確認のために備えること。(0.5 時間)
事後	提示したベッド上でのオムツ交換の事例について介護方法を振り返り、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。(1.5 時間)

28	事例課題の検討　ポータブルトイレでの排泄介助(実技)
事前	提示したポータブルトイレでの排泄介護の事例を熟読して介護方法を検討し、実技の習熟度確認のために備えること。(0.5 時間)
事後	提示したポータブルトイレでの排泄介護の事例について介護方法を振り返り、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。(1.5時間)

29	授業内総括　ベッド上でのオムツ交換の実施(実技)
事前	ベッド上でのオムツ交換の習熟度確認のため十分な実技練習を行うこと。(0.5時間)
事後	ベッド上でのオムツ交換の習熟度確認後、チェックリストを見直し知識・技術の十分な復習を行うこと。(1.5時間)

30	授業内総括　ポータブルトイレでの排泄介助の実施(実技)
事前	ポータブルトイレでの排泄介護の習熟度確認のため十分な実技練習を行うこと。(0.5時間)
事後	ポータブルトイレでの排泄介護の習熟度確認後、チェックリストを見直し知識・技術の十分な復習を行うこと。(1.5時間)

2020/07/16(木)21:15

科 目 名	介護過程V/介護事例研究 [介]			授業コード	1040121
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関する キーワード	事例研究、研究テーマ、介護計画の根拠、文献収集、プレゼンテーション

到達目標	・事例研究の意義、目的、研究手法について学び、介護実践における事例研究の重要性を理解できる。 ・介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例から、テーマを選定した上で深く洞察し、実践した介護過程の妥当性について評価・考察することができる。 ・実践した介護過程を事例研究概要にまとめる学修を通して、自らの介護観を形成することができる。 ・作成した事例研究概要を効果的なプレゼンテーション手法を用いて、分かりやすく発表できる。			
授業の概要	介護過程Ⅰ～Ⅳ、および介護総合演習Ⅳの授業では、介護過程の基礎的理論と介護現場でよく遭遇する事例を取り上げ、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価まで展開する学修を行ってきた。介護過程Ⅴでは、介護実習Ⅱ−2で展開した受持ち利用者の介護過程について、これまで学んできた基礎的な介護の知識や技術を活用し、事例研究を行い、その成果を概要にまとめて発表する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・各自が実践した介護過程をグループ内で発表・説明し、その妥当性についてディスカッションを行う。 ・介護過程の成果について各自が概要にまとめた上で、グループ内でプレゼンテーションを行う。その上で決定したグループ代表が事例研究発表会にて発表し、全体で結果を共有しつつディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	事例研究概要作成（40%）、研究発表（30%）、授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を使用するため、授業の際必ず持参すること。 研究発表は、グループ別発表と全体発表を行う。全体発表では各グループの代表が発表する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III				○			
IV							
V						○	

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　授業概要とスケジュールの確認
事前	シラバスの内容を確認し、およその事例研究計画を立てること。(0.5時間)
事後	授業のスケジュールに沿って具体的な研究計画を立案した上で、収集すべき情報の入手方法について検討すること。(0.5時間)

2	介護実習II-2の振り返り　1)各自の事例報告
事前	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を読み直し、ポイントをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	事例報告の際に得られたコメント、および他の介護実践事例の報告から得たヒントをまとめた上で、自らの課題の所在を検討すること。(0.5時間)

3	介護実習II-2の振り返り　2)介護計画の妥当性の検討
事前	立案した計画の根拠について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	他学生の意見や介護計画の内容を参考にしつつ、別の介護計画の可能性の有無について再検討すること。(0.5時間)

4	介護実習II-2の振り返り　3)介護計画の妥当性の確認
事前	立案した介護計画が遂行できた要因、または遂行できなかった要因について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実践の結果について、自分なりに評価を行ってみること。(0.5時間)

5	事例研究計画の作成　テーマの選定
事前	自身の介護実践の内容から考えられる研究テーマの候補を考えておくこと。(0.5時間)
事後	選定したテーマに基づき、介護実践から得た情報を整理すること。(0.5時間)

6	事例の分析　文献収集
事前	介護実践から得た情報を解釈するにあたって、どのような文献が必要かについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	適切な文献を収集すること。(0.5時間)

7	事例の分析　文献の整理
事前	収集した文献のリストを作成し、各文献の内容を検討すること。(0.5時間)
事後	自らの介護実践について、文献から得た情報・知識を当てはめつつ解釈および評価を行うこと。(0.5時間)

8	事例研究概要作成の準備
事前	介護実践の評価の内容を説明できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に、自らの介護実践の評価を再検討すること。(0.5時間)

9	事例研究概要の作成　①概要の骨格
事前	事例研究概要の構成(タイトルと項目立て)について考えておくこと。(0.5時間)
事後	決められた論文フォーマットに沿って執筆を開始すること。(0.5時間)

10	事例研究概要の作成　②内容の吟味
事前	助言・意見を得たい個所をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	執筆中に疑問点や矛盾点が発生した際には、介護過程記録まで遡って確認するなどにより内容を吟味しながら進めること。(0.5時間)

11	事例研究概要の作成　③まとめと考察・評価
事前	まとめと考察・評価まで概要作成を進めること。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に事例研究概要を見直し、仕上げること。(0.5時間)

12	事例研究概要の提出　プレゼンテーションの準備　発表原稿の作成

事前	プレゼンテーションの準備、発表原稿の作成を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に発表原稿を見直すこと。(0.5時間)

13	事例研究発表　グループごとの発表
事前	プレゼンテーションの練習を行った上で、準備の最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見、および他学生の発表から得られた学びをまとめておくこと。(0.5時間)

14	事例研究発表会の準備
事前	自身が担当する役割を確認すること。(0.5時間)
事後	自身が担当する役割に沿って、事例研究発表会の準備を行うこと。(0.5時間)

15	事例研究発表会 （合同授業）
事前	事例研究発表会に当たって最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:14

科 目 名	介護総合演習III [介]			授業コード	1040131
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	個別性、生活支援、自立支援、介護過程、多職種連携
到達目標	・対象者の個別性に応じた生活支援のあり方を理解し説明できる。 ・各領域で学んだ知識と技術を統合し、エビデンスに基づく介護実践につなげることができる。 ・対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し説明できる。 ・対象者の生活課題を明確にし介護計画を立案できる。 ・多職種の業務について学び、医療・福祉の連携について理解し説明できる。 ・介護理念や倫理について理解を深め、述べることができる。 ・実習施設の役割と機能について理解し説明できる。 ・訪問介護では、居宅で生活する対象者の生活支援のあり方を理解し説明できる。
授業の概要	・介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。実習の効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深め、介護実習の実践につなげる。 ・介護実習Ⅱ－1に行くために必要な知識や技術、介護過程の展開等について総合的に学ぶ。 ・介護実習Ⅱ－1は、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設、障害児入所施設などの多様な施設（いずれかの施設の種別で実習を行う）の実習と訪問介護事業所における訪問介護実習を行うため、各施設や事業所の理解を深める。 ・「介護過程」について、対象者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集する。自立支援の観点から、実際の場面で介護過程を展開していくなかで、一連のプロセスを学び、介護計画が立案できる能力を養う。 ・質の高い介護実践の意義とその方法を理解し、科学的に探究する能力を養う。
授業方法	演習	アクティブラーニング ○	5名程度に分かれ、提出された課題を元にグループディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート（50%）、授業の理解度（30%）、学習意欲、授業態度（20%）として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。		
履修に際しての注意事項	介護実習Ⅰ－2の実習記録必携。授業中に配付する資料を参照すること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	坪山孝監修、能田茂代編集『介護総合演習』メヂカルフレンド社(介護総合演習Ⅱと同じテキストを使用する)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	介護総合演習Ⅲのオリエンテーション　介護実習Ⅰ－2の振り返り　グループディスカッション
事前	授業計画にて授業内容を確認しておくこと。「介護実習Ⅰ-2」の実習記録を熟読し実習目標についての達成度など、振り返りの準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	提示された「介護実習1-2」の振り返りシートに記入した内容から「介護実習Ⅱ-1」に向けた課題について整理しておくこと。(0.5時間)

2	介護実習Ⅰ－2の振り返り　実習記録の見直し　グループディスカッション
事前	「介護実習Ⅰ-1」で行った「場面の再構成」を振り返り、自らが行った介護行動を分析しておくこと。(0.5時間)
事後	グループで振り返った「場面の再構成」について今後の実践に役立てるため十分に復讐を行うこと。(0.5時間)

3	介護実習Ⅱ－1のオリエンテーション　実習施設の役割と機能の理解
事前	「介護福祉士の職業倫理」、「求められる介護福祉士像」についてテキスト・実習要項で確認しておくこと。(0.5時間)
事後	提示された「介護福祉士の職業倫理」、「求められる介護福祉士像」の資料を熟読しておくこと。 「介護実習Ⅱ-1」の実習の目標、実習種別、実習の履修要件、実習の流れについて「介護実習要項」にて確認しておくこと。(0.5時間)

4	実習施設の理解　多職種の役割と連携　グループディスカッション
事前	介護実習施設である、特別養護老人ホーム、訪問介護事業所の根拠法、サービス内容、職種についてレポートし授業に臨むこと。(0.5時間)
事後	実習施設の特徴やサービス内容、他職種について情報共有し、得られた知識の定着を図ること。(0.5時間)

5	訪問介護実習のオリエンテーション
事前	訪問介護の意義・目的、サービス内容についてレポートした内容を熟読し説明できるようにしておくこと。(0・5時間)
事後	訪問介護と施設介護の違いについて自分なりの考えをまとめておくこと。訪問介護の利用には、訪問介護計画に沿って訪問介護員がサービスを提供していることを説明できるようにしておくこと。(0.5時間)

6	介護保険制度　在宅サービスと施設サービスの理解
事前	在宅や施設で介護サービスするためには、介護保険制度の仕組みを理解しておく必要がある。テキストと提示した資料で確認しておくこと。(0.5時間)
事後	居宅サービス計画と施設サービス計画について十分に説明できるように、テキストと提示した資料を熟読し復習しておくこと。(0.5時間)

7	実習配属と担当教員の発表　実習施設の理解
事前	介護実習要項を熟読し、「介護実習Ⅱ-1」、「訪問介護実習」の実習目標について確認しておくこと。(0.5時間)
事後	配属決定後は、キャリア支援センターにて実習施設のファイルで施設の実習指導者、施設の概要、最寄り駅について確認すること。また、施設のホームページから実習に必要な情報を収集しておくこと。(0.5時間)

8	個人票の作成
事前	実習目標を明確にし、個人票の下書きを作成する。(0.5時間)
事後	実習先に提出する「実習中に知り得た個人情報の秘密保持等について」の誓約書の責任を考え自覚すること。 個人票については、コピーを取り手元に保管し、実習目標について達成できるように意識づけておくこと。(0.5時間)

9	介護過程事例と学習課題の提示
事前	実習の目標である介護過程の展開について、受け持ち利用者の介護計画立案までが課題となっているため、介護過程のプロセスについて十分に熟知できていること。(0.5時間)
事後	T・Yさんの事例を十分に熟読し利用者の全体像を把握し授業に備えること。(0.5時間)

10	事例に基づいた介護過程の展開①（障害の理解・アセスメント）グループディスカッション
事前	T・Yさんの事例を提示し既往歴・現病歴、薬について下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	T・Yさんの疾病や薬について、グループディスカッションで得た情報を整理し知識の定着を図ること。（0.5時間）

11	事例に基づいた介護過程の展開②（アセスメント・生活課題の明確化）
事前	T・Yさんの事例から必要な情報を情報収集シート5枚に記入し、授業の準備を行うこと。（0.5時間）
事後	情報収集シートの記載内容から必要な情報を選び国際生活機能分類（ICFモデル図）に落とし込み授業準備を行うこと。（0.5時間）

12	事例に基づいた介護過程の展開③（介護目標と介護計画の立案）グループディスカッション
事前	自ら作成した情報の解釈、関連づけ・統合と生活課題を見直す。（0.5時間）
事後	長期目標、短期目標と介護計画の下案を準備し授業に備える。（0.5時間）

13	事例に基づいた介護過程の展開④　グループディスカッションと発表　プレゼンテーション
事前	グループディスカッションに備え、自ら作成したアセスメント、介護計画書を整理し、発表の準備をしておくこと。（0.5時間）
事後	グループディスカッションにより出されたアセスメントと介護目標や介護計画について、自ら作成したものとすり合わせ、計画の妥当性について再度確認しておくこと。（0.5時間）

14	実習の流れ、記録の書き方、反省会の進め方
事前	介護過程の振り返りシートを使いT・Yさんの介護過程の展開方法が適切であったか十分に振り返りを行い、知識の定着を図り介護実習に活かすこと。 記録の書き方、反省会の持ち方について実習要項で確認しておくこと。（0.5時間）
事後	介護日誌はコピーを取り、巡回教員へ渡し記録の指導を受けること。反省会は学生が司会進行を行い、目標の達成度、介護過程についてアセスメントから介護計画の立案まで行う。実習全体のスジュール管理について十分に把握しておくこと。（0.5時間）

15	実習上の諸注意　事例で学んだ介護過程のレポート提出
事前	実習先の指導者と実習巡回担当教員との連絡方法、実習先のオリエンテーション、巡回指導等の確認。 訪問介護の日程の確認。細菌検査の提出についての確認。（0,5時間）
事後	授業全体の振り返り。介護実習、訪問介護実習の目標を明確にしておくこと。提出したT.Yさんの介護過程の介護計画の返却後は、展開内容を再度見直し、知識の定着を図ること。（0.5時間）

2020/07/16(木)21:16

科 目 名	介護総合演習III [介]			授業コード	1040142
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	浦尾 和江				

科目に関するキーワード	個別性、生活支援、自立支援、介護過程、多職種連携
到達目標	・利用者の個別の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方が理解できる。 ・利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。 ・利用者の生活課題を明確にし、介護計画を立案できる。 ・多職種の業務について学び、医療・福祉の連携について理解できる。 ・介護理念や倫理について理解を深めることができる。 ・訪問介護では、居宅で生活する利用者の生活支援のあり方を理解できる。
授業の概要	介護実習Ⅱ－1に行くために必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力について総合的に学ぶ。 介護実習Ⅱ－1は、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設、障害児入所施設などの多様な施設（いづれかの施設の種別で実習を行う）の実習と訪問介護事業所における在宅実習を行うため、各施設や事業所の理解を深める。 「介護過程」について、利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報をどのように収集し、自立支援の観点から、実際の場面でどのように介護過程を展開していくのか一連のプロセスを追いながら、介護計画が立案できる能力を養う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	5名程度に分かれ、提出された課題を元にグループディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート（50%）、授業の理解度（30%）、学習意欲、授業態度（20%）として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	介護実習Ⅰ－2の実習記録必携。授業中に配付する資料を参照すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III						○	
IV							

V							

テキスト1	坪山孝監修、能田茂代編集『介護総合演習』メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰと同じテキストを使用する）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	介護総合演習Ⅲのオリエンテーション　介護実習Ⅰ－2の振り返り　実習記録の見直し　グループディスカッション
事前	授業計画にて授業内容を確認しておくこと。「介護実習Ⅰ－2」の実習記録を熟読し実習目標についての達成度など、振り返りの準備をしておくこと。（0.5時間）
事後	提示された「介護実習1－2」の振り返りシートに記入した内容から「介護実習Ⅱ－1」に向けた課題について整理しておくこと。（0.5時間）

2	介護実習Ⅰ－2の振り返り　実習記録の見直し　グループディスカッション
事前	「介護実習Ⅰ－1」で行った「場面の再構成」を振り返り、自らが行った介護行動を分析しておくこと。（0.5時間）
事後	グループで振り返った「場面の再構成」について今後の実践に役立てるため十分に復讐を行うこと。（0.5時間）

3	介護実習Ⅱ－1のオリエンテーション　実習施設の役割と機能の理解
事前	「介護福祉士の職業倫理」、「求められる介護福祉士像」についてテキスト・実習要項で確認しておくこと。（0.5時間）
事後	提示された「介護福祉士の職業倫理」、「求められる介護福祉士像」の資料を熟読しておくこと。 「介護実習Ⅱ－1」の実習の目標、実習種別、実習の履修要件、実習の流れについて「介護実習要項」にて確認しておくこと。（0.5時間）

4	実習施設の理解　多職種の役割と連携　グループディスカッション
事前	介護実習施設である、特別養護老人ホーム、訪問介護事業所の根拠法、サービス内容、職種についてレポートし授業に臨むこと。（0.5時間）
事後	実習施設の特徴やサービス内容、他職種について情報共有し、得られた知識の定着を図ること。（0.5時間）

5	在宅実習のオリエンテーション
事前	訪問介護の意義・目的、サービス内容についてレポートした内容を熟読し説明できるようにしておくこと。（0.5時間）
事後	訪問介護と施設介護の違いについて自分なりの考えをまとめておくこと。訪問介護の利用には、訪問介護計画に沿って訪問介護員がサービスを提供していることを説明できるようにしておくこと。（0.5時間）

6	介護保険制度　在宅サービスと施設サービスの理解
事前	在宅や施設で介護サービスするためには、介護保険制度の仕組みを理解しておく必要がある。テキストと提示した資料で確認しておくこと。（0.5時間）
事後	居宅サービス計画と施設サービス計画について十分に説明できるように、テキストと提示した資料を熟読し復習しておくこと。（0.5時間）

7	実習配属と担当教員の発表　実習施設の理解
事前	介護実習要項を熟読し、「介護実習Ⅱ－1」、「訪問介護実習」の実習目標について確認しておくこと。（0.5時間）
事後	配属決定後は、キャリア支援センターにて実習施設のファイルで施設の実習指導者、施設の概要、最寄り駅について確認すること。また、施設のホームページから実習に必要な情報を収集しておくこと。（0.5時間）

8	個人票の作成　（写真・印鑑必携）
事前	実習目標を明確にし、個人票の下書きを作成する。（0.5時間）
事後	実習先に提出する「実習中に知り得た個人情報の秘密保持等について」の誓約書の責任を考え自覚すること。 個人票については、コピーを取り手元に保管し、実習目標について達成できるように意識づけておくこと。（0.5時間）

9	個人票・誓約書の提出　介護過程事例と学習課題の提示　実習記録用紙・細菌検査容器の配付
事前	実習の目標である介護過程の展開について、受け持ち利用者の介護計画立案までが課題となっているため、介護過程のプロセスについて十分に熟知できていること。（0.5時間）
事後	個人票とともに介護実習、訪問介護実習、介護過程の記録を実習ファイルに閉じておくこと。記録の種類について確認しておくこと。細菌検査キッドについては、提出方法を確認し期日までに忘れないよう十分注意を払うこと。 （0.5時間）

10	事例に基づいた介護過程の展開（障害の理解・アセスメント）　グループディスカッション

事前	T・Yさんの事例を提示し既往歴・現病歴、薬について下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	T・Yさんの疾病や薬について、グループディスカッションで得た情報を整理し知識の定着を図ること。(0.5時間)

11	事例に基づいた介護過程の展開(アセスメント)
事前	T・Yさんの事例から必要な情報を情報収集シート5枚に記入し、授業の準備を行うこと。(0.5時間)
事後	情報収集シートの記載内容から必要な情報を選び国際生活機能分類(ICFモデル図)に落とし込み授業準備を行うこと。(0.5時間)

12	事例に基づいた介護過程の展開(介護目標と介護計画の立案)
事前	自ら作成した情報の解釈、関連づけ・統合と生活課題を見直す。(0.5時間)
事後	長期目標、短期目標と介護計画の下案を準備し授業に備える。(0.5時間)

13	事例に基づいた介護過程の展開 グループ討議と発表 グループディスカッション
事前	グループディスカッションに備え、自ら作成したアセスメント、介護計画書を整理し、発表の準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	グループディスカッションにより出されたアセスメントと介護目標や介護計画について、自ら作成したものとすり合わせ、計画の妥当性について再度確認しておくこと。(0.5時間)

14	実習の流れ、記録の書き方、反省会の進め方
事前	介護過程の振り返りシートを使いT・Yさんの介護過程の展開方法が適切であったか十分に振り返りを行い、知識の定着を図り介護実習に活かすこと。 記録の書き方、反省会の持ち方について実習要項で確認しておくこと。(0.5時間)
事後	介護日誌はコピーを取り、巡回教員へ渡し記録の指導を受けること。反省会は学生が司会進行を行い、目標の達成度、介護過程についてアセスメントから介護計画の立案まで行う。実習全体のスジュール管理について十分に把握しておくこと。(0.5時間)

15	実習上の諸注意 事例で学んだ介護過程のレポート提出
事前	実習先の指導者と実習巡回担当教員との連絡方法、実習先のオリエンテーション、巡回指導等の確認。 訪問介護の日程の確認。細菌検査の提出についての確認。(0,5時間)
事後	授業全体の振り返り。介護実習、訪問介護実習の目標を明確にしておくこと。提出したT.Yさんの介護過程の介護計画の返却後は、展開内容を再度見直し、知識の定着を図ること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:31

科 目 名	介護実習II－1 [介]			授業コード	1040173
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	3
担 当 者	浦尾 和江、山崎 さゆり、増田 いづみ、竹田 幸司、島田 今日子				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	自立支援、介護過程、多職種協働、チームケア
到達目標	1.受け持ちの対象者を決め、介護過程のプロセスに沿って情報収集し、アセスメントを行い、 生活課題を明確にした上で介護計画を立案することができる。 2.これまでに学習した介護の知識や技術を統合し、対象者の状況に応じた生活支援を行うことができる。 3. 多職種との協働の中における介護福祉士の役割を理解し説明できる。 4.サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアのありかたを説明できる。 5.対象者の生活と地域との関わりや地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、生活支援を実践できる。
授業の概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。これまで「介護過程」で学んだ思考のプロセスを、対象者を受け持つことで実践的に展開する。その際、対象者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し生活課題を明確にした上で、自立支援の観点から介護計画の立案を行う。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	各学生は、実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で翌日の実習に向けた新たな課題を設定し臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	―	介護実習施設指導者からの「実習評価表」と、教員の評価により総合的に評価する。 学習意欲、実習の取り組み姿勢、実習記録内容等から総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							

IV							
V			○	○			

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1.施設実習 (1)介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） (2)介護老人保健施設 (3)障害者支援施設 (4)救護施設 (5)障害児入所施設（1～5のいずれかの施設で実習を行なう） 2.訪問介護実習 訪問介護事業所 [実習日数] 18日間(訪問介護実習1日を含む） [実習内容] 施設実習 1.実習施設の役割と機能を理解する。 2.対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解する。 3.対象者の生活課題を明確にし介護計画を立案する。 4.障害の特性や生活状況を理解し、個別性を踏まえた生活支援技術を習得する。 5.サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて多職種連携やチームケアについて理解する。 6.早番・遅番の変則勤務を体験し、その業務内容を理解するとともに、対象者の生活支援を経験する。 7.福祉用具、福祉機器の知識や活用能力を身につける。 8.ユニットケアにおける実習では、個室化、小規模化により、入居者同士や職員との関係が変化する中で、よりよい人間関係を築きながら、自律的な日常生活を営むことができるようにする支援のあり方を考えていく。 9.医療的ケアを必要としている人の生活支援のあり方を理解する。 10.介護の理念、倫理について理解を深める。 訪問介護実習 1.対象者の地域での生活を支える訪問介護事業所の役割と機能を理解する。 2.訪問介護員の同行訪問を通じて、居宅で暮らす対象者の生活を知り、訪問介護員の役割と機能を理解する。 3.対象者の生活課題と訪問介護計画の内容を確認し、個別的な生活支援がどのように行われているのか理解する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員、入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておくこと。 （実習期間） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。
事後	（実習期間） その日の実習内容の記録、考察結果、翌日の課題等を実習日誌に記録し、指導者に提出すること。 （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、考察を含む全記録と提出物を指導者に提出し、指導を仰ぐこと。 次の段階の実習に向けての課題を明確にしておくこと。

2020/07/16(木)22:31

科 目 名	介護実習II－1 [介]			授業コード	1040183
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	3
担 当 者	浦尾 和江				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	自立支援、介護過程、多職種協働、チームケア
到達目標	1. 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解することができる。 2. 受け持ち利用者を決め、介護過程のプロセスに沿って情報収集し、アセスメントを行い、生活課題を明確にした上で介護計画を立案することができる。 3. これまでに学習した介護の知識や技術を統合し、利用者の状況に応じた生活支援を行うことができる。
授業の概要	「介護過程」で学んだ思考のプロセスを、実際の利用者を受け持ち実践する。その際、個々の利用者の生活背景やリズムを理解し、必要な情報を収集し生活課題を明確にした上で、自立支援の観点から介護計画の立案を行う。 介護福祉士に必要な能力を身につけるため、施設等の福祉現場において、実習指導者の指導の下、受け持ち利用者の生活課題の抽出、介護計画の立案を行う。 また、訪問介護事業所の介護現場において、実習指導者の指導の下、在宅で生活する利用者の理解と訪問介護の役割・機能等について学ぶ。
授業方法	実習 / アクティブラーニング ○ / 各学生は、実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で翌日の実習に向けた新たな課題を設定し臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	― / 学習意欲、介護過程のプロセス、実習記録内容、支援のあり方など総合的に評価する。 介護実習施設指導者からの「実習評価表」による評価と、担当教員の評価により総合的に評価する。
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックする。
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III			○				

IV							
V				○			

テキスト1	坪山孝監修、能田茂代編集『介護総合演習』メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰと同じテキストを使用する）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に必要な文献を検索し学びを深めること。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 2介護老人保健施設 3障害者支援施設 4救護施設 5障害児入所施設（1～5のいずれかの施設で実習を行なう。） 6訪問介護事業所 [実習時期・期間] 2年次の2～3月 18 日間(訪問介護実習1日を含む） [実習内容] 施設実習 1. 実習施設の役割と機能を理解する。 2. 利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解する。 3. 利用者の生活課題を明確にし介護計画を立案する。 4. 障害の特性や生活状況を理解し、個別性を踏まえた生活支援技術を習得する。 5. 多職種の業務について学び、医療・福祉の連携方法を知る。 6. 早番・遅番の変則勤務を体験し、その業務内容を理解するとともに、利用者の生活支援を経験する。 7. 福祉用具、福祉機器の知識や活用能力を身につける。 8. ユニットケアにおける実習では、個室化、小規模化により、入居者同士や職員との関係が変化する中で、よりよい人間関係を築きながら、自律的な日常生活を営むことができるようにする支援のあり方を考えていく。 9. 医療的ケアを必要としている人の生活支援のあり方を理解する。 10. 介護の理念、倫理について理解を深める。 訪問介護実習 1. 訪問介護事業所の役割と機能を理解する。 2. 訪問介護員の同行訪問を通じて、居宅で暮らす利用者の生活を知り、訪問介護員の役割と機能を理解する。 3. 利用者の生活課題と訪問介護計画の内容を確認し、個別的な生活支援がどのように行われているのか理解する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員、入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておくこと。 （実習期間） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。
事後	（実習期間） その日の実習内容の記録、考察結果、翌日の課題等を実習日誌に記録し、指導者に提出すること。 （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、考察を含む全記録と提出物を指導者に提出し、指導を仰ぐこと。 次の段階の実習に向けての課題を明確にしておくこと。

2020/07/16(木)21:05

科 目 名	宗教学 [社科]			授業コード	1050012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	世界の国々、歴史、文化、多様性

到達目標	この授業を通して学べる／獲得できる具体的な点としては、以下のものがある。 (1)宗教学的な基礎知識及び関心を持つことができるようになる。 (2)宗教に対して、客観的な見識を身に付けることができるようになる。 (3)様々な事象に宗教的要素が含まれていることを学ぶことができる。			
授業の概要	この授業では、宗教学に関する基礎的な知識を身につけるとともに、現代世界にあふれている宗教的な事象を取り上げながら、宗教学的な見方を学んでいきます。 この授業では、前半では様々な宗教の基礎的知識を学び、後半では、アニメ、映画、ゲームなど身近な題材を用いながら授業を展開していきます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業ごとにリアクションペーパーの記入時間をとりますので、各授業ごとの課題に対してしっかりと記入し、提出してください。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への積極的参加(20%) 授業後のリアクションペーパー(30%) 期末レポート(50%)		
フィードバック	授業内で提出した課題やリアクションペーパーについては、次週に必ずフィードバックを行います。それを踏まえて、よりよいリアクションペーパーの提出ができるよう心がけてください。			
履修に際しての 注意事項	ゲスト・スピーカーを招聘し、異なる角度から宗教学を講義してもらう授業回を設定します。 私語は厳禁でお願いします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○	○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし（教員が資料配布）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『宗教学事典』、星野他編、丸善、2010	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ― 宗教に対する「見方」（＝宗教学）を学ぶ
事前	個々の宗教の名称についてインターネット等をもちいて調べておく。（2時間）
事後	プリントをもとに、本授業の発想・考え方について復習する。（2時間）

2	ギリシャ神話の世界
事前	ギリシャ地域について、歴史や習慣を調べておく。（2時間）
事後	ギリシャ神話形成の主たる要因について復習しておく。（2時間）

3	神道における日本の創世神話
事前	『古事記』『日本書紀』について事前に調べておく。（2時間）
事後	日本神話形成の外交的・国内的な歴史背景を復習しておく。（2時間）

4	東アジアと仏教東漸
事前	古代インドのバラモン教について事前に調べておく。（2時間）
事後	仏教がアジアに与えた思想的影響を再度確認する。（2時間）

5	聖書における創世神話
事前	ユダヤ教とキリスト教の成立時期について事前に調べておく。（2時間）
事後	キリスト教の根本思想やローマ帝国への国教会について復習しておく。（2時間）

6	東アジアと仏教東漸
事前	現在の東アジアの仏教状況について、信徒数や分布について事前に調べておく。（2時間）
事後	東アジアの各地域に仏教が拡大してプロセスを復習しておく。（2時間）

7	唯一神教と多神教の差異と共通点
事前	唯一神教という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	唯一神教が有する世界観について復習しておく。（2時間）

8	カルトという問題設定
事前	カルトという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	マインド・コントロール論について復習しておく。（2時間）

9	先鋭化する宗教テロ
事前	現代の宗教テロについて事前に調べておく。（2時間）
事後	テロの発生背景について復習しておく。（2時間）

10	ジブリ作品で学ぶ「自然と宗教」
事前	自然宗教やアニミズムという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	アニミズム的世界観について復習しておく。（2時間）

11	現代世界の「聖地巡礼」
事前	宗教的な聖地についてインターネット等で調べておく。（2時間）
事後	聖地巡礼の実行動機や聖地形成の社会的背景について復習しておく。（2時間）

12	宗教学的に映画を視聴してみる
事前	プロパガンダという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	プリントをもとに、宗教的な表現にはステレオタイプが頻繁に用いられていることを復習しておく。（2時間）

13	通過儀礼という発想法
事前	通過儀礼（イニシエーション）という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	ファン・ジェネップの生涯と学問的業績について調べる。（2時間）

14	儀礼としての成人式
事前	成人式の発生について事前に調べておく。（2時間）
事後	授業プリントをもとに、現代日本の成人式の状況について振り返る。（2時間）

15	全体の総括
事前	配布した資料をもとに宗教学という発想・考え方について確認する。（2時間）
事後	授業内でのまとめ内容をもとに、全体を振り返る。（2時間）

2020/07/16(木)20:40

科 目 名	宗教学 [心]			授業コード	1050022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	世界の国々、歴史、文化、多様性
到達目標	この授業を通して学べる／獲得できる具体的な点としては、以下のものがある。 (1)宗教学的な基礎知識及び関心を持つことができるようになる。 (2)宗教に対して、客観的な見識を身に付けることができるようになる。 (3)様々な事象に宗教的要素が含まれていることを学ぶことができる。
授業の概要	この授業では、宗教学に関する基礎的な知識を身につけるとともに、現代世界にあふれている宗教的な事象を取り上げながら、宗教学的な見方を学んでいきます。 この授業では、前半では様々な宗教の基礎的知識を学び、後半では、アニメ、映画、ゲームなど身近な題材を用いながら授業を展開していきます。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 毎回の授業ごとにリアクションペーパーの記入時間をとりますので、各授業ごとの課題に対してしっかりと記入し、提出してください。
評価方法 及び評価基準	レポート 授業への積極的参加(20%) 授業後のリアクションペーパー(30%) 期末レポート(50%)
フィードバック	授業内で提出した課題やリアクションペーパーについては、次週に必ずフィードバックを行います。それを踏まえて、よりよいリアクションペーパーの提出ができるよう心がけてください。
履修に際しての 注意事項	ゲスト・スピーカーを招聘し、異なる角度から宗教学を講義してもらう授業回を設定します。 私語は厳禁でお願いします。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○	○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし（教員が資料配布）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『宗教学事典』、星野他編、丸善、2010	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ― 宗教に対する「見方」（＝宗教学）を学ぶ
事前	個々の宗教の名称についてインターネット等をもちいて調べておく。（2時間）
事後	プリントをもとに、本授業の発想・考え方について復習する。（2時間）

2	ギリシャ神話の世界
事前	ギリシャ地域について、歴史や習慣を調べておく。（2時間）
事後	ギリシャ神話形成の主たる要因について復習しておく。（2時間）

3	神道における日本の創世神話
事前	『古事記』『日本書紀』について事前に調べておく。（2時間）
事後	日本神話形成の外交的・国内的な歴史背景を復習しておく。（2時間）

4	東アジアと仏教東漸
事前	古代インドのバラモン教について事前に調べておく。（2時間）
事後	仏教がアジアに与えた思想的影響を再度確認する。（2時間）

5	聖書における創世神話
事前	ユダヤ教とキリスト教の成立時期について事前に調べておく。（2時間）
事後	キリスト教の根本思想やローマ帝国への国教会について復習しておく。（2時間）

6	東アジアと仏教東漸
事前	現在の東アジアの仏教状況について、信徒数や分布について事前に調べておく。（2時間）
事後	東アジアの各地域に仏教が拡大してプロセスを復習しておく。（2時間）

7	唯一神教と多神教の差異と共通点
事前	唯一神教という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	唯一神教が有する世界観について復習しておく。（2時間）

8	カルトという問題設定
事前	カルトという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	マインド・コントロール論について復習しておく。（2時間）

9	先鋭化する宗教テロ
事前	現代の宗教テロについて事前に調べておく。（2時間）
事後	テロの発生背景について復習しておく。（2時間）

10	ジブリ作品で学ぶ「自然と宗教」
事前	自然宗教やアニミズムという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	アニミズム的世界観について復習しておく。（2時間）

11	現代世界の「聖地巡礼」
事前	宗教的な聖地についてインターネット等で調べておく。（2時間）
事後	聖地巡礼の実行動機や聖地形成の社会的背景について復習しておく。（2時間）

12	宗教学的に映画を視聴してみる
事前	プロパガンダという概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	プリントをもとに、宗教的な表現にはステレオタイプが頻繁に用いられていることを復習しておく。（2時間）

13	通過儀礼という発想法
事前	通過儀礼（イニシエーション）という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	ファン・ジェネップの生涯と学問的業績について調べる。（2時間）

14	儀礼としての成人式
事前	成人式の発生について事前に調べておく。（2時間）
事後	授業プリントをもとに、現代日本の成人式の状況について振り返る。（2時間）

15	全体の総括
事前	配布した資料をもとに宗教学という発想・考え方について確認する。（2時間）
事後	授業内でのまとめ内容をもとに、全体を振り返る。（2時間）

2020/07/16(木)21:11

科 目 名	倫理学 [心]			授業コード	1050031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	倫理、倫理学、哲学、自由、正義

到達目標	(1)倫理と倫理学の違いを理解することができる。 (2)倫理学とは如何なる学問かを理解することができる。 (3)倫理学的な知識と思考方法を身につける。			
授業の概要	倫理学とは「倫理」の根幹原理を考えていく学問です。倫理学では知識を得るとともに、実際に自分で考えることが重要！ そこで本授業では、講義形式と実践形式の両方を行います。特に、実践形式では動画を用いながら、自身の学生自身の倫理的判断を問う授業を行っていきます。 動画の例としては、医療倫理:「ブラックジャック」、家族倫理:「NHKクローズアップ現代2014」などを予定しています。 これらの動画視聴後には、必ずその都度、コメントペーパーへの記入、それに基づく発言の時間帯を設けます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	主に講義形式で行いますが、隔週で実践形式を採用します。 その際は、授業前半を講義時間にあて、後半を動画閲覧および課題に取り組む時間とします。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への積極的参加(30%) 授業後のリアクションペーパー(20%) 期末レポート(50%)		
フィードバック	授業内で提出した課題やリアクションペーパーについては、次週に必ずフィードバックを行う。それを踏まえて、よりよいリアクションペーパーの提出ができるよう心がけること。			
履修に際しての 注意事項	毎回の授業前には、前回の配布資料やノートを熟読したのちに、シラバス上で今週の講義内容を確認し授業に臨むこと。なお、前回授業終了時に提示された課題は、次回授業開始時に提出すること。 毎回の授業後には、十分な復習を行うこと。その際には、授業で得た新しい知識を自身で再度学習し、知識の定着を心がけること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『現代倫理学入門』、加藤尚武著、講談社学術文庫1997	9784061592674
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	「オリエンテーション」の意味について考えてくる。(2時間)
事後	授業時に指示したノートテイク法についてしっかりと確認する。(2時間)
2	倫理の発生と倫理学の分類
事前	前回ノートをもとにしながら復習しておく。(2時間)
事後	ノートをもとに、倫理と倫理学の違いについて復習しておく。(2時間)
3	倫理学の分類
事前	倫理学の下位分類について事前に調べておく。(2時間)
事後	ノートをもとに、倫理学の3分類について復習しておく。(2時間)
4	倫理の限界点を探る—嘘をついてよい条件とはあるのか？
事前	第1章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	ノートをもとに、ウソの条件について講義した内容を復習しておく。(2時間)
5	ジョン・ハリスの「サバイバル・ロッタリー」
事前	第2章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	サバイバル・ロッタリーの世界における人命救助の条件について復習しておく。(2時間)
6	ベンサムとミルの「最大多数の最大幸福」論
事前	第3章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	最大幸福の利点と欠点について復習しておく。(2時間)
7	中間試験
事前	これまでの授業内容とノートを復習しておく。(2時間)
事後	中間試験の内容をもとに、これまでの授業内容を復習しておく。(2時間)
8	倫理の正当性を考える①—判断能力は誰が判断可能か
事前	第6章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	授業で取り上げる映像をもとに、理性や人格とは何かを復習しておく。(2時間)
9	倫理の正当性を考える②—判断能力の判定基準について
事前	第6章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	授業で取り上げる映像をもとに、理性や人格とは何かを復習しておく。(2時間)
10	正直者が得になる条件とは何か
事前	第10章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	ウソと正直のバランスについてゲーム理論の基本を復習しておく。(2時間)
11	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか
事前	第11章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	自己中心と他者中心の倫理性について復習しておく。(2時間)
12	現在の人間は未来に対する義務を持つのか？
事前	第13章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	未来への倫理性と道徳性の条件について復習しておく。(2時間)
13	正義は絶対か？①—ロールズの正義論をめぐって
事前	第14章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)

事後	ノートをもとに、正義とは何かについて復習しておく。（2時間）

14	正義は絶対か？②—正義の相対性を考察する
事前	第14章を読み、配布してある事前課題に取り組む。（2時間）
事後	ノートをもとに、正義とは何かについて復習しておく。（2時間）

15	まとめ—倫理学の倫理性を問う
事前	これまでの授業内容とノートを復習しておく。（2時間）
事後	配布資料やノートをもとに、倫理学とは何かについて復習しておく。（2時間）

2020/07/16(木)21:20

科 目 名	倫理学 [科]			授業コード	1050041
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	倫理、倫理学、哲学、自由、正義

到達目標	（1）倫理と倫理学の違いを理解することができる。 （2）倫理学とは如何なる学問かを理解することができる。 （3）倫理学的な知識と思考方法を身につける。			
授業の概要	倫理学とは「倫理」の根幹原理を考えていく学問です。倫理学では知識を得るとともに、実際に自分で考えることが重要！ そこで本授業では、講義形式と実践形式の両方を行います。特に、実践形式では動画を用いながら、自身の学生自身の倫理的判断を問う授業を行っていきます。 動画の例としては、医療倫理：「ブラックジャック」、家族倫理：「NHKクローズアップ現代2014」などを予定しています。 これらの動画視聴後には、必ずその都度、コメントペーパーへの記入、それに基づく発言の時間帯を設けます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	主に講義形式で行いますが、隔週で実践形式を採用します。 その際は、授業前半を講義時間にあて、後半を動画閲覧および課題に取り組む時間とします。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への積極的参加（30%） 授業後のリアクションペーパー（20%） 期末レポート（50%）		
フィードバック	授業内で提出した課題やリアクションペーパーについては、次週に必ずフィードバックを行う。それを踏まえて、よりよいリアクションペーパーの提出ができるよう心がけること。			
履修に際しての 注意事項	毎回の授業前には、前回の配布資料やノートを熟読したのちに、シラバス上で今週の講義内容を確認し授業に臨むこと。なお、前回授業終了時に提示された課題は、次回授業開始時に提出すること。 毎回の授業後には、十分な復習を行うこと。その際には、授業で得た新しい知識を自身で再度学習し、知識の定着を心がけること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『現代倫理学入門』、加藤尚武著、講談社学術文庫1997	9784061592674
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	「オリエンテーション」の意味について考えてくる。(2時間)
事後	授業時に指示したノートテイク法についてしっかりと確認する。(2時間)
2	倫理の発生と倫理学の分類
事前	前回ノートをもとにしながら復習しておく。(2時間)
事後	ノートをもとに、倫理と倫理学の違いについて復習しておく。(2時間)
3	倫理学の分類
事前	倫理学の下位分類について事前に調べておく。(2時間)
事後	ノートをもとに、倫理学の3分類について復習しておく。(2時間)
4	倫理の限界点を探る—嘘をついてよい条件とはあるのか？
事前	第1章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	ノートをもとに、ウソの条件について講義した内容を復習しておく。(2時間)
5	ジョン・ハリスの「サバイバル・ロッタリー」
事前	第2章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	サバイバル・ロッタリーの世界における人命救助の条件について復習しておく。(2時間)
6	ベンサムとミルの「最大多数の最大幸福」論
事前	第3章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	最大幸福の利点と欠点について復習しておく。(2時間)
7	中間試験
事前	これまでの授業内容とノートを復習しておく。(2時間)
事後	中間試験の内容をもとに、これまでの授業内容を復習しておく。(2時間)
8	倫理の正当性を考える①—判断能力は誰が判断可能か
事前	第6章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	授業で取り上げる映像をもとに、理性や人格とは何かを復習しておく。(2時間)
9	倫理の正当性を考える②—判断能力の判定基準について
事前	第6章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	授業で取り上げる映像をもとに、理性や人格とは何かを復習しておく。(2時間)
10	正直者が得になる条件とは何か
事前	第10章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	ウソと正直のバランスについてゲーム理論の基本を復習しておく。(2時間)
11	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか
事前	第11章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	自己中心と他者中心の倫理性について復習しておく。(2時間)
12	現在の人間は未来に対する義務を持つのか？
事前	第13章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)
事後	未来への倫理性と道徳性の条件について復習しておく。(2時間)
13	正義は絶対か？①—ロールズの正義論をめぐって
事前	第14章を読み、配布してある事前課題に取り組む。(2時間)

事後	ノートをもとに、正義とは何かについて復習しておく。（2時間）

14	正義は絶対か？②—正義の相対性を考察する
事前	第14章を読み、配布してある事前課題に取り組む。（2時間）
事後	ノートをもとに、正義とは何かについて復習しておく。（2時間）

15	まとめ—倫理学の倫理性を問う
事前	これまでの授業内容とノートを復習しておく。（2時間）
事後	配布資料やノートをもとに、倫理学とは何かについて復習しておく。（2時間）

2020/07/16(木)10:39

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [介]			授業コード	1050050
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)22:02

科 目 名	伝統宗教と日本社会 [心]			授業コード	1050062
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関するキーワード	日本史、伝統宗教、古代、中世、近代
到達目標	①通史としての「日本史」を基盤としながら、日本の伝統宗教を理解できるようになる。 ②日本宗教史を教養として学び、基礎的な知識を身につけることができる。 ③歴史理論や宗教理論について理解できるようになる。
授業の概要	本授業は「日本史」という視点から宗教を理解すること目指す。ただし、ここでいう「日本史」とは受験用に学んだような年号中心の日本史ではない。本授業の「日本史」とは、①現在を説明するための「日本史」であり、②なぜそのような歴史的事実が起こったのかを説明できる「日本史」を意味する。 そのような「日本史」を基盤としながら、伝統宗教（神道、仏教）が歴史的に果たしてきた役割、時代によって変化する社会的位置づけについて講義していく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 毎回の授業で記入用プリントを配布。講義とともにプリント課題にしたがって、各自が取り組んでいく。取り組んだ課題は、随時、授業内で共有していく。
評価方法及び評価基準	レポート 授業への積極的参加（20%） 授業後のリアクションペーパー（30%） 期末レポート（50%）
フィードバック	記入用課題は授業後に回収し、教員がチェックを行い、次回授業時に返却する。
履修に際しての注意事項	授業の進捗に応じて、確認テストを実施する。また、学生の要望に応じて、ゲストスピーカーを招聘して伝統宗教に関する講義をしてもらうことも検討していく。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○				○	○	
II							
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし（教員より資料配布）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	末木文美士『日本宗教史』（岩波書店、2006） 安藤達朗『日本史　古代・中世・近世』（東洋経済、2016） 安藤達朗『日本史　近代・現代』（東洋経済、2016） 鈴木範久『日本宗教史物語』（聖公会出版、2001）	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション―日本史という視点と宗教への理解―
事前	日本史の意味について考えてくる。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題について取り組む。（2時間）

2	「宗教」の定義について再考する
事前	宗教という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（古代日本）について取り組む。（2時間）

3	古代日本の神祇信仰
事前	縄文・弥生時代について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（仏教伝来）について取り組む。（2時間）

4	仏教伝来の日本史的意義
事前	仏教伝来直前の日本の状況について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（鎮護国家仏教）について取り組む。（2時間）

5	鎮護国家仏教の誕生と定着
事前	6・7世紀に建立された仏教寺院について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（律令制）について取り組む。（2時間）

6	律令制の弛緩と新しい宗教動向
事前	律令体制における区分田について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（鎌倉仏教）について取り組む。（2時間）

7	鎌倉仏教の発生と背景
事前	鎌倉仏教に含まれる宗派の名称と宗祖について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（神仏習合）について取り組む。（2時間）

8	中世における神仏習合の意義
事前	神仏習合の施設について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（戦国時代）について取り組む。（2時間）

9	戦国期の世俗権力と宗教
事前	戦国時代における領国体制について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（幕藩体制）について取り組む。（2時間）

10	幕藩体制と宗教支配
事前	幕藩体制という概念について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（近代日本）について取り組む。（2時間）

11	近代日本における天皇制と神道・仏教
事前	近代天皇制について、その特徴を事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（近代日本教育制度）について取り組む。（2時間）

12	近代教育制度と宗教
事前	近代教育制度の特徴について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（戦後の宗教状況）について取り組む。（2時間）

13	戦中・戦後の社会変動と伝統宗教
事前	戦中戦後の社会変動の実態について事前に調べておく。（2時間）
事後	配布した次回授業の課題（現代日本の宗教状況）について取り組む。（2時間）

14	現代日本社会と宗教状況
事前	カルトや宗教事件について、事前に調べておく。（2時間）
事後	配布資料やノートをもとに、日本宗教史とは何かについて復習しておく。（2時間）

15	全体のまとめ―日本社会における宗教の位置づけ―
事前	これまでの授業内容とノートを復習しておく。（2時間）
事後	配布資料やノートをもとに、日本宗教史について復習しておく。（2時間）

2020/07/16(木)20:58

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	1050070
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)20:53

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [介]			授業コード	1050080
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)11:05

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1050100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	江島 尚俊				

科目に関する キーワード	社会調査、フィールドワーク、校外学習
到達目標	①フィールド（現場）での体験を通して具体的な課題を考えることができる。 ②フィールドワークを計画・実施することができる。 ③ゼミ内での共同作業を通して、グループワークを行うことができる。 ④プレゼンテーションの準備を通して、自分の意見を発表することができる。
授業の概要	①フィールド（現場）での体験を通して学ぶ。 ②フィールドワークを計画・実施する。 ③フィールドワークの結果をゼミ内報告する。 関心はあるがなかなか訪問できない場所って、誰しも1つくらいはあるかと思います。このゼミでは、そんなところをフィールドワークしようということを計画しています。 フィールドワーク例としては、パラスポーツ支援団体、子ども食堂、無料学習塾、障害者支援団体、特別支援学校といった本学科に関連のあるものから、動物愛護団体、座禅体験会、ゴスペルサークルなど、基本的にはゼミ生の希望をもとに決定していく予定。
授業方法	演習 / アクティブラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	①平常点（学習意欲、学習態度、授業への積極性など） 40% ②ゼミ内でのコミュニケーションや貢献度 20% ③調査報告会での発表・レポート 40%	
フィードバック	毎回の授業で前回分の振り返りを行う。		
履修に際しての 注意事項	あらかじめフィールドワークの対象候補を考えておいてほしい。 ゼミ生の意見や希望をもとにフィールドワークを行っていくため、ゼミ生の主体性が求められます。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							○

V	○					○	

テキスト1	特になし（教員が資料配布）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期1回、後期1回のフィールドワークを計画・実施し、それぞれの学期末にゼミ内で調査報告を行う。 第1回　　オリエンテーション 第2～3回　フィールドワーク対象の選定とアプローチ 第4～6回　インタビュー内容と項目の検討 第7～9回　フィールドワークの実施 第10～13回 調査報告のための準備 第14回　　ゼミ内での調査報告会 第15回　　まとめ 調査対象についてはゼミ生の意見や希望を最も重視する。ただし、原則として神奈川県内もしくは神奈川県近郊での調査を予定。
事前	社会調査を実施する対象について事前に調べておく。（2時間）
事後	調査準備や調査実施の後はそれぞれの実施作業について振り返る。（2時間）

2020/07/16(木)11:23

科 目 名	精神保健福祉援助技術総論II [社]			授業コード	1060011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 精神保健福祉士 メンタルヘルス 相談援助

到達目標	精神保健福祉領域の相談援助の対象者とその広がりを理解し、精神保健福祉士の相談援助の価値や理念を理解し、ソーシャルワーカーの可能性を取り上げていく。 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要を理解し、相談援助にかかわる専門職の範囲や多職種多機関の意義を理解する。さらに、精神障害者の権利擁護の意義を学び、精神科医療機関の歴史や課題、現状から精神障害者の支援の基本的考えを理解する。そしてその全体像について説明できるようになる。 精神障害者の生活問題や個人と社会との関連を理解し、支援のために多様な人々との連携の必要性を説明できるようになる。			
授業の概要	精神保健福祉領域の相談援助の対象者とその広がりを理解し、相談援助の基本的な考えを学ぶ。また精神医療、地域生活支援、医療領域だけではなく児童、行政、障害、高齢、産業、司法領域の精神保健福祉士の相談援助の実際と専門職の概念・範囲について学ぶ。その後、主体性の尊重、自己決定、権利擁護の支援について理解し、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶ。 相談援助を実践していく基本的でありながらも、具体的な内容を分かりやすく考えていきたい。 また、精神保健福祉士受験科目の必須の科目であるが、ソーシャルワーカーとしての基本を理解する内容となるため、受講を勧める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業振り返りシートを用意するので、その内容と授業内の課題や諸活動へ乗り組みが評価の大きな基準になる。(50%) 授業内での、レポート課題と持ち込み可の試験。(50%)		
フィードバック	授業内及びでんでんばんでレポート課題、試験の解説をする。			
履修に際しての 注意事項	精神保健福祉士受験資格取得のための必修科目であるため、希望者は必ず二年時に履修すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	毎回レジュメと資料を準備する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー3 （第6版） 精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門] へるす出版 「ソーシャルワーク協働の思想」柏木 昭他 へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神保健福祉領域の現状と課題
事前	シラバスを中心に参考資料を準備し日本の精神保健福祉領域の現状を理解すること。（予習に1時間半）
事後	当日のレジュメおよび配布した資料を基に復習し、次回ライフサイクルについて課題について考えを深めること。(2時間半)

2	子どもから高齢者までの、ライフサイクルごとの精神保健福祉の課題と精神保健福祉士
事前	前回提示した参考文献等からメンタルヘルスの課題について理解を深めてくること。(2時間)
事後	授業内容と配布した資料からメンタルヘルスの課題を総合的に理解すること。(2時間)

3	精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方（こころの問題と状況の関連性から）
事前	精神保健福祉士の相談援助の価値・信念・視点について熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と配布した資料をもとに、事前学習を含め相談援助の基本的姿勢をまとめること。(2時間)

4	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の基本的考え方（当事者主体と援助）
事前	資料で配布した事例を熟読し主体性の尊重とその課題について考えてくること。(2時間)
事後	事例について解説した内容と授業内容から、あらためて主体性の尊重について考察してみること。(2時間)

5	医療機関における専門職（医療ソーシャルワークを含む）
事前	前回配布した資料を熟読すること。（2時間）
事後	授業内容と資料に基づき医療機関での精神保健福祉士の役割についてまとめること。(2時間)

6	民間施設・機関における専門職（児童、精神障害、認知症を中心に）
事前	事前に配布した資料を読み込んでくること。(2時間)
事後	さまざまな現場での精神保健福祉の課題を理解し援助について考えを整理すること。(2時間)

7	保健所・福祉事務所・児童相談所における専門職（福祉職の公務員）
事前	資料に基づき、行政職のメンタルヘルスに精通する必要性と支援について予習してくること。(2時間)
事後	授業内容と配布した資料からメンタルヘルスの理解を深め、行政職の業務の特徴を理解すること。(2時間)

8	行政（都道府県・市町村）における専門職（地域福祉にかかわる公務員）
事前	事前に配布した資料を熟読してくること。(2時間)
事後	授業内容と資料からニーズが見えてこない市民へのアプローチについて理解を深める。(2時間)

9	労働行政・司法領域における専門職（新たな領域の公務員）
事前	事前に配布した資料を熟読してくること。（2時間）
事後	授業内容と配布した資料を熟読し、産業、司法領域の実践を深めること。(2時間)

10	主体性の尊重と自己決定への支援（こころの問題と状況の関連性から）
事前	事前に配布した資料を熟読してくること。(2時間)
事後	授業内容と事例からの整理し主体性の尊重、自己決定の尊重について理解を深めること。(2時間)

11	主体性の尊重と自己決定への支援（精神保健福祉士としての理念に基づき）
事前	配布した事例を読み自己決定と支援について考えてくること。(2時間)
事後	授業の内容と自邸から精神保健福祉士としての自己決定について説明できるようにすること。(2時間)

12	子どもから、障害児・者、高齢者までの精神保健福祉士の必須要素

事前	事前に配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容からスクールソーシャルワーク、児童への支援、認知症への支援と幅広く考えられるようにする。(2時間)

13	人権擁護とそのシステム（精神保健福祉士としての実践と課題）
事前	事前の資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料に基づき権利擁護について復習し課題を言語化できるようにすること。(2時間)

14	総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
事前	事前に配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容から包括的な支援の必要性と課題さらに現状について理解し必要性を言語化できるようにすること。 (2時間)

15	チームアプローチ（連携を含む）の意義と内容・精神保健福祉士の可能性の広がり
事前	事前に配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料からチーム・連携について理解を深めていく。（2時間）

2020/07/16(木)22:12

科 目 名	ソーシャルワークII [介]			授業コード	1060022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 援助プロセス グループ支援 家族支援

到達目標	・ソーシャルワークのインテークから終結まで、事例を通してソーシャルワークの一連のプロセスを説明することができる。 ・グループを用いた支援、家族支援の考え方などを学ぶなかで、ミクロからマクロまでの視点を持ち、ソーシャルワークの全体像を説明することができる。 ・グループを使って個人の成長を支援していくグループ支援の意義と原則、展開過程やアプローチ等について説明することができる。 ・人びとが抱える生活問題について理解し、その解決に向け他者と連携・協働できる知識を習得することができる。			
授業の概要	この授業ではソーシャルワークの基本的な視点と相談援助の理念を確認し、ソーシャルワークのプロセスを理解する。また個別援助から、グループを活用した援助、家族への援助と学習を進め、ソーシャルワークの総合的包括的な援助の意義と課題について学んでいく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験実施	授業に臨む態度20%、コメントシート20%、試験60%		
フィードバック	コメントシートは次回授業でフィードバックする。また試験については「でんでんばん」で通じてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	ソーシャルワークの基盤科目であり、演習や実習とも深く関連している。そのため、真摯な態度で主体的に授業に取り組むこと。 尚、以下の教科書、参考文献はソーシャルワークⅠ、Ⅱ、Ⅲ、ソーシャルワーク演習、実習などの授業で共通して使用するテキストとなる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 岩間伸之他 ミネルヴァ書房 MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワークの形成過程
事前	シラバスを読み授業の進行を確認すること。また教科書、参考文献を読みソーシャルワークの必要性を考察する。(2時間)
事後	授業の内容と資料から、ソーシャルワークの形成過程について説明できるようにすること。(2時間)

2	ソーシャルワークが求められる背景
事前	教科書P1~P14を熟読し現代社会における課題を理解する。(2時間)
事後	授業内容から、現代社会においてソーシャルワーカーが発揮すべき機能について説明できるようにすること。(2時間)

3	総合的包括的援助について
事前	教科書P14~P23を熟読し地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を考える。(2時間)
事後	授業の内容から地域を基盤としたソーシャルワークの機能について説明できるようにすること。(2時間)

4	ソーシャルワークの援助プロセス
事前	事前に配布した資料を熟読し、援助プロセスについて理解すること。(2時間)
事後	授業の内容から援助プロセスの内容と課題を理解を深めること。(2時間)

5	ソーシャルワークのプロセスI (導入期)
事前	教科書P27~P42を熟読し、導入期の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から導入期の課題とアウトリーチの必要性について理解を深める。(2時間)

6	ソーシャルワークのプロセスII (事前評価)
事前	教科書P45~P68を熟読しアセスメントの内容と視点について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料からアセスメントについて理解し実践できるよう理解を深める。(2時間)

7	ソーシャルワークのプロセスIII (支援計画)
事前	教科書P69~P92を熟読し支援計画の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容を含め支援計画の要点について理解を深める。(2時間)

8	ソーシャルワークのプロセスIV (評価・終結)
事前	教科書のP93~P114を熟読し、モニタリングと終結の課題を考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から評価、終結の意義と課題について理解する。(2時間)

9	グループ支援(グループワーク)の形成過程
事前	教科書と参考文献からグループ支援の形成過程について熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の形成過程の理解を深める。(2時間)

10	グループ支援の意義と課題
事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の意義について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の意義と課題について理解を深める。(2時間)

11	グループ支援の実際と課題(事例から)
事前	事前に配布した事例を熟読し課題について考察してくること。(2時間)
事後	教科書の内容と事例の検討からあらためてグループ支援について復習する。(2時間)

12	グループ支援の実践原則

事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の実践原則について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料をからグループ支援お実践原則を具体的に理解を深めること。(2時間)

13	グループ支援の展開過程
事前	教科書P202~P207を熟読しグループ支援の展開過程について考えること。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループの展開過程の理解を深めること。(2時間)

14	家族支援の基本的視座
事前	教科書P208~P213を熟読し家族支援の構成要素について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から家族支援の概念と構成要素の理解を深める。(2時間)

15	家族支援の方法と課題
事前	教科書P214~P228を熟読し家族支援の方法と実際について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から家族支援の方法と課題について理解を深める。(2時間)

2020/07/16(木)10:41

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [社]			授業コード	1060030
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)11:02

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1060040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 対人援助 精神保健

到達目標	対人援助の基本的な考えが理解でき、人や状況の多様な課題をアセスメントすることができるようになる。 後期には各自の研究テーマを設定し進めていくなかで、主体的に学び他者と協力することなどから高い専門性を身につけることができるようになる。			
授業の概要	何かしら複数の要因により、精神的に無力化されている人たちへの回復支援について考えていく。 また、精神保健福祉領域が中心課題であるが、対人援助の専門職となるための基本的な考えを事例を通して学び、基本的な文献で確認していく。 特に、実際の現場に足を運び、継続して関心をもち学んでいく。 各種研修会、学会への参加を予定している。またゼミ合宿を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参画度50% レポート課題50%		
フィードバック	授業で取り上げた文献とディスカッションを通して、毎回の授業内でおこなう。			
履修に際しての 注意事項	特に無し			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II					○		
III					○		
IV							

V							

テキスト1	授業時に相談	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「対人援助の技法」 尾崎新　誠信書房「ケアを受ける人の心を理解するために」 渡辺俊之　中央法規 「ケースワークの臨床技法」 尾崎　新　誠信書房 「援助するということ」 古川考順他　有菱閣 「心的外傷と回復」 ハーマン　みすず書房 「ボクのせいかも･･･」プルスアルハ　ゆまに書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期 　ソーシャルワーク、特に対人援助について基本的な文献を輪読し、対人援助の専門職としての必要な考え技法を身につけていく。 後期 　心的外傷を受けた人たちへの回復支援について、文献と事例から考る。 　その後、各自の研究テーマを設定していく準備に入る。 通年を通して、実際の支援の現場に触れる機会をできるだけもち、各人の関心を広げていきたい。 また、精神保健福祉関係の学会や研修会へ参加し、 新しい知識と現場の専門職からの学びを得る機会としたい。 授業方法 学生と教員の発表、ディスカッション,現場見学を中心にすすめる。 質問など話し合う中から学びを深める。
事前	各回の授業内容、課題が設定してあるため、各自の発表など役割を準備して授業に臨むこと。(2時間)
事後	授業内のディスカッションから自分の研究テーマを意識し、次の課題にのぞむこと。(2時間)

2020/07/16(木)22:21

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1060050
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 対人援助 精神保健 卒業研究

到達目標	精神保健福祉領域の援助者、つまり精神保健福祉士としての専門的知識、援助技術の修得を目指す。 また、各自が決めた研究テーマをさらに深めていくなかで、より主体的に課題に対して広い視野と知識を得ていくことができる。そのことが専門職としての専門性を高め新しい社会の課題に取り組む力となる。
授業の概要	精神保健福祉士としての専門的知識と援助技法の修得を目指し、最新の論文を輪読し、理解を深める。 また、各自の研究テーマの論文作成をおこない、毎回一名づつ論文の進捗状況の発表と討論をおこなう。 各自の研究テーマを中心としつつ、精神障害者への支援、東日本大震災被災地支援、養育者が精神疾患の子への支援など、何かしらの要因によって、無力化された人たちへの支援の具体的学びから、普遍的な、福祉専門職としての支援のあり方について、体験的に学んでいく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参画度40% 論文作成60%		
フィードバック	毎回の授業で行う発表、ディスカッションを通して課題について説明していく。			
履修に際しての 注意事項	特に無し			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III						○	
IV							

V							

テキスト1	特に無し	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	それぞれのテーマごとに紹介していく。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	前期 毎回の授業で、最新論文を輪読し精神保健福祉領域の先験的知見を学ぶ。また毎回一名の研究テーマを取り上げ進捗状況を確認しあう。 後期 各自の研究テーマに集中し、論文を完成させていく。 精神保健福祉関係の学会や研修会へ参加し、新しい知識や現場の専門職から学びを得る機会としたい。 また、ゼミ合宿を行い、集中して論文を完成させていく。 国家試験対策の取り組みも、相互に確認しあいすすめていく。 授業方法 学生と教員、相互の発表とディスカッションを中心に進める。
事前	各自の研究テーマに沿って準備し発表し検討しあうので、毎回の授業の準備をしてくること。(2時間)
事後	授業内のディスカッションから次の課題を考え次回の発表に向け準備していくこと。(2時間)

2020/07/16(木)22:21

科 目 名	スクールソーシャルワーク実習 [社心]			授業コード	1060073
副 題	学校生活を守る人びとから学ぶ				
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄、遠藤 建人				
教育現場で働くスクールソーシャルワーカーから直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク 学校教育 連携

到達目標	子どもたちが過ごす学校現場、学校組織を理解し、スクールソーシャルワーカーとしての資質、倫理、技能を身につけ教育現場における課題を見つけることができるようになる。さらに教職員、他機関との連携のあり方を実践的に学び、子どもや家庭、教職員から求められる課題に総合的に対応できるようになる。			
授業の概要	これまでの福祉と教育は、児童の最善の利益を追求する児童福祉と、児童の成長を支持する教育と、同じものを目指しながら、効果的に連携・協働できてきたとは言い難い。その背景には、連携・協働する前提としての相互理解が十分でなかったことは明らかである。しかし、本学ではスクールソーシャルワーク教育課程の開設により、社会福祉学科や心理福祉学科の学生にも、教育現場を体験する貴重な機会を得ることができるようになった。 本授業では、児童福祉と学校教育が同根異種であることを確認しながら、その連携・協働を促進し得るアプローチについて、実際に職務に従事するスクールソーシャルワーカーの実習指導の下、教育現場におけるソーシャルワークの実習を行う。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協調的に知識や技能の活用を図る。
評価方法及び評価基準		実習記録25%、実習先からの評価25%、巡回時の様子25%、実習報告25%などから総合的に評価する。		
フィードバック	実習のふりかえりと課題設定について実習指導者、教員と話し合っていく。			
履修に際しての注意事項	スクールソーシャルワーク実習指導と合わせて履修し全うすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III						○	
IV							○

V							

テキスト1	特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	NASW(2012)『NASW Standards for School Socialwork Services』 門田光司(2002)『学校ソーシャルワーク入門』中央法規 古橋啓介・門田光司・岩橋宗哉編(2004)『子どもの発達臨床と学校ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房　など	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	①学外実習に向けて □スクールソーシャルワーク実習の意義の考察 □スクールソーシャルワーク実習における個々の目標設定 □学校および教育委員会に関する基本的理解 （円滑な人間関係と援助関係を形成し、ニーズを把握し支援計画を作成する。さらにチームアプローチやケース検討の実際を学び、スクールソーシャルワーカーの役割や責任について理解を深める。） □実習先の地域および社会資源に関する基本的理解 □個人プロフィールの作成 □実習課題票の作成 □実習計画の作成 □事前実習の実施(10時間) ②学外実習（80時間）と並行して □実習記録の作成 □巡回指導 ③学外実習を終えて □実習のふりかえり □実習報告
事前	スクールソーシャルワーク論、演習、実習の授業を振り返り実習に臨む準備をすること。
事後	実習ノート、実習での経験などをまとめ実習報告会の準備に入れるように整理すること。

2020/07/16(木)21:08

科 目 名	精神科リハビリテーション学II [社]			授業コード	1060081
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	精神障害リハビリテーション 精神保健 援助技法 リカバリー

到達目標	精神科リハビリテーションの各種技法を、当事者の能力が発揮できるよう主体的に実践できるようになる。 精神障害者の回復について考えを深め精神保健福祉士の専門性について説明できるようになる。 精神障害者への支援を多角的に考えられるようになり、連携の必要性と実践の課題を理解できるようになる。 精神障害者への支援を理解することから、社会変革の必要性とその実践方法を理解できる。			
授業の概要	精神障害の障害特性、疾患の理解を踏まえたうえで、回復とは何かを考え、精神障害リハビリテーションの実践的理解と支援のプロセスについて学ぶ。特に各種援助技法を学び、多職種と連携した支援ができるようになる内容となる。そのため精神障害者への支援を多角的に考え支援者としての精神保健福祉士の専門性を考えグループワークを含めた授業となる。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	7回目の授業でグループワークを実施し発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	2回のレポート課題60% 、授業内グループワークなど授業への参加姿勢40%		
フィードバック	コメントシートを用意し次回授業で取り上げ説明する。			
履修に際しての 注意事項	授業の理解や進行上「精神医学」「精神科リハビリテーション学Ⅰ」を履修済みであることが望まれる。 授業ごとにレジュメおよび資料のプリントを用意して授業をすすめる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV							

V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「精神保健福祉士養成セミナー　第6版5　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 　ー精神保健福祉におけるリハビリテーションー」 へるす出版 「精神障害リハビリテーション学」金剛出版　その他授業時に文献を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	日本における精神科リハビリテーションの展開
事前	シラバスを読み授業の内容を理解し参考文献から日本における精神障害リハビリテーションの 歴史の内容を理解すること。(2時間)
事後	日本における精神障害リハビリテーションの展開について理解し説明できるようになること。(2時間)

2	医療機関における精神科リハビリテーション
事前	事前に配布した資料と参考文献から医療機関における精神障害リハビリテーションについて理解すること。(2時間)
事後	授業内容から医療機関における精神障害リハビリテーションを具体的に理解し説明できるようになること。(2時間)

3	心理教育プログラム
事前	事前に配布した資料と参考文献から心理教育について理解すること。特に家族への心理教育について準備すること。(2時間)
事後	授業内容ぁら心理教育を理解し説明できるようになること。(2時間)

4	集団精神療法
事前	事前に配布した資料と参考文献から集団の持つ支援の可能性を理解すること。(2時間)
事後	授業の内容から集団精神療法とグループワークの違いを理解し両方の実践ができるよう説明できるようにすること。(2時間)

5	認知行動療法
事前	事前の資料と参考文献から認知行動療法の考え方を理解すること。(2時間)
事後	授業の内容と事例から、認知行動療法を説明できるようになり支援で活用できるようになること。(2時間)

6	生活技能訓練
事前	配布した資料と参考文献から生活技能訓練の考え方を理解すること。
事後	授業の内容から生活技能訓練を理解し説明できるようになり支援に活用できるようになること。(2時間)

7	精神障害者の支援モデル
事前	事前に配布した事例を熟読し課題について考えてくること。授業ではグループワークを行う。(2時間)
事後	授業でのグループワークと発表から精神障害リハビリテーションの実際について理解を深め 後半の学びに興味関心、課題や疑問を整理すること。(2時間)

8	家族調整・支援の実際
事前	資料と参考文献から家族への支援の多様性や疾患による課題についても考え準備すること。(2時間)
事後	授業内容から、家族支援について説明し実践に結び付けられるようになること。(2時間)

9	地域を基盤としたリハビリテーション
事前	資料と参考文献から多様なニーズを持つ地域を基盤とした実践について理解すること。(2時間)
事後	授業の内容から地域を基盤とした精神障害リハビリテーションの必要性について説明できるようになること。(2時間)

10	精神障害者ケアマネジメントの原則と支援モデル
事前	資料と参考文献から精神障害ケアマネジメントの歴史と支援モデルについて熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業の内容からケアマネジメントの必要性と留意点を理解し支援モデルの特徴を説明できるようになること。(2時間)

11	アウトリーチ
事前	資料と参考文献からアウトリーチの必要性と課題について理解しておくこと。(2時間)

事後	授業内容からアウトリーチのについて説明できようになり。実践居に活用できるよう理解を深めること。(2時間)

12	ストレングスモデルとリカバリー
事前	資料と参考文献からストレングスモデル、リカバリーについて考察すること。(2時間)
事後	授業内容からストレングス、リカバリーについて説明できるようになること。(2時間)

13	地域生活支援としての精神科救急と身体合併症の課題
事前	資料と参考文献から、急性期の課題について理解すること。(2時間)
事後	授業内容から地域生活を支える、急性期や身体合併症などの理解対応を理解し説明できるようになること。(2時間)

14	精神科リハビリテーションにおける連携の課題
事前	資料参考文献からリハビリテーションの連携について理解を深めること。(2時間)
事後	授業の内容から連携の意義と課題、具体的な連携の留意点が説明できるようになること。(2時間)

15	地域生活を支援する包括的な支援
事前	事前に配布した資料と参考文献から地域における包括的支援について考えを深める。(2時間)
事後	授業の内容から地域包括支援の必要性に説明でき実践の課題を述べるようになること。(2時間)

2020/07/16(木)22:07

科 目 名	精神保健福祉援助演習I [社]			授業コード	1060091
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 精神保健福祉士 相談援助
到達目標	精神障害者の生活や生活上の困難さ、さらに疾患や障害の特性を理解し、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について、実践場面を想定し、個別指導、グループワーク、ロールプレイを用い主体的に協働する姿勢と表現する力を身につけることができる。 また、包括的な相談援助、医療との連携を中心とした多職種、多機関との連携を計れる能力を涵養する。 精神保健福祉士としての権利擁護の視点た自己決定の尊重などの理念、価値に関して体験的に理解し、コミュニケーションスキルを身につけ共感的理解ができるようになる。また主体的に多様な人々と協働していくことができるようになる。
授業の概要	精神保健福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術、そして理念倫理について実践的に学び習得する。 そのため、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回グループワーク、発表、ロールプレイのいずれかを行う。
評価方法 及び評価基準		ディスカッションにおける発言等の授業への参加50% 授業内の課題や諸活動への参加50%		
フィードバック	授業内のディスカッションを中心に毎回フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	相談援助の入り口の授業である。毎回の出席が前提で成り立っているため、その予定で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III					○		
IV							○

V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー7 (第6版) 精神保健福祉援助演習　へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	演習のすすめ方と確認
事前	シラバス読み授業の進め方内容について理解を深めておくこと。(30)分
事後	この授業の到達目標に向け自分の課題を考察しておくこと。(30分)

2	面接技法(出会いから関係づくりまで)
事前	参考文献などで面接技法について理解を確認しておくこと。(30分)
事後	確認した面接技法をロールプレイで身につけていくこと。また疑問をあげておくこと。(30分)

3	面接技法(信頼関係形成)
事前	精神障害者との信頼形成の面接技法を確認しておくこと。(30分)
事後	ロールプレイからの学びと精神障害者との関係形成について改めて確認しておくこと。(30分)

4	面接技法(応答の技法・やりとり)
事前	参考文献から面接技法について確認すること。(30分)
事後	面接技法を再確認し今後の課題について考察すること。(30分)

5	精神保健福祉領域のインテーク面接(関係形成と自己覚知)
事前	シナリオロールプレイを行うので、インテークに必要な面接技法や内容を確認すること。(30分)
事後	シナリオロールプレイからの学びでインテーク面接で重要な点をまとめておくこと。(30分)

6	精神保健福祉領域のインテーク面接(アセスメントに生かす面接技法)
事前	アセスメントの範囲や内容について確認しておくこと。(30分)
事後	シナリオロールプレイの面接からアセスメントに関して再度まとめること。(30分)

7	精神保健福祉領域のインテーク面接(困難事例を中心に)
事前	多問題等困難事例についての事例を読み込んでくること。(30分)
事後	困難事例を検討した内容を振り返り留意点についてまとめておくこと。(30分)

8	精神科医療機関におけるインテーク面接
事前	危機介入も含めた面接について考え確認してくること。(30分)
事後	シナリオロールプレイの経験を踏まえ学んだことを整理すること。(30分)

9	地域リハビリテーション施設におけるインターク面接
事前	ストレングスの視点、生活者の視点が生かせる相談援助について確認してくること。(30分)
事後	シナリオロールプレイからストレングス視点、生活者の視点について再確認し整理すること。(30分)

10	アセスメント(情報収集、整理、伝達)
事前	事例からアセスメントを学ぶため、アセスメントを確認してくること。(30分)
事後	事例からアセスメントの視点を再確認するので、整理すること。(30分)

11	プランニング(課題の発見、分析、解決技術)
事前	事例から支援計画を考えるため、支援経過の留意点を確認しておくこと。(30分)
事後	事例から学んだプランニングについて学んだことを整理すること。(30分)

12	モニタリングと再アセスメント
事前	事例からモニタリングと再アセスメントについて学ぶため、モニタリングについて確認しておくこと。(30分)
事後	事例から学んだモニタリングと再アセスメントについて整理すること。(30分)

13	終結
事前	事例から終結について検討するため、終結時の課題について確認しておくこと。(30分)
事後	事例から学んだ終結について整理すること。(30分)

14	ひきこもり状態の人への支援
事前	ひきこもり支援、アウトリーチに関して確認すること。(30分)
事後	事例から学んだひきこもり支援、アウトリーチ支援について整理すること。(30分)

15	危機状態の人への支援
事前	危機状態の人の理解の仕方などを再確認すること。(30分)
事後	事例から学んだ内容や主観的に感じる不安などの考え方を整理すること。(30分)

2020/07/16(木)22:08

科 目 名	精神保健福祉援助演習II [社]			授業コード	1060102
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 精神保健福祉士 相談援助
到達目標	精神障害者の生活や生活上の困難さ、さらに疾患や障害の特性を理解し、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について、実践場面を想定し、個別指導、グループワーク、ロールプレイを用い習得することができる。また包括的な相談援助、医療との連携を中心とした多職種、多機関との連携を計れる能力を涵養することができる。 具体的なさまざまな事例分析を他者との話し合いから学び、その結果をプレゼンテーションしていくなど自ら主体的に活動し協働し表現する力を身につけることができる。
授業の概要	精神保健福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術、そして理念倫理について実践的に学び習得する。そのため、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を行う。また、事例分析から支援の詳細について学び、支援計画がたてられるようにする。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 毎回グループワークを行い、援助場面を想定した事例検討、ロールプレイを行う。
評価方法 及び評価基準	ディスカションにおける発言等の授業への参加50% 授業内の課題や諸活動への参加50%
フィードバック	授業内のディスカッションを中心に毎回フィードバックする。
履修に際しての 注意事項	相談援助の入り口の授業である。毎回の出席が前提で成り立っているため、その予定で授業に臨むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III					○		
IV							

V						○	

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新版精神保健福祉士養成セミナー7(第6版) 精神保健福祉援助演習　へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	事例分析（事例検討の進め方）
事前	シラバスを読み事例検討についてソーシャルワークⅠ・Ⅱ・Ⅲの教科書の該当箇所を熟読しておくこと。(30分)
事後	授業内容から事例分析について整理しておくこと。(30分)

2	個別支援における事例分析
事前	精神保健福祉領域の支援の特徴を確認すること。(30分)
事後	事例検討から、支援の視点やアセスメントについて理解を深めたことを整理すること。(30分)

3	グループ支援における事例分析
事前	グループ支援の可能性と留意点について再確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討からグループを活用した支援の留意点と実践のについて理解を深め整理しておくこと。(30分)

4	社会的排除に関する事例分析
事前	社会的排除に関する内容について調べる。(30分)
事後	事例検討から社会的排除について理解を深めること。(30分)

5	地域移行、地域定着に関する事例分析
事前	地域移行、地域定着支援について確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討から地域移行、地域定着支援の多面的実際的な内容を整理しておくこと。(30分)

6	ピアサポート、パートナーシップ（協働）に関する事例分析
事前	ピアサポート、パートナーシップについて確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討からピアサポート、パートナーシップについて理解を深め支援の実際を把握し整理すること。(30分)

7	自殺対策に関する事例分析
事前	自殺対策、自殺問題について学んだことを整理しておくこと。(30分)
事後	事例検討から自殺対策における支援について整理しておくこと。(30分)

8	児童虐待に関する事例分析
事前	児童虐待、児童に関する課題についての学びを確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討から児童に関する支援の実際について理解を深める。(30分)

9	アルコール、薬物依存、摂食障害に関する事例分析
事前	依存症に関す内容を確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討から依存症の課題と支援お留意点を整理すること。(30分)

10	就労支援に関する事例分析
事前	就労支援について、今までの学習から確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討から精神障害領域の就労支援について理解を深め整理すること。(30分)

11	ホームレスに関する事例分析
事前	ホームレス支援について今までの学習内容を確認すること。(30分)
事後	事例検討からホームレス支援の留意点や新しい動きについて理解を深め整理すること。(30分)

12	危機介入における事例分析
事前	危機介入について学んだことを確認すること。(30分)

事後	事例検討から危機介入の考えと実際、留意点について整理すること。(30分)

13	アウトリーチ(訪問活動)における事例分析
事前	アウトリーチについて学習してきた内容を確認すること。(30分)
事後	事例検討からアウトリーチの意義と課題、実際の支援について整理すること。(30分)

14	ケアマネジメントに関する事例分析
事前	ケアマネジメントについて学習してきた内容を確認しておくこと。(30分)
事後	事例検討からケアマネジメントの意義と留意点について整理しまとめること。(30分)

15	チームアプローチとネットワーキング(連携)に関する事例分析
事前	連携の意義と課題について確認しておくこと。
事後	事例検討から連携の持つ必要性と課題、さらに留意点について整理しまとめること。(30分)

2020/07/16(木)21:32

科 目 名	精神保健福祉援助技術各論I [社]			授業コード	1060111
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク メンタルヘルス 精神保健福祉士 相談援助 権利擁護

到達目標	精神障害者の生活問題を理解し、具体的な問題解決のプロセスと、その連携・協働について理解し実践できるようになる。 具体的には、医療機関での相談援助から地域移行、地域定着支援、医療機関と地域の連携とその基本的な考えを理解し、さらに地域における相談援助の実際と社会情勢との関係を学び、ケアマネジメント、コミュニティワークの実際についても説明できるようになる。 また、権利擁護や自己決定の尊重など専門職としての倫理観を高め、精神障害者の地域生活を支援する保健・医療・福祉等との多職種協働による、包括的な支援の意義と展開について理解し説明できるようになる。

授業の概要	精神障害者に対する支援の基本的な考え方を学び、支援モデルや相談援助、退院促進 家族支援を学んでいく。そして多職種多機関連携の意義とアプローチを理解する。 また、精神医療にかかわる相談援助の専門職としての精神保健福祉士の基本的な視座を確認する。 そして、精神保健福祉分野を中心に、何かしらの困難を抱え生活する人たちの 地域生活支援における精神保健福祉士の本質を理解する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	5回目、14回目の授業でグループワークを実施し発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業コメントシート30%、授業内の課題や諸活動への取り組み20% レポート課題2回50%		
フィードバック	コメントシートは次回授業で説明する。また授業内レポート、テストについても授業内でフィードバックしていく。			
履修に際しての 注意事項	主体的であり、真摯な態度での受講を期待している。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II					○		
III							
IV							

V				○			

テキスト1	精神保健福祉士養成セミナー4 (第6版) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　へるす出版	9784892699078
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	第4版　これからの精神保健福祉　へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神疾患と障害の理解
事前	シラバスを読み授業の準備をすること。(1時間半)
事後	授業の進行を理解し参考書など準備すること。授業し配布した資料から精神疾患、障害について整理し理解すること。(2時間半)

2	我が国における精神保健医療福祉の歴史と動向
事前	教科書P74~P88を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から歴史的課題の整理をすること。(2時間)

3	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷と現状
事前	配布した資料と教科書P95~P110を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料・教科書を用い日本と諸外国の相違点を確認すること。(2時間)

4	精神保健福祉士の活動の歴史と領域の広がり
事前	教科書P119~P143を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から精神保健福祉士の歴史と理念を理解する。(2時間)

5	総合的かつ包括的援助の理解・精神保健福祉領域の事例分析
事前	グループ討議を行うため事前に渡した事例を熟読し課題についてまとめてくること。(2時間)
事後	事例の課題について話し合った内容と他のグループの発表と質疑応答から学んだことをまとめておく。(2時間)

6	精神障害者支援の理念Ⅰ(エンパワメント・パートナーシップ)
事前	配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と事前の学習から学んだ内容をまとめること。(2時間)

7	精神障害者支援の理念Ⅱ(リカバリー・ストレングス・リジリアンス)
事前	配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と事前の学習をまとめ精神保健福祉士の理念の理解を深めること。(2時間)

8	精神保健医療福祉領域における対象者
事前	教科書P50~P72と配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から精神保健福祉領域の対象者についての課題の理解を深めること。(2時間)

9	精神障害領域の人権擁護
事前	教科書P1~P62と事前に配布した資料を熟読し、課題について考察すること。(2時間)
事後	事前の課題と授業内容を復習し人権擁護、権利擁護の必要性と課題について言語化できるようにする。(2時間)

10	精神保健医療福祉領域における支援モデル(主体性の尊重、自己決定の尊重)
事前	事前に配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から事例を通して整理した内容の理解を深めること。(2時間)

11	相談援助の過程と対象者との援助関係Ⅰ(ニーズ発見から支援計画まで)
事前	教科書P151~P152と配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と提示した事例から復習すること。(2時間)

12	相談援助の過程と対象者との援助関係Ⅱ(プアランニング、再アセスメント、終結、評価)
事前	教科書P153~P156と配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と提示した事例から理解を深めること。(2時間)

13	相談援助活動のための面接技術

事前	教科書P156~P161と配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と配布した資料から精神障害者支援における面接の特徴について理解する。(2時間)

14	個別支援の実際と事例分析
事前	グループ討議するため配布した資料を熟読し課題をまとめること。(2時間)
事後	グループワークの内容と発表と授業内容と課題の考察から個別支援についてまとめること。(2時間)

15	集団を活用した支援の実際と事例分析
事前	配布した資料と事例を熟読すること。(2時間)
事後	課題と授業内容から集団を活用した支援を理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)21:16

科 目 名	精神保健福祉援助技術各論II [社]			授業コード	1060121
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 精神保健福祉士 精神保健福祉 相談援助

到達目標	精神保健福祉士として必要な援助理念、相談援助技術、知識の習得、医療機関、地域との連携の意義と展開を理解し説明できるようになる。 特にケアマネジメント、地域連携、ネットワーキングを習得し、専門職としてのスーパービジョン、コンサルテーションについて学びその内容を説明できるようになる。 また、多様な人々と協働し、主体的に精神障害者の生活問題などの課題解決に向けて活動していくことができるようになる。			
授業の概要	精神障害者の地域生活支援と地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的理解を深め、包括的な支援の意義と展開について学ぶ。また精神保健福祉士としての資質の向上に必要な援助理念、技法について確認しながら総合的な支援の意義について理解を深める。また精神保健福祉援助技術の授業、演習、実習を理論的にふりかえり、知識としてのまとめをおこなう。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	授業内試験の実施	13回目、14回目、15回目に持ち込み不可の小テストを3回実施50% 授業内の課題や諸活動への取り組み50%		
フィードバック	毎回コメントシートの内容をフィードバックしていき次回授業の内容に加えていく。			
履修に際しての 注意事項	精神保健福祉援助関連の授業の総まとめとして授業を進めていく。そのため主体的に自身の学びをまとめ上げていく姿勢が必要とされる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV							

V						○	

テキスト1	改訂　新版・精神保健福祉士養成セミナー4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開（各論Ⅰと同じテキストを使用する。）	978-4-89269-834-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時随時紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神障害者と家族との関係
事前	シラバス読み教科書P168.P194を熟読すること。(1時間半)
事後	授業内容と資料から理解を深めること。(2時間半)

2	家族支援の方法と課題
事前	配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から家族支援の課題について理解を深めること。(2時間)

3	コンサルテーションの意義と方法
事前	教科書P229~P231を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料からコンサルテーションについて理解を深めること。(2時間)

4	スーパービジョンの意義と方法
事前	教科書P220~P228を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料からスーパービジョンについて理解を深めること。(2時間)

5	地域移行の方法と体制
事前	配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から地域移行、地域定着支援について理解を深めること。(2時間)

6	精神保健福祉士の役割と多職種との連携
事前	教科書P270~P278を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と資料から地域連携、チーム医療の理解を深めること。(2時間)

7	地域を基盤とした相談援助Ⅰ（潜在的ニーズ）
事前	事前に配布した資料を熟読しニーズの現れ方と支援について課題を考えてくること。(2時間)
事後	授業内容と提示した事例から、アウトリーチを含め考察していくこと。(2時間)

8	地域を基盤とした相談援助Ⅱ（連携とネットワーキング）
事前	事前に配布した資料から地域連携、ネットワーキングの必要性に考えを深めてくること。(2時間)
事後	授業内容と資料及び事例から地域連携、ネットワーキングのあり方について具体的理解を深めること。(2時間)

9	精神障害者のケアマネジメントの意義と方法
事前	教科書P232~P234を熟読しケアマネジメント導入の意義について理解してくること。(2時間)
事後	授業内容と事例からケアマネジメントの意義について理解を深めること。(2時間)

10	精神障害者のケアマネジメントのプロセス
事前	教科書P244~P262を熟読してくること。
事後	授業内容と事例からケアマネジメントのプロセスを具体的に理解すること。(2時間)

11	地域を基盤とした支援とネットワーキング
事前	事前に配布した資料を熟読すること。(2時間)
事後	授業内容と事例から地域を基盤とした支援について理解を深めること。(2時間)

12	包括的な支援の意義と実際
事前	地域包括的な支援の意義と課題について事前の資料で理解を深めておくこと。(2時間)
事後	授業内容と事前の資料から地域包括支援の意義と実際について理解を深めること。(2時間)

13	精神保健福祉援助の理念のまとめと小テスト
事前	事前に指定した範囲の復習を十分にしてくること。(2時間)

事後	まとめと小テスト後の解答解説を復習し内容の理解を深めること。(2時間)

14	精神保健福祉援助の現状と課題についてのまとめと小テスト
事前	事前に指定した範囲の復習を十分にしてくること。(2時間)
事後	まとめと小テスト後の解答解説を復習し内容の理解を深めること。(2時間)

15	精神保健福祉援助の援助技法についてのまとめと小テスト
事前	事前に指定した範囲を十分易復習してくること。(2時間)
事後	まとめと小テスト後の解答解説を復習し理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)20:33

科 目 名	精神保健福祉援助実習指導(事後) [社]			授業コード	1060131
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	小田 敏雄				

科目に関する キーワード	精神保健福祉士 精神保健福祉 相談援助

到達目標	現場実習において体験した内容や援助活動を専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を身につけ、以下の4点を到達目標とし説明できるようになる。 ・実習での体験を言語化,概念化できる。 ・実習で体験したことを精神保健福祉援助理論と結び付けることができる。 ・グループで協働して作業ができ、その成果である精神保健福祉相談援助の知識と技術を発表できる。 ・主体性をもって多様な人々と学び、専門職倫理を身につけ社会変革の視点が身につき、新たな活動を考えることができるようになる。			
授業の概要	実習体験をグループで討議して概念化し、プレゼンテーションの準備をして実習報告会で発表する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	全ての授業がグループワークと報告会を含めプレゼンテーションなどの形式の授業になる。
評価方法 及び評価基準		授業内の諸活動への取り組み60%、実習報告会での発表内容40%。		
フィードバック	授業内ディスカッションでフィードバックしていく。			
履修に際しての 注意事項	授業には必ず出席すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							○
IV							○

V							○

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き―へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	各自の実習について発表 （実習Ⅰについて）
事前	実習ノートや実習中の振り返りから実習Ⅰについて振り返り発表の準備をすること。(30分)
事後	他の学生の発表から自分の実習を見直し内容を深めること。(30分)

2	各自の実習について発表 （実習Ⅱについて）
事前	実習ノートや実習中の振り返りなどから実習Ⅱの発表の準備をすること。(30分)
事後	他の学生の発表から自分の内容を見直し深めること。(30分)

3	各自の実習についての達成度と振り返り
事前	他の学生の報告からの学びと実習指導者からの評価を含め再度自分の実習を振り返ること。(30分)
事後	自分の体験をまとめ次回以降のグループでの発表の準備をすること。(30分9

4	実習体験の概念化・理論化（問題の洗い出しと抽出）
事前	グループの話し合いの準備をすること。(30分)
事後	グループで話し合った内容を改めて整理して行くこと。(30分)

5	実習体験の概念化・理論化（問題のグルーピング）
事前	次回授業で実習での学びをグループごとに抽出していくため準備すること。(30分)
事後	授業で抽出した内容を振り返り次回概念化につなげる準備をすること。(30分)

6	実習体験の概念化・理論化（問題の概念化）
事前	グループごとで話し合った内容の概念化の準備をすること。(30分)
事後	概念化した内容を実習体験に再度結び付け事後学修としてまとめる準備に入ること。(30分)

7	実習体験の概念化・理論化（問題と理論との結び付け）
事前	実習体験とその後の概念化を再度結び付け精神保健福祉援助のまとめに入る準備をすること。(30分)
事後	今までの議論をまとめ報告の準備に入り具体的な表現を詰めていくこと。(30分)

8	実習体験の概念化・理論化（総括）
事前	グループごとのまとめの作業に入る準備をすること。(30分)
事後	まとまってきな内容をプレゼンテーションする準備に入る。(30分)

9	実習報告会に向けたプレゼンテーション準備 （発表原稿の準備）
事前	プレゼンテーションの準備をする。(30分)
事後	授業でとりあげたプレゼンテーションの課題を再度復習し準備すること、(30分)

10	実習報告会に向けたプレゼンテーション準備 （パワーポイントの準備）
事前	プレゼンテーションの準備をすること。(30分)
事後	授業で取りあげたプレゼンテーションの課題を復習し再度準備を見直すこと。(30分)

11	実習報告会に向けたプレゼンテーション準備 （発表原稿とスライドの整合性のチェック）
事前	発表原稿を含めグループごとの準備をする。(30分)
事後	発表原稿を含め、再度見直し整理すること。(30分)

12	実習報告会リハーサル （第1グループの発表と講評）
事前	リハーサルの準備をすること。(30分)
事後	他のグループの発表から刺激を受け学んだことも含め見直しをすること。(30分)

13	実習報告会リハーサル （第2グループの発表と講評）
事前	リハーサルの準備をすること。(30分)

事後	他のグループの発表から学んだことも含め再度見直すこと。(30分)

14	実習報告会
事前	最終発表の準備をすること。
事後	他のグループの発表や全体の総評も含め、精神保健福祉援助実習の学びを考察すること。(30分)

15	実習指導事後最終確認
事前	実習、報告準備、報告会の内容から精神保健福祉援助実習の学びを整理すること。
事後	精神保健福祉援助実習と精神保健福祉士の援助について整理すること。(30分)

2020/07/17(金)08:28

科 目 名	精神保健福祉援助実習I [社]			授業コード	1060143
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	精神保健福祉士 精神障害 相談援助 地域生活支援
到達目標	精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、実習を通して精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求めれる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをねらいとし、以下の6点を到達目標とする。 ・利用者とコミュニケーションがとれ,信頼関係の形成ができるようになる。 ・その人と社会との関係をふまえたアセスメントができ、自己決定を尊重した支援計画が立てられる。 ・多様な人々や多職種と連携し支援の実際が行える能力が身につく。 ・専門職としての高い倫理観を持って相談記録が書け、多職種他機関と連携した支援計画をたてられるようになる。 ・総合的かつ包括的な地域生活支援を実践的に理解し、新たな視点で現状を把握し改善を提案できるようになる。 ・精神障害者の生活問題を理解し、その解決に向けた社会資源の活用を判断し、連携して支援できるようになる。
授業の概要	精神保健福祉士に必要な資質、技能、倫理を持ち、クライエントの課題に対して総合的に対応できる能力を身につけるため、地域の施設・機関等の現場において、実習指導者の指導のもと、精神障害者の置かれている現状を理解し、生活上の課題やニーズをアセスメントし支援を考える。
授業方法	実習 / アクティブラーニング	
評価方法及び評価基準	実習施設での評価、実習ノートの記入内容、実習への取組等を総合的に評価する。 質問、コメントにはその都度説明する。
フィードバック	実習中は毎日及び帰校日に実習のふりかえりと課題についてディスカッションを毎日おこなう。
履修に際しての注意事項	実習では欠席は認められない。既定の時間数及び内容が満たされなければならない。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III						○	
IV							○

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー8（第6版）精神保健福祉援助実習指導・現場実習、 へるす出版 新・精神保健福祉士養成講座第9巻「精神保健福祉援助実習指導・実習、中央法規出版 PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き―、へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1 実習に関するガイダンス 2 地域の施設・機関の役割、特徴の把握 3 福祉サービスの把握 4 福祉サービスの実践 6 利用者とのコミュニケーション 7 関係機関の理解 8 関係機関との連絡会への出席 9 アセスメントの実施 10 ケア計画の作成 11 ケア会議への出席 12 ボランティア、住民に関する理解 13 事例発表の準備 14 事例検討会
事前	講義科目、演習、実習事前学習を整理して実習に臨むこと。
事後	実習ノート、実習中の出来事など学んだ内容を整理し実習事後の学習課題を考察すること。

2020/07/16(木)22:33

科 目 名	精神保健福祉援助実習II [社]			授業コード	1060153
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小田 敏雄				
精神科医療機関で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	精神保健福祉士 精神障害 相談援助 精神科医療
到達目標	精神科医療機関における精神保健福祉援助実習をとして、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、実習を通して、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをねらいとし、以下の5点を到達目標とする。 ・入院患者とのコミュニケーションがとれ,信頼関係の形成ができるようになる。 ・グループワークや家族支援について理解を深め運営する能力が身につく。 ・権利擁護の視点と自己決定の尊重をはじめとする精神保健福祉士の基本姿勢が身につく。 ・多職種チームが連携する会議で主体的に発言し責任を持った支援活動を行えるようになれる。 ・政審障害者の生活問題を理解し、その解決に向けた社会資源の活用を判断し連携して支援できるようになる。
授業の概要	精神保健福祉士に必要な資質、技能、倫理を持ち、クライエントの課題に対して総合的に対応できる能力を身につけるため、精神科医療機関の現場において、実習指導者の指導のもと、精神障害者の置かれている現状を理解し、生活上の課題やニーズをアセスメントし支援を考える。
授業方法	実習 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		実習施設での評価、実習ノートの記入内容、実習への取り組み等を総合的に評価する。 質問、コメントにはその都度説明する。
フィードバック	実習中は毎日及び帰校日に実習のふりかえりと課題についてのディスカッションを毎日おこなう。	
履修に際しての 注意事項	実習では欠席は認められない。既定の時間数及び内容が満たされなければならない。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III						○	
IV							○

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー8（第6版）精神保健福祉援助実習指導・現場実習、へるす出版 新・精神保健福祉士養成講座第9巻「精神保健福祉援助実習指導・実習、中央法規出版 PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き―、へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1 実習に関するガイダンス 2 精神科医療機関の役割、特徴の把握 3 入院患者とのコミュニケーション 4 入院患者のアセスメント 5 通院医療の把握 6 相談援助の実践 7 デイケアでのグループワーク 8 訪問での相談援助の実践 9 ケア計画の作成 10 ケア会議への出席 11 多職種チーム連携会議への出席 12 事例発表の準備 13 事例検討会 14 まとめ
事前	講義科目、演習、実習事前学習を整理して実習に臨むこと。
事後	実習ノート、実習中の出来事など学んだ内容を整理し実習事後の学習課題を考察すること。

2020/07/16(木)20:32

科 目 名	ソーシャルワークI [心]			授業コード	1070021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関するキーワード	ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの歴史、ソーシャルワークの機能と役割、実践領域（ミクロ・メゾ・マクロ）、援助関係（バイスティックの7原則）

到達目標	・現代社会が抱える個人と社会をめぐるさまざまな問題から、ソーシャルワークの必要性を説明することができる。 ・ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係等について基本的知識を説明することができる。 ・ソーシャルワークとは何か、人と環境との交互作用とはどういうことか等を、例を示しながら説明することができる。			
授業の概要	この授業では、ソーシャルワークとは何かということを、ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係や面接技術等から幅広く学ぶ。 ソーシャルワークの講義科目は、ソーシャルワークI～IV、ソーシャルワーク総論I、IIからなっている。その一番基礎的な科目が本講義である。よって、人の幸せを支える学問であるソーシャルワークの基礎を理解するとともに、多種多様な場面で必要とされているソーシャルワークへの関心がより深まっていくことを目的としている。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・授業の理解度を確認するため、第8回の授業において確認テストを行う。なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。
評価方法及び評価基準	試験	授業に臨む態度及び提出物20%、試験80%（中間試験、期末試験）		
フィードバック	授業内で実施した中間試験については、事後の授業において返却し、その際に出題の意図について説明し講評する。各自定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての注意事項	ソーシャルワークの一番基礎的な科目であり、ソーシャルワーク演習や実習とも深く関連している科目である。よって、真剣にかつ主体的に授業に臨むこと。なお、私語に対しては厳しく対処する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法II 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053926
テキスト2	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法I 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト3	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	9784623053902
参考文献	授業時、必要に応じ紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：ソーシャルワークを学ぶにあたって
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」のはしがき、目次、序章を読んでくること。（1時間30分）
事後	新聞やテレビのニュース等から現代社会にまつわる問題をピックアップし、現代社会が抱える福祉的課題を自分なりにまとめておくこと。（2時間30分）

2	ソーシャルワークの範囲・人間と環境の理解
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」の第1章を読み、理解してくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、再度テキスト該当箇所を読むこと。（2時間）

3	ソーシャルワークの定義（旧定義との比較、社会変革～エンパワーメント）
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p9の定義は旧定義である。第1章を読み込み、新しい定義を調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、旧定義と新定義の違いの理解を深めること。また、「相談援助の基盤と専門職」p23－32を読んでくること（2時間）

4	ソーシャルワークの定義（社会正義～ウェルビーイング）
事前	ソーシャルワークの新定義の中でわからない用語を調べ、理解を深めてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、新定義を暗記してくること。「相談援助の基盤と専門職」p91の図3-2を理解してくること。（2時間）

5	ソーシャルワークの援助体系・歴史（SW前史～発展期）
事前	「相談援助の基盤と専門職」p33-59を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、ソーシャルワーク萌芽期から1940年代までの歴史を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

6	ソーシャルワークの歴史（モデル・アプローチ）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」p119表6-1、p120-145を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、1940年代以降のソーシャルワークのアプローチの動向を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

7	ソーシャルワークの実践領域・専門職性・4要素
事前	ソーシャルワーカーの専門性とは何か、各自調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、実践領域、専門職性、4要素を具体例をあげて説明できるように理解を深めておくこと。（2時間）

8	中間テスト・倫理綱領
事前	第1回～第7回までのプリントを復習しておくこと。（3時間）
事後	「相談援助の基盤と専門職」p132-147を読み込んでおくこと。（2時間）

9	中間テスト解説・ソーシャルワークの機能と役割（調整的機能、開発的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、調整的機能と開発的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

10	ソーシャルワークの機能と役割（代弁的機能、教育的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を再度読み込んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、代弁的機能と教育的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

11	ソーシャルワークと援助関係（個別化～意図的な感情の表出）

事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p126-136を読んでくること。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-137を読んで理解を深めてくること。(2時間)

12	ソーシャルワークと援助関係(統制された情緒的関与～秘密保持)
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-141まで読んでくること。(1時間30分)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、バイスティックの7つの原則をすべて覚えるとともに具体的に説明できるようにしてくること。(2時間30分)

13	ソーシャルワークの援助過程
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」第2章−第5章を読んでくること。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。(2時間)

14	ソーシャルワークの面接技術
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p68-94を読んでくること。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。(2時間)

15	まとめ・総復習
事前	授業内で配布したプリントすべてを復習してくること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ、理解を深めておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)20:36

科 目 名	ソーシャルワークII [心]			授業コード	1070032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク 援助プロセス グループ支援 家族支援

到達目標	・ソーシャルワークのインテークから終結まで、事例を通してソーシャルワークの一連のプロセスを説明することができる。 ・グループを用いた支援、家族支援の考え方などを学ぶなかで、ミクロからマクロまでの視点を持ち、ソーシャルワークの全体像を説明することができる。 ・グループを使って個人の成長を支援していくグループ支援の意義と原則、展開過程やアプローチ等について説明することができる。 ・人びとが抱える生活問題について理解し、その解決に向け他者と連携・協働できる知識を習得することができる。			
授業の概要	この授業ではソーシャルワークの基本的な視点と相談援助の理念を確認し、ソーシャルワークのプロセスを理解する。また個別援助から、グループを活用した援助、家族への援助と学習を進め、ソーシャルワークの総合的包括的な援助の意義と課題について学んでいく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験実施	授業に臨む態度及び提出物20%、試験80%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや小課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	ソーシャルワークの基盤科目であり、演習や実習とも深く関連している。そのため、真摯な態度で主体的に授業に取り組むこと。 尚、以下の教科書、参考文献はソーシャルワークⅠ、Ⅱ、Ⅲ、ソーシャルワーク演習、実習などの授業で共通して使用するテキストとなる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法I 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法II 岩間伸之他 ミネルヴァ書房 MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワークの形成過程
事前	シラバスを読み授業の進行を確認すること。また教科書、参考文献を読みソーシャルワークの必要性を考察する。(2時間)
事後	授業の内容と資料から、ソーシャルワークの形成過程について説明できるようにすること。(2時間)

2	ソーシャルワークが求められる背景
事前	教科書P1~P14を熟読し現代社会における課題を理解する。(2時間)
事後	授業内容から、現代社会においてソーシャルワーカーが発揮すべき機能について説明できるようにすること。(2時間)

3	総合的包括的援助について
事前	教科書P14~P23を熟読し地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を考える。(2時間)
事後	授業の内容から地域を基盤としたソーシャルワークの機能について説明できるようにすること。(2時間)

4	ソーシャルワークの援助プロセス
事前	事前に配布した資料を熟読し、援助プロセスについて理解すること。(2時間)
事後	授業の内容から援助プロセスの内容と課題を理解を深めること。(2時間)

5	ソーシャルワークのプロセスI（導入期）
事前	教科書P27~P42を熟読し、導入期の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から導入期の課題とアウトリーチの必要性について理解を深める。(2時間)

6	ソーシャルワークのプロセスII（事前評価）
事前	教科書P45~P68を熟読しアセスメントの内容と視点について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料からアセスメントについて理解し実践できるよう理解を深める。(2時間)

7	ソーシャルワークのプロセスIII（支援計画）
事前	教科書P69~P92を熟読し支援計画の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容を含め支援計画の要点について理解を深める。（2時間）

8	ソーシャルワークのプロセスIV（評価・終結）
事前	教科書のP93~P114を熟読し、モニタリングと終結の課題を考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から評価、終結の意義と課題について理解する。(2時間)

9	グループ支援（グループワーク）の形成過程
事前	教科書と参考文献からグループ支援の形成過程について熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の形成過程の理解を深める。(2時間)

10	グループ支援の意義と課題
事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の意義について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の意義と課題について理解を深める。(2時間)

11	グループ支援の実際と課題（事例から）
事前	事前に配布した事例を熟読し課題について考察してくること。(2時間)
事後	教科書の内容と事例の検討からあらためてグループ支援について復習する。(2時間)

12	グループ支援の実践原則
事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の実践原則について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料をからグループ支援お実践原則を具体的に理解を深めること。(2時間)

13	グループ支援の展開過程
事前	教科書P202~P207を熟読しグループ支援の展開過程について考えること。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループの展開過程の理解を深めること。(2時間)

14	家族支援の基本的視座
事前	教科書P208~P213を熟読し家族支援の構成要素について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から家族支援の概念と構成要素の理解を深める。(2時間)

15	家族支援の方法と課題
事前	教科書P214~P228を熟読し家族支援の方法と実際について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から家族支援の方法と課題について理解を深める。(2時間)

2020/07/16(木)22:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [心]			授業コード	1070040
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)21:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [心]			授業コード	1070050
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:24

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [心]			授業コード	1070061
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:07

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [心]			授業コード	1070072
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:49

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [心]			授業コード	1070080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。		
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [心]			授業コード	1070093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	小平 隆雄				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:06

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1070100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小平 隆雄				

科目に関する キーワード	地域福祉、研究方法

到達目標	1. 地域福祉の意義と方法について説明できるようになる。 2. 各自で研究テーマを設定し、自主的に研究活動ができるようになる。			
授業の概要	現代の地域社会・住民が抱える多様な課題についての理解を深め、地域福祉の推進方法について考えていく。その前提として、地域福祉の理念や歴史的展開、地域福祉の推進機関と体制、地域福祉推進に関する理論などの基礎的な学習が必要になる。その上で各地の実践事例や、自らの体験・活動をもとにしながら、課題を発見し、それに対して各自で研究を深めることになる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	指定した課題や自己の研究テーマについて、数回プレゼンテーションを行う。また、自己や他者の発表に関して、毎回ディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポートや各自の研究課題の成果50%、それに対しての取り組み姿勢50%		
フィードバック	毎回のディスカッションでは、担当教員とともに意見交換を行います。			
履修に際しての 注意事項	授業内の課題や各自の研究について定期的に発表を行う。発表者は、期日までに十分な準備を行い、責任を持って発表を行うこと。発表当日の無断欠席は許されない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期は地域福祉や社会的な問題に関するテキストの輪読を行う。当番に割り当てられた者が、担当範囲分の要点をレジュメにまとめ、発表する。そして、発表に基づいて全員でディスカッションを行う。 後期は各自が研究テーマを設定し個別研究を行う。授業では、研究計画の発表、中間発表、最終レポート発表を、順に割り当てて実施する。
事前	各自の研究課題について、授業時間外に自主的に学習を行うことは必須である。また、毎回の授業においては、取り扱うテーマについて事前に下調べを行うこと。（30分以上）
事後	各自の研究課題について、授業時間外に自主的に学習を行うことは必須である。また、毎回の授業後には授業で指摘をうけたこと、関心をもったことについて復習をすること。（30分以上）

2020/07/16(木)20:26

科 目 名	高齢者福祉論I [介]			授業コード	1080011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	高齢者の生活実態、高齢者福祉制度、介護概念
到達目標	授業のねらいは、高齢者の置かれた生活状況と生活課題を理解し、高齢者を支援する制度・施策・支援方法を学ぶことを通して、望ましい高齢者福祉のあり方を考える糸口を得ることである。到達目標は、(1)日本の超高齢化の状況を理解し説明できる(2)人間の尊厳と自立に関わる権利擁護について理解し説明できる (3)個人情報の保護、介護実践に関連する制度を理解し説明できる、の3点である。
授業の概要	超高齢社会到来の状況、高齢者の尊厳と人権・福祉理念、生きがいの喪失や介護問題、高齢者の自立など高齢者が直面している問題を学ぶ。そして、介護保険制度等の高齢者を支援する制度・施策、具体的な諸サービスを学ぶことにより、高齢者福祉実現への取組みを考えるきっかけにする。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準	試験	試験による評価を行う(授業中に実施する小テストを含む)。授業中の態度(15 %)、授業中に提出したレポート(15%)を評価し、試験結果(70%)に加点する。
フィードバック	講義を中心に行うが、できるだけ学生とのコミュニケーションを図るほか、節目で小テストを行い、理解度を確認する。
履修に際しての 注意事項	積極的な授業への参加が望ましい。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II						○	
III							
IV							

V							

テキスト1	「新・社会福祉士養成講座　第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」（第6版）	9784805851067
テキスト2	「介護保険制度とは…―制度を理解するために 」東京都社会福祉協議会	9784863532205
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	少子高齢社会と介護問題
事前	テキストを通読し、現代社会における高齢者に係る福祉問題を確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示された少子高齢社会における課題を再度確認し、知識の定着を図ること。（2.5時間）

2	高齢者・家族の生活実態と問題状況
事前	高齢者についての自らの考えを整理し、その上で、テキスト等で高齢者の生活に係る問題について確認に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ高齢者の生活及び家族の問題を再度確認し、知識の定着を図ること。（2.5時間）

3	高齢者施策の発展過程
事前	高齢者施策の発展過程についてテキストを通読し、戦後からこれまでの法制度について一定程度確認した上で授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示された高齢者福祉に係る法制度について、記憶するまで知識の定着を図ること。（2.5時間）

4	高齢者介護の概念・対象・介護予防
事前	高齢者の生活実態とその課題をあらためて確認し、その支援に必要な「介護」についてテキストを通読し、授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示された、「介護」の概念及び、介護予防が必要とされる根拠、実際の支援等について、あらためて確認し、知識の定着を図ること。（2.5時間）

5	介護保険制度の概要（1）保険者・被保険者・財源等
事前	テキストを通読し、介護保険制度の基本的な仕組みについて確認して、授業に出席すること。（1.5時間）
事後	介護保険制度の基本的な枠組みである、保険者・被保険者についての役割については記憶するまで知識の定着を図り、財源についての理解とともに現在の課題についても把握しておくこと。（2.5時間）

6	介護保険制度の概要（2）要介護認定・居宅介護支援等
事前	テキストを通読し、介護保険制度の利用からサービス提供に至る過程を確認して授業に出席すること。（1.5時間）
事後	要介護認定についての保険者の役割と具体的な内容及び、居宅介護支援事業者が担う制度上の役割について記憶するまで知識の定着を図ること。（2.5時間）

7	介護保険制度における国・市町村等の役割と実際
事前	テキスト等を通読し、介護保険制度における国および市町村の役割を確認し、授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示した、介護保険制度における国及び市町村の役割について記憶するまで知識の定着を図ること.。（2.5時間）

8	高齢者への具体的サービス（1）居宅サービス・施設サービス
事前	テキストを通読し、介護保険制度におけるサービスの内容等について確認し授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示された介護保険制における各サービスの目的・内容については、記憶するまで知識の定着を図ること。（2.5時間）

9	高齢者への具体的サービス（2）地域密着型サービスその他
事前	テキストを通読し、介護保険制度における地域密着型サービスの内容等について確認し授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で示された介護保険制度で提供される地域密着型サービス等について、記憶するまで知識の定着を図ること。（2.5時間）

10	老人福祉法、年金、医療制度等関連法制度
事前	テキストを通読し、老人福祉法、年金、医療制度等関連法制度について確認し、授業に出席すること。（1.5時間）
事後	老人福祉法、年金、医療制度等関連法制度についての法制度の基本的な枠組みを再度確認し、その上で、授業で示された覚えなくてはならないことは記憶するまで知識の定着を図ること。（2.5時間）

11	就労・生きがい対策
事前	テキスト等を通読し、就労をすることと生きがいについて、自らの考えを整理しておくこと。（1.5時間）
	授業で示された高齢者の就労あるいは生きがいづくりにかかわる法制度を理解するとともに、高齢者にとっての就労あるいは生き

事後	がいとは何か、自らの考えを整理しておくこと。(2.5時間)

12	高齢者虐待の防止
事前	テキストを通読し、虐待の定義および法制度における対応について確認して授業に出席すること。(1.5時間)
事後	高齢者虐待防止法の制定背景およびその内容、さらに、具体的対応について、授業で示された資料等を確認し、知識の定着を図ること。(2.5時間)

13	高齢者の移動の円滑化、居住の安定確保
事前	テキスト等で高齢者が買い物・通院といった移動をすることについての「しずらさ」を確認し、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	高齢者の移動を支援する法制度については記憶をするまで知識の定着を図る。さらに、高齢者の移動に係る昨今の課題について理解をし、自らの考えを整理すること。(2.5時間)

14	個人情報保護、情報開示・透明性の確保
事前	テキストを通読するなどして、個人情報保護、情報開示について確認し、事業者が果たすべき役割である事業の透明性の確保ついて自らの考えを整理し、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示された、個人情報保護法および情報開示に係る社会福祉法等の法制度について、再度確認し、知識の定着を図ること。(2.5時間)

15	まとめ
事前	これまでの授業で示された資料及び自らのノートを確認し、定着を図ることとされた法制度等について、再度知識の定着を図っておくこと。(1.5時間)
事後	これまでの授業を通して、高齢者の置かれた生活状況と生活課題を理解し、高齢者を支援する制度・施策・支援方法について再度知識の定着を図ること。その上で、望ましい高齢者福祉のあり方について自らの考えをまとめること。(2.5時間)

2020/07/16(木)21:06

科 目 名	高齢者福祉論II [社]			授業コード	1080021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	高齢者福祉制度・介護保険制度・地域包括ケアシステム・認知症ケア
到達目標	授業のねらいは、高齢者を支援する制度・サービス・支援方法を学ぶことを通して、福祉実践に反映でき、高齢者福祉の向上に貢献できることである。到達目標は、(1)高齢者を支援する制度・施策・具体的サービスが理解でき、説明できる、(2)関係する各組織や専門職の役割が理解でき、説明できる、(3)高齢者支援の具体的方法が理解でき、説明できる、(4)高齢者福祉の今後のあり方を考えることができ、説明できる、ことである。
授業の概要	介護保険制度その他の高齢者を支援する制度・施策、具体的な諸サービスの内容、各組織や専門職の役割を理解し、具体的支援方法を学ぶことにより、利用者との関わりや多職種との協働を促進し、活用することができる。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング
評価方法 及び評価基準	試験により評価を行う。 小テスト(15%)、授業中に提出したレポート(15%)を評価し、試験結果(70%)に加点する。
フィードバック	授業内で実施する小テストは、CCテスト(理解促進法)により実施する。その際、テストによって得られた知識・情報を確認し、定期試験に役立てること。
履修に際しての 注意事項	毎回の授業にテキストを持ってくること。ノートを取ること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	「新・社会福祉士養成講座　第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」（第6版）	978-4-8058-5807-3
テキスト2	東京都社会福祉協議会「介護保険制度とは…―制度を理解するために 」	978-4863532205
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	介護保険制度の仕組み
事前	テキストを通読するなどして、介護保険制度の利用者・行政・サービス提供者の関係、あるいは介護保険の財源等にについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度の利用者・行政・サービス提供者の関係等の仕組みを記憶すること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

2	介護保険制度における組織・団体、専門職の役割と実際
事前	テキストを通読するなどして、介護保険制度に係る組織・団体・専門職の役割を確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度における組織・団体・専門職の役割を記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

3	介護保険制度におけるサービス（居宅、施設、地域密着型）
事前	テキスト2で用意してある「介護保険制度とは」の介護保険制度におけるサービス（居宅、施設、地域密着型）を通読し授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度で提供される各サービスについて記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

4	介護報酬と介護保険財政
事前	テキスト2で用意してある「介護保険制度とは」の介護保険制度の財政部分を通読し、テキスト等を通読することにより介護報酬の基本的な考え方について理解した上で授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度の財政構造と報酬体系について、知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

5	地域包括支援センターの役割と実際
事前	テキストを通読するなどして、地域包括支援センターの役割を確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ地域包括支援センターが制度化された背景及びその役割について、記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

6	介護過程の展開
事前	介護過程におけるアセスメント・プランニング（計画化）・モニタリングについての基本的な考え方は事前に学習しておくこと。さらに、テキストを通読し、介護保険制度における介護展開過程について確認をして授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護過程について、各過程について記憶するまで知識の定着に務めること。また、アセスメント及びプランニングについては、事例をもとに自らが実践できるよう知識の拡大を図ること。(2.5時間)

7	認知症ケア
事前	テキストを通読するなどして、認知症ケアについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	認知症の疾患・症状、支援に必要とされる考え方について、知識の定着に務めること。さらに、認知症ケアの実践について理解を深めるため、テキスト及び授業資料等を再度確認し知識の拡大を図ること。(2.5時間)

8	ターミナルケア
事前	テキストを通読するなどしてターミナルケアについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	終末期の概念を理解し、社会福祉専門職として終末期に係る考え方を実践事例をもとに学び、知識の定着に務めること。その上で、終末期に係る自らの考え方を整理すること。(2.5時間)

9	自立に向けた介護方法
事前	テキストを通読し、「自立」とは何か、そのために専門職として必要な支援とは何か、確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	「自立」についての概念及び自立を支援する社会福祉専門職の役割について、テキストを再度確認し理解に努めること。(2.5時間)

10	高齢者のケアマネジメント

事前	介護過程について再度テキストを通読し、ケアマネジメントの基本的な考え方等を他の文献等を確認してから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	「ケアマネジメント」の概念について、知識の定着・拡大を図ること。さらに高齢者のケアマネジメントを実践するために社会福祉専門職に必要とされる技術について、テキスト等を再度確認し、知識の拡大を図ること。(2.5時間)

11	介護と住環境
事前	テキストを通読するなどして介護と住環境について確認してから授業に出席すること。(1.5時間)　(1.5時間)
事後	授業で学んだ介護と住環境について知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

12	老人福祉法その他関連法制度
事前	テキストを通読するなどして老人福祉法の概要およびその他の関連法制度を確認して授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業後は、ノートの整理，疑問点に関する調べをするなどして知識の定着・拡大を図ること。(2.5時間)

13	高齢者サービスの質の評価
事前	テキストを通読するなどして、福祉サービスの質の評価について確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で学んだ「福祉サービスの質」の概念を理解し、現在実施されている福祉サービスの質の評価に係る制度について記憶すること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

14	高齢者に対する支援の実際(事例)
事前	高齢者が施設及び居宅サービスを利用し、自立した日常生活を送るために、専門職はいかなる活動をしているのか、テキストを通読するなどして、事前に学習し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した高齢者に対する支援事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

15	まとめ
事前	高齢者に対する支援の現状と課題について、自らの言葉で伝えられるよう、再度これまで学んできたことを確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	高齢者に対する支援と介護保険制度で覚えておくべき語句・事項については、記憶するまでの知識を定着させること。さらに、社会福祉専門職として高齢者支援を行う上で必要とされる考え方については、再度、テキスト及び授業で提供された資料等を確認し、自らの言葉で伝えることができるようにすること。(2.5時間)

2020/07/16(木)11:11

科 目 名	高齢者福祉論II [介心]			授業コード	1080031
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	高齢者福祉制度・介護保険制度・地域包括ケアシステム・認知症ケア

到達目標	授業のねらいは、高齢者を支援する制度・サービス・支援方法を学ぶことを通して、福祉実践に反映でき、高齢者福祉の向上に貢献できることである。到達目標は、(1)高齢者を支援する制度・施策・具体的サービスが理解でき、説明できる、(2)関係する各組織や専門職の役割が理解でき、説明できる、(3)高齢者支援の具体的方法が理解でき、説明できる、(4)高齢者福祉の今後のあり方を考えることができ、説明できる、ことである。			
授業の概要	介護保険制度その他の高齢者を支援する制度・施策、具体的な諸サービスの内容、各組織や専門職の役割を理解し、具体的支援方法を学ぶことにより、利用者との関わりや多職種との協働を促進し、活用することができる。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験により評価を行う。	小テスト(15%)、授業中に提出したレポート(15%)を評価し、試験結果(70%)に加点する。		
フィードバック	授業内で実施する小テストは、CCテスト(理解促進法)により実施する。その際、テストによって得られた知識・情報を確認し、定期試験に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	毎回の授業にテキストを持ってくること。ノートを取ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	「新・社会福祉士養成講座　第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」（第6版）	978-4-8058-5807-3
テキスト2	東京都社会福祉協議会「介護保険制度とは…―制度を理解するために 」	978-4863532205
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	介護保険制度の仕組み
事前	テキストを通読するなどして、介護保険制度の利用者・行政・サービス提供者の関係、あるいは介護保険の財源等にについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度の利用者・行政・サービス提供者の関係等の仕組みを記憶すること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

2	介護保険制度における組織・団体、専門職の役割と実際
事前	テキストを通読するなどして、介護保険制度に係る組織・団体・専門職の役割を確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度における組織・団体・専門職の役割を記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

3	介護保険制度におけるサービス（居宅、施設、地域密着型）
事前	テキスト2で用意してある「介護保険制度とは」の介護保険制度におけるサービス（居宅、施設、地域密着型）を通読し授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度で提供される各サービスについて記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

4	介護報酬と介護保険財政
事前	テキスト2で用意してある「介護保険制度とは」の介護保険制度の財政部分を通読し、テキスト等を通読することにより介護報酬の基本的な考え方について理解した上で授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護保険制度の財政構造と報酬体系について、知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

5	地域包括支援センターの役割と実際
事前	テキストを通読するなどして、地域包括支援センターの役割を確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ地域包括支援センターが制度化された背景及びその役割について、記憶するまで知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

6	介護過程の展開
事前	介護過程におけるアセスメント・プランニング（計画化）・モニタリングについての基本的な考え方は事前に学習しておくこと。さらに、テキストを通読し、介護保険制度における介護展開過程について確認をして授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で学んだ介護過程について、各過程について記憶するまで知識の定着に務めること。また、アセスメント及びプランニングについては、事例をもとに自らが実践できるよう知識の拡大を図ること。(2.5時間)

7	認知症ケア
事前	テキストを通読するなどして、認知症ケアについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	認知症の疾患・症状、支援に必要とされる考え方について、知識の定着に務めること。さらに、認知症ケアの実践について理解を深めるため、テキスト及び授業資料等を再度確認し知識の拡大を図ること。(2.5時間)

8	ターミナルケア
事前	テキストを通読するなどしてターミナルケアについて確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	終末期の概念を理解し、社会福祉専門職として終末期に係る考え方を実践事例をもとに学び、知識の定着に務めること。その上で、終末期に係る自らの考え方を整理すること。(2.5時間)

9	自立に向けた介護方法
事前	テキストを通読し、「自立」とは何か、そのために専門職として必要な支援とは何か、確認してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	「自立」についての概念及び自立を支援する社会福祉専門職の役割について、テキストを再度確認し理解に努めること。(2.5時間)

10	高齢者のケアマネジメント

事前	介護過程について再度テキストを通読し、ケアマネジメントの基本的な考え方等を他の文献等を確認してから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	「ケアマネジメント」の概念について、知識の定着・拡大を図ること。さらに高齢者のケアマネジメントを実践するために社会福祉専門職に必要とされる技術について、テキスト等を再度確認し、知識の拡大を図ること。(2.5時間)

11	介護と住環境
事前	テキストを通読するなどして介護と住環境について確認してから授業に出席すること。(1.5時間)　(1.5時間)
事後	授業で学んだ介護と住環境について知識の定着に務めること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

12	老人福祉法その他関連法制度
事前	テキストを通読するなどして老人福祉法の概要およびその他の関連法制度を確認して授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業後は、ノートの整理，疑問点に関する調べをするなどして知識の定着・拡大を図ること。(2.5時間)

13	高齢者サービスの質の評価
事前	テキストを通読するなどして、福祉サービスの質の評価について確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で学んだ「福祉サービスの質」の概念を理解し、現在実施されている福祉サービスの質の評価に係る制度について記憶すること。その上で、現状の課題を再度学習し、自らの知識の拡大を図ること。(2.5時間)

14	高齢者に対する支援の実際(事例)
事前	高齢者が施設及び居宅サービスを利用し、自立した日常生活を送るために、専門職はいかなる活動をしているのか、テキストを通読するなどして、事前に学習し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した高齢者に対する支援事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

15	まとめ
事前	高齢者に対する支援の現状と課題について、自らの言葉で伝えられるよう、再度これまで学んできたことを確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	高齢者に対する支援と介護保険制度で覚えておくべき語句・事項については、記憶するまでの知識を定着させること。さらに、社会福祉専門職として高齢者支援を行う上で必要とされる考え方については、再度、テキスト及び授業で提供された資料等を確認し、自らの言葉で伝えることができるようにすること。(2.5時間)

2020/07/16(木)11:11

科 目 名	権利擁護と成年後見制度 [社心]			授業コード	1080042
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	権利擁護・成年後見制度・福祉サービスと法

到達目標	授業のねらいは、相談援助に必要とされる法や権利擁護について学ぶことを通して、相談援助に必要な法律知識を獲得し、権利擁護実践のあり方について具体的に考えることができる力を養うことである。到達目標は、(1)相談援助に関わる日本国憲法、行政法、民法の基本的事項を理解でき、説明できる、(2)成年後見制度及び関係する支援事業の概要が理解でき、説明できる、(3)権利擁護にかかわる組織・団体、専門職の役割が理解でき、説明できる、(4)成年後見活動、権利擁護活動の実際が理解でき、説明できる、ことである。			
授業の概要	相談援助活動に必要とされる法律知識の概要を学ぶ。また、権利擁護に関する基本的考え方、成年後見制度をはじめとする権利擁護の仕組みとその実際について学ぶ。これらを通し、高い倫理観を持ち、権利擁護の大切さを理解し、利用者の自己決定を基盤とする支援のあり方を探求でき、実践できるようにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験により評価を行う。	小テスト(15%)、授業中に提出したレポート(15%)を評価し、試験結果(70%)に加点する。		
フィードバック	授業で行う小テストについては、採点後に返却する。返却されたテストについては、再度確認し、周辺領域についてもテキスト等を参考にして、さらなる知識の習得を行う。			
履修に際しての 注意事項	テキストを通読し、その上で授業に臨むこと。必要に応じて法律条文を理解できるようポケット六法等を購入し、授業内で指示した場合には持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・社会福祉士養成講座19権利擁護と成年後見制度　第4版』社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版	9784805839362
テキスト2	『成年後見制度とは・・・改訂第3版』監修　額田　洋一（弁護士）　東京都社会福祉協議会	9784863532717
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	相談援助活動と法との関わり
事前	福祉サービスの提供過程で何故に法律が必要とされるのか、テキスト等を参考に自らの考えをまとめ、授業に出席すること。（1.5時間）
事後	相談援助活動と法律との関係について授業で理解できたことを整理し、法律を学ぶことの重要性とその具体的な自身の目標を設定し、今後の授業での自らの計画を作成すること。（2.5時間）

2	日本国憲法の基本原理の理解
事前	福祉サービスと憲法が特に関係する条文については、事前に確認をしておくこと。特に、憲法25条については、その条文とこれまでの判例について把握をして授業に参加すること。（1.5時間）
事後	授業で確認した福祉サービスに係る日本国憲法の条文については、確実に記憶し、その上で、サービス提供過程における課題と現在の動向を確認し知識の定着を図ること。（2.5時間）

3	民法の理解
事前	福祉サービスと民法の関わりについて、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で確認した民法の考え方、必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。（2.5時間）

4	行政法の理解
事前	福祉サービスと行政法の関わりについて、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で確認した民法の考え方、必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。（2.5時間）

5	成年後見制度の概要
事前	成年後見制度の成立過程、及び、その後の制度改正の概要について、テキスト等から確認し授業に出席すること。（1.5時間）
事後	成年後見制度の成立過程およびその後の制度改正については記憶するまで、知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。（2.5時間）

6	成年後見制度（後見、保佐、補助の概要）
事前	テキストで提示した「成年後見制度とは」の成年後見制度の類型（後見・補助・補佐）について、通読してから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	成年後見制度の各類型（後見・補助・補佐）についての、その内容は記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。（2.5時間）

7	成年後見制度（任意後見制度）
事前	テキストで提示した「成年後見制度とは」の、任意後見制度について、通読してから授業に出席すること。（1.5時間）（1.5時間）
事後	成年後見制度における任意後見制度の内容を、記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。（2.5時間）（2.5時間）

8	民法における親権や扶養の概要
事前	福祉サービスと民法における親権、扶養との環形について、テキスト等を通読し、最近起きた事案等を新聞等で調べるなどしてから授業に出席すること。（1.5時間）
事後	授業で確認した民法における親権そして扶養の考え方、及び、問題解決に必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。（2.5時間）

9	成年後見制度の最近の動向
事前	成年後見制度に係る最近の制度改正の動向等を、テキストを通読するなどして調べ授業に出席すること。（1.5時間）
事後	成年後見制度の最近の動向について、授業で提供したデータ等は再度確認し、記憶するまで知識の定着に勤め，さらに新たなデータの収集等、知識の拡大を図ること。（2.5時間）

10	日常生活自立支援事業

事前	日常生活自立支援事業について、テキストを通読し制度の成立の背景および成立過程を確認し、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	日常生活自立支援事業ついて、その内容を記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

11	成年後見制度利用支援事業
事前	老人福祉法等の成年後見制度利用支援事業について、テキストを通読し、法律を確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	成年後見制度利用支援事業ついて、その内容を記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

12	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
事前	成年後見制度および日常生活自立支援事業に係る機関・専門職について、テキストを通読し確認し、さらにその他の制度に係る機関について調べ、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	権利擁護事業に係る機関とその役割ついては、記憶するまで知識の定着を務め、その上で、実際の活動内容と現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

13	権利擁護活動の実際(認知症を有する者への支援の実際、消費者被害を受けた者への対応の実際)
事前	昨今の認知症高齢者に係る事件、及び高齢者の消費者被害について、新聞等から情報収集し、その上で、テキスト等を確認して授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

14	権利擁護活動の実際(被虐待児・者への対応の実際、アルコールなど依存者への対応の実際、非行少年への対応の実際)
事前	被虐待児・者への権利擁護活動について、その実践を出来得る限り、新聞あるいはインターネット等で調べ、さらにテキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

15	権利擁護活動の実際(ホームレスへの対応の実際、多問題重複ケースへの対応の実際、障害児・者への対応の実際)
事前	生活困窮者(ホームレス、多問題重複ケース等)に生じている実際の問題を新聞、インターネット等で調べ、さらに、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:52

科 目 名	権利擁護と成年後見制度 [介心]			授業コード	1080052
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	権利擁護・成年後見制度・福祉サービスと法

到達目標	授業のねらいは、介護実践、権利擁護実践に必要とされる制度・施策の基本的考え方としくみについて学ぶことを通して、基礎的な知識を獲得し、権利擁護実践のあり方について具体的に考えることができる力を養うことである。到達目標は、(1)介護実践、権利擁護に関わる日本国憲法、行政法、民法の基本的事項を理解でき、説明できる、(2)成年後見制度及び関係する支援事業等の制度の概要が理解でき、説明できる、(3)権利擁護にかかわる組織・団体、専門職の役割が理解でき、説明できる、(4)成年後見実践、権利擁護実践の実際が理解でき、説明できる、ことである。			
授業の概要	介護実践、相談援助実践に必要とされる基礎的な知識の概要を学ぶ。また、権利擁護に関する基本的考え方、成年後見制度をはじめとする権利擁護の仕組みとその実際について学ぶ。これらを通し、人間の尊厳等の高い倫理観を持ち、権利擁護の重要性を理解し、利用者の自己決定を基盤とする支援のあり方を探求でき、実践できるようにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験により評価を行う。	小テスト(15%)、授業中に提出したレポート(15%)を評価し、試験結果(70%)に加点する。		
フィードバック	授業で行う小テストについては、採点後に返却する。返却されたテストについては、再度確認し、周辺領域についてもテキスト等を参考にして、さらなる知識の習得を行う。			
履修に際しての 注意事項	テキストを通読し、その上で授業に臨むこと。必要に応じて法律条文を理解できるようポケット六法等を購入し、授業内で指示した場合には持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・社会福祉士養成講座19権利擁護と成年後見制度　第4版』社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版	978-4-8058-3936-2
テキスト2	『成年後見制度とは・・・改訂第3版』監修　額田　洋一（弁護士）　東京都社会福祉協議会	978-4-86353-271-7
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	相談援助と法、権利擁護のかかわりの理解
事前	福祉サービスの提供過程で何故に法律が必要とされるのか、テキスト等を参考に自らの考えをまとめ、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	相談援助活動と法律との関係について授業で理解できたことを整理し、法律を学ぶことの重要性とその具体的な自身の目標を設定し、今後の授業での自らの計画を作成すること。(2.5時間)

2	日本国憲法の基本的理解
事前	福祉サービスと憲法が特に関係する条文については、事前に確認をしておくこと。特に、憲法25条については、その条文とこれまでの判例について把握をして授業に参加すること。(1.5時間)
事後	授業で確認した福祉サービスに係る日本国憲法の条文については、確実に記憶し、その上で、サービス提供過程における課題と現在の動向を確認し知識の定着を図ること。(2.5時間)

3	行政法の基本的理解
事前	福祉サービスと民法の関わりについて、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で確認した民法の考え方、必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。(2.5時間)

4	民法の基本的理解
事前	福祉サービスと行政法の関わりについて、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で確認した民法の考え方、必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。(2.5時間)

5	成年後見制度の概要の理解(1)(法定後見制度)
事前	成年後見制度の成立過程、及び、その後の制度改正の概要について、テキスト等から確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	成年後見制度の成立過程およびその後の制度改正については記憶するまで、知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

6	成年後見制度の概要の理解(2)(任意後見制度、成年後見制度の動向)
事前	テキストで提示した「成年後見制度とは」の成年後見制度の類型(後見・補助・補佐)について、通読してから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	成年後見制度の各類型(後見・補助・補佐)についての、その内容は記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

7	日常生活自立支援事業及び成年後見制度利用支援事業の理解
事前	テキストで提示した「成年後見制度とは」の、任意後見制度について、通読してから授業に出席すること。(1.5時間) (1.5時間)
事後	成年後見制度における任意後見制度の内容を、記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間) (2.5時間)

8	権利擁護の基本的考え方、仕組み、動向の理解
事前	福祉サービスと民法における親権、扶養との環形について、テキスト等を通読し、最近起きた事案等を新聞等で調べるなどしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で確認した民法における親権そして扶養の考え方、及び、問題解決に必要とされる条文等については、再度学習し知識の定着を図ること。(2.5時間)

9	権利擁護にかかわる組織・団体の理解
事前	成年後見制度に係る最近の制度改正の動向等を、テキストを通読するなどして調べ授業に出席すること。(1.5時間)
事後	成年後見制度の最近の動向について、授業で提供したデータ等は再度確認し、記憶するまで知識の定着に勤め，さらに新たなデータの収集等、知識の拡大を図ること。(2.5時間)

10	権利擁護にかかわる専門職の理解

事前	日常生活自立支援事業について、テキストを通読し制度の成立の背景および成立過程を確認し、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	日常生活自立支援事業ついて、その内容を記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

11	成年後見制度の実際の理解(1)(認知症の人への支援の実際他)
事前	老人福祉法等の成年後見制度利用支援事業について、テキストを通読し、法律を確認し授業に出席すること。(1.5時間)
事後	成年後見制度利用支援事業ついて、その内容を記憶するまで知識の定着を務め、その上で、現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

12	成年後見制度の実際の理解(2)(知的・精神障害者への支援の実際)
事前	成年後見制度および日常生活自立支援事業に係る機関・専門職について、テキストを通読し確認し、さらにその他の制度に係る機関について調べ、授業に出席すること。(1.5時間)
事後	権利擁護事業に係る機関とその役割ついては、記憶するまで知識の定着を務め、その上で、実際の活動内容と現状で課題とされていることについてはテキスト等で調べ知識の拡大を図ること。(2.5時間)

13	権利擁護活動の実際の理解(1)(高齢者虐待対応他)
事前	昨今の認知症高齢者に係る事件、及び高齢者の消費者被害について、新聞等から情報収集し、その上で、テキスト等を確認して授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

14	権利擁護活動の実際の理解(2)(ホームレス支援他)
事前	被虐待児・者への権利擁護活動について、その実践を出来得る限り、新聞あるいはインターネット等で調べ、さらにテキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

15	まとめ
事前	生活困窮者(ホームレス、多問題重複ケース等)に生じている実際の問題を新聞、インターネット等で調べ、さらに、テキストを通読するなど下調べをしてから授業に出席すること。(1.5時間)
事後	授業で示した権利擁護活動の事例を再度確認し、必要とされる具体的な支援内容についてテキスト等で自身が理解できるまで通読すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:59

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	1080060
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)10:43

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [社]			授業コード	1080071
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関するキーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:50

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1080080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:27

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1080093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	小野 孝嘉				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:02

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1080100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	社会福祉研究・高齢者福祉制度・地域包括ケアシステム

到達目標	各学生がこれまでに学習した専門領域に関する学問的知識や技能あるいは実習体験をもとに問題意識を明確にしながら自主的な研究課題を明確にできる。その上で、関連した文献研究の学習、現実に実践で生じている事実について調査・分析を行うことができる。			
授業の概要	授業では、高齢者に係る現代社会の政策課題から、実践で起きている課題に至るまで幅広く外観し、自身の研究課題を探求する。また、研究課題の設定方法・文献研究・調査方法について、テキストを各自からの発表を通して学ぶこととする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期については、研究方法を理解するために、チームを組んで、テキストの内容を発表する。後期については、研究課題を各自が他のメンバーにわかるように資料作成をして、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中への課題への取り組み状況（50%）、研究課題の発表内容（50%）による総合判定。課題発表は、情報収集内容、分析方法、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。		
フィードバック	授業において発表を行うなかで、各自に研究課題を明確にするための研究活動の方針と具体的内容を指導する。各自は、指導内容を理解した上で、日々の研究活動を行うこととする。			
履修に際しての 注意事項	学習の内容 各自の分担発表の準備を積極的に行うこと。また、終了後には、議論の中身を整理しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン』(有斐閣アルマ)	978-4641123014
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1　本ゼミナールでは以下の高齢者福祉に係る課題について、研究対象とする。 ○高齢者福祉サービスの供給主体（社会福祉法人・特定非営利活動法人・営利企業等）が行うサービス提供に係る運営および経営についての研究 ○高齢者福祉サービスに係る専門職の人材育成についての研究 ○福祉サービス利用者の権利擁護とその具体的支援施策の研究 ○地域包括ケアシステムの実践過程に係る研究 ○住民と福祉および保健・医療等の連携協働についての実践研究（地域福祉コーディネータの養成に係る研究など） ○災害時のおける社会福祉施設・事業所で実施される支援活動についての研究 2　授業計画については、以下の通りとする。 【前期】自分はどのような研究（研究課題）をしたいのか？研究はどのように進める（研究の進め方）のか？具体的な研究活動を概観することにより学ぶ。 【後期】実際の地域あるいは社会福祉供給主体（法人・施設・事業所）で起きている高齢者福祉・権利擁護等に係る課題を把握し、自らの研究課題を明確にする。
事前	これまでの授業等で得た知識・情報について、疑問あるいはさらに深めたいとする課題を整理することが必要となる。 【事前学習】 1. 高齢者福祉に係る知識・情報の整理 2. 研究課題の発見 3. 研究課題に関する資料収集と整理 4. 収集・整理した資料の読み込みと傾向分析 5. 分析結果から研究仮説の設定 6. これらのとりまとめと報告（プレゼンテーション）の準備 各回の授業の予習に2.0時間の取り組みを行うこと。
事後	【事後学習】 5. 報告（プレゼンテーション）結果で得た指導内容あるいは他者の意見などの整理 6. 新たな文献・資料などの収集と整理　→【事前学習へ】 各回の授業の復習に2.0時間の取り組みを行うこと。

2020/07/16(木)22:22

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1080110
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	小野 孝嘉				

科目に関する キーワード	社会福祉研究・高齢者福祉制度・地域包括ケアシステム

到達目標	自らが設定した研究課題について、調査・研究を進めていく。課題に係る実践について確認するとともに、課題及びその解決法等の検証のために必要とされる調査方法を決定し、実際に調査を行うことができる。調査で得られた情報を分析し、得られた知見を他者に伝えるため、プレゼンテーション及び論文作成を行うことができる。			
授業の概要	授業では、高齢者に係る現代社会の政策課題から、実践で起きている課題に至るまで幅広く外観し、自身の研究課題を探求する。研究課題を明確にした後に、調査研究及び分析方法を学び、研究課題を探求するための具体的方法を実践する。その上で、新たな知見を他者に伝えるための論文作成の具体的方法を学ぶこととする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	自らの考えを他者に伝える力を研鑽するため、研究課題及び研究の具体的進捗状況、そして最終的には研究成果を他者に伝える報告会を実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中への課題への取り組み状況（50%）、研究課題の発表内容（50%）による総合判定。課題発表は、情報収集内容、分析方法、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。		
フィードバック	授業において発表を行うなかで、各自に研究課題を明確にするための研究活動の方針と具体的内容を指導する。各自は、指導内容を理解した上で、日々の研究活動を行うこととする。			
履修に際しての 注意事項	学習の内容 各自の分担発表の準備を積極的に行うこと。また、終了後には、議論の中身を整理しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	特に定めず、必要に応じて提示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1　本ゼミナールでは以下の高齢者福祉に係る課題について、研究対象とする。 ○高齢者福祉サービスの供給主体（社会福祉法人・特定非営利活動法人・営利企業等）が行うサービス提供に係る運営および経営についての研究 ○高齢者福祉サービスに係る専門職の人材育成についての研究 ○福祉サービス利用者の権利擁護とその具体的支援施策の研究 ○地域包括ケアシステムの実践過程に係る研究 ○住民と福祉および保健・医療等の連携協働についての実践研究（地域福祉コーディネータの養成に係る研究など） ○災害時のおける社会福祉施設・事業所で実施される支援活動についての研究 2　授業計画については、以下の通りとする。 【前期】研究計画を作成し、課題把握および解決方法の検証等を行うための、具体的な調査方法について決定し、調査研究活動を行う。 【後期】調査研究活動で得られた情報を分析する。その上で、新たに得られた知見をまとめ、報告会等でのプレゼンテーションを行い、さらに論文を作成する。
事前	1. 調査方法についての理解 2. 研究課題の明確化 3. 研究計画の作成 以上のことは、授業等で得られた知識・情報を確認しておくこと。（0. 5時間） 各回の授業の予習に2時間の取り組みを行うこと。
事後	【事後学習】 5. 報告（プレゼンテーション）結果で得た指導内容あるいは他者の意見などの整理 6. 新たな文献・資料などの収集と整理 7. 研究で得られた知見についての論文執筆 （0. 5時間） 各回の授業の復習に2.0時間の取り組みを行うこと。

2020/07/16(木)21:59

科 目 名	発達心理学/発達心理学I [社介]			授業コード	1090012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	定型・非定型発達、愛着、生涯発達

到達目標	1. 子どもの心身の発達および学習の過程について説明することができる 2. 発達障害のある子どもの状態と支援について説明することができる 3子どもの問題に対する生徒指導のあり方について説明することができる. 4. 子どもや親に対する心理的援助について説明することができる 5. 子どもの自立に必要な心理教育について説明することができる			
授業の概要	発達とは、人が誕生してから死を迎えるまでに経験するさまざまな変化のことを意味する。本授業では、乳児期から老年期までの発達段階を対象とし、各発達段階の心理的発達について概説する。定型発達および、発達障害と呼ばれる非定型発達の発達支援についても理解を深めることをねらいとする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	試験	授業中の活動（20%）、コメントシーと（20%）、確認テスト（20%）、期末テスト（40%）。授業の理解度を確認するため、第9回の授業において確認テストを行う予定である。 得点の分布によって、配点を調整する可能性がある。		
フィードバック	割り当てた課題の発表やコメントシーとの良い点や改善点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について授業内で解説を行うとともに、結果を返却する 。			
履修に際しての 注意事項	頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為、課題に取り組まない場合は、減点の対象となる。 授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			
IV			○				

V							

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	きほんの発達心理学　佐伯素子・齊藤千鶴・目良秋子・眞榮城和美（著）　おうふう その他、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	発達心理学とは
事前	発達心理学の参考文献を概観し、実験による発達過程の検証方法について理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、発達心理学の社会的意義について理解したことを記述すること（2時間）。

2	乳幼児における心の発達
事前	愛着とは何か、また愛着の型について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、愛着の形成の重要性、および愛着が形成される過程について記述し、知識の定着を図ること（2時間）。

3	乳幼児における言葉の発達
事前	定型発達の言語獲得の過程について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、言語を獲得するための支援についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

4	幼児期と児童期における知能の発達
事前	知能とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、幼児期と児童期における認知発達の過程についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

5	社会性の発達その支援
事前	社会性とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、社会性の発達に影響を当てる要因について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

6	親に対する発達の心理教育と家族支援
事前	ペアレントトレーニングとは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、生活技術を獲得するための環境調整と強化の例について具体的に記述し、知識の定着を図ること（2時間）。

7	特別な支援が必要な幼児に対する教育
事前	自閉スペクトラム症の幼児の行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自閉スペクトラム症の幼児の療育についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

8	特別な支援が必要な児童生徒に対する教育
事前	自閉スペクトラム症と注意欠如多動症の行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、通常学級における特別支援教育の実践についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

9	道徳性の発達
事前	ピアジェの道徳性の発達について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	ジレンマ課題を通じ、自らの道徳性の発達段階を理解し、他の段階と比較すること（2時間）。

10	青年期の発達：心理的離乳
事前	青年期の親子関係について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、青年期の親子関係について、葛藤や自立をキーワードにまとめること（2時間）。

11	成人期初期の発達：キャリア形成
事前	キャリア形成とは何か、参考文献等を踏まえ、生涯学習の観点から自らの考えをまとめておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自らのキャリア形成の段階を捉え、今後必要なキャリア形成に関する活動を考察すること（2時間）。

12	成人期の発達：ジェネラティビティ
事前	ジェネラティビティとは何か、エリクソンの発達段階を踏まえ、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、成人期の心理の特徴と、近年の我が国の成人の発達特徴についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

13	老年期の発達：サクセスフル・エイジング
事前	サクセスフル・エイジングとは何か、発達心理学や老年学の参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。

事後	授業を踏まえ、老年期の心理の特徴とサクセスフル・エイジングを支える環境についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

14	発達と環境
事前	近年のメディアの発達について、新聞等を基に概観してくること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、メディアの発達や文化の差が発達に及ぼす影響についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

15	まとめ
事前	これまでの授業を振り返り、疑問点を抽出してくること（1時間）。
事後	各発達段階における認知・心理・社会性の特徴についてまとめ、知識の定着を図ること。また、発達心理学の定説に疑問を持つ点については、環境の変化が発達に及ぼす影響について考察すること（3時間）。

2020/07/16(木)21:38

科 目 名	臨床心理学実習 [心]			授業コード	1090021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	アセスメント、自己開示、コミュニケーション

到達目標	1. 心理臨床体験を通し、自己の特性や状態について理解する。 2. 心理臨的課題について、認知・行動・情動の側面から捉えることができる。 3. 心理的課題に対する問題解決の方法について理解する。			
授業の概要	本実習では、心理臨床におけるかかわりの基本を学ぶことを目的としている。 ロールプレイなどの体験を通じ、心理臨床における非言語・言語的コミュニケーションの感性を養うことを目的とする。また、他者とかかわる中で自己についての体験的な理解を求め、支援者としての職業倫理及び活動許容範囲について学ぶことを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	心理臨床の実践について、ロールプレイを交え体験的に学ぶ。また、その体験による心身に及ぶ効果について発表する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業の理解度を確認するため、第15回の授業において確認テストを行う。 授業中の実習（40%）、実習に関するコメントシート（20%）、確認テスト（20%）、レポート（20%） 得点の分布によっては、配点を調整する可能性がある。		
フィードバック	学生の発表の良い点および改善点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について授業中に解説を行うとともに、結果を返却する。			
履修に際しての 注意事項	実習をグループで行うため、遅刻をしないこと。頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為や、実習に参加しない場合は減点の対象となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV			○				

V							

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	フォーカシングはみんなのもの コミュニティが元気になる31の方法 村山正治（監修） 創元社 発達障害の人の会話力がぐんぐん伸びる アイスブレイク&ワークショップ (こころライブラリー) 冠地情・かなしろにゃんこ。（著） 講談社 その他、適宜指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理検査法を用い、自己理解を深める①：エゴグラムの概要
事前	交流分析とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自己と他者の交流の特徴について考察すること（2時間）。

2	心理検査を用い、自己理解を深める②：エゴグラムの実施
事前	交流分析の考えに基づき、日常生活の会話を変容させ、他者との関係性の変化を観察しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自らのエゴグラムの特性を捉え、今後の対人交流の持ち方について検討すること（2時間）。

3	体験に耳を傾ける①：からだ体験モードで学ぶカウンセリング
事前	フォーカシングの方法とその効果について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、非言語的交流の方法とその効果について考察し、日常生活に役立てること（2時間）。

4	体験に耳を傾ける②：自律訓練法
事前	自律訓練法とは何か、その方法や適用範囲について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間）。
事後	授業で行った自律訓練法を継続して実施し、記録をとり、その効果についてまとめること（3時間）。

5	体験に耳を傾ける③：集団コラージュの概要
事前	目にとまった雑誌の切り抜きを集め、集団コラージュの材料を確保しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、集団コラージュの適用範囲とその効果について理解を深めておくこと（2時間）。

6	体験に耳を傾ける④：集団コラージュの体験
事前	集団コラージュの材料を幅広く集めておくこと（2時間）。
事後	授業に引き続き、集団コラージュを作成すること（2時間）。

7	体験に耳を傾ける⑤：集団コラージュの総括
事前	作成途中の集団コラージュに、他者から提供された材料を加え、作品を完成させること（2時間）。
事後	授業で解説した集団コラージュの解釈の方法を踏まえ、自らの集団コラージュの作品について解釈すること（2時間）。

8	ソーシャルスキルトレーニング①：概要
事前	ソーシャルスキルトレーニングの適用範囲について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、ソーシャルスキルトレーニングの方法とその効果について整理し、知識の定着に努めること（2時間）。

9	ソーシャルスキルトレーニング②：計画の立案
事前	立案するソーシャルスキルトレーニングの臨床群を特定してくること（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、ソーシャルスキルトレーニングの実施案を作成すること（2時間30分）。

10	ソーシャルスキルトレーニング③：実施・体験
事前	ソーシャルスキルトレーニングの実施案について、予行演習しておくこと（2時間）。
事後	立案し実施したソーシャルスキルトレーニングに対するコメントを振り返り、自らの案の改善点を考察すること（2時間）。

11	ソーシャルスキルトレーニング④：実施・体験・振り返り
事前	自身が行ったソーシャルスキルトレーニングの長所と改善点について、グループ討議しておくこと（2時間）。
事後	授業内で発表された全グループのソーシャルスキルトレーニングの長所と改善点について表にまとめ、ソーシャルスキルトレーニングを立案する際に留意する点についてまとめること（2時間）。

12	マイクロカウンセリング①：かかわり行動・質問技法

事前	マイクロカウンセリングの「基本的かかわり技法」とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	かかわり行動・質問技法について、日常生活場面で適用し、普段の会話との違いについて考察してくること（2時間30分）。

13	マイクロカウンセリング②：はげまし・いいかえ・要約
事前	マイクロカウンセリングの「はげまし」「いいかえ」「要約」とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	はげまし・いいかえ・要約技法について、日常生活場面で適用し、普段の会話との違いについて考察してくること（2時間30分）。

14	マイクロカウンセリング③：感情の反映・基本的傾聴の連鎖
事前	マイクロカウンセリングの「感情の反映」「基本的傾聴の連鎖」とは何か、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	基本的かかわり技法を使用することによる会話の変化について、自身の経験を基に考察し、その内容を記述すること（2時間30分）。

15	まとめ
事前	各種の臨床心理学的アプローチとその効果について整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	各種臨床心理学的アプローチとその効果について理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)20:29

科 目 名	ライフサイクルと共生社会 [科]			授業コード	1090031
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	発達課題、マイノリティ、共生
到達目標	1. 各発達期において人々が直面する課題について説明することができる。 2. 各発達期を支える心理社会的支援について説明することができる。 3. マイノリティの存在を理解する。 4. マイノリティとの共生に必要となる客観的で柔軟な思考を深める。
授業の概要	この講義では、様々なライフサイクルにある人々が共生する地域社会の現代的特徴と課題について、教育や発達支援の観点から整理を深めていく。はじめにライフサイクルの理論について概説し、様々なライフサイクルにある人々が共生するうえで起きうる課題について考察していく。これらを踏まえて多様な立場にある人々が、可能な限り豊かな地域生活を果たすことが出来る地域環境やシステムについて考察を深めていく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 授業中に割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	試験 / 授業への積極的参加30%、中間試験20%、期末試験50%（試験の点数の分布により、配点比率の調整を行うことがある）
フィードバック	コメントシートや割り当てた課題の良い点や改善点について、全体にフィードバックする。 第9回の授業において行う中間テストについては、その回答について授業中に解説を行うとともに、結果を返却する。
履修に際しての 注意事項	授業中の私語など、他学生の履修の妨げとなる行為は厳しく注意する。試験の減点や単位を与えない場合もある。 本授業では双方向学習を行うため、積極的な参加を求めます。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II		○					
III							
IV		○					

V							

テキスト1	生涯発達心理学15講　高橋一公・中川桂子（著）　北大路書房	978405830734
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	障害者心理学: シリーズ心理学と仕事15　太田信夫・柿澤敏文（著）　北大路書房 よくわかる臨床心理学［改訂新版］(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)　下山晴彦（著）　ミネルヴァ書房　その他、適宜指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	概論
事前	参考文献を概観し、ライフサイクルの変化と危機について理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、ライフサイクルの観点から現代の地域社会の課題を理解する方法を振り返り、生涯発達心理学の特徴を理解しておくこと（2時間）。

2	乳幼児期の発達課題：愛着の形成と虐待
事前	愛着とは何か、また愛着の型について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、愛着の形成の重要性、および愛着が形成される過程について記述し、知識の定着を図ること（2時間）。

3	児童・学童期の発達課題：定型発達と非定型発達
事前	定型発達の言語や認知の発達過程について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、言語や認知の発達を促進する支援についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

4	青年期の発達課題（！）：アイデンティティの獲得と危機
事前	アイデンティティとは何かについて参考文献等を基に理解し、自らのアイデンティティについて考察すること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、アイデンティティを獲得する過程について、「自己受容」と「他者受容」をキーワードにまとめ、記述すること（2時間）。

5	青年期の発達課題（2）：キャリア発達
事前	キャリアの広義の概念について、参考文献等を基に理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、キャリア発達を支援する地域の取り組みについて整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

6	成人期の発達課題：ジェンダーを考える
事前	男女共生社会について、新聞等で取りあげられている情報を検索して読み、その現状と課題をまとめておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、男女共生社会の構築に向けた地域づくりについてまとめ、記述すること（2時間）。

7	壮年期の発達課題：発達する夫婦と家族
事前	現代社会が抱える夫婦や家族の課題について、新聞等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、夫婦や家族の関係性の変化について、ライフサイクルの観点からまとめ記述すること（2時間）。

8	老年期の発達課題：認知症と共生
事前	認知症の種類について、参考書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、サクセスフルエイジングが期待できる取り組みについてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

9	中間テスト
事前	これまでの授業を振り返り、さまざまな発達段階において現代社会が抱える課題とそれを解決する取り組みについてまとめること（2時間）。
事後	中間試験を振り返り、正しい知識の定着に努めること（2時間）。

10	共生社会に向けた防災教育
事前	近年行われている一般向け防災教育の内容について、新聞等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、共生社会の実現に向けた防災教育の内容と期待される効果についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

11	成人の発達障害と共生
事前	自閉スペクトラム症の特性と直面する課題について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、成人の知的障害を伴わない自閉スペクトラム症に対するナチュラルサポートについて具体案を考え、記述すること（2時間）。

12	精神障害と共生
事前	統合失調症の特性と直面する課題について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、統合失調症に対するナチュラルサポートについて具体案を考え、記述すること（2時間）。

13	セクシャルマイノリティと共生
事前	現代社会におけるジェンダーの課題について、新聞等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、ジェンダーに係る共生社会のあるべき姿について、自らの意見をまとめ記述すること（2時間）。

14	貧困と共生
事前	現代社会における貧困の問題について、新聞等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、貧困に係る共生社会のあるべき姿について、自らの意見をまとめ記述すること（2時間）。

15	まとめ
事前	現代における心理社会的課題とその解決に向けた地域における取り組みについて整理し、知識の定着を図ること（3時間）。
事後	現代における心理社会的課題とその解決に向けた地域における取り組みについて理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)11:06

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1090050
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	認知行動療法、発達障害、エビデンスに基づく心理学的実践

到達目標	1. 社会的不適応や発達障害に対する支援について、認知行動療法の考えに基づき説明することができる。 2. 社会的不適応や発達障害に対し、関係諸機関との連携しながら支援する能力を身につける。			
授業の概要	近年は、メンタルヘルスに課題のある人や、発達障害があり社会的不適応に陥っている人が多く存在することが明らかになっています。本授業では、こうした社会的課題のメカニズムを客観的に捉え、その課題を解消するための方法について理解することを目指します。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	心理臨床に関するロールプレイ、行動観察・行動分析とその発表、論文の概要の発表およびその内容の全体討議。
評価方法 及び評価基準	レポート	発表（30%）、全体討議への積極的参加（40%）、チームビルディング（20%）、レポート（10%）。		
フィードバック	発表、全体討議、チームビルディングに関して良い点や改善点を授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	遅刻や私語、ならびに度重なる欠席のある学生には、厳重に対応します。 主体的に、そして相互的に学ぶよう心がけてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III					○		
IV							

V					○		

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	今本 繁(2016). 自分を変えたい人のためのABCモデルー教育・福祉・医療職を目指す人の応用行動分析学(ABA) ふくろう出版 温泉 美雪(2012).「困った子」が変わる本ー「育てにくい子」もぐんぐん伸びる メイツ出版 温泉美雪(2014). 特別支援がわかる本3ー通常学級でできる発達障害のある子のトラブル・行動問題への対処 ミネルヴァ書房. その他、適宜指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	【前期】 前期は、認知・行動理論に基づき、人の心理や行動の理解と対人援助の方法について学びます。前半では、各々が行動分析を通じて自らの行動を理解し、行動変容に取り組み、自身の行動特性や行動変容の成果について発表します。そして、その取り組みについて全体的で議論します。学生が主体となって活発に議論することを狙いとし、適宜チームビルディングに関するワークを実施します。 【後期】 後期の前半には、著書や論文を概観する技術を身につけるべく、全体で著書や文献を輪読し、必要な資料の収集、ならびに概要のまとめを行います。それを受けて後半では、関心あるテーマの著書や論文を個々に調べ、その概要を発表し、全体で討論します。
事前	行動観察・行動分析や著書・論文講読の内容について、授業内で提示されたものの中から選択し、発表の準備をすること(2時間)。
事後	自他の発表についての不明点や疑問を感じたことについて、専門書を通じ理解すること(2時間)。

2020/07/16(木)20:25

科 目 名	カウンセリング [社]			授業コード	1090072
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	アセスメント、対人援助、エビデンスに基づく心理臨床

到達目標	1. 代表的なカウンセリングの理論的特長について説明することができる。 2. 様々な心理的不適応のメカニズムやその改善方法について説明することができる。 3. カウンセリングの基本技術を身につける。 4. カウンセリングの技術を自らの生活の中で活用することができる。			
授業の概要	カウンセリングとは主には言葉を用い、対話を通して対人援助を行うことを指します。カウンセリングには様々な理論的背景があり、それぞれ特徴的なアプローチをとります。本授業では、様々なカウンセリングの理論とその臨床適用について概観し、対人援助の方法について学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（20%）、コメントシート（20%）、確認テスト（30%）、レポート（30%）。 授業の理解度を確認するため、第8回と第15回の授業において確認テストを行う予定である。 得点の分布によって、配点を調整する可能性がある。		
フィードバック	割り当てた課題の発表やコメントシーとの良い点や改善点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について、授業内で解説を行うとともに、結果を返却する。			
履修に際しての 注意事項	頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為、課題に取り組まない場合は、減点の対象となる。 授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III			○				
IV							

V		○					

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	よくわかる臨床心理学[改訂新版] 下山晴彦(編著) ミネルヴァ書房 その他、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	カウンセリングとは
事前	近代社会が直面している、さまざまなメンタルヘルスの問題に何があるか、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	援助指向性とは何か、援助指向性を高めるためのアプローチについて、自らの言葉で表現し、記述すること(2時間)。

2	来談者中心療法の理論
事前	来談者中心療法とは何か、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、来談者中心療法の特徴についてまとめ、知識の定着を図ること(2時間)。

3	来談者中心療法の実際
事前	来談者中心療法の特徴である傾聴について、日常会話の中で実践し、普段の会話との違いを考察しておくこと(1時間30分)。
事後	授業を踏まえ、一致・不一致と自己受容とキーワードに、来談者中心療法の到達点についてまとめること(2時間30分)。

4	精神分析
事前	フロイトが提唱した精神分析について、参考文献等を基にその特徴について調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、フロイトが残した功績と批判を浴びた点についてまとめ、知識の定着を図ること(2時間)。

5	ユングの分析心理学
事前	一週間に見た夢の内容と、そのときの気持ちについて記録をとること(2時間)。
事後	授業を踏まえ、自らの夢を分析し自己理解に努め、夢分析について理解を深めること(2時間)。

6	行動療法
事前	アイゼンクが提唱した行動療法について、参考文献等を基に調べてくること(2時間)。
事後	授業を踏まえ、行動療法と精神分析の違いについてまとめること(2時間)。

7	認知行動療法
事前	認知行動療法について、参考文献等を基にその特徴と適用範囲を調べてくること(2時間)。
事後	授業を踏まえ、自らの行動について認知行動療法の観点から考察すること(2時間)。

8	確認テスト
事前	これまでの授業を振り返り、各カウンセリングの理論について共通点と相違点をまとめること(2時間)。
事後	確認テストを振り返り、正しい知識の定着に努めること(2時間)。

9	成人の発達障害に対するアプローチ
事前	知的障害のない自閉スペクトラム症の特徴と行動特性について、参考文献等を基に調べてくること(1時間30分)。
事後	授業を踏まえ、自閉スペクトラム症に対し自らができるナチュラルサポートについて考察すること(2時間30分)。

10	児童虐待に対するアプローチ
事前	近年我が国で報道されている児童虐待の現状について、新聞等で調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、児童虐待の種類、内容、虐待予防対策、虐待への対応について整理し、知識の定着を図ること(2時間)。

11	いじめの構造の理解と対策
事前	近年我が国で報道されているいじめの現状について、新聞等で調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、いじめの種類、被害者におよぶ影響、いじめへの対応、いじめ予防対策について整理し、知識の定着を図ること(2時間)。

12	触法行為に対する集団療法
事前	犯罪者に適用するロールレタリングとは何か、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、犯罪者の心理および心理の変容プロセスについて理解し、その定着を図ること(2時間)。

13	ひきこもりに対するアプローチ

事前	近年我が国で報道されているひきこもりの現状について、新聞等で調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、ひきこもり状態にある家庭の支援や当事者の自立支援について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

14	統合失調症に対するアプローチ
事前	統合失調症の特徴について、DSM－5や参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、統合失調症のある人の地域支援について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

15	まとめ
事前	各カウンセリングの理論の特徴とその効果を整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	各カウンセリングの理論の特徴とその効果に対し理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)10:49

科 目 名	臨床心理学 [心]			授業コード	1090081
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	アセスメント、ケースフォーミュレーション、問題解決

到達目標	1. 代表的な心理学の理論的特長について説明することができる。 2. 様々な心理的不適応のメカニズムについて心理学的にアセスメントすることができる。 3. 様々な心理的不適応に対する改善方法について説明することができる。			
授業の概要	臨床心理学は心理学の理論に基づいて様々な心理的不適応を改善し、適応的な状態に導くことを目指す学問である。本授業では、心理学の主な理論やアセスメントならびに支援方法について取り上げ、臨床心理学の基本的な考え方やアプローチの仕方について概説する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（20%）、コメントシート（20%）、授業内の確認テスト（40%）、レポート（20%）。 得点の分布によっては配点を調整する可能性がある。		
フィードバック	割り当てられた課題の発表やコメントシートの良い点と改善点について、授業内でフィードバックします。 確認テストの解答について、授業内で解説するとともに、結果を返却します。			
履修に際しての 注意事項	頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為、課題に取り組まない場合は、減点の対象となる。 授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III			○				
IV							

V		○					

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	よくわかる臨床心理学[改訂新版] 下山晴彦(編著) ミネルヴァ書房 その他、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	臨床心理学とは
事前	心理学における臨床心理学の位置づけにつて、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、個体と環境、治療と予防をキーワードにして臨床心理学の特徴をまとめること(2時間)。

2	来談者中心療法
事前	来談者中心療法とは何か、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、一致・不一致と自己受容とキーワードに、来談者中心療法の到達点についてまとめること(2時間)。

3	精神分析学
事前	フロイトが提唱した精神分析について、参考文献等を基にその特徴について調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、フロイトが残した功績と批判を浴びた点についてまとめ、知識の定着を図ること(2時間)。

4	ユングの分析心理学
事前	一週間に見た夢の内容、そのときの気持ち、最近の出来事との関連について記録をとること(2時間)。
事後	授業を踏まえ、自らの夢を分析し自己理解に努め、夢分析について理解を深めること(2時間)。

5	行動療法①:不安症、恐怖症
事前	アイゼンクが提唱した行動療法について、参考文献等を基に調べてくること(2時間)。
事後	授業を踏まえ、行動療法と精神分析の違いについてまとめ、記述すること(2時間)。

6	行動療法②:強度行動障害
事前	強度行動障害とはどのような状態か、でんでん板に掲載する資料を基に理解しておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、行動分析と支援計画作成の過程を振り返ること(2時間)。

7	中間テスト
事前	これまでの授業を振り返り、臨床心理学の代表的な理論の特徴と、それぞれの違いについて整理すること(2時間30分)。
事後	テストを振り返り、正しい知識の定着に努めること(1時間30分)。

8	認知行動療法
事前	認知行動療法について、参考文献等を基にその特徴と適用範囲を調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、自らの行動の成り立ちについて認知行動療法の観点から考察すること(2時間)。

9	家族療法
事前	家族療法について、参考文献等を基にその特徴と適用範囲を調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、家族療法の面接技法について整理し、知識の定着を図ること(2時間)。

10	森田療法
事前	森田療法について、参考文献等を基にその特徴と適用範囲を調べておくこと(2時間)。
事後	授業を踏まえ、古典的な森田療法と近年の森田療法の相違点について整理し、知識の定着を図ること(2時間)。

11	表現療法
事前	表現療法のさまざまな手法と適用範囲について、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。
事後	授業を振り返り、表現療法によるアセスメントおよびその臨床的意義について理解を深めること(2時間)。

12	集団療法
事前	犯罪者に適用するロールレタリングとは何か、参考文献等を基に調べておくこと(2時間)。

事後	授業を踏まえ、犯罪者の心理および心理変容プロセスについて振り返り、知識の定着を図ること（2時間）。

13	発達障害に対するアプローチ
事前	知的障害のない自閉スペクトラム症の特徴と行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、自閉スペクトラム症に対し自らができるナチュラルサポートについて考察すること（2時間30分）。

14	統合失調症に対するアプローチ
事前	統合失調症の特徴について、DSM－５や参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、統合失調症のある人の地域支援について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

15	まとめ
事前	各臨床心理学の理論の特徴とその効果を整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	各臨床心理学の理論の特徴とその効果に対し理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)21:55

科 目 名	児童臨床心理学 [心]			授業コード	1090091
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	愛着の形成、家族支援、地域包括ケア

到達目標	1. 児童が直面する様々な不適応のメカニズムについて説明することができる。 2. 児童が直面する不適応状態に対するアセスメントやその改善方法について説明することができる。			
授業の概要	児童臨床心理学は、児童の様々な不適応について心理学に基づき理解し、適応的な状態に導くことを目指す学問である。本授業では、児童が直面する状況を理解するアセスメントや支援の方法について概説する。特に、言語表現が未発達な児童に適したアプローチについて、典型的な事例を交え説明する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（30%）、レポート（20%）、授業内の確認テスト（50%）。得点の分布によっては配点を調整する可能性がある。授業の理解度を確認するため、第8回と第15回の授業において確認テストを行う予定である。		
フィードバック	割り当てた課題の発表やコメントシートの良い点と改善点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について授業中に解説を行うとともに、結果を返却する 。			
履修に際しての 注意事項	頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為、課題に取り組まない場合は、減点の対象となる。 授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III			○				
IV							

V		○					

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	学校・地域で役立つ子どものこころの支援 連携・協働ワークブック　前川あさ美（著）　金子書房 その他、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	児童臨床心理学とは
事前	児童における心理臨床的問題には何があるか、新聞や参考文献等を基に調べてくること（2時間）。
事後	授業で説明した児童の心理臨床的問題について、関心の高い内容を一つ特定し、参考文献等を基に理解を深めておくこと（2時間）。

2	愛着の形成と情緒の発達
事前	愛着とは何か、その重要性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、被虐待児の愛着の再形成の可能性について考察すること（2時間）。

3	子どもの問題の表れ方と見立て方
事前	子どもの心理臨床的問題のアセスメントの方法について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、子どもに特有の心理臨床的アプローチについて理解したことを記述し、知識の定着を図ること（2時間）。

4	不登校に対するアプローチ
事前	我が国の不登校の数やタイプについて、文部科学省がHP上に公開している情報等を基に調べてくること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、不登校のタイプ別の支援について理解したことを表にまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

5	いじめの構造の理解と対応
事前	近年のいじめの数やタイプについて、文部科学省がHP上に公開している情報等を基に調べてくること（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、いじめの構造と対応について理解し、いじめ撲滅対策のための子ども向けポスターを作成すること（2時間30分）。

6	遊戯療法による心の状態の回復
事前	子どもの遊びの発達について、参考文献等を基に調べてくること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、通常の遊びと心理臨床における遊びの相違点について考察すること（2時間）。

7	不安の強い子どもに対する認知行動療法①：認知・行動・身体反応を捉える
事前	不安障害とは何か、DSM－5や参考文献等を基にその特徴を調べてくること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、子どもの不安障害の特徴について認知行動療法の立場から図示し説明すること（2時間）。

8	不安の強い子どもに対する認知行動療法②：認知を修正する
事前	さまざまな不合理な認知の特徴について、参考文献等を基に調べてくること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、子どもにありがちな不合理な認知を一つとりあげ、その修正を図る認知行動的アプローチを記述すること（2時間）。

9	事例を通じた児童臨床の理解
事前	これまでの授業を振り返り、さまざまな児童の心理臨床の問題とそれに対する支援およびその効果についてまとめること（2時間）。
事後	確認テストを振り返り、正しい知識の定着に努めること（2時間）。

10	発達障害に対する理解と支援
事前	自閉スペクトラム症が直面する課題について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自閉スペクトラム症に対するナチュラルサポートについて、自らのアイディアを記述しまとめること（2時間）。

11	学ぶ意欲を育てる学習アプローチ
事前	東日本大震災における心理的被害について、新聞等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、災害被害が起きたときに、自らが子どもに対しできることを考え、記述すること（2時間）。

12	保護者との関係づくりによる支援の拡充
事前	授業を踏まえ、災害被害が起きたときに、自らが子どもに対しできることを考え、記述すること（2時間）。

事後	授業を踏まえ、人間の感情の表れ方について、防衛機制の概念を基に整理すること（2時間）。

13	子どもについての親の心理教育と子育て支援
事前	ひきこもり状態にある人の割合と支援策について、内閣府がHP上に公開している情報や参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、地域に求められる青年の自立を育む支援体制とは何か考察し、記述すること（2時間）。

14	支援者のバーンアウトへのアプローチ
事前	バーンアウトとは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、対人援助職に見られるバーンアウトの特徴とその予防について考察し、記述すること（2時間）。

15	まとめ
事前	各種の児童臨床心理学的アプローチとその効果について整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	各種の児童臨床心理学的アプローチとその効果について理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)21:06

科 目 名	心理療法 [心]			授業コード	1090102
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	アセスメント、エビデンスに基づく心理療法、地域包括ケア

到達目標	1. 現代社会において人々が直面している心の問題について説明することができる。 2. 心の問題を理解するためのアセスメントについて説明することがあできる。 3. 心の問題を解消するための心理的アプローチについて説明することができる。			
授業の概要	現代社会において、人は様々な心の問題に直面している。本授業では、心の問題を理解し解消する方法である心理療法について、典型的な事例を交え概説する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（20%）、コメントシード（20%）、確認テスト（40%）、レポート（20%）。 授業の理解度を確認するため、第7回および第15回の授業において確認テストを行う。 得点の分布によっては、配点を調整する可能性がある。		
フィードバック	割り当てた課題の発表やコメントシーとの良い点や改善点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について、授業内で解説を行うとともに、結果を返却する。			
履修に際しての 注意事項	頻繁な遅刻や私語などの不適切な行為、課題に取り組まない場合は、減点の対象となる。 授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III			○				
IV							

V		○					

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	臨床心理フロンティアシリーズ　認知行動療法入門　下山晴彦（編集・監修）　講談社 その他、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理臨床とは
事前	近代社会が直面している、さまざまなメンタルヘルスの問題に何があるか、専門書等を基に調べておく（2時間）。
事後	援助指向性とは何か、援助指向性を高めるためのアプローチについて、自らの言葉で表現し、記述すること（2時間）。

2	クライエント理解の方法①：検査
事前	心理療法で使用する心理検査にはどのような種類があるか、専門書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、代表的な心理検査とその対象や活用について理解し、その定着を図ること（2時間）。

3	クライエント理解の方法②：面接
事前	心理療法で行う面接技法にはどのような種類があるか、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、面接技法を日常生活での会話場面で試し、通常の会話との違いについて比較検討すること（2時間）。

4	クライエント理解の方法③：観察
事前	心理療法で行う観察技法にはどのような種類があるか、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、身の回りの出来事について観察し、人の行動の成り立ちについて認知行動理論に基づき理解すること（2時間）。

5	産業領域における心理療法
事前	ワークエンゲイジメント、およびストレスマネジメントとは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、産業領域におけるストレスの予防とその効果について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

6	医療領域における心理療法
事前	グリーフケアとは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を基に、グリーフケアの内容やその効果についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

7	司法領域における心理療法
事前	犯罪者に適用するロールレタリングとは何か、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、犯罪者の心理および心理の変容プロセスについて理解し、その定着を図ること（2時間）。

8	児童虐待へのアプローチ
事前	近年我が国で報道されている児童虐待の現状について、新聞等で調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、児童虐待の種類、内容、虐待予防対策、虐待への対応について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

9	見えにくい発達障害へのアプローチ
事前	成人の自閉スペクトラム症が直面する課題について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、成人の自閉スペクトラム症に対するナチュラルサポートについて、自らのアイディアを記述しまとめること（2時間）。

10	依存症へのアプローチ
事前	ゲーム依存の特徴と治療について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、依存症が形成される過程と依存症から脱却するためのアプローチについて整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

11	パーソナリティ障害へのアプローチ
事前	パーソナリティ障害の種類とそれぞれの特徴について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	境界性パーソナリティ障害の特徴と、これに対する対応について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

12	ライフスタイル療法
事前	生活習慣病にはどのような種類があるか、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。

事後	授業を踏まえ、生活習慣病を予防するアプローチについて、具体例をあげてまとめること（2時間）。

13	コミュニティアプローチ
事前	コミュニティアプローチとはどのようなものか、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、コミュニティアプローチが有効な心理社会的問題を一つとりあげ、コミュニティの一員としてできる実践例を記述すること（2時間）。

14	高齢者の心の問題へのアプローチ
事前	高齢者の心の問題にはどのようなものがあるか、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、コミュニティの一員として高齢者に対しできる心理援助を記述すること（2時間）。

15	まとめ
事前	これまでの授業を踏まえ、アセスメントから心理療法の実施、効果評価、改善の流れについて整理しておくこと（2時間）。
事後	確認テストの不正解であった問題を修正し、記述問題の記述が不十分であったところは参考文献を基に追加記述すること（2時間）。

2020/07/16(木)21:45

科 目 名	知的障害児教育I [心]			授業コード	1090111
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	発達障害、障害受容、行動変容

到達目標	1. 知的障害の特性とそれに応じた教育や支援について説明することができる。 2. 知的障害のある児童生徒に対する教育課程の特徴を説明することができる。 3. 特別支援教育における保護者や地域との連携について説明することができる。			
授業の概要	本授業では、知的障害の特性や発達過程について、行動・認知・心理面から理解を深める。その上で、個に応じた教育について具体的にイメージできることをねらいとする。 また、特別支援教育の変遷や実際について学び、今日的な課題に応じた教育のあり方について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（20%）、コメントシート（20%）、授業内の確認テスト（40%）、レポート（20%）。 授業の理解度を確認するため、第9回と第15回の授業において確認テストを行う予定である。 得点の分布によって配点を調整することがある。		
フィードバック	本授業では、一部演習を取り入れ、その取り組みに対するフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項	私語などの不適切な行為が見られる者や、授業中に求める課題に取り組まない者に対しては、単位を与えない場合がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III			○				
IV							

V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領（文部科学省）』 その他、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	知的障害の特性
事前	シラバスを読み、知的障害児教育について関心を持った回の内容について参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、知的障害の定義および特性について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

2	知的障害の早期発見と早期療育
事前	我が国の乳幼児健康診査の意義について、厚生労働省がネット上に公開している「母子保健事業における乳幼児健診事業の位置づけ」を参照に、予習をしておくこと（2時間）
事後	授業を踏まえ、知的障害の早期発見・早期療育の意義について、保護者の視点を加え考察すること（2時間）。

3	知的障害に伴う行動上の問題の理解と支援
事前	応用行動分析学における「行動分析」について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、行動上の問題の例を一つ挙げ、これに対する支援策について行動分析を用い提案すること（2時間）。

4	自閉スペクトラム症の理解と支援
事前	自閉スペクトラム症の特徴について、DSM－５や参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を基に、自閉スペクトラム症に対するTEACCHアプローチの有効性について整理し、記述すること（2時間）。

5	家庭における教育支援
事前	ペアレントトレーニングの方法と効果について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、日常生活技術を一つ取り上げ、課題分析を行い、支援策を考案すること（2時間）。

6	親が障害を受容する過程
事前	論文「親の障害の認識と受容に関する考察-受容の段階説と慢性的悲哀（中田洋二郎）」について、ネットで検索した上で熟読し、親の障害受容の段階を理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、親が子どもの障害を受容することの難しさについて、自らの視点を含め論述すること（2時間）。

7	知的障害児の言語発達とその支援
事前	定型発達の幼児の言語発達について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、自閉スペクトラム症の言語の特徴と言語発達を促す対応について整理し、知識の定着を図ること（2時間）。

8	知的障害児の遊びの発達とその支援
事前	定型発達の幼児の遊びの発達について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児の遊びの発達を促す対応について、具体例を挙げ記述すること（2時間30分）。

9	知的障害児に対する特別支援教育
事前	参考文献等を基に、特殊教育から特別支援教育に転換した経緯を調べ、特別支援教育の理念について理解しておくこと（1時間30分）。
事後	授業で説明された特別支援教育の進め方を踏まえ、学校における行動上の問題に対する指導について考案し、記述すること（2時間30分）。

10	知的障害に関連した障害の理解と支援①：注意欠如多動症
事前	注意欠如多動症の有病率と特性について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、ある環境における注意欠如多動症の子どもの行動を例示し、子どもの指導について考案し、記述すること（2時間30分）。

11	知的障害に関連した障害の理解と支援②：読み書き障害
事前	読み書き障害の有病率と特性について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、読み書き障害のある子どもへの指導について考案し、記述すること（2時間30分）。

12	知的障害に関連した障害の理解と支援③：算数障害

事前	算数障害の有病率と特性について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、算数障害のある子どもへの指導について考案し、記述すること（2時間30分）。

13	知的障害児のキャリア支援
事前	知的障害のある成人の就職・雇用事例について、参考文献等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児のキャリア形成のための指導について考案し、記述すること（2時間30分）。

14	知的障害児の地域支援
事前	知的障害者の地域生活と自立支援法について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児の地域支援の理念についてまとめ、知識の定着に努めること（2時間）。

15	まとめ
事前	知的障害と自閉スペクトラムの特性、および特性に合った指導について整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	知的障害と自閉スペクトラムの特性、および特性に合った指導について理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

2020/07/16(木)21:40

科 目 名	知的障害児教育II [心]			授業コード	1090122
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	特別支援教育、個別の指導計画、学習指導案
到達目標	1. 知的障害児に対する検査や行動観察を通じたアセスメントの方法を説明することができる。 2. 知的障害児の特性に応じた教育的対応について説明することができる。 3. 特別支援学校などでの教育の実際について説明することができる。 4. 知的障害児が直面する福祉問題に対する地域支援について説明することができる。
授業の概要	本授業では、「知的障害児教育Ⅰ」で得た知識を応用し、知的障害児教育の実際について学ぶ。 実習や現場などで活用できる実践的な知識を身につけることを目的とする。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート 授業中の活動（10%）、指導案作成（40%）、授業内の確認テスト（50%）。 第6回目の授業、および第14回目の授業で指導案作成を、第15回目の授業で確認テストを行う予定である。
フィードバック	本授業では、一部演習を取り入れ、その取り組みについてフィードバックします。
履修に際しての 注意事項	私語など不適切な行為が見られる者や、授業中に求める課題に取り組まない者に対しては、単位を与えない場合がある。 知的障害児教育Ⅰ（前期）において、知的障害児の特性を充分理解している前提で授業を行う。このため、知的障害児教育Ⅰと合わせて履修することを強く勧めます。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III					○		
IV							

V			○				

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領（文部科学省）』 その他、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	知的障害児に対する特別支援教育
事前	知的障害児に対する教育の変遷について、専門書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を振り返り、知的障害児に対する特別支援の変遷と、その背景にある社会的通年について理解し、その定着を図ること（2時間）。

2	知的障害の実態把握の方法：行動観察
事前	行動分析とは何か、応用行動分析に関する専門書等を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に特有の行動について自ら1つ選択し、その行動の成り立ちを行動分析すること（2時間30分）。

3	自閉スペクトラム症の児童生徒に対する指導
事前	自閉スペクトラム症の特性について、TEACCHに関する専門書等を基に説明できるようにしておくこと（2時間）。
事後	授業で解説した自閉スペクトラム症の特性のある児童生徒の行動問題を予防する指導支援を振り返り、発達特性に合わせた指導支援について理解の定着を図ること（2時間）。

4	重複障害児に対する指導
事前	知的障害と合併するその他の障害には何があるか、専門書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、重複障害児に対して行われる指導の特徴について理解の定着を図ること（2時間）。

5	日常生活の指導の概要
事前	特別支援学校で行われる教育課程の特徴について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	日常生活の指導の特徴を踏まえ、知的障害児に対する日常生活指導のねらいを理解し、その定着を図ること（2時間）。

6	日常生活の指導の実際
事前	知的障害児に必要な日常生活指導には何があるか、その内容をペアレント・トレーニングに関する専門書を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に対する日常生活指導の具体例を自ら立案すること（2時間30分）。

7	生活単元学習
事前	知的障害児に必要な生活単元学習には何があるか、その内容を特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に対する生活単元学習の具体例を自ら立案すること（2時間30分）。

8	作業学習
事前	知的障害児に必要な作業学習には何があるか、その内容を特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に対する作業学習の具体例を自ら立案すること（2時間30分）。

9	キャリア教育をふまえた特別支援教育の展開
事前	知的障害児に必要なキャリア教育には何があるか、その内容を特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に対するキャリア教育の具体例を自ら立案すること（2時間30分）。

10	個別の教育支援計画の作成と展開
事前	個別の指導計画とは何か、特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、個別の指導計画の立案の仕方についての理解を定着させること（2時間）。

11	教科別の指導：国語
事前	知的障害児の話し言葉や書き言葉の特徴について、専門書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に合わせた教科別の指導（国語）の特徴につて理解を定着させること（2時間）。

12	教科別の指導：算数
事前	知的障害児の数概念の発達の特徴について、専門書等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に合わせた教科別の指導（算数）の特徴につて理解を定着させること（2時間）。

13	領域別の指導：自立活動
事前	知的障害児に必要な自立活動には何があるか、その内容を特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（1時間30分）。
事後	授業を踏まえ、知的障害児に対する自立活動の具体例を自ら立案すること（2時間30分）。

14	学習指導案の作成と展開
事前	学習指導案の内容と作成手順について、特別支援教育に関する専門書を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、学習指導案の立案の仕方についての理解を定着させること（2時間）。

15	まとめ
事前	これまでの授業を踏まえ、知的障害児の認知・行動の特徴を整理しておくこと（1時間30分）。
事後	知的障害児の特性に合わせた特別支援教育の展開について具体的に述べ、その根拠について説明すること（2時間30分）。

2020/07/16(木)20:33

科 目 名	LD・ADHD等教育総論/LD・ADHD児等教育総論 [心]			授業コード	1090131
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症

到達目標	1. LD・ADHD等の障害特性を説明することができる。 2. LD・ADHD等に対する教育について説明することができる。 3. LD・ADHD等に対する地域支援について説明することができる。			
授業の概要	本授業では、LD・ADHD等の特性を認知面・行動面・心理面から捉え、その状態像を理解することを目的とする。また、特性に合った教育や支援について学ぶ。さらに、教育制度などの教育的処遇に関する知識を得て、特殊教育から特別支援教育への転換についての意義を学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の活動（20%）、コメントシート（20%）、授業内の確認テスト（60%）。 第8回目の授業で確認テストを行う予定である。		
フィードバック	本授業では、一部演習を取り入れ、その取り組みについてフィードバックします。			
履修に際しての 注意事項	私語などの不適切な行為が見られる者や、授業中に求める課題に取り組まない者に対しては、単位を与えない場合がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III			○				
IV							

V		○					

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『特別支援教育がわかる本3　通常学級でできるトラブル・行動問題への対処』温泉美雪（著）ミネルヴァ書房 『新しい発達と障害を考える本3　もっと知りたいLD学習障害のおともだち』神奈川LD協会（編）ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	概論：LD・ADHD等とは何か
事前	自閉スペクトラム症、注意欠如多動症および限局性学習症の特徴について、DSM－5や参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、各発達障害の名称の変遷とその背景についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

2	注意欠如多動症の特性と教育支援
事前	学校教育現場における注意欠如多動症の子どもの行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、学校教育現場で起こりがちな注意欠如多動症の子どもの行動上の問題を示し、それに対する指導案を記述すること（2時間）。

3	自閉スペクトラム症の特性と教育支援
事前	学校教育現場における自閉スペクトラム症の子どもの行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、学校教育現場で起こりがちな自閉スペクトラム症の子どもの行動上の問題を示し、それに対する指導案を記述すること（2時間）。

4	限局性学習症の特性と教育支援
事前	学校教育現場における限局性学習症の子どもの行動特性について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、学校教育現場で起こりがちな限局性学習症の子どもの行動上の問題を示し、それに対する指導案を記述すること（2時間）。

5	LD・ADHD等のある子どもの家族支援
事前	ペアレントトレーニングの方法とその効果について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、子どもの生活技術について課題分析を行い、生活技術を獲得させるための支援について考え、記述すること（2時間）。

6	LD・ADHD等のある子どもに対する特別支援教育
事前	特別支援教育における学校コンサルテーションについて、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、通常学級における特別支援教育の展開の仕方についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。

7	LD・ADHD等のある人に対するキャリア支援
事前	授業を踏まえ、通常学級における特別支援教育の展開の仕方についてまとめ、知識の定着を図ること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、就労移行支援機関で行われている環境調整とその効果、および多様なキャリア支援について振り返り、知識の定着を図ること（2時間）。

8	まとめ
事前	各種の発達障害の特性とその指導支援について整理し、知識の定着に努めること（3時間）。
事後	各種の発達障害の特性とその指導支援について理解が不足していた点について、授業資料や参考文献等を基に復習すること（1時間）。

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)20:24

科 目 名	障害者・障害児心理学 [科]			授業コード	1090141
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	温泉 美雪				

科目に関する キーワード	包括的アセスメント、障害受容、心理社会的支援
到達目標	・身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解し説明出来る ・障害者、障害児が障害に直面しながら生きる上での心の健康に影響する諸要因について理解し説明出来る ・障害者、障害の心理社会的課題と必要な支援について理解し説明出来る
授業の概要	身体障害、知的障害、精神障害の概要と、こうした障害に直面しながら生きる上で心の健康に影響しうる諸要因について学ぶ。その上で、障害者・障害児の日常生活における心理社会的課題を把握し、その支援のあり方についても具体的な支援手法の解説に基づいて学んでいく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 割り当てた課題について、学生が発表を行い、全体討議する。
評価方法 及び評価基準	試験 / 試験70%、授業中の課題などへの取り組み30%で総合的に判断する。
フィードバック	割り当てた課題の発表やコメントシートの良い点について、授業内でフィードバックする。 確認テストの回答について授業内で解説を行うとともに、結果を返却する。
履修に際しての 注意事項	遅刻をしないこと。私語など他学生の学修を妨げる行為には厳重に対応する。授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。授業中のリアクション・ペーパー等への回答は実施回以降の授業でおこなう。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	障害者心理学: シリーズ心理学と仕事15 太田信夫・柿澤敏文（著） 北大路書房 よくわかる臨床心理学[改訂新版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 下山晴彦（著） ミネルヴァ書房 その他、適宜指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	参考文献を読み、さまざまな障害種が直面している心理社会的課題について概観しておくこと（2時間）。
事後	さまざまな障害種が直面している心理社会的課題について、新聞等で具体的に取り扱われている話題を一つ取りあげ、要約すること（2時間）。

2	障害の生物・心理・社会モデル
事前	障害の生物・心理・社会モデルについて、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、障害を多面的に捉えることの重要性について記述すること（2時間）。

3	障害受容の過程1：障害受容過程のモデル
事前	障害受容過程のモデルについて、ネットに公開されている中田洋二郎「親の障害の認識と受容に関する考察-受容の段階説と慢性的悲哀」を読み、理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、障害受容過程における葛藤を取りあげ、自分であればどのようにその葛藤を処理しようとするか考え、記述すること（2時間）。

4	障害受容の過程2：障害受容過程に応じた心理学的支援の概要
事前	障害者・障害児の家族が障害を受容していくために、自らが支援者である場合にどのように支援するか考えておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、授業前に考えた障害受容を支える支援について、修正を加えること（2時間）。

5	精神障害の心理学的メカニズム1：心の病理と心理学的介入 精神分析理論
事前	精神分析理論の特徴について、参考文献等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、精神分析理論が心理社会的課題にもたらした功績についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

6	精神障害の心理学的メカニズム2：行動理論 認知理論
事前	行動理論および認知理論について、参考文献等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、行動理論および認知理論の特徴、およびこれらと精神分析との違いについてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

7	精神生涯の心理学的メカニズム3：自己理論 健康心理学理論 素因ストレスモデル
事前	健康心理学の考え方について、参考文献等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、健康心理学が心理社会的課題にもたらす功績についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

8	医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援1：精神障害者福祉法との関わり
事前	精神障害者福祉法の目的と内容について、厚生労働省のHP等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、精神障害者福祉法が心理社会的課題にもたらす功績についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

9	医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援2：心理アセスメント 認知行動療法
事前	心理アセスメントの必要性および認知行動療法の特徴について、参考文献等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、心理アセスメントの方法および認知行動療法が心理社会的課題にもたらす功績についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

10	医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援3：社会生活技術訓練（SST）
事前	社会生活技術訓練の対象と内容について、参考文献等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、社会生活技術訓練の方法を通常の生活にどのように取り入れることができるかについて、自らの考えを記述すること（2時間）。

11	教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援1：特別支援教育
事前	特別支援教育の対象・目的・実施場所について、参考文献等を基に調べておくこと（2時間）。

事後	授業を踏まえ、特殊教育から特別支援教育へ変換した背景についてまとめ、記述すること（2時間）。

12	教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援2：特別支援教室
事前	特別支援教室の現状と課題について、文部科学省HP「特別支援教室構想について」を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、特別支援教室の対象とねらい、その実際についてまとめ、記述すること（2時間）。

13	福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援1：身体障害者福祉法　障害者福祉施設と福祉サービス
事前	授業を踏まえ、特別支援教室の対象とねらい、その実際についてまとめ、記述すること（2時間）。
事後	授業を踏まえ、身体障害者福祉法が心理社会的課題に果たす役割についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

14	福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援2：自助グループ　就労支援
事前	就労移行支援の目的と内容について、厚生労働省のHP等を読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業を踏まえ、就労移行支援が心理社会的課題にもたらす功績についてまとめ、記述しておくこと（2時間）。

15	全体のまとめ　障害者・障害児が安全・安心に生活するうえで必要な心理支援とは
事前	各回で解説した心理社会的課題を解決する支援手法とその効果について整理し、知識の定着に努めること（2時間）。
事後	各回で解説した心理社会的課題を解決する支援手法が、さらなる心理社会的課題の解決に向けてどのように発展することが期待されているかについて、自らの考えを記述すること（2時間）。

2020/07/16(木)22:19

科 目 名	社会福祉入門 [社介心子]			授業コード	1100013
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	和 秀俊、斉木 美紀子				

科目に関する キーワード	福祉、心理、教育、保育

到達目標	社会福祉全般について幅広い知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割、方法などについて理解できる。			
授業の概要	社会福祉全般について幅広い知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割、方法などについて理解することを目的としている。講義形式・演習形式のスタイルを組み合わせ、福祉未経験者および福祉を学び直したい学生であっても理解できるような入門編として、毎回工夫を凝らした授業を展開する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 ・フィールドワークを実施した後、グループワークおよびグループ発表を行う。 ・授業の振り返りを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取り組み（70%）と提出物（30%）から総合的に評価する。		
フィードバック	・グループワークやフィールドワークの成果発表に対して講評する。 ・授業の振り返りに対してフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	・積極的な姿勢で授業に取り組むことを強く望む。 ・「夏期福祉総合講座」として高校生も参加する授業となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						
III							

IV	○						
V							

テキスト1	なし（必要に応じて資料を配布する）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	なし（必要に応じて資料を配布する）	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜授業の計画＞ 1. オリエンテーション 2. 社会福祉講義・演習①～新聞を活用して生活の困りごとを考えてみよう 3. 社会福祉講義・演習②～映像で学ぶソーシャルワークの基本のき 4. 介護講義・演習①～80歳の世界を体験してみよう・高齢者疑似体験 5. 介護講義・演習②～車椅子の自走体験＆身体に負担をかけない介護技術 6. 心理講義・演習①～人の心を知ることの楽しさ＆大切さ 7. 心理講義・演習②～心理的アセスメントを通じて自己分析しよう 8. 教育講義・演習①～簡単ハングル講座：韓国のことばと文化を知ろう 9. 教育講義・演習②～特別支援学校の教育とは 10. 保育講義・演習①～絵本を活用した子育てサポート 11. 保育講義・演習②～作って遊ぼう！身近な素材を使った保育教材の制作 12. フィールドワーク①～大学周辺の社会資源を知ろう 13. フィールドワーク②～大学周辺のバリアフリーマップを作ろう 14. 学びの整理 15. 学びの発表 ＜授業に関する補足説明＞ 5日間の授業の中で毎日最後に振り返りを行い、15回目の学びの発表の際にフィードバックする。
事前	福祉、心理、教育、保育の分野について、興味があるテーマを整理しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業で実施した内容について復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)21:39

科 目 名	地域福祉の理論と方法I [社]			授業コード	1100021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	地域共生社会、地域福祉デザイン、自分事として捉える

到達目標	地域共生社会の実現に向けて、地域の生活問題を自分事ととして捉え、地域福祉が我われの暮らしや社会全般を支える総合的な営みであることを学び、その実践的方法として地域福祉を「デザインする」、社会資源を「つくる（プロデュース）」、「つなげる（コーディネート）」ことの重要性を理解することができる。			
授業の概要	地域福祉が求められる背景、考え方、歴史、地域福祉を構成する諸要素、地域福祉の推進方法などについて、我われが直面している現実の生活問題に即しながら、それらに対応するための実践的な知識として学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーに各回のテーマに沿った地域福祉の課題とその解決方法の具体的なアイデアを考え記載する。 ・必要に応じてグループワークを行い、地域福祉の課題とその解決方法の具体的なアイデアを考える。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題への取り組み20%、リアクションペーパー30%、試験50%		
フィードバック	・各回の授業の最初に前回授業に記載してもらったリアクションペーパーの内容について講評し、その内容を踏まえて、各回の授業内容にどのように生かして授業を展開するかを説明する。 ・グループワークを実施した際、検討された内容について講評する。			
履修に際しての 注意事項	・授業内課題が不足する場合、授業内課題の代筆は欠席扱いとする。 ・社会福祉実践における相談援助技術の基盤的科目であり、将来の社会福祉実践者として役立つ知識であるので、主体的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							

IV							
V	○	○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編「ビギナーズ地域福祉」有斐閣アルマ、岩間伸之・原田正樹「地域福祉援助をつかむ」有斐閣、上野谷加代子・松端克文・山縣文治編「よくわかる地域福祉第5版」ミネルヴァ書房、川島ゆり子ほか編「地域福祉論」ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～地域共生社会に向けて地域福祉デザインの必要性～
事前	地域福祉について興味のあるテーマを考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉および地域福祉デザインについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

2	地域とは～地域とコミュニティはイコールか？～
事前	今までの経験や参考文献を読み、地域とは何かを考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域やコミュニティについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

3	魅力的な地域づくりに向けて～地域愛着感の向上～
事前	今までの経験や参考文献を読み、魅力的な地域づくりについて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域愛着感を高める魅力的な地域づくりについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

4	地域の課題①～地域課題から地域の福祉課題へ～
事前	今までの経験や参考文献を読み、身近な地域の課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域課題や地域の福祉課題について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

5	地域の課題②～社会的課題から地域の福祉課題へ～
事前	今までの経験や参考文献を読み、現代の社会的課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会的課題やそれに伴う地域の福祉課題ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

6	現代の社会的課題のトピックス～若者のメンタルヘルスの必要性～
事前	今までの経験や関連資料などを活用して、若者のメンタルヘルスついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ若者のメンタルヘルスついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

7	地域における若者のメンタルヘルスアプローチ～ボランティア活動の可能性～
事前	今までの経験や前回授業の学びなどを通して、若者のメンタルヘルスアプローチついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域における若者のメンタルヘルスアプローチついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

8	社会福祉協議会とは～「石巻の奇跡」から見える理想の姿～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会について調べてくること。(学修時間1.5時間)
事後	石巻の奇跡を生んだ理想的な社会福祉協議会の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

9	社会福祉協議会の基礎①～歴史・原理から捉える～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会の歴史や原理について調べてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会福祉協議会の歴史や原理ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

10	社会福祉協議会の基礎②～現状と課題から考える～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会の現状や課題を考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会福祉協議会の現状や課題ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

11	社協ボランティアセンター～データから考える現状と課題、展望～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、社協ボランティアセンターの現状や課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社協ボランティアセンターの現状や課題、展望ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

12	コミュニティワークとは～事例・実態調査から考える～
事前	参考文献などを読み、コミュニティワークついて調べておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	授業で学んだコミュニティワークついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	地域包括ケアシステム～現状と課題、展望～
事前	参考文献などを読み、地域包括ケアシステムついて調べておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域包括ケアシステムついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	コミュニティソーシャルワーク～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、コミュニティソーシャルワークついて調べておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだコミュニティソーシャルワークついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

15	まとめ～地域共生社会の実現における地域福祉デザインの重要性～
事前	第1回から第14回までの授業での学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	第1回から第15回で学んだ地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインの基礎を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)20:24

科 目 名	地域福祉の理論と方法I [介心]			授業コード	1100031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	地域共生社会、地域福祉デザイン、自分事として捉える

到達目標	地域共生社会の実現に向けて、地域の生活問題を自分事ととして捉え、地域福祉が我われの暮らしや社会全般を支える総合的な営みであることを学び、その実践的方法として地域福祉を「デザインする」、社会資源を「つくる（プロデュース）」、「つなげる（コーディネート）」ことの重要性を理解することができる。			
授業の概要	地域福祉が求められる背景、考え方、歴史、地域福祉を構成する諸要素、地域福祉の推進方法などについて、我われが直面している現実の生活問題に即しながら、それらに対応するための実践的な知識として学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーに各回のテーマに沿った地域福祉の課題とその解決方法の具体的なアイデアを考え記載する。 ・必要に応じてグループワークを行い、地域福祉の課題とその解決方法の具体的なアイデアを考える。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題への取り組み20%、リアクションペーパー30%、試験50%		
フィードバック	・各回の授業の最初に前回授業に記載してもらったリアクションペーパーの内容について講評し、その内容を踏まえて、各回の授業内容にどのように生かして授業を展開するかを説明する。 ・グループワークを実施した際、検討された内容について講評する。			
履修に際しての 注意事項	・授業内課題が不足する場合、授業内課題の代筆は欠席扱いとする。 ・社会福祉実践における相談援助技術の基盤的科目であり、将来の社会福祉実践者として役立つ知識であるので、主体的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							

IV							
V	○	○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編「ビギナーズ地域福祉」有斐閣アルマ、岩間伸之・原田正樹「地域福祉援助をつかむ」有斐閣、上野谷加代子・松端克文・山縣文治編「よくわかる地域福祉第5版」ミネルヴァ書房、川島ゆり子ほか編「地域福祉論」ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～地域共生社会に向けて地域福祉デザインの必要性～
事前	地域福祉について興味のあるテーマを考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉および地域福祉デザインについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

2	地域とは～地域とコミュニティはイコールか？～
事前	今までの経験や参考文献を読み、地域とは何かを考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域やコミュニティについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

3	魅力的な地域づくりに向けて～地域愛着感の向上～
事前	今までの経験や参考文献を読み、魅力的な地域づくりについて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域愛着感を高める魅力的な地域づくりについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

4	地域の課題①～地域課題から地域の福祉課題へ～
事前	今までの経験や参考文献を読み、身近な地域の課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域課題や地域の福祉課題について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

5	地域の課題②～社会的課題から地域の福祉課題へ～
事前	今までの経験や参考文献を読み、現代の社会的課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会的課題やそれに伴う地域の福祉課題ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

6	現代の社会的課題のトピックス～若者のメンタルヘルスの必要性～
事前	今までの経験や関連資料などを活用して、若者のメンタルヘルスついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ若者のメンタルヘルスついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

7	地域における若者のメンタルヘルスアプローチ～ボランティア活動の可能性～
事前	今までの経験や前回授業の学びなどを通して、若者のメンタルヘルスアプローチついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域における若者のメンタルヘルスアプローチついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

8	社会福祉協議会とは～「石巻の奇跡」から見える理想の姿～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会について調べてくること。(学修時間1.5時間)
事後	石巻の奇跡を生んだ理想的な社会福祉協議会の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

9	社会福祉協議会の基礎①～歴史・原理から捉える～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会の歴史や原理について調べてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会福祉協議会の歴史や原理ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

10	社会福祉協議会の基礎②～現状と課題から考える～
事前	参考文献などを読み、社会福祉協議会の現状や課題を考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会福祉協議会の現状や課題ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

11	社協ボランティアセンター～データから考える現状と課題、展望～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、社協ボランティアセンターの現状や課題ついて考えてくること。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社協ボランティアセンターの現状や課題、展望ついて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

12	コミュニティワークとは～事例・実態調査から考える～
事前	参考文献などを読み、コミュニティワークついて調べておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	授業で学んだコミュニティワークついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	地域包括ケアシステム～現状と課題、展望～
事前	参考文献などを読み、地域包括ケアシステムついて調べておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域包括ケアシステムついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	コミュニティソーシャルワーク～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、コミュニティソーシャルワークついて調べておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだコミュニティソーシャルワークついて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

15	まとめ～地域共生社会の実現における地域福祉デザインの重要性～
事前	第1回から第14回までの授業での学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	第1回から第15回で学んだ地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインの基礎を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)21:49

科 目 名	地域福祉の理論と方法II [社]			授業コード	1100042
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	コミュニティワーク、地域福祉デザイン、ソーシャルアクション

到達目標	地域共生社会の実現に向けて、多様な事例を通して地域福祉を進める技術（地域福祉デザイン、コミュニティワーク、コミュニティ・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション等）の考え方と方法について理解することができる。			
授業の概要	地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の主体、地域福祉を進める技術の具体的な展開方法や発展の歴史、地域福祉を推進する組織や人的資源等を、多様な事例を通して学習する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーに各回のテーマに沿った地域福祉を進める技術について具体的なアイデアを考え記載する。 ・必要に応じてグループワークを行い、地域福祉を進める技術について具体的なアイデアを考える。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題への取り組み20%、リアクションペーパー30%、試験50%		
フィードバック	・各回の授業の最初に前回授業に記載してもらったリアクションペーパーの内容について講評し、その内容を踏まえて、各回の授業内容にどのように生かして授業を展開するかを説明する。 ・グループワークを実施した際、検討された内容について講評する。			
履修に際しての 注意事項	・授業内課題が不足する場合、授業内課題の代筆は欠席扱いとする。 ・社会福祉実践における相談援助技術の基盤的科目であり、将来の社会福祉実践者として役立つ知識であるので、主体的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							

IV	○						
V		○		○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編「ビギナーズ地域福祉」有斐閣アルマ、岩間伸之・原田正樹「地域福祉援助をつかむ」有斐閣、上野谷加代子・松端克文・山縣文治編「よくわかる地域福祉第5版」ミネルヴァ書房、川島ゆり子ほか編「地域福祉論」ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～地域共生社会の実現に向けたコミュニティワークの重要性～
事前	参考文献を読み、「地域福祉の理論と方法Ⅰ」での学びを復習をしておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域共生社会の実現に向けたコミュニティワークの重要性について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

2	地域福祉における社会福祉法人とは～SW実習先と先駆的事例から考える～
事前	参考文献などを活用して、社会福祉法人について理解しておくこと。また、ソーシャルワーク実習でお世話になった(関わった)社会福祉法人がどのような地域貢献をしていたか整理しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉における社会福祉法人の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

3	地域防災における社会福祉法人の役割～事例から考える～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、地域防災における社会福祉法人の役割について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域防災における社会福祉法人の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

4	地域福祉の源流①～日本編～
事前	参考文献などを読み、日本における地域福祉の源流について調べておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ日本における地域福祉の源流について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

5	地域福祉の源流②～海外編～
事前	参考文献などを読み、海外における地域福祉の源流について調べておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ海外における地域福祉の源流について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

6	コミュニティワークの基礎から実践へ
事前	参考文献などを読み、コミュニティワークの基礎について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだコミュニティワークの基礎理論と事例について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

7	福祉教育を体験しよう！～車椅子バスケのVTRから～
事前	今までの経験から、福祉教育の現状と課題について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだことを復習し、福祉教育の現状と課題について十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

8	福祉教育とは～スポーツ福祉から考える～
事前	参考文献などを読み、福祉教育の基礎について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだスポーツ福祉の視点から見た福祉教育の現状や課題、展望について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

9	これから求められる福祉教育とコミュニティビジネス～農園フェスを紐解く～
事前	参考文献などを読み、コミュニティビジネスについて理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだこれから求められる福祉教育とコミュニティビジネスについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

10	社会的企業(ソーシャルビジネス)とは～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、社会的企業(ソーシャルビジネス)について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会的企業(ソーシャルビジネス)について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

11	地域福祉における企業の役割～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、地域福祉における企業の役割について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉における企業の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

12	地域福祉における大学の可能性～大学の社会貢献～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、地域福祉における大学の役割ついて考えておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域共生社会に向けた大学の役割について復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	地域福祉計画策定によるコミュニティワーク
事前	参考文献などを読み、地域福祉計画について理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域福祉計画策定によるコミュニティワークについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	国家試験にチャレンジ！～今まで学んできたことの総復習～
事前	「地域福祉の理論と方法Ⅰ」と「地域福祉の理論と方法Ⅱ」の学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	国家試験の頻出問題を整理し不正解問題を復習することによって、国家試験対策を十分に進めること。（学修時間2.5時間）

15	まとめ～地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインとは～
事前	地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインについて、第1回から第13回までの授業の学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	第1回から第14回の授業で学んだ地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)11:21

科 目 名	地域福祉の理論と方法II [介心]			授業コード	1100052
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	コミュニティワーク、地域福祉デザイン、ソーシャルアクション

到達目標	地域共生社会の実現に向けて、多様な事例を通して地域福祉を進める技術（地域福祉デザイン、コミュニティワーク、コミュニティ・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション等）の考え方と方法について理解することができる。			
授業の概要	地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の主体、地域福祉を進める技術の具体的な展開方法や発展の歴史、地域福祉を推進する組織や人的資源等を、多様な事例を通して学習する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーに各回のテーマに沿った地域福祉を進める技術について具体的なアイデアを考え記載する。 ・必要に応じてグループワークを行い、地域福祉を進める技術について具体的なアイデアを考える。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題への取り組み20%、リアクションペーパー30%、試験50%		
フィードバック	・各回の授業の最初に前回授業に記載してもらったリアクションペーパーの内容について講評し、その内容を踏まえて、各回の授業内容にどのように生かして授業を展開するかを説明する。 ・グループワークを実施した際、検討された内容について講評する。			
履修に際しての 注意事項	・授業内課題が不足する場合、授業内課題の代筆は欠席扱いとする。 ・社会福祉実践における相談援助技術の基盤的科目であり、将来の社会福祉実践者として役立つ知識であるので、主体的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							

IV	○						
V		○		○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編「ビギナーズ地域福祉」有斐閣アルマ、岩間伸之・原田正樹「地域福祉援助をつかむ」有斐閣、上野谷加代子・松端克文・山縣文治編「よくわかる地域福祉第5版」ミネルヴァ書房、川島ゆり子ほか編「地域福祉論」ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～地域共生社会の実現に向けたコミュニティワークの重要性～
事前	参考文献を読み、「地域福祉の理論と方法Ⅰ」での学びを復習をしておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域共生社会の実現に向けたコミュニティワークの重要性について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

2	地域福祉における社会福祉法人とは～SW実習先と先駆的事例から考える～
事前	参考文献などを活用して、社会福祉法人について理解しておくこと。また、ソーシャルワーク実習でお世話になった(関わった)社会福祉法人がどのような地域貢献をしていたか整理しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉における社会福祉法人の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

3	地域防災における社会福祉法人の役割～事例から考える～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、地域防災における社会福祉法人の役割について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域防災における社会福祉法人の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

4	地域福祉の源流①～日本編～
事前	参考文献などを読み、日本における地域福祉の源流について調べておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ日本における地域福祉の源流について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

5	地域福祉の源流②～海外編～
事前	参考文献などを読み、海外における地域福祉の源流について調べておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ海外における地域福祉の源流について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

6	コミュニティワークの基礎から実践へ
事前	参考文献などを読み、コミュニティワークの基礎について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだコミュニティワークの基礎理論と事例について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

7	福祉教育を体験しよう！～車椅子バスケのVTRから～
事前	今までの経験から、福祉教育の現状と課題について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだことを復習し、福祉教育の現状と課題について十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

8	福祉教育とは～スポーツ福祉から考える～
事前	参考文献などを読み、福祉教育の基礎について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだスポーツ福祉の視点から見た福祉教育の現状や課題、展望について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

9	これから求められる福祉教育とコミュニティビジネス～農園フェスを紐解く～
事前	参考文献などを読み、コミュニティビジネスについて理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだこれから求められる福祉教育とコミュニティビジネスについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

10	社会的企業(ソーシャルビジネス)とは～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、社会的企業(ソーシャルビジネス)について理解しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ社会的企業(ソーシャルビジネス)について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

11	地域福祉における企業の役割～先駆的事例から学ぶ～
事前	参考文献などを読み、地域福祉における企業の役割について考えておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学んだ地域福祉における企業の役割について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

12	地域福祉における大学の可能性～大学の社会貢献～
事前	今までの経験や参考文献などを読み、地域福祉における大学の役割ついて考えておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域共生社会に向けた大学の役割について復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	地域福祉計画策定によるコミュニティワーク
事前	参考文献などを読み、地域福祉計画について理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学んだ地域福祉計画策定によるコミュニティワークについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	国家試験にチャレンジ！～今まで学んできたことの総復習～
事前	「地域福祉の理論と方法Ⅰ」と「地域福祉の理論と方法Ⅱ」の学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	国家試験の頻出問題を整理し不正解問題を復習することによって、国家試験対策を十分に進めること。（学修時間2.5時間）

15	まとめ～地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインとは～
事前	地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインについて、第1回から第13回までの授業の学びを整理しておく。（学修時間1.5時間）
事後	第1回から第14回の授業で学んだ地域共生社会の実現に向けた地域福祉デザインについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)10:43

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [社]			授業コード	1100061
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:25

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	1100072
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)21:14

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [介]			授業コード	1100082
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:50

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1100090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。		
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:27

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1100103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	和 秀俊				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)21:10

科 目 名	環境教育演習 [科]			授業コード	1100111
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	環境教育、共生社会、環境福祉
到達目標	ミニレクチャー、グループワーク、ワークショップ、プレゼンテーション等を通して、様々なテーマとアプローチで野外活動（フィールドワーク）や環境保全に関連する演習をおこなう。それらを通して、「環境教育から環境福祉へ」という視点から、共生社会の実現に向けた自然環境と人間の共生についての意義や課題を考察することを目的とする。 併せて、現代社会の深刻な課題解決に向けて、自然環境と人間との共生に基づいたメンタルヘルスの重要性とそのための方法も検討したい。また、毎回の授業のグループワークを通して、プレゼンテーション能力とファシリテーターとしての力を身に付けることも目標とする。
授業の概要	自然環境と人間の共生は共生社会の大前提であり、人間同士の共生を考える上でも多くの視座を得られる。また、自然環境とともにある野外活動は青少年の観察・発見学習促進や協力・役割分担などの人間関係を形成、発展させる有効な社会教育の手段でもある。この授業では野外活動や環境保全に関連する演習をおこない、自然環境と人間の共生についての意義や課題を考察していく。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / ・少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 ・フィールドワークを実施した後、グループワークおよび発表を行う。 ・授業での学びを整理し、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート / 授業内の課題や諸活動への取り組み（グループ発表も含む）40%、リアクションペーパー30%、期末レポート30%の総合評価
フィードバック	グループ発表に対して講評する。
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。 また、授業時間以外のイベントやプログラムに参加することも考えている。 毎回授業でグループワークによる振り返りを行い、各自リアクションペーパーに記載する。次回授業時にリアクションペーパーに記載された内容についてフィードバックを行う。また教員が出した課題に対して、内容が不足している場合は欠席扱いとする。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						

III				○			
IV							
V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』新潮社、レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮社、河邑厚徳ほか『エンデの遺言』NHK出版、内山節『半市場経済』角川新書、広井良典編『「環境と福祉」の統合』有斐閣、小倉美恵子『オオカミの護符』新潮文庫	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～環境教育とは
事前	環境教育について関心のあるテーマを整理しておく。(学修時間1.5時間)
事後	授業で行った環境教育の現状と課題、展望について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

2	身近な自然に触れ合い考える～大学周辺のフィールドワーク
事前	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』新潮社を読み、住んでいる地域の身近な自然のフィールドワークを実施しておく。(学修時間2.5時間)
事後	大学周辺と住んでいる地域の身近な自然を比較検討し、授業での学びを深めること。(学修時間1.5時間)

3	環境教育の現状と課題～環境教育施設「王禅寺エコ暮らし環境館」から学ぶ
事前	事前に各自で「王禅寺エコ暮らし環境館」に行き、環境教育の現状と課題を整理しておく。(学修時間2.5時間)
事後	「王禅寺エコ暮らし環境館」の環境教育を通して、授業で整理し議論した環境教育の現状と課題、展望について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間1.5時間)

4	行政・学校における環境教育
事前	レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮社を読み、川崎市の環境問題や環境教育について調べておく。(学修時間2.5時間)
事後	授業で学び議論した川崎市の環境問題や環境教育について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間1.5時間)

5	身近な地域における環境教育～平瀬川の環境保全から考える
事前	住んでいる地域の環境保全活動について調べておく。(学修時間1.5時間)
事後	大学周辺と住んでいる地域の環境保全活動を比較検討し、授業での学びを深めること。(学修時間2.5時間)

6	農園から考える環境教育～コミュニティガーデンや福祉農園の可能性
事前	コミュニティーガーデンや福祉農園について、調べておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学び議論したコミュニティーガーデンや福祉農園について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5)

7	身近なことでできる環境問題への取組みを考える(中間まとめ)～グループ発表
事前	第6回までの授業の学びを生かし身近なことでできる環境問題への取組みを考え、発表の準備をする。(学修時間2.5時間)
事後	グループ発表や講評を踏まえ、身近なことでできる環境問題への取組みについて十分に理解を深めること。(学修時間1.5時間)

8	環境教育から環境福祉へ～持続可能な地域づくりによる共生社会とメンタルヘルス
事前	事前に広井良典編『「環境と福祉」の統合』有斐閣を読み、環境福祉について理解しておくこと。(学修時間2.5時間)
事後	授業で学び議論した環境福祉について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間1.5時間)

9	鎮守の森から考える環境教育～神社で感じるスピリチュアリティ
事前	住んでいる地域の神社(鎮守の森)に行き、五感を使って色々と感じてくること。(学修時間2.5時間)
事後	授業で学び議論した鎮守の森について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間1.5時間)

10	食から考える環境教育～一流シェフからの提言
事前	食に関わる環境問題や持続可能な社会づくりにおいて興味あるテーマを考えておく。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学び議論した食から捉える環境や福祉について復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

11	スポーツから考える環境教育～海外の事例から身近な取組みへ
事前	スポーツを通した環境問題の取り組みについて興味あるテーマを考えておく。(学修時間1.5時間)
事後	授業で学び議論したスポーツを通した環境問題の取り組みについて復習し、十分に理解を深めること。(学修時間2.5時間)

12	アートから考える環境教育～「かわさき色輪っかつなぎ」から
事前	アートを通した環境問題の取り組みについて興味あるテーマを考えておく。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学び議論したアートを通した環境問題の取り組みについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	経済から考える環境教育～連帯経済や地域通貨の事例から
事前	事前に河邑厚徳ほか『エンデの遺言』NHK出版や内山節『半市場経済』角川新書を読み、環境問題と経済について考えておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学び議論した連帯経済や地域通貨を通した環境問題の取り組みについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	持続可能な地域をつくるために～「オオカミの護符」から流域主義へ
事前	事前に小倉美恵子『オオカミの護符』新潮文庫を読み、持続可能な地域づくりについて考えておく。（学修時間1.5時間）
事後	授業で学び議論した持続可能な地域づくりについて復習し、十分に理解を深めること。（学修時間2.5時間）

15	環境教育からはじまる環境福祉～共生社会に向けて（最終まとめ）～グループ発表
事前	第14回までの授業の学びを生かし、環境教育からはじまる環境福祉について考え、発表の準備をする。（学修時間2.5時間）
事後	グループ発表や講評を踏まえ、環境教育からはじまる環境福祉について十分に理解を深めること。（学修時間1.5時間）

2020/07/16(木)11:02

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1100120
副 題	「地域福祉デザイン」の力を身につけよう				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関するキーワード	チームワーク、コミュニティワーク、地域福祉デザインできる力

到達目標	フィールドワークを通して、チームワークやコミュニティワーク、研究方法・調査方法について学び、身につけことができる。また、研究テーマの設定や研究計画書の作成などを行うことができる。そして、地域福祉実践の企画・運営を行う「地域福祉デザイン」の力を身につけることができる。			
授業の概要	フィールド（川崎市、麻生区、長沢など）に関わりながら実践的な研究を行います。そのため、実践や研究に対して主体的に粘り強く学ぶ姿勢とチャレンジする気持ちが求められます。また、多くのフィールドワークや多様な研究・実践者を招くことによって、学びを深めたいと思います。そして、先駆的な地域福祉を実践している事例のフィールドワークとゼミ合宿を行います。これらを通して、チームワークやコミュニティワーク、地域福祉実践の企画・運営できる「地域福祉デザイン」の力を身につけます。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・多様なフィールドワークを通して、学生や地域住民と共に地域課題を発見し解決する能力を高める。 ・フィールドワークを通して、研究テーマを様々な角度から検討し活動実践で試行する。 ・学生や地域住民と共に活動内容を計画・実行し、課題を振り返り次の活動に生かす。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取り組み（70%）とプレゼンテーション内容（30%）で評価します。		
フィードバック	・フィールドワーク後の振り返りの際に、現状の課題を踏まえて、より良い活動となるようにグループワークやチームワーク、コミュニティワーク、調査などの方法について指導する。 ・それぞれの研究テーマの発表後に、各学生の課題を踏まえて、研究テーマや研究方法などについて指導する。			
履修に際しての注意事項	積極的にゼミナール活動に参加することが基本となります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III						○	
IV							
V			○		○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業において適宜配布します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞フィールドワーク（川崎市、麻生区、長沢など）によって地域社会を五感で感じ、それをまとめるための研究方法・調査方法に関する学習や練習とプレゼンテーションやディスカッションを行います。また、チームワークやコミュニティワーク、地域福祉実践の企画・運営できる「地域福祉デザイン」の力を身につけます。 ＜後期＞研究テーマの設定、研究テーマの文献の輪読、研究計画書の作成、調査対象の選定、調査計画の作成などを行います。また、先駆的な地域福祉を実践している事例において、フィールドワークおよびゼミ合宿を行います。
事前	・各回のフィールドワークについて事前に調べ、活動先との連絡調整や活動の引継ぎ、活動体制、スケジュールなどを確認しておくこと。また、研究発表の際は、発表に向けた準備をし配布資料を作成すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	毎回フィールドワークの振り返りを行い、課題を整理・検討し次の活動に生かす。各活動の担当者はフィールドワークの報告書を作成する。また、それぞれの研究発表後は、ゼミ学生や担当教員のアドバイスを踏まえて、より良い研究となるように取り組む。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)22:22

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1100130
副 題	川崎の「地域福祉デザイン」を目指して				
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	和 秀俊				

科目に関する キーワード	地域福祉デザインできる力、研究論文を作成する力、プレゼンテーションできる力

到達目標	・地域福祉の課題を把握し、その解決に向けた研究を行う力を養うことができる。 ・地域福祉実践の企画・運営する「地域福祉デザイン」の力を身につけることができる。 ・研究論文を作成する方法を身につけることができる。 ・研究成果をプレゼンテーションする力を身につけることができる。			
授業の概要	・ゼミ論、卒論のテーマを設定し、研究計画書を立案、論文執筆を行う。 ・定期的に進捗状況の報告を行い、ゼミ内で活発な議論を行うことによって、より良い論文を作成していく。 ・研究成果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。 ・フィールド（川崎市、麻生区、長沢など）における実践を通して、地域福祉の企画・運営する「地域福祉デザイン」の力を習得する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・多様なフィールドワークを通して、学生や地域住民と共に地域課題を発見し解決する能力を高める。 ・フィールドワークを通して研究テーマを様々な角度から検討し活動実践で試行する。 ・学生や地域住民と共に活動内容を計画・実行し、課題を振り返り次の活動に生かす。 ・研究成果を論文にするために、ゼミ内で継続的に発表し、学生や教員のアドバイスを参考により良い研究となるように取り組む。 ・研究成果をプレゼンテーションするために、ゼミ内で継続的にプレゼンテーションを行い、学生や教員のアドバイスを参考により良いプレゼンテーションとなるように取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取り組み（50%）、発表内容（30%）、論文内容（20%）により総合的に評価する		
フィードバック	・フィールドワーク後の振り返りの際に、現状の課題を踏まえて、より良い活動となるようにグループワークやチームワーク、コミュニティワーク、調査などの方法について指導する。 ・それぞれの研究発表の後に、各学生の課題を踏まえて、研究テーマや研究方法、論文の内容などについて指導する。 ・それぞれのプレゼンテーションの後に、各学生の課題を踏まえて、プレゼンテーションやスライドの内容、方法などについて指導する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な発言、参加を期待している。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III				○			
IV							
V							○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	第1回　前期オリエンテーション 第2回　論文作成に関する講義 第3回～第5回　研究計画の発表 第6回～第14回　フィールドにおける実践、文献収集、論文作成、進捗状況の報告 第15回　前期まとめ ゼミ合宿 第16回　後期オリエンテーション 第17回～第25回　フィールドにおける実践、論文作成、進捗状況の報告、論文仮提出、論文提出 第26回～第29回　ゼミ論発表リハーサル 第30回　ゼミ論発表会
事前	・各回のフィールドワークについて事前に調べ、活動先との連絡調整や活動の引継ぎ、活動体制、スケジュールなどを確認しておくこと。また、研究発表の際は、発表に向けた準備をし配布資料を作成すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	毎回フィールドワークの振り返りを行い、課題を整理・検討し次の活動に生かす。各活動の担当者はフィールドワークの報告書を作成する。また、それぞれの研究発表後は、ゼミ学生や担当教員のアドバイスを踏まえて、より良い研究となるように取り組む。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)22:10

科 目 名	数学入門 [社介心子科]			授業コード	1110011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	数的思考、基礎学力、リメディアル

到達目標	基礎的理解を深めることで数学に対する苦手意識を克服し、大学での学習／研究活動、アンケート集計、就職活動、社会人としての実務活動など、生活すべての面で数字を適切に取り扱えるようになる。			
授業の概要	大学での学習や研究活動を行うためには、基礎数学の知識は必須である。また、昔から庶民の基礎能力として「読み書き算盤が大切」と言われているように、社会生活をするうえでも最低限の数学知識がなければならない。しかし文系学生の場合は数学から離れて久しく、苦手科目とする学生が多くみられる。本講義では数学が特に苦手な学生を対象に、中学数学の復習から始め、大学の学習・研究活動や就職活動、さらには社会生活で必要となる基本的な算術／数学技術を学習する。また、与えられた数式を機械的に解くだけでなく、「原理を理解すること」と「考える力」を養うことを重視する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	基本的な解法を解説したのちに、自力で問題を解くことを繰り返していく。
評価方法 及び評価基準	レポート	中間テストおよび総合問題で80%、毎回の課題提出20%で評価を行う。		
フィードバック	授業内外での課題については、授業中に正答と解法を提示する。			
履修に際しての 注意事項	毎回、授業外での課題（復習プリント）が出されるのでこれを確実に行うこと。わからない事はそのままにしておかず、理解できるまで徹底的に考え、質問すること。そして必ず自分の「もの」にすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III							
IV						○	

V							

テキスト1	教科書は無く、プリント配付とする。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で、適時紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、実力テスト
事前	シラバスを確認し、基本計算、文章題、確率・統計、図形等について復習しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、解けなかったり間違えた問題を再度解き直し、理解を深めておくこと。(学修時間目安2.0時間)

2	数とは(数の原理、整数と小数、無理数)、加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、数に関する基本的なことを確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、数に関する基礎を身につけること。(学修時間目安2.0時間)

3	分数、小数、指数、文字式
事前	配布プリントを事前に読み、分数、小数、指数、文字式の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、分数、小数、指数、文字式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

4	比例と反比例、割合、比率(定価と売価、伸び率、%など)
事前	配布プリントを事前に読み、比例と反比例、割合、比率の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、比例と反比例、割合、比率について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

5	方程式、式の変形、多項式の加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、方程式、式の変形、多項式の加減乗除についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、方程式、式の変形、多項式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

6	倍数と公倍数、約数と公約数
事前	配布プリントを事前に読み、倍数と公倍数、約数と公約数についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、倍数と公倍数、約数と公約数について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

7	中間テスト
事前	1～6回目の授業内容を復習し、理解を深めておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、未解答、不正解の問題等について解き直し、十分に理解を深めること。(学修時間目安1.0時間)

8	単位(度量衡、距離／時間／速度、濃度／密度)
事前	配布プリントを事前に読み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

9	文章問題の練習1(単純な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、今まで身につけた数的な基礎力を用いて解く文章題についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)

事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、単純な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

10	文章問題の練習2(やや複雑な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、第9回の簡単な文章題と今回の複雑な文章題がどのようにちがうのかについて確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、複雑な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

11	連立方程式
事前	配布プリントを事前に読み、連立方程式についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、連立方程式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

12	場合の数と確率、統計
事前	配布プリントを事前に読み、場合の数と確率、統計についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、場合の数と確率、統計について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

13	図形問題1(平面図形)
事前	配布プリントを事前に読み、平面図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、平面図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

14	図形問題2(立体図形)
事前	配布プリントを事前に読み、立体図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、立体図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

15	総合問題に取り組む
事前	今までの配付プリントを整理し、まとめておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	授業で実施した総合問題について、解答出来なかった部分を授業プリント等で確認・復習しておくこと。(学修時間目安1.0時間)

2020/07/16(木)22:11

科 目 名	生活福祉工学I/生活福祉工学 [社介心]			授業コード	1110022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関するキーワード	生活しづらさ、障害理解、福祉機器、福祉工学、自助具考案
到達目標	高齢者・障がい者の自立生活を支援するために、移動、コミュニケーション、情報取得などバリアフリー・ユニバーサルデインを基盤とした情報活用ならびに福祉機器の活用技術について知ることができる。福祉従事者として、福祉サービス利用者に最適な福祉機器の選び方や導入方法、使用方法などを考え、実践していくための基礎知識を身につけることができる。
授業の概要	身体機能の低下や環境の変化により" 生活しづらい"と思うことがある。それを補うためには道具や福祉機器を上手く利活用することも大切である。本科目では、福祉従事者として様々な利用者に対する身体機能の支援だけでなく生活全般を支援する知識や技術を身につけることを目的とする。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	リアクションペーパーや福祉用具アイデア作成課題
評価方法及び評価基準	試験	試験 (70%) 、授業毎のリアクションペーパーと課題 (30%)にて評価を行う。		
フィードバック	前回授業のリアクションペーパーに書かれた質問等に対し、授業内で回答、解説等を行なう。 また、期末試験については、誤解等の多かった問題等についての解説をでんでんばんを通じて行なう。			
履修に際しての注意事項	国際福祉機器展 H.C.R.2020(2020年10月21日(水)～23日(金))https://www.hcr.or.jpなど福祉機器関連の行事も授業の空きコマなどを活用して参加を推奨する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV	○						

V							

テキスト1	【特になし】	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要の説明／オリエンテーション
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。(学修時間0.5時間)
事後	この科目で学ぶことを整理しておくこと。(学修時間目安2.0時間)

2	福祉機器の定義・分類と役割
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理をしておくこと。(学修時間目安2.0時間)

3	福祉機器の規格(ISO、ICF、CCTA95)
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った規格や用語についてまとめ、TAISの「福祉用具検索」を利用して授業中に提示する内容について調べてみること。(学修時間目安2.0時間)

4	人間科学と福祉(障害の理解)
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理をしておくこと。(学修時間目安2.0時間)

5	福祉機器1−*自助具*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、福祉用具アイデアについて考えておくこと。(学修時間目安2.0時間)

6	福祉機器2−*移動機器1(杖、車いすなど)*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、TAISを利用して移動機器について調べてみること。(学修時間目安2.0時間)

7	福祉機器3−*障害者スポーツとの関係*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、東京パラリンピックの各種目で使用された障害特性に合わせたスポーツ用具について調べておくこと。(学修時間目安2.0時間)

8	福祉機器4−*移動機器2(福祉車両)*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、身近にある福祉車両等を観察したり、インターネットなどで調べておくこと。(学修時間目安2.0時間)

9	福祉機器5−*ICTの利活用とコミュニケーション機器*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、携帯電話等の身近にあるコミュニケーション機器がどのように活用できるかを考えてみること。(学修時間目安2.0時間)

10	福祉機器6−*日常生活(食事、排泄、入浴など)*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、自宅での1日の生活を振り返り食事、排泄、入浴時に生活しづらさを感じる可能性がある箇所について調べておくこと。(学修時間目安2.0時間)

11	福祉機器7−*住宅改修*
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、自分の住む自治体(市区町村)のホームページにある住宅改修についての内容を確認すること。(学修時間目安2.0時間)

12	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、オーファンプロダクツ

事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、身近にあるユニバーサルデザインと考えられるモノについて調べること。(学修時間目安2.0時間)

13	福祉機器導入(福祉機器の選定と導入に関する制度)
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、授業中に提示する状況に応じた福祉機器の選定を個別に計画してみること。(学修時間目安2.0時間)

14	福祉機器の開発動向
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、国際福祉機器展の福祉機器開発最前線にある資料を読み、今後どのような福祉機器が利用されそうかを調べること。(学修時間目安2.0時間)

15	福祉ロボット
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業で取り扱った内容、福祉現場でのロボット活用についての自分の意見をまとめておくこと。また期末試験に向けて準備しておくこと。(学修時間目安2.0時間)

2020/07/16(木)22:03

科 目 名	基礎演習I [社]			授業コード	1110040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	読む力、書く力、考える力、まとめる力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション力

到達目標	建学の精神「捨我精進」を理解し、説明できるようになる。 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的知識・技能・思考力を修得し、他の授業で活用できるようになる。			
授業の概要	大学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。この授業では、大学生 として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考方法について演習を行い修得する。 具体的には、建学の精神、大学における授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、資料や情報の読み方、レポートの書き方、問題発見力や理論的思考、豊かな表現力（プレゼンテーション力）、建 設的な批判力、問題解決力について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(35%)、演習課題（レポート）等(35%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。リアクションペーパーの書き方、レポートの書き方で行った演習について、優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	事前・事後の学修と、毎回の授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III						○	
IV		○					

V							

テキスト1	関係資料は「でんでんばん」もしくは毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の受け方1 ～大学で学ぶ意義「捨我精進」とは何か、予習、復習、授業を聴く、質問する～
事前	キャンパスガイドと履修要項を読んでおく。(0.5時間)
事後	大学生となった自分の4年間の目標について考える。(0.5時間)

2	対人関係づくり1 ～人間関係を構築し、他者と自己を理解する(人が好き、人が嫌いの自然さ)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己評価シート」を作成しておく。(0.5時間)
事後	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己紹介を考える」ワークシートに、自己紹介を通じて得た学びを記載すること。(0.5時間)

3	対人関係づくり2 ～コミュニケーション力(話す力、聴く力、質問する力)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布するワークシート「私のコミュニケーションスタイル」を作成しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内の演習で学んだ他者のコミュニケーションスタイルと自分のコミュニケーションスタイルの相違点について理解しておくこと。(0.5時間)

4	授業の受け方2 ～ノートの取り方、リアクションペーパーの書き方～
事前	これまで書いてきたリアクションペーパーについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだノートの取り方、リアクションペーパーの書き方について他の授業でも実践すること。

5	授業の受け方3 ～優れたリアクションペーパーについて～
事前	これまで作成したノートやリアクションペーパーについて改善点を考えてみること。(0.5時間)
事後	優れた評価を受けたリアクションペーパーと自分のリアクションペーパーの違いを評価し、具体的な改善点について考えること。(0.5時間)

6	文献を深く読む ～文献を読んで理解するための演習(要約など)を行う～
事前	入学前課題のコメントを再確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ文献の読み方を振り返り、入学前課題を振り返ってみること。また、授業内で把握した文献の要約を行うこと(1時間)

7	レポート作成1 ～レポートとは何か～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(1)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した参考レポートと自分のレポートの違いについて確認・考察し、改善点を考察すること。(1時間)

8	レポート作成2 ～良いレポートを書くために～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(2)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	これまで学んだ知識・技術を用いて夏休みの課題レポートを作成する。(2時間)

9	思考を可視化する ～マインドマップによる思考の可視化～
事前	「マインドマップ」とは何かについて調べておくこと。あなたの「未来」について思いつくキーワードを最低でも20個書き出しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだマインドマップの作成方法に基づき「自分について」というテーマでマインドマップを作成すること。(1時間)

	課題レポートのフィードバック分析 ～より良いレポートにするためには～

10	
事前	夏休みの課題として提出したレポートについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で共有した優れたレポートを参考に、自らのレポート作成の改善点について振り返ること。(0.5時間)

11	講演「青年期と性」外部講師 (共同授業)
事前	「青年期と性」というテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ内容を振り返り、これからの日常生活で何をすべきかについて考えること。(0.5時間)

12	グループワーク1 ～グループワークとは チーム編成、テーマ決定、役割分担、進行管理～
事前	これまで経験してきたワークショップについて、どのような内容(テーマ、方法、結論等)のものがあったか振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	グループで決定したテーマに関連する情報を調べておくこと。(0.5時間)

13	グループワーク2 ～ワークショップの実践～
事前	適切なブレーンストーミング(みんなで建設的に意見を出し合う)を行うために、事前に決定したテーマに関するアイデアを考え、整理しておくこと。(0.5時間)
事後	ワークショップの成果を生かして、次回のプレゼンテーションに向けた役割分担と発表資料作成を行うこと。(2時間)

14	グループワーク3 ～プレゼンテーションの方法～
事前	プレゼンテーションを行うために必要な資料の収集、プレゼンテーションのシナリオなどについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ「プレゼンテーションとは何か」を参考にグループでプレゼンテーション資料の作成を行うこと。(1時間)

15	グループワーク4 ～発表 プレゼンテーションの聴き方、評価方法～
事前	適切なプレゼンテーションを行うための予行練習などを行っておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習で学んだすべての知識・技能について、これからの大学生活で生かしていくためには何が必要かを考え続け、実践すること。(継続課題)

2020/07/16(木)22:05

科 目 名	基礎演習II [社]			授業コード	1110050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	問題を発見する力、問題を解決する力、協働・連携する力、ソーシャルワーカーとしての基礎力

到達目標	3年次以降の専門教育に向けた学びの視点を説明できるようになる。 専門職として必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考力を活用できるようになる。 問題発見力および問題解決力を修得し、3年次以降の学びで活用できるようになる。			
授業の概要	大学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。 この授業では基礎演習Iで得た大学生に求められる基礎的な知識・技能・思考力を実践し、専門的な学びにつなげていく。 具体的には、社会福祉の諸問題を発見する力、考える力、調査する力、話し合う力、整理・発信する力などについて学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(30%)、レポート・演習課題等(40%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。グループワーク演習の成果で優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	現代の社会福祉100の論点 Vol.2, 宮武剛(監修), 全国社会福祉協議会 田園調布学園大学 履修要項, 田園調布学園大学	
参考HP	https://lab.jst.go.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎演習2ガイダンス(福祉の専門性を育むために)
事前	本科目に関するシラバスを確認しておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習Iで学んだ内容について確認しておくこと。(0.5時間)

2	適切な話し合い、カンファレンス、会議の進め方について
事前	小学生から大学生になるまでの間で、複数のメンバーが集まって話し合いを行う「会議」と位置づけられる取り組みへの参加経験を振り返り、どのような会議(名称・種類など)に参加したことがあったか、その会議の意義と課題などについてまとめておくこと。(1時間)
事後	事前に資料を渡されたグループメンバーは、次回の会議に向けて資料を十分に読み込んでおくこと。(1時間)

3	準備をしない話し合いと準備をした話し合いの演習
事前	資料を渡されたグループは、当日に向けて会議の進行役、会議の進め方や結論づけ方について検討しておくこと。
事後	準備されない会議と準備された会議を実践的に経験し、これからの会議参加に向けて自分ができることは何かを考えてみること。(0.5時間)

4	社会福祉の課題を考える(1) ～課題となるテーマの発見・調査～
事前	「でんでんばん」または授業で配布した社会福祉の課題(論点)の枠組みについて確認し、興味関心があるテーマを決めておくこと。(0.5時間)
事後	グループメンバー内で決定したテーマ(社会福祉の課題)について、各自で資料を集めまとめておくこと。(1時間)

5	社会福祉の課題を考える(2) ～分析・整理～
事前	授業内で行ったテーマに関する情報共有から、フィールドワークの対象となる組織・施設・サービスを考えてみること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの実践に向けたスケジュールの確認とフィールドワークで行う質問について考えてみること。(0.5時間)

6	フィールドワーク(1) ～テーマに関する実態調査1～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの進捗状況に基づき、追加調査などが必要ないか検討すること。(0.5時間)

7	フィールドワーク(2) ～テーマに関する実態調査2～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための準備を行うこと。(0.5時間)

8	テーマ(社会福祉の課題)とフィールドワークに基づく発表
事前	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための最終確認を行っておくこと。(0.5時間)
事後	各グループの発表から得た学びを振り返ること。(0.5時間)

9	興味のある福祉分野の選定とグループ化
事前	フィールドワークで得た経験・知識から、興味のある福祉分野について考えておくこと。(0.5時間)
事後	興味のある福祉分野と専門分野または研究内容が近い本学の教員を調べてみること。(0.5時間)

10	グループでの研究室訪問によるインタビュー計画づくり ～研究内容とゼミ活動等の確認～
事前	教員の研究室への訪問計画を立てるために、対象となる教員のオフィスアワーの確認や事前訪問を行ってインタビュー依頼をする。(0.5時間)

事後	インタビュー計画に基づき、グループでの研究室訪問とインタビューを行うこと。(0.5時間)

11	グループでの研修室訪問結果の発表
事前	グループインタビュー結果を発表するための資料をまとめておくこと。(1時間)
事後	グループインタビュー発表結果から、自分が将来所属したいゼミについて考える。(0.5時間)

12	大学生に求められる研究倫理(共同授業)
事前	倫理および研究倫理とは何かについて文献・インターネット等で調べておくこと。(0.5時間)
事後	THE LABのサイトをアクセスし、大学院生のキム・パークとしてe-ラーニングを受講してみること。(1時間)

13	福祉現場に求められる人材を知る(共同授業)
事前	興味のある福祉分野の具体的な仕事内容について資料・文献・インターネットなどを用いて調べておくこと。(0.5時間)
事後	自分が福祉現場に求められる人材になるために、今後、何が必要なのか、そのためには何をすれば良いのか考えてみること。(0.5時間)

14	福祉現場に求められる人材になるために(1) ーグループワークー
事前	福祉現場に求められる人材になるために自分に必要な知識・技能とは何か、そのためには何を行う必要があるのか考える。(0.5時間)
事後	グループワークを通じて得た知識・経験から、これから専門教育を受ける自分に必要な知識・技能について理解を深める。(0.5時間)

15	福祉現場に求められる人材になるために(2) ー専門性への学びの計画を立てるー
事前	次の授業では履修要項のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを用いて、専門教育の学びに関する計画づくりの準備を行う。そのための準備として3年次以降のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	専門演習(ゼミ)での学の目標づくりと、カリキュラムツリーに基づく履修計画を完成させる。(1時間)

2020/07/16(木)11:26

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [社]			授業コード	1110060
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:32

科 目 名	生活福祉工学II [社介][ET]			授業コード	1110071
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	川名 正昭				

科目に関するキーワード	福祉用具、車いす整備、自助具製作、3D CADソフト、アイデアの具現化
到達目標	生活福祉工学Iで身につけた基礎知識を基に、さまざまな福祉機器に触れ、体験することで実践力を身につけられる。また、車いす保守整備技術や自助具の考案、3D CADおよび3Dプリンタも活用した製作など、福祉現場で予測されるニーズに対して福祉用具活用の視点から解決策を考え実践できるよう、具体的な技術を習得することができる。
授業の概要	高齢者・障がい者の自立生活を支援するためには、福祉機器の利活用は不可欠である。援助者が福祉機器に対する課題やニーズに迅速に対応する能力を身につけることは、サービスの幅を広げ、利用者の ADL や QOL の 向上につながる。実際に福祉機器に触れ、現状把握や課題点、安全な利用を心がけることも必要である。 具体的には、支援の場面で利用される車いすを安全に利用するための整備実習や利用者の状況に合わせた自助具の考案・作成を3CADで行うなどを授業の内容としている。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	個人による整備作業や自助具製作、3D CADデータ作成など、実践を通して技術を習得する。また車いす整備の技術獲得の確認のため、第5回の授業で実技試験を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み（20%）、車いす整備実技試験(40%)、自助具製作(40%)で評価する。		

フィードバック	車いす整備の技術試験、自助具製作については、授業内で講評する。また、3D CADによる自助具アイデアのデータ作成では、でんでんばんにてコメントを返す。
履修に際しての注意事項	生活福祉工学Iを履修済みであることが望ましい。車いす保守整備の授業回では作業に適した服装で出席し、工具等の安全使用と整理整頓を心がけること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II						○	
III							
IV							

V					○		

テキスト1	【特になし】	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『自助具ハンドブック』(財団法人テクノエイド協会) 『福祉考房マニュアル』『3Dデータ作成マニュアル』その他必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要と福祉機器体験
事前	シラバスを一読し、生活福祉工学Iの内容を復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で使用した福祉機器についてまとめ、理解を深めておくこと。(学修時間目安0.5時間)

2	車いす保守整備1) *各部点検・調整、清拭、ステップ調整*
事前	前回配付した資料の該当部分を読み、用意するもの、安全に作業するための心構え等を確認・準備しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内容を確認しながら、車イスの部品名称、使用した工具の名前等をまとめ、理解を深めておくこと。(学修時間目安0.5時間)

3	車いす保守整備2) *後車輪、キャスター交換*
事前	1、2回目に配付した資料の該当部分を読み、授業での作業内容をイメージしておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	整備箇所について確認し、使用した語句をまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

4	車いす保守整備3) *ブレーキ調整、整備技術復習*
事前	2～4回目の授業内容を確認し、授業に備えること。(学修時間目安0.5時間)
事後	整備箇所について確認し、使用した語句をまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

5	車いす保守整備4) *知識確認試験、実技練習*
事前	授業で使用してきた語句をまとめ、知識確認試験に備えること。また、工具の使用方法などの理解を深め、実技練習に備えること。(学修時間目安0.5時間)
事後	次回の実技試験に向け、整備作業内容を確認、練習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

6	車いす保守整備技術確認(実技試験)
事前	2～5回の授業で習得した内容を確認し、車いすの安全点検、不具合箇所の整備が1人でできるようにしておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	本日の試験内容について自己で振り返り、未習得と感じた内容については資料の読み返しと技術習得の時間をとること。(学修時間目安0.5時間)

7	自助具製作1) *自助具を使ってみる、アクリル板加工*
事前	配付資料の該当部分を読み、使用する材料、工具等を理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	使用した材料、加工方法について理解し、使用した用語をまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

8	自助具製作2) *ストローホルダー作成*
事前	配付資料の該当部分を読み、使用する材料、工具等を理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内容を確認し、材料、工具、製作の注意点などについて理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

9	3D CAD演習1) *ものづくりの工程、図面、CAD*
事前	配付した資料を読み、ものづくりの工程について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	3D CADでどのようなことができるのか理解し、使用した用語をまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

10	3D CAD演習2) *3D CADソフトの基礎*
事前	配付した資料を読み、実際にソフトを起動3D CADソフトの使用方法などを確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	ソフトの起動・操作・終了の流れを確認し、簡単な図形等を作成してみること。(学修時間目安0.5時間)

11	3D CAD演習3) *例題演習:直線を多用したものづくり*
事前	配付した資料を読み、授業でどのようなものを作成するのか、確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で使用したツールの種類、操作方法について復習し、技術の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

12	3D CAD演習4) *例題演習:曲線を使用したものづくり*

事前	配付した資料を読み、授業でどのようなものを作成するのか、確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で使用したツールの種類、操作方法について復習し、技術の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	3D CAD演習5) *課題:オリジナルアイデア考案*
事前	3D CADソフトを使用して作成する自助具について、構想を練っておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付した用紙に自助具のアイデアを記入、完成させておくこと。具体的な寸法等も入れておくと良い。(学修時間目安0.5時間)

14	3D CAD演習6) *オリジナル製作:基本*
事前	自助具のアイデアに基づき、3D CADソフトでデータ作成する手順を確認しておく。(学修時間目安0.5時間)
事後	完成までの工程を考え、データ作成を進めておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	3D CAD演習7) *オリジナル製作:仕上げ*
事前	データ作成を進めておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	オリジナル自助具を完成させ、提出すること。(学修時間目安0.5時間)

2020/07/16(木)11:03

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1110090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	福祉用具、文書作成、課題解決、討論
到達目標	福祉分野のさまざまな事象について、工学・情報的視点からアプローチするための知識を身につけることができる。福祉用具、情報機器など道具を中心とした内容になるため、講義・討論形式の授業だけでなく、見学／演習／実践などさまざまな授業形態をとる。利用者の自立および自律生活の支援方法として、道具をどのように活用すればよいのかを考え、実践できるようになる。
授業の概要	高齢者や障がい者の自立生活を考えるとき、低下した身体機能を補助したり、暮らしやすさを向上させたりできる福祉用具・自助具の存在は欠かせない。誰もがその人らしく暮らしていくためには、道具が果たす役割はどのようなものか、現状を改善するためには何があればいいのかを知り、適確なアドバイスや活用方法を実践できる能力が重要である。 本ゼミでは、自立支援のための福祉用具や自助具、情報機器へのエ学的アプローチおよびICT支援についての研究・調査・開発などを行うことが主目的である。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	[前期]課題解決のためのグループ討論、福祉用具の考案・試作など実践を通じて知識・技術を活用する [後期]個人の興味・関心のあることを情報収集、整理、発表するなどの実践を通じ、知識の活用、主体性、表現力を身につけていく
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み(40%)、個人の研究内容及び発表・レポート(60%)によって、総合的に評価する。		
フィードバック	授業各回において討論した内容や意見、グループで製作したものについて授業内で講評する。			
履修に際しての 注意事項	ゼミでの討論および課外活動などに積極的に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							

IV							
V	○		○				○

テキスト1	【特になし】	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて資料を配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[前期]自立支援における福祉用具や情報機器の役割、活用方法などの資料をもとに知識を習得し、これからの福祉用具のあり方などについて議論することで実践力を高めることができる。また、生活支援のための福祉用具・自助具などを個人やグループで考案・試作しながら、生活しづらさの改善方法などを考えることができるようになる。試作には3Dプリンタの活用も含むことで、技術的な内容を理解していくことも可能になる。 [後期]4年次に提出する卒業研究の準備として個人テーマを設定するために、興味分野に関する文献調査等を進める。調査結果はレポートとしてまとめ、4回の発表を行う。 試作した福祉用具およびレポート等は、ゼミ内で報告の機会を設け、互いに評価・アドバイスを行う。これらを通して発想力、文章作成、発表等のプレゼンテーション能力を向上させることができる。
事前	[前期]ゼミ内で自らがどのような役割を果たせるか、具体的に何を身につけていきたいかを考え、各回のテーマに沿って自ら積極的に調べておくこと。(各回学修時間目安0.5時間) [後期]後期初回は前期で討論したこと、グループで製作したものなどについてまとめたものを再確認しておく。また、個人テーマを設定するにあたり、自らの興味・関心ごとについて文章にまとめ、発表準備もすること。(各回学修時間目安0.5時間)
事後	[前期]グループで討論したこと、製作したものなどについてまとめておく。(各回学修時間目安0.5時間) [後期]ゼミナールIIの準備のため、卒業研究・ゼミレポートのテーマ設定に向けて参考文献等についてまとめておく。(各回学修時間目安0.5時間)

2020/07/16(木)22:22

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1110100
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	研究活動、プレゼンテーション、社会人準備

到達目標	より専門的な知識、文献などに触れることで、幅広く柔軟に対応できる思考能力を養うことができる。研究論文の作成を通して課題発見，論理的思考など社会人としての素養を身につけるとともに、自ら成長できる取り組み姿勢などを習得できる。			
授業の概要	福祉用具や情報技術、ユニバーサルな環境などについて個別に設定したテーマをもとに調査研究、論文執筆、プレゼンテーションなどを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	個人研究のゼミ内発表を実施し、ゼミ生から質疑応答の時間を設け、意見交換する。
評価方法 及び評価基準	レポート	ゼミ諸活動への取り組み(30%)、個人の研究内容及び発表・レポート（70%）によって、総合的に評価する。		
フィードバック	個人研究は定期的にゼミ内発表機会を設け、都度評価・指導を実施する。			
履修に際しての 注意事項	授業およびゼミでの活動に積極的に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V	○				○		

テキスト1	【特になし】	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリント等を配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[前期] 個々の研究論文・ゼミレポートの作成を中心にゼミナールを進めていく。研究の途中経過はゼミナール内で発表をおこない、教員からのアドバイス、ゼミ生同士の相互評価等もおこなう。夏休みのゼミ合宿時に研究発表会で仮完成させた研究をプレゼンテーションする。また、社会人の準備期間として、必要な知識も身につけていく。 [後期] 研究論文・ゼミレポートを完成させ、発表会にて口頭発表を行う。前期に仮完成させたレポートをもとに最終版を作成していくが、授業時間外での調査、文章作成、推敲など十分な時間を確保すること。
事前	[前期]初回授業前にゼミナールIでまとめてきた調査内容を整理し、研究計画を立てておくこと。また、自ら設定した研究テーマに沿って、資料整理、執筆、議論する内容についてまとめておくこと。(各回学修時間目安0.5時間) [後期]夏休み中の中間報告指導を受け、研究論文の仕上げに向けた執筆を継続すること。各回議論する内容について整理しておくこと。(各回学修時間目安0.5時間)
事後	[前期]夏休みの中間報告に向け、研究内容を整理し、プレゼンテーション準備をしておくこと。(各回学修時間目安0.5時間) [後期]卒業研究、ゼミレポートの完成に向け、研究結果をまとめていくこと。また、大学生活を振り返り、社会人準備をしておくこと。(各回学修時間目安0.5時間)

2020/07/16(木)21:24

科 目 名	福祉データーベース/福祉とICT [社][ET]			授業コード	1110120
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	データベース、ビッグデータ活用、QC

到達目標	データベースの仕組みや設計方法、実装方法など、データベースを構築、運用していくための知識を身につけられる。これらを学ぶことでデータベースに蓄積されるデータ形式などを知り、福祉現場でどのように記録を残していくことが望ましいのかを考え、実践できるようになる。 情報の可視化方法についての知識を身につけ、コンピュータを利用した演習を通して具体的に実践できるようになる。			
授業の概要	社会福祉分野ではさまざまな記録、情報の蓄積や分析・活用がおこなわれており、福祉と情報およびデータベースとの結びつきは強い。この科目では、基礎的なデータベースシステムの設計に必要な概念、構築に必要なデータベース作成技術、情報管理などの運用について学ぶ。また社会に存在する様々な情報を可視化する方法も学ぶ。具体的には、前期はテキストを中心としたデータベースソフトウェアの操作方法を学び、データベースのしくみを理解し、例題をもとに実装する。後期は情報の可視化に関する方法を学び、コンピュータを利用して演習していく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期Access利用時には確認テストを実施し、後期はディスカッション、グループワークを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み(30%)、レポート課題(70%)により評価する。		
フィードバック	前期確認テストについては次回の授業時に講評し、15回の総合演習は16回の授業時に講評する。また、16回目の授業時には課題に取り組むごとに直後の授業時に講評する。			
履修に際しての 注意事項	テキストはAccess2013版だが、授業ではAccess2016以降のソフトウェアを使用する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		
IV							

V			○				

テキスト1	『30時間でマスター Access2013（Windows8対応）』実教出版	978-4-407-33268-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	福祉情報とデータベース（授業概要説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	この科目で学ぶことをまとめ、福祉情報にはどのようなものがあるかを確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2	データベース概要
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、身近なデータベースについて調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）

3	福祉分野におけるデータベース
事前	前回の事後学習で取り組んだ身近なデータベースに加え、特に福祉分野ではどのようなデータベースが利用されているか調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業で取り扱った内容、福祉分野で利用されているデータベースについてまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	現象からの情報抽出
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について現象からの情報抽出とはどのようなことか考えておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、情報抽出について十分に理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

5	データを整理するテーブルの操作と作成
事前	教科書の該当部分を事前に読み、データを格納するテーブルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、テーブルの操作と作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	リレーショナル型データベース、リレーションシップ
事前	教科書の該当部分を事前に読み、データベースの種類について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、リレーショナル型データベースに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	データ入力とインポート
事前	教科書の該当部分を事前に読み、データの種類と既にあるデータの変換について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、データ入力とデータインポートに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	入力フォームの作成とデータ入力
事前	教科書の該当部分を事前に読み、データ入力のためのフォームついて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、フォームを利用したデータ入力に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	フォームを使用したデータ表示
事前	教科書の該当部分を事前に読み、フォームの役割であるデータ表示について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、データ表示機能としてのフォームの種類等に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	SQLとクエリ
事前	教科書の該当部分を事前に読み、クエリ（SQL）について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、クエリに関する知識の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	クエリを使用したデータの操作、抽出
事前	教科書の該当部分を事前に読み、クエリを使用したデータ抽出について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、クエリを使用したデータ抽出について技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	レポートを使用したデータの出力
事前	教科書の該当部分を事前に読み、レポートの役割について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、レポート機能を使った出力に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

13	自動処理（マクロ）の作成
事前	教科書の該当部分を事前に読み、マクロ機能について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、マクロを使用した自動処理に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

14	システムの処理確認とメニュー作成
事前	教科書の該当部分を事前に読み、今まで作成してきたデータベースを完成に向け、メニュー作成について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、作成してきたデータベースを完成させること。（学修時間目安0.5時間）

15	総合演習
事前	今までの授業内容を再度確認し、データベース作成ができるようにしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

16	情報の可視化
事前	「可視化」「見える化」とはどのようなものかを調べ、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、用語や可視化の方法について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

17	アンケートの調査項目を考える
事前	アンケート方法、種類等について調べ、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

18	標本サイズの検討
事前	事前に配付するプリントを読み、標本サイズについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、標本サイズについての練習問題に取り組むこと。（学修時間目安0.5時間）

19	アンケート結果の集計1（単純集計）
事前	事前に配付するプリントを読み、アンケートの集計について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内容をまとめ、単純集計に関する練習問題に取り組んでおくこと。（学修時間目安0.5時間）

20	アンケート結果の集計2（クロス集計）
事前	事前に配付するプリントを読み、クロス集計について理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内容をまとめ、クロス集計に関する練習問題に取り組んでおくこと。（学修時間目安0.5時間）

21	アンケート結果のレポート
事前	アンケート項目、単純集計、クロス集計の結果から特徴をつかんでおくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	課題レポートを完成させ、でんでんばんから提出すること。（学修時間目安0.5時間）

22	マインドマップ1（ツールの活用）
事前	マインドマップについて調べ、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業中に紹介したツールを用い、「自分について」のマインドマップを作成して知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

23	マインドマップ2（課題演習）
事前	インターネットを利用し、公開されている様々なマインドマップについて調べ、参考になる描き方を見てみる。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業時に伝えるテーマに沿ってマインドマップを作成し、でんでんばんから提出すること。（学修時間目安0.5時間）

24	社会資源のマッピング1（ツールの活用とテーマ設定）
事前	バリアフリーマップについて調べ、情報の内容、公開方法、更新方法などについてまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業時に伝えるテーマに沿って社会資源マップを作成し、でんでんばんから提出すること。（学修時間目安0.5時間）

25	社会資源のマッピング2（課題演習）
事前	各自の課題として取り組むため、マップに掲載する社会資源のテーマについて考えておく。（学修時間目安0.5時間）
事後	課題について完成させ、でんでんばんから提出すること。（学修時間目安0.5時間）

26	福祉QCツール
事前	QCとは何か、QCに使うツールとは何かを調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内容をまとめ、QCに関する知識の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

27	テーマに沿った情報収集と共有（ブレインストーミング）
事前	事前に配付するプリントを読み、自分の意見をまとめておく。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容について理解し、授業時に出てきた他の学生から出た意見をあらためて見直しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

28	テーマに沿った情報整理（親和図法）
事前	事前に配付するプリントを読み、親和図法についての理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業時に出てきた意見を親和図法で整理しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

29	テーマに沿った課題解決1（ディスカッション、情報の再収集）
事前	親和図法でまとめたことから、重要と考える点を抜き出し、テーマ候補を決めておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業でディスカッションを行った結果から、再度情報収集が必要な項目、内容について整理すること。（学修時間目安0.5時間）

30	テーマに沿った課題解決2（レポート作成）
事前	前回事後学習の結果から、情報再収集が必要になったことを追加調査しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	取り組んできた内容についてレポートを完成させ、でんでんばんから提出すること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)11:19

科 目 名	福祉情報技術I/福祉情報技術 [社]			授業コード	1110131
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	川名 正昭				

科目に関する キーワード	生活しづらさ、支援技術、e-AT

到達目標	生活しづらさを感じる人たちに対しての支援手段として、一般的に利用されている電子・情報機器を活用することは重要であるため、障害の理解、パソコンのソフトウェアによる支援、物理的なスイッチなどの道具や工夫についても必要な知識を習得できる。 また、高齢者や障がい者がICT機器を利活用する際、具体的な設定や操作のサポートに関する知識、方法を身につけ、福祉現場での実践的活用場面で主体的に取り組むことができるようになる。
授業の概要	電子・情報技術の発展に伴い、その技術を利用した機器により生活は便利で豊かなものになってきた。これは、障がいや加齢による心身機能の低下を伴う人にとっても同様であり、障がいのある人に対する支援技術が、社会のICT化とともに役割が増してきた。しかし、障害のある人の多くは、支援技術に関する情報を入手することが難しい。また電子情報機器の設定や操作が困難であることも多く、これらをサポートする人材が必要である。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパー
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み（30%）、レポート（総合問題）（70%）で評価する。		
フィードバック	前回授業のリアクションペーパーに書かれた質問等に対し、授業内で回答、解説等を行なう。			
履修に際しての 注意事項	【特になし】			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V				○			

テキスト1	【特になし】	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に関連資料、プリントを配付する。 『福祉情報技術コーディネーター認定試験テキスト』全日本情報学習振興協会 『ICTアクセシビリティ』e-AT利用促進協会 マイクロソフト　アクセシビリティ アップル　アクセシビリティ	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要の説明／オリエンテーション
事前	シラバスの内容を確認し、福祉情報技術についてインターネットや参考文献で調べ、まとめておくこと。（学修時間2.0時間）
事後	本授業で学ぶことを整理しておくこと。（学修時間目安2.0時間）

2	あらためて障がいとは何かを考える
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、他の科目との関連、用語の整理をしておくこと。（学修時間目安2.0時間）

3	障がいと自立生活
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、自立生活とは何かを整理をしておくこと。（学修時間目安2.0時間）

4	支援技術の基礎
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、支援技術にはどのようなものがあるのか具体例、事例を調べてみること。（学修時間目安2.0時間）

5	障害受容、機器適用の流れとポイント
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、障害受容の過程と支援者として気をつける点をあらためて整理しておくこと。（学修時間目安2.0時間）

6	人権とプライバシー
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、福祉機器と人権やプライバシーの関係について整理しておくこと。（学修時間目安2.0時間）

7	支援技術サービス
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理をしておくこと。（学修時間目安2.0時間）

8	肢体不自由の理解と生活支援の道具・工夫
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、肢体不自由者の生活場面ごとにどんな福祉用具を利用すればいいか考えてみること。（学修時間目安2.0時間）

9	視覚障害の理解と生活支援の道具・工夫
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、視覚障害者の生活場面ごとにどんな福祉用具を利用すればいいか考えてみること。（学修時間目安2.0時間）

10	聴覚障害者の理解と生活支援の道具や工夫
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、聴覚障害者の生活場面ごとにどんな福祉用具を利用すればいいか考えてみること。（学修時間目安2.0時間）

11	コンピュータ・アクセシビリティ
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）

事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、Windowsを起動してアクセシビリティについて設定などを確認してみること。 参考：Windowsのアクセシビリティ機能（学修時間目安2.0時間）

12	言語障害の理解とコミュニケーションエイド
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、言語障害ではどのような福祉用具を利用すればいいか考えてみること。（学修時間目安2.0時間）

13	記憶や理解の苦手な人へのサポート
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、記憶や理解を支援するためにどのような機器を利用すればいいか考えてみること。（学修時間目安2.0時間）

14	複合的な原因がある場合のサポート
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。（学修時間目安2.0時間）
事後	授業で取り扱った内容をまとめ、用語の整理、複合的な原因がある場合の機器を用いた支援方法について調べておくこと。（学修時間目安2.0時間）

15	総合問題
事前	今までの授業内容をまとめ、総合問題を解く準備をしておくこと。（学修時間目安3.0時間）
事後	総合問題の解説について読み、理解を深めておくこと。（学修時間目安1.0時間）

2020/07/16(木)21:21

科 目 名	法学 [社介]			授業コード	1120011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	法規範、私法、公法、

到達目標	前半では法の総論学習を通じて法の実在像を修得できるようになること、後半では法的思考力を身につけることができるようになることを目指します。 【履修ファイルの対応項目A-1-(1)、(2)、A-4-(5)、A-5-(1)、(3)】			
授業の概要	「社会あるところに法あり」と言われるように、「法」は人間の社会生活の根源的要素です。我が国は、法治国家であり、「法」の重要性は、人間の社会生活のあらゆる場面において、ますます強まっていくばかりです。そこで、本講義では、下記の「1～7」で法の全体像を学び、下記の「8～15」で法の実在像を修得することにより、法的思考力を身につけることに向けて勉学を進めます。社会の変化が激しい今日、ネットを活用しながら身近な法律問題についての理解を深めましょう。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーによる振り返り、課題内容についてのプレゼンテーションそしてグループディスカッションを適宜行います。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末課題（40%）、小レポート（30%）やコメントシート（20%）、授業内の活動（10%）での得点を総合的に勘案し評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項	授業の際、必ずテキストを持参してください。法に関する科学の総称である「法学」を学ぶことによって一層の自己研鑽に励むのだとの熱意をもって、本科目に取り組むことを期待しています。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	江頭 憲治郎他『ポケット六法』最新版（有斐閣）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの目次を読み、法のイメージについて自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

2	法の概念
事前	テキストの該当箇所を読み、法の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

3	法の目的
事前	テキストの該当箇所を読み、法の目的について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること（2.5時間）。

4	法の効力
事前	テキストの該当箇所を読み、法の効力について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること（2.5時間）。

5	法の分類
事前	テキストの該当箇所を読み、法の分類について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

6	法源
事前	テキストや各自資料などを調べて、法源の意味について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

7	権利と義務（ネットを活用して、身近な生活上の法律問題を知ろう）
事前	テキストの該当箇所を読み、権利と義務の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること。また、プレゼンテーションなどのワークを通じて学んだ点を振り返ること（2.5時間）。

8	憲法
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

9	民事法（民法の基本を学ぶ）
事前	テキストの該当箇所を読み、民法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

10	刑事法（刑法の基本を学ぶ）
事前	テキストの該当箇所を読み、刑法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

11	行政法（行政法とはどんな法律か？）
事前	テキストの該当箇所を読み、行政法の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

12	教育に関する法(こどもの権利と教育基本法)
事前	テキストの該当箇所を読み、教育に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

13	福祉に関する法(新しい家族と福祉課題)
事前	テキストの該当箇所を読み、福祉に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

14	環境に関する法(パリ協定など環境関連問題)
事前	テキストの該当箇所を読み、環境に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

15	国際法(グローバリゼーションと地域連携協定の発展)
事前	テキストの該当箇所を読み、国際法の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:29

科 目 名	法学 [心]			授業コード	1120021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関するキーワード	法規範、私法、公法、

到達目標	前半では法の総論学習を通じて法の実在像を修得できるようになること、後半では法的思考力を身につけることができるようになることを目指します。 【履修ファイルの対応項目A-1-(1)、(2)、A-4-(5)、A-5-(1)、(3)】			
授業の概要	「社会あるところに法あり」と言われるように、「法」は人間の社会生活の根源的要素です。我が国は、法治国家であり、「法」の重要性は、人間の社会生活のあらゆる場面において、ますます強まっていくばかりです。そこで、本講義では、下記の「1～7」で法の全体像を学び、下記の「8～15」で法の実在像を修得することにより、法的思考力を身につけることに向けて勉学を進めます。社会の変化が激しい今日、ネットを活用しながら身近な法律問題についての理解を深めましょう。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	リアクションペーパーによる振り返り、課題内容についてのプレゼンテーションそしてグループディスカッションを適宜行います。
評価方法及び評価基準	レポート	期末課題（40%）、小レポート（30%）やコメントシート（20%）、授業内の活動（10%）での得点を総合的に勘案し評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての注意事項	授業の際、必ずテキストを持参してください。法に関する科学の総称である「法学」を学ぶことによって一層の自己研鑽に励むのだとの熱意をもって、本科目に取り組むことを期待しています。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	江頭 憲治郎他『ポケット六法』最新版（有斐閣）	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの目次を読み、法のイメージについて自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

2	法の概念
事前	テキストの該当箇所を読み、法の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

3	法の目的
事前	テキストの該当箇所を読み、法の目的について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること（2.5時間）。

4	法の効力
事前	テキストの該当箇所を読み、法の効力について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること（2.5時間）。

5	法の分類
事前	テキストの該当箇所を読み、法の分類について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

6	法源
事前	テキストや各自資料などを調べて、法源の意味について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

7	権利と義務（ネットを活用して、身近な生活上の法律問題を知ろう）
事前	テキストの該当箇所を読み、権利と義務の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること。また、プレゼンテーションなどのワークを通じて学んだ点を振り返ること（2.5時間）。

8	憲法
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

9	民事法（民法の基本を学ぶ）
事前	テキストの該当箇所を読み、民法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

10	刑事法（刑法の基本を学ぶ）
事前	テキストの該当箇所を読み、刑法の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること（2.5時間）。

11	行政法（行政法とはどんな法律か？）
事前	テキストの該当箇所を読み、行政法の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

12	教育に関する法(こどもの権利と教育基本法)
事前	テキストの該当箇所を読み、教育に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

13	福祉に関する法(新しい家族と福祉課題)
事前	テキストの該当箇所を読み、福祉に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

14	環境に関する法(パリ協定など環境関連問題)
事前	テキストの該当箇所を読み、環境に関する法概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

15	国際法(グローバリゼーションと地域連携協定の発展)
事前	テキストの該当箇所を読み、国際法の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、授業内容の理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:42

科 目 名	日本国憲法 [社心]			授業コード	1120032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	人権、統治、基本原理
到達目標	本学は、社会福祉を担う人材を育てる大学であるが、社会福祉とは、人間の生活そのものに接することで人々に幸せをもたらす、社会に密着した分野であり、社会福祉を担う人材の育成にあたっては、憲法第25条はもちろんのこと、我が国の社会の仕組みの根幹を定める日本国憲法を学ぶことは重要な意義を有する。そこで、本講義では、日本国憲法において保障される基本的人権の内容を中心に、それを支える統治制度等、憲法全般について幅広い理解を得ることができるようになる。
授業の概要	日本国憲法は、我が国の最高法規であり、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の基本原理を掲げて、法律の頂点に位置している。本講義では、このような日本国憲法が保障する基本的人権の内容や、憲法が定める統治機構についての学習を進めて行く予定である。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーによる振り返り、課題内容についてのプレゼンテーションを適宜必要に応じて行います。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末課題（50%）、授業内の活動へ取り組み（30%）とコメントシート（20%）による総合評価といたします。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項	自分達によって作られ、自分達のための日本国憲法を、より広く、より深く理解しようという熱意で、本科目に取り組むことを期待する。指定テキストは、授業の際に必ず持参するようにすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II	○						
III							
IV							○

V							

テキスト1	井上正仁他編『ポケット六法』最新版（有斐閣） 初宿正典他編著『目で見る憲法』(有斐閣)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の進行、必要に応じ適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに・国家と憲法
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法のイメージについて自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

2	日本国憲法の歴史
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の歴史について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、憲法の歴史の理解を深めること（2.5時間）。

3	日本国憲法における基本三原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の基本原理について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

4	基本的人権保障の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の意義について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、基本的人権の意義について自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

5	基本的人権の保障－包括的人権・法の下の平等
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の総論概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、人権総論の具体例を調べるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

6	基本的人権の保障－精神的自由
事前	テキストの該当箇所を読み、精神的自由について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、精神的自由の例を調べてみるなどして自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

7	基本的人権の保障－経済的自由
事前	テキストの該当箇所を読み、経済的自由について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめ、経済的自由の例を調べてみるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

8	基本的人権の保障－社会権
事前	テキストの該当箇所を読み、社会権について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、関連判例を調べるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

9	基本的人権の保障－その他の人権
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の事例について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分のアウトプットの振り返りなどして、学習内容に関する理解を深めること（2.5時間）。

10	日本国憲法が定める統治の基本原理－三権分立・天皇制など
事前	テキストの該当箇所を読み、統治の基本概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

11	国の立法権－国会
事前	テキストの該当箇所を読み、国会の役割について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

12	国の行政権－内閣
事前	テキストの該当箇所を読み、内閣の役割について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること（2.5時間）。

13	国の司法権－裁判所
事前	テキストの該当箇所を読み、裁判所の役割について自分なりに理解してくること（1.5時間）。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

14	財政・地方自治
事前	テキストの該当箇所を読み、財政や地方自治について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

15	憲法の意義について
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:55

科 目 名	日本国憲法 [子]			授業コード	1120041
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	人権、統治、基本原理
到達目標	本学は人生のはじめから終焉までの各段階の社会福祉を担う人材を育てる大学であるが、社会福祉とは、人間の生活そのものに接することで人々に幸せをもたらす、社会に密着した分野といえる。社会福祉を担う人材の育成にあたっては、我が国社会の仕組みの根幹を定める日本国憲法全般、中でも第25条に定める「社会福祉」について学ぶことは必要不可欠である。そこで、本講義では、日本国憲法に関して深い理解ができるようになることを目的とする。
授業の概要	日本国憲法は、主権者である国民によって確定された最高法規である。我が国は法治国家であるが、憲法は、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」の基本原理を掲げて、これらの法律の頂点に位置している。本講義では、わたしたち国民によって作られ、わたしたちのための日本国憲法について、深く学ぶことを予定している。
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	期末課題（50%）、小レポート（20%）授業内の活動への取り組み（20%）とコメントシート（10%）による総合評価といたします。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項	自分達によって作られ、自分達のための日本国憲法を、より広く、より深く理解しようという熱意で、本科目に取り組むことを期待する。指定テキストは、授業の際に必ず持参するようにすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II	○						
III							
IV							○

V							

テキスト1	『法学六法』最新版(信山社) 初宿正典他編著『目で見る憲法』最新版(有斐閣)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の進行、必要に応じ適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2	法の本質
事前	テキストの該当箇所を読み、法の本質について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

3	日本国憲法の歴史
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の歴史について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

4	日本国憲法における基本三原理(国民主権・平和主義・基本的人権の保障)
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の基本原理について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

5	日本国憲法の「前文」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の前文の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

6	基本的人権保障の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり人権に関する具体例を調べることなどで、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

7	基本的人権の保障—権利主体、自由権など
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の権利主体や権利内容について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

8	基本的人権の保障—第25条に定める「社会福祉」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、社会権について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

9	基本的人権の保障ーその他
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権全般について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

10	日本国憲法が定める国家・社会の仕組みと制度—「天皇」「三権分立」「地方自治」「その他」
事前	テキストの該当箇所を読み、国家の仕組みについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

11	国の立法権ー国会
事前	テキストの該当箇所を読み、国会の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

12	国の行政権ー内閣
事前	テキストの該当箇所を読み、内閣の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

13	国の司法権ー裁判所
事前	テキストの該当箇所を読み、裁判所の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

14	地方自治
事前	テキストの該当箇所を読み、地方自治の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

15	ここまでの確認。憲法の意義とは
事前	テキストの該当箇所を読み、日本国憲法の存在意義について自分の理解を確認してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、憲法の全体像について自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2020/07/16(木)22:06

科 目 名	日本国憲法 [子]			授業コード	1120051
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関するキーワード	人権、統治、基本原理
到達目標	本学は人生のはじめから終焉までの各段階の社会福祉を担う人材を育てる大学であるが、社会福祉とは、人間の生活そのものに接することで人々に幸せをもたらす、社会に密着した分野といえる。社会福祉を担う人材の育成にあたっては、我が国社会の仕組みの根幹を定める日本国憲法全般、中でも第25条に定める「社会福祉」について学ぶことは必要不可欠である。そこで、本講義では、日本国憲法に関して深い理解ができるようになることを目的とする。
授業の概要	日本国憲法は、主権者である国民によって確定された最高法規である。我が国は法治国家であるが、憲法は、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」の基本原理を掲げて、これらの法律の頂点に位置している。本講義では、わたしたち国民によって作られ、わたしたちのための日本国憲法について、深く学ぶことを予定している。
授業方法	講義 / アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	レポート	期末課題（50%）、小レポート（20%）授業内の活動への取り組み（20%）とコメントシート（10%）による総合評価といたします。	
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。		
履修に際しての注意事項	自分達によって作られ、自分達のための日本国憲法を、より広く、より深く理解しようという熱意で、本科目に取り組むことを期待する。指定テキストは、授業の際に必ず持参するようにすること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II	○						
III							
IV							○

V							

テキスト1	『法学六法』最新版(信山社) 初宿正典他編著『目で見る憲法』最新版(有斐閣)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の進行、必要に応じ適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2	法の本質
事前	テキストの該当箇所を読み、法の本質について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

3	日本国憲法の歴史
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の歴史について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

4	日本国憲法における基本三原理(国民主権・平和主義・基本的人権の保障)
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の基本原理について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

5	日本国憲法の「前文」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の前文の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

6	基本的人権保障の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり人権に関する具体例を調べることなどで、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

7	基本的人権の保障—権利主体、自由権など
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の権利主体や権利内容について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

8	基本的人権の保障—第25条に定める「社会福祉」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、社会権について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

9	基本的人権の保障ーその他
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権全般について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

10	日本国憲法が定める国家・社会の仕組みと制度—「天皇」「三権分立」「地方自治」「その他」
事前	テキストの該当箇所を読み、国家の仕組みについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

11	国の立法権ー国会
事前	テキストの該当箇所を読み、国会の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

12	国の行政権ー内閣
事前	テキストの該当箇所を読み、内閣の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

13	国の司法権ー裁判所
事前	テキストの該当箇所を読み、裁判所の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

14	地方自治
事前	テキストの該当箇所を読み、地方自治の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

15	ここまでの確認。憲法の意義とは
事前	テキストの該当箇所を読み、日本国憲法の存在意義について自分の理解を確認してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、憲法の全体像について自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2020/07/16(木)10:48

科 目 名	日本国憲法 [科]			授業コード	1120061
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	人権、統治、基本原理
到達目標	本学は人生のはじめから終焉までの各段階の社会福祉を担う人材を育てる大学であるが、社会福祉とは、人間の生活そのものに接することで人々に幸せをもたらす、社会に密着した分野といえる。社会福祉を担う人材の育成にあたっては、我が国社会の仕組みの根幹を定める日本国憲法全般、中でも第25条に定める「社会福祉」について学ぶことは必要不可欠である。そこで、本講義では、日本国憲法に関して深い理解ができるようになることを目的とする。
授業の概要	日本国憲法は、主権者である国民によって確定された最高法規である。我が国は法治国家であるが、憲法は、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」の基本原理を掲げて、これらの法律の頂点に位置している。本講義では、わたしたち国民によって作られ、わたしたちのための日本国憲法について、深く学ぶことを予定している。
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	期末課題（50%）、小レポート（20%）授業内の活動への取り組み（20%）とコメントシート（10%）による総合評価といたします。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項	自分達によって作られ、自分達のための日本国憲法を、より広く、より深く理解しようという熱意で、本科目に取り組むことを期待する。指定テキストは、授業の際に必ず持参するようにすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II	○						
III							
IV							○

V							

テキスト1	『法学六法』最新版(信山社) 初宿正典他編著『目で見る憲法』最新版(有斐閣)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の進行、必要に応じ適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2	法の本質
事前	テキストの該当箇所を読み、法の本質について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

3	日本国憲法の歴史
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の歴史について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

4	日本国憲法における基本三原理(国民主権・平和主義・基本的人権の保障)
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の基本原理について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

5	日本国憲法の「前文」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、憲法の前文の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

6	基本的人権保障の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり人権に関する具体例を調べることなどで、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

7	基本的人権の保障—権利主体、自由権など
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権の権利主体や権利内容について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

8	基本的人権の保障—第25条に定める「社会福祉」の意義
事前	テキストの該当箇所を読み、社会権について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

9	基本的人権の保障ーその他
事前	テキストの該当箇所を読み、基本的人権全般について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

10	日本国憲法が定める国家・社会の仕組みと制度—「天皇」「三権分立」「地方自治」「その他」
事前	テキストの該当箇所を読み、国家の仕組みについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

11	国の立法権ー国会
事前	テキストの該当箇所を読み、国会の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

12	国の行政権ー内閣
事前	テキストの該当箇所を読み、内閣の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

13	国の司法権ー裁判所
事前	テキストの該当箇所を読み、裁判所の役割について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

14	地方自治
事前	テキストの該当箇所を読み、地方自治の意義について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

15	ここまでの確認。憲法の意義とは
事前	テキストの該当箇所を読み、日本国憲法の存在意義について自分の理解を確認してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、憲法の全体像について自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:04

科 目 名	経済学 [社介心子科]			授業コード	1120071
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	需要、供給、市場競争、市場の失敗、貿易

到達目標	本講義では、第一に経済学の基礎概念の学習を通じて経済問題への興味をもつこと、第二に日本社会の現状に対する理解を深めること、そして第三にグローバル化が進む中で国際社会に対する関心を高めることという3点それぞれができるようになることを目標とします。 【履修ファイルの対応項目 A-5-(1)、(3)】			
授業の概要	日常生活を取り巻く経済現象を理解するために必要な経済学の基礎概念に対する理解を深めます。その上で、ネット情報等を活用して個人や企業といった経済主体がどのように行動し、モノの値段はどのように決定されるのかといったミクロ経済学の基本を学びます。また、景気変動や失業率増加とその対策といったマクロ経済学の考え方を学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーによる振り返り、課題内容についてのプレゼンテーションを適宜必要に応じて行います。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内確認小テスト（50%）、課題提出（30%）、クラス内の貢献（20%）による総合評価。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新井明・柳川範之・新井紀子『経済の考え方がわかる本』(岩波書店)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済学のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

2	経済学とは何か
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済学の基本概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

3	市場と競争-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場競争について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

4	市場と競争2-各論:完全競争と不完全競争
事前	参考文献の該当箇所を読み、完全競争と不完全競争について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

5	市場の失敗-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場の失敗について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、理解を深めること(2.5時間)。

6	市場の失敗2-各論:環境問題、政府規制の役割
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場の失敗の具体例について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、理解を深めること(2.5時間)。

7	競争と戦略
事前	参考文献の該当箇所を読み、競争戦略について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

8	企業経済(ネットを活用して、日経平均株価を調べてみよう)
事前	ネットデータを活用して、企業について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、ネットで実際の企業データを調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

9	日本経済(政府統計を利用して、日本経済の現状を知ろう)
事前	政府統計等を利用して、日本経済の統計資料について目を通してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、実際の統計データを調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

10	マクロ経済とは
事前	参考文献の該当箇所を読み、マクロ経済の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

11	財政と金融-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、財政と金融について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

12	財政と金融2-各論:財政赤字(日本政府の赤字額について知ろう)
事前	新聞記事などを利用して、日本の財政赤字について自分なりに理解してくること(1.5時間)。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

13	国際経済-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、国際経済について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、国際経済に関する事例を調べるなどして理解を深めること(2.5時間)。

14	国際経済2-各論:比較優位と絶対優位
事前	参考文献の該当箇所を読み、比較優位と絶対優位の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、比較優位に関する事例を調べるなどして理解を深めること(2.5時間)。

15	経済社会の展望
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済社会全体について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、経済学全体に関する振り返りを各自行うこと(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:41

科 目 名	経済学 [社介心子科]			授業コード	1120081
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	需要、供給、市場競争、市場の失敗、貿易

到達目標	本講義では、第一に経済学の基礎概念の学習を通じて経済問題への興味をもつこと、第二に日本社会の現状に対する理解を深めること、そして第三にグローバル化が進む中で国際社会に対する関心を高めることという3点それぞれができるようになることを目標とします。 【履修ファイルの対応項目 A-5-(1)、(3)】			
授業の概要	日常生活を取り巻く経済現象を理解するために必要な経済学の基礎概念に対する理解を深めます。その上で、ネット情報等を活用して個人や企業といった経済主体がどのように行動し、モノの値段はどのように決定されるのかといったミクロ経済学の基本を学びます。また、景気変動や失業率増加とその対策といったマクロ経済学の考え方を学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーによる振り返り、課題内容についてのプレゼンテーションを適宜必要に応じて行います。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内確認小テスト（50%）、課題提出（30%）、クラス内の貢献（20%）による総合評価。		
フィードバック	リアクションペーパーの内容について紹介や補足などして、授業内容のフィードバックを行います。			
履修に際しての 注意事項				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新井明・柳川範之・新井紀子『経済の考え方がわかる本』(岩波書店)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済学のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

2	経済学とは何か
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済学の基本概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

3	市場と競争-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場競争について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

4	市場と競争2-各論:完全競争と不完全競争
事前	参考文献の該当箇所を読み、完全競争と不完全競争について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

5	市場の失敗-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場の失敗について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、理解を深めること(2.5時間)。

6	市場の失敗2-各論:環境問題、政府規制の役割
事前	参考文献の該当箇所を読み、市場の失敗の具体例について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、理解を深めること(2.5時間)。

7	競争と戦略
事前	参考文献の該当箇所を読み、競争戦略について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、自分で具体例を調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

8	企業経済(ネットを活用して、日経平均株価を調べてみよう)
事前	ネットデータを活用して、企業について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、ネットで実際の企業データを調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

9	日本経済(政府統計を利用して、日本経済の現状を知ろう)
事前	政府統計等を利用して、日本経済の統計資料について目を通してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、実際の統計データを調べてみるなどして、学習内容の定着を図るようにすること(2.5時間)。

10	マクロ経済とは
事前	参考文献の該当箇所を読み、マクロ経済の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

11	財政と金融-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、財政と金融について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

12	財政と金融2-各論:財政赤字(日本政府の赤字額について知ろう)
事前	新聞記事などを利用して、日本の財政赤字について自分なりに理解してくること(1.5時間)。

事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解を深めること(2.5時間)。

13	国際経済-総論
事前	参考文献の該当箇所を読み、国際経済について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、国際経済に関する事例を調べるなどして理解を深めること(2.5時間)。

14	国際経済2-各論:比較優位と絶対優位
事前	参考文献の該当箇所を読み、比較優位と絶対優位の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、比較優位に関する事例を調べるなどして理解を深めること(2.5時間)。

15	経済社会の展望
事前	参考文献の該当箇所を読み、経済社会全体について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、経済学全体に関する振り返りを各自行うこと(2.5時間)。

2020/07/16(木)22:12

科 目 名	簿記論II/簿記論 [心]			授業コード	1120092
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	財務諸表、貸借対照表、損益計算書

到達目標	授業のねらいとしては、複式簿記の学習を通じて、企業を取り巻く環境やお金の流れを把握し、企業の財務状況を把握するための基礎的理解力を身につけることを目指します。本講義では日商簿記3級程度の知識を得ることを目的とします。			
授業の概要	複式簿記とは、企業等の経済活動の中で記録が必要な取引について、1つの取引を原因と結果という2つの側面から捉えて帳簿に記載するシステムのことを指します。このシステムによって作成される財務諸表は、企業の財政状態や経営成績を表す情報として、種々の利害関係者に利用されます。なお、講義と問題演習の形で進めるため、適宜課題演習を行う予定です。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	問題演習を通じて、主体的に学ぶ授業を行います。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内小ﾃｽﾄ(50%)、授業内の活動への取り組み(30%)とｺﾒﾝﾄｼｰﾄ(20%)による総合評価といたします。		
フィードバック	演習問題解説を通じて、間違えやすい点やよかった点をその都度授業内でフィードバックします。			
履修に際しての 注意事項	電卓を利用するので、各自で使いやすいものを用意しておいてください。(携帯電話の計算機能の使用は期末テスト時には不可です)。 毎回の積み重ねが大切なので、各自、演習を繰り返して簿記の知識を身につけるように努めてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	渡部裕亘編著『新検定簿記講義3級商業簿記』最新版 (中央経済社)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に適宜紹介いたします。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの該当箇所を読み、簿記のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

2	会社の報告書—貸借対照表と損益計算書
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

3	報告書の要素—資産、負債、純資産、収益、費用
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表の構成要素について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、財務諸表の構成要素の意義に関する理解を深めるようにすること(2.5時間)。

4	報告書の種類—2つの報告書の相互関係
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表の種類について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や演習解説をまとめるなどして、2つの財務諸表の特徴について自分なりの理解を深めるようにすること(2.5時間)。

5	経済活動の記録—取引と仕訳
事前	テキストの該当箇所を読み、簿記上の取引概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や演習解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

6	経済活動の分類—転記
事前	テキストの該当箇所を読み、仕訳と転記概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

7	商品売買1:分記法と3分法
事前	テキストの該当箇所を読み、商事売買の基本について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、2つの計測方法の違いを意識しながら、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

8	商品売買2:値引と戻し
事前	テキストの該当箇所を読み、商事売買の特徴について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

9	商品売買3:仕入帳と売上帳など
事前	テキストの該当箇所を読み、帳簿記録の方法について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や演習解説をまとめるなどして、帳簿の付け方について自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

10	売掛金と買掛金
事前	テキストの該当箇所を読み、掛取引について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、掛け取引の特徴について自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

11	現金と預金1:現金と当座預金勘定
事前	テキストの該当箇所を読み、現金取引について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

12	現金と預金2:現金過不足など

事前	テキストの該当箇所を読み、現金過不足について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説を復習するなどして、現金過不足と簿記上の処理について自分なりに理解してくること(2.5時間)。

13	その他の債権と債務
事前	テキストの該当箇所を読み、その他の債権債務の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

14	手形取引:受取手形と支払手形
事前	テキストの該当箇所を読み、手形取引の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した演習解説をまとめるなどして、手形取引の処理について自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

15	決算:試算表、精算表
事前	テキストの該当箇所を読み、決算手続の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で実施した小テストを復習するなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:48

科 目 名	会計学 [社]			授業コード	1120101
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関する キーワード	貸借対照表、損益計算書、財務諸表、決算書

到達目標	会計情報から企業や組織の経済状況を「読む」力を身につけることができるようになることを目指します。			
授業の概要	まず、会計学とは何かを学びます。ここでは、会計情報のしくみを理論的に学び、会計情報の数値の意味を考えます。次に、経営分析とは何かを学びます。ここでは、企業の特徴や状況を理解し、社会全体の経済状況を読む力を身につける訓練をします。更に、企業を取り巻くステークホルダーについて学習することで、会計情報に求められる役割とはなにかを考察します。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	議事課題を想定し、複数グループに分かれてディスカッション形式の授業を行う。課題について各自調べた上で、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内小確認テスト（50%）、授業内の活動への取り組み（30%）とコメントシート（20%）による総合評価といたします。		
フィードバック	授業内容について確認のために質疑応答を行う。履修者の学習理解を深めるために、必要に応じて追加解説や資料などを「でんでんばん」を通じてフィードバックをする。			
履修に際しての 注意事項	本講義は、原則として、簿記に関する基礎的な知識を持つものを対象とします。ただし、必要な知識を自習できる者についてはその限りではありません。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	桜井久勝他『財務会計・入門』第11版もしくは最新版 (有斐閣アルマ)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	テキストの該当箇所を読み、会計のイメージについて自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料をまとめるなどして、理解に努めること(2.5時間)。

2	貸借対照表と損益計算書
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること(2.5時間)。

3	財務諸表の入手方法
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表情報の活用について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

4	貸借対照表の読み方1-総論
事前	テキストの該当箇所を読み、貸借対照表の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

5	貸借対照表の読み方2-各論 資産、負債、純資産
事前	テキストの該当箇所を読み、貸借対照表で用いられる用語について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、貸借対照表の活用について理解を深めること(2.5時間)。

6	損益計算書の読み方1-総論
事前	テキストの該当箇所を読み、損益計算書の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

7	損益計算書の読み方2-各論 収益　費用
事前	テキストの該当箇所を読み、損益計算書で用いられる用語について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、損益計算書の活用について理解を深めること(2.5時間)。

8	財務諸表分析1-総論
事前	テキストの該当箇所を読み、財務諸表分析の概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

9	財務諸表分析2-各論 ケーススタディ
事前	これまで学んだことを復習して使える知識にしておくこと(1.5時間)
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること。 ロールプレイで用いた技法を試してみること(2.5時間)。

10	これまでの振り返り。さまざまな価額
事前	テキストを読み、これまで学んできた概念や知識を自分なりに復習してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること。 プレゼンテーションを通じて学んだことを自分なりに復習しておくおと(2.5時間)。

11	資産の価額1-総論
事前	テキストの該当箇所を読み、会計学上の資産概念について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、理解を深めること(2.5時間)。

12	資産の価額2-各論　原価法と時価法
事前	テキストの該当箇所を読み、資産の取得・活用について自分なりに理解してくること(1.5時間)。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること(2.5時間)。

13	収益および費用の認識
事前	テキストの該当箇所を読み、収益・費用の概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること（2.5時間）。

14	営利企業における利益
事前	テキストの該当箇所を読み、利益概念について自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、自分なりの理解に努めること（2.5時間）。

15	これまでの確認。会計の意味とは
事前	これまで学んだことを復習して使える知識にしておくこと（1.5時間）
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめるなどして、学習内容の理解に努めること（2.5時間）。

2020/07/16(木)11:06

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1120110
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	國見 真理子				

科目に関するキーワード	主権者教育、社会教育、プレゼンテーション、フィールドワーク
到達目標	授業の狙いとして、 ・社会に巣立つ前にバックボーンとなる基本書を輪読すること等を通じて、一般教養知識を固めること ・ゼミ論を含め、ある課題について、各自で調べた上で口頭発表やペーパーに取りまとめる作業を通じて論理的分析力やプレゼンテーション力を高めること ・討論その他の演習活動を通じて、コミュニケーションスキル向上を図ること ができるようになることが挙げられる。
授業の概要	本演習は、日常生活の中で日々発生する各種の社会問題について、自分の頭で考えて問題を解決する力を育成することを主な目的する。また、社会の中で他者と共に生きていくために、自分の考えを相手に的確に伝え、相手の意見を真摯に聞くための双方向コミュニケーション力を養うことを目指す。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 課題についてグループディスカッションを行う。リアクションペーパーの内容紹介やレポート発表などを行い、グループで学びあう。
評価方法及び評価基準	レポート / レポート課題（40%）、授業における貢献（30%）、レジュメ作成（20%）や発表内容（10%）など総合的に考量して評価を行う。
フィードバック	フィールドワーク後の事後学習やディスカッションにおける改善点や評価できるポイントをフィードバックする。
履修に際しての注意事項	自発的に授業に貢献する姿勢で臨むようにすること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	授業で適宜指示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	本演習では、法教育（―社会で生き抜く力を育むための基礎を学ぶ―）を中心に、幅広い社会問題を扱う。例えば、人権問題、消費者問題、経済問題といった日常的で身近な具体的事例を取り上げる予定である。また、社会貢献ができる人材となるために、グループワーク、映像資料、見学、ゼミ論発表など、能動的活動を適宜予定している。
事前	事前に指定した課題や資料などについて、自分なりに理解してくること（1.5時間）。
事後	授業で紹介した資料や解説をまとめたり、プレゼンテーションの振り返りなどの作業を通じて、自分なりの理解を図ること（2.5時間）。

2020/07/16(木)22:03

科 目 名	基礎演習I [心]			授業コード	1130010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、「捨我精進」の意味を説明できるようになること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎教養を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を修得し、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路について考え、関係する情報を収集すること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業を受けるときの常識、ノートの取り方、図書館の利用方法、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な基礎知識や技能を修得する。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考える機会を設ける。また、授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、レポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○				
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「日本語プレースメントテスト」の実施、建学の精神、入学前課題の確認
事前	大学のホームページで、建学の精神について読んでおくこと。また、入学前課題を見直し、提出の準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	エンカウンター(自己紹介)、大学での授業について
事前	テキストのⅠを読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	講義の基本、ノート・メモのとり方、プリント資料の管理等
事前	Ⅱの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	講義の聞き方と、ノートのとり方の工夫
事前	Ⅱの3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	レポートの書き方について
事前	Ⅲの1と2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	レポート作成と提出にあたっての留意事項、試験に向けた学習の仕方
事前	Ⅲの3と4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	定期試験について、大学の授業の成績評価について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および成績に関する項目、テキストのコラム2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	本の読み方の基本
事前	Ⅱの4，5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	本の読み方の応用
事前	Ⅱの6を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	キャリア形成について
事前	Ⅶの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	Ⅲの5～8を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	レポート作成の技術
事前	Ⅲの9～11、コラム5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	講演「青年期と性」(共同授業)
事前	配布資料を読んでおくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等) (共同授業)
事前	Ⅳの4～7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストの中で、授業で扱った内容にかかわる箇所を流し読みし、振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:05

科 目 名	基礎演習II [心]			授業コード	1130020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、聴き方・話し方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、大学で専門分野を学ぶことの意味を理解すること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎能力を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を高め、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路に関連させ、専門知識を学ぶことの意義を知ること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な知識や技能を高める。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考え、他者に説明したり、議論する。授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。後期の最後には、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、プレゼンテーションおよびレポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。プレゼンテーションについては、最終回でコメントをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、2年次の授業について
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅰ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	専門書の読み方について
事前	Ⅴの6、コラム9を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	本の読み方の工夫
事前	Ⅱの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	本の読み方と要約
事前	Ⅱの6、コラム7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	資料収集、情報リテラシーについて
事前	Ⅴの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	資料を活用したレポート・論文の書き方について
事前	Ⅵの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	レポート、定期試験について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および、成績に関する項目を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	大学2年次の留意点
事前	Ⅵの3，4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	「聴きかた」について
事前	Ⅳの1を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	意見を言うこと(話し方)について
事前	Ⅳの1，2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	レポート作成にかかわるこれまでの学びをまとめておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	プレゼン・発表のテーマ設定
事前	自らの進路について考え、その進路に必要な基礎知識を調べてくること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	プレゼン・発表の仕方について
事前	プレゼンテーションに関するこれまでの学びを振り返っておくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等)(共同授業)
事前	プレゼンテーションの準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅱ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)20:23

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1130050
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	学習指導要領、教育問題、教育改革、特色ある教育活動、特別支援教育

到達目標	①教育問題や教育施策、教育改革、特色ある教育活動、特別支援教育など、教育に関する事柄に関心をもち、これからの学校教育のあり方について考えることができる。 ②教育に関する事柄について、様々な資料を活用して、調べ、まとめることができる。 ③話し合いや発表の場面で、考えや意見、感想などを積極的に述べることができる。			
授業の概要	教育問題や教育施策、教育改革、特色ある教育活動、特別支援教育など、教育に関する事柄を取り上げ、全員で意見交換や話し合いを行う。また、個人のテーマを設定し、情報交換をしながら研究レポートを作成する。以上のことを通して、これからの学校教育について考える。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	課題やテーマに沿って、意見や解決策、具体策を出し合い、そこから更に学習を深めていく授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	研究レポート（50%）とリアクションペーパー（20%）、話し合いの時の発言・態度・意欲（20%）、教育への興味・関心（10%）で評価する。		
フィードバック	①話し合いの中での発言に対して、適宜、助言をしフィードバックする。 ②研究レポートの発表時は講評・助言によりフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	①教育問題などには日ごろから関心をもつこと。 ②積極的に授業に臨むこと。 ③全員で助け合うこと。学び合うこと。 ④わからない点や不明な点がある場合は、聞いたり、質問したりすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	①前期は教育に関する事柄を取り上げ、背景や現状、原因などを調べ、その解決策や改善策などについて話し合う。学校視察も行い、個人研究や視野を広げる一助とする。 ②後期は個人で関心のあるテーマを設定し、インターネットや書籍などを活用して調べたり、まとめたりして、研究レポートを作成する。最後に発表する機会を設け、全員で共有する。
事前	授業の準備（資料収集、調べ学習、発表準備など）を行うこと。（1時間）
事後	授業の振り返りと資料の補充、関連する事柄などの調べ学習を行うこと。（1時間）

2020/07/16(木)21:42

科 目 名	教育課程論/カリキュラム論 [心]			授業コード	1130072
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	教育課程、学習指導要領、教育行政、法令、小中・中高一貫教育
到達目標	授業のねらいは、以下の点である。 1 教育課程の意義・役割と法令との関係を理解することができる。 2 我が国の教育課程の編成とその手順を理解することができる。 3 教育課程の変遷を知り、学習指導要領の内容を理解することができる。 4 新しい学力観のもと、今後に目指す学力について理解することができる。 (履修ファイルの対応項目はA－2（2）、A－4（4）である）
授業の概要	本授業では、現在の教育課程について,関連法令との関係、並びにそれに基づく学習指導要領の編成について学ぶ。また、我が国の学校教育の中心である教育課程がどのように変遷してきたかを学び、教育課程の意義の理解に役立てる。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	課題やテーマの発表、画像を通して、意見を出し合うとともに、具体策、改善策を話し合う。（全3回）
評価方法 及び評価基準	試験	試験の得点(50%)、レポート(20%)、記録ノート(10%)、発表の内容(20%)により総合的に評価する。		
フィードバック	1、発表や話し合いの後、良かった点と改善点、工夫する点を授業内でフィードバックする。 2、レポートについては提出後、内容等を確認し、良かった点と改善点、工夫する点をコメントにてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	知識理解にとどまらず、積極的に教育課程の背景にある社会の変化に興味と関心をもつことが望まれる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省　中学校学習指導要領 文部科学省　高等学校学習指導要領 文部科学省　特別支援学校学習指導要領 教育課程を学ぶ　山田恵吾、他（著）　ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育課程とは何か
事前	教育課程の意味をインターネットや書籍などで調べてくること。（2時間）
事後	教育課程の定義について整理するとともに、資料をもとにまとめること。（2時間）

2	教育課程確立の歴史
事前	20世紀以降の欧米諸国の教育課程の変遷に、影響を与えた人物を調べてくること。（2時間）
事後	20世紀が教育改革の世紀であることを、配布した資料によって確認すること。（2時間）

3	諸外国の教育課程
事前	世界の国々の中から1か国を選択し、教育制度や学校の様子などを、インターネットや書籍などを使って調べてくること。（3時間）
事後	発表後、質問や感想、意見、コメントをまとめること。[提出]（2時間）

4	我が国の教育課程　明治以前の藩校・寺子屋
事前	予め指定された江戸時代の藩校について、成り立ちや特色などを調べてくること。(2時間)
事後	飛鳥時代から江戸時代までの流れを振り返るとともに、寺子屋について教育内容や様子などを調べておくこと。(2時間)

5	我が国の教育課程　戦前の学校教育
事前	資料を読み、なぜ明治初期に学制を整える必要があったのかを考えておくこと。（2時間）
事後	パワーポイントの資料をもとに、明治から大正、昭和（戦前）までの教育課程の流れを記録ノートにまとめること。（2時間）

6	我が国の教育課程　戦後の学校教育
事前	事前に配布した資料をもとに、分担したところを調べてくること。（3時間）
事後	全員の発表を聞き、メモしたことを整理すること。（2時間）

7	教育課程と関係法令
事前	日本国憲法の中で、教育に関する条文を探し、内容を説明できるようにしておくこと。（1時間）
事後	授業で学修した以外に、教育基本法や学校教育法などの法令から、教育課程に関係のある条文を調べること。（3時間）

8	学習指導要領と教科書
事前	中学校や高等学校で使用した教科書を見て、なぜ教科書があるのかを考えておくこと。（2時間）
事後	日本の教科書制度について、図式化しまとめること。（2時間）

9	学習指導要領の改訂の特色
事前	中学校の学習指導要領の総則を読み、内容をまとめておくこと。（2時間）
事後	高等学校や特別支援学校（小学・中学部、高等部）の中から一つを選び、総則をまとめること。（2時間）

10	学校における教育課程の編成
事前	学校での教育活動にはどのようなものがあるかを、具体的に考えまとめておくこと。（2時間）
事後	パワーポイントの資料をもとに、教育課程編成の流れや領域、内容を整理しておくこと。（2時間）

11	新しい学力観と教育課程
事前	学習指導要領の総則や改訂の特色から、今、学校教育に求められていることは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	話し合った内容をまとめ、地域に開かれた教育課程について具体策を考えること。（2時間）

12	新しい学力観と学習指導
事前	ある学校の学校要覧を参照し、学習指導についてやり方や内容を考えておくこと。（2時間）
事後	今後、学力向上に向けた学習指導をどのようにしていったらよいかを、前時の学修を踏まえてプリントにまとめること。（2時間）

13	中高一貫教育の意義と内容
事前	全国にある中高一貫教育を実施している学校を1つ選び、特色などを調べておくこと。(2時間)
事後	授業でとったメモをもとに、中高一貫教育の意義や課題を配布した記録ノートに整理しておくこと。(2時間)

14	小中一貫教育の意義と内容
事前	資料を読み、小中一貫教育のメリットやデメリットについて考えておくこと。(2時間)
事後	授業で学修した以外に、関心をもった自治体や学校を選び、小中一貫教育の特色などをまとめておくこと。[提出](3時間)

15	新教科の意義と背景
事前	新教科とはどのような教科かを、インターネットや書籍などで調べておくこと。(2時間)
事後	実際に教員の立場で、新教科をどのように教えていくかを考えまとめること。(2時間)

2020/07/16(木)21:39

科 目 名	社会科教育法I/社会科教育法 [心]			授業コード	1130081
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	学習指導要領、社会的な見方・考え方、課題解決的な学習、公民としての資質・能力の基礎

到達目標	中学校社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野の目標・内容・内容の取扱いについて理解し、中学校社会科教員として必要な基礎的知識を身につけることができる。 教職課程科目履修ファイルチェックシート A－4 教育の理念（1）、 C－2 生徒に対しての支援と指導（4） 、C－3 コミュニケーション（1）～（5） 、D－1 求められる応答性（1）、 D－2 教育計画（1）～（7） 、D—3 教科指導の基本（1）～（4）、 D－4 生徒の興味・関心を活かした指導（1）～（6） 部分に相当する。			
授業の概要	「社会科教育法Ⅰ」においては、中学校学習指導要領に示された社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野の目標・内容・内容の取扱いについて理解し、社会科教育のあり方について考える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	社会科教育のあり方を、模範授業の実施や様々な学習形態の体験、様々な教材の検討などを通して考える授業を行う。（全4回）
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（50%）、毎授業ごとの記録ノート（30%）、授業に向かう姿勢、発言（20%）で評価する。		
フィードバック	レポートに対してはコメントにてフィードバックする。 毎時間の授業では、発言や発表に対して、適宜、助言や講評をする。			
履修に際しての 注意事項	・ 社会科教育法Ⅱを必ず履修すること。 ・ 課題や記録ノートは必ず提出すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	中学校　新学習指導要領の展開　社会編　　原田智仁（著）　明治図書出版	9784183342140
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	・中学校社会科教科書　地理的分野　歴史的分野　公民的分野 ・文部科学省　中学校・高等学校・特別支援学校（小学・中学部、高等部）　学習指導要領 ・中学校社会科　学習活動の工夫45　青柳慎一（著）　明治図書出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　「社会科教育法Ⅰ」の概観
事前	テキストp.184～p.203の付録「中学校学習指導要領　第2章　社会」を読んでおくこと。（2時間）
事後	テキストp.8を見て、全体目標、3分野の目標を書き、キーワードとなる文言の意味を考えておくこと。（2時間）

2	社会科とは何か・社会科の歴史
事前	配布した資料を読み、重要なところにアンダーラインを引くこと。（2時間）
事後	配布した資料をもとに、社会科教育の変遷の中で、興味をもった時代の出来事を調べておくこと。（2時間）

3	記憶に残る社会科の授業と教師
事前	中学校、高等学校の中で印象に残った社会科の授業を思い出し、どのような授業であったかをまとめておくこと。（2時間）
事後	「わかる授業」「楽しい授業」とは、どういうものかをまとめておくこと。（2時間）

4	社会科における様々な学習形態・学習方法
事前	インターネットや書籍などを参考に、学習形態の種類や学習方法について調べておくこと。（2時間）
事後	授業の振り返りをするとともに、他の学習形態を調べまとめておくこと。[提出]（2時間）

5	学習指導要領
事前	テキストp.16～p.17を読み、新旧学習指導要領の違いを、説明できるようにしておくこと。（2時間）
事後	テキストp.11～p.15の「3、学習内容、学習指導等の改善、充実」の中から1つを選び、具体例を考えまとめておくこと。（2時間）

6	小学校学習指導要領との関連、教材研究と教科書
事前	文部科学省　「小学校　学習指導要領　社会」を読み、重要なところにアンダーラインを引くこと。（2時間）
事後	学修したことを振り返り、配布したプリントをやっておくこと。（2時間）

7	地理的見方・考え方
事前	テキストp.22～p.23、p.17～p.18、p.129～p.130を参考に、地理的な見方・考え方とは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	テキストp.24～p.57の学習課題例の中から1つ選び、見方・考え方をまとめること。（2時間）

8	地図の見方・読み方
事前	インターネットや書籍を活用して、地図の種類を調べておくこと。（2時間）
事後	配布したプリントで、地図の見方・読み方を確認すること。（2時間）

9	歴史的見方・考え方
事前	テキストp.58～p.59、p.129～p.130を参考に、歴史的な見方・考え方とは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	テキストp.60～p.95の学習課題例の中から1つ選び、見方・考え方をまとめること。（2時間）

10	モノ教材の活用、人物・文化遺産の扱い
事前	中学校や高等学校で使用した教科書に載っている人物、文化遺産を調べておくこと。（2時間）
事後	教材や人物、文化遺産を、授業でどのように活用するかを考えること。（2時間）

11	主権者教育とは？
事前	主権者教育とは何かを、インターネットや書籍で調べてくること。（2時間）
事後	資料の事例以外に、主権者教育がどの単元でできるかを考えること。（2時間）

12	政治や経済の見方・考え方
事前	テキストp.96～p.97、p.129～p.130を参考に、公民的な見方・考え方とは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	テキストp.104～p.121の学習課題例の中から1つ選び、見方・考え方をまとめること。（2時間）

13	現代社会の課題の扱い
事前	現代の社会には、どのような課題や問題があるかを考えておくこと。（2時間）
事後	テキストp.98～p.103、p.121～p.130を参考に、課題や問題を授業でどのように取り組むか、展開例をレポートにまとめること。[提出]（2時間）

14	評価の現状と課題
事前	評価材にはどのようなものがあるかを考えておくこと。（2時間）
事後	3分野の評価基準・規準の資料を読んでおくこと。（2時間）

15	まとめ、総合的学習との関係　授業評価と自己評価
事前	中学校の時、「総合的な学習の時間」で何をやったのかをまとめておくこと。（2時間）
事後	今までの学修を通して、「社会科教育で大切なこと」「もっと深めたいこと」をまとめること。（2時間）

2020/07/16(木)21:45

科 目 名	社会科教育法II/社会科指導法 [心]			授業コード	1130091
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小泉 和博				

科目に関するキーワード	学習指導要領、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性の涵養、主体的・対話的で深い学び

到達目標	中学校社会科の各分野の学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行い、中学校社会科教育における実践的な指導力を身に付けることができる。 教職課程科目履修ファイルチェックシート A－4 教育の理念（1）、 C-2 生徒に対しての支援と指導（4） 、C-3 コミュニケーション（1）～（5） 、D-1 求められる応答性（1）、 D-2 教育計画（1）～（7） 、D－3 教科指導の基本（1）～（4）、 D-4 生徒の興味・関心を活かした指導（1）～（6） 部分に相当する。
授業の概要	「社会科教育法Ⅱ」においては、履修者全員が中学校社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を行う。また、模擬授業終了後、意見交換や評価を行う。 なお、履修者の数により、学習指導案作成の時間を減らし、模擬授業の時間を増やす場合がある。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループ分けをして、教材研究や指導案作成を助け合って行うとともに、個々の模擬授業では社会科の指導法やコミュニケーション能力を身に付ける授業を行う。（全12回）
評価方法及び評価基準	レポート	レポート[学習指導案]（40%）、 模擬授業（40%）、教材研究や指導案作成、話し合い、意見交換に臨む姿勢・態度（20%）で評価する。		
フィードバック	・教材研究や指導案作成の時、教材研究のやり方や指導案作成の仕方、発問の仕方などを、適宜助言する。 ・模擬授業ごとに、良い点や改善点などを的確に助言、講評する。			
履修に際しての注意事項	社会科教育法Ⅰを必ず履修すること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III			○				
IV		○					

V							

テキスト1	中学校　新学習指導要領の展開　社会編　　原田智仁（著）　明治図書出版（株）	9784183342140
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	・中学校社会科教科書　地理的分野　歴史的分野　公民的分野 ・文部科学省　中学校学習指導要領　社会	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 「社会科教育法Ⅱ」の概観
事前	学習指導案は、何のためにあるのかを考えてくること。（2時間）
事後	授業を振り返り、配布した学習指導案のプリントで復習をしておくこと。（2時間）

2	学習指導案と授業の組み立て方
事前	テキストp.148～p.183の授業プランの中から1つを選び、一読して大事な点をまとめておくこと。（2時間）
事後	資料を参考にて、簡単な学習指導案を作成すること。（2時間）

3	学習指導案（地理的分野） 教材研究
事前	地理教材の準備をすること。（2時間）
事後	地理教材の準備と補充をしておくこと。（2時間）

4	学習指導案（地理的分野） 指導案の作成
事前	指定された地理単元の授業の流れを考えておくこと。（2時間）
事後	地理指導案を完成させておくこと。（2時間）

5	模擬授業（地理的分野）①と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ1）
事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

6	模擬授業（地理的分野）②と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ2）
事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

7	学習指導案（歴史的分野） 教材研究
事前	歴史教材の準備をすること。（2時間）
事後	歴史教材の準備と補充をしておくこと。（2時間）

8	学習指導案（歴史的分野） 指導案の作成
事前	指定された歴史単元の授業の流れを考えておくこと。（2時間）
事後	歴史指導案を完成させておくこと。（2時間）

9	模擬授業（歴史的分野）①と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ1）
事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

10	模擬授業（歴史的分野）②と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ2）
事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

11	学習指導案（公民的分野） 教材研究
事前	公民教材の準備をすること。（2時間）
事後	公民教材の準備と補充をしておくこと。（2時間）

12	学習指導案（公民的分野） 指導案の作成
事前	指定された公民単元の授業の流れを考えておくこと。（2時間）
事後	公民指導案を完成させておくこと。（2時間）

13	模擬授業（公民的分野）①と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ1）

事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

14	模擬授業（公民的分野）②と反省・評価　この時間内で行われた模擬授業に関する反省および評価を行う。（グループ2）
事前	模擬授業の練習をしておくこと。教材などの確認をしておくこと。（2時間）
事後	話し合いで指摘された点を修正や訂正をして、学習指導案を完成させること。[提出]（2時間）

15	まとめ　自己評価
事前	3分野の学習指導案および模擬授業、評価を振り返り、良い点や改善点を整理しておくこと。（2時間）
事後	次年度の教育実習に向けて、、「わかる授業」「楽しい授業」「学力を付ける授業」について考えておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)22:15

科 目 名	特別活動の指導法 [心]			授業コード	1130101
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小泉 和博				

科目に関する キーワード	学級活動、生徒会活動、学校行事、合意形成、集団や社会の形成者
到達目標	特別活動の指導法では、次のように目標を設定する。 1 特別活動の意義と目的を理解し、生徒を指導することができる。 2 学級活動（ホームルーム）の内容を理解し、実践することができる。 3 生徒会活動の意義と内容を理解することができる。 4 学校行事についての目的と内容を理解し、指導することができる。 5 課外活動の意義を理解することができる。 6 特別活動の指導計画を立案し、実践することができる。 （履修ファイルの対応項目は、A-4（3）である）
授業の概要	中学校、高等学校の領域である「特別活動」について、学習指導要領に書かれている意義や内容を、正しく理解できるようにする。また、今日の学校教育に望まれる教師力についても触れる。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 遠足、集団宿泊的行事の学修では、グループに分け、計画から運営、実施要項の作成までの流れを体験する授業を行う。（全3回）
評価方法 及び評価基準	試験 / 学期末試験の結果（50%）に、レポート（20%）や話し合いの態度・意欲（20%）、記録ノート（10%）で評価する。
フィードバック	①話し合いの際は適宜助言を与える。 ②レポートについては内容を見て、良い点と改善点について助言し返却する。
履修に際しての 注意事項	学級活動や生徒会活動、学校行事について学修するので、教員の立場になって、積極的に話し合いに参加したり、意見や感想を述べたりすること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	中学校　新学習指導要領の展開　特別活動編　藤田晃之（著）　明治図書出版（株）	9784183352170
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	中学校学習指導要領 特別活動、高等学校学習指導要領　特別活動	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業ガイダンス
事前	テキストの「はじめに」を読み、特別活動とは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	テキストp.10～p.17を読み返し、改訂の経緯、基本方針、ポイントを確認しておくこと。（2時間）

2	特別活動の意義と目的　　望ましい集団とはどのような集団であるかを学ぶ
事前	テキストp.18～p.27を読み、重要なところにアンダーラインを引くこと。（2時間）
事後	望ましい集団について、中学校、高等学校時代を思い出し、まとめておくこと。（2時間）

3	学級活動と学級づくり　学級担任の役割とはどのようなことかを学ぶ
事前	「学級の様子」のプリントとテキストのp.28～p.35を読んでおくこと。（2時間）
事後	学級担任の役割について、記録ノートにまとめておくこと。（2時間）

4	学級活動の指導について　日常生活と健康安全についてどのように指導するかを学ぶ
事前	テキストp.30～p.33を読み、内容をまとめておくこと。（2時間）
事後	授業で示した事例について、略指導案を作成すること。[提出]（2時間）

5	学級活動の指導について　　生徒指導や健全育成の指導方法について学ぶ
事前	「いじめ」がなぜ起きるのか、どうすれば解決できるのかを考えておくこと。（2時間）
事後	話し合いの記録をもとに、望ましい学級について、まとめておくこと。（2時間）

6	学級活動の指導について　進路指導と給食指導等の実践例に基づいて学ぶ
事前	中学校や高等学校の進路指導がどうであったかを整理しておくこと。（2時間）
事後	給食指導について担任として重視する点、気を付ける点をまとめておくこと。（2時間）

7	生徒会活動の意義と目的　生徒会および委員会の指導内容について学ぶ
事前	テキストp.38～p.47を読み、重要なところにアンダーラインを引くこと。（2時間）
事後	今後、教員として、生徒会活動をどのようにしていったら良いかを、考えておくこと。（2時間）

8	学校行事の意義と内容の理解　安全指導の指導内容・方法について学ぶ
事前	テキストp.48～p.49を読み、安全指導とは何かを考えておくこと。（2時間）
事後	授業を振り返り、学校行事の際に起こる事故について整理しておくこと。（2時間）

9	遠足・集団宿泊的行事の内容構成と計画の作成方法を学ぶ
事前	中学校や高等学校の宿泊行事を思い出し、ねらいやきまり、持ち物などがどうであったかを、まとめておくこと。（2時間）
事後	テキストp.154～p.157を読み、内容をまとめること。（2時間）

10	遠足的行事を実施し、計画に基ずく指導方法を身に付ける
事前	「学級の様子」のプリントを読み返し、遠足を実施する際の配慮事項を考えておくこと。（2時間）
事後	話し合いの記録をもとに、遠足の係の仕事をまとめておくこと。（2時間）

11	遠足的行事を実施し、実施時の企画や計画等の反省を行う。
事前	遠足本番までの計画案を作成しておくこと。（2時間）
事後	話し合いの記録をもとに、遠足の実施案を作成すること。[提出]（3時間）

12	儀式的行事、文化的行事についての意義と進め方について学ぶ
事前	テキストp.142～p.149を読み、重要なところにアンダーラインを引くこと。（2時間）
事後	発表の内容を記録し、記録ノートに儀式的行事のまとめをすること。（2時間）

13	健康安全・体育的行事の意義と進め方について学ぶ
事前	テキストp.142～p.149を読み、運動会のねらいと学級との関わりについてまとめておくこと。（2時間）

事後	健康安全面を考慮する運動会の種目を1つ取り上げ、学級で生徒を指導する際の配慮する点をまとめること。（2時間）

14	勤労生産・奉仕的行事の意義と進め方について学ぶ
事前	今まで取り組んできたボランティア活動から学んだ点をまとめておくこと。（2時間）
事後	特別支援学校の教員として就労に向けた進路指導の行事を企画すること。（2時間）

15	人権問題等へのかかわり方について学ぶ
事前	中学校学習指導要領の特別活動のところを、もう一度読んでおくこと。（2時間）
事後	テキストp.70～p.79とp.84～p.87を参考に、「人権感覚を磨く」とは何かをまとめること。（2時間）

2020/07/16(木)20:23

科 目 名	人体の機能と日常生活 [心]			授業コード	1140012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	人体の構造、人体の機能、生活支援、自立生活

到達目標	・介護を必要とする人の生活支援実践を行うため、実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解し、説明できる。 ・人体の構造と機能についての知識を、こころとからだのしくみ、身じたく、移動、食事、清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階の視点から理解し、生活支援技術に必要な基礎知識を身につける。			
授業の概要	介護福祉士として、利用者の自立生活を支援するために必要な「こころとからだ」の基礎的な知識及び人体との関係を身体的・心理的・社会的側面から学び、介護実践に適切に活用できる能力を習得する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業中に確認テストを実施し、その結果を返却し、解説する。
評価方法 及び評価基準	試験	課題と小テスト（50%）、学期末試験（50%）により評価する。		
フィードバック	小テスト後は、正答資料を配布、解説してフィードバックをする。			
履修に際しての 注意事項	こころとからだのしくみの概要を理解するためには、テキストを読み込むことが求められる。前向きな学習姿勢を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV			○				

V							

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集　最新　介護福祉士養成講座　11　こころとからだのしくみ　中央法規	9784805857717
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿った資料や書籍等を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスをチェックし、15回の内容をテキストの各章の概要を読み、把握すること。(2時間)
事後	シラバスの内容と教科書の内容について対応する内容について確認し、配布資料にて復習する。(2時間)

2	生命誕生、成長発達段階の理解
事前	人の生命の誕生について、テキストを読み、理解すること。(2時間)
事後	人の生命の誕生について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

3	こころのしくみの理解① 人間の基本的・社会的欲求
事前	人間の基本的・社会的欲求について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人間の基本的・社会的欲求について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

4	こころのしくみの理解② 心身の調和
事前	心身の調和について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	心身の調和について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

5	こころのしくみの理解③ こころと脳のつながり
事前	こころと脳のつながりについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	こころと脳のつながりについて、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

6	からだのしくみの理解① 移動・移乗
事前	移動・移乗について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	移動・移乗について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

7	からだのしくみの理解② 身じたく
事前	身じたくについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	身じたくについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

8	からだのしくみの理解③ 活動
事前	活動について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	活動について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

9	からだのしくみの理解④ 食事の消化・吸収
事前	食事の消化・吸収について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事の消化・吸収について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

10	からだのしくみの理解⑤ 食事に関する機能低下・障害
事前	食事に関する機能低下・障害について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事に関する機能低下・障害について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

11	からだのしくみの理解⑥ 入浴・清潔
事前	入浴・清潔について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	入浴・清潔について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

12	からだのしくみの理解⑦ 排泄
事前	排泄について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	排泄について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

13	からだのしくみの理解⑧ 休息・睡眠
事前	休息・睡眠について、教科書を読み、理解すること。(2時間)

事後	休息・睡眠について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

14	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみ
事前	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

15	総括
事前	教科書の各章でのポイントについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	教科書の各章でのポイントについて、期末試験に向けて復習すること。(2時間)

2020/07/16(木)22:00

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [介]			授業コード	1140020
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	文献検索、調査分析の方法、論文の構成、卒業後の進路

到達目標	1. 大学での学びを基に、他者と意見を交換する中から自らの関心領域を見つけることができる。 2. それぞれの適性や興味に応じた調査・研究を可能にするための、基礎的な考え方と関連情報を収集する手法を身につけ、課題解決に至る計画を立てることができる。 3. 介護現場の実践にふれ、自らの将来像を描き、その将来に向かう具体的な道筋を考えることができる。 4. 資格取得に向けて勉学に取り組むことができる。			
授業の概要	学生自身が主体的にそれぞれの問題意識の所在を探り、「ゼミナールⅡ」に向けて、各自の研究テーマを決定していく。 具体的には、文献検索、資料整理、グループディスカッション等を実施し、基礎的な研究の手法と考え方を学ぶ。また、これらの過程を通じて、思考力、洞察力を高め、課題探求能力を深めると同時に、コミュニケーション能力、人間力を醸成する。 その他、各種施設見学や講演会などに参加し、卒業後の進路に向けた道筋を考える。 さらに、資格取得に向けた国家試験対策を進めていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・それぞれの関心領域について調べた結果を発表しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・各種施設見学や講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の進路に向けた道筋を考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に対する取り組みやグループディスカッションへの参加態度、見学、講演会への主体的な参加の状況等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	常に新聞・雑誌、テレビ等で取り上げられている問題について関心をもつこと。 授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	講義や演習、実習の体験等を踏まえて、自らの関心や問題意識に基づいた学習を進めていく。 ＜前期＞ オリエンテーション 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） ＜後期 ＞ 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 「ゼミナールⅡ」での研究に向けた計画書作成 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） 国家試験対策
事前	それぞれの関心領域に沿った資料を読み、説明できるようまとめておく。 見学する施設の情報を収集し、質問事項をまとめておく。（0.5時間）
事後	グループディスカッションや各種施設見学・講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の課題に向けた取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)22:22

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [介]			授業コード	1140030
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関するキーワード	研究の意義、論文の意義、的確な表現と伝達の方法、人間の尊厳
到達目標	1. 生活環境（人的・物的）を生活主体である人間にとって最適化するためにはどうしたら良いのかについて、様々な角度から比較検討し考えて行くことができる。 2. 人間の尊厳に値する生活とは何か、人々のより良い生活の質の向上に自らがどのように貢献していくのか、それらの方向性を見出すことができる。 3. 調査研究の結果を論文としてまとめていくプロセスを通して、論理的・客観的な思考力や表現・伝達の力（技能）、課題解決に向けて計画的に行動していくことができる力を身につける。
授業の概要	各自の関心に基づいて設定した研究テーマに沿って、関連する先行研究・文献を参照しつつ調査・研究を進め、その研究結果を、大学4年間における学習の成果として、卒業論文またはゼミ論文として集大成して行く。 また、メンバーがお互いに調査・研究の進行状況を発表しあい意見交換する機会、および各種講演会に参加し卒業後の自らの生き方について考える機会も並行して設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / ・各自の調査研究の進行状況を報告しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の介護のあるべき姿について考えていく。
評価方法及び評価基準	レポート / 学習意欲、学習態度、およびレポート・論文とその発表内容等を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			

IV							
V					○		

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞ 1）研究テーマの確定・研究実施計画 2）調査の計画・準備 3）調査実施 4）調査結果の整理・考察 5）卒業生による講演（合同授業） ＜後期＞ 6）調査結果のまとめ 7）レポート・論文の執筆 8）論文発表準備・発表 9）まとめ 10）卒業生による講演（合同授業） 上記は、1年間の調査研究を中心とした授業の流れになるが、実際の調査研究では、時期、対象、方法、内容、整理・分析法、まとめ方等々は一人一人異なって来る。しかし、共通する問題や解決法も多く存在し、他のメンバーの研究が自らの研究への刺激やヒントとなる場合もあるので、“全員で考える”ことを原則とする。
事前	各自の立てた計画に沿って調査研究を進め、疑問点を明らかにしておく。（0.5時間）
事後	ディスカッションや講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の調査研究の取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)10:54

科 目 名	介護福祉論I [介]			授業コード	1140051
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	介護の歴史、介護福祉士の役割と機能、対象者理解・尊厳、自立支援、個別ケア

到達目標	・介護の歴史、介護福祉士を取り巻く最近の状況等を理解し、説明できる。 ・介護福祉の基本となる理念、介護福祉士の役割と機能を理解し、説明できる。 ・介護を必要とする対象者を理解する視点を学習し、知識を深め、援助技術を習得することの重要性を理解し、説明できる。 ・介護を必要とする対象者の生活を支えるしくみを多面的に理解し、説明できる。 ・介護が必要な対象者の尊厳を理解し、自立支援に向けた個別ケアの重要性と手法を身につける。			
授業の概要	介護福祉は高齢者や障害をもった人々の生命を守り、生活の質を高め、維持することを目的としている。そのため、介護福祉士に必要とされる介護の専門的で基礎的な知識・技術を習得できる学びを深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	小テストを実施し、テストについてのフィードバックを実施する。
評価方法 及び評価基準	試験	成績評価は、試験（70%）、授業態度や参加度と課題で（30%）により総合的に評価する。		
フィードバック	発表や提出物について、適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。			
履修に際しての 注意事項	遅刻をしないこと。課題や試験についてなど、授業の冒頭に説明をすることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II	○						
III							
IV	○						

V							

テキスト1	【編集委員】石本淳也・川井太加子・杉原優子・横山孝子　最新　介護福祉士養成講座　3　介護の基本Ⅰ　中央法規	9784805857632
テキスト2	【編集委員】石本淳也・川井太加子・杉原優子・横山孝子　最新　介護福祉士養成講座　4　介護の基本Ⅱ　中央法規	9784805857649
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿って文献や論文紹介をする。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　介護の歴史、介護問題の背景の理解
事前	教科書の介護の歴史、介護問題の背景を読んで、理解してくること。(2時間)
事後	介護の歴史、介護問題の背景の理解について講義と配布プリントにて、復習をすること。(2時間)

2	介護問題の背景 (少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化ほか)
事前	介護問題の背景 (少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化)について、教科書を読み理解してくること。(2時間)
事後	介護問題の背景 (少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化)について、講義と配布資料にて復習すること。(2時間)

3	社会福祉関連の法制度
事前	社会福祉関連の法制度について教科書を読み、理解してくること。(2時間)
事後	社会福祉関連の法制度について、講義と配布資料にて復習し、理解を深めること。(2時間)

4	介護福祉(ケアワーク)の対象(1)要介護者、認知症高齢者
事前	要介護者、認知症高齢者について、教科書を読み、理解してくること。(2時間)
事後	要介護者、認知症高齢者について講義と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

5	介護福祉(ケアワーク)の対象(2)障害児・者
事前	障害児・者について教科書を読み、理解してくること。(2時間)
事後	障害児・者について、教科書と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

6	介護福祉士の役割と機能、介護職と多職種の連携
事前	介護福祉士の役割と機能、介護職と多職種の連携 について教科書を読み、理解してくること。(2時間)
事後	介護福祉士の役割と機能、介護職と多職種の連携 について、講義と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

7	対象者の理解(1) 個人史(生活史、背景)の理解
事前	身近な高齢者の 個人史(生活史、背景)について、配布された資料と解説から手順等を考えておくこと。(2時間)
事後	個人史(生活史、背景)についてインタビュー終了後は、課題に沿ってまとめること。(2時間)

8	対象者の理解(2) 介護福祉士の倫理
事前	介護福祉士の倫理について教科書を読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	介護福祉士の倫理について、講義と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

9	対象者の理解(3) QOLの理解
事前	対象者の QOLの理解について教科書を読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	対象者の QOLの理解について講義と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

10	対象者の理解(4) 介護・社会福祉の原則と対象者理解のための理論
事前	介護・社会福祉の原則と対象者理解のための理論について教科書を読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	介護・社会福祉の原則と対象者理解のための理論について、講義と配布資料にて復習をして理解を深めること。(2時間)

11	諸外国における介護福祉
事前	諸外国における介護福祉について教科書を読み、理解を深めること。(2時間)
事後	諸外国における介護福祉について講義と配布資料にて復習をして理解を深める。(2時間)

12	日常生活支援の基本(1) 包括的日常生活支援、尊厳を支えるQOLを保つ介護
事前	包括的日常生活支援、尊厳を支えるQOLを保つ介護について教科書を読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	包括的日常生活支援、尊厳を支えるQOLを保つ介護について講義と配布資料にて復習をして理解を深める。(2時間)

13	日常生活支援の基本(2) 人間の多様性・複雑性、身体的生活支援
事前	人間の多様性・複雑性、身体的生活支援について教科書を読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	人間の多様性・複雑性、身体的生活支援について講義と配布資料にて復習をして理解を深める。(2時間)

14	日常生活支援の基本(3) 文化的・社会的生活支援他
事前	文化的・社会的生活支援、個別性にも配慮した支援について考えておく。(2時間)
事後	文化的・社会的生活支援、個別性にも配慮した支援について講義と配布資料にて復習をして理解を深める。(2時間)

15	まとめ
事前	1-14回で学んだ内容のポイントをまとめておく。(2時間)
事後	1-14回で学んだ内容と試験問題に関する解説と配布資料をもとに復習し、理解を深める。(2時間)

2020/07/16(木)10:34

科 目 名	医療的ケアI [介]			授業コード	1140060
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	4
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	医療的ケア　バイタルサイン　感染　喀痰吸引
到達目標	・介護職が医行為の一部を業として行うことになった医療的ケアの内容と実施の社会的背景を理解し、説明できる。 ・医療的ケアを行う上で、医療従事者同様の職業倫理が求められることを、個人の尊厳と自立を扱っている「医の倫理」「介護の倫理」の知識をもって説明できる。 ・チーム医療について構成する職種や役割について説明できると同時に、保健医療制度、介護保険制度その他関連する制度について説明できるようになる。 ・医療的ケアは危険を伴う行為であることを理解し、ヒヤリハットなどの知識を基に危機管理を意識することの重要性を説明できる。 ・医療的ケア実施に必要な清潔保持・感染予防・健康状態の把握についてスタンダード・プリコ―ション、バイタルサインの知識をもって説明ができるとともに実践できるようになる。 ・呼吸の回数、呼吸音、呼吸の仕方など平常の呼吸状態といつもと違う呼吸状態、痰の状態について説明できる。 ・医療職との連携が利用者の安全につながることを理解し、説明できる。 ・喀痰吸引に必要な呼吸のしくみとはたらきを説明できるとともに、吸引をうける利用者や家族の気持ちを理解し、実施に関する内容と方法を説明できる。 ・喀痰吸引で用いる器材・器具を説明できるとともに、実施手順と留意点、報告及び記録について演習をとおして口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内の吸引を一人でできるようになる。
授業の概要	介護職が一定の要件下で行えるようになった医療的ケアの内容を知るとともに、医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について理解を深める。さらに医療的ケアを安全に実施するための基礎知識と技術を学ぶ。 特に医療的ケアⅠでは、医療的ケアの喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引）に関する基礎知識とともに実施手順とその留意点について、教科書の他に視聴覚教材を用いて学習する。また、知識修得に向けて小テストなどを実施し、医療的ケアに必要な感染予防や健康状態の把握、呼吸のしくみなどの知識の定着を図る。 救急蘇生および第18回以降の喀痰吸引の演習では、シミュレーターを使用しケアの実施の流れ（準備から実施、片付け、報告、記録）と留意点について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の理解度を確認するため第10回、第22回において確認のテストを行う、なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う
評価方法 及び評価基準	前期　試験 後期　レポート	試験（評価）50%　小テスト30%　授業中の活動状況20%として総合的に評価する。授業への主体的な参加も重視する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において講評を行い返却するので、試験・演習評価の準備に役立てること。本科目の総括として実施する期末試験と演習評価は、結果が評価の中で重要な位置を占めるので各自の準備学習が必要となる。また、厳格な姿勢を持って授業に臨むこと。			
履修に際しての 注意事項	医療的ケアは対象者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものであることから確実な技術を習得できるよう事後の復習を十分に行うこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							

III			○				
IV							
V				○			

テキスト1	介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア 著者　柊崎京子・荏原順子	978―4-7679-3376-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド　編著　渡辺裕美 ISBN978-4-8404-5776-7 医療的ケアⅠ　中央法規 ISBN978-4-8058-5775-5 介護で使える！難しい「たんの吸引・経管栄養」がすらすらわかるイラスト学習 ISBN978-4-7678-1447-6	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	医療的ケアⅠ授業概要　医行為を行う者の心構え
事前	シラバスを読み授業の概要について理解しておく（1．5時間）
事後	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく（2．5時間）

2	医行為を受ける利用者や家族の気持ちの理解
事前	テキストを参考に医療的ケアを受ける利用者の気持ち等について理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した内容についてまとめ、医療的ケアを受ける利用者、家族に対する支援について理解を深める（2．5時間）

3	保険医療制度とチーム医療
事前	医行為と保健医療や介護保険に関する制度についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解し、医療的ケアに関連する制度や医療的ケアが行われる場について十分に理解を深めること（2．5時間）

4	チーム医療と介護職員との連携の理解
事前	チーム医療の構成職種についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した内容をまとめチーム医療の意義について理解を深め、チーム医療における介護福祉士の役割について理解を深める（2．5時間）

5	医療的ケアの安全で確実な実施に向けて①（ヒヤリハット・アクシデント）
事前	医療的ケアの安全な実施の重要性についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	ヒヤリハット、アクシデントの用語の理解を深め、医療的ケアを安全に実施することの重要性について理解する（2．5時間）

6	医療的ケアの安全で確実な実施に向けて②（救急蘇生法）
事前	救急蘇生の必要な時についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での説明を復習し、救急蘇生の意義や救急蘇生法の手順について十分に理解すること（2．5時間）

7	感染予防についての理解・手順方法（標準的予防策）
事前	感染とは何か、その予防についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	感染予防の基礎知識について復習し、スタンダードプリコーションと介護職員自身の健康管理について理解を深めること（2．5時間）

8	療養環境の清潔と消毒法（吐物、排泄物処理方法）
事前	療養環境や居室、トイレ、キッチンの生活環境の清潔についてテキスト等を参考に理解をしておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した血液、体液・分泌物、排泄物の処理についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

9	健康状態の把握と急変状態について（バイタルサイン測定・急変状態の判断）
事前	健康状態、ふだんの状態を知ることの重要性についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）について授業内での用語の説明と計測方法についてまとめ復習し、十分に理解する。（2．5時間）

10	中間まとめ・小テスト
事前	これまでの授業内に係る小テストを実施するので、まとめ復習しておく（1．5時間）
事後	小テストの内容について復習をするとともに、次回の授業内容である呼吸のしくみについてテキスト等を参考に理解しておく（2．5時間）

11	呼吸のしくみとはたらき
事前	呼吸の重要性と主な呼吸器官のしくみと働きについてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された呼吸のしくみと働きについてまとめ復習し、理解を深める（2．5時間）

12	呼吸状態と喀痰吸引の必要な状態
事前	呼吸状態の観察についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	正常な呼吸状態といつも違う呼吸状態についてまとめ復習し、喀痰吸引の必要性についての理解を深める（2．5時間）

13	人工呼吸器・気管カニューレのしくみ
事前	人工呼吸療法についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された人工呼吸器のしくみや気管カニューレのしくみや種類についてまとめ復習し、十分に理解をしておく（2．5時間）

14	吸引を受ける利用者の家族の気持ちとその対応
事前	吸引を受ける利用者の気持ちとその家族の対応についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	吸引をうける子ども、利用者、家族に対してその気持ちを理解することの重要性について理解を深め、実施に関する説明と方法について十分に理解する（2．5時間）

15	喀痰吸引により生じる危険と安全の確認
事前	喀痰吸引による危険と安全の確認についてテキスト等を参考に理解する（1．5時間）
事後	授業内で説明された喀痰吸引に係る緊急を要する状態・症状についてまとめ復習し安全の確認について理解を深める（2．5時間）

16	授業解説　喀痰吸引で用いる器具・器材の理解
事前	喀痰吸引に用いる器材・器具についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での説明された器材・器具についての名称、使用法・留意点についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

17	喀痰吸引に伴うケア（痰を出しやすくするケア・口腔ケア）
事前	喀痰吸引に伴うケアとして、痰をだしやすくする要素についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	痰をだしやすくする要素について復習し、体位を整えるケアや口腔ケアの重要性について十分に理解しておく（2．5時間）

18	吸引の実施手順と留意点①（手洗い・物品準備・報告・記録）
事前	喀痰吸引の実施手順についてテキスト等を参考に予習し理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された喀痰吸引の実施手順の流れについてまとめ復習し、喀痰吸引の準備から実施報告までの流れを十分に理解しておく（2．5時間）

19	吸引の実施手順と留意点②（口腔内吸引実施）
事前	口腔内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	口腔内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

20	吸引の実施手順と留意点③（鼻腔内吸引実施）
事前	鼻腔内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

21	吸引の実施手順と留意点④（気管カニューレ内吸引実施）
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

22	中間まとめ・小テスト
事前	これまでの授業内に係る小テストを実施するので、まとめ復習しておく（1．5時間）
事後	小テストの内容について復習をするとともに、喀痰吸引の各項目内容について実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（2．5時間）

23	吸引実施手順と留意点の確認 喀痰吸引演習・評価に向けて

事前	喀痰吸引の各項目内容について実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された内容についてまとめ、各自が実施手順通りに出来るように復習しておく（2．5時間）

24	演習①口腔内吸引（5回以上）グループ演習
事前	口腔内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	口腔内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

25	演習②鼻腔内吸引（5回以上）グループ演習
事前	鼻腔内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

26	演習③気管カニューレ吸引（5回以上）グループ演習
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

27	評価①口腔内吸引（5回以上）
事前	口腔内吸引の実施手順書を参考に口腔内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	口腔内吸引の手順を振り返り、次回評価項目の鼻腔内吸引について理解をしておく（2．5時間）

28	評価②鼻腔内吸引（5回以上）
事前	鼻腔内吸引の実施手順書を参考に鼻腔内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内吸引の手順を振り返り、次回評価項目の気管カニューレ内吸引について理解をしておく（2．5時間）

29	評価③気管カニューレ吸引（5回以上）
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順書を参考に気管カニューレ内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内吸引の手順を振り返り、次回の授業について理解をしておく（2．5時間）

30	喀痰吸引評価のまとめ
事前	喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）の基礎知識と実施手順・留意点についてテキスト等を参考にまとめておく（1．5時間）
事後	喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）の実施手順と留意点を基に、十分な復習を行い、知識と技術の定着を図る（2．5時間）

2020/07/16(木)21:44

科 目 名	医療的ケアII [介]			授業コード	1140071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	消化器　経管栄養

到達目標	・消化器系のしくみとはたらきが説明できる。 ・経管栄養法のしくみと種類、栄養剤について説明できる。 ・経管栄養法に必要な消化のしくみとはたらきの知識をもとに経管栄養をうける利用者や家族の気持ちを理解し実施に関する内容と方法をわかりやすく説明できる。 ・経管栄養法で用いる器材・器具を説明できるとともに、実施手順と留意点及び報告について 演習をとおして一人でできるようになる。			
授業の概要	介護職が一定の要件下で行えるようになった医療的ケアを安全に実施するための基礎知識と技術を学ぶ。 特に医療的ケアⅡでは、医療的ケアの経管栄養(経鼻経管栄養法・胃ろう栄養法)に関する基礎的知識、実施手順とその留意点について、教科書の他に視聴覚教材を用いて学習する。また、知識修得に向けて小テストなど実施し、経管栄養に必要な消化管のしくみ、胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養法などの知識の定着を図る。 経管栄養の演習では、シミュレーターを使用しケアの実施の流れ(準備から実施、片付け、報告、記録)と留意点について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の理解度を確認するため、第8回の授業において確認テストを行う. なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う
評価方法 及び評価基準	試験	試験(評価)60%　小テスト20%　授業中の活動状況20%として総合的に評価する。授業への主体的な参加も重視する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において講評を行い返却するので、試験・演習評価の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	本科目の総括として実施する期末試験と演習評価は、結果が評価の中で重要な位置を占めるので各自の準備学習が必要となる。また、厳格な姿勢を持って授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III			○				
IV							

V				○			

テキスト1	川合多加子編　最新介護福祉全書　⑬　医療的ケア　メヂカルフレンド社 医療的ケアⅠで使用したテキストを使用する	9784839231408
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	消化器系のしくみとはたらき・消化器の症状
事前	消化器についてテキスト等を参考に予習しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された消化器系の器官のしくみと働き、消化器症状についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

2	経管栄養法の種類
事前	経管栄養の種類、経管栄養の必要な状態についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での専門用語についてまとめ、経管栄養の種類、必要な状態について十分に理解しておく（2．5時間）

3	経管栄養剤の種類と注入の知識
事前	経管栄養のしくみと種類についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での専門用語についてまとめ、経管栄養材の種類と注入の知識についての理解を深める（2．5時間）

4	経管栄養実施上の留意点
事前	経管栄養実施におこる体の異常についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養でおこる体の異常、その他の異常についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

5	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意（子どもの経管栄養）
事前	経管栄養を受ける利用者、家族の気持ちについてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された内容、特に経管栄養を受ける利用者、大人と子どもの経管栄養の違い等をまとめ復習し、理解しておく（2．5時間）

6	経管栄養に関係する感染と予防
事前	経管栄養に関する感染、主な感染原因についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養の感染原因、予防についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

7	経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認
事前	経管栄養により生じる危険と種類についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養により生じる危険の種類と対応についてまとめ復習し、注入後の安全確認についても十分に理解しておく（2．5時間）

8	中間まとめ・小テスト
事前	前回までの授業内容にかかる小テストを実施するので、復習しておく（1．5時間）
事後	授業内で実施した小テストについて、事後の授業において講評、返却するので試験・演習評価の準備に役立て十分に理解しておく（2．5時間）

9	経管栄養注入実施手順①（準備・報告・記録）
事前	経管栄養実施演習にむけてテキスト等を参考に、実施手順、留意点を理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養の実施手順を授業内での内容やテキスト等を参考にまとめ復習しておく。また、ヒヤリハット・アクシデント等についてもまとめ、記録・報告の内容について十分に理解しておく。（2．5時間）

10	経管栄養注入実施手順②（実施）
事前	経管栄養実施手順書に従い、準備から後片付けまでの流れについて理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された手順や留意点についてまとめ復習し、確実に経管栄養の実施ができるように理解しておく（2．5時間）

11	演習①　経管栄養胃ろうまたは腸ろう（5回以上）
事前	経管栄養の胃ろう・腸ろう実施手順書を参考に、各自が手順に従って確実に経管栄養実施（胃ろう・腸ろう）ができるよう理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養（胃ろう・腸ろう）演習を振り返り、評価試験にむけて手順の流れと確実な手技について復習しておく（2．5時間）

12	演習②　経鼻経管栄養（5回以上）

事前	経鼻経管栄養の実施手順書を参考に、経鼻経管栄養実施の流れと留意点について理解しておく（1．5時間）
事後	経鼻経管栄養の演習を振り返り、評価試験にむけて手順の流れと確実な手技について復習しておく（2．5時間）

13	評価① 経管栄養胃ろうまたは腸ろう（5回以上）
事前	演習評価にむけて経管栄養（胃ろう）の実施手順書を十分に理解し、確実に手順通りに手技ができるようにしておく（1．5時間）
事後	経管栄養（胃ろう）の手順書を復習し、確実に実施できるよう理解しておく。また、次回の評価項目の経鼻経管栄養の実施手順書についても十分に理解しておく（2．5時間）

14	評価② 経鼻経管栄養（5回以上）
事前	演習評価にむけて経鼻経管栄養の実施手順書を十分に理解し、確実に手順通りに手技ができるようにしておく（1．5時間）
事後	経鼻経管栄養の手順書を復習し、確実に実施できるよう理解しておく。（2．5時間）

15	演習評価のまとめ
事前	経管栄養の基礎知識と実施手順・留意点についてテキスト等を参考にまとめておく（1．5時間）
事後	経管栄養の実施手順と留意点を基に、十分な復習を行い、知識と技術の定着を図る（2．5時間）

2020/07/16(木)11:22

科 目 名	介護過程IV/介護過程の展開III [介]			授業コード	1140082
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	重介護、胃ろう、人生の最終段階、終末期

到達目標	1.医療的ケアの高い重介護や人生の最終段階にある人の介護について、介護過程を展開するためのプロセスを実施できる。 2.事例をとおして、対象者の状態や状況に応じたアセスメント、介護計画の立案ができる。 3.チームアプローチにより、対象者の生活支援を実施することの重要性とその方法を理解し、説明できる。			
授業の概要	介護過程の意義を踏まえ、基礎的理解をとおして、介護過程の展開、チームアプローチのあり方について理解を深める。重介護と人生の最終段階にある人の事例を用い、介護過程を展開する能力を身につける。各自の知識を統合して介護過程を展開するとともに、対象者と家族の望む生活実現に向けて介護を提供できる能力を養う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	課題については添削してフィードバックを行う。またグループディスカッションにより、個別性のある支援について学びが深まるようにする。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート課題（50%）・授業中の活動状況（50%）として評価する。授業への主体的な参加を重視する。		
フィードバック	レポート課題、授業中の活動状況について適宜フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	課題は、テーマに沿って準備し、提出期日を守ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿って文献紹介をする。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要の説明、介護過程Ⅲの展開方法とオリエンテーション　介護過程の理解(定義・構成要素)
事前	学んできた介護過程のプロセスや展開について復習をして授業に臨むようにすること。(0.5時間)
事後	介護過程の定義・構成要素について、復習し理解を深めること。(0.5時間)

2	重介護を要する介護の現状
事前	重介護を要する介護について用語の意味について調べて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	重介護を要する介護の現状について授業で配布された資料と内容をもとに復習をすること。(0.5時間)

3	重介護の状態にある人の事例 ①事例の要約
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例展開の方法について復習をし、理解をしておくこと。(0.5時間)
事後	配布された事例について読み、事例内容について理解を深めること。(0.5時間)

4	重介護の状態にある人の事例 ②アセスメント
事前	事前に配布された課題に取り組んで、事例について考えておくこと。(0.5時間)
事後	配布された事例についてアセスメントを自分なりに展開すること。(0.5時間)

5	重介護の状態にある人の事例 ③生活上の課題
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例の生活課題をもとに、本事例の生活課題を考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業中の解説から、本事例の生活課題を優先順位に沿って抽出したものを確認すること。(0.5時間)

6	重介護の状態にある人の事例 ④計画立案
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例の介護計画をもとに、本事例の介護計画を考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業中の解説から、本事例の介護計画を優先順位に沿って確認すること。(0.5時間)

7	重介護の状態にある人の事例 ⑤計画発表
事前	アセスメント、生活課題の抽出、支援計画の各側面について、未記入の部分を記入すること。(0.5時間)
事後	事例提出後の課題について取り組み、課題を完成させること。(0.5時間)

8	重介護の状態にある人の事例 ⑥まとめ
事前	重介護の事例についての学びを再確認して授業に臨むこと。(0.5時間)
事後	配布された模範解答について読み、自分が記載した内容との違いを確認し、望ましい支援内容を理解すること。(0.5時間)

9	人生の最終段階における介護の現状
事前	人生の最終段階について自分なりに調べ、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階についての授業内容を復習し、理解を深めること。(0.5時間)

10	人生の最終段階における事例 ①事例の共有
事前	人生の最終段階について前回の資料から、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例の紹介から授業内容を復習し、理解を深めておくこと。(0.5時間)

11	人生の最終段階における事例 ②支援内容の検索
事前	人生の最終段階における事例の課題に取り組み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例に関する授業と配布資料によって、理解を深めること。(0.5時間)

12	人生の最終段階における事例 ③支援のまとめ
事前	人生の最終段階における事例の課題について配布された内容を読み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例の課題について、グループで発表した内容について振り返り、理解を深めること。(0.5時間)

13	人生の最終段階における事例 ④発表資料作成

事前	人生の最終段階における事例 について発表資料作成に取り組むこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例 について発表資料に沿って発表の練習、準備をすること。(0.5時間)

14	人生の最終段階における事例 ⑤発表
事前	発表内容、自己の役割について確認し、グループ発表の準備をすること。(0.5時間)
事後	発表された他のグループ内容を読み、より充実した支援について考え、理解を深める。(0.5時間)

15	総括
事前	重介護の状態にある人、人生の最終段階にある人についての支援について課題に取り組み理解しておく。(0.5時間)
事後	重介護の状態にある人、人生の最終段階にある人についての支援について授業内容と配布資料から復習して理解を深める。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:27

科 目 名	介護過程IV/介護過程の展開III [介]			授業コード	1140092
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	重介護、胃ろう、人生の最終段階、終末期

到達目標	1.医療的ケアの高い重介護や人生の最終段階にある人の介護について、介護過程を展開するためのプロセスを実施できる。 2.事例をとおして、対象者の状態や状況に応じたアセスメント、介護計画の立案ができる。 3.チームアプローチにより、対象者の生活支援を実施することの重要性とその方法を理解し、説明できる。			
授業の概要	介護過程の意義を踏まえ、基礎的理解をとおして、介護過程の展開、チームアプローチのあり方について理解を深める。重介護と人生の最終段階にある人の事例を用い、介護過程を展開する能力を身につける。各自の知識を統合して介護過程を展開するとともに、対象者と家族の望む生活実現に向けて介護を提供できる能力を養う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	課題については添削してフィードバックを行う。またグループディスカッションにより、個別性のある支援について学びが深まるようにする。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート課題（50%）・授業中の活動状況（50%）として評価する。授業への主体的な参加を重視する。		
フィードバック	レポート課題、授業中の活動状況について適宜フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	課題は、テーマに沿って準備し、提出期日を守ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿って文献紹介をする。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要の説明、介護過程Ⅲの展開方法とオリエンテーション　介護過程の理解(定義・構成要素)
事前	学んできた介護過程のプロセスや展開について復習をして授業に臨むようにすること。(0.5時間)
事後	介護過程の定義・構成要素について、復習し理解を深めること。(0.5時間)

2	重介護を要する介護の現状
事前	重介護を要する介護について用語の意味について調べて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	重介護を要する介護の現状について授業で配布された資料と内容をもとに復習をすること。(0.5時間)

3	重介護の状態にある人の事例 ①事例の要約
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例展開の方法について復習をし、理解をしておくこと。(0.5時間)
事後	配布された事例について読み、事例内容について理解を深めること。(0.5時間)

4	重介護の状態にある人の事例 ②アセスメント
事前	事前に配布された課題に取り組んで、事例について考えておくこと。(0.5時間)
事後	配布された事例についてアセスメントを自分なりに展開すること。(0.5時間)

5	重介護の状態にある人の事例 ③生活上の課題
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例の生活課題をもとに、本事例の生活課題を考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業中の解説から、本事例の生活課題を優先順位に沿って抽出したものを確認すること。(0.5時間)

6	重介護の状態にある人の事例 ④計画立案
事前	介護過程Ⅱ、Ⅲの事例の介護計画をもとに、本事例の介護計画を考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業中の解説から、本事例の介護計画を優先順位に沿って確認すること。(0.5時間)

7	重介護の状態にある人の事例 ⑤計画発表
事前	アセスメント、生活課題の抽出、支援計画の各側面について、未記入の部分を記入すること。(0.5時間)
事後	事例提出後の課題について取り組み、課題を完成させること。(0.5時間)

8	重介護の状態にある人の事例 ⑥まとめ
事前	重介護の事例についての学びを再確認して授業に臨むこと。(0.5時間)
事後	配布された模範解答について読み、自分が記載した内容との違いを確認し、望ましい支援内容を理解すること。(0.5時間)

9	人生の最終段階における介護の現状
事前	人生の最終段階について自分なりに調べ、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階についての授業内容を復習し、理解を深めること。(0.5時間)

10	人生の最終段階における事例 ①事例の共有
事前	人生の最終段階について前回の資料から、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例の紹介から授業内容を復習し、理解を深めておくこと。(0.5時間)

11	人生の最終段階における事例 ②支援内容の検索
事前	人生の最終段階における事例の課題に取り組み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例に関する授業と配布資料によって、理解を深めること。(0.5時間)

12	人生の最終段階における事例 ③支援のまとめ
事前	人生の最終段階における事例の課題について配布された内容を読み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例の課題について、グループで発表した内容について振り返り、理解を深めること。(0.5時間)

13	人生の最終段階における事例 ④発表資料作成

事前	人生の最終段階における事例 について発表資料作成に取り組むこと。(0.5時間)
事後	人生の最終段階における事例 について発表資料に沿って発表の練習、準備をすること。(0.5時間)

14	人生の最終段階における事例 ⑤発表
事前	発表内容、自己の役割について確認し、グループ発表の準備をすること。(0.5時間)
事後	発表された他のグループ内容を読み、より充実した支援について考え、理解を深める。(0.5時間)

15	総括
事前	重介護の状態にある人、人生の最終段階にある人についての支援について課題に取り組み理解しておく。(0.5時間)
事後	重介護の状態にある人、人生の最終段階にある人についての支援について授業内容と配布資料から復習して理解を深める。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:15

科 目 名	介護過程V/介護事例研究 [介]			授業コード	1140101
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関するキーワード	事例研究、研究テーマ、介護計画の根拠、文献収集、プレゼンテーション

到達目標	・事例研究の意義、目的、研究手法について学び、介護実践における事例研究の重要性を理解できる。 ・介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例から、テーマを選定した上で深く洞察し、実践した介護過程の妥当性について評価・考察することができる。 ・実践した介護過程を事例研究概要にまとめる学修を通して、自らの介護観を形成することができる。 ・作成した事例研究概要を効果的なプレゼンテーション手法を用いて、分かりやすく発表できる。			
授業の概要	介護過程Ⅰ〜Ⅳ、および介護総合演習Ⅳの授業では、介護過程の基礎的理論と介護現場でよく遭遇する事例を取り上げ、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価まで展開する学修を行ってきた。介護過程Ⅴでは、介護実習Ⅱ−2で展開した受持ち利用者の介護過程について、これまで学んできた基礎的な介護の知識や技術を活用し、事例研究を行い、その成果を概要にまとめて発表する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・各自が実践した介護過程をグループ内で発表・説明し、その妥当性についてディスカッションを行う。 ・介護過程の成果について各自が概要にまとめた上で、グループ内でプレゼンテーションを行う。その上で決定したグループ代表が事例研究発表会にて発表し、全体で結果を共有しつつディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	事例研究概要作成（40%）、研究発表（30%）、授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を使用するため、授業の際必ず持参すること。 研究発表は、グループ別発表と全体発表を行う。全体発表では各グループの代表が発表する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III				○			
IV							
V						○	

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　授業概要とスケジュールの確認
事前	シラバスの内容を確認し、およその事例研究計画を立てること。(0.5時間)
事後	授業のスケジュールに沿って具体的な研究計画を立案した上で、収集すべき情報の入手方法について検討すること。(0.5時間)

2	介護実習II-2の振り返り　1)各自の事例報告
事前	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を読み直し、ポイントをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	事例報告の際に得られたコメント、および他の介護実践事例の報告から得たヒントをまとめた上で、自らの課題の所在を検討すること。(0.5時間)

3	介護実習II-2の振り返り　2)介護計画の妥当性の検討
事前	立案した計画の根拠について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	他学生の意見や介護計画の内容を参考にしつつ、別の介護計画の可能性の有無について再検討すること。(0.5時間)

4	介護実習II-2の振り返り　3)介護計画の妥当性の確認
事前	立案した介護計画が遂行できた要因、または遂行できなかった要因について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実践の結果について、自分なりに評価を行ってみること。(0.5時間)

5	事例研究計画の作成　テーマの選定
事前	自身の介護実践の内容から考えられる研究テーマの候補を考えておくこと。(0.5時間)
事後	選定したテーマに基づき、介護実践から得た情報を整理すること。(0.5時間)

6	事例の分析　文献収集
事前	介護実践から得た情報を解釈するにあたって、どのような文献が必要かについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	適切な文献を収集すること。(0.5時間)

7	事例の分析　文献の整理
事前	収集した文献のリストを作成し、各文献の内容を検討すること。(0.5時間)
事後	自らの介護実践について、文献から得た情報・知識を当てはめつつ解釈および評価を行うこと。(0.5時間)

8	事例研究概要作成の準備
事前	介護実践の評価の内容を説明できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に、自らの介護実践の評価を再検討すること。(0.5時間)

9	事例研究概要の作成　①概要の骨格
事前	事例研究概要の構成(タイトルと項目立て)について考えておくこと。(0.5時間)
事後	決められた論文フォーマットに沿って執筆を開始すること。(0.5時間)

10	事例研究概要の作成　②内容の吟味
事前	助言・意見を得たい個所をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	執筆中に疑問点や矛盾点が発生した際には、介護過程記録まで遡って確認するなどにより内容を吟味しながら進めること。(0.5時間)

11	事例研究概要の作成　③まとめと考察・評価
事前	まとめと考察・評価まで概要作成を進めること。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に事例研究概要を見直し、仕上げること。(0.5時間)

12	事例研究概要の提出　プレゼンテーションの準備　発表原稿の作成

事前	プレゼンテーションの準備、発表原稿の作成を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に発表原稿を見直すこと。(0.5時間)

13	事例研究発表　グループごとの発表
事前	プレゼンテーションの練習を行った上で、準備の最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見、および他学生の発表から得られた学びをまとめておくこと。(0.5時間)

14	事例研究発表会の準備
事前	自身が担当する役割を確認すること。(0.5時間)
事後	自身が担当する役割に沿って、事例研究発表会の準備を行うこと。(0.5時間)

15	事例研究発表会 （合同授業）
事前	事例研究発表会に当たって最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:50

科 目 名	介護総合演習Ⅳ [介]			授業コード	1140112
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関するキーワード	受け持ち事例、個別性の尊重、介護過程の支援計画立案・実施・評価、

到達目標	・受け持ち事例を振り返り、対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、説明できる。 ・対象者の個々の生活リズムや個性に応じて、知識と技術を用いて総合的な支援につなげることの重要性を理解し、説明できる。 ・介護実習Ⅱ－2では介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、障害者支援においてチームの一員として介護実践のあり方、介護理念や倫理について、考えることができる。 ・対象者の必要な情報を収集し、介護計画の立案、介護の実施、評価、修正の介護過程のプロセスについて理解を深め、実践できる。 ・介護実習Ⅱ－2終了後、介護実践を深化させるために事例研究の意義を理解し、論文作成につなげることができる。			
授業の概要	・福祉施設等の多様な施設が実習施設となるため、各施設の理解を深める。 ・介護実習Ⅱ－2では受持ち対象者の介護過程が中心的な学習になるため、介護実習Ⅱ－1の成果を踏まえ、介護過程を展開できる能力を養う。 ・エビデンス構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、介護実践を科学的に探究をする能力を養う。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワークを実施し、グループ発表を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート（50%）、学習態度（50%）を総合して評価する。		
フィードバック	発表や提出物について、適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	授業中に配付する資料は、4年次の介護事例研究でも使用するため、各自が保管しておくこと。・介護実習Ⅱ－2は、介護実習のしめくくりとなる実習である。介護総合演習Ⅳ は、その実習が十分な成果をあげられるように準備する教科目である。前向きに努力すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV			○				

V						○	

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に必要な文献を検索し学びを深めること。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、介護事例研究との関連
事前	介護実習Ⅱ-1について、振り返りをしておくこと。(0.5時間)
事後	シラバスの説明を復習し、理解を深めておくこと。(0.5時間)

2	事例に基づいた介護過程の展開①介護実習Ⅱ－1の振り返り、情報共有(実習記録必携)
事前	介護実習Ⅱ－1の実習記録を準備しておき、一連の介護過程について振り返ること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ－1の振り返りから、自己に不足した項目について考えること。(0.5時間)

3	事例に基づいた介護過程の展開②介護実習Ⅱ-1事例紹介、介護計画の振り返りと課題
事前	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介ができるように準備すること。(0.5時間)
事後	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介を聴き、共通点や異なる点について考えること。(0.5時間)

4	事例に基づいた介護過程の展開③介護計画の実施、評価
事前	介護計画の支援計画までを配布されている資料を基に理解をしておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実施、評価について、授業内容と配布資料にて復習をして理解を深めること。(0.5時間)

5	事例に基づいた介護過程の展開④介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価
事前	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価について考えておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価のグループ発表資料の作成準備をすること。(0.5時間)

6	実習配属と担当教員の発表、施設についての情報収集
事前	介護実習Ⅱ-1の事例の実施・評価について発表資料の作成と発表の練習をすること。(0.5時間)
事後	実習配属と担当教員を確認し、施設についての情報収集をして記録に記載すること。(0.5時間)

7	個人票の作成 指導①介護実習Ⅱ-2の実習目標の確認
事前	介護実習Ⅱ-2について実習要綱で目標を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2における自己の目標について考えておくこと。(0.5時間)

8	個人票の作成 指導②自己の目標の立案
事前	介護実習Ⅱ-2の自己の目標の立案内容を教員に提示できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の自己の目標について教員に指導された内容を訂正しておくこと。(0.5時間)

9	個人票の作成 指導③提出
事前	個人票の作成 指導を受け、写真、清書等を準備しておくこと。(0.5時間)
事後	個人票の提出後は、キャリア支援センターで配属施設の情報を得ること。(0.5時間)

10	記録用紙の記載について①介護日誌、介護過程の情報収集、アセスメント
事前	介護福祉専攻の記録用紙について内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙の施設情報について資料やインターネットで調べ、記録用紙に記載すること。(0.5時間)

11	記録用紙の記載について②介護計画立案、介護計画の実施・評価
事前	介護計画立案、介護計画の実施・評価について以前の授業内容を復習しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙全般について、実習で具体的に記載、利用できるように復習しておくこと。(0.5時間)

12	事例研究概要作成について①事例研究の意義
事前	シラバスから事例研究発表についての一連の流れを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	事例研究の意義について授業内容と配布資料にて復習をして理解を深める。(0.5時間)

13	事例研究概要作成について②事例研究の論文の体裁
事前	事例研究概要作成について配布資料を読み、Ⅱ-1の事例を当てはめて考えてみること。(0.5時間)

事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式でテーマの検討をすること。(0.5時間)

14	事例研究概要作成について③事例研究の論文の書き方
事前	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成する課題に取り組むこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成して提出すること。(0.5時間)

15	実習上の諸注意、まとめ
事前	介護実習Ⅱ-2で必要となる物品を揃えること、細菌検査を実習2週間前に投函すること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の必要物品を準備し、確認をしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:12

科 目 名	介護総合演習IV [介]			授業コード	1140122
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関するキーワード	受け持ち事例、個別性の尊重、介護過程の支援計画立案・実施・評価、

到達目標	・受け持ち事例を振り返り、対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、説明できる。 ・対象者の個々の生活リズムや個性に応じて、知識と技術を用いて総合的な支援につなげることの重要性を理解し、説明できる。 ・介護実習Ⅱ－2では介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、障害者支援においてチームの一員として介護実践のあり方、介護理念や倫理について、考えることができる。 ・対象者の必要な情報を収集し、介護計画の立案、介護の実施、評価、修正の介護過程のプロセスについて理解を深め、実践できる。 ・介護実習Ⅱ－2終了後、介護実践を深化させるために事例研究の意義を理解し、論文作成につなげることができる。			
授業の概要	・福祉施設等の多様な施設が実習施設となるため、各施設の理解を深める。 ・介護実習Ⅱ－2では受持ち対象者の介護過程が中心的な学習になるため、介護実習Ⅱ－1の成果を踏まえ、介護過程を展開できる能力を養う。 ・エビデンス構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、介護実践を科学的に探究をする能力を養う。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワークを実施し、グループ発表を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート（50%）、学習態度（50%）を総合して評価する。		
フィードバック	発表や提出物について、適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	授業中に配付する資料は、4年次の介護事例研究でも使用するため、各自が保管しておくこと。・介護実習Ⅱ－2は、介護実習のしめくくりとなる実習である。介護総合演習Ⅳ は、その実習が十分な成果をあげられるように準備する教科目である。前向きに努力すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV			○				

V						○	

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に必要な文献を検索し学びを深めること。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、介護事例研究との関連
事前	介護実習Ⅱ-1について、振り返りをしておくこと。(0.5時間)
事後	シラバスの説明を復習し、理解を深めておくこと。(0.5時間)

2	事例に基づいた介護過程の展開①介護実習Ⅱ－1の振り返り、情報共有(実習記録必携)
事前	介護実習Ⅱ－1の実習記録を準備しておき、一連の介護過程について振り返ること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ－1の振り返りから、自己に不足した項目について考えること。(0.5時間)

3	事例に基づいた介護過程の展開②介護実習Ⅱ-1事例紹介、介護計画の振り返りと課題
事前	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介ができるように準備すること。(0.5時間)
事後	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介を聴き、共通点や異なる点について考えること。(0.5時間)

4	事例に基づいた介護過程の展開③介護計画の実施、評価
事前	介護計画の支援計画までを配布されている資料を基に理解をしておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実施、評価について、授業内容と配布資料にて復習をして理解を深めること。(0.5時間)

5	事例に基づいた介護過程の展開④介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価
事前	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価について考えておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価のグループ発表資料の作成準備をすること。(0.5時間)

6	実習配属と担当教員の発表、施設についての情報収集
事前	介護実習Ⅱ-1の事例の実施・評価について発表資料の作成と発表の練習をすること。(0.5時間)
事後	実習配属と担当教員を確認し、施設についての情報収集をして記録に記載すること。(0.5時間)

7	個人票の作成 指導①介護実習Ⅱ-2の実習目標の確認
事前	介護実習Ⅱ-2について実習要綱で目標を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2における自己の目標について考えておくこと。(0.5時間)

8	個人票の作成 指導②自己の目標の立案
事前	介護実習Ⅱ-2の自己の目標の立案内容を教員に提示できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の自己の目標について教員に指導された内容を訂正しておくこと。(0.5時間)

9	個人票の作成 指導③提出
事前	個人票の作成 指導を受け、写真、清書等を準備しておくこと。(0.5時間)
事後	個人票の提出後は、キャリア支援センターで配属施設の情報を得ること。(0.5時間)

10	記録用紙の記載について①介護日誌、介護過程の情報収集、アセスメント
事前	介護福祉専攻の記録用紙について内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙の施設情報について資料やインターネットで調べ、記録用紙に記載すること。(0.5時間)

11	記録用紙の記載について②介護計画立案、介護計画の実施・評価
事前	介護計画立案、介護計画の実施・評価について以前の授業内容を復習しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙全般について、実習で具体的に記載、利用できるように復習しておくこと。(0.5時間)

12	事例研究概要作成について①事例研究の意義
事前	シラバスから事例研究発表についての一連の流れを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	事例研究の意義について授業内容と配布資料にて復習をして理解を深める。(0.5時間)

13	事例研究概要作成について②事例研究の論文の体裁
事前	事例研究概要作成について配布資料を読み、Ⅱ-1の事例を当てはめて考えてみること。(0.5時間)

事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式でテーマの検討をすること。(0.5時間)

14	事例研究概要作成について③事例研究の論文の書き方
事前	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成する課題に取り組むこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成して提出すること。(0.5時間)

15	実習上の諸注意、まとめ
事前	介護実習Ⅱ-2で必要となる物品を揃えること、細菌検査を実習2週間前に投函すること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の必要物品を準備し、確認をしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:43

科 目 名	介護総合演習IV [介]			授業コード	1140132
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	島田 今日子				

科目に関するキーワード	受け持ち事例、個別性の尊重、介護過程の支援計画立案・実施・評価、

到達目標	・受け持ち事例を振り返り、対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、説明できる。 ・対象者の個々の生活リズムや個性に応じて、知識と技術を用いて総合的な支援につなげることの重要性を理解し、説明できる。 ・介護実習Ⅱ－2では介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、障害者支援においてチームの一員として介護実践のあり方、介護理念や倫理について、考えることができる。 ・対象者の必要な情報を収集し、介護計画の立案、介護の実施、評価、修正の介護過程のプロセスについて理解を深め、実践できる。 ・介護実習Ⅱ－2終了後、介護実践を深化させるために事例研究の意義を理解し、論文作成につなげることができる。			
授業の概要	・福祉施設等の多様な施設が実習施設となるため、各施設の理解を深める。 ・介護実習Ⅱ－2では受持ち対象者の介護過程が中心的な学習になるため、介護実習Ⅱ－1の成果を踏まえ、介護過程を展開できる能力を養う。 ・エビデンス構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、介護実践を科学的に探究をする能力を養う。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワークを実施し、グループ発表を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート（50%）、学習態度（50%）を総合して評価する。		
フィードバック	発表や提出物について、適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	授業中に配付する資料は、4年次の介護事例研究でも使用するため、各自が保管しておくこと。・介護実習Ⅱ－2は、介護実習のしめくくりとなる実習である。介護総合演習Ⅳ は、その実習が十分な成果をあげられるように準備する教科目である。前向きに努力すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV			○				

V						○	

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に必要な文献を検索し学びを深めること。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、介護事例研究との関連
事前	介護実習Ⅱ-1について、振り返りをしておくこと。(0.5時間)
事後	シラバスの説明を復習し、理解を深めておくこと。(0.5時間)

2	事例に基づいた介護過程の展開①介護実習Ⅱ－1の振り返り、情報共有(実習記録必携)
事前	介護実習Ⅱ－1の実習記録を準備しておき、一連の介護過程について振り返ること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ－1の振り返りから、自己に不足した項目について考えること。(0.5時間)

3	事例に基づいた介護過程の展開②介護実習Ⅱ-1事例紹介、介護計画の振り返りと課題
事前	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介ができるように準備すること。(0.5時間)
事後	グループで介護実習Ⅱ-1にて担当した事例紹介を聴き、共通点や異なる点について考えること。(0.5時間)

4	事例に基づいた介護過程の展開③介護計画の実施、評価
事前	介護計画の支援計画までを配布されている資料を基に理解をしておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実施、評価について、授業内容と配布資料にて復習をして理解を深めること。(0.5時間)

5	事例に基づいた介護過程の展開④介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価
事前	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価について考えておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1事例の介護計画の実施、評価のグループ発表資料の作成準備をすること。(0.5時間)

6	実習配属と担当教員の発表、施設についての情報収集
事前	介護実習Ⅱ-1の事例の実施・評価について発表資料の作成と発表の練習をすること。(0.5時間)
事後	実習配属と担当教員を確認し、施設についての情報収集をして記録に記載すること。(0.5時間)

7	個人票の作成 指導①介護実習Ⅱ-2の実習目標の確認
事前	介護実習Ⅱ-2について実習要綱で目標を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2における自己の目標について考えておくこと。(0.5時間)

8	個人票の作成 指導②自己の目標の立案
事前	介護実習Ⅱ-2の自己の目標の立案内容を教員に提示できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の自己の目標について教員に指導された内容を訂正しておくこと。(0.5時間)

9	個人票の作成 指導③提出
事前	個人票の作成 指導を受け、写真、清書等を準備しておくこと。(0.5時間)
事後	個人票の提出後は、キャリア支援センターで配属施設の情報を得ること。(0.5時間)

10	記録用紙の記載について①介護日誌、介護過程の情報収集、アセスメント
事前	介護福祉専攻の記録用紙について内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙の施設情報について資料やインターネットで調べ、記録用紙に記載すること。(0.5時間)

11	記録用紙の記載について②介護計画立案、介護計画の実施・評価
事前	介護計画立案、介護計画の実施・評価について以前の授業内容を復習しておくこと。(0.5時間)
事後	記録用紙全般について、実習で具体的に記載、利用できるように復習しておくこと。(0.5時間)

12	事例研究概要作成について①事例研究の意義
事前	シラバスから事例研究発表についての一連の流れを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	事例研究の意義について授業内容と配布資料にて復習をして理解を深める。(0.5時間)

13	事例研究概要作成について②事例研究の論文の体裁
事前	事例研究概要作成について配布資料を読み、Ⅱ-1の事例を当てはめて考えてみること。(0.5時間)

事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式でテーマの検討をすること。(0.5時間)

14	事例研究概要作成について③事例研究の論文の書き方
事前	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成する課題に取り組むこと。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-1の事例を基に、介護計画までを事例研究の書式で作成して提出すること。(0.5時間)

15	実習上の諸注意、まとめ
事前	介護実習Ⅱ-2で必要となる物品を揃えること、細菌検査を実習2週間前に投函すること。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅱ-2の必要物品を準備し、確認をしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:36

科 目 名	身体構造と機能I [介]			授業コード	1140141
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	人体の構造、人体の機能、生活支援、自立生活

到達目標	・介護を必要とする人の生活支援実践を行うため、実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解し、説明できる。 ・人体の構造と機能についての知識を、こころとからだのしくみ、身じたく、移動、食事、清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階の視点から理解し、生活支援技術に必要な基礎知識を身につける。			
授業の概要	介護福祉士として、利用者の自立生活を支援するために必要な「こころとからだ」の基礎的な知識及び人体との関係を身体的・心理的・社会的側面から学び、介護実践に適切に活用できる能力を習得する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業中に確認テストを実施し、その結果を返却し、解説する。
評価方法 及び評価基準	試験	課題と小テスト（50%）、学期末試験（50%）により評価する。		
フィードバック	小テスト後は、その都度フィードバックをする。			
履修に際しての 注意事項	こころとからだのしくみの概要を理解するためには、テキストを読み込むことが求められる。前向きな学習姿勢を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV			○				

V							

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集　最新　介護福祉士養成講座　11　こころとからだのしくみ　中央法規	9784805857717
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿った資料や書籍等を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスの15回の内容をテキストの各章の概要を読み、把握すること。(2時間)
事後	シラバスの内容と教科書の内容について対応する内容について確認し、配布資料にて復習する。(2時間)

2	生命誕生、成長発達段階の理解
事前	人の生命の誕生について、テキストを読み、理解すること。(2時間)
事後	人の生命の誕生について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

3	こころのしくみの理解① 人間の基本的・社会的欲求
事前	人間の基本的・社会的欲求について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人間の基本的・社会的欲求について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

4	こころのしくみの理解② 心身の調和
事前	心身の調和について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	心身の調和について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

5	こころのしくみの理解③ こころと脳のつながり
事前	こころと脳のつながりについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	こころと脳のつながりについて、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

6	からだのしくみの理解① 移動・移乗
事前	移動・移乗について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	移動・移乗について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

7	からだのしくみの理解② 身じたく
事前	身じたくについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	身じたくについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

8	からだのしくみの理解③ 活動
事前	活動について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	活動について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

9	からだのしくみの理解④ 食事の消化・吸収
事前	食事の消化・吸収について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事の消化・吸収について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

10	からだのしくみの理解⑤ 食事に関する機能低下・障害
事前	食事に関する機能低下・障害について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事に関する機能低下・障害について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

11	からだのしくみの理解⑥ 入浴・清潔
事前	入浴・清潔について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	入浴・清潔について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

12	からだのしくみの理解⑦ 排泄
事前	排泄について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	排泄について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

13	からだのしくみの理解⑧ 休息・睡眠
事前	休息・睡眠について、教科書を読み、理解すること。(2時間)

事後	休息・睡眠について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

14	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみ
事前	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

15	総括
事前	教科書の各章でのポイントについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	教科書の各章でのポイントについて配布資料をもとに、期末試験に向けて復習すること。(2時間)

2020/07/16(木)21:08

科 目 名	身体構造と機能I [介]			授業コード	1140152
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	島田 今日子				

科目に関する キーワード	人体の構造、人体の機能、生活支援、自立生活

到達目標	・介護を必要とする人の生活支援実践を行うため、実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解し、説明できる。 ・人体の構造と機能についての知識を、こころとからだのしくみ、身じたく、移動、食事、清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階の視点から理解し、生活支援技術に必要な基礎知識を身につける。			
授業の概要	介護福祉士として、利用者の自立生活を支援するために必要な「こころとからだ」の基礎的な知識及び人体との関係を身体的・心理的・社会的側面から学び、介護実践に適切に活用できる能力を習得する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業中に確認テストを実施し、その結果を返却し、解説する。
評価方法 及び評価基準	試験	課題と小テスト（50%）、学期末試験（50%）により評価する。		
フィードバック	小テスト後は、その都度フィードバックをする。			
履修に際しての 注意事項	こころとからだのしくみの概要を理解するためには、テキストを読み込むことが求められる。前向きな学習姿勢を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV			○				

V							

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集　最新　介護福祉士養成講座　11　こころとからだのしくみ　中央法規	9784805857717
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿った資料や書籍等を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスの15回の内容をテキストの各章の概要を読み、把握すること。(2時間)
事後	シラバスの内容と教科書の内容について対応する内容について確認し、配布資料にて復習する。(2時間)

2	生命誕生、成長発達段階の理解
事前	人の生命の誕生について、テキストを読み、理解すること。(2時間)
事後	人の生命の誕生について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

3	こころのしくみの理解① 人間の基本的・社会的欲求
事前	人間の基本的・社会的欲求について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人間の基本的・社会的欲求について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

4	こころのしくみの理解② 心身の調和
事前	心身の調和について教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	心身の調和について、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

5	こころのしくみの理解③ こころと脳のつながり
事前	こころと脳のつながりについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	こころと脳のつながりについて、教科書と授業で配布された資料にて復習すること。(2時間)

6	からだのしくみの理解① 移動・移乗
事前	移動・移乗について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	移動・移乗について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

7	からだのしくみの理解② 身じたく
事前	身じたくについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	身じたくについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

8	からだのしくみの理解③ 活動
事前	活動について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	活動について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

9	からだのしくみの理解④ 食事の消化・吸収
事前	食事の消化・吸収について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事の消化・吸収について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

10	からだのしくみの理解⑤ 食事に関する機能低下・障害
事前	食事に関する機能低下・障害について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	食事に関する機能低下・障害について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

11	からだのしくみの理解⑥ 入浴・清潔
事前	入浴・清潔について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	入浴・清潔について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

12	からだのしくみの理解⑦ 排泄
事前	排泄について、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	排泄について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

13	からだのしくみの理解⑧ 休息・睡眠
事前	休息・睡眠について、教科書を読み、理解すること。(2時間)

事後	休息・睡眠について、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

14	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみ
事前	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて、教科書と配布された資料にて復習すること。(2時間)

15	総括
事前	教科書の各章でのポイントについて、教科書を読み、理解すること。(2時間)
事後	教科書の各章でのポイントについて、期末試験に向けて復習すること。(2時間)

2020/07/16(木)22:32

科 目 名	介護実習II－２ [介]			授業コード	1140193
副 題					
開講期	集中	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	4
担 当 者	島田 今日子、山崎 さゆり、増田 いづみ、浦尾 和江、竹田 幸司				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	個別支援計画・実施・評価、自立支援、多職種連携、夜間実習
到達目標	1.対象者の状況を多面的に観察し、気づきにより収集した情報の分析から、根拠ある推論を導くことができる。 2.受持ち対象者のアセスメント（情報収集と生活課題の明確化）、介護計画の立案、実施、考察、評価の一連の介護過程を展開し、主体的に実践することができる。 3.基本的な知識と技術を身に付けた上で、介護を必要とする対象者の個別性を理解し、専門職として人間生活全体を視野に入れた総合的な支援を考えることができる。 4.対象者の持つ自己資源（残存能力）と社会サービスを多職種と協働しながら総合的、計画的に活用できる能力を身につける。
授業の概要	介護実習Ⅰ－1、Ⅰ－2、Ⅱ－1と「介護過程の基本」および「介護過程Ⅰ」～「Ⅲ」で得られた学びを統合し、受け持ち対象者の生活背景や生活リズム、心身の状況などを把握した上で個別性を理解し、それらをふまえてアセスメント、介護計画の立案、実施、考察、評価の一連の介護過程のプロセスを実践することにより、介護福祉士に必要な思考能力を身に付ける。 これまでの介護実習経験と介護過程の学びから、さまざまな状況にある対象者の全体像を把握した上で、総合的かつ的確な介護サービスを提供できる能力を身に付ける。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で、翌日の実習に向けた新たな課題を設定して臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	―	実習施設指導者からの「実習評価」と、教員の評価により総合的に評価する。 学習意欲、実習の取り組み姿勢、介護過程の展開内容、実習記録内容、等から総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	

IV							○
V					○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	実習施設の種別] 1.介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)　2.介護老人保健施設　3.救護施設 4.障害者支援施設　5.障害児入所施設 （1～5のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 23日間 [実習内容] 1. 実習施設の役割と機能を理解する。 2. 対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、実践する。 3. 対象者の障害の特性や生活状況を理解し、その生活リズムや個別性に合わせた生活支援技術を活用する。 4. 受持ち対象者のアセスメント（情報収集と生活課題の明確化）、介護計画の立案、実施、評価を行い、介護過程を展開する。 5. チームの一員として、介護の実践に取り組む。 6. 多職種の業務に対する理解を深め、医療・福祉の連携方法を知り、チームケアの実際を学ぶ。 7. 夜間の時間帯を含む変則勤務実習の中から、対象者の24時間を通した生活の全体像を理解し、支援を行う。 8. 福祉用具、福祉機器に関する知識を深め、適切に活用する。 9. 施設の居住環境における職員の業務や役割の現状について理解する。 10.医療的ケアを必要としている人の生活支援の現状を理解し、そのあり方を考える。 11.施設の社会的な役割、および地域との連携について理解する。 12.介護の理念、倫理について理解を深め、自己の介護観を形成する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員・入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておく。また、介護計画の立案・実施・評価について一連の介護過程の展開を復習しておく。 （実習期間中） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。
事後	（実習期間中） その日の実習内容を記録し、指導者に提出する。受け持ち対象者の介護過程の展開を行うこと。 （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、介護過程の一式を指導者に提出し、指導を仰ぐ。介護事例研究に向けてテーマ設定や資料収集を行う。

2020/07/16(木)22:32

科 目 名	介護実習II－２ [介]			授業コード	1140203
副 題					
開講期	集中	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	4
担 当 者	島田 今日子、山崎 さゆり、増田 いづみ、浦尾 和江、竹田 幸司				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	個別支援計画・実施・評価、自立支援、多職種連携、夜間実習
到達目標	1.対象者の状況を多面的に観察し、気づきにより収集した情報の分析から、根拠ある推論を導くことができる。 2.受持ち対象者のアセスメント（情報収集と生活課題の明確化）、介護計画の立案、実施、考察、評価の一連の介護過程を展開し、主体的に実践することができる。 3.基本的な知識と技術を身に付けた上で、介護を必要とする対象者の個別性を理解し、専門職として人間生活全体を視野に入れた総合的な支援を考えることができる。 4.対象者の持つ自己資源（残存能力）と社会サービスを多職種と協働しながら総合的、計画的に活用できる能力を身につける。
授業の概要	介護実習Ⅰ－1、Ⅰ－2、Ⅱ－1と「介護過程の基本」および「介護過程Ⅰ」～「Ⅲ」で得られた学びを統合し、受け持ち対象者の生活背景や生活リズム、心身の状況などを把握した上で個別性を理解し、それらをふまえてアセスメント、介護計画の立案、実施、考察、評価の一連の介護過程のプロセスを実践することにより、介護福祉士に必要な思考能力を身に付ける。 これまでの介護実習経験と介護過程の学びから、さまざまな状況にある対象者の全体像を把握した上で、総合的かつ的確な介護サービスを提供できる能力を身に付ける。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で、翌日の実習に向けた新たな課題を設定して臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	―	実習施設指導者からの「実習評価」と、教員の評価により総合的に評価する。 学習意欲、実習の取り組み姿勢、介護過程の展開内容、実習記録内容、等から総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	

IV							○
V					○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	実習施設の種別] 1.介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)　2.介護老人保健施設　3.救護施設 4.障害者支援施設　5.障害児入所施設 （1～5のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 23日間 [実習内容] 1. 実習施設の役割と機能を理解する。 2. 対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、実践する。 3. 対象者の障害の特性や生活状況を理解し、その生活リズムや個別性に合わせた生活支援技術を活用する。 4. 受持ち対象者のアセスメント（情報収集と生活課題の明確化）、介護計画の立案、実施、評価を行い、介護過程を展開する。 5. チームの一員として、介護の実践に取り組む。 6. 多職種の業務に対する理解を深め、医療・福祉の連携方法を知り、チームケアの実際を学ぶ。 7. 夜間の時間帯を含む変則勤務実習の中から、対象者の24時間を通した生活の全体像を理解し、支援を行う。 8. 福祉用具、福祉機器に関する知識を深め、適切に活用する。 9. 施設の居住環境における職員の業務や役割の現状について理解する。 10.医療的ケアを必要としている人の生活支援の現状を理解し、そのあり方を考える。 11.施設の社会的な役割、および地域との連携について理解する。 12.介護の理念、倫理について理解を深め、自己の介護観を形成する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員・入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておく。また、介護計画の立案・実施・評価について一連の介護過程の展開を復習しておく。 （実習期間中） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。
事後	（実習期間中） その日の実習内容を記録し、指導者に提出する。受け持ち対象者の介護過程の展開を行うこと。 （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、介護過程の一式を指導者に提出し、指導を仰ぐ。介護過程Ⅴに向けてテーマ設定や資料収集を行う。

2020/07/16(木)20:35

科 目 名	福祉キャリア講座 [社介心]			授業コード	1150010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	進路指導、資格取得、就職活動
到達目標	公務員試験受験、社会福祉士受験、一般企業や福祉分野などへの就活行動を起こし、資格取得の準備などを含めて、社会人として自立できるようする。
授業の概要	3年生の時点で、「卒業後の進路をどのように選ぶか」を主体的に考えることができるように、必要な事柄を学ぶと同時に、準備／対策についての説明と演習を行う。 初めての経験である「公務員試験受験」、「社会福祉士受験」、「一般企業への就活（3年次から始まる）」、「福祉分野への就活」などを念頭に置きながら、全体の流れを把握するとともに、進路に対する早目の自覚と準備に取り組めるように、履歴書／エントリーシートの書き方や労働法の知識、面接試験対応などについて幅広く学ぶ。 学部としての目標である国家資格「社会福祉士」試験合格のための基礎的な準備教育をも併せて行う。特に、4年次に受験しようと思う学生には、必ず受講してほしい。
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	国試（社会福祉士）関連の試験を行う		
フィードバック	授業内で実施した小テスト等については、事後の授業において出題の意図を説明するので、各自定期試験の準備に役立てること			
履修に際しての 注意事項	事前学習及び事後学習にしっかりと取り組むこと。また、就活など進路に関するテーマについては、将来を考えながら自分自身の考えを少しづつ明確にしていく心構えが大切である。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III					○		
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	全体ガイダンス ・進路指導課の利用法 ・社会人として「働く」とは ・国試対策の概要（過去問紹介、国試に向けての勉強法、実習センターの利用法）
事前	授業の全体像を把握するため、シラバスを熟読しておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めておくこと。（30分）

2	・一般企業と福祉施設の採用活動の流れ ・正しい言葉使い（ビデオ視聴あり） ・正社員とフリーターの違い（ビデオ視聴あり）
事前	採用活動の流れに付いて、把握しておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。（30分）

3	国試対策(1) 社会保障1
事前	社会保障の概念等に関わる用語をまとめ理解しておくこと。（30分）
事後	社会保障の概念や財源等の知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

4	国試対策(2) 社会保障2
事前	社会保障制度の体系等に関わる用語をまとめ理解しておくこと。（30分）
事後	社会保障制度の体系等に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

5	国試対策(3) 低所得者に対する支援と生活保護制度
事前	低所得に対する支援に関して調べるとともに、生活保護制度についても理解しておくこと。（30分）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、ホームレス対策も含め低所得者に対する支援等の知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

6	国試対策(4) 保健医療サービス
事前	保健医療サービスに関わる用語をまとめ理解しておくこと。（30分）
事後	保健医療サービスの知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

7	国試対策(5) 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度1
事前	児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について調べておくこと。（30分）
事後	児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の定義・権利等の知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

8	国試対策(6) 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度2
事前	児童・家庭福祉制度等に関わる用語をまとめ理解しておくこと。（30分）
事後	児童・家庭福祉制度等に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

9	・就活スタートアップ講座（外部講師）
事前	就職活動の流れについて、把握しておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。（30分）

10	国試対策(7) 相談援助の基盤と専門職1
事前	相談援助の概念・理念や社会福祉士の役割等について調べておくこと。（30分）
事後	相談援助の基盤に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。（30分）

11	国試対策(8) 相談援助の基盤と専門職2
事前	相談援助に係る専門職の概念と範囲等について調べておくこと。（30分）

事後	相談援助の専門職に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

12	国試対策(9) 人体の構造と機能及び疾病
事前	人体の構造と機能等に関わる用語をまとめ理解しておくこと。(30分)
事後	人体の構造と機能等に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

13	国試対策(10)「心理学」
事前	心理学に関わる用語をまとめ理解しておくこと。(30分)
事後	心理学に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

14	・公務員の魅力、種類、仕事、採用(外部講師)
事前	福祉職公務員の採用自治体について、調べておくこと。(30分)
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。(30分)

15	・3月卒業生の就職状況 ・就職筆記試験を体験する
事前	自らの学生生活を振り返り整理するとともに、志望業種等を調べておくこと。(30分)
事後	就職筆記試験を試し、傾向と対策について理解を深めること。(30分)

16	・履歴書、ｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄの書き方1 (外部講師)
事前	自らの学生生活を振り返り整理するとともに、志望業種等を調べておくこと。(30分)
事後	履歴書やｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄの書き方について、理解を深めること。(30分)

17	・履歴書、ｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄの書き方2(実際に書いてみる) (外部講師)
事前	自らの学生生活を振り返り整理するとともに、志望業種等を調べておくこと。(30分)
事後	履歴書やｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄについて、繰り返し書いて確認すること。(30分)

18	国試対策(11)「社会学1」
事前	社会理論と社会システムに関わる用語をまとめ理解しておくこと。(30分)
事後	社会理論と社会システムに関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

19	国試対策(12)「社会学2」
事前	現代社会と福祉に関わる用語をまとめ理解しておくこと。(30分)
事後	現代社会と福祉に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

20	国試対策(13) 高齢者に対する支援と介護保険制度1
事前	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について調べておくこと。(30分)
事後	介護予防や認知症ケアなど高齢者支援に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

21	国試対策(14) 高齢者に対する支援と介護保険制度2
事前	介護保険度等に関わる用語をまとめ理解しておくこと。(30分)
事後	介護保険制度等に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

22	国試対策(15) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度1
事前	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について調べておくこと。(30分)
事後	障害者福祉制度の発展過程について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

23	国試対策(16) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度2
事前	障害者総合支援法や障害者福祉に関わる関係法令について理解しておくこと。(30分)
事後	障害者総合支援法や障害者福祉に関わる関係法令について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

24	国試対策(17) 社会調査1
事前	社会調査に関わる用語をまとめるとともに、統計法についても理解しておくこと。(30分)
事後	社会調査の基礎について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

25	国試対策(18) 社会調査2
事前	量的調査と質的調査について調べておくこと。(30分)
事後	量的調査と質的調査に関わる知識について、過去問題や模擬問題で自らの習熟度を確認すること。(30分)

26	・就活の進め方、サイトの活用法（外部講師)
事前	就活サイトについて、概要を把握しておくこと。（30分）
事後	就活サイトを実際に繰り返し操作するとともに、その活用について理解を深めること。（30分）

27	・働く上で知っておきたい労働法の知識（外部講師）
事前	労働法及び関連法について、概要を把握しておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。（30分）

28	・面接試験への臨み方（外部講師）
事前	面接試験について、概要を把握しておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。（30分）

29	・福祉施設の魅力 (外部講師)
事前	福祉施設の概要を把握するとともに、関心のある施設や業務等について調べておくこと。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めておくこと。（30分）

30	・求人票の見方 ・証明書類の取り寄せ方 ・面接試験の実際(ビデオ視聴あり)
事前	キャリア支援センター等で実際に求人票にふれてみる。（30分）
事後	授業で説明した内容について十分に理解を深めること。（30分）

2020/07/16(木)20:56

科 目 名	行政福祉論 [社介]			授業コード	1150022
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	地方自治体、福祉職公務員、福祉事務所、児童相談所
到達目標	地方自治体の実状を学び、課題等について考察することにより、行政福祉の特徴と重要性を理解することができる。また、福祉職公務員の意識や業務実態を知り、就職について考えを深めることができる。 ・行政組織の仕組みや役割を理解するとともに、地方自治体を取り巻く課題・解決について、明確に論述できる ようになる。 ・福祉職公務員の使命や仕事内容、職場文化などについて理解できるようになる。 ・福祉職公務員を採用する地方自治体の現状について説明できるようになる。
授業の概要	本学、社会福祉学科社会福祉専攻には、公務員福祉マネジメントコースが設定されている。このコースにおける学生の進路の一つとして、地方自治体における福祉職公務員に就くことがあげられる。福祉職公務員として、働くためには、十分な知識と技術が備わらなければならないことはもとより、住民全体への奉仕者であるという崇高な価値や理念がなければならない。 本講座では、単に公務員を志望する学生への受験対策ではなく、行政福祉の現場実態や課題についても、実践者の話等により具体的に理解を深める。福祉職公務員となった際には、課題の多い行政福祉の解決に向けた取り組みに従事できる自信とスキルを兼ね備えた専門家を育成していく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○		・第8回の授業において中間試験を行う。なお、事後の授業において結果を返却するとともに、解説を行う。 ・各自の調べ学習に基づき、グループワークを実施した後、グループ発表を行う。(全1回)
評価方法 及び評価基準	試験	諸課題への取り組みとレポート課題（50%）、中間試験及び学期末試験（50%）として評価する。 なお、レポート提出にあたっては、文献やインターネットから引用する際には、必ず出典を示すなど、レポート作成上の基本的なルールを守ること。また、提出期限についても守ること。	
フィードバック	授業の中で実施した中間試験等については、出題の意図等について説明し講評するので、学期末試験の準備に役立てること。		
履修に際しての 注意事項	授業への積極的参加が前提である。私語など他の学生に迷惑がかかる行為や授業に関係のないものを読むなどの行動も厳禁		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							

IV						○	
V							

テキスト1	特になし。必要に応じてプリント等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ・本授業の概要を説明する。
事前	授業の全体像を理解するため、シラバスを熟読しておく。また、福祉職公務員の現状について概要を把握しておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語についてまとめ理解するくこと。(2時間)

2	公務員の仕事とは(概要)
事前	福祉職公務員の使命や仕事内容などについて、把握しておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、公務員の仕事の魅力について、各自で、説明できるように理解を深めること。(2時間)

3	福祉職公務員の仕事を学ぶ① 生活保護
事前	福祉事務所の機能と役割について調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解しておくこと。また、生活困窮者自立支援制度について、各自で、説明できるように理解を深めること。(2時間)

4	福祉職公務員の仕事を学ぶ② 児童相談所
事前	児童相談所の機能と役割について調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、児童福祉法における関連条文についても理解を深めること。(2時間)

5	福祉職公務員の仕事を学ぶ③ 児童相談所(一時保護所)
事前	一時保護所の機能と役割について調べるとともに、児童養護施設との関係性についても理解をしておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、わが国の里親制度の現状と課題について考察すること。(2時間)

6	福祉職公務員の仕事を学ぶ④ その他の機関
事前	精神障害の分類・特徴と精神保健福祉センターの役割について調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、当事者活動や家族支援についても理解を深めること。(2時間)

7	地方自治体の組織と役割
事前	地方自治体の種類と現状について調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、自治事務と法定受託事務について整理すること。(2時間)

8	中間試験 地方自治体職員の基礎知識
事前	福祉職公務員に必要なスキル、特にコンプライアンスの必要性について把握しておくこと。(2時間)
事後	中間試験の結果を返却する。その際に出題の意図等について解説するので再確認すること。(2時間)

9	福祉職公務員への準備プロセス
事前	福祉職公務員の採用プロセスに関わる必要な情報について、関心事項を整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した情報を整理して、理解を深めること。(2時間)

10	地方自治体の現状把握①(調べ学習)
事前	自らが対象とする地方自治体の概要について、調べておくこと。(2時間)
事後	自らが対象とする地方自治体の概要や特色、採用試験の状況等について、各自で、説明できるように理解を深めること。(2時間)

11	地方自治体の現状把握②(グループワーク)
事前	自らが調べて、理解を深めた内容について、更に多角的な視点から把握しておくこと。(2時間)
事後	グループワークで得た知識をまとめ、考察すること。(2時間)

12	地方自治体の現状把握③(グループ発表) 、地方自治体を取り巻く課題
事前	具体的な事例を対象として、プレゼンテーションに必要なスキル向上に取り組んでおくこと。(2時間)

事後	地方自治体を取り巻く課題について、各自で、説明できるように理解を深めること。(2時間)

13	小論文の書き方
事前	小論文の必要性と書き方について、把握しておくこと。(2時間)
事後	小論文の傾向と対策について、理解を深めること。(2時間)

14	小論文の作成
事前	小論文の学習の方法について、理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、小論文のテーマとなる地方自治体を取り巻く課題について論点を整理し、考察すること。(2時間)

15	まとめ
事前	第1回～第14回までの授業を振り返り、疑問点等について検討し、把握しておくこと。(2時間)
事後	行政組織の仕組みや役割をまとめ理解するとともに、地方自治体を取り巻く課題・解決について、各自で、論述できるようにすること。また、進路の一つの選択として、福祉職公務員についての理解を深めること。

2020/07/16(木)11:15

科 目 名	社会教育施設論 [科]			授業コード	1150032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	社会教育、身近な社会教育施設、専門職員、地域課題

到達目標	・社会教育施設の組織や活動、特性を理解することができる。 ・社会教育施設における生涯学習活動の意義と課題について自分の考えを述べることができる。 ・身近な社会教育施設に対して関心を深め、その活動等について説明することができる。			
授業の概要	この講義では、生涯学習や社会教育をおこなう施設の組織、体制と活動の実際について解説する。はじめに社会教育施設に関する法律と施設の種類、事業内容について概説する。これらを踏まえて具体的な施設における多様な活動の実際を紹介し、施設における生涯学習活動の意義と課題について理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・各自の調べ学習に基づき、グループワークを実施した後、グループ発表を行う。（全1回）
評価方法 及び評価基準	試験	授業参加度（30%）、レポー等の提出状況（20%）、期末試験（50%）により総合的に評価する。		
フィードバック	授業の中で実施した効果測定やレポートについては、出題の意図等について説明し講評するので、学期末試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席と授業への積極的参加が前提である。身近な地域の社会教育施設（図書館、博物館、公民館等）を事前に見学、利用しておくことが望ましい。授業課題としてレポート提出を求める。レポート作成にあたっては、提出期限を守ることはもとより文献やインターネットから引用する際には、必ず出典を示すなど、レポート作成上の基本的なルールを守ること。また、レポートについては、出題の意図等について説明し講評するので、定期試験の準備に役立てること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III							
IV					○		

V							

テキスト1	特定のテキストは使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業の概要とねらい、内容・方法・評価の説明、基本ルールの共有）
事前	授業の全体像を理解するため、シラバスを熟読するとともに、社会教育施設の概要を把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。（2時間）

2	社会教育とは、社会教育の意味
事前	生涯学習と社会教育について、把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、社会教育計画の概念と課題についても理解を深めること。（2時間）

3	社会教育施設の概説（法律、種類、事業内容）
事前	社会教育施設の概説について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、社会教育施設の現状と課題についても考察すること。（2時間）

4	図書館の役割と機能、組織
事前	自分が住んでいる自治体の図書館について調べて、説明できるようにしておくこと。（2時間）
事後	図書館を取り巻く環境や地域との連携について理解を深め、考察すること。（2時間）

5	図書館の現状と課題
事前	図書館の現状と課題について、ポイントを理解すること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、図書館司書の業務と役割についても理解を深めること。（2時間）

6	博物館の役割と機能、組織
事前	興味を持った博物館について調べて、説明できるようにしておくこと。（2時間）
事後	博物館を取り巻く環境や地域との連携について理解を深め、考察すること。（2時間）

7	博物館の現状と課題
事前	博物館の現状と課題について、ポイントを理解すること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、学芸員の業務と役割についても理解を深めること。（2時間）

8	公民館の役割と機能・組織
事前	自分が住んでいる自治体の公民館について調べて、説明できるようにしておくこと。（2時間）
事後	公民館を取り巻く環境や地域との連携について理解を深め、考察すること。（2時間）

9	公民館の現状と課題
事前	公民館の現状と課題について、ポイントを理解すること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、公民館で働く社会教育主事の業務と役割についても理解を深めること。（2時間）

10	公民館職員と地域づくり
事前	公民館職員の仕事と公民館事業の特色について把握しておくこと。（2時間）
事後	公民館事業に関わる地域課題や社会的要請によるテーマ等について考察すること。（2時間）

11	その他の社会教育施設
事前	近隣にある社会教育関連施設について調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。また、大学と地域との連携にどのように役立てるかを考察すること。（2時間）

12	身近な社会教育施設を学ぶ①（調べ学習）
事前	自らが関心をもった身近な社会教育施設について、地域での役割や事業内容を調べておくこと。（2時間）
事後	調べた社会教育施設の事業内容について、背景や地域課題等との関係性を各自で、説明ができるように理解を深めること。（2時間）

13	身近な社会教育施設を学ぶ②（グループ検討）

事前	自らが調べて、理解を深めた内容について、更に多角的な視点から把握しておくこと。(2時間)
事後	グループワークで得た知識をまとめ、考察すること。(2時間)

14	身近な社会教育施設を学ぶ③(グループ発表)
事前	具体的な事例を対象としてプレゼンテーションに必要なスキル向上に取り組んでおくこと。(2時間)
事後	身近な社会教育施設と連携する専門機関やNPOについて、各自で、説明できるように理解を深めること。(2時間)

15	まとめ
事前	第1回～第14回までの授業を振り返り、疑問点等について検討し、把握しておくこと。(2時間)
事後	社会教育施設の組織や活動、特性を理解するとともに、その活動の意義と課題について、各自で、論述できるようにすること。(2時間)

2020/07/16(木)20:27

科 目 名	障害者福祉論I/障害者福祉論 [心]			授業コード	1150041
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	社会モデル、優生思想、ノーマライゼーション、自立生活思想、障害者権利条約

到達目標	・障害者の人権や生活について学び、障害者の生活実態や社会生活の中での課題を考え、説明することができる。 ・障害者福祉理念や障害の種類などについて的確な用語を用いて記述することができる。 ・障害者総合支援法や他の関連諸制度について、内容や課題を具体的に述べることができる。			
授業の概要	わが国の障害者施策は大きな転換点を迎えている。本講義では、最新の障害者施策の動向を念頭におきながら、今後、障害者支援に携わるソーシャルワーカーが身に付けておくべき理念や思想、歴史、法制度等必要な知識を講義する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の理解度を確認するため、全3回の効果測定を実施し、授業内で結果を確認するとともに、解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	授業中の活動状況やコメントシート、諸課題への取り組みで（30%）、レポート課題（20%）、学期末試験（50%）として評価する。 なお、レポート提出にあたっては、文献やインターネットから引用する際には、必ず出典を示すなど、レポート作成上の基本的なルールを守ること。また、提出期限についても守ること。		
フィードバック	授業の中で実施した効果測定やレポートについては、出題の意図等について説明し講評するので、学期末試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	授業への積極的参加が前提である。私語など他の学生に迷惑がかかる行為や授業に関係のないものを読むなどの行動も厳禁			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	『新・基礎からの社会福祉4　障害者福祉［第2版］』ミネルヴァ書房 竹端寛、山下幸子、尾崎剛志、圓山里子編著	9784623080427
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、障害者とは
事前	授業の全体像を理解するため、シラバスを熟読するとともに、教科書のあらましを把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。特に「障害者」と［障害」の違いについて、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めること。（2時間）

2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①　障害の理解、障害者の生活実態
事前	教科書の4～9ページ、及び14～21ページを熟読しておくこと。特に、15ページからの表1－1から図1－7については、示されている傾向を把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明したICFや社会モデルについて、各自で、説明できるように理解を深めること。（2時間）

3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②　障害者支援の価値前提
事前	教科書の10～13ページを熟読しておくこと。また、2019年4月に成立した旧優生保護法一時金支給法に係る経緯について調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。特に、優生思想に対抗し、障害者を支える前提となる価値とはどのようなことか考察すること。（2時間）

4	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態③　障害者の理念　障害者を支える思想
事前	教科書の24～29ページを熟読しておくこと。特に、ノーマライゼーションの考え方に影響された障害者福祉政策と運動の展開について時系列にまとめておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明したノーマライゼーションについて、原理や意義、展開等を十分に説明できるように理解を深めること。（2時間）

5	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態④　障害者の理念　自立生活運動、権利保障等
事前	教科書の30～43ページを熟読し、自立生活運動とそれを支えた思想についてポイントを把握すること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、エンパワメントとアドボカシーについては、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めること。（2時間）

6	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態⑤　障害者福祉の歴史的展開　社会福祉基礎構造改革まで
事前	教科書の46～55ページを熟読し、2000年代までの各年代別にみる障害者福祉の歴史について、整理しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、社会福祉基礎構造改革のねらいと問題点について、考察すること。（2時間）

7	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態⑥　障害者福祉の歴史的展開　支援費制度から
事前	教科書の56～63ページを熟読し、障害者総合支援法がどのような経緯で成立したのかについて把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、障害者自立支援法の問題部分の指摘について考察すること。（2時間）

8	障害者に関わる法体系①　権利条約、障害者基本法
事前	教科書の38～43ページ及び98～101ページを熟読しておくこと。特に、障害者権利条約の国連採択について時系列にまとめておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した障害者権利条約について、重要かつ基本的な考え方を各自で、説明できるように理解を深めること。（2時間）

9	障害者に関わる法体系②　障害者関連施策　障害者差別解消法、障害者虐待防止法等
事前	教科書の124～135ページを熟読しておくこと。特に、障害者虐待防止法に係る虐待の定義については、把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、障害児と特別支援教育については、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めること。（2時間）

10	障害者に関わる法体系③　障害者関連施策　障害者雇用促進法、バリアフリー法等
事前	教科書の136～147ページを熟読しておくこと。また、障害者の所得の現状や水準を把握しておくこと（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、バリアフリーを進めるための法律については、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めること。（2時間）

11	障害者に関わる法体系④　身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法
事前	教科書の102～113ページを熟読しておくこと。特に、それぞれの法律の制定の背景と沿革について、まとめておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。特に、手帳制度については、整理し理解を深めること。（2時間）

12	障害者に関わる法体系⑤　発達障害者福祉法等
事前	教科書の114～121ページを熟読しておくこと。特に、発達障害者支援法の制定に至った背景について、把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した発達障害者の支援機関について、現状と課題を各自で、説明できるように理解を深めること。（2時間）

13	障害者自立支援制度①　障害者総合支援法の全体像、サービス利用の流れ、サービス等利用計画
事前	教科書の68～83ページを熟読しておくこと。特に、障害者総合支援法が規定するサービスの全体像（図4-1）については、概要を把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、障害者総合支援法の目的や基本理念等については、各自で、説明できるように理解を深めること。（2時間）

14	障害者自立支援制度②　サービスの概要、障害者ケアマネジメント
事前	教科書の84～95ページを熟読しておくこと。特に、利用者の権利擁護の視点から、不服審査請求や苦情解決制度の概要について、把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、障害者総合支援法における行政の責務について考察すること。（2時間）

15	障害者自立支援制度③　相談支援、自立支援協議会、障害者に関わる様々な専門職、試験について
事前	教科書の74～203ページを熟読しておくこと。特に、相談支援の体系について、概要を把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、相談支援体制における自立支援協議会の役割や機能について考察すること。（2時間）

2020/07/16(木)21:03

科 目 名	障害者福祉論II/障害者福祉論詳説 [社心]			授業コード	1150051
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	ノーマライゼーション、障害者総合支援法、障害者地域生活支援、社会資源開発、相談支援専門員

到達目標	本授業のねらいは、障害者福祉の理念や基本的な考え方を理解するとともに、障害者に対する相談支援活動に必要な知識と技術を身につけることである。 本授業の到達目標は以下の3点である。 1)障害者福祉の史的動向を把握するとともに、障害者を支える思想を理解する。 2)障害者の支援活動に必要となる法・制度の概要や今日的課題を理解する。 3)障害者の地域生活について考え、ニーズを把握するとともに、具体的な支援方法を検討できる。			
授業の概要	障害者を取り巻く環境が大きく変化し、政策転換の潮流の中、障害者の歴史的変遷や国際的動向を踏まえて、障害者のおかれている現状と課題を理解し、共生社会のあり方を考察していく。また、障害者福祉実践に関して、具体的事例により障害特性の認識を深めるとともに、障害者・家族に対する相談支援活動の方法・技術や専門職をはじめとした関係者の役割などについて学習する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・第5回の授業において効果測定を実施するとともに、結果を伝え、解説を行う。 ・グループワークを実施した後、グループ発表を行う。 （全3回程度）
評価方法 及び評価基準	試験	授業中の活動状況やコメントシート、諸課題への取り組みで（30%）、レポート課題（20%）、学期末試験（50%）として評価する。 なお、レポート提出にあたっては、文献やインターネットから引用する際には、必ず出典を示すなど、レポート作成上の基本的なルールを守ること。また、提出期限についても守ること。		
フィードバック	授業の中で実施した効果測定やレポートについては、出題の意図等について説明し講評するので、学期末試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	授業への積極的参加が前提である。私語など他の学生に迷惑がかかる行為や授業に関係のないものを読むなどの行動も厳禁			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							

IV							
V		○					

テキスト1	竹端寛、山下幸子、尾崎剛志、圓山里子〔編著〕『新・基礎からの社会福祉4　障害者福祉［第2版］』ミネルヴァ書房	9784623080427
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	隅河内司〔著〕『障害者相談支援における「実践課題の政策化」の理論形成』 ミネルヴァ書房、その他授業中に適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障害者支援の価値前提を学ぶ―障害の定義
事前	授業の全体像を理解するため、シラバスを熟読するとともに、教科書のあらましを把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した障害の構造的理解について、各自、説明できるように理解を深めること。（2時間）

2	共生社会に向けて―障害者を取り巻く環境
事前	教科書の4～13ページを熟読しておくこと。特に、優生思想がどのような悲劇を生み出したのか把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。また、現在の日本社会のあり方と優生思想の関係性について、自分なりに考察すること。（2時間）

3	障害者福祉の思想―ノーマライゼーション理論の生成と発展
事前	教科書の24～29ページを熟読し、ノーマライゼーションの原理や意義、展開等について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、ノーマライゼーションと障害者福祉思想の到達点である障害者権利条約の関係性について、理解を深めること。（2時間）

4	障害者権利条約と平等回復
事前	教科書の38～43ページを熟読しておくこと。特に、障害者権利条約の障害者差別の定義について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、平等回復の歴史的構造や合理的配慮について、各自、説明できるように理解を深めること。（2時間）

5	障害者総合支援法の概要と今日的課題
事前	教科書の68～95ページを熟読しておくこと。特に、教科書95ページの障害者総合支援法のサービスについては、内容や対象者など詳細に把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。社会福祉士国家試験の過去問題等で自らの習熟度を確認すること。（2時間）

6	障害特性の理解①―重度障害者と自立生活支援
事前	教科書の152～155ページを熟読しておくこと。また、ALSとはどのような疾患なのかを把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。また、ピアサポートの意義と役割について自分なりに考察すること。（2時間）

7	障害特性の理解②―知的障害者と権利擁護システム
事前	教科書の156～159ページを熟読しておくこと。また、知的障害者の就労支援体制を整理するとともに、あんしんセンターや地域定着支援センターの役割について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。また、軽度障害であるがゆえの課題とは何かを考えること。（2時間）

8	障害特性の理解③―発達障害者と就労支援
事前	教科書の164～167ページを熟読しておくこと。また、発達障害者の特性と発達障害者支援センターの機能について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。また、発達障害ゆえの困難にはどのようなものがあるかを考えること。（2時間）

9	障害特性の理解④―精神障害者と地域移行支援
事前	教科書の160～163ページを熟読しておくこと。また、地域移行支援やそれに関わる専門職について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。精神障害による本人や家族の生きづらさについて考えること。（2時間）

10	相談支援技術を学ぶ①−エンパワメントとストレングスモデル
事前	教科書の174～187ページを熟読しておくこと。特に、障害者ケアマネジメントの基本理念について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解する。また、ケアマネジメントにおける社会資源開発の意義や方法について事例を踏まえて考察すること。（2時間）

11	相談支援技術を学ぶ②ー意思決定支援
事前	障害者の意思決定支援と代行決定の相違について調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめるとともに、意思決定支援の意義や方法について理解を深めること。（2時間）

12	相談支援技術を学ぶ③ー相談支援専門員と自立支援協議会
事前	教科書の190～201ページを熟読しておくこと。特に、197ページの図9－3に示されている地域自立支援協議会のプロセスについて把握するとともに、自らが住む自治体の仕組みについても調べておくこと。（2時間）
事後	基幹相談支援センターの機能や役割をまとめるとともに、相談支援専門員の業務について理解を深めること。（2時間）

13	相談支援技術を学ぶ④ー障害者の地域生活支援と社会資源開発
事前	障害者の地域生活を支える社会資源について、自らの住む地域を想定して調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明した社会資源開発の方法について理解を深めるとともに、グループの話し合い等で得た気づきや知識をまとめること。（2時間）

14	相談支援技術を学ぶ⑤ーグループスーパービジョン
事前	相談支援専門員がおかれている環境を調べるとともに、スーパービジョンの意義や必要性について把握しておくこと。（2時間）
事後	授業内で説明したグループスーパービジョンの方法について理解を深めるとともに、グループの話し合い等で得た気づきや知識をまとめること。（2時間）

15	障害者に関わる様々な専門職について
事前	障害福祉サービス事業者や行政機関等に配置される専門職種を把握しておくこと。（2時間）
事後	多職種連携の意義を整理するとともに、その中でソーシャルワーカーが果たすべき役割について、各自、説明できるように理解を深めること。（2時間）

2020/07/16(木)10:41

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [社]			授業コード	1150060
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:25

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	1150072
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:50

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1150080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○			少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:27

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1150093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	隅河内 司				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:03

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1150100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、社会問題、障害者福祉、地域生活支援、人権尊重
到達目標	ミクロ、メゾ、マクロの総合的な視点に立って、実践と政策を視野に入れた力動的なソーシャルワークを担う人材として、包括的な相談支援や地域ネットワークづくり、地域開発などに必要な知識を習得し、実践に活用できることをねらいとして、以下の点を到達目標とする。 1 障害者問題等を社会構造に引きつけて考え、人権尊重や社会変革の意義を理解することができる。 2 文献等を自ら調べてまとめるなど、問題関心のある事柄について明確にすることができる。 3 研究発表やメンバーとの積極的なディスカッション、共同作業などグループ研究ができる。 4 研究テーマを見出し、研究方法を選定するとともに、論文作成のためのスキルを身につけるなど研究論文の土台づくりができる。
授業の概要	・障害者福祉の理念から人権尊重や社会変革の必要性、福祉を基盤にした地域づくりについて、メンバーとのディスカッションや共有により、学生各人の思考を深める。 ・実践者の体験談や施設見学等で福祉現場を体感することにより、興味や関心を引き出し、自由な発想で問題や課題を提起し、研究テーマを模索する。 ・自らの問題関心を磨き、研究テーマを明確にするとともに、卒論、ゼミ論執筆に向けて、関連分野における資料収集や調査など、研究論文の作成方法を学ぶ。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実践現場の訪問や調べ学習等により、各自が主体的に定めたテーマについて、グループワークやディスカッションを行うなど、問題発見・解決型学習を進める。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取り組み（50%）、発表内容（20%）、レポート内容（30%）として評価する。		
フィードバック	課題に対するフィードバックについては、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	積極的な発言、参加を期待している。分担箇所の報告などの責任を果たすとともに、他の学生との協調を意識して行動すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	オリエンテーションの際に決定する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	社会福祉全般に関わる基礎知識を再確認するとともに、障害者福祉の理念から人権尊重や社会変革の必要性を学ぶなど、ソーシャルワークに欠かせない基礎理論を習得するため、関係する文献を輪読し、レポート報告を基にディスカッションを行う。 また、実践者の報告や福祉施設の見学、フィールドワークへの参加などにより先駆的取組を探求した上で、研究計画の検討や関連文献の収集・レポート作成・報告、調査準備など、論文の土台づくりを行う 第1回　オリエンテーション 第2回 ～第4回　調べ学習（興味関心事項に関する雑誌記事や書籍等からの情報収集）、発表 第5回 ～第8回　社会福祉・障害者問題、地域ネットワークづくり研究（輪読、研究会参加）、ディスカッション 第9回 ～第14回 施設見学、実践者報告、レポート作成、ディスカッション 第15回　前期まとめ 第16回～第22回 施設見学、実践者報告、レポート作成、ディスカッション 第23回～第27回 テーマの選定、文献の検索と決定、論文の書き方、小論文の作成、発表 第28回～第29回 研究計画書案の作成・検討 第30回　後期まとめ
事前	各回の授業内容について、事前に学習し、内容をまとめて、理解しておくこと。（毎回30分）
事後	各回の授業で得た気づきや知識について、自らの関心や研究テーマにひきつけて考察すること。（毎回30分）

2020/07/16(木)22:23

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1150110
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	隅河内 司				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、社会問題、障害者福祉、地域生活支援、人権尊重
到達目標	・障害者問題等を社会構造に引きつけて考えるとともに、実践と政策を視野に入れた力動的なソーシャルワーク を理解した上で、社会の諸問題の解決に向けて考えを深め、発信できる。 ・研究論文の作成・発表を通して、論理的思考力や執筆方法、プレゼンテーション能力等を身につけることがで きる。 ・体験的学習を通して、自らの成長に向けて主体性や社会人としての素養を培うとともに、先進的な知識の習得など専門性を向上させる力を養う。
授業の概要	学生各自の問題関心を深めた上で、論文のテーマを設定し、論文作成を行う。また、専門職団体との交流や学会・研究会などへの参加を通して福祉専門職としての意識を醸成するとともに、専門性の向上を図る。 ・各自が設定した研究テーマに即して研究計画書を作成する。 ・文献収集を行い、先行研究をまとめるとともに、研究に必要な調査等を実施する。 ・個別指導により、論文の執筆を行う。 ・プレゼンテーションの方法を学ぶ。 以上の取り組みについて、定期的に進捗状況を報告し、ゼミ内で活発な議論、検討を行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各自の研究テーマに沿って、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取り組み（50%）、発表内容（20%）、レポート内容（30%）として評価する。		
フィードバック	課題に対するフィードバックについては、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	ディスカッションでは積極的な発言、参加を求める。進路選択も含め自らの目標達成に向けて意欲的に学習すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	学生各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	〔前期〕 第1回　前期オリエンテーション 第2回　論文研究計画作成にあたっての講義 第3回～第4回　論文研究計画の発表、ディスカッション 第5回～第7回　先行研究の発表、ディスカッション 第8回～第14回　調査・文献研究・論文執筆（個別指導）及び進捗状況報告（ディスカッション） 第15回　前期まとめ 〔後期〕 第16回　後期オリエンテーション 第17回～第24回　論文執筆（個別指導）及び進捗状況報告（ディスカッション） 第25回　論文発表リハーサル 第26回～第29回　論文発表 第30回　後期まとめ
事前	各回の授業について、課題への取り組みや技術の習得など、必要な準備をしておくこと。（毎回30分）
事後	各回の授業で得た学びを深め、自らの研究テーマの問題解決と研究論文の完成に向けて取り組むこと。（毎回30分）

2020/07/16(木)22:03

科 目 名	基礎演習I [社]			授業コード	1160010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関する キーワード	読む力、書く力、考える力、まとめる力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション力

到達目標	建学の精神「捨我精進」を理解し、説明できるようになる。 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的知識・技能・思考力を修得し、他の授業で活用できるようになる。			
授業の概要	大学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。この授業では、大学生 として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考方法について演習を行い修得する。 具体的には、建学の精神、大学における授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、資料や情報の読み方、レポートの書き方、問題発見力や理論的思考、豊かな表現力（プレゼンテーション力）、建 設的な批判力、問題解決力について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(35%)、演習課題（レポート）等(35%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。リアクションペーパーの書き方、レポートの書き方で行った演習について、優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	事前・事後の学修と、毎回の授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III						○	
IV		○					

V							

テキスト1	関係資料は「でんでんばん」もしくは毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の受け方1 ～大学で学ぶ意義「捨我精進」とは何か、予習、復習、授業を聴く、質問する～
事前	キャンパスガイドと履修要項を読んでおく。(0.5時間)
事後	大学生となった自分の4年間の目標について考える。(0.5時間)

2	対人関係づくり1 ～人間関係を構築し、他者と自己を理解する(人が好き、人が嫌いの自然さ)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己評価シート」を作成しておく。(0.5時間)
事後	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己紹介を考える」ワークシートに、自己紹介を通じて得た学びを記載すること。(0.5時間)

3	対人関係づくり2 ～コミュニケーション力(話す力、聴く力、質問する力)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布するワークシート「私のコミュニケーションスタイル」を作成しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内の演習で学んだ他者のコミュニケーションスタイルと自分のコミュニケーションスタイルの相違点について理解しておくこと。(0.5時間)

4	授業の受け方2 ～ノートの取り方、リアクションペーパーの書き方～
事前	これまで書いてきたリアクションペーパーについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだノートの取り方、リアクションペーパーの書き方について他の授業でも実践すること。

5	授業の受け方3 ～優れたリアクションペーパーについて～
事前	これまで作成したノートやリアクションペーパーについて改善点を考えてみること。(0.5時間)
事後	優れた評価を受けたリアクションペーパーと自分のリアクションペーパーの違いを評価し、具体的な改善点について考えること。(0.5時間)

6	文献を深く読む ～文献を読んで理解するための演習(要約など)を行う～
事前	入学前課題のコメントを再確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ文献の読み方を振り返り、入学前課題を振り返ってみること。また、授業内で把握した文献の要約を行うこと(1時間)

7	レポート作成1 ～レポートとは何か～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(1)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した参考レポートと自分のレポートの違いについて確認・考察し、改善点を考察すること。(1時間)

8	レポート作成2 ～良いレポートを書くために～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(2)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	これまで学んだ知識・技術を用いて夏休みの課題レポートを作成する。(2時間)

9	思考を可視化する ～マインドマップによる思考の可視化～
事前	「マインドマップ」とは何かについて調べておくこと。あなたの「未来」について思いつくキーワードを最低でも20個書き出しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだマインドマップの作成方法に基づき「自分について」というテーマでマインドマップを作成すること。(1時間)

	課題レポートのフィードバック分析 ～より良いレポートにするためには～

10	
事前	夏休みの課題として提出したレポートについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で共有した優れたレポートを参考に、自らのレポート作成の改善点について振り返ること。(0.5時間)

11	講演「青年期と性」外部講師 (共同授業)
事前	「青年期と性」というテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ内容を振り返り、これからの日常生活で何をすべきかについて考えること。(0.5時間)

12	グループワーク1 ～グループワークとは チーム編成、テーマ決定、役割分担、進行管理～
事前	これまで経験してきたワークショップについて、どのような内容(テーマ、方法、結論等)のものがあったか振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	グループで決定したテーマに関連する情報を調べておくこと。(0.5時間)

13	グループワーク2 ～ワークショップの実践～
事前	適切なブレーンストーミング(みんなで建設的に意見を出し合う)を行うために、事前に決定したテーマに関するアイデアを考え、整理しておくこと。(0.5時間)
事後	ワークショップの成果を生かして、次回のプレゼンテーションに向けた役割分担と発表資料作成を行うこと。(2時間)

14	グループワーク3 ～プレゼンテーションの方法～
事前	プレゼンテーションを行うために必要な資料の収集、プレゼンテーションのシナリオなどについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ「プレゼンテーションとは何か」を参考にグループでプレゼンテーション資料の作成を行うこと。(1時間)

15	グループワーク4 ～発表 プレゼンテーションの聴き方、評価方法～
事前	適切なプレゼンテーションを行うための予行練習などを行っておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習で学んだすべての知識・技能について、これからの大学生活で生かしていくためには何が必要かを考え続け、実践すること。(継続課題)

2020/07/16(木)22:05

科 目 名	基礎演習II [社]			授業コード	1160020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関する キーワード	問題を発見する力、問題を解決する力、協働・連携する力、ソーシャルワーカーとしての基礎力

到達目標	3年次以降の専門教育に向けた学びの視点を説明できるようになる。 専門職として必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考力を活用できるようになる。 問題発見力および問題解決力を修得し、3年次以降の学びで活用できるようになる。			
授業の概要	大学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。 この授業では基礎演習Iで得た大学生に求められる基礎的な知識・技能・思考力を実践し、専門的な学びにつなげていく。 具体的には、社会福祉の諸問題を発見する力、考える力、調査する力、話し合う力、整理・発信する力などについて学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(30%)、レポート・演習課題等(40%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。グループワーク演習の成果で優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	現代の社会福祉100の論点 Vol.2, 宮武剛(監修), 全国社会福祉協議会 田園調布学園大学 履修要項, 田園調布学園大学	
参考HP	https://lab.jst.go.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎演習2ガイダンス(福祉の専門性を育むために)
事前	本科目に関するシラバスを確認しておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習Iで学んだ内容について確認しておくこと。(0.5時間)

2	適切な話し合い、カンファレンス、会議の進め方について
事前	小学生から大学生になるまでの間で、複数のメンバーが集まって話し合いを行う「会議」と位置づけられる取り組みへの参加経験を振り返り、どのような会議(名称・種類など)に参加したことがあったか、その会議の意義と課題などについてまとめておくこと。(1時間)
事後	事前に資料を渡されたグループメンバーは、次回の会議に向けて資料を十分に読み込んでおくこと。(1時間)

3	準備をしない話し合いと準備をした話し合いの演習
事前	資料を渡されたグループは、当日に向けて会議の進行役、会議の進め方や結論づけ方について検討しておくこと。
事後	準備されない会議と準備された会議を実践的に経験し、これからの会議参加に向けて自分ができることは何かを考えてみること。(0.5時間)

4	社会福祉の課題を考える(1) ～課題となるテーマの発見・調査～
事前	「でんでんばん」または授業で配布した社会福祉の課題(論点)の枠組みについて確認し、興味関心があるテーマを決めておくこと。(0.5時間)
事後	グループメンバー内で決定したテーマ(社会福祉の課題)について、各自で資料を集めまとめておくこと。(1時間)

5	社会福祉の課題を考える(2) ～分析・整理～
事前	授業内で行ったテーマに関する情報共有から、フィールドワークの対象となる組織・施設・サービスを考えてみること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの実践に向けたスケジュールの確認とフィールドワークで行う質問について考えてみること。(0.5時間)

6	フィールドワーク(1) ～テーマに関する実態調査1～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの進捗状況に基づき、追加調査などが必要ないか検討すること。(0.5時間)

7	フィールドワーク(2) ～テーマに関する実態調査2～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための準備を行うこと。(0.5時間)

8	テーマ(社会福祉の課題)とフィールドワークに基づく発表
事前	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための最終確認を行っておくこと。(0.5時間)
事後	各グループの発表から得た学びを振り返ること。(0.5時間)

9	興味のある福祉分野の選定とグループ化
事前	フィールドワークで得た経験・知識から、興味のある福祉分野について考えておくこと。(0.5時間)
事後	興味のある福祉分野と専門分野または研究内容が近い本学の教員を調べてみること。(0.5時間)

10	グループでの研究室訪問によるインタビュー計画づくり ～研究内容とゼミ活動等の確認～
事前	教員の研究室への訪問計画を立てるために、対象となる教員のオフィスアワーの確認や事前訪問を行ってインタビュー依頼をする。(0.5時間)

事後	インタビュー計画に基づき、グループでの研究室訪問とインタビューを行うこと。(0.5時間)

11	グループでの研修室訪問結果の発表
事前	グループインタビュー結果を発表するための資料をまとめておくこと。(1時間)
事後	グループインタビュー発表結果から、自分が将来所属したいゼミについて考える。(0.5時間)

12	大学生に求められる研究倫理(共同授業)
事前	倫理および研究倫理とは何かについて文献・インターネット等で調べておくこと。(0.5時間)
事後	THE LABのサイトをアクセスし、大学院生のキム・パークとしてe-ラーニングを受講してみること。(1時間)

13	福祉現場に求められる人材を知る(共同授業)
事前	興味のある福祉分野の具体的な仕事内容について資料・文献・インターネットなどを用いて調べておくこと。(0.5時間)
事後	自分が福祉現場に求められる人材になるために、今後、何が必要なのか、そのためには何をすれば良いのか考えてみること。(0.5時間)

14	福祉現場に求められる人材になるために(1) ーグループワークー
事前	福祉現場に求められる人材になるために自分に必要な知識・技能とは何か、そのためには何を行う必要があるのか考える。(0.5時間)
事後	グループワークを通じて得た知識・経験から、これから専門教育を受ける自分に必要な知識・技能について理解を深める。(0.5時間)

15	福祉現場に求められる人材になるために(2) ー専門性への学びの計画を立てるー
事前	次の授業では履修要項のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを用いて、専門教育の学びに関する計画づくりの準備を行う。そのための準備として3年次以降のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	専門演習(ゼミ)での学の目標づくりと、カリキュラムツリーに基づく履修計画を完成させる。(1時間)

2020/07/16(木)21:12

科 目 名	児童・家庭福祉論/児童・家庭福祉論I [社]			授業コード	1160032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関するキーワード	児童福祉の歴史、基本概念、児童福祉法、児童虐待の基礎知識
到達目標	1.「児童」「子ども」の概念について理解し、違いや用法を説明し、使い分けられる。 2. 子どもの歴史について概要を理解し、過去の思想が現代へどのようにつながっているのかを理解できる。 3. 児童福祉に関わる基本的な専門用語や社会資源について学び、それらを具体的な事象に当てはめて活用できる。 4. 児童家庭福祉の問題を考察し、またその考察を専門用語を適切に用いて他者へわかりやすく説明できる。
授業の概要	本講義は、児童家庭福祉に関する基本事項の理解から出発し、福祉のさまざまな問題や、実際の社会資源がどのように活用されているのかを平易に説明することに重きを置く。児童虐待、非行児童、障害のある児童への支援に至るまで、幅広いトピックに随時言及する。受講者はまず実在する児童家庭福祉の問題とその諸相について知り、そしてそれに対して自分の感想なり評価なりを持つことが、学びの出発点となる。よって本講義ではその出発点のごく一端を提供するとともに、児童家庭福祉の問題を考察し、またそれを専門用語を適切に用いて他者へ説明する力を身に付けることを目的とする。 授業内容やスケジュール、学習課題、映像教材のタイトル等は、進度や受講者の状況等に応じて変更もあり得るので、了承のうえ受講していただきたい。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業で、授業内容に即したテーマを1つ以上課す。定められた時間内で取り組み、発表すること。発表の際は教員から個人ないしグループを指名する。
評価方法及び評価基準	試験	リアクションペーパーや小課題等を含む授業への貢献度40%、授業内テスト30%×2回。その他、授業内で行うグループワークやディスカッション、発表への積極的な取り組みや真摯な授業態度は加点対象となる。		
フィードバック	受講生の授業中の発表に対しては、必ずその場で教員からコメントする。その他、リアクションペーパーやテスト結果は、授業の最終回までに授業内を通じてフィードバックする。その他、個別的な内容はでんでんばんを通じてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	私語等、他の学生の迷惑となる行為は厳禁とし、指示に従わない場合には退出を求めることもある。遅刻・早退・中抜け2回につき欠席1回とみなす。遅刻・早退・中抜け等で授業中に30分以上不在であった場合は、1回でも欠席1回と見なすので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	井上文勝（2010）『子どものためのコルチャック先生』ポプラ社 近藤二郎（2005）『決定版　コルチャック先生』平凡社ライブラリ 中根成寿（2006）『知的障害者家族の臨床社会学』明石書房 日本子ども家庭総合研究所編（2014）『子ども虐待対応の手引き』有斐閣 ささやななえ（2012）『新・凍りついた瞳』集英社文庫	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	さまざまな概念の整理1（福祉／社会福祉）
事前	シラバスを熟読しておく（0.5時間）。
事後	児童家庭福祉という概念に対するイメージを言語化し、書き出す（3.5時間）。

2	さまざまな概念の整理2（児童／子ども）、子どもの権利と人権1（人権の定義）
事前	「権利」「人権」について国語辞典で調べておく（2時間）。
事後	ナチ・ホロコーストなど、歴史一般で有名で、かつ児童が犠牲になった事件について調べる（2時間）。

3	子どもの権利と人権2（児童権利条約成立まで）、欧米の子どもの歴史1（コルチャックの思想）
事前	アリエス 『＜子ども＞の誕生』について文献やインターネットで調べる（2時間）。
事後	「子ども」「青少年」「成人」の定義について考え、法律上の定義について調べ、書き出す（2時間）。

4	欧米の子どもの歴史2（ナチズム、優生思想）
事前	中世ヨーロッパの世界史（歴史）の一般的知識を復習しておく（2時間）。
事後	中世ヨーロッパに関する一般的知識（小学校・中学校の歴史程度）を復習しておく（2時間）。

5	日本の福祉思想と子ども1（上代～近代）
事前	日本史（特に戦乱、戦争や子ども）に関する知識を学んでおく（2時間）。
事後	「子宝」という概念について調べ、自分の考えを書き出す（2時間）。

6	日本の福祉思想と子ども2（明治～昭和）
事前	映画『火垂るの墓』を観て、第二次世界大戦後の日本の児童について考える（前半だけでも可）（2時間）。
事後	これまでの授業内容をおさらいし、日本と欧米の子ども観を比較し、整理して書き出しておく（2時間）。

7	公的扶助の歴史と子ども1：映像教材『オリバー・ツィスト』前編
事前	エリザベス救貧法、新救貧法について調べておく（2時間）。
事後	後編の視聴に備えて、前編の内容を整理しておく（2時間）。

8	公的扶助の歴史と子ども2：映像教材『オリバー・ツィスト』後編、まとめ
事前	「救貧院（ワークハウス）」「劣等処遇」について調べておく（2時間）。
事後	当時の子ども観・貧困観について考え、書き出す（2時間）。

9	授業内小テスト、公的扶助の歴史と子ども3（エリザベス救貧法から新救貧法まで）
事前	授業内テストに備えて第1回から8回までの授業内容をよく復習しておく（3.5時間以上）。
事後	テスト内容を復習しておく（0.5時間）。

10	児童福祉の法律1（児童福祉法、各種手当）
事前	社会福祉小六法などを使用し、児童福祉法について予習しておく（2時間）。
事後	児童福祉法を根拠法とする児童福祉サービスについて整理する（2時間）。

11	児童福祉の法律2（母子、子どもの貧困）
事前	社会福祉小六法体制には何法が含まれているのか把握しておく（2時間）。
事後	本授業で学んだ法律と、児童福祉関連の他の法律との整合性について考える（2時間）。

12	児童虐待に関する基礎知識
事前	社会福祉小六法で児童虐待防止法について予習しておく（2時間）。

事後	児童虐待防止法と児童福祉法の主な改正のポイントを整理する（2時間）。

13	児童虐待の事例1：漫画『新・凍りついた瞳』「サウナの家―前編」
事前	実際の児童虐待の事件について1つ以上、調べておく（2時間）。
事後	児童虐待の主たる要因は何かを考察する（2時間）。

14	児童虐待の事例2：漫画『新・凍りついた瞳』「サウナの家―後編」
事前	事例前編の内容を整理しておく（2時間）。
事後	児童虐待防止法の改正のポイントを整理し理解する（2時間）。

15	まとめ、小テスト2、授業評価アンケート
事前	これまでの授業内容を整理し、不明な点を整理しておく。欠席等で不足しているプリントは必ずこの日までに入手し、教員に質問可能な状態に整えておく（2時間）。
事後	授業中に教員が特に「社会福祉士国家試験に出やすい」と強調した部分について、いまいちど復習しておく（2時間）。

2020/07/16(木)10:33

科 目 名	児童・家庭福祉論II/児童・家庭福祉論詳説 [社介心]			授業コード	1160042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関する キーワード	子どもの自己決定とパターナリズム、多問題家族と児童虐待、貧困、自立援助ホーム
到達目標	1. 「子ども」「貧困」等の諸概念への理解を深め、各概念について自分の言葉で説明できる。 2. 子どもの権利の変遷について理解し、子どもの権利についての自分の考えを論理的に説明できる。 3. 子どもの自己決定をどこまで尊重すべきか、あるいはすべきでないか、判断基準について考察する作業を通して自己覚知を深め、応用できる。 4. 現代の家族、子どもをめぐる諸問題を批判的に考察できる。 5. 児童家庭福祉に関わる各専門職の役割と意義について理解し、説明できるようになる。
授業の概要	本講義は、「子どもの権利をどう守るか」「自己決定をどこまで尊重するか」といった、児童・家庭福祉論の内容をより深めていくような内容構成になっている。さまざまなテーマを扱うが、通底する大きなテーマの一つに「子どもの貧困」がある。「貧困」の意味するところは多様であるが、その意味内容を理解し、「子どもの貧困」という視点から物事を分析し、批判的に考察する力を養うことが期待される。また、ケースに対して必要な社会資源を思い浮かべたり、適切な解決方法を思案したりする力を伸ばすことを目的としている。 授業内容やスケジュール、映像教材のタイトルは進度や受講者の状況等に応じて変更もあり得るので、了承のうえ受講してほしい。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で、授業内容に即したテーマを1つ以上課す。定められた時間内で取り組み、発表すること。発表の際は教員から個人ないしグループを指名する。
評価方法 及び評価基準	試験	リアクションペーパーや小課題等を含む授業への貢献度40%、授業内テスト30%×2回。その他、授業内で行うグループワークやディスカッション、発表への積極的な取り組みや真摯な授業態度は加点対象となる。		
フィードバック	受講生の授業中の発表に対しては、必ずその場で教員からコメントする。その他、リアクションペーパーやテスト結果は、授業の最終回までに授業内を通じてフィードバックする。その他、個別的な内容はでんでんばんを通じてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	私語等、他の学生の迷惑となる行為は厳禁とし、指示に従わない場合には退出を求めることもある。遅刻・早退・中抜け2回につき欠席1回とみなす。遅刻・早退・中抜け等で授業中に30分以上不在であった場合は、1回でも欠席1回と見なすので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II					○		
III					○		
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	中根成寿（2006）『知的障害者家族の臨床社会学』明石書房 日本子ども家庭総合研究所編（2014）『子ども虐待対応の手引き』有斐閣 ささやななえ（2012）『新・凍りついた瞳』集英社文庫 山野良一（2008）『子どもの最貧国・日本』光文社新書 バラエティ・アートワークス（2012）『エミール』イースト・プレス	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス：授業の概要と進め方 「子ども家庭福祉」「家族」の定義
事前	シラバスを熟読しておく（0.5時間）。
事後	児童家庭福祉論（Ⅰ）の受講から現在までに、「児童家庭福祉」に対する自身のイメージがどう変化したのか整理しておく（3.5時間）。

2	子どもの貧困1：貧困を表す指標と諸概念
事前	「相対的貧困率」の概念やOECD、ユニセフの貧困指標について調べる（2時間）。
事後	特にひとり親家庭の貧困について、「貧困の罠」という概念を用いて他者に説明できるまでしっかり復習しておく（2時間）。

3	子どもの貧困2：事例
事前	「（社会的）逸脱」という概念について調べておく（2時間）。
事後	授業内容に関してルイスの「貧困の文化」の概念について調べる（2時間）。

4	子どもの権利と人権：ルソーの思想から
事前	前近代のヨーロッパの子ども観について調べておく。未見の場合は映画『オリバー・ツイスト』を観ておくとエリザベス救貧法（新救貧法）下の子ども観を理解する手助けとなる（2時間）。
事後	ルソーの性善説的教育論について、自分の言葉で説明できるように整理する（2時間）。

5	子どもの自己決定とパターナリズム1：パターナリズムとは何か
事前	「自己決定」が尊重されるべき場合と、そうでない場合について考える（2時間）。
事後	自分の身近なパターナリズムの例を1つあげ、授業で学んだ論点に照らして分析する（2時間）。

6	子どもの自己決定とパターナリズム2：東京都青少年健全育成条例から
事前	青少年にとっての「健全」とは何か、考察する（2時間）。
事後	非実在青少年の問題について自分の考えをまとめる（2時間）。

7	更生保護と児童（ゲストスピーカー）
事前	保護観察官の仕事について予習する（2時間）。
事後	今回の内容は、授業の後半で扱う児童虐待の事例と関連しているため、プリントの内容を各自で復習し知識の定着をはかること（2時間）。

8	小テスト1、社会問題としての貧困と虐待：映像教材『アメリカン・クライム』前編
事前	授業第1回～7回の内容を復習し、小テストに備える（3.5時間以上）。
事後	映画の前編の内容を整理しまとめておく（0.5時間）。

9	社会問題としての貧困と虐待：映像教材『アメリカン・クライム』後編
事前	心理用語の「集団ヒステリー」について調べる（2時間）。
事後	現代の日本の児童虐待問題との共通点、相違点を整理しておく（2時間）。

10	社会問題としての貧困と虐待：総括
事前	映画に出てきた加害者家族と、現代日本の児童虐待事件（特に死亡事例）との共通点について書き出す（2時間）。
事後	多問題家族の典型的特徴について整理し知識の定着をはかること（2時間）。

11	児童養護の体系
事前	児童養護とは何か、用語集で調べる（2時間）。

事後	知っている児童福祉施設種別が、児童養護体系の中でどこに位置づくのかチェックする（2時間）。

12	日本の児童虐待の事例1:『新凍りついた瞳』「長い家路　前編」
事前	「非行少年・少女」に対する自身のイメージを書き出す（2時間）。
事後	自立援助ホームの機能と意義を整理する（2時間）。

13	日本の児童虐待の事例2:『新凍りついた瞳』「長い家路　後編」
事前	非行少年による実際の事件について1つ以上調べる（2時間）。
事後	非常児童への効果的な支援方法について考察する（2時間）。

14	障害のある子どもへの虐待
事前	親子やきょうだい間の殺人事件で、特に子どもに障害のあるケースについて1つ以上調べる（2時間）。
事後	障害福祉論で学んだ知識（障害児の種別特性など）に照らして、児童虐待事例について考察する（2時間）。

15	まとめ、小テスト2、授業評価アンケート
事前	これまでの授業内容を整理し、不明な点を整理しておく。欠席等で不足しているプリントは必ずこの日までに入手し、教員に質問可能な状態に整えておく（2時間）。
事後	授業中に教員が特に「社会福祉士国家試験に出やすい」と強調した部分について、いまいちど復習しておく（2時間）。

2020/07/16(木)21:00

科 目 名	ソーシャルワーク総論II [社]			授業コード	1160052
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関するキーワード	ジェネリックとスペシフィック、スーパービジョンとコンサルテーション、記録の活用、ソーシャルワークの各種アプローチ

到達目標	1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。 2. スーパービジョンとコンサルテーションの意義や違いについて理解し、他者に説明できる。 3. ソーシャルワークの記録の意義を正しく理解し、適切な方法論で記述できる。また、他者が作成した既存の記録を的確に分析できる。 4. ICT、個人情報保護、権利擁護等の概念を理解し、他者に説明できるようになる。 5. ソーシャルワークの基本的な理論とアプローチについて理解し、それらを実際の事例に当てはめて考察し、活用方法を検討できる。			
授業の概要	ソーシャルワークにおけるネットワーキング、チームアプローチ、ケースカンファレンスの方法を習得する。また、コンサルテーションの意義や役割、記録の意義や方法、ICTと個人情報の取扱い等について、事例を通して学ぶ。ソーシャルワークに関する3年間の学びを総括し、ソーシャルワークに関する重要事項の理解度・定着度を確認する。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業で、授業内容に即したテーマを1つ以上課す。定められた時間内で取り組み、発表すること。発表の際は教員から個人ないしグループを指名する。
評価方法及び評価基準	試験	リアクションペーパーや、授業中の発言、受講中の態度などを含む授業への貢献度40%、授業内小テスト1回（30%）、学期末試験（30%）。		
フィードバック	受講生の授業中の発表に対しては、必ずその場で教員からコメントする。その他、リアクションペーパーやテスト結果は、授業の最終回までに授業内を通じてフィードバックする。その他、個別的な内容はでんでんばんを通じてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	私語等、他の学生の迷惑となる行為は厳禁とし、指示に従わない場合には退出を求めることもある。遅刻・早退・中抜け2回につき欠席1回とみなす。遅刻・早退・中抜け等で授業中に30分以上不在であった場合は、1回でも欠席1回と見なすので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III					○		
IV						○	

V							

テキスト1	2巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房）	9784623053919
テキスト2	3巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房）	9784623053926
テキスト3	4巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房）	9784623053902
参考文献	川村隆彦（2016）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義
事前	2巻pp.79-121によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

2	スーパービジョンの理解
事前	4巻pp.148-173によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

3	コンサルテーションの理解
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

4	コンサルテーションの事例1（スーパービジョンとコンサルテーションの違い）
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

5	コンサルテーションの事例2（コンサルテーションの展開）
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

6	ソーシャルワーク記録の機能、意義、方法論
事前	4巻pp.189-202によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

7	ソーシャルワークの記録分析（客観と主観、観察と気づき）
事前	社会福祉協議会の事例集など、インターネット上で閲覧可能な実際のソーシャルワーク事例・記録に目を通しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

8	授業内小テスト及び授業第8回「ケースカンファレンスの意義と方法」
事前	授業第1回～7回の内容をしっかり復習し、授業内小テストに備える。また、4巻pp.211-228に目を通しておく（3.5時間以上）。
事後	テスト内容を復習しておく（0.5時間）。

9	ソーシャルワークのチームアプローチとネットワーキング1（チームアプローチとネットワーキングの違い、ネットワーキングの構成要件）
事前	2巻pp.192-193、3巻pp.234-236によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

10	ソーシャルワークのチームアプローチとネットワーキング2（ネットワーキングの実際の例）
事前	3巻p.236以降の該当するページによく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

11	前半：ICTと個人情報、権利擁護について　後半：ソーシャルワークの各種理論とアプローチ1（クライアント中心、エコロジカル）
事前	4巻pp.229-248、3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだクライアント中心アプローチ、エコロジカルアプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

12	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ2（ジェネラリスト、認知理論、行動理論）
事前	3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだジェネラリストアプローチ、認知理論アプローチ、行動理論アプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

13	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ3（危機介入、問題解決、課題中心）
事前	3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだ危機介入アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

14	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ4（エンパワメント、ナラティブ）、ソーシャルワークの意義と役割
事前	3巻pp.115-130、4巻pp.252-257をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだエンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

15	ソーシャルワークの国際的動向、まとめ
事前	4巻pp.252-257によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

2020/07/16(木)22:14

科 目 名	ソーシャルワーク総論II [介心]			授業コード	1160062
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関するキーワード	ジェネリックとスペシフィック、スーパービジョンとコンサルテーション、記録の活用、ソーシャルワークの各種アプローチ

到達目標	1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。 2. スーパービジョンとコンサルテーションの意義や違いについて理解し、他者に説明できる。 3. ソーシャルワークの記録の意義を正しく理解し、適切な方法論で記述できる。また、他者が作成した既存の記録を的確に分析できる。 4. ICT、個人情報保護、権利擁護等の概念を理解し、他者に説明できるようになる。 5. ソーシャルワークの基本的な理論とアプローチについて理解し、それらを実際の事例に当てはめて考察し、活用方法を検討できる。			
授業の概要	ソーシャルワークにおけるネットワーキング、チームアプローチ、ケースカンファレンスの方法を習得する。また、コンサルテーションの意義や役割、記録の意義や方法、ICTと個人情報の取扱い等について、事例を通して学ぶ。ソーシャルワークに関する3年間の学びを総括し、ソーシャルワークに関する重要事項の理解度・定着度を確認する。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業で、授業内容に即したテーマを1つ以上課す。定められた時間内で取り組み、発表すること。発表の際は教員から個人ないしグループを指名する。
評価方法及び評価基準	試験	リアクションペーパーや、授業中の発言、受講中の態度などを含む授業への貢献度40%、授業内小テスト1回（30%）、学期末試験（30%）。		
フィードバック	受講生の授業中の発表に対しては、必ずその場で教員からコメントする。その他、リアクションペーパーやテスト結果は、授業の最終回までに授業内を通じてフィードバックする。その他、個別的な内容はでんでんばんを通じてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	私語等、他の学生の迷惑となる行為は厳禁とし、指示に従わない場合には退出を求めることもある。遅刻・早退・中抜け2回につき欠席1回とみなす。遅刻・早退・中抜け等で授業中に30分以上不在であった場合は、1回でも欠席1回と見なすので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III					○		
IV						○	

V							

テキスト1	2巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房）	9784623053919
テキスト2	3巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房）	9784623053926
テキスト3	4巻（MINERVA社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房）	9784623053902
参考文献	川村隆彦（2016）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義
事前	2巻pp.79-121によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

2	スーパービジョンの理解
事前	4巻pp.148-173によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

3	コンサルテーションの理解
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

4	コンサルテーションの事例1（スーパービジョンとコンサルテーションの違い）
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

5	コンサルテーションの事例2（コンサルテーションの展開）
事前	4巻pp.176-187によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

6	ソーシャルワーク記録の機能、意義、方法論
事前	4巻pp.189-202によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

7	ソーシャルワークの記録分析（客観と主観、観察と気づき）
事前	社会福祉協議会の事例集など、インターネット上で閲覧可能な実際のソーシャルワーク事例・記録に目を通しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

8	授業内小テスト及び授業第8回「ケースカンファレンスの意義と方法」
事前	授業第1回～7回の内容をしっかり復習し、授業内小テストに備える。また、4巻pp.211-228に目を通しておく（3.5時間以上）。
事後	テスト内容を復習しておく（0.5時間）。

9	ソーシャルワークのチームアプローチとネットワーキング1（チームアプローチとネットワーキングの違い、ネットワーキングの構成要件）
事前	2巻pp.192-193、3巻pp.234-236によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

10	ソーシャルワークのチームアプローチとネットワーキング2（ネットワーキングの実際の例）
事前	3巻p.236以降の該当するページによく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

11	前半：ICTと個人情報、権利擁護について　後半：ソーシャルワークの各種理論とアプローチ1（クライアント中心、エコロジカル）
事前	4巻pp.229-248、3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだクライアント中心アプローチ、エコロジカルアプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

12	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ2（ジェネラリスト、認知理論、行動理論）
事前	3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだジェネラリストアプローチ、認知理論アプローチ、行動理論アプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

13	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ3（危機介入、問題解決、課題中心）
事前	3巻pp.115-130をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだ危機介入アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

14	ソーシャルワークの各種理論とアプローチ4（エンパワメント、ナラティブ）、ソーシャルワークの意義と役割
事前	3巻pp.115-130、4巻pp.252-257をよく読むこと。また、ソーシャルワークⅠ・Ⅱやソーシャルワーク総論Ⅰなどで学んだエンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチについて復習しておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

15	ソーシャルワークの国際的動向、まとめ
事前	4巻pp.252-257によく目を通しておく。その際、読み方のわからない専門用語などはチェックし、授業当日までに各自で調べておく（2時間程度）。
事後	プリントの穴埋めで漢字のわからない箇所は平仮名やカタカナでメモし、後で必ず各自で教科書から調べて漢字に正式な表記に直しておくこと。また、授業内でのAL（アクティブ・ラーニング）課題の発表時に当てられなかった者は特にワークシートをきちんと埋めておくこと（2時間程度）。

2020/07/16(木)20:58

科 目 名	ソーシャルワークI [社]			授業コード	1160071
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関するキーワード	ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの歴史、ソーシャルワークの機能と役割、実践領域（ミクロ・メゾ・マクロ）、援助関係（バイスティックの7原則）

到達目標	・現代社会が抱える個人と社会をめぐるさまざまな問題から、ソーシャルワークの必要性を説明することができる。 ・ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係等について基本的知識を説明することができる。 ・ソーシャルワークとは何か、人と環境との交互作用とはどういうことか等を、例を示しながら説明することができる。			
授業の概要	この授業では、ソーシャルワークとは何かということを、ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係や面接技術等から幅広く学ぶ。 ソーシャルワークの講義科目は、ソーシャルワークI～IV、ソーシャルワーク総論I、IIからなっている。その一番基礎的な科目が本講義である。よって、人の幸せを支える学問であるソーシャルワークの基礎を理解するとともに、多種多様な場面で必要とされているソーシャルワークへの関心がより深まっていくことを目的としている。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・毎回の授業でリアクションペーパーをとり、次の授業でそれを使用する。 ・授業の理解度を確認するため、第8回の授業において確認テストを行う。なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。
評価方法及び評価基準	試験	授業に臨む態度およびリアクションペーパー50%、試験50%（中間試験、期末試験）		
フィードバック	授業内で実施した中間試験については、事後の授業において返却し、その際に出題の意図について説明し講評する。各自定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての注意事項	ソーシャルワークの一番基礎的な科目であり、ソーシャルワーク演習や実習とも深く関連している科目である。よって、真剣にかつ主体的に授業に臨むこと。なお、私語に対しては厳しく対処する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							

IV							
V	○						

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法II 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053926
テキスト2	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法I 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト3	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	9784623053902
参考文献	授業時、必要に応じ紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：ソーシャルワークを学ぶにあたって
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」のはしがき、目次、序章を読んでくること。（1時間30分）
事後	新聞やテレビのニュース等から現代社会にまつわる問題をピックアップし、現代社会が抱える福祉的課題を自分なりにまとめておくこと。（2時間30分）

2	ソーシャルワークの範囲・人間と環境の理解
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」の第1章を読み、理解してくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、再度テキスト該当箇所を読むこと。（2時間）

3	ソーシャルワークの定義（旧定義との比較、社会変革～エンパワーメント）
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p9の定義は旧定義である。第1章を読み込み、新しい定義を調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、旧定義と新定義の違いの理解を深めること。また、「相談援助の基盤と専門職」p23－32を読んでくること（2時間）

4	ソーシャルワークの定義（社会正義～ウェルビーイング）
事前	ソーシャルワークの新定義の中でわからない用語を調べ、理解を深めてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、新定義を暗記してくること。「相談援助の基盤と専門職」p91の図3-2を理解してくること。（2時間）

5	ソーシャルワークの援助体系・歴史（SW前史～発展期）
事前	「相談援助の基盤と専門職」p33-59を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、ソーシャルワーク萌芽期から1940年代までの歴史を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

6	ソーシャルワークの歴史（モデル・アプローチ）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」p119表6-1、p120-145を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、1940年代以降のソーシャルワークのアプローチの動向を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

7	ソーシャルワークの実践領域・専門職性・4要素
事前	ソーシャルワーカーの専門性とは何か、各自調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、実践領域、専門職性、4要素を具体例をあげて説明できるように理解を深めておくこと。（2時間）

8	中間テスト・倫理綱領
事前	第1回～第7回までのプリントを復習しておくこと。（3時間）
事後	「相談援助の基盤と専門職」p132-147を読み込んでおくこと。（2時間）

9	中間テスト解説・ソーシャルワークの機能と役割（調整的機能、開発的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、調整的機能と開発的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

10	ソーシャルワークの機能と役割（代弁的機能、教育的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を再度読み込んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、代弁的機能と教育的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

11	ソーシャルワークと援助関係（個別化～意図的な感情の表出）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p126-136を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-137を読んで理解を深めてくること。（2時間）

12	ソーシャルワークと援助関係（統制された情緒的関与～秘密保持）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-141まで読んでくること。（1時間30分）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、バイスティックの7つの原則をすべて覚えるとともに具体的に説明できるようにしてくること。（2時間30分）

13	ソーシャルワークの援助過程
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」第2章−第5章を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。（2時間）

14	ソーシャルワークの面接技術
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p68-94を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。（2時間）

15	まとめ・総復習
事前	授業内で配布したプリントすべてを復習してくること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ、理解を深めておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)10:51

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1160080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:27

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1160093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	高柳 瑞穂				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:03

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1160100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関する キーワード	卒業研究（論文）作成の技法、研究・調査の基礎

到達目標	1. 子どもや母子に限らず幅広い対象やテーマを扱い、社会福祉の諸問題を多様な角度から考察する力を身に付けることができる。 2. 自分の興味や関心を「研究テーマ」として確立させ、次年度の卒業研究（執筆）へつなげることができる。 3. 資料や情報の集め方、それらの取り扱い方、研究計画の立て方、分析の仕方など、研究に関する初歩的なスキルが身に付く。			
授業の概要	自分の興味や関心を「研究テーマ」として確立させるにはどうしたらよいか、など、ごく初歩的なところから丁寧にレクチャーしていく。資料や情報の集め方、それらの取り扱い方、研究計画の立て方、分析の仕方などを、順をおって学ぶ。授業の一環として、学会への参加や施設見学、ボランティア活動なども取り入れる場合がある。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業時、必ず一人一度以上の発言を求める。積極的なディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活動への取組40%、発表内容30%、随時指示する提出物や課題の完成度30%で、総合的に評価する。		
フィードバック	受講者の発言や成果物等に対し、その場で教員から必ずコメントやリプライを行う。その他、時間を要する添削等については次回以降の授業ないしでんでんばんでフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	まんいち、ゼミの運営や進行を妨げる行為をし、かつ、教員からの注意を受けても改善が見られない場合、D評価となる場合がある。また、レポートのコピペや盗作等の不正行為が発覚した場合、無条件でD評価となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○	○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	4489020325
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	随時、授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	【3年次】 1. 前期で基本的な研究スキル（資料の集め方や議論の仕方等）について講義したうえで、それらを実践・習得する。 2. 後期で受講者の興味・関心に即した文献を選定し、分担を決めて発表・ディスカッションを行う。 3. 1. 2. を通じて卒業研究（論文）の目次作成、研究計画の作成を目指す。 【4年次】 1. 個別指導を基本とし、各自で研究・執筆を遂行する。教員から適宜、助言や指導をし、卒業研究（論文）完成を目指す。 2. 可能な限り4年次夏休みまでの完成を目指し、4年次後期からは社会福祉士国家試験の勉強に力をさけるように努める。 3. 当ゼミの受講者は原則として全員、卒業研究（論文）の完成を目標とするが、教員から見て時間的・能力的に難しいと判断した場合はゼミ内レポートへの変更を指示することがある。 4. 定期的にゼミ内で開く中間報告会（出席必須）で進捗を報告する。 5. 2. にも述べた通り、社会福祉士国家試験勉強との両立を目指す。
事前	受講者の進捗に合わせて、教員から細かい課題をそのつど指示する（「卒業研究でやりたい内容を3つワード1枚に書いてくること」「目次（案）を作ってくること」「参考文献リストの仮案を持参すること」など）。それらの課題について、期日を遵守して誠実に取り組むこと。わからない場合は、期日当日までに教員に相談し、指示を仰ぐこと。（毎回0.5時間程度）
事後	事前に指示された課題に受講者が取り組み、授業の当日に持参ないしプレゼンした場合、他の受講者や教員から必ずコメントや指摘がある。それらに応じて必ず授業後に加筆・修正し、次回のプレゼンに備えること。（毎回0.5時間程度）

2020/07/16(木)22:23

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1160110
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	高柳 瑞穂				

科目に関するキーワード	卒業研究（論文）の執筆、研究・調査の実施、個別指導
到達目標	1. ゼミナール I で学習した内容を活かし、実際に研究・調査を各自で遂行し、適宜、指導教員の個別指導を受けながら、自分の力で卒業研究を執筆できるようになる。 2. 可能な限り4年次夏休みまでの完成を目指し、4年次後期からは社会福祉士国家試験の勉強に力をさくことができる。 3. 卒業研究の完成と社会福祉士国家試験の学習を両立することができる。
授業の概要	1. 個別指導を基本とし、各自で研究・執筆を遂行する。教員から適宜、助言や指導をし、卒業研究完成を目指す。 2. 可能な限り4年次夏休みまでの完成を目指し、4年次後期からは社会福祉士国家試験の勉強に力をさけるように努める。 3. 当ゼミの受講者は原則として全員、卒業研究の完成を目標とするが、教員から見て時間的・能力的に難しいと判断した場合はゼミ内レポートへの変更を指示することがある。 4. 定期的にゼミ内で開く中間報告会（出席必須）で進捗を報告する。 5. 2. にも述べた通り、社会福祉士国家試験勉強との両立を目指す。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○		個別指導時及びゼミ内中間報告会では必ず一人一度以上の発言を求める。積極的なディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート		授業内の課題や諸活動への取組40%、発表内容30%、提出物や卒業研究の完成度30%で、総合的に評価する。
フィードバック	個別指導を原則とするため、受講者の発言や提出物等に対し、その場で教員から必ずコメントやリプライを行う。なお、時間を要する添削等については次回以降の指導時ないしでんでんばんでフィードバックすることがある。		
履修に際しての注意事項	まんいち、ゼミの運営や進行を妨げる行為をし、かつ、教員からの注意を受けても改善が見られない場合、教員の指示に従って卒業研究作成を遂行する姿勢が著しく見られない場合、D評価となる場合がある。また、レポートのコピペや盗作等の不正行為が発覚した場合、無条件でD評価となる。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III							
IV							

V						○	○

テキスト1	特になし	4489020325
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	随時、授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【前期】 1. 個別指導を基本とし、各自で研究・執筆を遂行する。教員から個別指導をし、卒業研究完成を目指す。 2. 可能な限り4年次夏休みまでの完成を目指す。 3. 定期的に開催する、3年生と合同の中間報告会で必ず進捗を報告する。 【後期】 1. 夏休みまでに執筆した卒業研究の校正や微修正を行い、提出可能な形に整える。 2. 社会福祉士国家試験勉強に力を注ぐ。
事前	常に卒業研究（目次や参考文献リスト含む）の作成に努め、作成中の原稿を個別指導の前日までに必ずメール添付で教員に提出する。（毎週0.5時間以上）
事後	個別指導やゼミ内中間報告会では、他の受講者や教員から必ずコメントや指摘がある。それらに応じて必ず事後に加筆・修正し、次回の個別指導や報告会に備えること。（毎週0.5時間以上）

2020/07/16(木)22:03

科 目 名	基礎演習I [介]			授業コード	1170010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	読む力、書く力、考える力、まとめる力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション力

到達目標	建学の精神「捨我精進」を理解し、説明できるようになる。 学として学んでゆくために必要不可な基礎的知識・技能・思考を修得し、他の授業で活できるようになる。			
授業の概要	学ではさまざまな科を学び、基礎的教養や専的知識・技術をにつける。この授業では、学 として学んでゆくために必要不可な基礎的な知識・技能・思考法について演習を行い修得する。 具体的には、建学の精神、学における授業の受け、ノートの取り、資料や情報の収集と整理法、資料や情報の読み、レポートの書き、問題発や理論的思考、豊かな表現（プレゼンテーション）、建 設的な批判、問題解決について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(35%)、演習課題（レポート）等(35%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。リアクションペーパーの書き方、レポートの書き方で行った演習について、優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	事前・事後の学修と、毎回の授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III						○	
IV		○					

V							

テキスト1	関係資料は「でんでんばん」もしくは毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の受け方1 ～大学で学ぶ意義「捨我精進」とは何か、予習、復習、授業を聴く、質問する～
事前	キャンパスガイドと履修要項を読んでおく。(0.5時間)
事後	大学生となった自分の4年間の目標について考える。(0.5時間)

2	対人関係づくり1 ～人間関係を構築し、他者と自己を理解する(人が好き、人が嫌いの自然さ)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己評価シート」を作成しておく。(0.5時間)
事後	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己紹介を考える」ワークシートに、自己紹介を通じて得た学びを記載すること。(0.5時間)

3	対人関係づくり2 ～コミュニケーション力(話す力、聴く力、質問する力)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布するワークシート「私のコミュニケーションスタイル」を作成しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内の演習で学んだ他者のコミュニケーションスタイルと自分のコミュニケーションスタイルの相違点について理解しておくこと。(0.5時間)

4	授業の受け方2 ～ノートの取り方、リアクションペーパーの書き方～
事前	これまで書いてきたリアクションペーパーについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだノートの取り方、リアクションペーパーの書き方について他の授業でも実践すること。(0.5時間)

5	授業の受け方3 ～優れたリアクションペーパーについて～
事前	これまで作成したノートやリアクションペーパーについて改善点を考えてみること。(0.5時間)
事後	優れた評価を受けたリアクションペーパーと自分のリアクションペーパーの違いを評価し、具体的な改善点について考えること。(0.5時間)

6	◆献を深く読む ～◆献を読んで理解するための演習(要約など)を◆う～
事前	入学前課題のコメントを再確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ文献の読み方を振り返り、入学前課題を振り返ってみること。また、授業内で把握した文献の要約を行うこと(1時間)

7	レポート作成1 ～レポートとは何か～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(1)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した参考レポートと自分のレポートの違いについて確認・考察し、改善点を考察すること。(1時間)

8	レポート作成2 ～良いレポートを書くために～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(2)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	これまで学んだ知識・技術を用いて夏休みの課題レポートを作成する。(2時間)

9	思考を可視化する ～マインドマップによる思考の可視化～
事前	「マインドマップ」とは何かについて調べておくこと。あなたの「未来」について思いつくキーワードを最低でも20個書き出しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだマインドマップの作成方法に基づき「自分について」というテーマでマインドマップを作成すること。(1時間)

	課題レポートのフィードバック分析 ～より良いレポートにするためには～

10	
事前	夏休みの課題として提出したレポートについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で共有した優れたレポートを参考に、自らのレポート作成の改善点について振り返ること。(0.5時間)

11	講演「◆年期と性」外部講師 (共同授業)
事前	「青年期と性」というテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ内容を振り返り、これからの日常生活で何をすべきかについて考えること。(0.5時間)

12	グループワーク1 ～グループワークとは チーム編成、テーマ決定、役割分担、進◆管理～
事前	これまで経験してきたワークショップについて、どのような内容(テーマ、方法、結論等)のものがあったか振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	グループで決定したテーマに関連する情報を調べておくこと。(0.5時間)

13	グループワーク2 ～ブレインストーミングと意見(情報)の整理～
事前	適切にブレーンストーミング(みんなで建設的に意見を出し合う)を行うために、事前に決定したテーマに関するアイデアを考え、整理しておくこと。(0.5時間)
事後	ブレーンストーミングで得た情報を生かして次回のプレゼンテーションに向けた役割分担に基づく資料作成を行うこと。(1時間)

14	グループワーク3 ～プレゼンテーションの方法～
事前	プレゼンテーションを行うために必要な資料の収集、プレゼンテーションのシナリオなどについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ「プレゼンテーションとは何か」を参考にグループでプレゼンテーション資料の作成を行うこと。(2時間)

15	グループワーク4 ～発表 プレゼンテーションの聴き方、評価方法～
事前	適切なプレゼンテーションを行うための予行練習などを行っておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習で学んだすべての知識・技能について、これからの大学生活で生かしていくためには何が必要かを考え続け、実践すること。(継続課題)

2020/07/16(木)22:05

科 目 名	基礎演習II [介]			授業コード	1170020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関するキーワード	問題を発見する力、問題を解決する力、協働・連携する力、ソーシャルワーカーとしての基礎力
到達目標	3年次以降の専門教育に向けた学びの視点を説明できるようになる。 専門職として必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考力を活用できるようになる。 問題発見力および問題解決力を修得し、3年次以降の学びで活用できるようになる。
授業の概要	大学では さまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。 この授業では基礎演習Iで得た大学生に求められる基礎的な知識・技能・思考力を実践し、専門的な学びにつなげていく。 具体的には、社会福祉の諸問題を発見する力、考える力、調査する力、話し合う力、整理・発信する力などについて学ぶ。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法及び評価基準	レポート 授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(30%)、レポート・演習課題等(40%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。グループワーク演習の成果で優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	現代の社会福祉100の論点 Vol.2, 宮武剛（監修）, 全国社会福祉協議会 田園調布学園大学 履修要項, 田園調布学園大学	
参考HP	https://lab.jst.go.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎演習2ガイダンス（福祉の専門性を育むために）
事前	本科目に関するシラバスを確認しておくこと。（0.5時間）
事後	基礎演習Ⅰで学んだ内容について確認しておくこと。（0.5時間）

2	適切な話し合い、カンファレンス、会議の進め方について
事前	小学生から大学生になるまでの間で、複数のメンバーが集まって話し合いを行う「会議」と位置づけられる取り組みへの参加経験を振り返り、どのような会議（名称・種類など）に参加したことがあったか、その会議の意義と課題などについてまとめておくこと。（1時間）
事後	事前に資料を渡されたグループメンバーは、次回の会議に向けて資料を十分に読み込んでおくこと。（1時間）

3	準備をしない話し合いと準備をした話し合いの演習
事前	資料を渡されたグループは、当日に向けて会議の進行役、会議の進め方や結論づけ方について検討しておくこと。（0.5時間）
事後	準備されない会議と準備された会議を実践的に経験し、これからの会議参加に向けて自分ができることは何かを考えてみること。（0.5時間）

4	社会福祉の課題を考える（1） ～課題となるテーマの発見・調査～
事前	「でんでんばん」または授業で配布した社会福祉の課題（論点）の枠組みについて確認し、興味関心があるテーマを決めておくこと。（0.5時間）
事後	グループメンバー内で決定したテーマ（社会福祉の課題）について、各自で資料を集めまとめておくこと。（1時間）

5	社会福祉の課題を考える（2） ～分析・整理～
事前	授業内で行ったテーマに関する情報共有から、フィールドワークの対象となる組織・施設・サービスを考えてみること。（0.5時間）
事後	フィールドワークの実践に向けたスケジュールの確認とフィールドワークで行う質問について考えてみること。（0.5時間）

6	フィールドワーク（1） ～テーマに関する実態調査1～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。（0.5時間）
事後	フィールドワークの進捗状況に基づき、追加調査などが必要ないか検討すること。（0.5時間）

7	フィールドワーク（2） ～テーマに関する実態調査2～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。（0.5時間）
事後	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための準備を行うこと。（0.5時間）

8	テーマ（社会福祉の課題）とフィールドワークに基づく発表
事前	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための最終確認を行っておくこと。（0.5時間）
事後	各グループの発表から得た学びを振り返ること。（0.5時間）

9	興味のある福祉分野の選定とグループ化
事前	フィールドワークで得た経験・知識から、興味のある福祉分野について考えておくこと。（0.5時間）
事後	興味のある福祉分野と専門分野または研究内容が近い本学の教員を調べてみること。（0.5時間）

10	グループでの研究室訪問によるインタビュー計画づくり ～研究内容とゼミ活動等の確認～
事前	教員の研究室への訪問計画を立てるために、対象となる教員のオフィスアワーの確認や事前訪問を行ってインタビュー依頼をする。（0.5時間）

事後	インタビュー計画に基づき、グループでの研究室訪問とインタビューを行うこと。(0.5時間)

11	グループでの研修室訪問結果の発表
事前	グループインタビュー結果を発表するための資料をまとめておくこと。(1時間)
事後	グループインタビュー発表結果から、自分が将来所属したいゼミについて考える。(0.5時間)

12	大学生に求められる研究倫理(共同授業)
事前	倫理および研究倫理とは何かについて文献・インターネット等で調べておくこと。(0.5時間)
事後	THE LABのサイトをアクセスし、大学院生のキム・パークとしてe-ラーニングを受講してみること。(1時間)

13	福祉現場に求められる人材を知る(共同授業)
事前	興味のある福祉分野の具体的な仕事内容について資料・文献・インターネットなどを用いて調べておくこと。(0.5時間)
事後	自分が福祉現場に求められる人材になるために、今後、何が必要なのか、そのためには何をすれば良いのか考えてみること。(0.5時間)

14	福祉現場に求められる人材になるために(1) ーグループワークー
事前	福祉現場に求められる人材になるために自分に必要な知識・技能とは何か、そのためには何を行う必要があるのか考える。(0.5時間)
事後	グループワークを通じて得た知識・経験から、これから専門教育を受ける自分に必要な知識・技能について理解を深める。(0.5時間)

15	福祉現場に求められる人材になるために(2) ー専門性への学びの計画を立てるー
事前	次の授業では履修要項のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを用いて、専門教育の学びに関する計画づくりの準備を行う。そのための準備として3年次以降のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	専門演習(ゼミ)での学の目標づくりと、カリキュラムツリーに基づく履修計画を完成させる。(1時間)

2020/07/16(木)22:11

科 目 名	社会福祉総合講座 [社介心]			授業コード	1170030
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	4
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	社会福祉士、精神保健福祉士、社会福祉の知識、学習方法、受験ガイダンス

到達目標	学生が、本講座による支援を受け、国家試験受験に向けた学習を効果的に行うことができ、国家試験合格につながる学習の成果を獲得することをねらいとする。到達目標は、(1)ガイダンスの受講を通して、受験に向けた学習方法や受験申込方法を理解し、受験の心構えを持つことができるようになる、(2)受験対策講座の受講を通して、受験のための効果的な学習方法を理解できるようになる、(3)模擬試験の受験により、個々の学生が自分の到達度を評価でき、受験に向けた学習のあり方を工夫できるようになる、(4)学生同士が互いに切磋琢磨し受験へ向けた意識を高めることができるようになる。			
授業の概要	本講座は、学生が社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験を受験するに当たり、受験のための学習や受験手続などを適切かつ効果的に行うことができるよう支援することを目的とする。具体的には、受験手続その他のガイダンスを始めとして、社会福祉士試験受験対策としての学習を段階的・総合的に行う受験対策講座や模擬試験を組み合わせて実施する。学生の費用負担がある。詳細は、ガイダンス等で伝達する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	受講態度40%、模擬試験40%、提出物20%とし総合的に判断する。		
フィードバック				
履修に際しての 注意事項	ガイダンスは休まず出席すること。受験対策講座及び模擬試験は、学習の継続性を確保するため、最終回までできる限り出席し、受験すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV		○				○	

V					○		

テキスト1	テキストは初回の授業時に配付される。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP	http://www.sssc.or.jp/	

授業計画及び事前・事後学修

1	第1回ガイダンス・第1回受験対策講座 学習の仕方
事前	社会福祉振興試験センターホームページから社会福祉国家試験の概要について調べる。(1.5時間)
事後	ガイダンスで説明を受けた内容を整理し、学習の仕方について理解を深める。社会福祉振興試験センターホームページから社会福祉国家試験出題基準を調べ、国家試験で問われる内容をイメージする。(2.5時間)

2	第2回受験対策講座　社会理論と社会システム
事前	テキスト　社会理論と社会システムの箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	社会理論と社会システムのポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

3	第3回受験対策講座　現代社会と福祉(1)福祉理論をめぐる理論と哲学
事前	テキスト　現代社会と福祉(福祉理論をめぐる理論と哲学)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	現代社会と福祉(福祉理論をめぐる理論と哲学)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

4	第4回受験対策講座　現代社会と福祉(2)福祉政策におけるニーズ・構成要素・課題
事前	テキスト　現代社会と福祉(福祉政策におけるニーズ・構成要素・課題)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	現代社会と福祉(福祉政策におけるニーズ・構成要素・課題)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

5	第5回受験対策講座　地域福祉の理論と方法(1)地域福祉の基本的考え方・主体・対象・組織・専門性・住民
事前	テキスト 地域福祉の理論と方法(地域福祉の基本的考え方・主体・対象・組織・専門性・住民)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	地域福祉の理論と方法(地域福祉の基本的考え方・主体・対象・組織・専門性・住民)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

6	第6回受験対策講座　地域福祉の理論と方法(2)地域福祉の推進方法
事前	テキスト 地域福祉の理論と方法(地域福祉の推進方法)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	地域福祉の理論と方法(地域福祉の推進方法)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

7	第7回受験対策講座　福祉行財政と福祉計画(1)福祉行政の実施体制・福祉行財政の動向
事前	テキスト 福祉行財政と福祉計画(福祉行政の実施体制・福祉行財政の動向)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	福祉行財政と福祉計画(福祉行政の実施体制・福祉行財政の動向)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

8	第8回受験対策講座　福祉行財政と福祉計画(2)福祉計画の意義・目的・主体・方法・実際
事前	テキスト　福祉行財政と福祉計画(福祉計画の意義・目的・主体・方法・実際) の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	福祉行財政と福祉計画(福祉計画の意義・目的・主体・方法・実際) のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

9	第9回受験対策講座　社会保障(1)社会保障の概念・対象・理念・財源・費用・体系
事前	テキスト　社会保障(社会保障の概念・対象・理念・財源・費用・体系)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	社会保障(社会保障の概念・対象・理念・財源・費用・体系)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

10	第10回受験対策講座　社会保障(2)年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容
事前	テキスト 社会保障(年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容) の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	社会保障(年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容) のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

11	第11回受験対策講座　障害者に対する支援と障害者自立支援制度(1)障害者の生活実態及び福祉制度発展過程・障害者総合支援法
事前	テキスト 障害者に対する支援と障害者自立支援制度(障害者の生活実態及び福祉制度発展過程・障害者総合支援法) の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)

事後	障害者に対する支援と障害者自立支援制度（障害者の生活実態及び福祉制度発展過程・障害者総合支援法)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

12	第12回受験対策講座　障害者に対する支援と自立支援制度（2）障害者総合支援法における組織・専門性・多職種連携・相談支援事業の役割
事前	テキスト 障害者に対する支援と自立支援制度（障害者総合支援法における組織・専門性・多職種連携・相談支援事業の役割) の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	障害者に対する支援と自立支援制度（障害者総合支援法における組織・専門性・多職種連携・相談支援事業の役割)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

13	第13回受験対策講座　低所得者に対する支援と生活保護制度
事前	テキスト 低所得者に対する支援と生活保護制度の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	低所得者に対する支援と生活保護制度のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

14	第2回ガイダンス　第14回受験対策講座　保健医療サービス
事前	テキスト 保健医療サービスの箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	保健医療サービスのポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

15	第15回受験対策講座　権利擁護と成年後見制度（1）権利擁護
事前	テキスト 権利擁護と成年後見制度（権利擁護)の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	権利擁護と成年後見制度（権利擁護)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

16	第16回受験対策講座　権利擁護と成年後見制度（2）成年後見制度
事前	テキスト 権利擁護と成年後見制度（成年後見制度)の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	権利擁護と成年後見制度（成年後見制度)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

17	第17回受験対策講座　社会調査の基礎
事前	テキスト 社会調査の基礎の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	社会調査の基礎のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

18	第18回受験対策講座　相談援助の基盤と専門職
事前	テキスト 相談援助の基盤と専門職の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	相談援助の基盤と専門職のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

19	第19回受験対策講座　相談援助の理論と方法
事前	テキスト 相談援助の理論と方法の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	相談援助の理論と方法のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

20	第20回受験対策講座　福祉サービスの組織と経営
事前	テキスト 福祉サービスの組織と経営の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	福祉サービスの組織と経営のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

21	第3回ガイダンス　第21回受験対策講座　高齢者に対する支援と介護保険制度（1）高齢者の生活実態・福祉制度発展過程・介護の概念・対象・介護予防・介護過程・認知症ケア・終末期ケア・住環境
事前	テキスト 高齢者に対する支援と介護保険制度（高齢者の生活実態・福祉制度発展過程・介護の概念・対象・介護予防・介護過程・認知症ケア・終末期ケア・住環境)の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	高齢者に対する支援と介護保険制度（高齢者の生活実態・福祉制度発展過程・介護の概念・対象・介護予防・介護過程・認知症ケア・終末期ケア・住環境)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

22	第22回受験対策講座　高齢者に対する支援と介護保険制度（2）介護保険法・介護報酬・組織・専門職・ネットワーキング・地域包括支援センター・老人福祉法・高齢者虐待防止法・バリアフリー新法・高齢者居住法
事前	テキスト 高齢者に対する支援と介護保険制度（介護保険法・介護報酬・組織・専門職・ネットワーキング・地域包括支援センター・老人福祉法・高齢者虐待防止法・バリアフリー新法・高齢者居住法)の箇所を読み、わからない用語を調べる。（1.5時間）
事後	高齢者に対する支援と介護保険制度（介護保険法・介護報酬・組織・専門職・ネットワーキング・地域包括支援センター・老人福祉法・高齢者虐待防止法・バリアフリー新法・高齢者居住法)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。（2.5時間）

23	第23回受験対策講座　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（1）児童・家庭の生活実態、福祉制度の発展過程・児童の定義と権利・児童福祉法・児童虐待防止法・DV防止法・母子及び寡婦福祉法・母子保健法
事前	テキスト 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（児童・家庭の生活実態、福祉制度の発展過程・児童の定義と権利・児

	童福祉法・児童虐待防止法・DV防止法・母子及び寡婦福祉法・母子保健法)の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(児童・家庭の生活実態、福祉制度の発展過程・児童の定義と権利・児童福祉法・児童虐待防止法・DV防止法・母子及び寡婦福祉法・母子保健法)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

24	第24回受験対策講座　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(2)児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法・次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法・売春防止法・組織・専門職・多職種連携・児童相談所
事前	テキスト　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法・次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法・売春防止法・組織・専門職・多職種連携・児童相談所) の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法・次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法・売春防止法・組織・専門職・多職種連携・児童相談所)のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

25	第25回受験対策講座　就労支援サービス
事前	テキスト　就労支援サービスの箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	就労支援サービスのポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

26	第26回受験対策講座　更生保護制度
事前	テキスト　更生保護制度の箇所を読み、わからない用語を調べる。(1.5時間)
事後	更生保護制度のポイントと重要語句の整理を行う。過去問に取り組み解説を読む。(2.5時間)

27	第27回受験対策講座　法・制度改正点
事前	テキストから法・制度改正点を抜き出し、整理しておく。(1.5時間)
事後	授業で学んだ法・制度改正点の理解を深める。法・制度改正に対応した模擬問題に取り組み、解説を読んで理解を深める。(2.5時間)

28	第3回ガイダンス　模擬試験
事前	受験対策講座で実施した各科目の模擬問題に再度取り組み、解説を読み理解を深める。(1.5時間)
事後	模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題について解説を読み理解を深める。(2.5時間)

29	第28回受験対策講座　苦手科目(1)共通科目
事前	指定された苦手科目(共通科目)のテキスト該当箇所を読む。自身でまとめたポイントと重要語句を読み返し理解を深める。(1.5時間)
事後	授業の内容を復習し、指定された苦手科目(共通科目)の過去問と模擬問題に取り組み解説を読んで理解を深める。(2.5時間)

30	第29回受験対策講座　苦手科目復習(2)専門科目
事前	指定された苦手科目(専門科目)のテキスト該当箇所を読む。自身でまとめたポイントと重要語句を読み返し理解を深める。(1.5時間)
事後	授業の内容を復習し、指定された苦手科目(専門科目)の過去問と模擬問題に取り組み解説を読んで理解を深める。(2.5時間)

2020/07/16(木)22:00

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [介]			授業コード	1170050
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	文献検索、調査分析の方法、論文の構成、卒業後の進路
到達目標	1. 大学での学びを基に、他者と意見を交換する中から自らの関心領域を見つけることができる。 2. それぞれの適性や興味に応じた調査・研究を可能にするための、基礎的な考え方と関連情報を収集する手法を身につけ、課題解決に至る計画を立てることができる。 3. 介護現場の実践にふれ、自らの将来像を描き、その将来に向かう具体的な道筋を考えることができる。 4. 資格取得に向けて勉学に取り組むことができる。
授業の概要	学生自身が主体的にそれぞれの問題意識の所在を探り、「ゼミナールⅡ」に向けて、各自の研究テーマを決定していく。 具体的には、文献検索、資料整理、グループディスカッション等を実施し、基礎的な研究の手法と考え方を学ぶ。また、これらの過程を通じて、思考力、洞察力を高め、課題探求能力を深めると同時に、コミュニケーション能力、人間力を醸成する。 その他、各種施設見学や講演会などに参加し、卒業後の進路に向けた道筋を考える。 さらに、資格取得に向けた国家試験対策を進めていく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・それぞれの関心領域について調べた結果を発表しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・各種施設見学や講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の進路に向けた道筋を考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に対する取り組みやグループディスカッションへの参加態度、見学、講演会への主体的な参加の状況等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	常に新聞・雑誌、テレビ等で取り上げられている問題について関心をもつこと。 授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	講義や演習、実習の体験等を踏まえて、自らの関心や問題意識に基づいた学習を進めていく。 ＜前期＞ オリエンテーション 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） ＜後期 ＞ 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 「ゼミナールⅡ」での研究に向けた計画書作成 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） 国家試験対策
事前	それぞれの関心領域に沿った資料を読み、説明できるようまとめておく。 見学する施設の情報を収集し、質問事項をまとめておく。（0.5時間）
事後	グループディスカッションや各種施設見学・講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の課題に向けた取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/17(金)08:28

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [介]			授業コード	1170060
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関するキーワード	研究の意義、論文の意義、的確な表現と伝達の方法、人間の尊厳
到達目標	1. 生活環境（人的・物的）を生活主体である人間にとって最適化するためにはどうしたら良いのかについて、様々な角度から比較検討し考えて行くことができる。 2. 人間の尊厳に値する生活とは何か、人々のより良い生活の質の向上に自らがどのように貢献していくのか、それらの方向性を見出すことができる。 3. 調査研究の結果を論文としてまとめていくプロセスを通して、論理的・客観的な思考力や表現・伝達の力（技能）、課題解決に向けて計画的に行動していくことができる力を身につける。
授業の概要	各自の関心に基づいて設定した研究テーマに沿って、関連する先行研究・文献を参照しつつ調査・研究を進め、その研究結果を、大学4年間における学習の成果として、卒業論文またはゼミ論文として集大成して行く。 また、メンバーがお互いに調査・研究の進行状況を発表しあい意見交換する機会、および各種講演会に参加し卒業後の自らの生き方について考える機会も並行して設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / ・各自の調査研究の進行状況を報告しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の介護のあるべき姿について考えていく。
評価方法及び評価基準	レポート	学習意欲、学習態度、およびレポート・論文とその発表内容等を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			

IV							
V					○		

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞ 1）研究テーマの確定・研究実施計画 2）調査の計画・準備 3）調査実施 4）調査結果の整理・考察 5）卒業生による講演（合同授業） ＜後期＞ 6）調査結果のまとめ 7）レポート・論文の執筆 8）論文発表準備・発表 9）まとめ 10）卒業生による講演（合同授業） 上記は、1年間の調査研究を中心とした授業の流れになるが、実際の調査研究では、時期、対象、方法、内容、整理・分析法、まとめ方等々は一人一人異なって来る。しかし、共通する問題や解決法も多く存在し、他のメンバーの研究が自らの研究への刺激やヒントとなる場合もあるので、“全員で考える”ことを原則とする。
事前	各自の立てた計画に沿って調査研究を進め、疑問点を明らかにしておく。（0.5時間）
事後	ディスカッションや講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の調査研究の取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)21:56

科 目 名	介護福祉論II [介]			授業コード	1170082
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	介護の理念、介護福祉士の倫理、リスクマネジメント、介護従事者の安全、多職種連携
到達目標	1.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 2.尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、身体拘束や虐待等の問題と対策について考えることができる。 3.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援について理解することができる。 4.多職種協働による介護を実践するために保健・医療・福祉に関する他の専門職の役割と機能について理解する。 5.介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応について理解する。 6.介護従事者の心身の健康管理や労働環境の管理について理解する。
授業の概要	介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。介護従事者の倫理、利用者の人権の尊重、リスクマネジメント、介護従事者の労働・安全、在宅と施設のサービス提供現場をとおして医療・保健・福祉の連携等について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験50%、リアクションペーパーおよび課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	リアクションペーパー、課題や発表に対しては、授業内で解説を行いフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV							

V				○			

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ』中央法規（介護福祉論Ⅰと同じテキストを使用する）	9784805857632
テキスト2	介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ』中央法規（介護福祉論Ⅰと同じテキストを使用する）	9784805857649
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　介護の倫理
事前	テキスト3　第3章第1節介護福祉士の倫理を読み、介護実践における倫理について自分なりに理解する。（2時間）
事後	授業で学んだ社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定、日本介護福祉士会の倫理綱領を覚え、それぞれの意味について考える。（2時間）

2	介護福祉士の倫理
事前	テキスト3　第2章第2節社会福祉士及び介護福祉士法を読み、義務規定の内容を押さえる。第3章第2節日本介護福祉士会倫理綱領を読み、介護福祉士に求められる倫理について自分なりに理解する。（2時間）
事後	授業で学んだ社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定、日本介護福祉士会の倫理綱領を覚え、それぞれの意味について考える。（2時間）

3	利用者の人権と介護　（身体拘束の禁止）
事前	介護保険法で原則禁止されている身体拘束の内容について調べてくる。（2時間）
事後	授業で学んだ身体拘束の内容を覚え、なぜ問題となるのか利用者や家族の立場になって考え理解を深める。（2時間）

4	利用者の人権と介護　（身体拘束の対策）
事前	介護保険法で原則禁止されている身体拘束の各内容についての対策を自分なりに考えてくる。（2時間）
事後	授業で学んだ身体拘束への対策について、理解を深め、身体拘束をしない介護のあり方について考える。（2時間）

5	利用者の人権と介護　（虐待）
事前	高齢者虐待・障害者虐待の種類と内容について調べてくる。（2時間）
事後	授業で学んだ虐待の種類と内容を覚え、虐待の発生要因と対策について理解を深める。（2時間）

6	介護における安全の確保　（リスクマネジメント）
事前	テキスト4　第3章介護における安全の確保とリスクマネジメントを読み、自分なりに理解する。（2時間）
事後	授業で学んだ介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深める。（2時間）

7	在宅と施設における安全対策
事前	在宅と施設、それぞれの場において生じやすい事故について考えてくる。（2時間）
事後	授業で学んだ在宅と施設、それぞれの場で起こりやすい事故について整理して理解を深めるとともに安全対策について考える。（2時間）

8	感染対策　感染予防の基礎知識と衛生管理
事前	テキスト4　第3章第3節感染症対策を読み、感染に対する知識と感染予防の視点について押さえておく。（2時間）
事後	授業で学んだ感染の知識について理解し、感染対策の方法をしっかりと押さえる。（2時間）

9	介護従事者の心身の健康管理（ストレス対策、燃え尽き症候群対策）
事前	テキスト4　第5章第1節健康管理の意義と目的、第2節こころの健康管理を読み介護従事者に起こりやすい心身の健康問題について押さえておく。（2時間）
事後	授業で学んだ心身の健康管理(ストレス、燃え尽き症候群等)について理解を深めるとともに自身のストレス対策について考える。（2時間）

10	介護従事者の心身の健康管理（労働環境、腰痛予防）
事前	テキスト4　第5章第3節身体の健康管理、第4節労働環境の整備について読み、自分なりに理解する。（2時間）
事後	授業で学んだ身体の健康管理と労働環境の整備について理解を深める。腰痛対策として紹介された腰痛体操に取り組んでみる。（2時間）

11	介護サービス（フォーマル・インフォーマル）
	テキスト4　第2章第1節生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは、第2節生活を支えるインフォーマルサービス（私

事前	的サービス）とはを読み、介護サービスにおけるフォーマル・インフォーマルサービスの種類を押さえておく。（2時間）
事後	授業で学んだ介護におけるサービス（フォーマル・インフォーマル）を整理し、各サービスの内容について理解を深める。（2時間）

12	介護サービス提供の場（在宅・地域）
事前	介護保険制度における居宅サービス、地域密着型サービス、地域支援事業について調べる。（2時間）
事後	授業で学んだ在宅・地域におけるサービスの内容を整理して理解を深める。テキスト4　第2章第3節地域連携を読み、地域における連携の意義や目的、地域連携の実際について理解を深める。（2時間）

13	介護サービス提供の場（施設）
事前	介護保険制度における施設サービスの種類と内容について調べる。障害者の施設サービスについて調べる。（2時間）
事後	授業で学んだ介護サービス提供の場としての施設の種類と内容について理解を深めるとともに施設の意義、施設介護のあり方について考える。（2時間）

14	多職種の専門性と業務
事前	テキスト4　第4章第3節保健・医療・福祉職の役割と機能を読み、介護にかかわる専門職の種類と業務内容について押さえておく。（2時間）
事後	授業で学んだ介護にかかわる専門職の種類と業務内容、それぞれの専門性について整理して理解を深める。（2時間）

15	多職種協働による介護実践
事前	テキスト4　第4章第1節多職種連携・協働の必要性、第2節多職種連携・協働に求められる基本的な能力を読む。介護実習で体験した多職種連携の場面について考える。（2時間）
事後	授業で学んだ多職種連携の意義、必要性について押さえ、多職種連携の方法について理解を深める。（2時間）

2020/07/16(木)20:43

科 目 名	生活支援技術I/自立に向けた介護I [介]			授業コード	1170091
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	自立、生活支援、居住環境の整備、移動の介護、身じたくの介護、食事の介護、
到達目標	1.ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、説明できる。 2.住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解し、説明できる。 3.対象者の能力を活用・発揮し自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる。
授業の概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護における技法を学び習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	生活支援技術の演習(実技)に際しては課題に沿ってグループ毎に利用者・介護者双方の体験、グループディスカッションを行う。(全8回)
評価方法 及び評価基準	試験	試験50%、演習課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	演習終了後に提出するレポート課題については、添削してフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	実技の時は、授業開始前までに実技を行うのにふさわしい服装に着替え準備すること。積極的な取り組みを期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○		○	

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』中央法規	9784805857663
テキスト2	介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ』中央法規	9784805857670
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	テキスト6　第1章生活支援の理解第1節、第2節を読み生活支援の基本的な考え方について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業内で説明した実習室の使い方、授業の受け方、レポート提出方法について再度見直しを行い理解する。生活支援、ICF、自立の考え方について復習し理解を深める。(1時間)

2	自立に向けた居住環境の整備
事前	テキスト6 第2章居住環境の整備を読み,住まいの役割、安全に暮らすための生活環境のあり方について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業内で学んだ居住環境の整備のあり方を見直し、自分の暮らす住居の生活環境と比較検討を行い理解を深める。(1時間)

3	ベッドメーキング
事前	テキスト7　第5章第2節1休息・睡眠環境を整える(ベッドメーキング)2特殊寝台と付属用具を読み、介護用のベッドと付属用具について知るとともにベッドメーキングの意義、方法について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(ベッドメーキング)の作成に取り組み、ベッドメーキングの復習とともに自己評価を行う。(1時間)

4	臥床者のシーツ交換
事前	テキスト7　第5章第2節休息・睡眠環境を整える(ベッドメーキング)のうち、臥床者のシーツ交換の箇所を読み、介助のイメージおよび留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(臥床者のシーツ交換)の作成に取り組み、臥床者のシーツ交換の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

5	自立に向けた移動の介護　移動の意義　ベッド上の移動
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第1節自立した移動とはを読み、自立した移動の意義について理解する。(1時間)
事後	授業内容の復習をとおして、自立した移動とは何かについて理解を深めるとともに移動の介護における介護福祉職の役割を理解する。(1時間)

6	自立に向けた移動の介護　体位変換
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第1節1自立した移動とは、2自立した移動の一連の流れを読み、自立した移動とは何かについて自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で学んだボディメカニクスついて、実際に身体を動かし理解を深めるとともにボディメカニクスの動作を身につける。(1時間)

7	ベッド上の移動　水平移動
事前	前回の授業内で配付したプリントを読み、水平移動の介助についてイメージするとともに、介助の留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(移動の介護〔水平移動〕)の作成に取り組み、体位変換の介助の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

8	ベッド上の移動　体位変換
事前	前回の授業内で配付したプリントを読み、体位変換の介助についてイメージするとともに、介助の留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(移動の介護〔体位変換〕)の作成に取り組み、体位変換の介助の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

9	自立に向けた移乗の介護
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第2節1移動・移乗の基本的理解を読み、移乗の介護について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で説明した移乗介護の意義、留意点について理解を深める。(1時間)

10	自立に向けた歩行、車いすの介助
事前	テキスト6　第3章第2節4車いすの介助、6歩行の介助を読み、車いすと歩行の介助の留意点を自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で学んだ車いすの介助の留意点について理解を深める。片麻痺の利用者を想定し自立した歩行について、実際に歩行の動きを実践しながら理解を深める。(1時間)

11	移乗の介護　ベッド⇔車いす
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、利用者の状態像に合わせた移乗介護（ベッド⇔車いす）の方法についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（移乗の介助　ベッド⇔車いす）の作成に取り組み、移乗介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

12	歩行の介助　車いすの介助
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、歩行の介助、車いすの介助についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（歩行の介助・車いすの介助）の作成に取り組み、歩行の介助・車いすの介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

13	自立に向けた移動の介護（総括）
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第2節1、2、配付したプリントを再復習し、移動の介護について理解しておく。（1時間）
事後	授業で実施した利用者の状態・状況に応じた移動の介助について理解を深める。（1時間）

14	自立に向けた移動・移乗の介護（総括）
事前	配付したプリント(移動・移乗介護）を再復習し、移動・移乗の介護について理解しておく。（1時間）
事後	授業で実施した利用者の状態・状況に応じた移動・移乗の介護について復習し、介護の組み立て方や留意点について理解を深める。（1時間）

15	リフト・ストレッチャーを利用した移動の介助
事前	テキスト6　第3章第2節5移動・移乗のための道具・用具を読み、移動・移乗に用いられる道具・用具を知る。（1時間）
事後	配付したプリントを復習し、リフトやストレッチャーを利用した移動の介助の留意点について理解を深める。（1時間）

16	ベッド⇔ストレッチャー　ベッド⇔リフト
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、ベッド⇔ストレッチャー、ベッド⇔リフトの介助についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（ベッド⇔ストレッチャー　ベッド⇔リフト）の作成に取り組み、ベッド⇔ストレッチャー、ベッド⇔リフトの介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

17	環境整備、福祉用具の活用
事前	テキスト6　第4章福祉用具の意義　第1節生活支援における福祉用具の重要性を読み、福祉用具の活用の意義について自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ福祉用具の活用の意義、環境整備のあり方、福祉用具導入の視点について理解を深める。（1時間）

18	福祉用具を活用した移動・移乗介助
事前	テキスト6　第4章第2節福祉用具の種類を読み、福祉用具の分類と種類について知る。（1時間）
事後	授業レポート（福祉用具を活用した移動・移乗介助）の作成に取り組み、福祉用具活用の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

19	安楽な体位の工夫　安楽な体位の説明
事前	テキスト6　第3章第2節3安楽な姿勢・体位を保持する介助を読み、安楽な体位を保持する意義について自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ安楽な姿勢・体位を保持する意義と方法について理解を深める。（1時間）

20	安楽な体位の工夫　褥瘡予防
事前	講義で学んだ安楽な体位、褥瘡の知識を基にして、自分なりに安楽な体位と褥瘡予防の工夫について考えてくる。（1時間）
事後	授業レポート（安楽な体位の工夫・褥瘡予防）の作成に取り組み、安楽な体位と褥瘡予防の工夫の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

21	自立に向けた身じたくの介護　身じたくの意義と目的
事前	テキスト7　第1章自立に向けた身じたくの介護　第1節自立した身じたくとはを読み、身じたくの意義と目的について自分なりに理解するとともに身じたくを行う一連の流れについて考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ身じたくの意義と目的について理解を深める。（1時間）

22	楽しみと装いを支える身じたくの工夫
事前	テキスト7　第1章第1節3自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきことを読み、楽しみと装いを支える身じたくの工夫について自分なりに考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ楽しみと装いを支える身じたくの工夫について理解を深める。（1時間）

23	身じたくの介護　座位での着脱の介助
事前	テキスト7　第1章第2節3利用者の状態に応じた身じたくの介助（座位での着脱介助）を読みイメージする。片麻痺を想定して自力での着脱に取り組んでみる。（1時間）

事後	授業レポート（座位での着脱の介助）の作成に取り組み、座位での着脱の介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

24	身じたくの介護　臥位での着脱の介助
事前	テキスト7　第1章第2節3利用者の状態に応じた身じたくの介助（臥位での着脱介助）を読みイメージする。　（1時間）
事後	授業レポート（臥位での着脱の介助）の作成に取り組み、臥位での着脱の介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

25	自立に向けた食事の介護　食事の意義と目的
事前	テキスト7　第2章自立に向けた食事の介護第1節食事の意義と目的を読み自分なりに理解する。自立した食事の一連の流れについて考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ食事の意義と目的、自立した食事の一連の流れについて理解を深める。（1時間）

26	食事の姿勢　安全で的確な食事介助　口腔ケア
事前	テキスト7　第2章第2節自立に向けた食事の介護1食事の介助を行うにあたって、2介護の基本原則にのっとった食事の介護、5食後の口腔ケアを読み、安全で的確な食事介助のあり方と口腔ケアについて自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ食事の姿勢、安全で的確な食事介助のあり方、口腔ケアの意義について理解を深める。（1時間）

27	食事介助　自助具の活用
事前	テキスト7　第2章第2節自立に向けた食事の介護 3利用者の状態に応じた食事の介助、4誤嚥の予防のための支援を読み、食事介助のイメージをする。（1時間）
事後	授業レポート（食事の介助）の作成に取り組み、食事介助の復習とともに自己評価を行う。食事の自助具の活用について理解を深める。（1時間）

28	口腔ケア
事前	テキスト7　第2章第2節5食後の口腔ケアを読み、口腔ケアの方法についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（口腔ケア）の作成に取り組み、口腔ケアの復習とともに自己評価を行う。（1時間）

29	〔総括〕ベッド上の移動　衣服の着脱
事前	提示した課題（事例）に沿ってベッド上の移動と衣服の着脱の介助方法を検討し練習に取り組む。（1時間）
事後	授業で実施したベッド上の移動と衣服の着脱の介助方法の評価を基に振り返りを行い、自身の課題を明らかにする。（1時間）

30	〔総括〕ベッド→車いす　車いすの介助
事前	提示した課題（事例）に沿ってベッドから車いすと車いすの介助方法を検討し練習に取り組む。（1時間）
事後	授業で実施したベッドから車いす、車いすの介助方法の評価を基に振り返りを行い、自身の課題を明らかにする。（1時間）

2020/07/16(木)21:31

科 目 名	介護過程II/介護過程の展開I [介]			授業コード	1170112
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	事例検討、疾患・障害の理解、アセスメント、計画の立案、プレゼンテーション

到達目標	1.片麻痺・失語症がある高齢者および認知症高齢者の事例をとおして介護過程の意義を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解し、説明できる。 2.事例をとおして、対象者の状態や状況に応じたアセスメント、介護計画の立案ができる。 3.チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解し、説明できる。			
授業の概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程の基礎的理解をとおして、介護過程の展開、チームアプローチのあり方について理解を深める学習とする。片麻痺・失語症がある高齢者および認知症高齢者の事例に基づき介護過程を展開する能力を身につける。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・各自が取り組んだ疾病・障害の理解、アセスメント、計画立案についてグループ内で発表し、ディスカッションの上、グループ毎の見解をまとめる。 ・グループ毎にアセスメント、計画の立案についてプレゼンテーションを行い、全体でディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題レポート50%、課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	授業内において、課題、グループ討議の進捗状況を見ながらコメントをフィードバックする。提出された課題、レポートについては添削して返却する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な課題への取り組みとグループ討議への参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	介護福祉教育研究会『楽しく学ぶ介護過程』KUMI	9784788807228
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要の説明
事前	テキスト第4章介護過程を理解する Ⅰ介護過程とは何かを読んで介護過程の定義、目的について復習し理解しておく。(0.5時間)
事後	オリエンテーションで説明した内容を振り返り、授業の概要について理解を深める。(0.5時間)

2	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 事例と学習課題の提示
事前	テキスト第4章介護過程を理解する Ⅱ介護過程の構造と構成要素を読み、アセスメント、計画の立案、実施、評価の内容について理解する。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、脳血管障害について理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

3	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 障害疾病の理解(グループ討議)
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

4	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 アセスメント(グループ討議)
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 アセスメントに取り組む。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。(0.5時間)

5	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 介護目標と介護計画の立案(グループ討議)
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 介護目標と介護計画の立案に取り組む。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。(0.5時間)

6	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 発表準備(グループ討議)
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。(0.5時間)

7	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 アセスメント・介護計画の発表
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 発表原稿の作成および練習に取り組む。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。(0.5時間)

8	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 発表の講評とまとめ
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。(0.5時間)
事後	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間)

9	認知症高齢者の事例 事例と学習課題の提示
事前	片麻痺・失語症がある高齢者の事例 作成したレポートの内容を振り返り、介護過程の展開について理解を深め,次の事例に対する準備を行う。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、認知症について理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

10	認知症高齢者の事例 障害疾病の理解(グループ討議)
事前	認知症高齢者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)

事後	認知症高齢者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

11	認知症高齢者の事例　アセスメント(グループ討議)
事前	認知症高齢者の事例　アセスメントに取り組む。(0.5時間)
事後	認知症高齢者の事例　自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。(0.5時間)

12	認知症高齢者の事例　介護目標と介護計画の立案(グループ討議)
事前	認知症高齢者の事例　介護目標と介護計画の立案に取り組む。(0.5時間)
事後	認知症高齢者の事例　自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。(0.5時間)

13	認知症高齢者の事例　発表準備(グループ討議)
事前	認知症高齢者の事例　介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。(0.5時間)
事後	認知症高齢者の事例　グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。(0.5時間)

14	認知症高齢者の事例　アセスメント・介護計画の発表
事前	認知症高齢者の事例　発表原稿の作成および練習に取り組む。(0.5時間)
事後	認知症高齢者の事例　発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。(0.5時間)

15	認知症高齢者の事例　発表の講評とまとめ
事前	認知症高齢者の事例　各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。(0.5時間)
事後	認知症高齢者の事例　発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:43

科 目 名	介護過程III/介護過程の展開II [介]			授業コード	1170121
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	事例検討、疾患・障害の理解、アセスメント、計画の立案、プレゼンテーション

到達目標	1.脳性麻痺による四肢麻痺の障害者、リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例をとおして、介護過程の意義を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できる。 2.事例をとおして、対象者の状態や状況に応じたアセスメント、介護計画の立案ができる。 3.チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。			
授業の概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程の基礎的理解をとおして、介護過程の展開、チームアプローチのあり方について理解を深める学習とする。脳性麻痺による四肢麻痺の障害者、リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例に基づき介護過程を展開する能力を身につける。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・各自が取り組んだ疾病・障害の理解、アセスメント、計画立案についてグループ内で発表し、ディスカッションの上、グループ毎の見解をまとめる。 ・グループ毎にアセスメント、計画の立案についてプレゼンテーションを行い、全体でディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題レポート50%、課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	授業内において、課題、グループ討議の進捗状況を見ながらコメントをフィードバックする。提出された課題、レポートについては添削して返却する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な課題への取り組みとグループ討議への参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	介護福祉教育研究会『楽しく学ぶ介護過程』KUMI	9784788807228
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　事例と学習課題の提示
事前	テキスト第4章介護過程を理解する　Ⅱ介護過程の構造と構成要素を読み、アセスメント、計画の立案、実施、評価の内容について理解する。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、脳性麻痺について理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

2	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例①　障害疾病の理解(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

3	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例②　アセスメント(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　アセスメントに取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。(0.5時間)

4	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例③　介護目標と介護計画の立案(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　介護目標と介護計画の立案に取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。(0.5時間)

5	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例④　発表準備(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。(0.5時間)

6	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例⑤　アセスメント・介護計画の発表
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表原稿の作成および練習に取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。(0.5時間)

7	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例⑥　発表の講評とまとめ
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間)

8	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例①　事例と学習課題の提示
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　作成したレポートの内容を振り返り、介護過程の展開について理解を深め,次の事例に対する準備を行う。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、リウマチについて理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

9	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例②　障害疾病の理解(グループ討議)
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

10	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例③　アセスメント（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　アセスメントに取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。（0.5時間）

11	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例④　介護目標と介護計画の立案（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　介護目標と介護計画の立案に取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。（0.5時間）

12	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑤　発表準備（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。（0.5時間）

13	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑥　アセスメント・介護計画の発表
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表原稿の作成および練習に取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。（0.5時間）

14	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑦　発表の講評とまとめ
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間）

15	事例研究発表会
事前	テキスト第6章Ⅲ事例研究を読み、自分なりに事例研究の意義や方法、発表のあり方について理解しておく。（0.5時間）
事後	発表された事例研究の振り返りを行い、事例研究への意識づけを行う。（0.5時間）

2020/07/16(木)21:39

科 目 名	介護過程III/介護過程の展開II [介]			授業コード	1170131
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	事例検討、疾患・障害の理解、アセスメント、計画の立案、プレゼンテーション

到達目標	1.脳性麻痺による四肢麻痺の障害者、リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例をとおして、介護過程の意義を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できる。 2.事例をとおして、対象者の状態や状況に応じたアセスメント、介護計画の立案ができる。 3.チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。			
授業の概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程の基礎的理解をとおして、介護過程の展開、チームアプローチのあり方について理解を深める学習とする。脳性麻痺による四肢麻痺の障害者、リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例に基づき介護過程を展開する能力を身につける。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・各自が取り組んだ疾病・障害の理解、アセスメント、計画立案についてグループ内で発表し、ディスカッションの上、グループ毎の見解をまとめる。 ・グループ毎にアセスメント、計画の立案についてプレゼンテーションを行い、全体でディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題レポート50%、課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	授業内において、課題、グループ討議の進捗状況を見ながらコメントをフィードバックする。提出された課題、レポートについては添削して返却する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な課題への取り組みとグループ討議への参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	介護福祉教育研究会『楽しく学ぶ介護過程』KUMI	9784788807228
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　事例と学習課題の提示
事前	テキスト第4章介護過程を理解する　Ⅱ介護過程の構造と構成要素を読み、アセスメント、計画の立案、実施、評価の内容について理解する。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、脳性麻痺について理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

2	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例①　障害疾病の理解(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

3	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例②　アセスメント(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　アセスメントに取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。(0.5時間)

4	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例③　介護目標と介護計画の立案(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　介護目標と介護計画の立案に取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。(0.5時間)

5	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例④　発表準備(グループ討議)
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。(0.5時間)

6	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例⑤　アセスメント・介護計画の発表
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表原稿の作成および練習に取り組む。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。(0.5時間)

7	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例⑥　発表の講評とまとめ
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。(0.5時間)
事後	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間)

8	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例①　事例と学習課題の提示
事前	脳性麻痺による四肢麻痺の障害者の事例　作成したレポートの内容を振り返り、介護過程の展開について理解を深め,次の事例に対する準備を行う。(0.5時間)
事後	提示された事例を読み、全体像を把握し、リウマチについて理解するとともに押さえておくべきケースの疾患・障害、用語の整理を行う。(0.5時間)

9	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例②　障害疾病の理解(グループ討議)
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例について、押さえておくべき疾患・障害、用語について調べレポートにまとめる。(0.5時間)
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例における疾患・障害、用語について、自ら調べたものに、グループで発表されたものを加え、整理して理解を深める。(0.5時間)

10	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例③　アセスメント（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　アセスメントに取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　自ら取り組んだアセスメントとグループ内で発表、討議された内容を比較し、アセスメントの理解を深める。（0.5時間）

11	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例④　介護目標と介護計画の立案（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　介護目標と介護計画の立案に取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　自ら取り組んだ介護目標と介護計画とグループ内で発表、討議された内容を比較し、介護目標と介護計画の理解を深める。（0.5時間）

12	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑤　発表準備（グループ討議）
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　介護過程の展開についての発表をどのように行うか自分なりに考える。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　グループで行った発表準備の内容を振り返り、発表の方法について理解を深める。（0.5時間）

13	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑥　アセスメント・介護計画の発表
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表原稿の作成および練習に取り組む。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表の評価を行い、グループおよび個人の課題を明らかにする。（0.5時間）

14	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例⑦　発表の講評とまとめ
事前	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　各グループの発表資料を読み、自分のグループと他グループとの比較検討を行い、アセスメント、介護目標・介護計画の立案について再度考える。（0.5時間）
事後	リウマチがあり在宅で生活する高齢者の事例　発表の講評とまとめを聞き、介護過程の展開への理解を深めた上で改めてアセスメント、介護目標・介護計画の立案に取り組みレポートとしてまとめる。(0.5時間）

15	事例研究発表会
事前	テキスト第6章Ⅲ事例研究を読み、自分なりに事例研究の意義や方法、発表のあり方について理解しておく。（0.5時間）
事後	発表された事例研究の振り返りを行い、事例研究への意識づけを行う。（0.5時間）

2020/07/16(木)21:15

科 目 名	介護過程V/介護事例研究 [介]			授業コード	1170141
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関する キーワード	事例研究、研究テーマ、介護計画の根拠、文献収集、プレゼンテーション

到達目標	・事例研究の意義、目的、研究手法について学び、介護実践における事例研究の重要性を理解できる。 ・介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例から、テーマを選定した上で深く洞察し、実践した介護過程の妥当性について評価・考察することができる。 ・実践した介護過程を事例研究概要にまとめる学修を通して、自らの介護観を形成することができる。 ・作成した事例研究概要を効果的なプレゼンテーション手法を用いて、分かりやすく発表できる。			
授業の概要	介護過程Ⅰ～Ⅳ、および介護総合演習Ⅳの授業では、介護過程の基礎的理論と介護現場でよく遭遇する事例を取り上げ、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価まで展開する学修を行ってきた。介護過程Ⅴでは、介護実習Ⅱ−2で展開した受持ち利用者の介護過程について、これまで学んできた基礎的な介護の知識や技術を活用し、事例研究を行い、その成果を概要にまとめて発表する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・各自が実践した介護過程をグループ内で発表・説明し、その妥当性についてディスカッションを行う。 ・介護過程の成果について各自が概要にまとめた上で、グループ内でプレゼンテーションを行う。その上で決定したグループ代表が事例研究発表会にて発表し、全体で結果を共有しつつディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	事例研究概要作成（40%）、研究発表（30%）、授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を使用するため、授業の際必ず持参すること。 研究発表は、グループ別発表と全体発表を行う。全体発表では各グループの代表が発表する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III				○			
IV							
V						○	

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　授業概要とスケジュールの確認
事前	シラバスの内容を確認し、およその事例研究計画を立てること。(0.5時間)
事後	授業のスケジュールに沿って具体的な研究計画を立案した上で、収集すべき情報の入手方法について検討すること。(0.5時間)

2	介護実習II-2の振り返り　1)各自の事例報告
事前	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を読み直し、ポイントをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	事例報告の際に得られたコメント、および他の介護実践事例の報告から得たヒントをまとめた上で、自らの課題の所在を検討すること。(0.5時間)

3	介護実習II-2の振り返り　2)介護計画の妥当性の検討
事前	立案した計画の根拠について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	他学生の意見や介護計画の内容を参考にしつつ、別の介護計画の可能性の有無について再検討すること。(0.5時間)

4	介護実習II-2の振り返り　3)介護計画の妥当性の確認
事前	立案した介護計画が遂行できた要因、または遂行できなかった要因について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実践の結果について、自分なりに評価を行ってみること。(0.5時間)

5	事例研究計画の作成　テーマの選定
事前	自身の介護実践の内容から考えられる研究テーマの候補を考えておくこと。(0.5時間)
事後	選定したテーマに基づき、介護実践から得た情報を整理すること。(0.5時間)

6	事例の分析　文献収集
事前	介護実践から得た情報を解釈するにあたって、どのような文献が必要かについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	適切な文献を収集すること。(0.5時間)

7	事例の分析　文献の整理
事前	収集した文献のリストを作成し、各文献の内容を検討すること。(0.5時間)
事後	自らの介護実践について、文献から得た情報・知識を当てはめつつ解釈および評価を行うこと。(0.5時間)

8	事例研究概要作成の準備
事前	介護実践の評価の内容を説明できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に、自らの介護実践の評価を再検討すること。(0.5時間)

9	事例研究概要の作成　①概要の骨格
事前	事例研究概要の構成(タイトルと項目立て)について考えておくこと。(0.5時間)
事後	決められた論文フォーマットに沿って執筆を開始すること。(0.5時間)

10	事例研究概要の作成　②内容の吟味
事前	助言・意見を得たい個所をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	執筆中に疑問点や矛盾点が発生した際には、介護過程記録まで遡って確認するなどにより内容を吟味しながら進めること。(0.5時間)

11	事例研究概要の作成　③まとめと考察・評価
事前	まとめと考察・評価まで概要作成を進めること。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に事例研究概要を見直し、仕上げること。(0.5時間)

12	事例研究概要の提出　プレゼンテーションの準備　発表原稿の作成

事前	プレゼンテーションの準備、発表原稿の作成を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に発表原稿を見直すこと。(0.5時間)

13	事例研究発表　グループごとの発表
事前	プレゼンテーションの練習を行った上で、準備の最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見、および他学生の発表から得られた学びをまとめておくこと。(0.5時間)

14	事例研究発表会の準備
事前	自身が担当する役割を確認すること。(0.5時間)
事後	自身が担当する役割に沿って、事例研究発表会の準備を行うこと。(0.5時間)

15	事例研究発表会 （合同授業）
事前	事例研究発表会に当たって最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:00

科 目 名	介護総合演習II [介]			授業コード	1170152
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関するキーワード	介護実習Ⅰ－1振り返り 認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設、介護実習Ⅰ－2実習課題と目標

到達目標	1.介護実習Ⅰ－1を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。 2.多様な施設や事業所の役割とサービス提供の機能を理解し、説明できる。 3.多様な施設や事業所における利用者の生活のあり方を理解し、説明できる。 4.利用者の状況をふまえ、個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、説明できる。 5.介護実習Ⅰ－2に向けて、自己の実習課題と目標を明確にすることができる。			
授業の概要	介護実習Ⅰ－1を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にする。また、介護実習Ⅰ－2に向けて実習施設である認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設の理解を深め、実習課題と目標を明確にする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・介護実習Ⅰ－1実習報告のプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・実習施設について各自で調べた内容をグループ内で発表、共有する。
評価方法及び評価基準	レポート	発表30%、課題30%、事前準備状況20%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	課題や発表に対しては、授業内で解説を行いフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	

IV							
V	○						

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　介護実習Ⅰ－1の振り返り
事前	介護実習Ⅰ－1で作成した記録物を見直し、実習の振り返りを行っておく。(0.5時間)
事後	オリエンテーションで説明した授業の目的、内容について理解を深める。(0.5時間)

2	介護実習Ⅰ－1の実習後のまとめ
事前	介護実習Ⅰ－1の自己評価、反省を再度行っておく。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅰ－1実習報告会発表要旨をまとめる。(0.5時間)

3	介護実習Ⅰ－1の報告会
事前	介護実習Ⅰ－1実習報告会発表準備を行う。(0.5時間)
事後	他学生の発表から得られた情報を整理し、実習施設の理解を深める。(0.5時間)

4	介護実習Ⅰ－1の報告会と講評
事前	自身が行った発表について評価を行い、課題を明らかにする。(0.5時間)
事後	各発表についての講評から得られた情報を整理し、実習施設の理解を深めるとともに発表についての課題を明らかにする。(0.5時間)

5	介護実習Ⅰ－2のオリエンテーション
事前	介護実習要項P8介護実習全体の目標・目的の介護実習Ⅰ－2の箇所を読み、実習概要、到達目標、施設種別、実習日数、実習内容について自分なりに理解する。同P11～12介護実習の履修用件の介護実習Ⅰ－2の箇所を読み押さえておく。(0.5時間)
事後	再度、介護実習要項P8介護実習全体の目標・目的の介護実習Ⅰ－2の箇所を読むとともに授業での説明を振り返り、実習概要、到達目標、施設種別、実習日数、実習内容について理解を深める。介護実習Ⅰ－2の履修用件を押さえる。(0.5時間)

6	介護実習施設の理解(認知症対応型共同生活介護)
事前	認知症対応型共同生活介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして認知症対応型共同生活介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

7	介護実習施設の理解(小規模多機能型居宅介護)
事前	小規模多機能型居宅介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして小規模多機能型居宅介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

8	介護実習施設の理解(介護老人保健施設)
事前	介護老人保健施設の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして介護老人保健施設の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

9	介護実習Ⅰ－2の配属と担当教員の発表、実習Ⅰ－2の実習の目標の立て方
事前	実習施設(認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設)に応じた実習の目標について、介護実習要項(実習の到達目標)を参考に考える。(0.5時間)
事後	配属された実習施設の種別に応じて求められる実習の到達目標について理解を深める。(0.5時間)

10	実習課題と目標の設定
事前	自身の実習目標を立案する。(0.5時間)

事後	自身の実習目標を決定し、目標を達成するために必用となる取り組みについて考える。(0.5時間)

11	個人票の作成
事前	個人票の作成、下書きを完成させる。(0.5時間)
事後	個人票の作成、清書に取り組む。(0.5時間)

12	実習記録の種類、記入上の留意点
事前	介護実習Ⅰ－1で使用した記録一式を見直し、各記録において求められる内容を理解しておく。(0.5時間)
事後	授業で配付された記録一式を整理し、説明事項を復習し、各記録に求められる内容と要素について理解を深める。(0.5時間)

13	実習記録の書き方
事前	介護実習Ⅰ－1で作成した毎日の記録を読み直し、記録の評価を行い自身の課題をみつける。(0.5時間)
事後	授業で学んだ記録の書き方をふまえ、介護実習Ⅰ－1で作成した記録の書き直しを行う。(0.5時間)

14	場面の再構成の書き方
事前	介護実習要項P16～17(場面の再構成の書き方)と記入例を読み、自分なりに場面の再構成を書く意義、書き方について理解する。(0.5時間)
事後	授業で学んだ場面の再構成の書き方について復習し、理解を深める。(0.5時間)

15	実習に向けての諸注意 （反省会の持ち方、実習記録のまとめ方と提出、自己評価表の作成について等）
事前	実習ハンドブックを読み、実習関係書類、実習中・実習後の留意事項について確認しておく。(0.5時間)
事後	授業で説明を受けた諸注意を再度確認し、実習にあたっての準備を行う。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:27

科 目 名	介護総合演習II [介]			授業コード	1170161
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関するキーワード	介護実習Ⅰ－1振り返り 認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設、介護実習Ⅰ－2実習課題と目標

到達目標	1.介護実習Ⅰ－1を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。 2.多様な施設や事業所の役割とサービス提供の機能を理解し、説明できる。 3.多様な施設や事業所における利用者の生活のあり方を理解し、説明できる。 4.利用者の状況をふまえ、個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、説明できる。 5.介護実習Ⅰ－2に向けて、自己の実習課題と目標を明確にすることができる。			
授業の概要	介護実習Ⅰ－1を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にする。また、介護実習Ⅰ－2に向けて実習施設である認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設の理解を深め、実習課題と目標を明確にする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・介護実習Ⅰ－1実習報告のプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・実習施設について各自で調べた内容をグループ内で発表、共有する。
評価方法及び評価基準	レポート	発表30%、課題30%、事前準備状況20%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	課題や発表に対しては、授業内で解説を行いフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	

IV							
V	○						

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　介護実習Ⅰ－1の振り返り
事前	介護実習Ⅰ－1で作成した記録物を見直し、実習の振り返りを行っておく。(0.5時間)
事後	オリエンテーションで説明した授業の目的、内容について理解を深める。(0.5時間)

2	介護実習Ⅰ－1の実習後のまとめ
事前	介護実習Ⅰ－1の自己評価、反省を再度行っておく。(0.5時間)
事後	介護実習Ⅰ－1実習報告会発表要旨をまとめる。(0.5時間)

3	介護実習Ⅰ－1の報告会
事前	介護実習Ⅰ－1実習報告会発表準備を行う。(0.5時間)
事後	他学生の発表から得られた情報を整理し、実習施設の理解を深める。(0.5時間)

4	介護実習Ⅰ－1の報告会と講評
事前	自身が行った発表について評価を行い、課題を明らかにする。(0.5時間)
事後	各発表についての講評から得られた情報を整理し、実習施設の理解を深めるとともに発表についての課題を明らかにする。(0.5時間)

5	介護実習Ⅰ－2のオリエンテーション
事前	介護実習要項P8介護実習全体の目標・目的の介護実習Ⅰ－2の箇所を読み、実習概要、到達目標、施設種別、実習日数、実習内容について自分なりに理解する。同P11～12介護実習の履修用件の介護実習Ⅰ－2の箇所を読み押さえておく。(0.5時間)
事後	再度、介護実習要項P8介護実習全体の目標・目的の介護実習Ⅰ－2の箇所を読むとともに授業での説明を振り返り、実習概要、到達目標、施設種別、実習日数、実習内容について理解を深める。介護実習Ⅰ－2の履修用件を押さえる。(0.5時間)

6	介護実習施設の理解(認知症対応型共同生活介護)
事前	認知症対応型共同生活介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして認知症対応型共同生活介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

7	介護実習施設の理解(小規模多機能型居宅介護)
事前	小規模多機能型居宅介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして小規模多機能型居宅介護の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

8	介護実習施設の理解(介護老人保健施設)
事前	介護老人保健施設の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について調べてくる。(0.5時間)
事後	授業の復習をとおして介護老人保健施設の概要(設置の目的、施設・設備、職員構成、利用対象)、利用者の特徴、介護内容について理解を深める。(0.5時間)

9	介護実習Ⅰ－2の配属と担当教員の発表、実習Ⅰ－2の実習の目標の立て方
事前	実習施設(認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設)に応じた実習の目標について、介護実習要項(実習の到達目標)を参考に考える。(0.5時間)
事後	配属された実習施設の種別に応じて求められる実習の到達目標について理解を深める。(0.5時間)

10	実習課題と目標の設定
事前	自身の実習目標を立案する。(0.5時間)

事後	自身の実習目標を決定し、目標を達成するために必用となる取り組みについて考える。(0.5時間)

11	個人票の作成
事前	個人票の作成、下書きを完成させる。(0.5時間)
事後	個人票の作成、清書に取り組む。(0.5時間)

12	実習記録の種類、記入上の留意点
事前	介護実習Ⅰ－1で使用した記録一式を見直し、各記録において求められる内容を理解しておく。(0.5時間)
事後	授業で配付された記録一式を整理し、説明事項を復習し、各記録に求められる内容と要素について理解を深める。(0.5時間)

13	実習記録の書き方
事前	介護実習Ⅰ－1で作成した毎日の記録を読み直し、記録の評価を行い自身の課題をみつける。(0.5時間)
事後	授業で学んだ記録の書き方をふまえ、介護実習Ⅰ－1で作成した記録の書き直しを行う。(0.5時間)

14	場面の再構成の書き方
事前	介護実習要項P16～17(場面の再構成の書き方)と記入例を読み、自分なりに場面の再構成を書く意義、書き方について理解する。(0.5時間)
事後	授業で学んだ場面の再構成の書き方について復習し、理解を深める。(0.5時間)

15	実習に向けての諸注意 （反省会の持ち方、実習記録のまとめ方と提出、自己評価表の作成について等）
事前	実習ハンドブックを読み、実習関係書類、実習中・実習後の留意事項について確認しておく。(0.5時間)
事後	授業で説明を受けた諸注意を再度確認し、実習にあたっての準備を行う。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:14

科 目 名	認知症ケア論 [介]			授業コード	1170172
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				

科目に関するキーワード	認知症の原疾患、認知症の症状、認知症ケア、認知症の人のサポート体制、家族への支援
到達目標	1.認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解し、説明できる。 2.認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解するとともに、生活支援を行うための根拠となる知識を理解し、説明できる。 3.認知症の人の生活及び家族や社会への関わりへの影響を理解するとともに、その人の特性を踏まえたアセスメントをふまえ、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践について理解し、説明できる。 4.認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や制度、関連機関を知るとともに多職種連携・協働による支援について知識を理解し、説明できる。 5.認知症の人を支える家族の課題について理解するとともに、家族の受容や介護力に応じた支援について理解し、説明できる。
授業の概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。また、認知症の人に対するサポート体制、チームアプローチ、認知症に関する制度や関連機関について学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	試験	試験50%、リアクションペーパーおよび課題30%、授業態度20%をもって評価する。	
フィードバック	リアクションペーパー、課題や発表に対しては、授業内で解説を行いフィードバックする。		
履修に際しての注意事項	積極的な参加を期待する。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○	○				
III			○				
IV							

V							

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護福祉士養成講座13　認知症の理解』中央法規	9784805857731
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　認知症ケアの歴史や理念と社会的環境について
事前	テキスト　口絵の認知症ケアの過去と現在の写真と解説、第3章第1節認知症を取り巻く状況　これまで－今－これからを読み、認知症ケアの歴史についてイメージをふくらませておく。(2時間)
事後	授業内で説明した認知症ケアの歴史について整理して理解を深め、現在問題とされている状況について把握する。(2時間)

2	認知症の人の体験についての理解
事前	テキスト　第3章認知症の人の心理を読み、認知症の人が感じている世界観についてイメージをふくらませる。(2時間)
事後	授業で説明した認知症の人の体験している世界観について理解を深める。不安や喪失感等のこころの理解を深め、介護者としてどのようにかかわることが求められるのかを考える。(2時間)

3	認知症の原因となる疾病と診断
事前	テキスト　第2章第5節認知症の原因疾患と症状・生活障害、第4節認知症の診断と重症度を読み、認知症の原因疾患と診断の方法について知る。(2時間)
事後	授業で説明した認知症の原因疾患と症状、認知症の診断について理解を深める。診断にあたって注意すべきことを自分なりに考える。(2時間)

4	認知症の段階に応じた心身の変化と治療
事前	テキスト　第2章第6節認知症の治療薬、第7節認知症の予防を読み、認知症に用いられる治療薬および認知症の予防のあり方について自分なりに理解する。(2時間)
事後	授業で説明した認知症高齢者の生活自立度判定基準に沿って、認知症の進行に応じた特徴、支援の留意点等について整理して理解を深める。認知症の治療薬使用時の留意事項、予防のための支援について理解する。(2時間)

5	認知症の症状①(中核症状)
事前	テキスト　第2章第1節中核症状の理解を読み、中核症状とは何か、具体的な症状について理解しておく。(2時間)
事後	授業で説明した中核症状について実例に沿ってイメージを持ち理解できるようにする。(2時間)

6	認知症の症状②(BPSD)
事前	テキスト　第2章第3節BPSDの理解を読み、BPSDとは何かを理解し、主要なBPSDについて押さえておく。(2時間)
事後	授業で説明したBPSDの定義、要因、誘因を理解し、主要なBPSDについて実例に沿ってイメージを持ち理解できるようにする。(2時間)

7	認知症ケアの理念
事前	テキスト　第3章第2節認知症ケアの理念と視点を読み、認知症ケアの理念とは何かについて自分なりに理解する。(2時間)
事後	授業で説明した認知症ケアの理念について理解を深めるとともに、自身が認知症の人にかかわる際に大切にしていきたい理念を構築する。(2時間)

8	認知症の人のアセスメント
事前	テキスト　第4章大2節認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールを読み、認知症の人に対するアセスメントツールの種類について知る。(2時間)
事後	授業で学んだアセスメントの種類と方法について理解を深めるとともに、アセスメントをどのように実施していくのかについて考える。(2時間)

9	認知症の人への関わりの基本
事前	テキスト　第4章第1節パーソン・センタード・ケア、第5節認知症の人へのさまざまなアプローチを読み、認知症ケアのあり方について自分なりに理解する。(2時間)
事後	授業で学んだ認知症の人へのかかわりの基本について整理する。パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、バリデーションについて文献やインターネット検索をとおして理解を深める。(2時間)

10	認知症の人の進行に応じた介護
事前	テキスト　第4章第4節認知症の人へのケアを読み、日常生活上のケアのあり方について自分なりに理解する。　(2時間)

事後	授業で学んだ認知症の進行状態に応じた生活上のケアのあり方について理解を深める。(2時間)

11	認知症による困難事例の検討
事前	提示された事例について、自分なりに対応方法について考えてくる。テキスト　第4章第3節認知症の人とのコミュニケーションを読み、認知症の人に対するコミュニケーションのあり方について理解しておく。(2時間)
事後	授業で取り組んだ困難事例への対応について、振り返りを行い、適切なコミュニケーションや支援のあり方について理解を深める。(2時間)

12	認知症の人の地域におけるサポート体制
事前	テキスト　第6章第1節制度、サービス、機関、地域づくりを読み、認知症の人に対する地域におけるサポート体制についてイメージする。(2時間)
事後	授業で学んだ認知症の人に対する地域のサポート体制について理解を深め、自分自身が地域の一員として何ができるのかを考える。(2時間)

13	認知症の人に対する多職種連携・協働
事前	テキスト　第6章第2節多職種連携と協働を読み、認知症の人に対するチームケアのあり方について自分なりに理解する。(2時間)
事後	認知症の人にかかわる専門職について整理するとともに多職種間での連携・協働のあり方について理解を深める。(2時間)

14	認知症に対する施策、制度、関連機関
事前	テキスト　第6章第1節制度、サービス、機関の箇所を読むとともに、そこであげられている制度やサービス、機関についてインターネットで検索し知識を深める。(2時間)
事後	授業で学んだ認知症に対する施策、制度、関連機関について整理して理解するとともに、今後の認知症施策として何が求められるのかについて考える。(2時間)

15	認知症の人の家族への支援
事前	テキスト　第5章第1節家族への支援を読み、家族の心理を理解するとともに家族に対してどのような支援があるのかを知る。(2時間)
事後	授業で学んだ認知症の人を支える家族の心理と家族への支援のあり方について理解を深めるとともに介護福祉職への支援について考える。(2時間)

2020/07/16(木)22:31

科 目 名	介護実習Ⅰ－２ [介]			授業コード	1170203
副 題					
開講期	集中	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	竹田 幸司				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	自立支援、コミュニケーション、生活理解、情報収集、地域交流
到達目標	1.対象者個々の生活リズムや個性を把握し、本人主体の生活と自立支援のあり方を理解し、説明できる。 2.対象者の生活と地域との関わり方や、地域での生活を支える施設、事業所の役割について理解し、説明できる。 3.対象者とのコミュニケーション能力を高め、より良い支援関係を構築できる。 4.対象者個々のニーズに応じた生活支援技術を習得することができる。 5.多職種との協働の中で介護福祉士の役割を理解し、多職種連携やチームケアのあり方を理解し、説明できる。
授業の概要	高齢者や障害のある人が、慣れ親しんだ地域における様々な場において、どのような生活を送っているのかについて理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともにカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
授業方法	実習 / アクティブラーニング ○ / 各学生は、実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で翌日の実習に向けた新たな課題を設定し臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	― / 実習施設指導者からの「実習評価」と、教員の評価により総合的に評価する。 学習意欲、実習の取り組み姿勢、実習記録内容等から総合的に評価する。
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III		○	○				

IV							
V							

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1.認知症対応型共同生活介護 2.介護老人保健施設 3.小規模多機能型居宅介護 （1～3のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 12日間 [実習内容] 1.実習施設の役割と機能を理解する。 2.様々な利用者の生活像を理解する。 3.障害特性に応じたコミュニケーションを理解する。 4.対象者のニーズに応じた生活支援技術を理解する。 5.対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解する。 6.介護実践に必要な情報収集について理解する。 7.チームにおける多職種の役割と連携について理解する。 8.介護の理念、倫理について理解を深め自己の介護観を形成する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員・入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておくこと。 （実習期間） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。（0.5時間）
事後	（実習期間） その日の実習内容の記録、考察結果、翌日の課題等を実習日誌に記録し、指導者に提出すること。（0.5時間） （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、考察を含む全記録と提出物を指導者に提出し、指導を仰ぐこと。 次の段階の実習に向けての課題を明確にしておくこと。

2020/07/16(木)21:44

科 目 名	精神医学 [社]			授業コード	1180010
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	4
担 当 者	中川 正俊				

科目に関する キーワード	精神疾患，診断，治療

到達目標	・精神医学の概念やその特性を理解できる。 ・代表的な精神障害について，その成因，症状，診断法，治療法，経過などを理解できる。 ・精神科医療における専門治療の内容やその特性を理解できる。 ・精神保健福祉士が精神科チーム医療の一員として担うべき役割を理解できる。			
授業の概要	1．精神医学の概念，対象領域，方法論を理解し、精神障害の成因や分類について学習する。 2．面接法や各種検査法，精神症状を理解し，診断の手順や方法について学習する。 3．代表的な精神障害について，その疾患概念や成因，疫学，症状などを学習する。 4．精神医療でおこなわれる身体的療法や精神療法などの治療法を総合的に学習する。 5．病院精神医療と地域精神医療の現状や連携のあり方について理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパー（授業の要点整理や疑問点等の記述）を使用する。
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験（前期，後期）の結果で評価する。		
フィードバック	リアクションペーパーに記された疑問点については，事後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	プリント中心に授業をすすめるがテキストも持参すること。 授業のはじめに当日の授業概要や獲得目標を説明するため遅刻は厳禁である。 精神医療保健福祉領域の専門家の養成を目的とした科目であり，真剣な態度で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV						○	

V							

テキスト1	精神保健福祉士養成セミナー1 第6版　精神医学－精神疾患とその治療 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版	978-4-89269-831-6
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神医学の概念（精神医学医の定義，特色，領域）
事前	指定した教科書の19ページから22ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	精神医学の定義，特色，領域について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

2	精神医学の概念（精神障害の成因，分類）
事前	指定した教科書の22ページから25ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	精神障害の成因や分類について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

3	脳および神経の生理・解剖
事前	指定した教科書の9ページから18ページを読み，内容を理解しておくこと。
事後	脳および神経の生理・解剖について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

4	面接の手順と方法
事前	指定した教科書の27ページから35ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	面接の手順と方法について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

5	精神症状と状態像（客観症状と主観症状，思考の障害，記憶の障害）
事前	指定した教科書の35ページから39ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	客観症状と主観症状の違いおよび思考の障害，記憶の障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

6	精神症状と状態像（感情の障害，意欲の障害，自我機能の障害，意識の障害，知能の障害）
事前	指定した教科書の39ページから43ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	感情・意欲・自我機能・意識・知能の障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

7	身体検査と心理検査
事前	指定した教科書の43ページから57ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	身体検査と心理検査について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

8	認知症性疾患（概念，症状，診断，アルツハイマー型認知症，血管性認知症）
事前	指定した教科書の59ページから66ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	認知症の概念・診断・症状およびアルツハイマー型認知症，血管性認知症について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

9	認知症性疾患（レビー小体型認知症，前頭側頭型認知症,その他の認知症，軽度認知障害）
事前	指定した教科書の66ページから71ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）

事後	レビー小体型認知症，前頭側頭型認知症，軽度認知障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

10	精神作用物質による精神および行動の障害（依存性薬物，薬物に関連する用語，アルコール依存症候群）
事前	指定した教科書の71ページから82ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	依存性薬物，薬物に関連する用語，アルコール依存症候群について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

11	精神作用物質による精神および行動の障害（アルコール精神病，覚醒剤，大麻）
事前	指定した教科書の82ページから86ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	アルコール精神病，覚醒剤，大麻について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

12	統合失調症（概念，歴史，診断，疫学，原因，症状）
事前	指定した教科書の86ページから91ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	統合失調症の概念，歴史，診断，疫学，原因，症状について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

13	統合失調症（認知機能障害，特徴的行動特性，経過・予後，治療）
事前	指定した教科書の91ページから100ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	統合失調症の障害特性，経過・予後，治療について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

14	摂食障害
事前	指定した教科書の127ページから132ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	摂食障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

15	前期総括
事前	前期授業で配布したプリントを再読し，知識の整理をはかること。（学修時間1.5時間）
事後	前期授業で配布したプリントを基に復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

16	気分障害（概念，診断，成因，疫学）
事前	指定した教科書の100ページから108ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	気分障害の概念，診断，成因，疫学について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

17	気分障害（症状，経過・予後，治療・対応）
事前	指定した教科書の108ページから110ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	気分障害の症状，経過・予後，治療・対応について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

18	神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害（総論，恐怖症性不安障害，パニック障害，全般性不安障害，強迫性障害）
事前	指定した教科書の110ページから117ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）

事後	恐怖症性不安障害，パニック障害，全般性不安障害，強迫性障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

19	神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害（PTSD，解離性障害，身体表現性障害，治療）
事前	指定した教科書の117ページから127ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	PTSD，解離性障害，身体表現性障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

20	パーソナリティ障害
事前	指定した教科書の137ページから150ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	パーソナリティ障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

21	睡眠障害
事前	指定した教科書の132ページから136ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	睡眠障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

22	てんかん
事前	指定した教科書の173ページから186ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	てんかんについて，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

23	精神遅滞
事前	指定した教科書の150ページから155ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	精神遅滞について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

24	小児期および青年期の精神障害（学習障害，自閉スペクトラム症）
事前	指定した教科書の155ページから165ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	学習障害および自閉スペクトラム症について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

25	小児期および青年期の精神障害（多動性障害，素行障害，情緒障害，社会的機能の障害，チック障害）
事前	指定した教科書の165ページから173ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	多動性障害，素行障害，情緒障害，社会的機能の障害，チック障害について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

26	薬物療法（向精神薬の定義・歴史・種類，抗精神病薬，抗うつ薬）
事前	指定した教科書の187ページから198ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	抗精神病薬および抗うつ薬について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

27	薬物療法（気分安定薬，抗不安薬，抗てんかん薬，抗認知症薬），電気けいれん療法
事前	指定した教科書の198ページから205ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
	気分安定薬，抗不安薬，抗てんかん薬，抗認知症薬，電気けいれん療法について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識

事後	の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

28	精神療法
事前	指定した教科書の205ページから214ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	精神療法について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

29	病院精神医療
事前	指定した教科書の231ページから314ページを読み，内容を理解しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	病院精神医療について，配布プリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

30	後期総括
事前	後期授業で配布したプリントを再読し，知識の整理をはかること。（学修時間1.5時間）
事後	後期授業で配布したプリントを基に復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)21:28

科 目 名	精神科リハビリテーション学I [社]			授業コード	1180032
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	中川 正俊				

科目に関する キーワード	リカバリー，精神障害の特性，障害構造，多職種協働，職業リハビリテーション

到達目標	・精神科リハビリテーションの概念と構成が理解できる。 ・精神障害の特性理解に基づく効果的なリハビリテーションのあり方を理解できる。 ・精神科リハビリテーションのケアチームの一員として，精神保健福祉士の役割を理解し知識を活用できる。 ・精神障害のある人のリカバリーを促進するために有効な職業リハビリテーションの方法論や技法を理解できる。			
授業の概要	1. 精神科リハビリテーションの基本理念や概念を学習する。 2. 精神科リハビリテーションの構成やプロセスについて学習する。 3. 精神科リハビリテーションにおける連携やケアチームのあり方を学習する。 4. 病院における精神科リハビリテーションについて学習する。 5. 精神障害のある人の職業リハビリテーションの理念，制度，資源，技法を学習する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	実践課題についてディスカッションを行うとともに，リアクションペーパー（授業の要点整理や疑問点等の記述）を使用する。
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験の結果（90点）に授業内の発言やリアクションペーパーの内容（10点）を加点して評価する。		
フィードバック	リアクションペーパーに記された疑問点については，事後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	授業の理解や進行上，「精神医学」を履修していることが望ましい。 ディスカッションを重視した双方向の授業を行うため，授業内での積極的な発言を期待する。 精神医療保健福祉領域の専門家の養成を目的とした科目であり，真剣な態度で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新・精神保健福祉士養成講座4精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ第2版 中央法規出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	リハビリテーションの歴史，理念，概念
事前	「リハビリテーション」の語句の意味について参考文献その他で下調べを行なうこと。
事後	「リハビリテーション」の概略および関連するキーワードについて復習し，知識の定着を図ること。

2	精神科リハビリテーションの概念（定義，概念，歴史）
事前	配布プリントの精神科リハビリテーションの概念（定義，概念，歴史）の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に精神科リハビリテーションの概念（定義，概念，歴史）について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

3	精神科リハビリテーションの概念（福祉・医療との差異，精神障害の特性）
事前	配布プリントの精神科リハビリテーションの概念（福祉・医療との差異，精神障害の特性）の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に精神科リハビリテーションの概念（福祉・医療との差異，精神障害の特性）について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

4	精神科リハビリテーションの基本原則
事前	配布プリントの精神科リハビリテーションの原則の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に精神科リハビリテーションの原則について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

5	対象としての精神障害と障害構造論
事前	配布プリントの対象としての障害と障害構造論の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に対象としての障害と障害構造論について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

6	基本的アプローチと方法，精神科リハビリテーションモデル
事前	配布プリントの基本的アプローチ，精神科リハビリテーションモデルの部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に基本的アプローチ，精神科リハビリテーションモデルについて復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

7	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割，精神科リハビリテーションにおける専門職の連携
事前	配布プリントの精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割および専門職の連携の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割および専門職の連携について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

8	精神科リハビリテーションのプロセス
事前	配布プリントの精神科リハビリテーションのプロセスの部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）

事後	配布プリントを基に精神科リハビリテーションのプロセスについて復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

9	病院におけるリハビリテーション
事前	配布プリントの病院におけるリハビリテーションの部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に病院におけるリハビリテーションについて復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

10	デイケア，ナイトケア
事前	配布プリントのデイケア，ナイトケアの部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基にデイケア，ナイトケアについて復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

11	地域資源と精神科リハビリテーション
事前	配布プリントの地域資源と精神科リハビリテーションの部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に地域資源と精神科リハビリテーションについて復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

12	職業リハビリテーション（定義，関連用語，原則，機関・制度）
事前	配布プリントの職業リハビリテーション（定義，関連用語，原則，機関・制度）の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に職業リハビリテーション（定義，関連用語，原則，機関・制度）について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

13	職業リハビリテーション（職業上の障害特性，就労支援方法，統計）
事前	配布プリントの職業リハビリテーション（職業上の障害特性，就労支援方法，統計）の部分を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に職業リハビリテーション（職業上の障害特性，就労支援方法，統計）について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

14	事例検討
事前	配布プリントの「リカバリーが促進した事例よりその方略を考える」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	リカバリー促進の具体的方略について提示の事例を基に復習をおこなうこと。（学修時間2.5時間）

15	総括
事前	授業内で配布したプリントを再読し知識の整理を図ること。（学修時間1.5時間）
事後	授業内で配布したプリントを基に十分な復習を行い，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)21:49

科 目 名	高齢者福祉論I [社]			授業コード	1190011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	少子高齢社会、医療、介護、福祉の連携、統合ケア、地域共生、地域包括支援センター、地域包括ケアシステム、

到達目標	急速に高齢化が進行するわが国の状況、高齢者の生活実態と高齢者を取り巻く社会情勢を理解するとともに、介護保険制度など高齢者福祉の仕組みを把握できる。また、それに対応する社会的支援策等の歴史、現状を学び、福祉専門職として援助に際する基本的視点及び具体的な支援方法や専門知識を習得できる。			
授業の概要	①高齢者の身体的・精神的・社会的特性、②少子高齢化の現状と課題、③老人福祉法、介護保険法などの高齢者福祉制度、④高齢者支援に係るサービス、⑤高齢者支援のあり方、などについて基礎的な学修をする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時間内に提出するリアクションペーパー20%、授業中の課題や諸活動への取組の状況10%、期末レポートの結果70%による総合判定で行う。		
フィードバック	提出されたリアクションペーパー内の問題の解説をおこなう。			
履修に際しての 注意事項	やむを得ない事由以外の遅刻、欠席は避けること。私語厳禁。授業中の携帯電話の使用厳禁。積極的な授業への参加が望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○	○				

テキスト1	新 社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」 中央法規出版 2020	9784805858073
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	毎回の授業時に提示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	高齢社会と高齢者・家族の生活実態
事前	教科書を読み、高齢社会と高齢者・家族の生活実態を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

2	高齢者の社会的特性
事前	教科書を読み、高齢者の社会的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

3	高齢者の精神的特性
事前	教科書を読み、高齢者の精神的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

4	高齢者の身体的特性
事前	教科書を読み、高齢者の身体的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

5	少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題
事前	教科書を読み、少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

6	老人福祉法、高齢者福祉制度の発展過程
事前	教科書を読み、老人福祉法、高齢者福祉制度の発展過程を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

7	介護保険制度の基本的枠組み、介護の概念や対象、介護予防
事前	教科書を読み、介護保険制度の基本的枠組み、介護の概念や対象、介護予防を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

8	介護保険制度創設の背景と目的、介護保険法
事前	教科書を読み、介護保険制度創設の背景と目的、介護保険法を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

9	要介護認定と保険給付
事前	教科書を読み、要介護認定と保険給付を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

10	介護保険サービス
事前	教科書を読み、介護保険サービスを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

11	介護保険制度に係る専門職と支援のあり方、組織及び団体の役割、ネットワーキング
事前	教科書を読み、介護保険制度に係る専門職と支援のあり方、組織及び団体の役割、ネットワーキングを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

12	要介護高齢者に対する相談援助、高齢者の移動の円滑化、居住の安定確保
事前	教科書を読み、要介護高齢者に対する相談援助、高齢者の移動の円滑化、居住の安定確保を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

13	高齢者虐待防止法および成年後見制度

事前	教科書を読み、高齢者虐待防止法および成年後見制度を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

14	高齢者に対する地域包括ケアシステム
事前	教科書を読み、地域包括ケアシステムを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

15	地域共生社会の実現
事前	教科書を読み、地域共生社会を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

2020/07/16(木)21:24

科 目 名	高齢者福祉論I [心]			授業コード	1190021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	少子高齢社会、医療、介護、福祉の連携、統合ケア、地域共生、地域包括支援センター、地域包括ケアシステム、

到達目標	急速に高齢化が進行するわが国の状況、高齢者の生活実態と高齢者を取り巻く社会情勢を理解するとともに、介護保険制度など高齢者福祉の仕組みを把握する。また、それに対応する社会的支援策等の歴史、現状を学び、福祉専門職として援助に際する基本的視点及び具体的な支援方法や専門知識を習得する。			
授業の概要	①高齢者の身体的・精神的・社会的特性、②少子高齢化の現状と課題、③老人福祉法、介護保険法などの高齢者福祉制度、④高齢者支援に係るサービス、⑤高齢者支援のあり方、などについて基礎的な学修をする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時間内に提出するリアクションペーパー20%、授業中の課題や諸活動への取組の状況10%、期末レポートの結果70%による総合判定で行う。		
フィードバック	提出されたリアクションペーパー内の問題の解説をおこなう。			
履修に際しての 注意事項	やむを得ない事由以外の遅刻、欠席は避けること。私語厳禁。授業中の携帯電話の使用厳禁。積極的な授業への参加が望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○	○				

テキスト1	新 社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」 中央法規出版 2020	978-4-8058-5807-3
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	毎回の授業時に提示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	高齢社会と高齢者・家族の生活実態
事前	教科書を読み、高齢社会と高齢者・家族の生活実態を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

2	高齢者の社会的特性
事前	教科書を読み、高齢者の社会的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

3	高齢者の精神的特性
事前	教科書を読み、高齢者の精神的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

4	高齢者の身体的特性
事前	教科書を読み、高齢者の身体的特性を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

5	少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題
事前	教科書を読み、少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

6	老人福祉法、高齢者福祉制度の発展過程
事前	教科書を読み、老人福祉法、高齢者福祉制度の発展過程を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

7	介護保険制度の基本的枠組み、介護の概念や対象、介護予防
事前	教科書を読み、介護保険制度の基本的枠組み、介護の概念や対象、介護予防を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

8	介護保険制度創設の背景と目的、介護保険法
事前	教科書を読み、介護保険制度創設の背景と目的、介護保険法を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

9	要介護認定と保険給付
事前	教科書を読み、要介護認定と保険給付を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

10	介護保険サービス
事前	教科書を読み、介護保険サービスを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

11	介護保険制度に係る専門職と支援のあり方、組織及び団体の役割、ネットワーキング
事前	教科書を読み、介護保険制度に係る専門職と支援のあり方、組織及び団体の役割、ネットワーキングを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

12	要介護高齢者に対する相談援助、高齢者の移動の円滑化、居住の安定確保
事前	教科書を読み、要介護高齢者に対する相談援助、高齢者の移動の円滑化、居住の安定確保を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

13	高齢者虐待防止法および成年後見制度

事前	教科書を読み、高齢者虐待防止法および成年後見制度を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

14	高齢者に対する地域包括ケアシステム
事前	教科書を読み、地域包括ケアシステムを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

15	地域共生社会の実現
事前	教科書を読み、地域共生社会を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと配布されたリアクションペーパの作成ならびに質問への解答。(150分)

2020/07/16(木)20:23

科 目 名	公的扶助論/公的扶助論I [社心]			授業コード	1190032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	貧困、格差社会、社会的排除、生活保護ソーシャルワーク

到達目標	生活保護制度の原理原則を学び、実際の運用における問題点を理解することにより、生活保護制度の本来の役割について説明するとともに、多様な生活課題を抱えた人々との意思疎通に積極的に活用できるようになる。			
授業の概要	我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を、福祉事務所のケースワーク実践を踏まえて理解する。また、生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時間中に提出するリアクションペーパー20%、授業中の課題や諸活動への取組の状況10%、期末レポートの結果70%、による総合判定で行う。		
フィードバック	提出されたリアクションペーパー内の問題の解説をおこなう。			
履修に際しての 注意事項	私語厳禁。やむを得ない事由以外の遅刻、欠席は避けること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○	○				

テキスト1	新・社会福祉士養成講座　低所得者に対する支援と生活保護制度　中央法規出版2020	9784805858103
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時間内に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション。 本講義の概要、貧困の概念について説明する。
事前	教科書を読み、貧困とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2	・貧困・低所得者問題 見える貧困と見えない貧困および絶対的貧困と相対的貧困を理解する。 貧困の基準や最低生活費の考え方を学び、貧困の定義と実態および貧困がもたらす問題について理解する。
事前	教科書を読み、貧困・低所得者問とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

3	・公的扶助の歴史I イギリスにおける公的扶助制度の歴史。 イギリス公的扶助の変遷の歴史を、各時代の社会的背景等を踏まえて理解する。
事前	教科書を読み、イギリスにおける公的扶助制度の歴史を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

4	・公的扶助の歴史II 日本における公的扶助制度の歴史。 明治維新後の恤救規則、救護法、戦後の旧生活保護法、生活保護法の公的扶助制度の変遷を制度成立の社会的背景を踏まえて理解する。 旧生活保護法の欠格条項について理解する。
事前	教科書を読み、日本における公的扶助制度の歴史を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

5	・低所得者層の生活実態 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学ぶ
事前	教科書を読み、低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

6	・公的扶助のしくみ 社会保険と公的扶助の基本的な違いを理解する。 公的扶助の基本的な枠組みと方法について理解する。 レポートを課す。
事前	教科書を読み、公的扶助のしくみを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

7	・生活保護制度I 生活保護制度の基本原理と実施の原則。 これらの原理原則がどのような形で制度の運用に反映されているのか、事例を通して理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度の基本原理と実施の原則を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

8	・生活保護制度II 生活保護の種類、範囲、方法について理解する。

事前	教科書を読み、生活保護の種類、範囲、方法について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

9	・生活保護制度Ⅲ 最低生活費の体系について理解する。 生活保護基準の算定方式の変遷を理解し、実際に事例を用いて最低生活費の計算を行う。
事前	教科書を読み、最低生活費の体系、生活保護基準の算定方式の変遷を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

10	・生活保護制度Ⅳ 収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。 小テスト（最低生活費の基準額および保護費の程度の計算）
事前	教科書を読み、収入認定および各種控除の考え方についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

11	・福祉事務所の業務と組織 法定受託事務と自治事務。生活保護制度の実施体制と福祉事務所の役割、組織について理解する。
事前	教科書を読み、福祉事務所の業務と組織を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

12	・生活保護制度運用の実態について 生活保護ケースワークに関連したビデオを視聴し、生活保護制度運用の実態について考える。
事前	教科書を読み、生活保護制度運用の実態についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

13	・生活保護制度における専門職の役割 現業員および査察指導員の役割と実際の業務について学ぶ
事前	教科書を読み、生活保護制度における専門職の役割を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

14	・生活保護における相談援助活動 生活保護制度における「自立」について考える。 生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働について事例を通して理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度における「自立」についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

15	・まとめ
事前	教科書を読み、全体を振りかえるための事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2020/07/16(木)20:26

科 目 名	公的扶助論/公的扶助論I [介心]			授業コード	1190042
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	貧困、格差社会、社会的排除、生活保護ソーシャルワーク

到達目標	生活保護制度の原理原則を学び、実際の運用における問題点を理解することにより、生活保護制度の本来の役割について説明するとともに、多様な生活課題を抱えた人々との意思疎通に積極的に活用できるようになる。			
授業の概要	我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を、福祉事務所のケースワーク実践を踏まえて理解する。また、生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時間中に提出するリアクションペーパー20%、授業中の課題や諸活動への取組の状況10%、期末レポートの結果70%、による総合判定で行う。		
フィードバック	提出されたリアクションペーパー内の問題の解説をおこなう。			
履修に際しての 注意事項	私語厳禁。やむを得ない事由以外の遅刻、欠席は避けること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○	○				

テキスト1	新・社会福祉士養成講座　低所得者に対する支援と生活保護制度　中央法規出版2020	9784805858103
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時間内に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション。 本講義の概要、貧困の概念について説明する。
事前	教科書を読み、貧困とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2	・貧困・低所得者問題 見える貧困と見えない貧困および絶対的貧困と相対的貧困を理解する。 貧困の基準や最低生活費の考え方を学び、貧困の定義と実態および貧困がもたらす問題について理解する。
事前	教科書を読み、貧困・低所得者問とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

3	・公的扶助の歴史I イギリスにおける公的扶助制度の歴史。 イギリス公的扶助の変遷の歴史を、各時代の社会的背景等を踏まえて理解する。
事前	教科書を読み、イギリスにおける公的扶助制度の歴史を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

4	・公的扶助の歴史II 日本における公的扶助制度の歴史。 明治維新後の恤救規則、救護法、戦後の旧生活保護法、生活保護法の公的扶助制度の変遷を制度成立の社会的背景を踏まえて理解する。 旧生活保護法の欠格条項について理解する。
事前	教科書を読み、日本における公的扶助制度の歴史を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

5	・低所得者層の生活実態 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学ぶ
事前	教科書を読み、低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

6	・公的扶助のしくみ 社会保険と公的扶助の基本的な違いを理解する。 公的扶助の基本的な枠組みと方法について理解する。 レポートを課す。
事前	教科書を読み、公的扶助のしくみを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

7	・生活保護制度I 生活保護制度の基本原理と実施の原則。 これらの原理原則がどのような形で制度の運用に反映されているのか、事例を通して理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度の基本原理と実施の原則を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

8	・生活保護制度II 生活保護の種類、範囲、方法について理解する。

事前	教科書を読み、生活保護の種類、範囲、方法について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

9	・生活保護制度Ⅲ 最低生活費の体系について理解する。 生活保護基準の算定方式の変遷を理解し、実際に事例を用いて最低生活費の計算を行う。
事前	教科書を読み、最低生活費の体系、生活保護基準の算定方式の変遷を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

10	・生活保護制度Ⅳ 収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。 小テスト（最低生活費の基準額および保護費の程度の計算）
事前	教科書を読み、収入認定および各種控除の考え方についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

11	・福祉事務所の業務と組織 法定受託事務と自治事務。生活保護制度の実施体制と福祉事務所の役割、組織について理解する。
事前	教科書を読み、福祉事務所の業務と組織を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

12	・生活保護制度運用の実態について 生活保護ケースワークに関連したビデオを視聴し、生活保護制度運用の実態について考える。
事前	教科書を読み、生活保護制度運用の実態についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

13	・生活保護制度における専門職の役割 現業員および査察指導員の役割と実際の業務について学ぶ
事前	教科書を読み、生活保護制度における専門職の役割を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

14	・生活保護における相談援助活動 生活保護制度における「自立」について考える。 生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働について事例を通して理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度における「自立」についてを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

15	・まとめ
事前	教科書を読み、全体を振りかえるための事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2020/07/16(木)21:39

科 目 名	公的扶助論II/公的扶助論詳説 [社介心]			授業コード	1190052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	貧困、格差社会、社会的排除、生活保護ソーシャルワーク

到達目標	生活保護制度の原理原則を学び、実際の運用における問題点を理解することにより、生活保護制度の本来の役割について説明することができるようになる。低所得者に対する自立支援の考え方について説明できるようになる。支援対象者の個人の問題解決に対する能力を高め、主体的に取り組むことをサポートできるようになる。			
授業の概要	我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を、福祉事務所のケースワーク実践を踏まえて理解する。また、低所得者に対する就労支援をはじめとする自立支援の考え方や住宅施策について学ぶ。生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時間内に提出するリアクションペーパー20%、授業中の課題や諸活動への取組の状況10%、期末レポートの結果70%による総合判定で行う。		
フィードバック	提出されたリアクションペーパー内の問題の解答ならびに解説をおこなう。			
履修に際しての 注意事項	やむを得ない事由以外の遅刻、欠席は避けること。私語厳禁。授業中の携帯電話の使用厳禁。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○	○				

テキスト1	一年次で購入した、新・社会福祉士養成講座　低所得者に対する支援と生活保護制度 中央法規出版2019　レジュメを用意する	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時間内に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション。 本講義の概要、貧困の概念について説明する。
事前	教科書を読み、貧困とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2	・貧困・低所得者問題 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。
事前	教科書を読み、貧困問題・低所得問題とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

3	・生活保護制度の概要Ⅰ 生活保護の原理、原則。
事前	教科書を読み、生活保護の原理・原則とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

4	・生活保護制度の概要Ⅱ 生活保護の種類について理解する。
事前	教科書を読み生活保護基準とは何かを事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

5	・生活保護制度の概要Ⅲ 最低生活費の体系について理解する。 生活保護基準の算定方式の変遷を理解し、実際に事例を用いて最低生活費の計算を行う。
事前	教科書を読み、最低生活費の体系、生活保護基準の算定方式の変遷を理解する。
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

6	・生活保護制度の概要Ⅳ 収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。 小テスト（最低生活費の基準額および保護費の程度の計算）
事前	教科書を読み、収入認定および各種控除の考え方について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

7	・生活保護制度における組織及び団体の役割 国、都道府県、市町村、ハローワークの役割について理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度における国、都道府県、市町村、ハローワークの役割について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

8	・生活保護制度における専門職の役割と実際 現業員の役割、査察指導員の役割
事前	教科書を読み、専門職の役割と実際について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

9	・低所得者に対する就労支援 労働市場の現状について理解する。
事前	教科書を読み、低所得者に対する就労支援について事前学習する。(90分)

事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

10	・生活保護受給者に対する就労支援 ワークフェアの考え方と自立支援プログラムについて理解する。
事前	教科書を読み、就労支援・ワークフェアの考え方と自立支援プログラムについて事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

11	・ホームレス対策 ホームレス自立支援法や東京都などの大都市における取組について理解する。
事前	教科書を読み、ホームレス自立支援法や東京都などの大都市における取組について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

12	生活福祉資金の概要、生活困窮者自立支援法、子供の貧困対策法について理解する。
事前	教科書を読み、生活福祉資金の概要、生活困窮者自立支援法、子供の貧困対策法について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

13	・生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際 保健医療、労働施策などとの連携について理解する。
事前	教科書を読み、多職種連携、ネットワーキングと実際について事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

14	・生活保護における相談援助活動 生活保護制度における「自立」について考える。 生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働について事例を通して理解する。
事前	教科書を読み、生活保護制度における「自立、生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働についての事例を事前学習する。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

15	・まとめ
事前	教科書を読み返して、これまでの授業全体を振り返る。(90分)
事後	レジュメ、教科書による振り返りと提供されたリアクションペーパの作成ならびに問題への解答。(150分)

2020/07/16(木)10:43

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [社]			授業コード	1190061
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:51

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1190070
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:28

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1190083
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	長友 祐三				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:03

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1190090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	理解力、分析力、研究方法、調査方法

到達目標	社会福祉の今日的課題を様々な文献や各種統計資料を使用し探求することで、科学的根拠に基づく理解力や分析力を身につけることができる。 それぞれの問題意識に基づいた関心あるテーマを卒論の研究課題として設定していくための作業に、演習やフィールドワーク等をとおして取り組み、研究方法、調査方法について身につけることができる。また、卒論テーマに関連する福祉施設・機関などの見学や実習をおこなうことで社会福祉士としての実践を身につけることができる。			
授業の概要	個々の学生が研究分野として興味を持ったものについて広く取り上げていく。学生の発表を中心に授業を進めるが、福祉事務所などの現場の実態も交えた講義を適宜加えていく。貧困問題、公的扶助、生活保護制度の研究として、福祉事務所を中心に展開される貧困・低所得世帯の抱える様々な生活問題の解決に向けたソーシャルワーク実践のあり方とその実践活動に必要なソーシャルワークの方法、技術に関して学ぶ。さらに、公務員や公的な役割を担う法人への就職を目指す学生に対する支援も行っていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッションを中心とした授業であり、企画から運営まで、学生が主体となって授業を進めていく。
評価方法 及び評価基準	期末のレポートと期間中、3回程度小レポートを提出	授業中への課題への取り組み状況（50%）、報告会の発表内容（50%）による総合判定		
フィードバック	提出されたリアクションペーパ、レポートはコメントを付して返還する			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加と各自、積極的な発言を行うこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV		○					

V		○		○			

テキスト1	適宜、授業中に紹介	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜　必要に応じて紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回～14回　各人調べてきたテーマの発表を行い、その後グループディスカッションを行う。 第15回　まとめ 第16回～29回　各人調べてきたテーマの発表を行い、その後グループディスカッションを行う。 第30回　まとめ
事前	学生が取り上げる毎回のテーマについて、それぞれ90分程度事前に学習をしておく。
事後	グループディスカッション、フィールドワークなどで学んだソーシャルワークの知識、技術、価値などの専門性について、毎回150分程度振り返ることで確実なものとする。

2020/07/16(木)22:23

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1190100
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	理解力、分析力、研究方法、調査方法

到達目標	社会福祉の今日的課題を様々な文献や各種統計資料を使用し探求することで、科学的根拠に基づく理解力や分析力を身につけることができる。 それぞれの問題意識に基づいた関心あるテーマを卒論の研究課題として設定していくための作業に、演習やフィールドワーク等をとおして取り組み、研究方法、調査方法について身につけることができる。また、卒論テーマに関連する福祉施設・機関などの見学や実習をおこなうことで社会福祉士としての実践を身につけることができる。			
授業の概要	研究計画書の作成方法を学びながら、ゼミナールⅠで設定した研究テーマに基づき、先行研究調査の分析・まとめと必要に応じて調査を実施rする。研究成果を発表し、これについて全員で議論をしながら、卒業論文、ゼミ論文の執筆を進める。 さらに、公務員や公的な役割を担う法人への就職を目指す学生に対する支援も行っていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッションを中心とした授業であり、企画から運営まで、学生が主体となって授業を進めていく。
評価方法 及び評価基準	期末のレポートと期間中、3回程度小レポートを提出	授業中への課題への取り組み状況（50%）、報告会の発表内容（50%）による総合判定		
フィードバック	提出されたリアクションペーパ、レポートはコメントを付して返還する			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加と各自、積極的な発言を行うこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV		○					

V		○		○			

テキスト1	適宜、授業中に紹介	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜　必要に応じて紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回～14回　「テキスト」を読み、各人が分担してレポート発表を行う。 第15回　まとめ 第16回　研究の方法について説明 第17回～18回　テーマの検討 第19回～27回　研究と進捗状況の発表、確認 第28回～29回　研究の発表 第30回　まとめ
事前	学生が取り上げる毎回のテーマについて、それぞれ90分程度事前に学習をしておく。
事後	グループディスカッション、フィールドワークなどで学んだソーシャルワークの知識、技術、価値などの専門性について、毎回150分程度振り返ることで確実なものとする。

2020/07/16(木)21:43

科 目 名	公務員養成講座I [社]			授業コード	1190121
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	福祉職公務員、福祉行政、社会福祉主事
到達目標	福祉職公務員として実践に必要な、価値、知識、技術、方法を習得することを通して、様々な課題をもつ生活困難者を支援する福祉専門家になることができる。 地方自治体における公務員採用試験に合格できる。
授業の概要	学生の進路の一つとして、地方自治体における福祉職公務員に就くことがあげられる。福祉職公務員として、働くためには、福祉専門職としての十分な知識と技術が備わること、さらには住民全体の福祉の向上を目指すための奉仕者であるという理念、価値を備えることが必要である。 本講座では、福祉公務員を志望する学生を中心に、行政福祉の現場実態や福祉事務所を中心とした行政福祉の課題についても理解を深める。将来、福祉職公務員として課題の多い行政福祉の解決に向けた取り組みに従事できる十分なスキルを兼ね備えた専門家を育成していくことをめざす。 内容は、一般教養試験、福祉専門試験、論文作成を中心とした構成とする。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験は、一般教養、論文試験を授業時間内に複数回実施する。(100%)	
フィードバック	提出された小論文について、添削して返還する。		
履修に際しての 注意事項	毎回、教養試験、専門試験、論文作成を課す。公務員養成講座ⅠとⅡはセットで履修すること。なお、履修を推奨する学生は、GPA2.8以上、または住環境コーディネーター2級取得者、もしくは公的扶助論詳説の単位をSで取得したものとする。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V		○	○		○		

テキスト1	講義内で紹介する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	地方公務員の業務内容、待遇。地方公務員採用試験の概要について説明する。 本講座の概要を説明する。
事前	地方公務員の業務内容について、各自事前に調べておく(90分)
事後	講義の内容を振り返り、地方公務員についての理解を深める。(150分)

2	模範論文の暗記と書き方の解説。
事前	第1回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

3	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第2回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

4	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第3回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

5	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第4回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

6	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第5回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

7	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第6回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

8	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第7回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

9	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第8回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

10	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第9回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

11	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第10回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

12	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第11回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

13	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。

事前	第12回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

14	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第13回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

15	まとめ。
事前	第14回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

2020/07/16(木)21:05

科 目 名	公務員養成講座II [社]			授業コード	1190132
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長友 祐三				

科目に関する キーワード	福祉職公務員、福祉行政、社会福祉主事
到達目標	福祉職公務員として実践に必要な、価値、知識、技術、方法を習得することを通して、様々な課題をもつ生活困難者を支援する福祉専門家になることができる。 地方自治体における公務員採用試験に合格できる。
授業の概要	学生の進路の一つとして、地方自治体における福祉職公務員に就くことがあげられる。福祉職公務員として、働くためには、福祉専門職としての十分な知識と技術が備わること、さらには住民全体の福祉の向上を目指すための奉仕者であるという理念、価値を備えることが必要である。 本講座では、福祉公務員を志望する学生を中心に、行政福祉の現場実態や福祉事務所を中心とした行政福祉の課題についても理解を深める。将来、福祉職公務員として課題の多い行政福祉の解決に向けた取り組みに従事できる十分なスキルを兼ね備えた専門家を育成していくことをめざす。 内容は、一般教養試験、福祉専門試験、論文作成を中心とした構成とする。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験は、一般教養、論文試験を授業時間内に複数回実施する(100%)。	
フィードバック	提出された小論文について、添削して返還する。		
履修に際しての 注意事項	毎回、教養試験、専門試験、論文作成を課す。公務員養成講座ⅠとⅡはセットで履修すること。なお、履修を推奨する学生は、GPA2.8以上、または住環境コーディネーター2級取得者、もしくは公的扶助論詳説の単位をSで取得したものとする。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V		○	○		○		

テキスト1	講義内で紹介する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	地方公務員の業務内容、待遇。地方公務員採用試験の概要について説明する。 本講座の概要を説明する。
事前	地方公務員の業務内容について、各自事前に調べておく(90分)
事後	講義の内容を振り返り、地方公務員についての理解を深める。(150分)

2	模範論文の暗記と書き方の解説。
事前	第1回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

3	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第2回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

4	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第3回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

5	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第4回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

6	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第5回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

7	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第6回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

8	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第7回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

9	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第8回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

10	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第9回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

11	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。
事前	第10回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

12	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第11回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

13	教養試験、専門試験問題解答、論文作成。

事前	第12回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

14	教養試験、専門試験問題の答え合わせ、論文添削。
事前	第13回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

15	まとめ。
事前	第14回授業で配布された教養、専門問題を解く、もしくは論文を作成する(120分)
事後	授業内で解いた問題の解説、作成した論文の添削結果を復習することで確実な知識として獲得する(120分)

2020/07/16(木)20:55

科 目 名	共生社会論 [心]			授業コード	1200012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子、藤森 智子				

科目に関する キーワード	共生社会、異文化コミュニケーション、社会参加

到達目標	少子高齢時代、グローバル化時代において、共生社会を形成していく社会的、経済的、文化的な意義を理解する。共生社会の実現にあたり、どのような人々が社会参加(文化、言語、教育、労働等)から疎外されてきたか、また疎外の原因となりうる社会の事物、制度、慣行、観念について説明できるようになる。 多様な人々のそれぞれのライフコースにおける機会を保障する理論、制度政策、ステークホルダーや市民の役割を理解し、これらが社会や個人の可能性にどのような影響を与えるかが考察できるようになる。			
授業の概要	多様な人々の共生について、歴史的および現代的な考察を行いながら、共生社会に向けた課題や意義を検討する。前半は、異文化コミュニケーションの歴史的事例を取り上げ、多文化・多言語の共生の事例及び異文化を排斥した事例を主に日本と周辺アジア地域を中心に検討する。後半は、多様な人々が互いを尊重し合い、それぞのライフコースにおいて自律(autonomy)と社会参加を可能とし、共生社会を実現していくためのデータ、理論、制度政策、実際の事例について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ディスカッションを行ったり、リアクションペーパー等を活用した授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業時の提出物(60%)、レポート(40%)の割合で成績評価を行う。		
フィードバック	リアクションペーパーなどを通じて把握した理解度や質問事項に対して、コメントや追加学習の提供を行う。			
履修に際しての 注意事項	私語は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			
III							
IV							

V	○						

テキスト1	特に指定しない。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「図表で見る世界の社会問題4　OECD社会政策指標　－貧困・不平等・社会的排除の国際比較」OECD（著、編集）高木郁郎（監修、翻訳）明石書店　2017年 「社会的排除／包摂と社会政策」福原宏幸編著　法律文化社　2007年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	共生社会とは何か　－オリエンテーション
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

2	人の移動と文化接触、文化変容
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

3	中国語と日本語表記の確立
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

4	変革期の異文化受容
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

5	日本における「翻訳」
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

6	帝国主義時代の異文化衝突
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

7	災害時の異文化排斥
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

8	人の移動と日本社会
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

9	共生社会と貧困と社会的排除
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

10	共生社会と社会参加　－教育・労働等
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

11	共生社会とジェンダー・エスニシティ
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

12	共生社会とティサビリティ(障害)
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）

事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

13	共生社会と世代・ライフコース
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

14	共生社会と福祉・市民社会・国際社会
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

15	共生社会とアクティブ・シチズンシップ
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。関心をもったキーワードをさらに調べ、理解を深めること。（学修時間2.5時間）

2020/07/16(木)21:13

科 目 名	社会福祉学総論II [社]			授業コード	1200021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	社会福祉の思想、社会福祉の理論、福祉政策

到達目標	社会福祉および福祉政策の原理や基盤、これに関わる主要な議論を体系的に説明できるようになる。 日本の福祉政策に関わる実際の課題や取り組みを理解し、援助実践に結び付けられるようになる。			
授業の概要	本講義では、社会福祉の概念、福祉政策の目的、理論、手段等について学ぶ。まず、さまざまな社会問題を把握し、これに対する現在の福祉政策の体系を理解する。加えて、福祉政策の現代的課題、福祉政策の国際比較および諸外国の先駆的な取り組み、福祉と関連する諸領域の政策について知識を深める。 これらを踏まえて、社会福祉が、個々人の生活や社会および経済の安定において果たす役割を理解する。また、今日の福祉国家の到達点および限界を明らかにし、今後の社会福祉のあり方について共に考える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパー等を活用し、相互のやり取りをするなかで授業への積極的参加と振り返りを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に関するレポートを100%として成績評価を行う。なお、レポートは授業期間中に計2回提出を求める予定である。		
フィードバック	リアクションペーパーなどを通じて把握した理解度や質問事項に対して、コメントや追加学習の提供を行う。			
履修に際しての 注意事項	私語は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○		○				
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・社会福祉士養成講座　現代社会と福祉（第4版）』 中央法規出版	9784805839317
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	厚生労働白書をはじめとする政府の白書。国民生活基礎調査等の政府調査。その他は、授業中に適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会と福祉　－オリエンテーション
事前	私たちを取り巻くさまざまな社会問題について新聞等を使って調べ、あげられるようにしておく。さらにそれらに何らかの社会的な対応がされているか、されていればその内容を簡単に説明できるようにしておく。（2時間）
事後	授業に基づき、社会問題について説明し、人の生活上の基本的な要求をあげられるようになる。同時に、 教科書(p.22－25）や配布資料等をもとに現代社会の特徴を整理する。（2時間）

2	社会福祉における必要と福祉国家
事前	教科書p14-17に加えて、社会福祉学総論Ⅰですでに学んだ範囲であるp.98-117を読んで、内容を確認し、できる限り理解しておく。（2時間）
事後	授業の配布資料を再読するとともに、教科書のp.158-175を復習として読み、理解を深める。ニーズの意味や社会福祉との関わりについて、自分のことばで説明できるようにする。（2時間）

3	社会福祉における必要の判定と資源
事前	身近な社会福祉の資源についてインターネットの行政のサイトなどを用いて調べてみる。どのような時に資源がクライエントに提供されるかについて確認してみる。（2時間）
事後	教科書p.171-178を読み、さらに配布資料などを用いて、必要について多角的な理解を深める。（2時間）

4	社会福祉に関する概念および理念
事前	教科書のp.32-50およびp.180-186までを読んで、社会福祉の概念、理念について概観しておく。（2時間）
事後	授業内容や配布資料をもとに、紹介された社会福祉の概念と理念について、説明できるようにする。（2時間）

5	社会政策と福祉の体系、主体と対象
事前	教科書.p78-97を読み、厚生労働白書を手に取るなどして、社会政策と社会福祉の体系について基礎的なイメージをもって授業に参加する。（2時間）
事後	配布資料などを参照しながら、社会政策と福祉政策の関係性、広義・狭義の社会福祉（社会保障）、およびその内容についてきちんと説明できるようになる。さらに教科書p.244-251を参考として読む。（2時間）

6	福祉政策の構成要素　－個人・家族・政府・市場
事前	教科書p.186-193を読み、社会福祉の資源分配システムに関わり新しく出会う専門用語について、さらに調べてみる。（2時間）
事後	社会福祉のおける個人の捉え方、家族、地域、公私の役割の変遷や今日の議論、これらに関わるキーワード（例えば、自助、共助、互助、公助）について自分の言葉で説明できるように授業内容を復習する。（2時間）

7	福祉政策の供給過程
事前	教科書のp.266-276を読み、社会福祉が利用者に届けられるまでの供給体制の大枠を理解する。（2時間）
事後	福祉サービスの供給体制の構造について説明し、さらにそれぞれの部門の目的や課題を整理して説明できるよう復習する。（2時間）

8	福祉政策の利用過程と援助活動
事前	教科書のp.276-300を読み、社会福祉の運営管理部門の役割や、相談について学んでおく。（2時間）
事後	配布資料や関係のテキスト等を総合して確認し、社会福祉の供給と援助活動、社会福祉政策とソーシャルワークの関係性を整理し、説明できるようにする。（2時間）

9	福祉政策の国際比較　－世界の状況とアジア等
事前	インターネットなどを使ってアジアや関心のある国々（欧米諸国を除く）、から1，2か国をあげて、人びとの福祉のあり方を調べてみる。（2時間）
事後	世界の人々の暮らしや、福祉の指標、貧困に関わる指標などに関わり重要な要素をあげられるようにする。アジア諸国の福祉について、教科書p.320－340を読み、さらに理解を深める。（2時間）

10	福祉政策の国際比較　－欧米諸国
事前	インターネットなどを使って欧米の関心のある国々、から1，2か国をあげて、人びとの福祉のあり方を調べてみる。（2時間）

事後	欧米の福祉国家に関わる配布資料を確認し、また教科書のp.302-319を読み、理解を深める。国民負担率やその傾向などの基本的な用語や状況について、きちんと説明できるようなる。さらに、その他の比較データから、日本の特徴をあげられるようになる。(2時間)

11	福祉政策の原理をめぐる思想と理論　ーレジーム論等
事前	欧米諸国の福祉の状況を理解した上で、福祉国家のレジーム論について教科書p.306-308 を再読する。さらに異なる福祉レジームの背景としての福祉政策の理念を理解するため、教科書p.180-185を読んでおく。(2時間)
事後	授業で配布した福祉レジームに関わる各国の参考資料を通読する。さらに、福祉国家／福祉社会における労働と福祉の関係性、新たな理念に基づく福祉提供にあり方の議論などについて、資料をもとに復習する。(2時間)

12	福祉政策の関連領域　ー労働・教育・住宅政策
事前	教科書のp.204-241を読み、関連分野の政策と福祉政策の接点について、いくつかあげられるようにしておく。(2時間)
事後	自分や家族などの生活を考え、ライフサイクルと福祉政策および関連政策がどのように関わっているか、課題として与えられた表を作成してみる。(2時間)

13	福祉政策と社会問題　ー社会的排除と包摂
事前	社会的排除に関わる事前課題をまとめる。(2時間)
事後	基本的人権やその確保に関わる近年の試みについて、授業で取り上げたキーワード(社会的包摂や意思決定支援等)について再度確認し、それらについて自分の言葉で意味や意義を説明できるようになる。(2時間)

14	社会福祉と現代的課題およびその対応
事前	教科書のp.342-359 を読んだ上で、授業を通じて自分自身が関心をもった、現代的あるいは将来的な福祉課題とそれに対する取り組みをひとつあげて、所定の用紙にまとめる。(2時間)
事後	取り上げた最近の福祉課題や改革に関連するテーマについて、配布資料を再確認し、さらに関連する資料などを調べ理解を深める。(2時間)

15	まとめ　ーともにいきる社会、ともに暮らす地域
事前	現在の日本の社会経済状況、社会保障・社会福祉や働き方等に関わる改革などの配布資料などに目を通して、これらに対する自らの理解と考えを整理しておく。(2時間)
事後	授業全体で重要であるとしてあげられた用語や内容について、要点を整理するなどし知識の定着を図る。(2時間)

2020/07/16(木)21:07

科 目 名	就労支援 [社介]			授業コード	1200031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	就労支援、生活保障、多様な働き方
到達目標	社会的に不利な立場にある人々の就労を通じた社会経済的な参画と、これを支える社会の仕組みが理解できる。同時に、これらの仕組みが、個人の生活保障や、少子高齢社会における活力ある社会・経済の形成に関わっていることが、具体的に把握できる。さらに、福祉、労働、教育の有機的な連携や、多様な働き方の法制度と支援の現状を説明できるようになる。
授業の概要	「人が働くということ」を多角的に理解し、職を得て働き続けることを支える社会の仕組みを学びます。 働く意味、勤労の権利、就労を支援する日本の法政策や社会サービス、及び、これらと社会保障との交錯を、まず把握します。その上で、社会的に不利な立場に陥りやすい人々への、就労支援の現状と課題を具体的に論じます。 加えて、近年の多様な働き方に関わる動向、諸外国の雇用・就労に関わる新たな取り組み（均等法政策など）、先駆的なプログラム等に触れ、その意義を検討します。
授業方法	講義 / アクティブラーニング：○ / リアクションペーパー等を活用し、相互のやり取りをするなかで授業への積極的な参加と振り返りを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート / 授業中の小テスト50%(2回)、授業中の課題や諸活動への取り組み20%、リアクションペーパーとレポートの提出物30%を考慮して、総合的に評価する。
フィードバック	リアクションペーパーなどを通じて把握した理解度や質問事項に対して、コメントや追加学習の提供を行う。
履修に際しての 注意事項	私語は厳禁とする。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	「就労支援サービス 第4版 (新・社会福祉士養成講座)」 中央法規	9784805853047
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業で適宜案内する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	人が働くということ　ーオリエンテーション
事前	人が働くことについて、その意味や現在の働き方について、インターネットなどを用いて調べてみる。就職や働き続ける上で困難を見出したり、不利な立場にある人を書き出してみる（1時間40分）
事後	教科書のp.1-8までを読み、あわせて授業で学んだ働くことに関わる専門用語や働くことの多角的な意味を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。（1時間40分）

2	雇用・就労と労働市場の動向
事前	教科書のp.10-18を読んで、理解したことわからないことを整理しておく。（1時間40分）
事後	配布資料などを参考に、労働年齢期の人口減少が社会に与える影響、産業構造の変化、失業率や就業率の意味など、重要な用語や労働市場の動向を説明できるように復習する。（2時間）

3	雇用・就労と労働に関する法制度
事前	教科書p.19-32を読み、理解したことわからないことを整理しておく。（1時間40分）
事後	労働法の体系や労働者保護の意義について理解、憲法や重要な法律や用語について整理する。それらと自らの生活上の関わりについて、さらに検討したり調べてみる。（2時間）

4	就労支援制度の現状と課題　ー障害者のある人々と一般就労
事前	教科書のp.34-43、51ー87を読み、障害者の働く場と就労状況について基礎的な内容を理解しておく。（2時間）
事後	障害のある人の就労を促す制度の全体像とその特徴を理解し、課題と現在の取り組み（一般就労と福祉的就労の橋かけ）などについて、説明できるように整理する。最近の雇用率制度の課題などについて、配布資料をもとにさらに調べてみる。（1時間40分）

5	就労支援制度の現状と課題　ー障害のある人々と福祉的就労
事前	教科書のp.44ー50を読むとともに、障害者の福祉サービスに関わる他科目の教科書などを丁寧に復習しておく。（1時間40分）
事後	福祉的就労の現状と課題、関係する専門職やその資格の取り方等について、紹介した本やリンク先からさらに学ぶ。（2時間）

6	就労支援制度の現状と課題　ー低所得の人々と就労
事前	教科書のp.90-136を読んで、低所得の人（生活保護受給者で就労阻害要因がない人、シングルピアレントの一部など）に対する、現在の就労支援施策について学んでおく。（2時間）
事後	低所得の人々に対する就労支援制度について復習するとともに、こうした制度が進められている背景となる理念について、さらに授業で学んだキーワード（ディーセントワーク、ウェルフェアからワークフェアへ等）を起点にして調べてみる。（1時間40分）

7	就労支援における支援過程と専門職の役割
事前	事前課題として、就労上で不利な立場にある人たち、たとえば、ひきこもりや就職氷河期にあった人たちなどへの現況をインターネットや文献を用いて調べ、どのような就労支援が必要か考えてみる。（2時間）
事後	教科書のp.138-178を読み、授業で学んだ内容の復習をするとともに、理解をさらに深める。主要な専門職（就労支援員、ジョブコーチなど）をあげられるようになる。あわせて、就労支援において連携が求められる機関を整理する。（2時間）

8	多様な働き方と就労支援　ーまとめ
事前	現在の働き方改革の内容やワークライフバランス政策などについて、事前に配布資料などに目を通し、さらにインターネットなどで調べておく。（1時間40分）
事後	今後の日本の社会を見据えて、どのような働き方と生き方が可能となるとよいか、ライフステージや人の多様性を視野に入れて、現在の課題と今後取り組むべきことをまとめてみる。（2時間）

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:07

科 目 名	就労支援 [心]			授業コード	1200041
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	就労支援、生活保障、多様な働き方
到達目標	社会的に不利な立場にある人々の就労を通じた社会経済的な参画と、これを支える社会の仕組みが理解できる。同時に、これらの仕組みが、個人の生活保障や、少子高齢社会における活力ある社会・経済の形成に関わっていることが、具体的に把握できる。さらに、福祉、労働、教育の有機的な連携や、多様な働き方の法制度と支援の現状を説明できるようになる。
授業の概要	「人が働くということ」を多角的に理解し、職を得て働き続けることを支える社会の仕組みを学びます。 働く意味、勤労の権利、就労を支援する日本の法政策や社会サービス、及び、これらと社会保障との交錯を、まず把握します。その上で、社会的に不利な立場に陥りやすい人々への、就労支援の現状と課題を具体的に論じます。 加えて、近年の多様な働き方に関わる動向、諸外国の雇用・就労に関わる新たな取り組み（均等法政策など）、先駆的なプログラム等に触れ、その意義を検討します。
授業方法	講義 / アクティブラーニング：○ / リアクションペーパー等を活用し、相互のやり取りをするなかで授業への積極的な参加と振り返りを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート / 授業中の小テスト50%(2回)、授業中の課題や諸活動への取り組み20%、リアクションペーパーとレポートの提出物30%を考慮して、総合的に評価する。
フィードバック	リアクションペーパーなどを通じて把握した理解度や質問事項に対して、コメントや追加学習の提供を行う。
履修に際しての 注意事項	私語は厳禁とする。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	「就労支援サービス 第4版 (新・社会福祉士養成講座)」 中央法規	9784805853047
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業で適宜案内する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	人が働くということ　ーオリエンテーション
事前	人が働くことについて、その意味や現在の働き方について、インターネットなどを用いて調べてみる。就職や働き続ける上で困難を見出したり、不利な立場にある人を書き出してみる（1時間40分）
事後	教科書のp.1-8までを読み、あわせて授業で学んだ働くことに関わる専門用語や働くことの多角的な意味を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。（1時間40分）

2	雇用・就労と労働市場の動向
事前	教科書のp.10-18を読んで、理解したことわからないことを整理しておく。（1時間40分）
事後	配布資料などを参考に、労働年齢期の人口減少が社会に与える影響、産業構造の変化、失業率や就業率の意味など、重要な用語や労働市場の動向を説明できるように復習する。（2時間）

3	雇用・就労と労働に関する法制度
事前	教科書p.19-32を読み、理解したことわからないことを整理しておく。（1時間40分）
事後	労働法の体系や労働者保護の意義について理解、憲法や重要な法律や用語について整理する。それらと自らの生活上の関わりについて、さらに検討したり調べてみる。（2時間）

4	就労支援制度の現状と課題　ー障害者のある人々と一般就労
事前	教科書のp.34-43、51ー87を読み、障害者の働く場と就労状況について基礎的な内容を理解しておく。（2時間）
事後	障害のある人の就労を促す制度の全体像とその特徴を理解し、課題と現在の取り組み（一般就労と福祉的就労の橋かけ）などについて、説明できるように整理する。最近の雇用率制度の課題などについて、配布資料をもとにさらに調べてみる。（1時間40分）

5	就労支援制度の現状と課題　ー障害のある人々と福祉的就労
事前	教科書のp.44ー50を読むとともに、障害者の福祉サービスに関わる他科目の教科書などを丁寧に復習しておく。（1時間40分）
事後	福祉的就労の現状と課題、関係する専門職やその資格の取り方等について、紹介した本やリンク先からさらに学ぶ。（2時間）

6	就労支援制度の現状と課題　ー低所得の人々と就労
事前	教科書のp.90-136を読んで、低所得の人（生活保護受給者で就労阻害要因がない人、シングルピアレントの一部など）に対する、現在の就労支援施策について学んでおく。（2時間）
事後	低所得の人々に対する就労支援制度について復習するとともに、こうした制度が進められている背景となる理念について、さらに授業で学んだキーワード（ディーセントワーク、ウェルフェアからワークフェアへ等）を起点にして調べてみる。（1時間40分）

7	就労支援における支援過程と専門職の役割
事前	事前課題として、就労上で不利な立場にある人たち、たとえば、ひきこもりや就職氷河期にあった人たちなどへの現況をインターネットや文献を用いて調べ、どのような就労支援が必要か考えてみる。（2時間）
事後	教科書のp.138-178を読み、授業で学んだ内容の復習をするとともに、理解をさらに深める。主要な専門職（就労支援員、ジョブコーチなど）をあげられるようになる。あわせて、就労支援において連携が求められる機関を整理する。（2時間）

8	多様な働き方と就労支援　ーまとめ
事前	現在の働き方改革の内容やワークライフバランス政策などについて、事前に配布資料などに目を通し、さらにインターネットなどで調べておく。（1時間40分）
事後	今後の日本の社会を見据えて、どのような働き方と生き方が可能となるとよいか、ライフステージや人の多様性を視野に入れて、現在の課題と今後取り組むべきことをまとめてみる。（2時間）

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [心]			授業コード	1200050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)20:46

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [介]			授業コード	1200060
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:07

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [心]			授業コード	1200072
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:51

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [心]			授業コード	1200080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習	アクティブ ラーニング ○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:28

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [心]			授業コード	1200093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	引馬 知子				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:07

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1200100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関する キーワード	ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）、福祉政策、文献・調査研究

到達目標	人のよりよい生を支える社会設計を、皆で調べたり議論することによって、これに関わる理念や手段を自分の言葉で専門性をもって説明できるようになる。 プレゼンテーションや調査方法を修得し、そのスキルを向上できる。 これらを踏まえて、将来の進路について考えを深めることができる。			
授業の概要	本演習では、さまざまな社会問題と、これに対応する社会的な支援について、皆で学びながら検討します。たとえば、すべての人が適切な、衣食住、教育や就労の機会を得られる社会について考え、その障壁と「機会の保障」を実現する社会システムづくりについて議論します。さらに、これが個人の幸福や活力ある少子高齢社会の創造に結びついていることを検討します。 演習を通じて、個々人のよりよい生活を支援する社会システムやその課題について、さまざまな角度から学びます（人の属性、ライフコース、格差、社会的排除と包摂、福祉社会と福祉国家、グローバルスタンダードなどがキーワードです）。 演習の領域としては、①日本の社会福祉・社会保障に関するテーマ、②諸外国の社会福祉・社会保護に関するテーマおよび、国際比較のテーマ、③国際社会福祉のテーマがあげられます。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	課題発見・解決型学習を行い、その経過や結果についてプレゼンテーションを行ったり、グループでディスカッションする。
評価方法 及び評価基準	レポート	発表への取り組み40%、質疑応答などへの貢献度30%、期末レポート30%		
フィードバック	課題発見や文献等を通じた調査、プレゼンテーションや論文執筆方法などに関わり随時相談にのり、進展にそった指導を行う。ディスカッション後や論文について、コメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	自分なりの積極性をもって、本演習に参加してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III					○		
IV				○			

V							

テキスト1	受講生全員で相談の上、皆の興味や関心を踏まえて、テキストを決定します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示・配布します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	・各自の興味を踏まえた上で、共通の文献や資料を皆で選定し、まずはその文献や資料を読みこみます。演習前半は、特に身近な　事象や人々の生活（福祉、教育、労働等）を起点にしたテーマを扱います。演習後半は、前半の検討を受けて、各自が関心のあるテーマをさらに掘り下げることとします。 ・興味や関心に応じて、フィールドワークや学外研修を、適宜実施することがあります。 ・通常の演習では、順次、数名が調べた内容を発表し、討議します。テーマによっては、視聴覚教材を使用したり、ディベート形式の演習なども行います。
事前	相談した文献や資料について指定の時までに学んでおく。自らが決めたテーマについて調べたり、発表するなどの準備を行う。(各回30分）
事後	プレゼンテーションあるいは執筆内容を共有することで、さらなる不明点や課題を明らかにする。それらについて相談し合い、さらなる調査研究や探究を行う。その結果をプリゼンテーションあるいは執筆する。(各回30分）

2020/07/16(木)20:57

科 目 名	国際福祉論/国際福祉論II [社心]			授業コード	1200121
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	引馬 知子				

科目に関するキーワード	世界の福祉、人権、グローバリゼーション
到達目標	地球社会や世界の国々・人々がおかれた状況について、基礎的な用語やデータを把握した上で理解し、説明できる。グローバル化のもとでのソーシャルガバナンスのあり方や、貧困及び格差問題をはじめとする福祉課題について興味と知識を深め、これらに関わる具体的な問題提起を「グローカル」な視点から行えるようになる。 国際福祉に関わる多様なアクター（国際機関、地域的統合機関、国、地域、個人）と政策手段を視野に入れて、先駆的な取り組みを論じることができる。
授業の概要	グローバリゼーションの進行に伴い、ヒト・モノ・カネ・情報は国境を越えて移動し、世界の国々の経済的・社会的な相互依存関係は高まりをみせている。また、「福祉国家」の恩恵を享受する人々がいる一方で、地球上で貧富の格差は拡大傾向にあり、多くの人々が貧困や社会的排除を経験している。本授業では、まずこれらの現状を包括的に理解することを目的とする。 さらに、紛争、貧困、環境、排除をはじめとするさまざまな福祉課題は、国々や人々が国境を越えて協力しなければ緩和や解決に向かわないことを具体的に理解し、これに対応する現在の手段や先駆的な取り組みについて知る。その上で、福祉課題へのさらなる対応について、国際福祉の視点をもって皆で議論し考えていく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ディスカッションを行ったり、リアクションペーパー等を活用した授業を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の提出物30%、ワークなどへ参加状況30%、期末レポート40%		
フィードバック	リアクションペーパーなどを通じて把握した理解度や質問事項に対して、コメントや追加学習の提供を行う。			
履修に際しての注意事項	ワークや質疑応答などに積極的に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II	○						
III							
IV				○			

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	OECDの日本語翻訳出版物シリーズ（https://www.oecd.org/tokyo/publications/japanese-translations.htm） 国連や国連の専門機関の年次報告等	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	国際福祉とは －オリエンテーション
事前	国際情勢や世界の国々と人々の生活に関する資料を読んでおくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

2	世界のさまざまな地図から考えよう
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

3	国際福祉と貧困・格差 －現状把握
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

4	国際福祉と貧困・格差 －原因と課題
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

5	国際社会福祉と債務
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

6	国際社会福祉と国際組織
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

7	国際福祉と人権
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

8	国際福祉と支援
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

9	国際福祉と人の移動（貿易、難民・避難民を含む）
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

10	国際福祉の一課題を検討する －児童労働（問題提起）
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

11	国際福祉の一課題を検討する −児童労働（取り組みの検討）
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

12	国際社会福祉と国境を越えた取り組み −EU
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

13	国際福祉と国境を超えた取り組み −日本と世界
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

14	国際福祉と内なる国際化
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

15	まとめ ローカルおよびグローバルガバナンス
事前	提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（1.5時間）
事後	配布資料を基に、十分な復習を行い、知識の定訳を図ること。指示があった内容や関心をもったキーワードについてさらに調べること。（2.5時間）

2020/07/16(木)22:10

科 目 名	政治学 [社子科]			授業コード	1210012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	民主主義 人権

到達目標	受講学生には、身近な事象から民主主義の制度と理念を理解し、政治意識を高め、現代社会や国際社会に対する関心・理解を深めることができる。			
授業の概要	民主主義とは何だろうか。昨今、「民主主義が危機に立たされている」といったことを耳にするのではないだろうか。民主主義や人権の理念を実践する制度はどのようなものだろうか。その実践方法は一つだろうか。 本授業では、政治学の基礎知識を確認しながら、民主主義の多様な実践方法、運営方法を検討する。民主主義の理念はどのように実勢されているのか、その現状はどのようになっているのか、日本と諸外国の事例を挙げて検討する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で確認の小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	毎回の小テストの合計を70%、レポートを30%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において返却し講評する。			
履修に際しての 注意事項	学生らしい受講態度を望む。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○	○				
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	政治とは何か
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
2	政治と権力
事前	政治と権力に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
3	民主主義ー民主主義、人権の概念を知ろう
事前	民主主義に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
4	議会政治の歴史と国会ー日本の議会を知ろう
事前	議会政治に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
5	議院内閣制と大統領制(1)ー日本の政治制度を知ろう
事前	政治制度に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
6	議院内閣制と大統領制(2)ーアメリカの政治制度を知ろう
事前	政治制度に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
7	政党政治と選挙ー日本の選挙制度を知ろう
事前	政党政治と選挙に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
8	圧力団体ーアメリカの圧力団体を例に考えよう
事前	圧力団体に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
9	マスコミー言論の自由とは何か考えよう
事前	言論の自由に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
10	地方自治ー自分たちの自治体を知ろう
事前	地方自治に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
11	官僚制ー日本の省庁と官僚の役割を知ろう
事前	官僚制に関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
12	政治制度のまとめと討論
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
13	現代の国際社会ー国際政治を考えよう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

14	国家とナショナリズムー「我々意識」とは何だろうか
事前	ナショナリズムに関する資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

15	総括
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2020/07/16(木)21:20

科 目 名	政治学 [心]			授業コード	1210022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	民主主義 人権

到達目標	受講学生には、身近な事象から民主主義の制度と理念を理解し、政治意識を高め、現代社会や国際社会に対する関心・理解を深められるようになることを目標とする。			
授業の概要	民主主義とは何だろうか。昨今、「民主主義が危機に立たされている」といったことを耳にするのではないだろうか。民主主義や人権の理念を実践する制度はどのようなものだろうか。その実践方法は一つだろうか。 本授業では、政治学の基礎知識を確認しながら、民主主義の多様な実践方法、運営方法を検討する。民主主義の理念はどのように実勢されているのか、その現状はどのようになっているのか、日本と諸外国の事例を挙げて検討する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で確認の小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	毎回の小テストの合計を70%、レポートを30%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において返却し講評する。			
履修に際しての 注意事項	学生らしい受講態度を望む。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○	○				
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	時事通信出版局『よくわかる中高社会』時事通信社、2016年。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	政治とは何か
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
2	政治と権力
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
3	民主主義ー民主主義、人権の概念を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
4	議会政治の歴史と国会ー日本の議会を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
5	議院内閣制と大統領制(1)ー日本の政治制度を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
6	議院内閣制と大統領制(2)ーアメリカの政治制度を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
7	政党政治と選挙ー日本の選挙制度を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
8	圧力団体ーアメリカの圧力団体を例に考えよう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
9	マスコミー言論の自由とは何か考えよう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
10	地方自治ー自分たちの自治体を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
11	官僚制ー日本の省庁と官僚の役割を知ろう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
12	政治制度のまとめと討論
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
13	現代の国際社会ー国際政治を考えよう
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

14	国家とナショナリズムー「我々意識」とは何だろうか
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

15	総括
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2020/07/16(木)10:58

科 目 名	中国語 [社心子科][ET]			授業コード	1210030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	コミュニケーション 中国語

到達目標	中国語の発音や簡体字に慣れ、基礎的な中国語の読み書きと会話表現ができ、中国語圏の社会・文化に対する理解を深め、中国語で発信できる。			
授業の概要	はじめて中国語を学習する学生を対象とする。授業では発音、簡体字、ヒヤリング、会話表現の練習等を通じて総合的な語学力習得を目指す。言葉の学習と同時に、中国語圏の社会・文化への関心を高めることも期待する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で確認テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	毎回の小テストを60%、授業内テストを40%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストやレポートについては、事後の授業において返却し解説する。			
履修に際しての 注意事項	テキストは必ず各自準備すること。テキストを持参していない者は欠席扱いとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○		○		
II							
III							
IV							

V							

テキスト1	奥村佳代子/塩山正純/張軼欧著『初級中国語　会話編-自分のことばで話す中国語-』金星堂	978-4-7647-0703-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	中国語の発音「声調」
事前	指定した教科書の該当箇所「声調」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

2	中国語の発音「母音」
事前	指定した教科書の該当箇所「母音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

3	中国語の発音「子音1」(唇音、舌尖音、舌根音)
事前	指定した教科書の該当箇所「子音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

4	中国語の発音「子音2」(舌面音、そり舌音、舌歯音)
事前	指定した教科書の該当箇所「子音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

5	中国語の発音(軽音・声調変化)
事前	指定した教科書の該当箇所「軽声、声調変化」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

6	数の表現
事前	指定した教科書の該当箇所「数の表現」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

7	「コーヒーを飲みます」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「コーヒーを飲みます」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

8	「コーヒーを飲みます」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「コーヒーを飲みます」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

9	「私も林です」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「私も林です」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

10	「私も林です」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「私も林です」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

11	「家はどこですか？」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「家はどこですか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

12	「家はどこですか？」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「家はどこですか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

13	「姉が一人います」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「姉が一人います」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)

事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

14	「姉が一人います」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「姉が一人います」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

15	総括
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

16	総復習
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

17	「家は学校から遠いですか？」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「家は学校から遠いですか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

18	「家は学校から遠いですか？」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「家は学校から遠いですか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

19	「どこでバイトしていますか？」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「どこでバイトしていますか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

20	「どこでバイトしていますか？」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「どこでバイトしていますか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

21	「私は昨日『関西ウォーク』を買いました」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「私は昨日『関西ウォーク』を買いました」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

22	「私は昨日『関西ウォーク』を買いました」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「私は昨日『関西ウォーク』を買いました」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

23	「泳げますか？」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「泳げますか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

24	「泳げますか？」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「泳げますか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

25	「私はよく食べます」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「私はよく食べます」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

26	「私はよく食べます」ポイント、練習問題
事前	指定した教科書の該当箇所「私はよく食べます」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

27	「行ったのが遅かったです」単語、本文
事前	指定した教科書の該当箇所「行ったのが遅かったです」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

28	「行ったのが遅かったです」ポイント、練習問題

事前	指定した教科書の該当箇所「行ったのが遅かったです」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

29	ヒヤリング、会話復習
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

30	総括
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

2020/07/16(木)20:40

科 目 名	韓国語I/韓国語 [社介心子科][ET]			授業コード	1210040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	コミュニケーション 韓国語

到達目標	ハングルの読み書きと基礎的な会話ができ、韓国社会・文化に対する理解を深め、韓国語で発信できる。			
授業の概要	はじめて韓国語を学習する学生を対象とする。授業では文字の読み、書き、ヒヤリング、会話表現の練習等を通じて総合的な語学力習得を目指す。言葉の学習と同時に、韓国社会・文化への関心を高めることも期待する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で確認テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	毎回の小テストを60%、授業内テストを40%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストやレポートについては、事後の授業において返却し解説する。			
履修に際しての 注意事項	テキストは必ず各自準備すること。テキストを持参していない者は欠席扱いとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○		○		
II							
III							
IV							

V							

テキスト1	木内明『基礎から学ぶ韓国語講座』初級、改正版、図書刊行会	ISBN-10:4336057508 ISBN-13:978-4336057501
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ハングル文字の仕組み
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

2	基本母音
事前	指定した教科書の該当箇所「基本母音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

3	基本子音
事前	指定した教科書の該当箇所「基本子音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

4	複合母音
事前	指定した教科書の該当箇所「複合母音」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

5	パッチム
事前	指定した教科書の該当箇所「パッチム」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

6	発音の変化
事前	指定した教科書の該当箇所「発音の変化」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

7	「～は～です」
事前	指定した教科書の該当箇所「～は～です」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

8	「～が～ですか？」
事前	指定した教科書の該当箇所「～が～ですか？」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

9	「～ではありません」
事前	指定した教科書の該当箇所「～ではありません」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

10	「います・あります」
事前	指定した教科書の該当箇所「います・あります」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

11	「します」
事前	指定した教科書の該当箇所「します」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

12	「します」(ヘヨ)
事前	指定した教科書の該当箇所「します」(ヘヨ)を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

13	動詞・形容詞の丁寧形(パッチム無/パッチム有)
	指定した教科書の該当箇所「動詞・形容詞の丁寧形(パッチム無/パッチム有)」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間

事前	0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

14	動詞・形容詞の丁寧形(ヨ体)
事前	指定した教科書の該当箇所「動詞・形容詞の丁寧形(ヨ体)」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

15	総括
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

16	総復習
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

17	「体言＋です」
事前	指定した教科書の該当箇所「体言＋です」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

18	漢数詞
事前	指定した教科書の該当箇所「漢数詞」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

19	固有数詞
事前	指定した教科書の該当箇所「固有数詞」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

20	「敬語」
事前	指定した教科書の該当箇所「敬語」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

21	用言の否定形
事前	指定した教科書の該当箇所「用言の否定形」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

22	過去形
事前	指定した教科書の該当箇所「過去形」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

23	勧誘「～しましょう」
事前	指定した教科書の該当箇所「勧誘～しましょう」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

24	現在進行形「～している」
事前	指定した教科書の該当箇所「現在進行形～している」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

25	可能「～できる/できない」
事前	指定した教科書の該当箇所「可能～できる/できない」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

26	願望「～したい」
事前	指定した教科書の該当箇所「願望～したい」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

27	許諾「～してもいい」、禁止「～しないでください」
事前	指定した教科書の該当箇所「許諾～してもいい、禁止～しないでください」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。(学修時間0.5時間)

28	義務「～しなければならない」
事前	指定した教科書の該当箇所「義務～しなければならない」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。（学修時間0.5時間）

29	推量・意思「～と思います/～するつもりです」
事前	指定した教科書の該当箇所「推量・意思～と思います/～するつもりです」を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。（学修時間0.5時間）

30	総括
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、音源を聞いてくること。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った範囲を復習し、指定された単語や表現を覚えてくること。（学修時間0.5時間）

2020/07/16(木)21:32

科 目 名	民族と国家 [社]			授業コード	1210051
副 題	東アジアの異文化交流				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	近代アジア 日本 台湾 朝鮮半島

到達目標	受講学生には、近代以降の東アジアを含む歴史の流れを理解し、今日の日本と東アジア地域に対する関心と観察眼を持つことができる。			
授業の概要	日本は、古来より近隣アジア地域と密接な関係にあった。ことに近代以降の東アジア諸国との対外関係は、今なお外交上、そして人々の心理上、大きな影響を与え続けている。この講義では、東アジアの地理、歴史、社会及び国家間の関係を理解し、現代の東アジアに対する観察眼を養うことを目的とする。近代帝国主義の萌芽期から現代までを範囲として、日本を含む東アジア諸地域の地理、歴史、社会を概観しながら、当地域で展開された異文化交流を取り上げ、東アジア地域との相互理解へとつなげる。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業でリアクションペーパーによる授業の振り返り、または確認の小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内のまとめ及び発表の合計を70%、期末レポートを30%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において返却し講評する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な参加姿勢を望む。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○	○				
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	アジアとは
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2	欧米のアジア進出
事前	事前に提示した「欧米のアジア進出」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

3	朝貢体制とアヘン戦争
事前	事前に提示した「朝貢体制とアヘン戦争」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

4	日本開国
事前	事前に提示した「日本開国」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

5	日朝関係の歴史と日清戦争
事前	事前に提示した「日朝関係の歴史と日清戦争」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

6	日露戦争と「韓国併合」
事前	事前に提示した「日露戦争と韓国併合」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

7	日本の朝鮮植民統治
事前	事前に提示した「日本の朝鮮植民統治」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

8	冷戦と朝鮮半島
事前	事前に提示した「冷戦と朝鮮半島」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

9	現代の朝鮮半島
事前	事前に提示した「現代の朝鮮半島」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

10	台湾の歴史と社会
事前	事前に提示した「台湾の歴史と社会」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

11	日本の台湾植民統治(1)ー台湾総督府の政策
事前	事前に提示した「日本の台湾植民統治」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

12	日本の台湾植民統治(2)ー台湾社会の変容
事前	事前に提示した「日本の台湾植民統治」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

13	国民党政権下の台湾
事前	事前に提示した「国民党政権下の台湾」の資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

14	現代の台湾
事前	事前に提示した「現代の台湾」の資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

15	総括
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2020/07/16(木)21:08

科 目 名	民族と国家 [心]			授業コード	1210061
副 題	東アジアの異文化交流				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	近代アジア 日本 台湾 朝鮮半島

到達目標	受講学生には、近代以降の東アジアを含む歴史の流れを理解し、今日の日本と東アジア地域に対する関心と観察眼を持てるようになることを目標とする。
授業の概要	日本は、古来より近隣アジア地域と密接な関係にあった。ことに近代以降の東アジア諸国との対外関係は、今なお外交上、そして人々の心理上、大きな影響を与え続けている。この講義では、東アジアの地理、歴史、社会及び国家間の関係を理解し、現代の東アジアに対する観察眼を養うことを目的とする。近代帝国主義の萌芽期から現代までを範囲として、日本を含む東アジア諸地域の地理、歴史、社会を概観しながら、当地域で展開された異文化交流を取り上げ、東アジア地域との相互理解へとつなげる。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業でリアクションペーパーによる授業の振り返り、または確認の小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内のまとめ及び発表の合計を70%、期末レポートを30%とする。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において返却し講評する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な参加姿勢を望む。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○	○				
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	伊藤潔『台湾』中公新書、2001年。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	アジアとは
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
2	欧米のアジア進出
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
3	朝貢体制とアヘン戦争
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
4	日本開国
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
5	日朝関係の歴史と日清戦争
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
6	日露戦争と「韓国併合」
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
7	日本の朝鮮植民統治
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
8	冷戦と朝鮮半島
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
9	現代の朝鮮半島
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
10	台湾の歴史と社会
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
11	日本の台湾植民統治(1)ー台湾総督府の政策
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
12	日本の台湾植民統治(2)ー台湾社会の変容
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
13	国民党政権下の台湾
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

14	現代の台湾
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

15	総括
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2020/07/16(木)22:21

科 目 名	海外研修（福祉） [社介心]			授業コード	1210083
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	社会政策 社会福祉 異文化交流 国際的視野 オーストラリア

到達目標	オーストラリアの社会政策（福祉や教育等）の制度や実践について学ぶことができます。あわせて、オーストラリアの歴史、文化、生活を知り、国際的な視野を広げることができます。			
授業の概要	このプログラムは、本学とウーロンゴン・カレッジ・オーストラリアが結んだ協定により実施されるものです。研修先は、オーストラリア・ウーロンゴン市（川崎市と姉妹都市）にあるウーロンゴン大学です。ウーロンゴン市は、シドニーから南へ約80キロの海岸線にある、美しい街です。ウーロンゴン大学での福祉関連の講義と共に、ウーロンゴン市の福祉施設（高齢者・心身障害者施設、福祉ボランティア団体、福祉教育機関など）への訪問と見学・視察、及びホームステイによる生活体験を通して、オーストラリアの社会・文化・福祉・教育等における理念と実践を理解します。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	研修中はフィールドワーク等のアクティビティに従事し、帰国後反省会で振り返り、DCU祭・報告書を通じて発表を行います。また、研修中は研修ノートを作成します。
評価方法 及び評価基準	レポート	事前事後指導への対応状況(10%)、現地での活動状況(70%)、研修ノート・報告書の提出(20%)により、国際交流委員会が評価し、国際交流委員会委員長が単位を認定します。		
フィードバック	反省会、発表を通じて振り返りとディスカッションを行います。			
履修に際しての 注意事項	①説明会に参加し、参加申し込みをすること。 ②海外生活にたえられる健康体であること。 ③保護者から委任状が提出されること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III	○						
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【主な予定プログラム】 ①成田発、直行便にてシドニー空港へ ②ウーロンゴン市内見学、市役所訪問・市長を表敬訪問、市の社会福祉行政に関する講義 ③大学でのオーストラリア福祉や教育政策の講義 ④病院ソーシャルワーク局、障害児施設、高齢者施設、養護学校、グループ・ホーム、退職者ビレッジなどを訪問 ⑤福祉ボランティアの体験 ⑥福祉専攻学生との交流 ⑦フェアウェル・パーティー（研修修了書の授与） ⑧ホスト・ファミリーとの交流 ⑨ブルーマウンテン、シドニー観光、アニマルパーク訪問 ⑩帰路、シドニーから成田へ
事前	事前研修を行います。テーマは「オーストラリアの歴史と文化」、「日本とオーストラリアの社会政策」、「英語とホームステイ」などです。
事後	反省会およびDCU祭での報告を行います。また、帰国後に研修ノート及び報告書をまとめ、提出します。

2020/07/16(木)11:07

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1210100
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	社会科学方法論 フィールドワーク ディスカッション 論文作成

到達目標	授業を通じて、各人が社会科学的な視点・発想を養い、論文を作成できるようになることを目標とする。			
授業の概要	社会的・文化的な課題を取り上げ、輪読、ディスカッション等を行い、最終的にレポート、論文作成を目指す。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション、フィールドワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加への積極性(20%)、各人の発表内容(40%)、レポート等課題(40%)とする。		
フィードバック	提出物に関しては後日の授業で添削、返却する。			
履修に際しての 注意事項	積極的な授業参加を望む。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	第1ー15回：現代社会を考える上で参考になる文献をゼミ生全員と読み、発表・ディスカッションを通じて、社会科学的な論理思考、研究方法の習得を目指す。 第16−30回：教員の指導の下でゼミ生各自の関心に基づいたテーマを選定し、先行研究の検討、資料の収集・分析を行い、レポートの作成、発表を行う。また、テーマに沿ったフィールド・ワークを行う。
事前	指定された課題の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った箇所を配布資料等を利用して復習し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

2020/07/16(木)20:51

科 目 名	国際関係論 [心]			授業コード	1210121
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	国際関係 日本 経済 政治 文化

到達目標	国際政治や国際経済などの社会科学的方法を主としながら、文化論的・歴史学的アプローチを取り入れ、今日の国際社会の諸相を多角的に考察する視点を持てるようにする。
授業の概要	「国際関係論」は戦争と平和の問題を扱う総合的な学問といえるだろう。本講義では、国際社会における国家、集団、個々人が織りなす政治的・経済的・法的、さらには文化的諸関係などの今日的構造を考察するとともに、これらの歴史的実態を分析することに主眼を置く。国際政治・経済の構造を検討し、日本と諸外国との個別の関係を取り上げ考察する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業でリアクションペーパーによる授業のまとめを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内のまとめ及び発表の合計を70%、期末レポートを30%とする。		
フィードバック	授業内で書いたまとめは、事後の授業において返却し講評する。			
履修に際しての 注意事項	「政治学」「民族と国家」の内容を踏まえた授業を行う。これら科目を履修していることが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○	○	○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	原彬久『国際関係学講義　第5版』有斐閣,2016	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	国家・民族・「グローバリゼーション」
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
2	19世紀の世界一「産業革命」・近代化・植民地
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
3	20世紀の世界①−資本主義・社会主義
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
4	20世紀の世界②−第一次大戦、第二次大戦
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
5	米ソ冷戦からポスト冷戦へ
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
6	朝鮮戦争
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
7	ベトナム戦争
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
8	地域紛争への視角
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
9	地域紛争の現状
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
10	宗教と紛争
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
11	移民問題
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
12	テロリズム
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)
13	日米関係
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)

事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

14	日本と東アジア
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

15	総括
事前	事前に提示した資料を読んで要点をまとめておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2020/07/16(木)22:20

科 目 名	海外研修（子ども）[子]			授業コード	1210133
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関するキーワード	幼児教育 保育 異文化交流 国際的視野 ニュージーランド

到達目標	ニュージーランドの幼児教育や保育の政策や実践について学び、理解することができる。ニュージーランドの歴史、文化、生活を知り、国際的な視野を広げることができる。			
授業の概要	このプログラムは、本学とマッセイ大学がに結んだ協定により実施されるものです。研修先は、ニュージーランド北島、パーマストン・ノースにあるマッセイ大学です。マッセイ大学は、ニュージーランドでは最大規模の大学で、首都のウェリントン、及び、オークランドにもキャンパスがあります。マッセイ大学での幼児教育、福祉政策などの学習と共に、保育園、幼稚園、小学校などを訪問し研修を行います。また、ホームステイによる生活体験を通して、ニュージーランドの社会・文化、子ども・家庭・福祉に関する理解を深めます。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	研修中はフィールドワーク等のアクティビティに従事し、帰国後反省会で振り返り、DCU祭・報告書を通じて発表を行います。また、研修中は研修ノートを作成します。
評価方法及び評価基準	レポート	事前事後指導への対応状況(10%)、現地での活動状況(70%)、研修ノート・報告書の提出(20%)により、国際交流委員会が評価し、国際交流委員会委員長が単位を認定します。		
フィードバック	反省会、発表を通じて振り返りとディスカッションを行います。			
履修に際しての注意事項	①説明会に参加し、参加申し込みをすること。 ②海外生活にたえられる健康体であること。 ③保護者から委任状が提出されること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III	○						
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【主な予定プログラム】 ①成田発、シドニー・ウェリントン経由でパーマストン・ノースへ ②大学でのオリエンテーション、大学見学、市街見学 ③大学での先住民マオリとポリネシア文化研修及びマオリ文化体験校訪問 ④大学での保育園・幼稚園研修プログラム ⑤保育園、幼稚園、小学校訪問 ⑥マッセイ大学幼児センター訪問 ⑦マッセイ大学所有農場見学 ⑧大学の教員との研修復習レッスン ⑨フェアウェル・パーティー（研修修了書の授与） ⑩ホスト・ファミリーとの交流 ⑪帰路は往路と逆コース
事前	事前研修を行います。テーマは「ニュージーランドの歴史と文化」、「日本とニュージーランドの幼児教育」、「英語とホームステイ」などです。
事後	反省会およびDCU祭での報告を行います。また、帰国後に研修ノート及び報告書をまとめ、提出します。

2020/07/16(木)22:38

科 目 名	海外研修 [科]			授業コード	1210143
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	藤森 智子				

科目に関する キーワード	心理学 メンタルヘルス 異文化交流 国際的視野 オーストラリア

到達目標	オーストラリアの社会政策（心理、福祉や教育等）の制度や実践について学びます。あわせて、オーストラリアの歴史、文化、生活を知り、国際的な視野を広げます。			
授業の概要	本学と海外の大学で結んだ協定により実施される研修プログラムに参加する。研修はホームステイによる生活体験を含み、現地の大学における講義を受講できるほか、心理や教育、福祉に関係する施設見学・視察等をおこなう。海外の地域支援に関する理念と実践を理解するほか、ホームステイを通して現地の文化や習慣、人々の生活にも触れて見聞を広げる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	研修中はフィールドワーク等のアクティビティに従事し、帰国後反省会で振り返り、DCU祭・報告書を通じて発表を行います。また、研修中は研修ノートを作成します。
評価方法 及び評価基準	レポート	事前事後指導への対応状況(10%)、現地での活動状況(70%)、研修ノート・報告書の提出(20%)により、国際交流委員会が評価し、国際交流委員会委員長が単位を認定します。		
フィードバック	反省会、発表を通じて振り返りとディスカッションを行います。			
履修に際しての 注意事項	①説明会に参加し、参加申し込みをすること。 ②海外生活にたえられる健康体であること。 ③保護者から委任状が提出されること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III	○						
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【主な予定プログラム】 ①成田発、直行便にてシドニー空港へ ②ウーロンゴン市内見学、市役所訪問・市長を表敬訪問、市の心理・社会福祉行政に関する講義 ③大学でのオーストラリアの心理学、メンタルヘルス、ウェルビーイング、カウンセリング等に関する講義 ④メンタルヘルスNPO、メンタルヘルスクリニック、退職者ビレッジなどを訪問 ⑤フェアウェル・パーティー（研修修了書の授与） ⑥ホスト・ファミリーとの交流 ⑦ブルーマウンテン、シドニー観光、アニマルパーク訪問 ⑧帰路、シドニーから成田へ
事前	事前研修を行います。テーマは「オーストラリアの歴史と文化」、「日本とオーストラリアのメンタルヘルス」、「英語とホームステイ」などです。
事後	反省会およびDCU祭での報告を行います。また、帰国後に研修ノート及び報告書をまとめ、提出します。

2020/07/16(木)21:05

科 目 名	社会学 [社介心]			授業コード	1220011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	社会科学と人文学、現代社会論、社会理論、グローバリゼーション、

到達目標	1. 人間と社会のかかわりについて理解を深めることができる。 2. 現代社会のさまざまな諸相における協働関係について理解を深めることができる。 3. 社会現象の科学的な理解を深めることができる。			
授業の概要	1. 社会学の方法について 2. 現代社会の特徴について 3. ミクロ社会学： 近代の個人主義と現代の引きこもり 4. ミクロ社会学： 自己・アイデンティティの構築 5. メゾ社会学： 居場所とライフステージ 6. メゾ社会学： 学校社会と自己実現 7. メゾ社会学： 小集団と逸脱 8. マクロ社会学： 社会関係論 9. マクロ社会学： 社会変動論 10. マクロ社会学： グローリゼーション			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験（50%）と小テスト（50%）の総合成績にて評価する。		
フィードバック	原則として小テストの解説は「でんでんばん」を通じておこなうこととする。			
履修に際しての 注意事項	テキストに沿った講義を展開します。かならず事前・事後学習を実施してください。「でんでんばん」の使い方に慣れてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○		○		
III							
IV							

V							

テキスト1	友枝敏雄他 「Do！ソシオロジー」 有斐閣	9784641123267
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	高値正昭 「創造の方法学」 講談社 三田宗介 「現代社会の理論」 岩波 今泉礼右他 「グローカル時代の社会学」 みらい	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	序章： オリエンテーション・社会学の研究法
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

2	1章： 孤人化する社会と親密性の罠 1. 氾濫する親密性
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

3	1章： 孤人化する社会と親密性の罠 2. 親密性の本性、そしてそのゆくえ
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

4	2章： 学校から職業へ 1. 生き方のイメージはどのようにつくられるか
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

5	2章： 学校から職業へ 2. 大衆教育社会と「自己実現」規範
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

6	3章： 非行文化を喪失した少年犯罪 1. 脱集団化する少年犯罪
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

7	3章： 非行文化を喪失した少年犯罪 2. 脆弱化する自己肯定感
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

8	4章　地域社会の崩壊と再生の模索　1. 岐路に立つ地域社会
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

9	4章　地域社会の崩壊と再生の模索　2. 地域社会の社会学的分析
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

10	5章　豊かな社会の格差と不平等　1. 総中流社会から格差・不平等社会へ
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

11	5章　豊かな社会の格差と不平等　2. 現代の社会階層
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

12	6章　社会変動と文化現象　1. そして、みんな軽くなった？
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

13	6章　社会変動と文化現象　2. 出版動向の変容に関するさまざまな語り口とその問題点
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

14	7章　「ジェンダー・フリー」のゆくえ　ージェンダー視点で近現代日本社会を見る
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

15	付　リスク社会の克服　ーリスク化する社会
事前	テキスト当該章の1ページ目にある「写真」を見て、この章で学ぶ内容をイメージし自分の言葉で簡潔にノートに記す。「まえがき」をよく読み大切だと思う箇所をマーキングする。マーキングした用語や文章を覚えてノートに記す。本文の項目ごとに要点まとめ読書ノートを作成する。(2時間)
事後	テキストや読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。(2時間)

2020/07/16(木)22:04

科 目 名	基礎演習I [心]			授業コード	1220020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、「捨我精進」の意味を説明できるようになること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎教養を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を修得し、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路について考え、関係する情報を収集すること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業を受けるときの常識、ノートの取り方、図書館の利用方法、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な基礎知識や技能を修得する。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考える機会を設ける。また、授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、レポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○		○				
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「日本語プレースメントテスト」の実施、建学の精神、入学前課題の確認
事前	大学のホームページで、建学の精神について読んでおくこと。また、入学前課題を見直し、提出の準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	エンカウンター(自己紹介)、大学での授業について
事前	テキストのⅠを読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	講義の基本、ノート・メモのとり方、プリント資料の管理等
事前	Ⅱの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	講義の聞き方と、ノートのとり方の工夫
事前	Ⅱの3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	レポートの書き方について
事前	Ⅲの1と2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	レポート作成と提出にあたっての留意事項、試験に向けた学習の仕方
事前	Ⅲの3と4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	定期試験について、大学の授業の成績評価について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および成績に関する項目、テキストのコラム2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	本の読み方の基本
事前	Ⅱの4，5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	本の読み方の応用
事前	Ⅱの6を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	キャリア形成について
事前	Ⅶの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	Ⅲの5～8を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	レポート作成の技術
事前	Ⅲの9～11、コラム5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	講演「青年期と性」(共同授業)
事前	配布資料を読んでおくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等) (共同授業)
事前	Ⅳの4～7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストの中で、授業で扱った内容にかかわる箇所を流し読みし、振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:06

科 目 名	基礎演習II [心]			授業コード	1220030
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	捨我精進、レポートの書き方、本の読み方、聴き方・話し方、プレゼンテーション

到達目標	この授業では、以下の4点を目標とする。 1. 建学の精神について理解を深め、大学で専門分野を学ぶことの意味を理解すること。 2. 広い視野で物事を捉え、主体的に学んでいくための、基礎能力を身につけること。 3. 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識や技能を高め、他の授業で活用できるようになること。 4. 心理・福祉・教育の各分野に対する興味関心を深め、将来の自らの進路に関連させ、専門知識を学ぶことの意義を知ること。			
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の意味を理解する。授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、レポートの書き方、プレゼンテーションやディスカッション等、大学生として学んでいくために必要不可欠な知識や技能を高める。さらに、心理・福祉・教育の各専門分野が社会の中でどのように相互に関わっているのか、自らの進路と関係させながら考え、他者に説明したり、議論する。授業においては、ディスカッションやプレゼンテーション等の能動的な学修方法を取り入れる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワークを取り入れる。後期の最後には、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（75%）、プレゼンテーションおよびレポート課題（25%）に基づいて総合的に評価する。		
フィードバック	レポートの作成についての学習では、提出されたレポートを添削し、後日返却する。プレゼンテーションについては、最終回でコメントをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業計画および授業でのアナウンスをもとに、適宜必要な下調べや課題を作成するなど、事前学習を充分に行うこと。また、授業後には、授業内容について充分な復習を行うこと。各回につき、それぞれ1.0時間(予習0.5時間、復習0.5時間)が目安となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	田中共子編 『よくわかる学びの技法　第3版』、ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、2年次の授業について
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅰ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2	専門書の読み方について
事前	Ⅴの6、コラム9を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

3	本の読み方の工夫
事前	Ⅱの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

4	本の読み方と要約
事前	Ⅱの6、コラム7を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

5	資料収集、情報リテラシーについて
事前	Ⅴの4、5を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

6	資料を活用したレポート・論文の書き方について
事前	Ⅵの1，2を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

7	レポート、定期試験について
事前	本学のキャンパスガイドの定期試験および、成績に関する項目を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

8	大学2年次の留意点
事前	Ⅵの3，4を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

9	「聴きかた」について
事前	Ⅳの1を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

10	意見を言うこと(話し方)について
事前	Ⅳの1，2、3を読んでおくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

11	レポート作成および資料収集の方法について
事前	レポート作成にかかわるこれまでの学びをまとめておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

12	プレゼン・発表のテーマ設定
事前	自らの進路について考え、その進路に必要な基礎知識を調べてくること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

13	プレゼン・発表の仕方について
事前	プレゼンテーションに関するこれまでの学びを振り返っておくこと。(30分)

事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

14	プレゼン・発表(PC教室等)(共同授業)
事前	プレゼンテーションの準備をすること。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

15	まとめ
事前	テキストやノートを見返し、「基礎演習Ⅱ」の学習内容を振り返っておくこと。(30分)
事後	授業の内容を復習しておくこと。(30分)

2020/07/16(木)10:34

科 目 名	社会調査法 [社]			授業コード	1220041
副 題	社会現象を科学的にとらえる				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	研究と調査、質的調査、量的調査、記述と説明、

到達目標	1.社会調査の基本的な考え、技法、および結果の示し方について理解し、説明ができる。 2.社会統計など公的機関の実施した調査データの賢い消費者になる。			
授業の概要	1. 社会調査とは何かを理解するために、さまざまな社会調査の具体例を学びます。 2. 社会調査の歴史的な発展について学びます。 3. 社会調査の目的と、目的に応じた技法ならびににデータの特徴について学びます。 4. 質的調査と量的調査について学びます。 5. 現代社会と社会調査の関係について学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	クラス内で実施する複数回の小テスト・課題（50%）および期末試験（50%）の合計で成績を評価する。		
フィードバック	小テストや課題の解答については原則として「でんでんばん」によりフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	1.「でんでんばん」のクラスプロファイルならびに掲示は毎週みること。 2. クラス内の小テストや課題は不定期で複数回の実施とする。 3. 授業の進め方は原則としてテキストに沿ったものとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	北川由紀彦ほか 「社会調査の基礎」 放送大学教育振興会	9784595315664
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	林知己夫 「調査の科学」 筑摩書房 浜嶋明他 「新版増補版 社会学小辞典」 有斐閣 佐藤郁也 「フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう」 新曜社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・社会調査とはなにか
事前	テキスト（9~20ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（9~20ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2	社会調査の歴史
事前	テキスト（22~32ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（22~32ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

3	研究と社会調査
事前	テキスト（34~44ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（34~44ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

4	社会調査の対象と方法
事前	テキスト（45~56ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（45~56ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

5	既存の資料・データの収集と活用
事前	テキスト（58~69ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（58~69ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

6	質的調査の種類と考え方
事前	テキスト（70~80ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（70~80ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

7	インタビュー調査
事前	テキスト（83~96ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（83~96ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

8	フィールドワークの方法と倫理
事前	テキスト（97~107ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（97~107ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

9	調査の手順

事前	テキスト（109~122ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（109~122ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

10	母集団と標本
事前	テキスト（123~134ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（123~134ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

11	調査票の作成
事前	テキスト（136~149ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（136~149ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

12	調査票の点検とデータ作成
事前	テキスト（150~161ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（150~161ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

13	変数間の関係を把握する
事前	テキスト（162~177ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（162~177ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

14	母集団を推測する
事前	テキスト（178~190ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（178~190ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

15	社会調査と現代社会
事前	テキスト（192~205ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（192~205ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2020/07/16(木)11:11

科 目 名	社会調査法 [社]			授業コード	1220051
副 題	社会現象を科学的にとらえる				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	研究と調査、質的調査、量的調査、記述と説明、

到達目標	1.社会調査の基本的な考え、技法、および結果の示し方について理解し、説明ができる。 2.社会統計など公的機関の実施した調査データの賢い消費者になる。			
授業の概要	1. 社会調査とは何かを理解するために、さまざまな社会調査の具体例を学びます。 2. 社会調査の歴史的な発展について学びます。 3. 社会調査の目的と、目的に応じた技法ならびににデータの特徴について学びます。 4. 質的調査と量的調査について学びます。 5. 現代社会と社会調査の関係について学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	クラス内で実施する複数回の小テスト・課題（50%）および期末試験（50%）の合計で成績を評価する。		
フィードバック	小テストや課題の解答については原則として「でんでんばん」によりフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	1.「でんでんばん」のクラスプロファイルならびに掲示は毎週みること。 2. クラス内の小テストや課題は不定期で複数回の実施とする。 3. 授業の進め方は原則としてテキストに沿ったものとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	北川由紀彦ほか 「社会調査の基礎」 放送大学教育振興会	9784595315664
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	林知己夫 「調査の科学」 筑摩書房 浜嶋明他 「新版増補版 社会学小辞典」 有斐閣 佐藤郁也 「フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう」 新曜社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・社会調査とはなにか
事前	テキスト（9~20ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（9~20ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2	社会調査の歴史
事前	テキスト（22~32ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（22~32ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

3	研究と社会調査
事前	テキスト（34~44ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（34~44ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

4	社会調査の対象と方法
事前	テキスト（45~56ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（45~56ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

5	既存の資料・データの収集と活用
事前	テキスト（58~69ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（58~69ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

6	質的調査の種類と考え方
事前	テキスト（70~80ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（70~80ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

7	インタビュー調査
事前	テキスト（83~96ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（83~96ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

8	フィールドワークの方法と倫理
事前	テキスト（97~107ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（97~107ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

9	調査の手順

事前	テキスト（109~122ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（109~122ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

10	母集団と標本
事前	テキスト（123~134ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（123~134ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

11	調査票の作成
事前	テキスト（136~149ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（136~149ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

12	調査票の点検とデータ作成
事前	テキスト（150~161ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（150~161ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

13	変数間の関係を把握する
事前	テキスト（162~177ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（162~177ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

14	母集団を推測する
事前	テキスト（178~190ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（178~190ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

15	社会調査と現代社会
事前	テキスト（192~205ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（192~205ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2020/07/16(木)21:13

科 目 名	社会調査法 [介]			授業コード	1220061
副 題	社会現象を科学的にとらえる				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	研究と調査、質的調査、量的調査、記述と説明、

到達目標	1.社会調査の基本的な考え、技法、および結果の示し方について理解し、説明ができる。 2.社会統計など公的機関の実施した調査データの賢い消費者になる。
授業の概要	1. 社会調査とは何かを理解するために、さまざまな社会調査の具体例を学びます。 2. 社会調査の歴史的な発展について学びます。 3. 社会調査の目的と、目的に応じた技法ならびににデータの特徴について学びます。 4. 質的調査と量的調査について学びます。 5. 現代社会と社会調査の関係について学びます。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	クラス内で実施する複数回の小テスト・課題（50%）および期末試験（50%）の合計で成績を評価する。		
フィードバック	小テストや課題の解答については原則として「でんでんばん」によりフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	1.「でんでんばん」のクラスプロファイルならびに掲示は毎週みること。 2. クラス内の小テストや課題は不定期で複数回の実施とする。 3. 授業の進め方は原則としてテキストに沿ったものとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	北川由紀彦ほか 「社会調査の基礎」 放送大学教育振興会	9784595315664
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	林知己夫 「調査の科学」 筑摩書房 浜嶋明他 「新版増補版 社会学小辞典」 有斐閣 佐藤郁也 「フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう」 新曜社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・社会調査とはなにか
事前	テキスト（9~20ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（9~20ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2	社会調査の歴史
事前	テキスト（22~32ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（22~32ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

3	研究と社会調査
事前	テキスト（34~44ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（34~44ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

4	社会調査の対象と方法
事前	テキスト（45~56ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（45~56ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

5	既存の資料・データの収集と活用
事前	テキスト（58~69ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（58~69ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

6	質的調査の種類と考え方
事前	テキスト（70~80ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（70~80ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

7	インタビュー調査
事前	テキスト（83~96ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（83~96ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

8	フィールドワークの方法と倫理
事前	テキスト（97~107ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（97~107ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

9	調査の手順

事前	テキスト（109~122ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（109~122ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

10	母集団と標本
事前	テキスト（123~134ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（123~134ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

11	調査票の作成
事前	テキスト（136~149ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（136~149ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

12	調査票の点検とデータ作成
事前	テキスト（150~161ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（150~161ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

13	変数間の関係を把握する
事前	テキスト（162~177ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（162~177ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

14	母集団を推測する
事前	テキスト（178~190ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（178~190ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

15	社会調査と現代社会
事前	テキスト（192~205ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（192~205ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2020/07/16(木)20:26

科 目 名	社会調査法 [心]			授業コード	1220071
副 題	社会現象を科学的にとらえる				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	研究と調査、質的調査、量的調査、記述と説明、

到達目標	1.社会調査の基本的な考え、技法、および結果の示し方について理解し、説明ができる。 2.社会統計など公的機関の実施した調査データの賢い消費者になる。			
授業の概要	1. 社会調査とは何かを理解するために、さまざまな社会調査の具体例を学びます。 2. 社会調査の歴史的な発展について学びます。 3. 社会調査の目的と、目的に応じた技法ならびににデータの特徴について学びます。 4. 質的調査と量的調査について学びます。 5. 現代社会と社会調査の関係について学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	クラス内で実施する複数回の小テスト・課題（50%）および期末試験（50%）の合計で成績を評価する。		
フィードバック	小テストや課題の解答については原則として「でんでんばん」によりフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	1.「でんでんばん」のクラスプロファイルならびに掲示は毎週みること。 2. クラス内の小テストや課題は不定期で複数回の実施とする。 3. 授業の進め方は原則としてテキストに沿ったものとする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	北川由紀彦ほか 「社会調査の基礎」 放送大学教育振興会	9784595315664
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	林知己夫 「調査の科学」 筑摩書房 浜嶋明他 「新版増補版 社会学小辞典」 有斐閣 佐藤郁也 「フィールドワーク増訂版 書を持って街へ出よう」 新曜社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・社会調査とはなにか
事前	テキスト（9~20ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（9~20ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2	社会調査の歴史
事前	テキスト（22~32ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（22~32ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

3	研究と社会調査
事前	テキスト（34~44ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（34~44ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

4	社会調査の対象と方法
事前	テキスト（45~56ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（45~56ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

5	既存の資料・データの収集と活用
事前	テキスト（58~69ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（58~69ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

6	質的調査の種類と考え方
事前	テキスト（70~80ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（70~80ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

7	インタビュー調査
事前	テキスト（83~96ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（83~96ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

8	フィールドワークの方法と倫理
事前	テキスト（97~107ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（97~107ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

9	調査の手順

事前	テキスト（109~122ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（109~122ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

10	母集団と標本
事前	テキスト（123~134ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（123~134ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

11	調査票の作成
事前	テキスト（136~149ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（136~149ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

12	調査票の点検とデータ作成
事前	テキスト（150~161ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（150~161ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

13	変数間の関係を把握する
事前	テキスト（162~177ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（162~177ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

14	母集団を推測する
事前	テキスト（178~190ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（178~190ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

15	社会調査と現代社会
事前	テキスト（192~205ページ）の〈目標＆ポイント〉をよく読み、ポイントに沿った読書ノートの作成を行う。また、読書ノートの1ページ目には〈キーワード〉に掲げられた概念や用語の簡潔な説明をまとめておく。（2時間）
事後	テキスト（192~205ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモをもとにノートを完成させる。講義中にわからなかった言葉などは辞書で調べてノートに補足しておく。（2時間）

2020/07/16(木)22:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [心]			授業コード	1220080
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)21:14

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [介]			授業コード	1220092
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)21:07

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [心]			授業コード	1220102
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)11:07

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1220120
副 題	バイステックと自己覚知				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	バイステック、自己理論、対人援助論、

到達目標	1. バイステックの「7つの原則」についての理解を深める。 2. 対人援助職にとっての自己覚知の理解を深める。			
授業の概要	1. バイステックのライフヒストリー、 2 .「ケースワークの原則」の原著と翻訳の比較、 3. 7つの原則誕生の経緯、 4. 自己覚知の理論、 5. 新たなバイステック理解の可能性、			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	課題レポートで評価する。なお、課題レポートは複数回あり、クラス内での発表も評価の対象となる。レポート50%、発表50%の合計点で評価する。		
フィードバック	クラス内での質疑応答にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	少人数の演習形式であることから履修生の積極的な参加を期待する。でんでんばんのクラスプロファイルを毎週確認すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○			○			
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	F.P.バイステック 「ケースワークの原則」 誠信書房	978414604047
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	前半は、バイステックならびに自己覚知についての最新研究の動向について学ぶ。 中盤では、「ケースワークの原則」の第1部を輪番制にて読み込む。 後半は、7つの原則の各々について輪番制にて原著と翻訳から理解を深める。
事前	テキストの当該箇所をよく読みこんで読書ノートを作成する。輪番の課題については、発表のためのレジュメをA41枚で用意する。(2時間)
事後	クラスでの質疑応答や発表内容のメモを際さして読書ノートの完成度を高める。(1時間)

2020/07/16(木)11:20

科 目 名	老年社会学 [社]			授業コード	1220142
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	藤原 亮一				

科目に関する キーワード	老年観、sociology of aging、 sociology of the aged、サクセスフルエイジング、

到達目標	老年社会学を社会学の一分野として学ぶが、医学や心理学、社会福祉などの分野での老年研究についても理解を深め、高齢社会の諸問題に主体的に取り組む知識を身に付けることができる。			
授業の概要	1. 老年観の変遷について学ぶ 2. 高齢社会の人口学的構造について学ぶ 3. 高齢者の就業・就労について学ぶ 4. 高齢社会の経済学的側面について学ぶ 5. 高齢者と家族・地域支援について学ぶ 6. 高齢者の社会的役割について学ぶ 7. サクセスフルエイジング論について学ぶ 8. 高齢社会と死生観について学ぶ 9. 高齢者問題の国際化について学ぶ 10. これからの老年学について学ぶ			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験（50%）とクラス内の小テスト・課題（50%）の総合成績により評価する。選択科目であることから評価は厳しめにする、なお、課題はクラス内での発表を伴う。		
フィードバック	小テストや課題の解説は原則として「でんでんばん」のクラスプロファイルにて周知する。			
履修に際しての 注意事項	社会学でB評価以上の学生の履修を歓迎する。選択科目であることから目的意識をしっかり持った学生の履修を希望する。「でんでんばん」のクラスプロファイルを毎週確認すること。講義形式ではあるが、課題発表を全ての履修生に課す。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○	○					

テキスト1	斉藤正彦編 「高齢社会考」 ワールドプランニング	9784863510265
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	今泉礼右ほか 「グローカル時代の社会学」 みらい 藤原亮一ほか 「いきいきとしたシニア社会へ」 川崎市社会教育委員会議 Harris, D.K. 「Sociology of Aging」 Harper & Row	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・老年観の変遷
事前	テキスト(1～11ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(1～11ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

2	高齢社会の人口学的構造
事前	テキスト(15～25ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(15～25ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

3	高齢者の就業・就労
事前	テキスト(29～36ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(29～36ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

4	高齢社会の経済学的側面
事前	テキスト(41～53ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(41～53ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

5	高齢社会の政治学
事前	テキスト(55～69ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(55～69ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

6	孤独死の社会学
事前	論文原稿(藤原、2015)をよく読んで読書ノートを作成する。(2時間)
事後	論文原稿(藤原、2015)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

7	高齢社会と家族・地域支援
事前	テキスト(85～95ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(85～95ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

8	高齢社会と社会的役割
事前	テキスト(97～105ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(97～105ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

9	諸外国の高齢化から学ぶ
事前	論文原稿(藤原、2008)をよく読んで読書ノートを作成する。(2時間)
事後	論文原稿(藤原、2008)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

10	高齢社会と自立援助
事前	テキスト(125～134ページ)をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。(2時間)
事後	テキスト(125～134ページ)や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。(2時間)

11	高齢社会と精神医学

事前	テキスト（135～142ページ）をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。（2時間）
事後	テキスト（135～142ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。（2時間）

12	サクセスフルエイジング
事前	テキスト（147～155ページ）をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。（2時間）
事後	テキスト（147～155ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。（2時間）

13	老年学の現状と課題
事前	テキスト（157～165ページ）をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。（2時間）
事後	テキスト（157～165ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。（2時間）

14	高齢社会と死生観
事前	テキスト（181～190ページ）をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。（2時間）
事後	テキスト（181～190ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。（2時間）

15	老年学の展望
事前	テキスト（191～203ページ）をよく読んで読書ノートを作成する。課題がある場合は、内容をレジュメ形式でA41枚にまとめクラスに持参する。（2時間）
事後	テキスト（191～203ページ）や読書ノートに書き込んだ講義内容のメモを精査してノートの完成度を高める。（2時間）

2020/07/16(木)10:47

科 目 名	心理学 [心]			授業コード	1230011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学
到達目標	本講義では、心理学の基礎的な理論全般を学び、さらにそれらの知見を生かした支援法についても理解を深める。 ＜到達目標＞ （1）心理学とは何を学ぶ学問であるかを理解し、心理学全般にわたる知識を修得する。 （2）心理学の理論による人間の理解とその技法の基礎について説明できる。 （3）人の成長・発達と心理との関係について説明できる。 （4）日常生活と心の健康との関係について説明できる。 （5）心理的支援の方法と実際について説明できる。
授業の概要	本講義では、心理学の基礎的な理論を学び、さらにそれらの知見を生かした支援の方法について学ぶ。心理学は様々な近接領域と結びつくことで、領域が広がっており、それによって学ぶ内容も多岐にわたっている。感覚と知覚の心理、学習と思考の心理といった「心のしくみ」に関する内容から、社会における人間関係、心の発達、ストレスとメンタルヘルスなど、環境に適応していくうえで心がどのように役立っているのかといった「心と適応」に関する内容まで学ぶことになる。心理学の大枠を理解し、興味を深めることができるように、現代的なトピックスを交えながら解説していく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○	毎回ワークシートを用いて、授業の振り返りを行う。理解度確認のために7回目と14回目の授業で小テストを実施し、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。また講義の一部で、模擬的な心理学実験や心理検査の体験、グループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート課題(60%)、理解度確認テスト1（20%）、理解度確認テスト2(20%)、によって評価を行う。理解度確認テストは7回目と14回目の授業で行う予定である。
フィードバック	授業の理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。	
履修に際しての 注意事項	教科書を必ず持参すること。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				
III							

IV							
V							

テキスト1	『はじめて出会う心理学』長谷川寿一・東條正城・大島　尚・丹野義彦・廣中直行（有斐閣アルマ）	9784641123458
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに―心理学とは
事前	シラバスならびに教科書の目次を読んでくること。（学修時間30分）
事後	配付資料を基にして、心理学の歴史や研究法について内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間3時間30分）

2	こころの発達ー赤ちゃんは大人とどう違うのか？ー
事前	教科書の第3章を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【愛着】【社会的参照行動】【カテゴリー化】（学修時間2時間）
事後	乳幼児期の心の発達について、ワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	ライフサイクルー人は生涯発達するー
事前	教科書の第4章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【エリクソンの心理社会的発達段階】【自我同一性】（学修時間2時間）
事後	エリクソンの心理社会的発達段階について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	動機づけと情動ーやる気の心理学ー
事前	教科書の第5章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【動機づけ】【生理的動機】【社会的動機】（学修時間2時間）
事後	動機づけの過程について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	性格ー個人差をどう考えるのかー
事前	教科書の第6章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【類型論】【特性論】【ビッグ5】（学修時間2時間）
事後	性格の測定について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	ストレスとメンタルヘルス
事前	教科書の第8章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【ストレッサー】【ストレス反応】【対処行動】（学修時間2時間）
事後	ストレス過程について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	カウンセリングと心理療法
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、配付資料を基にして、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。 （学修時間2時間）
事後	心理療法の理論について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	感覚・知覚のはたらき
事前	教科書の第11章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【幾何学的錯視】【知覚の恒常性】（学修時間2時間）
事後	感覚・知覚心理学について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	記憶ー覚えることと忘れることー
事前	教科書の第12章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【記憶の過程】【短期記憶】【長期記憶】（学修時間2時間）
事後	記憶について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	学習ー経験から学ぶー
	教科書の第13章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。

事前	【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】（学修時間2時間）
事後	古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	知的能力とは何か
事前	教科書の第7章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【知能の定義】【結晶性知能】【流動性知能】（学修時間2時間）
事後	知能の測定について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	思考－論理と直感－
事前	教科書の第14章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【思考】【推論】【問題解決】（学修時間2時間）
事後	思考、推論、問題解決について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	社会の中の人ー他者による影響と他者の認知ー
事前	教科書の第17章を読んで以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。 【社会的促進】【社会的手抜き】【同調行動】（学修時間2時間）
事後	社会的影響と社会的認知に関するトピックスの要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	心と社会ー協調と信頼ー
事前	8～13回目の授業の確認テストを行うので、配付資料を基にして、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。 （学修時間2時間）
事後	社会的ジレンマについて要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	まとめー心理学を活かしてー
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	これまでの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)20:46

科 目 名	心理学 [科]			授業コード	1230021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	川上 克樹				

科目に関する キーワード	実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学
到達目標	本講義では、心理学の基礎的な理論全般を学び、さらにそれらの知見を生かした支援法についても理解を深める。 ＜到達目標＞ （1）心理学とは何を学ぶ学問であるかを理解し、心理学全般にわたる知識を修得する。 （2）心理学の理論による人間の理解とその技法の基礎について説明できる。 （3）人の成長・発達と心理との関係について説明できる。 （4）日常生活と心の健康との関係について説明できる。 （5）心理的支援の方法と実際について説明できる。
授業の概要	本講義では、心理学の基礎的な理論を学び、さらにそれらの知見を生かした支援の方法について学ぶ。心理学は様々な近接領域と結びつくことで、領域が広がっており、それによって学ぶ内容も多岐にわたっている。感覚と知覚の心理、学習と思考の心理といった「心のしくみ」に関する内容から、社会における人間関係、心の発達、ストレスとメンタルヘルスなど、環境に適応していくうえで心がどのように役立っているのかといった「心と適応」に関する内容まで学ぶことになる。心理学の大枠を理解し、興味を深めることができるように、現代的なトピックスを交えながら解説していく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 毎回ワークシートを用いて授業の振り返りを行う。理解度確認のために、7回目と14回目の授業で小テストを実施し、事後の授業において結果を返却するとともに、解説を行う。また講義の一部で模擬的な心理学実験や心理検査の体験、グループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート / 期末レポート課題(60%)、理解度確認テスト(40%)によって評価を行う。理解度確認テストは7回目、14回目の授業で行う予定である。
フィードバック	授業の理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに、解説を行う。
履修に際しての 注意事項	教科書を必ず持参すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				
III							

IV							
V							

テキスト1	『はじめて出会う心理学』長谷川寿一・東條正城・大島　尚・丹野義彦・廣中直行（有斐閣アルマ）	9784641123458
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに―心理学とは
事前	シラバスを熟読してくること（学修時間30分）。
事後	配付資料を基にして、心理学の歴史や研究法について内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業時に確認をする。（学修時間3時間30分）

2	こころの発達ー赤ちゃんは大人とどう違うのか？ー
事前	教科書の第3章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【愛着】【社会的参照行動】【カテゴリー化】（学修時間2時間）
事後	乳幼児期の心の発達について、ワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	ライフサイクルー人は生涯発達するー
事前	教科書の第4章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【エリクソンの心理社会的発達段階】【自我同一性】（学修時間2時間）
事後	エリクソンの心理社会的発達段階について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	動機づけと情動ーやる気の心理学ー
事前	教科書の第5章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【動機づけ】【生理的動機】【社会的動機】（学修時間2時間）
事後	動機づけの過程について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	性格ー個人差をどう考えるのかー
事前	教科書の第6章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【類型論】【特性論】【ビッグ5】（学修時間2時間）
事後	性格の測定について要点を整理してワークシートにまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	ストレスとメンタルヘルス
事前	教科書の第8章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【ストレッサー】【ストレス反応】【対処行動】（学修時間2時間）
事後	ストレス過程について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	カウンセリングと心理療法
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、配付資料を基にして復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	心理療法の理論について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	感覚・知覚のはたらき
事前	教科書の第11章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【幾何学的錯視】【知覚の恒常性】（学修時間2時間）
事後	感覚・知覚心理学について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	記憶ー覚えることと忘れることー
事前	教科書の第12章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【記憶の過程】【短期記憶】【長期記憶】（学修時間2時間）
事後	記憶について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	学習ー経験から学ぶー
事前	教科書の第13章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】（学修時間2時間）

事後	学習心理学について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	知的能力とは何か
事前	教科書の第7章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【知能の定義】【結晶性知能】【流動性知能】（学修時間2時間）
事後	知能の測定について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	思考－論理と直感－
事前	教科書の第14章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【思考】【推論】【問題解決】（学修時間2時間）
事後	認知心理学について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	社会の中の人ー他者による影響と他者の認知－
事前	教科書の第17章を読んで、以下のキーワードについて調べてノートにまとめてくる。 【社会的促進】【社会的手抜き】【同調行動】（学修時間2時間）
事後	社会的影響と社会的認知について要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	心と社会ー協調と信頼－
事前	7～13回目の授業の確認テストを行うので、配付資料を基にして、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。 （学修時間2時間）
事後	社会的ジレンマについて要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	まとめー心理学を活かしてー
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。
事後	これまでの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。

2020/07/16(木)20:46

科 目 名	教育相談 [心]			授業コード	1230032
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関するキーワード	3段階の心理教育的援助サービス、カウンセリングの理論、傾聴の技法、アセスメント、チーム学校
到達目標	学校における教育相談の意義を理解し、教師として必要なカウンセリングの基礎的知識とスキルを修得し、子どもたちの抱える諸問題に対し、適切な対応ができるようになることを目標とする。 本講義の到達目標は、以下の3点である。 (1)学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ①学校における教育相談の意義と理論について説明することができる。 ②教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念について説明することができる。 (2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングの理論や技法)を理解する。 ①子どもの不適応や問題行動の意味、子どもの発するシグナルに気づき把握する方法をあげることができる。 ②学校教育におけるカウンセリングマインドとは何か理解している。 ③受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について説明することができる。 (3)教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。 ①職種や校務分掌に応じて、子どもや保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 ②いじめ、不登校、虐待、非行などの課題に対する子どもの発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を説明することができる。 ③教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性について理解し説明することができる。 ④地域の医療・福祉・心理などの専門機関との連携の意義や必要性について説明することができる。
授業の概要	教育相談は、子どもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性を伸長し、人格を成長させることを支援する教育活動である。本講義では、教育相談に必要な基礎的な知識や概念を学ぶことで、子どもと教育をめぐる諸問題について考察を深める。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でワークシートを提出する。講義の一部で少人数による話し合いやグループワークを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	期末レポート(70%)およびワークシート(30%)によって評価する。		
フィードバック	ワークシートについては、事後の授業で返却するとともに、解説を行い、疑問点を整理し、理解を深める。			
履修に際しての注意事項	日頃から、教育現場における課題に関心を持ち、積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III					○		
IV							
V	○	○					

テキスト1	西本絹子 『教師のための初等教育相談　日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援』 萌文書林	9784893473172
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育相談とは
事前	シラバスならびに教科書の目次を読む。（学修時間30分）
事後	授業の内容を整理し、教育の現場における課題や背景について整理してまとめる。（学修時間3時間30分）

2	教師に求められる臨床的視点ーカウンセリングマインドとはー
事前	教科書第1章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【教師の行う教育相談とカウンセリングの違い】【指導とカウンセリングマインドのあり方】
事後	ワークシートを基にして、教師に求められる臨床的視点について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	教師の行う教育相談の役割・特徴
事前	教科書第1章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【開発的教育相談】【予防的教育相談】【問題解決的教育相談】
事後	ワークシートを基にして、教師の行う教育相談の役割と特徴について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	カウンセリングの理論
事前	教科書第2章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【精神分析理論】【行動療法】【来談者中心療法】
事後	ワークシートを基にして、カウンセリングの理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	カウンセリングの技法（1）傾聴の基本的な心構え
事前	教科書第3章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【かかわり行動】【繰り返し】【明確化】【要約】
事後	ワークシートを基にして、傾聴の基本的な心構えについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	カウンセリングの技法（2）保護者を対象としたカウンセリング
事前	教科書第4章を読んで、保護者対応の基本について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、カウンセリングマインドを活かした保護者との関係づくりについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	発達的な視点からの子どもの理解
事前	教科書第5章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【マイクロシステム】【メゾシステム】【エクソシステム】
事後	ワークシートを基にして、子どもを理解するための発達の視点について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	問題のアセスメント
	教科書第6、7章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間）

事前	【アセスメントの定義】【アセスメントの対象】【アセスメントの方法】
事後	ワークシートを基にして、問題をアセスメントする方法について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	いじめ問題への対応
事前	教科書第8章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【いじめの定義の変遷】【いじめの構造】【いじめ防止対策推進法】
事後	ワークシートを基にして、いじめへの対応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	不登校への対応
事前	教科書第9章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【不登校の実態】【不登校の原因】【不登校の背後にある社会的要因】
事後	ワークシートを基にして、不登校への対応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	非行への対応
事前	参考資料を読んで、非行への3段階の心理教育的援助サービスについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、非行への対応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	特別な支援を必要とする子どもへの対応
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【特別支援教育】【特別な教育ニーズのある子どもへの支援の原則】
事後	ワークシートを基にして、特別な支援を要する子どもへの学校における支援体制、対応のポイントについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	協働的チーム援助の実際
事前	教科書第12章を読んで、援助チームの一員としての保護者との関係づくりのあり方について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、多様な援助者によるチーム援助のあり方について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	専門機関との連携
事前	配付資料を参考にして、子どもの援助ニーズに応じる関係機関とその機能について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、関係機関の特徴とその機能について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	教育相談の実践にむけて
事前	これまでの総復習を行い、疑問点を整理してくる。（学修時間2時間）
事後	理解しきれていなかった点について再度まとめ直すとともに、ここまでの学修成果をもとに今後の学修方針を考える。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)10:48

科 目 名	教育心理学 [心]			授業コード	1230042
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関するキーワード	発達 学習 学級集団 学習指導 教育評価
到達目標	本講義では、教育に関する心理学的知見を広く紹介し、子どもの心身の発達および学びの過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とする。本講義の到達目標は以下の2点である。 (1)子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ①子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義について説明することができる。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容について説明することができる。 (2)子どもの学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 ①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎について説明することができる。 ②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明することができる。 ③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について整理して述べることができる。
授業の概要	子どもを取り巻く環境が変化し、学びの質がより問われるようになった今日、教育の理解や改善のために教育心理学が果たすべき役割はますます高まっている。本講義では、教育の対象である子どもの発達や学習に関する理解を深め、子どもの学びを支える環境(指導や評価、学級経営のあり方など)について学習する。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	理解度確認のため、7回目と14回目の授業で小テストを実施する。また講義の一部で少人数による話し合いや心理検査の体験やグループワークなどを行う。
評価方法及び評価基準	試験	期末試験(60%)、理解度確認テスト(40%)によって評価する。その他、読書レポート等により加算をする。		
フィードバック	授業の理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。			
履修に際しての注意事項	授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							

II			○	○			
III							
IV							
V	○						

テキスト1	『実践につながる教育心理学』 櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）（北樹出版）	4779303257
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義の中で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育心理学とは
事前	シラバスならびに教科書の目次を読んでくる。（学修時間30分）
事後	授業内で話された内容を整理し、教育の現場における課題や背景、教育心理学の研究法について整理してまとめる。（学修時間3時間30分）

2	発達段階と発達課題
事前	教科書第1章を読んで、発達段階、発達課題について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、発達段階および発達課題について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	発達を規定する要因
事前	教科書第1章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【レディネス】【臨界期】【相互作用説】【発達の最近接領域】
事後	ワークシートを基にして、発達を規程する要因について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	動機づけ －無気力を防いで意欲を高めるためには－
事前	教科書第4章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【内発的動機づけ】【外発的動機づけ】【原因帰属】【自己効力感】
事後	ワークシートを基にして、動機づけについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	学習のメカニズム(1) －行動主義－
事前	教科書第2章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【古典的条件づけ】【道具的（オペラント）条件づけ】
事後	ワークシートを基にして、学習理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	学習のメカニズム(2) －認知主義・状況主義－
事前	教科書第3章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【記憶のプロセス】【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
事後	ワークシートを基にして、記憶と知識の活用について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	知的能力とは何か
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、知能の個人差について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	人間関係と社会性 －子どもは人間関係のなかでどのように成長する？－
事前	教科書第5，6章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【自己概念】【自尊感情】【心の理論】【愛着の形成】
事後	ワークシートを基にして、自尊感情と社会性の発達について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	学級集団 －クラスはどのようにしてまとまるのか？－
事前	教科書第7章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【ハロー効果】【ピグマリオン効果】【ソシオメトリック・テスト】
事後	ワークシートを基にして、学級集団と教師の役割について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	授業の心理学(1)学習指導の理論
	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間）

事前	【プログラム学習】【発見学習】【有意味受容学習】
事後	ワークシートを基にして、学習指導の理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	授業の心理学(2)協同学習
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【適性処遇交互作用】【バズ学習】【ジグソー学習】
事後	ワークシートを基にして、協同学習について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	子どもの不適応と心理臨床
事前	教科書第8章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【外的適応】【内的適応】【過剰適応】
事後	ワークシートを基にして、子どもの不適応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	特別支援教育
事前	教科書第9章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【特別支援教育】【発達障害】【ユニバーサルデザイン】
事後	ワークシートを基にして、発達障害の特性と教育上の留意点について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	教育評価を指導に活かす
事前	7～13回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、教育評価について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	教育心理学を実践に活かすには
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	これまでの総復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)20:57

科 目 名	教育心理学 [子]			授業コード	1230052
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関するキーワード	発達 学習 学級集団 動機づけ 教育評価

到達目標	本講義の到達目標は以下の2点である。 (1)子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ①子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義について説明することができる。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容について説明することができる。 (2)子どもの学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 ①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎について説明することができる。 ②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて説明することができる。 ③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について整理して述べることができる。
授業の概要	子どもを取り巻く環境が変化し、学びの質がより問われるようになった今日、教育の理解や改善のために教育心理学が果たすべき役割はますます高まっている。本講義では、教育の対象である子どもの発達や学習に関する理解を深め、子どもの学びを支える環境(指導や評価、学級経営のあり方など)について考察を深める。本講義では、教育に関する心理学的知見を広く紹介し、子どもの心身の発達および学びの過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とする。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	理解度確認のため、7回目と14回目の授業で小テストを実施する。また講義の一部で少人数による話し合いや心理検査の体験やグループワークなどを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	期末レポート課題(60%)、小テストの得点(40%)によって評価する。		
フィードバック	授業への理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。			
履修に際しての注意事項	授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			

III							
IV							
V	○						

テキスト1	『実践につながる教育心理学』 櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）（北樹出版）	4779303257
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他、講義の中で、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育心理学とは
事前	シラバスならびに教科書の目次を読む。（学修時間30分）
事後	授業内で話された内容を整理し、教育の現場における課題や背景、教育心理学の研究法について整理してまとめる。（学修時間3時間30分）

2	発達段階と発達課題
事前	教科書第1章を読んで、発達段階および発達課題について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、発達段階および発達課題について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

3	発達を規定する要因
事前	教科書第1章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【レディネス】【臨界期】【相互作用説】【発達の最近接領域】
事後	ワークシートを基にして、発達を規定する要因について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

4	動機づけ －無気力を防いで意欲を高めるためには－
事前	教科書第4章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【内発的動機づけ】【外発的動機づけ】【原因帰属】【自己効力感】
事後	ワークシートを基にして、動機づけについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

5	学習のメカニズム(1) －行動主義－
事前	教科書第2章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【古典的条件づけ】【道具的（オペラント）条件づけ】
事後	ワークシートを基にして、学習理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

6	学習のメカニズム(2) －認知主義・状況主義－
事前	教科書第3章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【記憶のプロセス】【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
事後	ワークシートを基にして、記憶と知識の活用について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

7	知的能力とは何か
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、知能の個人差について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

8	人間関係と社会性 －子どもは人間関係のなかでどのように成長する？－
事前	教科書第5、6章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【自己概念】【自尊感情】【心の理論】【愛着の形成】
	ワークシートを基にして、自尊感情と社会性の発達について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。

事後	（学修時間2時間）

9	学級集団　ークラスはどのようにしてまとまるのか？ー
事前	教科書第7章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【ハロー効果】【ピグマリオン効果】【ソシオメトリックテスト】
事後	ワークシートを基にして、学級集団と教師の役割について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

10	授業の心理学(1)学習指導の理論
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【プログラム学習】【発見学習】【有意味受容学習】
事後	ワークシートを基にして、学習指導の理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

11	授業の心理学(2)協同学習
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【適性処遇交互作用】【バズ学習】【ジグソー学習】
事後	ワークシートを基にして、協同学習について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

12	子どもの不適応と心理臨床
事前	教科書第8章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【外的適応】【内的適応】【過剰適応】
事後	ワークシートを基にして、子どもの不適応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

13	特別支援教育
事前	教科書第9章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【特別支援教育】【発達障害】【ユニバーサルデザイン】
事後	ワークシートを基にして、発達障害の特性と教育上の留意点について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	教育評価を指導に活かす
事前	7～13回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、教育評価について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

15	教育心理学を実践に活かすには
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	これまでの総復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)10:58

科 目 名	教育心理学 [子]			授業コード	1230061
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	阿部 廣二				

科目に関するキーワード	発達 学習 学級集団 動機づけ 教育評価

到達目標	本講義の到達目標は以下の2点である。 (1)子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ①子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義について説明することができる。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容について説明することができる。 (2)子どもの学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 ①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎について説明することができる。 ②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて説明することができる。 ③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について整理して述べることができる。
授業の概要	子どもを取り巻く環境が変化し、学びの質がより問われるようになった今日、教育の理解や改善のために教育心理学が果たすべき役割はますます高まっている。本講義では、教育の対象である子どもの発達や学習に関する理解を深め、子どもの学びを支える環境(指導や評価、学級経営のあり方など)について考察を深める。本講義では、教育に関する心理学的知見を広く紹介し、子どもの心身の発達および学びの過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とする。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	理解度確認のため、7回目と14回目の授業で小テストを実施する。また講義の一部で少人数による話し合いや心理検査の体験やグループワークなどを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	期末レポート課題(60%)、小テストの得点(40%)によって評価する。		
フィードバック	授業への理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。			
履修に際しての注意事項	授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			

III							
IV							
V	○						

テキスト1	『実践につながる教育心理学』 櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）（北樹出版）	4779303257
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他、講義の中で、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育心理学とは
事前	シラバスならびに教科書の目次を読む。（学修時間30分）
事後	授業内で話された内容を整理し、教育の現場における課題や背景、教育心理学の研究法について整理してまとめる。（学修時間3時間30分）

2	発達段階と発達課題
事前	教科書第1章を読んで、発達段階および発達課題について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、発達段階および発達課題について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

3	発達を規定する要因
事前	教科書第1章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【レディネス】【臨界期】【相互作用説】【発達の最近接領域】
事後	ワークシートを基にして、発達を規定する要因について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

4	動機づけ －無気力を防いで意欲を高めるためには－
事前	教科書第4章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【内発的動機づけ】【外発的動機づけ】【原因帰属】【自己効力感】
事後	ワークシートを基にして、動機づけについて整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

5	学習のメカニズム(1) －行動主義－
事前	教科書第2章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【古典的条件づけ】【道具的（オペラント）条件づけ】
事後	ワークシートを基にして、学習理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

6	学習のメカニズム(2) －認知主義・状況主義－
事前	教科書第3章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【記憶のプロセス】【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
事後	ワークシートを基にして、記憶と知識の活用について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

7	知的能力とは何か
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、知能の個人差について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

8	人間関係と社会性 －子どもは人間関係のなかでどのように成長する？－
事前	教科書第5、6章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【自己概念】【自尊感情】【心の理論】【愛着の形成】
	ワークシートを基にして、自尊感情と社会性の発達について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。

事後	（学修時間2時間）

9	学級集団　ークラスはどのようにしてまとまるのか？ー
事前	教科書第7章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【ハロー効果】【ピグマリオン効果】【ソシオメトリックテスト】
事後	ワークシートを基にして、学級集団と教師の役割について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

10	授業の心理学(1)学習指導の理論
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【プログラム学習】【発見学習】【有意味受容学習】
事後	ワークシートを基にして、学習指導の理論について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

11	授業の心理学(2)協同学習
事前	教科書第10章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【適性処遇交互作用】【バズ学習】【ジグソー学習】
事後	ワークシートを基にして、協同学習について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

12	子どもの不適応と心理臨床
事前	教科書第8章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【外的適応】【内的適応】【過剰適応】
事後	ワークシートを基にして、子どもの不適応について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

13	特別支援教育
事前	教科書第9章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【特別支援教育】【発達障害】【ユニバーサルデザイン】
事後	ワークシートを基にして、発達障害の特性と教育上の留意点について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	教育評価を指導に活かす
事前	7～13回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、教育評価について整理をしてまとめる。次回の授業時に確認をする。 （学修時間2時間）

15	教育心理学を実践に活かすには
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	これまでの総復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)11:08

科 目 名	専門演習/専門演習I [心]			授業コード	1230080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関する キーワード	研究法 心理統計 論文購読

到達目標	1. 共通文献の輪読を通じて、レジュメの作成、発表の仕方、ディスカッションの仕方を修得する。 2. 文献検索の方法を修得する。 3. 論文を読むために必要な、心理学に関する知識、統計に関する基礎知識を身につける。 4. 心理学におけるさまざまな研究法の特徴について体験的に理解を深める。			
授業の概要	各自が興味をもった心理学に関するテーマについて理解を深め、研究論文を理解し、最終的には卒業論文を執筆することができるように授業をすすめていきます。発表やディスカッションを通して、各自の興味関心のあるテーマに関する知識を共有し、心理学を学ぶために必要となる総合的な力を身につけます。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	発表、ディスカッション、共同研究の実施
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート課題(50%)、授業内の発表・ディスカッション等での発言など授業中の活動状況(50%)により総合的に評価します。授業への主体的な参加を重視します。		
フィードバック	毎回の授業で、不明な点については解説を行う。レポート作成時には、個別に指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	心理学に興味を持ち、積極的に授業に参加することを求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III					○	○	
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	松井豊（著）『改訂新版　心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期　文献購読 　共通の専門書を輪読することにより、心理学の専門知識を深めます。具体的には、選定した共通の専門書について、学生が順番に発表を行い、教員が解説を加え、全体的な討論へ発展させるという形式ですすめていきます。また前期の後半には、卒業論文を執筆することもふまえて、各自の興味関心のある専門分野の研究論文を選択し、その内容について、学生が順番に発表し、教員が解説を加えます。研究論文を読むことで、専門的な知識を深め、また論文の構成や論文を理解する上でのポイントについて学習します。 後期　共同研究の実施 　後期には、共同研究を実施します。教員が研究計画の立て方、データの分析の方法、論文の書き方などについて講義を行い、共同で研究を実施し、個別にレポートを作成します。期末課題として、各自で研究レポートを作成し提出します。
事前	発表の準備を行う。（学修時間2時間）
事後	発表後指摘のあった箇所についての発展的な学習を行い、各自のテーマについて深める。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)21:48

科 目 名	教育心理学研究法 [心子]			授業コード	1230101
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	有井 優太				

科目に関する キーワード	観察法 実験法 面接法 質問紙調査法

到達目標	教育心理学領域で用いられる研究法について理解できるようになることを目的とする。 ＜到達目標＞ （1）教育心理学分野で用いられている研究法（観察法・実験法・面接法・質問紙調査法など）の特徴について説明することができる。 （2）データの収集、分析に必要な心理統計に関する基礎的な知識を習得し、研究の結果を説明できる。 （3）教育心理学分野の研究を理解するために必要な知識を活用して、研究論文を解釈することができる。
授業の概要	教育心理学は、教育過程の諸現象を心理学的に解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的としている。本講義では、教育心理学の領域で用いられている研究法（観察法、面接法、質問紙法、質的分析法など）および研究技法について講義する。具体的には教育心理学における代表的な研究を紹介し、それぞれの研究法の特徴について説明するとともに、研究の目的に即した研究技法の選定についても、具体的な研究例を紹介して講義する。またデータ収集、データの分析に必要な心理統計に関する基礎的な知識、および技法をについてもふれる。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	各研究法についての理解を深めるために、小グループでの実習を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート(60%)、理解度確認テスト(40%)によって評価する。理解度確認テストは、6回目、14回目の授業で行う予定である。		
フィードバック	授業の理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	各研究法について理解を深めるために、小グループでの実習を行うことがあります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V		○	○	○			

テキスト1	『教育心理学研究の技法（シリーズ心理学の技法）』 大村彰彦・秋田喜代美・竹網誠一郎・黒沢学・遠藤利彦・谷口明子・河原哲雄（著）（福村出版）	4571205864
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	小塩真司・西口利文（編）『質問紙調査の手順』（ナカニシヤ出版） 松浦均・西口利文（編）『観察法・調査的面接法の進め方』（ナカニシヤ出版）	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに
事前	シラバスならびに教科書の目次を読んでくること。（学修時間30分）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間3時間30分）

2	教育心理学における研究法の概要
事前	教科書の1章を読んで、研究アイディアを得るヒントについてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、教育心理学の研究法の概要を整理し、要点をまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	教育心理学における文献検索の方法
事前	興味のある研究テーマについて、まとめてくる。（学修時間2時間）
事後	各自の興味のある研究テーマについて文献を検索する。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	心理的測定と数量化
事前	配付資料を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【質的データ】【量的データ】【測定法の種類】
事後	配付資料を基にして、測定法と数量化について整理し、要点をまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	分布の代表値・散布度
事前	配付資料を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【代表値】【散布度】
事後	配付資料を基にして、代表値と散布度について授業内容を整理し、要点をまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	観察法（1）観察法の研究事例
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、配付資料を基にして充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	観察法の要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	観察法（2）観察法の実際
事前	教科書の2章を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【自然観察法】【実験観察法】
事後	観察法の実習のまとめをワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	実験法（1）実験法の研究事例
事前	教科書の第6章を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【独立変数】【従属変数】【剰余変数】
事後	実験法の要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	実験法（2）実験法の実際
事前	教科書第6章を読んで、実験法の手順と留意点について、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	実験法の実習のまとめをワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	面接法（1）面接法の研究事例
事前	教科書の第3章を読んで、以下のキーワードについてまとめてくる。（学修時間2時間） 【構造化面接】【非構造化面接】【半構造化面接】
事後	面接法の要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	面接法（2）面接法の実際
事前	教科書第3章を読んで、面接法の手順と留意点について、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間）

事後	面接法の実習のまとめをワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	質的分析法
事前	教科書の4章を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【仮説検証型】【仮説生成型】
事後	質的分析法の概要をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	質問紙調査法（1）質問紙調査法の研究事例
事前	教科書の第5章を読んで、以下のキーワードについて調べて、ノートにまとめてくる。（学修時間2時間） 【構成概念】【信頼性】【妥当性】
事後	質問紙調査法の要点をワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	質問紙調査法（2）質問紙調査法の実際
事前	6回～13回までの授業の理解度確認テストを行うので、配付資料を基にして、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	質問紙調査法の実習のまとめをワークシートに整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	各研究法の総括
事前	これまでの学習内容や確認テストの内容を振り返り、不明点を確認する。（学修時間2時間）
事後	理解しきれなかった点について再度まとめ直すとともに、これまでの学修成果をもとに今後の学修方針を考える。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)21:40

科 目 名	知的障害者の心理 [心]			授業コード	1230122
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関する キーワード	知的機能　社会的適応　知能検査　家族への支援
到達目標	知的障害のある人の心理的特性と発達支援のあり方について、心理学的な視点から理解を深める。 ＜到達目標＞ 1. 知的障害の定義と分類について説明することができる。 2. 知能検査等の心理検査によるアセスメントの活かし方について説明することができる。 3. 知的障害のある人の心理的特性と発達支援のあり方について説明することができる。 4. 知的障害のある人の家族への心理的援助のあり方について説明することができる。
授業の概要	知的障害児の心理特性に応じた教育のあり方について講義する。知的障害児の心理特性や発達に応じた教育を行うためには、能力の水準に応じて考えるべき問題と、能力の水準に関係なく蓄積されていく知識や経験の異同について理解する必要がある。本講義では、その違いについて検討していく。また生涯発達の視点にたって、知的障害のある人とその家族の生活を豊かにすることができるような支援のあり方について考える。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	知能検査の実習、グループワーク
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート(60%)、ワークシート(40%)によって評価する。		
フィードバック	ワークシート課題については、事後の授業で解説を行い、理解しきれていなかった点について解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	授業への積極的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	授業時にプリントを配布します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	小池 敏英・北島 善夫 2001『知的障害の心理学―発達支援からの理解』北大路書房 吉見 礼司 (イラスト)・くどう のぞみ (イラスト)・ 原 仁 (監修) 2007『ふしぎだね!?知的障害のおともだち (発達と障害を考える本)』ミネルヴァ書房 昇地 勝人・長野 恵子・ 蘭 香代子・ 吉川 昌子 (編集) 2006『障害特性の理解と発達援助―教育・心理・福祉のためのエッセンス』ナカニシヤ出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	知的障害とは
事前	シラバスを読んでくること。(学修時間30分)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間3時間30分)

2	知的障害の早期発見・早期療育
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

3	心理アセスメントの概要(知能検査・発達検査)
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

4	心理アセスメントの活かし方
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

5	知的障害児の心理的特性と発達支援(1)認知機能の特徴と学習過程
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

6	知的障害児の心理的特性と発達支援(2)記憶の特徴と学習過程
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

7	知的障害児の心理的特性と発達支援(3)学習ー行動変容の理論ー
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

8	知的障害児の心理的特性と発達支援(4)学習ー行動変容の実際ー
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

9	知的障害児の心理的特性と発達支援(5)動機づけ・パーソナリティ特性
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

10	知的障害児の心理特性と発達支援(6)コミュニケーションの特徴
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

11	知的障害児の心理特性と発達支援(7)コミュニケーションの支援の実際
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。(学修時間2時間)
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。(学修時間2時間)

12	知的障害と関連する障害の理解(1)自閉症

事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。（学修時間2時間）

13	知的障害と関連する障害の理解（2）ダウン症
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。（学修時間2時間）

14	知的障害と関連する障害の理解（3）LD・ADHD
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。（学修時間2時間）

15	知的障害者の生涯発達と家族への心理的援助
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめてくること。次回の授業で確認をする。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)11:00

科 目 名	肢体不自由者の心理 [心]			授業コード	1230132
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関する キーワード	インリアル法、動作法、家族への支援
到達目標	肢体不自由児の心理的特性と発達支援のあり方について、心理学的な視点から理解を深める。 ＜到達目標＞ 1. 肢体不自由児の発達とその特徴について説明することができる。 2. 肢体不自由児の心理的特徴に基づいた支援のあり方について説明することができる。 3. 肢体不自由児の家族への心理的援助について説明することができる。
授業の概要	肢体不自由児の発達の一般的特徴を各発達領域にわけて講義する。また脳性まひ児、進行性筋ジストロフィー児の心理的特徴について講義する。さらには、中途障害児者への心理的適応と支援、肢体不自由児の家族への支援、介助者の心理などについても事例の検討を交えながら講義する。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 心理検査の実習、グループワーク
評価方法 及び評価基準	レポート / 期末レポート(60%)、ワークシート課題(40%)として評価する。
フィードバック	ワークシート課題については、事後の授業で解説を行い、理解を深める。
履修に際しての 注意事項	配布資料が多いため、資料を整理するためのファイルを用意するとよい。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	授業中にプリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	筑波大学付属桐ヶ丘特別支援学校　2008『肢体不自由のある子どもの教科指導Q＆A』 ジアース教育新社 竹田契一（監修）里見恵子・河内清美・石井喜代香（著） 2005『実践インリアル・アプローチ事例集』 日本文化科学社 坂口しおり 2006『障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定』 ジアース教育新社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	肢体不自由とは
事前	シラバスを読んでくること。（学修時間30分）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間3時間30分）

2	肢体不自由児の発達（1）発達のとらえ方
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	肢体不自由児の発達（2）発達を支える人的環境
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	肢体不自由児の発達（3）発達を支える物的環境（教材・教具）
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	肢体不自由児の心理的特性と指導（1）コミュニケーションの発達
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	肢体不自由児の心理的特性と指導（2）コミュニケーションの指導
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	肢体不自由児の心理的特性と指導（3）情緒・社会性の発達
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	肢体不自由児の心理的特性と指導（4）視知覚認知の発達
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	肢体不自由児の心理的特性と指導（5）ボディイメージの発達
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	肢体不自由児の心理的特性と指導（6）動作法
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	脳性まひ児の心理的特徴
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	中途障害児（者）の心理的特徴
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）

事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	肢体不自由児の家族の支援（1）親
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	肢体不自由児の家族への支援（2）きょうだい
事前	指定されたキーワードについて、調べてノートにまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	配付資料を基にして、授業内容を整理し、要点をワークシートにまとめること。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	まとめ
事前	これまでの学習内容を振り返り、不明な点を確認する。（学修時間2時間）
事後	理解しきれていなかった点についてまとめ直すとともに、これまでの学修成果をもとに今後の学修方針を考える。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)10:47

科 目 名	教育・学校心理学 [科]			授業コード	1230142
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	本多 潤子				

科目に関する キーワード	チーム学校　3段階の心理教育的援助サービス　アセスメント　カウンセリング　コンサルテーション
到達目標	・教育現場において生じる問題及びその背景について説明し、複眼的な視点から考察することができる。 ・教育現場における心理社会的課題及び必要な支援法について理解し、説明することができる。
授業の概要	学校など教育現場において生じる心の問題やその背景について、心理学的知見や理論と結びつけながら学んでいく。これを踏まえて教育現場における心理社会的問題の全体的把握と、具体的な支援の理論と技法を、実際例にも触れながら理解していく。加えて、不登校など学校外での教育的支援や配慮が必要な人々の心理的課題や支援法についても考察を深める。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	講義の一部で、少人数による話し合いやグループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験(40%)、授業内外課題(30%)、グループワーク・ディスカッション・発表への取り組み(30%) によって評価する。理解度確認テストは7回目と14回目の授業で実施する。		
フィードバック	授業への理解度を確認するために、確認テストを行い、事後の授業において結果を返却するとともに、解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのためワークやディスカッション等の時間を設ける。授業に関する連絡は、授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」でも行う。授業でのリアクション・ペーパー等への回答は実施回以降の授業で行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III					○		
IV							

V	○	○					

テキスト1	『公認心理師の基礎と実践18　教育・学校心理学』石隈利紀（編）遠見書房	9784866160689
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを読んでくること。教育の現場における現状の課題について考えてくる。（学修時間30分）
事後	ワークシートを基にして、学校教育の現状の課題と「教育・学校心理学」の意義について整理してまとめる。（学修時間3時間30分）

2	学校組織と教育制度
事前	教科書3章を読んで、教育課題の現状について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートを基にして、教育課題の現状と対応について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

3	教育・学校現場での活動の倫理
事前	教科書1章を読んで、教育分野の公認心理師の業務について調べてまとめてくる。（学修時間2時間）
事後	教科書第4章、ワークシートを基にして、教育分野の公認心理師の業務と活動の倫理について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

4	発達と教育
事前	教科書2章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【ピアジェの認知発達理論】【エリクソンの心理・社会的発達理論】
事後	ワークシートを基にして、各発達段階の特徴と課題について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

5	学習と教育
事前	配付資料を参考にして、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【学習のメカニズム】【学習意欲】【教育評価の種類】
事後	ワークシートを基にして、心理学的視点から、学習について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

6	教授方法
事前	配付資料を参考にして、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【教授法の種類】【個人差と適正処遇交互作用】【授業のユニバーサルデザイン】
事後	ワークシートを基にして、個人差に応じた教授法について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

7	学校分野における心理学的アセスメント
事前	1～6回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	教科書第5章、ワークシートを基にして、チーム援助について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

8	教育における心理学的援助：カウンセリング、コンサルテーション
事前	教科書6章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【3段階の心理教育的援助サービス】
事後	ワークシートを基にして、3段階の心理教育的援助サービスについて整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

9	一次的援助サービス
事前	教科書12,13章を読んで、以下のキーワードについて調べて、まとめてくる。（学修時間2時間） 【安全・安心の学級風土】【学校のアセスメント】
事後	ワークシートを基にして、一次的援助サービスについて整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

10	二次的援助サービス
事前	教科書13章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【個別の援助チーム】【コーディネーション委員会】【マネジメント委員会】
事後	ワークシートを基にして、二次的援助サービスについて整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

11	三次的援助サービス：不登校・いじめ・非行
	教科書8,9,10章を読んでくること。教科書p.132,206,207等を参考にして、非行、不登校、いじめに関する3段階の心理教育的援

事前	助サービスについて整理してくる。（学修時間2時間）
事後	ワークシートおよび教科書第14章を基にして、三次的援助サービスについて整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

12	三次的援助サービス:発達障害
事前	教科書7章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【ADHD】【ASD】【SLD】
事後	ワークシートを基にして、発達障害の特性と支援体制について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

13	インクルーシブ教育と合理的配慮
事前	教科書7章、第12章を読んで、以下のキーワードについて調べてまとめてくる。（学修時間2時間） 【個別支援計画】【個別指導計画】【学びのユニバーサルデザイン】
事後	ワークシートを基にして、発達障害のアセスメントと合理的配慮について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

14	学校の危機管理・緊急支援
事前	7～13回目の授業の確認テストを行うので、充分に復習を行い、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	教科書第11章、ワークシートを基にして、学校における危機対応について整理してまとめる。次回の授業時に確認をする。（学修時間2時間）

15	まとめ
事前	確認テストの復習を行い、疑問点を整理し、知識の定着を図ること。（学修時間2時間）
事後	これまでの復習を行い、疑問点を整理し、個別のテーマについての発展的な学習を行うこと。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)22:00

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [介]			授業コード	1240010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関する キーワード	文献検索、調査分析の方法、論文の構成、卒業後の進路

到達目標	1. 大学での学びを基に、他者と意見を交換する中から自らの関心領域を見つけることができる。 2. それぞれの適性や興味に応じた調査・研究を可能にするための、基礎的な考え方と関連情報を収集する手法を身につけ、課題解決に至る計画を立てることができる。 3. 介護現場の実践にふれ、自らの将来像を描き、その将来に向かう具体的な道筋を考えることができる。 4. 資格取得に向けて勉学に取り組むことができる。			
授業の概要	学生自身が主体的にそれぞれの問題意識の所在を探り、「ゼミナールⅡ」に向けて、各自の研究テーマを決定していく。 具体的には、文献検索、資料整理、グループディスカッション等を実施し、基礎的な研究の手法と考え方を学ぶ。また、これらの過程を通じて、思考力、洞察力を高め、課題探求能力を深めると同時に、コミュニケーション能力、人間力を醸成する。 その他、各種施設見学や講演会などに参加し、卒業後の進路に向けた道筋を考える。 さらに、資格取得に向けた国家試験対策を進めていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・それぞれの関心領域について調べた結果を発表しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・各種施設見学や講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の進路に向けた道筋を考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に対する取り組みやグループディスカッションへの参加態度、見学、講演会への主体的な参加の状況等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	常に新聞・雑誌、テレビ等で取り上げられている問題について関心をもつこと。 授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	講義や演習、実習の体験等を踏まえて、自らの関心や問題意識に基づいた学習を進めていく。 ＜前期＞ オリエンテーション 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） ＜後期 ＞ 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 「ゼミナールⅡ」での研究に向けた計画書作成 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） 国家試験対策
事前	それぞれの関心領域に沿った資料を読み、説明できるようまとめておく。 見学する施設の情報を収集し、質問事項をまとめておく。（0.5時間）
事後	グループディスカッションや各種施設見学・講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の課題に向けた取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)22:24

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [介]			授業コード	1240020
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関するキーワード	研究の意義、論文の意義、的確な表現と伝達の方法、人間の尊厳
到達目標	1. 生活環境（人的・物的）を生活主体である人間にとって最適化するためにはどうしたら良いのかについて、様々な角度から比較検討し考えて行くことができる。 2. 人間の尊厳に値する生活とは何か、人々のより良い生活の質の向上に自らがどのように貢献していくのか、それらの方向性を見出すことができる。 3. 調査研究の結果を論文としてまとめていくプロセスを通して、論理的・客観的な思考力や表現・伝達の力（技能）、課題解決に向けて計画的に行動していくことができる力を身につける。
授業の概要	各自の関心に基づいて設定した研究テーマに沿って、関連する先行研究・文献を参照しつつ調査・研究を進め、その研究結果を、大学4年間における学習の成果として、卒業論文またはゼミ論文として集大成して行く。 また、メンバーがお互いに調査・研究の進行状況を発表しあい意見交換する機会、および各種講演会に参加し卒業後の自らの生き方について考える機会も並行して設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング / ○ / ・各自の調査研究の進行状況を報告しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の介護のあるべき姿について考えていく。
評価方法及び評価基準	レポート / 学習意欲、学習態度、およびレポート・論文とその発表内容等を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			

IV							
V					○		

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞ 1）研究テーマの確定・研究実施計画 2）調査の計画・準備 3）調査実施 4）調査結果の整理・考察 5）卒業生による講演（合同授業） ＜後期＞ 6）調査結果のまとめ 7）レポート・論文の執筆 8）論文発表準備・発表 9）まとめ 10）卒業生による講演（合同授業） 上記は、1年間の調査研究を中心とした授業の流れになるが、実際の調査研究では、時期、対象、方法、内容、整理・分析法、まとめ方等々は一人一人異なって来る。しかし、共通する問題や解決法も多く存在し、他のメンバーの研究が自らの研究への刺激やヒントとなる場合もあるので、“全員で考える”ことを原則とする。
事前	各自の立てた計画に沿って調査研究を進め、疑問点を明らかにしておく。（0.5時間）
事後	ディスカッションや講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の調査研究の取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)11:22

科 目 名	生活支援技術III/障害に応じた介護I [介]			授業コード	1240041
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関する キーワード	自立支援、尊厳、生活支援

到達目標	1.生活に支障、困難のある人の障害の特性について理解し、説明できる。 2.利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 3.実践の根拠について説明できる。			
授業の概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。生活に支障・困難（視覚障害、聴覚・言語障害、精神障害、高次脳機能障害）のある人に必要な生活支援を理解し、その方法について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	それぞれの課題についてグループで文献検索し、その結果を次回にプレゼンテーションし、問題点についてクラスで話し合う
評価方法 及び評価基準	試験	試験50%、リアクションペーパーおよび課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	リアクションペーパー、課題や発表に対しては、授業内で解説を行いフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III							
IV							○

V		○					

テキスト1	編集　谷口敏代『障害の理解』メヂカルフレンド社	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　障害のある人の理解
事前	シラバスを参照にし、今後の授業の概要について理解しておく（0.5時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語について理解をしておく（0.5時間）

2	障害のある人の自立生活
事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく（0.5時間）
事後	授業内で説明された障害のある人について、配付された資料を基に理解しておく（0.5時間）

3	障害のある人の自立支援
事前	障害のある人についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	障害のある人の生活上の困りごと等をまとめ復習し、自立について理解しておく（0.5時間）

4	障害のある人のリハビリテーションと介護
事前	障害のある人、リハビリテーションについて理解しておく（0.5時間）
事後	障害のある人、リハビリテーションについてまとめ復習し、十分に理解しておく（0.5時間）

5	視覚障害の理解
事前	視覚障害についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	視覚障害についてまとめ復習し、障害について十分に理解しておく（0.5時間）

6	視覚障害のある人の生活支援
事前	視覚障害のある人の生活についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	視覚障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく（0.5時間）

7	視覚障害のある人の歩行介助
事前	視覚障害のある人の歩行介助についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	視覚障害ある人の歩行上の困りごとをまとめ復習し、介助について十分に理解しておく（0.5時間）

8	聴覚・言語障害の理解
事前	聴覚・言語障害についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	聴覚・言語障害について理解したことを資料等を参考にまとめ十分理解しておく（0.5時間）

9	聴覚・言語障害のある人の生活支援
事前	聴覚・言語障害のある人の生活についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）

事後	聴覚・言語障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく（0.5時間）

10	聴覚障害のある人の介護
事前	聴覚障害のある人の介護についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	配付された資料を参考に聴覚障害のある人の介護についてまとめ十分理解しておく（0.5時間）

11	言語障害のある人の介護
事前	言語障害のある人の介護についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	配付された資料を参考に言語障害のある人の介護についてまとめ十分理解しておく（0.5時間）

12	精神障害の理解
事前	精神障害についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	精神障害について配付された資料を基にまとめ復習し、十分に理解しておく（0.5時間）

13	精神障害のある人の生活支援
事前	精神障害のある人の生活についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	精神障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく（0.5時間）

14	高次脳機能障害の理解
事前	高次脳機能障害についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	高次脳機能障害障害について配付された資料を基にまとめ復習し、十分に理解しておく（0.5時間）

15	高次脳機能障害のある人の生活支援
事前	高次脳機能障害のある人の生活についてテキスト等を参考に理解しておく（0.5時間）
事後	高次脳機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果す役割について理解しておく（0.5時間）

2020/07/16(木)11:22

科 目 名	生活支援技術IV/障害に応じた介護II [介]			授業コード	1240052
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関するキーワード	内部障害、生活支援、多職種連携
到達目標	・内部障害の定義について説明ができる。 ・内部障害関連する心臓・腎臓・肝臓・肺・大腸などの器官について位置や機能について述べることができる。 ・内部障害等の障害をもっている人の気持ちを知り、尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立、自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることを含めた適切な生活支援技術と知識を身に付けることができる。
授業の概要	授業では障害のある人、特に外見からは理解されにくい内部障害、発達障害についての基礎知識を習得する。 内部障害等の障害のある人の心身機能を理解するために文献、視聴覚教材を活用し、授業を行う。 尊厳の保持や自立支援の観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術について学ぶ。 ICFの視点を生活支援に活かす意義について理解し、対象者の能力を活用・発揮していくための支援について学ぶ。 事例演習やグループワークを通して、対象者の生活支援の課題解決にむけて実践する能力を養う。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / それぞれの課題についてグループで文献検索し、その結果を次回にプレゼンテーションし、問題点についてクラスで話し合う.。授業の理解度を確認するため「第10回の授業において確認を行う。なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う
評価方法及び評価基準	試験 / 期末試験60%　小テスト30%　授業中の活動状況10%として総合的に評価する。授業への主体的な参加も重視する。
フィードバック	授業では基礎知識定着のためのワークシートを活用する。授業においてその説明をし、確認するので期末試験の準備に役立てること。
履修に際しての注意事項	特になし

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III							

IV							○
V		○					

テキスト1	"介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅲ　中央法規 ISBN978-4-8058-5768-7" 障害に応じた介護Ⅰで使用したテキストを使用	ISBN978-4-8058-5768-7"
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画についてのオリエンテーション・障害を持った人の生活支援
事前	シラバスを参照にし、今後の授業の概要について理解しておく(0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語について理解をしておく(0.5時間)

2	障害児・者の生活支援の目的と意義
事前	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく(0.5時間)
事後	授業内で説明された目的と意義について、配付された資料を基に理解しておく(0.5時間)

3	運動機能障害のある人の生活支援
事前	脊髄損傷、片麻痺についてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	運動機能障害のある人の生活上の困りごと等をまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく(0.5時間)

4	内部障害の障害のある人の生活支援の基本・内部障害の定義
事前	内部障害について専門用語について理解しておく(0.5時間)
事後	内部障害の用語についてまとめ復習し、内部障害の定義について十分に理解しておく(0.5時間)

5	心臓障害の障害のある人の生活支援の基本
事前	心臓のしくみ. 働きについてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	心臓機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく(0.5時間)

6	呼吸器の機能障害のある人の生活支援の基本
事前	呼吸のしくみ　働きについてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	呼吸機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく(0.5時間)

7	腎臓・小腸の機能障害のある人の生活支援の基本
事前	腎臓・小腸のしくみについてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	腎臓・小腸の機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく(0.5時間)

8	排泄器官・膀胱、直腸の機能障害のある人の生活支援の基本
事前	排泄器官・膀胱、直腸のしくみについてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
	排泄器官・膀胱、直腸の機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく

事後	(0.5時間)

9	肝臓・免疫機能の機能障害障害のある人の生活支援の基本
事前	肝臓・免疫機能のしくみについてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	肝臓・免疫の機能障害のある人の生活上の困りごとをまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解しておく(0.5時間)

10	中間テスト・小テスト
事前	内部障害についてまとめ、小テストに向けて予習しておく(0.5時間)
事後	小テストの内容をまとめ復習し、次回授業の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておく(0.5時間)

11	知的障害のある人の生活支援の基本
事前	知的障害についてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	知的障害についてまとめ復習し、多職種連携の中で介護福祉士の果たす役割について理解する(0.5 時間)

12	発達障害のある人の生活支援の基本
事前	発達障害についてテキスト等を参考に理解しておく(0.5時間)
事後	発達障害についてまとめ復習し、多職種連携の中で介護福祉士の果たす役割について理解する(0.5時間)

13	全介助を要する人および難病の人の生活支援の基本
事前	全介助、難病についてテキスト等を参考に理解しておく
事後	全介助、難病に応じた介護についてまとめ復習し、介護福祉士の果たす役割について理解する(0.5時間)

14	事例演習
事前	次回の授業の事例について資料を参照に理解しておく(0.5時間)
事後	授業内での説明されて事例についてまとめ障害に応じた介護について十分に理解しておく(0.5時間)

15	事例のまとめ
事前	提示された事例について事前に読み、障害の理解とともにその障害に応じた介護の内容をまとめて理解しておく(0.5時間)
事後	授業内で取り扱った事例について復習し、十分に理解しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)21:08

科 目 名	医療的ケアI [介]			授業コード	1240060
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	4
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関するキーワード	医療的ケア　バイタルサイン　感染　喀痰吸引
到達目標	・介護職が医行為の一部を業として行うことになった医療的ケアの内容と実施の社会的背景を理解し、説明できる。 ・医療的ケアを行う上で、医療従事者同様の職業倫理が求められることを、個人の尊厳と自立を扱っている「医の倫理」「介護の倫理」の知識をもって説明できる。 ・チーム医療について構成する職種や役割について説明できると同時に、保健医療制度、介護保険制度その他関連する制度について説明できるようになる。 ・医療的ケアは危険を伴う行為であることを理解し、ヒヤリハットなどの知識を基に危機管理を意識することの重要性を説明できる。 ・医療的ケア実施に必要な清潔保持・感染予防・健康状態の把握についてスタンダード・プリコ―ション、バイタルサインの知識をもって説明ができるとともに実践できるようになる。 ・呼吸の回数、呼吸音、呼吸の仕方など平常の呼吸状態といつもと違う呼吸状態、痰の状態について説明できる。 ・医療職との連携が利用者の安全につながることを理解し、説明できる。 ・喀痰吸引に必要な呼吸のしくみとはたらきを説明できるとともに、吸引をうける利用者や家族の気持ちを理解し、実施に関する内容と方法を説明できる。 ・喀痰吸引で用いる器材・器具を説明できるとともに、実施手順と留意点、報告及び記録について演習をとおして口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内の吸引を一人でできるようになる。
授業の概要	介護職が一定の要件下で行えるようになった医療的ケアの内容を知るとともに、医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について理解を深める。さらに医療的ケアを安全に実施するための基礎知識と技術を学ぶ。 特に医療的ケアⅠでは、医療的ケアの喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引）に関する基礎知識とともに実施手順とその留意点について、教科書の他に視聴覚教材を用いて学習する。また、知識修得に向けて小テストなどを実施し、医療的ケアに必要な感染予防や健康状態の把握、呼吸のしくみなどの知識の定着を図る。 救急蘇生および第18回以降の喀痰吸引の演習では、シミュレーターを使用しケアの実施の流れ（準備から実施、片付け、報告、記録）と留意点について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業の理解度を確認するため第10回、第22回において確認のテストを行う、なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う
評価方法及び評価基準	前期　試験 後期　レポート	試験（評価）50%　小テスト30%　授業中の活動状況20%として総合的に評価する。授業への主体的な参加も重視する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において講評を行い返却するので、試験・演習評価の準備に役立てること。本科目の総括として実施する期末試験と演習評価は、結果が評価の中で重要な位置を占めるので各自の準備学習が必要となる。また、厳格な姿勢を持って授業に臨むこと。			
履修に際しての注意事項	医療的ケアは対象者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものであることから確実な技術を習得できるよう事後の復習を十分に行うこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							

III			○				
IV							
V				○			

テキスト1	介護福祉士養成課程・介護職のための医療的ケア 著者　柊崎京子・荏原順子	978―4－7679－3376－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド　編著　渡辺裕美 ISBN978-4-8404-5776-7 医療的ケアⅠ　中央法規 ISBN978-4-8058-5775-5 介護で使える！難しい「たんの吸引・経管栄養」がすらすらわかるイラスト学習 ISBN978-4-7678-1447-6	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	医療的ケアⅠ授業概要　医行為を行う者の心構え
事前	シラバスを読み授業の概要について理解しておく（1．5時間）
事後	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく（2．5時間）

2	医行為を受ける利用者や家族の気持ちの理解
事前	テキストを参考に医療的ケアを受ける利用者の気持ち等について理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した内容についてまとめ、医療的ケアを受ける利用者、家族に対する支援について理解を深める（2．5時間）

3	保険医療制度とチーム医療
事前	医行為と保健医療や介護保険に関する制度についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解し、医療的ケアに関連する制度や医療的ケアが行われる場について十分に理解を深めること（2．5時間）

4	チーム医療と介護職員との連携の理解
事前	チーム医療の構成職種についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した内容をまとめチーム医療の意義について理解を深め、チーム医療における介護福祉士の役割について理解を深める（2．5時間）

5	医療的ケアの安全で確実な実施に向けて①（ヒヤリハット・アクシデント）
事前	医療的ケアの安全な実施の重要性についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	ヒヤリハット、アクシデントの用語の理解を深め、医療的ケアを安全に実施することの重要性について理解する（2．5時間）

6	医療的ケアの安全で確実な実施に向けて②（救急蘇生法）
事前	救急蘇生の必要な時についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での説明を復習し、救急蘇生の意義や救急蘇生法の手順について十分に理解すること（2．5時間）

7	感染予防についての理解・手順方法（標準的予防策）
事前	感染とは何か、その予防についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	感染予防の基礎知識について復習し、スタンダードプリコーションと介護職員自身の健康管理について理解を深めること（2．5時間）

8	療養環境の清潔と消毒法（吐物、排泄物処理方法）
事前	療養環境や居室、トイレ、キッチンの生活環境の清潔についてテキスト等を参考に理解をしておく（1．5時間）
事後	授業内で説明した血液、体液・分泌物、排泄物の処理についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

9	健康状態の把握と急変状態について（バイタルサイン測定・急変状態の判断）
事前	健康状態、ふだんの状態を知ることの重要性についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）について授業内での用語の説明と計測方法についてまとめ復習し、十分に理解する。（2．5時間）

10	中間まとめ・小テスト
事前	これまでの授業内に係る小テストを実施するので、まとめ復習しておく（1．5時間）
事後	小テストの内容について復習をするとともに、次回の授業内容である呼吸のしくみについてテキスト等を参考に理解しておく（2．5時間）

11	呼吸のしくみとはたらき
事前	呼吸の重要性と主な呼吸器官のしくみと働きについてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された呼吸のしくみと働きについてまとめ復習し、理解を深める（2．5時間）

12	呼吸状態と喀痰吸引の必要な状態
事前	呼吸状態の観察についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	正常な呼吸状態といつも違う呼吸状態についてまとめ復習し、喀痰吸引の必要性についての理解を深める（2．5時間）

13	人工呼吸器・気管カニューレのしくみ
事前	人工呼吸療法についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された人工呼吸器のしくみや気管カニューレのしくみや種類についてまとめ復習し、十分に理解をしておく（2．5時間）

14	吸引を受ける利用者の家族の気持ちとその対応
事前	吸引を受ける利用者の気持ちとその家族の対応についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	吸引をうける子ども、利用者、家族に対してその気持ちを理解することの重要性について理解を深め、実施に関する説明と方法について十分に理解する（2．5時間）

15	喀痰吸引により生じる危険と安全の確認
事前	喀痰吸引による危険と安全の確認についてテキスト等を参考に理解する（1．5時間）
事後	授業内で説明された喀痰吸引に係る緊急を要する状態・症状についてまとめ復習し安全の確認について理解を深める（2．5時間）

16	授業解説　喀痰吸引で用いる器具・器材の理解
事前	喀痰吸引に用いる器材・器具についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での説明された器材・器具についての名称、使用法・留意点についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

17	喀痰吸引に伴うケア（痰を出しやすくするケア・口腔ケア）
事前	喀痰吸引に伴うケアとして、痰をだしやすくする要素についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	痰をだしやすくする要素について復習し、体位を整えるケアや口腔ケアの重要性について十分に理解しておく（2．5時間）

18	吸引の実施手順と留意点①（手洗い・物品準備・報告・記録）
事前	喀痰吸引の実施手順についてテキスト等を参考に予習し理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された喀痰吸引の実施手順の流れについてまとめ復習し、喀痰吸引の準備から実施報告までの流れを十分に理解しておく（2．5時間）

19	吸引の実施手順と留意点②（口腔内吸引実施）
事前	口腔内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	口腔内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

20	吸引の実施手順と留意点③（鼻腔内吸引実施）
事前	鼻腔内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

21	吸引の実施手順と留意点④（気管カニューレ内吸引実施）
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内吸引が安全に実施できるように実施手順を復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

22	中間まとめ・小テスト
事前	これまでの授業内に係る小テストを実施するので、まとめ復習しておく（1．5時間）
事後	小テストの内容について復習をするとともに、喀痰吸引の各項目内容について実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（2．5時間）

23	吸引実施手順と留意点の確認 喀痰吸引演習・評価に向けて

事前	喀痰吸引の各項目内容について実施手順と留意点についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された内容についてまとめ、各自が実施手順通りに出来るように復習しておく（2．5時間）

24	演習①口腔内吸引（5回以上）グループ演習
事前	口腔内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	口腔内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

25	演習②鼻腔内吸引（5回以上）グループ演習
事前	鼻腔内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

26	演習③気管カニューレ吸引（5回以上）グループ演習
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順を読み演習に対して予習しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内実施と留意点について演習後、各自が振り返り次回の実施評価に向けて準備しておく（2．5時間）

27	評価①口腔内吸引（5回以上）
事前	口腔内吸引の実施手順書を参考に口腔内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	口腔内吸引の手順を振り返り、次回評価項目の鼻腔内吸引について理解をしておく（2．5時間）

28	評価②鼻腔内吸引（5回以上）
事前	鼻腔内吸引の実施手順書を参考に鼻腔内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	鼻腔内吸引の手順を振り返り、次回評価項目の気管カニューレ内吸引について理解をしておく（2．5時間）

29	評価③気管カニューレ吸引（5回以上）
事前	気管カニューレ内吸引の実施手順書を参考に気管カニューレ内吸引が確実に手順通りにできるよう予習しておく（1．5時間）
事後	気管カニューレ内吸引の手順を振り返り、次回の授業について理解をしておく（2．5時間）

30	喀痰吸引評価のまとめ
事前	喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）の基礎知識と実施手順・留意点についてテキスト等を参考にまとめておく（1．5時間）
事後	喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）の実施手順と留意点を基に、十分な復習を行い、知識と技術の定着を図る（2．5時間）

2020/07/16(木)11:13

科 目 名	医療的ケアII [介]			授業コード	1240071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関する キーワード	消化器　経管栄養

到達目標	・消化器系のしくみとはたらきが説明できる。 ・経管栄養法のしくみと種類、栄養剤について説明できる。 ・経管栄養法に必要な消化のしくみとはたらきの知識をもとに経管栄養をうける利用者や家族の気持ちを理解し実施に関する内容と方法をわかりやすく説明できる。 ・経管栄養法で用いる器材・器具を説明できるとともに、実施手順と留意点及び報告について 演習をとおして一人でできるようになる。			
授業の概要	介護職が一定の要件下で行えるようになった医療的ケアを安全に実施するための基礎知識と技術を学ぶ。 特に医療的ケアⅡでは、医療的ケアの経管栄養(経鼻経管栄養法・胃ろう栄養法)に関する基礎的知識、実施手順とその留意点について、教科書の他に視聴覚教材を用いて学習する。また、知識修得に向けて小テストなど実施し、経管栄養に必要な消化管のしくみ、胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養法などの知識の定着を図る。 経管栄養の演習では、シミュレーターを使用しケアの実施の流れ(準備から実施、片付け、報告、記録)と留意点について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の理解度を確認するため、第8回の授業において確認テストを行う. なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う
評価方法 及び評価基準	試験	試験(評価)60%　小テスト20%　授業中の活動状況20%として総合的に評価する。授業への主体的な参加も重視する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストについては、事後の授業において講評を行い返却するので、試験・演習評価の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	本科目の総括として実施する期末試験と演習評価は、結果が評価の中で重要な位置を占めるので各自の準備学習が必要となる。また、厳格な姿勢を持って授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III			○				
IV							

V				○			

テキスト1	川合多加子編　最新介護福祉全書　⑬　医療的ケア　メヂカルフレンド社 医療的ケアⅠで使用したテキストを使用する	9784839231408
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	消化器系のしくみとはたらき・消化器の症状
事前	消化器についてテキスト等を参考に予習しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された消化器系の器官のしくみと働き、消化器症状についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

2	経管栄養法の種類
事前	経管栄養の種類、経管栄養の必要な状態についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での専門用語についてまとめ、経管栄養の種類、必要な状態について十分に理解しておく（2．5時間）

3	経管栄養剤の種類と注入の知識
事前	経管栄養のしくみと種類についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内での専門用語についてまとめ、経管栄養材の種類と注入の知識についての理解を深める（2．5時間）

4	経管栄養実施上の留意点
事前	経管栄養実施におこる体の異常についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養でおこる体の異常、その他の異常についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

5	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意（子どもの経管栄養）
事前	経管栄養を受ける利用者、家族の気持ちについてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された内容、特に経管栄養を受ける利用者、大人と子どもの経管栄養の違い等をまとめ復習し、理解しておく（2．5時間）

6	経管栄養に関係する感染と予防
事前	経管栄養に関する感染、主な感染原因についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養の感染原因、予防についてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

7	経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認
事前	経管栄養により生じる危険と種類についてテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養により生じる危険の種類と対応についてまとめ復習し、注入後の安全確認についても十分に理解しておく（2．5時間）

8	中間まとめ・小テスト
事前	前回までの授業内容にかかる小テストを実施するので、復習しておく（1．5時間）
事後	授業内で実施した小テストについて、事後の授業において講評、返却するので試験・演習評価の準備に役立て十分に理解しておく（2．5時間）

9	経管栄養注入実施手順①（準備・報告・記録）
事前	経管栄養実施演習にむけてテキスト等を参考に、実施手順、留意点を理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養の実施手順を授業内での内容やテキスト等を参考にまとめ復習しておく。また、ヒヤリハット・アクシデント等についてもまとめ、記録・報告の内容について十分に理解しておく。（2．5時間）

10	経管栄養注入実施手順②（実施）
事前	経管栄養実施手順書に従い、準備から後片付けまでの流れについて理解しておく（1．5時間）
事後	授業内で説明された手順や留意点についてまとめ復習し、確実に経管栄養の実施ができるように理解しておく（2．5時間）

11	演習①　経管栄養胃ろうまたは腸ろう（5回以上）
事前	経管栄養の胃ろう・腸ろう実施手順書を参考に、各自が手順に従って確実に経管栄養実施（胃ろう・腸ろう）ができるよう理解しておく（1．5時間）
事後	経管栄養（胃ろう・腸ろう）演習を振り返り、評価試験にむけて手順の流れと確実な手技について復習しておく（2．5時間）

12	演習②　経鼻経管栄養（5回以上）

事前	経鼻経管栄養の実施手順書を参考に、経鼻経管栄養実施の流れと留意点について理解しておく（1．5時間）
事後	経鼻経管栄養の演習を振り返り、評価試験にむけて手順の流れと確実な手技について復習しておく（2．5時間）

13	評価① 経管栄養胃ろうまたは腸ろう（5回以上）
事前	演習評価にむけて経管栄養（胃ろう）の実施手順書を十分に理解し、確実に手順通りに手技ができるようにしておく（1．5時間）
事後	経管栄養（胃ろう）の手順書を復習し、確実に実施できるよう理解しておく。また、次回の評価項目の経鼻経管栄養の実施手順書についても十分に理解しておく（2．5時間）

14	評価② 経鼻経管栄養（5回以上）
事前	演習評価にむけて経鼻経管栄養の実施手順書を十分に理解し、確実に手順通りに手技ができるようにしておく（1．5時間）
事後	経鼻経管栄養の手順書を復習し、確実に実施できるよう理解しておく。（2．5時間）

15	演習評価のまとめ
事前	経管栄養の基礎知識と実施手順・留意点についてテキスト等を参考にまとめておく（1．5時間）
事後	経管栄養の実施手順と留意点を基に、十分な復習を行い、知識と技術の定着を図る（2．5時間）

2020/07/16(木)20:32

科 目 名	介護過程I/介護過程の基本 [介]			授業コード	1240081
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関する キーワード	介護過程　構成要素　思考過程

到達目標	・介護過程の意味を理解し、意義・目的について説明できる。 ・介護過程の構成要素を理解し、個別援助の必要性について述べることができる。 ・介護過程が多くの事象の中から介護によって解決をする課題に対しての方法論であること、解決にむけてのアプローチであることを理解し、説明することができる。 ・協働する他の専門職とともにチームとして介護過程を展開することの意義について理解し、説明することができる。
授業の概要	介護の実践における介護過程の意義、目的を理解し、介護過程の展開するための一連のプロセスを理解できるように講義や演習を行っていく。 対象者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い根拠に基づく介護の実践に向けて、グループワークにより事例展開を行い、課題解決の思考過程のトレーニングをする。 学習の積み重ねにより適切な介護サービスが提供できる能力を養う。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	介護課程の事例について、グループでそれぞれ検討を加え、介護の課題について明確にし、解決策について発表していく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題評価50%　授業への活動20%　事例発表30%を目安として評価を行う		
フィードバック	授業で実施する事例展開のグループワークの内容は、授業内において発表してもらう。また、各自が下調べをした事柄を利用して介護過程を展開していく。その展開事例の結果については講評を行い介護過程の思考方法について理解が得られるようにしていく。			
履修に際しての 注意事項	本科目の総括として実施する課題評価は、評価の中で重要な位置を占めるので各自の事前・事後の学習が必要となる。また、各自が主体的に責任を持って学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 演習事例の展開では、自己学習を行い授業に望むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V	○						

テキスト1	新版　介護福祉教育研究会『楽しく学ぶ介護過程』 時潮社	978ー4ー7888ー0722ー8
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に必要な文献を検索し学びを深めること。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業内容についての説明　介護過程を学ぶ意味
事前	シラバスを参考に授業の流れを理解し、介護過程という用語について調べておく（1．5時間）
事後	介護過程を学ぶ意義についてまとめ、介護を考え重要な思考であることを理解しておく（2．5時間）

2	介護過程の意義・目的
事前	介護過程の用語について理解し、介護を行う根拠となることを理解しておく（1．5時間）
事後	介護過程の意義・目的をまとめ、介護を考える上で重要となる思考であることを理解しておく（2．5時間）

3	問題解決課程について
事前	テキスト等を参考に問題解決思考とはどのようなことなのか予習しておく（1．5時間）
事後	介護の課題を見いだし、それについて解決するための過程があることをまとめ十分に理解しておく（2．5時間）

4	チームアプローチについて
事前	チームアプローチの意味についてテキスト等を参考にまとめ理解しておく（1．5時間）
事後	介護場面におけるチームアプローチの意義をまとめ復習しておく（2．5時間）

5	情報・観察について
事前	介護過程における情報．観察についてテキスト等を参考にその意味について理解しておく（1．5時間）
事後	授業で配付された資料を基に情報・観察の意義についてまとめ復習し、介護過程における情報の意味について理解しておく（2．5時間）

6	アセスメントについて①（情報の読み取り方）
事前	介護過程におけるアセスメントとは何かテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	介護過程における情報の持っている意味、情報の捉え方について配付された資料を基にまとめ復習し理解しておく（2．5時間）

7	アセスメントについて②（生活課題のとらえ方）
事前	生活課題とは何かテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	情報の関連付けを行い、生活の課題について抽出することをテキスト、配付資料を参考にまとめ復習しておく（2．5時間）

8	介護計画立案①（目標の設定）
事前	予め提示された事例を読み、情報を整理しておく（1．5時間）
事後	授業で配付された資料を基に生活課題に対する目標についてまとめ復習し、介護過程における目標設定の意味について理解しておく（2．5時間）

9	介護計画立案②（課題と目標の関係）
事前	生活課題の解決に向けて目標を設定していくことをテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）
事後	生活課題の解決に向けて目標を設定していくことを配付資料やテキストをまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

10	介護計画の実施・評価
事前	生活課題解決のために目標を設定し、その目標に向かって具体的に介護計画を立案することをテキスト等を参考に理解しておく（1．5時間）

事後	生活課題解決のために目標を設定し、その目標に向かって具体的に介護計画を立案することをテキスト等を参考にまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

11	演習事例展開①（情報の捉え方）
事前	事前に提示された事例を読み情報を整理しておく（1．5時間）
事後	事前に提示された事例の情報の意味をまとめ復習し、理解しておく（2．5時間）

12	演習事例展開④（介護計画立案）
事前	提示された事例の情報を整理し、関係のある情報について予習しておく（1．5時間）
事後	情報と情報の関連づけについてまとめ復習し、十分に理解しておく（2．5時間）

13	演習事例展開③（生活課題を導くために）
事前	事例についての情報を吟味し、事例の生活課題について次回授業までに考えまとめておく（1．5時間）
事後	生活課題について再考し、介護の方向性についてまとめ復習しておく（2．5時間）

14	演習事例展開④（介護計画立案）
事前	事例の生活課題についての介護目標を設定し、計画を立案し次回の授業の予習をする（1．5時間）
事後	事例の介護目標、計画をまとめ復習し、次回発表に向けて準備をする（2．5時間）

15	演習事例展開⑤（発表）
事前	事例の介護計画について予習し、プレゼンテーションできるようにする（1．5時間）
事後	事例についてまとめ復習し、介護過程展開の意義について十分に理解しておく（2．5時間）

2020/07/16(木)21:16

科 目 名	介護過程V/介護事例研究 [介]			授業コード	1240091
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関するキーワード	事例研究、研究テーマ、介護計画の根拠、文献収集、プレゼンテーション

到達目標	・事例研究の意義、目的、研究手法について学び、介護実践における事例研究の重要性を理解できる。 ・介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例から、テーマを選定した上で深く洞察し、実践した介護過程の妥当性について評価・考察することができる。 ・実践した介護過程を事例研究概要にまとめる学修を通して、自らの介護観を形成することができる。 ・作成した事例研究概要を効果的なプレゼンテーション手法を用いて、分かりやすく発表できる。			
授業の概要	介護過程Ⅰ～Ⅳ、および介護総合演習Ⅳの授業では、介護過程の基礎的理論と介護現場でよく遭遇する事例を取り上げ、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価まで展開する学修を行ってきた。介護過程Ⅴでは、介護実習Ⅱ−2で展開した受持ち利用者の介護過程について、これまで学んできた基礎的な介護の知識や技術を活用し、事例研究を行い、その成果を概要にまとめて発表する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・各自が実践した介護過程をグループ内で発表・説明し、その妥当性についてディスカッションを行う。 ・介護過程の成果について各自が概要にまとめた上で、グループ内でプレゼンテーションを行う。その上で決定したグループ代表が事例研究発表会にて発表し、全体で結果を共有しつつディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	事例研究概要作成（40%）、研究発表（30%）、授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を使用するため、授業の際必ず持参すること。 研究発表は、グループ別発表と全体発表を行う。全体発表では各グループの代表が発表する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III				○			
IV							
V						○	

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　授業概要とスケジュールの確認
事前	シラバスの内容を確認し、およその事例研究計画を立てること。(0.5時間)
事後	授業のスケジュールに沿って具体的な研究計画を立案した上で、収集すべき情報の入手方法について検討すること。(0.5時間)

2	介護実習II-2の振り返り　1)各自の事例報告
事前	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を読み直し、ポイントをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	事例報告の際に得られたコメント、および他の介護実践事例の報告から得たヒントをまとめた上で、自らの課題の所在を検討すること。(0.5時間)

3	介護実習II-2の振り返り　2)介護計画の妥当性の検討
事前	立案した計画の根拠について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	他学生の意見や介護計画の内容を参考にしつつ、別の介護計画の可能性の有無について再検討すること。(0.5時間)

4	介護実習II-2の振り返り　3)介護計画の妥当性の確認
事前	立案した介護計画が遂行できた要因、または遂行できなかった要因について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実践の結果について、自分なりに評価を行ってみること。(0.5時間)

5	事例研究計画の作成　テーマの選定
事前	自身の介護実践の内容から考えられる研究テーマの候補を考えておくこと。(0.5時間)
事後	選定したテーマに基づき、介護実践から得た情報を整理すること。(0.5時間)

6	事例の分析　文献収集
事前	介護実践から得た情報を解釈するにあたって、どのような文献が必要かについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	適切な文献を収集すること。(0.5時間)

7	事例の分析　文献の整理
事前	収集した文献のリストを作成し、各文献の内容を検討すること。(0.5時間)
事後	自らの介護実践について、文献から得た情報・知識を当てはめつつ解釈および評価を行うこと。(0.5時間)

8	事例研究概要作成の準備
事前	介護実践の評価の内容を説明できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に、自らの介護実践の評価を再検討すること。(0.5時間)

9	事例研究概要の作成　①概要の骨格
事前	事例研究概要の構成(タイトルと項目立て)について考えておくこと。(0.5時間)
事後	決められた論文フォーマットに沿って執筆を開始すること。(0.5時間)

10	事例研究概要の作成　②内容の吟味
事前	助言・意見を得たい個所をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	執筆中に疑問点や矛盾点が発生した際には、介護過程記録まで遡って確認するなどにより内容を吟味しながら進めること。(0.5時間)

11	事例研究概要の作成　③まとめと考察・評価
事前	まとめと考察・評価まで概要作成を進めること。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に事例研究概要を見直し、仕上げること。(0.5時間)

12	事例研究概要の提出　プレゼンテーションの準備　発表原稿の作成

事前	プレゼンテーションの準備、発表原稿の作成を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に発表原稿を見直すこと。(0.5時間)

13	事例研究発表　グループごとの発表
事前	プレゼンテーションの練習を行った上で、準備の最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見、および他学生の発表から得られた学びをまとめておくこと。(0.5時間)

14	事例研究発表会の準備
事前	自身が担当する役割を確認すること。(0.5時間)
事後	自身が担当する役割に沿って、事例研究発表会の準備を行うこと。(0.5時間)

15	事例研究発表会 （合同授業）
事前	事例研究発表会に当たって最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:03

科 目 名	介護総合演習I [介]			授業コード	1240101
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ				

科目に関する キーワード	介護実習　デイサービス　デイケア　障害福祉サービス事業　障害者支援施設
到達目標	・介護実習Ⅰ-1の意義・目的について述べることができる。また、自己の実習課題・目標を明確に持つことができる。 ・地域で暮らす高齢者、障害のある人の介護を実践するためには、各領域で学んだ知識と技術を統合することが大切であることを理解し、実習につなげることができる。 ・実習生としての基本的事項、実習に取り組む姿勢について述べることができる。
授業の概要	介護総合演習Ⅰは、介護実習の意義と目的を学び、各領域で学んだ知識と技術を統合できるように授業を展開する。 事前に実習施設についての理解を深められるよう在宅介護サービスについて説明を行う。また、地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、在宅サービス等を利用しながら生活する状況を、文献等を活用して理解を深めていく。それとともに実習に向けての自己目標を明確にしていく。さらに、実習生としての基本事項ついても学ぶ。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 介護実習Ⅰ－1の意義・目的を明確し、主体的に実習に取り組むことができるよう、少人数でのグループをつくりそれぞれの課題について話し合う。
評価方法 及び評価基準	レポート / レポート課題(50%)・授業中の活動内容(50%)を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや実習の個人票などについては、事後の授業において添削の上返却し、講評を加える。
履修に際しての 注意事項	実習にむけての準備の科目でもある。そのため実習準備の手続き、諸注意の伝達がある。また必要書類等の提出期限があるので注意してほしい。授業で配布される「介護実習要項」「実習ハンドブック」は授業時に使用するので持参すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							
IV		○					

V							

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『介護総合演習』 坪山孝編集 メヂカルフレンド社 ISBN9784839231484	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	介護総合演習Ⅰ－1のオリエンテーション 総合演習と実習との関連
事前	シラバスを参考に授業の内容について理解しておく(0．5時間)
事後	授業内で配付された資料をもとに介護実習と介護総合演習との関連について理解しておく(0．5時間)

2	実習の意義と目的
事前	実習要項等を参考に実習の目的について理解しておく(0．5時間)
事後	授業内で説明された実習の意義・目的についてまとめ復習し、介護実習を行う意義について十分に理解しておく(0．5時間)

3	実習施設の理解(1)デイサービス・デイケア
事前	デイサービス・デイケアという用語について調べ、介護保険におけるサービスについて理解しておく(0．5時間)
事後	デイサービス、デイケアについてまとめ復習し、サービス内容や利用者の理解をしておく(0．5時間)

4	実習施設の理解(2)障害福祉サービス業、障害者支援施設
事前	障害福祉サービス事業 障害者支援施設 という用語について調べ、どのような事業を行っている施設なのか理解しておく(0．5時間)
事後	障害福祉サービス事業 障害者支援施設 についてまとめ復習し、サービス内容や利用者の理解をしておく(0．5時間)

5	実習の配属発表・実習目標の立て方・実習にむけて個人目標・課題の作成
事前	介護実習Ⅰ－1ではどのようなことを学ぶのか、実習要項を参考に調べ予習しておく(0．5時間)
事後	実習要項で介護実習Ⅰ－1の目標を理解し、自身の実習目標について考え、実習の個人票作成ができるようにしておく(0．5時間)

6	実習目標の立て方・実習にむけて個人目標・課題の作成下書き
事前	実習配属先の施設概要(沿革・方針・環境・サービス内容など)を調べ、個人票の実習目標の設定ができるようにする(0．5時間)
事後	実習施設の概要をまとめ、その施設で自分が何を学びたいのか目標を文章化しておく(0．5時間)

7	実習目標の立て方・実習にむけて個人目標・課題の完成
事前	実習先に提出する個人票を記入、提出できるようにしておく(0．5時間)
事後	個人票の目標を再度確認し、実習に向けて実習要項、実習ハンドブックを読んでおく(0．5時間)

8	レクリエーションの意義・目的
事前	レクリエーションの用語について調べ、デイサービス、デイケアなどでどのようなプログラムが展開されているのか調べ予習しておく(0．5時間)
事後	レクリエーションの意義・目的についてまとめ復習し、そのプログラムに介護福祉士がどのように関わっているのか十分に理解しておく(0．5時間)

9	実習に向けて利用者の理解・高齢者
事前	次回の授業で行う高齢者疑似体験の予習として、高齢者の身体的特徴について調べ理解しておく(0．5時間)
事後	高齢者疑似体験の演習を通して考え、感じたことをまとめ、高齢者の身体的特徴の理解につなげておく(0．5時間)

10	実習に向けて利用者の理解・障害のある人の理解
事前	次回の授業で行う片麻痺の疑似体験について、予習しておく。 片麻痺となる疾患について調べ日常生活活動の支障について理解しておく(0．5時間)
事後	片麻痺疑似体験の演習をとおして感じたこと、考えたことをまとめておく。また、日常生活活動において支障となる動作について十分に理解しておく(0．5時間)

11	実習記録・記入上の留意点 (実習日誌等配付)
事前	実習要項を参考に実習中の記録について理解しておく(0．5時間)
事後	授業内で説明された記録について理解し、記入上の留意点についてもまとめ確認しておく(0．5時間)

12	実習記録の記入実践（1）記録の意義
事前	実習要項を参考に実習の記録の意義について理解しておく（0．5時間）
事後	授業内で説明された実習の記録の意義・目的についてまとめ、事実を文章にする重要性について理解しておく（0．5時間）

13	実習記録の記入実践（2）記録の方法
事前	実習要項を参考に記録する内容について理解しておく（0．5時間）
事後	記録記入の方法をまとめ復習し、記録する意義や実習期間中の実習内容について文章でまとめることを理解しておく（0．5時間）

14	実習記録の記入実践（3）記録演習
事前	前回授業での記録の方法を確認し、記入に際しての留意点について理解しておく（0．5時間）
事後	演習で記録した事例についてまとめ復習し、実習日誌の記入について十分に理解しておく（0．5時間）

15	実習への心構え・諸注意
事前	実習ハンドブック、実習要項を読んで実習に対する基本姿勢、態度について予習しておく（0．5時間）
事後	実習前、実習中、実習後の心構えについてまとめ、実習に対する基本姿勢や態度を十分に理解しておく（0．5時間）

2020/07/16(木)22:30

科 目 名	介護実習Ⅰ－１ [介]			授業コード	1240113
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ、山崎 さゆり、浦尾 和江、竹田 幸司、島田 今日子				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	コミュニケーション　地域　生活

到達目標	1.介護福祉士の役割を理解し、説明できる。 2.地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、説明できる。 3.対象者や家族とのコミュニケーションを積極的に図ることができる。 4.対象者の生活と地域との関わりを実習を通して学び、地域での生活を支える施設の役割を理解し、説明できる。			
授業の概要	地域における様々な場において、高齢者や障害のある人の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 基本的な生活支援を通して、利用者の状況に応じた介護技術の習得を図り、実習施設・事業所のカンファレンスに参加し、多職種の役割と連携について理解する。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	介護の現場に参加し、利用者、介護職員とのコミュニケーションを図りながら介護福祉の知識、技能の基本的な部分を学ぶ。また、学生は学内の文献知識だけではなく、現場における工夫など介護福祉士としての姿勢、態度について学ぶ。
評価方法及び評価基準	―	学習意欲、実習に取り組む姿勢、実習記録内容を総合して評価する。 介護実習施設指導者からの「実習評価表」による評価と、担当教員の評価により総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。 授業内で配布される実習ハンドブック、実習要項は介護実習全ての段階で使用する。大切に保管するとともに熟読しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III	○	○					

IV		○					
V							

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1.通所介護（デイサービス） 2.通所リハビリテーション（デイケア） 3.障害福祉サービス事業、障害支援施設 （1～3のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 6日間 [実習内容] 1.デイサービス・デイケア (1)デイサービス・デイケアの役割と機能を理解する。 (2)デイサービス・デイケアで行われている介護サービスの内容を理解する。 (3)対象者の送迎や、その日行われているプログラムを見学し、デイサービス・デイケアが対象者のみならず家族にとって、どのような役割を果たしているのかを理解する。 (4)対象者とのコミュニケーションを通して、個々の対象者のデイサービス・デイケアに対する思いを知る。 2.障害福祉サービス事業・障害者支援施設 (1)障害福祉サービス事業・障害者支援施設の役割と機能を理解する。 (2)障害福祉サービス事業・障害者支援施設で行われている事業の内容を理解する。 (3)その日行われているプログラムを見学し、対象者にとって障害福祉サービス事業・障害者支援施設が、どのような役割を果たしているのかを理解する。 (4)対象者とのコミュニケーションを通して、個々の対象者の障害福祉サービス事業・障害者支援施設に対する思いを知る。
事前	(実習期間前) 実習配属先の施設概要（沿革、種別、環境、サービス内容等）に関する情報を収集し、まとめて配属先の施設について理解をしておく。 (実習期間) 実習の課題・目標が達成可能となるように当日の目標を設定し、その内容を指導者に伝え指導、助言を得る。(0．5時間)
事後	(実習期間) 1日の実習内容の記録、考察、翌日の目標等を実習日誌に記録し、指導者に提出する。 (実習期間後) 施設概要、実習日誌、実習のまとめなど実習の全記録を指導者に提出し、指導を仰ぐ。次の実習に向けて自身の課題について明確にしておく。(1．5時間)

2020/07/16(木)22:30

科 目 名	介護実習Ⅰ－１ [介]			授業コード	1240123
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	増田 いづみ				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	コミュニケーション　　地域　　生活

到達目標	1.介護福祉士の役割を理解し、説明できる。 2.地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、説明できる。 3.対象者や家族とのコミュニケーションを積極的に図ることができる。 4.対象者の生活と地域との関わりを実習を通して学び、地域での生活を支える施設の役割を理解し、説明できる。			
授業の概要	地域における様々な場において、高齢者や障害のある人の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 基本的な生活支援を通して、利用者の状況に応じた介護技術の習得を図り、実習施設・事業所のカンファレンスに参加し、多職種の役割と連携について理解する。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	介護の現場に参加し、利用者、介護職員とのコミュニケーションを図りながら介護福祉の知識、技能の基本的な部分を学ぶ。また、学生は学内の文献知識だけではなく、現場における工夫など介護福祉士としての姿勢、態度について学ぶ。
評価方法 及び評価基準	―	学習意欲、実習に取り組む姿勢、実習記録内容を総合して評価する。 介護実習施設指導者からの「実習評価表」による評価と、担当教員の評価により総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての 注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。 授業内で配布される実習ハンドブック、実習要項は介護実習全ての段階で使用する。大切に保管するとともに熟読しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III	○	○					

IV		○					
V							

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1.通所介護（デイサービス） 2.通所リハビリテーション（デイケア） 3.障害福祉サービス事業、障害支援施設 （1～3のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 6日間 [実習内容] 1.デイサービス・デイケア (1)デイサービス・デイケアの役割と機能を理解する。 (2)デイサービス・デイケアで行われている介護サービスの内容を理解する。 (3)対象者の送迎や、その日行われているプログラムを見学し、デイサービス・デイケアが対象者のみならず家族にとって、どのような役割を果たしているのかを理解する。 (4)対象者とのコミュニケーションを通して、個々の対象者のデイサービス・デイケアに対する思いを知る。 2.障害福祉サービス事業・障害者支援施設 (1)障害福祉サービス事業・障害者支援施設の役割と機能を理解する。 (2)障害福祉サービス事業・障害者支援施設で行われている事業の内容を理解する。 (3)その日行われているプログラムを見学し、対象者にとって障害福祉サービス事業・障害者支援施設が、どのような役割を果たしているのかを理解する。 (4)対象者とのコミュニケーションを通して、個々の対象者の障害福祉サービス事業・障害者支援施設に対する思いを知る。
事前	(実習期間前) 実習配属先の施設概要（沿革、種別、環境、サービス内容等）に関する情報を収集し、まとめて配属先の施設について理解をしておく。 (実習期間) 実習の課題・目標が達成可能となるように当日の目標を設定し、その内容を指導者に伝え指導、助言を得る。(0．5時間)
事後	(実習期間) 1日の実習内容の記録、考察、翌日の目標等を実習日誌に記録し、指導者に提出する。 (実習期間後) 施設概要、実習日誌、実習のまとめなど実習の全記録を指導者に提出し、指導を仰ぐ。次の実習に向けて自身の課題について明確にしておく。(1．5時間)

2020/07/16(木)21:31

科 目 名	保健医療サービス論 [社心]			授業コード	1250012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関する キーワード	国民医療費、医療保険、診療報酬制度、医療法、医療ソーシャルワーカーの業務指針、インフォームド・コンセント
到達目標	1. 個人と社会をめぐるさまざまな分野の知識を基盤にした上で、保健医療サービスに関する専門的知識を獲得し、制度・知識の定着を図ることができる。 2. 現在の社会保障費のなかで医療がどの程度占めているのか、その内訳はどのようなものなのか、また普段自分達が医療機関に受診しているが、その制度体系やメカニズムはどのようなものなのか、医療機関で働く専門職はどのような人で、どのようにチームを組み連携しているのか、具体的に説明することができる。 3. 疾病を契機に生じるさまざまな問題に医療ソーシャルワーカーはどのように対応しているのか、その業務内容を説明できる。
授業の概要	人々の傷病や健康に関する問題は、もともと社会福祉との深い関わりがあった。そして、社会福祉実践の中心がコミュニティを基盤としたものになった昨今、ソーシャルワーカーは、保健医療と連携しながら人々の支援を行なっていくことが強く求められている。 この授業では、社会福祉と保健医療のかかわり、社会福祉が保健医療と連携する意義とその必要性、保健医療サービスの概要や制度に関する知識、保健医療とかかわるソーシャルワーカーの実践について学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / ・第8回と第15回授業では、授業内容の定着を図るために口頭で一問一答を行う。 ・授業の理解度を確認するため、第9回の授業において中間試験を行う。なお、事後の授業において模範解答を配布するとともに解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	中間試験50%、期末試験50%
フィードバック	授業内で実施した中間試験については、事後の授業において模範解答を配布し、出題の意図や解答を講評する。期末試験にも役立つため、必ず復習すること。
履修に際しての 注意事項	・本科目は社会福祉士国家試験を見据えた授業を展開している。私語については厳しく対応するため、静かに受講してもらいたい。 ・社会福祉専攻で医療ソーシャルワーク実習を希望する場合、本科目は医療ソーシャルワーク実習指導の履修要件科目の一つとなっており、一定の評価を受ける必要がある。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				

III							
IV							
V		○					

テキスト1	特になし。資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保健医療と社会福祉のかかわり
事前	保健医療にかかわるソーシャルワーク場面を想定し、まとめておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習すること。(2時間)

2	保健医療のなりたち～日本の医療制度、歴史的考察～
事前	ソーシャルワークの歴史、戦後の社会保障制度を復習しておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、日本の医療制度の歴史を説明できるようにすること。(2時間)

3	国民医療費について
事前	社会保障論を復習しておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、国民医療費とは何か、詳細を覚えて説明できるようにすること。(2時間)

4	保健医療制度の概要1 医療保険の給付内容、高額療養費制度
事前	社会保障論で学んだ医療保険制度を復習しておく。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、医療保険制度の詳細を説明できるようにすること。(2時間)

5	保健医療制度の概要2 診療報酬制度の概要、診療報酬の仕組み
事前	診療報酬制度とは何か調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、診療報酬制度について説明できるようにすること。(2時間)

6	医療法1 医療提供施設について
事前	医療法について調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療法について説明できるようにすること。(2時間)

7	医療法2 医療計画について、地域連携クリティカルパス
事前	地域連携クリティカルパスについて調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療計画および地域連携クリティカルパスについて説明できるようにすること。(2時間)

8	医療機関完結型医療から地域完結型医療へ 退院計画
事前	医療機関完結型医療と地域完結型医療について調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、退院計画および地域完結型医療について具体的に説明できるようにすること。(2時間)

9	中間試験、医療ソーシャルワーカーのビデオ視聴
事前	第1回から第8回までのプリントを復習しておくこと。(3時間)
事後	中間試験の範囲の内容を復習しておくこと。(1時間)

10	医療機関で働く専門職と根拠法
事前	医療機関で働く専門職とその根拠法を調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、各専門職の根拠法と業務内容について説明できるようにすること。(2時間)

11	医療ソーシャルワーカーの役割1 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務指針(業務の範囲)
事前	ソーシャルワークの歴史を復習しておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療ソーシャルワーカーの業務指針(詳細資料)を読んでおくこと。(2時間)

12	医療ソーシャルワーカーの役割2 医療ソーシャルワーカーの業務指針と業務の実際
事前	事前に配布した事例を読んでくること。(2時間)

事後	授業で配布したプリントを復習し、医療ソーシャルワーカーの業務と専門性を説明できるようにすること。（2時間）

13	多職種協働・チームワーク
事前	多職種協働について調べておくこと。(2時間）
事後	授業で配布したプリントを復習し、チームワークの型とモデルを説明できるようにすること。(2時間）

14	医療における人の尊厳の保持（患者の権利）、インフォームドコンセントの原理と実際
事前	患者の権利について調べてくること。(2時間）
事後	授業で配布したプリントを復習し、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオン、ACPについて説明できるようにすること。(2時間）

15	医療ソーシャルワークの現状と課題、まとめ
事前	今までの授業内で配布したプリントを復習してくること。(2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、期末試験に備えること。(2時間）

2020/07/16(木)21:24

科 目 名	ソーシャルワークI [介]			授業コード	1250021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの歴史、ソーシャルワークの機能と役割、実践領域（ミクロ・メゾ・マクロ）、援助関係（バイスティックの7原則）

到達目標	・現代社会が抱える個人と社会をめぐるさまざまな問題から、ソーシャルワークの必要性を説明することができる。 ・ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係等について基本的知識を説明することができる。 ・ソーシャルワークとは何か、人と環境との交互作用とはどういうことか等を、例を示しながら説明することができる。			
授業の概要	この授業では、ソーシャルワークとは何かということを、ソーシャルワークの定義、歴史、機能と役割、実践領域、援助関係や面接技術等から幅広く学ぶ。 ソーシャルワークの講義科目は、ソーシャルワークI～IV、ソーシャルワーク総論I、IIからなっている。その一番基礎的な科目が本講義である。よって、人の幸せを支える学問であるソーシャルワークの基礎を理解するとともに、多種多様な場面で必要とされているソーシャルワークへの関心がより深まっていくことを目的としている。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・毎回の授業でリアクションペーパーをとり、次の授業でそれを使用する。 ・授業の理解度を確認するため、第8回の授業において確認テストを行う。なお、事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。
評価方法及び評価基準	試験	授業に臨む態度およびリアクションペーパー50%、試験50%（中間試験、期末試験）		
フィードバック	授業内で実施した中間試験については、事後の授業において返却し、その際に出題の意図について説明し講評する。各自定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての注意事項	ソーシャルワークの一番基礎的な科目であり、ソーシャルワーク演習や実習とも深く関連している科目である。よって、真剣にかつ主体的に授業に臨むこと。なお、私語に対しては厳しく対処する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							

IV							
V	○						

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法II 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053926
テキスト2	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法I 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト3	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	9784623053902
参考文献	授業時、必要に応じ紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：ソーシャルワークを学ぶにあたって
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」のはしがき、目次、序章を読んでくること。（1時間30分）
事後	新聞やテレビのニュース等から現代社会にまつわる問題をピックアップし、現代社会が抱える福祉的課題を自分なりにまとめておくこと。（2時間30分）

2	ソーシャルワークの範囲・人間と環境の理解
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」の第1章を読み、理解してくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、再度テキスト該当箇所を読むこと。（2時間）

3	ソーシャルワークの定義（旧定義との比較、社会変革～エンパワーメント）
事前	テキスト「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p9の定義は旧定義である。第1章を読み込み、新しい定義を調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、旧定義と新定義の違いの理解を深めること。また、「相談援助の基盤と専門職」p23－32を読んでくること（2時間）

4	ソーシャルワークの定義（社会正義～ウェルビーイング）
事前	ソーシャルワークの新定義の中でわからない用語を調べ、理解を深めてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習した上で、新定義を暗記してくること。「相談援助の基盤と専門職」p91の図3-2を理解してくること。（2時間）

5	ソーシャルワークの援助体系・歴史（SW前史～発展期）
事前	「相談援助の基盤と専門職」p33-59を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、ソーシャルワーク萌芽期から1940年代までの歴史を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

6	ソーシャルワークの歴史（モデル・アプローチ）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」p119表6-1、p120-145を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、1940年代以降のソーシャルワークのアプローチの動向を説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

7	ソーシャルワークの実践領域・専門職性・4要素
事前	ソーシャルワーカーの専門性とは何か、各自調べてくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、実践領域、専門職性、4要素を具体例をあげて説明できるように理解を深めておくこと。（2時間）

8	中間テスト・倫理綱領
事前	第1回～第7回までのプリントを復習しておくこと。（3時間）
事後	「相談援助の基盤と専門職」p132-147を読み込んでおくこと。（2時間）

9	中間テスト解説・ソーシャルワークの機能と役割（調整的機能、開発的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、調整的機能と開発的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

10	ソーシャルワークの機能と役割（代弁的機能、教育的機能）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」第2章を再度読み込んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、代弁的機能と教育的機能について説明できるように理解を深めてくること。（2時間）

11	ソーシャルワークと援助関係（個別化～意図的な感情の表出）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p126-136を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-137を読んで理解を深めてくること。（2時間）

12	ソーシャルワークと援助関係（統制された情緒的関与～秘密保持）
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p136-141まで読んでくること。（1時間30分）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、バイスティックの7つの原則をすべて覚えるとともに具体的に説明できるようにしてくること。（2時間30分）

13	ソーシャルワークの援助過程
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」第2章−第5章を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。（2時間）

14	ソーシャルワークの面接技術
事前	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」p68-94を読んでくること。（2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深めてくること。（2時間）

15	まとめ・総復習
事前	授業内で配布したプリントすべてを復習してくること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ、理解を深めておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)21:49

科 目 名	ソーシャルワークII [社]			授業コード	1250032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク 援助プロセス グループ支援 家族支援
到達目標	・ソーシャルワークのインテークから終結まで、事例を通してソーシャルワークの一連のプロセスを説明することができる。 ・グループを用いた支援、家族支援の考え方などを学ぶなかで、ミクロからマクロまでの視点を持ち、ソーシャルワークの全体像を説明することができる。 ・グループを使って個人の成長を支援していくグループ支援の意義と原則、展開過程やアプローチ等について説明することができる。 ・人びとが抱える生活問題について理解し、その解決に向け他者と連携・協働できる知識を習得することができる。
授業の概要	この授業ではソーシャルワークの基本的な視点と相談援助の理念を確認し、ソーシャルワークのプロセスを理解する。また個別援助から、グループを活用した援助、家族への援助と学習を進め、ソーシャルワークの総合的包括的な援助の意義と課題について学んでいく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング	
評価方法及び評価基準	試験実施	授業に臨む姿勢とリアクションペーパー50%、試験50%
フィードバック	リアクションペーパーは次回授業でフィードバックする。
履修に際しての注意事項	ソーシャルワークの基盤科目であり、演習や実習とも深く関連している。そのため、真摯な態度で主体的に授業に取り組むこと。 尚、以下の教科書、参考文献はソーシャルワークⅠ、Ⅱ、Ⅲ、ソーシャルワーク演習、実習などの授業で共通して使用するテキストとなる。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 岩間伸之他 ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	MINERVA 社会福祉士養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 岩間伸之他 ミネルヴァ書房 MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他 ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワークの形成過程
事前	シラバスを読み授業の進行を確認すること。また教科書、参考文献を読みソーシャルワークの必要性を考察する。(2時間)
事後	授業の内容と資料から、ソーシャルワークの形成過程について説明できるようにすること。(2時間)

2	ソーシャルワークが求められる背景
事前	教科書P1~P14を熟読し現代社会における課題を理解する。(2時間)
事後	授業内容から、現代社会においてソーシャルワーカーが発揮すべき機能について説明できるようにすること。(2時間)

3	総合的包括的援助について
事前	教科書P14~P23を熟読し地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を考える。(2時間)
事後	授業の内容から地域を基盤としたソーシャルワークの機能について説明できるようにすること。(2時間)

4	ソーシャルワークの援助プロセス
事前	事前に配布した資料を熟読し、援助プロセスについて理解すること。(2時間)
事後	授業の内容から援助プロセスの内容と課題を理解を深めること。(2時間)

5	ソーシャルワークのプロセスI（導入期）
事前	教科書P27~P42を熟読し、導入期の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から導入期の課題とアウトリーチの必要性について理解を深める。(2時間)

6	ソーシャルワークのプロセスII（事前評価）
事前	教科書P45~P68を熟読しアセスメントの内容と視点について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料からアセスメントについて理解し実践できるよう理解を深める。(2時間)

7	ソーシャルワークのプロセスIII（支援計画）
事前	教科書P69~P92を熟読し支援計画の課題について考える。(2時間)
事後	授業内容を含め支援計画の要点について理解を深める。（2時間）

8	ソーシャルワークのプロセスIV（評価・終結）
事前	教科書のP93~P114を熟読し、モニタリングと終結の課題を考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から評価、終結の意義と課題について理解する。(2時間)

9	グループ支援（グループワーク）の形成過程
事前	教科書と参考文献からグループ支援の形成過程について熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の形成過程の理解を深める。(2時間)

10	グループ支援の意義と課題
事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の意義について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループ支援の意義と課題について理解を深める。(2時間)

11	グループ支援の実際と課題（事例から）
事前	事前に配布した事例を熟読し課題について考察してくること。(2時間)
事後	教科書の内容と事例の検討からあらためてグループ支援について復習する。(2時間)

12	グループ支援の実践原則

事前	教科書P199~P202を熟読しグループ支援の実践原則について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料をからグループ支援お実践原則を具体的に理解を深めること。(2時間)

13	グループ支援の展開過程
事前	教科書P202~P207を熟読しグループ支援の展開過程について考えること。(2時間)
事後	授業内容と資料からグループの展開過程の理解を深めること。(2時間)

14	家族支援の基本的視座
事前	教科書P208~P213を熟読し家族支援の構成要素について考える。(2時間)
事後	授業の内容と資料から家族支援の概念と構成要素の理解を深める。(2時間)

15	家族支援の方法と課題
事前	教科書P214~P228を熟読し家族支援の方法と実際について考える。(2時間)
事後	授業内容と資料から家族支援の方法と課題について理解を深める。(2時間)

2020/07/16(木)20:59

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	1250040
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)21:56

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [介]			授業コード	1250051
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:52

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1250060
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:28

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1250073
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	松本 葉子				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:04

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1250080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーカーの専門性、ソーシャルワークの考え方・姿勢、面接技術
到達目標	・ソーシャルワーカーとして実践に則した専門的知識、価値、技術を習得する（理論と実践と意識する）。また、対人援助職としての姿勢を学び、専門職倫理観について説明できる。 ・保健医療分野のみならず、障害、高齢、児童など幅広いソーシャルワークの現状と課題を多面的に理解し、説明できる。 ・利用者（患者）や家族の気持ちや生活を考えるとともに、支援者であるソーシャルワーカーの実際（業務内容および気持ち）を具体的に考えられ、説明できる。 ・ディスカッションを通じて、自分の意見を言語化できる。また、ゼミのメンバーのさまざまな視点を受け止めることができる。 ・研究論文作成方法を理解し、実践できる。 学生自身が自分自身を客観視し、一人ひとりの尊厳を尊重しつつ、専門職としての姿勢を理解し、知識や技術を主体的に習得できるようになる。
授業の概要	1. 保健・医療・福祉をとりまく状況をさまざまな視点からとらえ、現状と課題を理解する。文献、映像、および現場の声を取り入れながら、事例に関する背景や実際の諸問題を学習する。 2. テーマに基づいたディスカッション、ロールプレイを用いた面接技術の実践、事例検討（アセスメント方法）等を軸としてゼミを展開する。現場で求められるソーシャルワーカーの価値、知識、技術を具体的に習得できる時間とする。障害者施設等の見学も行う。 3. 後期は、自己の関心、研究テーマを模索していく。各自、関心のあるテーマを選択し、論文やデータ等をまとめて発 表、ディスカッションを行う。 4. 論文執筆方法、文献検索方法、卒論・ゼミ論のテーマの検討を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回下記のいずれかもしくは複数の方法を用いて授業を行う。 ・ディスカッションやグループワークを実施する。 ・2-3人、もしくは4-5人に分かれ、ロールプレイを行う。 ・各自調べてきた内容をプレゼンテーションし、それに基づいてディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内の課題や授業への取り組み姿勢（50%）、発表内容（50%）により総合的に評価する。		
フィードバック	ロールプレイ後に、各ペア・各グループの良い点、改善点をその都度授業内でフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	授業内のディスカッションなどには積極的に参加することを希望する。 本ゼミ履修者は、極力「医療福祉論」を履修すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							

II		○					
III					○		
IV							
V				○			

テキスト1	特になし。適宜プリントなどを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【授業の方法】 学生の主体的な学びを促進するため、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、プレゼンテーション等を多く取り入れる。 【授業計画】 第1回　前期オリエンテーション 第2回　ソーシャルワーカーに必要な姿勢について 第3回　障害分野における現状 第4回　保健医療分野における現状 第5回　高齢、児童分野における現状 第6回　アセスメントについて 第7回～11回　面接技法とアセスメント 第12回～14回　ソーシャルワークの事例を考え、ディスカッションをする。 第15回　前期まとめ 第16回　後期オリエンテーション 第17回～第21回　学生の関心テーマをまとめて発表、およびディスカッション 第22回　福祉をめぐる現状と課題をディスカッション 第23回～24回　卒業研究報告会参加 第25回　ゼミ論文報告会参加 第26回　研究論文の書き方、先行研究検索方法講義 第27回　研究テーマの立て方 第28回　研究動機、研究目的、先行研究の報告 第29回　個人発表、ディスカッション 第30回　後期まとめ 【課題に対するフィードバック・履修上のルール】 毎回の授業内で、課題に対するコメントを行うため復習に役立てること。 毎回の授業で、必ず発言すること。
事前	・常に社会の諸問題にアンテナを張り、どのような課題があるか、どのような解決策があるか模索する。 ・新聞やニュースに敏感になり、わからないことは積極的に調べる。 ・自分が関心をもったテーマについて論文や各種データを調べ、発表できるよう準備をする。（毎回2時間）
事後	・授業で学んだ面接技術やアプローチを復習し、実生活で使ってみる。 ・授業内で学んだ内容を深めるため、さらに深く掘り下げて調べる。（毎回2時間）

2020/07/16(木)22:24

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1250090
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーカーの専門職性、ソーシャルワーカーとしての姿勢、論文執筆、プレゼンテーション能力

到達目標	・対人援助職としての専門的力量を伸ばし、援助をする上でのジレンマ、倫理的問題に対して、専門職としてどのように対応するのか、自身の考えを深めることができる。 ・研究論文作成方法を学び、実際に執筆し、プレゼンテーション能力を身につけ、実施することができる。 学生は、研究論文について指導を受け、自身の関心テーマに真正面から向き合う。自身の研究テーマとゼミ内のほかの学生のテーマを検討する中で、多様化する様々な福祉ニーズを理解し、それに対して柔軟な意見、対応ができるようにする。また、どのような専門領域であっても、「生活」を中心とした幅広い考え方を醸成することができる。専門職としての姿勢を持ち、主体的に学びを深める。			
授業の概要	1. ソーシャルワーカーとしての専門的知識および技術を深め、援助職としての支援のあり方を考える。 2. 各自、関心をもった研究テーマにそって、研究計画を立て、理解を深める。 3. 論文作成に必要な文献検索および整理方法を学び、調査などを行なう。 4. 個別指導を通して、卒業論文もしくはゼミ論文を作成する。 5. プレゼンテーションの方法を学び、実施する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回、下記のいずれかを実施する。 ・ペアワーク、グループワークでのディスカッション ・各自調べてきた内容のプレゼンテーション 等
評価方法及び評価基準	レポート	授業内の取り組み（20%）、論文内容（60%）、発表（20%）を総合的に評価する。授業には主体的に参加すること。		
フィードバック	ディスカッションやロールプレイについては、良い点と改善点を授業内でフィードバックする。また、多様な視点について、学生のコメントに基づいてさらに説明を行う。			
履修に際しての注意事項	ゼミでは必ず発言をし、個別指導の場合は事前に予約をとること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							

IV					○		
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【授業の方法】 学生の主体的な学びを促進するため、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等を多く取り入れる。また、論文執筆にあたり個別指導も適宜行っていく。 【授業計画】 第1回　前期オリエンテーション 第2回　各自の論文テーマをディスカッション 第3回　論文研究計画講義 第4回～5回　研究計画、研究方法の検討、ディスカッション 第6回～8回　先行研究からの学びを各自発表、執筆スタート 第9回～14回　執筆（個別指導） 第15回　前期まとめ 第16回　後期オリエンテーション 第17回　論文執筆進捗状況報告 第18回～21回　論文執筆（個別指導） 第22回　論文提出 第23～24回　卒業研究発表会参加 第25回　ゼミ論文内容報告、プレゼンテーションについて 第26回　ゼミ論文発表会 第27回～第29回　社会福祉士国家試験対策 第30回　後期まとめ
事前	・関心のあるテーマについて調べてまとめておくこと。 ・わかりやすい資料を作成し、プレゼンテーションに備えること。（毎回2時間）
事後	・授業内で新たに知った内容、さらに深めたいと考えた事柄について、復習しておくこと。 ・論文執筆の個人指導で、次までに行っておくことを伝えるので各自のペースで進めておくこと。（毎回2時間）

2020/07/16(木)21:38

科 目 名	医療福祉論 [社]			授業コード	1250112
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	松本 葉子				

科目に関する キーワード	医療ソーシャルワーク、患者・家族の理解、事例検討、倫理的ジレンマ
到達目標	・医療福祉の背景について理解し、説明することができる。 ・医療ソーシャルワーカーの役割・機能について説明することができる。 ・医療ソーシャルワーカーの実践について理解を深め、グループワークやロールプレイをする中で面接技術やアセスメント、アプローチについて留意すべき点や専門職としての視点などを説明することができる。 ・専門職倫理および実践における倫理的ジレンマについて説明することができる。 ・多機関、多職種との連携について説明することができる。
授業の概要	人々の傷病や健康に関する問題は、もともと社会福祉との深いかかわりがあった。そして、社会福祉実践の中心がコミュニティを基盤としたものになった昨今、保健医療にかかわるソーシャルワーカーは、クライエントのニーズに基づき、地域のあらゆる社会資源と連携しながら支援を行っていくことが強く求められている。 この授業では、保健医療サービス論の履修内容を踏まえ、病院等の保健医療機関におけるソーシャルワーク実践について事例を多用して理解を深めていく。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・毎回の授業で双方向の意見交換を行う。 ・ロールプレイやグループディスカッションを行う。 ・映像や実際の現場の事例を通して、プランを立て、発表する。
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験50%、授業中の活動及び課題の評価50%		
フィードバック	ロールプレイや発表、グループワークでの内容の良い点、改善点を授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・「保健医療サービス論」の内容を前提とするので、復習して授業に臨むこと。 ・事例を多用し、知識の獲得よりも考察を深めることに重きを置くので、授業への主体的な参加が重要である。4年夏期の医療ソーシャルワーク実習配属のためには一定の成績が必要である。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし。適宜教員が準備する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	医療ソーシャルワークのあらたなかたち
事前	医療福祉にまつわる課題を考え、まとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
2	医療福祉を取り巻く背景、医療と福祉とのかかわり
事前	医療福祉をとりまく背景について、具体的に考え、まとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
3	医療ソーシャルワークの歴史、医療ソーシャルワーカー業務指針
事前	医療ソーシャルワーカーの業務指針を読んで理解してくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
4	医療福祉にかかわる制度(医療保険制度の概要)
事前	保健医療サービス論を復習してくる。(2時間)
事後	保健医療サービス論で配布したプリント及び本授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
5	医療福祉にかかわる制度(保険診療の仕組み、診療報酬制度の概要)
事前	保健医療サービス論を復習してくる。(2時間)
事後	保健医療サービス論で配布したプリント、および本授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
6	病に罹るということ、病気の心理・社会的影響、患者理解と支援
事前	病気に罹ったときを思い出し、どうだったかまとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
7	患者、家族の理解について(事例:ターミナル期のビデオ)
事前	「患者」のさまざまな側面(身体・心理・社会・経済・霊的側面)を具体的に考えてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
8	患者・家族の理解、家族と病気
事前	事前に配布した資料を作成してくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
9	医療ソーシャルワーク実践の内容と方法1　事例:救急患者の支援
事前	事前に配布した資料を読んで、ポイントをまとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
10	医療ソーシャルワーク実践の内容と方法2　事例:生活習慣病患者への支援
事前	事前に配布した資料を読んで、ポイントをまとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
11	医療ソーシャルワーク実践の内容と方法3　事例:難病患者の支援
事前	事前に配布した資料を読んで、ポイントをまとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
12	医療ソーシャルワーク実践の内容と方法4　事例:児童・救急の事例
事前	事前に配布した資料を読んで、ポイントをまとめてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)
13	医療ソーシャルワーク実践の内容と方法5　事例:精神科の事例、倫理的ジレンマ
事前	事前に配布した資料を読んで、ポイントをまとめてくる。(2時間)

事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)

14	面接技術、倫理的ジレンマ
事前	面接技術の復習をしてくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)

15	まとめ
事前	今まで配布したプリントを復習してくる。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、理解を深める。(2時間)

2020/07/16(木)20:42

科 目 名	医療ソーシャルワーク実習指導 [社]			授業コード	1250122
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	松本 葉子				

科目に関する キーワード	生活課題、医療ソーシャルワーカーの業務指針、医療ソーシャルワーカーの倫理綱領
到達目標	1. 疾病を契機に生じるさまざまな生活課題を説明できる。 2. 医療ソーシャルワーク実践に必要とされる価値、知識、技術の再確認を行い、事例を通して問題解決の想定ができる。 3. 実習課題、目標を設定することができる。 4. 実習前、後の自己のソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを意識化することができる。
授業の概要	本科目は、3年次夏期に実施されたソーシャルワーク実習履修済みの学生を対象として設定された科目である。医療ソーシャルワーク実習では、より専門的な価値、知識、技術を要求される。4年夏期の医療ソーシャルワーク実習を目指して、その準備を講義と演習をとおして行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・ペアもしくはグループでのディスカッションを行う。 ・課題についてのプレゼンテーションを複数回行う。 ・事例検討の際にアセスメント、プランニングを行い、発表する。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題やレポート（50%）、授業内での取り組み（50%）により総合的に評価する。		
フィードバック	ロールプレイやディスカッションの良い点、改善点をその都度授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・本科目は、保健医療サービス論とソーシャルワーク総論Ⅰで一定の成績をおさめないと履修できない。 ・授業への積極的な参加姿勢が求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							

V			○				

テキスト1	医療福祉入門　患者とよい関係を築くために　砂子田　篤・高橋　学（編著）　みらい	9784860154752
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	医療ソーシャルワーク実習の位置づけ（オリエンテーション）
事前	テキスト序章を読む。（30分）
事後	テキスト第1章を読む。（30分）

2	過去の実習体験の振り返り
事前	ソーシャルワーク実習及び精神保健福祉士実習の日誌を読み返してくる。（45分）
事後	授業内で配布したプリントを読み返す。（15分）

3	「病院」とは・「疾病と障害」とは
事前	テキスト第4章を読む。（30分）
事後	テキスト第5章を読む。（30分）

4	「患者」とは
事前	テキスト第6章を読む。（45分）
事後	授業内で配布したプリントを復習する。（15分）

5	患者の心理社会的背景を知る（1）闘病記を読む
事前	患者自身が書いた闘病記を探し、読む。（1時間）
事後	闘病記を読んだ感想をまとめる。（1時間）

6	患者の心理社会的背景を知る（2）闘病記から患者家族について学ぶ
事前	闘病記を読み、患者家族の状況や思いについてまとめる。（30分）
事後	授業内で配布したプリントを復習する。（30分）

7	患者の心理社会的背景を知る（3）闘病記から多職種・多機関との連携を学ぶ
事前	医療機関で働く医療関連職種について調べる。（30分）
事後	授業内での事例を読み返し、理解を深める。（30分）

8	医療ソーシャルワークの実際
事前	テキスト第10章を読む。（45分）
事後	授業内で配布した資料を復習し、理解を深める。（15分）

9	医療ソーシャルワークの実践事例：急性期病院の事例
事前	事前に渡したプリントを読み、MSWの専門性についてまとめる。（45分）
事後	授業内で配布したプリントの復習、およびテキスト第11章事例1を読む。（30分）

10	医療ソーシャルワークの実践事例：回復期リハビリテーション病棟の事例
事前	事前に渡したプリントを読み、MSWの専門性についてまとめる。（45分）
事後	授業内で配布したプリントの復習、およびテキスト第11章事例2を読む。（30分）

11	医療ソーシャルワークの実践事例：独居高齢者の自宅退院の事例
事前	事前に渡したプリントを読み、MSWの専門性についてまとめる。（45分）
事後	授業内で配布したプリントの復習、およびテキスト第11章事例4を読む。（30分）

12	医療ソーシャルワークの実践事例：治療を拒否する患者の事例
事前	事前に渡したプリントを読み、MSWの専門性についてまとめる。（45分）
事後	授業内で配布したプリントの復習、およびテキスト第11章事例3を読む。（30分）

13	医療ソーシャルワーカーとチーム医療
事前	テキスト第9章を読む。（45分）

事後	授業内で配布したプリントを復習する。(15分)

14	実習課題・目標の設定と整理
事前	自分なりの実習課題を立ててくる。(45分)
事後	課題を再点検する。(15分)

15	制度、サービス、医療用語の確認、医療ソーシャルワーク実習生に求められる姿勢
事前	テキスト第3章を読む。(30分)
事後	授業内で配布したプリントの復習、およびテキスト第2章を読む。(30分)

2020/07/16(木)22:20

科 目 名	医療ソーシャルワーク実習 [社]			授業コード	1250133
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	松本 葉子				
医療機関等の臨床現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	医療ソーシャルワーク、面接同席やカンファレンス出席、アセスメント、多職種連携
到達目標	・疾病を契機におこる生活問題を知り、社会保障制度や社会資源等がどのように活用されて問題解決がはかられているか説明できる。 ・医療ソーシャルワークにかかわる知識と技術について、具体的かつ実際的に把握し、実践的な技術を体得することができる。 ・医療ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理等について説明することができる。 ・多職種との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解し説明することができる。 ・学生自身が設定した課題の実行とその成果の振り返りを行う中で、医療機関にソーシャルワーカーがいる意味を説明できる。
授業の概要	医療ソーシャルワーカーに必要な能力を身に付けるため、医療機関等の臨床現場において、実習指導者の指導の下、約2週間の実習を行う。面接の同席やカンファレンスの出席を通じて、多様なケースのアセスメントやプランニングを行う。なお、元医療ソーシャルワーカーの教員がその現場経験を生かし、実習が現実的かつ学生のキャリア教育になるよう巡回指導を行う。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実践現場での課題発見、問題解決型学習
評価方法及び評価基準	―	実習機関による実習評価(40%)、巡回指導の評価(30%)、実習日誌の記入状況(30%)、その他実習への取り組み等を総合的に評価する。		
フィードバック	・実習先の指導者からは実習中その都度のフィードバックがある。 ・教員の実習巡回では実習日誌の確認、面接をした上で、良い点と改善点をフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	・本科目は、保健医療サービス論、ソーシャルワーク総論Ⅰ、医療福祉論、医療ソーシャルワーク実習指導で一定の成績をおさめた学生のみが履修できる。 ・原則、実習中の欠席は認められない。実習先によって規程された実習時間及び内容を満たさなければならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
Ⅰ						○	
Ⅱ							
Ⅲ							
Ⅳ							

V				○		○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を行う（巡回指導など）。 具体的には、 ・医療ソーシャルワーカーの就業などに関する規程の理解、組織の一員としての役割、責任の理解 ・医療政策の影響を受ける配属先機関の経営と医療ソーシャルワーク実践の関係性の理解 ・医療チームにおける医療ソーシャルワーカーの役割機能の理解 ・医療ソーシャルワーカーとしての職業倫理の理解 ・患者、家族（クライエント）のおかれている状況や気持ちの理解 ・医療ソーシャルワーカー、および院内職員とのコミュニケーションを通じて関係性の構築 ・援助の展開過程の理解（可能であれば現場でのロールプレイ） ・面接技術の習得へ向けて、面接同席 ・多職種連携の実際の理解 ・地域社会への働きかけの実際に関する理解
事前	・保健医療サービス論、ソーシャルワーク総論Ⅰ、医療福祉論で学んだ知識を復習する。 ・医療ソーシャルワーク実習指導の授業内容を復習する。
事後	・4年の12月に医療ソーシャルワーク実習報告会があるので、実習内容の振り返り、まとめ、プレゼンテーションの準備を行う。

2020/07/16(木)22:04

科 目 名	基礎演習I [社]			授業コード	1260010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	読む力、書く力、考える力、まとめる力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション力

到達目標	建学の精神「捨我精進」を理解し、説明できるようになる。 大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的知識・技能・思考力を修得し、他の授業で活用できるようになる。			
授業の概要	大学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。この授業では、大学生として学んでゆくために必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考技法について演習を行い修得する。 具体的には、建学の精神、大学における授業の受け方、ノートの取り方、資料や情報の収集と整理方法、資料や情報の読み方、レポートの書き方、問題発見力や理論的思考、豊かな表現力（プレゼンテーション力）、建 設的な批判力、問題解決力について学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(35%)、演習課題（レポート）等(35%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。リアクションペーパーの書き方、レポートの書き方で行った演習について、優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	事前・事後の学修と、毎回の授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III						○	
IV		○					

V							

テキスト1	関係資料は「でんでんばん」もしくは毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の受け方1 ～大学で学ぶ意義「捨我精進」とは何か、予習、復習、授業を聴く、質問する～
事前	キャンパスガイドと履修要項を読んでおく。(0.5時間)
事後	大学生となった自分の4年間の目標について考える。(0.5時間)

2	対人関係づくり1 ～人間関係を構築し、他者と自己を理解する(人が好き、人が嫌いの自然さ)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己評価シート」を作成しておく。(0.5時間)
事後	でんでんばんもしくは授業内で配布する「自己紹介を考える」ワークシートに、自己紹介を通じて得た学びを記載すること。(0.5時間)

3	対人関係づくり2 ～コミュニケーション力(話す力、聴く力、質問する力)～
事前	でんでんばんもしくは授業内で配布するワークシート「私のコミュニケーションスタイル」を作成しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内の演習で学んだ他者のコミュニケーションスタイルと自分のコミュニケーションスタイルの相違点について理解しておくこと。(0.5時間)

4	授業の受け方2 ～ノートの取り方、リアクションペーパーの書き方～
事前	これまで書いてきたリアクションペーパーについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだノートの取り方、リアクションペーパーの書き方について他の授業でも実践すること。

5	授業の受け方3 ～優れたリアクションペーパーについて～
事前	これまで作成したノートやリアクションペーパーについて改善点を考えてみること。(0.5時間)
事後	優れた評価を受けたリアクションペーパーと自分のリアクションペーパーの違いを評価し、具体的な改善点について考えること。(0.5時間)

6	文献を深く読む ～文献を読んで理解するための演習(要約など)を行う～
事前	入学前課題のコメントを再確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ文献の読み方を振り返り、入学前課題を振り返ってみること。また、授業内で把握した文献の要約を行うこと(1時間)

7	レポート作成1 ～レポートとは何か～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(1)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した参考レポートと自分のレポートの違いについて確認・考察し、改善点を考察すること。(1時間)

8	レポート作成2 ～良いレポートを書くために～
事前	でんでんばんまたは授業内で配布する「レポートの書き方(2)」に関する資料を読み込んでおくこと。(0.5時間)
事後	これまで学んだ知識・技術を用いて夏休みの課題レポートを作成する。(2時間)

9	思考を可視化する ～マインドマップによる思考の可視化～
事前	「マインドマップ」とは何かについて調べておくこと。あなたの「未来」について思いつくキーワードを最低でも20個書き出しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだマインドマップの作成方法に基づき「自分について」というテーマでマインドマップを作成すること。(1時間)

	課題レポートのフィードバック分析 ～より良いレポートにするためには～

10	
事前	夏休みの課題として提出したレポートについて振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で共有した優れたレポートを参考に、自らのレポート作成の改善点について振り返ること。(0.5時間)

11	講演「青年期と性」 外部講師 (共同授業)
事前	「青年期と性」というテーマについて調べ、自分の考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ内容を振り返り、これからの日常生活で何をすべきかについて考えること。(0.5時間)

12	グループワーク1 ～グループワークとは チーム編成、テーマ決定、役割分担、進行管理～
事前	これまで経験してきたワークショップについて、どのような内容(テーマ、方法、結論等)のものがあったか振り返っておくこと。(0.5時間)
事後	グループで決定したテーマに関連する情報を調べておくこと。(0.5時間)

13	グループワーク2 ～ワークショップの実践～
事前	適切なブレーンストーミング(みんなで建設的に意見を出し合う)を行うために、事前に決定したテーマに関するアイデアを考え、整理しておくこと。(0.5時間)
事後	ワークショップの成果を生かして、次回のプレゼンテーションに向けた役割分担と発表資料作成を行うこと。(2時間)

14	グループワーク3 ～プレゼンテーションの方法～
事前	プレゼンテーションを行うために必要な資料の収集、プレゼンテーションのシナリオなどについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	授業で学んだ「プレゼンテーションとは何か」を参考にグループでプレゼンテーション資料の作成を行うこと。(1時間)

15	グループワーク4 ～発表 プレゼンテーションの聴き方、評価方法～
事前	適切なプレゼンテーションを行うための予行練習などを行っておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習で学んだすべての知識・技能について、これからの大学生活で生かしていくためには何が必要かを考え続け、実践すること。(継続課題)

2020/07/16(木)22:06

科 目 名	基礎演習II [社]			授業コード	1260020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	問題を発見する力、問題を解決する力、協働・連携する力、ソーシャルワーカーとしての基礎力

到達目標	3年次以降の専門教育に向けた学びの視点を説明できるようになる。 専門職として必要不可欠な基礎的な知識・技能・思考力を活用できるようになる。 問題発見力および問題解決力を修得し、3年次以降の学びで活用できるようになる。			
授業の概要	本学ではさまざまな科目を学び、基礎的教養や専門的知識・技術を身につける。 この授業では基礎演習Iで得た大学生に求められる基礎的な知識・技能・思考力を実践し、専門的な学びにつなげていく。 具体的には、社会福祉の諸問題を発見する力、考える力、調査する力、話し合う力、整理・発信する力などについて学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習科目のためセルフワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、主体性・能動性が求められる授業を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 学習意欲・学習態度(30%)、授業の理解程度(30%)、レポート・演習課題等(40%)を総合的に評価する。なお、合理的な理由のない欠席は学習意欲、学習態度の問題として取り扱う。		
フィードバック	演習で利用する入学前課題は教員がコメントを付けてフィードバックする。グループワーク演習の成果で優れた内容のものを授業内にてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	現代の社会福祉100の論点 Vol.2, 宮武剛(監修), 全国社会福祉協議会 田園調布学園大学 履修要項, 田園調布学園大学	
参考HP	https://lab.jst.go.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎演習2ガイダンス(福祉の専門性を育むために)
事前	本科目に関するシラバスを確認しておくこと。(0.5時間)
事後	基礎演習Iで学んだ内容について確認しておくこと。(0.5時間)

2	適切な話し合い、カンファレンス、会議の進め方について
事前	小学生から大学生になるまでの間で、複数のメンバーが集まって話し合いを行う「会議」と位置づけられる取り組みへの参加経験を振り返り、どのような会議(名称・種類など)に参加したことがあったか、その会議の意義と課題などについてまとめておくこと。(1時間)
事後	事前に資料を渡されたグループメンバーは、次回の会議に向けて資料を十分に読み込んでおくこと。(1時間)

3	準備をしない話し合いと準備をした話し合いの演習
事前	資料を渡されたグループは、当日に向けて会議の進行役、会議の進め方や結論づけ方について検討しておくこと。
事後	準備されない会議と準備された会議を実践的に経験し、これからの会議参加に向けて自分ができることは何かを考えてみること。(0.5時間)

4	社会福祉の課題を考える(1) ～課題となるテーマの発見・調査～
事前	「でんでんばん」または授業で配布した社会福祉の課題(論点)の枠組みについて確認し、興味関心があるテーマを決めておくこと。(0.5時間)
事後	グループメンバー内で決定したテーマ(社会福祉の課題)について、各自で資料を集めまとめておくこと。(1時間)

5	社会福祉の課題を考える(2) ～分析・整理～
事前	授業内で行ったテーマに関する情報共有から、フィールドワークの対象となる組織・施設・サービスを考えてみること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの実践に向けたスケジュールの確認とフィールドワークで行う質問について考えてみること。(0.5時間)

6	フィールドワーク(1) ～テーマに関する実態調査1～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	フィールドワークの進捗状況に基づき、追加調査などが必要ないか検討すること。(0.5時間)

7	フィールドワーク(2) ～テーマに関する実態調査2～
事前	フィールドワークの進捗状況について報告できるように準備すること。(0.5時間)
事後	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための準備を行うこと。(0.5時間)

8	テーマ(社会福祉の課題)とフィールドワークに基づく発表
事前	社会福祉の問題とフィールドワークの結果を発表するための最終確認を行っておくこと。(0.5時間)
事後	各グループの発表から得た学びを振り返ること。(0.5時間)

9	興味のある福祉分野の選定とグループ化
事前	フィールドワークで得た経験・知識から、興味のある福祉分野について考えておくこと。(0.5時間)
事後	興味のある福祉分野と専門分野または研究内容が近い本学の教員を調べてみること。(0.5時間)

10	グループでの研究室訪問によるインタビュー計画づくり ～研究内容とゼミ活動等の確認～
事前	教員の研究室への訪問計画を立てるために、対象となる教員のオフィスアワーの確認や事前訪問を行ってインタビュー依頼をする。(0.5時間)
事後	インタビュー計画に基づき、グループでの研究室訪問とインタビューを行うこと。(0.5時間)

11	グループでの研修室訪問結果の発表
事前	グループインタビュー結果を発表するための資料をまとめておくこと。(1時間)
事後	グループインタビュー発表結果から、自分が将来所属したいゼミについて考える。(0.5時間)

12	大学生に求められる研究倫理(共同授業)

事前	倫理および研究倫理とは何かについて文献・インターネット等で調べておくこと。(0.5時間)
事後	THE LABのサイトをアクセスし、大学院生のキム・パークとしてe-ラーニングを受講してみること。(1時間)

13	福祉現場に求められる人材を知る(共同授業)
事前	興味のある福祉分野の具体的な仕事内容について資料・文献・インターネットなどを用いて調べておくこと。(0.5時間)
事後	自分が福祉現場に求められる人材になるために、今後、何が必要なのか、そのためには何をすれば良いのか考えてみること。(0.5時間)

14	福祉現場に求められる人材になるために(1) ーグループワークー
事前	福祉現場に求められる人材になるために自分に必要な知識・技能とは何か、そのためには何を行う必要があるのか考える。(0.5時間)
事後	グループワークを通じて得た知識・経験から、これから専門教育を受ける自分に必要な知識・技能について理解を深める。(0.5時間)

15	福祉現場に求められる人材になるために(2) ー専門性への学びの計画を立てるー
事前	次の授業では履修要項のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを用いて、専門教育の学びに関する計画づくりの準備を行う。そのための準備として3年次以降のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	専門演習(ゼミ)での学の目標づくりと、カリキュラムツリーに基づく履修計画を完成させる。(1時間)

2020/07/16(木)22:19

科 目 名	福祉マインド実践講座 [社介心]			授業コード	1260030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一、小平 隆雄				
福祉現場で働く外部招聘講師による授業や、学生が地域に出て指導者による直接指導を受けながらボランティア活動を行う。					

科目に関するキーワード	福祉マインド、サービスラーニング、ボランティア活動、自己実現、福祉現場の理解
到達目標	本講座は大学で学んだ知識・技能を生かし、地域社会の課題解決を行う経験を通じて、市民的責任や社会的役割の重要性について理解すること（サービスラーニング）が目的である。 様々な形態による社会貢献活動への参加を通じて、「地域に深く根ざした大学」に通う学生としての自覚と責任感を持ち、さらには「他者との連帯」や「我欲・利己を捨てて奉仕する心」といった、福祉を学ぶ者としての重要な資質を早期に身につける。 また、早期に福祉現場と関わることで、将来の進路に対する理解を深め、福祉人材としての意識の向上と実践力を高める。 到達目標は以下の通りである。 ・多様な人々とコミュニケーションを取り、協力して活動できるようなる。 ・現代社会の福祉課題に気付き、その状況と必要な取り組みについて説明できるようになる。 ・ボランティア活動など地域貢献活動に主体的に参加できるようになる。 【履修ファイルの対応項目:C-1(1)、C-4(1)～(8)】
授業の概要	本講座は、これから社会福祉を広く学ぶ学生に対する具体的・実践的な「福祉マインド」を醸成するための導入教育であり、座学と実践的なフィールドワークを織り交ぜたサービスラーニング型の授業である。 毎回の講義で地域の福祉活動の紹介やボランティア募集が当事者や福祉施設職員によって行われる。 担当教員および招聘講師は、自治会活動、民生委員活動、ボランティア活動、福祉施設のサービス提供およびイベント企画など、地域における実際の福祉活動の推進に広く関わっているため、ボランティア活動に関する具体的かつ実践的な指導を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回の授業でテーマに関する自分の意見をまとめ、周囲の学生と話し合い、共通点、相違点などについて発表を行う。
評価方法及び評価基準	試験	期末試験(40%)、授業内の課題や諸活動への取り組み(30%)、活動報告書(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	ボランティア活動の実践結果について授業内で定期報告を行い、実践経験の共有と今後の活動に向けたフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	授業が不定期であるため、でんでんばんの掲示に留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV	○						

V					○		

テキスト1	関係資料を毎回の授業で配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「福祉マインド教育実践論」 ナカニシヤ出版 2007年 「ボランティア論「広がり」から「深まり」へ」 みらい 2010年	
参考HP	http://minitama.jp/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業の構成）
事前	福祉マインド実践講座のシラバスを読んでおくこと。（0.5時間）
事後	1年間の活動記録を記録することが重要なため、記録のためのノートもしくはそれに類するものを準備すること。（0.5時間）

2	ボランティア活動について（心構え）
事前	これまで行ってきた、ボランティア活動について振り返っておくこと。（0.5時間）
事後	授業を受けて、これから行うボランティア活動について必要な心構えについて確認すること。（0.5時間）

3	ボランティア活動について（対象と領域）
事前	ボランティア対象となる子ども、障害者、高齢者、地域社会などについて、どのような課題があるのか考えてみること。（0.5時間）
事後	授業で学んだ障害者への理解について、これから何ができるのか考えてみること。（0.5時間）

4	福祉って何だろう（自分の中の福祉マインド）
事前	福祉とは何かを考えてみること。（0.5時間）
事後	授業内で確認・共有された他の学生の福祉への考え方などを通じて、自分の福祉に対する考え方がどのように変化したのか・変化しなかったのか考えてみる。（0.5時間）

5	認知症サポータになろう（認知症サポータ養成講座の受講）
事前	認知症サポータとは何か、いつから始まって、現在はどのくらいの人数がいるのか調べてみること。（0.5時間）
事後	認知症サポーターとして、これからの生活の中で誰に、何ができそうなのかを考えてみること。（0.5時間）

6	地域活動への参加に向けて ※麻生区の認知症カフェへの参加など
事前	認知症カフェについて調べてみること。（0.5時間）
事後	認知症カフェに参加するためのスケジュールを計画すること。（0.5時間）

7	本学の地域貢献活動（1） ～ミニたまゆり～
事前	ミニたまゆりのホームページを確認すること。(0.5時間) ミニたまゆりホームページ
事後	ミニたまゆりへの参加に向けて、どのような関わり方をしていくのか考えてみること。（0.5時間）

8	本学の地域貢献活動（2）（赤い羽根共同募金、ちいきのちからシート、その他）
事前	赤い羽根共同募金について資料・文献・インターネットなどで調べておくこと。（0.5時間）
事後	大学が行っている、大学が行える、大学が行うべき地域貢献活動にはどのような内容のものがあるのか調べたり、考えてみること。（0.5時間）

9	夏期ボランティア活動について （自由選択ボランティア）
事前	前期中に行った自分のボランティア活動などを振り返ってみること。（0.5時間）
事後	夏期休業期間中に行うボランティア活動などのスケジュールを立てて、地元の社会福祉協議会への訪問を行う。（1時間）

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	

事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	ボランティア活動報告 ※これまでの振り返りとこれからに向けて
事前	前期及び夏期休業期間中に行ってきたボランティア活動について振り返ってみること。(0.5時間)
事後	他の学生の活動なども理解した上で、残りの期間でどのような活動を行っていくのかスケジュールを立ててみること。(0.5時間)

17	まちづくりを考える ※麻生区役所との連携講義
事前	「でんでんばん」または授業内で報せたテーマについて、事前に調べておくこと。(0.5時間)
事後	実際のまちづくりの活動を学んだ上で、事前に理解していた内容と比べてどの程度異なっていたか、どのような理解が深まったのか考えること。(0.5時間)

18	外部講師招聘による福祉マインド醸成講義
事前	招聘講師が示すテーマについて調べておくこと。(0.5時間)
事後	招聘講師から学んだ結果として、自分の中の何が変化したのか(またはしなかったのか)まとめてみること。(0.5時間)

19	福祉マインド実践講座のまとめに向けて
事前	福祉マインド実践講座を通じて行った、様々な年間活動について取りまとめておく。(1時間)
事後	福祉マインド実践講座を通じて行った、様々な年間活動について年間活動報告ワークシートに取りまとめておくこと。(1時間)

20	ミニたまゆりの参加に向けて
事前	ミニたまゆりに参加するにあたり、どのような学びを得たいか考えておくこと。(0.5時間)
事後	ミニたまゆりの参加に向けて自分の具体的な役割について確認しておくこと。(0.5時間)

21	ミニたまゆりの実践
事前	ミニたまゆりに主体的に参加するための心構えと準備をしておくこと。(0.5時間)
事後	ミニたまゆりへの参加を通じて得られた知識・経験と1年間を通じて得られた自分の中の福祉マインドについて考えてみる。(0.5時間)

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	

事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)20:52

科 目 名	社会福祉情報論I/社会福祉情報論 [社]			授業コード	1260041
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	福祉情報、ソーシャルワーク記録、ケアワーク記録、個人情報保護、地域ケア会議、見守り活動

到達目標	社会福祉と情報活用の関係について整理を行いながら、情報の有用性やリスクについて学ぶことで、将来、福祉現場においてサービスの質や連携を高める必要が生じた際に、情報マネジメントによって問題解決を実践的に行える知識と技術力を身につけることができる。			
授業の概要	社会福祉と情報活用の関係について、基礎的な理論および実践的な内容を学ぶ授業である。 現在、社会福祉活動において情報の収集・発信・分析など、福祉情報マネジメントに関する技術が、サービスの質と強く関係していることが十分に認識されておらず、福祉情報とそれらを取り扱う技術の整理、体系化が行われていない。 このため、社会福祉と情報の関係について整理を行い、個別ケアからコミュニティケアまで様々な福祉援助における情報の有用性と活用方法に関する理解を深め、実践現場で利用できる知識を修得する。 特に福祉記録、個人情報活用、ケース会議等における情報活用の重要性について事例を通じて理解を深める。 本講義は児童・高齢・障害・地域福祉などのように特定領域に限定した内容ではなく、様々な福祉領域における情報活用について広く取り扱っている点が特徴である。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	福祉現場で実践されている情報活用を演習を通じて体験し、学生間で意見交換する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の諸活動への取り組みとリアクションペーパー（20%），授業課題（30%），レポート（50%）		
フィードバック	リアクションペーパーに書かれた学びや疑問点について、次の授業でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業ごとにリアクションペーパーやワークシートにて学生の学びの成果を確認し、次回の授業にて疑問点や理解が十分でなかった点についてフィードバックする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	利用者支援向上のための社会福祉施設・事業者の情報化 ～IT時代の福祉ナレッジマネジメント～、村井祐一著、東京都社会福祉協議会	ISBN-10:4902198568 ISBN-13: 9784902198560
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	社会福祉情報論へのアプローチ　ー利用者本位の社会福祉のためにー、生田正幸著、ミネルヴァ書房 福祉情報化入門、岡本民夫、高橋紘士、森本佳樹、生田正幸編、有斐閣	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉と情報
事前	社会福祉情報論のシラバスとテキスト1章を読み込んでおくこと。(2時間)
事後	授業で配布した資料の再確認と福祉情報が与える影響範囲について理解を深めること。(2時間)

2	福祉領域における情報活用の視点
事前	日常生活において活用されている「情報」にはどのようなものがあるのか考え、まとめておくこと。(2時間)
事後	福祉領域において情報活用を行うことで何が、どうなる可能性を持つのか理解を深めておくこと。(2時間)

3	福祉情報の構成
事前	福祉情報とは何か、自分なりに調べておくこと。(2時間)
事後	福祉情報の構成を理解した上で、どのような福祉情報が手に入りにくいのか、それはなぜなのかについて考えてみること。(2時間)

4	福祉情報の特質
事前	福祉情報および情報が手に入らない生活を考えると何が起こるのか、身近な事柄で考えてみること。(2時間)
事後	福祉情報や情報を必要な人に適切に届けるためには、誰が、何をすることで改善・実現されるのか考えてみること。(2時間)

5	福祉援助と情報の関係
事前	ソーシャルワークやケアワークなどの援助場面において、どのような情報が必要とされ、どのように収集、整理され、何に使われているのか考えてみること。(2時間)
事後	ソーシャルワークやケアワークなどの援助場面において、どのような情報を活用することで、より良い支援につながるのか理解すること(2時間)

6	福祉施設における情報活用事例(児童養護施設における情報活用)
事前	事前に事例を読み込んでおくこと。(1時間)
事後	児童養護施設における情報活用事例のポイント(ICT化、情報活用システムづくり等)について整理し、理解すること。(3時間)

7	福祉施設における情報活用事例(高齢者施設における情報活用)
事前	事前に事例を読み込んでおくこと。(1時間)
事後	高齢者施設における情報活用事例のポイント(ICT化、情報活用システムづくり等)について整理し、理解すること。(3時間)

8	福祉施設における情報活用事例(地域包括支援センターにおける情報活用)
事前	事前に事例を読み込んでおくこと。(1時間)
事後	地域包括支援センターにおける情報活用事例のポイント(ICT化、情報活用システムづくり等)について整理し、理解すること。(3時間)

9	利用者・職員の経験・知識を活用する(思考法について)
事前	思考法にはどのようなものがあるのか調べておくこと。(2時間)
事後	日常の課題について授業で学んだ思考法を用いて思考してみること。(2時間)

10	福祉援助とIT(ICT) (データベース)
事前	福祉情報をビックデータ化することによって何が見えてくるのか、個別援助、地域援助、組織運営など、様々な視点による活用方法を考えてみること。(2時間)
事後	どのようにすれば、より多くの質の高い福祉情報が収集できるのか、また、収集された福祉情報はどのようにすれば、より活用しやすくなるのか考えてみること。(2時間)

11	福祉援助とIT(ICT) (気づき・知識のマネジメント)
	物事に対する知識の有無によって、同じ事象に対する判断・行動にどのような変化が起きるのか考えてみること。例えば、子どもと

事前	大人では、ある事柄についてどのように判断・行動が異なるのか考えてみること。(2時間)
事後	ICTや情報ネットワークシステムを用いて知識や経験を生かす事例を調べ、そのシステムの存在の有用性と課題について整理してみること。一例として「Yahoo!知恵袋」などがあげられる。(2時間)

12	福祉記録の活用(記録の機能と役割)
事前	福祉援助の現場において、どのような記録が何の目的で作成されているのか、資料、文献、インターネット等を用いて調べてみること。(2時間)
事後	福祉記録の価値について授業内で学んだことをまとめ、自分が福祉記録を作成する立場に立ったとき、どのような視点が必要となるのか整理してみること。(2時間)

13	福祉記録の活用(記録活用による支援の向上)
事前	どのような福祉記録が何に活用されることによって、どのような対象への効果が期待されるか、これまでの授業で学んだ内容からまとめておくこと。(2時間)
事後	福祉記録を実際に活用した事例を学んでみて、単に福祉記録を作成することと、活用するために福祉記録を作成するのとでは、何が、どのように異なるのか考えてみること。(2時間)

14	個人情報と福祉(個人情報の基礎)
事前	個人情報保護法の第1条および第15条から第35条まで読むこと。個人情報および個人情報保護法について、福祉との関係について考えてみること。個人情報の必要性や個人情報保護法によって生じている課題など(2時間)
事後	授業で学んだ個人情報に関する事実を踏まえ、社会における認識と法の趣旨にどのような相違点があるのか、そしてその相違点がどのような課題を生じさせるのか考えてみること。(2時間)

15	個人情報と福祉(個人情報の活用)
事前	福祉分野において個人情報を活用することで、何が、どのように改善されるのか考えてみること。(2時間)
事後	個人情報を含め、福祉情報全般を活用するためには、ソーシャルワーカーとしてどのような視点と行動が必要なのか整理および理解すること。(2時間)

2020/07/16(木)20:47

科 目 名	福祉行財政と福祉計画 [社]			授業コード	1260052
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				
福祉現場で福祉計画の立案、推進、評価に関わっている教員が授業を行う。					

科目に関する キーワード	福祉制度と歴史、公的資源、福祉専門諸機関、福祉専門員、福祉計画

到達目標	前半は制度的な基盤について学び、後半は市町村を念頭に置いた福祉計画の意義と技法について学ぶことで、ソーシャルワーカーとしての総合的な理論と実践力を身につけることができる。			
授業の概要	わが国の福祉政策は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革などを経て大きく変貌し、本格的な政策展開を目指した新しい体系に移行している。この新しい体系の全体像を理解し、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について学ぶ。 担当者は長年にわたり川崎市、横浜市、相模原市などの地域福祉保健計画の策定・推進委員、相模原市の自立支援協議会委員、川崎市の子ども子育て会議の委員、東京都瑞穂町の社会福祉審議会のメンバーとして具体的な政策立案、推進、評価などに関わっている。これらの経験を生かした実務上の課題や取り組みポイントについて実践経験を交えた講義を行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	自分の住む地域の地域福祉計画を調べ、グループメンバーと共通点・相違点について話し合った結果を発表する。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題や諸活動への取り組み・リアクションペーパー（30%）、期末試験（70%）で評価を行う。		
フィードバック	リアクションペーパーに書かれた疑問点について、次の授業でポイント解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	単なる理論として学ぶのではなく、自分たちが暮らしている地域で実践されている具体的な取り組みであることを強く意識すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V			○		○		

テキスト1	新・社会福祉士養成講座〈10〉福祉行財政と福祉計画 第5版 社会福祉士養成講座編集委員会 (編集) 中央法規出版	ISBN-10: 4805835613 ISBN-13: 9784805835616
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各自治体の地域福祉計画、介護保険事業計画、老人福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、子ども子育て支援事業計画	
参考HP	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/c-fukushi/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	福祉行財政と福祉計画（福祉と制度、福祉の法制度の展開）
事前	福祉行財政と福祉計画のシラバスを確認しておくこと。（0.5時間） 「でんでんばん」から授業プリントNo1をダウンロードしてプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo1の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

2	福祉行財政と福祉計画（福祉計画の概要）
事前	授業プリントNo2とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo2の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

3	福祉行政（行政の骨格、社会福祉と法制度）
事前	授業プリントNo3とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo3の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

4	福祉行政（福祉行政の組織、社会福祉基礎構造）
事前	授業プリントNo4とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo4の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

5	福祉財政（財政と社会福祉、一般会計、社会保障費、地方自治体財政、民生費）
事前	授業プリントNo5とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo5の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

6	福祉財政（民間社会福祉事業財源、福祉サービス利用と費用負担）
事前	授業プリントNo6とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo6の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（社会福祉基礎構造改革、相談課程、相談体制）
事前	授業プリントNo7とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo7の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（専門諸機関、地域の相談システム、専門職）
事前	授業プリントNo8とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo8の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

9	福祉計画の目的と意義（目的・意義、個別援助と計画推計）
事前	授業プリントNo9とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo9の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

10	福祉計画の目的と意義（計画のサイクルと福祉援助の現場）、中間まとめ
事前	授業プリントNo10とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo10の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

11	福祉計画の理論と技法（基本的視点、計画課程と留意点）
事前	授業プリントNo11とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo11の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

12	福祉計画の理論と技法（ニーズ把握、評価方法、住民参加）
事前	授業プリントNo12とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）

事後	授業プリントNo12の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

13	自分が住んでいる地域の地域福祉計画を学び、他地区との共通点・相違点について理解する。
事前	授業プリントNo13とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間） 自分の地域の地域福祉計画の計画体系、策定メンバー、ニーズ把握方法などを調べておくこと。
事後	授業プリントNo13の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

14	老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画
事前	授業プリントNo14とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo14の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

15	次世代育成支援行動計画、子ども子育て支援事業計画、まとめ
事前	授業プリントNo15とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo15の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

2020/07/16(木)20:27

科 目 名	福祉行財政と福祉計画 [介心]			授業コード	1260062
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				
福祉現場で福祉計画の立案、推進、評価に関わっている教員が授業を行う。					

科目に関する キーワード	福祉制度と歴史、公的資源、福祉専門諸機関、福祉専門員、福祉計画

到達目標	前半は制度的な基盤について学び、後半は市町村を念頭に置いた福祉計画の意義と技法について学ぶことで、ソーシャルワーカーとしての総合的な理論と実践力を身につけることができる。			
授業の概要	わが国の福祉政策は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革などを経て大きく変貌し、本格的な政策展開を目指した新しい体系に移行している。この新しい体系の全体像を理解し、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について学ぶ。 担当者は長年にわたり川崎市、横浜市、相模原市などの地域福祉保健計画の策定・推進委員、相模原市の自立支援協議会委員、川崎市の子ども子育て会議の委員、東京都瑞穂町の社会福祉審議会のメンバーとして具体的な政策立案、推進、評価などに関わっている。これらの経験を生かした実務上の課題や取り組みポイントについて実践経験を交えた講義を行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	自分の住む地域の地域福祉計画を調べ、グループメンバーと共通点・相違点について話し合った結果を発表する。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題や諸活動への取り組み・リアクションペーパー（30%）、期末試験（70%）で評価を行う。		
フィードバック	リアクションペーパーに書かれた疑問点について、次の授業でポイント解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	単なる理論として学ぶのではなく、自分たちが暮らしている地域で実践されている具体的な取り組みであることを強く意識すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V			○		○		

テキスト1	新・社会福祉士養成講座〈10〉福祉行財政と福祉計画 第5版 社会福祉士養成講座編集委員会 (編集) 中央法規出版	ISBN-10: 4805835613 ISBN-13: 978-4805835616
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各自治体の地域福祉計画、介護保険事業計画、老人福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、子ども子育て支援事業計画	
参考HP	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/c-fukushi/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	福祉行財政と福祉計画（福祉と制度、福祉の法制度の展開）
事前	福祉行財政と福祉計画のシラバスを確認しておくこと。（0.5時間） 「でんでんばん」から授業プリントNo1をダウンロードしてプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo1の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

2	福祉行財政と福祉計画（福祉計画の概要）
事前	授業プリントNo2とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo2の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

3	福祉行政（行政の骨格、社会福祉と法制度）
事前	授業プリントNo3とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo3の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

4	福祉行政（福祉行政の組織、社会福祉基礎構造）
事前	授業プリントNo4とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo4の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

5	福祉財政（財政と社会福祉、一般会計、社会保障費、地方自治体財政、民生費）
事前	授業プリントNo5とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo5の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

6	福祉財政（民間社会福祉事業財源、福祉サービス利用と費用負担）
事前	授業プリントNo6とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo6の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（社会福祉基礎構造改革、相談課程、相談体制）
事前	授業プリントNo7とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo7の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（専門諸機関、地域の相談システム、専門職）
事前	授業プリントNo8とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo8の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

9	福祉計画の目的と意義（目的・意義、個別援助と計画推計）
事前	授業プリントNo9とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo9の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

10	福祉計画の目的と意義（計画のサイクルと福祉援助の現場）、中間まとめ
事前	授業プリントNo10とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo10の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

11	福祉計画の理論と技法（基本的視点、計画課程と留意点）
事前	授業プリントNo11とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo11の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

12	福祉計画の理論と技法（ニーズ把握、評価方法、住民参加）
事前	授業プリントNo12とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）

事後	授業プリントNo12の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

13	自分が住んでいる地域の地域福祉計画を学び、他地区との共通点・相違点について理解する。
事前	授業プリントNo13とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間） 自分の地域の地域福祉計画の計画体系、策定メンバー、ニーズ把握方法などを調べておくこと。
事後	授業プリントNo13の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

14	老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画
事前	授業プリントNo14とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo14の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

15	次世代育成支援行動計画、子ども子育て支援事業計画、まとめ
事前	授業プリントNo15とプリントに書かれている教科書の関連ページを読み込んでおくこと。（2時間）
事後	授業プリントNo15の振り返りと掲載されている小テストを解いてみること（2時間）

2020/07/16(木)11:04

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1260080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	問題発見、社会調査、研究テーマの確立、先行研究レビュー、フィールドワーク

到達目標	学士としてふさわしい学力、研究力、実践力を身につけ、将来、福祉現場においてマネジメント業務に携わることができるようになる。			
授業の概要	村井ゼミでは福祉現場に関わりながら実践的な研究を行うことを基本方針とする。このため自ら研究テーマを設定し、研究計画を立て、卒業論文作成に向けた主体的な取り組み姿勢が求められる。 具体的には月一回程度のペースで研究進捗状況の報告と研究指導を行う。また、指導教員の研究成果などの定期的な報告会や、学外の専門的知識を持った研究・実践者を招いた学習会の開催なども行う。なお、専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて最低1回の社会福祉研究合宿を行い、日本全国の先進的な取り組みをしている地域や福祉施設の調査訪問を行う。また、ゼミの時間外での福祉現場への訪問活動や就職試験対策、国家試験受験対策のための活動も積極的に行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	卒業研究に向けた文献調査やフィールドワークの結果に基づくゼミ内発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	ゼミでの課題発表(40%)と授業内の課題(20%)や諸活動への取り組み(40%)で評価する。課題発表は、情報収集内容、分析方法、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。		
フィードバック	ゼミ内発表を通じて確認された研究の視点や考え方に対して、改善点・検討ポイント・評価ポイントなどをフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	これまでゼミ生が行ってきた主な研究内容 『大学の地域貢献』、『福祉学習・教育の効果的推進』、『プロジェクトマネジメントによる福祉施設の情報化』、『児童養護施設卒園後の進路とその困難性についての研究』、『福祉広報活動における実際とあり方について』、『地域福祉における行政広報の情報発信力についての研究』、『利用者本位のサービス提供における介護保険制度の限界性についての研究』、『ソーシャルワークにおける問題発見・問題解決技法の活用に関する研究』			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○		○	
III							
IV							

V					○		

テキスト1	特に定めず、必要に応じて配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業内で情報提供を行う	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期は、主に研究方法に関する学習と研究に関する資料収集方法およびプレゼンテーション方法の練習が中心となる。 後期は研究計画書の作成方法と研究テーマ関連分野の論文・文献の輪読、フィールド調査の計画作成などを行う。
事前	[前期]研究テーマを探すために、福祉分野の何に興味があるのか、具体的に何を学び身につけていきたいかを考える。 [後期]前期で絞り込んだ研究テーマに関する資料を再確認しておき、指導教員への質問事項をまとめておく。
事後	[前期]授業で学んだ研究に関する学びを整理し、自らの研究テーマについてまとめること。 [後期]卒業研究に向けて参考文献の読み込みとまとめを行い、フィールド調査の準備などを進める。

2020/07/17(金)08:28

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1260090
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	卒業研究、研究倫理、フィールドワーク、福祉先進地域の視察

到達目標	学士としてふさわしい学力、研究力、実践力を身につけ、将来、福祉現場においてマネジメント業務に携わることができるようになる。			
授業の概要	村井ゼミでは福祉現場に関わりながら実践的な研究を行うことを基本方針とする。このため自ら研究テーマを設定し、研究計画を立て、卒業論文作成に向けた主体的な取り組み姿勢が求められる。 具体的には月一回程度のペースで研究進捗状況の報告と研究指導を行う。また指導教員の研究成果などの定期的な報告会や、学外の専門的知識を持った研究・実践者を招いた学習会の開催なども行う。なお、専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて最低1回の社会福祉研究合宿を行い、日本全国の先進的な取り組みをしている地域や福祉施設の調査訪問を行う。また、ゼミの時間外での福祉現場への訪問活動や就職試験対策、国家試験受験対策のための活動も積極的に行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	卒業研究に向けた文献調査やフィールドワークの結果に基づくゼミ内発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	卒業論文に向けた課題調査・発表(40%)と授業内の課題(20%)や諸活動への取り組み(40%)で評価する。		
フィードバック	ゼミ内発表を通じて確認された研究の視点や考え方に対して、改善点・検討ポイント・評価ポイントなどについてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	これまでゼミ生が行ってきた主な研究内容 『大学の地域貢献』、『福祉学習・教育の効果的推進』、『プロジェクトマネジメントによる福祉施設の情報化』、『児童養護施設卒園後の進路とその困難性についての研究』、『福祉広報活動における実際とあり方について』、『地域福祉における行政広報の情報発信力についての研究』、『利用者本位のサービス提供における介護保険制度の限界性についての研究』、『ソーシャルワークにおける問題発見・問題解決技法の活用に関する研究』			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III							
IV	○						

V							○

テキスト1	特に定めず、必要に応じて配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業内で情報提供を行う	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期は実際の論文作成に向けたフィールド調査を行い、卒業論文完成に向けた取り組みを推進する。 また、ゼミ合宿に向けた合宿計画と受け入れ先との日程・内容調整などを行う。 後期はゼミ合宿を中心とした取り組みと、合宿の振り返り、研究合宿報告書の作成、卒業論文の完成が主な取り組みとなる。 なお、年間を通じて教員が関わる福祉施設・機関・社協・行政などへ同行し、さまざまな実践事例の学習を行う。
事前	[前期]研究計画に基づいた進捗状況か確認し、質問事項、協議事項をまとめておく。 [後期]研究論文を執筆し、指導教員への質問事項などをまとめておく。
事後	[前期]授業で受けた指導に基づき研究内容を振り返り、研究論文を執筆すること。 [後期]卒業研究発表に向けて研究のまとめと論文執筆を行い、プレゼンテーションの準備などを進める。

2020/07/16(木)21:30

科 目 名	福祉情報マネジメント論/福祉広報論 [社]			授業コード	1260111
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	村井 祐一				

科目に関する キーワード	福祉情報の収集、福祉情報の発信、福祉広報、広報デザイン、広報マーケティング

到達目標	対象者に存在意義を発信し、信頼・支持されるようになるための福祉情報マネジメント（福祉広報を中心とした）について理論と実践力を獲得し、効果的な福祉広報活動を行うことができるようになる。 福祉情報マネジメント（福祉広報を中心として）について理論だけでなく、演習を行いながらソーシャルワークにおいて実践的な情報マネジメントができるようになる。			
授業の概要	2017年4 月に改正社会福祉法が本格施行され、社会福祉法人は、経営組織のガバナンスの強化や財務規律の強化等、公益性・非営利性をもとに社会福祉法人としてふさわしい組織基盤・事業・活動に努めなければならなくなった。 このため、社会福祉法人は地域住民、行政、関係団体等から相談先として信頼されるよう自らの認知度を高め、協力関係を構築しなければならない。同時に、自らの事業・活動の取組の可視化等に努め、さまざまな広報活動を通じて、経営内容等の透明性を高め、地域社会に必要とされる自法人・施設・事業所としての存在意義を高めていくことが求められる。 信頼を獲得し、社会において存在意義を高めるためには、自組織・施設・事業所の理念にもとづく事業・活動の積極的な情報発信を図るとともに、福祉分野の広報の特性・目的・手段に応じたきめ細かい情報発信に取組んでいく等、経営戦略にそった広報マネジメントを実践していくことが必要となるため、その理論と方法について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	様々な福祉広報を分析し、改善点を見つけ出してグループワークによって共有する。
評価方法 及び評価基準	レポート	リアクションペーパー（20%），授業課題（30%），レポート（50%）		
フィードバック	リアクションペーパーに書かれた学びや疑問点について、次の授業でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	個人演習、グループワークなどを行うため、積極的な取り組み姿勢と発言が求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III				○	○		
IV							

V							

テキスト1	特に定めず、必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「福祉・介護の情報学―生活支援のための問題解決アプローチ」、オーム社、2009	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉における広報・情報発信を取り巻く背景
事前	福祉情報マネジメント論/福祉広報論のシラバスを読み込んでおくこと。身近な福祉広報を探し、集めておくこと。(2時間)
事後	私たちの身の回りに存在する広報にはどのような種類と内容のものが存在し、それらは私たちの生活にどのような影響を与えているのか考えてみること。(2時間)

2	広報とは何か、福祉広報とは何か
事前	身の回りにある福祉に関する広報を探してみること。その広報はどこで入手でき、誰に、どのような情報を伝えようとしているのか整理しておくこと。(2時間)
事後	授業において、広報とは「経営」「マネジメント」の一環であることを学んだが、 一般にマネジメントとは何かについて調べておくこと。(2時間)

3	連携・協働とは何か
事前	連携・協働という言葉を辞書で調べ、身近な生活の中での連携・協働の具体例を考えてみること。(2時間)
事後	授業で学んだ連携・協働を踏まえて、身近な生活の中で行ってきた連携・協働について改善点を検討してみる。(2時間)

4	連携・協働に向けた情報発信対象について
事前	広報・PRを行う対象は連携・協働したい対象でもある。福祉広報は誰と何のために連携・協働したいのか、具体的な対象と目的を考えてみること。(2時間)
事後	広報・PR対象を明確に定めることによって、適切なメディアの選定、対象者が求める情報の種類などが見えてくる。興味のある広報対象を決めて、その対象にはどのようなメディアを用いて、どのような情報を伝えていく必要があるのか考えてみること。(2時間)

5	広報マーケティングの基本
事前	身近な広報誌を1つ手に入れて、その広報誌が最も情報を伝えたい対象を考えること。また、その対象に情報が伝わることでどのようなことが起こるのかも考えてみること。(2時間)
事後	福祉に関する広報誌を1つ手に入れて授業で学んだ知識を用いてマーケティング対象の洗い出しと、その広報効果について検討してみること。(2時間)

6	広報からパブリック・リレーションズ(PR)に向けて
事前	広報とパブリックリレーションズの違いについて文献・資料・インターネット等を用いて調べてみること。(2時間)
事後	広報とパブリックリレーションズの違いを理解した上で、これまで取り扱ってきた身近な広報誌や福祉に関する広報誌に不足しているPR視点の整理を行ってみること。(2時間)

7	福祉広報の企画立案方法について
事前	事前に配布した「広報企画シート」に必要な事項を記入し、オリジナルの福祉広報作成に向けた企画書を作成してみること。(2時間)
事後	授業で学んだ内容から、事前に作成した「広報企画シート」の修正を行い、より優れた企画立案を行うこと。(2時間)

8	福祉広報の視点 ～8つの視点について～
事前	福祉広報に求められる要素(項目)とはどのようなものが考えられるのか検討しておくこと。(2時間)
事後	授業で学んだ福祉広報8つの視点が、これまで取り扱ってきた福祉に関する広報誌にどの程度盛り込まれているのか分析してみること。(2時間)

9	福祉広報の分析1 ～優れた福祉広報について～
事前	サンプルで配布する優れた福祉広報誌を読み込んでみて、どのような部分が優れているのか確認・検討してみること。(2時間)
事後	サンプルで配布した広報誌を、より優れた広報誌にしていくためには、どのような視点や方法が考えられるか検討してみること。(2時間)

10	福祉広報の分析2 ～福祉分野の広報誌を分析・評価する1回目～
事前	自分なりに優れていると思われる福祉系の広報誌を探してみること。(2時間)

事後	自分なりに優れていると思われる福祉広報を8つの視点で分析し、サンプル広報誌とどのように異なっているのか理解を深めること。(2時間)

11	福祉広報の分析3 ～福祉分野の広報誌を分析・評価する2回目～
事前	自分なりに優れていると思われる福祉に関するホームページを探しておくこと。(2時間)
事後	福祉広報8つの視点を用いて、ホームページの分析を行ってみること。(2時間)

12	福祉広報の実践1 ～福祉広報を企画する～
事前	これまで学んできた知識・経験を用いて、誰かに、何かを伝える広報誌の企画を行ってみること。(2時間)
事後	企画した広報誌に必要となる、広報対象が求めている情報を文献・資料・インターネット等を用いて調べてみること。(2時間)

13	福祉広報の実践2 ～福祉広報をデザインする～
事前	パソコンや紙等を用いて、実際に福祉広報誌のデザイン案を作成してみること。(2時間)
事後	授業で学んだ考え方や技法を用いて福祉広報誌のデザイン修正を行ってみること。(2時間)

14	福祉情報マネジメントの実践に向けて
事前	オリジナル福祉広報誌を授業内で説明できるように準備しておくこと。(2時間)
事後	他の学生のオリジナル福祉広報誌を見た上で、自分の広報誌のさらなる改良について考えてみること。(2時間)

15	福祉情報マネジメントのまとめ
事前	これまでの授業で学んだ知識経験を用いて、社会福祉領域の情報発信をより充実させるためには、何が課題で、どうすれば良いのか考えてみること。(2時間)
事後	オリジナル福祉広報誌を題材にレポート作成を行い、企画立案から実際のサンプル広報誌までの作成過程の整理を行うこと。(2時間)

2020/07/17(金)08:27

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [介]			授業コード	1270010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関する キーワード	文献検索、調査分析の方法、論文の構成、卒業後の進路
到達目標	1. 大学での学びを基に、他者と意見を交換する中から自らの関心領域を見つけることができる。 2. それぞれの適性や興味に応じた調査・研究を可能にするための、基礎的な考え方と関連情報を収集する手法を身につけ、課題解決に至る計画を立てることができる。 3. 介護現場の実践にふれ、自らの将来像を描き、その将来に向かう具体的な道筋を考えることができる。 4. 資格取得に向けて勉学に取り組むことができる。
授業の概要	学生自身が主体的にそれぞれの問題意識の所在を探り、「ゼミナールⅡ」に向けて、各自の研究テーマを決定していく。 具体的には、文献検索、資料整理、グループディスカッション等を実施し、基礎的な研究の手法と考え方を学ぶ。また、これらの過程を通じて、思考力、洞察力を高め、課題探求能力を深めると同時に、コミュニケーション能力、人間力を醸成する。 その他、各種施設見学や講演会などに参加し、卒業後の進路に向けた道筋を考える。 さらに、資格取得に向けた国家試験対策を進めていく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・それぞれの関心領域について調べた結果を発表しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・各種施設見学や講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の進路に向けた道筋を考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題に対する取り組みやグループディスカッションへの参加態度、見学、講演会への主体的な参加の状況等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	常に新聞・雑誌、テレビ等で取り上げられている問題について関心をもつこと。 授業への主体的な参加を重視する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III					○		

IV							
V			○				

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	その都度紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	講義や演習、実習の体験等を踏まえて、自らの関心や問題意識に基づいた学習を進めていく。 ＜前期＞ オリエンテーション 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） ＜後期 ＞ 興味や関心の模索、資料収集 文献検索、情報の整理 「ゼミナールⅡ」での研究に向けた計画書作成 グループディスカッション、まとめ 施設見学、 施設見学の振り返り 卒業生による講演（合同授業） 国家試験対策
事前	それぞれの関心領域に沿った資料を読み、説明できるようまとめておく。 見学する施設の情報を収集し、質問事項をまとめておく。（0.5時間）
事後	グループディスカッションや各種施設見学・講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の課題に向けた取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)22:24

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [介]			授業コード	1270020
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関するキーワード	研究の意義、論文の意義、的確な表現と伝達の方法、人間の尊厳
到達目標	1. 生活環境（人的・物的）を生活主体である人間にとって最適化するためにはどうしたら良いのかについて、様々な角度から比較検討し考えて行くことができる。 2. 人間の尊厳に値する生活とは何か、人々のより良い生活の質の向上に自らがどのように貢献していくのか、それらの方向性を見出すことができる。 3. 調査研究の結果を論文としてまとめていくプロセスを通して、論理的・客観的な思考力や表現・伝達の力（技能）、課題解決に向けて計画的に行動していくことができる力を身につける。
授業の概要	各自の関心に基づいて設定した研究テーマに沿って、関連する先行研究・文献を参照しつつ調査・研究を進め、その研究結果を、大学4年間における学習の成果として、卒業論文またはゼミ論文として集大成して行く。 また、メンバーがお互いに調査・研究の進行状況を発表しあい意見交換する機会、および各種講演会に参加し卒業後の自らの生き方について考える機会も並行して設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / ・各自の調査研究の進行状況を報告しあい、ディスカッションを行う中で問題意識を深めていく。 ・講演会への参加から得た学びを基に、グループディスカッションを行い、将来の介護のあるべき姿について考えていく。
評価方法及び評価基準	レポート	学習意欲、学習態度、およびレポート・論文とその発表内容等を総合的に評価する。
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	授業への主体的な参加を重視する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			

IV							
V					○		

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	＜前期＞ 1）研究テーマの確定・研究実施計画 2）調査の計画・準備 3）調査実施 4）調査結果の整理・考察 5）卒業生による講演（合同授業） ＜後期＞ 6）調査結果のまとめ 7）レポート・論文の執筆 8）論文発表準備・発表 9）まとめ 10）卒業生による講演（合同授業） 上記は、1年間の調査研究を中心とした授業の流れになるが、実際の調査研究では、時期、対象、方法、内容、整理・分析法、まとめ方等々は一人一人異なって来る。しかし、共通する問題や解決法も多く存在し、他のメンバーの研究が自らの研究への刺激やヒントとなる場合もあるので、“全員で考える”ことを原則とする。
事前	各自の立てた計画に沿って調査研究を進め、疑問点を明らかにしておく。（0.5時間）
事後	ディスカッションや講演会参加等から得られた知見をまとめ、各自の調査研究の取り組みに生かしていく。（0.5時間）

2020/07/16(木)10:34

科 目 名	暮らしと生活環境/居住環境論 [介]			授業コード	1270042
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関するキーワード	住まい、室内環境、高齢者施設、居場所、地域交流
到達目標	・人間生活の歴史性・継続性を踏まえながら、豊かな住生活とはどのようなものかについて考えることができる。 ・安全で快適な生活環境を得るために必要な住環境整備について、基本的な事項を理解し、説明できる。 ・今日の高齢者・障害者の暮らしと生活環境の課題と問題点の所在に気づき、介護を必要とする人の尊厳を保持し自立を支えるために必要な諸条件について考えていくことができる。
授業の概要	高齢になっても障害を持っても、生き生きと安心して暮らせる生活環境とはどのようなものだろうか。 授業では、まず、人間の住まいの変遷について風土や文化・歴史との関連で捉え、日本の住生活の特徴を学ぶ。また、今日における高齢者・障害者の現状を踏まえ、尊厳の保持、自立支援の観点から、これからの暮らしと生活環境の在り方について、近隣、地域、都市まで包含した居住環境との関わりで捉え考えていく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・配付資料・スライドを用いた講義の後、理解度を確認するための小テストを実施する。(5回) ・今後の生活環境のあり方を考えていく授業では、授業内容の振り返りと考察を深めていくことを目的としたリアクションペーパーを課す。(5回)
評価方法及び評価基準	レポート	小テスト(50%)、リアクションペーパー(50%)とし、その結果に授業態度を加味して評価する。		

フィードバック	各回の授業では、配付資料・スライドを用いた講義の後、講義内容の確認を行うための小テスト、またはリアクションペーパー記述を課す。後に、小テストの解説の他、総評を授業内にて行う。
履修に際しての注意事項	授業中に配付するプリントをまとめて綴じておくため、A4版ファイル(クリアファイルは不可)を各自準備すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							

IV							
V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜授業中に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに　人間と生活環境
事前	シラバスに目を通した上で、各自の理想の住まいについて考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

2	気候風土と住まい
事前	日本の気候風土の特徴について、自分なりに調べてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

3	伝統的な住まいと住まい方
事前	授業内で紹介した事例を参考にしながら、各地域の気候風土による住まいの工夫について自分なりに調べてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

4	快適な室内の温熱環境
事前	室内の温度を調整するために各自の家庭で使用している器具・方法を書き出し、そのプラス・マイナスを考えてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

5	湿度・空気環境の調整
事前	湿度の高低が人体および建物に及ぼす影響について、自分なりに調べてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

6	明るさの調整
事前	室内が明るい方が良い場合、反対に暗い方が良い場合を書き出し、室内の明暗にはどのような要素が関係しているかについて、自分なりに考えてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

7	音環境の調整
事前	各自、朝から晩までどのような音の中で生活しているのかを思い起こし、書き出してみること。(目覚まし時計の音、母の声、踏切の音など)(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

8	日照調整と緑環境
事前	地球温暖化とその対策について、自分なりに調べてみること。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

9	高齢者・障害者の住まい
事前	介護保険3施設の概要について、自分なりに調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

10	高齢者向け住宅と高齢者施設
事前	高齢者向け住宅の種類と特徴について、調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間)

11	高齢者の居場所
事前	デイサービスの成り立ちと位置づけについて、自分なりに調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した事例の特徴をまとめた上で、高齢者・障害者の居場所のあり方について考察していくこと。(2時間)

12	地域交流と高齢者の社会参加
事前	「社会参加」の意味について調べ、高齢者・障害者の社会参加について自分なりに考えておくこと。(2時間)

事後	授業内で紹介した事例の特徴をまとめた上で、高齢者・障害者の社会参加のあり方について考察していくこと。(2時間)

13	多世代居住と多世代交流
事前	「多世代交流」について自分なりに調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した事例の特徴をまとめた上で、多世代交流の意義について考察していくこと。(2時間)

14	家族・住まいと地域のつながり
事前	各自は普段、近隣の人々とどのような人間関係を形成しているか改めて考え、日常的な交流の具体的な内容を列挙してみること。(2時間)
事後	授業内で紹介した事例の特徴をまとめた上で、家族・住まいと地域が今後どのような関係を持っていったら良いかについて考察していくこと。(2時間)

15	まとめ
事前	授業で使用したプリント、ノートをまとめておくこと。(2時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後さらに深めていくべき点を各自明確にしておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)10:44

科 目 名	生活支援技術V/自立に向けた生活環境 [介]			授業コード	1270050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関する キーワード	家計、生活時間、動作空間、対人距離、バリアフリー

到達目標	・高齢者の家計・消費生活、および生活時間の現状と課題を理解し、自立支援に向けて適切に助言・援助できる。 ・人間と空間の対応関係についての基本を理解した上で、住環境が生活に及ぼす問題や矛盾に気づき、具体的な解決・改善に向けて働きかけるための基礎的知識を身につける。 ・住まいを中心とした住環境が、あらゆる人々の一生を通じて、安全で安心できる安定した生活を営むことが出来る空間的拠点であり続けるために、どのような居住環境整備が必要なのかについて理解し、適切に助言・援助できる技術や知識を習得する。
授業の概要	授業では、生活経営（家計・生活時間）および居住環境整備に関わる分野を対象とし、高齢者・障害者の生活を理解し自立を支援していくために必要な基礎的知識と考え方について、講義および演習を通して習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・少人数のグループワーク、ディスカッションを実施した後、グループ発表を行う。 ・フィールドワークによって発見した課題を発表し、解決法について考察していく。 ・各自の聞き取り調査の結果について発表を行う中から、真に豊かな生活とは何かについて考えていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	演習課題（70%）、レポート（30%）とし、授業態度を加味して評価する。		
フィードバック	授業内で実施したレポートについては、事後の授業において出題の意図について説明し総評を行う。			
履修に際しての 注意事項	複数回に渡る連続した課題があるため、欠席した場合は次回授業までに必ず欠席回の授業内容を確認した上で各自対応すること。 演習の内容により持参する物品があるので注意のこと。 課題の提出期限を厳守。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III							
IV							○
V				○			

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに　生活の理解と生活支援
事前	国際生活機能分類（ICF）モデルとその基本的な特徴について確認しておくこと。（0.5時間）
事後	授業内で触れた具体例、または各自の身近な事例を対象とし、ICFモデルと照合しながら生活の理解と支援について考えてみること。（0.5時間）

2	家計と生活設計
事前	「家計」、「生活設計」、「ライフサイクル」の各概念について、確認しておくこと。（0.5時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（0.5時間）

3	物価と価格
事前	商品価格を実際に調べ、結果を授業に持参すること。（0.5時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（0.5時間）

4	高齢者の消費者問題
事前	新聞やインターネットを用いて、どのような消費者トラブルが実際に起きているか調べてみること。（0.5時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（0.5時間）

5	消費生活の管理
事前	生涯の生活設計（生涯家計）にあたってポイントとなる点について、各自で考えておくこと。（0.5時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめた上で、社会保障制度と生涯家計、生活設計の関係性について各自で十分に理解を深めること。（0.5時間）

6	生活時間と生活行動
事前	あなたの平日と休日のそれぞれ一日24時間の過ごし方を思い出し、どのようなことに多くの時間を使ったか書き出してみること。（0.5時間）
事後	授業内で行った演習の内容を基に、家族や友人など身近な人と情報交換してみること。（0.5時間）

7	生活時間調査
事前	各自の生活時間の使い方にどのような特徴があるか書き出してみること。（0.5時間）
事後	日本人の生活時間の性差の現状について、自分なりに調べてみること。（0.5時間）

8	高齢者・介護者の生活時間
事前	高齢者の生活時間の特徴について、各種統計結果を調べてみること。（0.5時間）
事後	日本人の生活時間の世代差について、自分なりに調べてみること。（0.5時間）

9	生活時間の管理
事前	日本人の生活時間の経年変化について、各種統計結果を参考にして考えてみること。（0.5時間）
事後	授業内で説明した生活時間に関連した用語を整理し理解すること。（0.5時間）

10	人間と空間の様々な関係
事前	あなたの平日と休日のそれぞれ一日24時間、どのような場所で過ごしているかを思い出し、書き出してみること。（0.5時間）
事後	各自の日常生活空間での体験を、授業内で示した空間の捉え方に当てはめて考えてみること。（0.5時間）

11	空間の寸法と人間
事前	自宅室内に設置してある扉（ドア）の高さと幅、机（テーブル）の高さ、およびトイレ便器の座の高さを測り、それらの寸法が私たちの身体のどこの寸法と関係しているか、自分なりに考えてくること。（0.5時間）
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。（0.5時間）

12	モノ・道具の寸法と人間
事前	各自が日常的に利用する道具や家具の寸法を測り、人体のどの部位の寸法と関連が深いのか、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。(0.5時間)

13	動作空間の領域・複合
事前	動作空間とその大きさについて、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した「動作空間の領域・複合」の課題を仕上げること。(0.5時間)

14	行為空間と姿勢
事前	各自が一日の間、起床時にどのような姿勢(横になる、椅子に座る、あぐらをかく、正座するなど)で過ごしているかを記録してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語をまとめ理解すること。(0.5時間)

15	生活空間と動線
事前	動線とは何か、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した「生活空間と動線」の課題を仕上げること。(0.5時間)

16	生理的・心理的空間
事前	パーソナルスペース(個人空間)について、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

17	会話距離と対人距離
事前	授業内で説明した「人間同士の位置関係」の課題を仕上げてくること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

18	生活周期と生活空間
事前	各自の幼少期に過ごした住まい(生活)を思い起こし、現在の住まい方とどこが異なるか考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

19	生活空間の構成
事前	各自、任意の住宅の平面図(間取り図)をコピーし、各部屋で想定される行為(睡眠、食事、入浴など)をそれぞれ書き出してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

20	高齢者の生活空間
事前	高齢期の生活空間を考える際に、どのような点を考慮すべきかについて考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した「高齢者の生活空間」の課題を仕上げること。(0.5時間)

21	バリアフリーとは何か
事前	「バリアフリー」の概念について、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

22	バリアフリーとユニバーサルデザイン
事前	授業内で説明した「バリアフリー」の課題を仕上げること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

23	暮らしやすい生活環境
事前	暮らしやすい生活環境のための条件とは何か、各自考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

24	自立支援のための生活環境
事前	自立支援のための生活環境とはどのようなものか、自分なりに考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

25	福祉住環境整備
事前	住宅内事故の現状について、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

26	住居改善とその方法

事前	介護保険制度で利用できる住宅改修の内容について、自分なりに調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

27	昔の家と今の家
事前	親世代の幼少期の頃、どのような住まいで暮らしていたか聴いてくること。(0.5時間)
事後	授業内での演習の内容を踏まえて、昔の家と今の家の違いをまとめること。(0.5時間)

28	生活暦・居住暦
事前	住まいの記憶がどのように蓄積されて現在に至っているか、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語、授業内で行った演習内容を整理し理解すること。(0.5時間)

29	これからの居住環境整備
事前	様々な人々が一生を通じて、安全で安心できる安定した生活を営むことができる住環境とはどのようなものか、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で紹介した各種事例の特徴をまとめた上で、これからの居住環境整備に必要な事項について考えること。(0.5時間)

30	総括
事前	通年の授業で使用したプリント、ノートをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	通年の授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:08

科 目 名	生活支援技術VI/自立に向けた家事の介護 [介]			授業コード	1270060
副 題	被服生活・食生活				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関する キーワード	被服の役割、被服の素材、食事バランス、食事環境、食文化

到達目標	・家事とは、人間生活の基本部分を支え一定の文化的レベルの生活を維持・発展させる、という意義と目的があることが理解できる。 ・高齢者や障害者の被服生活・食生活を支援するために必要な基本的知識と技術を身につける。 ・個別の利用者・対象者の自律性・自立性の保持、向上を目指して、安全に配慮し見守りながら、被服生活・食生活を支援していくことができる基礎的能力を習得する。			
授業の概要	授業では、介護現場における生活支援・家事支援の内、被服生活・食生活に関わる領域を取り扱う。 被服生活領域では、被服の役割や素材、および選択に関する講義と共に、被服演習を通して被服の管理・収納、および修繕のための基本的知識と技術を習得する。 食生活領域では、栄養・調理に関わる基礎的知識について講義を行った上で調理実習を行い、高齢者や障害者の食生活を支援するにあたって必要な知識と技術を身につける。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・演習・実習は、基本的に少人数編成のグループ単位で行い、相談・議論しながら実施していく。 ・講義、演習・実習共に、振り返りを目的としてコメントシート、記録シート、またはレポート等の提出を求める。
評価方法 及び評価基準	レポート	実習・演習課題（80%）、レポート（20%）とし、授業態度を加味して評価する。		
フィードバック	授業内で実施したレポート等については、事後の授業において出題の意図等を説明し総評を行う。			
履修に際しての 注意事項	1)A4版ファイルを各自用意し、配布資料をまとめておくこと。 2) 授業の内容により教室が変更となるため、各自注意すること。 3) 実習・演習に際して必要な物品（適宜指示）を必ず確認した上で持参すること。 4) 2コマ続きの授業形態が複数回あるため、日程を各自確認しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III						○	

IV							
V				○			

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに 被服の役割と機能
事前	シラバス全体に目を通した上で、健康で安全、豊かな被服生活・食生活とはどのようなものかについて、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

2	被服の素材
事前	各自の冬用と夏用の被服を比較し、その違いについて考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

3	繊維の種類と性能
事前	各自の持っている被服の品質表示タグを確認し、どのような繊維が使われているか書き出してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

4	高齢者・障害者の被服の選択
事前	高齢者または障害者の被服に何か共通する特徴があるかどうか、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した内容を整理し理解すること。(0.5時間)

5	品質表示・洗濯の科学
事前	各自の被服についている取り扱い絵表示にはどのような種類があるか、確認すること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した「品質表示」の課題を仕上げること。(0.5時間)

6	被服管理演習(1)しみ抜き
事前	日常生活の場面で、どのような種類のシミをつけることがあるか、その場合の処理法はどうしているかについて、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した内容を整理し理解すること。(0.5時間)

7	被服管理演習(2)漂白
事前	しみ抜きと漂白の違いについて、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

8	被服管理演習(3)手洗い洗濯
事前	家庭で使用される洗濯用洗剤にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

9	被服の収納保管、アイロンかけ
事前	被服の収納保管の方法にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

10	被服管理演習(4)アイロンかけ
事前	第3回「繊維の種類と性能」の授業内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

11	被服管理演習(5)縫製の基礎
事前	手縫いの基礎的な方法(並縫い、まつり縫いなど)を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し、今後実施する演習の内容を整理しておくこと。(0.5時間)

12	被服管理演習(6)被服の修繕
事前	被服の修繕方法にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

13	高齢者・障害者と裁縫
事前	高齢者・障害者の生活の質を高めることができる裁縫とはどのようなものだろうか、について考えてみること。(0.5時間)
事後	高齢者・障害者の被服生活支援のポイントを整理し理解しておくこと。(0.5時間)

14	食生活の機能と食文化
事前	私たちの生活の中で、食事はどのような役割を果たしているのかについて考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

15	栄養素の種類と消化・機能・代謝
事前	5大栄養素について調べ、それぞれの栄養素が特に多く含まれる食品を書き出してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

16	食品の分類と選択
事前	生鮮食品と加工食品の各食品表示をいくつか比較し、表示項目にどのような違いがあるか確認してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

17	食の安全と食中毒
事前	主な食中毒の種類について確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

18	食事のバランス、献立作成と栄養計算
事前	バランスのとれた献立とはどのようなものか考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習課題の内容を整理すること。(0.5時間)

19	献立と調理
事前	季節の旬の食材について、どのようなものがあるか調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

20	調理実習(1)-1)調理実習ガイダンス
事前	自宅にある調理器具の使用目的、使用方法、収納場所を確認すること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

21	調理実習(1)-2)高齢者向けの調理の基本
事前	自宅にある調理器具を使って一品(1種類)調理し、試食後に後片付けすること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

22	調理実習(2)-1)和食献立の基本
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

23	調理実習(2)-2)和食献立の調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

24	調理実習(3)-1)嚥下・口腔機能低下における献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

25	調理実習(3)-2)嚥下・口腔機能低下における調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

26	調理実習(4)-1)消化機能低下における献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

27	調理実習(4)-2)消化機能低下における調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

28	調理実習(5)-1)行事食・郷土食の献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

29	調理実習(5)-2)行事食・郷土食の調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

30	総括
事前	通年の授業で使用したプリント、ノートをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	通年の授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:07

科 目 名	生活支援技術VI/自立に向けた家事の介護 [介]			授業コード	1270070
副 題	被服生活・食生活				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関する キーワード	被服の役割、被服の素材、食事バランス、食事環境、食文化

到達目標	・家事とは、人間生活の基本部分を支え一定の文化的レベルの生活を維持・発展させる、という意義と目的があることが理解できる。 ・高齢者や障害者の被服生活・食生活を支援するために必要な基本的知識と技術を身につける。 ・個別の利用者・対象者の自律性・自立性の保持、向上を目指して、安全に配慮し見守りながら、被服生活・食生活を支援していくことができる基礎的能力を習得する。			
授業の概要	授業では、介護現場における生活支援・家事支援の内、被服生活・食生活に関わる領域を取り扱う。 被服生活領域では、被服の役割や素材、および選択に関する講義と共に、被服演習を通して被服の管理・収納、および修繕のための基本的知識と技術を習得する。 食生活領域では、栄養・調理に関わる基礎的知識について講義を行った上で調理実習を行い、高齢者や障害者の食生活を支援するにあたって必要な知識と技術を身につける。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・演習・実習は、基本的に少人数編成のグループ単位で行い、相談・議論しながら実施していく。 ・講義、演習・実習共に、振り返りを目的としてコメントシート、記録シート、またはレポート等の提出を求める。
評価方法 及び評価基準	レポート	実習・演習課題（80%）、レポート（20%）とし、授業態度を加味して評価する。		
フィードバック	授業内で実施したレポート等については、事後の授業において出題の意図等を説明し総評を行う。			
履修に際しての 注意事項	1)A4版ファイルを各自用意し、配布資料をまとめておくこと。 2) 授業の内容により教室が変更となるため、各自注意すること。 3) 実習・演習に際して必要な物品（適宜指示）を必ず確認した上で持参すること。 4) 2コマ続きの授業形態が複数回あるため、日程を各自確認しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III						○	

IV							
V				○			

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに 被服の役割と機能
事前	シラバス全体に目を通した上で、健康で安全、豊かな被服生活・食生活とはどのようなものかについて、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

2	被服の素材
事前	各自の冬用と夏用の被服を比較し、その違いについて考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

3	繊維の種類と性能
事前	各自の持っている被服の品質表示タグを確認し、どのような繊維が使われているか書き出してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

4	高齢者・障害者の被服の選択
事前	高齢者または障害者の被服に何か共通する特徴があるかどうか、考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した内容を整理し理解すること。(0.5時間)

5	品質表示・洗濯の科学
事前	各自の被服についている取り扱い絵表示にはどのような種類があるか、確認すること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した「品質表示」の課題を仕上げること。(0.5時間)

6	被服管理演習(1)しみ抜き
事前	日常生活の場面で、どのような種類のシミをつけることがあるか、その場合の処理法はどうしているかについて、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した内容を整理し理解すること。(0.5時間)

7	被服管理演習(2)漂白
事前	しみ抜きと漂白の違いについて、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

8	被服管理演習(3)手洗い洗濯
事前	家庭で使用される洗濯用洗剤にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

9	被服の収納保管、アイロンかけ
事前	被服の収納保管の方法にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

10	被服管理演習(4)アイロンかけ
事前	第3回「繊維の種類と性能」の授業内容を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

11	被服管理演習(5)縫製の基礎
事前	手縫いの基礎的な方法(並縫い、まつり縫いなど)を確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し、今後実施する演習の内容を整理しておくこと。(0.5時間)

12	被服管理演習(6)被服の修繕
事前	被服の修繕方法にはどのような種類があるか、確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

13	高齢者・障害者と裁縫
事前	高齢者・障害者の生活の質を高めることができる裁縫とはどのようなものだろうか、について考えてみること。(0.5時間)
事後	高齢者・障害者の被服生活支援のポイントを整理し理解しておくこと。(0.5時間)

14	食生活の機能と食文化
事前	私たちの生活の中で、食事はどのような役割を果たしているのかについて考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

15	栄養素の種類と消化・機能・代謝
事前	5大栄養素について調べ、それぞれの栄養素が特に多く含まれる食品を書き出してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

16	食品の分類と選択
事前	生鮮食品と加工食品の各食品表示をいくつか比較し、表示項目にどのような違いがあるか確認してみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

17	食の安全と食中毒
事前	主な食中毒の種類について確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

18	食事のバランス、献立作成と栄養計算
事前	バランスのとれた献立とはどのようなものか考えてみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習課題の内容を整理すること。(0.5時間)

19	献立と調理
事前	季節の旬の食材について、どのようなものがあるか調べてみること。(0.5時間)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(0.5時間)

20	調理実習(1)-1)調理実習ガイダンス
事前	自宅にある調理器具の使用目的、使用方法、収納場所を確認すること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

21	調理実習(1)-2)高齢者向けの調理の基本
事前	自宅にある調理器具を使って一品(1種類)調理し、試食後に後片付けすること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

22	調理実習(2)-1)和食献立の基本
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

23	調理実習(2)-2)和食献立の調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

24	調理実習(3)-1)嚥下・口腔機能低下における献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

25	調理実習(3)-2)嚥下・口腔機能低下における調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

26	調理実習(4)-1)消化機能低下における献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

27	調理実習(4)-2)消化機能低下における調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

28	調理実習(5)-1)行事食・郷土食の献立
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、不明な点は各自調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

29	調理実習(5)-2)行事食・郷土食の調理
事前	事前に配布されたプリントの内容を確認し、その一部(具材を切る、茹でるなど)を自宅で各自実践してみること。(0.5時間)
事後	授業内で実施した演習の内容を整理した上で、意義・目的を理解すること。(0.5時間)

30	総括
事前	通年の授業で使用したプリント、ノートをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	通年の授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:16

科 目 名	介護過程V/介護事例研究 [介]			授業コード	1270081
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関するキーワード	事例研究、研究テーマ、介護計画の根拠、文献収集、プレゼンテーション

到達目標	・事例研究の意義、目的、研究手法について学び、介護実践における事例研究の重要性を理解できる。 ・介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例から、テーマを選定した上で深く洞察し、実践した介護過程の妥当性について評価・考察することができる。 ・実践した介護過程を事例研究概要にまとめる学修を通して、自らの介護観を形成することができる。 ・作成した事例研究概要を効果的なプレゼンテーション手法を用いて、分かりやすく発表できる。			
授業の概要	介護過程Ⅰ～Ⅳ、および介護総合演習Ⅳの授業では、介護過程の基礎的理論と介護現場でよく遭遇する事例を取り上げ、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価まで展開する学修を行ってきた。介護過程Ⅴでは、介護実習Ⅱ−2で展開した受持ち利用者の介護過程について、これまで学んできた基礎的な介護の知識や技術を活用し、事例研究を行い、その成果を概要にまとめて発表する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・各自が実践した介護過程をグループ内で発表・説明し、その妥当性についてディスカッションを行う。 ・介護過程の成果について各自が概要にまとめた上で、グループ内でプレゼンテーションを行う。その上で決定したグループ代表が事例研究発表会にて発表し、全体で結果を共有しつつディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	事例研究概要作成（40%）、研究発表（30%）、授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	授業内で実施するディスカッションの過程において、適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を使用するため、授業の際必ず持参すること。 研究発表は、グループ別発表と全体発表を行う。全体発表では各グループの代表が発表する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III				○			
IV							
V						○	

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　授業概要とスケジュールの確認
事前	シラバスの内容を確認し、およその事例研究計画を立てること。(0.5時間)
事後	授業のスケジュールに沿って具体的な研究計画を立案した上で、収集すべき情報の入手方法について検討すること。(0.5時間)

2	介護実習II-2の振り返り　1)各自の事例報告
事前	介護実習Ⅱ−2において介護実践の対象とした事例の介護過程記録を読み直し、ポイントをまとめておくこと。(0.5時間)
事後	事例報告の際に得られたコメント、および他の介護実践事例の報告から得たヒントをまとめた上で、自らの課題の所在を検討すること。(0.5時間)

3	介護実習II-2の振り返り　2)介護計画の妥当性の検討
事前	立案した計画の根拠について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	他学生の意見や介護計画の内容を参考にしつつ、別の介護計画の可能性の有無について再検討すること。(0.5時間)

4	介護実習II-2の振り返り　3)介護計画の妥当性の確認
事前	立案した介護計画が遂行できた要因、または遂行できなかった要因について、まとめておくこと。(0.5時間)
事後	介護計画の実践の結果について、自分なりに評価を行ってみること。(0.5時間)

5	事例研究計画の作成　テーマの選定
事前	自身の介護実践の内容から考えられる研究テーマの候補を考えておくこと。(0.5時間)
事後	選定したテーマに基づき、介護実践から得た情報を整理すること。(0.5時間)

6	事例の分析　文献収集
事前	介護実践から得た情報を解釈するにあたって、どのような文献が必要かについて考えておくこと。(0.5時間)
事後	適切な文献を収集すること。(0.5時間)

7	事例の分析　文献の整理
事前	収集した文献のリストを作成し、各文献の内容を検討すること。(0.5時間)
事後	自らの介護実践について、文献から得た情報・知識を当てはめつつ解釈および評価を行うこと。(0.5時間)

8	事例研究概要作成の準備
事前	介護実践の評価の内容を説明できるように準備しておくこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に、自らの介護実践の評価を再検討すること。(0.5時間)

9	事例研究概要の作成　①概要の骨格
事前	事例研究概要の構成(タイトルと項目立て)について考えておくこと。(0.5時間)
事後	決められた論文フォーマットに沿って執筆を開始すること。(0.5時間)

10	事例研究概要の作成　②内容の吟味
事前	助言・意見を得たい個所をまとめておくこと。(0.5時間)
事後	執筆中に疑問点や矛盾点が発生した際には、介護過程記録まで遡って確認するなどにより内容を吟味しながら進めること。(0.5時間)

11	事例研究概要の作成　③まとめと考察・評価
事前	まとめと考察・評価まで概要作成を進めること。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に事例研究概要を見直し、仕上げること。(0.5時間)

12	事例研究概要の提出　プレゼンテーションの準備　発表原稿の作成

事前	プレゼンテーションの準備、発表原稿の作成を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見を参考に発表原稿を見直すこと。(0.5時間)

13	事例研究発表　グループごとの発表
事前	プレゼンテーションの練習を行った上で、準備の最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業にて得られた各種意見、および他学生の発表から得られた学びをまとめておくこと。(0.5時間)

14	事例研究発表会の準備
事前	自身が担当する役割を確認すること。(0.5時間)
事後	自身が担当する役割に沿って、事例研究発表会の準備を行うこと。(0.5時間)

15	事例研究発表会 （合同授業）
事前	事例研究発表会に当たって最終確認を行うこと。(0.5時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後学んでいくべき点を各自明確にしておくこと。(0.5時間)

2020/07/16(木)10:59

科 目 名	生活福祉論 [介]			授業コード	1270091
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり				

科目に関する キーワード	家族、ファミリー・アイデンティティ、ライフサイクル、生活暦、家族介護者支援
到達目標	・個人を取り巻く家族・近隣・地域等の現状と方向性について理解する。 ・介護を必要とする者に対し、生活主体である独立した一人の人間として、総合的に支援していくために必要な基本的な考え方を身につける。
授業の概要	家族・家庭生活の現状と変化の方向性について概観した上で、個人のライフサイクル・ライフスタイルの変化との関連で今後の生活課題を含めて考察していく。 また、今日の個人・家族を取り巻く近隣・地域社会の変容について理解しながら、質的向上が達成される生活福祉のあり方について考えていく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / ・様々な背景をもつ個人・家族が遭遇する生活課題に対し、どのような解決の方向性があるか、個人ワークを行った後、グループワークの中で議論を深める。 ・今日の個人・家族を取り巻く社会の現状について講義を行った後、理解度確認のための小テストを数回実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート課題（20%）、小テスト（20%）、授業中の活動（60%）として評価する。
フィードバック	各回の授業では、配付資料を用いた講義の後、講義内容の理解度確認を行うための小テスト、または課題を課す。後に、小テストの解説、および課題の総評を授業内にて実施する。
履修に際しての 注意事項	・授業中に配付するプリントをまとめて綴じておくため、A4版ファイル（クリアファイルは不可）を各自準備すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III		○	○				

IV							
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに（生活福祉とは）
事前	シラバスに目を通した上で、「生活」と「福祉」について考えてみること。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間30分）

2	家族・家庭・世帯
事前	自分自身にとって「家族」とは何か、考えてみること。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間30分）

3	様々な家族のかたち
事前	身近な人々を思い浮かべ、各人にとっての「家族」の範囲とその理由を考えてみること。（1時間30分）
事後	授業内で提示された各種事例を整理した上で、新聞やインターネットを用いて類似した事象・事例がどの程度あるか調べてみること。（2時間30分）

4	家族意識
事前	戦前の「イエ」意識について各種文献を用いて調べ、まとめておくこと。（1時間30分）
事後	授業内でのグループワークの結果をまとめた上で、家族・家庭・世帯について改めて考えてみること。（2時間30分）

5	高齢者と家族
事前	新聞やインターネットを用いて、「高齢者とその家族」が関わる事件・出来事の記事を探し、そこでの家族関係について自分なりに考えてみること。（2時間）
事後	授業内での個人ワーク、およびグループワークの結果を整理した上で、高齢者と家族との関係について理解を深めること。（2時間）

6	家族の現状（少子高齢化・共働き化）
事前	日本の「少子高齢化」と「共働き化」について、自分なりに調べてみること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間）

7	生活周期と生活設計
事前	少子高齢化・共働き化により、人の一生はどのように変化する可能性があるか、自分なりに考えてみること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間）

8	家族機能の変化
事前	現代社会の中で、人は何のために家族を作るのか、または作らないのか、考えてみること。（2時間）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間）

9	介護と家族関係
事前	高齢者が子どもと同居する場合と同居しない場合について、それぞれのプラス点・マイナス点を考えてみること。（2時間）
事後	授業内での個人ワーク、およびグループワークの結果を整理した上で、介護と家族関係について理解を深めること。（2時間）

10	家族と法律
事前	家族間の法律にはどのようなものがあるか、自分なりに調べてみること。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。（2時間30分）

11	高齢者の生活史
事前	各自が生まれてから今までの約20年間に起きた、生活に関わる代表的な出来事（1年ごと）を調べ、書き出してみること。（2時間）
事後	授業内での個人ワークを整理した上で、時代背景と照合しつつ生活暦を読み取ることの重要性について理解を深めること。（2時間）

12	家事労働と介護労働
事前	各自の家庭で行われている家事を書き出してみること。(1時間30分)
事後	授業内で説明した用語を整理し理解すること。(2時間30分)

13	家族介護者支援
事前	新聞やインターネットで「高齢者虐待」の事例を探した上で、その原因と対策について自分なりに考えてみること。(2時間)
事後	授業内での個人ワーク、およびグループワークの結果を整理した上で、家族介護者支援の重要性について理解を深めること。(2時間)

14	社会的ネットワーク・地域共生
事前	家族介護者支援のためにどのような社会的制度があるか、自分なりに調べてみること。(2時間)
事後	授業内での個人ワーク、およびグループワークの結果を整理した上で、社会的ネットワーク・地域共生の重要性について理解を深めること。(2時間)

15	生活支援と福祉
事前	授業で使用したプリント、ノートをまとめておくこと。(2時間)
事後	授業を通して学んだこと、および今後さらに深めていくべき点を各自明確にしておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)22:31

科 目 名	介護実習Ⅰ－２ [介]			授業コード	1270103
副 題					
開講期	集中	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	山崎 さゆり、増田 いづみ、浦尾 和江、竹田 幸司、島田 今日子				
介護現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	自立支援、コミュニケーション、生活理解、情報収集、地域交流
到達目標	1.対象者個々の生活リズムや個性を把握し、本人主体の生活と自立支援のあり方を理解し、説明できる。 2.対象者の生活と地域との関わり方や、地域での生活を支える施設、事業所の役割について理解し、説明できる。 3.対象者とのコミュニケーション能力を高め、より良い支援関係を構築できる。 4.対象者個々のニーズに応じた生活支援技術を習得することができる。 5.多職種との協働の中で介護福祉士の役割を理解し、多職種連携やチームケアのあり方を理解し、説明できる。
授業の概要	高齢者や障害のある人が、慣れ親しんだ地域における様々な場において、どのような生活を送っているのかについて理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともにカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	各学生は、実習前に設定した目標の達成に向けて、毎日の実習を振り返った上で翌日の実習に向けた新たな課題を設定し臨む。このプロセスは日々の実習日誌に反映され、この実習日誌の記録内容を中心として指導がなされる。
評価方法及び評価基準	―	実習施設指導者からの「実習評価」と、教員の評価により総合的に評価する。 学習意欲、実習の取り組み姿勢、実習記録内容等から総合的に評価する。		
フィードバック	巡回時、実習日誌についてフィードバックを実施する。			
履修に際しての注意事項	学外での実習は、授業で習得した知識・技術を現場で確認する意味もあるので、各自あらかじめ実習前は授業の復習を十分に行い実習に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III		○	○				

IV							
V							

テキスト1	なし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自ら積極的に各自が必要な文献を検索・入手し、学びを深める。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	[実習施設の種別] 1.認知症対応型共同生活介護 2.介護老人保健施設 3.小規模多機能型居宅介護 （1～3のいずれかの施設で実習する） [実習日数] 12日間 [実習内容] 1.実習施設の役割と機能を理解する。 2.様々な利用者の生活像を理解する。 3.障害特性に応じたコミュニケーションを理解する。 4.対象者のニーズに応じた生活支援技術を理解する。 5.対象者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解する。 6.介護実践に必要な情報収集について理解する。 7.チームにおける多職種の役割と連携について理解する。 8.介護の理念、倫理について理解を深め自己の介護観を形成する。
事前	（実習期間前） 実習配属となった施設の概要（沿革、立地、規模、種別、職員・入居者の状況等）に関する情報を収集し、まとめておくこと。 （実習期間） 実習の目標を確認した上で当日の課題を設定し、その内容を指導者に伝え指導を仰ぐこと。
事後	（実習期間） その日の実習内容の記録、考察結果、翌日の課題等を実習日誌に記録し、指導者に提出すること。 （実習期間後） 実習日誌、実習のまとめ、考察を含む全記録と提出物を指導者に提出し、指導を仰ぐこと。 次の段階の実習に向けての課題を明確にしておくこと。

2020/07/16(木)20:27

科 目 名	保健医療サービス論 [介心]			授業コード	1280012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	国民医療費、医療保険、診療報酬制度、医療法、医療ソーシャルワーカーの業務指針、インフォームド・コンセント
到達目標	1. 個人と社会をめぐるさまざまな分野の知識を基盤にした上で、保健医療サービスに関する専門的知識を獲得し、制度・知識の定着を図ることができる。 2. 現在の社会保障費のなかで医療がどの程度占めているのか、その内訳はどのようなものなのか、また普段自分達が医療機関に受診しているが、その制度体系やメカニズムはどのようなものなのか、医療機関で働く専門職はどのような人で、どのようにチームを組み連携しているのか、具体的に説明することができる。 3. 疾病を契機に生じるさまざまな問題に医療ソーシャルワーカーはどのように対応しているのか、その業務内容を説明できる。
授業の概要	人々の傷病や健康に関する問題は、もともと社会福祉との深い関わりがあった。そして、社会福祉実践の中心がコミュニティを基盤としたものになった昨今、ソーシャルワーカーは、保健医療と連携しながら人々の支援を行なっていくことが強く求められている。 この授業では、社会福祉と保健医療のかかわり、社会福祉が保健医療と連携する意義とその必要性、保健医療サービスの概要や制度に関する知識、保健医療とかかわるソーシャルワーカーの実践について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・第8回と第15回授業では、授業内容の定着を図るために口頭で一問一答を行う。 ・授業の理解度を確認するため、第9回の授業において中間試験を行う。なお、事後の授業において模範解答を配布するとともに解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	中間試験50%、期末試験50%		
フィードバック	授業内で実施した中間試験については、事後の授業において模範解答を配布し、出題の意図や解答を講評する。期末試験にも役立つため、必ず復習すること。			
履修に際しての 注意事項	・本科目は社会福祉士国家試験を見据えた授業を展開している。私語については厳しく対応するため、静かに受講してもらいたい。 ・社会福祉専攻で医療ソーシャルワーク実習を希望する場合、本科目は医療ソーシャルワーク実習指導の履修要件科目の一つとなっており、一定の評価を受ける必要がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				

III							
IV							
V		○					

テキスト1	特になし。資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保健医療と社会福祉のかかわり
事前	保健医療にかかわるソーシャルワーク場面を想定し、まとめておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習すること。(2時間)

2	保健医療のなりたち～日本の医療制度、歴史的考察～
事前	ソーシャルワークの歴史、戦後の社会保障制度を復習しておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、日本の医療制度の歴史を説明できるようにすること。(2時間)

3	国民医療費について
事前	社会保障論を復習しておく。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、国民医療費とは何か、詳細を覚えて説明できるようにすること。(2時間)

4	保健医療制度の概要1 医療保険の給付内容、高額療養費制度
事前	社会保障論で学んだ医療保険制度を復習しておく。(2時間)
事後	授業内で配布したプリントを復習し、医療保険制度の詳細を説明できるようにすること。(2時間)

5	保健医療制度の概要2 診療報酬制度の概要、診療報酬の仕組み
事前	診療報酬制度とは何か調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、診療報酬制度について説明できるようにすること。(2時間)

6	医療法1 医療提供施設について
事前	医療法について調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療法について説明できるようにすること。(2時間)

7	医療法2 医療計画について、地域連携クリティカルパス
事前	地域連携クリティカルパスについて調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療計画および地域連携クリティカルパスについて説明できるようにすること。(2時間)

8	医療機関完結型医療から地域完結型医療へ 退院計画
事前	医療機関完結型医療と地域完結型医療について調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、退院計画および地域完結型医療について具体的に説明できるようにすること。(2時間)

9	中間試験、医療ソーシャルワーカーのビデオ視聴
事前	第1回から第8回までのプリントを復習しておくこと。(3時間)
事後	中間試験の範囲の内容を復習しておくこと。(1時間)

10	医療機関で働く専門職と根拠法
事前	医療機関で働く専門職とその根拠法を調べておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、各専門職の根拠法と業務内容について説明できるようにすること。(2時間)

11	医療ソーシャルワーカーの役割1 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務指針(業務の範囲)
事前	ソーシャルワークの歴史を復習しておくこと。(2時間)
事後	授業で配布したプリントを復習し、医療ソーシャルワーカーの業務指針(詳細資料)を読んでおくこと。(2時間)

12	医療ソーシャルワーカーの役割2 医療ソーシャルワーカーの業務指針と業務の実際
事前	事前に配布した事例を読んでくること。(2時間)

事後	授業で配布したプリントを復習し、医療ソーシャルワーカーの業務と専門性を説明できるようにすること。（2時間）

13	多職種協働・チームワーク
事前	多職種協働について調べておくこと。(2時間）
事後	授業で配布したプリントを復習し、チームワークの型とモデルを説明できるようにすること。(2時間）

14	医療における人の尊厳の保持（患者の権利）、インフォームドコンセントの原理と実際
事前	患者の権利について調べてくること。(2時間）
事後	授業で配布したプリントを復習し、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオン、ACPについて説明できるようにすること。(2時間）

15	医療ソーシャルワークの現状と課題、まとめ
事前	今までの授業内で配布したプリントを復習してくること。(2時間）
事後	授業内で配布したプリントを復習し、期末試験に備えること。(2時間）

2020/07/16(木)20:27

科 目 名	ソーシャルワーク総論I [社]			授業コード	1280021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、実践モデル、アプローチ
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的目標を以下にあげる。 ・ソーシャルワークの定義を理解し、説明できるようになる。 ・相談援助の理念、概念と範囲について理解し、説明できるようになる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解し、協働的に行動できるようになる。 ・ソーシャルワーク実践におけるモデル、アプローチについて理解し、説明できるようになる。
授業の概要	人々の直面するニーズが多様化する現代社会において、より科学的、理論的根拠に基づくソーシャルワーク実践が社会から期待されている。そのような激動の社会で相談援助実践を行う専門職養成の極めて重要な内容を授業では学ぶこととなる。本科目では、相談援助の理念や概念及び範囲をはじめとするソーシャルワーク全般の知識はいうまでもなく、相談援助の係る専門職の業務として現在までに紹介されているモデル、アプローチに基づくソーシャルワーク実践についても詳細に学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業を進行させる途中において他の学生とのディスカッションを行い、結果をクラス全体で共有する。
評価方法及び評価基準	試験	学期末試験 100%		
フィードバック	学生からのクラス内外における質問やコメントシートへはフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	授業では高い集中力が求められる。授業へは積極的な態度で臨むことはいうまでもなく、自ら課題を発見し解決するなど意欲をもって学習すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV						○	

V							

テキスト1	岩間伸之・白澤正和・福山和女編著『MINERVA社会福祉士養成テキストブック3ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト2	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編 「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」ミネルヴァ書房	9784623053902
テキスト3		
参考文献	久保紘章、副田あけみ編著「ソーシャルワーク実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで」川島書店 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク概論Ⅰ:社会福祉実践とは
事前	テキストの索引から、ソーシャルワークに関する単語（キーワード）を検索し、該当部分を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

2	ソーシャルワーク概論Ⅱ:ソーシャルワークに係る各種の定義
事前	「ソーシャルワーク定義と解説」 https://www.jacsw.or.jp/06_kokusai/IFSW/files/SW_teigi_01705.pdf 「日本社会福祉士会　倫理綱領」を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

3	欧米と日本におけるソーシャルワークの形成過程
事前	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」 P. 33- P.59を熟読していくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

4	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
事前	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」 P. 80- P.123を熟読しておくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

5	総合的かつ包括的援助:ジェネラリストアプローチ
事前	岩間伸之、白澤政和、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 8- P.25を熟読しておくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

6	ソーシャルワーク実践モデル・アプローチの変遷の整理
事前	久保紘章、副田あけみ編著「ソーシャルワーク実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで」 川島書店 「序　ソーシャルワーク実践モデル」のページを熟読しておくこと。
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

7	ソーシャルワーク実践モデル:医学モデル、生活モデル、ストレングスモデル
	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 116- P.121

事前	社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.137-142　を熟読しておくこと。(2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

8	ソーシャルワーク実践アプローチⅠ:心理社会的アプローチ,機能的アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 121- P.124 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.150-155　を熟読しておくこと。 リッチモンドのケースワークの定義について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

9	ソーシャルワーク実践アプローチⅡ:問題解決アプローチ、課題中心アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 124- P.125 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.156-P. 161　を熟読しておくこと。 パールマンのケースワークの定義について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

10	ソーシャルワーク実践アプローチⅢ:危機介入アプローチ、行動療法的アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 125- P.127 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.162-P. 167　を熟読しておくこと。 あなたが今まで直面した危機的な状況について思い出し、その時どのような気持ちだったのか熟考しておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

11	ソーシャルワーク実践アプローチⅣ:エンパワメントアプローチ、エコロジカルアプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 127- P.128 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.174-p. 177を熟読しておくこと。 アメリカにおける白人と黒人の関係の歴史について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

12	ソーシャルワーク実践アプローチⅤ：家族療法的アプローチ、構成主義アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 128- P.130 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.178- P. 181 「構成主義」についてその概要を調べておくこと。 （2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

13	ソーシャルワーク実践アプローチⅥ：認知アプローチ、実存主義的アプローチ、フェミニストアプローチ、解決志向アプローチ
事前	社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.182-P. 191 ジェンダーの意味と具体例について調べておくこと。 （2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

14	ソーシャルワーク実践アプローチⅦ：ケアマネジメント、ソーシャル・サポートネットワーク
事前	ケアマネジメント、ケースマネジメントについてテキスト等の索引で検索し、熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

15	振り返りとこれからのソーシャルワーク専門職の未来的展望
事前	第1回から14回までの授業ノート、配布資料を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

2020/07/16(木)21:31

科 目 名	ソーシャルワーク総論I [介心]			授業コード	1280031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、実践モデル、アプローチ
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的目標を以下にあげる。 ・ソーシャルワークの定義を理解し、説明できるようになる。 ・相談援助の理念、概念と範囲について理解し、説明できるようになる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解し、協働的に行動できるようになる。 ・ソーシャルワーク実践におけるモデル、アプローチについて理解し、説明できるようになる。
授業の概要	人々の直面するニーズが多様化する現代社会において、より科学的、理論的根拠に基づくソーシャルワーク実践が社会から期待されている。そのような激動の社会で相談援助実践を行う専門職養成の極めて重要な内容を授業では学ぶこととなる。本科目では、相談援助の理念や概念及び範囲をはじめとするソーシャルワーク全般の知識はいうまでもなく、相談援助の係る専門職の業務として現在までに紹介されているモデル、アプローチに基づくソーシャルワーク実践についても詳細に学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業を進行させる途中において他の学生とのディスカッションを行い、結果をクラス全体で共有する。
評価方法及び評価基準	試験	学期末試験 100%		
フィードバック	学生からのクラス内外における質問やコメントシートへはフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	授業では高い集中力が求められる。授業へは積極的な態度で臨むことはいうまでもなく、自ら課題を発見し解決するなど意欲をもって学習すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV						○	

V							

テキスト1	岩間伸之・白澤正和・福山和女編著『MINERVA社会福祉士養成テキストブック3ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房	9784623053919
テキスト2	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編 「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」ミネルヴァ書房	9784623053902
テキスト3		
参考文献	久保紘章、副田あけみ編著「ソーシャルワーク実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで」川島書店 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク概論Ⅰ:社会福祉実践とは
事前	テキストの索引から、ソーシャルワークに関する単語（キーワード）を検索し、該当部分を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

2	ソーシャルワーク概論Ⅱ:ソーシャルワークに係る各種の定義
事前	「ソーシャルワーク定義と解説」 https://www.jacsw.or.jp/06_kokusai/IFSW/files/SW_teigi_01705.pdf 「日本社会福祉士会　倫理綱領」を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

3	欧米と日本におけるソーシャルワークの形成過程
事前	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」 P. 33- P.59を熟読していくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

4	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
事前	大橋謙策、白澤政和、米本秀仁編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　相談援助の基盤と専門職」 P. 80- P.123を熟読しておくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

5	総合的かつ包括的援助:ジェネラリストアプローチ
事前	岩間伸之、白澤政和、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 8- P.25を熟読しておくこと。(2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

6	ソーシャルワーク実践モデル・アプローチの変遷の整理
事前	久保紘章、副田あけみ編著「ソーシャルワーク実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで」 川島書店 「序　ソーシャルワーク実践モデル」のページを熟読しておくこと。
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

7	ソーシャルワーク実践モデル:医学モデル、生活モデル、ストレングスモデル
	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 116- P.121

事前	社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.137-142　を熟読しておくこと。(2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

8	ソーシャルワーク実践アプローチⅠ:心理社会的アプローチ,機能的アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 121- P.124 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.150-155　を熟読しておくこと。 リッチモンドのケースワークの定義について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

9	ソーシャルワーク実践アプローチⅡ:問題解決アプローチ、課題中心アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 124- P.125 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.156-P. 161　を熟読しておくこと。 パールマンのケースワークの定義について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

10	ソーシャルワーク実践アプローチⅢ:危機介入アプローチ、行動療法的アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 125- P.127 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.162-P. 167　を熟読しておくこと。 あなたが今まで直面した危機的な状況について思い出し、その時どのような気持ちだったのか熟考しておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

11	ソーシャルワーク実践アプローチⅣ:エンパワメントアプローチ、エコロジカルアプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 127- P.128 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.174-p. 177を熟読しておくこと。 アメリカにおける白人と黒人の関係の歴史について調べておくこと。 (2.5時間)
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。(1.5時間)

12	ソーシャルワーク実践アプローチⅤ：家族療法的アプローチ、構成主義アプローチ
事前	岩間伸之、白澤和正、福山和女編「MINERVA社会福祉施養成テキストブック　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」P. 128- P.130 社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.178- P. 181 「構成主義」についてその概要を調べておくこと。 （2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

13	ソーシャルワーク実践アプローチⅥ：認知アプローチ、実存主義的アプローチ、フェミニストアプローチ、解決志向アプローチ
事前	社会福祉施養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版」 P.182-P. 191 ジェンダーの意味と具体例について調べておくこと。 （2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

14	ソーシャルワーク実践アプローチⅦ：ケアマネジメント、ソーシャル・サポートネットワーク
事前	ケアマネジメント、ケースマネジメントについてテキスト等の索引で検索し、熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

15	振り返りとこれからのソーシャルワーク専門職の未来的展望
事前	第1回から14回までの授業ノート、配布資料を熟読しておくこと。（2.5時間）
事後	ノートや教科書、配布された資料を振り返る等十分な復習をし、知識の定着を図ること。授業を通じて修得した新たな知識については特に入念に再確認し、知識の定着を図ること。（1.5時間）

2020/07/16(木)20:43

科 目 名	ソーシャルワークIII [介]			授業コード	1280042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ケアマネジメント、ケースマネジメント
到達目標	・個人と社会をめぐる様々な分野の知識や技能を習得し、相手とのコミュニケーションや多様な人々との協働の中での意思疎通に積極的に活用することができるようになる。 ・支援を必要としている人の話に耳をかたむけその人が抱えている生活問題を発見し、問題解決のプロセスにおいて必要に応じた社会資源の活用について判断し、助言することができるようになる。 ・利用者に対して、ケアマネジメントとは何か、説明することができるようになる。
授業の概要	ケアマネジメントとは、利用者の持つ複数のニーズと複数の社会資源を適切に結びつけることによって、利用者の心身の安定を図る社会福祉の方法の一つである。 この授業では、ケアマネジメントの目的と成り立ち、構成要素、展開過程、ワーカーの留意点などについて、学んでいく。あわせて、ケアマネジメントに必要なネットワーキングについても学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	適宜学生同士のディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	試験	授業中に行われるディスカッションへの積極的参加やリアクションペーパー等(30%)、試験(70%) 受験資格は学則に規定されている通りである		
フィードバック	学生から受けた質問やコメントに対して授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	授業に主体的に出席できるように、予習、復習並びに日常的に問題意識を持つこと			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	社会福祉士養成テキスト『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ケアマネジメントとは何か ソーシャルワークとケアマネジメントとの関連について
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』p.176-178を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

2	ケアマネジメントの目的
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 P.178－179を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

3	ケアマネジメントの機能
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 p.179-185を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

4	ケアマネジメントにおける社会資源
事前	参考文献の索引より「社会資源」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

5	ケアマネジメントの利用者
事前	参考文献の索引より「利用者」、「クライエント」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

6	ケアマネジメントとケアマネジャー
事前	ホームページ等でケアマネジャーの役割、養成課程について検索し、理解しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

7	ケアマネジメントの視点
事前	第1回から第6回までの事前学習の内容を復習する。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。授業内評価の準備をする。(2時間)

8	ケアマネジメントにおけるニーズ、授業内評価
事前	参考文献の索引より「ニード」、「ニーズ」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

9	ケアマネジメントの展開過程について (1)ケースの発見について
事前	各回のシラバスにある単語(キーワード)を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

10	ケアマネジメントの展開過程について (2)アセスメントについて
事前	参考文献の索引より「アセスメント」検索し、該当ページを熟読し、分からない語句の意味を調べておく。ソーシャルケースワークの

	展開過程と各過程の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

11	ケアマネジメントの展開過程について (3)ケアプランの作成について
事前	参考文献の索引より「ケアプラン作成」、「プランニング」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

12	ケアマネジメントの展開過程について (4)ケアプランの実施について
事前	参考文献の索引より「支援の実施」、「インターベンション」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

13	ケアマネジメントの展開過程について (5)モニタリングと評価について
事前	参考文献の索引より「モニタリング」、「評価」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

14	ネットワーキングについて
事前	参考文献の索引より「ネットワーク」、「ネットワーキング」、「連携」、「多職種連携」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

15	ケアマネジメントの復習
事前	ケアマネジメントとは何か、について自分の考えを表現できるよう準備する。(2 時間)
事後	15回の授業を振り返り、期末試験に備える。(2時間)

2020/07/16(木)11:21

科 目 名	ソーシャルワークIII [心]			授業コード	1280052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ケアマネジメント、ケースマネジメント

到達目標	・個人と社会をめぐる様々な分野の知識や技能を習得し、相手とのコミュニケーションや多様な人々との協働の中での意思疎通に積極的に活用することができるようになる。 ・支援を必要としている人の話に耳をかたむけその人が抱えている生活問題を発見し、問題解決のプロセスにおいて必要に応じた社会資源の活用について判断し、助言することができるようになる。 ・利用者に対して、ケアマネジメントとは何か、説明することができるようになる。			
授業の概要	ケアマネジメントとは、利用者の持つ複数のニーズと複数の社会資源を適切に結びつけることによって、利用者の心身の安定を図る社会福祉の方法の一つである。 この授業では、ケアマネジメントの目的と成り立ち、構成要素、展開過程、ワーカーの留意点などについて、学んでいく。あわせて、ケアマネジメントに必要なネットワーキングについても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	適宜学生同士のディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	授業中に行われるディスカッションへの積極的参加やリアクションペーパー等(30%)、試験(70%) 受験資格は学則に規定されている通りである		
フィードバック	学生から受けた質問やコメントに対して授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	授業に主体的に出席できるように、予習、復習並びに日常的に問題意識を持つこと			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	社会福祉士養成テキスト『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ケアマネジメントとは何か ソーシャルワークとケアマネジメントとの関連について
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

2	ケアマネジメントの目的
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

3	ケアマネジメントの機能
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

4	ケアマネジメントにおける社会資源
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

5	ケアマネジメントの利用者
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

6	ケアマネジメントとケアマネジャー
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

7	ケアマネジメントの視点
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。授業内評価の準備をする。(2時間)

8	ケアマネジメントにおけるニーズ、授業内評価
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

9	ケアマネジメントの展開過程について (1)ケースの発見について
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

10	ケアマネジメントの展開過程について (2)アセスメントについて
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

11	ケアマネジメントの展開過程について (3)ケアプランの作成について

事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。（2 時間）
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。（2時間）

12	ケアマネジメントの展開過程について (4)ケアプランの実施について
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。（2 時間）
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。（2時間）

13	ケアマネジメントの展開過程について (5)モニタリングと評価について
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。（2 時間）
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。（2時間）

14	ネットワーキングについて
事前	各回のシラバスにある単語（キーワード）を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。（2 時間）
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。（2時間）

15	ケアマネジメントの復習
事前	ケアマネジメントとは何か、について自分の考えを表現できるよう準備する。（2 時間）
事後	15回の授業を振り返り、期末試験に備える。（2時間）

2020/07/16(木)20:59

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	1280060
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)10:44

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [社]			授業コード	1280071
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	1280082
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:52

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	1280090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		

フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。
履修に際しての注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:28

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	1280103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	山本 博之				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)20:23

科 目 名	ゼミナールI/専門演習I [社]			授業コード	1280110
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、相談援助、面接、カウンセリング

到達目標	本科目では、ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の習得はもちろんのこと、主体性をもって多様な 人々と学び働く能力を修得することをねらいとしている。具体的な到達目標は以下のとおりである。 臨床ソーシャルワーカーとして実践に耐えうる専門的知識、価値、技術を習得し、ロールプレイ等の場面で実践できるようになる。			
授業の概要	臨床ソーシャルワーカーとして必要とされる、価値、知識、理論、技術を徹底的に習得し、それを実践にあてはめられる力量をつける時間としたい。具体的内容は以下のとおり。 1)面接の基本技法、2)グループワーク技術、3)具体的事例検討等を軸としてゼミを展開する。 また、将来の大学院教育や海外でソーシャルワーク実践を行う準備をするということもふまえ、外書講読などの機会も積極的に取り込む。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、プレゼンテーション
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加50%、課題等の提出物50%として 総合的に評価する。		
フィードバック	ゼミ中はディスカッションの時間を有効活用し、適宜その内容について教員はフィードバックを行う。また、提出物等についてもフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	積極的な参加が強く求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○			○	○		

テキスト1	教員が適宜用意する	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	前期は以下の5項目について重点的に学ぶ 1）ソーシャルワーク概論 2）相談援助実践に必要とされる価値：主として倫理綱領の理解 3）相談援助に必要とされる知識：エコシステムアプローチについて 4）面接の基本技法 5）事例検討 後期は以下の項目について学びを深める。 1）医療ソーシャルワーカーの役割機能について 2）HIV陽性者及びその関係者の心理社会的困窮とその対応について 3）病気の子どもとその家族の心理社会的困窮とその対応について 4）北米におけるソーシャルワーク実践について
事前	毎回のゼミにおいて事前学学修の内容を指示するので、準備してゼミに参加すること（30分）
事後	ゼミ中に修得した新たな知識は再度確認し、知識の定着させること（30分）

2020/07/16(木)22:25

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	1280120
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	山本 博之				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、卒業研究
到達目標	本科目では、ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の習得はもちろんのこと、主体性をもって多様な 人々と学び働く能力を修得することをねらいとしている。具体的な到達目標は以下のとおりである。 ・各々の学生が設定したテーマで、ゼミ論文もしくは卒業論文を完成させ、大学卒業レベルにふさわしい論文を 作成できるようにする。 ・初級レベルのソーシャルワーカーにふさわしいソーシャルワークに関する価値、知識、技術を習得し、現場実践を 行えるようにする。
授業の概要	前期は、ゼミ論文もしくは卒業論文作成に向けて学生個人個人のテーマを深める 後期は、ソーシャルワークを総合的に学ぶ

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加50%、課題を含む提出物50%として総合的に評価する。		
フィードバック	ゼミ中はディスカッションの時間を有効活用し、適宜その内容について教員はフィードバックを行う。また、提出物等についてもフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	事前事後学修をしっかり行ってからゼミに参加すること。ディスカッションには積極的に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV		○					

V				○	○		

テキスト1	教員が適宜準備する	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	4月：ゼミ論文/卒業論文テーマ決定、先行研究調査 5月：先行研究調査、論文構成完了 6月、7月：論文作成（ゼミ論） ゼミ論文は夏季休暇前までには書き終えること。 9、10月：卒業論文完成 11月～ 事例研究
事前	事前学修の内容を毎回指示するので、しっかり準備しておくこと（30分）
事後	ゼミ中に修得した新たな知識を再確認し、定着を図ること（30分）

2020/07/16(木)10:41

科 目 名	社会保障論I [社]			授業コード	1290011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	社会権、普遍主義、社会保険、福祉国家
到達目標	本講座では、社会保障制度が資本主義社会においてどのような意義を有しているか、社会保障の理念や制度のメカニズム、社会情勢など、マクロ的な視点からアプローチしていくこととする。 社会保障制度は、生活上の困難に遭遇した人々の生活を支えるものであるため、まずは受講者が自分自身のためにどう活かしていけるかを理解することが求められ、さらに、社会福祉の専門職として、日本の社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解する。そのため以下を本授業の到達目標とする。 社会保障が自身の生活に密接にかかわっていることを認識できる。 社会保障制度について、対象者（クライエント）への適切な説明ができる。 権利擁護につながるような知識を身に付け、説明できる。
授業の概要	この授業は、国民生活にとって不可欠なものとなった社会保障制度の意義、目的、制度内容を学び、私たちの暮らしのなかでどのように社会保障制度が組み込まれているのか、また、日本の雇用システム、税制、男女の働き方や暮らし方など、経済社会の構造とどのようにかかわっているのかを理解することを目的とする。 なお、介護福祉の専門職を目指す者については、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。
授業方法	講義 / アクティブラーニング：○ / 福祉国家、財源、各国の制度についてグループワークを行いグループ毎に発表する。
評価方法 及び評価基準	期末試験実施 / 平常点30%（授業への参加度＋小課題）、レポート課題10%、期末試験60%
フィードバック	講義を中心に展開するが、グループワークを取り入れたり、映像学習を取り入れたりする予定である。 毎回の小課題については、次回の講義時にフィードバックする。 試験の結果については、でんでんばんで各問の平均点等を掲示し、フィードバックする。
履修に際しての 注意事項	授業の中でグループワークを取り入れる時があるので、積極的な参加を期待する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							○

V							

テキスト1	今井伸編『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門―【第2版】』みらい、2019年	978-4-86015-474-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	厚生労働白書	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会における社会保障制度の課題(1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
事前	テキスト第1章第1節・2節(p1～31)を読み、少子高齢化の現状を「厚生労働白書」を用いて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	提出課題に取り組む。(2時間)

2	現代社会における社会保障制度の課題(2) 労働・雇用環境の変化
事前	「厚生労働白書」を用いて労働環境の変化について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

3	現代社会における社会保障制度の課題(3) 格差・貧困と社会保障の課題
事前	配布資料を読み、格差と貧困について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

4	社会保障の歴史(1) 欧米における歴史的展開①(イギリスを中心に)
事前	配布資料を読み、欧米特にイギリスの社会保障制度発展の経緯に関する事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

5	社会保障の歴史(2) 欧米における歴史的展開②(ドイツ・アメリカを中心に)
事前	テキスト12章第1節(p240～244)を読み、諸外国の社会保障の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

6	社会保障の歴史(3) 日本における歴史的展開①(戦前から戦後期〔1950年代頃〕まで)
事前	テキスト12章第2節(p245～251)を読み、我が国の社会保障の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

7	社会保障の歴史(4) 日本における歴史的展開②(拡充期〔1960年代〕から転換期〔2000年頃〕以降)
事前	配布資料を読み、高度経済成長期の社会保障について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

8	社会保障制度の財源と費用(1) 社会保障の財源及び給付費
事前	テキスト11章第1節(p224～229)を読み、社会保障の財源及び給付費について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

9	社会保障制度の財源と費用(2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
事前	テキスト11章第2説及び第3節(p230～237)を読み、国民負担率と国の財政について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

10	社会保障制度の体系(1) 社会保険の概念と範囲
事前	配布資料を読み、社会保険の概念と範囲ついて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

11	社会保障制度の体系(2) 社会扶助の概念と範囲
事前	配布資料を読み、我が国の社会扶助の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

12	諸外国における社会保障制度の概要(1) 社会保障の国際比較
事前	テキスト13章(p254～272)を読み、日本と諸外国の社会保障の違いについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

13	諸外国における社会保障制度の概要(2) 先進諸国における社会保障制度の概要①(福祉国家の類型)
事前	配布資料を用いて福祉国家について事前課題用紙を完成させる。(2時間)

事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

14	諸外国における社会保障制度の概要(3) 先進諸国における社会保障制度の概要②(各国の特徴)
事前	テキスト13章(p254～272)を読み、各国の社会保障制度の違いについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの講義を振り返り、社会保障制度に関する重要概念について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

2020/07/16(木)11:20

科 目 名	社会保障論I [介心]			授業コード	1290021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	社会権、普遍主義、社会保険、福祉国家
到達目標	本講座では、社会保障制度が資本主義社会においてどのような意義を有しているか、社会保障の理念や制度のメカニズム、社会情勢など、マクロ的な視点からアプローチしていくこととする。 社会保障制度は、生活上の困難に遭遇した人々の生活を支えるものであるため、まずは受講者が自分自身のためにどう活かしていけるかを理解することが求められ、さらに、社会福祉の専門職として、日本の社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解する。そのため以下を本授業の到達目標とする。 社会保障が自身の生活に密接にかかわっていることを認識できる。 社会保障制度について、対象者（クライエント）への適切な説明ができる。 権利擁護につながるような知識を身に付け、説明できる。
授業の概要	この授業は、国民生活にとって不可欠なものとなった社会保障制度の意義、目的、制度内容を学び、私たちの暮らしのなかでどのように社会保障制度が組み込まれているのか、また、日本の雇用システム、税制、男女の働き方や暮らし方など、経済社会の構造とどのようにかかわっているのかを理解することを目的とする。 なお、介護福祉の専門職を目指す者については、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	福祉国家、財源、各国の制度についてグループワークを行いグループ毎に発表する。
評価方法 及び評価基準	期末試験実施	平常点30%（授業への参加度＋小課題）、レポート課題10%、期末試験60%		
フィードバック	講義を中心に展開するが、グループワークを取り入れたり、映像学習を取り入れたりする予定である。 毎回の小課題については、次回の講義時にフィードバックする。 試験の結果については、でんでんばんで各問の平均点等を掲示し、フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業の中でグループワークを取り入れる時があるので、積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							○

V							

テキスト1	今井伸編『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門―【第2版】』みらい、2019年	978-4-86015-474-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	厚生労働白書	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会における社会保障制度の課題(1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
事前	テキスト第1章第1節・2節(p1～31)を読み、少子高齢化の現状を「厚生労働白書」を用いて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	提出課題に取り組む。(2時間)

2	現代社会における社会保障制度の課題(2) 労働・雇用環境の変化
事前	「厚生労働白書」を用いて労働環境の変化について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

3	現代社会における社会保障制度の課題(3) 格差・貧困と社会保障の課題
事前	配布資料を読み、格差と貧困について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

4	社会保障の歴史(1) 欧米における歴史的展開①(イギリスを中心に)
事前	配布資料を読み、欧米特にイギリスの社会保障制度発展の経緯に関する事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

5	社会保障の歴史(2) 欧米における歴史的展開②(ドイツ・アメリカを中心に)
事前	テキスト12章第1節(p240～244)を読み、諸外国の社会保障の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

6	社会保障の歴史(3) 日本における歴史的展開①(戦前から戦後期〔1950年代頃〕まで)
事前	テキスト12章第2節(p245～251)を読み、我が国の社会保障の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

7	社会保障の歴史(4) 日本における歴史的展開②(拡充期〔1960年代〕から転換期〔2000年頃〕以降)
事前	配布資料を読み、高度経済成長期の社会保障について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

8	社会保障制度の財源と費用(1) 社会保障の財源及び給付費
事前	テキスト11章第1節(p224～229)を読み、社会保障の財源及び給付費について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

9	社会保障制度の財源と費用(2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
事前	テキスト11章第2説及び第3節(p230～237)を読み、国民負担率と国の財政について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

10	社会保障制度の体系(1) 社会保険の概念と範囲
事前	配布資料を読み、社会保険の概念と範囲ついて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

11	社会保障制度の体系(2) 社会扶助の概念と範囲
事前	配布資料を読み、我が国の社会扶助の発展について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

12	諸外国における社会保障制度の概要(1) 社会保障の国際比較
事前	テキスト13章(p254～272)を読み、日本と諸外国の社会保障の違いについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

13	諸外国における社会保障制度の概要(2) 先進諸国における社会保障制度の概要①(福祉国家の類型)
事前	配布資料を用いて福祉国家について事前課題用紙を完成させる。(2時間)

事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

14	諸外国における社会保障制度の概要(3) 先進諸国における社会保障制度の概要②(各国の特徴)
事前	テキスト13章(p254～272)を読み、各国の社会保障制度の違いについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの講義を振り返り、社会保障制度に関する重要概念について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

2020/07/16(木)20:24

科 目 名	社会保障論II [社]			授業コード	1290032
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	皆年金・皆保険制度、介護の社会化、所得保障、生活保障

到達目標	本講座では、社会保障制度が人々の生活のなかでどのように活用できる可能性があるか、具体的な制度の利用方法など、ミクロ的な視点からアプローチしていくこととする。 社会保障制度は、生活上の困難に遭遇した人々の生活を支えるものであるため、まずは受講者が自分自身のためにどう活かしていけるかを理解することが求められ、さらに、社会福祉の専門職として、日本の社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解する。そのため以下を本授業の到達目標とする。 社会保障が自身の生活に密接にかかわっていることを認識できる。 社会保障制度について、対象者（クライエント）への適切な説明ができる。 権利擁護につながるような知識を身に付け、説明できる。			
授業の概要	この授業は、「社会保障論Ⅰ」で理解した社会保障制度の意義、目的等を踏まえて、具体的な制度について詳しく取り上げることでより理解を深めるとともに、相談援助の実践につながるように実務的な面にも目を向け、「活用」のための道筋を理解することを目的とする。 なお、介護福祉の専門職を目指す者については、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループに分かれて、各制度（年金、医療、介護、労働、社会手当）の概要について、整理し、発表する。
評価方法 及び評価基準	試験	平常点30%（授業への参加度＋小課題）、レポート課題10%、期末試験60%		
フィードバック	講義を中心に展開するが、グループワークを取り入れたり、映像学習を取り入れたりする予定である。 毎回の小課題については、次回の講義時にフィードバックする。 試験の結果については、でんでんばんで各問の平均点等を掲示し、フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業の中でグループワークを取り入れる時があるので、積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							○

V							

テキスト1	今井伸編『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門―【第2版】』みらい、2019年	978-4-86015-474-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	厚生労働白書	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会保障の目的（生存権保障）と手段（社会保険、社会扶助、社会福祉など）（※社会保障論Ⅰの復習）
事前	社会保障論Ⅰの内容を復習しておく。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

2	年金保険制度（1） 年金保険制度の沿革と概要
事前	テキスト第5章第1節（p86～90）を読み、世代間扶養の考え方、年金制度の役割と仕組みについて事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

3	年金保険制度（2） 国民年金・厚生年金
事前	テキスト第5章第2節（p91～105）を読み、年金保険制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

4	年金保険制度（3） 年金制度をめぐる最近の動向（現状と課題）
事前	配布資料を読み、年金制度の動向と課題について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

5	医療保険制度（1） 医療保険制度の沿革と最近の動向（現状と課題）
事前	テキスト第2章第1節と第2節（p34～40）を読んだ上で、最近病院や診療所にかかった経験をまとめる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

6	医療保険制度（2） 国民健康保険、健康保険と共済組合制度
事前	テキスト第2第3節（p41～50）を読み、医療保険の保険者と給付について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

7	医療保険制度（3） 高齢者医療制度
事前	テキスト第2章第4節（p51～54）を読み、高齢者医療制度創設の経緯について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

8	介護保険制度（1） 創設の経緯と介護保険制度をめぐる最近の動向（現状と課題）
事前	テキスト第6章第1節及び第3節3（p108～110、p125～128 ）を読み、介護保険制度の設立の背景と現状について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

9	介護保険制度（2） 介護保険制度の概要
事前	テキスト第6章第2節及び第3節1,2（p111～123、p123～125 ）を読み、介護保険制度が創設される経緯について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

10	労働保険制度（1） 労働保険制度の沿革と最近の動向（現状と課題）
事前	事前配布資料を読み、働く人を支える社会制度が作られた歴史的経緯に関する事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

11	労働保険制度（2） 労働者災害補償保険（労災保険）
事前	テキスト第4章（p70～82）を読み、労働災害補償制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

12	労働保険制度（3） 雇用保険
事前	テキスト第3章（p56～66）を読み、雇用保険制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）

事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

13	社会手当制度　児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当等
事前	テキスト第8章及び第9章(p160～174、p176～204)を読み、社会福祉諸制度及び社会手当制度の概要について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

14	公的保険制度と民間保険制度の関係 民間保険に期待される役割と概要
事前	配付資料及びテキスト第10章(p208～220)を読み、公私関係及び社会保障の持続可能性についてについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの講義を振り返り、各制度に関する重要概念について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

2020/07/16(木)20:32

科 目 名	社会保障論II [介心]			授業コード	1290042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	皆年金・皆保険制度、介護の社会化、所得保障、生活保障
到達目標	本講座では、社会保障制度が人々の生活のなかでどのように活用できる可能性があるか、具体的な制度の利用方法など、ミクロ的な視点からアプローチしていくこととする。 社会保障制度は、生活上の困難に遭遇した人々の生活を支えるものであるため、まずは受講者が自分自身のためにどう活かしていけるかを理解することが求められ、さらに、社会福祉の専門職として、日本の社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解する。そのため以下を本授業の到達目標とする。 社会保障が自身の生活に密接にかかわっていることを認識できる。 社会保障制度について、対象者（クライエント）への適切な説明ができる。 権利擁護につながるような知識を身に付け、説明できる。
授業の概要	この授業は、「社会保障論Ⅰ」で理解した社会保障制度の意義、目的等を踏まえて、具体的な制度について詳しく取り上げることでより理解を深めるとともに、相談援助の実践につながるように実務的な面にも目を向け、「活用」のための道筋を理解することを目的とする。 なお、介護福祉の専門職を目指す者については、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループに分かれて、各制度（年金、医療、介護、労働、社会手当）の概要について、整理し、発表する。
評価方法 及び評価基準	試験	平常点30%（授業への参加度＋小課題）、レポート課題10%、期末試験60%		
フィードバック	講義を中心に展開するが、グループワークを取り入れたり、映像学習を取り入れたりする予定である。 毎回の小課題については、次回の講義時にフィードバックする。 試験の結果については、でんでんばんで各問の平均点等を掲示し、フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業の中でグループワークを取り入れる時があるので、積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							○

V							

テキスト1	今井伸編『わかる・みえる社会保障論―事例でつかむ社会保障入門―【第2版】』みらい、2019年	978-4-86015-474-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	厚生労働白書	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会保障の目的（生存権保障）と手段（社会保険、社会扶助、社会福祉など）（※社会保障論Ⅰの復習）
事前	社会保障論Ⅰの内容を復習しておく。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

2	年金保険制度（1） 年金保険制度の沿革と概要
事前	テキスト第5章第1節（p86～90）を読み、世代間扶養の考え方、年金制度の役割と仕組みについて事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

3	年金保険制度（2） 国民年金・厚生年金
事前	テキスト第5章第2節（p91～105）を読み、年金保険制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

4	年金保険制度（3） 年金制度をめぐる最近の動向（現状と課題）
事前	配布資料を読み、年金制度の動向と課題について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

5	医療保険制度（1） 医療保険制度の沿革と最近の動向（現状と課題）
事前	テキスト第2章第1節と第2節（p34～40）を読んだ上で、最近病院や診療所にかかった経験をまとめる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

6	医療保険制度（2） 国民健康保険、健康保険と共済組合制度
事前	テキスト第2第3節（p41～50）を読み、医療保険の保険者と給付について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

7	医療保険制度（3） 高齢者医療制度
事前	テキスト第2章第4節（p51～54）を読み、高齢者医療制度創設の経緯について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

8	介護保険制度（1） 創設の経緯と介護保険制度をめぐる最近の動向（現状と課題）
事前	テキスト第6章第1節及び第3節3（p108～110、p125～128 ）を読み、介護保険制度の設立の背景と現状について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

9	介護保険制度（2） 介護保険制度の概要
事前	テキスト第6章第2節及び第3節1,2（p111～123、p123～125 ）を読み、介護保険制度が創設される経緯について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

10	労働保険制度（1） 労働保険制度の沿革と最近の動向（現状と課題）
事前	事前配布資料を読み、働く人を支える社会制度が作られた歴史的経緯に関する事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

11	労働保険制度（2） 労働者災害補償保険（労災保険）
事前	テキスト第4章（p70～82）を読み、労働災害補償制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。（2時間）

12	労働保険制度（3） 雇用保険
事前	テキスト第3章（p56～66）を読み、雇用保険制度の概要について事前課題用紙を完成させる。（2時間）

事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

13	社会手当制度　児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当等
事前	テキスト第8章及び第9章(p160～174、p176～204)を読み、社会福祉諸制度及び社会手当制度の概要について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

14	公的保険制度と民間保険制度の関係 民間保険に期待される役割と概要
事前	配付資料及びテキスト第10章(p208～220)を読み、公私関係及び社会保障の持続可能性についてについて事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの講義を振り返り、各制度に関する重要概念について事前課題用紙を完成させる。(2時間)
事後	講義の復習と提出課題に取り組む。(2時間)

2020/07/16(木)22:13

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [心]			授業コード	1290050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)21:14

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [心]			授業コード	1290060
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:25

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [心]			授業コード	1290071
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	1290082
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:52

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [心]			授業コード	1290090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○			少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:29

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [心]			授業コード	1290103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	新名 正弥				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)11:16

科 目 名	現代社会と貧困 [科]			授業コード	1290131
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新名 正弥				

科目に関する キーワード	絶対的貧困・相対的貧困、社会的排除・包摂、社会階層
到達目標	この授業では、「貧困とは何か」という問いに対して、質的な概念や量的な把握方法、貧困が原因となって生じる社会問題について理解することを到達目標とする。 貧困の概念について理解し、その問題点について説明ができる。 貧困を捉える指標について理解し、その説明ができる。 貧困から派生する個別的な問題および社会的な問題について理解し、その説明ができる。
授業の概要	日本は長く貧困とは無縁とされてきたが、近年所得水準の格差が広がり貧困状態にある家族が増加している。この講義では貧困とはどのような状態か、現代社会のどのような要因が貧困と関係するのかについて解説し、それを踏まえて貧困状態にある世帯の生活や心理、教育にいかなる影響を及ぼすのかについて考察を深める。また、心理の専門家が貧困状態にある世帯の支援にいかなる役割を果たすことが出来るかについても理解を深めていく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○				グループに分かれて、学生の考える現代の貧困についてグループワークを実施し、どのような取り組みが可能か考える（初回、中間、最終回）
評価方法 及び評価基準	試験	平常点30%（授業への参加度＋小課題）、レポート課題10%、期末試験60%			
フィードバック	毎回の小課題については、次回の講義時にフィードバックする。 試験の結果については、でんでんばんで各問の平均点等を掲示し、フィードバックする。				
履修に際しての 注意事項	授業の中でグループワークを取り入れる時があるので、積極的な参加を期待する。				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							○

V							

テキスト1	特に指定しない	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	橘木俊詔・宮本太郎・駒村康平(編)『貧困（福祉＋α）』ミネルヴァ書房、2018年 庄司洋子・藤村正之・杉村宏(編)『貧困・不平等と社会福祉』有斐閣、1997年 宮寺良光『貧困問題をめぐる地域課題研究』ブイツーソリューション、2016年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	貧困の概念
事前	配布資料を読み、新聞から貧困に関する記事を選ぶこと。（2時間）
事後	ワークで検討した貧困について、各グループの発表をノートに整理する。（2時間）

2	イギリスにおける貧困の歴史
事前	配布資料を読み、産業革命とイギリスの貧困について理解する。（2時間）
事後	提出課題に取り組む。（2時間）

3	イギリスにおける貧困研究の歴史
事前	事前配布資料を読み、貧困研究の萌芽について理解する。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

4	日本における貧困の歴史
事前	事前配布資料を読み、日本における社会変動と貧困について理解する。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

5	日本における貧困研究の歴史
事前	事前配布資料を読み、日本における貧困研究について理解する。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

6	貧困と社会保障① 生存権と社会保障の概念
事前	配布資料を読み、権利と社会制度の関係について考える。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

7	貧困と社会保障② 防貧としての社会保険制度
事前	配布資料を読み、社会保障制度の機能について理解する。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

8	貧困と社会保障③ 救貧としての公的扶助制度
事前	配布資料を読み、公的扶助の役割について事前配布課題をまとめてくる。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

9	貧困の量的把握方法と現状
事前	事前配布資料を読み、貧困の量的把握方法について事前課題をまとめてくる。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

10	貧困問題の質的把握方法と現状
事前	配布資料を読み、貧困の質的把握方法について事前課題をまとめてくる。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

11	子どもの貧困問題
事前	子どもの貧困に関する新聞記事を一つ選び、概要をまとめる。（2時間）
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。（2時間）

12	高齢者の貧困問題
事前	高齢期の貧困に関する新聞記事を一つ選び、概要をまとめる。（2時間）

事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。(2時間)

13	その他の貧困問題
事前	各自新聞記事から、現代社会の新たな形態の貧困に関する記事を選び、概要をまとめる。(2時間)
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。(2時間)

14	貧困問題をめぐる国際比較
事前	配布資料を読み、各国の貧困の現状と対応について事前課題をまとめてくる。(2時間)
事後	講義内容を確認し、事後課題に取り組む。(2時間)

15	まとめ
事前	関心がある貧困について、グループワークに備えて各自まとめてくる。(2時間)
事後	試験に備える。(2時間)

2020/07/16(木)21:32

科 目 名	教育社会学 [心]			授業コード	4020011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関する キーワード	学校、教師、社会化、教育改革、社会階層

到達目標	この授業の目標は、教育社会学の基礎用語やものの見方を身につけることにあります。また、授業で知った用語や見方をもとに、自身の学校経験やこれまで疑問に思ってきた事柄などについて、調べ、考え、自分の言葉で説明できるようになることも、この授業のねらいです。			
授業の概要	この授業では、みなさんがこれまで身近に経験してきた教育や学校に関わる事柄について、教育社会学の言葉や視点をもとに考えていきます。授業では、できるだけ具体的なデータや例を示し、教育や学校について様々な角度から見ていきます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ワークシート課題に取り組み、返却後、その内容を省察する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（60%）、レポート（40%）を総合的に評価する。		
フィードバック	ワークシート課題を返却し、説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	なし	978-4863590960
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『中学校学習指導要領解説　社会編』文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　公民編』文部科学省	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション：教育を社会学の視点で見ること
事前	教育と現代社会に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育と現代社会に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

2	学校と社会のつながり①：社会化と選抜・配分のはたらき
事前	社会化と選抜・配分に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	社会化と選抜・配分に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

3	学校と社会とのつながり②：近代化とメリトクラシー
事前	近代化とメリトクラシーに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	近代化とメリトクラシーに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

4	学校と社会とのつながり③：教育の格差と不平等
事前	教育の格差と不平等に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育の格差と不平等に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

5	学校という舞台装置①：学級、授業、隠れたカリキュラム
事前	「隠れたカリキュラム」に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	「隠れたカリキュラム」に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

6	学校という舞台装置②：学校行事、校則、通過儀礼
事前	学校行事、校則に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校行事、校則に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

7	生徒の世界①：生徒文化、友だち関係、メディア
事前	生徒文化に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	生徒文化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

8	生徒の世界②：いじめ、スクールカースト
事前	いじめ、スクールカーストに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	いじめ、スクールカーストに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

9	生徒の世界③：学校に行かない子ども（不登校、中退など）
事前	不登校、中退に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	不登校、中退に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

10	先生の世界①：＜教師―生徒＞関係、指導の文化
事前	教師と生徒の関係に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教師と生徒の関係に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

11	先生の世界②：教育困難、教師ストラテジー、感情労働
事前	教育困難、教師ストラテジー、感情労働に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育困難、教師ストラテジー、感情労働に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

12	先生の世界③：教師の多忙化、バーンアウト
事前	教師の多忙化、バーンアウトに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教師の多忙化、バーンアウトに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

13	教育と家族①：家族の多様化、教育する家族

事前	家族の多様化に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	家族の多様化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

14	教育と家族②:問題化される家庭教育
事前	問題化される家庭教育に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	問題化される家庭教育に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

15	教育と家族③:児童虐待、子どもの貧困
事前	児童虐待、子どもの貧困に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	児童虐待、子どもの貧困に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポートを作成する。(2時間)

2020/07/16(木)11:10

科 目 名	教職概論 [子]			授業コード	4020021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関する キーワード	教職の意義、教員の役割・職務内容、チーム学校運営
到達目標	○我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 (1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 (2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ○教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 (2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ○教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (1)幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 (2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (3)教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 ○学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 (1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
授業の概要	現代社会における教職の重要性を認識し，教職の意義，教員の役割・資質能力・職務内容について学び，進路選択の手がかりを得る。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ワークシート課題に取り組み、返却された内容を省察する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中のワークシート課題や諸活動への取り組み(70%)、レポート(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	ワークシート課題を返却し、説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				

III							
IV							
V							

テキスト1	児童育成協会監修　新・基本保育シリーズ　矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』(中央法規出版，2019年)	ISBN:978-4-8058-5787-8
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領(H29年公示)解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(H29年公示)解説』 厚生労働省『「保育所保育指針(H29年公示)解説』	
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学教職課程委員会編『田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科履修ファイル』＊大学より全員に配布 井藤元『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版，2015年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	公教育の目的
事前	公教育の目的に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	公教育の目的に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

2	日本の学校教育
事前	日本の学校教育に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	日本の学校教育に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

3	教職の社会的意義
事前	教職の社会的意義に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職の社会的意義に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

4	教職の職業的特徴
事前	教職の職業的特徴に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職の職業的特徴に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

5	教職観の変遷
事前	教職観に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職観に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

6	今日の教員に求められる役割
事前	教員に求められる役割に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員に求められる役割に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

7	教員の基礎的な資質能力
事前	教員の資質能力に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の資質能力に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

8	教員の職務内容の全体像
事前	教員の職務内容に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の職務内容に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

9	教員の多様な職務と分掌
事前	教員の職務と分掌に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の職務と分掌に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

10	教員研修の意義と位置づけ
事前	教員研修に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員研修に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

11	専門職と生涯学習化社会

事前	生涯学習化社会に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	生涯学習化社会に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

12	教員の義務
事前	教員の義務に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の義務に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

13	教員の身分保障
事前	教員の身分保障に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の身分保障に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

14	学校の担う役割の拡大・多様化
事前	学校が担う役割の拡大・多様化に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	学校が担う役割の拡大・多様化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

15	チーム学校への対応
事前	「チーム学校」に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	「チーム学校」に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポートを作成する。(2時間)

2020/07/16(木)20:51

科 目 名	教職概論 [子]			授業コード	4020031
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関する キーワード	教職の意義、教員の役割・職務内容、チーム学校運営

到達目標	○我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 (1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 (2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ○教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 (2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ○教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (1)幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 (2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (3)教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 ○学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 (1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
授業の概要	現代社会における教職の重要性を認識し，教職の意義，教員の役割・資質能力・職務内容について学び，進路選択の手がかりを得る。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ワークシート課題に取り組み、返却された内容を省察する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中のワークシート課題や諸活動への取り組み(70%)、レポート(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	ワークシート課題を返却し、説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				

III							
IV							
V							

テキスト1	児童育成協会監修　新・基本保育シリーズ　矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』(中央法規出版，2019年)	ISBN:978-4-8058-5787-8
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領(H29年公示)解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(H29年公示)解説』 厚生労働省『「保育所保育指針(H29年公示)解説』	
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学教職課程委員会編『田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科履修ファイル』＊大学より全員に配布 井藤元『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版，2015年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	公教育の目的
事前	公教育の目的に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	公教育の目的に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

2	日本の学校教育
事前	日本の学校教育に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	日本の学校教育に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

3	教職の社会的意義
事前	教職の社会的意義に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職の社会的意義に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

4	教職の職業的特徴
事前	教職の職業的特徴に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職の職業的特徴に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

5	教職観の変遷
事前	教職観に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教職観に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

6	今日の教員に求められる役割
事前	教員に求められる役割に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員に求められる役割に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

7	教員の基礎的な資質能力
事前	教員の資質能力に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の資質能力に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

8	教員の職務内容の全体像
事前	教員の職務内容に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の職務内容に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

9	教員の多様な職務と分掌
事前	教員の職務と分掌に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の職務と分掌に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

10	教員研修の意義と位置づけ
事前	教員研修に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員研修に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

11	専門職と生涯学習化社会

事前	生涯学習化社会に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	生涯学習化社会に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。(2時間)

12	教員の義務
事前	教員の義務に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の義務に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

13	教員の身分保障
事前	教員の身分保障に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	教員の身分保障に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

14	学校の担う役割の拡大・多様化
事前	学校が担う役割の拡大・多様化に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	学校が担う役割の拡大・多様化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。(2時間)

15	チーム学校への対応
事前	「チーム学校」に関する図書・新聞記事を読む。(2時間)
事後	「チーム学校」に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポートを作成する。(2時間)

2020/07/16(木)20:29

科 目 名	教育行政学 [子]			授業コード	4020042
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関するキーワード	教育制度、学校経営、学校組織、幼稚園
到達目標	○社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。(1)学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。(2)子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。(3)近年の教育政策の動向を理解している。(4)諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ○現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。(1)公教育の原理及び理念を理解している。(2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。(3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。(4)教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。 ○学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (1)公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。(2)学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。(3)学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 (4)教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。 ○学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。(2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 ○学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。(1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。(2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 【「履修ファイル」の対応項目: A-2(2)】
授業の概要	教育に関する社会的，制度的，経営的事項を理解した上で，幼稚園と地域との連携及び学校安全への対応について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ワークシート課題に取り組み、返却後、その内容を省察する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中のワークシート課題や諸活動への取り組み(70%)、レポート(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	ワークシート課題を返却し、説明を行う。			
履修に際しての注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				
III							
IV							
V							

テキスト1	谷田貝公昭・高橋弥生『幼稚園の教育経営』一藝社，2015年.	978-4863590960
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領（H29年公示）解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年公示）解説』 厚生労働省『「保育所保育指針（H29年公示）解説』	
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	公教育の原理及び理念
事前	公教育の原理及び理念に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	公教育の原理及び理念に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

2	公教育制度と関係法規
事前	公教育制度と関係法規に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	公教育制度と関係法規に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

3	教育行政の理念と仕組み
事前	教育行政の理念と仕組みに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育行政の理念と仕組みに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

4	教育制度の課題と改革
事前	教育制度の課題と改革に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育制度の課題と改革に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

5	学校を巡る近年の変化
事前	学校を巡る近年の変化に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校を巡る近年の変化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

6	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題
事前	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

7	日本・海外における教育政策の動向
事前	日本・海外における教育政策の動向に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	日本・海外における教育政策の動向に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

8	公教育の目的を実現するための学校経営
事前	学校経営に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校経営に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

9	学校経営における年間計画，学校評価の基礎理論およびPDCAサイクルについて
事前	学校経営における年間計画，学校評価に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）

事後	学校経営における年間計画，学校評価に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

10	学級経営の仕組みと効果的な運営方法
事前	学級経営の仕組みと効果的な運営方法に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学級経営の仕組みと効果的な運営方法に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

11	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方
事前	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

12	地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法
事前	地域との連携・協働による学校教育活動に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	地域との連携・協働による学校教育活動に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

13	地域との連携を基とする開かれた学校づくりの背景
事前	開かれた学校づくりに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	開かれた学校づくりに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

14	危機管理や事故対応のための学校安全の必要性
事前	学校安全に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校安全に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

15	安全管理・安全教育のための具体的な取組
事前	安全管理・安全教育に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	安全管理・安全教育に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポートを作成する。（2時間）

2020/07/16(木)22:08

科 目 名	教育行政学 [子]			授業コード	4020052
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関するキーワード	教育制度、学校経営、学校組織、幼稚園
到達目標	○社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。(1)学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。(2)子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。(3)近年の教育政策の動向を理解している。(4)諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ○現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。(1)公教育の原理及び理念を理解している。(2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。(3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。(4)教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。 ○学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (1)公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。(2)学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。(3)学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 (4)教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。 ○学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。(2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 ○学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。(1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。(2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 【「履修ファイル」の対応項目: A-2(2)】
授業の概要	教育に関する社会的，制度的，経営的事項を理解した上で，幼稚園と地域との連携及び学校安全への対応について学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	ワークシート課題に取り組み、返却後、その内容を省察する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中のワークシート課題や諸活動への取り組み(70%)、レポート(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	ワークシート課題を返却し、説明を行う。			
履修に際しての注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II			○				
III							
IV							
V							

テキスト1	谷田貝公昭・高橋弥生『幼稚園の教育経営』一藝社，2015年.	978-4863590960
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領（H29年公示）解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年公示）解説』 厚生労働省『「保育所保育指針（H29年公示）解説』	
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	公教育の原理及び理念
事前	公教育の原理及び理念に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	公教育の原理及び理念に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

2	公教育制度と関係法規
事前	公教育制度と関係法規に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	公教育制度と関係法規に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

3	教育行政の理念と仕組み
事前	教育行政の理念と仕組みに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育行政の理念と仕組みに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

4	教育制度の課題と改革
事前	教育制度の課題と改革に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教育制度の課題と改革に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

5	学校を巡る近年の変化
事前	学校を巡る近年の変化に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校を巡る近年の変化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

6	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題
事前	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

7	日本・海外における教育政策の動向
事前	日本・海外における教育政策の動向に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	日本・海外における教育政策の動向に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

8	公教育の目的を実現するための学校経営
事前	学校経営に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校経営に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

9	学校経営における年間計画，学校評価の基礎理論およびPDCAサイクルについて
事前	学校経営における年間計画，学校評価に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）

事後	学校経営における年間計画，学校評価に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

10	学級経営の仕組みと効果的な運営方法
事前	学級経営の仕組みと効果的な運営方法に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学級経営の仕組みと効果的な運営方法に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。ワークシート課題を完成させる。（2時間）

11	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方
事前	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

12	地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法
事前	地域との連携・協働による学校教育活動に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	地域との連携・協働による学校教育活動に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

13	地域との連携を基とする開かれた学校づくりの背景
事前	開かれた学校づくりに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	開かれた学校づくりに関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

14	危機管理や事故対応のための学校安全の必要性
事前	学校安全に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	学校安全に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポート作成の準備を進める。（2時間）

15	安全管理・安全教育のための具体的な取組
事前	安全管理・安全教育に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	安全管理・安全教育に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。レポートを作成する。（2時間）

2020/07/16(木)20:36

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4020060
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関する キーワード	比較文化、絵本、翻訳、教材作成

到達目標	・欧米における子どもの発達の理論，子ども観，乳幼児保育のあり方とその文化的･社会的背景について基礎的知識を習得し説明することができる。 ・関心のあるテーマについて研究計画をたてることができる。 ・計画にそって研究活動を行い，その成果を形にして発表できる。 ・研究成果に対する他者からのフィードバックに対応することができる。			
授業の概要	前期は，はじめに欧米の保育者養成テキストや食育に関する絵本に触れながら，子どもの発達，乳幼児保育について国際的な理論と動向を学ぶ。得られた知識を踏まえて，各自，幼児向けの英語の絵本を選定し翻訳活動を行う。 後期は，各自が選定した絵本を資料として，幼児向け教材，プログラムの作成を計画して研究活動を行い，ゼミ内で発表しレポートを作成する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	自ら学習・活動計画を立て、翻訳、教材作成を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題研究への取り組み(60%)と、レポート (40%)を総合的に評価する。		
フィードバック	課題研究への取り組みやその成果物について、ワークショップ活動を行い、意見交換を行う。			
履修に際しての 注意事項	欧米の絵本文化に関する展示会等への参加を予定している(そのための交通費等は自己負担)。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V	○				○		

テキスト1	授業内で各自の研究関心を検討の上，指示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	J.A. コメニウス『世界図絵』(井ノ口 淳三・翻訳）平凡社，1995年 あかぎかんこ『本の探偵事典 ごちそうの手がかり編』フェリシモ出版，2005年 その他，必要に応じて授業内で指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1. オリエンテーション 2～7 欧米の保育学テキスト（英語），食育に関する絵本を読み，子どもの発達，乳幼児保育について国際的な理論と動向を学ぶ。 8～14 英語の絵本を各自選び，翻訳活動を行う。 15 前期のまとめ 16～26 海外と日本の児童文化や社会背景を考察しながら，幼児向け教材，プログラムの作成を計画して研究活動を行う。 27～30 レポートの作成とフィードバック，まとめ
事前	海外の絵本などを活用し、翻訳や教材作成の活動計画を立てて、自ら実行していく。（0.5時間）
事後	自らの学習計画や活動について、ゼミでの意見交換を踏まえて省察し、改善策を考え、教材作成に取り組む（0.5時間）

2020/07/16(木)22:15

科 目 名	子育て支援論 [子]			授業コード	4020082
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	犬塚 典子				

科目に関するキーワード	家族、社会化、地域、結婚、出産
到達目標	1. 子どもの育ちや子育て家庭およびそれらを取り巻く環境など、現代日本の子育ち・子育ての課題について深い関心を持ち、それらの課題に対して主体的に考え、意見を持つことができる。 2. 個々の子どもや家族の育ちに求められる適切な支援のあり方について考えることができる。 3. 子育て支援施策ならびに多様な子育て支援の取り組みについて知り、地域資源や専門機関と連携・協力している具体的方法について考えることができる。 4. 保育者に求められる子育て支援者としての姿勢や役割について自分なりの意見をもつことができる。 【「履修ファイル」の対応項目:A-2(4)】
授業の概要	現代の家族を取り巻く社会状況と子育ての現状から、子育て支援の必要性について考える。また、少子化対策の流れのなかで、さまざまな展開を遂げてきた子育て支援施策の現状と課題について理解するとともに、保育所・幼稚園・認定こども園・地域の子育て支援施設における具体的な取り組みについて学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	フィールド調査、プレゼンテーションを行う
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み(60%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。		
フィードバック	フィールド調査報告、プレゼンテーションに対する応答を行う。			
履修に際しての注意事項	・授業後は、配付資料の整理・確認を行うこと。 ・欠席授業分の資料が欲しい場合は、各自の責任において対応すること。 ・日頃から保育・教育に関する社会の出来事や情報に積極的な関心をもって生活し、自分なりの意見をもつことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V	○						

テキスト1	自治体資料・データ，新聞・雑誌記事などを適宜，配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	内閣府『少子化社会対策白書』令和元年版（2019年発行）日経印刷	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション（子育て支援とは）
事前	子育て支援に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	子育て支援に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

2	日本における子育ち・子育てをめぐる現状①（少子化をめぐる現状）
事前	少子化に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	少子化に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

3	日本における子育ち・子育てをめぐる現状②（結婚，出産，子育てをめぐる意識）
事前	結婚、出産に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	結婚、出産に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

4	日本における子育て支援施策の変遷および現状
事前	日本における子育て支援施策に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	日本における子育て支援施策に関する概念や説明などを整理し振り返りを行う。（2時間）

5	保育の場の子育て支援（保育所・幼稚園・認定こども園における保護者支援・保育相談支援・子育て支援）
事前	保育の場における子育て支援に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	保育の場における子育て支援に関する概念や説明などを整理し、振り返りを行う。（2時間）

6	結婚，妊娠，子ども，子育てに暖かい社会づくり
事前	結婚，妊娠，子ども，子育てに暖かい社会づくりに関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	結婚，妊娠，子ども，子育てに暖かい社会づくりについて学習を深め、フィールド調査の準備をする。（2時間）

7	ワーク･ライフ･バランス、女性の活躍
事前	ワーク･ライフ･バランス、女性の活躍に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	ワーク･ライフ･バランス、女性の活躍について学習を深め、フィールド調査の準備をする。（2時間）

8	男性の意識･行動改革
事前	男性の意識･行動改革に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	男性の意識･行動改革について学習を深め、フィールド調査の準備をする。（2時間）

9	企業･事業所の取組
事前	企業･事業所の子育て支援に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	企業･事業所の子育て支援について学習を深め、フィールド調査の準備をする。（2時間）

10	学校教育との連携
事前	子育て支援における学校教育との連携に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	子育て支援における学校教育との連携について学習を深め、フィールド調査の準備をする。（2時間）

11	子どもの貧困対策，食育活動
事前	子どもの貧困対策，食育活動に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	子どもの貧困対策，食育活動について学習を深め、プレゼンテーションの準備をする。（2時間）

12	海外における子育て支援①全日制幼稚園
事前	海外における子育て支援（幼稚園）に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	海外における子育て支援（幼稚園）について学習を深め、プレゼンテーションの準備を行う。（2時間）

13	海外における子育て支援②学童保育
事前	海外における子育て支援（学童保育）に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）

事後	海外における子育て支援（学童保育）について学習を深め、プレゼンテーションの準備を行う。（2時間）

14	海外における子育て支援③父親休業
事前	海外における子育て支援（父親休業）に関する図書・新聞記事を読む。（2時間）
事後	海外における子育て支援（父親休業）について学習を深め、プレゼンテーションの準備を行う。（2時間）

15	まとめ
事前	授業全体の振り返りを行い、発表の準備をする。（2時間）
事後	授業内で扱った概念や説明などを整理し、振り返りを行い、レポートを作成する。（2時間）

2020/07/16(木)10:46

科 目 名	子どもの保健 [子]			授業コード	4030011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	健康増進、疾病予防、発育・発達評価、感染症、保健活動

到達目標	①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義ならびに身体的な発育・発達と保健について理解できる。 ②子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③子どもの疾病とその予防法及び他職種間との連携・協働の下での適切な対応について理解できる。			
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義ならびに身体的な発育・発達についての知識を習得する。また子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法、他職種間との連携・協働の下での適切な対応について、理解を深める。 受講者を「将来の保育者」と位置づけ、授業を展開する。テキストのポイントを板書するほか、プロジェクターを活用したり必要に応じてプリントを配布しながら授業を進めるので、全体の流れがわかるようなノート作りをすすめる。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（90%）、授業への参加態度やリアクションペーパー（10%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。 予習・復習にしっかり取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	小林美由紀編著『子どもの保健テキスト』診断と治療社	4787823302
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
事前	テキストの第1章①を精読する。(90分)
事後	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

2	健康の概念と健康指標
事前	テキストの第1章②を精読する。(90分)
事後	健康の概念と健康指標ついて、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
事前	テキストの第1章③を精読する。(90分)
事後	現代社会のおける子どもの健康に関する現状と課題について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

4	身体発育とその評価
事前	テキストの第2章①1～5を精読する。(90分)
事後	身体発育とその評価について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

5	運動機能の発達と保健
事前	テキストの第2章①6を精読する。(90分)
事後	運動機能の発達と保健について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

6	生理機能の発達と保健
事前	テキストの第2章②を精読する。(90分)
事後	生理機能の発達と保健について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

7	子どもの健康状態の観察と把握
事前	テキストの第4章1を精読する。(90分)
事後	子どもの健康状態の観察と把握について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

8	心身の不調等の早期発見とその対応
事前	テキストの第4章2を精読する。(90分)
事後	心身の不調等の早期発見とその対応について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

9	心身の健康状態についての保護者との情報共有
事前	テキストの第6章を精読する。(90分)
事後	保護者との健康情報の共有について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

10	子どもの免疫の発達と感染症の特徴 1. 感染症とは、2. 感染症の主な症状
事前	テキストの第5章①1～3を精読する。(90分)
事後	感染症とは何か、また感染症の主な症状について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

11	子どもの免疫の発達と感染症の特徴 3. 主なウイルス感染症、4. 細菌性感染症、5. その他の感染症
事前	テキストの第5章①4～6を精読する。(90分)
事後	様々な感染症について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

12	感染症の予防および適切な対応
事前	テキストの第5章②③を精読する。(90分)
事後	感染症とは何か、また感染症の主な症状について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

13	アレルギー疾患・慢性疾患の特徴と適切な対応
事前	テキストの第5章②③を精読する。(90分)
事後	アレルギー疾患・慢性疾患の特徴と適切な対応について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

14	地域保健活動、子ども虐待防止
事前	テキストの第3章、第7章を精読する。(90分)
事後	地域保健活動・子ども虐待防止について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(90分)
事後	授業全体全体の理解を深める。(150分)

2020/07/16(木)21:52

科 目 名	子どもの保健 [子]			授業コード	4030021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	健康増進、疾病予防、発育・発達評価、感染症、保健活動
到達目標	①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義ならびに身体的な発育・発達と保健について理解できる。 ②子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③子どもの疾病とその予防法及び他職種間との連携・協働の下での適切な対応について理解できる。
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義ならびに身体的な発育・発達についての知識を習得する。また子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法、他職種間との連携・協働の下での適切な対応について、理解を深める。 受講者を「将来の保育者」と位置づけ、授業を展開する。テキストのポイントを板書するほか、プロジェクターを活用したり必要に応じてプリントを配布しながら授業を進めるので、全体の流れがわかるようなノート作りをすすめる。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（90%）、授業への参加態度やリアクションペーパー（10%）より、総合的に評価します。	
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。		
履修に際しての 注意事項	授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。 予習・復習にしっかり取り組むこと。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	小林美由紀編著『子どもの保健テキスト』診断と治療社	4787823302
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
事前	テキストの第1章①を精読する。(90分)
事後	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

2	健康の概念と健康指標
事前	テキストの第1章②を精読する。(90分)
事後	健康の概念と健康指標ついて、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
事前	テキストの第1章③を精読する。(90分)
事後	現代社会のおける子どもの健康に関する現状と課題について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

4	身体発育とその評価
事前	テキストの第2章①1～5を精読する。(90分)
事後	身体発育とその評価について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

5	運動機能の発達と保健
事前	テキストの第2章①6を精読する。(90分)
事後	運動機能の発達と保健について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

6	生理機能の発達と保健
事前	テキストの第2章②を精読する。(90分)
事後	生理機能の発達と保健について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

7	子どもの健康状態の観察と把握
事前	テキストの第4章1を精読する。(90分)
事後	子どもの健康状態の観察と把握について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

8	心身の不調等の早期発見とその対応
事前	テキストの第4章2を精読する。(90分)
事後	心身の不調等の早期発見とその対応について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

9	心身の健康状態についての保護者との情報共有
事前	テキストの第6章を精読する。(90分)
事後	保護者との健康情報の共有について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

10	子どもの免疫の発達と感染症の特徴 1. 感染症とは、2. 感染症の主な症状
事前	テキストの第5章①1～3を精読する。(90分)
事後	感染症とは何か、また感染症の主な症状について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

11	子どもの免疫の発達と感染症の特徴 3. 主なウイルス感染症、4. 細菌性感染症、5. その他の感染症
事前	テキストの第5章①4～6を精読する。(90分)
事後	様々な感染症について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

12	感染症の予防および適切な対応
事前	テキストの第5章②③を精読する。(90分)
事後	感染症とは何か、また感染症の主な症状について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

13	アレルギー疾患・慢性疾患の特徴と適切な対応
事前	テキストの第5章②③を精読する。(90分)
事後	アレルギー疾患・慢性疾患の特徴と適切な対応について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

14	地域保健活動、子ども虐待防止
事前	テキストの第3章、第7章を精読する。(90分)
事後	地域保健活動・子ども虐待防止について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(90分)
事後	授業全体全体の理解を深める。(150分)

2020/07/16(木)21:53

科 目 名	子どもの保健I(後期) [子]再履修講座			授業コード	4030032
副 題					
開講期	後期	配当年次		単 位 数	4
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	精神保健、衛生管理、事故防止、安全対策、保健活動
到達目標	①子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と健康について知識を得ることができる。 ②保育における衛生管理と安全対策および子どもの精神保健とその課題等について理解できる。 ③施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解できる。
授業の概要	保育者として子どもの健康を守るために必要な知識を身につけることをねらいとし、子どもの発育・発達、子どもの精神保健、環境及び衛生管理並びに安全管理、健康及び安全の実施体制について理解を深める。 受講者を「将来の保育者」と位置づけ、授業を展開する。テキストのポイントを板書するほか、必要に応じてプリントを配布しながら授業を進めるので、全体の流れがわかるようなノート作りをすすめる。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（90%）、授業への参加態度やリアクションペーパー（10%）より、総合的に評価します。
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。
履修に際しての 注意事項	授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。 予習・復習にしっかり取り組むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	加藤忠明・岩田力 編著『図表で学ぶ 子どもの保健Ⅰ』健帛社	9784767932712
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの発育・発達と保健 ①生物としてのヒトの成り立ち
事前	テキストのpp.24-29を精読する。(90分)
事後	生物としてのヒトの成り立ちについて、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

2	子どもの発育・発達と保健 ②精神機能の発達と保健
事前	テキストのpp.48-56を精読する。(90分)
事後	精神機能の発達と保健について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

3	先天異常 ①先天異常を学ぶ重要性、先天異常の原因
事前	テキストのpp.66-68を精読する。(90分)
事後	先天異常を学ぶ重要性、先天異常の原因について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

4	先天異常 ②遺伝と環境、染色体異常
事前	テキストのpp.68-76を精読する。(90分)
事後	先天異常を学ぶ重要性、先天異常の原因について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

5	子どもの生活環境と精神保健―子どもの心身症を中心に―
事前	テキストのpp.179-189を精読する。(90分)
事後	子どもの心身症について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

6	子どもの心の健康とその課題－発達障害を中心に－
事前	テキストのpp.190-199を精読する。(90分)
事後	子どもの発達障害について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

7	保育環境整備と衛生管理
事前	テキストのpp.200-203を精読する。(90分)
事後	保育環境整備と衛生管理について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

8	保育現場における事故防止
事前	テキストのpp.204-208を精読する。(90分)
事後	保育現場における事故防止について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

9	保育現場における安全対策と危機管理
事前	テキストのpp.208-217を精読する。(90分)
事後	保育現場における安全対策と危機管理について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

10	保育現場における災害対策
事前	事前に指示した箇所を精読する。(90分)
事後	保育現場における災害対策について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

11	児童福祉施設の保健活動
事前	テキストのpp.232-233を精読する。(90分)
事後	児童福祉施設の保健活動について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

12	母子保健対策と保育
事前	テキストのpp.228-231を精読する。(90分)
事後	母子保健対策について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

13	職員間の連携と組織的取組
事前	テキストのpp.226-227を精読する。(90分)

事後	職員間の連携と組織的取り組みについて、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

14	家庭・専門機関・地域との連携
事前	テキストのpp.235-237を精読する。(90分)
事後	家庭・専門機関・地域との連携について、授業内容を整理し理解を深める。(150分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(90分)
事後	授業全体全体の理解を深める。(150分)

2020/07/16(木)11:23

科 目 名	子どもの保健II/子どもの健康と安全 [子]			授業コード	4030042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	安全対策、事故防止、感染症対策、応急処置、衛生管理

到達目標	①衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について、知識・技能を身につけることができる。 ②個別的配慮が必要な子への対応について、基本的な援助技術を習得することができる。 ③体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。			
授業の概要	関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策、応急処置、心肺蘇生法、個別的配慮が必要な子への対応、発達や状況等に即した対応、保健的観点による保育環境づくり、体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、実践的な演習を通して学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（60%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（40%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							

V			○	○			

テキスト1	小林美由紀編著『授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社	4787824066
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 保育的観点を踏まえた保育環境とその援助
事前	テキストの第1章を精読する。(30分)
事後	保育環境とその援助について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	衛生管理
事前	テキストの第2章①衛生管理を精読する。(30分)
事後	衛生管理について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	事故防止、安全対策
事前	テキストの第2章②事故防止および安全対策を精読する。(30分)
事後	事故防止・安全対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	災害対策
事前	テキストの第2章③危機管理と災害への備えを精読する。(30分)
事後	災害対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	傷害や体調不良等に対する対応と応急処置
事前	テキストの第3章①体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置を精読する。(30分)
事後	傷害や体調不良等の対応や応急処置について理解を深め、試してみること。(30分)

6	救急処置と心肺蘇生法
事前	テキストの第3章②救急処置および心肺蘇生法を精読する。(30分)
事後	救急処置と心肺蘇生法について理解を深め、何度も練習すること。(30分)

7	保育における感染症予防
事前	テキストの第4章①感染症の集団発生の予防を精読する。(30分)
事後	保育における感染症予防の授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	感染症発症時と罹患後の対応
事前	テキストの第4章②感染症発生時と罹患後の対応を精読する。(30分)
事後	感染症発症時と罹患後の対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	保育における保健的対応の基本的な考え方
事前	テキストの第5章①保育における保健的対応の基本的な考え方を精読する。(30分)
事後	保育における保健的対応の基本的な考え方について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	3歳未満児への保健的対応
事前	テキストの第5章②3歳未満児への対応を精読する。(30分)
事後	3歳未満児への保健的対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	個別的な配慮を要する子どもへの対応
事前	テキストの第5章③個別的な配慮を要する子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解を深める。またエピペンの使い方等について練習すること。(30分)

12	障害をもつ子どもへの対応
事前	テキストの第5章④障害をもつ子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	障害のある子どもへの対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	保健活動の計画及び評価

事前	テキストの第6章①保育における保健活動の計画および評価を精読する。(30分)
事後	保健活動の計画及び評価について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携
事前	テキストの第6章②保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携を精読する。(30分)
事後	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)20:29

科 目 名	子どもの保健II/子どもの健康と安全 [子]			授業コード	4030052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	安全対策、事故防止、感染症対策、応急処置、衛生管理

到達目標	①衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について、知識・技能を身につけることができる。 ②個別的配慮が必要な子への対応について、基本的な援助技術を習得することができる。 ③体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。			
授業の概要	関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策、応急処置、心肺蘇生法、個別的配慮が必要な子への対応、発達や状況等に即した対応、保健的観点による保育環境づくり、体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、実践的な演習を通して学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（60%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（40%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							

V			○	○			

テキスト1	小林美由紀編著『授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社	4787824066
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 保育的観点を踏まえた保育環境とその援助
事前	テキストの第1章を精読する。(30分)
事後	保育環境とその援助について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	衛生管理
事前	テキストの第2章①衛生管理を精読する。(30分)
事後	衛生管理について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	事故防止、安全対策
事前	テキストの第2章②事故防止および安全対策を精読する。(30分)
事後	事故防止・安全対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	災害対策
事前	テキストの第2章③危機管理と災害への備えを精読する。(30分)
事後	災害対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	傷害や体調不良等に対する対応と応急処置
事前	テキストの第3章①体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置を精読する。(30分)
事後	傷害や体調不良等の対応や応急処置について理解を深め、試してみること。(30分)

6	救急処置と心肺蘇生法
事前	テキストの第3章②救急処置および心肺蘇生法を精読する。(30分)
事後	救急処置と心肺蘇生法について理解を深め、何度も練習すること。(30分)

7	保育における感染症予防
事前	テキストの第4章①感染症の集団発生の予防を精読する。(30分)
事後	保育における感染症予防の授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	感染症発症時と罹患後の対応
事前	テキストの第4章②感染症発生時と罹患後の対応を精読する。(30分)
事後	感染症発症時と罹患後の対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	保育における保健的対応の基本的な考え方
事前	テキストの第5章①保育における保健的対応の基本的な考え方を精読する。(30分)
事後	保育における保健的対応の基本的な考え方について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	3歳未満児への保健的対応
事前	テキストの第5章②3歳未満児への対応を精読する。(30分)
事後	3歳未満児への保健的対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	個別的な配慮を要する子どもへの対応
事前	テキストの第5章③個別的な配慮を要する子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解を深める。またエピペンの使い方等について練習すること。(30分)

12	障害をもつ子どもへの対応
事前	テキストの第5章④障害をもつ子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	障害のある子どもへの対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	保健活動の計画及び評価

事前	テキストの第6章①保育における保健活動の計画および評価を精読する。(30分)
事後	保健活動の計画及び評価について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携
事前	テキストの第6章②保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携を精読する。(30分)
事後	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)21:34

科 目 名	子どもの保健II/子どもの健康と安全 [子]			授業コード	4030062
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	安全対策、事故防止、感染症対策、応急処置、衛生管理

到達目標	①衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について、知識・技能を身につけることができる。 ②個別的配慮が必要な子への対応について、基本的な援助技術を習得することができる。 ③体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。			
授業の概要	関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策、応急処置、心肺蘇生法、個別的配慮が必要な子への対応、発達や状況等に即した対応、保健的観点による保育環境づくり、体調不良等に対する適切な対応、組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、実践的な演習を通して学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（60%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（40%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							

V			○	○			

テキスト1	小林美由紀編著『授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社	4787824066
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 保育的観点を踏まえた保育環境とその援助
事前	テキストの第1章を精読する。(30分)
事後	保育環境とその援助について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	衛生管理
事前	テキストの第2章①衛生管理を精読する。(30分)
事後	衛生管理について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	事故防止、安全対策
事前	テキストの第2章②事故防止および安全対策を精読する。(30分)
事後	事故防止・安全対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	災害対策
事前	テキストの第2章③危機管理と災害への備えを精読する。(30分)
事後	災害対策について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	傷害や体調不良等に対する対応と応急処置
事前	テキストの第3章①体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置を精読する。(30分)
事後	傷害や体調不良等の対応や応急処置について理解を深め、試してみること。(30分)

6	救急処置と心肺蘇生法
事前	テキストの第3章②救急処置および心肺蘇生法を精読する。(30分)
事後	救急処置と心肺蘇生法について理解を深め、何度も練習すること。(30分)

7	保育における感染症予防
事前	テキストの第4章①感染症の集団発生の予防を精読する。(30分)
事後	保育における感染症予防の授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	感染症発症時と罹患後の対応
事前	テキストの第4章②感染症発生時と罹患後の対応を精読する。(30分)
事後	感染症発症時と罹患後の対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	保育における保健的対応の基本的な考え方
事前	テキストの第5章①保育における保健的対応の基本的な考え方を精読する。(30分)
事後	保育における保健的対応の基本的な考え方について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	3歳未満児への保健的対応
事前	テキストの第5章②3歳未満児への対応を精読する。(30分)
事後	3歳未満児への保健的対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	個別的な配慮を要する子どもへの対応
事前	テキストの第5章③個別的な配慮を要する子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解を深める。またエピペンの使い方等について練習すること。(30分)

12	障害をもつ子どもへの対応
事前	テキストの第5章④障害をもつ子どもへの対応を精読する。(30分)
事後	障害のある子どもへの対応について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	保健活動の計画及び評価

事前	テキストの第6章①保育における保健活動の計画および評価を精読する。(30分)
事後	保健活動の計画及び評価について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携
事前	テキストの第6章②保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携を精読する。(30分)
事後	職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭と関係機関等との連携について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)10:38

科 目 名	乳児保育I [子]			授業コード	4030071
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、保育、3歳未満児、遊び、生活

到達目標	①乳児保育の意義・目的、歴史的変遷、職員間の連携・協働、地域の関係機関との連携について理解できる。 ②3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容・運営体制について理解できる。 ③保育所、乳児院等の多様な保育の場における現状と課題について理解できる。			
授業の概要	3歳未満児の子どもの姿を理解し、個々の発育・発達を促す生活と遊びについて知識を習得する。また3歳未満児が過ごす多様な保育の場における現状と課題について、具体的な事例を取り上げながら理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（90%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（10%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III			○				
IV							

V			○				

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
事前	テキストのpp.5-8を精読する。(90分)
事後	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

2	乳児保育の役割と機能
事前	テキストのpp.13-17を精読する。(90分)
事後	乳児保育の役割と機能について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

3	乳児保育における養護及び教育
事前	テキストのpp.19-26を精読する。(90分)
事後	乳児保育での養護及び教育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

4	保育所における乳児保育
事前	テキストのpp.8-9を精読する。(90分)
事後	保育所における乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

5	児童福祉施設(保育所を除く)における乳児保育
事前	事前に配付した資料を精読する。(90分)
事後	児童福祉施設での乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

6	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
事前	テキストのpp.9-12を精読する。(90分)
事後	乳児保育の社会的状況とその支援について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

7	3歳未満児の生活と環境
事前	テキストのpp.102-122を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の遊びと環境について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

8	3歳未満児の遊びと環境
事前	テキストのpp.123-138を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の遊びと環境について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと保育における配慮
事前	テキストのpp.129-138を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと保育における配慮について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

10	計画・記録・評価とその意義
事前	テキストのpp.15-17を精読する。(90分)
事後	計画・記録・評価とその意義について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育
事前	テキストのpp.27-31を精読する。(90分)
事後	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

12	職員間の連携・協働
事前	テキストのp.15、p.153を精読する。(90分)

事後	職員間の連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

13	保護者との連携・協働
事前	テキストのp.15、pp.149-152を精読する。（90分）
事後	保護者との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

14	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
事前	テキストのpp.17-18を精読する。（90分）
事後	自治体や地域の関係機関等との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

15	まとめ
事前	第1回～第14回の整理した内容を確認する。（90分）
事後	授業内容全体について理解を深める。（150分）

2020/07/16(木)11:16

科 目 名	乳児保育I [子]			授業コード	4030081
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、保育、3歳未満児、遊び、生活

到達目標	①乳児保育の意義・目的、歴史的変遷、職員間の連携・協働、地域の関係機関との連携について理解できる。 ②3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容・運営体制について理解できる。 ③保育所、乳児院等の多様な保育の場における現状と課題について理解できる。			
授業の概要	3歳未満児の子どもの姿を理解し、個々の発育・発達を促す生活と遊びについて知識を習得する。また3歳未満児が過ごす多様な保育の場における現状と課題について、具体的な事例を取り上げながら理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（90%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（10%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III			○				
IV							

V			○				

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
事前	テキストのpp.5-8を精読する。(90分)
事後	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

2	乳児保育の役割と機能
事前	テキストのpp.13-17を精読する。(90分)
事後	乳児保育の役割と機能について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

3	乳児保育における養護及び教育
事前	テキストのpp.19-26を精読する。(90分)
事後	乳児保育での養護及び教育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

4	保育所における乳児保育
事前	テキストのpp.8-9を精読する。(90分)
事後	保育所における乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

5	児童福祉施設(保育所を除く)における乳児保育
事前	事前に配付した資料を精読する。(90分)
事後	児童福祉施設での乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

6	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
事前	テキストのpp.9-12を精読する。(90分)
事後	乳児保育の社会的状況とその支援について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

7	3歳未満児の生活と環境
事前	テキストのpp.102-122を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の遊びと環境について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

8	3歳未満児の遊びと環境
事前	テキストのpp.123-138を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の遊びと環境について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと保育における配慮
事前	テキストのpp.129-138を精読する。(90分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと保育における配慮について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

10	計画・記録・評価とその意義
事前	テキストのpp.15-17を精読する。(90分)
事後	計画・記録・評価とその意義について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育
事前	テキストのpp.27-31を精読する。(90分)
事後	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について授業内容を整理し、理解を深める(150分)

12	職員間の連携・協働
事前	テキストのp.15、p.153を精読する。(90分)

事後	職員間の連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

13	保護者との連携・協働
事前	テキストのp.15、pp.149-152を精読する。（90分）
事後	保護者との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

14	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
事前	テキストのpp.17-18を精読する。（90分）
事後	自治体や地域の関係機関等との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める（150分）

15	まとめ
事前	第1回～第14回の整理した内容を確認する。（90分）
事後	授業内容全体について理解を深める。（150分）

2020/07/16(木)10:47

科 目 名	乳児保育II [子]			授業コード	4030092
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、3歳未満児、指導計画、援助、配慮

到達目標	①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を身につけることができる。 ②乳児保育における配慮の実際と養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境ついて、知識・技能を身につけることができる。 ③乳児保育の指導計画を、具体的に立てることができる。			
授業の概要	乳児保育の実践という視点で、保育現場の実際を統合的に理解していく。3歳未満児の発達を踏まえた援助や関わりについて、実践的に学ぶことを主眼とする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（70%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（30%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 子どもと保育士等との関係の重要性
事前	テキストのp.41を精読する。(30分)
事後	子どもと保育士等との関係について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
事前	テキストのp.28、p.41を精読する。(30分)
事後	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
事前	テキストのpp.90-95を精読する。(30分)
事後	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	子どもの体験と学びの芽生え
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.136を精読する。(30分)
事後	子どもの体験と学びの芽生えについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	子どもの1日の生活の流れと保育環境
事前	テキストのpp.159-161を精読する。(30分)
事後	子どもの1日の生活の流れと保育環境について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成
事前	テキストのpp.179-180、pp.191-192を精読する。(30分)
事後	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
事前	テキストのp.105、p.109、p.113、p.117、p.121、p.125、.p.129、.p.137を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.138を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	子ども同士の関わりとその援助の実際
事前	テキストのpp.147-148を精読する。(30分)
事後	子ども同士の関わりとその援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
事前	テキストのpp.155-158を精読する。(30分)
事後	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	集団での生活における配慮
事前	テキストのpp.149-150p.154を精読する。(30分)
事後	集団での生活における配慮についての授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

12	環境の変化や移行に対する配慮
事前	テキストのpp.27-31を精読する。(30分)
事後	環境の変化や移行に対する配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	長期的な指導計画と短期的な指導計画

事前	テキストのpp.32-pp.35を精読する。(30分)
事後	長期的な指導計画と短期的な指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	個別的な指導計画と集団の指導計画
事前	テキストのpp.38-pp.39を精読する。(30分)
事後	個別的な指導計画と集団の指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)10:57

科 目 名	乳児保育II [子]			授業コード	4030102
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、3歳未満児、指導計画、援助、配慮

到達目標	①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を身につけることができる。 ②乳児保育における配慮の実際と養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境ついて、知識・技能を身につけることができる。 ③乳児保育の指導計画を、具体的に立てることができる。			
授業の概要	乳児保育の実践という視点で、保育現場の実際を統合的に理解していく。3歳未満児の発達を踏まえた援助や関わりについて、実践的に学ぶことを主眼とする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（70%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（30%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 子どもと保育士等との関係の重要性
事前	テキストのp.41を精読する。(30分)
事後	子どもと保育士等との関係について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
事前	テキストのp.28、p.41を精読する。(30分)
事後	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
事前	テキストのpp.90-95を精読する。(30分)
事後	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	子どもの体験と学びの芽生え
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.136を精読する。(30分)
事後	子どもの体験と学びの芽生えについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	子どもの1日の生活の流れと保育環境
事前	テキストのpp.159-161を精読する。(30分)
事後	子どもの1日の生活の流れと保育環境について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成
事前	テキストのpp.179-180、pp.191-192を精読する。(30分)
事後	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
事前	テキストのp.105、p.109、p.113、p.117、p.121、p.125、.p.129、.p.137を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.138を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	子ども同士の関わりとその援助の実際
事前	テキストのpp.147-148を精読する。(30分)
事後	子ども同士の関わりとその援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
事前	テキストのpp.155-158を精読する。(30分)
事後	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	集団での生活における配慮
事前	テキストのpp.149-150p.154を精読する。(30分)
事後	集団での生活における配慮についての授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

12	環境の変化や移行に対する配慮
事前	テキストのpp.27-31を精読する。(30分)
事後	環境の変化や移行に対する配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	長期的な指導計画と短期的な指導計画

事前	テキストのpp.32-pp.35を精読する。(30分)
事後	長期的な指導計画と短期的な指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	個別的な指導計画と集団の指導計画
事前	テキストのpp.38-pp.39を精読する。(30分)
事後	個別的な指導計画と集団の指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)21:58

科 目 名	乳児保育II [子]			授業コード	4030112
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、3歳未満児、指導計画、援助、配慮

到達目標	①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を身につけることができる。 ②乳児保育における配慮の実際と養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境ついて、知識・技能を身につけることができる。 ③乳児保育の指導計画を、具体的に立てることができる。			
授業の概要	乳児保育の実践という視点で、保育現場の実際を統合的に理解していく。3歳未満児の発達を踏まえた援助や関わりについて、実践的に学ぶことを主眼とする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（70%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（30%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーについて、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 子どもと保育士等との関係の重要性
事前	テキストのp.41を精読する。(30分)
事後	子どもと保育士等との関係について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
事前	テキストのp.28、p.41を精読する。(30分)
事後	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
事前	テキストのpp.90-95を精読する。(30分)
事後	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

4	子どもの体験と学びの芽生え
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.136を精読する。(30分)
事後	子どもの体験と学びの芽生えについて授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

5	子どもの1日の生活の流れと保育環境
事前	テキストのpp.159-161を精読する。(30分)
事後	子どもの1日の生活の流れと保育環境について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成
事前	テキストのpp.179-180、pp.191-192を精読する。(30分)
事後	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
事前	テキストのp.105、p.109、p.113、p.117、p.121、p.125、.p.129、.p.137を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
事前	テキストのp.104、p.108、p.112、p.116、p.120、p.124、p.128、p.132、p.138を精読する。(30分)
事後	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

9	子ども同士の関わりとその援助の実際
事前	テキストのpp.147-148を精読する。(30分)
事後	子ども同士の関わりとその援助の実際について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
事前	テキストのpp.155-158を精読する。(30分)
事後	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

11	集団での生活における配慮
事前	テキストのpp.149-150p.154を精読する。(30分)
事後	集団での生活における配慮についての授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

12	環境の変化や移行に対する配慮
事前	テキストのpp.27-31を精読する。(30分)
事後	環境の変化や移行に対する配慮について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

13	長期的な指導計画と短期的な指導計画

事前	テキストのpp.32-pp.35を精読する。(30分)
事後	長期的な指導計画と短期的な指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

14	個別的な指導計画と集団の指導計画
事前	テキストのpp.38-pp.39を精読する。(30分)
事後	個別的な指導計画と集団の指導計画について授業内容を整理し、理解を深める。(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回で整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体の理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)21:58

科 目 名	乳児保育(前期) [子]再履修講座			授業コード	4030121
副 題					
開講期	前期	配当年次		単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	乳児、保育、3歳未満児、遊び、生活

到達目標	①乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について、また保護者や関係機関との連携について理解できる。 ②3歳未満児の発育・発達から、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解できる。			
授業の概要	3歳未満児の子どもの姿を理解し、個々の発達を促す生活と遊びについて学ぶとともに、多様な保育の場における現状と課題について理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施し、その後、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	筆記試験（70%）、授業での取り組みやリアクションペーパー（30%）より、総合的に評価します。		
フィードバック	リアクションペーパーを使用し、授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	予習・復習にしっかり取り組むこと。 授業参加時間が60分未満は欠席扱いとする。 電車等の遅延証明書は1回まで考慮する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III			○				
IV							

V							

テキスト1	社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 編『見る・考える・創りだす　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌林書林	4893473212
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
事前	テキストのpp.5を精読する。(30分)
事後	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

2	乳児保育の役割と機能
事前	テキストのpp.6-8を精読する。(30分)
事後	乳児保育の役割と機能について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

3	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
事前	テキストのpp.9-12を精読する。(30分)
事後	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

4	保育所における乳児保育
事前	テキストのpp.8-9を精読する。(30分)
事後	保育所における乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

5	児童福祉施設(保育所を除く)における乳児保育
事前	事前に配付した資料を精読する。(30分)
事後	児童福祉施設での乳児保育について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

6	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
事前	テキストのpp.6-7を精読する。(30分)
事後	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について、授業内容を整理し理解を深める(30分)

7	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり
事前	テキストのpp.141-192を精読する。(30分)
事後	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わりについて授業内容を整理し、理解を深める(30分)

8	乳児の発達と保育内容　1)6カ月未満児
事前	テキストのpp.103-110を精読する。(30分)
事後	6カ月未満児の保育内容について整理し、理解を深める(30分)

9	乳児の発達と保育内容　2)6カ月～1歳3カ月未満児
事前	テキストのpp.111-122を精読する。(30分)
事後	6カ月～1歳3カ月未満児の保育内容について、理解を深める(30分)

10	乳児の発達と保育内容　3)1歳3カ月児～2歳未満児
事前	テキストのpp.123-130を精読する。(30分)
事後	1歳3カ月児～2歳未満児の保育内容について、理解を深める(30分)

11	乳児の発達と保育内容　4)2歳児と保育内容
事前	テキストのpp.131-138を精読する。(30分)
事後	2歳児の保育内容について、理解を深める(30分)

12	保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録
事前	テキストのpp.15-17、pp.32-35を精読する。(30分)
事後	保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

13	職員間・保護者との連携・協働

事前	テキストのp.15を精読する。(30分)
事後	職員間・保護者との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

14	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
事前	テキストのpp.17-18を精読する。(30分)
事後	自治体や地域の関係機関等との連携・協働について授業内容を整理し、理解を深める(30分)

15	まとめ
事前	第1回～第14回の整理した内容を確認する。(30分)
事後	授業内容全体について理解を深める。(30分)

2020/07/16(木)20:37

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4030130
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	岩本 圭子				

科目に関する キーワード	健康増進、事故防止、安全管理、疾病予防、アレルギー

到達目標	子どもの成長・発達や事故・病気についての知識を深め、保育・看護の実践に繋げる方法を学ぶことができる。 多様化する保育や子育て支援の現状等を学んでいく中で、子どもの健康増進のためにどう向き合い何ができるのかを考察しながら、保育者としての役割を考え、理解を深めることができる。			
授業の概要	子どもの健康にまつわる諸問題を各論的に掘り下げていく。幼稚園、保育所、認定こども園等における日常的な子どもの保健・看護・養護に関する知識を深めながら、子育て支援の一環として社会的に関心の高いトピックを取り上げる中で、保育者として子どもの健康にどう関わって行くのかを考える。特に広い視点でヘルスプロモーションのあり方を評価・考察することで、子どもの健康増進に寄与し得る専門性を高めていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	課題発表を通して、ディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（60%）、授業での取り組み（40%）より、総合的に評価する。		
フィードバック	発表した課題にはコメントを入れて返却する。			
履修に際しての 注意事項	求められた課題には、自主的、主体的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○		○		
II							
III							
IV							

V	○						

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. オリエンテーション 2～14 . 事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策、衛生管理の対応について、関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、実際の事例や取り組みを通して考えていく。 15. 前期まとめ 16～29. 保健的観点を踏まえた保育環境や援助、慢性疾患をもつ子どもへの対応、発達に問題を抱える子どもへの対応と組織的取組、保健活動の計画及び評価等について、実際の事例や取り組みを通して考えていく。 30. 後期まとめ
事前	前回の授業時に調べてくる内容を指定する。(各30分)
事後	授業の内容を整理し、振り返りを行うこと。(各30分)

2020/07/16(木)22:16

科 目 名	保育内容（表現II）[子]			授業コード	4040021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	斉木 美紀子、茗井 香保里、三政 洋一				

科目に関するキーワード	領域「表現」、身体表現、造形表現、音楽表現
到達目標	●授業のねらい：「動」「音」「造」による多様な表現方法を学び、グループでの表現の実践を通して創造し表現することの意味に気づき、他者とのコミュニケーションの在り方についても考える。 ●授業終了時の到達目標：表現にかかわる自らの実践を通し創造と表現、表現とコミュニケーションの意味について感じ考えることができるようになる。この経験を通し、乳幼児期における表現の意義を理解し、子どもの表現活動に共感しながら援助できる能力を身に付け実践できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2（1）(2)(3)（5）(6)、D-3(1)~(5)】
授業の概要	表現活動の実践を通し、その過程と成果を経験する。また、これらにかかわる子どもの姿と保育者の援助について技能や表現方法を身に付ける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・数人のグループワークを実施した後、学年全体で発表会を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生の個別に「まとめ課題」を作成する。
評価方法及び評価基準	レポート	発表活動、課題への取り組みと貢献度を総合して評価する。 発表活動への貢献（60%）、レポート課題（40%）		
フィードバック	・授業内課題については適宜コメントを返していく			
履修に際しての注意事項	・実践的な活動が主になるので、動きやすい服装で出席すること。 ・制作にかかる費用は原則、自己負担となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館、2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館、2018年)その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション(合同授業)
事前	シラバスを読み、授業の目標を理解してくること(0.5時間)
事後	配付資料を読み、次回の授業に必要なものを準備しておくこと(0.5時間)

2	ローテーション授業①・「動き」の型と質を感知する。動きとイメージの関連に気づく (グループワーク)(茗井)
事前	「表出」と「表現」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で体験的に理解したことを記録しておくこと。(0.5時間)

3	ローテーション授業①・子どもの音楽表現を育むには(斉木)
事前	絵本を1冊読んでおくこと(0.5時間)
事後	授業で学んだことを記録しておくこと(0.5時間)

4	ローテーション授業①・造形表現における素材(三政)
事前	これまでの実習を振り返り、幼児教育における造形活動について考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを振り返っておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

5	ローテーション授業②・「動き」のダイナミクス一群と構成を生かして(グループワーク)(茗井)
事前	「空間構成」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で発表したことを記録しておくこと。(0.5時間)

6	ローテーション授業②・子どもの音楽的発達(斉木)
事前	子どもの音楽表現活動について調べておくこと(0.5時間)
事後	授業で発表したことを復習しておくこと(0.5時間)

7	ローテーション授業②・造形要素について(三政)
事前	子どもが制作した作品を何点か調べ、その良さについて考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを復習しておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

8	ローテーション授業③・テーマと作品 (グループワーク)(茗井)
事前	子どもの身体表現について、調べてくること。(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、身体表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

9	ローテーション授業③・身体による音楽表現(斉木)
事前	オリエンテーション時に配布した資料をよく読んでくること(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、音楽表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

10	ローテーション授業③・子どもの造形表現(三政)
事前	作品の発表に向けて、準備しておくこと(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、造形表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

11	「動」「音」「造」による総合的な表現活動計画立案一共通課題による (11~15回 グループワーク)
事前	総合的な表現活動発表内容をイメージしておくこと(0.5時間)
事後	グループ内で出たアイデアを整理しておくこと(0.5時間)

12	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・制作
事前	授業に必要なモノや資料を用意しておくこと(0.5時間)
事後	経過を振り返り、準備計画を立てておくこと(0.5時間)

13	「動」「音」「造」による総合的な表現活動中間発表
事前	中間発表に向けてグループで話し合っておくこと（0.5時間）
事後	各自で中間発表の振り返り及び省察をしておくこと（0.5時間）

14	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・練習
事前	グループで各自の振り返り及び省察について話し合っておくこと（0.5時間）
事後	総合的な表現活動発表に向けた場当たりをしておくこと（0.5時間）

15	「動」「音」「造」による総合的な表現活動発表
事前	総合的な表現活動発表に向けて練習をしておくこと（0.5時間）
事後	自分及び他グループの総合的な表現活動発表の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)10:35

科 目 名	音楽I/子どもと音楽表現Ⅰ [子]			授業コード	4040030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子、原田 ゆかり、酒井 亜弥、飯田 千夏、入江 薫子、大田 美郁、滝沢 真弓				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、子どもの表現
到達目標	本授業の到達目標は、下記の通りである。 1)子どもの歌の簡易な伴奏ができるようになること。2)五線譜の基礎的な読譜ができるようになること。 3)協働して表現する楽しさを感じること。4)子どもの音楽表現やその育ちを支える援助についての理解を深めること。5)他者の表現を聴く耳を養うこと。
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもと音楽表現Ⅰでは、主に歌とピアノの演奏技能の習得と共に五線譜の基礎的な知識を学ぶと同時に、子どもの音楽的な発達の理解と共に子どもにとってのうたの意味について実践的に学ぶ。ピアノは個人指導、歌は少人数指導とし、知識の授業はクラス単位で行う。実技は、個々人の習熟度に合わせた課題でレッスンを行う。授業では、主に五線譜のリテラシーの基礎を中心に学ぶが、子どもの音楽表現についての知識や協働して表現する喜びを学生自身が感じるために、わらべうた遊びを始め、共に歌う合唱や初歩的な合奏などの活動も行う。
授業方法	演習 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート(40%)、実技発表会の成果(40%)、授業内課題(20%)	
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。		
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV		○					

V	○						

テキスト1	今川恭子監修 『おんがくのしくみ』、教育芸術社	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 今川恭子監修 『音楽を学ぶということ』、教育芸術社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（領域「表現」と子どもの音楽表現）
事前	シラバスの授業概要と履修に際しての注意事項を読んでくること（0.5時間）
事後	ピアノ課題の確認と予習をしてくること（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、五線譜の読み方
事前	テキストpp.6~7を読んでくること（0.5時間）
事後	テキストpp.6~7を参考にピアノ課題の譜読みをしてくること（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及び、音名（ト音記号）
事前	ト音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）
事後	ヘ音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及び、音名（ヘ音記号）
事前	覚えた音名をピアノ課題の譜読みに反映させてくること（0.5時間）
事後	ト音記号、ヘ音記号の音名を復習し、ピアノ課題に取り組むこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及び、わらべうた遊び（一対一の遊び、集団あそび）の実践
事前	子どもの遊びについて調べておくこと（0.5時間）
事後	保育におけるわらべうた遊びの意義について振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及び、言葉遊びとリズムを通して声による表現を考える
事前	テキストpp.30~31を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.30~31の復習をしておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及び、リズムと音価（四分音符、二分音符、全音符）
事前	テキストpp.30~31を参考にピアノ課題のリズムを練習しておくこと（0.5時間）
事後	これまで授業内で配布したプリントの振り返りと整理をしておくこと（0.5時間）

8	ピアノレッスン及び、合唱(練習)
事前	音名とリズムの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	合唱曲の練習をしておくこと（0.5時間）

9	ピアノレッスン及び、合唱（発表）
事前	ピアノ曲及び合唱曲の読譜をしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.32~34まで読んでおくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び音価（八分音符、十六分音符、符点のついた音符）
事前	テキストpp.32~34を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストp.36を読んでおくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び拍子(単純拍子)
事前	テキストp.36を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.37~41まで読んでおくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及び拍子（複合拍子）
事前	テキストpp.42~43まで読んでおくこと（0.5時間）

事後	テキストpp.37~41までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

13	歌・ピアノレッスン及び五線譜の読み方基礎まとめ
事前	テキストpp.6~35までを読み返し知識の定着を図ること(0.5時間）
事後	発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと(0.5時間）

14	歌・ピアノレッスン及び前期発表会準備（保育の場を想定した子どもの歌の模擬実践）
事前	発表する子どものうたの歌詞を朗読してくること(0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	前期発表に向けた練習してくること(0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

16	ピアノレッスン及び、前期発表会の振り返りと復習
事前	前期発表の復習をしておくこと(0.5時間）
事後	テキストp.48を読んでおくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び、わらべうたの音階
事前	わらべうたについて調べておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.49~53を読んでおくこと(0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及び、童謡の音階
事前	テキストpp.54~55を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.56の復習をしておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及び音階の構造
事前	テキストpp.57~58を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.58と子どものうたを結びつけてくること（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及び民族楽器で簡易合奏（子どもと楽器について）
事前	保育で用いられる楽器について考えてくること（0.5時間）
事後	子どもと楽器について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及び合唱（まとめ）
事前	音名、リズム、拍子、音階を振り返って知識の定着を図ること（0.5時間）
事後	ともに歌うことの意味について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及び音階と調性（長調）
事前	音階の書き方を復習しておくこと(0.5時間）
事後	子どものうたの楽譜から調性を読み取ってくること（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及び調性（短調）と移調
事前	テキストpp.60~61を読んでおくこと（0.5時間）
事後	長調と短調の音階について復習しておくこと（0.5時間）

24	歌・ピアノレッスン及び子どもの発達と子どもの歌について
事前	子どもの発達を想定した子どものうたの演奏を考えてくること（0.5時間）
事後	中間発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

25	中間発表会
事前	中間発表に向けた練習をしてくること（0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

26	歌・ピアノレッスン及び主要三和音について
事前	子どものうたに出てくる和音を確認してくること（0.5時間）
事後	授業内で配布した資料の復習をしておくこと（0.5時間）

27	歌・ピアノレッスン及び、子どもの歌と伴奏付（子どもの表現を支えるための伴奏について）
事前	授業内で配布した資料と子どものうたの伴奏を結びつけてくること（0.5時間）

事後	テキストpp.48~60までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

28	歌・ピアノレッスン及び、音階、調性、伴奏付の基礎まとめ
事前	授業内で配布した資料を復習しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと（0.5時間）

29	歌・ピアノレッスン及び後期発表会準備
事前	発表の準備に向けて練習してくること（0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

30	後期発表会
事前	人前に立つ際のマナーも含めて演奏の準備をしておくこと（0.5時間）
事後	発表後の振り返りをし、次に向けての目標を立てること（0.5時間）

2020/07/16(木)10:45

科 目 名	音楽I/子どもと音楽表現Ⅰ [子]			授業コード	4040040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子、原田 ゆかり、酒井 亜弥、飯田 千夏、入江 薫子、大田 美郁、滝沢 真弓				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、子どもの表現

到達目標	本授業の到達目標は、下記の通りである。 1)子どもの歌の簡易な伴奏ができるようになること。2)五線譜の基礎的な読譜ができるようになること。 3)協働して表現する楽しさを感じること。4)子どもの音楽表現やその育ちを支える援助についての理解を深めること。5)他者の表現を聴く耳を養うこと。			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもと音楽表現Ⅰでは、主に歌とピアノの演奏技能の習得と共に五線譜の基礎的な知識を学ぶと同時に、子どもの音楽的な発達の理解と共に子どもにとってのうたの意味について実践的に学ぶ。ピアノは個人指導、歌は少人数指導とし、知識の授業はクラス単位で行う。実技は、個々人の習熟度に合わせた課題でレッスンを行う。授業では、主に五線譜のリテラシーの基礎を中心に学ぶが、子どもの音楽表現についての知識や協働して表現する喜びを学生自身が感じるために、わらべうた遊びを始め、共に歌う合唱や初歩的な合奏などの活動も行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート(40%)、実技発表会の成果(40%)、授業内課題(20%)		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV		○					

V	○						

テキスト1	今川恭子監修 『おんがくのしくみ』、教育芸術社	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 今川恭子監修 『音楽を学ぶということ』、教育芸術社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（領域「表現」と子どもの音楽表現）
事前	シラバスの授業概要と履修に際しての注意事項を読んでくること（0.5時間）
事後	ピアノ課題の確認と予習をしてくること（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、五線譜の読み方
事前	テキストpp.6~7を読んでくること（0.5時間）
事後	テキストpp.6~7を参考にピアノ課題の譜読みをしてくること（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及び、音名（ト音記号）
事前	ト音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）
事後	ヘ音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及び、音名（ヘ音記号）
事前	覚えた音名をピアノ課題の譜読みに反映させてくること（0.5時間）
事後	ト音記号、ヘ音記号の音名を復習し、ピアノ課題に取り組むこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及び、わらべうた遊び（一対一の遊び、集団あそび）の実践
事前	子どもの遊びについて調べておくこと（0.5時間）
事後	保育におけるわらべうた遊びの意義について振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及び、言葉遊びとリズムを通して声による表現を考える
事前	テキストpp.30~31を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.30~31の復習をしておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及び、リズムと音価（四分音符、二分音符、全音符）
事前	テキストpp.30~31を参考にピアノ課題のリズムを練習しておくこと（0.5時間）
事後	これまで授業内で配布したプリントの振り返りと整理をしておくこと（0.5時間）

8	ピアノレッスン及び、合唱(練習)
事前	音名とリズムの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	合唱曲の練習をしておくこと（0.5時間）

9	ピアノレッスン及び、合唱（発表）
事前	ピアノ曲及び合唱曲の読譜をしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.32~34まで読んでおくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び音価（八分音符、十六分音符、符点のついた音符）
事前	テキストpp.32~34を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストp.36を読んでおくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び拍子(単純拍子)
事前	テキストp.36を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.37~41まで読んでおくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及び拍子（複合拍子）
事前	テキストpp.42~43まで読んでおくこと（0.5時間）

事後	テキストpp.37~41までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

13	歌・ピアノレッスン及び五線譜の読み方基礎まとめ
事前	テキストpp.6~35までを読み返し知識の定着を図ること(0.5時間）
事後	発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと(0.5時間）

14	歌・ピアノレッスン及び前期発表会準備（保育の場を想定した子どもの歌の模擬実践）
事前	発表する子どものうたの歌詞を朗読してくること(0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	前期発表に向けた練習してくること(0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

16	ピアノレッスン及び、前期発表会の振り返りと復習
事前	前期発表の復習をしておくこと(0.5時間）
事後	テキストp.48を読んでおくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び、わらべうたの音階
事前	わらべうたについて調べておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.49~53を読んでおくこと(0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及び、童謡の音階
事前	テキストpp.54~55を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.56の復習をしておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及び音階の構造
事前	テキストpp.57~58を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.58と子どものうたを結びつけてくること（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及び民族楽器で簡易合奏（子どもと楽器について）
事前	保育で用いられる楽器について考えてくること（0.5時間）
事後	子どもと楽器について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及び合唱（まとめ）
事前	音名、リズム、拍子、音階を振り返って知識の定着を図ること（0.5時間）
事後	ともに歌うことの意味について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及び音階と調性（長調）
事前	音階の書き方を復習しておくこと(0.5時間）
事後	子どものうたの楽譜から調性を読み取ってくること（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及び調性（短調）と移調
事前	テキストpp.60~61を読んでおくこと（0.5時間）
事後	長調と短調の音階について復習しておくこと（0.5時間）

24	歌・ピアノレッスン及び子どもの発達と子どもの歌について
事前	子どもの発達を想定した子どものうたの演奏を考えてくること（0.5時間）
事後	中間発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

25	中間発表会
事前	中間発表に向けた練習をしてくること（0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

26	歌・ピアノレッスン及び主要三和音について
事前	子どものうたに出てくる和音を確認してくること（0.5時間）
事後	授業内で配布した資料の復習をしておくこと（0.5時間）

27	歌・ピアノレッスン及び、子どもの歌と伴奏付（子どもの表現を支えるための伴奏について）
事前	授業内で配布した資料と子どものうたの伴奏を結びつけてくること（0.5時間）

事後	テキストpp.48~60までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

28	歌・ピアノレッスン及び、音階、調性、伴奏付の基礎まとめ
事前	授業内で配布した資料を復習しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと（0.5時間）

29	歌・ピアノレッスン及び後期発表会準備
事前	発表の準備に向けて練習してくること（0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

30	後期発表会
事前	人前に立つ際のマナーも含めて演奏の準備をしておくこと（0.5時間）
事後	発表後の振り返りをし、次に向けての目標を立てること（0.5時間）

2020/07/16(木)10:55

科 目 名	音楽I/子どもと音楽表現Ⅰ [子]			授業コード	4040050
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子、原田 ゆかり、酒井 亜弥、飯田 千夏、入江 薫子、大田 美郁、滝沢 真弓				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、子どもの表現

到達目標	本授業の到達目標は、下記の通りである。 1)子どもの歌の簡易な伴奏ができるようになること。2)五線譜の基礎的な読譜ができるようになること。 3)協働して表現する楽しさを感じること。4)子どもの音楽表現やその育ちを支える援助についての理解を深めること。5)他者の表現を聴く耳を養うこと。			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもと音楽表現Ⅰでは、主に歌とピアノの演奏技能の習得と共に五線譜の基礎的な知識を学ぶと同時に、子どもの音楽的な発達の理解と共に子どもにとってのうたの意味について実践的に学ぶ。ピアノは個人指導、歌は少人数指導とし、知識の授業はクラス単位で行う。実技は、個々人の習熟度に合わせた課題でレッスンを行う。授業では、主に五線譜のリテラシーの基礎を中心に学ぶが、子どもの音楽表現についての知識や協働して表現する喜びを学生自身が感じるために、わらべうた遊びを始め、共に歌う合唱や初歩的な合奏などの活動も行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート(40%)、実技発表会の成果(40%)、授業内課題(20%)		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV		○					

V	○						

テキスト1	今川恭子監修 『おんがくのしくみ』、教育芸術社	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 今川恭子監修 『音楽を学ぶということ』、教育芸術社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（領域「表現」と子どもの音楽表現）
事前	シラバスの授業概要と履修に際しての注意事項を読んでくること（0.5時間）
事後	ピアノ課題の確認と予習をしてくること（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、五線譜の読み方
事前	テキストpp.6~7を読んでくること（0.5時間）
事後	テキストpp.6~7を参考にピアノ課題の譜読みをしてくること（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及び、音名（ト音記号）
事前	ト音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）
事後	ヘ音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及び、音名（ヘ音記号）
事前	覚えた音名をピアノ課題の譜読みに反映させてくること（0.5時間）
事後	ト音記号、ヘ音記号の音名を復習し、ピアノ課題に取り組むこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及び、わらべうた遊び（一対一の遊び、集団あそび）の実践
事前	子どもの遊びについて調べておくこと（0.5時間）
事後	保育におけるわらべうた遊びの意義について振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及び、言葉遊びとリズムを通して声による表現を考える
事前	テキストpp.30~31を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.30~31の復習をしておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及び、リズムと音価（四分音符、二分音符、全音符）
事前	テキストpp.30~31を参考にピアノ課題のリズムを練習しておくこと（0.5時間）
事後	これまで授業内で配布したプリントの振り返りと整理をしておくこと（0.5時間）

8	ピアノレッスン及び、合唱(練習)
事前	音名とリズムの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	合唱曲の練習をしておくこと（0.5時間）

9	ピアノレッスン及び、合唱（発表）
事前	ピアノ曲及び合唱曲の読譜をしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.32~34まで読んでおくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び音価（八分音符、十六分音符、符点のついた音符）
事前	テキストpp.32~34を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストp.36を読んでおくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び拍子(単純拍子)
事前	テキストp.36を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.37~41まで読んでおくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及び拍子（複合拍子）
事前	テキストpp.42~43まで読んでおくこと（0.5時間）

事後	テキストpp.37~41までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

13	歌・ピアノレッスン及び五線譜の読み方基礎まとめ
事前	テキストpp.6~35までを読み返し知識の定着を図ること(0.5時間）
事後	発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと(0.5時間）

14	歌・ピアノレッスン及び前期発表会準備（保育の場を想定した子どもの歌の模擬実践）
事前	発表する子どものうたの歌詞を朗読してくること(0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	前期発表に向けた練習してくること(0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

16	ピアノレッスン及び、前期発表会の振り返りと復習
事前	前期発表の復習をしておくこと(0.5時間）
事後	テキストp.48を読んでおくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び、わらべうたの音階
事前	わらべうたについて調べておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.49~53を読んでおくこと(0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及び、童謡の音階
事前	テキストpp.54~55を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.56の復習をしておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及び音階の構造
事前	テキストpp.57~58を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.58と子どものうたを結びつけてくること（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及び民族楽器で簡易合奏（子どもと楽器について）
事前	保育で用いられる楽器について考えてくること（0.5時間）
事後	子どもと楽器について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及び合唱（まとめ）
事前	音名、リズム、拍子、音階を振り返って知識の定着を図ること（0.5時間）
事後	ともに歌うことの意味について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及び音階と調性（長調）
事前	音階の書き方を復習しておくこと(0.5時間）
事後	子どものうたの楽譜から調性を読み取ってくること（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及び調性（短調）と移調
事前	テキストpp.60~61を読んでおくこと（0.5時間）
事後	長調と短調の音階について復習しておくこと（0.5時間）

24	歌・ピアノレッスン及び子どもの発達と子どもの歌について
事前	子どもの発達を想定した子どものうたの演奏を考えてくること（0.5時間）
事後	中間発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

25	中間発表会
事前	中間発表に向けた練習をしてくること（0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

26	歌・ピアノレッスン及び主要三和音について
事前	子どものうたに出てくる和音を確認してくること（0.5時間）
事後	授業内で配布した資料の復習をしておくこと（0.5時間）

27	歌・ピアノレッスン及び、子どもの歌と伴奏付（子どもの表現を支えるための伴奏について）
事前	授業内で配布した資料と子どものうたの伴奏を結びつけてくること（0.5時間）

事後	テキストpp.48~60までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

28	歌・ピアノレッスン及び、音階、調性、伴奏付の基礎まとめ
事前	授業内で配布した資料を復習しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと（0.5時間）

29	歌・ピアノレッスン及び後期発表会準備
事前	発表の準備に向けて練習してくること（0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

30	後期発表会
事前	人前に立つ際のマナーも含めて演奏の準備をしておくこと（0.5時間）
事後	発表後の振り返りをし、次に向けての目標を立てること（0.5時間）

2020/07/16(木)21:17

科 目 名	音楽II/子どもと音楽表現II [子][ET]			授業コード	4040060
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子、田中 明子、原田 ゆかり、酒井 亜弥、入江 薫子、大田 美郁、滝沢 真弓				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、アンサンブル

到達目標	本授業の到達目標は下記の通りである。1）曲想などのイメージをもって子どもの歌の伴奏ができるようになること。2）子どもと多様な表現活動を楽しむために、子どもの歌をアレンジする方法を学ぶこと。3)協働して音楽表現するためにアンサンブルの力を養うこと。4）他者の表現を受け止め、協働しながら自身のより豊かな表現へとつなげていくこと。			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもの姿に応じた表現活動の援助が行えるよう、子どもと音楽表現Ⅰで身につけた演奏技能と知識のステップアップを目指す。技能では、子どもの姿や子どもとの協働を意識した演奏を目指す。知識の授業では、子どもと多様な楽しみ方ができるよう、子どもの歌を自身の表現したいイメージにアレンジをする力を身に付け、さらにその作品を自己表現することを楽しむ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み（40%）、実技発表会の成果（40%）、レポート・授業内提出物（20%）		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	『おんがくのしくみ』今川恭子、他（教育芸術社）	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（課題の確認、領域「表現」と音楽表現振り返り）
事前	シラバスを読んで必要なものを準備しておくこと（0.5時間）
事後	次回に向けたピアノ課題に取り組んでおくこと（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、音名、音価、リズム復習
事前	音名について復習しておくこと（0.5時間）
事後	配布した授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及びコードネーム
事前	コードネームの書き方について予習しておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（メジャー）について予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及びコード（メイジャー）
事前	子どものうたの楽譜から使用されているコードの確認をしておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（マイナー）のについて予習しておくこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及びコード（マイナー）
事前	コード（メジャー、マイナー）を自分でつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及びコード（ドミナント・セブンス）
事前	テキストpp.70~72まで読んでおくこと（0.5時間）
事後	授業内課題を復習しておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及びコード（オンコード）
事前	テキストp.80を読んでおくこと（0.5時間）
事後	転回形について予習しておくこと（0.5時間）

8	歌・ピアノレッスン及びコード（転回形）
事前	子どものうたから転回形を探しておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.70~80を復習しておくこと（0.5時間）

9	歌・ピアノレッスン及び合唱（自分の声と他者の声を聴く）
事前	発表会にむけて課題曲を絞ってくること（0.5時間）
事後	コードの転回について復習しておくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び楽譜記載のコードを読む
事前	転回したコードをつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	発表会の曲を決定しておくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び楽譜記載のコードを読んで弾く
事前	コードの連結について復習しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの配布資料を整理しておくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及びコードまとめ
事前	これまでの配付資料の課題を復習しておくこと（0.5時間）
事後	課題とした子どものうたの歌詞を覚えてくること（0.5時間）

13	ピアノレッスン及び、歌の発表会

事前	子どものうたを暗譜でうたえるように練習しておくこと（0.5時間）
事後	発表会準備に向けて、これまでの注意を振り返っておくこと（0.5時間）

14	前期発表会準備
事前	発表の準備に向けて目標を絞って練習しておくこと（0.5時間）
事後	準備で明らかになった課題を整理しておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	発表に向けた自己課題を明確にしてくること（0.5時間）
事後	次の発表に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

16	歌・ピアノレッスン及びコードの復習
事前	前期で学んだコードネームの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題の復習をしておくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び子どもの歌のアレンジについて
事前	テキストp.84を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを探しておくこと（0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及びアレンジする子どもの歌の選曲
事前	テキストpp.85~105まで復習しておくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを決定しておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及びイメージとアレンジ方法
事前	テキストp.67を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジする子どものうたのメロディを五線に書き終えておくこと（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及びアレンジのための計画
事前	アレンジしたい曲想のイメージを決めてくること（0.5時間）
事後	テキストp.67を参考にイメージと伴奏系を考えてくること（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作
事前	アレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	アレンジ曲の伴奏系をつくってくること（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作中間発表
事前	アレンジ曲の清書をしておくこと（0.5時間）
事後	発表会にむけてピアノ課題を決定しておくこと（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作まとめ
事前	発表会に向けてアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題とアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）

24	自作アレンジによる子どもの歌発表会
事前	発表会に向けた自己課題を決定しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

25	後期発表会アンサンブルパートナー決め
事前	アンサンブルの課題曲を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループ決めに向けて希望を明確にしてくること（0.5時間）

26	アンサンブルによる歌・ピアノ選曲
事前	アンサンブルの課題曲の候補を挙げてくること（0.5時間）（0.5時間）
事後	グループで課題曲の打ち合わせをしておくこと（0.5時間）

27	アンサンブル発表会に向けた選曲の個人レッスン
事前	決定した課題曲の楽譜を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループで課題曲の練習計画を立てておくこと（0.5時間）

28	アンサンブル発表会に向けた選曲のアンサンブルレッスン
事前	グループで課題曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	予行演習に向けた準備をしておくこと（0.5時間）

29	後期アンサンブル発表会準備
事前	予行演習に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた練習をしておくこと（0.5時間）

30	後期アンサンブル発表会（子どもの音楽表現について考える）
事前	後期発表会に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)21:28

科 目 名	音楽II/子どもと音楽表現II [子][ET]			授業コード	4040070
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子、田中 明子、原田 ゆかり、酒井 亜弥、入江 薫子、大田 美郁、滝沢 真弓				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、アンサンブル

到達目標	本授業の到達目標は下記の通りである。1)曲想などのイメージをもって子どもの歌の伴奏ができるようになること。2)子どもと多様な表現活動を楽しむために、子どもの歌をアレンジする方法を学ぶこと。3)協働して音楽表現するためにアンサンブルの力を養うこと。4)他者の表現を受け止め、協働しながら自身のより豊かな表現へとつなげていくこと。			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもの姿に応じた表現活動の援助が行えるよう、子どもと音楽表現Ⅰで身につけた演奏技能と知識のステップアップを目指す。技能では、子どもの姿や子どもとの協働を意識した演奏を目指す。知識の授業では、子どもと多様な楽しみ方ができるよう、子どもの歌を自身の表現したいイメージにアレンジをする力を身に付け、さらにその作品を自己表現することを楽しむ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み（40%）、実技発表会の成果（40%）、レポート・授業内提出物（20%）		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	『おんがくのしくみ』今川恭子、他（教育芸術社）	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（課題の確認、領域「表現」と音楽表現振り返り）
事前	シラバスを読んで必要なものを準備しておくこと（0.5時間）
事後	次回に向けたピアノ課題に取り組んでおくこと（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、音名、音価、リズム復習
事前	音名について復習しておくこと（0.5時間）
事後	配布した授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及びコードネーム
事前	コードネームの書き方について予習しておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（メジャー）について予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及びコード（メイジャー）
事前	子どものうたの楽譜から使用されているコードの確認をしておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（マイナー）のについて予習しておくこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及びコード（マイナー）
事前	コード（メジャー、マイナー）を自分でつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及びコード（ドミナント・セブンス）
事前	テキストpp.70~72まで読んでおくこと（0.5時間）
事後	授業内課題を復習しておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及びコード（オンコード）
事前	テキストp.80を読んでおくこと（0.5時間）
事後	転回形について予習しておくこと（0.5時間）

8	歌・ピアノレッスン及びコード（転回形）
事前	子どものうたから転回形を探しておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.70~80を復習しておくこと（0.5時間）

9	歌・ピアノレッスン及び合唱（自分の声と他者の声を聴く）
事前	発表会にむけて課題曲を絞ってくること（0.5時間）
事後	コードの転回について復習しておくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び楽譜記載のコードを読む
事前	転回したコードをつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	発表会の曲を決定しておくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び楽譜記載のコードを読んで弾く
事前	コードの連結について復習しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの配布資料を整理しておくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及びコードまとめ
事前	これまでの配付資料の課題を復習しておくこと（0.5時間）
事後	課題とした子どものうたの歌詞を覚えてくること（0.5時間）

13	ピアノレッスン及び、歌の発表会

事前	子どものうたを暗譜でうたえるように練習しておくこと（0.5時間）
事後	発表会準備に向けて、これまでの注意を振り返っておくこと（0.5時間）

14	前期発表会準備
事前	発表の準備に向けて目標を絞って練習しておくこと（0.5時間）
事後	準備で明らかになった課題を整理しておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	発表に向けた自己課題を明確にしてくること（0.5時間）
事後	次の発表に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

16	歌・ピアノレッスン及びコードの復習
事前	前期で学んだコードネームの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題の復習をしておくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び子どもの歌のアレンジについて
事前	テキストp.84を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを探しておくこと（0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及びアレンジする子どもの歌の選曲
事前	テキストpp.85~105まで復習しておくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを決定しておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及びイメージとアレンジ方法
事前	テキストp.67を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジする子どものうたのメロディを五線に書き終えておくこと（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及びアレンジのための計画
事前	アレンジしたい曲想のイメージを決めてくること（0.5時間）
事後	テキストp.67を参考にイメージと伴奏系を考えてくること（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作
事前	アレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	アレンジ曲の伴奏系をつくってくること（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作中間発表
事前	アレンジ曲の清書をしておくこと（0.5時間）
事後	発表会にむけてピアノ課題を決定しておくこと（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及びアレンジ創作まとめ
事前	発表会に向けてアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題とアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）

24	自作アレンジによる子どもの歌発表会
事前	発表会に向けた自己課題を決定しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

25	後期発表会アンサンブルパートナー決め
事前	アンサンブルの課題曲を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループ決めに向けて希望を明確にしてくること（0.5時間）

26	アンサンブルによる歌・ピアノ選曲
事前	アンサンブルの課題曲の候補を挙げてくること（0.5時間）（0.5時間）
事後	グループで課題曲の打ち合わせをしておくこと（0.5時間）

27	アンサンブル発表会に向けた選曲の個人レッスン
事前	決定した課題曲の楽譜を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループで課題曲の練習計画を立てておくこと（0.5時間）

28	アンサンブル発表会に向けた選曲のアンサンブルレッスン
事前	グループで課題曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	予行演習に向けた準備をしておくこと（0.5時間）

29	後期アンサンブル発表会準備
事前	予行演習に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた練習をしておくこと（0.5時間）

30	後期アンサンブル発表会（子どもの音楽表現について考える）
事前	後期発表会に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)20:37

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4040080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子				

科目に関する キーワード	領域「表現」、音楽表現、楽器、音楽教育
到達目標	子どもの表現を見とり、支え、育んでいくために、保育者の役割やあり方について、音楽の視点から、ともに動き、ともに考えながら、探求し、知識と技能を深めることで、自分なりの考えを持つことができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：C-1(1)(2)、D-4(1)(2)(3)】
授業の概要	子どもの表現について、テキストを用いながら、活動したり、ディスカッションを行うなど、理論と実践から学ぶ。その他には、アンサンブルも重視しながら、音楽表現に関わる実技能力のスキルアップを目指す。さらに、学外研修として、芸術分野の公演等を鑑賞する機会も設ける。
授業方法	演習 / アクティブラーニング	
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（30%）、授業内課題への取り組み（30%）、提出物（30%)、発表の成果（10%）
フィードバック	・個々の発表や課題に関しては適宜コメントを返していく。
履修に際しての 注意事項	音楽的な知識や技能は問わないが、主体的に活動に参加し、取り組む意欲があること。ゼミ内容によって、研究室以外の教室を使用することや、建物の外に出ることもある。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V	○						

テキスト1	石井玲子 「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」」 教育情報出版	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1. 前期オリエンテーション 2～14. ①「表現」を考える。(テキスト購読や活動を通して。) ②アンサンブル活動。 ※①と②を交互に行います。 15. 前期まとめ 16. 後期オリエンテーション 17～29. ③「表現を育てる」(文献購読等も含まれる。) ④アンサンブル活動。 ※③と④を交互に行います。 30. 後期まとめ ※授業内で提示した課題や提出物については、適宜添削したものをフィードバックするするので、各自整理しておくこと。
事前	授業で求められる内容に即して、事前に練習及び下調べをしておくこと(0.5時間)
事後	授業内容の振り返り及び自己課題の整理をしておくこと(0.5時間)

2020/07/16(木)22:34

科 目 名	音楽I/子どもと音楽表現Ⅰ [子]			授業コード	4040103
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、子どもの表現

到達目標	本授業の到達目標は、下記の通りである。 1)子どもの歌の簡易な伴奏ができるようになること。2)五線譜の基礎的な読譜ができるようになること。 3)協働して表現する楽しさを感じること。4)子どもの音楽表現やその育ちを支える援助についての理解を深めること。5)他者の表現を聴く耳を養うこと。			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、子どもと音楽表現Ⅰでは、主に歌とピアノの演奏技能の習得と共に五線譜の基礎的な知識を学ぶと同時に、子どもの音楽的な発達の理解と共に子どもにとってのうたの意味について実践的に学ぶ。ピアノは個人指導、歌は少人数指導とし、知識の授業はクラス単位で行う。実技は、個々人の習熟度に合わせた課題でレッスンを行う。授業では、主に五線譜のリテラシーの基礎を中心に学ぶが、子どもの音楽表現についての知識や協働して表現する喜びを学生自身が感じるために、わらべうた遊びを始め、共に歌う合唱や初歩的な合奏などの活動も行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート(40%)、実技発表会の成果(40%)、授業内課題(20%)		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV		○					

V	○						

テキスト1	今川恭子監修 『おんがくのしくみ』、教育芸術社	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 今川恭子監修 『音楽を学ぶということ』、教育芸術社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（ピアノ課題の選び方、テキストの見方）
事前	シラバスの授業概要と履修に際しての注意事項を読んでくること（0.5時間）
事後	ピアノ課題の確認と予習をしてくること（0.5時間）

2	歌・ピアノレッスン及び、五線譜の読み方
事前	テキストpp.6~7を読んでくること（0.5時間）
事後	テキストpp.6~7を参考にピアノ課題の譜読みをしてくること（0.5時間）

3	歌・ピアノレッスン及び、音名（ト音記号）
事前	ト音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）
事後	ヘ音記号の音名を予習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノレッスン及び、音名（ヘ音記号）
事前	覚えた音名をピアノ課題の譜読みに反映させてくること（0.5時間）
事後	ト音記号、ヘ音記号の音名を復習し、ピアノ課題に取り組むこと（0.5時間）

5	歌・ピアノレッスン及び、わらべうた遊び（一対一の遊び、集団あそび）の実践
事前	子どもの遊びについて調べておくこと（0.5時間）
事後	保育におけるわらべうた遊びの意義について振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノレッスン及び、わらべうたのリズムを楽譜にしてみる
事前	テキストpp.30~31を読んでおくこと（0.5時間）
事後	わらべうたのリズムを表現できるように復習しておく（0.5時間）

7	歌・ピアノレッスン及び、リズムと音価（四分音符、二分音符、全音符）
事前	テキストpp.30~31を参考にピアノ課題のリズムを練習しておくこと（0.5時間）
事後	これまで授業内で配布したプリントの振り返りと整理をしておくこと（0.5時間）

8	ピアノレッスン及び、合唱(練習)
事前	音名とリズムの復習をしておくこと（0.5時間）
事後	合唱曲の練習をしておくこと（0.5時間）

9	ピアノレッスン及び、合唱（発表）
事前	ピアノ曲及び合唱曲の読譜をしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.32~34まで読んでおくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノレッスン及び楽譜の各種記号を理解する
事前	テキストpp.32~34を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.114~116を読んでおくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノレッスン及び拍子(単純拍子)
事前	テキストp.36を参考にピアノ曲の譜読みをしておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.37~41まで読んでおくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノレッスン及び拍子（複合拍子）
事前	テキストpp.42~43まで読んでおくこと（0.5時間）

事後	テキストpp.37~41までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

13	歌・ピアノレッスン及び五線譜の読み方基礎まとめ
事前	テキストpp.6~35までを読み返し知識の定着を図ること(0.5時間）
事後	発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと(0.5時間）

14	歌・ピアノレッスン及び前期発表会準備（保育の場を想定した子どもの歌の模擬実践）
事前	発表する子どものうたの歌詞を朗読してくること(0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	前期発表に向けた練習してくること(0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

16	ピアノレッスン及び、前期発表会の振り返りと復習
事前	前期発表の復習をしておくこと(0.5時間）
事後	テキストp.48を読んでおくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノレッスン及び、わらべうたの音階
事前	わらべうたについて調べておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.49~53を読んでおくこと(0.5時間）

18	歌・ピアノレッスン及び、童謡の音階
事前	テキストpp.54~55を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.56の復習をしておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノレッスン及び音階の構造
事前	テキストpp.57~58を読んでおくこと（0.5時間）
事後	テキストp.58と子どものうたを結びつけてくること（0.5時間）

20	歌・ピアノレッスン及び民族楽器で簡易合奏（子どもと楽器について）
事前	保育で用いられる楽器について考えてくること（0.5時間）
事後	子どもと楽器について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

21	歌・ピアノレッスン及び合唱（まとめ）
事前	音名、リズム、拍子、音階を振り返って知識の定着を図ること（0.5時間）
事後	ともに歌うことの意味について自分の考えをまとめておくこと（0.5時間）

22	歌・ピアノレッスン及び音階と調性（長調）
事前	音階の書き方を復習しておくこと(0.5時間）
事後	子どものうたの楽譜から調性を読み取ってくること（0.5時間）

23	歌・ピアノレッスン及び調性（短調）と移調
事前	テキストpp.60~61を読んでおくこと（0.5時間）
事後	長調と短調の音階について復習しておくこと（0.5時間）

24	歌・ピアノレッスン及び子どものうたの伴奏譜から和音を探してみよう
事前	子どものうたの伴奏譜をみてくること（0.5時間）
事後	中間発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

25	中間発表会
事前	中間発表に向けた練習をしてくること（0.5時間）
事後	次回の発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

26	歌・ピアノレッスン及び主要三和音について
事前	子どものうたに出てくる和音を確認してくること（0.5時間）
事後	授業内で配布した資料の復習をしておくこと（0.5時間）

27	歌・ピアノレッスン及び、子どもの歌と伴奏付（子どもの表現を支えるための伴奏について）
事前	授業内で配布した資料と子どものうたの伴奏を結びつけてくること（0.5時間）

事後	テキストpp.48~60までに出てくる課題を復習しておくこと（0.5時間）

28	歌・ピアノレッスン及び、音階、調性、伴奏付の基礎まとめ
事前	授業内で配布した資料を復習しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表に向けたピアノ課題を練習しておくこと（0.5時間）

29	歌・ピアノレッスン及び後期発表会準備
事前	発表の準備に向けて練習してくること（0.5時間）
事後	発表に向けた自己課題を明確にしておくこと（0.5時間）

30	後期発表会
事前	人前に立つ際のマナーも含めて演奏の準備をしておくこと（0.5時間）
事後	発表後の振り返りをし、次に向けての目標を立てること（0.5時間）

2020/07/16(木)22:34

科 目 名	音楽II/子どもと音楽表現II [子]			授業コード	4040113
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	斉木 美紀子				

科目に関する キーワード	音楽表現、ピアノ、子どものうた、音楽理論、アンサンブル

到達目標	音楽Ⅰで身に付けた演奏技術や音楽の知識をより確かなものとし、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる力を身に付け、応用して実践することができる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(2)(3)、D-3(4)】			
授業の概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、音楽Ⅰで身に付けた力を基とし、歌とピアノの演奏技術のステップアップと共に、場に応じた音楽活動が行えるよう、技術と知識の両面から学ぶ。特に協働して表現する力を身につけるために、アンサンブル活動も行い、表現の多様性を知る。授業形態は、音楽Ⅰの方針を踏襲し、適宜課題の提出を求める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	実技課題の予習と復習状況（30%）、レポート（30%）、 授業内小テストおよび発表会の成果（40%）		
フィードバック	・自己課題の記録と振り返りに対して適宜回収し、コメントを記入して返します。 ・授業内課題に対しては、適宜その場で個々にコメントして行きます。			
履修に際しての 注意事項	・ B4の紙が貼付可能なスケッチブックと配布資料を保存するファイルを用意すること。 ・ 爪は必ず切ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V			○				

テキスト1	『おんがくのしくみ』今川恭子、他（教育芸術社）	
テキスト2	『簡易伴奏による こどもの歌名曲アルバム』松山祐士（ドレミ楽譜出版社）	
テキスト3	その他、開講時に習熟度に応じたテキストを指示する。	
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスを読んで必要なものを準備しておくこと（0.5時間）
事後	次回に向けたピアノ課題に取り組んでおくこと（0.5時間）

2	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コード）
事前	音名について復習しておくこと（0.5時間）
事後	配布した授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

3	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（楽譜からコードを探す）
事前	伴奏譜を整理しておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（メジャー）について復習しておくこと（0.5時間）

4	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コード復習）
事前	子どものうたの楽譜から使用されているコードの確認をしておくこと（0.5時間）
事後	コードネーム（マイナー）のについて復習しておくこと（0.5時間）

5	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コードまとめ）
事前	コード（メジャー、マイナー）を自分でつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	授業内課題の振り返りをしておくこと（0.5時間）

6	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コードネーム）
事前	テキストpp.70~72まで読んでおくこと（0.5時間）
事後	授業内課題を復習しておくこと（0.5時間）

7	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（楽譜からコードネームを読む）
事前	伴奏譜のコードネームをみておくこと（0.5時間）
事後	セブンス・コードについて復習しておくこと（0.5時間）

8	ピアノ実技レッスン及び前期合唱
事前	子どものうたからセブンス・コードを探しておくこと（0.5時間）
事後	テキストpp.70~80を復習しておくこと（0.5時間）

9	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コードネーム復習）
事前	発表会にむけて課題曲を絞ってくること（0.5時間）
事後	コードの転回について復習しておくこと（0.5時間）

10	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コードネームまとめ）
事前	転回したコードをつくれるようにしておくこと（0.5時間）
事後	発表会の曲を決定しておくこと（0.5時間）

11	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コード付け）
事前	コードの連結について復習しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの配布資料を整理しておくこと（0.5時間）

12	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（コード付け小テスト）
事前	これまでの配付資料の課題を復習しておくこと（0.5時間）
事後	課題とした子どものうたの歌詞を覚えてくること（0.5時間）

13	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（総まとめ）

事前	子どものうたを暗譜でうたえるように練習しておくこと（0.5時間）
事後	発表会準備に向けて、これまでの注意を振り返っておくこと（0.5時間）

14	前期発表会準備
事前	発表の準備に向けて目標を絞って練習しておくこと（0.5時間）
事後	準備で明らかになった課題を整理しておくこと（0.5時間）

15	前期発表会
事前	発表に向けた自己課題を明確にしてくること（0.5時間）
事後	次の発表に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

16	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（楽譜の読み方、記号等の復習）
事前	楽譜に出てくる記号の復習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題の復習をしておくこと（0.5時間）

17	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（アレンジ）
事前	テキストp.84を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを探しておくこと（0.5時間）

18	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（アレンジ発展）
事前	テキストpp.85~105まで復習しておくこと（0.5時間）
事後	アレンジしたい子どものうたを決定しておくこと（0.5時間）

19	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（アレンジ復習）
事前	テキストp.67を読んでおくこと（0.5時間）
事後	アレンジする子どものうたのメロディを五線に書き終えておくこと（0.5時間）

20	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（アレンジまとめ）
事前	アレンジしたい曲想のイメージを決めてくること（0.5時間）
事後	テキストp.67を参考にイメージと伴奏系を考えてくること（0.5時間）

21	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（創作）
事前	アレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	アレンジ曲の伴奏系をつくってくること（0.5時間）

22	歌・ピアノ実技レッスン及び音楽理論（創作課題提出）
事前	アレンジ曲の清書をしておくこと（0.5時間）
事後	おさらい会にむけてピアノ課題を決定しておくこと（0.5時間）

23	歌・ピアノ実技レッスン及び後期合唱
事前	おさらい会に向けてアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	ピアノ課題とアレンジ曲の練習をしておくこと（0.5時間）

24	歌・ピアノ実技おさらい会
事前	おさらい会に向けた自己課題を決定しておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた課題を整理しておくこと（0.5時間）

25	後期発表会準備
事前	アンサンブルの課題曲を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループ決めに向けて希望を明確にしてくること（0.5時間）

26	後期発表会グループ決め
事前	アンサンブルの課題曲の候補を挙げてくること（0.5時間）（0.5時間）
事後	グループで課題曲の打ち合わせをしておくこと（0.5時間）

27	後期発表会曲決め
事前	決定した課題曲の楽譜を探しておくこと（0.5時間）
事後	グループで課題曲の練習計画を立てておくこと（0.5時間）

28	後期発表会曲目最終決定
事前	グループで課題曲の練習をしておくこと（0.5時間）
事後	予行演習に向けた準備をしておくこと（0.5時間）

29	後期発表会予行演習
事前	予行演習に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会に向けた練習をしておくこと（0.5時間）

30	後期発表会
事前	後期発表会に向けたグループの課題を明確にしておくこと（0.5時間）
事後	後期発表会の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)22:16

科 目 名	保育マインド実践講座 [子]			授業コード	4050010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				
幼稚園教諭の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	保育マインド、初年次教育、保育実践、保育教材、遊びと発達
到達目標	1. 子どもの遊びや発達について入門的に学び、子どもとかかわる上で必要とされる心構えや姿勢を理解するようになる。 2. 保育現場との関わりを通じて、子どもとかかわるための保育技術の基礎を身につけることができる。 3. 現職保育者による公演・講演授業、学外での保育行事、見学会や説明会、学外研修への参加などを通して、子どもや子育てに対する理解や、保育専門職に対する意欲・期待を高めることができる。 4. 通年の授業全体を通して、自らの気づきや発見を記録に残しながら、各人の「保育マインド」の基礎を固めることができる。
授業の概要	保育の初学者を対象に、保育者を志す者として、保育や子育てに関する社会の出来事や問題について考え、子どもや保護者とかかわるために身につけるべき保育のこころ、すなわち「保育マインド」を実践的に学ぶ。そのために、幼稚園や保育所等、子育て支援に関する基礎的知識や子どもとかかわるための基本的な保育技術について学ぶ。また、学外での保育行事に参加したり、保育現場との関わりを持ちながら具体的な体験を通して学ぶ。 本授業は、特色ある内容を多様に含んでおり、授業内容によって、講義・演習・実技・公演・講演・学内外での実演発表と行事参加、研修、保育所等設見学など、様々な授業方法が用意されている。特に、授業時間割外で行われる内容については、時間数を勘案した上、全30回の授業時間数に算入されるため、実際の授業日・時間がどうなるかは、初回授業にて配付予定の年間授業計画（詳細版）を参照すること。 （なお、学外保育行事は、授業クラス別に6月あるいは12月いずれか1回ずつの参加となる） 実演発表は、「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」「保育所見学」「川崎フロンターレ『託児室』」の3つを予定している。
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、リアクションペーパーを使用する。		
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（20%）、提出物（60%）、レポート（20%）	
フィードバック	提出物、レポートについては、授業内で取り上げ適宜フィードバックを行う。		
履修に際しての注意事項	1. 特色ある授業内容のために、授業日が変則的に設定されている回がある。初回授業時に配付する資料を毎回確認し、出席日や事前準備・提出物や持ち物等、確認すること。 2. 特に、保育現場等への参加については、正規の授業時間以外での出席が必要となる。また、交通費等が発生する場合があるので留意すること。 ◎本授業の内容は、2年次以降の実習教育と密接なつながりがあることに留意すること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III						○	

IV					○		
V							

テキスト1	特になし。随時資料を配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション（授業計画の説明）
事前	保育を志す者として身につけるべき保育のこころについて整理しておくこと。（30分）
事後	授業計画及び授業内容について各自で確認しておくこと。（30分）

2	川崎フロンターレ『託児室』事前指導
事前	川崎フロンターレ及び託児室について、パンフレット等から基本的な情報を確認しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点について、各自で確認をしておくこと。（30分）

3	地域の子育て支援を学ぶ～けろけろ田園チャイルド：麻生区保育総合支援担当者による講演【合同授業】
事前	あそぼう！けろけろ田園チャイルドについて、パンフレット等から基本的な情報を確認しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介したあそぼう！けろけろ田園チャイルド実施にあたっての注意点について、各自で確認をしておくこと。（30分）

4	地域の子育て支援について学ぶ～けろけろ田園チャイルド：グループによる事前学習
事前	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの内容について、各自で案を考えておくこと。（30分）
事後	各グループごとに実演内容を決定し、準備をしておくこと。（30分）

5	学外研修事前学習～研修の概要とスケジュールについて
事前	川崎市の魅力について、自分なりに調べて整理しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した研修概要とスケジュールを確認し、各自で学びたい内容を整理しておくこと。（30分）

6	学外研修事前学習～グループ活動の検討
事前	研修概要やスケジュールを参考に、各グループの活動内容について検討してくること。（30分）
事後	授業内で話し合った内容をもとに、グループ活動の計画を立てること。（30分）

7	川崎フロンターレ『託児室』の実施～会場準備、環境構成
事前	川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点を再度確認し、事前準備がスムーズに行えるように準備を行うこと。（30分）
事後	川崎フロンターレ『託児室』での実演をもとに、事前準備と環境構成の重要性について振り返りを行うこと。（30分）

8	川崎フロンターレ『託児室』の実施～保育実践
事前	川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点を再度確認し、託児中の注意事項について理解を深めること。（30分）
事後	川崎フロンターレ『託児室』での実演をもとに、保育実践について振り返りを行うこと。（30分）

9	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの実施
事前	各グループの準備内容に基づいて、当日実演ができるように準備しておくこと。（30分）
事後	あそぼう！けろけろ田園チャイルドでの実演内容について、振り返りを行うこと。（30分）

10	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの振り返り～グループ討議
事前	実演の振り返りをもとに、各グループでディスカッションできるように準備しておくこと。（30分）
事後	グループでのディスカッション内容をもとに、実演における自身の課題について整理しておくこと。（30分）

11	学外研修の実施～全体活動
事前	学外研修がスムーズに行えるよう、研修概要やスケジュールを十分理解しておくこと。（30分）
事後	全体活動の内容について振り返り、内容を整理しておくこと。（30分）

12	学外研修の実施～グループ活動
事前	グループ活動の内容について、各自で理解を深めておくこと。（30分）

事後	グループ活動の内容について振り返り、学修内容について整理しておくこと。(30分)

13	手作り名札制作に向けて
事前	名札の作成にあたって大切なことは何か、自分なりに整理しておくこと。(30分)
事後	手づくり名札を作成について、授業内で紹介した内容について整理しておくこと。(30分)

14	保育所見学事前指導
事前	川崎市内の保育所について、各自で調べておくこと。(30分)
事後	授業内で紹介した保育所見学の概要やスケジュールについて整理しておくこと。(30分)

15	前期のまとめ
事前	前期の学びについて、各自でまとめておくこと。(30分)
事後	前期の振り返りの内容をもとに、今後の自己課題を明確にしておくこと。(30分)

16	保育所の保育について学ぶ～所長講話
事前	見学園の概要について、各自で調べ特色を把握しておくこと。(30分)
事後	所長講話の内容について振り返り、学んだことを整理しておくこと。(30分)

17	保育所の保育について学ぶ～保育参観
事前	保育参観を行う上での注意点について、各自で考えておくこと。(30分)
事後	保育参観を通じて学んだことについて、整理しておくこと。(30分)

18	保育所の保育について学ぶ～保育実践
事前	実際に子どもと関わる際の注意点について、各自で検討し整理しておくこと。(30分)
事後	保育実践を振り返り、学んだことについて各自で整理しておくこと。(30分)

19	保育所の保育について学ぶ～見学の振り返り
事前	保育所の保育に意義や内容について、事前に整理しておくこと。(30分)
事後	保育所等の見学や実践を全体的に振り返り、学んだ内容と今後の課題について整理しておくこと。(30分)

20	学外研修の振り返り
事前	学外研修の内容について、全体的な振り返りをしておくこと。(30分)
事後	学外研修の振り返りについて、授業内で確認した内容をもとに再度振り返りを行うこと。(30分)

21	学外研修の学びの検討～グループ討議
事前	グループ発表に向けた準備を行うこと。(30分)
事後	グループ発表準備を振り返り、自身の学びや課題を整理しておくこと。(30分)

22	学外研修の学びの検討～発表用資料作成
事前	グループ討議の内容をもとに、発表資料の作成準備を行うこと。(30分)
事後	発表用資料作成を振り返り、自身の学びと課題を整理しておくこと。(30分)

23	学外研修報告会～前半グループの発表
事前	学外研修発表が行えるよう、各グループで内容や役割分担について確認しておくこと。(30分)
事後	グループの発表を聞いて、良かった点と改善点について整理しておくこと。(30分)

24	学外研修報告会～後半グループの発表
事前	学外研修発表が行えるよう、各グループで内容や役割分担について確認しておくこと。(30分)
事後	グループの発表を聞いて、良かった点と改善点について整理しておくこと。(30分)

25	学外保育行事「保育士を志す学生の集い」(6月)/「保育のつどい」(12月)事前指導
事前	学外保育行事に参加する意義について、自分なりに考えを整理しておくこと。(30分)
事後	授業内で紹介した概要について確認し、各自で準備を行うこと。(30分)

26	学外保育行事参加～式典の部
事前	式典の内容について、概要等をもとに理解を深めておくこと。(30分)
事後	式典で学んだ内容について整理し、自身の課題を明確にしておくこと。(30分)

27	学外保育行事の参加～公演の部
事前	公演の内容について、概要等をもとに理解を深めておくこと。(30分)

事後	公演で学んだ内容について整理し、自身の課題を明確にしておくこと。(30分)

28	地域の子育て支援について学ぶ～けろけろ田園チャイルド：全体報告会・講評【合同授業】
事前	各グループで実演内容について振り返り、課題を明確にしておくこと。(30分)
事後	全体報告会や講評の内容を踏まえて、振り返りを行うこと。(30分)

29	公立保育園(幼稚園)の保育者による講演【合同授業】
事前	公立保育園(幼稚園)において保育者に求められる役割や資質について自分なりに整理しておくこと。(30分)
事後	講演の内容を振り返り、保育者の役割や資質について理解を深めておくこと。(30分)

30	後期のまとめ
事前	通年の授業全体を振り返り、保育マインド実践講座で学んだ内容について整理しておくこと。(30分)
事後	後期の振り返りの内容をもとに、今後の自己課題を明確にしておくこと。(30分)

2020/07/16(木)20:34

科 目 名	保育内容総論 [子]			授業コード	4050022
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	保育内容と保育方法、総合的な指導、幼児期の見方・考え方、乳幼児の育ちと指導計画、教材研究と保育実践

到達目標	本授業のねらいは、幼稚園教育、保育所保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技術を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の3点である。 1）幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえた幼稚園、保育所における指導の考え方を理解している。（（1）幼児期の教育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。（2）遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。（3）幼稚園教育、保育所保育における幼児理解に基づく評価について説明できる。（4）幼稚園教育、保育所保育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。 2）幼稚園教育、保育所保育における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。（（1）幼稚園教育、保育所保育における指導計画の考え方について説明できる。（2）長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。（3）具体的な乳幼児の姿から指導計画を作成する手順と配慮点について説明できる。（4）指導計画の評価の考え方について説明できる。（5）乳幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方を説明できる。 3）乳幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。（（1）乳幼児の実態に沿って、物や人との関わりを深める視点から教材を工夫する力を付ける。（2）保育記録を書くことを通して、乳幼児を理解する力を付ける。（3）模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。） 【「履修ファイル」の対応項目: A-4(3)(4), B-3(1)~(5),C-2(4),D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】		
授業の概要	幼稚園教育、保育所保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解するとともに、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	ワークシート（20%）、コメントシート（20%）、発表・演習内容（30%）、最終レポート（30%）として評価します。		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業で、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	

II							
III						○	
IV							
V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育内容と保育方法:子どもを取り巻く社会背景及び保育内容の歴史的変遷を踏まえて～園生活全体を通し総合的に指導するとは
事前	子どもを取り巻く生活がどのように変化してきたか、各時代の幼児教育の特徴と合わせて整理し理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保育内容の変遷を踏まえて総合的に指導することについて理解を深めること。(0.5時間)

2	子どもの遊びから捉える保育内容～具体的な遊びの場面から
事前	子どもが遊びの中で経験する内容について、幼稚園教育要領解説を熟読し理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、遊びを通しての指導について理解を深めること。(0.5時間)

3	環境構成から捉える保育内容～子どもが経験している内容、遊びの意味とは
事前	遊びを支える環境構成について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、ごっこ遊びの意味について理解を深めること。(0.5時間)

4	環境構成から捉える保育内容～物的環境、人的環境との関わり
事前	物的環境、人的環境にはどのようなものがあるかを調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの育ちを支える保育所の役割について理解を深めること。(0.5時間)

5	遊びを通して育つこと～5領域のねらい及び内容から考える
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、5領域のねらい及び内容について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、総合的に育つことについて理解を深めること。(0.5時間)

6	入園前の家庭生活とのつながり～家庭における生活や遊び
事前	家庭生活とのつながりについて具体的な例を調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、3歳未満の子どもの生活と遊びについて理解を深めること。(0.5時間)

7	支援を要する子どもとクラス運営～一人一人の育ちを支える教師の援助
事前	支援を必要とする子どもについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、支援を要する子どもの生活や遊びと保育者の役割や環境構成について理解を深めること。(0.5時間)

8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容とのつながり
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳児期、幼児期、学童期以降の育ちのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

9	幼児教育における「見方・考え方」とは～具体的な活動から幼児教育の独自性について考える
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、幼児教育の見方・考え方について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、幼児教育と小学校教育の違いについて理解を深めること。(0.5時間)

10	乳幼児教育における教育課程・全体的な計画・指導計画の実際～製作のねらい、内容、教材、指導案、模擬保育
事前	全体的な計画、教育課程について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、教育課程と指導計画のつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

11	幼児教育における長期の指導計画と短期の指導計画～子どもの姿と教師の願い、援助

事前	長期指導計画と短期指導計画について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、指導計画と保育者の配慮について理解を深めること。(0.5時間)

12	行事に向けての指導計画～幼児教育における行事の在り方や指導法について情報機器、教材を用いて検討する
事前	指導計画に位置づく行事について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、行事の在り方や指導法について理解を深めること。(0.5時間)

13	縦割りの活動と指導計画～具体的な幼児の姿から養護及び教育、指導法について学ぶ
事前	縦割り保育の留意点について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、養護と教育の一体となった保育について理解を深めること。(0.5時間)

14	模擬保育(案)を目指して指導案を作成する～子どもの姿、ねらい、内容、教師の援助、評価
事前	年齢や発達に合わせた活動について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの姿を見取り、育ちを支える保育者の役割について理解を深めること。(0.5時間)

15	模擬保育の実施(グループ)～ねらい及び内容に沿った指導を実践的に学ぶ
事前	指導計画に必要な教材研究を行い、活動のねらいについて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、実践から見えた課題を整理し、計画を再構成するとともに、指導計画の流れや教師の役割、総合的な指導について理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:18

科 目 名	保育内容総論 [子]			授業コード	4050032
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	保育内容と保育方法、総合的な指導、幼児期の見方・考え方、乳幼児の育ちと指導計画、教材研究と保育実践

到達目標	本授業のねらいは、幼稚園教育、保育所保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技術を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の3点である。 1)幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえた幼稚園、保育所における指導の考え方を理解している。((1)幼児期の教育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。(2)遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。(3)幼稚園教育、保育所保育における幼児理解に基づく評価について説明できる。(4)幼稚園教育、保育所保育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。 2)幼稚園教育、保育所保育における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。((1)幼稚園教育、保育所保育における指導計画の考え方について説明できる。(2)長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。(3)具体的な乳幼児の姿から指導計画を作成する手順と配慮点について説明できる。(4)指導計画の評価の考え方について説明できる。(5)乳幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方を説明できる。 3)乳幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。((1)乳幼児の実態に沿って、物や人との関わりを深める視点から教材を工夫する力を付ける。(2)保育記録を書くことを通して、乳幼児を理解する力を付ける。(3)模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。) 【「履修ファイル」の対応項目: A-4(3)(4), B-3(1)~(5),C-2(4),D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】			
授業の概要	幼稚園教育、保育所保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解するとともに、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	ワークシート(20%)、コメントシート(20%)、発表・演習内容(30%)、最終レポート(30%)として評価します。		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業で、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	

II							
III						○	
IV							
V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育内容と保育方法:子どもを取り巻く社会背景及び保育内容の歴史的変遷を踏まえて～園生活全体を通し総合的に指導するとは
事前	子どもを取り巻く生活がどのように変化してきたか、各時代の幼児教育の特徴と合わせて整理し理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保育内容の変遷を踏まえて総合的に指導することについて理解を深めること。(0.5時間)

2	子どもの遊びから捉える保育内容～具体的な遊びの場面から
事前	子どもが遊びの中で経験する内容について、幼稚園教育要領解説を熟読し理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、遊びを通しての指導について理解を深めること。(0.5時間)

3	環境構成から捉える保育内容～子どもが経験している内容、遊びの意味とは
事前	遊びを支える環境構成について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、ごっこ遊びの意味について理解を深めること。(0.5時間)

4	環境構成から捉える保育内容～物的環境、人的環境との関わり
事前	物的環境、人的環境にはどのようなものがあるかを調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの育ちを支える保育所の役割について理解を深めること。(0.5時間)

5	遊びを通して育つこと～5領域のねらい及び内容から考える
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、5領域のねらい及び内容について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、総合的に育つことについて理解を深めること。(0.5時間)

6	入園前の家庭生活とのつながり～家庭における生活や遊び
事前	家庭生活とのつながりについて具体的な例を調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、3歳未満の子どもの生活と遊びについて理解を深めること。(0.5時間)

7	支援を要する子どもとクラス運営～一人一人の育ちを支える教師の援助
事前	支援を必要とする子どもについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、支援を要する子どもの生活や遊びと保育者の役割や環境構成について理解を深めること。(0.5時間)

8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容とのつながり
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳児期、幼児期、学童期以降の育ちのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

9	幼児教育における「見方・考え方」とは～具体的な活動から幼児教育の独自性について考える
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、幼児教育の見方・考え方について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、幼児教育と小学校教育の違いについて理解を深めること。(0.5時間)

10	乳幼児教育における教育課程・全体的な計画・指導計画の実際～製作のねらい、内容、教材、指導案、模擬保育
事前	全体的な計画、教育課程について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、教育課程と指導計画のつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

11	幼児教育における長期の指導計画と短期の指導計画～子どもの姿と教師の願い、援助

事前	長期指導計画と短期指導計画について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、指導計画と保育者の配慮について理解を深めること。(0.5時間)

12	行事に向けての指導計画～幼児教育における行事の在り方や指導法について情報機器、教材を用いて検討する
事前	指導計画に位置づく行事について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、行事の在り方や指導法について理解を深めること。(0.5時間)

13	縦割りの活動と指導計画～具体的な幼児の姿から養護及び教育、指導法について学ぶ
事前	縦割り保育の留意点について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、養護と教育の一体となった保育について理解を深めること。(0.5時間)

14	模擬保育(案)を目指して指導案を作成する～子どもの姿、ねらい、内容、教師の援助、評価
事前	年齢や発達に合わせた活動について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの姿を見取り、育ちを支える保育者の役割について理解を深めること。(0.5時間)

15	模擬保育の実施(グループ)～ねらい及び内容に沿った指導を実践的に学ぶ
事前	指導計画に必要な教材研究を行い、活動のねらいについて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、実践から見えた課題を整理し、計画を再構成するとともに、指導計画の流れや教師の役割、総合的な指導について理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:15

科 目 名	保育内容(人間関係) [子]			授業コード	4050042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	領域「人間関係」、総合的な指導、指導計画と実践、人と関わる力、乳幼児期の体験と学びの基礎
到達目標	本授業のねらいは、領域「人間関係」が「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを念頭に置き、幼稚園教育要領、保育所保育指針において育みたい資質能力について理解するとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及びないようについて背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の2点である。 1）幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。（（1）領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。（2）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。（3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。（4）幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。 2）乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。（（1）幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。（2）領域「人間関係」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。（3）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。（4）模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。（5）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。）
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及びないようについて、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。事例検討では、グループディスカッションやロールプレイ等を行い、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、ロールプレーイング、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	コメントシート（30%）、授業中の課題や諸活動への取り組み（30%）、授業内に実施する小テスト・レポート（40%）		

フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I							
II			○				
III						○	
IV							
V					○		

テキスト1	「コンパス保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」その他授業中に適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」
事前	領域「人間関係」のねらい及び内容と幼児教育の基本とのつながりについて理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、これからの社会を生きぬく人を育てる保育について理解を深めること。(2時間)

2	人との関わりを育てる保育実践～信頼関係と安心感を形成する援助の在り方
事前	子どもが安心して園生活を送るために必要なことについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、個々への丁寧な関わりと集団保育の展開について理解を深めること。(2時間)

3	人との関わりを育てる保育実践～自立心を育む援助の在り方
事前	3～5歳児の育ちの姿について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの姿に沿った保育者の援助と環境構成について理解を深めること。(2時間)

4	遊びや生活の中でのいざこざと教師の援助～他児の気持ちに気づく援助の在り方
事前	子ども同士のいざこざについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、遊びや生活を通して多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方について理解を深めること。(2時間)

5	気になる子どもと他児とのつながり～気持ちを調整すること、折り合いをつけること
事前	気になる子どもの姿について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、気になることもと他児が遊びを通してつながることの意味について理解を深めること。(2時間)

6	家庭生活・園生活・社会生活におけるきまり～幼児に必要な葛藤経験を情報機器を活用し考える
事前	園生活や家庭生活のきまりについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、園生活、家庭生活、社会生活のきまりと子どもに経験させたい内容について理解を深めること。(2時間)

7	ルールのある遊びと教師の援助～子どもにとって意味のあるきまりとは
事前	ルールのある遊びについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもたちが自分たちで意味のあるきまりをつくるプロセスを支える保育者の援助について理解を深めること。(2時間)

8	個と集団の育ちを支える教師の援助～遊びでつながる人間関係
事前	「個」と「集団」の育ちについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士の関わり合いを生かす間接的な援助について理解を深めること。(2時間)

9	協同的な遊びで育ち合う保育の展開～遊びの物語をつなぐ援助:指導案と模擬保育
事前	協同的な遊びについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料や実践を振り返り、遊びが子どもの主体的な活動によって展開され遊びのストーリーが紡がれる実践について理解を深めること。(2時間)

10	園行事と子どもの人間関係～協同的な活動:情報機器、教材、事例を用いて行事の意味を考える
事前	子ども同士の多様な関わりが期待される行事について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士が認め合う行事の展開について理解を深めること。(2時間)

11	幼稚園、保育所と小学校の連携・接続～相互主体的で互恵的な交流活動とは
事前	幼稚園や保育所と小学校との交流活動について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、幼稚園や保育所と小学校との相互主体的で互恵的な活動について理解を深めること。(2時間)

12	幼稚園、保育所と小学校の連携・接続～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して小学校との接続する意味やスタートカリキュラムについて理解を深めること。(2時間)

13	地域に開かれた幼稚園、保育所～地域の人との関わりやつながりと人間関係の育ちを考える
事前	地域に開かれた園の具体的な事例について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、多様な人との関わりにある特徴を捉え、幼児期に経験させたい地域の人との関わりについて理解を深めること。(2時間)

14	様々な活動を通して広がる多様な人、多様な子どもとの関わり～豊かな人間関係を育むために
事前	多様な人間関係の構築につながる指導計画について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、幼児期の豊かな経験の意味やそれを保障する指導計画や保育者の援助について理解を深めること。(2時間)

15	領域「人間関係」をめぐる現代的課題・まとめ
事前	人間関係をめぐる現代的課題について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、領域「人間関係」のねらい及び内容について子どもの姿や保育実践と関連させながら、幼児期にふさわしい生活の保障について理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)21:10

科 目 名	保育内容(人間関係) [子]			授業コード	4050052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	領域「人間関係」、総合的な指導、指導計画と実践、人と関わる力、乳幼児期の体験と学びの基礎
到達目標	本授業のねらいは、領域「人間関係」が「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものであることを念頭に置き、幼稚園教育要領、保育所保育指針において育みたい資質能力について理解するとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及びないようについて背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の2点である。 1）幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。（（1）領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。（2）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。（3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。（4）幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。 2）乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。（（1）幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。（2）領域「人間関係」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。（3）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。（4）模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。（5）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。）
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及びないようについて、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。事例検討では、グループディスカッションやロールプレイ等を行い、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、ロールプレーイング、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	コメントシート（30%）、授業中の課題や諸活動への取り組み（30%）、授業内に実施する小テスト・レポート（40%）		

フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I							
II			○				
III						○	
IV							
V					○		

テキスト1	「コンパス保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」その他授業中に適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」
事前	領域「人間関係」のねらい及び内容と幼児教育の基本とのつながりについて理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、これからの社会を生きぬく人を育てる保育について理解を深めること。(2時間)

2	人との関わりを育てる保育実践～信頼関係と安心感を形成する援助の在り方
事前	子どもが安心して園生活を送るために必要なことについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、個々への丁寧な関わりと集団保育の展開について理解を深めること。(2時間)

3	人との関わりを育てる保育実践～自立心を育む援助の在り方
事前	3～5歳児の育ちの姿について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの姿に沿った保育者の援助と環境構成について理解を深めること。(2時間)

4	遊びや生活の中でのいざこざと教師の援助～他児の気持ちに気づく援助の在り方
事前	子ども同士のいざこざについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、遊びや生活を通して多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方について理解を深めること。(2時間)

5	気になる子どもと他児とのつながり～気持ちを調整すること、折り合いをつけること
事前	気になる子どもの姿について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、気になることもと他児が遊びを通してつながることの意味について理解を深めること。(2時間)

6	家庭生活・園生活・社会生活におけるきまり～幼児に必要な葛藤経験を情報機器を活用し考える
事前	園生活や家庭生活のきまりについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、園生活、家庭生活、社会生活のきまりと子どもに経験させたい内容について理解を深めること。(2時間)

7	ルールのある遊びと教師の援助～子どもにとって意味のあるきまりとは
事前	ルールのある遊びについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもたちが自分たちで意味のあるきまりをつくるプロセスを支える保育者の援助について理解を深めること。(2時間)

8	個と集団の育ちを支える教師の援助～遊びでつながる人間関係
事前	「個」と「集団」の育ちについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士の関わり合いを生かす間接的な援助について理解を深めること。(2時間)

9	協同的な遊びで育ち合う保育の展開～遊びの物語をつなぐ援助:指導案と模擬保育
事前	協同的な遊びについて調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料や実践を振り返り、遊びが子どもの主体的な活動によって展開され遊びのストーリーが紡がれる実践について理解を深めること。(2時間)

10	園行事と子どもの人間関係～協同的な活動:情報機器、教材、事例を用いて行事の意味を考える
事前	子ども同士の多様な関わりが期待される行事について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士が認め合う行事の展開について理解を深めること。(2時間)

11	幼稚園、保育所と小学校の連携・接続～相互主体的で互恵的な交流活動とは
事前	幼稚園や保育所と小学校との交流活動について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、幼稚園や保育所と小学校との相互主体的で互恵的な活動について理解を深めること。(2時間)

12	幼稚園、保育所と小学校の連携・接続～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して小学校との接続する意味やスタートカリキュラムについて理解を深めること。(2時間)

13	地域に開かれた幼稚園、保育所～地域の人との関わりやつながりと人間関係の育ちを考える
事前	地域に開かれた園の具体的な事例について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、多様な人との関わりにある特徴を捉え、幼児期に経験させたい地域の人との関わりについて理解を深めること。(2時間)

14	様々な活動を通して広がる多様な人、多様な子どもとの関わり～豊かな人間関係を育むために
事前	多様な人間関係の構築につながる指導計画について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、幼児期の豊かな経験の意味やそれを保障する指導計画や保育者の援助について理解を深めること。(2時間)

15	領域「人間関係」をめぐる現代的課題・まとめ
事前	人間関係をめぐる現代的課題について調べ理解しておくこと。(2時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、領域「人間関係」のねらい及び内容について子どもの姿や保育実践と関連させながら、幼児期にふさわしい生活の保障について理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)10:55

科 目 名	保育内容（人間関係I） [子]			授業コード	4050062
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	領域「人間関係」、子どもを取り巻く人間関係、「個」と「集団」の育ち、人と関わる力、保育者の援助

到達目標	授業のねらいは、以下の3点である。 ①保育における領域「人間関係」の意義と位置づけについて理解できるようになる。 ②子どもたちのかかわりや世界の広がりや深まりを読み解くための基本的な視点を獲得するとともに、それらの育ちを支える保育者の援助の在り方について考えることができるようになる。 ③子どもの育ちを支える保護者や地域社会、同僚との人間関係のあり方や保育を構想することについて考えることができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：B-1(4)(5)(6)(7),B-3(1)(2)(3)(4)(5),C-2(4),D-2(1)(2)(3)(5)(6),D-3(1)(2)(3)(4)(5)】
授業の概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育内容の基本的な捉え方を踏まえつつ、領域「人間関係」の意義や内容について学ぶ。その上で、多様な実践事例やビデオなどを通して、子どもたちが遊びや生活のなかで、人とのかかわりを広げ深めていく過程について理解を深める。また、個々の子どもの育ちを支えていく保育者の視点や援助について、グループワークなどを通して検討し、学びを深めていく。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、ロールプレーイ、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	コメントシート（30%）、授業中の課題や諸活動への取り組み（30%）、授業内に実施する小テスト・レポート（40%）		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業で、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	コンパス『保育内容人間関係』建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、領域「人間関係」と幼稚園教育の基本とのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

2	保育内容の捉え方と領域「人間関係」
事前	幼児期にふさわしい生活の展開について調べ学んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちにとって主体的な遊びが重要であることについて理解を深めてること。(0.5時間)

3	子どもを取り巻く人々と「人間関係」にかかわる現代的課題
事前	子どもを取り巻く現代社会の課題について調べ理解を深めておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちに必要な経験について理解を深めること。(0.5時間)

4	人とのかかわりを育てる保育実践(1)～乳児期を中心に～
事前	乳幼児期の人間関係の発達について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちを支える身近な大人との信頼関係の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

5	人とのかかわりを育てる保育実践(2)～幼児期を中心に～
事前	子どもの人間関係の育ちを支える遊びについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが遊びや生活を通して多様な人間関係が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

6	子どもたちの関係性を捉える保育者のまなざし(1)～自立を支える「心の拠り所」～
事前	子どものイヤイヤ期について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの自立心が育つプロセスや心の拠り所の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

7	子どもたちの関係性を捉える保育者のまなざし(2)～いざこざ・トラブル・葛藤～
事前	乳幼児期のいざこざやトラブルにはどのようなものがあるかを調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちにとって、いざこざやトラブルにはポジティブな側面もあることをについて理解を深めること。(0.5時間)

8	子どもたちの関係性を捉える保育者のまなざし(3)～イメージの共有・協働する経験～
事前	子どもの協同性が育つ生活経験について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが協力してやり遂げる力が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

9	人とのかかわりを育てる保育者の役割(1)～保育における遊びと学び～
事前	遊びの中で培われる学びについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、遊びを通しての総合的な指導について理解を深めること。(0.5時間)

10	人とのかかわりを育てる保育者の役割(2)～遊びを支える保育者の援助～
事前	一人遊びの意義について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが遊びの中で経験している内容について見取ることの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

11	「個」と「集団」の育ちを支える保育者の理解と援助～保育における両義性～
事前	保育における両義性について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、私の世界と私たちの世界の両義性や二人称的関わりの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

12	保護者支援と保育者の役割～子どもの育ちを支える保護者との関係～
事前	子育て支援が必要な背景について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保護者と保育者が子どもの育ちや成長を共有できることの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

13	地域、関係機関、小学校とのつながりと子どもの育ち
事前	子どもの身近な関係の貧困化について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保育園、幼稚園と小学校とのつながりやスタートカリキュラムについて理解を深めること。(0.5時間)

14	子どものかかわりの世界を支える保育実践～省察を生み出す対話的関係、ホリスティックな保育実践をめざして～
事前	ホリスティックの語源について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、生活基盤型の保育の重要性や子どもが全人的に育つことの意味について理解を深めること。(0.5時間)

15	まとめ
事前	これまでの授業の内容を振り返り、領域「人間関係」の意義や総合的な指導について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	遊びを通しての総合的な指導は、子どもの人間関係の育ちにとって重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:34

科 目 名	保育内容（人間関係II） [子]			授業コード	4050071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	領域「人間関係」、総合的な指導、「個」と「集団」の育ち、子どもを取り巻く人間関係、遊びと人間関係

到達目標	授業のねらいは以下の3点である。 ①子どもの視点から人とのかかわりを捉えながら、生活や遊びを総合的に支えていける保育者の役割について理解できるようになる。 ②乳幼児が人とかかわる力を身に着けていく過程や、「個」と「集団」の育ちを支える保育者の役割や援助について理解できるようになる。 ③子どものかかわりを育てる保護者や地域社会との関係や援助、具体的な保育を構想する保育者の専門性について理解できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目: B-1(4)～(7),B-3(1)~(5),C-2(4) D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】		
授業の概要	乳幼児期における人とのかかわりが育つための保育者の援助や保育の在り方について、子どもを取り巻く環境の変化も視野に入れながら実践事例を通して理解を深めていく。事例検討では、グループディスカッションやロールプレイング等を行い、他領域との関係や保育者、保護者、地域の人々とのかかわりの重要性など総合的に学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、ロールプレーイ、グループ発表
評価方法 及び評価基準	レポート	・コメントシート（30%）、授業中の課題や諸活動への取り組み（30%）、授業内に実施する小テスト・レポート（40%）		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての 注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III						○	
IV							

V							

テキスト1	コンパス「保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスを確認し、各回の内容に関するテキストの該当箇所を熟読するとともに、子どもの人間関係の育ちについて、保育内容(人間関係Ⅰ)で学んだことを振り返り理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、関連する現代的課題について調べ理解を深めること。(0.5時間)

2	人と人の関係
事前	テキストの該当箇所を熟読し、各章に共通している「子どもの訴えを聞く」ということについて自分なりの考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの育ちとの関連について考えを整理しておくこと。(0.5時間)

3	幼児教育の基本と領域「人間関係」
事前	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が人間関係の育ちとどのようにつながっているが理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、関連する現代的課題について調べ理解を深めること。(0.5時間)

4	子どもを取り巻く人々と人間関係
事前	自分の周りの人間関係について調べ様々な視点で見る人間関係について理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもを取り巻く様々な人間関係と多様性を生かす保育について理解を深めること。(0.5時間)

5	乳児保育における人間関係
事前	乳児の人間関係はどのように発達するか調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、乳児の人間関係の育ちと保育者に求められる応答性について理解を深めること。(0.5時間)

6	子どもの遊びと人間関係①～遊びが支える人間関係～
事前	遊びは子どもの人間関係にとってどのような意味があるか整理してくること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの遊びの意味を読み取ることの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

7	子どもの遊びと人間関係②～からだでつながる人間関係～
事前	子どもの遊びにおける身体的なつながりについてしらべ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、遊ぶことと人間関係のつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

8	子どもの遊びと人間関係③～遊び込む時間と場所と人間関係～
事前	テキストの該当箇所を熟読し、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの遊びにおけるストーリーの共有について理解を深めること。(0.5時間)

9	子どもの自我と人間関係
事前	自我の発達と子どもの人間関係について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、保育者が介入することと、見守ることの意味について理解を深めること。(0.5時間)

10	子どものさまざまな感情と人間関係
事前	子どもが様々な感情をだすことの意味について考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、感情表現と自我の育ちについて理解を深めること。(0.5時間)

11	他への賞賛と人間関係
事前	子ども同士の中の賞賛について具体的な例を考え理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士の思いやりや平等の意味について理解を深めること。(0.5時間)

12	個性的な子どもと人間関係～「私」と「私たち」の世界に視点を当てて
事前	個性的な子どもの姿を整理し、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、一人一人の子どもの世界に寄り添うことや子どもの世界を広げる二人称的な関わりについて理解を深めること。(0.5時間)

13	領域「人間関係」からみた小学校との連携
事前	保幼小連携の課題について整理し、理解すること。
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、小学校との連携の在り方やスタートカリキュラムの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

14	これからの幼児教育の展望と課題～領域「人間関係」の視点から～
事前	これからの社会に向けた育みたい資質能力について考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、人間関係を育む就学前保育施設の役割について理解を深めること。(0.5時間)

15	まとめ
事前	子どもの訴えを聴くとはどのようなことか考えを整理すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの人間関係の育ちを支える保育の展開について考え、子ども・人間をどのようにとらえるのか理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:08

科 目 名	保育内容（人間関係II） [子]			授業コード	4050081
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	領域「人間関係」、総合的な指導、「個」と「集団」の育ち、子どもを取り巻く人間関係、遊びと人間関係

到達目標	授業のねらいは以下の3点である。 ①子どもの視点から人とのかかわりを捉えながら、生活や遊びを総合的に支えていける保育者の役割について理解できるようになる。 ②乳幼児が人とかかわる力を身に着けていく過程や、「個」と「集団」の育ちを支える保育者の役割や援助について理解できるようになる。 ③子どものかかわりを育てる保護者や地域社会との関係や援助、具体的な保育を構想する保育者の専門性について理解できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目: B-1(4)～(7),B-3(1)~(5),C-2(4) D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】			
授業の概要	乳幼児期における人とのかかわりが育つための保育者の援助や保育の在り方について、子どもを取り巻く環境の変化も視野に入れながら実践事例を通して理解を深めていく。事例検討では、グループディスカッションやロールプレイング等を行い、他領域との関係や保育者、保護者、地域の人々とのかかわりの重要性など総合的に学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、ロールプレーイ、グループ発表
評価方法及び評価基準	レポート	・コメントシート（30%）、授業中の課題や諸活動への取り組み（30%）、授業内に実施する小テスト・レポート（40%）		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III						○	
IV							

V							

テキスト1	コンパス「保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスを確認し、各回の内容に関するテキストの該当箇所を熟読するとともに、子どもの人間関係の育ちについて、保育内容(人間関係Ⅰ)で学んだことを振り返り理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、関連する現代的課題について調べ理解を深めること。(0.5時間)

2	人と人の関係
事前	テキストの該当箇所を熟読し、各章に共通している「子どもの訴えを聞く」ということについて自分なりの考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの育ちとの関連について考えを整理しておくこと。(0.5時間)

3	幼児教育の基本と領域「人間関係」
事前	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が人間関係の育ちとどのようにつながっているが理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、関連する現代的課題について調べ理解を深めること。(0.5時間)

4	子どもを取り巻く人々と人間関係
事前	自分の周りの人間関係について調べ様々な視点で見る人間関係について理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもを取り巻く様々な人間関係と多様性を生かす保育について理解を深めること。(0.5時間)

5	乳児保育における人間関係
事前	乳児の人間関係はどのように発達するか調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、乳児の人間関係の育ちと保育者に求められる応答性について理解を深めること。(0.5時間)

6	子どもの遊びと人間関係①～遊びが支える人間関係～
事前	遊びは子どもの人間関係にとってどのような意味があるか整理してくること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの遊びの意味を読み取ることの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

7	子どもの遊びと人間関係②～からだでつながる人間関係～
事前	子どもの遊びにおける身体的なつながりについてしらべ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、遊ぶことと人間関係のつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

8	子どもの遊びと人間関係③～遊び込む時間と場所と人間関係～
事前	テキストの該当箇所を熟読し、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの遊びにおけるストーリーの共有について理解を深めること。(0.5時間)

9	子どもの自我と人間関係
事前	自我の発達と子どもの人間関係について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、保育者が介入することと、見守ることの意味について理解を深めること。(0.5時間)

10	子どものさまざまな感情と人間関係
事前	子どもが様々な感情をだすことの意味について考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、感情表現と自我の育ちについて理解を深めること。(0.5時間)

11	他への賞賛と人間関係
事前	子ども同士の中の賞賛について具体的な例を考え理解すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子ども同士の思いやりや平等の意味について理解を深めること。(0.5時間)

12	個性的な子どもと人間関係～「私」と「私たち」の世界に視点を当てて
事前	個性的な子どもの姿を整理し、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、一人一人の子どもの世界に寄り添うことや子どもの世界を広げる二人称的な関わりについて理解を深めること。(0.5時間)

13	領域「人間関係」からみた小学校との連携
事前	保幼小連携の課題について整理し、理解すること。
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、小学校との連携の在り方やスタートカリキュラムの重要性について理解を深めること。(0.5時間)

14	これからの幼児教育の展望と課題～領域「人間関係」の視点から～
事前	これからの社会に向けた育みたい資質能力について考えを整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、人間関係を育む就学前保育施設の役割について理解を深めること。(0.5時間)

15	まとめ
事前	子どもの訴えを聴くとはどのようなことか考えを整理すること。(0.5時間)
事後	配布された資料やコメントシートの内容について振り返り、子どもの人間関係の育ちを支える保育の展開について考え、子ども・人間をどのようにとらえるのか理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)10:56

科 目 名	子どもと人間関係 [子]			授業コード	4050091
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	領域「人間関係」、子どもを取り巻く人間関係、関係論的発達、人と関わる力、保育者の援助

到達目標	本授業のねらいは、領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の2点である。 1）乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。（（1）乳幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。（2）人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。） 2）幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。（（1）乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。（2）乳児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。（3）自立心の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。（4）協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。（5）道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。（6）家族や地域の関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。）			
授業の概要	子どもを取り巻く社会状況の変化や現代的な教育課題を踏まえ、関係発達論的な視点から幼児期の人間関係の発達を理解し、幼児教育において保障すべき教育内容について考察する。その際、具体的な事例を取り上げながら、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、ロールプレーイング、グループ発表
評価方法 及び評価基準	レポート	ワークシート（20%）、コメントシート（20%）、発表・演習内容（30%）、小テスト・レポート（30%）として評価します。		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。			
履修に際しての 注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	コンパス「保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会と子どもを取り巻く人間関係
事前	子どもを取り巻く現代社会の課題について調べ理解を深めておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちに必要な経験について理解を深めること。(0.5時間)

2	家庭や地域社会の変化と幼児教育
事前	家庭や地域社会と集団保育施設のつながりについて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるものについて理解を深めること。(0.5時間)

3	乳児期における人間関係の発達～身近な大人との関係を基盤として～
事前	乳幼児期の人間関係の発達について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちを支える身近な大人との信頼関係の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

4	乳幼児期の自立心の育ちと心の拠り所
事前	子どものイヤイヤ期について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの自立心が育つプロセスや心の拠り所の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

5	幼児期における人間関係の発達～遊びや生活を通して～
事前	子どもの人間関係の育ちを支える遊びについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが遊びや生活を通して多様な人間関係が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

6	幼児期における人間関係の発達～周辺的な参加を通して～
事前	周辺参加論について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、一人遊びの意味や人と関わる力が育つプロセスには様々な参加の姿があることについて理解を深めること。(0.5時間)

7	いざこざやトラブル、葛藤と子どもの人間関係
事前	乳幼児期のいざこざやトラブルにはどのようなものがあるかを調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちにとって、いざこざやトラブルにはポジティブな側面もあることをについて理解を深めること。(0.5時間)

8	関係性の育ち支える保育
事前	子どもの人に向かう力について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの関係性の育ちにとって、保育者の応答性やまなざしの細やかさが重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

	個と集団の育ちを支える保育

9	
事前	「個」と「集団」の両義性について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保育の両義性を支える保育者の子ども理解の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

10	イメージの共有、協働する経験と協同性の育ち
事前	子どもの協同性が育つ生活経験について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが協力してやり遂げる力が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

11	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
事前	子どもの葛藤経験について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの葛藤経験の必要性や折り合いをつけたり、気持ちを立て直したりする力の育ちについて理解を深めること。(0.5時間)

12	子どもの人間関係の育ち支える大人の人間関係
事前	子どもの人間関係の育ちを支える周囲の大人にはどのような役割があるか調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子ども人間関係の育ちには、保育者同士の人間関係や保育者と保護者の関係が重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

13	子どもの人間関係の育ちを支える、家庭、園、地域とのつながり
事前	家庭生活と園生活のつながりについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、地域に開かれた園や多様な関わりが、子どもの人間関係の広がりにとって重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

14	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、幼児期に育みたい資質・能力について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳幼児期の独自性と学びのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

15	子どもの人間関係の育ちと幼小接続
事前	小1プロブレムについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳幼児期と小学校以降の学びのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:10

科 目 名	子どもと人間関係 [子]			授業コード	4050101
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	領域「人間関係」、子どもを取り巻く人間関係、関係論的発達、人と関わる力、保育者の援助

到達目標	本授業のねらいは、領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることである。本授業の到達目標は以下の2点である。 1）乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。（（1）乳幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。（2）人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。） 2）幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。（（1）乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。（2）乳児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。（3）自立心の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。（4）協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。（5）道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。（6）家族や地域の関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。）				
授業の概要	子どもを取り巻く社会状況の変化や現代的な教育課題を踏まえ、関係発達論的な視点から幼児期の人間関係の発達を理解し、幼児教育において保障すべき教育内容について考察する。その際、具体的な事例を取り上げながら、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。				
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッション、ロールプレーイング、グループ発表	
評価方法 及び評価基準	レポート	ワークシート（20%）、コメントシート（20%）、発表・演習内容（30%）、小テスト・レポート（30%）として評価します。			
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。 事後の授業またはでんでんばんで、小テストやレポートの出題の意図について説明し、講評する。				
履修に際しての 注意事項	グループワークやディスカッションなど、積極的に参加し学びを深めること。 また、小テストやレポートの課題は、授業に参加していないと解答が困難であるため、授業への積極的な参加が望まれる。 授業に必要な教材は必ず持参すること。				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	コンパス「保育内容人間関係」建帛社	978-4-7679-5061-7
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会と子どもを取り巻く人間関係
事前	子どもを取り巻く現代社会の課題について調べ理解を深めておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちに必要な経験について理解を深めること。(0.5時間)

2	家庭や地域社会の変化と幼児教育
事前	家庭や地域社会と集団保育施設のつながりについて理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるものについて理解を深めること。(0.5時間)

3	乳児期における人間関係の発達～身近な大人との関係を基盤として～
事前	乳幼児期の人間関係の発達について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちを支える身近な大人との信頼関係の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

4	乳幼児期の自立心の育ちと心の拠り所
事前	子どものイヤイヤ期について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの自立心が育つプロセスや心の拠り所の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

5	幼児期における人間関係の発達～遊びや生活を通して～
事前	子どもの人間関係の育ちを支える遊びについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが遊びや生活を通して多様な人間関係が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

6	幼児期における人間関係の発達～周辺的な参加を通して～
事前	周辺参加論について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、一人遊びの意味や人と関わる力が育つプロセスには様々な参加の姿があることについて理解を深めること。(0.5時間)

7	いざこざやトラブル、葛藤と子どもの人間関係
事前	乳幼児期のいざこざやトラブルにはどのようなものがあるかを調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの人間関係の育ちにとって、いざこざやトラブルにはポジティブな側面もあることをについて理解を深めること。(0.5時間)

8	関係性の育ち支える保育
事前	子どもの人に向かう力について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの関係性の育ちにとって、保育者の応答性やまなざしの細やかさが重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

	個と集団の育ちを支える保育

9	
事前	「個」と「集団」の両義性について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、保育の両義性を支える保育者の子ども理解の重要性について理解を深めること。(0.5時間)

10	イメージの共有、協働する経験と協同性の育ち
事前	子どもの協同性が育つ生活経験について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもが協力してやり遂げる力が育つプロセスについて理解を深めること。(0.5時間)

11	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
事前	子どもの葛藤経験について調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの葛藤経験の必要性や折り合いをつけたり、気持ちを立て直したりする力の育ちについて理解を深めること。(0.5時間)

12	子どもの人間関係の育ち支える大人の人間関係
事前	子どもの人間関係の育ちを支える周囲の大人にはどのような役割があるか調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、子ども人間関係の育ちには、保育者同士の人間関係や保育者と保護者の関係が重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

13	子どもの人間関係の育ちを支える、家庭、園、地域とのつながり
事前	家庭生活と園生活のつながりについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、地域に開かれた園や多様な関わりが、子どもの人間関係の広がりにとって重要であることについて理解を深めること。(0.5時間)

14	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係
事前	幼稚園教育要領解説を熟読し、幼児期に育みたい資質・能力について理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳幼児期の独自性と学びのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

15	子どもの人間関係の育ちと幼小接続
事前	小1プロブレムについて調べ理解しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容を振り返り、乳幼児期と小学校以降の学びのつながりについて理解を深めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:36

科 目 名	保育所実習I [子]			授業コード	4050113
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				
保育現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	保育所の機能、養護と教育、子ども理解、保育者の援助と役割
到達目標	＜「保育所実習Ⅰ」の共通課題＞ ①保育所における保育の流れを理解し、主体的に保育に参加する。 ②子どもの育ちを理解し、それに応じた保育者の援助や役割、および保育の内容や展開について学ぶ。 ③保育所の役割や機能について理解する。 ※以上の共通課題の他、各自の自己課題を設定し、「共通課題」と合わせて「実習課題」とし、実習に臨む。
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において2週間の観察・参加実習を行う。保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。本実習を通して、大学での学びを基礎とし、総合的に応用する保育実践力を養い、自らの保育士像を確立していく。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	観察実習、参加実習、部分実習
評価方法 及び評価基準	―	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	・「保育所実習指導Ⅰ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤および遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV		○					

V						○	

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』(令和元年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、「保育所実習指導Ⅰ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1.保育所保育指針の内容を踏まえ、保育所の役割と機能について理解を深める。 2.保育所における保育の流れや生活を把握し、次の活動を見通しつつ、自ら動けるようになる。 3.子どもの生活や遊びにおける保育所全体の環境、園庭や保育室などの環境構成について理解する。 4.子どもの観察および記録や子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達過程を理解する。 5.子どもの育ちに応じた保育内容や方法・保育の展開に着目し、実践と保育課程・指導計画との関係を理解する。 6.責任実習として、生活や遊びなどの一部分を担当し、保育士の役割や援助について実践的に学ぶ。 7.職員間の役割分担や連携・チームワークについて理解する。 8.専門職としての保育士の役割および業務内容について理解を深める。 9.子どもの人権や個人情報に配慮する保育士の職業倫理について具体的に学ぶ。 10.子どもの心身の状態の把握、適切な保育環境・安全対策など、子どもの健康・安全および衛生に関する保育士の配慮について学ぶ。 11.保護者と保育士とのコミュニケーションを通して、家庭支援における保育所の役割について学ぶ。 12.家庭および地域社会との交流や連携、地域の子育て家庭に対する支援における保育所の役割について学ぶ。
事前	子どもたちと共に生活する保育者として、相応しいと思える立ち居振る舞いを考え、日頃から意識して過ごす。全ての授業に意欲的に参加する。特に就学前の子どもとの関わりを積極的にもち、子どもの理解に努める。
事後	実習中の記録や評価、指導者からのコメントなどを元に振り返りを行い、自己の課題を整理するとともに、実践の後ろ盾となる理論について学びを深め、2段階目の実習に向けて準備を進める。

2020/07/16(木)22:37

科 目 名	保育所実習II [子]			授業コード	4050123
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	保育士の職務、子どもに即した保育、保育所の社会的役割、指導計画の立案・実践

到達目標	＜「保育所実習Ⅱ」の共通課題＞ ①主体的に保育に参加し、子どもの生活に即した保育についての理解を深める。 ②子どもの育ちに応じた指導計画を立案し、それに基づいた保育の実践・評価を行う。 ③保育士の職務を経験し、援助のあり方や役割について理解を深める。 ④多様な保育ニーズへの対応、その意味について深く考察し、保育所の社会的役割についての理解をさらに深める。 ※以上の共通課題の他、各自の自己課題を設定し、「共通課題」と合わせて「実習課題」とし、実習に臨む。 【「履修ファイル」の対応項目：A-1(1),A-2(3),B-1(1)～(7),B-2(1)～(6),B-3(1)～(6),C-1(1)(2), C-2(3), C-3(1)～(5),C-4(1)～(8),D-1(1)～(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5),D-4(1)～(3)】			
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程の選択必修の実習として、認可保育所において2週間の実習を行う。「保育所実習Ⅰ」をふまえ、参加・指導実習を中心とした、より専門性の高い実習を行う。保育所の生活に積極的に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、指導実習を通して保育実践力の向上を目指す。さらに、保育所における子育て支援の実際について学び、保育者としての自己課題を明確にする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習
評価方法 及び評価基準	―	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	・「保育所実習Ⅰ」を履修済みであること。 ・「保育所実習指導Ⅱ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤および遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ 実習の手引き』(平成30年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、「保育所実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 保育全般に参加し、保育士として必要な資質・能力・知識・技術を高める。 2. 子どもと積極的にかかわり、求められる援助のあり方や環境構成について自分なりに考え実践する。 3. 発達の遅れや障がいなど、個々の子どもが必要とするさまざまな配慮について理解し、援助のあり方を学ぶ。 4. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、集団全体に目を向け、子ども同士の「関係」への援助を考える。 5. 保育課程に基づき、子どもの発達や育ちに応じた指導計画を立案して実践し、実践に対する省察および評価を通じて保育の過 程について理解する。 6. 保育所と地域社会との交流や連携の方法について実践を通して具体的に学び、保育所の社会的役割や保育士の役割について 考える。 7. 多様な保育ニーズへの対応の実情について学び、子どもの育ち、保護者の子育て支援などの観点から、その意味について考 察する。 8. 保育所と保護者とのコミュニケーションをより深く学び、入所する子どもの保護者に対する支援について理解する。 9. 子どもの最善の利益への配慮をはじめとする保育士の職業倫理について具体的に学ぶ。 10. 保育士に必要な資質や能力について理解し、保育士としての今後の自己課題を明確にする。 ※①～④の共通課題および自己課題をねらいとして、さらに上記のような内容について実習を通してより実践的に学ぶことが期待される。
事前	保育所実習Ⅰでの実践や評価を振り返り、自己課題を整理するとともに、実習に向けて必要な学びを深めるとともに、教材研究を行い、指導計画の立案や実践に向けて準備を進めること。
事後	実習中の記録や評価、指導者からのコメントなどを元に振り返りを行い、自己の課題を整理するとともに、実践の後ろ盾となる理論について学びを深め、保育者に必要とされる専門性について整理し、保育実践的力の向上を目指す。

2020/07/16(木)21:33

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園) [子]			授業コード	4050132
副 題					
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				
幼稚園教諭の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	保育者の職務理解、子ども理解、保育内容、協働と実践的理解、保育キャリア
到達目標	保育に関する理論的学習と実習をはじめとする実践的学びとの統合を図り、保育現場に臨む意識・意欲を高めながら、保育者としての資質をより一層確実に形成することを目的とする。 この目的に対し、以下の目標を設定する。 1. これまでの保育実践を振り返り、自己の課題や保育に関するテーマを明確にできる。 2. 保育実践力の向上のために、その課題やテーマに対して、他者と協働しながらさまざまな角度や視点から取り組むことができるようになる。 3. 保育者の職務内容への理解を深め、保育者としての使命と責任についての自覚をもつことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：本科目は全項目と密接なかかわりを持つ】
授業の概要	保育者として必要な知識・技能の修得を総合的に目指すために、子ども理解、保育内容、保育教材、保育技術、保育の環境構成、指導計画、保育者の役割と援助、担任業務と学級運営、現代社会において求められる幼稚園・保育所・施設の機能と役割、保育者として必要な対人関係能力、保育者の責任と使命の自覚などを主な学習項目として、受講生同士の主体的な協議・検討を通じて、協働的・実践的に学ぶ。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・保育現場での実習体験から、保育にかかわる課題を発見し、課題解決にむけて、テーマごとのグループ討論を行う。 ・数人のグループワークを実施した後、学年全体で実習を振り返り、研究発表を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生独自のアイディアを活かした「まとめ課題」を作成する。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート（30%）、提出物（40%）、グループワークの成果物（30%）		
フィードバック	個人、およびグループでのシートやワーク等について、良い点、改善点等、振り返りのアドバイスを授業内でを伝える。			
履修に際しての 注意事項	・グループワークを中心とした演習科目であるので、積極的に参加する姿勢が求められる。特に、グループ研究に関しては、授業時間外でもグループ作業が必要となるので留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III						○	
IV							○
V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科「履修ファイル」、 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 各自の全実習日誌ほか、授業において適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション:本科目の意義と目的、授業計画の説明、保育の主要テーマに関するグループ討議【合同授業】
事前	シラバスを熟読する。また、実習日誌を読み実習体験を振り返っておくこと。(2時間)
事後	実習日誌から、自己課題として深めたい内容を整理しておく。(2時間)

2	事例検討①各自の実習体験事例に関するグループ討議
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
事後	グループ討議の内容をまとめ、記録しておくこと。(2時間)

3	グループ研究①課題の抽出および研究テーマの確認
事前	研究テーマを念頭に置き、3要領を読んでおくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

4	グループ研究②グループ別テーマの検討・テーマに関する基本的知識の復習
事前	テーマについての資料や文献を準備しておくこと。(2時間)
事後	研究作業に必要な各自の分担課題をまとめ,深めておくこと。(2時間)

5	グループ研究③グループ別テーマの検討・テーマに関する事例の検討
事前	[プレゼンテーション」とは、どういうものなのか、調べておくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

6	グループ研究④グループ別テーマの検討・テーマに関する事例に基づく討議
事前	自分たちのグループに適したプレゼン方法の資料を用意しておくこと。(2時間)
事後	グループ活動が円滑に進むようにグループ内での各自の役割を自覚し、役割に関する内容を整理すること。(2時間)

7	グループ研究⑤グループ研究報告会中間報告
事前	中間発表のプレゼンテーション準備をしておくこと。(2時間)
事後	他グループの中間発表を参考に自身のグループの振り返りをすること。(2時間)

8	グループ研究⑥グループ研究報告会におけるプレゼン方法・資料の再検討
事前	中間発表のプレゼンテーション練習をしておくこと。(2時間)
事後	各グループにおけるテーマに向けてメンバー同士が協働できるよう発表内容を整理すること。(2時間)

9	グループ研究報告会:グループ研究の成果を発表・報告【合同授業】
事前	発表原稿,及びパワーポイント等の修正をしておくこと。(2時間)
事後	参加者からの質問、感想、講評などをまとめて記録しておくこと。(2時間)

10	グループ研究報告会の振り返り①研究結果から導き出される課題の抽出
事前	履修ファイルを読んでおくこと。(2時間)
事後	履修ファイル該当ページに記入しておくこと。(2時間)

11	グループ研究報告会の振り返り②研究結果から導き出される課題に関する検討
事前	「キャリア」とは何かについて調べておくこと。(2時間)

事後	研究結果から導き出された課題を保育者の視点からまとめること。(2時間)

12	事例検討②各自の実習体験事例の再検討
事前	「保育職のキャリア」について調べておくこと。(2時間)
事後	実習体験やグループ研究報告を通して感じた「保育職の魅力」職についてまとめておくこと。(2時間)

13	ロールプレイングとグループ討議
事前	「保育者のキャリアステップ」について調べておくこと。(2時間)
事後	授業を振り返り、「自身の目指す保育者の姿」についてまとめておく。(2時間)

14	授業のまとめ①保育者の多様な職務内容について【合同授業】
事前	「保育者の職務内容」について確認しておくこと。(2時間)
事後	「保育者の多様な職務内容」についてまとめ記録しておくこと。(2時間)

15	授業のまとめ②保育者としての責任と使命について
事前	「保育者の責任と使命」について確認し、その視点から自己評価しておくこと。(2時間)
事後	今後の自己課題と展望を確認し,記録すること。(2時間)

2020/07/16(木)20:37

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4050140
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				

科目に関するキーワード	現代的保育の課題、保育実践研究、遊びと学び、保幼小連携、幼児教育の独自性
到達目標	授業のねらいは以下の3点である。 ①様々な保育実践に触れるなど具体的な経験から多様な対話を通して主体変容していくプロセスが実感できる。 ②感じたこと、考えたことを自分なりの研究成果として記録を作成することができる。 ③研究成果の内容についてゼミ内で報告を行い、参加者相互の学びのシェアを行うことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：C-1(1)(2),D-4(1)～(3)】
授業の概要	本演習では、保育の本質とは何かについて、現代社会における保育の意義や課題、幼児教育の独自性、保幼小の連携、子どもの遊びと教材、保育者の専門性などの視点から検討する。その際、保育現場の多様な実践や保育者の語り、文献等に触れなから、参加者相互の対話を通して自分なりの研究テーマや保育の営みについて理解を深めていくようにする。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、調査学習
評価方法及び評価基準	レポート	提出物（30%）、授業への参加度（40%）・レポート、研究成果の発表（30%）		
フィードバック	授業内で提出したコメントシート、提出物については、授業において返却し、適宜フィードバックする。			
履修に際しての注意事項	課外において、保育現場、児童文化施設等への見学を予定しているため交通費等は別途必要となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III					○		
IV							

V					○		

テキスト1	授業内で随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. オリエンテーション 2. 保育を取り巻く今日的課題についての検討 3. 各自の興味・関心についての発表 4～7. 多様な保育実践の紹介（ビデオ視聴、文献購読）、討議 　　就職や実習に向けての実践的な取り組みも行う 8～11.保育施設、児童文化施設の見学 12～14.見学の振り返りと記録の作成 15. 前期のまとめと各自の研究テーマの設定 16. 後期オリエンテーション 17～20. 各自の研究テーマに基づくフィールドワーク 21～26. 各自の学びによる記録の作成 27～30. ゼミ内での発表とまとめ
事前	保育を取り巻く今日的課題や、自分自身の研究関心に関係する、多くの資料や文献にあたり、先行研究などを参考に自分なりの理解を深めておくこと。（各回0.5時間）
事後	授業やフィールドワークでの学びを研究関心に基づき、記録を整理すると共に、理論的枠組みの検討を行い実践と理論の往還的な学びを心掛けながら保育の場の複雑性や重層性の理解を深めること。（各回0.5時間）

2020/07/16(木)10:46

科 目 名	キャリア講座 [子]			授業コード	4050150
副 題	子ども未来キャリア講座				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	キャリア形成、進路選択、保育・福祉の専門職、就職活動

到達目標	授業のねらいは以下の4点である。 ①就職活動を行う際の流れや情報収集の仕方、必要な知識について理解することができる。 ②保育・福祉の専門職、公務員、一般企業など、職場に求められる人材について理解することができる。 ③社会の中で自分の役割を果たしながら社会的、職業的に自立することができるようになる。 ④主体的に職業を選択し、自分の将来について展望を持つことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：C-1(1)(2)】			
授業の概要	大学での学びと今後の進路選択及び将来の職業との関連を視野に入れながら、学生一人一人のキャリア形成に必要な知識の習得と実践的な演習を行うことで、主体的に進路を選択する態度を養う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、ロールプレイ、グループディスカッション
評価方法 及び評価基準	レポート	①授業内課題、コメントシート、提出物（50%） ②期末レポート（50%）		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	初回授業で全15回（前期／後期）の授業日程を連絡するので、必ず出席すること。 期末レポートの提出は、単位習得のために必須となっているので注意すること。 今後のキャリア形成、就職活動に向けて重要な内容が網羅されているので課題をもって主体的に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V					○		

テキスト1	特になし。必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学『就職活動の手引き』 その他、適時、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスを確認し、各回の内容について把握すると共に、自分の関心をもってる職種について質問を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された授業計画を熟読し、進路選択について必要な情報を調べ整理しておくこと。(0.5時間)

2	進路に向けた自己分析(職業選択のためのワークを通じた自己分析)
事前	自分の具体的な将来像をイメージしながら、得意なこと、好きなこと、興味があることをノートに整理すること。(0.5時間)
事後	進路選択のための自己分析結果を振り返り、自己理解を深めると共に具体的な職種について調べること。(0.5時間)

3	幼稚園の採用試験とその準備
事前	居住地域の幼稚園について調べ、採用試験の時期について把握しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、幼稚園教員に必要な資質・能力を整理し、具体的な試験対策について理解を深めること。(0.5時間)

4	児童福祉施設の採用試験とその準備
事前	居住地域の児童福祉施設について調べ、採用試験の時期や業務内容について把握しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、施設職員に必要な資質・能力を整理し、具体的な試験対策について理解を深めること。(0.5時間)

5	保育所の採用試験とその準備
事前	居住地域の保育所について調べ、採用試験の時期について把握しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、保育所保育士に必要な資質・能力を整理し、具体的な試験対策について理解を深めること。(0.5時間)

6	公務員を目指すには
事前	公務員の職種や採用試験について調べ、疑問点を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、公務員に必要な資質・能力を整理すると共に、受験したい職種の具体的な試験対策について理解を深めること。(0.5時間)

7	求人票の見方・情報収集の仕方について (一般企業の就職も視野に入れて) 前期のまとめ(レポート作成)
事前	これまでの授業を振り返り、疑問点を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、目指すべき将来像を明らかにした上で、具体的な試験対策について理解を深めること(0.5時間)

8	
事前	
事後	

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	就職スタートアップ講座
事前	就職相談会の参加の仕方について調べ、具体的な質問をノートに整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、情報収集の仕方や参加にあたってのマナーなどノートに整理し理解を深めること。(0.5時間)

17	・履歴書の書き方
事前	自己PRをまとめてノートに整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、大学の様式に希望の職種に沿った内容で記入すること。(0.5時間)

18	・エントリーシートの書き方
事前	自分の目指す職種のエントリーシートを調べて記入してみること。また、疑問点を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、目指すべき将来像を明らかにした上で、エントリーシートを記入し、注意すべき点を整理しておくこと。(0.5時間)

19	面接対策①(採用試験の面接とは)
事前	希望の職種の採用試験について下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、面接に必要なマナーについて理解を深めること。(0.5時間)

20	面接対策②(合格につながる自己表現)
事前	前回の授業の内容をもとに、自己表現のあり方について調べておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、具体的な試験対策について理解を深めること。(0.5時間)

21	面接対策③マナーを身に着ける
事前	これまでの学びを振り返り、自分なりに面接に必要なマナーについて調べておくこと。(0.5時間)
事後	配布された資料や授業の内容を振り返り、場を想定した練習をしてみること。(0.5時間)

22	まとめと振り返り (就職活動の手引きの活用について)
事前	これまでの授業を振りかえり、今後の就職活動に向けて、実践すべき事柄についてノートに整理しておくこと。(0.5時間)
事後	「就職活動の手引き」を熟読し、今後の就職活動に向けて、スケジュールを確認し準備を進めること。(0.5時間)

23	4年生の体験談から学ぶ(夢の実現に向けて)
事前	就職活動を終えた先輩に質問する内容について整理し、ノートにまとめておくこと。(0.5時間)
事後	先輩の体験談から学んだことをノートに整理し、今後の自分自身就職活動に向けたスケジュールを作成すること。(0.5時間)

24	
事前	
事後	

25	
事前	

事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)20:28

科 目 名	児童文化II [子]			授業コード	4050171
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	清水 道代				

科目に関する キーワード	児童文化、児童文化財、遊びと表現

到達目標	授業のねらいは以下の2点である。 ①児童文化の意義や役割について理解できる。 ②子どもの興味や発達などを踏まえた、保育現場での活用方法を理解し実践力を高めることができる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(2)(3),D-3(4)】			
授業の概要	児童文化の歴史や変遷を視野に入れつつ、具体的な児童文化財を取り上げることで、子どもの成長、発達に果たす役割を考えていく。また、体験的な活動を通して児童文化の重要性や担い手に必要な感性について検討していく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、児童文化財の制作、発表
評価方法 及び評価基準	レポート	コメントシート(20%)・提出物(20%)・授業中の課題や諸活動への取り組み(40%)・レポート(20%)		
フィードバック	コメントシートの記述について、授業内で取り上げフィードバックする。 発表に対する評価は都度授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	授業時に指示された教材制作等に必要な材料や道具は忘れずに持参すること。 材料費などは自己負担となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V						○	

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	シラバスを熟読し、各回の内容や注意事項を確認し、児童文化財について下調べをしておくこと。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもにとっての児童文化の意味ついて理解を深めること。(2時間)
2	保育の中での児童文化
事前	保育現場で活用されている児童文化財について下調べをしておくこと。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの育ちと児童文化の関係について理解を深めること。(2時間)
3	児童文化の歴史と保育の歴史～遊びを中心に
事前	児童文化の歴史について、自分なりに下調べをしておくこと。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの遊びの変遷と保育観の関係について理解を深めること。(2時間)
4	子どもを取り巻く環境と児童文化
事前	子どもを取り巻く現代的課題について下調べをしておくこと。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、児童文化施設がどのように変化してきたか理解を深めること。(2時間)
5	児童文化財・保育の展開①～手遊び・歌遊び・ふれあい遊び(外部講師)
事前	保育現場で活用されている手遊びや歌遊びを調べて練習してくること(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの姿を想定しながら、活用することについて理解をふかめること。(2時間)
6	児童文化財・保育の展開②～シアターの色々
事前	シアター系の児童文化財にについて調べ、活用方法を整理してくること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、実際に児童文化財を制作し扱い方について理解を深めること。(3時間)
7	児童文化財・保育の展開③～教材と向き合うこと
事前	行事と児童文化の関係について下調べをしてノートに整理すること。(1時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの姿に合わせた教材研究について理解を深めること。(2時間)
8	児童文化財・保育の展開④～実演と発表
事前	児童文化財を準備し、発表に向けて構想をすること(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、課題ついて整理し、演じ方につて理解を深めること。(2時間)
9	ごっこ遊びから劇遊びへの展開
事前	保育現場で行われているごっこ遊びについて調べ、特色について整理すること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子ども同士のイメージ共有や子どもがなりきって遊ぶことの意味ついて理解を深めること。(2時間)
10	日本の伝統文化と園行事
事前	園行事として行われている伝統文化について調べ、行事の意味について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、子どもの育ちにとっての伝統文化の重要性について理解を深めること。(2時間)
11	伝承遊び①～手先を使っての遊び
事前	手先を使った伝承遊びについて自分なりに調べ理解してくること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、手先を使った伝承遊びの重要性について理解を深めること。(2時間)
12	伝承遊び②～折り紙製作(季節の壁面装飾)
事前	折り紙使った伝承遊びについて自分なりに調べ理解してくること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、季節の伝承折り紙について理解を深めること。(2時間)
13	子どもの生活と児童文化施設
事前	居住地域の児童文化施設について調べ、児童文化施設の活用について理解してくること。(2時間)

事後	授業の内容を振り返り、児童文化施設の役割について理解を深めること。(2時間)

14	子どもの生活と文化・マスメディアとのかかわり
事前	子どもの育ちとマスメディアの関係について自分なりに調べ、理解してくること。(2時間)
事後	授業の内容を振り返り、メディア社会と子どもの育ちについて理解を深めること。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの授業を振り返り、児童文化の意味や果たす役割について具体的な児童文化財を取り上げ整理すること. (2時間)
事後	授業を振り返り、行事や保育実践をイメージしながら、児童文化財を活用した保育を構想し、ロールプレイで学んだ技法を実践してみること。(2時間)

2020/07/16(木)21:21

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4060010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	瀬川 千津子				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし
到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:46

科 目 名	教育課程論/カリキュラム論 [子]			授業コード	4060022
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	瀬川 千津子、岩本 親憲				

科目に関するキーワード	シークエンス、隠れたカリキュラム、非認知能力、全体的な計画、保育ウェブ式記録と計画
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を基準として、各幼稚園・保育所・認定子ども園等において変遷される教育課程・保育計画等について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所・認定子ども園等の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。そのため本科目では、幼稚園教育等において教育課程・保育計画等が有する役割・機能・意義の理解、教育課程・保育計画等の編成の基本原理及び幼稚園・保育所等での実践に即した教育課程・保育計画等の編成の方法の理解、学級・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程・保育所保育計画の全体をマネジメントすることの意義を理解することを目的とする。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼稚園教育要領等の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2）幼稚園教育要領等の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3）教育課程・保育計画等が社会において果たしている役割や機能を理解している。 4）教育課程・保育計画等の編成の基本原理を理解している。 5）子どもの姿や実践から保育内容を選択する方法を例示することができる。 6）学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また、幼児や幼稚園、保育所等、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画・保育計画等を検討することの重要性を理解している。 7）幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 8）カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。
授業の概要	教育課程（カリキュラム）とは何かを明らかにし、現代におけるカリキュラムのあり方を、社会とのかかわりの中で考えていく。そして、「文化」・「知識」の伝達としての教育と、子ども中心主義の教育の両方の思想を踏まえながら、教育課程・保育計画等の編成について理論的・実践的に考察していく。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、法規等の理解に基づいて、実際にカリキュラム編成し、各園・保育所等の実情に合わせてカリキュラムをマネジメントし、全体的な保育計画を作成するための基礎知識を学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、バズセッションなどを適宜行う。
評価方法及び評価基準	試験	①小テスト・ワークシート・課題等（50%） ②期末試験（50%）		
フィードバック	授業は、講義形式を中心としつつ、ワークシートを利用した少人数でのグループワークも取り入れて行う。 ワークシートは、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。第8回の小テストは、その後の授業内で返却する。			
履修に際しての注意事項	資料を整理するファイルを用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			

II			○				
III							
IV							
V				○			

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年) (フレーベル館)	978-4577812457
テキスト2	内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』(平成30年)(フレーベル館) 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開　＜平成25年7月改訂＞(幼稚園教育指導資料　第1集)』(フレーベル館,2013年)	978-4-577-81373-7 978-4-577-81350-8
テキスト3	浅見佳子・宮里暁美・横山草介・瀬川千津子『子どもからはじまる保育の世界』(北樹出版,2018年)	978－4－7793－0564－1　C3037
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針解説』(平成30年)(フレーベル館) その他、授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、教育課程(カリキュラム)とは何か(岩本、瀬川)
事前	一般的な「教育課程」、「カリキュラム」という言葉が何を指すのか調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。(2時間)

2	幼児教育における教育課程の変遷と理論的背景(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

3	カリキュラムと学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等(岩本)
事前	学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

4	指導計画を作成するには－全体的な計画から日案まで－(瀬川)
事前	幼児教育における指導計画について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

5	指導計画の実際(1)－幼稚園－(瀬川)
事前	前回授業時の配付プリントを熟読すること。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

6	指導計画の実際(2)－保育所－(瀬川)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、自己の指導計画の改善点をあげ、修正すること。(2時間半)

7	指導計画の実際(3)　－部分実習指導案－　(瀬川)
事前	指導計画立案の留意点に関しての資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、部分実習指導案を完成させること。(2時間半)

8	幼稚園、保育所における教育課程・保育課程編成の基礎知識、小テスト(岩本)
事前	第1回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、小テストで分からなかった点を重点的に復習すること。(2時間半)

9	カリキュラムの類型、スコープとシークエンス(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)

事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

10	文化伝達としての教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

11	子ども中心主義の教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

12	隠れたカリキュラム（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

13	教育・保育計画と評価（瀬川）
事前	第4回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

14	教育・保育計画、教育課程とカリキュラム・マネジメント実践（瀬川）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

15	預かり保育と教育課程、まとめ（瀬川）
事前	預かり保育、時間外保育などについて調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、授業全体を通して復習し試験に備えること。（2時間）

2020/07/16(木)20:50

科 目 名	教育課程論/カリキュラム論 [子]			授業コード	4060032
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	瀬川 千津子、岩本 親憲				

科目に関するキーワード	シークエンス、隠れたカリキュラム、非認知能力、全体的な計画、保育ウェブ式記録と計画
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を基準として、各幼稚園・保育所・認定子ども園等において変遷される教育課程・保育計画等について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所・認定子ども園等の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。そのため本科目では、幼稚園教育等において教育課程・保育計画等が有する役割・機能・意義の理解、教育課程・保育計画等の編成の基本原理及び幼稚園・保育所等での実践に即した教育課程・保育計画等の編成の方法の理解、学級・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程・保育所保育計画の全体をマネジメントすることの意義を理解することを目的とする。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼稚園教育要領等の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2）幼稚園教育要領等の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3）教育課程・保育計画等が社会において果たしている役割や機能を理解している。 4）教育課程・保育計画等の編成の基本原理を理解している。 5）子どもの姿や実践から保育内容を選択する方法を例示することができる。 6）学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また、幼児や幼稚園、保育所等、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画・保育計画等を検討することの重要性を理解している。 7）幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 8）カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。
授業の概要	教育課程（カリキュラム）とは何かを明らかにし、現代におけるカリキュラムのあり方を、社会とのかかわりの中で考えていく。そして、「文化」・「知識」の伝達としての教育と、子ども中心主義の教育の両方の思想を踏まえながら、教育課程・保育計画等の編成について理論的・実践的に考察していく。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、法規等の理解に基づいて、実際にカリキュラム編成し、各園・保育所等の実情に合わせてカリキュラムをマネジメントし、全体的な保育計画を作成するための基礎知識を学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、バズセッションなどを適宜行う。
評価方法及び評価基準	試験	①小テスト・ワークシート・課題等（50%） ②期末試験（50%）		
フィードバック	授業は、講義形式を中心としつつ、ワークシートを利用した少人数でのグループワークも取り入れて行う。 ワークシートは、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。第8回の小テストは、その後の授業内で返却する。			
履修に際しての注意事項	資料を整理するファイルを用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			

II			○				
III							
IV							
V				○			

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年) (フレーベル館)	978-4577812457
テキスト2	内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』(平成30年)(フレーベル館) 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開　＜平成25年7月改訂＞(幼稚園教育指導資料　第1集)』(フレーベル館,2013年)	978-4-577-81373-7 978-4-577-81350-8
テキスト3	浅見佳子・宮里暁美・横山草介・瀬川千津子『子どもからはじまる保育の世界』(北樹出版,2018年)	978－4－7793－0564－1　C3037
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針解説』(平成30年)(フレーベル館) その他、授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、教育課程(カリキュラム)とは何か(岩本、瀬川)
事前	一般的な「教育課程」、「カリキュラム」という言葉が何を指すのか調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。(2時間)

2	幼児教育における教育課程の変遷と理論的背景(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

3	カリキュラムと学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等(岩本)
事前	学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

4	指導計画を作成するには－全体的な計画から日案まで－(瀬川)
事前	幼児教育における指導計画について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

5	指導計画の実際(1)－幼稚園－(瀬川)
事前	前回授業時の配付プリントを熟読すること。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

6	指導計画の実際(2)－保育所－(瀬川)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、自己の指導計画の改善点をあげ、修正すること。(2時間半)

7	指導計画の実際(3)　－部分実習指導案－　(瀬川)
事前	指導計画立案の留意点に関しての資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、部分実習指導案を完成させること。(2時間半)

8	幼稚園、保育所における教育課程・保育課程編成の基礎知識、小テスト(岩本)
事前	第1回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、小テストで分からなかった点を重点的に復習すること。(2時間半)

9	カリキュラムの類型、スコープとシークエンス(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)

事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

10	文化伝達としての教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

11	子ども中心主義の教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

12	隠れたカリキュラム（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

13	教育・保育計画と評価（瀬川）
事前	第4回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

14	教育・保育計画、教育課程とカリキュラム・マネジメント実践（瀬川）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

15	預かり保育と教育課程、まとめ（瀬川）
事前	預かり保育、時間外保育などについて調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、授業全体を通して復習し試験に備えること。（2時間）

2020/07/16(木)20:40

科 目 名	幼稚園教育実習指導I [子]			授業コード	4060040
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	観察実習、参加実習、部分実習、エピソード記録、時系列記録
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得するべき知識や技能などについて理解する。これらを通して教育実習の意義を理解することを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。 2）教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、次の幼稚園教育実習Ⅱまでにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。
授業の概要	「幼稚園教育実習Ⅰ」の事前指導として、幼稚園での実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義や目的、手順、実習における留意点等を確認し、実習に向けた準備を行う。また幼稚園教育の特徴と基本理念について理解した上で、記録の意義と書き方について学習する。 実習終了後には、事後指導を通して、実習から得た学びを整理し、その「意味」を問い直すことにより、自らの学びを深め、幼稚園教育実習Ⅱへ向けての自己課題を抽出していくための学習を行う。 幼児教育現場における教諭経験豊かな担当教員が、その経験を生かして具体的な保育実践の事例を示し、実際の幼児教育に役立つ指導を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	カンファレンス、グループ内発表を通して、「仲間との学び」を深める。
評価方法及び評価基準	レポート	実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、授業内課題やレポート、およびカンファレンスにおける発言などを総合して評価する。		
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において適宜、添削もしくはコメントを付して返却されるため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。			
履修に際しての注意事項	「幼稚園教育実習Ⅰ」につながる科目であるため、実習同様、欠席および遅刻は認められない。特に、無断での欠席・遅刻は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV					○		

V						○	

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館,2018年)	978-4-577-81245-7
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年) 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習総合オリエンテーション①(実習スケジュール確認／実習要件／実習関係書類の配布・説明)
事前	手引きの該当ページp.1～11を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内配付資料の確認と、実習の手引きを復習すること。(0.5時間)

2	実習総合オリエンテーション②(実習生に求められる姿勢)
事前	実習の手引きp.55～57を読み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴後のワークシートを仕上げ、まとめること。(0.5時間)

3	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション①(実習関係書類の作成)
事前	実習の手引きp.32～37を熟読してくること。(0.5時間)
事後	実習日誌の日録フォーマットに従い、時系列記録を完成させ、見直し修正すること。(0.5時間)

4	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション②(外部講師による講演)【合同授業】
事前	配付済みの実習日誌の確認と、時系列記録について見直しておくこと。(0.5時間)
事後	講演の内容を自分なりにまとめ、レポートにして提出すること。(1時間)

5	保育記録の意義と書き方①(時系列記録の意義と書き方)
事前	実習の手引きp.32～37を読み返して、理解を深めておくこと。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴のメモをまとめ、時系列記録を完成させること。(1時間)

6	保育記録の意義と書き方②(時系列記録の復習／エピソード記録の意義と書き方)
事前	実習の手引きp.34の誤字の確認と、手引きp.38～41を熟読してくること。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴のメモをまとめ、エピソード記録と考察を完成させること。(1時間)

7	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション③(目的および学習内容／実習園オリエンテーションに関する説明)
事前	実習の手引きp.12～15、p.29～31を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内容を復習し、実習園オリエンテーションのアポイントメント電話の練習をしておくこと。(0.5時間)

8	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション④(実習中および実習後の留意点／お礼状の書き方／確認テスト)
事前	実習の手引きp.12～25を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	確認テストの誤答部分に相当する手引きのページを確認すること。(1時間)

9	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション⑤(実習日誌の様式と記入上の留意点)
事前	実習の手引きp.42～48を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内容を振り返り、まとめること。オリエンテーション報告書の書ける部分を記入すること。(1時間)

10	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション⑥(実習評価について)
事前	実習の手引きp.26～28、38～41を読んでくること。(0.5時間)
事後	エピソード記録の添削を完成させ、書き直しておくこと。(1時間)

11	実習総合オリエンテーション③(4年生との情報交換会)
事前	実習日誌のページを見返して、実習の手引きで確認しておくこと。先輩への質問を考えておくこと。(0.5時間)
事後	グループカンファレンスでの学びや、先輩からのアドヴァイスなどをまとめ、振り返っておくこと。(0.5時間)

12	幼稚園教育実習Ⅰ直前オリエンテーション(実習における諸注意に関する最終確認)【合同授業】
事前	実習の手引きp.17～22を読み返しておくこと。(0.5時間)
事後	実習日誌の表紙、記録要旨1～4迄を丁寧に確認すること。実習園からの課題なども確認しておくこと。(1時間)

13	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導①（実習体験の発表・報告）
事前	幼稚園実習Ⅰの実習日誌を丁寧に見直し、読み返しておくこと。（0.5時間）
事後	ワークシートで行った振り返りを自分なりにまとめ、復習すること。（0.5時間）

14	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導②（実習課題に即した学びの成果と反省点の整理）
事前	実習日誌の不備を確認しておくこと。（0.5時間）
事後	仲間の発表を聞き、気づいたことや自分の今後の課題についてワークシートにまとめること（0.5時間）

15	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導③（事例を基にしたグループカンファレンス／カンファレンスを通しての学びの共有）
事前	実習日誌の中から、自分が一番印象に残る事例について他者へ説明できるように、まとめておくこと。（1時間）
事後	記録したディスカッションの内容を、ワークシートにまとめること。（0.5時間）

16	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導④（園評価に基づく個別面談／園評価と自己評価の照合／自己課題の抽出）
事前	ワークシートの自己評価欄にそって、自己評価をおこなうこと。（0.5時間）
事後	園からの評価と自己評価、および手引きp.65の評価の観点を参考にして、ワークシートに沿って実習を振り返り、省察すること。（0.5時間）

17	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導⑤（実習日誌返却と講評）
事前	実習の手引きp.30～33を熟読し、実習の意味を改めて確認しておくこと。（0.5時間）
事後	返却された実習日誌と日誌評価から、次の実習に向けての課題を自分なりにまとめること。（0.5時間）

18	
事前	
事後	

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	

事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)20:45

科 目 名	幼稚園教育実習指導I [子]			授業コード	4060050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	観察実習、参加実習、部分実習、エピソード記録、時系列記録
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得するべき知識や技能などについて理解する。これらを通して教育実習の意義を理解することを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。 2）教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、次の幼稚園教育実習Ⅱまでにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。
授業の概要	「幼稚園教育実習Ⅰ」の事前指導として、幼稚園での実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義や目的、手順、実習における留意点等を確認し、実習に向けた準備を行う。また幼稚園教育の特徴と基本理念について理解した上で、記録の意義と書き方について学習する。 実習終了後には、事後指導を通して、実習から得た学びを整理し、その「意味」を問い直すことにより、自らの学びを深め、幼稚園教育実習Ⅱへ向けての自己課題を抽出していくための学習を行う。 幼児教育現場における教諭経験豊かな担当教員が、その経験を生かして具体的な保育実践の事例を示し、実際の幼児教育に役立つ指導を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	カンファレンス、グループ内発表を通して、「仲間との学び」を深める。
評価方法及び評価基準	レポート	実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、授業内課題やレポート、およびカンファレンスにおける発言などを総合して評価する。		
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において適宜、添削もしくはコメントを付して返却されるため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。			
履修に際しての注意事項	「幼稚園教育実習Ⅰ」につながる科目であるため、実習同様、欠席および遅刻は認められない。特に、無断での欠席・遅刻は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV					○		

V						○	

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館,2018年)	978-4-577-81245-7
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年) 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習総合オリエンテーション①(実習スケジュール確認／実習要件／実習関係書類の配布・説明)
事前	手引きの該当ページp.1～11を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内配付資料の確認と、実習の手引きを復習すること。(0.5時間)

2	実習総合オリエンテーション②(実習生に求められる姿勢)
事前	実習の手引きp.55～57を読み、理解しておくこと。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴後のワークシートを仕上げ、まとめること。(0.5時間)

3	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション①(実習関係書類の作成)
事前	実習の手引きp.32～37を熟読してくること。(0.5時間)
事後	実習日誌の日録フォーマットに従い、時系列記録を完成させ、見直し修正すること。(0.5時間)

4	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション②(外部講師による講演)【合同授業】
事前	配付済みの実習日誌の確認と、時系列記録について見直しておくこと。(0.5時間)
事後	講演の内容を自分なりにまとめ、レポートにして提出すること。(1時間)

5	保育記録の意義と書き方①(時系列記録の意義と書き方)
事前	実習の手引きp.32～37を読み返して、理解を深めておくこと。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴のメモをまとめ、時系列記録を完成させること。(1時間)

6	保育記録の意義と書き方②(時系列記録の復習／エピソード記録の意義と書き方)
事前	実習の手引きp.34の誤字の確認と、手引きp.38～41を熟読してくること。(0.5時間)
事後	ビデオ視聴のメモをまとめ、エピソード記録と考察を完成させること。(1時間)

7	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション③(目的および学習内容／実習園オリエンテーションに関する説明)
事前	実習の手引きp.12～15、p.29～31を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内容を復習し、実習園オリエンテーションのアポイントメント電話の練習をしておくこと。(0.5時間)

8	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション④(実習中および実習後の留意点／お礼状の書き方／確認テスト)
事前	実習の手引きp.12～25を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	確認テストの誤答部分に相当する手引きのページを確認すること。(1時間)

9	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション⑤(実習日誌の様式と記入上の留意点)
事前	実習の手引きp.42～48を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内容を振り返り、まとめること。オリエンテーション報告書の書ける部分を記入すること。(1時間)

10	幼稚園教育実習Ⅰオリエンテーション⑥(実習評価について)
事前	実習の手引きp.26～28、38～41を読んでくること。(0.5時間)
事後	エピソード記録の添削を完成させ、書き直しておくこと。(1時間)

11	実習総合オリエンテーション③(4年生との情報交換会)
事前	実習日誌のページを見返して、実習の手引きで確認しておくこと。先輩への質問を考えておくこと。(0.5時間)
事後	グループカンファレンスでの学びや、先輩からのアドヴァイスなどをまとめ、振り返っておくこと。(0.5時間)

12	幼稚園教育実習Ⅰ直前オリエンテーション(実習における諸注意に関する最終確認)【合同授業】
事前	実習の手引きp.17～22を読み返しておくこと。(0.5時間)
事後	実習日誌の表紙、記録要旨1～4迄を丁寧に確認すること。実習園からの課題なども確認しておくこと。(1時間)

13	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導①（実習体験の発表・報告）
事前	幼稚園実習Ⅰの実習日誌を丁寧に見直し、読み返しておくこと。（0.5時間）
事後	ワークシートで行った振り返りを自分なりにまとめ、復習すること。（0.5時間）

14	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導②（実習課題に即した学びの成果と反省点の整理）
事前	実習日誌の不備を確認しておくこと。（0.5時間）
事後	仲間の発表を聞き、気づいたことや自分の今後の課題についてワークシートにまとめること（0.5時間）

15	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導③（事例を基にしたグループカンファレンス／カンファレンスを通しての学びの共有）
事前	実習日誌の中から、自分が一番印象に残る事例について他者へ説明できるように、まとめておくこと。（1時間）
事後	記録したディスカッションの内容を、ワークシートにまとめること。（0.5時間）

16	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導④（園評価に基づく個別面談／園評価と自己評価の照合／自己課題の抽出）
事前	ワークシートの自己評価欄にそって、自己評価をおこなうこと。（0.5時間）
事後	園からの評価と自己評価、および手引きp.65の評価の観点を参考にして、ワークシートに沿って実習を振り返り、省察すること。（0.5時間）

17	幼稚園教育実習Ⅰ事後指導⑤（実習日誌返却と講評）
事前	実習の手引きp.30～33を熟読し、実習の意味を改めて確認しておくこと。（0.5時間）
事後	返却された実習日誌と日誌評価から、次の実習に向けての課題を自分なりにまとめること。（0.5時間）

18	
事前	
事後	

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	

事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:37

科 目 名	幼稚園教育実習I [子]			授業コード	4060063
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が担当する。					

科目に関する キーワード	子どもの理解とかかわり、保育者の援助の意図、保育の流れの把握
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適正を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、幼児や周囲の保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解することを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2）指導教員等の実践を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 3）教育実習園の運営方針および特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4）学級担任等の補助的な役割を担うことができる。
授業の概要	幼稚園教諭1種免許取得にかかわる教職課程必修の実習として、学外の幼稚園において1週間の実習を行う。「幼稚園教育実習Ⅱ」に向け、観察・参加実習を中心とした実習を行う。幼稚園における子どもや教員、保護者の営む日々の生活との出会いを通して、幼稚園教育の流れを知り、教員の基本的な役割や職務内容について理解を深める。また、子どもとの実際のかかわりを通して、個々の子どもの思いやその背後にある行為の意味に気づき、そこで求められる援助のあり方について考えていくことが期待される。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	観察実習、参加実習を段階に応じて行う。
評価方法 及び評価基準	—	実習園による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価を行う。		
フィードバック	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事前事後指導のなかでを行う。			
履修に際しての 注意事項	実習のための要件科目を履修し、単位修得済みであること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III				○			

IV		○					
V							

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、「幼稚園教育実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 子どもとのかかわりや遊びを通して、そこで求められる援助の在り方や環境構成について学ぶ。 2. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、子ども集団全体にも目を向け、子ども同士の「関係」への援助について考える。 3. 障碍を持っている子どもや外国籍の子ども等、さまざまな配慮を必要とする子どもに対する援助の在り方について学び、理解を深める。 4. 発達に応じた保育内容や方法を理解し、子どもの実状に即した指導計画を立案し、実践し、反省・評価を行う。 5. 家庭を含む地域との連携や子育て支援について理解を深め、幼稚園の社会的役割や保育者に求められる役割について考える
事前	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事前指導を行う。
事後	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事後指導を行う。

2020/07/16(木)21:19

科 目 名	幼稚園教育実習指導II [子]			授業コード	4060070
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	部分実習、責任実習、ドキュメンテーション式記録、実践の省察と振り返り
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得するべき知識や技能などについて理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。また、大学で学んだ領域や教職に関する専門的知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を見に付けることを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。 2）教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 3）幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 4）保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 5）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 6）様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。
授業の概要	「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前指導として、実習の目的や方法、留意点について確認し、そのために必要な心構えや知識について学ぶ。特に、「幼稚園教育実習Ⅱ」は、参加・責任実習を中心として展開される、より専門性の高い実習となるため、子どもの実態に即した幼児教育の展開を目指し、実践に活きる記録のとり方や子どもに即した指導案の立案などについて、より実践的に学習する。 　実習終了後の事後指導では、グループによる保育カンファレンスを通して、各自の実習体験から得た学びをより深め、教育者としての実践力の向上を図り、そのための自己課題を抽出していくための学習を行う。 幼児教育現場における教諭経験豊かな担当教員が、その経験を生かして具体的な保育実践の事例を示し、実際の幼児教育に役立つ指導を行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	カンファレンス、グループ内発表などを通して、「仲間との学び」を深める。
評価方法 及び評価基準	レポート	実習関係書類、課題などの提出状況、及びその内容、授業内課題やレポート、およびカンファレンスにおける発言などを総合して評価する。		
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において適宜、添削もしくはコメントを付して返却されるため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。			
履修に際しての 注意事項	「幼稚園教育実習Ⅱ」につながる科目であるため、実習同様、欠席および遅刻は認められない。特に、無断での欠席・遅刻は厳禁とする。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							
V						○	

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館,2018年)	978-4-577-81245-7
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年) 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション①(幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的)
事前	実習の手引きの該当ページ、p.4～9を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	配付資料や手引きの該当箇所を復習し、出された課題に取り組むこと。(0.5時間)

2	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション②(自己課題の設定)
事前	実習の手引きp.30～31を熟読しておくこと。また、これまでの実習のワークシートや、実習日誌を自己課題を見出すための資料として準備すること。(0.5時間)
事後	配付資料や手引きの該当箇所を復習し、出された課題に取り組むこと。(0.5時間)

3	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション③(学習内容の確認／実習園オリエンテーションに関する諸注意)
事前	実習の手引きp.12～25を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園オリエンテーションで確認する内容について実習の手引きp.14を参照しながら、ノートにまとめておくこと。(0.5時間)

4	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション④(卒業生によるシンポジウム)【合同授業】
事前	各々の実習園について、HPや資料をあたり、調べておくこと。(0.5時間)
事後	講演内容をまとめ、実習への抱負をレポートにまとめる。(0.5時間)

5	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション⑤(実習日誌の様式と記入上の留意点／多様な保育記録の書き方と意義)
事前	実習の手引きp.42～47を熟読してくること。(0.5時間)
事後	多様な保育記録についての配付資料を復習すること。(0.5時間)

6	責任実習講座①(責任実習の流れと概要／指導案立案のためのポイント復習)
事前	実習の手引きp.47～53を熟読してくること。(0.5時間)
事後	責任実習の流れと概要について復習すること。指導計画についての配付プリントを読み返しておくこと。(1時間)

7	責任実習講座②(指導案立案演習～責任実習を想定した指導案の立案～)
事前	指導計画の立案に必要な資料や材料を調べて準備してくること。(1時間)
事後	立案した指導計画を完成させ、見直すこと。(1時間)

8	責任実習講座③(指導案立案演習～相互添削による評価・反省～)
事前	自ら立案した指導計画を天候や年齢に合わせて見直すこと。(0.5時間)
事後	相互添削で見直した指導計画に修正を加え、完成させること。(1時間)

9	責任実習講座④(指導案立案のための最終ポイント確認)
事前	第8回授業時に配付の指導計画立案のための留意点に関するプリントを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	指導計画の問題点と改善点の修正のポイントについてまとめること。(0.5時間)

10	幼稚園教育実習Ⅱ直前オリエンテーション(実習における諸注意に関する最終確認)【合同授業】
事前	実習の手引きp.60, 66を熟読し、実習で期待される学びを確認すること。(0.5時間)

事後	実習日誌の再点検と、表紙、記録用紙1－1～4－1を丁寧に記入すること。また、実習園からの課題の確認をすること。(1時間)

11	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導①(実習経験の振り返り／課題に即した学びの整理)
事前	実習で印象に残っているエピソード記録について、ノートにまとめておくこと。(1時間)
事後	カンファレンスの内容を整理し、ワークシートにまとめること。(0.5時間)

12	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導②(グループカンファレンス～実習における事例を基にしたカンファレンス～)
事前	グループカンファレンスにおける事例発表の準備をすること。(0.5時間)
事後	グループカンファレンスでの発表からの学びをまとめること。(0.5時間)

13	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導③(グループカンファレンスによる学びの成果の発表)
事前	配付資料を熟度すること。(0.5時間)
事後	授業内の学びをワークシートにまとめること。(0.5時間)

14	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導④(2年生との情報交換会)
事前	これまでの実習日誌やワークシートを読み返し、自らの学びを説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	2年生とのグループカンファレンスからの気付きをレポートにまとめること。(0.5時間)

15	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導⑤(実習日誌の返却と個別面談／園評価と自己評価の照合／自己課題の抽出)
事前	実習の手引きp.66を読み、自らの実習の反省点をまとめる。(0.5時間)
事後	授業内の振り返りと省察、新たな課題の抽出を通しての学びをワークシートにまとめる。(1時間)

16	
事前	
事後	

17	
事前	
事後	

18	
事前	
事後	

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	

事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:01

科 目 名	幼稚園教育実習指導II [子]			授業コード	4060080
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	部分実習、責任実習、ドキュメンテーション式記録、実践の省察と振り返り
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得するべき知識や技能などについて理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。また、大学で学んだ領域や教職に関する専門的知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を見に付けることを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。 2）教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 3）幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 4）保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 5）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 6）様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。
授業の概要	「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前指導として、実習の目的や方法、留意点について確認し、そのために必要な心構えや知識について学ぶ。特に、「幼稚園教育実習Ⅱ」は、参加・責任実習を中心として展開される、より専門性の高い実習となるため、子どもの実態に即した幼児教育の展開を目指し、実践に活きる記録のとり方や子どもに即した指導案の立案などについて、より実践的に学習する。 　実習終了後の事後指導では、グループによる保育カンファレンスを通して、各自の実習体験から得た学びをより深め、教育者としての実践力の向上を図り、そのための自己課題を抽出していくための学習を行う。 幼児教育現場における教諭経験豊かな担当教員が、その経験を生かして具体的な保育実践の事例を示し、実際の幼児教育に役立つ指導を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	カンファレンス、グループ内発表などを通して、「仲間との学び」を深める。
評価方法及び評価基準	レポート	実習関係書類、課題などの提出状況、及びその内容、授業内課題やレポート、およびカンファレンスにおける発言などを総合して評価する。		
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において適宜、添削もしくはコメントを付して返却されるため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。			
履修に際しての注意事項	「幼稚園教育実習Ⅱ」につながる科目であるため、実習同様、欠席および遅刻は認められない。特に、無断での欠席・遅刻は厳禁とする。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							
V						○	

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館,2018年)	978-4-577-81245-7
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年) 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション①(幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的)
事前	実習の手引きの該当ページ、p.4～9を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	配付資料や手引きの該当箇所を復習し、出された課題に取り組むこと。(0.5時間)

2	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション②(自己課題の設定)
事前	実習の手引きp.30～31を熟読しておくこと。また、これまでの実習のワークシートや、実習日誌を自己課題を見出すための資料として準備すること。(0.5時間)
事後	配付資料や手引きの該当箇所を復習し、出された課題に取り組むこと。(0.5時間)

3	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション③(学習内容の確認／実習園オリエンテーションに関する諸注意)
事前	実習の手引きp.12～25を熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園オリエンテーションで確認する内容について実習の手引きp.14を参照しながら、ノートにまとめておくこと。(0.5時間)

4	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション④(卒業生によるシンポジウム)【合同授業】
事前	各々の実習園について、HPや資料をあたり、調べておくこと。(0.5時間)
事後	講演内容をまとめ、実習への抱負をレポートにまとめる。(0.5時間)

5	幼稚園教育実習Ⅱオリエンテーション⑤(実習日誌の様式と記入上の留意点／多様な保育記録の書き方と意義)
事前	実習の手引きp.42～47を熟読してくること。(0.5時間)
事後	多様な保育記録についての配付資料を復習すること。(0.5時間)

6	責任実習講座①(責任実習の流れと概要／指導案立案のためのポイント復習)
事前	実習の手引きp.47～53を熟読してくること。(0.5時間)
事後	責任実習の流れと概要について復習すること。指導計画についての配付プリントを読み返しておくこと。(1時間)

7	責任実習講座②(指導案立案演習～責任実習を想定した指導案の立案～)
事前	指導計画の立案に必要な資料や材料を調べて準備してくること。(1時間)
事後	立案した指導計画を完成させ、見直すこと。(1時間)

8	責任実習講座③(指導案立案演習～相互添削による評価・反省～)
事前	自ら立案した指導計画を天候や年齢に合わせて見直すこと。(0.5時間)
事後	相互添削で見直した指導計画に修正を加え、完成させること。(1時間)

9	責任実習講座④(指導案立案のための最終ポイント確認)
事前	第8回授業時に配付の指導計画立案のための留意点に関するプリントを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	指導計画の問題点と改善点の修正のポイントについてまとめること。(0.5時間)

10	幼稚園教育実習Ⅱ直前オリエンテーション(実習における諸注意に関する最終確認)【合同授業】
事前	実習の手引きp.60, 66を熟読し、実習で期待される学びを確認すること。(0.5時間)

事後	実習日誌の再点検と、表紙、記録用紙1－1～4－1を丁寧に記入すること。また、実習園からの課題の確認をすること。(1時間)

11	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導①(実習経験の振り返り／課題に即した学びの整理)
事前	実習で印象に残っているエピソード記録について、ノートにまとめておくこと。(1時間)
事後	カンファレンスの内容を整理し、ワークシートにまとめること。(0.5時間)

12	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導②(グループカンファレンス～実習における事例を基にしたカンファレンス～)
事前	グループカンファレンスにおける事例発表の準備をすること。(0.5時間)
事後	グループカンファレンスでの発表からの学びをまとめること。(0.5時間)

13	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導③(グループカンファレンスによる学びの成果の発表)
事前	配付資料を熟度すること。(0.5時間)
事後	授業内の学びをワークシートにまとめること。(0.5時間)

14	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導④(2年生との情報交換会)
事前	これまでの実習日誌やワークシートを読み返し、自らの学びを説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	2年生とのグループカンファレンスからの気付きをレポートにまとめること。(0.5時間)

15	幼稚園教育実習Ⅱ事後指導⑤(実習日誌の返却と個別面談／園評価と自己評価の照合／自己課題の抽出)
事前	実習の手引きp.66を読み、自らの実習の反省点をまとめる。(0.5時間)
事後	授業内の振り返りと省察、新たな課題の抽出を通しての学びをワークシートにまとめる。(1時間)

16	
事前	
事後	

17	
事前	
事後	

18	
事前	
事後	

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	

事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:38

科 目 名	幼稚園教育実習II [子]			授業コード	4060093
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	3
担 当 者	瀬川 千津子				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が担当する。					

科目に関する キーワード	子ども主体の保育、幼児理解、保育者の役割、幼稚園の役割、責任実習指導案
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適正を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、幼児や周囲の保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解することまた、大学で学んだ領域や教職に関する専門的知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を見に付けることを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2）指導教員等の実践を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 3）教育実習園の運営方針および特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4）学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 5）幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 6）保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 7）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 8）様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。
授業の概要	幼稚園教諭1種免許取得にかかわる教職課程必修の実習として、学外の幼稚園において3週間の実習を行う。 「幼稚園教育実習Ⅰ」を踏まえ、参加・責任実習を中心としたより専門性の高い実習を行う。幼稚園における子どもや教育者、保護者の営む日々の生活との出会いを通して、子どもへの理解を深めるとともに、教員としての役割や援助の在り方について学ぶことを目的とする。また、責任実習を通して、自らの実践力の向上を目指す。さらに、幼稚園の社会的役割についても視野を広げ、学びを深めることが期待される。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習などを段階的に行う。
評価方法 及び評価基準	—	実習園による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価を行う。		
フィードバック	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事前事後指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	実習のための要件科目を履修し、単位修得済みであること。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV			○				
V							○

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、「幼稚園教育実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 子どもとのかかわりや遊びを通して、そこで求められる援助の在り方や環境構成について学ぶ。 2. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、子ども集団全体にも目を向け、子ども同士の「関係」への援助について考える。 3. 障碍を持っている子どもや外国籍の子ども等、さまざまな配慮を必要とする子どもに対する援助の在り方について学び、理解を深める。 4. 発達に応じた保育内容や方法を理解し、子どもの実状に即した指導計画を立案し、実践し、反省・評価を行う。 5. 家庭を含む地域との連携や子育て支援について理解を深め、幼稚園の社会的役割や保育者に求められる役割について考える
事前	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事前指導を行う。
事後	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事後指導を行う。

2020/07/16(木)22:20

科 目 名	教育課程論/カリキュラム論 [子]			授業コード	4060103
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	瀬川 千津子、岩本 親憲				

科目に関するキーワード	シークエンス、隠れたカリキュラム、非認知能力、全体的な計画、保育ウェブ式記録と計画
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を基準として、各幼稚園・保育所・認定子ども園等において変遷される教育課程・保育計画等について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所・認定子ども園等の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。そのため本科目では、幼稚園教育等において教育課程・保育計画等が有する役割・機能・意義の理解、教育課程・保育計画等の編成の基本原理及び幼稚園・保育所等での実践に即した教育課程・保育計画等の編成の方法の理解、学級・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程・保育所保育計画の全体をマネジメントすることの意義を理解することを目的とする。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼稚園教育要領等の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2）幼稚園教育要領等の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3）教育課程・保育計画等が社会において果たしている役割や機能を理解している。 4）教育課程・保育計画等の編成の基本原理を理解している。 5）子どもの姿や実践から保育内容を選択する方法を例示することができる。 6）学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また、幼児や幼稚園、保育所等、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画・保育計画等を検討することの重要性を理解している。 7）幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 8）カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。
授業の概要	教育課程（カリキュラム）とは何かを明らかにし、現代におけるカリキュラムのあり方を、社会とのかかわりの中で考えていく。そして、「文化」・「知識」の伝達としての教育と、子ども中心主義の教育の両方の思想を踏まえながら、教育課程・保育計画等の編成について理論的・実践的に考察していく。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、法規等の理解に基づいて、実際にカリキュラム編成し、各園・保育所等の実情に合わせてカリキュラムをマネジメントし、全体的な保育計画を作成するための基礎知識を学ぶ。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループディスカッション、バズセッションなどを適宜行う。
評価方法及び評価基準	試験	①小テスト・ワークシート・課題等（50%） ②期末試験（50%）		
フィードバック	授業は、講義形式を中心としつつ、ワークシートを利用した少人数でのグループワークも取り入れて行う。 ワークシートは、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。第8回の小テストは、その後の授業内で返却する。			
履修に際しての注意事項	資料を整理するファイルを用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			

II			○				
III							
IV							
V				○			

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年) (フレーベル館)	978-4577812457
テキスト2	内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』(平成30年)(フレーベル館) 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開　＜平成25年7月改訂＞(幼稚園教育指導資料　第1集)』(フレーベル館,2013年)	978-4-577-81373-7 978-4-577-81350-8
テキスト3	浅見佳子・宮里暁美・横山草介・瀬川千津子『子どもからはじまる保育の世界』(北樹出版,2018年)	978－4－7793－0564－1　C3037
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針解説』(平成30年)(フレーベル館) その他、授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス、教育課程(カリキュラム)とは何か(岩本、瀬川)
事前	一般的な「教育課程」、「カリキュラム」という言葉が何を指すのか調べておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。(2時間)

2	幼児教育における教育課程の変遷と理論的背景(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

3	カリキュラムと学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等(岩本)
事前	学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

4	指導計画を作成するには－全体的な計画から日案まで－(瀬川)
事前	幼児教育における指導計画について簡単に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

5	指導計画の実際(1)－幼稚園－(瀬川)
事前	前回授業時の配付プリントを熟読すること。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。(2時間半)

6	指導計画の実際(2)－保育所－(瀬川)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、自己の指導計画の改善点をあげ、修正すること。(2時間半)

7	指導計画の実際(3)　－部分実習指導案－　(瀬川)
事前	指導計画立案の留意点に関しての資料を熟読しておくこと。(1時間半)
事後	授業内で配布した資料を読み復習をすること。また、部分実習指導案を完成させること。(2時間半)

8	幼稚園、保育所における教育課程・保育課程編成の基礎知識、小テスト(岩本)
事前	第1回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。(2時間)
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、小テストで分からなかった点を重点的に復習すること。(2時間半)

9	カリキュラムの類型、スコープとシークエンス(岩本)
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。(1時間半)

事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

10	文化伝達としての教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

11	子ども中心主義の教育課程（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

12	隠れたカリキュラム（岩本）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

13	教育・保育計画と評価（瀬川）
事前	第4回～第7回の授業内配布資料を熟読しておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

14	教育・保育計画、教育課程とカリキュラム・マネジメント実践（瀬川）
事前	授業内配布資料を熟読しておくこと。（1時間半）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、内容をノートにまとめること。（2時間半）

15	預かり保育と教育課程、まとめ（瀬川）
事前	預かり保育、時間外保育などについて調べておくこと。（2時間）
事後	授業内で配布した資料およびワークシートを読み復習をすること。また、授業全体を通して復習し試験に備えること。（2時間）

2020/07/16(木)21:37

科 目 名	スポーツI [子]			授業コード	4070010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	球技スポーツ、ラケットスポール、子どもの運動、スポーツ理論
到達目標	球技スポーツやラケットスポーツ、子どものスポーツなど様々なスポーツの基本的な技術の習得ができ、楽しむことができるようになる。この時スポーツの理論を元にした体力の維持・向上をめざす。また幼稚園・保育園でおこなうスポーツのマスターと指導ができるようにする。
授業の概要	スポーツを楽しみ、実践するための授業とする。バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー(フットサル)、卓球、レクリエーションスポーツを主な教材として、理論と実技を併用した授業をおこなう。実技では、楽しみながら実践するので、ゲームを中心におこなう。理論では、そのスポーツの概念と歴史の他に、生涯スポーツをつづける上での基礎的理論を学修する。また幼稚園・保育園でおこなっている基本的な運動もできるようにする。
授業方法	講義・実技 / アクティブラーニング: ○ / ゲームをおこなう時に、チームでパフォーマンスを上げる方法を話し合って、結果につながる工夫をすること。
評価方法 及び評価基準	レポート 授業内評価とし、レポート課題10%、運動能力30%、授業の活動状況35%、実技小テスト25%の割合で評価する。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。授業中の活動状況は主体的・積極的な参加を重視する。実技小テストは、子どもの運動を授業内テストとしておこなう。
フィードバック	授業内で実施したレポートは、コメントをして返却し、出題の意図について説明する。
履修に際しての 注意事項	①授業中は、スポーツウェアーと体育館用シューズを使用すること。②着替えは体育館更衣室におこない、必ず貴重品は体育館フロアに持ってくること。教員控え室には、貴重品を入れるロッカーとその鍵がある。③更衣室に、常時私物を置かないこと。④シャワーを使用したい時は、教員に連絡すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							○

V						○	

テキスト1	「健康・フィットネスと生涯スポーツ」東海大学一般体育研究室編、大修館書店	9784469267433
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、スポーツの理論1（健康、運動、生活）
事前	教科書Ⅰの1:「日常生活と健康」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活と健康」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2	スポーツの理論2（体力トレーニング論：ストレッチの科学と準備運動）
事前	教科書Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-4「ストレッチング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「ストレッチング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	バレーボール1（基本技術：トスとサーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

4	バレーボール2（基本技術：アタックとレシーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

5	バレーボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

6	バスケットボール1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

7	バスケットボール2（基本技術：マンツーマンデフェンス）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

8	バスケットボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

9	サッカー1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

10	サッカー2（基本技術：ルールとフォーメーション）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

11	サッカー3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

12	ラケットスポーツ1（卓球・バドミントンの基本）

事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

13	ラケットスポーツ2（卓球・バドミントンのゲームの進め方）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

14	ラケットスポーツ3（卓球・バドミントンのゲームの実際）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

15	スポーツの理論3（大学生の健康）
事前	教科書、Ⅰの1-7:「大学生の健康」、Ⅱの1-7「大学生とスポーツ」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「大学生の健康・大学生とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

16	スポーツの理論4（体力トレーニング論：筋力トレーニングの科学と方法）
事前	教科書、Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-3「筋力トレーニング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「筋力トレーニング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

17	子どもの運動1（マット運動・鉄棒・フラフープ）
事前	マット運動・鉄棒・フラフープを調べて、基本技術を理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「マット運動・鉄棒・フラフープ」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

18	バレーボール4（ゲームの役割と方法）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

19	バレーボール5（ゲームの運営）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のゲームを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

20	子どもの運動2（竹馬・縄跳び）
事前	「竹馬・縄跳び」を調べて、基本技術を理解すること（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「竹馬・縄跳び」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

21	バスケットボール4（ゲームの役割と方法）
事前	「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを調べて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

22	バスケットボール5（ゲームの運営）
事前	「バスケットボール」のゲームをみて、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

23	子どもの運動3（スキルチェック）
事前	スキルチェックをするので、事前に練習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスキルチェックを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

24	サッカー4（ゲームの役割と方法）
事前	フットサルのルールを調べてその違いを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フットサル」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

25	サッカー5（ゲームの運営）
事前	サッカーのゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったサッカーの見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

26	子どもの運動4（運動会の練習）
	運動会の種目、特に綱引き、玉入れ、障害物競走リレー、徒競走リレーの運営について調べて理解すること。（学修時間目安0.5

事前	時間）
事後	授業内でおこなった綱引き、「玉入れ・障害物競走リレー・徒競走リレー」の運営を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

27	子どもの運動5（運動会の運営）
事前	運動会に必要な道具や運営方法を調べて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった運動会に必要な道具や運営方法を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	様々なレクリエーションスポーツ2（雪合戦）
事前	スポンジボールを使った遊びについて調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスポンジボールを使った遊びを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	様々なレクリエーションスポーツ3（フロアホッケー）
事前	フロアーホッケー、アイスホッケーのルールを調べて理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フロアーホッケー・アイスホッケー」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	スポーツの理論5（日常生活とスポーツ、まとめ）
事前	教科書、Ⅱの1「日常生活とスポーツ」を読んで、理解しておくこと（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)21:54

科 目 名	スポーツI [子]			授業コード	4070020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	球技スポーツ、ラケットスポール、子どもの運動、スポーツ理論
到達目標	球技スポーツやラケットスポーツ、子どものスポーツなど様々なスポーツの基本的な技術の習得ができ、楽しむことができるようになる。この時スポーツの理論を元にした体力の維持・向上をめざす。また幼稚園・保育園でおこなうスポーツのマスターと指導ができるようにする。
授業の概要	スポーツを楽しみ、実践するための授業とする。バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー（フットサル）、卓球、レクリエーションスポーツを主な教材として、理論と実技を併用した授業をおこなう。実技では、楽しみながら実践するので、ゲームを中心におこなう。理論では、そのスポーツの概念と歴史の他に、生涯スポーツをつづける上での基礎的理論を学修する。また幼稚園・保育園でおこなっている基本的な運動もできるようにする。

授業方法	講義・実技	アクティブ ラーニング	○	ゲームをおこなう時に、チームでパフォーマンスを上げる方法を話し合って、結果につながる工夫をすること。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、レポート課題10%、運動能力30%、授業の活動状況35%、実技小テスト25%の割合で評価する。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。授業中の活動状況は主体的・積極的な参加を重視する。実技小テストは、子どもの運動を授業内テストとしておこなう。		
フィードバック	授業内で実施したレポートは、コメントをして返却し、出題の意図について説明する。			
履修に際しての 注意事項	①授業中は、スポーツウェアーと体育館用シューズを使用すること。②着替えは体育館更衣室におこない、必ず貴重品は体育館フロアに持ってくること。教員控え室には、貴重品を入れるロッカーとその鍵がある。③更衣室に、常時私物を置かないこと。④シャワーを使用したい時は、教員に連絡すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							○

V						○	

テキスト1	「健康・フィットネスと生涯スポーツ」東海大学一般体育研究室編、大修館書店	9784469267433
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、スポーツの理論1（健康、運動、生活）
事前	教科書Ⅰの1:「日常生活と健康」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活と健康」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2	スポーツの理論2（体力トレーニング論：ストレッチの科学と準備運動）
事前	教科書Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-4「ストレッチング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「ストレッチング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	バレーボール1（基本技術：トスとサーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

4	バレーボール2（基本技術：アタックとレシーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

5	バレーボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

6	バスケットボール1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

7	バスケットボール2（基本技術：マンツーマンデフェンス）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

8	バスケットボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

9	サッカー1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

10	サッカー2（基本技術：ルールとフォーメーション）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

11	サッカー3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

12	ラケットスポーツ1（卓球・バドミントンの基本）

事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

13	ラケットスポーツ2（卓球・バドミントンのゲームの進め方）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

14	ラケットスポーツ3（卓球・バドミントンのゲームの実際）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

15	スポーツの理論3（大学生の健康）
事前	教科書、Ⅰの1-7:「大学生の健康」、Ⅱの1-7「大学生とスポーツ」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「大学生の健康・大学生とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

16	スポーツの理論4（体力トレーニング論：筋力トレーニングの科学と方法）
事前	教科書、Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-3「筋力トレーニング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「筋力トレーニング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

17	子どもの運動1（マット運動・鉄棒・フラフープ）
事前	マット運動・鉄棒・フラフープを調べて、基本技術を理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「マット運動・鉄棒・フラフープ」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

18	バレーボール4（ゲームの役割と方法）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

19	バレーボール5（ゲームの運営）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のゲームを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

20	子どもの運動2（竹馬・縄跳び）
事前	「竹馬・縄跳び」を調べて、基本技術を理解すること（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「竹馬・縄跳び」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

21	バスケットボール4（ゲームの役割と方法）
事前	「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを調べて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

22	バスケットボール5（ゲームの運営）
事前	「バスケットボール」のゲームをみて、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

23	子どもの運動3（スキルチェック）
事前	スキルチェックをするので、事前に練習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスキルチェックを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

24	サッカー4（ゲームの役割と方法）
事前	フットサルのルールを調べてその違いを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フットサル」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

25	サッカー5（ゲームの運営）
事前	サッカーのゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったサッカーの見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

26	子どもの運動4（運動会の練習）
	運動会の種目、特に綱引き、玉入れ、障害物競走リレー、徒競走リレーの運営について調べて理解すること。（学修時間目安0.5

事前	時間）
事後	授業内でおこなった綱引き、「玉入れ・障害物競走リレー・徒競走リレー」の運営を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

27	子どもの運動5（運動会の運営）
事前	運動会に必要な道具や運営方法を調べて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった運動会に必要な道具や運営方法を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	様々なレクリエーションスポーツ2（雪合戦）
事前	スポンジボールを使った遊びについて調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスポンジボールを使った遊びを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	様々なレクリエーションスポーツ3（フロアホッケー）
事前	フロアーホッケー、アイスホッケーのルールを調べて理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フロアーホッケー・アイスホッケー」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	スポーツの理論5（日常生活とスポーツ、まとめ）
事前	教科書、Ⅱの1「日常生活とスポーツ」を読んで、理解しておくこと（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)21:12

科 目 名	スポーツI [科][ET]			授業コード	4070030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	球技スポーツ、ラケットスポール、子どもの運動、福祉のスポーツ、スポーツ理論

到達目標	球技スポーツやラケットスポーツ、子どものスポーツ、福祉のスポーツなど様々なスポーツの基本的な技術の習得ができ、楽しむことができるようになる。この時スポーツの理論を元にした体力の維持・向上をめざす。また子どものスポーツ、福祉のスポーツの指導ができるようにする。			
授業の概要	スポーツを楽しみ、実践するための授業とする。バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー（フットサル）、卓球、レクリエーションスポーツを主な教材として、理論と実技を併用した授業をおこなう。実技では、楽しみながら実践するので、ゲームを中心におこなう。理論では、そのスポーツの概念と歴史の他に、生涯スポーツをつづける上での基礎的理論を学修する。また幼稚園・保育園でおこなっている基本的な運動もできるようにする。			
授業方法	講義・実技	アクティブ ラーニング	○	ゲームをおこなう時に、チームでパフォーマンスを上げる方法を話し合って、結果につながる工夫をすること。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、レポート課題10%、運動能力30%、授業の活動状況35%、実技小テスト25%の割合で評価する。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。授業中の活動状況は主体的・積極的な参加を重視する。実技小テストは、子どもの運動を授業内テストとしておこなう。		
フィードバック	授業内で実施したレポートは、コメントをして返却し、出題の意図について説明する。			
履修に際しての 注意事項	①授業中は、スポーツウェアーと体育館用シューズを使用すること。②着替えは体育館更衣室におこない、必ず貴重品は体育館フロアに持ってくること。教員控え室には、貴重品を入れるロッカーとその鍵がある。③更衣室に、常時私物を置かないこと。④シャワーを使用したい時は、教員に連絡すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							○

V						○	

テキスト1	「健康・フィットネスと生涯スポーツ」東海大学一般体育研究室編、大修館書店	9784469267433
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、スポーツの理論1（健康、運動、生活）
事前	教科書Ⅰの1:「日常生活と健康」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活と健康」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2	スポーツの理論2（体力トレーニング論：ストレッチの科学と準備運動）
事前	教科書Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-4「ストレッチング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「ストレッチング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	バレーボール1（基本技術：トスとサーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

4	バレーボール2（基本技術：アタックとレシーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

5	バレーボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

6	バスケットボール1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

7	バスケットボール2（基本技術：マンツーマンデフェンス）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

8	バスケットボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

9	サッカー1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

10	サッカー2（基本技術：ルールとフォーメーション）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

11	サッカー3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

12	ラケットスポーツ1（卓球・バドミントンの基本）

事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

13	ラケットスポーツ2（卓球・バドミントンのゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

14	ラケットスポーツ3（卓球・バドミントンのゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

15	スポーツの理論3（大学生の健康）
事前	教科書、Ⅰの1-7:「大学生の健康」、Ⅱの1-7「大学生とスポーツ」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「大学生の健康・大学生とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

16	スポーツの理論4（体力トレーニング論：筋力トレーニングの科学と方法）
事前	教科書、Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-3「筋力トレーニング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「筋力トレーニング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

17	子どもの運動1（マット運動・鉄棒・フラフープ）
事前	マット運動・鉄棒・フラフープを調べて、基本技術を理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「マット運動・鉄棒・フラフープ」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

18	バレーボール4（ゲームの役割と方法）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

19	バレーボール5（ゲームの運営）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のゲームを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

20	子どもの運動2（竹馬・縄跳び）
事前	「竹馬・縄跳び」を調べて、基本技術を理解すること（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「竹馬・縄跳び」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

21	バスケットボール4（ゲームの役割と方法）
事前	「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを調べて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

22	バスケットボール5（ゲームの運営）
事前	「バスケットボール」のゲームをみて、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

23	子どもの運動3（スキルチェック）
事前	スキルチェックをするので、事前に練習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスキルチェックを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

24	サッカー4（ゲームの役割と方法）
事前	フットサルのルールを調べてその違いを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フットサル」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

25	サッカー5（ゲームの運営）
事前	サッカーのゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったサッカーの見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

26	福祉のスポーツ1（ボッチャ）
事前	ボッチャのルールついて調べて理解すること。（学修時間目安0.5時間）

事後	授業内でおこなったボッチャのルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

27	福祉のスポーツ2（ウォーキングサッカー、ウォーキングバスケットボール）
事前	ウォーキングサッカー、ウォーキングバスケットボールのルールを調べて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったウォーキングサッカー、ウォーキングバスケットボールのルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	様々なレクリエーションスポーツ1（雪合戦）
事前	スポンジボールを使った遊びについて調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスポンジボールを使った遊びを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	様々なレクリエーションスポーツ2（フロアホッケー）
事前	フロアーホッケー、アイスホッケーのルールを調べて理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フロアーホッケー・アイスホッケー」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	スポーツの理論5（日常生活とスポーツ、まとめ）
事前	教科書、Ⅱの1「日常生活とスポーツ」を読んで、理解しておくこと（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)22:19

科 目 名	アドベンチャー・スポーツ [社心子科]			授業コード	4070043
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	冒険教育、セルフディスカバリー（自己発見）、登山、ロッククライミング、シャワークライミング

到達目標	冒険活動によって、人とのコミュニケーション、個人の挑戦、グループで挑戦する体験を学修する。そして自分の可能性や人と協力しておこなう事の可能性について深め、セルフディスカバリー（自己発見）の一助とする。			
授業の概要	ロッククライミングやシャワークライミング（沢登り）や登山、イカダで湖を横断するなどの挑戦を主眼とした冒険活動を体験する。宿泊はバンガローに泊まり、自炊もおこなう。			
授業方法	実技	アクティブ ラーニング	○	コミュニケーション作りのためのゲーム、イカダ作り、沢登り、山登りはチームとして高いパフォーマンスのためにグループで話し合っておこなう。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、運動能力(40%)、授業の参加度（30%）、生活技術力（20%）、レポート（10%）の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。		
フィードバック	レポートについては、最終日に振り返りの時にお互いが発表する。その後添削して返却する。			
履修に際しての 注意事項	普段から体力作りをしていることが望ましい。団体で宿泊し、生活時間も授業と考える。健康診断を受けていて、心身共に4日間の集中授業ができること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III						○	
IV							

V						○	

テキスト1	必要に応じて配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「アドベンチャーグループカウンセリングの実践」デッィクプラウティ（プロジェクトアドベンチャージャパン） 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	夏休みに3泊4日の集中授業として実施する。 スケジュール 1日目：イニシアティブゲーム、いかだを作って湖を横断する（アイスブレイク） 夜ふりかえり 2日目：ロッククライミング（個人の挑戦） 夜ふりかえり 3日目：沢登り（グループで挑戦） 夜ふりかえり 4日目：登山及びまとめ（ふりかえり） ＜日程は、天候などによって変更があり得る。＞ 実施期日（予定）：9月上旬 実施場所（予定）：山梨県西湖及び東京都奥多摩 宿泊形態：バンガロー泊で自炊 募集人数：16名とし、参加者が多い場合は抽選とする。 持ち物：水着、スポーツシューズ、懐中電灯など家庭で準備できるものは各自で持参するが、ヘルメット、ザイルなどの専門の道具は現地で貸与する。
事前	技術用語、及び指導用語をよく調べておくこと。また動画などで体の動きを把握しておくこと。
事後	宿泊の夜に、指導を受けた内容、技術を復習しておくこと。

2020/07/16(木)22:19

科 目 名	スキー・スポーツ [社心子科]			授業コード	4070053
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	スキー、自然体験、野外教育と安全

到達目標	スキーのもつ楽しさと、自然の美しさ・厳しさを感じながら、基本的な技術と安全行動を学修する。			
授業の概要	スノースポーツの一つであるスキーの基本的な技術及び理論を学修する。実技では、技術レベルに応じた班別の指導とする。夜の講義の理論では、スキーの構造と回転の仕組み、安全行動を学修し、基本的なマナーもしっかりできるようにする。事前のオリエンテーションもおこなう。			
授業方法	実技	アクティブ ラーニング	○	
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、運動能力30%、授業の活動状況40%、小テスト20%、レポート10%の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。授業の活動状況は、主体的・積極的な活動を重視する。		
フィードバック	毎回、夜の振り返りはレポートによって発表し合い、講評する。			
履修に際しての 注意事項	普段から体力作りをしていること。団体で宿泊し、生活時間も授業と考える。健康診断を受けていて、心身共に4日間の集中授業ができること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV		○					

V	○						

テキスト1	「スキー場安全マニュアル」布目靖則（全国スキー安全対策協議会）を配付します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「日本スキー教程」全日本スキー連盟（スキージャーナル） 「日本スキー教程安全編」全日本スキー連盟（スキージャーナル） 「スキー場安全マニュアル」布目靖則（全国スキー安全対策協議会） 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	春休みに3泊4日の集中授業として実施する。「スノーボード・スポーツ」と並行しておこなうので、二つの集中授業を同時に履修することはできない。 スケジュール 1日目: バス移動 午後:実技講習 夜:講義 2日目:午前:実技講習 午後:実技講習 夜:講義 3日目:午前:実技講習 午後:実技講習 夜:講義 4日目:午前:実技講習 バス移動 ＜3日目に希望者のみSAJ公認バッチテストをおこなう＞ 実施期日:2月中旬から3月上旬 実施場所:未定 宿泊形態:旅館又はホテル 募集人数:スキー・スノーボード合計約40名 持ち物:スキー用具及びウェアはレンタルが可能。詳しいことは、事前オリエンテーションで説明する。
事前	技術用語、及び指導用語をよく調べておくこと。また動画などで体の動きを把握しておくこと。
事後	宿泊の夜に、指導を受けた内容、技術を復習しておくこと。

2020/07/16(木)22:19

科 目 名	スノーボード･スポーツ [社心子科]			授業コード	4070063
副 題					
開講期	集中	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	スノーボード、自然体験、野外教育と安全

到達目標	スノーボードのもつ楽しさと、自然の美しさ･厳しさを感じながら、基本的な技術と安全行動を学修する。			
授業の概要	スノースポーツの一つであるスノーボードの基本的な技術及び理論を学修する。実技では、技術レベルに応じた班別の指導とする。夜の講義の理論では、スノーボードの構造と回転の仕組み、安全行動を学修し、基本的なマナーもしっかりできるようにする。事前のオリエンテーションもおこなう。			
授業方法	実技	アクティブ ラーニング	○	授業内評価とし、運動能力30%、授業の活動状況40%、小テスト20%、レポート10%の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。授業の活動状況は、主体的･積極的な活動を重視する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、運動能力30%、授業の活動状況40%、小テスト20%の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。授業の活動状況は、主体的･積極的な活動を重視する。		
フィードバック	毎回、夜の振り返りはレポートによって発表し合い、講評する。			
履修に際しての 注意事項	普段から体力作りをしていることが望ましい。団体で宿泊し、生活時間も授業と考える。健康診断を受けていて、心身共に4日間の集中授業ができること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							

IV		○					
V	○						

テキスト1	「スキー場安全マニュアル」布目靖則（全国スキー安全対策協議会）を配付します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「日本スノーボード教程」全日本スキー連盟（スキージャーナル） 「日本スキー教程安全編」全日本スキー連盟（スキージャーナル） 「スキー場安全マニュアル」布目靖則（全国スキー安全対策協議会） 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	春休みに3泊4日の集中授業として実施する。「スキー・スポーツ」と並行しておこなうので、二つの集中授業を同時に履修することはできない。 スケジュール 1日目： バス移動 午後：実技講習 夜：講義 2日目：午前：実技講習 午後：実技講習 夜：講義 3日目：午前：実技講習 午後：実技講習 夜：講義 4日目：午前：実技講習 バス移動 ＜3日目に希望者のみSAJ公認バッチテストをおこなう＞ 実施期日：2月中旬から3月上旬 実施場所：未定 宿泊形態：旅館又はホテル 募集人数：スキー・スノーボード合計約40名 持ち物：スノーボード用具及びウェアはレンタルが可能。詳しいことは、事前オリエンテーションで説明する。
事前	技術用語、及び指導用語をよく調べておくこと。また動画などで体の動きを把握しておくこと。
事後	宿泊の夜に、指導を受けた内容、技術を復習しておくこと。

2020/07/16(木)20:37

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4070070
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	スポーツ、アウトドアースポーツ、アダプテッドスポーツ

到達目標	スポーツでは、バレーボール、バスケットボール、サッカー(フットサル)、バドミントンなどの技術の習得を目指すが、特にバレーボールは、学内外の大会に参加することも目標にする。また鬼ごっこ、ドッジボールなどを運営できるようにする。アダプテッドスポーツとしてのボッチャ・ウォーキングスポーツもおこなう。野外運動では、必ず夏休みの2泊3日、自分たちで決めた活動(登山その他)をおこなう。特にキャンプゲーム、キャンプファイアーを企画運営できることをめざす。卒業までに、日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター、全日本スキー連盟公認のスキー又はスノーボードのどちらかバッチテスト2級以上、ジュニアスポーツ指導員の資格を取得すること。			
授業の概要	メジャースポーツ、レクリエーション、野外運動を中心に、その技術を向上させ、子どもへの指導方法を学修する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	学外のキャンプ活動や指導など、全ての活動において、お互いが意見を述べ合い、実施方法や目標を作っていく。
評価方法 及び評価基準	レポート	運動能力20%、学内の授業の活動状況30%、学外の活動状況20%、レポート30%の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。授業の活動状況は、主体的・積極的を重視する。レポートは、各自でテーマを決めて1年間で一つの内容とする。		
フィードバック	レポートについては、出題の意図について説明してから作成し、作成後はお互いに発表して相互に講評しあう。			
履修に際しての 注意事項	通常は体育館でおこなう。野外運動をするために、休業中に学外で集中授業も実施する。その際の活動費、宿泊費、交通費は別途必要とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III					○		
IV	○						

V							

テキスト1	必要に応じて配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1.前期オリエンテーション 2～4.子どもの基本運動の技術 5～8.キャンプの技術 9～12.キャンプファイアの運営 13～15.夏休みの活動準備 ＜夏休みは2泊3日程度の登山等を予定＞ 16.後期オリエンテーション 17～20.スポーツの技術 21～24.レクリエーションゲーム 25～27.野外運動の技術 28～30.春休み中の活動準備 ＜スキー、スノーボードを予定＞
事前	毎回、授業内容を把握して、歴史、特性、ルールを調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)21:50

科 目 名	子どもと運動II/子どもとキャンプ [子][ET]			授業コード	4070090
副 題					
開講期	通年	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	外川 重信				

科目に関するキーワード	キャンプ、アウトドアー、キャンプインストラクター、子どもとキャンプ

到達目標	子どもを対象に、子どもの興味・関心を惹きつけて、キャンプ活動の意欲を高め、安全で楽しいキャンプ指導ができることとする。日本キャンプ協会公認のキャンプインストラクターの資格取得に準拠しており、資格試験も実施する。学内では、テキスト「キャンプ指導者入門」を用いて、その技術と理論を学ぶ。集中授業では、特に、飯ごう炊飯、キャンプファイアー、集団登山、思い出作りが指導できるようにする。			
授業の概要	アウトドアースポーツの中のキャンプの基本的な技術及び理論を学修する。学内で理論とその応用、集中授業としての学外でのキャンプでは、テントに宿泊し、自炊しながら、キャンプのゲーム、キャンプファイアー、登山、思い出作りなどのプログラムをおこなうことができるようにする。授業の特性上、安全の配慮、技術の熟達度の関係から、順番が入れ替わる場合がある。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	コミュニケーション作りのためのゲーム（イニシアティブゲーム、トラストゲームなどで実施する。またキャンプ、登山などの活動では積極的なグループワークをおこなう。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内評価とし、キャンプの技術30%、コミュニケーション力30%、授業の活動状況30%、レポート10%の割合でおこなう。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。授業中の活動状況は主体的・積極的な参加を重視する。		
フィードバック	レポートはについては事後の授業において添削のうえ返却し、その際に出題の意図について説明し講評する。			
履修に際しての注意事項	①体育館シューズを持参すること。②また日本キャンプ協会公認のキャンプインストラクターの資格取得の希望する学生は、別途15000円（予定）かかります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III					○		
IV	○						

V				○			

テキスト1	キャンプ指導者入門（監修）星野敏男、神崎清一、（社）日本キャンプ協会。必ず最新版を購入のこと。	9784904008003
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業説明、一年間の流れ、資格の有無）
事前	教科書全体から、内容の概略をつかんでおくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2	キャンプの特性1（理論：キャンプの意義と目的、キャンプの組織と種類）
事前	教科書理論編第1章にⅠ「キャンプの意義と目的」、Ⅱ「キャンプの組織と種類」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプの意義と目的・キャンプの組織と種類」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	キャンプの特性2（理論：キャンプのルールとマナー、キャンプと環境教育）
事前	教科書理論編第1章Ⅲ「キャンプのルールとマナー」、Ⅳ「キャンプと環境教育」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプのルールとマナー・キャンプと環境教育」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

4	キャンプの対象1（理論：人間と自然の関係）
事前	教科書理論編第2章Ⅰ「人間と自然の関係」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「人間と自然の関係」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

5	キャンプの対象2（理論：人間の心身の理解、自然環境の理解）
事前	教科書理論編第2章Ⅱ「人間の心身の理解」、Ⅲ「自然環境の理解」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「人間の心身の理解・自然環境の理解」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

6	キャンプの生活技術1（実技：キャンプの基本装備）
事前	教科書実技編第1章Ⅰ「個人装備」、Ⅱ「団体装備」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「個人装備・団体装備」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

7	キャンプの生活技術2（実技：テント設営）
事前	教科書実技編第2章Ⅰ「テントの設営」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「テントの設営」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

8	キャンプの生活技術3（実技：アウトドアクッキング）
事前	教科書実技編第2章Ⅰ「アウトドアクッキング」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「アウトドアクッキング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

9	キャンプの生活技術4（実技：アウトドアクッキングの実際）
事前	教科書実技編第2章Ⅰ「アウトドアクッキング」の方法を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「アウトドアクッキング」の実際を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

10	様々なアクティビティ1（実技：キャンプファイア）
事前	教科書実技編第3章「キャンプファイアー」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプファイアー」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

11	様々なアクティビティ2（実技：キャンプファイアーの歌とゲーム）
事前	キャンプファイアーでおこなわれる歌とゲームを調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）

事後	授業内でおこなったキャンプファイアーでおこなわれる歌とゲームを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

12	様々なアクティビティ3（実技：アイスブレイク）
事前	教科書実技編第2章Ⅰ「アイスブレイク」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「アイスブレイク」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

13	様々なアクティビティ4（実技：自然とふれあうアクティビティ）
事前	教科書実技編第3章Ⅱ「自然とふれあうアクティビティ」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「自然とふれあうアクティビティ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

14	様々なアクティビティ5（実技：人とふれあうアクティビティ）
事前	教科書実技編第3章Ⅲ「人とかかわるアクティビティ」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「人とかかわるアクティビティ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

15	集中授業のオリエンテーション
事前	教科書実技編第1章Ⅰ「個人装備」、Ⅱ「団体装備」を読んで、個人と班で持っていく道具について考えておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「個人装備・団体装備」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

16	キャンプの指導1（理論：キャンプインストラクターの資質と役割、実践のキャンプにおけるキャンプ指導者の役割）
事前	教科書理論編第3章Ⅰ「キャンプインストラクターの資質と役割」、Ⅱ「実践のキャンプにおけるキャンプ指導者の役割」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプインストラクターの資質と役割・実践のキャンプにおけるキャンプ指導者の役割」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

17	キャンプの指導2（理論：指導者のためのコミュニケーションスキル）
事前	教科書理論編第3章Ⅲ「指導者のためのコミュニケーションスキル」を読んで理解しておく。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「指導者のためのコミュニケーションスキル」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

18	キャンプの指導3（理論：キャンプにおけるカウンセリング-ソフトスキル-、キャンパーの観察と記録）
事前	教科書理論編第3章Ⅳ「キャンプにおけるカウンセリング-ソフトスキル-」、Ⅴ「キャンパーの観察と記録」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプにおけるカウンセリング-ソフトスキル・キャンパーの観察と記録」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

19	キャンプの安全1（理論：キャンプにおける安全の考え方、実技：危険予知とその対処）
事前	教科書理論編第4章Ⅰ「キャンプにおける安全の考え方」、実技編第4章Ⅰ「危険予知とその対処」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプにおける安全の考え方・危険予知とその対処」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

20	キャンプの安全2（理論：安全管理と実際、事故判例に学ぶ）
事前	教科書理論編第4章Ⅱ及びⅢ「安全管理の実際」」、Ⅳ「危事故判例に学ぶ」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプにおける安全の考え方・危険予知とその対処」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

21	キャンプの安全3（実技：事故対応マニュアル、ファーストエイドの実際）
事前	教科書実技編第4章Ⅱ「事故対応マニュアル」、Ⅲ「ファーストエイドの実際」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプにおける安全の考え方・危険予知とその対処」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

22	日本キャンプ協会公認キャンプインストラクターの資格試験について
事前	教科書全体を読んで、試験対策をしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

23	全体のまとめと反省会
事前	キャンプの授業に参加して、良かった点、反省すべき点を考えておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった良かった点、反省すべき点を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

24	学外集中に充当（キャンプ生活の実際）

事前	教科書実技編第3章Ⅷ「地域学習・生活文化体験」を読んで、キャンプ場の地域について調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を「地域学習・生活文化体験」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

25	学外集中に充当（キャンプのゲームの実際）
事前	教科書実技編第3章Ⅰ「アイスブレイク」、Ⅲ「人とかかわるアクティビティ」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「アイスブレイク・人とかかわるアクティビティ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

26	学外集中に充当（薪による野外炊事）
事前	教科書実技編第2章Ⅱ「アウトドアクッキング」の、3「野外炊事の方法」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「アウトドアクッキング・野外炊事の方法」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

27	学外集中に充当（日帰り登山：地図の見方、コンパスの使い方等の実践）
事前	教科書実技編第3章Ⅳ「オリエンテーリング活動」の4「地図の見方・コンパスの使い方」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「オリエンテーリング活動・地図の見方・コンパスの使い方」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	学外集中に充当（日帰り登山：集団登山の実践）
事前	教科書実技編第3章Ⅴ「登山」をよく読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「登山」の実技を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	学外集中に充当（キャンプファイアーの指導実践）
事前	教科書実技編第3章「キャンプファイアー」の3「キャンプファイアーの準備」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「キャンプファイアー・キャンプファイアーの準備」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	学外集中に充当（思い出作りの工作）
事前	教科書実技編第3章Ⅷ「創作・芸術活動」を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「創作・芸術活動」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)11:23

科 目 名	ジュニアスポーツ指導員養成講座 [子]			授業コード	4070103
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	外川 重信				

科目に関する キーワード	ジュニアスポーツ指導員、日本スポーツ協会公認資格、子どものスポーツ

到達目標	卒業年度の4年生が対象で、日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員の資格取得をめざす。 幼少年期の子ども達に遊びを通した身体作り、動き作りの指導をおこなうことができるようになる。夏の集中3日間では、スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につけることを目的とし、公認スポーツ指導者養成テキストを用い、養成講座共通科目Ⅰ（集合講習会）として実施する。後期は、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキストを用い基本的なスポーツの実技と指導ができるようにめざす。			
授業の概要	本養成講座は、日本体育協会ジュニアスポーツ指導員の受験のために開講されるものであり、「幼少年期の子ども達へ遊び・スポーツが指導できる理論と実践」を身につけることを学ぶ。夏期に3日間の集中授業、及び後期に通常授業としておこなう。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実技では、授業の目標や内容、進め方について話し合い、活動していく。
評価方法 及び評価基準	レポート	認定科目であるが、授業内評価とし運動能力(40%)、授業の参加度（30%）、スポーツリーダー資格テスト（20%）、レポート（10%）の割合でおこなうが、得点の分布によっては調整する可能性がある。		
フィードバック	レポートはについては事後の授業において添削のうえ返却し、その際に出題の意図について説明し講評する。			
履修に際しての 注意事項	4年生で、日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員の資格取得目指す学生を対象とする。 本学では、既に日本スポーツ協会より、ジュニアスポーツ指導員特別コースの認定を受けており、下記の条件を満たすことで資格の取得が可能です。資格は卒業時に発行されます。 条件1）田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科を卒業すること。 条件2）協会が認めた本学開講の科目を履修、単位取得すること。 主な重要な科目 ・スキースポーツ又はスノーボードスポーツから一つ取得すること。 ・子どもと運動2（キャンプ）又はアドベンチャー・スポーツから一つ取得すること。 条件3）3日間の集中講習会（共通科目Ⅰ）で修了し、共通科目検定試験を受験すること。この講習会は本学で実施する。 条件4）4年次に、1月から2月にかけて全国数カ所で開催されている、協会が定めた専門科目検定試験（半日）を受験すること。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III				○			
IV					○		
V							

テキスト1	公認スポーツ指導者養成テキスト、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（理論編）、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（実践編） 重要事項：テキストは、必要経費を納めた学生の費用から大学側で購入します。	
テキスト2	必要経費29,500円（予定）の内訳： 共通科目テキスト3900円、審査料（証明書発行）3240円 専門科目テキスト7800円、検定料10800円、審査料（証明書発行）3240円、その他雑費520円 重要事項：必要経費を納めないと授業に参加できません。また単位の取得もできません。経費は、変更の可能性もあります。	
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	○夏休み中の3日間（共通科目；集中講座） 1）指導者の役割Ⅰ(1.5H) 2）スポーツとは（1.5H） 3）地域におけるスポーツ振興（1.5H） 4）指導計画と安全管理（1.5H） 5）スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ①内科・外科（1.5H） 6）スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ②救急処置（1.5H） 7）スポーツと栄養（1H） 8）トレーニング論Ⅰ（1.5H） 9）ジュニア期のスポーツ（2H） ○後期通常授業 1）実技：幼児期の運動あそび・ゲームの実際①かけっこ、遊び 2）実技：幼児期の運動あそび・ゲームの実際②マット、縄跳び 3）実技：児童前期の運動あそび・ゲームの実際①フラフープ、跳び箱 4）実技：児童前期の運動あそび・ゲームの実際②竹馬、跳び箱、 5）実技：児童後期のスポーツスキル獲得の実際①ドッジボール 6）実技：児童後期のスポーツスキル獲得の実際②鬼ごっこ 7）実技：青年前期のスポーツスキル獲得の実際①バレーボール 8）実技：青年前期のスポーツスキル獲得の実際②バスケットボール 9）実技：青年前期のスポーツスキル獲得の実際③サッカー 10）実技：青年前期のスポーツスキル獲得の実際④ラケットスポーツ 11）理論：ジュニアスポーツ指導員の役割とジュニア期のスポーツの考え方 12）理論：子どもの発達とコミュニケーションスキル 13）理論：動きの発達とスキルの獲得 14）理論：スポーツスキルの獲得と実際 15）理論：コーディネーション能力を高める運動の必要性 試験実施なし
事前	毎回、授業内容を教科書から調べて、よく理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	毎回、授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/17(金)20:30

科　目　名	施設実習指導II [子]			副題	
担　当　者	関　維子				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	3
授業の概要	＜３年次用＞ 「施設実習指導Ⅱ」は「施設実習Ⅰ」などで得た経験をふまえ、さらなる知識や技能の習得後に、より専門的な学びを深めていく。本授業では、実習に臨むにあたっての心構えや知識等を整理し、現場での実践的な学びを十分に得られるよう事前・事後指導を行う。特に事前指導授業では、それぞれの施設が担う養護内容や援助・支援の方法などを十分に理解できるよう、より具体的で実践に即した授業を行う。 ＜４年次用＞ 実習終了後の事後指導では、グループディスカッションなどを通して、実習施設という現場での実践から得られた個人の実習経験をより確かなものにしていく。同時に、他の学生と実習経験を共有することによって保育者としての実践力の向上を図るとともに、様々な実践場面での保育士のありようへの理解を深める。				
授業のねらい・到達目標	＜３年次用＞ １．実習に必要な心構えや態度、留意点について確認し、実習関係書類等の事前準備を進めながら、実習に向けて意欲を高める。 ２．施設種別による養護内容や援助・支援の方法を理解した上で、実習に向けた自己課題を設定する。 ３．施設のもつ機能や社会的役割及び、保育士の職務内容について、より専門的な理解を深める。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)） ＜４年次用＞ １．実習を振り返り、自らの学びの成果や反省から自己の課題を明確にする。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)）				

授業の方法・授業計画

1	施設実習オリエンテーション①：施設実習の意義と概要・実習の段階と内容・実習の共通課題	16	実習事後指導①：実習の振り返り、グループディスカッション
2	施設実習オリエンテーション②：実習施設の種別の理解	17	実習事後指導②：グループディスカッションまとめの発表
3	社会的養護が必要な子どもの理解：養護系施設の理解（視聴覚教材）	18	実習事後指導③：共通課題と自己課題についてのまとめ、実習の自己評価及び、実習施設の評価と自己評価の比較、実習日誌の返却および個人面談、講評
4	障害をもつ子どもの理解：障害児・者施設の理解（視聴覚教材）	19	
5	施設実習の配属発表、自己課題の設定について	20	
6	講演会：社会的養護の現状と課題について【合同授業】	21	
7	実習日誌の書き方②：養護記録の意義と書き方	22	
8	実習体験報告会【合同授業】	23	
9	実習施設でのオリエンテーション：事前オリエンテーションに関する注意事項の説明	24	
10	事前学習発表会準備①：実習施設種別ごとのグループ別学習	25	
11	事前学習発表会準備②：実習施設種別ごとの資料作成	26	
12	事前学習発表会：グループ別学習成果の発表	27	
13	実習直前指導：実習での留意事項についての確認、実習の評価について	28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、3年次から4年次にかけて16回実施される。
上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。
上記右列3回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。
授業内や授業後に課される課題については、事後指導の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。

評価方法及び評価基準	ディスカッションにおける発言等の授業への参加（70%）、実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況（30%）などを総合して評価する。
事前・事後	事前学習では、授業計画に基づき手引きを予習し、授業内容の確実な理解に備えること。事後学習で

学習の内容	は、手引きや配布資料などで復習し、課題に取り組み、学びを確かなものにすること。各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。	
履修上の注意	「施設実習Ⅱ」につながる教科である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席は厳禁とする。	
テキスト	『施設実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』，田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 『事例を通して学びを深める　施設実習ガイド』，田中利則監修，ミネルヴァ書房	
–		
–		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	

2020/07/17(金)20:31

科　目　名	施設実習指導II [子]			副題	
担　当　者	関　維子				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	3
授業の概要	＜３年次用＞ 「施設実習指導Ⅱ」は「施設実習Ⅰ」などで得た経験をふまえ、さらなる知識や技能の習得後に、より専門的な学びを深めていく。本授業では、実習に臨むにあたっての心構えや知識等を整理し、現場での実践的な学びを十分に得られるよう事前・事後指導を行う。特に事前指導授業では、それぞれの施設が担う養護内容や援助・支援の方法などを十分に理解できるよう、より具体的で実践に即した授業を行う。 ＜４年次用＞ 実習終了後の事後指導では、グループディスカッションなどを通して、実習施設という現場での実践から得られた個人の実習経験をより確かなものにしていく。同時に、他の学生と実習経験を共有することによって保育者としての実践力の向上を図るとともに、様々な実践場面での保育士のありようへの理解を深める。				
授業のねらい・到達目標	＜３年次用＞ １．実習に必要な心構えや態度、留意点について確認し、実習関係書類等の事前準備を進めながら、実習に向けて意欲を高める。 ２．施設種別による養護内容や援助・支援の方法を理解した上で、実習に向けた自己課題を設定する。 ３．施設のもつ機能や社会的役割及び、保育士の職務内容について、より専門的な理解を深める。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)） ＜４年次用＞ １．実習を振り返り、自らの学びの成果や反省から自己の課題を明確にする。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)）				

授業の方法・授業計画

1	施設実習オリエンテーション①：施設実習の意義と概要・実習の段階と内容・実習の共通課題	16	実習事後指導①：実習の振り返り、グループディスカッション
2	施設実習オリエンテーション②：実習施設の種別の理解	17	実習事後指導②：グループディスカッションまとめの発表
3	社会的養護が必要な子どもの理解：養護系施設の理解（視聴覚教材）	18	実習事後指導③：共通課題と自己課題についてのまとめ、実習の自己評価及び、実習施設の評価と自己評価の比較、実習日誌の返却および個人面談、講評
4	障害をもつ子どもの理解：障害児・者施設の理解（視聴覚教材）	19	
5	施設実習の配属発表、自己課題の設定について	20	
6	講演会：社会的養護の現状と課題について【合同授業】	21	
7	実習日誌の書き方②：養護記録の意義と書き方	22	
8	実習体験報告会【合同授業】	23	
9	実習施設でのオリエンテーション：事前オリエンテーションに関する注意事項の説明	24	
10	事前学習発表会準備①：実習施設種別ごとのグループ別学習	25	
11	事前学習発表会準備②：実習施設種別ごとの資料作成	26	
12	事前学習発表会：グループ別学習成果の発表	27	
13	実習直前指導：実習での留意事項についての確認、実習の評価について	28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、3年次から4年次にかけて16回実施される。
上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。
上記右列3回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。
授業内や授業後に課される課題については、事後指導の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。

評価方法及び評価基準	ディスカッションにおける発言等の授業への参加（70%）、実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況（30%）などを総合して評価する。
事前・事後	事前学習では、授業計画に基づき手引きを予習し、授業内容の確実な理解に備えること。事後学習で

学習の内容	は、手引きや配布資料などで復習し、課題に取り組み、学びを確かなものにすること。各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。	
履修上の注意	「施設実習Ⅱ」につながる教科である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席は厳禁とする。	
テキスト	『施設実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』，田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 『事例を通して学びを深める　施設実習ガイド』，田中利則監修，ミネルヴァ書房	
–		
–		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	

2020/07/16(木)21:21

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4080010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし

到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)で評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:17

科 目 名	日本語表現法I [子]			授業コード	4080020
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	事実と意見 敬語 物語プレゼンテーション

到達目標	保育の専門家として、日本語の基本的な知識を身につける。特に以下の点に重点を置く。 1、相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。特に、子どもにわかりやすい言葉や表現を使って、説明や発表ができるようになる。 2、情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 3、言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習において実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力を養う。「実習日誌」等を意識して、見やすい、わかりやすい報告書の書き方について考え、実際に書いてみる。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（音読と発表）を試みる。また、「大人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数グループで物語の音読発表を行う。併せて、発表前後に作品についてのプレゼンテーションも行う。 理解度を確認するための小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	①提出物は提出期限を厳守すること。 ②テキストの辞書を必ず持参し、授業中に携帯電話等は用いないこと。 ③配付プリント等を入れるクリアファイル（A4、20ポケット）、鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III		○					
IV							
V					○		

テキスト1	『現代実用国語辞典(第3版)』 学研辞典編集部　学習研究社	4-05-3042-31-6
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス(授業の目的と内容)、日本語力チェック第1回(漢字・語彙)
事前	シラバスを熟読し1年間の流れを理解しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく。(0.5時間)

2	文章の基本1 辞書の使い方
事前	テキスト(辞書)をよく観察しておく。これまで使ってきた国語辞書を調べておく。(0.5時間)
事後	新聞等を読み、難解な言葉を探し、テキスト(辞書)を用いて確認する。(0.5時間)

3	文章の基本2 表記のきまりを知る
事前	日本語を書く際の文字の種類とその役割について、実際の文章に触れて考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する(0.5時間)。

4	文章の基本3　ことばを選ぶ
事前	話し言葉と書き言葉の違いについて考えておく。(0.5時間)
事後	配付されたプリントで復習しておく(0.5時間)。

5	レポートの基本1 事実と意見
事前	配付プリントの文章を読んで「事実」と「意見」を区別できるようにしておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し復習する。

6	レポートの基本2 レポートの構成
事前	配付プリントの文章がどのような構成になっているか考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する(0.5時間)。

7	レポートの基本3 わかりにくい文
事前	配付プリントの問題を解いて「わかりにくい文」とは何か考えておく(0.5時間)。
事後	配付プリントで「わかりにくい」文について復習する(0.5時間)。

8	日本語力チェック第2回(漢字・敬語)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく(0.5時間)。

9	敬語の基本
事前	日常使用している言葉遣いについて気になる点について考えておく(0.5時間)。
事後	学んだ敬語の基本について、整理し、理解する(0.5時間)。

10	敬語演習1 尊敬語
事前	配付した敬語の資料(尊敬語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	尊敬語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

11	敬語演習2 謙譲語
事前	配付した敬語の資料(謙譲語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	謙譲語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

12	敬語演習3 丁寧語・美化語等
事前	配付した敬語の資料(丁寧語・美化語等)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	丁寧語・美化語等を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

13	敬語演習4 場面の敬語
事前	配付した敬語の資料（場面の敬語）を用いて実践できるように練習しておく（0.5時間）。
事後	場面の敬語が正しく使えるように復習する（0.5時間）。

14	敬語総まとめ
事前	尊敬語と謙譲語など敬語の誤用に注意し、敬語の用法全般について復習しておく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

15	振り返りと自己評価
事前	前期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習しておく（0.5時間）。

16	日本語力チェック第3回（漢字・文法）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェックテストで間違えた箇所を確認し復習する（0.5時間）。

17	文章の実践1 報告文を書く
事前	配付された4コマ漫画の内容を100字以内文章にまとめる（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

18	文章の実践2　意見文を書く
事前	配付された文章を読んでおく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

19	文章の実践3　日誌の書き方の基本
事前	配付プリント（誤字直し）を完成させる（0.5時間）。
事後	添削を受けた文章の問題点を確認し、復習しておく（0.5時間）。

20	文章の実践　まとめ　実習日誌に挑戦
事前	配付プリント（表現直し）を完成させる。（0.5時間）
事後	日誌の書き方について復習し、実習に向け資料をまとめておく（0.5時間）。

21	日本語総合演習1「お話を語る」ガイダンス
事前	配付プリント（『お話とは』の抜粋）を読んでおく（0.5時間）。
事後	担当する作品を音読し、わからない言葉の意味などを調べておく。

22	日本語総合演習2 作品の紹介と音読のための資料収集
事前	音読の際にどのような情報があると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	音読の練習をし、調べた資料をまとめ、不足分は補っておく（0.5時間）。

23	日本語総合演習3 作品の紹介と音読のためのディスカッション
事前	音読の前、音読の後にどのようなことを説明すると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	発表の準備、担当、練習予定などを確認する（0.5時間）。

24	日本語総合演習4 グループAの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

25	日本語総合演習5 グループBの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

26	日本語総合演習6　グループCの発表と相互批評,まとめ　《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

27	日本語力チェック第4回（漢字・表現）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく（0.5時間）。

28	手紙文の基本1 手紙文の形式を知る
事前	テキスト（辞書）の見開きページにある手紙文に関する説明を読んでおく（0.5時間）。
事後	手紙文特有の表現を復習しておく（0.5時間）。

29	手紙文の基本2　礼状を書く
事前	形式を理解するために礼状の例文を配付した用紙に模写する（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

30	総まとめ　振り返りと自己評価
事前	後期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習し今後の課題を確認する（0.5時間）。

2020/07/16(木)11:25

科 目 名	日本語表現法I [子]			授業コード	4080030
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	事実と意見 敬語 物語プレゼンテーション

到達目標	保育の専門家として、日本語の基本的な知識を身につける。特に以下の点に重点を置く。 1、相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。特に、子どもにわかりやすい言葉や表現を使って、説明や発表ができるようになる。 2、情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 3、言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習において実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力を養う。「実習日誌」等を意識して、見やすい、わかりやすい報告書の書き方について考え、実際に書いてみる。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（音読と発表）を試みる。また、「大人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数グループで物語の音読発表を行う。併せて、発表前後に作品についてのプレゼンテーションも行う。 理解度を確認するための小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	①提出物は提出期限を厳守すること。 ②テキストの辞書を必ず持参し、授業中に携帯電話等は用いないこと。 ③配付プリント等を入れるクリアファイル（A4、20ポケット）、鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III		○					
IV							
V					○		

テキスト1	『現代実用国語辞典(第3版)』 学研辞典編集部　学習研究社	4-05-3042-31-6
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス(授業の目的と内容)、日本語力チェック第1回(漢字・語彙)
事前	シラバスを熟読し1年間の流れを理解しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく。(0.5時間)

2	文章の基本1 辞書の使い方
事前	テキスト(辞書)をよく観察しておく。これまで使ってきた国語辞書を調べておく。(0.5時間)
事後	新聞等を読み、難解な言葉を探し、テキスト(辞書)を用いて確認する。(0.5時間)

3	文章の基本2 表記のきまりを知る
事前	日本語を書く際の文字の種類とその役割について、実際の文章に触れて考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する(0.5時間)。

4	文章の基本3　ことばを選ぶ
事前	話し言葉と書き言葉の違いについて考えておく。(0.5時間)
事後	配付されたプリントで復習しておく(0.5時間)。

5	レポートの基本1 事実と意見
事前	配付プリントの文章を読んで「事実」と「意見」を区別できるようにしておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し復習する。

6	レポートの基本2 レポートの構成
事前	配付プリントの文章がどのような構成になっているか考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する(0.5時間)。

7	レポートの基本3 わかりにくい文
事前	配付プリントの問題を解いて「わかりにくい文」とは何か考えておく(0.5時間)。
事後	配付プリントで「わかりにくい」文について復習する(0.5時間)。

8	日本語力チェック第2回(漢字・敬語)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく(0.5時間)。

9	敬語の基本
事前	日常使用している言葉遣いについて気になる点について考えておく(0.5時間)。
事後	学んだ敬語の基本について、整理し、理解する(0.5時間)。

10	敬語演習1 尊敬語
事前	配付した敬語の資料(尊敬語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	尊敬語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

11	敬語演習2 謙譲語
事前	配付した敬語の資料(謙譲語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	謙譲語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

12	敬語演習3 丁寧語・美化語等
事前	配付した敬語の資料(丁寧語・美化語等)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	丁寧語・美化語等を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

13	敬語演習4 場面の敬語
事前	配付した敬語の資料（場面の敬語）を用いて実践できるように練習しておく（0.5時間）。
事後	場面の敬語が正しく使えるように復習する（0.5時間）。

14	敬語総まとめ
事前	尊敬語と謙譲語など敬語の誤用に注意し、敬語の用法全般について復習しておく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

15	振り返りと自己評価
事前	前期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習しておく（0.5時間）。

16	日本語力チェック第3回（漢字・文法）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェックテストで間違えた箇所を確認し復習する（0.5時間）。

17	文章の実践1 報告文を書く
事前	配付された4コマ漫画の内容を100字以内文章にまとめる（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

18	文章の実践2　意見文を書く
事前	配付された文章を読んでおく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

19	文章の実践3　日誌の書き方の基本
事前	配付プリント（誤字直し）を完成させる（0.5時間）。
事後	添削を受けた文章の問題点を確認し、復習しておく（0.5時間）。

20	文章の実践　まとめ　実習日誌に挑戦
事前	配付プリント（表現直し）を完成させる。（0.5時間）
事後	日誌の書き方について復習し、実習に向け資料をまとめておく（0.5時間）。

21	日本語総合演習1「お話を語る」ガイダンス
事前	配付プリント（『お話とは』の抜粋）を読んでおく（0.5時間）。
事後	担当する作品を音読し、わからない言葉の意味などを調べておく。

22	日本語総合演習2 作品の紹介と音読のための資料収集
事前	音読の際にどのような情報があると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	音読の練習をし、調べた資料をまとめ、不足分は補っておく（0.5時間）。

23	日本語総合演習3 作品の紹介と音読のためのディスカッション
事前	音読の前、音読の後にどのようなことを説明すると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	発表の準備、担当、練習予定などを確認する（0.5時間）。

24	日本語総合演習4 グループAの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

25	日本語総合演習5 グループBの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

26	日本語総合演習6　グループCの発表と相互批評,まとめ　《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

27	日本語力チェック第4回（漢字・表現）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく（0.5時間）。

28	手紙文の基本1 手紙文の形式を知る
事前	テキスト（辞書）の見開きページにある手紙文に関する説明を読んでおく（0.5時間）。
事後	手紙文特有の表現を復習しておく（0.5時間）。

29	手紙文の基本2　礼状を書く
事前	形式を理解するために礼状の例文を配付した用紙に模写する（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

30	総まとめ　振り返りと自己評価
事前	後期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習し今後の課題を確認する（0.5時間）。

2020/07/16(木)10:32

科 目 名	日本語表現法I [科]			授業コード	4080040
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	レポート・敬語・プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20％ 授業内テスト20％ レポートなどの提出物60％で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 なお、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4053013364
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書ー聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを整理し、資料をファイルにまとめておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に学んだ文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を分けて書けるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学修を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/17(金)08:27

科 目 名	日本語表現法I [科]			授業コード	4080050
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	レポート・敬語・プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 なお、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4053013364
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書ー聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを整理し、資料をファイルにまとめておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に学んだ文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を分けて書けるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学修を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)10:39

科 目 名	日本語表現法II [子]			授業コード	4080061
副 題	日本語をみがく				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	物語・記録・エッセイ

到達目標	既に履修した「日本語表現法Ⅰ」の基本知識をもとに、保育の実習や現場で生かせる表現技術を身につける。 1. 日本語の基本的な知識を応用して、目的に応じた文章を書けるようになる。 2. 敬語の基本的な知識を応用して、TPOに応じた話し方ができるようになる。 3. 状況に応じて、わかりやすい言葉や表現を使って、説明や指示ができるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅱ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 保育・幼児教育の現場ではさまざまな文章を書いたり、人前で話したりする機会がきわめて多い。またその際、目的に応じて文章を書き分ける能力や話す力が必要とされる。この授業では、総合的な日本語表現能力をみがくために、相互批評や発表を通して、それぞれの場面における適切で効果的な表現法について考えていく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	作品の口頭発表、課題の相互批評を行う 敬語のロールプレイングを行う
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み20 %、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	日本語力をより高めたい学生の受講を希望する。受講する以上は欠席をせず意識をもって取り組むこと。また、提出物は提出期限を厳守すること。赤ペン、清書用のボールペン、プリント類を整理するファイル、国語辞典を必ず持参する。「日本語表現法Ⅰ」の単位を必ず習得していること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II					○		
III					○		
IV							

V							

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～ 日本語チェック
事前	「日本語表現法Ⅰ」で学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点したチェックについて誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	文章を読む1 長く伝えられてきた昔話を読み味わう
事前	昔話のあらすじを紹介できるようにしておく。(0.5時間)
事後	昔話の特徴や形式に対する理解を深める。(0.5時間)

3	文章を書く1 昔話風の物語を書く
事前	昔話を書く際の注意事項を理解しアウトラインを作成しておく。(0.5時間)
事後	作品の推敲をし、音読の練習をしておく。(0.5時間)

4	作品発表・相互批評
事前	作品の発表準備をしておく。(0.5時間)
事後	自分の作品発表を振り返り、良かった点と改善点を整理し、まとめておく。(0.5時間)

5	TPOに応じて話す1(基礎)
事前	「日本語表現法Ⅰ」で学んだ敬語の知識を確認しておく。(0.5時間)
事後	プリント(敬語1)を復習し内容の理解を深める。(0.5時間)

6	文章を読む2 記録(連絡帳と園だより)
事前	保育者として、現場でどのような文章を書く必要があるか調べておく。(0.5時間)
事後	現場で書く文章の種類を理解し、特に「連絡帳」と「園だより」の書き方の注意点を確認しておく。

7	文章を書く2 「連絡帳」と「園だより」を書く
事前	「園だより」を書くための情報、イラスト等の資料を準備しておく。(0.5時間)
事後	作成した「園だより」を見直し、誤字や表現の直しなどがあれば改めておく。(0.5時間)

8	日記・記録の作品発表・相互批評
事前	プリントを読み、「連絡帳」、「園だより」の注意点について考えておく。(0.5時間)
事後	「連絡帳」、「園だより」の書き方のポイントを整理しまとめておく。(0.5時間)

9	TPOに応じて話す2(保育の現場を想定して)
事前	第5回で学んだ敬語に関する知識を確認しておく。(0.5時間)
事後	プリント(敬語2)を復習し内容の理解を深める。(0.5時間)

10	小説を鑑賞する
事前	配付した作品を読んでおく。(0.5時間)
事後	気づいた点や疑問点をまとめておく。(0.5時間)

11	演劇を鑑賞する(学外研修)
事前	鑑賞する演劇作品について調べておく。(0.5時間)
事後	気づいた点や疑問点をまとめておく。(0.5時間)

12	文章を読む3(エッセイ)
事前	エッセイとは何か調べておく。(0.5時間)
事後	エッセイを読んで魅力的な表現について理解しておく。(0.5時間)

13	文章を書く3(エッセイ)
事前	エッセイのアウトラインを考えておく。(0.5時間)

事後	書いた作品を見直し、誤字や表現の直しなどがあれば改めておく。(0.5時間)

14	エッセイの作品発表・相互批評
事前	作品の音読をしておく。(0.5時間)
事後	自分の作品発表を振り返り、良かった点と改善点を整理し、まとめておく。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:19

科 目 名	国語I（日本語と子ども） [子]			授業コード	4080071
副 題	日本語を知る				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関するキーワード	日本語・音声・文字・語彙・しくみ・ことばあそび

到達目標	①子どものことばの成長を手助けするという重要な役割を担う者として、日本語の基本的な知識を習得し、活用できるようになる。 ②日本語に対する理解を含め他者とのコミュニケーションに活用できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(2)（3）、D-3（4）】			
授業の概要	現代日本語の音声、文字、語彙、文法について、その成り立ちや基本的なしくみについて講義する。これらの知識を子どもの言語の発達と関連づけたうえで、母語としての知識の獲得、語彙や表現の育成のために、自分たちの体験や現場での実例を参考にして、具体的にどのような教育方法が効果的であるかを考えていく。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・毎回の授業でリアクションペーパーを書いてもらい、次回の授業の初めの時間を利用して質問等に答える。 ・授業の理解度を確認するために、「音声」「文字」「語彙」「しくみ」について、ミニレポートを課す。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（10%）、毎回のコメントシート（30%）、レポート（20%）、小テスト（40%）で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての注意事項	「国語Ⅱ」と合わせて取ることが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○			○			
III							

IV							
V	○						

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育所保育指針解説』 『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション－世界の中の日本語
事前	英語などと比較して日本語の特徴としてどのような点があげられるか、自分なりに考えておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

2	日本語の音1「しじみ」と「ちぢみ」
事前	日本語の音は他の言語と比べて多いのか少ないのか自分なりに考えておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

3	日本語の音2「箸を持って橋の端を渡っておいで」
事前	ことばをひらがなで記したときに同じ文字列であるのに、発音するとアクセントが異なる語を20組考えておく。(2時間)
事後	配付プリントを復習し理解を深めるとともに、例文の共通アクセントの練習をしておく。(2時間)

4	日本語の音3 日本語の音を利用した遊び
事前	「しりとり」の様々な遊び方を調べ、どの場合でも参加して遊べるようにしておく。(2時間)
事後	日本語の音声についてミニレポートを書く。(2時間)

5	日本語の文字1「さくら」「サクラ」「桜」「櫻」「SAKURA」
事前	自分の名前を「ひらがな」「カタカナ」「漢字」「ローマ字」で書くと、印象がどのように異なるか考え、各文字の働きについて自分なりに考えておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

6	日本語の文字2「おおかみ」?「おうかみ」?「うなずく」?「うなづく」?
事前	「現代仮名遣い」および「外来語の表記」を読んで、表記規則を理解しておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

7	日本語の文字3「漢字」の話流入の歴史、その利点と問題点、漢字教育など
事前	「常用漢字表」および「送り仮名の付け方」を読んで、気がついたことや疑問点をメモしておく。(2時間)
事後	日本語の文字についてミニレポートを書く。(2時間)

8	日本語の語彙1 泊まるなら「やどや」「旅館」「ホテル」?
事前	「やどや」「ホテル」「旅館」は、共通の意味を持ちながら印象がどのように異なるのか、さらに、このような3種の言い方があるものを10組考え、その違いについても考えておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

9	日本語の語彙2　味は「さっぱり」?「あっさり」?「すっきり」?
事前	プリントに示した類義の違いについて、辞書等で調べておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

10	日本語の語彙3 語彙を「増やす」ということ
事前	ネットなどで無料で行える語彙力テストを探し挑戦し、自分の語彙力を確認してみる。(2時間)
事後	日本語の語彙についてミニレポートを書く。(2時間)

11	日本語のしくみ1 日本語は「主語」がない?
事前	日本語の全品詞について復習し、文章の中で識別ができるようにしておく。(2時間)
事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。(2時間)

12	日本語のしくみ2「彼が来た」と「彼は来た」
事前	日本語の格助詞について復習しておく。(2時間)

事後	配付プリントについて復習し、内容について理解を深める。（2時間）

13	日本語のしくみ3 「ちょっと待った」の「た」は過去？
事前	日本語の助動詞について復習しておく。（2時間）
事後	日本語のしくみについてミニレポートを書く。（2時間）

14	ことば遊びの実践　指導案を書いてみよう
事前	幼稚園や保育園の現場で、どのような言葉遊びが行われているか調べておく。（2時間）
事後	配付プリントに示したことば遊びについて、指導案を書いてみる。（2時間）

15	まとめと総復習
事前	日本語の音声、文字、語彙、しくみについて理解できたどうか、その知識が活用できるようになったかどうかの確認をしておく。（2時間）
事後	日本語の特色について深く理解し、実習等で子どものことば遊びを試みる。（2時間）

2020/07/16(木)20:31

科 目 名	日本語表現法II [科]			授業コード	4080091
副 題	小論文からディスカッションへ				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	染谷 裕子				

科目に関する キーワード	小論文・ディスカッション・批評
到達目標	広い視野で物事を捉え、考察し、表現する力や協働的作業に必要なコミュニケーション力を養う。特に以下の点に重点を置く。 1．論文・レポートに求められる要件を理解して書けるようになる。 2．論理的な話し方ができるようになる。 3．課題に相応しい表現方法で書けるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅱ」では、「日本語表現法Ⅰ」で学んだことを踏まえて、発展的な課題に取り組む。 〈読む・書く〉に関しては、資料を読み、小論文を作成する中で、論文・レポートに役立つ表現技法を身につける。また、物語を書くことで、豊かな表現力を養う。 〈聞く・話す〉に関しては、ディスカッションを行うことで、発言の仕方やマナーなどを身につける。 なお、授業のはじめに、漢字・慣用句などの小テストを実施し、基礎知識を習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループに分かれ、ディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価　授業参加度20%　授業内テスト20%　レポートなどの提出物60パーセントの総合で評価する		
フィードバック	・授業内で提出した小論文は、事後の授業において添削して返却し、講評するので、清書する際に役立てること。 ・授業内で実施した小テストは、事後の授業において返却するので、授業内の復習テストに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	赤ペン、プリント類を整理するためのファイル、国語辞典を用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II							
III					○		
IV							

V							

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・日本語チェック(漢字・慣用句・語彙など)
事前	日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	漢字・慣用句を学ぶ
事前	四字熟語・慣用句について調べ、意味や用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントの漢字・慣用句を復習する。(0.5時間)

3	視聴覚教材を利用して、「論理の力」を学ぶ
事前	論理的表現とはどのようなものか調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

4	要約の方法1 キーワード・中心文を用いる
事前	要約のポイントを調べ、理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

5	要約の方法2 論点・主張を見抜く
事前	新聞記事などを用いて、論点や筆者の主張をまとめておく。(0.5時間)
事後	テストに備え、課題の要約の下書きを作成する。(0.5時間)

6	ディスカッションの方法を学ぶ
事前	指定されたディスカッション・小論文の題目について調べ、どの題目を選ぶか決めておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションの際の注意点や評価のポイントについて、整理しておく。(0.5時間)

7	資料を調べて整理する
事前	選択した題目についての意見やその理由について調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	授業内で調べきれなかった箇所について資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

8	小論文を書く(下書き)
事前	調べた資料をもとに、小論文のアウトラインを作成しておく。(0.5時間)
事後	自分の論文に説得力を持たせるための資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

9	小論文を書く(清書)
事前	原稿用紙の使い方、表記の注意点など、[「日本語表現法Ⅰ」で学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	質問を予想し、回答できるように資料を調べ、まとめておく。(0.5時間)

10	ディスカッション1(練習)
事前	相手への質問を考え、まとめておく。(0.5時間)
事後	練習において不十分だった点について、調べておく。(0.5時間)

11	ディスカッション2 (発表1 Aグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

12	ディスカッション3(発表2 Bグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

13	物語を書く
事前	物語を書く際の注意事項を理解し、アウトラインを作成しておく。(0.5時間)

事後	物語を書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

14	物語を批評する（批評・コメントの書き方）
事前	物語の批評を読み、その特徴を理解しておく。(0.5時間)
事後	批評・コメントを書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう、復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:51

科 目 名	保育原理 [子]			授業コード	4090011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				
幼稚園園長の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	保育の意義、保育制度、保育に関する法令、保育の歴史、保育の課題
到達目標	保育の意義と目的、保育に関する法令と制度について理解し、一人一人の子どもの主体的な育ちを支える保育を実践していくために必要とされる保育者としての視点や援助のあり方を、自分なりに考えていくことができるようになる。
授業の概要	保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度を理解する。また保育所保育指針における保育の基本を理解する。保育の思想やその歴史的変遷を理解するとともに、諸外国の保育を含めて、保育の現状や現在の保育が抱える様々な課題をとらえ、検討する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業内で、グループワークやフィールドワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末まとめ（50%）、小レポート（50%）		
フィードバック	授業内で課した小レポート（ワークシートと言う）は、必要に応じて回収し、確認（添削含む）の上、返却し、説明・講評を行う。最終レポートの課題に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	特になし			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	『シードブック　三訂　保育原理』大沼良子、榎沢良彦編著（建帛社） 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館	978-4-7679-5066 -2
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会と保育の役割・責任
事前	シラバスを熟読し、講義内容の全体像を理解しておくこと。テキスト「シードブック　三訂　保育原理」（以下「テキスト1」と記す）のpp1－14(前半）を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間）
事後	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「保育原理」の関連資料を整理し、内容を読んでおくこと(2時間）

2	保育の意義及び目的
事前	テキストのpp26-43を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間）
事後	保育の意義と目的について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連箇所をまとめておくこと(2時間）

3	保育と子どもの最善の利益・子ども家庭福祉
事前	国連で採択された子どもの権利条約について調べ、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	子どもの権利条約の内容をワークシートにまとめておくこと（2時間）

4	保育に関する法令及び制度
事前	テキスト1のpp14(後半）-25を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の法令と制度について、ワークシートに記入し、理解を深めておくこと（2時間）

5	子ども・子育て支援新制度と保育の実施体系
事前	テキスト1のpp44-53(前半）を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	身近な地域の子ども・子育て支援の活動についてワークシートにまとめておくこと（2時間）

6	保育における養護と教育
事前	テキスト1のpp155-170を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の養護と教育について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連箇所をまとめておくこと(2時間）

7	保育の基本（1）子ども理解
事前	テキスト1のpp53(後半）-62を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	子ども理解の方法について、DVD等の内容をまとめ、整理しておくこと（2時間）

8	保育の基本（2）環境を通しての保育
事前	保育環境について、自身の就学前の経験をもとにまとめておくこと（2時間）
事後	フィールドワークを行った身近な環境について、整理しておくこと（2時間）

9	保育の内容と方法（1）保育内容の領域と方法
事前	保育の領域と内容についてまとめるとともに、特に関心がある領域について、発表できるように準備しておくこと（2時間）
事後	保育の環境図をまとめておくこと（2時間）

10	保育の内容と方法（2）「生活・遊び」を通した「学び」
事前	テキスト1のpp63-67を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと。また子ども時代に遊んだ遊びをリストにまとめておくこと（2時間）
事後	年齢別の遊びの特徴、遊びと学びの関係など、授業の復習を行い、将来の保育者として、遊びの理解を深め、子どもと一緒に遊べる遊びの種類を増やしておくこと（2時間）

11	保育の過程（1）計画、実践、記録、省察、評価、改善
事前	テキスト1のpp68-84を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の指導案を作成しておくこと（2時間）

12	保育の過程（2）PDCAサイクル
事前	指導案を基に、保育の過程として理解した内容（例：カンファレンスの意義など）をワークシートにまとめておくこと（2時間）
事後	グループワークを踏まえて保育の指導案を修正し、完成しておくこと（2時間）

13	保育の思想と歴史的変遷（1）諸外国の保育の思想
事前	テキスト1のpp85-106を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	代表的な海外の保育の思想家について、ワークシートに整理し、まとめておくこと(2時間）

14	保育の思想と歴史的変遷（2）日本の保育の思想
事前	テキスト1のpp107-136を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	代表的な日本の保育の思想家について、ワークシートに整理し、まとめておくこと(2時間）

15	まとめ：保育の現状と課題
事前	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を復習しておくこと。テキスト1のpp137－154を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	授業で取り上げた保育の理念や実践のあり方について振り返り、全体のまとめを行っておくこと（2時間）

2020/07/16(木)22:08

科 目 名	保育原理 [子]			授業コード	4090021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				
幼稚園園長の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	保育の意義、保育制度、保育に関する法令、保育の歴史、保育の課題
到達目標	保育の意義と目的、保育に関する法令と制度について理解し、一人一人の子どもの主体的な育ちを支える保育を実践していくために必要とされる保育者としての視点や援助のあり方を、自分なりに考えていくことができるようになる。
授業の概要	保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度を理解する。また保育所保育指針における保育の基本を理解する。保育の思想やその歴史的変遷を理解するとともに、諸外国の保育を含めて、保育の現状や現在の保育が抱える様々な課題をとらえ、検討する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業内で、グループワークやフィールドワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末まとめ（50%）、小レポート（50%）		
フィードバック	授業内で課した小レポート（ワークシートと言う）は、必要に応じて回収し、確認（添削含む）の上、返却し、説明・講評を行う。最終レポートの課題に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	特になし			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II	○						
III							
IV							

V							

テキスト1	『シードブック　三訂　保育原理』大沼良子、榎沢良彦編著（建帛社） 『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館	978-4-7679-5066 -2
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配布する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会と保育の役割・責任
事前	シラバスを熟読し、講義内容の全体像を理解しておくこと。テキスト「シードブック　三訂　保育原理」（以下「テキスト1」と記す）のpp1－14(前半）を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間）
事後	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「保育原理」の関連資料を整理し、内容を読んでおくこと(2時間）

2	保育の意義及び目的
事前	テキストのpp26-43を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間）
事後	保育の意義と目的について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連箇所をまとめておくこと(2時間）

3	保育と子どもの最善の利益・子ども家庭福祉
事前	国連で採択された子どもの権利条約について調べ、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	子どもの権利条約の内容をワークシートにまとめておくこと（2時間）

4	保育に関する法令及び制度
事前	テキスト1のpp14(後半）-25を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の法令と制度について、ワークシートに記入し、理解を深めておくこと（2時間）

5	子ども・子育て支援新制度と保育の実施体系
事前	テキスト1のpp44-53(前半）を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	身近な地域の子ども・子育て支援の活動についてワークシートにまとめておくこと（2時間）

6	保育における養護と教育
事前	テキスト1のpp155-170を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の養護と教育について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連箇所をまとめておくこと(2時間）

7	保育の基本（1）子ども理解
事前	テキスト1のpp53(後半）-62を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	子ども理解の方法について、DVD等の内容をまとめ、整理しておくこと（2時間）

8	保育の基本（2）環境を通しての保育
事前	保育環境について、自身の就学前の経験をもとにまとめておくこと（2時間）
事後	フィールドワークを行った身近な環境について、整理しておくこと（2時間）

9	保育の内容と方法（1）保育内容の領域と方法
事前	保育の領域と内容についてまとめるとともに、特に関心がある領域について、発表できるように準備しておくこと（2時間）
事後	保育の環境図をまとめておくこと（2時間）

10	保育の内容と方法（2）「生活・遊び」を通した「学び」
事前	テキスト1のpp63-67を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと。また子ども時代に遊んだ遊びをリストにまとめておくこと（2時間）
事後	年齢別の遊びの特徴、遊びと学びの関係など、授業の復習を行い、将来の保育者として、遊びの理解を深め、子どもと一緒に遊べる遊びの種類を増やしておくこと（2時間）

11	保育の過程（1）計画、実践、記録、省察、評価、改善
事前	テキスト1のpp68-84を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	保育の指導案を作成しておくこと（2時間）

12	保育の過程（2）PDCAサイクル
事前	指導案を基に、保育の過程として理解した内容（例：カンファレンスの意義など）をワークシートにまとめておくこと（2時間）
事後	グループワークを踏まえて保育の指導案を修正し、完成しておくこと（2時間）

13	保育の思想と歴史的変遷（1）諸外国の保育の思想
事前	テキスト1のpp85-106を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	代表的な海外の保育の思想家について、ワークシートに整理し、まとめておくこと(2時間）

14	保育の思想と歴史的変遷（2）日本の保育の思想
事前	テキスト1のpp107-136を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	代表的な日本の保育の思想家について、ワークシートに整理し、まとめておくこと(2時間）

15	まとめ：保育の現状と課題
事前	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を復習しておくこと。テキスト1のpp137－154を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	授業で取り上げた保育の理念や実践のあり方について振り返り、全体のまとめを行っておくこと（2時間）

2020/07/16(木)20:33

科 目 名	保育実践入門/子ども理解の理論と方法 [子]			授業コード	4090030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	内藤 知美				

科目に関するキーワード	子ども理解、フィールドワーク、カンファレンス、振り返り

到達目標	本授業のねらいは、保育の基本である子ども理解の理論と方法を学ぶことである。また、保育における子どもの生活や遊びの実態に即して、子ども理解の意義を捉え、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずきや要因を把握する。さらに子ども理解を深めるための基礎的な態度を学ぶ。また、実践の場に参加し、子ども理解とそれに基づく対応の方法を獲得する。 本授業の到達目標は以下の2点である。 (1)子ども理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。(①子ども理解の意義を理解している。②子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。③子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。) (2)子ども理解の方法を具体的に理解する。(①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。③子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。)			
授業の概要	「保育」とは、一人ひとりの子どもの育ちを支え、援助していく営みである。そのためには、保育者は子どもの内面を捉え、必要な援助を探ることが求められる。本授業では、子ども理解についての知識を身につけ、子ども理解の考え方や子ども理解の知識や理論を学ぶ。また、観察と記録の意義、観察法の基礎を理解した上で、実際に保育実践の場に参加し、子どもとかかわる経験を通して、観察、記録、カンファレンス等を用いて個と集団の関係、幼児のつまずきと背景、保護者との連携の方法を学ぶ。また子どもの内面や行為の意味を探求し、子どもとのかかわりを振り返るという保育のプロセスを体験する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	みらいこども園での実習およびそれを踏まえてのカンファレンスなど。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート(60%)、授業および演習への参加態度(40%)		
フィードバック	提出課題である事例(エピソード記録)等については、必要に応じて添削して返却する。フィードバックされたものをもとに各自修正版を作成すること。			
履修に際しての注意事項	学外での演習を主とした科目であるため、初回授業において、授業履修上必要な諸注意やスケジュールの説明を行います。その指示に従って履修してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III		○					
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配付します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子ども理解の理論と方法を学ぶことの意義
事前	シラバスを確認し、授業の全体像を把握しておくこと(0.5時間)
事後	実習先となる認定こども園について、幼稚園、保育所との違いなどをまとめておくこと(0.5時間)

2	子ども観と子どもの見方
事前	子ども理解の方法について、まとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を行うみらいこども園について、保育時間、環境、クラスなどをまとめておくこと(0.5時間)

3	子ども理解のための観察法と多様な記録
事前	フィールドワーク(実習)において、どのように観察や記録をとるかについて、配布資料を確認しておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)において、子ども、保育者、環境をどのような視点で観察するかをまとめておくこと(0.5時間)

4	実践から学ぶ子どもの遊び
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、子どもの記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、子どもの遊びなどに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

5	実践から学ぶ子ども相互のかかわり
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、遊びや環境等の記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、保育者の援助や保育環境などに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

6	子どもに対する共感的理解と関係論的視点
事前	フィールドワーク(実習)の学びを振り返る方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	カンファレンスの意義についてまとめるとともに、カンファレンスを通して得られた他者の意見等を踏まえて、子ども理解の方法や自分自身の観察の課題をまとめておくこと(0.5時間)

7	生活や遊びを通した子どもの発達と学びの理解
事前	保育の理論と実際に体験したフィールドワーク(実習)の間で気づいた相違点等をまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を踏まえて、子ども理解の方法(観察法、記録などを含む)を復習しておくこと(0.5時間)

8	
事前	
事後	

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	子どもの葛藤やつまずきとその背景の理解(特別な配慮を要する子どもの理解を含む)
事前	前半の子ども理解の理論と方法（観察法、記録等）を復習し、自分自身の後半の課題を整理しておくこと（0.5時間）
事後	配慮を必要とする子どもを含めて、子ども理解や子どもと関わる方法を復習し、整理しておくこと（0.5時間）

17	実践から学ぶ個と集団の関係性
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、個と集団の捉え方やクラス運営について、どのような視点から保育を見るのかを明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、子ども同士の関わりや個と集団の関係性に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

18	実践から学ぶ保育環境の構成
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、保育者の援助や保育環境について、どのように保育を見るのか視点を明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、保育環境や保育者の援助に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

19	保育者による振り返り①観察・記録
事前	エピソード記録を書く際の、注意事項を整理しておくこと（0.5時間）
事後	エピソード記録の書き方の留意点を踏まえて、エピソード記録の修正版を作成しておくこと（0.5時間）

20	保育者による振り返り②省察・評価
事前	子どもにとっての遊びの意味を整理しておくこと（0.5時間）
事後	遊びの援助者としての自分自身を振り返り、まとめておくこと（0.5時間）

21	保育者間の連携―対話とカンファレンス―
事前	対話とカンファレンスについて、まとめておくこと（0.5時間）
事後	対話とカンファレンスを通して、理想とする保育者、保育環境、保育者同士の連携についてまとめておくこと（0.5時間）

22	保護者との情報共有と連携
事前	理想とする保育者像や保育環境、保護者連携などについて、自分の意見を指定のシートにまとめておくこと（0.5時間）
事後	保育現場の実例をもとに、子ども理解、保育の環境構成、保護者との連携のあり方などをまとめておくこと（0.5時間）

23	まとめ―子ども理解を深める保育者とは―
事前	子ども理解を深めるための、子ども観、保育観、保育者像、保育環境、適切な援助について、授業（フィールドワーク含む）を通して学んだことを整理しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの授業内容を整理し、将来の保育者としての自己課題や今後の実習に向けての課題をまとめておくこと（0.5時間）

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:10

科 目 名	保育内容(言葉) [子]			授業コード	4090042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				

科目に関する キーワード	保育内容、言葉の発達、言葉を育てる援助、児童文化財

到達目標	本授業では、幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。また子どもの言葉の発達や学びの過程を理解するとともに、言葉での関わりのもちにくい子どもを含めて、保育者の言葉掛けや言葉を育てる援助のあり方を具体的な場面を想定しつつ学ぶ。さらに言葉を育てる保育を、児童文化財等を活用しつつ構想・計画し、模擬保育を通して実践力を養うことを目指している。			
授業の概要	子どもの総合的発達における言葉の領域について、0歳から就学前までの子どもの言葉の発達や学びの過程をとらえ、言葉での関わりのもちにくい子どもも含めて、子どもの生活・遊びと言葉の関わりや保育者の援助のあり方について、映像資料や事例等を通して具体的に検討する。また言葉を育てる指導計画を作成し、環境を構成する方法を学ぶとともに、多様な言葉の獲得を促す絵本・紙芝居などの児童文化財の活用について理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	児童文化財（絵本・紙芝居等）を活用した模擬保育
評価方法 及び評価基準	レポート	期末まとめ（50%）、小レポート（50%）		
フィードバック	授業内で課した小レポート（ワークシートと言う）は、必要に応じて回収し、確認（添削含む）の上、返却し、説明・講評を行う。最終レポートの課題に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	授業中に配布するワークシートを整理、活用して、各自が主体的に学びを深めること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III					○		
IV							

V							○

テキスト1	『コンパス　保育内容　言葉』内藤知美・新井美保子編著（建帛社）	978-4-7679-5050-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「領域　言葉」のねらいと内容
事前	シラバスを熟読し、講義内容の全体像を理解しておくこと(2時間)
事後	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「言葉の領域」の関連資料を整理し、内容をまとめておくこと(2時間)

2	言葉の発達と学びの過程（0歳期）：信頼関係と非言語コミュニケーション
事前	テキスト「コンパス　保育内容　言葉」（以下「テキスト1」と記す）のpp1－8、19－30を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	0歳期の言葉の特徴について復習し、0歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(2時間)

3	言葉の発達と学びの過程（1歳期）：1語・2語発話の時期の関わり
事前	テキスト1のpp31－40を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	1歳期の言葉の特徴について復習し、1歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(2時間)

4	言葉の発達と学びの過程（2歳・3歳期）：生活や人間関係と言葉
事前	テキスト1のpp41－62を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	2歳・3歳期の言葉の特徴について復習し、2・3歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

5	言葉の発達と学びの過程（4歳・5歳期）：イメージの共有・遊びを通した言葉
事前	テキスト1のpp63-84を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	4歳・5歳期の言葉の特徴について復習し、4歳・5歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

6	就学前と移行期の言葉：言葉による伝え合いや文字への関心
事前	テキスト1のpp9-18を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	就学前からの小学校への移行期の言葉の特徴について復習し、子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

7	保育の中の言葉（1）話すことと聞くこと
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（2時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(2時間)

8	保育の中の言葉（2）言葉の美しさ、多様な言語への関心
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、第7回（事前課題）に引き続き、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（2時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(2時間)

9	事例検討（1）共感的・受容的な言葉かけ
事前	テキスト1のpp111－120を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）

事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp111－120に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと(2時間)

10	事例検討(2)思考を育てる言葉かけ
事前	テキスト1のpp121－130を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp121－130に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと(2時間)

11	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助(1)障害児
事前	テキスト1のpp93－102を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	言葉での関わりのもちにくい子どもの言葉の発達の特徴と援助について復習し、専門機関との連携のあり方を整理し、まとめておくこと(2時間)

12	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助(2)外国籍の子ども
事前	テキスト1のpp103－110を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	日本語を母語としない子どもの言葉の援助について復習しておく。自身の地域の現状を調べたり、語彙を増やす教材や援助のあり方をまとめておくこと(2時間)

13	指導案の作成と模擬保育(1)情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp131－136を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる0.1.2歳の指導案を作成しておくこと(2時間)

14	指導案の作成と模擬保育(2)情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp137－142を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる3.4.5歳および異年齢保育の指導案を作成しておくこと(2時間)

15	模擬保育の振り返りとまとめ
事前	指導案を作成し、模擬保育の準備をしておくこと(2時間)
事後	授業で取り上げた理論と実践を振り返り、全体のまとめを行っておくこと(2時間)

2020/07/16(木)21:52

科 目 名	保育内容(言葉) [子]			授業コード	4090052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				

科目に関する キーワード	保育内容、言葉の発達、言葉を育てる援助、児童文化財

到達目標	本授業では、幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。また子どもの言葉の発達や学びの過程を理解するとともに、言葉での関わりのもちにくい子どもを含めて、保育者の言葉掛けや言葉を育てる援助のあり方を具体的な場面を想定しつつ学ぶ。さらに言葉を育てる保育を、児童文化財等を活用しつつ構想・計画し、模擬保育を通して実践力を養うことを目指している。			
授業の概要	子どもの総合的発達における言葉の領域について、0歳から就学前までの子どもの言葉の発達や学びの過程をとらえ、言葉での関わりのもちにくい子どもも含めて、子どもの生活・遊びと言葉の関わりや保育者の援助のあり方について、映像資料や事例等を通して具体的に検討する。また言葉を育てる指導計画を作成し、環境を構成する方法を学ぶとともに、多様な言葉の獲得を促す絵本・紙芝居などの児童文化財の活用について理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	児童文化財（絵本・紙芝居等）を活用した模擬保育
評価方法 及び評価基準	レポート	期末まとめ（50%）、小レポート（50%）		
フィードバック	授業内で課した小レポート（ワークシートと言う）は、必要に応じて回収し、確認（添削含む）の上、返却し、説明・講評を行う。最終レポートの課題に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	授業中に配布するワークシートを整理、活用して、各自が主体的に学びを深めること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III					○		
IV							

V							○

テキスト1	『コンパス　保育内容　言葉』内藤知美・新井美保子編著（建帛社）	978-4-7679-5050-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「領域　言葉」のねらいと内容
事前	シラバスを熟読し、講義内容の全体像を理解しておくこと(2時間)
事後	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「言葉の領域」の関連資料を整理し、内容をまとめておくこと(2時間)

2	言葉の発達と学びの過程（0歳期）：信頼関係と非言語コミュニケーション
事前	テキスト「コンパス　保育内容　言葉」（以下「テキスト1」と記す）のpp1－8、19－30を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	0歳期の言葉の特徴について復習し、0歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(2時間)

3	言葉の発達と学びの過程（1歳期）：1語・2語発話の時期の関わり
事前	テキスト1のpp31－40を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	1歳期の言葉の特徴について復習し、1歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(2時間)

4	言葉の発達と学びの過程（2歳・3歳期）：生活や人間関係と言葉
事前	テキスト1のpp41－62を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	2歳・3歳期の言葉の特徴について復習し、2・3歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

5	言葉の発達と学びの過程（4歳・5歳期）：イメージの共有・遊びを通した言葉
事前	テキスト1のpp63-84を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	4歳・5歳期の言葉の特徴について復習し、4歳・5歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

6	就学前と移行期の言葉：言葉による伝え合いや文字への関心
事前	テキスト1のpp9-18を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）
事後	就学前からの小学校への移行期の言葉の特徴について復習し、子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(2時間)

7	保育の中の言葉（1）話すことと聞くこと
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（2時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(2時間)

8	保育の中の言葉（2）言葉の美しさ、多様な言語への関心
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、第7回（事前課題）に引き続き、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（2時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(2時間)

9	事例検討（1）共感的・受容的な言葉かけ
事前	テキスト1のpp111－120を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（2時間）

事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp111－120に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと(2時間)

10	事例検討(2)思考を育てる言葉かけ
事前	テキスト1のpp121－130を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp121－130に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと(2時間)

11	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助(1)障害児
事前	テキスト1のpp93－102を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	言葉での関わりのもちにくい子どもの言葉の発達の特徴と援助について復習し、専門機関との連携のあり方を整理し、まとめておくこと(2時間)

12	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助(2)外国籍の子ども
事前	テキスト1のpp103－110を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	日本語を母語としない子どもの言葉の援助について復習しておく。自身の地域の現状を調べたり、語彙を増やす教材や援助のあり方をまとめておくこと(2時間)

13	指導案の作成と模擬保育(1)情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp131－136を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる0.1.2歳の指導案を作成しておくこと(2時間)

14	指導案の作成と模擬保育(2)情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp137－142を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(2時間)
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる3.4.5歳および異年齢保育の指導案を作成しておくこと(2時間)

15	模擬保育の振り返りとまとめ
事前	指導案を作成し、模擬保育の準備をしておくこと(2時間)
事後	授業で取り上げた理論と実践を振り返り、全体のまとめを行っておくこと(2時間)

2020/07/16(木)21:45

科 目 名	保育内容（言葉I) [子]			授業コード	4090061
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	内藤 知美				

科目に関するキーワード	保育内容、言葉の発達、言葉を育てる援助、児童文化財

到達目標	本授業では、幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。また子どもの言葉の発達や学びの過程を理解するとともに、言葉での関わりのもちにくい子どもを含めて、保育者の言葉掛けや言葉を育てる援助のあり方を具体的な場面を想定しつつ学ぶ。さらに言葉を育てる保育を、児童文化財等を活用しつつ構想・計画し、模擬保育を通して実践力を養うことを目指している。			
授業の概要	子どもの総合的発達における言葉の領域について、0歳から就学前までの子どもの言葉の発達や学びの過程をとらえ、言葉での関わりのもちにくい子どもも含めて、子どもの生活・遊びと言葉の関わりや保育者の援助のあり方について、映像資料や事例等を通して具体的に検討する。また言葉を育てる指導計画を作成し、環境を構成する方法を学ぶとともに、多様な言葉の獲得を促す絵本・紙芝居などの児童文化財の活用について理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	児童文化財（絵本・紙芝居等）等を活用した模擬保育
評価方法及び評価基準	レポート	期末まとめ（50%）、小レポート（50%）		
フィードバック	授業内で課した小レポート（ワークシートと言う）は、必要に応じて回収し、確認（添削含む）の上、返却し、説明・講評を行う。最終レポートの課題に役立てること。			
履修に際しての注意事項	授業中に配布するワークシートを整理、活用して、各自が主体的に学びを深めること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III					○		
IV							

V							○

テキスト1	『コンパス　保育内容　言葉』内藤知美・新井美保子編著（建帛社）	978-4-7679-5050-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』（平成30年）フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「領域　言葉」のねらいと内容
事前	シラバスを熟読し、講義内容の全体像を理解しておくこと(0.5時間)
事後	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「言葉の領域」の関連資料を整理し、内容をまとめておくこと(0.5時間)

2	言葉の発達と学びの過程（0歳期）：信頼関係と非言語コミュニケーション
事前	テキスト「コンパス　保育内容　言葉」（以下「テキスト1」と記す）のpp1－8、19－30を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと(0.5時間)
事後	0歳期の言葉の特徴について復習し、0歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(0.5時間)

3	言葉の発達と学びの過程（1歳期）：1語・2語発話の時期の関わり
事前	テキスト1のpp31－40を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	1歳期の言葉の特徴について復習し、1歳期の子どもの言葉の発達を促すふれあい遊びなどを修得しておくこと(0.5時間)

4	言葉の発達と学びの過程（2歳・3歳期）：生活や人間関係と言葉
事前	テキスト1のpp41－62を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	2歳・3歳期の言葉の特徴について復習し、2・3歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(0.5時間)

5	言葉の発達と学びの過程（4歳・5歳期）：イメージの共有・遊びを通した言葉
事前	テキスト1のpp63-84を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	4歳・5歳期の言葉の特徴について復習し、4歳・5歳期の子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(0.5時間)

6	就学前と移行期の言葉：言葉による伝え合いや文字への関心
事前	テキスト1のpp9-18を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	就学前からの小学校への移行期の言葉の特徴について復習し、子どもの言葉の発達を促す児童文化財の活用方法などを修得しておくこと(0.5時間)

7	保育の中の言葉（1）話すことと聞くこと
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（0.5時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(0.5時間)

8	保育の中の言葉（2）言葉の美しさ、多様な言語への関心
事前	話す態度と聞く態度を育てるために、第7回（事前課題）に引き続き、年齢別の児童文化財（絵本）のリストを作成しておくこと（0.5時間）
事後	授業の内容を復習するとともに、リスト化した児童文化財の実践（練習）を行い、自身の課題を整理しておくこと(0.5時間)

9	事例検討（1）共感的・受容的な言葉かけ
事前	テキスト1のpp111－120を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）

事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp111－120に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと（0.5時間）

10	事例検討（2）思考を育てる言葉かけ
事前	テキスト1のpp121－130を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	事例検討から考えたことをまとめておくこと。テキスト1のpp121－130に取り上げられた様々な児童文化財を調べておくこと（0.5時間）

11	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助（1）障害児
事前	テキスト1のpp93－102を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	言葉での関わりのもちにくい子どもの言葉の発達の特徴と援助について復習し、専門機関との連携のあり方を整理し、まとめておくこと(0.5時間）

12	言葉での関わりのもちにくい子どもと援助（2）外国籍の子ども
事前	テキスト1のpp103－110を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	日本語を母語としない子どもの言葉の援助について復習しておく。自身の地域の現状を調べたり、語彙を増やす教材や援助のあり方をまとめておくこと(0.5時間）

13	指導案の作成と模擬保育（1）情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp131－136を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる0.1.2歳の指導案を作成しておくこと（0.5時間）

14	指導案の作成と模擬保育（2）情報機器・教材を活用して
事前	テキスト1のpp137－142を読んで内容を理解し、質問等をまとめておくこと（0.5時間）
事後	指導案の書き方を復習し、言葉を育てる3.4.5歳および異年齢保育の指導案を作成しておくこと（0.5時間）

15	模擬保育の振り返りとまとめ
事前	指導案を作成し、模擬保育の準備をしておくこと（0.5時間）
事後	授業で取り上げた理論と実践を振り返り、全体のまとめを行っておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)21:33

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園) [子]			授業コード	4090072
副 題					
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				
幼稚園園長の経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	保育者の職務理解、子ども理解、保育内容、協働と実践的理解、保育キャリア
到達目標	保育に関する理論的学習と実習をはじめとする実践的学びとの統合を図り、保育現場に臨む意識・意欲を高めながら、保育者としての資質をより一層確実に形成することを目的とする。 この目的に対し、以下の目標を設定する。 1. これまでの保育実践を振り返り、自己の課題や保育に関するテーマを明確にできる。 2. 保育実践力の向上のために、その課題やテーマに対して、他者と協働しながらさまざまな角度や視点から取り組むことができるようになる。 3. 保育者の職務内容への理解を深め、保育者としての使命と責任についての自覚をもつことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：本科目は全項目と密接なかかわりを持つ】
授業の概要	保育者として必要な知識・技能の修得を総合的に目指すために、子ども理解、保育内容、保育教材、保育技術、保育の環境構成、指導計画、保育者の役割と援助、担任業務と学級運営、現代社会において求められる幼稚園・保育所・施設の機能と役割、保育者として必要な対人関係能力、保育者の責任と使命の自覚などを主な学習項目として、受講生同士の主体的な協議・検討を通じて、協働的・実践的に学ぶ。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・保育現場での実習体験から、保育にかかわる課題を発見し、課題解決にむけて、テーマごとのグループ討論を行う。 ・数人のグループワークを実施した後、学年全体で実習を振り返り、研究発表を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生独自のアイディアを活かした「まとめ課題」を作成する。
評価方法及び評価基準	レポート	期末レポート（30%）、提出物（40%）、グループワークの成果物（30%）		
フィードバック	個人、およびグループでのシートやワーク等について、良い点、改善点等、振り返りのアドバイスを授業内でを伝える。			
履修に際しての注意事項	・グループワークを中心とした演習科目であるので、積極的に参加する姿勢が求められる。特に、グループ研究に関しては、授業時間外でもグループ作業が必要となるので留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III						○	
IV							○
V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科「履修ファイル」、 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 各自の全実習日誌ほか、授業において適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション:本科目の意義と目的、授業計画の説明、保育の主要テーマに関するグループ討議【合同授業】
事前	シラバスを熟読する。また、実習日誌を読み実習体験を振り返っておくこと。(2時間)
事後	実習日誌から、自己課題として深めたい内容を整理しておく。(2時間)

2	事例検討①各自の実習体験事例に関するグループ討議
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
事後	グループ討議の内容をまとめ、記録しておくこと。(2時間)

3	グループ研究①課題の抽出および研究テーマの確認
事前	研究テーマを念頭に置き、3要領を読んでおくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

4	グループ研究②グループ別テーマの検討・テーマに関する基本的知識の復習
事前	テーマについての資料や文献を準備しておくこと。(2時間)
事後	研究作業に必要な各自の分担課題をまとめ,深めておくこと。(2時間)

5	グループ研究③グループ別テーマの検討・テーマに関する事例の検討
事前	[プレゼンテーション」とは、どういうものなのか、調べておくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

6	グループ研究④グループ別テーマの検討・テーマに関する事例に基づく討議
事前	自分たちのグループに適したプレゼン方法の資料を用意しておくこと。(2時間)
事後	グループ活動が円滑に進むようにグループ内での各自の役割を自覚し、役割に関する内容を整理すること。(2時間)

7	グループ研究⑤グループ研究報告会中間報告
事前	中間発表のプレゼンテーション準備をしておくこと。(2時間)
事後	他グループの中間発表を参考に自身のグループの振り返りをすること。(2時間)

8	グループ研究⑥グループ研究報告会におけるプレゼン方法・資料の再検討
事前	中間発表のプレゼンテーション練習をしておくこと。(2時間)
事後	各グループにおけるテーマに向けてメンバー同士が協働できるよう発表内容を整理すること。(2時間)

9	グループ研究報告会:グループ研究の成果を発表・報告【合同授業】
事前	発表原稿,及びパワーポイント等の修正をしておくこと。(2時間)
事後	参加者からの質問、感想、講評などをまとめて記録しておくこと。(2時間)

10	グループ研究報告会の振り返り①研究結果から導き出される課題の抽出
事前	履修ファイルを読んでおくこと。(2時間)
事後	履修ファイル該当ページに記入しておくこと。(2時間)

11	グループ研究報告会の振り返り②研究結果から導き出される課題に関する検討
事前	「キャリア」とは何かについて調べておくこと。(2時間)

事後	研究結果から導き出された課題を保育者の視点からまとめること。(2時間)

12	事例検討②各自の実習体験事例の再検討
事前	「保育職のキャリア」について調べておくこと。(2時間)
事後	実習体験やグループ研究報告を通して感じた「保育職の魅力」職についてまとめておくこと。(2時間)

13	ロールプレイングとグループ討議
事前	「保育者のキャリアステップ」について調べておくこと。(2時間)
事後	授業を振り返り、「自身の目指す保育者の姿」についてまとめておく。(2時間)

14	授業のまとめ①保育者の多様な職務内容について【合同授業】
事前	「保育者の職務内容」について確認しておくこと。(2時間)
事後	「保育者の多様な職務内容」についてまとめ記録しておくこと。(2時間)

15	授業のまとめ②保育者としての責任と使命について
事前	「保育者の責任と使命」について確認し、その視点から自己評価しておくこと。(2時間)
事後	今後の自己課題と展望を確認し,記録すること。(2時間)

2020/07/16(木)20:38

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4090080
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	内藤 知美				

科目に関するキーワード	保育のグローバル化、多文化共生、子どもの権利、研究倫理

到達目標	保育のフィールドワークや文献などを通して、自ら興味と関心のあるテーマを模索し、そのテーマについて探究する。ゼミ内で研究倫理や研究方法について学びながら、それぞれのテーマを深め合い、課題研究としてまとめる。また課題を保育に関わる実践に結びつけ、遊びの広場など実際に子どもと関わる「場づくり」を体験し、協働性を養う。【「履修ファイル」の対応項目：C-1(1)(2),D-4(1)(2)(3)】			
授業の概要	子どもが豊かに成長するための保育のあり方について、遊びや人的・物的環境の観点から検討する。その際、保育のグローバル化、多文化共生、子どもの権利など、現代の子どもを取り巻く社会的変化に着目し、実践的かつ国際的視点から探究する。遊びの広場など子どもと実際に関わる「場づくり」を通して、子どもの育ちを支えるために具体的にどのようなActionができるのかを考える。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	遊びの広場などのフィールドワークを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業への参加態度、課題研究への取り組みと成果および発表を総合的に評価する。評価の目安は、参加態度（30%）、課題研究（60%）、発表(10%)		
フィードバック	ゼミ内の課題に対しては、対話を中心にフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	学外の保育施設や子育て支援施設、児童文化施設等の見学を予定している。見学にかかる交通費等は別途必要となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V	○				○		

テキスト1	各自の関心のあるテーマに即して授業内で指示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1　オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、評価方法など） 2～13　①文献、ビデオ等による保育の検討 ②保育のフィールドワーク（保育施設、子育て支援施設等） ③遊びの広場などの開催（実践） ④研究倫理と研究方法 14　課題研究のテーマ（案）についての発表 15　前期のまとめ 16　課題研究および保育に関わる実践を進めるための研究計画についての発表 17～20　課題研究のための文献の収集、講読、フィールドワーク 21～26　保育に関わる実践（例：遊びの広場） 27～30　課題研究および保育に関わる実践の振り返りとまとめ（発表含む）
事前	専門演習の課題研究やテーマに対する予習・必要なデータの収集（0.5時間）
事後	専門演習の授業を受けての振り返りや各自のテーマにもとづく研究の遂行（0.5時間）

2020/07/16(木)22:35

科 目 名	保育実践入門/子ども理解の理論と方法 [子]			授業コード	4090103
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	内藤 知美				

科目に関する キーワード	子ども理解、フィールドワーク、カンファレンス、振り返り

到達目標	本授業のねらいは、保育の基本である子ども理解の理論と方法を学ぶことである。また、保育における子どもの生活や遊びの実態に即して、子ども理解の意義を捉え、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずきや要因を把握する。さらに子ども理解を深めるための基礎的な態度を学ぶ。また、実践の場に参加し、子ども理解とそれに基づく対応の方法を獲得する。 本授業の到達目標は以下の2点である。 (1)子ども理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。(①子ども理解の意義を理解している。②子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。③子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。) (2)子ども理解の方法を具体的に理解する。(①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。③子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。)			
授業の概要	「保育」とは、一人ひとりの子どもの育ちを支え、援助していく営みである。そのためには、保育者は子どもの内面を捉え、必要な援助を探ることが求められる。本授業では、子ども理解についての知識を身につけ、子ども理解の考え方や子ども理解の知識や理論を学ぶ。また、観察と記録の意義、観察法の基礎を理解した上で、実際に保育実践の場に参加し、子どもとかかわる経験を通して、観察、記録、カンファレンス等を用いて個と集団の関係、幼児のつまずきと背景、保護者との連携の方法を学ぶ。また子どもの内面や行為の意味を探求し、子どもとのかかわりを振り返るという保育のプロセスを体験する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	みらいこども園での実習およびそれを踏まえてのカンファレンスなど。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題レポート(60%)、授業および演習への参加態度(40%)		
フィードバック	提出課題である事例(エピソード記録)等については、必要に応じて添削して返却する。フィードバックされたものをもとに各自修正版を作成すること。			
履修に際しての 注意事項	学外での演習を主とした科目であるため、初回授業において、授業履修上必要な諸注意やスケジュールの説明を行います。その指示に従って履修してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III		○					
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配付します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子ども理解の理論と方法を学ぶことの意義
事前	シラバスを確認し、授業の全体像を把握しておくこと(0.5時間)
事後	実習先となる認定こども園について、幼稚園、保育所との違いなどをまとめておくこと(0.5時間)

2	子ども観と子どもの見方
事前	子ども理解の方法について、まとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を行うみらいこども園について、保育時間、環境、クラスなどをまとめておくこと(0.5時間)

3	子ども理解のための観察法と多様な記録
事前	フィールドワーク(実習)において、どのように観察や記録をとるかについて、配布資料を確認しておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)において、子ども、保育者、環境をどのような視点で観察するかをまとめておくこと(0.5時間)

4	実践から学ぶ子どもの遊び
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、子どもの記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、子どもの遊びなどに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

5	実践から学ぶ子ども相互のかかわり
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、遊びや環境等の記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、保育者の援助や保育環境などに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

6	子どもに対する共感的理解と関係論的視点
事前	フィールドワーク(実習)の学びを振り返る方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	カンファレンスの意義についてまとめるとともに、カンファレンスを通して得られた他者の意見等を踏まえて、子ども理解の方法や自分自身の観察の課題をまとめておくこと(0.5時間)

7	生活や遊びを通した子どもの発達と学びの理解
事前	保育の理論と実際に体験したフィールドワーク(実習)の間で気づいた相違点等をまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を踏まえて、子ども理解の方法(観察法、記録などを含む)を復習しておくこと(0.5時間)

8	
事前	
事後	

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	子どもの葛藤やつまずきとその背景の理解(特別な配慮を要する子どもの理解を含む)
事前	前半の子ども理解の理論と方法（観察法、記録等）を復習し、自分自身の後半の課題を整理しておくこと（0.5時間）
事後	配慮を必要とする子どもを含めて、子ども理解や子どもと関わる方法を復習し、整理しておくこと（0.5時間）

17	実践から学ぶ個と集団の関係性
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、個と集団の捉え方やクラス運営について、どのような視点から保育を見るのかを明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、子ども同士の関わりや個と集団の関係性に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

18	実践から学ぶ保育環境の構成
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、保育者の援助や保育環境について、どのように保育を見るのか視点を明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、保育環境や保育者の援助に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

19	保育者による振り返り①観察・記録
事前	エピソード記録を書く際の、注意事項を整理しておくこと（0.5時間）
事後	エピソード記録の書き方の留意点を踏まえて、エピソード記録の修正版を作成しておくこと（0.5時間）

20	保育者による振り返り②省察・評価
事前	子どもにとっての遊びの意味を整理しておくこと（0.5時間）
事後	遊びの援助者としての自分自身を振り返り、まとめておくこと（0.5時間）

21	保育者間の連携―対話とカンファレンス―
事前	対話とカンファレンスについて、まとめておくこと（0.5時間）
事後	対話とカンファレンスを通して、理想とする保育者、保育環境、保育者同士の連携についてまとめておくこと（0.5時間）

22	保護者との情報共有と連携
事前	理想とする保育者像や保育環境、保護者連携などについて、自分の意見を指定のシートにまとめておくこと（0.5時間）
事後	保育現場の実例をもとに、子ども理解、保育の環境構成、保護者との連携のあり方などをまとめておくこと（0.5時間）

23	まとめ―子ども理解を深める保育者とは―
事前	子ども理解を深めるための、子ども観、保育観、保育者像、保育環境、適切な援助について、授業（フィールドワーク含む）を通して学んだことを整理しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの授業内容を整理し、将来の保育者としての自己課題や今後の実習に向けての課題をまとめておくこと（0.5時間）

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:22

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4100010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし
到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:48

科 目 名	社会福祉概論 [子]			授業コード	4100021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				
児童福祉施設での勤務経験や、社会福祉士・精神保健福祉士たる法務省保護司としての実務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	少子高齢化・貧困・人権擁護
到達目標	先人の営みの上に立つのが現在の社会である。制度のあるなしに関わらず、それぞれの時代において支援が必要な人に寄り添ってきた、有名無名の先人たちの意思を感じ取りたい。 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解することができる。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解することができる。 ・社会福祉における相談援助について理解することができる。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。 ・社会福祉の動向と課題について理解することができる。
授業の概要	保育者として子どもとその家庭にかかわる時、それらが生活を営むこの社会に対する深い理解が不可欠である。われわれ学び手自身が同じ「生活者」の視点を持ちながら、現在の社会福祉が抱える限界と可能性について理解する。 児童福祉施設での勤務経験を有し、かつ法務省保護司たる担当教員がその経験を活かし、今日的な福祉課題を時事を交えつつ解説する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	試験	概ね次の①～③により評価する。①授業中の小テスト(20%)②提出物(30%)③試験(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・試験等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 保育される子どもにとって、諸君は初めての「先生」なのである。雛形としての「大人」なのである。その責任感と矜持を持って謙虚に学ぶことを要望する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○				○		
III							

IV							
V	○						

テキスト1	『社会福祉の形成と展開』 井村圭壮・今井慶宗編著（勁草書房）2019	978-4-326-70109-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、適宜講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育士が社会福祉を学ぶということ
事前	「社会福祉」という言葉から連想するものを整理し、社会問題を自分なりに整理しておくこと。(1.5時間)
事後	社会福祉で新たに関心を持った分野について、最近のニュース等を整理すること。(2.5時間)

2	社会福祉と自己覚知
事前	自らが得手不得手とする場面や事象、人間関係について整理すること。(1.5時間)
事後	講義内で得た自らの考え方の傾向を、他者との価値観の違いについて理解を深めること(2.5時間)

3	少子高齢化社会における社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	高齢者に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	障碍者に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	障碍者とスポーツについて
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	貧困問題に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	ホームレスの自立支援について(視聴覚教材)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	児童虐待に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	非行少年に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	地域における社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	ボランティアと社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	社会福祉の専門職について
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	災害時における要援護者に対する支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	講義内で触れた用語と周辺の事象を理解するとともに、自分の地域における防災について調べること。(2.5時間)

15	社会福祉の動向と課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)21:09

科 目 名	社会福祉概論 [子]			授業コード	4100031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				
児童福祉施設での勤務経験や、社会福祉士・精神保健福祉士たる法務省保護司としての実務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	少子高齢化・貧困・人権擁護
到達目標	先人の営みの上に立つのが現在の社会である。制度のあるなしに関わらず、それぞれの時代において支援が必要な人に寄り添ってきた、有名無名の先人たちの意思を感じ取りたい。 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解することができる。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解することができる。 ・社会福祉における相談援助について理解することができる。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。 ・社会福祉の動向と課題について理解することができる。
授業の概要	保育者として子どもとその家庭にかかわる時、それらが生活を営むこの社会に対する深い理解が不可欠である。われわれ学び手自身が同じ「生活者」の視点を持ちながら、現在の社会福祉が抱える限界と可能性について理解する。 児童福祉施設での勤務経験を有し、かつ法務省保護司たる担当教員がその経験を活かし、今日的な福祉課題を時事を交えつつ解説する。
授業方法	講義 / アクティブラーニング: ○ / コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	試験	概ね次の①～③により評価する。①授業中の小テスト(20%)②提出物(30%)③試験(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・試験等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 保育される子どもにとって、諸君は初めての「先生」なのである。雛形としての「大人」なのである。その責任感と矜持を持って謙虚に学ぶことを要望する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○				○		
III							

IV							
V	○						

テキスト1	『社会福祉の形成と展開』 井村圭壮・今井慶宗編著（勁草書房）2019	978-4-326-70109-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、適宜講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育士が社会福祉を学ぶということ
事前	「社会福祉」という言葉から連想するものを整理し、社会問題を自分なりに整理しておくこと。(1.5時間)
事後	社会福祉で新たに関心を持った分野について、最近のニュース等を整理すること。(2.5時間)

2	社会福祉と自己覚知
事前	自らが得手不得手とする場面や事象、人間関係について整理すること。(1.5時間)
事後	講義内で得た自らの考え方の傾向を、他者との価値観の違いについて理解を深めること(2.5時間)

3	少子高齢化社会における社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	高齢者に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	障碍者に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	障碍者とスポーツについて
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	貧困問題に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	ホームレスの自立支援について(視聴覚教材)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	児童虐待に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	非行少年に関する社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	地域における社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	ボランティアと社会福祉
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	社会福祉の専門職について
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	災害時における要援護者に対する支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	講義内で触れた用語と周辺の事象を理解するとともに、自分の地域における防災について調べること。(2.5時間)

15	社会福祉の動向と課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:52

科 目 名	司法福祉論 [社介心]			授業コード	4100041
副 題	更生保護制度				
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	刑罰・更生・再犯防止
到達目標	本講義ではソーシャル・インクルージョンの視点から、更生保護制度の現状と課題を把握することを目標とする。犯罪者や非行少年の「更生」だけでなく、そもそも犯罪そのものが起きにくい社会創りを考えることができる。 ・相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解することができる。 ・更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解することができる。 ・刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解することができる。
授業の概要	洋の東西を問わず、「犯罪」を取り扱うニュースやエピソードは人々の耳目を集める。名探偵が犯人を突き止める推理小説、刑事が犯人を追いつめるテレビドラマ。しかし、これらは犯人が捕まった「その後」は描かれていないものが大半である。また現実社会でも、事件の概要や裁判・判決については詳細に報じられるものの、犯人の「その後」はほとんど知りえることはない。罪を犯した者の生活暦を辿ると、「貧困」「無知」「疾病（これは高齢含む）」などといった、いわゆる支援を必要とする要素が示されることが多い。この分野についての学びを深めることは、様々な網の目からこぼれ落ちた人々の存在を認識することにもつながるといえる。
授業方法	講義	アクティブ ラーニング ○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	試験	概ね次の①～③により評価する。①授業中の小テスト(20%)②提出物(30%)③試験(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・試験等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。	
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。		
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 学生諸君を、社会福祉専門職を目指す後輩として処遇する。その旨よく自覚されたい。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					

III							
IV							
V	○	○					

テキスト1	毎回レジュメを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・司法福祉・更生保護とは
事前	現代社会の犯罪の現況を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2	更生保護のあらまし 1. 更生保護の成り立ち 2. 更生保護の理念と目的 3. 更生保護と刑事司法・少年司法 4. 更生保護と司法福祉・社会福祉
事前	「罪とは何か」「更生するとは何か」を各自の考えをまとめておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

3	更生保護の制度① 1. 仮釈放 2. 生活環境調整 3. 保護観察
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	更生保護の制度② 4. 更生緊急保護 5. 恩赦 6. 被害者支援 7. 更生保護における犯罪予防活動
事前	自らが居住する地域の「社会を明るくする運動」他犯罪予防活動について調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	更生保護の担い手① 1. 保護観察官 2. 保護司 3. 社会復帰調整官
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	更生保護の担い手② 4. 更生保護施設 5. 民間協力者(BBS会・協力雇用主・自立準備ホーム等)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

	関係団体・機関との連携・協力① 1. 矯正施設との連携・協力

7	2. 検察庁との連携・協力 3. 裁判所との連携・協力
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	関係団体・機関との連携・協力② 4. 社会福祉・医療機関・団体との連携・協力 5. 就労支援機関との連携・協力 6. 学校との連携・協力 7. その他の機関・団体との連携・協力
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	医療観察制度の概要① 1. 生活環境調査 2. 生活環境調整 3. 精神保健観察 4. 関係機関・団体との連携
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	関係団体・機関との連携・協力② 4. 社会福祉・医療機関・団体との連携・協力 5. 就労支援機関との連携・協力 6. 学校との連携・協力 7. その他の機関・団体との連携・協力
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	医療観察制度の概要① 1. 医療観察法の成立と施行 2. 生活環境調査と調整
事前	本制度が成立する以前の課題を各自で整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	医療観察制度の概要② 3. 精神保健観察・社会復帰調整官 4. 関係機関・団体との連携
事前	本制度と保護観察制度の類似点と相違点について整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	罪を犯した障碍者と向き合う（視聴覚教材使用）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	更生保護における動向と課題
事前	講義内で指示される事の他、「再犯防止推進計画」について各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

15	まとめ(更生保護分野において期待される社会福祉士の役割)
事前	講義内で指示される事について各自で整理しておくこと。(1.5時間)
事後	一連講義内で触れた用語と周辺の事象を整理し、自らが社会で成せることを整理すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)21:04

科 目 名	社会的養護内容/社会的養護II [子]			授業コード	4100052
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	子どもの権利擁護・子どもの自立支援・地域との連携

到達目標	子どもが育つ環境を理解するためには、社会(制度)のアプローチがどのような形でなされているのかを理解しなければならない。保育所保育士であっても施設保育士であっても、その立場で目指すものは同じである。すなわち『子どもの最善の利益のために』。 本講義では子どもに関わる専門職との連携を常に意識しながら、倫理に基づいた保育士の支援のあり方を考えることができる。 ・社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解することができる。 ・施設養護および他の社会的養護に実際について理解することができる。 ・個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に理解することができる。 ・社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について理解することができる。 ・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。 （履修ファイル対応項目：A-3(1)～(3),A-4(5),B-2(1)～(6)）
授業の概要	本講義では事例と時事を織り交ぜながら、社会的養護の具体的内容を歴史的展開を踏まえて修得していく。その支援内容については、支援者自身のジレンマや今後の課題が浮き彫りになるよう意識し講義を展開する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	試験	概ね次の①～③により評価する。①授業中の小テスト(20%)②提出物(30%)③試験(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・試験等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・試験等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。		

フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 保育される子どもにとって、諸君は初めての「先生」なのである。雛形としての「大人」なのである。その責任感と矜持を持って謙虚に学ぶことを要望する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				

III							
IV							
V		○					

テキスト1	『新基本保育シリーズ⑱ 社会的養護Ⅱ』公益財団法人児童育成協会監修（中央法規）2019	978-4-8058-5798-4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、適宜講義内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・子どもが社会で育つということ
事前	テキストの章立ておよび概要を把握すること。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

2	子どもの権利擁護
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

3	社会的養護における保育士等の倫理および責務
事前	保育士の倫理綱領の他、関連する職域の倫理綱領や行動規範を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

4	施設養護（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）の特性および実際①
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

5	施設養護（情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、障害児施設）の特性および実際②
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

6	家庭養護（里親制度・ファミリーホーム事業・養子縁組制度）の特性および実際
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

7	社会的養護におけるケアマネジメント
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

8	自立支援計画の作成
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

9	日常生活支援に関する事例分析
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

10	心理的支援に関する事例分析
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

11	自立支援に関する事例分析
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

12	記録および自己評価（ケースカンファレンス）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

13	社会的養護における保育士の専門性（知識・技術とその応用）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

14	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(0.5時間)

15	施設の小規模化と地域のかかわりおよびその課題と展望・まとめ
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(0.5時間)
事後	一連の講義内容を整理し、今後の実践に反映させるよう各自の学びを進めること。(0.5時間)

2020/07/16(木)10:36

科 目 名	ソーシャルワーク論 [子]			授業コード	4100062
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	専門職の倫理・地域(住民)の主体性保証・社会資源の発掘・開発
到達目標	ソーシャルワークに関する知識や技術の修得を授業の目標とする。その知識や技術とは「ソーシャルワーカー倫理綱領」に書かれた価値と原則、倫理観を基本としたものである。それらを学ぶことで将来、保育の現場で自ら考え、的確な判断をするベースになるものを体系化して理解することができる。そのために、参加型授業とし、学生が主体的に考える機会を多く持つようにする。
授業の概要	保育士はソーシャルワーカーそのものではないが、実際の保育の場面ではソーシャルワークの知識と技術を知ることで、保育の場でよい援助ができるとされている。このソーシャルワーク論では、基礎的な内容を発展させ、ソーシャルワークにおける倫理・価値、歴史、理論、実践、援助方法を通してソーシャルワークとは何かを学ぶこととする。またテーマを設定し、グループワークにおけるディスカッションにより、「聴くこと」「伝えること」の大切さを学び、ソーシャルワークについての理解が深められるようにする。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	レポート	概ね次の①～③により評価する。①受講姿勢(20%)②提出物(30%)③レポート(50%)。また評価基準は次のように定める。S)授業に積極的に参加し、提出物・レポート等の内容が特に優れている。A)Sに次ぐ。B)授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にもやや難点が見られる。C)授業に参加はしているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にも大きな難点が見られる。D)全ての面で課題が全く理解されていない。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 2年次までに学んだソーシャルワークに関連する科目の基礎知識を踏まえたうえでの授業となるので、基礎知識の応用が利くようにすること。授業に積極的に取り組み、自ら考える習慣を身につけ、グループワークでは自分の意見を正確に伝えることができるように努めること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	

II							
III						○	
IV							
V			○				

テキスト1	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉11「保育ソーシャルワーク」』倉石哲也/鶴宏史編著(ミネルヴァ書房)2019	978-4-6230-7960-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜授業中に紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育ソーシャルワークの考え方
事前	テキストの章立ておよび概要を把握すること。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2	保育ソーシャルワークとは何か(定義・目的・対象・原理・機能)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、テキストの「定義」を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

3	保育ソーシャルワークの価値と倫理
事前	保育士の倫理綱領をしっかりと振り返り、関連する専門職の倫理綱領や行動規範を各自で調べておく。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	保育ソーシャルワークの視点
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、テキストの関連項目を整理すること。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	保育ソーシャルワークの方法(ミクロレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する事例を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	保育ソーシャルワークの方法(メゾレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する事例を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	保育ソーシャルワークの方法(マクロレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの地域行政レベルにおけるパブリックコメントの状況を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	保育ソーシャルワークの技術(面接技法・支援姿勢)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、地域での面接場面についていくつか想定しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	保育ソーシャルワークの技術(グループワーク)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、該当箇所を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	保育ソーシャルワークの技術(コミュニティワーク)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの地域の課題を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	保育ソーシャルワークのすすめ方（展開過程）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)

事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	保育ソーシャルワークの実践事例
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、指示される事例を複数準備しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	保育ソーシャルワークの地域実践事例(自らの地域を知る)
事前	自らの居住地における地域課題を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	保育ソーシャルワークとスーパービジョン(視聴覚教材)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、実習時の振り返り事項項目を整理しておく。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

15	保育ソーシャルワークの動向と課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らが考えるソーシャルワークの課題を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	一連の講義内容を整理し、今後の実践に反映させるよう各自の学びを進めること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:28

科 目 名	ソーシャルワーク論 [子]			授業コード	4100072
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	専門職の倫理・地域(住民)の主体性保証・社会資源の発掘・開発
到達目標	ソーシャルワークに関する知識や技術の修得を授業の目標とする。その知識や技術とは「ソーシャルワーカー倫理綱領」に書かれた価値と原則、倫理観を基本としたものである。それらを学ぶことで将来、保育の現場で自ら考え、的確な判断をするベースになるものを体系化して理解することができる。そのために、参加型授業とし、学生が主体的に考える機会を多く持つようにする。
授業の概要	保育士はソーシャルワーカーそのものではないが、実際の保育の場面ではソーシャルワークの知識と技術を知ることで、保育の場でよい援助ができるとされている。このソーシャルワーク論では、基礎的な内容を発展させ、ソーシャルワークにおける倫理・価値、歴史、理論、実践、援助方法を通してソーシャルワークとは何かを学ぶこととする。またテーマを設定し、グループワークにおけるディスカッションにより、「聴くこと」「伝えること」の大切さを学び、ソーシャルワークについての理解が深められるようにする。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	レポート	概ね次の①～③により評価する。①受講姿勢(20%)②提出物(30%)③レポート(50%)。また評価基準は次のように定める。S)授業に積極的に参加し、提出物・レポート等の内容が特に優れている。A)Sに次ぐ。B)授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にもやや難点が見られる。C)授業に参加はしているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にも大きな難点が見られる。D)全ての面で課題が全く理解されていない。		

フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。 2年次までに学んだソーシャルワークに関連する科目の基礎知識を踏まえたうえでの授業となるので、基礎知識の応用が利くようにすること。授業に積極的に取り組み、自ら考える習慣を身につけ、グループワークでは自分の意見を正確に伝えることができるように努めること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	

II							
III						○	
IV							
V			○				

テキスト1	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉11「保育ソーシャルワーク」』倉石哲也/鶴宏史編著(ミネルヴァ書房)2019	978-4-6230-7960-5
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜授業中に紹介	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育ソーシャルワークの考え方
事前	テキストの章立ておよび概要を把握すること。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2	保育ソーシャルワークとは何か(定義・目的・対象・原理・機能)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、テキストの「定義」を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

3	保育ソーシャルワークの価値と倫理
事前	保育士の倫理綱領をしっかりと振り返り、関連する専門職の倫理綱領や行動規範を各自で調べておく。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	保育ソーシャルワークの視点
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、テキストの関連項目を整理すること。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	保育ソーシャルワークの方法(ミクロレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する事例を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	保育ソーシャルワークの方法(メゾレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する事例を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	保育ソーシャルワークの方法(マクロレベル)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの地域行政レベルにおけるパブリックコメントの状況を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	保育ソーシャルワークの技術(面接技法・支援姿勢)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、地域での面接場面についていくつか想定しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	保育ソーシャルワークの技術(グループワーク)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、該当箇所を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	保育ソーシャルワークの技術(コミュニティワーク)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの地域の課題を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	保育ソーシャルワークのすすめ方（展開過程）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)

事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	保育ソーシャルワークの実践事例
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、指示される事例を複数準備しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	保育ソーシャルワークの地域実践事例(自らの地域を知る)
事前	自らの居住地における地域課題を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	保育ソーシャルワークとスーパービジョン(視聴覚教材)
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、実習時の振り返り事項項目を整理しておく。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

15	保育ソーシャルワークの動向と課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らが考えるソーシャルワークの課題を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	一連の講義内容を整理し、今後の実践に反映させるよう各自の学びを進めること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:58

科 目 名	スクールソーシャルワーク論 [社心]			授業コード	4100081
副 題	教育と福祉を繋ぐソーシャルワーク				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関するキーワード	学校・地域・多職種連携

到達目標	スクールソーシャルワークが必要とされるようになった歴史的・社会的背景について学ぶ。また教育現場の現状や児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の状況を把握する。その過程においてスクールソーシャルワーカーの価値や倫理についても理解することができる。また海外のスクールソーシャルワークの発展過程、ワーカーの活動内容の実践モデルについても触れる。さらに教育現場におけるソーシャルワークの展開方法を学び、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける支援の実際やスーパービジョンなど、学校と協働する関係機関等との関わりにおいても学び、それを理解することができる。			
授業の概要	今日、子どもや家庭、学校を取り巻く環境は厳しく、児童虐待、いじめや不登校、非行、ひとり親家庭、DV、特別支援教育、外国人児童等の教育など喫緊に対応すべき課題も多くなっている。この科目では、教育現場である学校が抱える課題を理解し、スクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を学ぶ。児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の状況を把握し、スクールソーシャルワーカーの価値や倫理について理解する。またアメリカを中心とした海外のスクールソーシャルワークの発展過程、ワーカーの活動内容の実践モデルについても触れる。さらに教育現場におけるソーシャルワークの展開方法を学び、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける支援の実際やスーパービジョンなど、学校と協働する関係機関等との関わりにおいても学び、理解する。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法及び評価基準	レポート	概ね次の①～③により評価する。①受講姿勢(20%)②提出物(30%)③レポート(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・レポート等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加はしているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての注意事項	資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。教育と福祉の架け橋たらんとの思いを持ち、講義に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							

IV							
V		○					

テキスト1	『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ　よくわかるスクールソーシャルワーク 第2版』山野則子・野田正人・半羽利美佳編著ミネルヴァ書房(2016)	9784623078349
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	スクールソーシャルワーク論を学ぶにあたって
事前	スクールソーシャルワークに関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の状況
事前	該当する内容について講義内で指示されることのほか、学校における現代的課題を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

3	スクールソーシャルワーカー導入の社会的背景と必要性
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	スクールソーシャルワークの価値と倫理
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、社会福祉士の倫理綱領を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	児童生徒が抱える課題の理解ー特別支援教育・外国人児童等の就学問題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの地域の外国人住民の状況を調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	児童生徒が抱える課題の理解ー貧困・孤立・地域の変化等
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、貧困に関連するデータを調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	学校が連携する機関とその機能
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する地域の社会資源を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	アメリカおよび日本のスクール（学校）ソーシャルワークの発展過程
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動の概要
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	スクールソーシャルワークの実践モデルの概要
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する地域の事例を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	スクールソーシャルワークの個別及び集団支援（ミクロレベル）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	スクールソーシャルワークの学校・家庭支援（メゾレベル）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	スクールソーシャルワークの地域協働支援（メゾレベル）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	スクールソーシャルワークの教育行政の支援（マクロレベル）
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、地域の関連するパブリックコメントを各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	テキスト・配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

15	スクールソーシャルワーカーの役割と今後の課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの役割を想定・整理しておくこと。(1.5時間)
事後	一連の講義内で触れた用語と周辺の事象を整理し、自らが社会で成すべきことを整理すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:31

科 目 名	災害福祉論 [社]			授業コード	4100101
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	自助・共助・公助
到達目標	災害はあらゆる場面に現れる。人は誰しもが要援護者になりうることを念頭に置き、平素より「想定外」を想定できる知識と視野を持つことが福祉従事者にも求められよう。災害発生前より、地域社会に対して社会福祉士としてどのように関わっていくのかを考え、有事に臨んでは様々な社会資源と連携して地域のニーズにこたえることができる。
授業の概要	災害弱者と呼ばれる人々は、平時においても何らかの支援が必要な立場や環境にあることが多い。平時の態勢における備えと有事における取り組みを、フォーマル・インフォーマルな視点から整理する。
授業方法	講義 / アクティブラーニング: ○ / コメントシート・リアクションペーパー・グループワーク
評価方法 及び評価基準	レポート 概ね次の①～③により評価する。①受講姿勢(20%)②提出物(30%)③レポート(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・レポート等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加はしているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。
履修に際しての 注意事項	社会福祉士国家試験合格を目指す者の履修を求める。 資料を閉じるファイルを用意すること。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整されたい。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							

IV							
V		○					

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『災害福祉論』長谷川洋昭・福島忍・矢野明宏編(青踏社)2015	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	災害福祉とは何か
事前	近時発生した災害に際して露呈した福祉課題を概観しておくこと(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

2	災害と救援の歴史
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

3	災害支援の制度と行政
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らが居住する地域防災計画を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

4	子ども家庭福祉分野における支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、想定される子どもの困難を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

5	障害福祉分野における支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、想定される障害者の困難を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

6	高齢者福祉分野における支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、想定される高齢者の困難を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

7	医療福祉分野における支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、医療分野の困難を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

8	マイノリティに対する支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、様々なマイノリティーとされる人々を整理すること。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

9	学校・福祉施設における支援
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、学校・施設の困難を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

10	社会福祉協議会等の民間組織の役割
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの居住地の社会福祉協議会を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

11	NPO・ボランティアの役割
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、災害ボランティアの活動範囲を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

12	消防団・自主防災組織等の役割
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らの居住地の消防団を調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

13	防災教育の現状と課題
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自身が経験した防災教育の内容を整理しておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、講義内で触れた用語と周辺の事象を理解すること。(2.5時間)

14	災害に強い地域づくり
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、関連する社会の事象を各自で調べておくこと。(1.5時間)
事後	配布物・板書を読み直し、自らの地域の防災に向けての課題を整理すること。(2.5時間)

15	まとめ－社会福祉士と災害－
事前	該当する内容について講義内で指示される事の他、自らが地域でやってみたいことを整理しておく。(1.5時間)
事後	一連講義での配布物・板書を読み直し、災害に対して自らが平時・非常時に為すべきことを整理すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)20:38

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4100110
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	長谷川 洋昭				

科目に関する キーワード	社会的養護・非行・犯罪・更生保護

到達目標	ねらい：子どもが育つこの社会に対する幅広い理解を、さまざまな具体的事象より深めていく。 到達目標：学生個別の関心に基づいた目標設定を行い、それぞれが定めたものに到達できるようになる。 （履修ファイルの到達目標：C-1(2)・D-4(1)～(3)）			
授業の概要	刑事裁判の傍聴、刑務所・少年院等の矯正施設視察、母子生活支援施設・自立援助ホーム等児童福祉施設での研修を中心に展開します。これらの研修に当たっては、前後に「事前学習および発表」「事後感想」を実施し、レポート作成の技術も並行して高めることを主眼においています。また地域でアウトリーチに取り組む機関・団体と連携し、地域における各層の役割の理解を具体的に学びます。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・プレゼンテーション
評価方法 及び評価基準	レポート	概ね次の①～③により評価する。①受講姿勢(20%)②提出物(30%)③レポート(50%)。また評価基準は次のように定める。S）授業に積極的に参加し、提出物・レポート等の内容が特に優れている。A）Sに次ぐ。B）授業に参加しているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にもやや難点が見られる。C）授業に参加はしているが、課題の理解力がやや不足し、提出物・レポート等の内容にも大きな難点が見られる。D）全ての面で課題が全く理解されていない。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説します。			
履修に際しての 注意事項	資料を閉じるファイルを用意してください。また、欠席に対して印刷物の「取り置き」はしないので、友人に依頼するなど各自の責任において調整してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							

III							
IV							
V		○			○		

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	井村圭壮/相澤譲治 編著『地域福祉の原理と方法 第3版』(学文社)2019 978-4-7620-2874-8	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	なにより学生諸君の自発的・積極的な授業運営への参加を求めます。 前期(1～15回)は、我が国の子どもたちが置かれる状況を、学生個人の興味の範囲に基づき「安心・安全」のキーワードから鳥瞰します。また情報・資料・文献の収集法と整理法、執筆の作法とルールについて学びます。 並行して県内における犯罪予防活動の組織化についての実践を行います。 後期(15～30回) は、各自が収集した資料に合わせて、その分析手法について学びます。 またプレゼンテーションを通じて、各学生の関心のある課題についての学びを深めます。 授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説します.
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を明文化し、情報収集を継続すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:22

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4110010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし

到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:37

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [心]			授業コード	4110020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)10:33

科 目 名	コンピュータ・リテラシー [子]			授業コード	4110030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	・情報および基礎的なコンピュータの概念が習得できるようになること ・キーボード操作、周辺機器の利用、学内ネットワークが利用できるようになること ・PCを利用した保育に関する資料の収集・活用に関する技能が習得できるようになること ・PCを利用して、素材・イラストが作成できるできるようになること ・自作の保育教材の製作および自作教材を利用したプレゼンテーションができるようにできるようになること			
授業の概要	現在、私たちの身のまわりでは、IT 化が急速に進展しています。教育の世界でも、大学を始め、高・中・小学校にいたるまで「教育の情報化」が強力に進められています。本講座は，大学生として必要不可欠な情報技術を身に着けるとともに、保育を志す学生が将来、創造的な保育を生み出すことができるよう、パソコンを利用した教材作成の理論・技術を修得すること，および、それを保育で有効に活用する能力を育成することを主なねらいとします。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み（20%）、授業中の作成物（30%）、レポート課題（50%）として評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。最終発表課題については、授業内で、その評価およびポイントを説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	『保育者のためのパソコン講座—Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版』 萌文書林　定価2,000円+税	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要と学内システムの説明、個人情報について
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。(学修時間0.5時間)

2	電子メールの基礎と送受信、情報モラル
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	確認テストを実施し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

3	インターネットの基礎と情報検索
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、検索問題の作成に取り組むこと。(学修時間0.5時間)

4	文書作成1(文書作成ソフトの基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

5	文書作成2(文書の書式設定)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

6	文書作成3(文章の編集)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

7	文書作成4(表作成と図の挿入)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

8	文書作成5(イラスト作成基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

9	文書作成6(イラスト作成応用)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

10	表計算1(基本操作)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間0.5時間

11	表計算2(出席管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

12	表計算3(成績管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

13	表計算4(グラフ作成)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

14	表計算5（データ分析）
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

15	文章作成7（レポート作成）
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

16	オリエンテーション・前期内容の復習
事前	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容で苦手であった事項振り返り、復習をしておくこと。（学修時間目安0.5時間）

17	データベース基礎
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

18	データベース応用
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

19	スライド教材の作成1（テキスト作成）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

20	スライド教材の作成2（スライドのビジュアル化）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

21	スライド教材の作成3（アニメーション）
事前	スライド作成に必要なイラスト・絵本などの情報を図書館やホームページを使って収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

22	プレゼンテーション準備
事前	19～21回の授業内容を振り返りパワーポイントの操作方法を復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

23	プレゼンテーション技法
事前	授業内で配布した資料の内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

24	保育園紹介スライドの作成1（テキスト作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

25	保育園紹介スライドの作成2（作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

26	保育園紹介スライドの作成3（公開と活用）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

27	自作スライドによる発表1（テキストの評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

28	自作スライドによる発表2（ビジュアルの評価）

事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

29	自作スライドによる発表3（表現方法の評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

30	まとめ
事前	後期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	後期の授業全体を振り返り、最終提出課題を仕上げること。（学修時間0.5時間）

2020/07/16(木)10:48

科 目 名	コンピュータ・リテラシー [子]			授業コード	4110040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	・情報および基礎的なコンピュータの概念が習得できるようになること ・キーボード操作、周辺機器の利用、学内ネットワークが利用できるようになること ・PCを利用した保育に関する資料の収集・活用に関する技能が習得できるようになること ・PCを利用して、素材・イラストが作成できるできるようになること ・自作の保育教材の製作および自作教材を利用したプレゼンテーションができるようにできるようになること			
授業の概要	現在、私たちの身のまわりでは、IT 化が急速に進展しています。教育の世界でも、大学を始め、高・中・小学校にいたるまで「教育の情報化」が強力に進められています。本講座は，大学生として必要不可欠な情報技術を身に着けるとともに、保育を志す学生が将来、創造的な保育を生み出すことができるよう、パソコンを利用した教材作成の理論・技術を修得すること，および、それを保育で有効に活用する能力を育成することを主なねらいとします。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み（20%）、授業中の作成物（30%）、レポート課題（50%）として評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。最終発表課題については、授業内で、その評価およびポイントを説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	『保育者のためのパソコン講座—Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版』 萌文書林　定価2,000円+税	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要と学内システムの説明、個人情報について
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。(学修時間0.5時間)

2	電子メールの基礎と送受信、情報モラル
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	確認テストを実施し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

3	インターネットの基礎と情報検索
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、検索問題の作成に取り組むこと。(学修時間0.5時間)

4	文書作成1(文書作成ソフトの基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

5	文書作成2(文書の書式設定)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

6	文書作成3(文章の編集)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

7	文書作成4(表作成と図の挿入)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

8	文書作成5(イラスト作成基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

9	文書作成6(イラスト作成応用)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

10	表計算1(基本操作)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間0.5時間

11	表計算2(出席管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

12	表計算3(成績管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

13	表計算4(グラフ作成)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

14	表計算5（データ分析）
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

15	文章作成7（レポート作成）
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

16	オリエンテーション・前期内容の復習
事前	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容で苦手であった事項振り返り、復習をしておくこと。（学修時間目安0.5時間）

17	データベース基礎
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

18	データベース応用
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

19	スライド教材の作成1（テキスト作成）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

20	スライド教材の作成2（スライドのビジュアル化）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

21	スライド教材の作成3（アニメーション）
事前	スライド作成に必要なイラスト・絵本などの情報を図書館やホームページを使って収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

22	プレゼンテーション準備
事前	19～21回の授業内容を振り返りパワーポイントの操作方法を復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

23	プレゼンテーション技法
事前	授業内で配布した資料の内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

24	保育園紹介スライドの作成1（テキスト作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

25	保育園紹介スライドの作成2（作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

26	保育園紹介スライドの作成3（公開と活用）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

27	自作スライドによる発表1（テキストの評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

28	自作スライドによる発表2（ビジュアルの評価）

事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

29	自作スライドによる発表3（表現方法の評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

30	まとめ
事前	後期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	後期の授業全体を振り返り、最終提出課題を仕上げること。（学修時間0.5時間）

2020/07/16(木)21:30

科 目 名	コンピュータ・リテラシー [子]			授業コード	4110050
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	・情報および基礎的なコンピュータの概念が習得できるようになること ・キーボード操作、周辺機器の利用、学内ネットワークが利用できるようになること ・PCを利用した保育に関する資料の収集・活用に関する技能が習得できるようになること ・PCを利用して、素材・イラストが作成できるできるようになること ・自作の保育教材の製作および自作教材を利用したプレゼンテーションができるようにできるようになること			
授業の概要	現在、私たちの身のまわりでは、IT 化が急速に進展しています。教育の世界でも、大学を始め、高・中・小学校にいたるまで「教育の情報化」が強力に進められています。本講座は，大学生として必要不可欠な情報技術を身に着けるとともに、保育を志す学生が将来、創造的な保育を生み出すことができるよう、パソコンを利用した教材作成の理論・技術を修得すること，および、それを保育で有効に活用する能力を育成することを主なねらいとします。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み（20%）、授業中の作成物（30%）、レポート課題（50%）として評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。最終発表課題については、授業内で、その評価およびポイントを説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	『保育者のためのパソコン講座—Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版』 萌文書林　定価2,000円+税	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業概要と学内システムの説明、個人情報について
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。(学修時間0.5時間)

2	電子メールの基礎と送受信、情報モラル
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	確認テストを実施し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

3	インターネットの基礎と情報検索
事前	事前に配付するプリントを読み、内容をまとめて理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、検索問題の作成に取り組むこと。(学修時間0.5時間)

4	文書作成1(文書作成ソフトの基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

5	文書作成2(文書の書式設定)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

6	文書作成3(文章の編集)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

7	文書作成4(表作成と図の挿入)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

8	文書作成5(イラスト作成基礎)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

9	文書作成6(イラスト作成応用)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	目標を定め、キーボードの入力練習を行うこと。授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

10	表計算1(基本操作)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間0.5時間

11	表計算2(出席管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

12	表計算3(成績管理)
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について理解しておくこと。(学修時間0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(学修時間0.5時間)

13	表計算4(グラフ作成)
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

14	表計算5（データ分析）
事前	教科書の該当部分を事前に読み、用語について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

15	文章作成7（レポート作成）
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

16	オリエンテーション・前期内容の復習
事前	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	前期授業内容で苦手であった事項振り返り、復習をしておくこと。（学修時間目安0.5時間）

17	データベース基礎
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

18	データベース応用
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について復習しておくこと。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

19	スライド教材の作成1（テキスト作成）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

20	スライド教材の作成2（スライドのビジュアル化）
事前	事前に教科書の該当ページを確認しパワーポイントの操作方法を予習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

21	スライド教材の作成3（アニメーション）
事前	スライド作成に必要なイラスト・絵本などの情報を図書館やホームページを使って収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

22	プレゼンテーション準備
事前	19～21回の授業内容を振り返りパワーポイントの操作方法を復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

23	プレゼンテーション技法
事前	授業内で配布した資料の内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。（学修時間0.5時間）

24	保育園紹介スライドの作成1（テキスト作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

25	保育園紹介スライドの作成2（作成）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

26	保育園紹介スライドの作成3（公開と活用）
事前	事前にスライドに記述する内容を考えるとともに、図書館などで必要な資料を収集しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、課題を完成させること。（学修時間0.5時間）

27	自作スライドによる発表1（テキストの評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

28	自作スライドによる発表2（ビジュアルの評価）

事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

29	自作スライドによる発表3（表現方法の評価）
事前	事前に発表するスライドの作成、発表原稿の作成、発表練習などの準備を行っておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内での発表内容を振り返り、教員からのフィードバックについて、再考すること。（学修時間0.5時間）

30	まとめ
事前	後期授業内容を振り返り、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	後期の授業全体を振り返り、最終提出課題を仕上げること。（学修時間0.5時間）

2020/07/16(木)20:35

科 目 名	コンピュータ・リテラシー [科]			授業コード	4110060
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:30

科 目 名	地域生涯学習活動の支援 [科]			授業コード	4110092
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	番匠 一雅				

科目に関する キーワード	生涯学習、地域貢献、ボランティア、フィールドワーク

到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識を学び、生涯学習の理論と実践について演習を通じて理解する。地域を対象とした生涯学習プランニングの方法を理解し、自ら生涯学習支援プログラムを作成し実践する事を学習の到達目標とする。			
授業の概要	地域生涯学習活動は公的機関の他、NPO法人等民間でも取り組まれている。生涯学習活動はその機会となる場所や情報、機材等の提供のみならず、様々な困難をかかえたり特別な支援を必要とする人々が積極的な地域生活を送れるために必要な支援を提供する時期にも来ている。この授業では地域の生涯学習活動支援に関わることを演習課題とし、地域支援者として必要な知識、技法の修得、課題の発見をおこなう。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業に臨む態度（30%）、提出課題（30%）、フィールドワークに対する報告書（40%）について総合的に判断し評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題などは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	学外でのフィールドワークや外部団体・地域住民との交流を行うため、学外関係者への配慮（礼儀・作法）を意識する必要がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V	○		○				

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	生涯学習支援のデザイン、玉川大学出版部	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・生涯学習とは何か？
事前	シラバス内容を把握し、生涯学習について自分なりの意見を考えておくこと。(2時間)
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。(2時間)

2	現代社会における生涯学習の意義
事前	事前に配布された資料を確認し、生涯学習について情報を整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

3	地域における生涯学習の形態
事前	事前に配布された資料を確認し、生涯学習について情報を整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

4	生涯学習支援の実例①(企業)
事前	事前に配布された資料を確認し、生涯学習の実践について予習すること。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

5	生涯学習支援の実例②(団体)
事前	事前に配布された資料を確認し、生涯学習の実践について予習すること。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

6	生涯学習支援の実例③(公共施設)
事前	事前に配布された資料を確認し、生涯学習の実践について予習すること。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

7	ICTを活用した生涯活動支援
事前	事前に示されている課題について、情報収集をおこなうこと。(2時間)
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、十分に理解を深めること。(2時間)

8	生涯学習支援活動の実態調査
事前	生涯学習の実態調査の調査項目について自分なりのアイデアをまとめておくこと。(2時間)
事後	生涯学習におけるニーズ調査の必要性と、対象地域、質問項目について意見をまとめること。(2時間)

9	生涯学習プランニング①(地域のニーズ調査)
事前	フィールドワークの対象となる外部団体・対象地域についての情報収集と理解を行っておくこと。(2時間)
事後	フィールドワーク先で得た、ニーズ情報を整理・分析すること。(2時間)

10	生涯学習プランニング②(企画・立案)
事前	生涯学習プランニングを作成するための情報収集および集めた情報を分析し問題解決するための手法について自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
事後	作成したプランニングについての教員からのフィードバックを振り返り、プランニングのブラッシュアップを行う事。(2時間)

11	生涯学習プランニング③(協力団体との連携)
事前	生涯学習プランニングを作成するための情報収集および集めた情報を分析し問題解決するための手法について自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
事後	作成したプランニングについての教員からのフィードバックを振り返り、プランニングのブラッシュアップを行う事。(2時間)

12	生涯学習プランニング④(支援プログラムの発表)
事前	生涯学習プランニング発表のための資料作成・発表練習をおこなっておくこと。(2時間)
事後	作成したプランニングについての教員からのフィードバックを振り返り、プランニングのブラッシュアップを行うこと。(2時間)

13	生涯学習支援活動の実施①(支援プログラムの準備)

事前	フィールドワークの対象となる外部団体・対象地域についての情報収集と理解を行っておくこと。（2時間）
事後	フィールドワークの実施結果について振り返り、反省点・改善点をまとめること。（2時間）

14	生涯学習支援活動の実施②（支援プログラムの実施）
事前	フィールドワークの対象となる外部団体・対象地域についての情報収集と理解を行っておくこと。（2時間）
事後	フィールドワークの実施結果について振り返り、反省点・改善点をまとめること。（2時間）

15	生涯学習支援活動の振り返り・まとめ
事前	作成したプランニングの内容、実施結果について振り返り、情報をまとめておくこと。（2時間）
事後	教員のフィードバックを元に、最終提出課題を完成させること。（2時間）

2020/07/16(木)21:22

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4120010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	舟生 直美				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし
到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:34

科 目 名	保育内容（環境II） [子]			授業コード	4120022
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				

科目に関するキーワード	個々の発達に応じた環境、探求心や好奇心を育てる環境、環境を通した保育の展開
到達目標	1. 領域（環境）についての理解を深め、保育の現場で活用することができるようになる。 2. 発達に応じた環境や個々の探究心や好奇心を育てるための環境を適切に整えていけるようになる。 3. 領域（環境）の視点から、指導計画や指導案の考え方や具体的な展開方法を身につけ実践できるようになる。 4. 実践をもとに、省察し、保育者の意図と子どもの主体性を組み合わせた、理論的で理想的な環境を自分達で構成することができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(2)、C-2(4)、D-2(1)(2)(3)(5)(6)、D-3(1)～(5)】
授業の概要	保育内容（環境Ⅰ）で習得した基礎的な知識を発展させ、保育の現場で実践するための力を養っていきます。 そのために、保育内容（環境Ⅰ）を復習し、基礎的な知識の定着を図ります。その後、実践力を養うために、事例の検討、「ねらい」を達成するための「内容」を指導計画に結びつけて考えていきます。授業の最後では、実践をもとに、保育室の環境について理解を深め、自分たちで理想的な環境構成を考え形にしていきます。 授業計画は予定であり状況に応じて変更することもあります。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	理想の保育室作り、 文化と行事について、 絵本からの展開についてグループワークを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み：30%　グループワークへの参加及び発表：30%、レポート（まとめ）：40%などから総合的に評価します。		
フィードバック	授業内や授業後の課題についてのフィードバックは返却時に全体に向けて講評を行います。			
履修に際しての注意事項	グループワークや、ディスカッション、個別・グループ発表などを取り入れ、保育実践で必要な、「仲間との協働する力」や、「自分の意図を相手に伝える力」も身につけてもらいたいと考えています。授業では主体的に考え、協力的な態度で臨むようにしてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV	○						

V							

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018年	9784577814475
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園』フレーベル館,2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館,2018年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・保育内容（環境）について
事前	シラバス内容を把握し、この教科で学ぶ内容を自分なりに整理すること。（0.5時間）
事後	講義内で得た視点を整理し、乳幼児と環境との関係について考え理解を深めること。（0.5時間）

2	保育の基本と環境・領域（環境）ねらいと内容
事前	「幼稚園教育要領解説」第2章P145,P228を読み領域「環境」について理解すること。（0.5時間）
事後	講義内容から環境を通して行う保育と乳幼児の成長発達との関係について十分に理解を深めること。（0.5時間）

3	子どもを取り巻く自然環境①（ねらいの設定と保育内容の具体的展開）グループディスカッション
事前	子どもが周囲の環境の中で興味・関心を示す事柄について、各自の実習体験・実習日誌などを振り返り考えてくること。（0.5時間）
事後	子どもの姿から見えてくる保育の「ねらい」の設定について理解し、グループで話し合い発表したことを整理して考えをまとめること。（0.5時間）

4	子どもを取り巻く自然環境②(事例の検討)
事前	自分の身の回りの自然環境に興味・関心を持ちそれらを使ってどのような保育環境を作れるかを考えまとめること。（0.5時間）
事後	講義内で出会った自然環境を活かした保育展開について考え、その保育が子どもの成長発達をどのように促すのかということについて理解を深めること。（0.5時間）

5	子どもを取り巻く物的環境①（環境構成について）
事前	子どもを取り巻く物的環境にはどのようなものがあるのか、自分の生活やこれまでの経験をもとに調べてくること。（0.5時間）
事後	事例でみられる子どもたちの姿から、心身の発達に働きかける物的な環境について十分に理解を深めること。（0.5時間)

6	子どもを取り巻く物的環境②(理想の保育室作り・グループワーク)
事前	年齢毎の発達の特徴を捉え、その発達の特徴にあった保育環境について自分なりに考えてくること。（0.5時間）
事後	各年齢毎の興味・関心に即した遊びについて考えること。またその遊びが広がっていく為に、どの様な保育環境が必要かグループワークで考えたことを整理し発表に向けてまとめること（0.5時間）

7	子どもを取り巻く物的環境③(理想の保育室作り・発表)
事前	グループワークで考えた理想の保育室の環境について自分の考えをまとめ、発表に備えて役割分担などをすること。（0.5時間）
事後	各グループの発表を聞く中で、自分なりの保育観を持ち、発達に即した保育環境を作っていくことに対して深く理解をすること。（0.5時間）

8	子どもを取り巻く文化的環境①(図形と数量)
事前	遊びや生活の中に隠れている図形、数や数字について考え、それらが子どもの遊びの中で現れくるとき子どもにどの様な発達がみられるのかということを考えてくること。（0.5時間）
事後	授業内で考えた、比べたり計ったりすることに関心を向け、遊びが広がっていく為にはさらにどの様な方法があるかを考えること。（0.5時間）

9	子どもを取り巻く文化的環境②(標識と文字)
事前	遊びや生活の中に隠れている標識や文字について考え、それらが子どもの生活中でどの様な意味を成しているのかということについて考えてくること。（0.5時間）
事後	標識や文字は人と人のコミュニケーションツールであり、子どもが遊びや生活の中で自分の考えを豊かに表現する為に取り入れていくことについて深く理解すること。（0.5時間）

10	子どもを取り巻く社会的環境①(文化と行事について事例検討)
事前	新聞やインターネットの情報などから子どもを取り巻く社会的環境の変化について情報を収集し現状を理解すること。（0.5時間）
事後	地域社会の資源や情報の収集、子育ての文化や価値観、子育て家庭を巡る諸問題の早期予防など、地域社会の中での保育者の役割について考えを整理しまとめること。（0.5時間）

11	子どもを取り巻く社会的環境②(文化と行事について)

事前	生活の中で様々な文化や行事に関わることが子どもの成長、発達にどの様に関係しているかについて調べ、理解を深めていくこと。(0.5時間)
事後	文化や行事を経験する中で感じたことを日常の保育の中で活かしていくためにはどの様な工夫が必要か自分の考えを整理しまとめる。(0.5時間)

12	子どもを取り巻く社会的環境③(グループワーク)
事前	自分住んでいる地域の伝統文化について調べ、伝統文化を継承していくことにどの様な意味があるのかを考え、理解すること。(0.5時間)
事後	自分のグループに割り当てられた日本の年中行事について、その行事の由来や特徴を調べ、来週の授業の中で発表できるようにまとめること。(0.5時間)

13	日本の風土を利用した保育実践の紹介　グループワーク
事前	日本の年中行事について、その行事がどのような行事であるかを考える、又、その行事の由来についてグループ毎に考えてきたことを発表する。(0.5時間)
事後	互いのグループの発表を聞き、子どもの心に響く保育にする為に必要な工夫について考え、話し合う。(0.5時間)

14	絵本からの展開・グループワーク
事前	絵本のある環境について、絵本が保育の中で子ども達の心にどのような影響を与えるかについて考えてくること。(0.5時間)
事後	様々な出来事から、子ども達はが出会うさまざまな感情について理解を深め、その感情を子ども達同士で共有していく為に保育者がどの様な絵本を選ぶかを考え、読み方などの工夫する点を話し合っておくこと。(0.5時間)

15	発表・まとめ
事前	絵本を保育の中で活用していく時、子どもの姿や保育者の願いからどのような「ねらい」を立てるかを話し合い、読み方の工夫を考えてくること。(0.5時間)
事後	発表時に別のグループからもらったコメントを活かし自分の今後の保育実習などに役立てていくこと。またこれまでの授業で学修してきたことを元に、子どもの発達と保育環境について考えをまとめ、より深い理解をすること。 (0.5時間)

2020/07/16(木)21:01

科 目 名	保育内容（環境II） [子]			授業コード	4120032
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				

科目に関するキーワード	個々の発達に応じた環境、探求心や好奇心を育てる環境、環境を通した保育の展開
到達目標	1. 領域（環境）についての理解を深め、保育の現場で活用することができるようになる。 2. 発達に応じた環境や個々の探究心や好奇心を育てるための環境を適切に整えていけるようになる。 3. 領域（環境）の視点から、指導計画や指導案の考え方や具体的な展開方法を身につけ実践できるようになる。 4. 実践をもとに、省察し、保育者の意図と子どもの主体性を組み合わせた、理論的で理想的な環境を自分達で構成することができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(2)、C-2(4)、D-2(1)(2)(3)(5)(6)、D-3(1)～(5)】
授業の概要	保育内容（環境Ⅰ）で習得した基礎的な知識を発展させ、保育の現場で実践するための力を養っていきます。 そのために、保育内容（環境Ⅰ）を復習し、基礎的な知識の定着を図ります。その後、実践力を養うために、事例の検討、「ねらい」を達成するための「内容」を指導計画に結びつけて考えていきます。授業の最後では、実践をもとに、保育室の環境について理解を深め、自分たちで理想的な環境構成を考え形にしていきます。 授業計画は予定であり状況に応じて変更することもあります。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	理想の保育室作り、 文化と行事について、 絵本からの展開についてグループワークを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み：30%　グループワークへの参加及び発表：30%、レポート（まとめ）：40%などから総合的に評価します。		
フィードバック	授業内や授業後の課題についてのフィードバックは返却時に全体に向けて講評を行います。			
履修に際しての注意事項	グループワークや、ディスカッション、個別・グループ発表などを取り入れ、保育実践で必要な、「仲間との協働する力」や、「自分の意図を相手に伝える力」も身につけてもらいたいと考えています。授業では主体的に考え、協力的な態度で臨むようにしてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV	○						

V							

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018年	9784577814475
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園』フレーベル館,2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館,2018年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・保育内容（環境）について
事前	シラバス内容を把握し、この教科で学ぶ内容を自分なりに整理すること。（0.5時間）
事後	講義内で得た視点を整理し、乳幼児と環境との関係について考え理解を深めること。（0.5時間）

2	保育の基本と環境・領域（環境）ねらいと内容
事前	「幼稚園教育要領解説」第2章P145,P228を読み領域「環境」について理解すること。（0.5時間）
事後	講義内容から環境を通して行う保育と乳幼児の成長発達との関係について十分に理解を深めること。（0.5時間）

3	子どもを取り巻く自然環境①（ねらいの設定と保育内容の具体的展開）グループディスカッション
事前	子どもが周囲の環境の中で興味・関心を示す事柄について、各自の実習体験・実習日誌などを振り返り考えてくること。（0.5時間）
事後	子どもの姿から見えてくる保育の「ねらい」の設定について理解し、グループで話し合い発表したことを整理して考えをまとめること。（0.5時間）

4	子どもを取り巻く自然環境②(事例の検討)
事前	自分の身の回りの自然環境に興味・関心を持ちそれらを使ってどのような保育環境を作れるかを考えまとめること。（0.5時間）
事後	講義内で出会った自然環境を活かした保育展開について考え、その保育が子どもの成長発達をどのように促すのかということについて理解を深めること。（0.5時間）

5	子どもを取り巻く物的環境①（環境構成について）
事前	子どもを取り巻く物的環境にはどのようなものがあるのか、自分の生活やこれまでの経験をもとに調べてくること。（0.5時間）
事後	事例でみられる子どもたちの姿から、心身の発達に働きかける物的な環境について十分に理解を深めること。（0.5時間)

6	子どもを取り巻く物的環境②(理想の保育室作り・グループワーク)
事前	年齢毎の発達の特徴を捉え、その発達の特徴にあった保育環境について自分なりに考えてくること。（0.5時間）
事後	各年齢毎の興味・関心に即した遊びについて考えること。またその遊びが広がっていく為に、どの様な保育環境が必要かグループワークで考えたことを整理し発表に向けてまとめること（0.5時間）

7	子どもを取り巻く物的環境③(理想の保育室作り・発表)
事前	グループワークで考えた理想の保育室の環境について自分の考えをまとめ、発表に備えて役割分担などをすること。（0.5時間）
事後	各グループの発表を聞く中で、自分なりの保育観を持ち、発達に即した保育環境を作っていくことに対して深く理解をすること。（0.5時間）

8	子どもを取り巻く文化的環境①(図形と数量)
事前	遊びや生活の中に隠れている図形、数や数字について考え、それらが子どもの遊びの中で現れくるとき子どもにどの様な発達がみられるのかということを考えてくること。（0.5時間）
事後	授業内で考えた、比べたり計ったりすることに関心を向け、遊びが広がっていく為にはさらにどの様な方法があるかを考えること。（0.5時間）

9	子どもを取り巻く文化的環境②(標識と文字)
事前	遊びや生活の中に隠れている標識や文字について考え、それらが子どもの生活中でどの様な意味を成しているのかということについて考えてくること。（0.5時間）
事後	標識や文字は人と人のコミュニケーションツールであり、子どもが遊びや生活の中で自分の考えを豊かに表現する為に取り入れていくことについて深く理解すること。（0.5時間）

10	子どもを取り巻く社会的環境①(文化と行事について事例検討)
事前	新聞やインターネットの情報などから子どもを取り巻く社会的環境の変化について情報を収集し現状を理解すること。（0.5時間）
事後	地域社会の資源や情報の収集、子育ての文化や価値観、子育て家庭を巡る諸問題の早期予防など、地域社会の中での保育者の役割について考えを整理しまとめること。（0.5時間）

11	子どもを取り巻く社会的環境②(文化と行事について)

事前	生活の中で様々な文化や行事に関わることが子どもの成長、発達にどの様に関係しているかについて調べ、理解を深めていくこと。(0.5時間)
事後	文化や行事を経験する中で感じたことを日常の保育の中で活かしていくためにはどの様な工夫が必要か自分の考えを整理しまとめる。(0.5時間)

12	子どもを取り巻く社会的環境③(グループワーク)
事前	自分住んでいる地域の伝統文化について調べ、伝統文化を継承していくことにどの様な意味があるのかを考え、理解すること。(0.5時間)
事後	自分のグループに割り当てられた日本の年中行事について、その行事の由来や特徴を調べ、来週の授業の中で発表できるようにまとめること。(0.5時間)

13	日本の風土を利用した保育実践の紹介　グループワーク
事前	日本の年中行事について、その行事がどのような行事であるかを考える、又、その行事の由来についてグループ毎に考えてきたことを発表する。(0.5時間)
事後	互いのグループの発表を聞き、子どもの心に響く保育にする為に必要な工夫について考え、話し合う。(0.5時間)

14	絵本からの展開・グループワーク
事前	絵本のある環境について、絵本が保育の中で子ども達の心にどのような影響を与えるかについて考えてくること。(0.5時間)
事後	様々な出来事から、子ども達はが出会うさまざまな感情について理解を深め、その感情を子ども達同士で共有していく為に保育者がどの様な絵本を選ぶかを考え、読み方などの工夫する点を話し合っておくこと。(0.5時間)

15	発表・まとめ
事前	絵本を保育の中で活用していく時、子どもの姿や保育者の願いからどのような「ねらい」を立てるかを話し合い、読み方の工夫を考えてくること。(0.5時間)
事後	発表時に別のグループからもらったコメントを活かし自分の今後の保育実習などに役立てていくこと。またこれまでの授業で学修してきたことを元に、子どもの発達と保育環境について考えをまとめ、より深い理解をすること。 (0.5時間)

2020/07/16(木)20:39

科 目 名	保育所実習指導I [子]			授業コード	4120062
副 題					
開講期		配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				
幼稚園教諭・保育士として保育現場での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	実習への意欲・態度、実習の目的・自己課題、実習後の学び・反省
到達目標	＜2年次＞ 1. 実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 2. 実習関係書類の作成、実習園のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 3. 実習園について理解を深め、実習の目的を明確にもつ。 4. 実習日誌の書き方、指導案立案の仕方が分かり、具体的な実習準備にとりかかることができる。 ＜3年次＞ 5. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。(事後指導)
授業の概要	＜2年次＞ 「保育所実習I」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成するなど、実習に向けた準備を行う。保育所における保育内容を理解し、実習日誌の書き方や責任実習（部分実習）の指導案立案の仕方について学習する。 ＜3年次＞ 実習終了後は、事後指導授業を行い、実践から得た学びや反省から、各自の課題について明らかにし、先の実践や学びにつなげる
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 乳幼児の発達の特徴について（グループワーク）
評価方法及び評価基準	レポート 授業内課題やレポート及びカンファレンスにおける発言（70%）実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、及びその内容（30%）などを総合し、2年次（事前指導）と3年次（事後指導）を一体として評価する。
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。
履修に際しての注意事項	本講座は、2年次から3年次にかけて16回実施される。 上記左列13回（1～13）は、2年次後期に実施される事前指導である。 上記右列3回（16～18）は、3年次前期に実施される事後指導である <2年次> 「保育所実習Ⅰ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については、厳禁とする。 <3年次> 「保育所実習Ⅰ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席については、厳禁とする。 授業内面談以外に、授業外面談も予定している

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II					○		
III							
IV							
V	○						

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』(平成29年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	厚生労働省『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2018	9784577814482
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業内に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育所実習Ⅰオリエンテーション①(実習園への配属・実習関係書類)
事前	シラバスの内容を理解し、実習指導Ⅱの授業について概要を把握すること。(0.5時間)
事後	指示された提出書類を丁寧に作成し、提出期限までに提出できる様に準備すること。(0.5時間)

2	保育所実習Ⅰオリエンテーション②(保育所実習Ⅰの意義と概要・学外実習の概要)
事前	実習の手引きP29 を熟読し、実習の意義と概要について理解すること。(0.5時間)
事後	これまでの実習を振り返り反省点を整理し、保育所実習Ⅰに向けてどの様な事前準備・事前学習が必要か考えること。(1時間)

3	講演「初めての保育所実習へ向けて」(外部講師による講演)【合同授業】
事前	実習の手引きP29　を熟読し、保育所実習の意義と目的について理解すること　(0.5時間)
事後	講演の内容から初めての実習についての目的や子どもを理記することのポイントなどを整理しまとめること。(0.5時間)

4	実習オリエンテーション(3)(自己課題の設定／乳幼児の発達について①／園見学の事前指導
事前	保育所実習Ⅰでの反省から保育所実習Ⅱに向けての自己課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	乳児の発達について段階毎の発達の過程を理解し、関わりや援助について考えをまとめること(0.5時間)

5	【学外】【保育園見学】
事前	保育所保育指針解説などを参考にしながら、保育士に求められることや保育所の役割について考えをまとめること(0.5時間)
事後	実際に保育所を見学することで、子ども達の活動する姿や保育士の関わる姿からより保育に対するイメージをより明確にする。(0.5時間)

6	実習日誌の書き方(1)(日誌の配布と確認)／保育園見学の振り返り
事前	実習の手引き第8章を熟読し、各記録用紙の記録内容と留意点を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	乳幼児の発達に関心を持ち、グループで発達の特徴について整理し発表に向けてまとめること(0.5時間)

7	乳幼児の発達について②
事前	乳幼児の発達についてグループで調べたり、話し合ったりしたことをまとめ発表に向けて役割分担をすること(0.5時間)
事後	各グループの発表からわかった乳幼児の発達について自分なりに整理し、乳幼児に対する理解をより深めていくこと(0.5時間)

8	責任実習(部分実習)の実施(1)(指導案立案の方法・絵本の部分実習計画)
事前	実習の手引きP58,P59を参照し、部分実習指導案の書き方についてイメージをしておくこと(0.5時間)
事後	授業内で学んだ事を活かし、部分実習(絵本)の指導案を作成すること(0.5時間)

9	責任実習(部分実習)の実施(2)(指導案の相互添削)／選択必修実習の希望調査実施
事前	部分実習で立案した指導案について確認し配慮する事項について考えること(0.5時間)
事後	立案した指導案を相互添削し、そこから見えてくる自己の課題を見つけること。(0.5時間)

10	実習日誌の書き方(3)(製作の指導案作成)
事前	実習の手引きP58,P59を参照し、部分実習指導案の書き方についてイメージをしておくこと(0.5時間)
事後	授業内で学んだ事を活かし、部分実習(制作)の指導案を作成すること(0.5時間)

11	実習日誌の書き方(2)(指導案の添削)／実習園でのオリエンテーション(巡回担当教員の発表)

事前	実習の手引き第4章を熟読し、実習園でのオリエンテーションについてその内容を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園でのオリエンテーションについて理解してうえで、オリエンテーション報告書の作成を行うこと。(0.5時間)

12	実習直前指導(1)(実習の評価・事後指導について)／実習日誌の書き方②(エピソード記録について)
事前	実習の手引き第9章を読み、保育記録の意義と目的について理解すること。(0.5時間)
事後	授業内で見たDVDの出来事からエピソードを拾い、エピソード記録を書くこと。(0.5時間)

13	実習直前指導(2)(実習における留意点の確認・課題の返却と講評)
事前	実習の手引き第5章を読み、実習の基本的態度と留意点について理解・把握すること。(0.5時間)
事後	保育所実習に向けての最終確認を行い、実習に行く意欲を高めていく。又必要な準備を行うこと。(0.5時間)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	実習事後指導① (実習の振り返り・実習日誌提出)
事前	提出物チェックリストを使用し、実習後の授業内での提出物の準備と確認を行うこと。(0.5時間)
事後	保育所実習Ⅰでの実習を振り返り、自己課題に対する成果や反省点を整理しまとめること(0.5時間)

17	実習事後指導②(園評価と自己評価の比較・考察)
事前	自己の日誌を振り返り、実習に対する自己評価をし実習の成果や保育所実習Ⅱに向けての課題を明確にすること(0.5時間)
事後	園評価と自己評価を比較しそこから見えてくる自己の課題について考えること(0.5時間)

18	実習事後指導③(実習日誌の返却および講評)
事前	保育所実習Ⅰの経験から得た学びについて更に考察を深め、子ども理解、援助について考えをまとめ保育所実習Ⅱに向けての課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	実習日誌の返却で得られた教員からのアドバイスを受け止め、自分自身の保育を見つめ直し、実践する力量を身につけること。(0.5時間)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	

事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)20:45

科 目 名	保育所実習指導I [子]			授業コード	4120072
副 題					
開講期		配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				
幼稚園教諭・保育士として保育現場での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	実習への意欲・態度、実習の目的・自己課題、実習後の学び・反省
到達目標	＜2年次＞ 1. 実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 2. 実習関係書類の作成、実習園のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 3. 実習園について理解を深め、実習の目的を明確にもつ。 4. 実習日誌の書き方、指導案立案の仕方が分かり、具体的な実習準備にとりかかることができる。 ＜3年次＞ 5. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。(事後指導)
授業の概要	＜2年次＞ 「保育所実習I」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成するなど、実習に向けた準備を行う。保育所における保育内容を理解し、実習日誌の書き方や責任実習（部分実習）の指導案立案の仕方について学習する。 ＜3年次＞ 実習終了後は、事後指導授業を行い、実践から得た学びや反省から、各自の課題について明らかにし、先の実践や学びにつなげる
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 乳幼児の発達の特徴について（グループワーク）
評価方法及び評価基準	レポート 授業内課題やレポート及びカンファレンスにおける発言（70%）実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、及びその内容（30%）などを総合し、2年次（事前指導）と3年次（事後指導）を一体として評価する。
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。
履修に際しての注意事項	本講座は、2年次から3年次にかけて16回実施される。 上記左列13回（1～13）は、2年次後期に実施される事前指導である。 上記右列3回（16～18）は、3年次前期に実施される事後指導である <2年次> 「保育所実習Ⅰ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については、厳禁とする。 <3年次> 「保育所実習Ⅰ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席については、厳禁とする。 授業内面談以外に、授業外面談も予定している

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II					○		
III							
IV							
V	○						

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』(平成29年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	厚生労働省『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2018	9784577814482
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業内に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育所実習Ⅰオリエンテーション①(実習園への配属・実習関係書類)
事前	シラバスの内容を理解し、実習指導Ⅱの授業について概要を把握すること。(0.5時間)
事後	指示された提出書類を丁寧に作成し、提出期限までに提出できる様に準備すること。(0.5時間)

2	保育所実習Ⅰオリエンテーション②(保育所実習Ⅰの意義と概要・学外実習の概要)
事前	実習の手引きP29 を熟読し、実習の意義と概要について理解すること。(0.5時間)
事後	これまでの実習を振り返り反省点を整理し、保育所実習Ⅰに向けてどの様な事前準備・事前学習が必要か考えること。(1時間)

3	講演「初めての保育所実習へ向けて」(外部講師による講演)【合同授業】
事前	実習の手引きP29　を熟読し、保育所実習の意義と目的について理解すること　(0.5時間)
事後	講演の内容から初めての実習についての目的や子どもを理記することのポイントなどを整理しまとめること。(0.5時間)

4	実習オリエンテーション(3)(自己課題の設定／乳幼児の発達について①／園見学の事前指導
事前	保育所実習Ⅰでの反省から保育所実習Ⅱに向けての自己課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	乳児の発達について段階毎の発達の過程を理解し、関わりや援助について考えをまとめること(0.5時間)

5	【学外】【保育園見学】
事前	保育所保育指針解説などを参考にしながら、保育士に求められることや保育所の役割について考えをまとめること(0.5時間)
事後	実際に保育所を見学することで、子ども達の活動する姿や保育士の関わる姿からより保育に対するイメージをより明確にする。(0.5時間)

6	実習日誌の書き方(1)(日誌の配布と確認)／保育園見学の振り返り
事前	実習の手引き第8章を熟読し、各記録用紙の記録内容と留意点を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	乳幼児の発達に関心を持ち、グループで発達の特徴について整理し発表に向けてまとめること(0.5時間)

7	乳幼児の発達について②
事前	乳幼児の発達についてグループで調べたり、話し合ったりしたことをまとめ発表に向けて役割分担をすること(0.5時間)
事後	各グループの発表からわかった乳幼児の発達について自分なりに整理し、乳幼児に対する理解をより深めていくこと(0.5時間)

8	責任実習(部分実習)の実施(1)(指導案立案の方法・絵本の部分実習計画)
事前	実習の手引きP58,P59を参照し、部分実習指導案の書き方についてイメージをしておくこと(0.5時間)
事後	授業内で学んだ事を活かし、部分実習(絵本)の指導案を作成すること(0.5時間)

9	責任実習(部分実習)の実施(2)(指導案の相互添削)／選択必修実習の希望調査実施
事前	部分実習で立案した指導案について確認し配慮する事項について考えること(0.5時間)
事後	立案した指導案を相互添削し、そこから見えてくる自己の課題を見つけること。(0.5時間)

10	実習日誌の書き方(3)(製作の指導案作成)
事前	実習の手引きP58,P59を参照し、部分実習指導案の書き方についてイメージをしておくこと(0.5時間)
事後	授業内で学んだ事を活かし、部分実習(制作)の指導案を作成すること(0.5時間)

11	実習日誌の書き方(2)(指導案の添削)／実習園でのオリエンテーション(巡回担当教員の発表)

事前	実習の手引き第4章を熟読し、実習園でのオリエンテーションについてその内容を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園でのオリエンテーションについて理解してうえで、オリエンテーション報告書の作成を行うこと。(0.5時間)

12	実習直前指導(1)(実習の評価・事後指導について)／実習日誌の書き方②(エピソード記録について)
事前	実習の手引き第9章を読み、保育記録の意義と目的について理解すること。(0.5時間)
事後	授業内で見たDVDの出来事からエピソードを拾い、エピソード記録を書くこと。(0.5時間)

13	実習直前指導(2)(実習における留意点の確認・課題の返却と講評)
事前	実習の手引き第5章を読み、実習の基本的態度と留意点について理解・把握すること。(0.5時間)
事後	保育所実習に向けての最終確認を行い、実習に行く意欲を高めていく。又必要な準備を行うこと。(0.5時間)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	実習事後指導① (実習の振り返り・実習日誌提出)
事前	提出物チェックリストを使用し、実習後の授業内での提出物の準備と確認を行うこと。(0.5時間)
事後	保育所実習Ⅰでの実習を振り返り、自己課題に対する成果や反省点を整理しまとめること(0.5時間)

17	実習事後指導②(園評価と自己評価の比較・考察)
事前	自己の日誌を振り返り、実習に対する自己評価をし実習の成果や保育所実習Ⅱに向けての課題を明確にすること(0.5時間)
事後	園評価と自己評価を比較しそこから見えてくる自己の課題について考えること(0.5時間)

18	実習事後指導③(実習日誌の返却および講評)
事前	保育所実習Ⅰの経験から得た学びについて更に考察を深め、子ども理解、援助について考えをまとめ保育所実習Ⅱに向けての課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	実習日誌の返却で得られた教員からのアドバイスを受け止め、自分自身の保育を見つめ直し、実践する力量を身につけること。(0.5時間)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	

事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)10:37

科 目 名	保育所実習指導II [子]			授業コード	4120102
副 題					
開講期		配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				
幼稚園教諭・保育士として保育現場での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	保育への専門的な理解、保育所の社会的役割への理解、実践力と質の向上、実習の振り返りと反省、
到達目標	＜3年次＞ 1. 実習に必要な心構えや態度について確認し、実習関係書類や手続きを滞りなく進める。 2. これまでの実習の成果および自己の課題を十分認識し、保育所の社会的役割や、保育士の多様な職務内容について、より専門的な理解を深める。 3. 子どもの発達過程や生活する姿に即して、適切なねらいと内容に基づいた指導案を立案し、部分実習・一日実習を実践する力量を身につける。 ＜4年次＞ 1. 自らの実習経験を振り返り、その内容について具体的な反省を言語化する。 2. 保育カンファレンスにより、なかまとともにそれぞれの実習経験を共有し、検討すべきテーマに関する認識を深める。 3. 保育者としての実践力や資質の向上を目指し、先の保育実践へ向けて自己の課題を明確化する。 【「履修ファイル」の対応項目：A-2(3),A-4(4),A-5(1)(2)(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5)】
授業の概要	＜3年次＞ 「保育所実習Ⅱ」は、「保育所実習Ⅰ」の経験を踏まえ、参加・指導実習を中心として展開される、より専門性の高い実習である。 3年次後期の事前指導授業「保育所実習指導Ⅱ」では、「保育所実習Ⅱ」において現場での実践的な学びをより深めるために必要な心構えや知識・技術の整理や修得を行う。具体的には、「保育所実習Ⅱ実習日誌」の書き方、子どもの生活に即した保育の展開に向けた指導案立案学習と模擬保育、保育所の社会的責任や子育て支援の実際などについて、より深く実践的に学ぶものである。 ＜4年次＞ 4年次前期の事後指導授業では、グループでの保育カンファレンスを通して個人の実習体験を深く経験化していくとともに、他の学生の体験知を学ぶことによって、保育者としての実践力や資質の向上を目指し、4年次の幼稚園教育実習や、将来の保育実践に備える。 保育現場における豊富な保育者経験がある担当教員がその経験を生かして実技指導を行う。
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 模擬保育に向けて立案（グループワーク） 模擬保育の実践（グループワーク）
評価方法 及び評価基準	レポート 授業内課題やレポート及びカンファレンスにおける発言（70%）実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、及びその内容（30%）などを総合し、3年次（事前指導）と4年次（事後指導）を一体として評価する。
フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。
履修に際しての 注意事項	本講座は、3年次から4年次にかけて17回実施される。 上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。 上記右列4回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。 <3年次> 「保育所実習Ⅱ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。 <4年次> 「保育所実習Ⅱ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。授業内面談以外に、授業外面談も予定している。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I							
II			○				
III						○	
IV							
V							○

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き(平成29年度入学生対象)』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	厚生労働省『保育所保育指針解説書』, フレーベル館,2018年	9784577814482
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 その他、必要に応じて適宜授業内に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション①（実習園への配属発表、実習関係書類の作成指示）
事前	シラバスの内容を理解し、実習指導Ⅱの授業について概要を把握すること。(0.5時間)
事後	指示された提出書類を丁寧に作成し、提出期限までに提出できる様に準備すること。(0.5時間)

2	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション②（実習の意義と概要、実習課題について）
事前	実習の手引きP29 を熟読し、実習の意義と概要について理解すること。(0.5時間)
事後	保育所実習Ⅰを振り返り反省点を整理し、保育所実習Ⅱに向けてどの様な事前準備・事前学習が必要か考えること。(0.5時間)

3	自己課題の設定／実習日誌の書き方①（実習日誌の配布）
事前	保育所実習Ⅰでの反省から保育所実習Ⅱに向けての自己課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	自己課題を再度見直し、修正を加えより確かなものにしていくこと。(0.5時間)

4	実習日誌の書き方②（予備のページの活用・模擬保育指導案作成）
事前	実習の手引きP35を熟読し、記録の内容と留意点について把握しておくこと。(0.5時間)
事後	模擬保育で行う内容について、グループで話し合い、準備を進めること。(0.5時間)

5	責任実習実施の手順と方法（模擬保育要領解説・グループ別指導案作成）
事前	模擬保育に向けて、活動のねらいや内容を考え整理してくること。(0.5時間)
事後	模擬保育に向けてグループで話し合ったことを具体的にし、指導案を作成すること。(0.5時間)

6	模擬保育・保育カンファレンス実施
事前	模擬保育指導案を元に模擬保育を実践するにあたり、役割分担をし、必要なものを準備すること。(0.5時間)
事後	各自、自分のグループの模擬保育を振り返り、反省点を考えてくること。(0.5時間)

7	模擬保育の振り返り
事前	模擬保育での自己の反省点を考えると共に、他のグループに対しての意見や感想を考えてくること。(0.5時間)
事後	模擬保育を体験することで得た感覚・知識・技能を自己の実習の中で活かせるよう、行ったことを整理しまとめること。(0.5時間)

8	実習体験報告会
事前	実習体験報告会に向けて進行や会場係りなどの役割分担をし会に向けての準備を行うこと。(0.5時間)
事後	4年生の実習体験報告から得た事柄から、子ども理解、保育者の役割について深く考え保育の質の向上について自分の考えをまとめること。(0.5時間)

9	子育て支援の実践発表
事前	保育所保育指針第4章を熟読し、子育て支援に対する理解を深めること(0.5時間)
事後	授業内で見たDVD等から学んだ子育て支援の必要性について理解したことをまとめること(0.5時間)

10	講演　保育所における子育て支援（外部講師による講演）【合同授業】
事前	保育所保育指針第4章を元に子育て支援についてインターネット等を調べ理解を深めること。(0.5時間)

事後	子育て支援について得た知識や更に理解を深めたことについて整理し、まとめること。(0.5時間)

11	実習園でのオリエンテーション(巡回担当教員による指導)
事前	実習の手引き第4章を熟読し、実習園でのオリエンテーションについてその内容を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園でのオリエンテーションについて理解してうえで、オリエンテーション報告書の作成を行うこと。(0.5時間)

12	実習直前指導①(実習における留意点の確認)
事前	実習の手引き第9章を読み、保育記録の意義と目的について理解すること。(0.5時間)
事後	授業内で見たDVDの出来事からエピソードを拾い、エピソード記録を書くこと。(0.5時間)

13	実習直前指導②(実習の評価・事後指導について)
事前	実習の手引き第6章を読み保育所実習の評価・実習日誌の評価について理解をすること。(0.5時間)
事後	保育所実習に向けての最終確認を行い、実習に行く意欲を高めていく。又必要な準備を行うこと。(0.5時間)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導①(学習内容の振り返り)
事前	提出物チェックリストを使用し、実習後の授業内での提出物の準備と確認を行うこと。(0.5時間)
事後	実習を振り返り、実習課題に対しての成果と今後の課題をまとめること。(0.5時間)

17	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導②(保育カンファレンス、園評価と自己評価の照合)
事前	保育カンファレンスに向け、保育の専門性や保育の質、子ども理解について、自分の考えをまとめること、(0.5時間)
事後	保育カンファレンスで得た様々な意見を比較・共有し理解したことを整理しまとめること。(0.5時間)

18	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導③(実習日誌返却と講評)
事前	保育所実習Ⅱの経験から得た学びについて更に考察を深め、自分の保育観、実践力の向上について考えをまとまること。(0.5時間)
事後	実習日誌の返却で得られた教員からのアドバイスを受け止め、自分自身の保育を見つめ直し、実践する力量を身につけること。(0.5時間)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)11:14

科 目 名	保育所実習指導II [子]			授業コード	4120112
副 題					
開講期		配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	舟生 直美				
幼稚園教諭・保育士として保育現場での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	保育への専門的な理解、保育所の社会的役割への理解、実践力と質の向上、実習の振り返りと反省、

到達目標	＜3年次＞ 1. 実習に必要な心構えや態度について確認し、実習関係書類や手続きを滞りなく進める。 2. これまでの実習の成果および自己の課題を十分認識し、保育所の社会的役割や、保育士の多様な職務内容について、より専門的な理解を深める。 3. 子どもの発達過程や生活する姿に即して、適切なねらいと内容に基づいた指導案を立案し、部分実習・一日実習を実践する力量を身につける。 ＜4年次＞ 1. 自らの実習経験を振り返り、その内容について具体的な反省を言語化する。 2. 保育カンファレンスにより、なかまとともにそれぞれの実習経験を共有し、検討すべきテーマに関する認識を深める。 3. 保育者としての実践力や資質の向上を目指し、先の保育実践へ向けて自己の課題を明確化する。 【「履修ファイル」の対応項目：A-2(3),A-4(4),A-5(1)(2)(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5)】
授業の概要	＜3年次＞ 「保育所実習Ⅱ」は、「保育所実習Ⅰ」の経験を踏まえ、参加・指導実習を中心として展開される、より専門性の高い実習である。 3年次後期の事前指導授業「保育所実習指導Ⅱ」では、「保育所実習Ⅱ」において現場での実践的な学びをより深めるために必要な心構えや知識・技術の整理や修得を行う。具体的には、「保育所実習Ⅱ実習日誌」の書き方、子どもの生活に即した保育の展開に向けた指導案立案学習と模擬保育、保育所の社会的責任や子育て支援の実際などについて、より深く実践的に学ぶものである。 ＜4年次＞ 4年次前期の事後指導授業では、グループでの保育カンファレンスを通して個人の実習体験を深く経験化していくとともに、他の学生の体験知を学ぶことによって、保育者としての実践力や資質の向上を目指し、4年次の幼稚園教育実習や、将来の保育実践に備える。 保育現場における豊富な保育者経験がある担当教員がその経験を生かして実技指導を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	模擬保育に向けて立案（グループワーク） 模擬保育の実践（グループワーク）
評価方法及び評価基準	レポート	授業内課題やレポート及びカンファレンスにおける発言（70%）実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、及びその内容（30%）などを総合し、3年次（事前指導）と4年次（事後指導）を一体として評価する。		

フィードバック	授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。
履修に際しての注意事項	本講座は、3年次から4年次にかけて17回実施される。 上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。 上記右列4回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。 <3年次> 「保育所実習Ⅱ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。 <4年次> 「保育所実習Ⅱ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。授業内面談以外に、授業外面談も予定している。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I							
II			○				
III						○	
IV							
V							○

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き(平成29年度入学生対象)』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	厚生労働省『保育所保育指針解説書』, フレーベル館,2018年	9784577814482
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 その他、必要に応じて適宜授業内に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション①（実習園への配属発表、実習関係書類の作成指示）
事前	シラバスの内容を理解し、実習指導Ⅱの授業について概要を把握すること。(0.5時間)
事後	指示された提出書類を丁寧に作成し、提出期限までに提出できる様に準備すること。(0.5時間)

2	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション②（実習の意義と概要、実習課題について）
事前	実習の手引きP29 を熟読し、実習の意義と概要について理解すること。(0.5時間)
事後	保育所実習Ⅰを振り返り反省点を整理し、保育所実習Ⅱに向けてどの様な事前準備・事前学習が必要か考えること。(0.5時間)

3	自己課題の設定／実習日誌の書き方①（実習日誌の配布）
事前	保育所実習Ⅰでの反省から保育所実習Ⅱに向けての自己課題を明確にすること。(0.5時間)
事後	自己課題を再度見直し、修正を加えより確かなものにしていくこと。(0.5時間)

4	実習日誌の書き方②（予備のページの活用・模擬保育指導案作成）
事前	実習の手引きP35を熟読し、記録の内容と留意点について把握しておくこと。(0.5時間)
事後	模擬保育で行う内容について、グループで話し合い、準備を進めること。(0.5時間)

5	責任実習実施の手順と方法（模擬保育要領解説・グループ別指導案作成）
事前	模擬保育に向けて、活動のねらいや内容を考え整理してくること。(0.5時間)
事後	模擬保育に向けてグループで話し合ったことを具体的にし、指導案を作成すること。(0.5時間)

6	模擬保育・保育カンファレンス実施
事前	模擬保育指導案を元に模擬保育を実践するにあたり、役割分担をし、必要なものを準備すること。(0.5時間)
事後	各自、自分のグループの模擬保育を振り返り、反省点を考えてくること。(0.5時間)

7	模擬保育の振り返り
事前	模擬保育での自己の反省点を考えると共に、他のグループに対しての意見や感想を考えてくること。(0.5時間)
事後	模擬保育を体験することで得た感覚・知識・技能を自己の実習の中で活かせるよう、行ったことを整理しまとめること。(0.5時間)

8	実習体験報告会
事前	実習体験報告会に向けて進行や会場係りなどの役割分担をし会に向けての準備を行うこと。(0.5時間)
事後	4年生の実習体験報告から得た事柄から、子ども理解、保育者の役割について深く考え保育の質の向上について自分の考えをまとめること。(0.5時間)

9	子育て支援の実践発表
事前	保育所保育指針第4章を熟読し、子育て支援に対する理解を深めること(0.5時間)
事後	授業内で見たDVD等から学んだ子育て支援の必要性について理解したことをまとめること(0.5時間)

10	講演　保育所における子育て支援（外部講師による講演）【合同授業】
事前	保育所保育指針第4章を元に子育て支援についてインターネット等を調べ理解を深めること。(0.5時間)

事後	子育て支援について得た知識や更に理解を深めたことについて整理し、まとめること。(0.5時間)

11	実習園でのオリエンテーション(巡回担当教員による指導)
事前	実習の手引き第4章を熟読し、実習園でのオリエンテーションについてその内容を把握しておくこと。(0.5時間)
事後	実習園でのオリエンテーションについて理解してうえで、オリエンテーション報告書の作成を行うこと。(0.5時間)

12	実習直前指導①(実習における留意点の確認)
事前	実習の手引き第9章を読み、保育記録の意義と目的について理解すること。(0.5時間)
事後	授業内で見たDVDの出来事からエピソードを拾い、エピソード記録を書くこと。(0.5時間)

13	実習直前指導②(実習の評価・事後指導について)
事前	実習の手引き第6章を読み保育所実習の評価・実習日誌の評価について理解をすること。(0.5時間)
事後	保育所実習に向けての最終確認を行い、実習に行く意欲を高めていく。又必要な準備を行うこと。(0.5時間)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導①(学習内容の振り返り)
事前	提出物チェックリストを使用し、実習後の授業内での提出物の準備と確認を行うこと。(0.5時間)
事後	実習を振り返り、実習課題に対しての成果と今後の課題をまとめること。(0.5時間)

17	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導②(保育カンファレンス、園評価と自己評価の照合)
事前	保育カンファレンスに向け、保育の専門性や保育の質、子ども理解について、自分の考えをまとめること、(0.5時間)
事後	保育カンファレンスで得た様々な意見を比較・共有し理解したことを整理しまとめること。(0.5時間)

18	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導③(実習日誌返却と講評)
事前	保育所実習Ⅱの経験から得た学びについて更に考察を深め、自分の保育観、実践力の向上について考えをまとまること。(0.5時間)
事後	実習日誌の返却で得られた教員からのアドバイスを受け止め、自分自身の保育を見つめ直し、実践する力量を身につけること。(0.5時間)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:36

科 目 名	保育所実習I [子]			授業コード	4120123
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	舟生 直美				
保育現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	保育所の機能、養護と教育、子ども理解、保育者の援助と役割
到達目標	＜「保育所実習Ⅰ」の共通課題＞ ①保育所における保育の流れを理解し、主体的に保育に参加する。 ②子どもの育ちを理解し、それに応じた保育者の援助や役割、および保育の内容や展開について学ぶ。 ③保育所の役割や機能について理解する。 ※以上の共通課題の他、各自の自己課題を設定し、「共通課題」と合わせて「実習課題」とし、実習に臨む。
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において2週間の観察・参加実習を行う。保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。本実習を通して、大学での学びを基礎とし、総合的に応用する保育実践力を養い、自らの保育士像を確立していく。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	観察実習、参加実習、部分実習
評価方法 及び評価基準	―	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	・「保育所実習指導Ⅰ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤および遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV		○					

V						○	

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』(令和元年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』2018、フレーベル館 その他、「保育所実習指導Ⅰ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1.保育所保育指針の内容を踏まえ、保育所の役割と機能について理解を深める。 2.保育所における保育の流れや生活を把握し、次の活動を見通しつつ、自ら動けるようになる。 3.子どもの生活や遊びにおける保育所全体の環境、園庭や保育室などの環境構成について理解する。 4.子どもの観察および記録や子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達過程を理解する。 5.子どもの育ちに応じた保育内容や方法・保育の展開に着目し、実践と保育課程・指導計画との関係を理解する。 6.責任実習として、生活や遊びなどの一部分を担当し、保育士の役割や援助について実践的に学ぶ。 7.職員間の役割分担や連携・チームワークについて理解する。 8.専門職としての保育士の役割および業務内容について理解を深める。 9.子どもの人権や個人情報に配慮する保育士の職業倫理について具体的に学ぶ。 10.子どもの心身の状態の把握、適切な保育環境・安全対策など、子どもの健康・安全および衛生に関する保育士の配慮について学ぶ。 11.保護者と保育士とのコミュニケーションを通して、家庭支援における保育所の役割について学ぶ。 12.家庭および地域社会との交流や連携、地域の子育て家庭に対する支援における保育所の役割について学ぶ。
事前	子どもたちと共に生活する保育者として、相応しいと思える立ち居振る舞いを考え、日頃から意識して過ごす。全ての授業に意欲的に参加する。特に就学前の子どもとの関わりを積極的にもち、子どもの理解に努める。
事後	実習中の記録や評価、指導者からのコメントなどを元に振り返りを行い、自己の課題を整理するとともに、実践の後ろ盾となる理論について学びを深め、2段階目の実習に向けて準備を進める。

2020/07/16(木)22:37

科 目 名	保育所実習II [子]			授業コード	4120133
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	舟生 直美				

科目に関する キーワード	保育士の職務、子どもに即した保育、保育所の社会的役割、指導計画の立案・実践

到達目標	＜「保育所実習Ⅱ」の共通課題＞ ①主体的に保育に参加し、子どもの生活に即した保育についての理解を深める。 ②子どもの育ちに応じた指導計画を立案し、それに基づいた保育の実践・評価を行う。 ③保育士の職務を経験し、援助のあり方や役割について理解を深める。 ④多様な保育ニーズへの対応、その意味について深く考察し、保育所の社会的役割についての理解をさらに深める。 ※以上の共通課題の他、各自の自己課題を設定し、「共通課題」と合わせて「実習課題」とし、実習に臨む。 【「履修ファイル」の対応項目：A-1(1),A-2(3),B-1(1)～(7),B-2(1)～(6),B-3(1)～(6),C-1(1)(2), C-2(3), C-3(1)～(5),C-4(1)～(8),D-1(1)～(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5),D-4(1)～(3)】
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程の選択必修の実習として、認可保育所において2週間の実習を行う。「保育所実習Ⅰ」をふまえ、参加・指導実習を中心とした、より専門性の高い実習を行う。保育所の生活に積極的に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、指導実習を通して保育実践力の向上を目指す。さらに、保育所における子育て支援の実際について学び、保育者としての自己課題を明確にする。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習
評価方法 及び評価基準	―	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習園による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	・「保育所実習Ⅰ」を履修済みであること。 ・「保育所実習指導Ⅱ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤および遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ 実習の手引き』(平成30年度入学生対象)田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、「保育所実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 保育全般に参加し、保育士として必要な資質・能力・知識・技術を高める。 2. 子どもと積極的にかかわり、求められる援助のあり方や環境構成について自分なりに考え実践する。 3. 発達の遅れや障がいなど、個々の子どもが必要とするさまざまな配慮について理解し、援助のあり方を学ぶ。 4. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、集団全体に目を向け、子ども同士の「関係」への援助を考える。 5. 保育課程に基づき、子どもの発達や育ちに応じた指導計画を立案して実践し、実践に対する省察および評価を通じて保育の過 程について理解する。 6. 保育所と地域社会との交流や連携の方法について実践を通して具体的に学び、保育所の社会的役割や保育士の役割について 考える。 7. 多様な保育ニーズへの対応の実情について学び、子どもの育ち、保護者の子育て支援などの観点から、その意味について考 察する。 8. 保育所と保護者とのコミュニケーションをより深く学び、入所する子どもの保護者に対する支援について理解する。 9. 子どもの最善の利益への配慮をはじめとする保育士の職業倫理について具体的に学ぶ。 10. 保育士に必要な資質や能力について理解し、保育士としての今後の自己課題を明確にする。 ※①～④の共通課題および自己課題をねらいとして、さらに上記のような内容について実習を通してより実践的に学ぶことが期待される。
事前	保育所実習Ⅰでの実践や評価を振り返り、自己課題を整理するとともに、実習に向けて必要な学びを深めるとともに、教材研究を行い、指導計画の立案や実践に向けて準備を進めること。
事後	実習中の記録や評価、指導者からのコメントなどを元に振り返りを行い、自己の課題を整理するとともに、実践の後ろ盾となる理論について学びを深め、保育者に必要とされる専門性について整理し、保育実践的力の向上を目指す。

2020/07/16(木)21:41

科 目 名	美術概論 [社介心子科]			授業コード	4130012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関する キーワード	西洋美術、日本美術、様式

到達目標	西洋の著名な作家や日本の美術などを概観することによって、以下の到達目標の達成を目指すことにある。 ①西洋美術と日本の美術の様式の変遷を知り、その造形的特徴について理解する。 ②美術作品を鑑賞することにより美術というものを理解し、感ずる心(感性)を養うこと。 ③美術史において連続する伝統と変革を学ぶことで、現代の表現に想いを巡らす汎用的な視点を獲得する。			
授業の概要	美術史的な観点から精選された芸術としての美術作品について、スライドや動画を見ながら所説していく。今日のグローバル化された社会では、自国の伝統と他国の文化を尊重する態度が求められる。美術史の流れに沿い、洋の東西を問わず様々な美術作品について考える過程を通し、表現の在りようを検討していく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業中の課題や諸活動への取り組み(60%)、試験(40%)で評価する。		
フィードバック	授業内で提出したリアクションペーパーなどについては、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての 注意事項	毎授業ごとにリアクションペーパー、もしくは課題を出すので欠席をするとその分のポイントが加算されない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○	○		
III		○					
IV							

V							

テキスト1	授業の流れに沿いプリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『美術の物語』 E.H.ゴンブリッチ ファイドン株式会社 『日本美術の歴史』 辻惟男 東京大学出版社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 美術とは何か
事前	これまでに観たことがある「美術作品」を振り返り、印象に残っている作品について調べてくること(2時間)
事後	授業で学んだことをノートなどに整理しておくこと(2時間)

2	「祈り」の美術(原始から古代)
事前	古代の遺跡について、一つ調べてくること(2時間)
事後	授業の中で興味を持った古代遺跡について記録しておくこと(2時間)

3	神話と美術(ギリシア・ローマ)
事前	知っている神話について説明できるようになっておくこと(2時間)
事後	授業で学んだ神話と造形作品について記録しておくこと(2時間)

4	神話と美術(日本)
事前	日本の神社について一つ調べてくること(2時間)
事後	授業で学んだ神話と造形物について整理しておくこと(2時間)

5	宗教と美術(中世からルネサンス)
事前	家族の宗教に関わる習慣などについて調べておくこと(2時間)
事後	授業で学んだことを整理しておくこと(2時間)

6	宗教と美術(盛期ルネサンス)
事前	中学の美術の授業を振り返り、遠近法、透視図法について復習しておくこと(2時間)
事後	授業を振り返り、ミケランジェロについて理解しておくこと(2時間)

7	宗教と美術(バロック)
事前	ミケランジェロの作品の特徴について考えてくること(2時間)
事後	ルネサンスからバロックへの流れについて復習しておくこと(2時間)

8	宗教と美術(日本における仏教の初期受容)
事前	飛鳥時代に関して復習しておくこと(2時間)
事後	仏像の種類について理解しておくこと(2時間)

9	宗教と美術(仏像の技法と変遷)
事前	平安時代から江戸時代までの日本史を復習しておくこと(2時間)
事後	授業を振り返り、仏像の技法について整理しておくこと(2時間)

10	権力者と美術
事前	室町時代から江戸時代までの歴史について復習しておくこと(2時間)
事後	狩野派と琳派について復習しておくこと(2時間)

11	自然と美術(印象派1)
事前	資料を元に、新古典主義からロマン主義について理解しておくこと(2時間)
事後	授業を振り返り、モネの代表作について理解しておくこと(2時間)

12	自然と美術(印象派2)
事前	印象派について調べてくること(2時間)
事後	ルノワールとドガについて復習しておくこと(2時間)

13	自然と美術(印象派3)
事前	ジャポニスムについて調べてくること(2時間)

事後	ジャポニスムについて復習しておくこと(2時間)

14	多様化する美術
事前	これまでの西洋美術の変遷を復習しておくこと(2時間)
事後	20世紀の美術について復習しておくこと(2時間)

15	現代の美術(まとめ)
事前	身近な美術作品について調べておくこと(2時間)
事後	これまでの講義で配布された資料を見返し、美術作品の主題や様式の変遷を復習しておくこと(2時間)

2020/07/16(木)21:22

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4130020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし

到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:16

科 目 名	保育内容（表現II） [子]			授業コード	4130031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	三政 洋一、斉木 美紀子、茗井 香保里				

科目に関するキーワード	領域「表現」、身体表現、造形表現、音楽表現
到達目標	●授業のねらい：「動」「音」「造」による多様な表現方法を学び、グループでの表現の実践を通して創造し表現することの意味に気づき、他者とのコミュニケーションの在り方についても考える。 ●授業終了時の到達目標：表現にかかわる自らの実践を通し創造と表現、表現とコミュニケーションの意味について感じ考えることができるようになる。この経験を通し、乳幼児期における表現の意義を理解し、子どもの表現活動に共感しながら援助できる能力を身に付け実践できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2（1）(2)(3)（5）(6)、D-3(1)~(5)】
授業の概要	表現活動の実践を通し、その過程と成果を経験する。また、これらにかかわる子どもの姿と保育者の援助について技能や表現方法を身に付ける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・数人のグループワークを実施した後、学年全体で発表会を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生の個別に「まとめ課題」を作成する。
評価方法及び評価基準	レポート	発表活動、課題への取り組みと貢献度を総合して評価する。 発表活動への貢献（60%）、レポート課題（40%）		
フィードバック	・授業内課題については適宜コメントを返していく			
履修に際しての注意事項	・実践的な活動が主になるので、動きやすい服装で出席すること。 ・制作にかかる費用は原則、自己負担となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館、2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館、2018年)その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション(合同授業)
事前	シラバスを読み、授業の目標を理解してくること(0.5時間)
事後	配付資料を読み、次回の授業に必要なものを準備しておくこと(0.5時間)

2	ローテーション授業①・「動き」の型と質を感知する。動きとイメージの関連に気づく (グループワーク)(茗井)
事前	「表出」と「表現」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で体験的に理解したことを記録しておくこと。(0.5時間)

3	ローテーション授業①・子どもの音楽表現を育むには(斉木)
事前	絵本を1冊読んでおくこと(0.5時間)
事後	授業で学んだことを記録しておくこと(0.5時間)

4	ローテーション授業①・造形表現における素材(三政)
事前	これまでの実習を振り返り、幼児教育における造形活動について考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを振り返っておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

5	ローテーション授業②・「動き」のダイナミクス一群と構成を生かして(グループワーク)(茗井)
事前	「空間構成」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で発表したことを記録しておくこと。(0.5時間)

6	ローテーション授業②・子どもの音楽的発達(斉木)
事前	子どもの音楽表現活動について調べておくこと(0.5時間)
事後	授業で発表したことを復習しておくこと(0.5時間)

7	ローテーション授業②・造形要素について(三政)
事前	子どもが制作した作品を何点か調べ、その良さについて考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを復習しておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

8	ローテーション授業③・テーマと作品 (グループワーク)(茗井)
事前	子どもの身体表現について、調べてくること。(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、身体表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

9	ローテーション授業③・身体による音楽表現(斉木)
事前	オリエンテーション時に配布した資料をよく読んでくること(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、音楽表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

10	ローテーション授業③・子どもの造形表現(三政)
事前	作品の発表に向けて、準備しておくこと(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、造形表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

11	「動」「音」「造」による総合的な表現活動計画立案一共通課題による (11~15回 グループワーク)
事前	総合的な表現活動発表内容をイメージしておくこと(0.5時間)
事後	グループ内で出たアイデアを整理しておくこと(0.5時間)

12	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・制作
事前	授業に必要なモノや資料を用意しておくこと(0.5時間)
事後	経過を振り返り、準備計画を立てておくこと(0.5時間)

13	「動」「音」「造」による総合的な表現活動中間発表
事前	中間発表に向けてグループで話し合っておくこと（0.5時間）
事後	各自で中間発表の振り返り及び省察をしておくこと（0.5時間）

14	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・練習
事前	グループで各自の振り返り及び省察について話し合っておくこと（0.5時間）
事後	総合的な表現活動発表に向けた場当たりをしておくこと（0.5時間）

15	「動」「音」「造」による総合的な表現活動発表
事前	総合的な表現活動発表に向けて練習をしておくこと（0.5時間）
事後	自分及び他グループの総合的な表現活動発表の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)21:33

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	4130040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)21:40

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	4130050
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)21:57

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	4130060
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)20:38

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4130070
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	三政 洋一				

科目に関する キーワード	塑造、子どもの造形活動、アート

到達目標	実制作を通し、様々な造形活動の特徴と可能性について探求していくことで、表現に対する考え方や技能を高め、保育者としての総合的な力を獲得していくことを目標とする。			
授業の概要	前半は、土粘土による制作を中心に立体造形における造形要素を学びながら、子供の造形活動に還元していく方法を考える。後半は、これまでに修得した表現技法を応用しながら、自己表現を主眼とした作品制作、及び子どもの造形活動を援助する作品制作を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	原則として、レポート課題(30%)、作品の内容(70%)とし総合的に評価する。		
フィードバック	制作課題に関する、各自のねらいに応じ、個別面談をしながら進めていく。			
履修に際しての 注意事項	「表現」は技巧の上手い下手のみではないことを理解した上で、意欲的に活動することを望む。 また自ら表現したいものがあれば、適宜相談に応じる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							
IV	○						

V					○		

テキスト1	ゼミ中に適宜紹介する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1　前期オリエンテーション 2～14　①「立体による造形活動」について考える(彫塑制作を通して)。 ②紙粘土を使った表現を実践する。 ③その他、保育に繋がる造形活動。 15　講評会まとめ 16　後期オリエンテーション 17～29　①「自己表現」について考える。(素材・技法を通して) ②子どもの遊びを援助する「おもちゃ」作り等。 ③その他、造形活動。④学外研修。 30　講評会まとめ(総括)
事前	制作に関わる資料等を調査し授業に臨むこと(各回、0.5時間)
事後	自身の制作過程をポートフォリオなどにまとめて気付いたこと等を確認し、更なる工夫を考えること(各回、0.5時間)

2020/07/16(木)21:23

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4140010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし
到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)10:38

科 目 名	保育内容(健康) [子]			授業コード	4140021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	保育と健康、健康育て、運動遊具、安全グッズ、食生活

到達目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容を理解し、その適切な指導方法を身に付ける。 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらい及び内容を理解している。 2. 乳幼児の思考や動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 3. 教材研究、指導案作成、模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。			
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらい及び内容について理解し、幼児の健康に関する現状や課題を踏まえ、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ための指導法や知識・技術を身につける。特に基本的な生活習慣の形成や安全能力の育成、身心の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、グループワークやディスカッションを通して検討する。また、映像資料を視聴しながら保育指導のあり方を考察する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループ討議や、教材制作、運動遊びの実践など体験的な理解を図る。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への取り組み（40%） 課題（30%） レポート（30%）の割合で行うが、場合によっては、配点を調整することもある。		
フィードバック	リアクションペーパーでの質問については、その後の授業の中で解説する。			
履修に際しての 注意事項	授業は、講義および演習形式で行う。このため、主体的に参加し、自ら考える姿勢での出席が望ましい。 また、子どもの姿についての検討にあっては、映像資料を参考にすることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV						○	

V							

テキスト1	清水玲子他、子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック　保育園・幼稚園における安全対策、大学図書出版	9784907166052
テキスト2	宮下　恭子編著、保育内容「健康」生きる力を育む健やかな心とからだ、大学図書出版	9784907166687
テキスト3		
参考文献	茗井　香保里他、乳幼児の健康　教育保育に向けた計画と実践、大学図書出版 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育における「健康」の意義
事前	シラバスを熟読しておくこと。 「健康」の定義について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

2	基本的生活習慣の形成と獲得
事前	「基本的生活習慣」について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

3	保育現場における健康管理の実際と安全能力の育成
事前	「安全能力」について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

4	保育現場の映像を参考とした安全指導の計画立案
事前	「交通安全」を題材にした絵本を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

5	保育現場の映像を参考とした運動遊びの計画立案
事前	幼児の「運動遊び」を数個、調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

6	安全指導の教材研究
事前	「安全指導」の紙芝居を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

7	運動遊びの教材研究
事前	幼稚園や保育園での運動会のプログラムを探しておくこと。(1時間)
事後	授業での学びに関連する内容で、幅広く調べ学習をすること。(3時間)

8	安全指導を中心とした模擬保育と自己評価及びグループ討議による省察
事前	「防災訓練」について調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

9	運動遊びを中心とした模擬保育と自己評価及びグループ討議による省察
事前	運動遊び中の危険な場面について調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

10	安全指導および運動遊びを中心とした模擬保育の計画立案の再構築
事前	安全指導および運動遊びの指導案を数点ノートに貼っておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

11	乳幼児期の食生活に関する課題
事前	「食」の機能について調べておくこと。(1時間)
事後	乳幼児の「食生活」について、海外の例を調べるなど、視野を広げること。(3時間)

12	乳幼児期の食生活に関する指導の事例
事前	教科書『保育内容「健康」』P77～86を読んでおくこと。(1時間)
事後	幼児への「食生活の指導」について、多くの資料を参考に調べ、知識を深めていくこと。(3時間)

13	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
事前	「環境構成」について調べておくこと。(1時間)
事後	健康と環境について、広い視野から調べておくこと。(3時間)

14	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力
事前	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について調べておく。(1時間)
事後	幼児期の健康と小学校、加えて、高齢期までを長期的な視点からまとめておくこと。(3時間)

15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
事前	領域「健康」をめぐる現代的課題について調べておくこと。(1時間)
事後	「「保育」、「現代社会」、「健康」をキーワードとして、自分の言葉で「健康観」を述べられるようにしておくこと。(3時間)

2020/07/16(木)10:56

科 目 名	保育内容(健康) [子]			授業コード	4140031
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	保育と健康、健康育て、運動遊具、安全グッズ、食生活

到達目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容を理解し、その適切な指導方法を身に付ける。 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらい及び内容を理解している。 2. 乳幼児の思考や動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 3. 教材研究、指導案作成、模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。			
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらい及び内容について理解し、幼児の健康に関する現状や課題を踏まえ、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ための指導法や知識・技術を身につける。特に基本的な生活習慣の形成や安全能力の育成、身心の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、グループワークやディスカッションを通して検討する。また、映像資料を視聴しながら保育指導のあり方を考察する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループ討議や、教材制作、運動遊びの実践など体験的な理解を図る。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への取り組み(40%) 課題(30%) レポート(30%)の割合で行うが、場合によっては、配点を調整することもある。		
フィードバック	リアクションペーパーでの質問については、その後の授業の中で解説する。			
履修に際しての 注意事項	授業は、講義および演習形式で行う。このため、主体的に参加し、自ら考える姿勢での出席が望ましい。 また、子どもの姿についての検討にあっては、映像資料を参考にすることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV						○	

V							

テキスト1	清水玲子他、子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック　保育園・幼稚園における安全対策、大学図書出版	9784907166052
テキスト2	宮下　恭子編著、保育内容「健康」生きる力を育む健やかな心とからだ、大学図書出版	9784907166687
テキスト3		
参考文献	茗井　香保里他、乳幼児の健康　教育保育に向けた計画と実践、大学図書出版 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	保育における「健康」の意義
事前	シラバスを熟読しておくこと。 「健康」の定義について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

2	基本的生活習慣の形成と獲得
事前	「基本的生活習慣」について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

3	保育現場における健康管理の実際と安全能力の育成
事前	「安全能力」について調べておくこと。(1時間)
事後	配布されたワークシートを参考に「授業での学び」をノートに記録すること。(3時間)

4	保育現場の映像を参考とした安全指導の計画立案
事前	「交通安全」を題材にした絵本を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

5	保育現場の映像を参考とした運動遊びの計画立案
事前	幼児の「運動遊び」を数個、調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

6	安全指導の教材研究
事前	「安全指導」の紙芝居を読んでおくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

7	運動遊びの教材研究
事前	幼稚園や保育園での運動会のプログラムを探しておくこと。(1時間)
事後	授業での学びに関連する内容で、幅広く調べ学習をすること。(3時間)

8	安全指導を中心とした模擬保育と自己評価及びグループ討議による省察
事前	「防災訓練」について調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

9	運動遊びを中心とした模擬保育と自己評価及びグループ討議による省察
事前	運動遊び中の危険な場面について調べておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

10	安全指導および運動遊びを中心とした模擬保育の計画立案の再構築
事前	安全指導および運動遊びの指導案を数点ノートに貼っておくこと。(1時間)
事後	授業での学びを記録し、自分の使いやすいノート作りをめざすこと。(3時間)

11	乳幼児期の食生活に関する課題
事前	「食」の機能について調べておくこと。(1時間)
事後	乳幼児の「食生活」について、海外の例を調べるなど、視野を広げること。(3時間)

12	乳幼児期の食生活に関する指導の事例
事前	教科書『保育内容「健康」』P77～86を読んでおくこと。(1時間)
事後	幼児への「食生活の指導」について、多くの資料を参考に調べ、知識を深めていくこと。(3時間)

13	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
事前	「環境構成」について調べておくこと。(1時間)
事後	健康と環境について、広い視野から調べておくこと。(3時間)

14	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力
事前	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について調べておく。(1時間)
事後	幼児期の健康と小学校、加えて、高齢期までを長期的な視点からまとめておくこと。(3時間)

15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
事前	領域「健康」をめぐる現代的課題について調べておくこと。(1時間)
事後	「「保育」、「現代社会」、「健康」をキーワードとして、自分の言葉で「健康観」を述べられるようにしておくこと。(3時間)

2020/07/16(木)11:01

科 目 名	保育内容（健康I） [子]			授業コード	4140042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	領域「健康」、基本的生活習慣、運動、食育、安全教育

到達目標	・乳幼児期の心身の発達に即した、具体的な遊びや生活の援助について考察できる。 ・保育者として安全に配慮しつつ、子どもと関わることの視点と方法に繋がる実践について考えることができる。 【「履修ファイル」の対応項目：A-3(1)~(3) C-2(3)(4) D-2(1)(2)(3)(5)(6),D-3(1)~(5)】			
授業の概要	子どもの生活と遊びを基盤とした、保育における健康の考え方と実際について、領域特性と他領域との関連性を考慮に入れつつ学ぶ。 さらに、乳幼児期の心身の育ちに関する理解を基礎とし、この期の 具体的な身体活動を伴う子どもの生活や遊びとその援助について、相互の関連性を考慮しながら、子どもの育ちを支える保育者のあり方を考えていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	安全指導、食育、運動遊びの教材研究については、学生同士やグループでの実践を行い、その体験やグループ討議を基に授業を進める。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組みと理解（40%）、課題（30%）、レポート（30%）等を総合的に評価する。		
フィードバック	リアクションペーパーでの質問は、その後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	授業は、講義および演習形式で行う。このため、主体的に参加し、自ら考える姿勢での出席が望ましい。 また、子どもの姿についての検討にあっては、映像資料を参考にすることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II	○						
III					○		
IV							

V							

テキスト1	［改訂新版］『保育内容「健康」~生きる力を育む健やかな心とからだ~』 宮下恭子編著、大学図書出版	9784907166687
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心身の健康に関する領域・健康の意味　グループワーク、プレゼンテーション
事前	シラバスを塾読しておくこと。(0.5時間)
事後	グループワークの内容を記録しておくこと。(0.5時間)

2	保育内容健康と他領域との関連性、総合性について
事前	5領域について復習しておくこと。(0.5時間)
事後	授業の内容をまとめておくこと。(0.5時間)

3	子ども理解、保育者の役割と領域健康
事前	教科書p12～24までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	3要領の保育者の役割について、述べている部分を読んでおくこと。(0.5時間)

4	発達のとらえ方・子どもにとっての心身の発達
事前	教科書p24～27ページまでを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	自分の幼児期の写真を数枚用意し、発達の様子を視覚的にまとめること。(0.5時間)

5	身体および運動の発達の基礎知識
事前	教科書28p～34までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	自分の幼児期の写真を数枚用意し、運動発達の様子を視覚的にまとめること。(0.5時間)

6	基本的生活習慣の形成と獲得と安全能力の育成
事前	教科書p64～75までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	基本的生活習慣を題材にした絵本を読んでおくこと。(0.5時間)

7	子どもの安全教育と危険（リスクとハザード）－安全意識、安全態度を育むことの重要性
事前	教科書p79～82までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業での学びを「リスクとハザード」の視点からまとめること。(0.5時間)

8	防災・防犯と危機管理－「備えること」「守ること」の重要性
事前	教科書p133～139までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業での学びを「安全管理・危機管理」の視点からまとめておくこと。(0.5時間)

9	安全指導の計画立案　グループワーク、ディスカッション
事前	教科書p140～146までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	グループワークでの意見を活かせるように意見や質問を記録しておくこと。(0.5時間)

10	安全指導の教材研究
事前	「安全指導」の教材となる絵本や紙芝居を数点探しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で興味をもった事柄について、深め学修となるよう調べておくこと。(0.5時間)

11	運動遊びの計画立案　グループワーク、ディスカッション
事前	教科書p47～57までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「運動遊び」の教材となる絵本や紙芝居を数点探して、本日の学びと保育実践と結び付けておくこと。(0.5時間)

12	運動遊びの教材研究

事前	「運動遊び」の教材となる遊具を数点探しておくこと。(0.5時間)
事後	運動遊びの教材を使って、実際に運動してみること。(0.5時間)

13	子どもと健康と食生活
事前	教科書p57～64までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「食育」の教材となる絵本や紙芝居を数点探して、本日の学びと保育実践と結び付けておくこと。(0.5時間)

14	指導計画(安全指導・運動遊び・食育）の作成と検討　グループワーク、プレゼンテーション
事前	食育に関する指導案を文献や資料から調べておくこと。(0.5時間)
事後	発表に関する質問や意見を記録して、理解を深めることができるようにすること。(0.5時間)

15	まとめ
事前	教科書p149～161までを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	15回の授業を振り返り、自己課題を見つけて今後の展望をまとめること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:16

科 目 名	保育内容（表現II） [子]			授業コード	4140051
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里、斉木 美紀子、三政 洋一				

科目に関するキーワード	領域「表現」、身体表現、造形表現、音楽表現
到達目標	●授業のねらい：「動」「音」「造」による多様な表現方法を学び、グループでの表現の実践を通して創造し表現することの意味に気づき、他者とのコミュニケーションの在り方についても考える。 ●授業終了時の到達目標：表現にかかわる自らの実践を通し創造と表現、表現とコミュニケーションの意味について感じ考えることができるようになる。この経験を通し、乳幼児期における表現の意義を理解し、子どもの表現活動に共感しながら援助できる能力を身に付け実践できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2（1）(2)(3)（5）(6)、D-3(1)~(5)】
授業の概要	表現活動の実践を通し、その過程と成果を経験する。また、これらにかかわる子どもの姿と保育者の援助について技能や表現方法を身に付ける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・数人のグループワークを実施した後、学年全体で発表会を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生の個別に「まとめ課題」を作成する。
評価方法及び評価基準	レポート	発表活動、課題への取り組みと貢献度を総合して評価する。 発表活動への貢献（60%）、レポート課題（40%）		
フィードバック	・授業内課題については適宜コメントを返していく			
履修に際しての注意事項	・実践的な活動が主になるので、動きやすい服装で出席すること。 ・制作にかかる費用は原則、自己負担となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III						○	
IV							

V					○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館、2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館、2018年)その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション(合同授業)
事前	シラバスを読み、授業の目標を理解してくること(0.5時間)
事後	配付資料を読み、次回の授業に必要なものを準備しておくこと(0.5時間)

2	ローテーション授業①・「動き」の型と質を感知する。動きとイメージの関連に気づく (グループワーク)(茗井)
事前	「表出」と「表現」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で体験的に理解したことを記録しておくこと。(0.5時間)

3	ローテーション授業①・子どもの音楽表現を育むには(斉木)
事前	絵本を1冊読んでおくこと(0.5時間)
事後	授業で学んだことを記録しておくこと(0.5時間)

4	ローテーション授業①・造形表現における素材(三政)
事前	これまでの実習を振り返り、幼児教育における造形活動について考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを振り返っておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

5	ローテーション授業②・「動き」のダイナミクス一群と構成を生かして(グループワーク)(茗井)
事前	「空間構成」について調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で発表したことを記録しておくこと。(0.5時間)

6	ローテーション授業②・子どもの音楽的発達(斉木)
事前	子どもの音楽表現活動について調べておくこと(0.5時間)
事後	授業で発表したことを復習しておくこと(0.5時間)

7	ローテーション授業②・造形要素について(三政)
事前	子どもが制作した作品を何点か調べ、その良さについて考えてくること(0.5時間)
事後	授業で学んだことを復習しておくこと。次回の授業で必要な材料を準備しておくこと(0.5時間)

8	ローテーション授業③・テーマと作品 (グループワーク)(茗井)
事前	子どもの身体表現について、調べてくること。(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、身体表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

9	ローテーション授業③・身体による音楽表現(斉木)
事前	オリエンテーション時に配布した資料をよく読んでくること(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、音楽表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

10	ローテーション授業③・子どもの造形表現(三政)
事前	作品の発表に向けて、準備しておくこと(0.5時間)
事後	総合的な表現活動発表に向けて、造形表現領域からアイデアを記録しておくこと(0.5時間)

11	「動」「音」「造」による総合的な表現活動計画立案一共通課題による (11~15回 グループワーク)
事前	総合的な表現活動発表内容をイメージしておくこと(0.5時間)
事後	グループ内で出たアイデアを整理しておくこと(0.5時間)

12	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・制作
事前	授業に必要なモノや資料を用意しておくこと(0.5時間)
事後	経過を振り返り、準備計画を立てておくこと(0.5時間)

13	「動」「音」「造」による総合的な表現活動中間発表
事前	中間発表に向けてグループで話し合っておくこと（0.5時間）
事後	各自で中間発表の振り返り及び省察をしておくこと（0.5時間）

14	「動」「音」「造」による総合的な表現活動準備・練習
事前	グループで各自の振り返り及び省察について話し合っておくこと（0.5時間）
事後	総合的な表現活動発表に向けた場当たりをしておくこと（0.5時間）

15	「動」「音」「造」による総合的な表現活動発表
事前	総合的な表現活動発表に向けて練習をしておくこと（0.5時間）
事後	自分及び他グループの総合的な表現活動発表の振り返りをしておくこと（0.5時間）

2020/07/16(木)11:15

科 目 名	子どもと健康 [子]			授業コード	4140062
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関するキーワード	健康、安全教育、運動、基本的生活習慣、食育

到達目標	乳幼児期の体や運動の発育発達の特徴と、安全で安心した生活について理解する。 1. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 2. 乳幼児の体の発達的特徴を説明できる。 3. 幼児の安全教育と健康管理について理解している。 4. 幼児期において、多種多様な動きを獲得することの重要性について理解している。			
授業の概要	人生の基礎を培う乳幼児期にいかような経験をし、いかような力を養うことが生涯健康に暮らすために重要なのかを念頭におき、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	運動遊びや危険安全グッズについて調べ、グループで討議する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業への取り組み（40%） 、課題（30%）、レポート（30%）		
フィードバック	リアクションペーパーでの質問は、後の授業で取り上げて解説する。			
履修に際しての注意事項	主体的に授業に参加し、能動的に学修し、自分の考えを言えるようにすることが望ましい。 映像資料や動画資料を参考にすることがある。 授業をまとめたノートは、学期末に提出を求めるので、オリジナリティーやクリエイティビティーの感じられるものに仕上げること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II		○					
III							
IV							

V				○			

テキスト1	茗井　香保里他編著 『乳幼児の健康　教育・保育に向けた計画と実践』、大学図書出版	9784909655165
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、(2018)、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、(2018)、フレーベル館 厚生労働省、『保育所保育指針解説』、(2018)、フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	健康とは－健康の定義と乳幼児期の健康の意義
事前	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の扱う「健康」
事前	教科書の該当ページ(25～31)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
3	子どもの身体の発育発達－乳幼児期の身体の発育発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(12～19)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
4	子どもの生理的機能の発達－乳幼児期の生理的機能の発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(19～23)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと、特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
5	子どもとの運動発達－乳幼児期の運動発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(25～35)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと、特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
6	子どもの運動－幼児期の運動遊び
事前	教科書の該当ページ(47～57)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと,特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
7	子どもの運動－乳児期の運動遊び
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
8	運動遊びと発達－情緒的発達、社会性の発達、パーソナリティーの発達、知的能力の発達
事前	教科書の該当ページ(31～35)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
9	日常生活における運動－生活活動と運動、その配慮の基本的な考え方
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
10	子どもの安全教育と危険(リスクとハザード)－安全意識や態度を育むことの重要性
事前	教科書の該当ページ(123～132)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)
11	防災・防犯と危機管理－「備える」、「守る」ことの重要性
事前	教科書の該当ページ(133～146)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)
12	幼児期の健康管理と怪我の予防－幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置
事前	教科書の該当ページ(31～34)を読んでおくこと。(0.5時間)

事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)

13	乳幼児の基本的生活習慣の形成－着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄の獲得とその意義
事前	教科書の該当ページ(102～108)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられるノートにまとめあげること。 (0.5時間)

14	子どもと健康－子どもを取り巻く生活環境と健康
事前	教科書の該当ページ(150～155)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられるノートにまとめあげること。 (0.5時間)

15	子どもと健康－現代的課題の視点からのまとめ
事前	教科書の該当ページ(156～160)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられる「マイ・ノート」にまとめあげること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:09

科 目 名	子どもと健康 [子]			授業コード	4140072
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関するキーワード	健康、安全教育、運動、基本的生活習慣、食育

到達目標	乳幼児期の体や運動の発育発達の特徴と、安全で安心した生活について理解する。 1. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 2. 乳幼児の体の発達的特徴を説明できる。 3. 幼児の安全教育と健康管理について理解している。 4. 幼児期において、多種多様な動きを獲得することの重要性について理解している。			
授業の概要	人生の基礎を培う乳幼児期にいかような経験をし、いかような力を養うことが生涯健康に暮らすために重要なのかを念頭におき、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	運動遊びや危険安全グッズについて調べ、グループで討議する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業への取り組み（40%） 、課題（30%）、レポート（30%）		
フィードバック	リアクションペーパーでの質問は、後の授業で取り上げて解説する。			
履修に際しての注意事項	主体的に授業に参加し、能動的に学修し、自分の考えを言えるようにすることが望ましい。 映像資料や動画資料を参考にすることがある。 授業をまとめたノートは、学期末に提出を求めるので、オリジナリティーやクリエイティビティーの感じられるものに仕上げること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II		○					
III							
IV							

V				○			

テキスト1	茗井　香保里他編著 『乳幼児の健康　教育・保育に向けた計画と実践』、大学図書出版	9784909655165
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、(2018)、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、(2018)、フレーベル館 厚生労働省、『保育所保育指針解説』、(2018)、フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	健康とは－健康の定義と乳幼児期の健康の意義
事前	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の扱う「健康」
事前	教科書の該当ページ(25～31)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
3	子どもの身体の発育発達－乳幼児期の身体の発育発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(12～19)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについてノートにまとめること。(0.5時間)
4	子どもの生理的機能の発達－乳幼児期の生理的機能の発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(19～23)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと、特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
5	子どもとの運動発達－乳幼児期の運動発達の特徴
事前	教科書の該当ページ(25～35)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと、特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
6	子どもの運動－幼児期の運動遊び
事前	教科書の該当ページ(47～57)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだこと,特に興味をもったことについてノートにまとめること。(0.5時間)
7	子どもの運動－乳児期の運動遊び
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
8	運動遊びと発達－情緒的発達、社会性の発達、パーソナリティーの発達、知的能力の発達
事前	教科書の該当ページ(31～35)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
9	日常生活における運動－生活活動と運動、その配慮の基本的な考え方
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことについて、見やすく工夫して、ノートに記入すること。(0.5時間)
10	子どもの安全教育と危険(リスクとハザード)－安全意識や態度を育むことの重要性
事前	教科書の該当ページ(123～132)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)
11	防災・防犯と危機管理－「備える」、「守る」ことの重要性
事前	教科書の該当ページ(133～146)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)
12	幼児期の健康管理と怪我の予防－幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置
事前	教科書の該当ページ(31～34)を読んでおくこと。(0.5時間)

事後	授業内で学んだことを中心に、オリジナリティー溢れるノート作りをすること。(0.5時間)

13	乳幼児の基本的生活習慣の形成－着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄の獲得とその意義
事前	教科書の該当ページ(102～108)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられるノートにまとめあげること。 (0.5時間)

14	子どもと健康－子どもを取り巻く生活環境と健康
事前	教科書の該当ページ(150～155)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられるノートにまとめあげること。 (0.5時間)

15	子どもと健康－現代的課題の視点からのまとめ
事前	教科書の該当ページ(156～160)を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業内で学んだことを中心にオリジナリティーとクリエイティビティの感じられる「マイ・ノート」にまとめあげること。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:15

科 目 名	子どもと運動I [子]			授業コード	4140082
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	運動遊び、危険と安全、運動発達

到達目標	①乳幼児期の運動発達の重要性と基礎理論を理解し、説明できる。 ②運動遊びの活動を実際に体験し、理解を深め、実践に役立てることができる。 ③運動遊びの実際を体験し、支援者に必要な態度や構えを養い、表現できる。 ④運動遊びの場において、危険や安全について意識を向けることができる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(2)(3),D-3(4)】			
授業の概要	本授業では、乳幼児期の子どもの運動発達の重要性を理解し、様々な遊具の特性や活用方法および保育環境の留意点を学ぶことによって、楽しく運動するための知識や技術を身につける。 また、自らが実際に身体を動かす運動遊びの体験的な理解を通して、子どもの発育発達に即した身体活動を活発に展開できる態度・構えを養う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーは、授業において適宜その重要箇所や問題点に触れ、受講生全体の授業理解へと繋げる。 ＊課題発表後は、理解の不十分な点や問題点について適宜フィードバックすると共に、必要に応じた補足を行う。"
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への主体的かつ積極的な取り組みと理解40%、授業内課題30%、レポート提出30%等を基本とし総合的に評価する。得点の分布によっては配分を調整することがある。		
フィードバック	リアクションペーパーは、授業において適宜その重要箇所や問題点に触れ、受講生全体の授業理解へと繋げる。 課題発表後は、理解の不十分な点や問題点について適宜フィードバックすると共に、必要に応じた補足を行う。"			
履修に際しての 注意事項	＊体調管理には十分気を付け、休まず授業に参加できるよう心掛けること. ＊運動着(高校などで使用していたもでよい)を着用のこと。(上衣のフード付き、下衣のジーンズ等は 運動に適しない) ＊体育館では運動用シューズを持参すること。 ＊肩にかかる髪は必ず結び、爪の長さに留意すること。 ＊装飾品ははずし、各自保管すること。 ＊携帯電話は、ポケットに入れないこと。 ※安全面からも以上を理解すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III				○			
IV							
V				○			

テキスト1	茗井　香保里、『幼児の運動・身体表現－生涯健康とライフキャリア発達』、推敲舎	9784908107139
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年)　その他、必要に応じて、授業内にて紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、基本の運動
事前	シラバスを塾読しておくこと。(0.5時間)
事後	「基本の運動」についてまとめておくこと。(0.5時間)

2	簡単なルールのある運動遊び
事前	教科書p30～35を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「運動遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

3	短縄を使った運動遊びの体験的理解
事前	教科書p36～41を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「運動遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

4	長縄を使った運動遊びの体験的理解
事前	教科書42～45を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「長縄遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

5	フープを使った遊びの体験的理解
事前	教科書46～47を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「フープ遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

6	ボール使った運動遊びの体験的理解
事前	教科書48～49を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「ボール遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

7	生活用品使った運動遊びの体験的理解

事前	教科書46～47を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	「新聞紙遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

8	マット使った運動遊びの体験的理解
事前	「マットを使った運動遊び」と「器械運動」の違いを確認すること。 (0.5時間)
事後	「マット遊び」についてまとめておくこと。(0.5時間)

9	乳幼児の運動遊びの探求 グループワーク、ディスカッション
事前	乳幼児の運動遊びに関する資料を数点探しておくこと。(0.5時間)
事後	「乳幼児に適した運動」についてまとめておくこと。 (0.5時間)

10	様々な運動遊びの考案　グループワーク、ディスカッション
事前	教科書66～69を読んでおくこと。(0.5時間).
事後	ディスカッションの内容を記録しておくこと。(0.5時間)

11	活動案の作成
事前	教科書p70～71を読んでおくこと。(0.5時間).
事後	活動案を見直し、「学び」をまとめること。(0.5時間).

12	活動案の発表(幼児)
事前	プレゼンテーションについて簡易的な資料を探し、読んでおくこと。 (0.5時間).
事後	発表に対する質問やアドバイスを活かせるように自分なりに準備しておくこと。(0.5時間).

13	活動案の発表(乳児)
事前	前回の授業での質問やアドバイスを活かせるように自分なりに準備しておくこと。(0.5時間).
事後	発表に対する質問やアドバイスをまとめておくこと。 (0.5時間).

14	活動案の修正、実践活動に向けて
事前	教科書p72～73を読んでおくこと。(0.5時間).
事後	今後の実践へ向けて自己の課題をまとめておくこと。(0.5時間).

15	まとめ　生涯健康と運動遊び
事前	教科書p18～p29を読んでおくこと。(0.5時間).
	幼児期の「運動遊び」と「生涯健康」の関係について、自分の考えを述べられようにしておくこと。(0.5時間).

事後	

2020/07/16(木)11:00

科 目 名	子どもと身体表現I [子]			授業コード	4140091
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	身体表現、感性、創造性

到達目標	・保育者としてふさわしい身体感覚を身につけ、自らが楽しんで体で表現することができる。 ・幼児の豊かな身体表現活動を育む技術と方法を理解し、指導できる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(2)(3),D-3(4)】			
授業の概要	「感じること」を大切にしつつ、表現素材であり、表現媒体でもある自己の身体を知る。 幼児の身体表現や、その発達を理解する。また、身体表現の知識、技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための保育者に必要な感性を豊かにする。 具体的には、子どもの身体表現遊びを体験的に理解し、遊びの考案と実践を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループ活動を中心に授業を進める。話し合いと、実際に動いてみることが重要になる。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への主体的かつ積極的な取り組み（60%）、課題（20%）、レポート（20%）等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内での質問は、その場で回答する。また、リアクションペーパーでの質問は、その後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	運動着（高校等で使用していたものでよい）に着替え、肩にかかる髪はまとめる。 爪の長さに留意すること。 装飾品は取り外して各自管理すること。 携帯電話は、ポケットなどに入れない。 ※安全面からも以上をよく理解すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III						○	

IV							
V		○					

テキスト1	『幼児の運動・身体表現－生涯健康とライフキャリア発達』 若井　香保里(著),推敲舎	9784908107139
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年)、西洋子、本山益子編著『子どもの身体表現』市村出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-子どもの身体表現とは
事前	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

2	表現素材であり、表現媒体である自己の身体を知る
事前	表現とは何か、調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

3	「曲線」を題材とした身体表現(一人、二人、四人、八人)
事前	子どもと身体表現の動画を探して観ておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

4	題材「直線」による身体表現
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

5	形と動き、静止と運動
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

6	幼児のダンス-振付ダンス
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

7	身体表現遊びの基本-動きのリズム
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

8	身体表現遊びの基本－即興
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

9	変身を楽しむ(玩具)
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

10	変身を楽しむ(働く乗り物)
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

11	「身近な自然」を題材にした身体表現(主題)
事前	散歩に出かけ気になる花や木を見つけておくこと.。 教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	ダンスの題材・テーマ・題名についてノートにまとめる。

	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

12	「身近な自然」を題材にした身体表現(多様な表現)
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	題材に関するフオルムノートに記録しておくこと。 授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

13	「身近な自然」を題材にした身体表現(構成)
事前	教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	作品に関する構成をノートに記録しておく。 授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

14	「身近な自然」を題材にした身体表現(発表)
事前	様々な発表会の形について調べておくこと。 教科書の該当ページを読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返り、ノートに記録しておく。(0.5時間)

15	まとめ-実践につなげるための留意点(情報機器の活用)
事前	自分の運動を客観的に見るための情報機器について調べておくこと。(0.5時間)
事後	15回の授業を振り返り、学び取ったことについてノートにまとめる。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:17

科 目 名	子どもと身体表現II/子どもと身体表現 [子][ET]			授業コード	4140100
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	身体表現、コミュニケーション、感性

到達目標	1）幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいと内容について理解し、幼児の身体表現やその発達を理解する。また、身体表現の基礎となる知識・技能を学ぶことを通し幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 （1）幼児の素朴な身体表現を見出し、受け止め、共感することができる。 （2）協働して身体表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 （3）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。			
授業の概要	幼児の感性を育み、豊かな創造性を培うための身体表現活動について、学び、その意義や必要性について理解する。 さらに幼児の特性を踏まえ、幼児の身体表現あそびを体験的に理解する。 まとめとして、絵本を題材にした身体表現のワークショップを行う。また、様々な身体表現遊びの考案と実践を行いポートフォリオによる活動の振り返りと討議を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループ活動を中心に自身の目標をもって進める。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への主体的かつ積極的な取り組み（40%）、課題（30%）、レポート（30%）等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業中の質問は、その都度対応する。リアクションペーパーには、その後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	運動着（高校で使用していたものでよい）に着替え、肩にかかる髪はまとめる。 携帯電話は、ポケットなどに入れない。 装飾品は取り外して各自保管すること。 ※安全面からも以上をよく理解すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III						○	
IV					○		

V							

テキスト1	『幼児の運動・身体表現－生涯健康とライフキャリア発達』 茗井　香保里（著） 推敲舎	9784908107139
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	松本千代栄編著「こどもと教師でひらく表現の世界」大修館書店 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2018年）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）,厚生労働省『保育所保育指針解説』、その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」のあり方
事前	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	領域「表現」についてノートにまとめる。(0.5時間)

2	心の解放と身体表現
事前	「身体表現」とは何か調べておく。(0.5時間)
事後	心と体の関係についてノートにまとめる。(0.5時間)

3	自己の身体を知る
事前	鏡で見た自分の身体のシルエットを記録しておく。(0.5時間)
事後	立ち方、座り方、歩き方等の授業で気づいた自分の動作の傾向をノートにまとめる。(0.5時間)

4	映像や具体的事例に見る幼児の身体表現
事前	幼児の踊る姿を映した写真や動画などを数点用意しておく。(0.5時間)
事後	写真や動画から観察した幼児の踊り方の特徴をノートにまとめる。(0.5時間)

5	幼児の身体表現の実際－エピソード記録の活用　興法（スタンプあそび）
事前	エピソード記録とは何か調べておく。(0.5時間)
事後	授業で実際に遊んだ記録を「エピソード記録」の形でノートにまとめる。(0.5時間)

	歌と合わせた身体表現－童謡のメロディ・リズム・歌詞

6	
事前	自分の知っている童謡を書き出しておく。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた童謡も含めその歌詞をノートに書き出し、創作された年代順に並べる。(0.5時間)

7	匂いを題材とした身体表現－香りを手がかりに
事前	「香りと感情」について調べておく。(0.5時間)
事後	生活場面での「匂い」と感情についてノートにまとめる。(0.5時間)

8	絵本を題材とした身体表現－言葉を手がかりに
事前	「動作」を題材にした絵本を探しておくこと。(0.5時間)
事後	動きのイメージが湧きやすい絵本の特徴についてノートにまとめる。(0.5時間)

9	絵本を題材とした身体表現－音を手がかりに
事前	「音」を題材やテーマにした絵本を探しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた絵本が刺激となり誘発された運動についてノートに記録すること。(0.5時間)

10	絵本を題材とした身体表現－布を手がかりに
事前	「布」とは何か、素材の特徴を含めて調べておく。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた布が刺激となり誘発された運動やアイディアについてノートに記録すること。(0.5時間)

11	ワークショップと鑑賞遊び
事前	ワークショップとは何か調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で体験した鑑賞遊びについてノートにまとめる。(0.5時間)

12	幼児期の創ること　観ること　踊ること
事前	配布資料「踊りの楽しみ三要素」を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	教科書P82～85を読みながら、授業の振り返りをすること。(0.5時間)

13	幼児の身体表現と遊び
	教科書p86～90を読んでおくこと。(0.5時間)

事前	
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

14	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－室内
事前	教科書のp86～90を読んでまとめておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

15	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－野外
事前	教科書のp91～102を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

16	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－身体表現遊びの考案
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

17	領域「健康」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域健康」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

18	領域「健康」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

19	領域「人間関係」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域人間関係」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

20	領域「人間関係」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)

事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

21	領域「環境」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域環境」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

22	「領域環境」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域環境」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

23	領域「言葉」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域言葉」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

24	領域「言葉」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

25	映像や具体的事例に見る幼児の身体表現－海外
事前	第4回の授業の記録ノートを読み返し、海外の子どもの様子を調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

26	様々な身体表現活動と表現の多様性
事前	教科書のp103～118を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

27	ICTを使用した身体表現活動の楽しみ方
	ICTを使用した身体表現活動の楽しみ方の例を数点探しておくこと。(0.5時間)

事前	
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

28	伝承遊びを体験する
事前	伝承遊びについて調べておく。(0.5時間)
事後	体験後の振り返りを「危険な場面」という視点からノートに記録する。(0.5時間)

29	伝統芸能を鑑賞する
事前	伝統芸能について調べておく。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

30	ポートフォリオによるまとめ
事前	授業で撮影された写真を選定しておくこと。(0.5時間)
事後	ポートフォリオによるまとめを通して得られた今後の自己課題をノートにまとめる。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:37

科 目 名	幼稚園教育実習I [子]			授業コード	4140113
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	茗井 香保里				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が担当する。					

科目に関するキーワード	子どもの理解とかかわり、保育者の援助の意図、保育の流れの把握
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適正を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、幼児や周囲の保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解することを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2）指導教員等の実践を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 3）教育実習園の運営方針および特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4）学級担任等の補助的な役割を担うことができる。
授業の概要	幼稚園教諭1種免許取得にかかわる教職課程必修の実習として、学外の幼稚園において1週間の実習を行う。「幼稚園教育実習Ⅱ」に向け、観察・参加実習を中心とした実習を行う。幼稚園における子どもや教員、保護者の営む日々の生活との出会いを通して、幼稚園教育の流れを知り、教員の基本的な役割や職務内容について理解を深める。また、子どもとの実際のかかわりを通して、個々の子どもの思いやその背後にある行為の意味に気づき、そこで求められる援助のあり方について考えていくことが期待される。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	観察実習、参加実習を段階に応じて行う。
評価方法及び評価基準	—	実習園による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価を行う。		
フィードバック	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事前事後指導のなかでを行う。			
履修に際しての注意事項	実習のための要件科目を履修し、単位修得済みであること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III				○			

IV		○					
V							

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、「幼稚園教育実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 子どもとのかかわりや遊びを通して、そこで求められる援助の在り方や環境構成について学ぶ。 2. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、子ども集団全体にも目を向け、子ども同士の「関係」への援助について考える。 3. 障碍を持っている子どもや外国籍の子ども等、さまざまな配慮を必要とする子どもに対する援助の在り方について学び、理解を深める。 4. 発達に応じた保育内容や方法を理解し、子どもの実状に即した指導計画を立案し、実践し、反省・評価を行う。 5. 家庭を含む地域との連携や子育て支援について理解を深め、幼稚園の社会的役割や保育者に求められる役割について考える
事前	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事前指導を行う。
事後	「幼稚園教育実習指導Ⅰ」の授業で実習の事後指導を行う。

2020/07/16(木)22:38

科 目 名	幼稚園教育実習II [子]			授業コード	4140123
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	3
担 当 者	茗井 香保里				
幼稚園教諭、幼稚園教頭の経験を有する教員が担当する。					

科目に関するキーワード	子ども主体の保育、幼児理解、保育者の役割、幼稚園の役割、責任実習指導案
到達目標	幼稚園教育実習は、観察・参加・責任実習という方法で幼稚園教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適正を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的としている。 そのため本科目では、幼児や周囲の保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解することまた、大学で学んだ領域や教職に関する専門的知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を見に付けることを目指す。 そのための到達目標は以下の通りである。 1）幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2）指導教員等の実践を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 3）教育実習園の運営方針および特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4）学級担任等の補助的な役割を担うことができる。 5）幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 6）保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 7）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 8）様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。
授業の概要	幼稚園教諭1種免許取得にかかわる教職課程必修の実習として、学外の幼稚園において3週間の実習を行う。 「幼稚園教育実習Ⅰ」を踏まえ、参加・責任実習を中心としたより専門性の高い実習を行う。幼稚園における子どもや教育者、保護者の営む日々の生活との出会いを通して、子どもへの理解を深めるとともに、教員としての役割や援助の在り方について学ぶことを目的とする。また、責任実習を通して、自らの実践力の向上を目指す。さらに、幼稚園の社会的役割についても視野を広げ、学びを深めることが期待される。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習などを段階的に行う。
評価方法及び評価基準	—	実習園による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価を行う。		
フィードバック	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事前事後指導を行う。			
履修に際しての注意事項	実習のための要件科目を履修し、単位修得済みであること。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV			○				
V							○

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、「幼稚園教育実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 子どもとのかかわりや遊びを通して、そこで求められる援助の在り方や環境構成について学ぶ。 2. 一人ひとりの子どもとかかわりつつ、子ども集団全体にも目を向け、子ども同士の「関係」への援助について考える。 3. 障碍を持っている子どもや外国籍の子ども等、さまざまな配慮を必要とする子どもに対する援助の在り方について学び、理解を深める。 4. 発達に応じた保育内容や方法を理解し、子どもの実状に即した指導計画を立案し、実践し、反省・評価を行う。 5. 家庭を含む地域との連携や子育て支援について理解を深め、幼稚園の社会的役割や保育者に求められる役割について考える
事前	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事前指導を行う。
事後	「幼稚園教育実習指導Ⅱ」の授業で実習の事後指導を行う。

2020/07/16(木)21:33

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園) [子]			授業コード	4140132
副 題					
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				
行政における子育て支援や家庭学習を含む社会教育に関する諸計画の立案に携わった経験のある教員が授業を行う。					

科目に関する キーワード	保育者の職務理解、子ども理解、保育内容、協働と実践的理解、保育キャリア

到達目標	保育に関する理論的学習と実習をはじめとする実践的学びとの統合を図り、保育現場に臨む意識・意欲を高めながら、保育者としての資質をより一層確実に形成することを目的とする。 この目的に対し、以下の目標を設定する。 1. これまでの保育実践を振り返り、自己の課題や保育に関するテーマを明確にできる。 2. 保育実践力の向上のために、その課題やテーマに対して、他者と協働しながらさまざまな角度や視点から取り組むことができるようになる。 3. 保育者の職務内容への理解を深め、保育者としての使命と責任についての自覚をもつことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：本科目は全項目と密接なかかわりを持つ】			
授業の概要	保育者として必要な知識・技能の修得を総合的に目指すために、子ども理解、保育内容、保育教材、保育技術、保育の環境構成、指導計画、保育者の役割と援助、担任業務と学級運営、現代社会において求められる幼稚園・保育所・施設の機能と役割、保育者として必要な対人関係能力、保育者の責任と使命の自覚などを主な学習項目として、受講生同士の主体的な協議・検討を通じて、協働的・実践的に学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・保育現場での実習体験から、保育にかかわる課題を発見し、課題解決にむけて、テーマごとのグループ討論を行う。 ・数人のグループワークを実施した後、学年全体で実習を振り返り、研究発表を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生独自のアイディアを活かした「まとめ課題」を作成する。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート（30%）、提出物（40%）、グループワークの成果物（30%）		
フィードバック	個人、およびグループでのシートやワーク等について、良い点、改善点等、振り返りのアドバイスを授業内でを伝える。			
履修に際しての 注意事項	・グループワークを中心とした演習科目であるので、積極的に参加する姿勢が求められる。特に、グループ研究に関しては、授業時間外でもグループ作業が必要となるので留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III						○	
IV							○
V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科「履修ファイル」、 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 各自の全実習日誌ほか、授業において適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション:本科目の意義と目的、授業計画の説明、保育の主要テーマに関するグループ討議【合同授業】
事前	シラバスを熟読する。また、実習日誌を読み実習体験を振り返っておくこと。(2時間)
事後	実習日誌から、自己課題として深めたい内容を整理しておく。(2時間)

2	事例検討①各自の実習体験事例に関するグループ討議
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
事後	グループ討議の内容をまとめ、記録しておくこと。(2時間)

3	グループ研究①課題の抽出および研究テーマの確認
事前	研究テーマを念頭に置き、3要領を読んでおくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

4	グループ研究②グループ別テーマの検討・テーマに関する基本的知識の復習
事前	テーマについての資料や文献を準備しておくこと。(2時間)
事後	研究作業に必要な各自の分担課題をまとめ,深めておくこと。(2時間)

5	グループ研究③グループ別テーマの検討・テーマに関する事例の検討
事前	[プレゼンテーション」とは、どういうものなのか、調べておくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

6	グループ研究④グループ別テーマの検討・テーマに関する事例に基づく討議
事前	自分たちのグループに適したプレゼン方法の資料を用意しておくこと。(2時間)
事後	グループ活動が円滑に進むようにグループ内での各自の役割を自覚し、役割に関する内容を整理すること。(2時間)

7	グループ研究⑤グループ研究報告会中間報告
事前	中間発表のプレゼンテーション準備をしておくこと。(2時間)
事後	他グループの中間発表を参考に自身のグループの振り返りをすること。(2時間)

8	グループ研究⑥グループ研究報告会におけるプレゼン方法・資料の再検討
事前	中間発表のプレゼンテーション練習をしておくこと。(2時間)
事後	各グループにおけるテーマに向けてメンバー同士が協働できるよう発表内容を整理すること。(2時間)

9	グループ研究報告会:グループ研究の成果を発表・報告【合同授業】
事前	発表原稿,及びパワーポイント等の修正をしておくこと。(2時間)
事後	参加者からの質問、感想、講評などをまとめて記録しておくこと。(2時間)

10	グループ研究報告会の振り返り①研究結果から導き出される課題の抽出
事前	履修ファイルを読んでおくこと。(2時間)
事後	履修ファイル該当ページに記入しておくこと。(2時間)

11	グループ研究報告会の振り返り②研究結果から導き出される課題に関する検討
事前	「キャリア」とは何かについて調べておくこと。(2時間)

事後	研究結果から導き出された課題を保育者の視点からまとめること。(2時間)

12	事例検討②各自の実習体験事例の再検討
事前	「保育職のキャリア」について調べておくこと。(2時間)
事後	実習体験やグループ研究報告を通して感じた「保育職の魅力」職についてまとめておくこと。(2時間)

13	ロールプレイングとグループ討議
事前	「保育者のキャリアステップ」について調べておくこと。(2時間)
事後	授業を振り返り、「自身の目指す保育者の姿」についてまとめておく。(2時間)

14	授業のまとめ①保育者の多様な職務内容について【合同授業】
事前	「保育者の職務内容」について確認しておくこと。(2時間)
事後	「保育者の多様な職務内容」についてまとめ記録しておくこと。(2時間)

15	授業のまとめ②保育者としての責任と使命について
事前	「保育者の責任と使命」について確認し、その視点から自己評価しておくこと。(2時間)
事後	今後の自己課題と展望を確認し,記録すること。(2時間)

2020/07/16(木)20:38

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4140140
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	運動遊び 身体表現 健康教育 安全教育
到達目標	子どもの運動遊びについて、「実践と理論」「保育の現場」「ゼミの仲間」の3つの「場」による 循環的学びから、自己の課題を発見することを目指す。 1. 子どもの運動遊びに関する基礎知識や専門知識を基に自らの研究テーマを見つけることができる。 2. 子どもの運動遊びのプログラムを立案できる。 3. 子どもの運動遊びのプログラムを実践した結果を記述し文章化できる。 【「履修ファイル」の対応項目:C-1(1)(2)、D-4(1)(2)(3)】
授業の概要	子どもの運動遊びについて、「巧技台を使った運動遊び」、「身体表現遊び(保育者自身の感性と表現を養うダンス的内容を含む)」を中心に実践と理論の両面から学ぶ。多様な運動遊びの実践や保育現場での活動を通して体験的理解を積み重ね、文献や映像資料により専門的知識を習得する。 また、グループ活動を通して様々な見方や考え方に触れ、自己の思考を深めていく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・グループワークにより、課題解決型学習を行う。 ・保育の現場でのフィールドワークも行う。 ・体験的理解を確認するためのグループ発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	実践課題への意欲・取り組み(30%)、課題の内容(30%)、発表・レポート(40%)を総合的に評価する。		
フィードバック	課題に対するフィードバックについては、事後の授業においてコメントを付けて返却する。			
履修に際しての 注意事項	1. 安全面から服装に配慮が必要。運動遊びの実践する場合は、体操着、運動靴を着用のこと。 2. 研究室以外の教室を使用することがある。 3. 大学構内から出て活動することがある。その際、交通費等は自己負担である。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III						○	

IV							
V						○	

テキスト1	茗井　香保里、「いのちかがやく健康育て」、2015. 推敲舎、	9784908107122
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	茗井　香保里、「幼児の運動・身体表現」、2017. 推敲舎、9784908107115	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1　前期オリエンテーション 2~7　運動遊びの実践 8~11　保育現場での運動遊びを知る 12~13　文献精読 14　保育現場（保育園）での活動 15　前期まとめ 16　後期オリエンテーション 17~18　文献精読 19~24　実践プログラムの立案等 25　保育現場（幼稚園）での実践 26~29 ゼミ内発表（各自、自己課題の発表と提出） 30　総まとめ
事前	事前：各回の課題について、必ず予習や準備をしてくること。(0.5時間)
事後	事後：理論的・実践的学びについて、各回の記録を各自記録ノートに書きまとめる。(0.5時間)

2020/07/16(木)22:35

科 目 名	子どもと身体表現II/子どもと身体表現 [子]			授業コード	4140163
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	茗井 香保里				

科目に関する キーワード	身体表現、コミュニケーション、感性
到達目標	1）幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいと内容について理解し、幼児の身体表現やその発達を理解する。また、身体表現の基礎となる知識・技能を学ぶことを通し幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 （1）幼児の素朴な身体表現を見出し、受け止め、共感することができる。 （2）協働して身体表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 （3）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 【(履修ファイル」の対応項目：D-2(2)(3),D-3(4)】
授業の概要	幼児の感性を育み、豊かな創造性を培うための身体表現活動について、学び、その意義や必要性について理解する。 さらに幼児の特性を踏まえ、幼児の身体表現あそびを体験的に理解する。 まとめとして、絵本を題材にした身体表現のワークショップを行う。また、様々な身体表現遊びの考案と実践を行いポートフォリオによる活動の振り返りと討議を行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループ活動を中心に自身の目標をもって進める。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への主体的かつ積極的な取り組み（40%）、課題（30%）、レポート（30%）等を総合的に評価する。		
フィードバック	授業中の質問は、その都度対応する。リアクションペーパーには、その後の授業で解説する。			
履修に際しての 注意事項	運動着（高校で使用していたものでよい）に着替え、肩にかかる髪はまとめる。 携帯電話は、ポケットなどに入れない。 装飾品は取り外して各自保管すること。 ※安全面からも以上をよく理解すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III						○	
IV					○		

V							

テキスト1	『幼児の運動・身体表現－生涯健康とライフキャリア発達』 茗井　香保里（著） 推敲舎	9784908107139
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	松本千代栄編著「こどもと教師でひらく表現の世界」大修館書店 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2018年）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）,厚生労働省『保育所保育指針解説』、その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」のあり方
事前	シラバスを熟読しておくこと。(0.5時間)
事後	領域「表現」についてノートにまとめる。(0.5時間)

2	心の解放と身体表現
事前	「身体表現」とは何か調べておく。(0.5時間)
事後	心と体の関係についてノートにまとめる。(0.5時間)

3	自己の身体を知る
事前	鏡で見た自分の身体のシルエットを記録しておく。(0.5時間)
事後	立ち方、座り方、歩き方等の授業で気づいた自分の動作の傾向をノートにまとめる。(0.5時間)

4	映像や具体的事例に見る幼児の身体表現
事前	幼児の踊る姿を映した写真や動画などを数点用意しておく。(0.5時間)
事後	写真や動画から観察した幼児の踊り方の特徴をノートにまとめる。(0.5時間)

5	幼児の身体表現の実際－エピソード記録の活用　興法（スタンプあそび）
事前	エピソード記録とは何か調べておく。(0.5時間)
事後	授業で実際に遊んだ記録を「エピソード記録」の形でノートにまとめる。(0.5時間)

	歌と合わせた身体表現－童謡のメロディ・リズム・歌詞

6	
事前	自分の知っている童謡を書き出しておく。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた童謡も含めその歌詞をノートに書き出し、創作された年代順に並べる。(0.5時間)

7	匂いを題材とした身体表現－香りを手がかりに
事前	「香りと感情」について調べておく。(0.5時間)
事後	生活場面での「匂い」と感情についてノートにまとめる。(0.5時間)

8	絵本を題材とした身体表現－言葉を手がかりに
事前	「動作」を題材にした絵本を探しておくこと。(0.5時間)
事後	動きのイメージが湧きやすい絵本の特徴についてノートにまとめる。(0.5時間)

9	絵本を題材とした身体表現－音を手がかりに
事前	「音」を題材やテーマにした絵本を探しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた絵本が刺激となり誘発された運動についてノートに記録すること。(0.5時間)

10	絵本を題材とした身体表現－布を手がかりに
事前	「布」とは何か、素材の特徴を含めて調べておく。(0.5時間)
事後	授業で取り上げられた布が刺激となり誘発された運動やアイディアについてノートに記録すること。(0.5時間)

11	ワークショップと鑑賞遊び
事前	ワークショップとは何か調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業で体験した鑑賞遊びについてノートにまとめる。(0.5時間)

12	幼児期の創ること　観ること　踊ること
事前	配布資料「踊りの楽しみ三要素」を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	教科書P82～85を読みながら、授業の振り返りをすること。(0.5時間)

13	幼児の身体表現と遊び
	教科書p86～90を読んでおくこと。(0.5時間)

事前	
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

14	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－室内
事前	教科書のp86～90を読んでまとめておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

15	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－野外
事前	教科書のp91～102を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

16	生活の中で湧き出るイメージと身体表現－身体表現遊びの考案
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

17	領域「健康」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域健康」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

18	領域「健康」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

19	領域「人間関係」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域人間関係」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

20	領域「人間関係」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)

事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

21	領域「環境」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域環境」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

22	「領域環境」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域環境」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

23	領域「言葉」と身体表現
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	三要領の「領域言葉」を読み、授業の振り返りをノートにまとめる。(0.5時間)

24	領域「言葉」の視点からの身体表現遊びの考案と実践
事前	配布資料を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

25	映像や具体的事例に見る幼児の身体表現－海外
事前	第4回の授業の記録ノートを読み返し、海外の子どもの様子を調べておくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

26	様々な身体表現活動と表現の多様性
事前	教科書のp103～118を読んでおくこと。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

27	ICTを使用した身体表現活動の楽しみ方
	ICTを使用した身体表現活動の楽しみ方の例を数点探しておくこと。(0.5時間)

事前	
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

28	伝承遊びを体験する
事前	伝承遊びについて調べておく。(0.5時間)
事後	体験後の振り返りを「危険な場面」という視点からノートに記録する。(0.5時間)

29	伝統芸能を鑑賞する
事前	伝統芸能について調べておく。(0.5時間)
事後	授業を振り返りノートにまとめる。(0.5時間)

30	ポートフォリオによるまとめ
事前	授業で撮影された写真を選定しておくこと。(0.5時間)
事後	ポートフォリオによるまとめを通して得られた今後の自己課題をノートにまとめる。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:23

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4150010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし

到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:18

科 目 名	児童家庭福祉論/子ども家庭福祉論 [子]			授業コード	4150022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				
社会福祉士として福祉施設での勤務経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	子ども家庭福祉、子どもの最善の利益、権利擁護
到達目標	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ②子ども家庭福祉と保育との関連や子どもの権利について理解する。 ③子ども家庭福祉に関する制度や実施体系について理解する。
授業の概要	現代日本の子どもを取り巻く社会的状況の変化に伴う、子どもの虐待等の様々な問題について、子どもの権利と関連させながら、子ども・家庭福祉の現代的問題について考察する。さらに、子ども家庭福祉に関する制度の現状や課題等について具体的に学び、「子どもの最善の利益」を第一に尊重するための取り組みについて学んでいく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート20%、最終レポート60%で総合評価します。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	千葉茂明 編『新エッセンシャル　子ども家庭福祉論』みらい	9784860154769
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・現代社会における子どもと家庭
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の基本的な意味について理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、社会福祉及び子ども家庭福祉の視点を整理すること。(2時間)

2	子ども家庭福祉の理念と権利保障
事前	子ども家庭福祉の理念及び権利保障について、テキストの基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、子どもの権利条約について整理しておくこと。(2時間)

3	子ども家庭福祉の歴史的変遷
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の歴史について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、イギリス、アメリカ、日本における子ども家庭福祉の実践について、人物名と施設名を関連させながら理解を深めること。(2時間)

4	子ども家庭福祉に関する法律
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の法律(特に児童福祉法)の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	子どもの貧困について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

5	子ども家庭福祉の実施体制と財源
事前	テキストの該当箇所を読み、国及び地方公共団体の役割について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	子どもの自立について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

6	子ども・子育て支援と児童健全育成
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども・子育て支援の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	少子化の原因及び国の少子化対策の内容について、自分なりに整理して理解を深めること。(2時間)

7	母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス
事前	テキストの該当箇所を読み、母子保健の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	母子保健について、授業内で視聴した映像及びテキスト、レジュメを活用し、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

8	保育に関するサービス
事前	テキストの該当箇所を読み、待機児童問題について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、神奈川県内の待機児童問題への対策や取り組みについて整理しておくこと。(2時間)

9	養育環境に問題がある子どもと家庭の福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども虐待やドメスティックバイオレンスについて自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、子どもの権利を守るという視点から虐待やドメスティックバイオレンスの問題について整理しておくこと。(2時間)

10	障害のある子どもの福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、障害とは何かについて自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	福祉型障害児入所施設における援助について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

11	ひとり親家庭の福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、ひとり親家庭の現状と課題について整理しておくこと。(2時間)
事後	ひとり親家庭への福祉サービスの内容及び母子生活支援施設の役割について理解を深めること。(2時間)

12	心理的困難・非行問題のある子どもの福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、情緒障害及び非行問題の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)

事後	テキスト及びレジュメを活用し、心理的困難や非行問題を抱える子どもを対象とした福祉サービスについて整理しておくこと。（2時間）

13	子ども家庭福祉サービスの担い手
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉に関わる専門職について基本的な内容を理解しておくこと。（2時間）
事後	他の専門職との連携の意義について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。（2時間）

14	子ども家庭への相談援助活動
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て家庭への相談援助の基本的内容を理解しておくこと。（2時間）
事後	テキスト及びレジュメを活用し、相談援助における基本的な理論について自分なりに整理しておくこと。（2時間）

15	まとめ
事前	これまで学んだ内容について整理し、子ども家庭福祉における現代的課題について整理しておくこと。（2時間）
事後	返却された最終レポートをよく読み、子どもの権利を守る取り組みについて整理しておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)22:08

科 目 名	児童家庭福祉論/子ども家庭福祉論 [子]			授業コード	4150032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				
社会福祉士として福祉施設での勤務経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	子ども家庭福祉、子どもの最善の利益、権利擁護
到達目標	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ②子ども家庭福祉と保育との関連や子どもの権利について理解する。 ③子ども家庭福祉に関する制度や実施体系について理解する。
授業の概要	現代日本の子どもを取り巻く社会的状況の変化に伴う、子どもの虐待等の様々な問題について、子どもの権利と関連させながら、子ども・家庭福祉の現代的問題について考察する。さらに、子ども家庭福祉に関する制度の現状や課題等について具体的に学び、「子どもの最善の利益」を第一に尊重するための取り組みについて学んでいく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート20%、最終レポート60%で総合評価します。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	千葉茂明 編『新エッセンシャル　子ども家庭福祉論』みらい	9784860154769
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・現代社会における子どもと家庭
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の基本的な意味について理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、社会福祉及び子ども家庭福祉の視点を整理すること。(2時間)

2	子ども家庭福祉の理念と権利保障
事前	子ども家庭福祉の理念及び権利保障について、テキストの基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、子どもの権利条約について整理しておくこと。(2時間)

3	子ども家庭福祉の歴史的変遷
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の歴史について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、イギリス、アメリカ、日本における子ども家庭福祉の実践について、人物名と施設名を関連させながら理解を深めること。(2時間)

4	子ども家庭福祉に関する法律
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉の法律(特に児童福祉法)の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	子どもの貧困について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

5	子ども家庭福祉の実施体制と財源
事前	テキストの該当箇所を読み、国及び地方公共団体の役割について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	子どもの自立について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

6	子ども・子育て支援と児童健全育成
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども・子育て支援の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	少子化の原因及び国の少子化対策の内容について、自分なりに整理して理解を深めること。(2時間)

7	母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス
事前	テキストの該当箇所を読み、母子保健の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	母子保健について、授業内で視聴した映像及びテキスト、レジュメを活用し、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

8	保育に関するサービス
事前	テキストの該当箇所を読み、待機児童問題について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、神奈川県内の待機児童問題への対策や取り組みについて整理しておくこと。(2時間)

9	養育環境に問題がある子どもと家庭の福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども虐待やドメスティックバイオレンスについて自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、子どもの権利を守るという視点から虐待やドメスティックバイオレンスの問題について整理しておくこと。(2時間)

10	障害のある子どもの福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、障害とは何かについて自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	福祉型障害児入所施設における援助について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

11	ひとり親家庭の福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、ひとり親家庭の現状と課題について整理しておくこと。(2時間)
事後	ひとり親家庭への福祉サービスの内容及び母子生活支援施設の役割について理解を深めること。(2時間)

12	心理的困難・非行問題のある子どもの福祉
事前	テキストの該当箇所を読み、情緒障害及び非行問題の基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)

事後	テキスト及びレジュメを活用し、心理的困難や非行問題を抱える子どもを対象とした福祉サービスについて整理しておくこと。（2時間）

13	子ども家庭福祉サービスの担い手
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭福祉に関わる専門職について基本的な内容を理解しておくこと。（2時間）
事後	他の専門職との連携の意義について、授業内で視聴した映像をもとにリアクションペーパーに整理しておくこと。（2時間）

14	子ども家庭への相談援助活動
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て家庭への相談援助の基本的内容を理解しておくこと。（2時間）
事後	テキスト及びレジュメを活用し、相談援助における基本的な理論について自分なりに整理しておくこと。（2時間）

15	まとめ
事前	これまで学んだ内容について整理し、子ども家庭福祉における現代的課題について整理しておくこと。（2時間）
事後	返却された最終レポートをよく読み、子どもの権利を守る取り組みについて整理しておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)10:37

科 目 名	子ども家庭支援論 [子]			授業コード	4150042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	子ども家庭支援、バイステックの7原則、地域子育て支援、多職種連携

到達目標	①子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 ②保育士の専門性を活かした家庭支援の基本的内容を理解する。 ③さまざまな社会資源の活用と関係機関との連携のあり方について理解する。			
授業の概要	現在、少子高齢化、核家族化、共働き世代の増加など、社会的状況の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は大きく変化してきている。本授業では、子育て家庭を取り巻く環境や課題について理解し、地域における子ども家庭支援について学ぶ。また、多様な支援を展開するために、子育て支援サービス等の社会資源の活用や関係機関との連携について理解を深めていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V				○	○		

テキスト1	松原康雄・村田典子・南野奈津子 編『子ども家庭支援論』中央法規	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭支援の位置づけについて基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、少子化社会対策と子育て支援の必要性について自分なりに整理しておくこと。(2時間)

2	子ども家庭支援の目的と機能
事前	テキストの該当箇所を読み、保育所保育指針で示されている子ども家庭支援の内容について整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した子ども家庭支援の原則のうち、全国保育士会倫理綱領の内容について整理しておくこと。(2時間)

3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
事前	子育て支援・次世代育成支援の背景及び経緯について整理しておくこと。(2時間)
事後	子ども・子育て支援新制度の内容及び市町村における新制度の実施体制について理解を深めておくこと。(2時間)

4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
事前	子ども家庭支援のために活用できる社会資源の内容について調べて整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した地域における子育て家庭を支える社会資源について、具体的に理解しておくこと。(2時間)

5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
事前	テキストの該当箇所を読み、保育の専門性と基本的な態度について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	保育所の特性を生かした地域子育て支援の内容について理解を深めておくこと。(2時間)

6	子どもの育ちの喜びの共有
事前	子どもの育ちを共有するための具体的なツールについて調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	子どもの成長を喜び共有することの重要性について、保育所保育指針等の内容から理解を深めておくこと。(2時間)

7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭を取り巻く環境について整理しておくこと。(2時間)
事後	保護者及び地域住民・地域の関係機関を含めた支援のあり方について理解を深めておくこと。(2時間)

8	保育士に求められる基本的態度
事前	テキストの該当箇所を読み、バイステックの7原則の基本的な内容について整理しておくこと。(2時間)
事後	保護者との信頼関係を築くことの重要性について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

9	家庭の状況に応じた支援
事前	養育上の課題を抱えた家族について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	ひとり親家庭やステップファミリー、里親家庭について理解を深めておくこと。(2時間)

10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の社会資源を活用する視点について整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、地域の社会資源の活用の実際について理解を深めておくこと。(2時間)

11	子ども家庭支援の内容と対象
事前	子ども家庭支援の内容について、要保護児童を中心に整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの基本的な内容を整理しておくこと。(2時間)

12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
事前	保育所の役割及び子ども及び子育て家庭に対する支援内容について、具体的に調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した家族から保育所への苦情対応について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

13	地域の子育て家庭への支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭への支援とは何かについて理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、ファミリー・サポート・センター事業や地域子育て支援拠点事業についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

14	要保護児童およびその家庭に対する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、要保護児童の家族的背景について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの事例について整理しておくこと。(2時間)

15	まとめ・子育て支援に関する課題と展望
事前	これまでの授業内容を振り返り、子育て支援における今後の課題について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	返却された最終レポートをもとに、子ども・子育て支援施策の課題について調べ、整理しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)11:14

科 目 名	子ども家庭支援論 [子]			授業コード	4150052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	子ども家庭支援、バイステックの7原則、地域子育て支援、多職種連携

到達目標	①子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 ②保育士の専門性を活かした家庭支援の基本的内容を理解する。 ③さまざまな社会資源の活用と関係機関との連携のあり方について理解する。			
授業の概要	現在、少子高齢化、核家族化、共働き世代の増加など、社会的状況の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は大きく変化してきている。本授業では、子育て家庭を取り巻く環境や課題について理解し、地域における子ども家庭支援について学ぶ。また、多様な支援を展開するために、子育て支援サービス等の社会資源の活用や関係機関との連携について理解を深めていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V				○	○		

テキスト1	松原康雄・村田典子・南野奈津子 編『子ども家庭支援論』中央法規	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
事前	テキストの該当箇所を読み、子ども家庭支援の位置づけについて基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、少子化社会対策と子育て支援の必要性について自分なりに整理しておくこと。(2時間)

2	子ども家庭支援の目的と機能
事前	テキストの該当箇所を読み、保育所保育指針で示されている子ども家庭支援の内容について整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した子ども家庭支援の原則のうち、全国保育士会倫理綱領の内容について整理しておくこと。(2時間)

3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
事前	子育て支援・次世代育成支援の背景及び経緯について整理しておくこと。(2時間)
事後	子ども・子育て支援新制度の内容及び市町村における新制度の実施体制について理解を深めておくこと。(2時間)

4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
事前	子ども家庭支援のために活用できる社会資源の内容について調べて整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した地域における子育て家庭を支える社会資源について、具体的に理解しておくこと。(2時間)

5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
事前	テキストの該当箇所を読み、保育の専門性と基本的な態度について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	保育所の特性を生かした地域子育て支援の内容について理解を深めておくこと。(2時間)

6	子どもの育ちの喜びの共有
事前	子どもの育ちを共有するための具体的なツールについて調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	子どもの成長を喜び共有することの重要性について、保育所保育指針等の内容から理解を深めておくこと。(2時間)

7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭を取り巻く環境について整理しておくこと。(2時間)
事後	保護者及び地域住民・地域の関係機関を含めた支援のあり方について理解を深めておくこと。(2時間)

8	保育士に求められる基本的態度
事前	テキストの該当箇所を読み、バイステックの7原則の基本的な内容について整理しておくこと。(2時間)
事後	保護者との信頼関係を築くことの重要性について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

9	家庭の状況に応じた支援
事前	養育上の課題を抱えた家族について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	ひとり親家庭やステップファミリー、里親家庭について理解を深めておくこと。(2時間)

10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の社会資源を活用する視点について整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、地域の社会資源の活用の実際について理解を深めておくこと。(2時間)

11	子ども家庭支援の内容と対象
事前	子ども家庭支援の内容について、要保護児童を中心に整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの基本的な内容を整理しておくこと。(2時間)

12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
事前	保育所の役割及び子ども及び子育て家庭に対する支援内容について、具体的に調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した家族から保育所への苦情対応について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

13	地域の子育て家庭への支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭への支援とは何かについて理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、ファミリー・サポート・センター事業や地域子育て支援拠点事業についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

14	要保護児童およびその家庭に対する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、要保護児童の家族的背景について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの事例について整理しておくこと。(2時間)

15	まとめ・子育て支援に関する課題と展望
事前	これまでの授業内容を振り返り、子育て支援における今後の課題について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	返却された最終レポートをもとに、子ども・子育て支援施策の課題について調べ、整理しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)21:18

科 目 名	相談援助 [子]			授業コード	4150061
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	相談援助、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク

到達目標	保育士に求められるソーシャルワークの基本的な知識・価値・倫理について理解する。その上で、個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）の具体的な援助技術の方法及び技術について理解を深める。 （履修ファイル対応項目：B-2(1)～(6)）			
授業の概要	子どもの虐待や貧困の問題、育児不安など、様々な課題を解決していくために、保育士は相談援助の技術を習得する必要がある。本授業では、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基本的内容について理解した上で、ロールプレイや事例検討を行い、相談援助の方法や技術、具体的な展開について習得していく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	1対1もしくはグループごとにロールプレイや事例検討を行う
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加30%、授業内レポート20%、最終レポート50%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートについては、返却した上で適宜フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	グループディスカッションやロールプレイ、事例分析をグループで行うので、積極的に取り組むこと。私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III					○		
IV							

V			○				

テキスト1	小林育子・小舘静枝・日高洋子『保育者のための相談援助』萌文書林	9784893472304
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・相談援助の概要
事前	テキストの該当箇所を読み、相談援助とは何かについて自分なりの考えが述べられるようにしてくること（30分）
事後	テキスト及び配布したレジュメを活用し、相談援助の概要について十分に理解を深めること。（30分）

2	相談援助の意義と機能
事前	相談援助の原理・原則や理論について、テキストを読み込んで理解しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した相談援助の理論について整理した上で、事例についてはストレングスを見つけられるようにしておくこと。（30分）

3	社会福祉とソーシャルワーク
事前	テキストの該当箇所を読み、海外及び日本のソーシャルワークの歴史について理解しておくこと。（30分）
事後	配布したレジュメを活用し、ソーシャルワークの基本的内容について理解を深めること。（30分）

4	保育とソーシャルワーク
事前	保育とソーシャルワークのかかわり及び施設保育士の役割について理解を深めておくこと。（30分）
事後	施設保育士によるソーシャルワーク機能について、授業内レポートの提出を求めるので準備しておくこと。（30分）

5	相談援助の対象と方法
事前	テキストの該当箇所を読み、相談援助の対象と方法について基本的な内容をおさえておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した傾聴について、ロールプレイを交えながら理解を深めておくこと。（30分）

6	相談援助の過程と技術
事前	インテーク面接から終結、アフターケアへ至るケースワークの過程について、テキストを熟読の上で理解しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した傾聴の技術について、ロールプレイの内容を含めて十分に理解しておくこと。（30分）

7	相談援助の技術とアプローチ① 「ケースワークの原則」 講義・ロールプレイ
事前	ケースワークの原則について、テキストの該当箇所をよく読み、基本的な内容について理解しておくこと。（30分）
事後	バイステックの7原則のうち、「個別化」「受容」「非審判的態度」について十分に理解を深めること。（30分）

8	相談援助の技術とアプローチ② 「感情理解」 講義・ロールプレイ
事前	バイステックの7原則について、テキストの該当箇所を読み理解を深めておくこと。（30分）
事後	バイステックの7原則のうち、「統制された情緒的関与」「意図的な感情表出」「自己決定」「秘密保持」について十分に理解を深めること。（30分）

9	相談援助の具体的展開―計画・記録・評価―
事前	テキストの該当箇所を読み、ケースワークの具体的展開について十分に理解を深めること。（30分）
事後	相談援助における計画・記録・評価の意義について、各自で十分に理解を深めること。（30分）

10	事例分析①：虐待の予防と対応
事前	子ども虐待の基本的な対応について確認しておくと同時に、テキストの事例についてよく読み理解しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した事例について、グループワークの内容も踏まえながら各自で十分に理解を深めること。（30分）

11	事例分析②：障がいのある子どもへの援助
事前	障がいのある子どもの保育についての基本的な内容を理解すると同時に、テキストの事例についてよく読み理解を深めること。（30分）
事後	授業内で紹介した事例について、グループワークの内容も踏まえながら各自で十分に理解を深めること。（30分）

12	関係機関との協働
事前	テキストの該当箇所を読み、関係機関との協働のあり方についてのポイントを理解しておくこと。（30分）

事後	保育者として取り組むべき関係機関との協働のあり方について、具体的に理解を深めること。(30分)

13	多様な専門職との連携
事前	子どもや家族に関わる専門職について、基本的な内容を理解しておくこと。(30分)
事後	地域やさまざまな人達との連携について、具体的に理解を深めること。(30分)

14	社会資源の活用・調整・開発
事前	子どもや家族を支援するための社会資源について、基本的な内容を理解しておくこと。(30分)
事後	保育者として取り組むべき社会資源の活用や調整について理解すると同時に、ニーズに応じて社会資源を開発する視点の重要性について各自で十分に理解を深めること。(30分)

15	まとめ
事前	これまでの学びを総括し、基本的な内容を理解しておくこと。(30分)
事後	返却されたレポートをよく読み、相談援助について総括的に理解を深めておくこと。(30分)

2020/07/16(木)22:17

科 目 名	保育マインド実践講座 [子]			授業コード	4150070
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				
社会福祉士として福祉施設での勤務経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関するキーワード	保育マインド、初年次教育、保育実践、保育教材、遊びと発達

到達目標	1. 子どもの遊びや発達について入門的に学び、子どもとかかわる上で必要とされる心構えや姿勢を理解するようになる。 2. 保育現場との関わりを通じて、子どもとかかわるための保育技術の基礎を身につけることができる。 3. 現職保育者による公演・講演授業、学外での保育行事、見学会や説明会、学外研修への参加などを通して、子どもや子育てに対する理解や、保育専門職に対する意欲・期待を高めることができる。 4. 通年の授業全体を通して、自らの気づきや発見を記録に残しながら、各人の「保育マインド」の基礎を固めることができる。			
授業の概要	保育の初学者を対象に、保育者を志す者として、保育や子育てに関する社会の出来事や問題について考え、子どもや保護者とかかわるために身につけるべき保育のこころ、すなわち「保育マインド」を実践的に学ぶ。そのために、幼稚園や保育所等、子育て支援に関する基礎的知識や子どもとかかわるための基本的な保育技術について学ぶ。また、学外での保育行事に参加したり、保育現場との関わりを持ちながら具体的な体験を通して学ぶ。 本授業は、特色ある内容を多様に含んでおり、授業内容によって、講義・演習・実技・公演・講演・学内外での実演発表と行事参加、研修、保育所等設見学など、様々な授業方法が用意されている。特に、授業時間割外で行われる内容については、時間数を勘案した上、全30回の授業時間数に算入されるため、実際の授業日・時間がどうなるかは、初回授業にて配付予定の年間授業計画（詳細版）を参照すること。 （なお、学外保育行事は、授業クラス別に6月あるいは12月いずれか1回ずつの参加となる） 実演発表は、「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」「保育所見学」「川崎フロンターレ『託児室』」の3つを予定している。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、リアクションペーパーを使用する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み（20%）、提出物（60%）、レポート（20%）		
フィードバック	提出物、レポートについては、授業内で取り上げ適宜フィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	1. 特色ある授業内容のために、授業日が変則的に設定されている回がある。初回授業時に配付する資料を毎回確認し、出席日や事前準備・提出物や持ち物等、確認すること。 2. 特に、保育現場等への参加については、正規の授業時間以外での出席が必要となる。また、交通費等が発生する場合があるので留意すること。 ◎本授業の内容は、2年次以降の実習教育と密接なつながりがあることに留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III						○	

IV					○		
V							

テキスト1	特になし。随時資料を配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション（授業計画の説明）
事前	保育を志す者として身につけるべき保育のこころについて整理しておくこと。（30分）
事後	授業計画及び授業内容について各自で確認しておくこと。（30分）

2	川崎フロンターレ『託児室』事前指導
事前	川崎フロンターレ及び託児室について、パンフレット等から基本的な情報を確認しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点について、各自で確認をしておくこと。（30分）

3	地域の子育て支援を学ぶ～けろけろ田園チャイルド：麻生区保育総合支援担当者による講演【合同授業】
事前	あそぼう！けろけろ田園チャイルドについて、パンフレット等から基本的な情報を確認しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介したあそぼう！けろけろ田園チャイルド実施にあたっての注意点について、各自で確認をしておくこと。（30分）

4	地域の子育て支援について学ぶ～けろけろ田園チャイルド：グループによる事前学習
事前	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの内容について、各自で案を考えておくこと。（30分）
事後	各グループごとに実演内容を決定し、準備をしておくこと。（30分）

5	学外研修事前学習～研修の概要とスケジュールについて
事前	川崎市の魅力について、自分なりに調べて整理しておくこと。（30分）
事後	授業内で紹介した研修概要とスケジュールを確認し、各自で学びたい内容を整理しておくこと。（30分）

6	学外研修事前学習～グループ活動の検討
事前	研修概要やスケジュールを参考に、各グループの活動内容について検討してくること。（30分）
事後	授業内で話し合った内容をもとに、グループ活動の計画を立てること。（30分）

7	川崎フロンターレ『託児室』の実施～会場準備、環境構成
事前	川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点を再度確認し、事前準備がスムーズに行えるように準備を行うこと。（30分）
事後	川崎フロンターレ『託児室』での実演をもとに、事前準備と環境構成の重要性について振り返りを行うこと。（30分）

8	川崎フロンターレ『託児室』の実施～保育実践
事前	川崎フロンターレ『託児室』実施にあたっての注意点を再度確認し、託児中の注意事項について理解を深めること。（30分）
事後	川崎フロンターレ『託児室』での実演をもとに、保育実践について振り返りを行うこと。（30分）

9	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの実施
事前	各グループの準備内容に基づいて、当日実演ができるように準備しておくこと。（30分）
事後	あそぼう！けろけろ田園チャイルドでの実演内容について、振り返りを行うこと。（30分）

10	あそぼう！けろけろ田園チャイルドの振り返り～グループ討議
事前	実演の振り返りをもとに、各グループでディスカッションできるように準備しておくこと。（30分）
事後	グループでのディスカッション内容をもとに、実演における自身の課題について整理しておくこと。（30分）

11	学外研修の実施～全体活動
事前	学外研修がスムーズに行えるよう、研修概要やスケジュールを十分理解しておくこと。（30分）
事後	全体活動の内容について振り返り、内容を整理しておくこと。（30分）

12	学外研修の実施～グループ活動
事前	グループ活動の内容について、各自で理解を深めておくこと。（30分）

事後	グループ活動の内容について振り返り、学修内容について整理しておくこと。(30分)

13	手作り名札制作に向けて
事前	名札の作成にあたって大切なことは何か、自分なりに整理しておくこと。(30分)
事後	手づくり名札を作成について、授業内で紹介した内容について整理しておくこと。(30分)

14	保育所見学事前指導
事前	川崎市内の保育所について、各自で調べておくこと。(30分)
事後	授業内で紹介した保育所見学の概要やスケジュールについて整理しておくこと。(30分)

15	前期のまとめ
事前	前期の学びについて、各自でまとめておくこと。(30分)
事後	前期の振り返りの内容をもとに、今後の自己課題を明確にしておくこと。(30分)

16	保育所の保育について学ぶ～所長講話
事前	見学園の概要について、各自で調べ特色を把握しておくこと。(30分)
事後	所長講話の内容について振り返り、学んだことを整理しておくこと。(30分)

17	保育所の保育について学ぶ～保育参観
事前	保育参観を行う上での注意点について、各自で考えておくこと。(30分)
事後	保育参観を通じて学んだことについて、整理しておくこと。(30分)

18	保育所の保育について学ぶ～保育実践
事前	実際に子どもと関わる際の注意点について、各自で検討し整理しておくこと。(30分)
事後	保育実践を振り返り、学んだことについて各自で整理しておくこと。(30分)

19	保育所の保育について学ぶ～見学の振り返り
事前	保育所の保育に意義や内容について、事前に整理しておくこと。(30分)
事後	保育所等の見学や実践を全体的に振り返り、学んだ内容と今後の課題について整理しておくこと。(30分)

20	学外研修の振り返り
事前	学外研修の内容について、全体的な振り返りをしておくこと。(30分)
事後	学外研修の振り返りについて、授業内で確認した内容をもとに再度振り返りを行うこと。(30分)

21	学外研修の学びの検討～グループ討議
事前	グループ発表に向けた準備を行うこと。(30分)
事後	グループ発表準備を振り返り、自身の学びや課題を整理しておくこと。(30分)

22	学外研修の学びの検討～発表用資料作成
事前	グループ討議の内容をもとに、発表資料の作成準備を行うこと。(30分)
事後	発表用資料作成を振り返り、自身の学びと課題を整理しておくこと。(30分)

23	学外研修報告会～前半グループの発表
事前	学外研修発表が行えるよう、各グループで内容や役割分担について確認しておくこと。(30分)
事後	グループの発表を聞いて、良かった点と改善点について整理しておくこと。(30分)

24	学外研修報告会～後半グループの発表
事前	学外研修発表が行えるよう、各グループで内容や役割分担について確認しておくこと。(30分)
事後	グループの発表を聞いて、良かった点と改善点について整理しておくこと。(30分)

25	学外保育行事「保育士を志す学生の集い」(6月)/「保育のつどい」(12月)事前指導
事前	学外保育行事に参加する意義について、自分なりに考えを整理しておくこと。(30分)
事後	授業内で紹介した概要について確認し、各自で準備を行うこと。(30分)

26	学外保育行事参加～式典の部
事前	式典の内容について、概要等をもとに理解を深めておくこと。(30分)
事後	式典で学んだ内容について整理し、自身の課題を明確にしておくこと。(30分)

27	学外保育行事の参加～公演の部
事前	公演の内容について、概要等をもとに理解を深めておくこと。(30分)

事後	公演で学んだ内容について整理し、自身の課題を明確にしておくこと。(30分)

28	地域の子育て支援について学ぶ～けろけろ田園チャイルド：全体報告会・講評【合同授業】
事前	各グループで実演内容について振り返り、課題を明確にしておくこと。(30分)
事後	全体報告会や講評の内容を踏まえて、振り返りを行うこと。(30分)

29	公立保育園(幼稚園)の保育者による講演【合同授業】
事前	公立保育園(幼稚園)において保育者に求められる役割や資質について自分なりに整理しておくこと。(30分)
事後	講演の内容を振り返り、保育者の役割や資質について理解を深めておくこと。(30分)

30	後期のまとめ
事前	通年の授業全体を振り返り、保育マインド実践講座で学んだ内容について整理しておくこと。(30分)
事後	後期の振り返りの内容をもとに、今後の自己課題を明確にしておくこと。(30分)

2020/07/16(木)10:36

科 目 名	家庭支援論 [子]			授業コード	4150081
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	家庭支援、ワーク・ライフ・バランス、地域子育て支援、多職種連携

到達目標	①現代の家族の状況と課題について理解する。 ②子育て家庭の支援体制・施策について理解する。 ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援と社会資源の活用、関係機関との連携について理解する。 （履修ファイル対応項目：A-2(4)、B-3(6)）			
授業の概要	現在、少子高齢化、核家族化、共働き世代の増加など、社会的状況の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は大きく変化してきている。本授業では、子育て家庭を取り巻く環境や課題について理解し、地域における子育て家庭への支援について学ぶ。また、多様な支援を展開するために、子育て支援サービス等の社会資源の活用や関係機関との連携について、相談援助と関連させながら理解を深めていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V				○	○		

テキスト1	新保幸男・小林理 編『家庭支援論【第2版】』中央法規	9784805856055
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・家庭の意義と機能
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭、親族、世帯等の意味を確認しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、保育士に求められる家庭支援について整理しておくこと。(2時間)

2	家庭支援の必要性
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て家庭における生活課題について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で確認した生活課題を抱える子育て家庭へのアプローチ方法について、リアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

3	保育士等が行う家庭支援の原理
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭支援の原則について全国保育士会倫理綱領の内容から理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、保育士が行う家庭支援の種類や内容について理解を深めること。(2時間)

4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭及び家庭と同様の養育環境について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、養育里親の必要性についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

5	地域社会の変容と家庭支援
事前	少子高齢化の進行と地域の支え合い機能の低下の現状について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した保育所建設反対運動について、保育士として出来る取り組みについて整理しておくこと。(2時間)

6	現代の家庭における人間関係
事前	テキストの該当箇所を読み、現代の家族・家庭の変容について整理しておくこと。(2時間)
事後	家族の個人化の視点から、地域における子ども食堂等の取り組みについて調べ理解を深めること。(2時間)

7	男女共同参画社会とワークライフバランス
事前	テキストの該当箇所を読み、ワーク・ライフ・バランス及び男女共同参画社会について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した子育て家庭における父親の育児の役割について整理し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて理解しておくこと。(2時間)

8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
事前	子ども及び子育て家庭を支援する社会資源の内容について調べ、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した児童館における子育て支援の内容を整理し、その意義についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

9	子育て支援施策、次世代育成支援施策の推進
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て支援・次世代育成支援の経緯について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した地域子ども・子育て支援事業の内容について理解を深めること。(2時間)

10	多様な子育て支援サービスの概要
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て支援サービスの意義について整理しておくこと。(2時間)
事後	要保護児童対策協議会の役割や保育を必要とする家庭のためのサービス内容について理解を深めること。(2時間)

11	保育所入所児童の家庭への支援
事前	保育所の役割及び子ども及び子育て家庭に対する支援内容について、具体的に調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した家族から保育所への苦情対応について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

12	地域の子育て家庭への支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭への支援とは何かについて理解しておくこと。(2時間)

事後	テキスト及びレジュメを活用し、ファミリー・サポート・センター事業や地域子育て支援拠点事業についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

13	要保護児童及びその家庭に対する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、要保護児童の家族的背景について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの基本的な内容を整理しておくこと。(2時間)

14	子育て支援における関係機関との連携
事前	子育て支援における関係機関と連携する意味について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの事例について整理しておくこと。(2時間)

15	家庭支援の課題とまとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、子育て支援における今後の課題について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	返却された最終レポートをもとに、子ども・子育て支援施策の課題について調べ、整理しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)21:09

科 目 名	家庭支援論 [子]			授業コード	4150091
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	家庭支援、ワーク・ライフ・バランス、地域子育て支援、多職種連携

到達目標	①現代の家族の状況と課題について理解する。 ②子育て家庭の支援体制・施策について理解する。 ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援と社会資源の活用、関係機関との連携について理解する。 （履修ファイル対応項目：A-2(4)、B-3(6)）			
授業の概要	現在、少子高齢化、核家族化、共働き世代の増加など、社会的状況の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は大きく変化してきている。本授業では、子育て家庭を取り巻く環境や課題について理解し、地域における子育て家庭への支援について学ぶ。また、多様な支援を展開するために、子育て支援サービス等の社会資源の活用や関係機関との連携について、相談援助と関連させながら理解を深めていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを使用する
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加20%、授業内レポート30%、最終レポート50%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内レポート及び最終レポートは、採点後に返却した上で内容についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	私語や他の学生の迷惑となる行為は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV							

V				○	○		

テキスト1	新保幸男・小林理 編『家庭支援論【第2版】』中央法規	9784805856055
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・家庭の意義と機能
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭、親族、世帯等の意味を確認しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、保育士に求められる家庭支援について整理しておくこと。(2時間)

2	家庭支援の必要性
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て家庭における生活課題について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で確認した生活課題を抱える子育て家庭へのアプローチ方法について、リアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

3	保育士等が行う家庭支援の原理
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭支援の原則について全国保育士会倫理綱領の内容から理解しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、保育士が行う家庭支援の種類や内容について理解を深めること。(2時間)

4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化
事前	テキストの該当箇所を読み、家庭及び家庭と同様の養育環境について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	テキスト及びレジュメを活用し、養育里親の必要性についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

5	地域社会の変容と家庭支援
事前	少子高齢化の進行と地域の支え合い機能の低下の現状について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した保育所建設反対運動について、保育士として出来る取り組みについて整理しておくこと。(2時間)

6	現代の家庭における人間関係
事前	テキストの該当箇所を読み、現代の家族・家庭の変容について整理しておくこと。(2時間)
事後	家族の個人化の視点から、地域における子ども食堂等の取り組みについて調べ理解を深めること。(2時間)

7	男女共同参画社会とワークライフバランス
事前	テキストの該当箇所を読み、ワーク・ライフ・バランス及び男女共同参画社会について基本的な内容を理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した子育て家庭における父親の育児の役割について整理し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて理解しておくこと。(2時間)

8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
事前	子ども及び子育て家庭を支援する社会資源の内容について調べ、自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した児童館における子育て支援の内容を整理し、その意義についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

9	子育て支援施策、次世代育成支援施策の推進
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て支援・次世代育成支援の経緯について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した地域子ども・子育て支援事業の内容について理解を深めること。(2時間)

10	多様な子育て支援サービスの概要
事前	テキストの該当箇所を読み、子育て支援サービスの意義について整理しておくこと。(2時間)
事後	要保護児童対策協議会の役割や保育を必要とする家庭のためのサービス内容について理解を深めること。(2時間)

11	保育所入所児童の家庭への支援
事前	保育所の役割及び子ども及び子育て家庭に対する支援内容について、具体的に調べ整理しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介した家族から保育所への苦情対応について、自分なりに整理しておくこと。(2時間)

12	地域の子育て家庭への支援
事前	テキストの該当箇所を読み、地域の子育て家庭への支援とは何かについて理解しておくこと。(2時間)

事後	テキスト及びレジュメを活用し、ファミリー・サポート・センター事業や地域子育て支援拠点事業についてリアクションペーパーに整理しておくこと。(2時間)

13	要保護児童及びその家庭に対する支援
事前	テキストの該当箇所を読み、要保護児童の家族的背景について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの基本的な内容を整理しておくこと。(2時間)

14	子育て支援における関係機関との連携
事前	子育て支援における関係機関と連携する意味について理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で紹介したファミリーグループ・カンファレンスの事例について整理しておくこと。(2時間)

15	家庭支援の課題とまとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、子育て支援における今後の課題について自分なりに整理しておくこと。(2時間)
事後	返却された最終レポートをもとに、子ども・子育て支援施策の課題について調べ、整理しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)22:35

科 目 名	施設実習I [子]			授業コード	4150103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	施設の機能、教育と福祉、子ども（利用者）理解、保育者の援助と役割
到達目標	＜「施設実習Ⅰ」の実習課題＞※以下の共通課題の他、各自の自己課題を設定して実習に臨む。 ①実習施設での一日の生活の流れや支援の内容を理解し、主体的に子どもや利用者の生活にかかわっていく。 ②実習施設における保育士等の子どもや利用者へのかかわりや支援内容を観察し、また支援に携わることに より、個別の子どもや利用者についての理解を深める。 ③実習施設がもつ機能や社会的役割について理解する。 ④実習施設を利用している子どもや利用者が抱える問題やニーズについて理解する。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)～(3),D-2(1)～(3)(6),D-3(1)～(5)）
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設などでの2週間の参加実習を行う。児童福祉施設などにおける子どもや利用者への生活支援を実際に行うことにより、施設で生活する子どもや利用者について理解を深めるとともに、施設の機能や社会的役割、保育士の職務について学ぶ。本実習を通して、大学における学びを基盤として、総合的な社会的養護や福祉活動の実践力を培い、様々な実践場面での保育士のありようについて理解を深める。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	観察実習、参加実習、部分実習
評価方法 及び評価基準	―	実習施設による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習施設による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・「施設実習指導Ⅰ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として、欠勤及び遅刻・早退は認めない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV		○					

V						○	

テキスト1	『施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 施設の一日の生活の流れを把握し、次の活動を見通しつつ自らも支援に携わっていけるようなる。 2. 子どもや利用者と積極的にコミュニケーションを取ることにより、信頼関係を構築することに努める。 3. 子どもや利用者への様々な生活援助や支援を通して、子どもや利用者の立場に立って物事を考え、共感することについて学ぶ。 4. 実習施設がもつ機能と社会的役割について理解を深める。 5. 子どもや利用者に積極的に関わることにより、児童福祉施設等における保育士の役割や職務内容について理解を深める。 6. 実習施設における様々な職種の職務内容と職種間の連携や役割分担・チームワークについて学ぶ。 7. 施設が行っている地域活動・地域交流について学ぶ。
事前	各自において実習への事前学習・事前準備を確実に行うことが望まれる。 施設から個別に事前課題が課された場合は、施設実習指導Ⅰの担当教員の添削を受けた上で提出を行うこと。
事後	実習後は、事後指導授業に出席し、実習からの学びを振り返り、次なる課題を明確にする。

2020/07/16(木)22:36

科 目 名	施設実習II [子]			授業コード	4150113
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関するキーワード	保育士の職務、個別支援、家族支援、権利擁護
到達目標	＜「施設実習Ⅱ」の実習課題＞※以下の共通課題の他、各自自己課題を設定して実習に臨む。 ①実習施設における支援の内容について理解を深め、子どもや利用者との関係づくりに努める。 ②実習施設における子どもや利用者への支援活動の実際を経験することにより、個別支援のあり方や支援技術などについて理解を深めるとともに、支援の意味についても考察する。 ③実習施設の機能や社会的役割について、地域とのかかわりや家族支援など実際の活動を通して理解を深め、幅広い施設の役割について考察する。 ④実習施設に入所（通所）している子どもや利用者がもつ困難な問題やニーズについて理解を深めるとともに、施設職員による権利擁護および専門職としての職業倫理に基づいた支援の実際について学ぶ。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)～(3),D-2(1)～(3)(6),D-3(1)～(5)）
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程の選択必修の実習として、児童福祉施設などでの2週間の実習を行う。「施設実習Ⅰ」での学びをふまえ、施設における子どもや利用者への様々な生活支援を通して、より専門性の高い実習を行う。また、施設で生活する子どもや利用者への理解を深め、施設の機能や社会的役割、保育士の職務や専門的倫理のありかたについて学ぶ。さらに本実習によって得られる現場体験を大学における学びを基盤として統合化し、現場における実践力の向上を目指す。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習
評価方法及び評価基準	―	実習施設による評価、自己評価、実習日誌により総合的に評価する。		
フィードバック	実習施設による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	・「施設実習Ⅰ」を履修済みであること。 ・「施設実習指導Ⅱ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤及び遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	『施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「施設実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 児童福祉施設などにおける援助や支援の内容について、「施設実習Ⅰ」での理解をさらに深め、子どもや利用者との関係づくりに努める。 2. 子どもや利用者と積極的にかかわり、生活支援に必要な具体的な知識や技術の習得を図るとともに、求められる支援のあり方について考察する。 3. 一人ひとりの子どもや利用者のもつ個性や背景を理解し、家族支援を含めた施設の活動を体験することを通して、児童福祉施設等の機能や社会的役割について理解を深める。 4. 子どもや利用者がもつ個別的ニーズに対する支援の実際から、施設職員の専門性や権利擁護・職業倫理に基づいた支援について学ぶ。
事前	各自において実習に対する事前学習・事前準備を具体的に進めることが望まれる。 施設から個別に事前課題が課された場合は、施設実習指導Ⅰの担当教員の添削を受けた上で提出を行うこと。
事後	実習後は、事後指導授業に出席し、実習からの学びや課題を整理し、保育実践力の向上を目指す。

2020/07/16(木)21:34

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園) [子]			授業コード	4150122
副 題					
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				
社会福祉士として福祉施設での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	保育者の職務理解、子ども理解、保育内容、協働と実践的理解、保育キャリア
到達目標	保育に関する理論的学習と実習をはじめとする実践的学びとの統合を図り、保育現場に臨む意識・意欲を高めながら、保育者としての資質をより一層確実に形成することを目的とする。 この目的に対し、以下の目標を設定する。 1. これまでの保育実践を振り返り、自己の課題や保育に関するテーマを明確にできる。 2. 保育実践力の向上のために、その課題やテーマに対して、他者と協働しながらさまざまな角度や視点から取り組むことができるようになる。 3. 保育者の職務内容への理解を深め、保育者としての使命と責任についての自覚をもつことができる。 【「履修ファイル」の対応項目：本科目は全項目と密接なかかわりを持つ】
授業の概要	保育者として必要な知識・技能の修得を総合的に目指すために、子ども理解、保育内容、保育教材、保育技術、保育の環境構成、指導計画、保育者の役割と援助、担任業務と学級運営、現代社会において求められる幼稚園・保育所・施設の機能と役割、保育者として必要な対人関係能力、保育者の責任と使命の自覚などを主な学習項目として、受講生同士の主体的な協議・検討を通じて、協働的・実践的に学ぶ。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・保育現場での実習体験から、保育にかかわる課題を発見し、課題解決にむけて、テーマごとのグループ討論を行う。 ・数人のグループワークを実施した後、学年全体で実習を振り返り、研究発表を行う。 ・授業の理解を確認するため、各学生独自のアイディアを活かした「まとめ課題」を作成する。
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポート（30%）、提出物（40%）、グループワークの成果物（30%）		
フィードバック	個人、およびグループでのシートやワーク等について、良い点、改善点等、振り返りのアドバイスを授業内でを伝える。			
履修に際しての 注意事項	・グループワークを中心とした演習科目であるので、積極的に参加する姿勢が求められる。特に、グループ研究に関しては、授業時間外でもグループ作業が必要となるので留意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III						○	
IV							○
V						○	

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科「履修ファイル」、 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 各自の全実習日誌ほか、授業において適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション:本科目の意義と目的、授業計画の説明、保育の主要テーマに関するグループ討議【合同授業】
事前	シラバスを熟読する。また、実習日誌を読み実習体験を振り返っておくこと。(2時間)
事後	実習日誌から、自己課題として深めたい内容を整理しておく。(2時間)

2	事例検討①各自の実習体験事例に関するグループ討議
事前	配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
事後	グループ討議の内容をまとめ、記録しておくこと。(2時間)

3	グループ研究①課題の抽出および研究テーマの確認
事前	研究テーマを念頭に置き、3要領を読んでおくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

4	グループ研究②グループ別テーマの検討・テーマに関する基本的知識の復習
事前	テーマについての資料や文献を準備しておくこと。(2時間)
事後	研究作業に必要な各自の分担課題をまとめ,深めておくこと。(2時間)

5	グループ研究③グループ別テーマの検討・テーマに関する事例の検討
事前	[プレゼンテーション」とは、どういうものなのか、調べておくこと。(2時間)
事後	自己の事例とグループのテーマの共通内容を発見しまとめておくこと。(2時間)

6	グループ研究④グループ別テーマの検討・テーマに関する事例に基づく討議
事前	自分たちのグループに適したプレゼン方法の資料を用意しておくこと。(2時間)
事後	グループ活動が円滑に進むようにグループ内での各自の役割を自覚し、役割に関する内容を整理すること。(2時間)

7	グループ研究⑤グループ研究報告会中間報告
事前	中間発表のプレゼンテーション準備をしておくこと。(2時間)
事後	他グループの中間発表を参考に自身のグループの振り返りをすること。(2時間)

8	グループ研究⑥グループ研究報告会におけるプレゼン方法・資料の再検討
事前	中間発表のプレゼンテーション練習をしておくこと。(2時間)
事後	各グループにおけるテーマに向けてメンバー同士が協働できるよう発表内容を整理すること。(2時間)

9	グループ研究報告会:グループ研究の成果を発表・報告【合同授業】
事前	発表原稿,及びパワーポイント等の修正をしておくこと。(2時間)
事後	参加者からの質問、感想、講評などをまとめて記録しておくこと。(2時間)

10	グループ研究報告会の振り返り①研究結果から導き出される課題の抽出
事前	履修ファイルを読んでおくこと。(2時間)
事後	履修ファイル該当ページに記入しておくこと。(2時間)

11	グループ研究報告会の振り返り②研究結果から導き出される課題に関する検討
事前	「キャリア」とは何かについて調べておくこと。(2時間)

事後	研究結果から導き出された課題を保育者の視点からまとめること。(2時間)

12	事例検討②各自の実習体験事例の再検討
事前	「保育職のキャリア」について調べておくこと。(2時間)
事後	実習体験やグループ研究報告を通して感じた「保育職の魅力」職についてまとめておくこと。(2時間)

13	ロールプレイングとグループ討議
事前	「保育者のキャリアステップ」について調べておくこと。(2時間)
事後	授業を振り返り、「自身の目指す保育者の姿」についてまとめておく。(2時間)

14	授業のまとめ①保育者の多様な職務内容について【合同授業】
事前	「保育者の職務内容」について確認しておくこと。(2時間)
事後	「保育者の多様な職務内容」についてまとめ記録しておくこと。(2時間)

15	授業のまとめ②保育者としての責任と使命について
事前	「保育者の責任と使命」について確認し、その視点から自己評価しておくこと。(2時間)
事後	今後の自己課題と展望を確認し,記録すること。(2時間)

2020/07/16(木)20:39

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4150130
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	望月 隆之				

科目に関する キーワード	障がい、結婚・子育て支援、子ども家庭支援、地域生活支援
到達目標	①「障がいとは何か」をゼミの共通テーマとし、各自で興味・関心のあるテーマを設定し探究することができる ②障がいのある子どもや利用者、家族の抱える生活課題や諸制度を理解し、実際の援助場面で活かすことができるようになる ③障がいのある子どもや利用者の地域生活について、当事者の視点から理解を深めることができる ④各自の研究成果について、ゼミ内での発表を行い、活発なグループディスカッションを通じて、他者の問題意識の尊重と相互理解の意義について理解できるようになる
授業の概要	障がいのある子どもや利用者、家族への支援において、保育者に何が求められるのか、文献講読や映像の視聴、グループディスカッション、フィールドワーク等を通じて探究する。その上で、保育士として必要な「障がい観」の形成を目指す。 ①発達障害（特に知的障がい・自閉症スペクトラム）について、他の専門領域を含めた多様な視点から理解を深める ②障がいのある子どもや利用者、家族の抱える生活課題の理解と支援のための諸制度や援助技術について学ぶ ③障がいのある子どもや利用者の地域生活とその支援（結婚・子育て支援を含む）のあり方について、当事者の視点から理解する
授業方法	演習 ／ アクティブラーニング ○ ／ 課外活動、施設でのボランティア	
評価方法 及び評価基準	レポート ／ 授業への参加態度30%、文献レポート20%、研究課題への取り組み及び成果内容50%に基づき総合的に評価する。	
フィードバック	文献レポートや研究課題の内容について、改善点等を適宜フィードバックする。
履修に際しての 注意事項	学生自らの「問い」に基づく主体的な学びの姿勢を求めます。フィールドワークやボランティア等を実施する場合は、交通費の実費負担がかかるので、あらかじめ了解した上で受講すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							○

V					○		

テキスト1	小西行郎（2011）『発達障害の子どもを理解する』集英社新書	9784087206166
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1.オリエンテーション 2.各自の興味・関心、問題意識の発表 3～7.「障がい」の理解 8～13.障がいのある子どもや利用者、家族の抱える課題・諸制度・援助技術の理解 14.各自の研究課題の設定に向けた検討 15.前期のまとめ 16～20.障がいのある子どもや利用者の地域生活及び支援（結婚・子育て支援を含む）の理解 21～25.各自の興味・関心テーマに基づく研究課題への取り組み 26～29.研究課題の発表とグループディスカッション 30.後期のまとめ
事前	輪読に関しては、担当する該当ページを各自熟読した上で、文献レポートを必ず提出すること。 施設等で課外活動を行う場合は、事前に相応の準備が求められるため、協力して取り組むこと。（各30分）
事後	各自の研究課題について、指導内容をもとにより精度の高い論文作成を行うこと。 課外活動の振り返りについては、ゼミ内で意見を求めることがあるので、事後学習として整理しておくこと。（各30分）

2020/07/16(木)21:40

科 目 名	保育内容（表現I）[子]			授業コード	4160011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	安村 清美				

科目に関するキーワード	子ども 表現 コミュニケーション 保育内容

到達目標	1.乳幼児期のあそびや生活に見られる総合的な表現について、理論とその実際から子どもにとっての表現の意味について考察することができる。 2. 乳幼児期の、表現とコミュニケーションの特徴と発達特性について理解すると同時に、これを感得できる感性をもつ。 3. これらを基礎に、保育者として子どものさまざま表現に対して必要な援助について考え計画・実践することができる。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2(1)（2）（3）、D−3（1）（2）（4）（5）】			
授業の概要	子どもの表現にかかわる講義や実践記録などを通して、もの、音、動き、言葉による総合的な表現の育ちを理解する。 また、実践例などを通して、子どもにとっての表現とは何かについて考え学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・子どもの表現に関わる動画から、この内容についてグループ・ディスカッションを行い、クラスに発表する。 ・指導案作成にあたっては、個人で作成したものを基に、グループ・ワークを行い、ディスカッションを通してに修正を加えながら、実践に相応しいものを作り上げていく。
評価方法及び評価基準	レポート	学習意欲、授業中の諸活動への取り組み及び授業の理解度を総合して判断する。 授業における小テスト（40%）、課題レポート（30%）、授業態度及び授業中の活動（30%）として評価する。		
フィードバック	リアクション・ペーパーや授業プリント、レポートなどの提出物は、返却時に個別にコメントをつける。これとともに、クラス内に全体の内容や重要事項についてについてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	授業は講義および演習形式で行う。クラスやグループでの討議などに主体的に参加する姿勢を望む。 子どもの表現についての感覚的な把握のため、具体的な子どもの表現について検討するにあたっては、映像資料を使用する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			

IV							
V				○			

テキスト1	『保育内容　表現』入江・榎沢編著 建帛社	978-4-7679-3204-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 その他、授業時に紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	表現とは何か。子どもにとっての“表れ”と“表し”
事前	シラバスを確認し、授業内容の概略を把握する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを参考に、授業内容の復習をする。(30分程度を目安とする)

2	保育内容・表現のねらいと内容
事前	教科書の該当ページ(pp.1-14)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

3	保育内容・表現と他領域の関連性
事前	教科書の該当ページ(pp.1-14)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

4	保育内容・表現の歴史的変遷と問題点
事前	前回授業に配布したプリントを熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

5	表現の育ち① 日常生活と表現　グループワーク、ディスカッション
事前	教科書の該当ページ(pp.15-33)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントの課題を完成する。(30分程度を目安とする)

6	表現の育ち② 表れと表し　グループワーク、ディスカッション
事前	教科書の該当ページ(pp.15-33)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントの課題を完成する。(30分程度を目安とする)

7	表現の育ち③ イメージ・想像から創造へ
事前	教科書の該当ページ(pp.15-33)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントの課題を完成する。(30分程度を目安とする)

8	保育実践を手がかりに子どもの表現を考える①題材と個性　ディスカッション、プレゼンテーション
事前	教科書の該当ページ(pp.52-80)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

9	保育実践を手がかりに子どもの表現を考える② 題材と集団性　ディスカッション、プレゼンテーション
事前	教科書の該当ページ(pp.81-153)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

10	保育実践を手がかりに子どもの表現を考える③ 表現の方法と内容
事前	教科書の該当ページ(pp.81-153)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	配布プリントを基に、授業内容について復習し理解を深める。(30分程度を目安とする)

11	総合的な表現とコミュニケーション
事前	これまでの授業内容について、教科書及び授業プリントを見直し確認する。(30分程度を目安とする)
事後	これまでの配布プリントを整理し提出の準備をする。(30分程度を目安とする)

12	表現を育てる保育者の役割
事前	教科書の該当ページ(pp.34-51)を熟読し理解する。(30分程度を目安とする)
事後	これまでの配布プリントを整理し提出の準備をする。(30分程度を目安とする)

13	指導案作成と検討、実践①子どもの姿に即した表現にかかわる部分指導案　グループワーク
事前	指導案作成に関して、事前の配布プリントを参考に資料をさがしておく。(30分程度を目安とする)
事後	個人の指導案を完成し、グループ・ワークを始める準備をする。(30分程度を目安とする)

14	指導案作成と検討、実践② 模擬保育と振り返り　プレゼンテーション
事前	指導案のプレゼンについて、グループワークを通して内容と方法について検討する。(30分程度を目安とする)
事後	指導案のプレゼンについて振り返りをする。個人の指導案に課題を反映して考え直す。(30分程度を目安とする)

15	まとめ
事前	これまでの授業内容について総合的に復習する。(30分程度を目安とする)
事後	まとめの内容について確認し理解する。(30分程度を目安とする)

2020/07/16(木)21:11

科 目 名	心理学 [子]			授業コード	4170011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	心、自己理解、他者理解

到達目標	・心理学の全体像を理解することができる。 ・心理学の基礎的な知識について、自分自身の身の回りの事象と関連づけて理解することができる。 ・心理学の知識を、子どもや子どもを取り巻く環境の理解に役立てることができる。 ・これらの学びを、多様な他者との連携・協働にいかすことができる。			
授業の概要	心理学は、見えない「こころ」を扱う学問だが、どのように「こころ」を扱い、何が明らかになっているのだろうか。本講義では、心理学の主要領域を概観し、心理学はどのような学問であるのかを学ぶ。また、簡単な実験や心理検査の体験を通して、心理学の基礎的な知識について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業は主に講義の形式で進めるが、体験を通した学びも重視し、簡単な実験や、グループワーク、ワークシートの実施を予定している。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み（50%）やレポート（50%）により総合的に評価します		
フィードバック	課題は実施後に、そのねらいについてフィードバックするため、よく復習をしておくこと。			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	「心理学入門:快体心書」 鈴木晶夫・竹内美香著　川島書店	9784761008192
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学とは何か
事前	シラバスをよく読んでおくこと。またテキストの「今日の心理学の諸領域」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

2	心理学の歴史
事前	テキストの「心理学の歴史－科学的心理学の独立－」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

3	感覚
事前	テキストの「感覚」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

4	知覚
事前	テキストの「知覚」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

5	学習 古典的条件づけ
事前	「学習の定義」と「オペラント条件づけ」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

6	学習　オペラント条件づけ
事前	テキストの「古典的条件づけ」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

7	学習　学習理論の応用
事前	テキストの「学習によらない反応と行動」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

8	記憶
事前	テキストの「記憶の心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

9	認知
事前	テキストの「認知・推論の心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

10	動機づけ
事前	テキストの「動機づけの研究」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

11	集団力動
事前	テキストの「集団力動の仕組み」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

12	コミュニケーション
事前	テキストの「コミュニケーションの認知と感情」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

13	パーソナリティ
事前	テキストの「パーソナリティの心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。

事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

14	心理検査
事前	テキストの「パーソナリティ研究と理論」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

15	まとめ
事前	テキストと配布資料を用いて、これまでの学びを振り返っておくこと(1.5時間)。
事後	半期の学びを振り返り、学んだことを今後どのようにいかしていけるのかについて考えること(2.5時間)。

2020/07/16(木)21:46

科 目 名	心理学 [子]			授業コード	4170021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	心、自己理解、他者理解

到達目標	・心理学の全体像を理解することができる。 ・心理学の基礎的な知識について、自分自身の身の回りの事象と関連づけて理解することができる。 ・心理学の知識を、子どもや子どもを取り巻く環境の理解に役立てることができる。 ・これらの学びを、多様な他者との連携・協働にいかすことができる。			
授業の概要	心理学は、見えない「こころ」を扱う学問だが、どのように「こころ」を扱い、何が明らかになっているのだろうか。本講義では、心理学の主要領域を概観し、心理学はどのような学問であるのかを学ぶ。また、簡単な実験や心理検査の体験を通して、心理学の基礎的な知識について学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業は主に講義の形式で進めるが、体験を通した学びも重視し、簡単な実験や、グループワーク、ワークシートの実施を予定している。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み（50%）やレポート（50%）により総合的に評価します		
フィードバック	課題は実施後に、そのねらいについてフィードバックするため、よく復習をしておくこと。			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	「心理学入門:快体心書」 鈴木晶夫・竹内美香著　川島書店	9784761008192
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学とは何か
事前	シラバスをよく読んでおくこと。またテキストの「今日の心理学の諸領域」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

2	心理学の歴史
事前	テキストの「心理学の歴史－科学的心理学の独立－」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

3	感覚
事前	テキストの「感覚」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

4	知覚
事前	テキストの「知覚」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

5	学習 古典的条件づけ
事前	「学習の定義」と「オペラント条件づけ」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

6	学習　オペラント条件づけ
事前	テキストの「古典的条件づけ」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

7	学習　学習理論の応用
事前	テキストの「学習によらない反応と行動」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

8	記憶
事前	テキストの「記憶の心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

9	認知
事前	テキストの「認知・推論の心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

10	動機づけ
事前	テキストの「動機づけの研究」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

11	集団力動
事前	テキストの「集団力動の仕組み」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

12	コミュニケーション
事前	テキストの「コミュニケーションの認知と感情」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

13	パーソナリティ
事前	テキストの「パーソナリティの心理学」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。

事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

14	心理検査
事前	テキストの「パーソナリティ研究と理論」の部分を読んでおくこと(1.5時間)。
事後	教科書、配布資料をもとに、授業内容を振り返り、キーワードはノートにまとめておくこと(2.5時間)。

15	まとめ
事前	テキストと配布資料を用いて、これまでの学びを振り返っておくこと(1.5時間)。
事後	半期の学びを振り返り、学んだことを今後どのようにいかしていけるのかについて考えること(2.5時間)。

2020/07/16(木)11:10

科 目 名	発達心理学/発達心理学I [子]			授業コード	4170032
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	生涯発達、心身の発達、学習の過程
到達目標	本授業のねらいは、人生の各発達段階における特徴を学び、発達における初期経験や周囲とのかかわりの重要性を理解するとともに、これらの学びを踏まえて子どもに応じた保育の在り方を考えることができることである。 本授業の到達目標は以下の2点である。 1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。（（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。（2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。） 2）幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。（（1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。（2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。（3）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。）
授業の概要	人は生涯をかけて、発達し続ける。 本講義では、人の発達の各時期における特徴や課題について概観する。人の心や身体、そしてそれを取り巻く環境が、段階を経てどのように変化するのかについて学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	知識の整理と定着をはかるため、3回、6回、9回、13回では小テストの実施を予定している。小テストは事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	参加態度（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）から総合的に判断する。		
フィードバック	小テストや課題については、出題の意図について説明し講評するので、期末試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III							
IV	○						
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「スタンダード発達心理学」 櫻井茂男・佐藤有耕 （編） サイエンス社 「幼稚園教育要領解説」（平成30年）フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平成30年）フレーベル館 「保育所保育指針解説」（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	発達とは～発達のリズム、相互関連性、個人差～
事前	「発達」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

2	発達の理論～発達段階と発達課題～ エリクソン、フロイト、ピアジェ、ハヴィガースト
事前	人の発達はどのように区分することができると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

3	発達の理論～遺伝と環境～ ゲゼル、ワトソン、シュテルン、ジェンセン、ギブソン、ブロンフェンブレンナー、ローレンツ
事前	「その人らしさ」は遺伝と環境のどちらに規定されると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

4	周生期（運動発達）
事前	「周生期」「周産期」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

5	乳児期（知覚発達・愛着の発達）
事前	「愛着」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

6	幼児期（認知の発達・言語の発達）
事前	「物事の考え方やとらえ方」はどのように発達すると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

7	幼児期（遊びの発達と仲間関係）
事前	「遊び」にはどのような種類のものがあると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

8	児童期（社会性の発達・学習理論）
事前	子どもの発達にとって「仲間との関わり」はどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

9	児童期（動機づけ・自己認知）
事前	「動機づけ」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

10	発達障害の理解とその支援
事前	「発達障害」について、今自分が知っていること、抱いているイメージをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

11	青年期（アイデンティティの発達）

事前	「アイデンティティ」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

12	青年期（人間関係）
事前	青年期の親子関係の特徴と友人関係の特徴について、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

13	成人期以降（キャリア発達、夫婦や親としての発達、アイデンティティの見直し）
事前	「ライフコース」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

14	保護者支援
事前	保育者として保護者を支えることの意義について、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

15	まとめ～生涯発達という考え方～
事前	これまで学んだことを振り返り、疑問点等を確認しておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートをもとに知識の整理を行ない、今後にどのようにいかせるかについて考えておくこと（1.5時間）。

2020/07/16(木)21:12

科 目 名	発達心理学/発達心理学I [子]			授業コード	4170042
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	生涯発達、心身の発達、学習の過程
到達目標	本授業のねらいは、人生の各発達段階における特徴を学び、発達における初期経験や周囲とのかかわりの重要性を理解するとともに、これらの学びを踏まえて子どもに応じた保育の在り方を考えることができることである。 本授業の到達目標は以下の2点である。 1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。（（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。（2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。） 2）幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。（（1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。（2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。（3）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。）
授業の概要	人は生涯をかけて、発達し続ける。 本講義では、人の発達の各時期における特徴や課題について概観する。人の心や身体、そしてそれを取り巻く環境が、段階を経てどのように変化するのかについて学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	知識の整理と定着をはかるため、3回、6回、9回、13回では小テストの実施を予定している。小テストは事後の授業において結果を返却するとともに解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	参加態度（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）から総合的に判断する。		
フィードバック	小テストや課題については、出題の意図について説明し講評するので、期末試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III							
IV	○						
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「スタンダード発達心理学」 櫻井茂男・佐藤有耕 （編） サイエンス社 「幼稚園教育要領解説」（平成30年）フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平成30年）フレーベル館 「保育所保育指針解説」（平成30年）フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	発達とは～発達のリズム、相互関連性、個人差～
事前	「発達」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

2	発達の理論～発達段階と発達課題～ エリクソン、フロイト、ピアジェ、ハヴィガースト
事前	人の発達はどのように区分することができると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

3	発達の理論～遺伝と環境～ ゲゼル、ワトソン、シュテルン、ジェンセン、ギブソン、ブロンフェンブレンナー、ローレンツ
事前	「その人らしさ」は遺伝と環境のどちらに規定されると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

4	周生期（運動発達）
事前	「周生期」「周産期」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

5	乳児期（知覚発達・愛着の発達）
事前	「愛着」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

6	幼児期（認知の発達・言語の発達）
事前	「物事の考え方やとらえ方」はどのように発達すると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

7	幼児期（遊びの発達と仲間関係）
事前	「遊び」にはどのような種類のものがあると思うか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

8	児童期（社会性の発達・学習理論）
事前	子どもの発達にとって「仲間との関わり」はどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

9	児童期（動機づけ・自己認知）
事前	「動機づけ」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

10	発達障害の理解とその支援
事前	「発達障害」について、今自分が知っていること、抱いているイメージをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

11	青年期（アイデンティティの発達）

事前	「アイデンティティ」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

12	青年期（人間関係）
事前	青年期の親子関係の特徴と友人関係の特徴について、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

13	成人期以降（キャリア発達、夫婦や親としての発達、アイデンティティの見直し）
事前	「ライフコース」という言葉の意味を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

14	保護者支援
事前	保育者として保護者を支えることの意義について、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

15	まとめ～生涯発達という考え方～
事前	これまで学んだことを振り返り、疑問点等を確認しておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートをもとに知識の整理を行ない、今後にどのようにいかせるかについて考えておくこと（1.5時間）。

2020/07/16(木)21:51

科 目 名	乳幼児発達心理学 [子]			授業コード	4170052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	発達段階、乳幼児、子ども理解

到達目標	・乳幼児の心身の発達の特徴や子どもの育ちを取り巻く環境について、理解し説明することができる。 ・子どもの発達の個人差について理解し、それぞれの子どもに適したサポートのあり方を考えることができる。 ・これらの学びを、実践の場において広く活用することができる。 「履修ファイル」の対応項目：A-3(1)~(3), B-1(1)~(7)			
授業の概要	乳幼児期は心身ともに著しく変化の大きい時期である。本講義では、子どもの「育ち」に関する心理学の知見を紹介する。様々な角度から子どもの発達的特徴をとらえ、サポートのあり方を考える機会とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	基本的には講義形式であるが、ワークシートやグループワークも取り入れる予定である。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み（30%）、ﾚﾎﾟｰﾄ（70%）により総合的に評価する。		
フィードバック	授業中に実施した課題については、出題意図を説明するとともに全体的な傾向について紹介し、講評する。			
履修に際しての 注意事項	基本的には講義形式であるが、ワークシートや発表等も取り入れる予定である。積極的な参加が求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III							
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」 岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる 新曜社 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 その他、適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	乳幼児発達心理学とは
事前	「発達の原理」について調べてまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

2	発達理論
事前	発達段階に関する理論について調べてまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

3	運動の発達
事前	乳児がする運動にどのようなものがあるか、自分の考えをノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

4	自己認知
事前	「マークテスト」について調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

5	思考の発達・因果性の理解
事前	「メタ認知」について調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

6	愛着の個人差と文化差
事前	「内的ワーキングモデル」について調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

7	情動の発達
事前	プルチックの提唱した「感情の環」について調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

8	ことばの発達とコミュニケーション
事前	「子どもの言葉の言い誤り」にはどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

9	心の理論・子どもの嘘
事前	「心の理論」について調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

10	遊びの発達と仲間関係
事前	「子どもの仲間同士の係わり合いの特徴」について、自分の考えをノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

11	道徳性の発達
事前	「道徳性」の定義について、調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

12	食の発達
事前	「子どもの食べ物の好き嫌い」にはどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと(1.5時間)。

事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

13	発達のつまずきとそのサポート
事前	「発達のつまずき」から何をイメージするか、自分の考えをノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

14	子どもを取り巻く環境
事前	ブロンフェンブレンナーの提唱した「子どもを取り巻く環境」の4つのレベルについて調べてノートにまとめておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること(2.5時間)。

15	まとめ
事前	これまでの配布資料とノートを見直し、疑問点等がないか、確認しておくこと(1.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し半期の学びを振り返るとともに、子どものサポートに学んだ内容をどのようにいかせるかを考えておくこと(2.5時間)。

2020/07/16(木)20:49

科 目 名	子どもと家族の心理学 [子]			授業コード	4170061
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	生涯発達、家庭支援、発達課題
到達目標	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について、理解し説明することができる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解し、説明することができる。 ・親子関係や家族関係などについて発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を持つことができる。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況に関心を持ち、課題について理解し説明することができる。 ・子どもの精神保健とその課題について、理解し説明することができる。
授業の概要	人の生涯にわたる発達について理解し、それぞれの時期における発達課題や経験の重要性について学ぶ。また、家族や家庭の意義や機能についても理解し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を身につける。さらに、子育てに関する現状や課題と、子どもの心と体の健康やその課題について学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 授業は主に講義の形式で進めるが、体験を通した学びも重視し、グループワークやワークシートの実施を予定している。
評価方法 及び評価基準	レポート / 課題への取り組み（50%）、レポート（50%）の割合で行うが、得点の分布によっては、配点を調整する可能性もある。
フィードバック	ワークシートは実施後に、そのねらいについてフィードバックするため、最終レポートの作成に役立てること。
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『子ども家庭支援の心理学』 白川佳子・福丸由佳（編） 中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	生涯発達とは
事前	「生涯発達」について調べ、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

2	乳児期の発達
事前	「二人称的アプローチ」について調べ、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

3	幼児期の発達
事前	サメロフの「相乗的総合作用モデル」を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

4	児童期の発達
事前	セルマンの示した社会的視点取得の発達段階について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

5	青年期の発達
事前	マーシャの示した4つの「アイデンティティ・ステイタス」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

6	成人期・老年期の発達
事前	社会情動的スキルについて調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

7	家族・家庭の意義と機能
事前	家族はどのように定義できるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

8	親子関係・家族関係の理解
事前	家族がうまれてなくなるまで、どのような段階があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

9	子育ての経験と親としての育ち
事前	子どもをもつということは、親にとってどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

10	子育てを取り巻く社会的状況
事前	「喪失の二重プロセスモデル」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

11	ライフコースと仕事・子育て
事前	「ライフコース」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

12	多様な家庭とその理解
事前	保育者として「多様性に開かれる」とは、どのような姿勢であるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

13	特別な配慮を要する家庭
事前	「逆境的小児期体験」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。

事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

14	子どもの生活・生育環境とその影響
事前	子どもを取り巻く環境に目を向け、昔と何が変化したか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

15	子どもの心の健康に関わる問題
事前	配布資料とノートを振り返り、疑問点等がないか確認をしておくこと（1.5時間）。
事後	半期で学んだ知識を整理し、学んだことを今後どのようにいかしていけるかについて考えておくこと（2.5時間）。

2020/07/16(木)21:09

科 目 名	子どもと家族の心理学 [子]			授業コード	4170071
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	生涯発達、家庭支援、発達課題
到達目標	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について、理解し説明することができる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解し、説明することができる。 ・親子関係や家族関係などについて発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を持つことができる。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況に関心を持ち、課題について理解し説明することができる。 ・子どもの精神保健とその課題について、理解し説明することができる。
授業の概要	人の生涯にわたる発達について理解し、それぞれの時期における発達課題や経験の重要性について学ぶ。また、家族や家庭の意義や機能についても理解し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を身につける。さらに、子育てに関する現状や課題と、子どもの心と体の健康やその課題について学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 授業は主に講義の形式で進めるが、体験を通した学びも重視し、グループワークやワークシートの実施を予定している。
評価方法 及び評価基準	レポート / 課題への取り組み（50%）、レポート（50%）の割合で行うが、得点の分布によっては、配点を調整する可能性もある。
フィードバック	ワークシートは実施後に、そのねらいについてフィードバックするため、最終レポートの作成に役立てること。
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求めます。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『子ども家庭支援の心理学』 白川佳子・福丸由佳（編） 中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	生涯発達とは
事前	「生涯発達」について調べ、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

2	乳児期の発達
事前	「二人称的アプローチ」について調べ、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

3	幼児期の発達
事前	サメロフの「相乗的総合作用モデル」を調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

4	児童期の発達
事前	セルマンの示した社会的視点取得の発達段階について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

5	青年期の発達
事前	マーシャの示した4つの「アイデンティティ・ステイタス」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

6	成人期・老年期の発達
事前	社会情動的スキルについて調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

7	家族・家庭の意義と機能
事前	家族はどのように定義できるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

8	親子関係・家族関係の理解
事前	家族がうまれてなくなるまで、どのような段階があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

9	子育ての経験と親としての育ち
事前	子どもをもつということは、親にとってどのような意義があるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

10	子育てを取り巻く社会的状況
事前	「喪失の二重プロセスモデル」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

11	ライフコースと仕事・子育て
事前	「ライフコース」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

12	多様な家庭とその理解
事前	保育者として「多様性に開かれる」とは、どのような姿勢であるか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

13	特別な配慮を要する家庭
事前	「逆境的小児期体験」について調べて、ノートにまとめておくこと（1.5時間）。

事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

14	子どもの生活・生育環境とその影響
事前	子どもを取り巻く環境に目を向け、昔と何が変化したか、自分の考えをノートにまとめておくこと（1.5時間）。
事後	配布資料とノートを見直し、要点はノートにまとめることにより、知識の定着をはかること（2.5時間）。

15	子どもの心の健康に関わる問題
事前	配布資料とノートを振り返り、疑問点等がないか確認をしておくこと（1.5時間）。
事後	半期で学んだ知識を整理し、学んだことを今後どのようにいかしていけるかについて考えておくこと（2.5時間）。

2020/07/16(木)21:57

科 目 名	保育心理学演習 [子]			授業コード	4170081
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	発達の理解、個人差、環境としての保育者

到達目標	・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、説明することができる。 ・子どもの心身の発達とそれを取り巻く環境の重要性を理解し、説明することができる。 ・発達に応じた子どもとの関わりについて、深く考えることができる。 ・保育における発達援助についての学びを、実践にいかすことができる。 「履修ファイル」の対応項目：A-3(1)~(3), A-4(3), B-1(1)~(7)			
授業の概要	保育の場面では、子どものことを多角的にとらえ、一人一人に適した対応をとることが求められる。本講義では、子どもの理解や、対応を考える上で役立つであろう心理学の知識を保育実践と結びつけながら学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、発表を行なう。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み(40%)、最終レポートおよび発表(60%)から総合的に判断する。		
フィードバック	ワークシートは実施後に、そのねらいについてフィードバックするため、最終レポートの作成に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	グループワークを予定しているため、積極的な参加が求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II					○		
III					○		
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「保育の心理学Ⅱ」 清水益治・無藤隆（編著） 北大路書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの発達を理解するとはどのようなことか
事前	シラバスをよく読むこと（0.5時間）。
事後	発達検査について調べ、ワークシートにそれぞれの特徴をまとめておくこと（0.5時間）。

2	発達の個人差とは何か
事前	子どもの個人差をどのようにとらえるべきかを考えておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

3	子どもの身体感覚を知る
事前	「アフォーダンス」について調べておくこと(0.5時間)。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

4	環境としての保育者の役割を考える
事前	子どもを取り巻く人的環境にはどのようなものがあるか考えておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

5	子どもの仲間関係の価値について知る
事前	「いざこざ」について調べておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

6	子どもが自己制御能力を身につける過程を知る
事前	「自己主張」と「自己抑制」について調べておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

7	保育の環境と子ども集団
事前	「PM理論」について調べておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

8	子どもの生活場面と発達
事前	子どもが生活を通して学ぶこととして、どのようなものがあるか考えておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

9	子どもの遊びと発達
事前	子どもが遊びを通して学ぶこととして、どのようなものがあるか考えておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

10	子どもがレジリエンスを身につける意味と価値
事前	「レジリエンス」について調べておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

11	基本的生活習慣を獲得する意味と価値
事前	「基本的生活習慣」にはどのようなものがあるか、考えてまとめておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

12	子どもの主体性の形成に必要なこと
事前	子どもの主体性を育むために、どのようなことができるか考えておくこと（0.5時間）。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと（0.5時間）。

13	発達に応じた関わり
事前	「発達の最近接領域」について調べておく（0.5時間）。

事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと(0.5時間)。

14	発達の連続性
事前	就学に向けて、保育者はどのような支援ができるか考えておくこと(0.5時間)。
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、グループワークから学んだことをノートにまとめておくこと(0.5時間)。

15	生涯発達の視点から考える保育の重要性
事前	発表のために必要な準備をしておくこと(0.5時間)。
事後	配布資料とノートを見直し、半期間の自分の学びについて振り返ること(0.5時間)。

2020/07/16(木)20:34

科 目 名	保育実践入門/子ども理解の理論と方法 [子]			授業コード	4170090
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関するキーワード	子ども理解、フィールドワーク、カンファレンス、振り返り
到達目標	本授業のねらいは、保育の基本である子ども理解の理論と方法を学ぶことである。また、保育における子どもの生活や遊びの実態に即して、子ども理解の意義を捉え、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずきや要因を把握する。さらに子ども理解を深めるための基礎的な態度を学ぶ。また、実践の場に参加し、子ども理解とそれに基づく対応の方法を獲得する。 本授業の到達目標は以下の2点である。 (1)子ども理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。(①子ども理解の意義を理解している。②子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。③子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。) (2)子ども理解の方法を具体的に理解する。(①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。③子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。)
授業の概要	「保育」とは、一人ひとりの子どもの育ちを支え、援助していく営みである。そのためには、保育者は子どもの内面を捉え、必要な援助を探ることが求められる。本授業では、子ども理解についての知識を身につけ、子ども理解の考え方や子ども理解の知識や理論を学ぶ。また、観察と記録の意義、観察法の基礎を理解した上で、実際に保育実践の場に参加し、子どもとかかわる経験を通して、観察、記録、カンファレンス等を用いて個と集団の関係、幼児のつまずきと背景、保護者との連携の方法を学ぶ。また子どもの内面や行為の意味を探求し、子どもとのかかわりを振り返るという保育のプロセスを体験する。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	みらいこども園での実習およびそれを踏まえてのカンファレンスなど。
評価方法及び評価基準	レポート	課題レポート(60%)、授業および演習への参加態度(40%)		
フィードバック	提出課題である事例(エピソード記録)等については、必要に応じて添削して返却する。フィードバックされたものをもとに各自修正版を作成すること。			
履修に際しての注意事項	学外での演習を主とした科目であるため、初回授業において、授業履修上必要な諸注意やスケジュールの説明を行います。その指示に従って履修してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II							
III		○					
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 その他、授業内において随時紹介し、必要に応じて資料を配付します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子ども理解の理論と方法を学ぶことの意義
事前	シラバスを確認し、授業の全体像を把握しておくこと(0.5時間)
事後	実習先となる認定こども園について、幼稚園、保育所との違いなどをまとめておくこと(0.5時間)

2	子ども観と子どもの見方
事前	子ども理解の方法について、まとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を行うみらいこども園について、保育時間、環境、クラスなどをまとめておくこと(0.5時間)

3	子ども理解のための観察法と多様な記録
事前	フィールドワーク(実習)において、どのように観察や記録をとるかについて、配布資料を確認しておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)において、子ども、保育者、環境をどのような視点で観察するかをまとめておくこと(0.5時間)

4	実践から学ぶ子どもの遊び
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、子どもの記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、子どもの遊びなどに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

5	実践から学ぶ子ども相互のかかわり
事前	フィールドワーク(実習)についての課題を整理し、遊びや環境等の記録をとる方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)の記録を、保育者の援助や保育環境などに焦点をあててまとめておくこと(0.5時間)

6	子どもに対する共感的理解と関係論的視点
事前	フィールドワーク(実習)の学びを振り返る方法についてまとめておくこと(0.5時間)
事後	カンファレンスの意義についてまとめるとともに、カンファレンスを通して得られた他者の意見等を踏まえて、子ども理解の方法や自分自身の観察の課題をまとめておくこと(0.5時間)

7	生活や遊びを通した子どもの発達と学びの理解
事前	保育の理論と実際に体験したフィールドワーク(実習)の間で気づいた相違点等をまとめておくこと(0.5時間)
事後	フィールドワーク(実習)を踏まえて、子ども理解の方法(観察法、記録などを含む)を復習しておくこと(0.5時間)

8	
事前	
事後	

9	
事前	
事後	

10	
事前	
事後	

11	
事前	
事後	

12	
事前	
事後	

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	子どもの葛藤やつまずきとその背景の理解(特別な配慮を要する子どもの理解を含む)
事前	前半の子ども理解の理論と方法（観察法、記録等）を復習し、自分自身の後半の課題を整理しておくこと（0.5時間）
事後	配慮を必要とする子どもを含めて、子ども理解や子どもと関わる方法を復習し、整理しておくこと（0.5時間）

17	実践から学ぶ個と集団の関係性
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、個と集団の捉え方やクラス運営について、どのような視点から保育を見るのかを明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、子ども同士の関わりや個と集団の関係性に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

18	実践から学ぶ保育環境の構成
事前	フィールドワーク（実習）における自分自身の参加の仕方をイメージするとともに、保育者の援助や保育環境について、どのように保育を見るのか視点を明確にし、まとめておくこと（0.5時間）
事後	フィールドワーク（実習）の記録を、保育環境や保育者の援助に焦点をあて、エピソード記録にまとめておくこと（0.5時間）

19	保育者による振り返り①観察・記録
事前	エピソード記録を書く際の、注意事項を整理しておくこと（0.5時間）
事後	エピソード記録の書き方の留意点を踏まえて、エピソード記録の修正版を作成しておくこと（0.5時間）

20	保育者による振り返り②省察・評価
事前	子どもにとっての遊びの意味を整理しておくこと（0.5時間）
事後	遊びの援助者としての自分自身を振り返り、まとめておくこと（0.5時間）

21	保育者間の連携―対話とカンファレンス―
事前	対話とカンファレンスについて、まとめておくこと（0.5時間）
事後	対話とカンファレンスを通して、理想とする保育者、保育環境、保育者同士の連携についてまとめておくこと（0.5時間）

22	保護者との情報共有と連携
事前	理想とする保育者像や保育環境、保護者連携などについて、自分の意見を指定のシートにまとめておくこと（0.5時間）
事後	保育現場の実例をもとに、子ども理解、保育の環境構成、保護者との連携のあり方などをまとめておくこと（0.5時間）

23	まとめ―子ども理解を深める保育者とは―
事前	子ども理解を深めるための、子ども観、保育観、保育者像、保育環境、適切な援助について、授業（フィールドワーク含む）を通して学んだことを整理しておくこと（0.5時間）
事後	これまでの授業内容を整理し、将来の保育者としての自己課題や今後の実習に向けての課題をまとめておくこと（0.5時間）

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)21:02

科 目 名	心理学基礎実験 [子][ET]			授業コード	4170100
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関するキーワード	SD法、記憶の変容、パーソナルスペース、幾何学的錯視、認知的葛藤

到達目標	＜到達目標＞ 1.心理学における実験研究、調査研究に必要とされる基礎的な知識について理解し、説明できる。 2.実験(調査)者・実験(調査)協力者体験を通して、心理学実験・調査の技法を理解し、実践できる。 3.実験・調査レポートの書き方を理解し、実践できる。 4.実験・調査に必要な基礎的な統計的分析手法を理解し、実践できる。 5.実験研究・調査研究に関する知識・技能を幅広く活用することができる。			
授業の概要	基礎的な心理学実験を実験者・実験協力者として体験し、さまざまな心理現象について関心を高めるとともに、心理学の実験について体験的に学ぶことを目的とします。小グループによる実験実習を通して、実験の遂行、データ処理、実験レポートの書き方など、心理学における実験研究に必要とされる基礎的な知識と技法を習得することを目的とします。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループごとに実験を実施し、データを処理し、レポートを作成することを通して、実験の方法や実験結果のまとめ方を実践的に学びます。
評価方法及び評価基準	レポート	毎回の実験レポートを提出することを前提とし、実験への取り組み(30%)およびレポートの内容(70%)に基づいて評価します。		
フィードバック	提出レポートについては、フィードバックをしますので、指摘を受けた点については見直し、改善に努めてください。			
履修に際しての注意事項	パソコンを使用して作業するので、データを保存するための媒体(USBメモリーキーなど)を用意してください。 授業は小グループの実習形式で行いますので遅刻をしないでください。 この授業は複数の教員が担当しています。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II				○			
III						○	
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	西口利文・松浦均(編著)『心理学実験法・レポートの書き方』(ナカニシヤ出版)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	これまで学んだ心理学の実験にどのようなものがあったかを振り返っておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに、授業内容を振り返り、1年間の実験スケジュールのイメージを持つこと(学修時間0.5時間)。

2	心理学実験とは
事前	独立変数と従属変数について、それぞれ調べて理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

3	心理統計の基礎(平均値・標準偏差・尺度水準)
事前	エクセルの基本操作(演算子)について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

4	SD法(1)実験の実施
事前	ワードの基本操作について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

5	SD法(2)データ処理・レポートの作成(方法・結果)
事前	エクセルでの棒グラフの描き方と、罫線のひき方について、確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

6	SD法(3)レポートの作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと(0.5時間)。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

7	情報の伝達と記憶の変容(1)実験の実施
事前	実験の一般的な留意点について、確認をしておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと(学修時間0.5時間)。

8	情報の伝達と記憶の変容(2)データ処理
事前	授業で扱ったエクセルの操作について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに、授業で扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間0.5時間)。

9	情報の伝達と記憶の変容(3)レポートの作成(方法・結果)
事前	エクセルでの折れ線グラフの作成の方法を確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

10	情報の伝達と記憶の変容(4)レポートの作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと(0.5時間)。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

11	心理統計の基礎(t検定)
事前	t検定について、調べて理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

12	パーソナルスペースの実験(1)実験の実施
事前	自分のパーソナルスペースの特徴について予測し、まとめておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと(学修時間0.5時間)。

13	パーソナルスペースの実験(2)データ処理
事前	「対応のないt検定」について理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

14	パーソナルスペースの実験(3)レポート作成(方法，結果)
事前	レポート作成の際のルールについて確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

15	パーソナルスペースの実験(4)レポート作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

16	心理学の研究法、心理統計の基礎
事前	心理学における研究法の種類について調べておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

17	観察法(1)実験の実施
事前	観察法の留意点について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、二つの記録の方法の特徴について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

18	観察法(2)データ処理
事前	授業で扱った、ワードやエクセルの操作について確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	クラスのデータを確認し、記録方法の特徴について改めて考えておくこと（学修時間0.5時間）。

19	観察法(3)レポートの作成（方法・結果）
事前	授業で扱った、図表作成のルールについて確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

20	観察法(4)レポートの作成（問題と目的・考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

21	幾何学的錯視(1)実験の実施
事前	これまでに実施した実験を振り返り、実験実施の際の留意点を確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

22	幾何学的錯視(2)データ処理
事前	「対応のあるt検定」について理解しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

23	幾何学的錯視(3)レポートの作成（方法・結果）
事前	配布資料をもとに、今回の実験の条件について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

24	幾何学的錯視(4)レポートの作成（問題と目的・考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

25	認知的葛藤(1)実験の実施
事前	これまで配布した資料を整理し、疑問点等がないか確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

26	認知的葛藤(2)データ処理
事前	授業で扱った、ワードとエクセルの操作について確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

27	認知的葛藤(3)レポートの作成（方法）
事前	配布資料をもとに、今回の実験の4条件について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

28	認知的葛藤(4)レポートの作成（結果）
事前	返却されたレポートを見直し、レポート作成の際の留意点を確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

29	認知的葛藤（5）レポートの作成（考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

30	まとめ
事前	これまでに作成したレポートを見直して、自身の学びの成果を振り返ること（学修時間0.5時間）。
事後	一年間の学びを振り返り、学びを今後どのように活用できるかについて考えること（学修時間0.5時間）。

2020/07/16(木)21:38

科 目 名	児童臨床心理学 [子]			授業コード	4170111
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	発達臨床、アセスメント、児童
到達目標	・子どもに特徴的な心理的な問題について理解し、説明することができる。 ・子どもやそれを取り巻く環境について心理学の視点から理解することができる。 ・子どもの育ちをサポートするための支援のあり方について考えることができる。 ・臨床心理学の対象について知識を深め、必要が生じた場合には、専門家との連携および協力の必要があることを認識できる。
授業の概要	児童期（およびその前後）の子どもに関する臨床心理学の基礎理論と方法について概観し、児童をとりまく問題と背景、および介入の方法を学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業は主に講義形式だが、毎回リアクションペーパーを実施し、学生の興味・関心や理解度を確認しながら進める。また、一部グループワークも予定している。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題への取り組み(30%)、レポート(70%)で総合的に判断します。		
フィードバック	授業内で実施した課題については、出題の意図について説明と講評をする。			
履修に際しての 注意事項	主体的な参加を求める。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III							
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	児童臨床心理学とは
事前	どのような子どもが臨床心理学の対象となり得るのか、考えておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

2	子ども理解のための理論
事前	臨床的問題の原因として、どのようなものがあるか調べてノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

3	愛着障害をめぐる支援
事前	「愛着障害」について調べ、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

4	発達障害
事前	「発達障害」の分類について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

5	発達障害をめぐる支援
事前	「ソーシャルスキル・トレーニング」について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

6	不登校をめぐる支援
事前	「不登校」の定義を調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

7	いじめをめぐる支援
事前	「いじめ」の定義を調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

8	虐待をめぐる支援
事前	「虐待」について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

9	摂食障害をめぐる支援
事前	「摂食障害」について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

10	身体の不調に関連する心の問題の理解と支援
事前	心の問題が身体の不調に関連するケースについて調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

11	子どもを対象とした心理アセスメント
事前	子どもを対象としたアセスメントの留意点について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

12	心理検査の実際
事前	子どもを対象とした心理検査にどのようなものがあるかについて調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

13	子どもを対象とした心理療法
事前	「遊戯療法」について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。

事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

14	コミュニティにおける相談活動
事前	「一次的介入」「二次的介入」「三次的介入」について調べて、ノートにまとめておくこと(2時間)。
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(2時間)。

15	まとめ　社会や家族の中の子ども
事前	これまでのノートを見直し、疑問点等を確認しておくこと(2時間)。
事後	半期を振り返り、知識の整理をしておくこと(2時間)。

2020/07/16(木)20:39

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4170120
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	横尾 暁子				

科目に関する キーワード	心理学、研究法、実験計画
到達目標	・子ども理解の方法の一つでもある心理学の主要な研究法について学ぶ。 ・疑問を明らかにするためのプロセスを体験する。 ・実験や調査のまとめ方を習得する。 ・他者との協働を通じて、学びをより深める姿勢を身につける。
授業の概要	前期：心理学の基礎的な実験の体験やレポートの作成、文献購読を通して、研究法や研究計画のための知識を身につける。 後期：心理学の研究法に基づいてテーマの設定と研究計画の作成を行ない、調査を実施する。その後結果をまとめてゼミ内で発表する。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 発表や、討議など、学生同士、あるいは学生と教員の対話を重視しながら、研究計画を進めていく。
評価方法 及び評価基準	レポート / 討議や活動への取り組み（60%）、課題への取り組み（10%）や研究発表（30%）から総合的に判断する。
フィードバック	課題については、その意図を必ず説明し、個別にフィードバックを行なうため、自身の研究に活かすことが求められる。
履修に際しての 注意事項	受講生の積極的な参加を求める。 研究テーマは子どもの発達や保育に関連するテーマであることが望ましいが、受講生の関心に応じて、相談しながらテーマを設定することとする。 データ収集などを学外で行なう可能性がある（その場合の交通費などは自己負担となる）。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						
III							

IV							
V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1.オリエンテーション 2-7.研究計画に関する基礎知識（実験実施とレポート作成） 8-15.文献購読（発表とディスカッション） 16.後期オリエンテーション 17.各自の関心に関連する先行研究のレビュー 18-22.研究計画・データ収集 23-28.レポート作成 29-30.研究発表
事前	事前に出された課題に必ず取り組むこと。各々の興味・関心にあわせて主体的に文献を調べることなどが求められる。(各回目安0.5時間)
事後	配布資料や、他者から得た意見などを振り返り、各自の研究および実践に役立てる工夫をすること。(各回目安0.5時間)。

2020/07/16(木)10:57

科 目 名	倫理学 [社子]			授業コード	4180011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	幸福、自由、功利主義、義務論、ケア

到達目標	・代表的な倫理思想について、それぞれの思想が善悪の問題についてどのように問いを立て、判断を行っているかという視点から理解することができるようになる。 ・具体的な倫理的問題について、それぞれの倫理思想における思考方法を適用して考えることができる。 ・倫理思想について学ぶことを通して自分や他者の行う倫理的判断が依拠する思考方法について自覚化できるようになる。また、新たな思考方法の引き出しが獲得できること。			
授業の概要	何が善いことで、何が悪いことか。はっきりとした正解が分からないにもかかわらず、人が生きていく上で問わずにはいられないものが倫理である。善悪の問題について「人それぞれでいいじゃないか」と簡単に割り切ることができないのは、私たちが人と関係し、関わりながら生きているからであろう。様々な価値観を持つ人と共に生きていくためには何が善いことで、何が悪いことかという正解を出すことを急ぐのではなく、善悪の問題を考えるための問いの立て方、思考方法を偏りのない視点で幅広く学んでいく必要があると言える。 本授業では、代表的な倫理思想についてそれぞれの思想は善悪の問題についてどのように問いを立て、考えようとしているかという視点から学ぶ。実践的な問題との接点を意識するため、倫理的葛藤を伴う具体的な問題への適用を試みる中で、それぞれの思想において善悪を判断するため方法がどのようなものかを考えていく。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、ワークシートの記入などを含む授業中の活動(60%)と学期末レポート(40%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。			
履修に際しての注意事項	講義科目ではあるが知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	永井均 『子どものための哲学』 講談社現代新書 プラトン 『ゴルギアス』 岩波文庫 プラトン 『メノン』 岩波文庫 マイケル・サンデル 『これからの正義の話をしよう いまを生き延びるための哲学』 早川書房 オルダス・ハクスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 その他、授業内でその都度提示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	倫理、道徳という言葉の定義を手持ちの辞書等を用いて調べ、その定義から連想する自分の経験やイメージをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した倫理学の概要や、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	なぜ悪いことをしてはいけないか？
事前	「なぜ悪いことをしてはいけないか？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した「なぜ悪いことをしてはいけないか？」という問いに対する倫理学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	倫理と自由の関係
事前	自由と倫理の関係に関する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した自由をめぐる倫理学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	古代の倫理思想(1)-善いことは何よりも優先すべきか？-
事前	ソクラテスの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したソクラテスの倫理思想やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

5	古代の倫理思想(2)-徳とは何か-
事前	プラトンの人物像や思想、ソクラテスとの関係について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したプラトンの『メノン』や『国家』における倫理学的論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

6	功利主義(1)-できるだけ多くの人をできるだけ幸福にする-
事前	功利主義について自分なりに調べてノート等にまとめておく。（90分）
事後	授業で提示した功利主義をめぐる基礎的な論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

7	功利主義(2)-功利主義の問題点-
事前	功利主義に対する批判について自分なりに調べてノート等にまとめておく。（90分）
事後	授業で提示した功利主義に対する諸批判の論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

8	功利主義(3) -幸福な社会は善い社会か？-
事前	「幸福とは何か？」について、自分なりの考えをノート等にまとめておく。（90分）
事後	授業で提示したハクスリーの『すばらしい新世界』の中で描かれる世界観と功利主義との関係、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

9	義務論(1)-善いことは無条件な命令-
事前	カントの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した義務論をめぐる基礎的な論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	義務論(2)-義務論の問題点-
事前	ロールズの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示下に義務論対する諸批判の論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	ケアの倫理(1)-関係性の中で善さを考える-

事前	ギリガンの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したケアの倫理をめぐる基礎的な論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

12	ケアの倫理(2)-ケアの倫理の問題点-
事前	ノディングスの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したケアの倫理に対する諸批判の論点、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

13	困難な倫理的判断の事例(1)－社会的、政治的領域における倫理的問題－
事前	これまで授業で紹介してきた倫理思想の特徴について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、最終レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく(150分)

14	困難な倫理的判断の事例(2)-保育、福祉との関連で人権について考える-
事前	これまで授業で紹介してきた倫理思想の特徴について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、最終レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく(150分)

15	まとめ
事前	これまで授業で紹介してきた倫理思想の特徴について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、最終レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく(150分)

2020/07/16(木)20:47

科 目 名	教育の原理 [子]			授業コード	4180021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	教育の目的、無知の知、新教育、子ども観、自由
到達目標	教育は誰もが通り抜けてきているものでありながら、その本質に迫ろうとすると私たちの理解をすり抜けていく。教育は日々、具体的な問題に向き合う実践であるが、この答えのない本質に対する問いかけを欠いた途端、空虚なルーティーンワークに落ち込んでしまう危険性を秘めている。 本講義では教育の歴史やそうした歴史を創り上げてきた代表的な教育思想家たちの思想、理念を学び、さらには現代の教育を巡る具体的な論点について吟味する中で、受講者一人ひとりが自分が体験してきた教育を相対化し、教育の本質について問うてもらうことを目的とする。 「教育の本質とは何か？」 これは解答のない問いではある。ソクラテスによる無知の知の提唱に見られるように、知っているつもりになっていた自分の無知を自覚し、問いを発することが実は教育の本質に近づくための唯一の手段なのではないか。受講生には教育に対する先入観を一度脇に置き、素朴な気持ちで問いを発してもらいたい。
授業の概要	・生涯学習社会における教育の意義、目的を子ども家庭福祉等、関連領域とのかかわりを含めて理解すること。 ・教育の歴史やその歴史を築いてきた教育思想家たちの思想、基本理念を学び、理解すること。 ・学校、学習、子ども、家庭など、現代の教育を巡る諸問題について、それらの背後にある歴史的、理論的な問題にまで考察を深め、理解すること。 ・上記のプロセスの中で自らの体験としての教育を相対化し、「教育の本質とはなにか？」という問いに向き合うこと。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、ワークシートの記入などを含む授業中の活動と中間レポート、学期末レポートをもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。			
履修に際しての注意事項	講義科目ではあるが知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III		○					
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 西平直 『教育人間学のために』 東京大学出版会 プラトン 『メノン』 岩波文庫 中岡哲郎 『教師と生徒』 三一新書 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-受講生の教育経験についての調査-
事前	自分が受けてきた教育について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育の原理における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	教育とは何か？-教育の目的と本質-
事前	「何のために教育を行うのか？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したディスカッション課題についての文章(シング牧師の日記)を読んで自分の考えをノート等にまとめておく。(150分)

3	学びと学校
事前	学校についての自分なりのイメージや経験を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した脱学校論をめぐる教育学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	教えることと学ぶこと
事前	教えることと学ぶことの関係についての自分なりのイメージをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教えることと学ぶことをめぐる教育学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

5	教育の歴史①-ソクラテスの無知の知と教育-
事前	ソクラテスの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したソクラテスの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

6	教育の歴史②−プラトンの理想国家と教育−
事前	プラトンの人物像や思想、ソクラテスとの関係について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したプラトンの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

7	教育の歴史③−近代の教育思想(ロックからフレーベルまで)と近代教育制度−
事前	ルソーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した近代の教育思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

8	教育の歴史④−家庭と仕事の関係の変質、デューイの教育学−
事前	デューイの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したデューイの教育思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

9	教育の歴史⑤−新教育、デューイと民主主義の教育−
事前	新教育について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したデューイやデューイの影響を受けた新教育の思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	子ども観と家庭の社会史

事前	「子ども」という存在について自分のイメージするところをノート等にまとめておく。（90分）
事後	授業で提示した子ども観の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	教育と市場
事前	「競争によって教育はよくなるか？」という問いに対する自分なりの考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と市場、公共性をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

12	教育と権力−近代の教育装置としての学校−
事前	「権力」という言葉で自分のイメージするところをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と市場、公共性をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

13	教育と子どもの自由について−A.S.ニイルの自由学校、ヴィゴツキ−の遊び論を中心に−
事前	「自由」という言葉で自分のイメージするところをまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と自由をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

14	反省的実践家としての教師（保育者）
事前	「教師(保育者)の専門性とは何か？」という問いに対する自分なりの考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と自由をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

15	現代社会と教育
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した現代社会における教育をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

2020/07/16(木)21:17

科 目 名	教育の原理 [子]			授業コード	4180031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	教育の目的、無知の知、新教育、子ども観、自由
到達目標	教育は誰もが通り抜けてきているものでありながら、その本質に迫ろうとすると私たちの理解をすり抜けていく。教育は日々、具体的な問題に向き合う実践であるが、この答えのない本質に対する問いかけを欠いた途端、空虚なルーティーンワークに落ち込んでしまう危険性を秘めている。 本講義では教育の歴史やそうした歴史を創り上げてきた代表的な教育思想家たちの思想、理念を学び、さらには現代の教育を巡る具体的な論点について吟味する中で、受講者一人ひとりが自分が体験してきた教育を相対化し、教育の本質について問うてもらうことを目的とする。 「教育の本質とは何か？」 これは解答のない問いではある。ソクラテスによる無知の知の提唱に見られるように、知っているつもりになっていた自分の無知を自覚し、問いを発することが実は教育の本質に近づくための唯一の手段なのではないか。受講生には教育に対する先入観を一度脇に置き、素朴な気持ちで問いを発してもらいたい。
授業の概要	・生涯学習社会における教育の意義、目的を子ども家庭福祉等、関連領域とのかかわりを含めて理解すること。 ・教育の歴史やその歴史を築いてきた教育思想家たちの思想、基本理念を学び、理解すること。 ・学校、学習、子ども、家庭など、現代の教育を巡る諸問題について、それらの背後にある歴史的、理論的な問題にまで考察を深め、理解すること。 ・上記のプロセスの中で自らの体験としての教育を相対化し、「教育の本質とはなにか？」という問いに向き合うこと。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、ワークシートの記入などを含む授業中の活動と中間レポート、学期末レポートをもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。			
履修に際しての注意事項	講義科目ではあるが知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III		○					
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 西平直 『教育人間学のために』 東京大学出版会 プラトン 『メノン』 岩波文庫 中岡哲郎 『教師と生徒』 三一新書 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-受講生の教育経験についての調査-
事前	自分が受けてきた教育について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育の原理における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	教育とは何か？-教育の目的と本質-
事前	「何のために教育を行うのか？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したディスカッション課題についての文章(シング牧師の日記)を読んで自分の考えをノート等にまとめておく。(150分)

3	学びと学校
事前	学校についての自分なりのイメージや経験を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した脱学校論をめぐる教育学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	教えることと学ぶこと
事前	教えることと学ぶことの関係についての自分なりのイメージをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教えることと学ぶことをめぐる教育学的な論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

5	教育の歴史①-ソクラテスの無知の知と教育-
事前	ソクラテスの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したソクラテスの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

6	教育の歴史②−プラトンの理想国家と教育−
事前	プラトンの人物像や思想、ソクラテスとの関係について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したプラトンの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

7	教育の歴史③−近代の教育思想(ロックからフレーベルまで)と近代教育制度−
事前	ルソーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した近代の教育思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

8	教育の歴史④−家庭と仕事の関係の変質、デューイの教育学−
事前	デューイの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したデューイの教育思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、中間レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

9	教育の歴史⑤−新教育、デューイと民主主義の教育−
事前	新教育について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したデューイやデューイの影響を受けた新教育の思想をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	子ども観と家庭の社会史

事前	「子ども」という存在について自分のイメージするところをノート等にまとめておく。（90分）
事後	授業で提示した子ども観の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	教育と市場
事前	「競争によって教育はよくなるか？」という問いに対する自分なりの考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と市場、公共性をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

12	教育と権力−近代の教育装置としての学校−
事前	「権力」という言葉で自分のイメージするところをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と市場、公共性をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

13	教育と子どもの自由について−A.S.ニイルの自由学校、ヴィゴツキ−の遊び論を中心に−
事前	「自由」という言葉で自分のイメージするところをまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と自由をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

14	反省的実践家としての教師（保育者）
事前	「教師(保育者)の専門性とは何か？」という問いに対する自分なりの考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した教育と自由をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

15	現代社会と教育
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した現代社会における教育をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、期末レポートに向けた準備や執筆作業を進めておく。(150分)

2020/07/16(木)10:37

科 目 名	特別支援保育論 [子]			授業コード	4180042
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関する キーワード	ノーマライゼーション、人権、社会モデル

到達目標	・特別の支援を必要とする子どもの保育に関する歴史的変遷や、制度の理念と仕組み、障害観の歴史的変遷やバリエーションを理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの特性、心身の発達を理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援の方法を理解すること。 ・特別の支援を必要とする子どもの事例を通して、子どもに対する理解を関係の中で絶えず新たにしていくことの必要性について認識すること。			
授業の概要	「障害」というカテゴリーは歴史的、社会的状況の中でその意味や位置づけが変化してきた。特別の支援を必要とするをもつ子どもの保育、教育に携わることはこうした歴史的、社会的背景を理解した上で、子どもがよりよく生きていくことができるように子ども個人に働きかけるだけでなく、インクルーシブな社会のビジョンを思い描いていくことでもある。 本授業では障害児保育の歴史や心理学等の学問の中で障害がどのように理解されてきたかを学ぶ中で、「障害」観の変遷やバリエーションについて学ぶ。また、特別の支援を必要とする子どもの特性について学び、支援の方法を学ぶ。さらに、関係論的な視点から時には既存の枠組みにとらわれず、子どもと一人の人間としてかかわっていくことの必要性についても適宜事例を紹介しながら考えていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法 及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、リアクションシートの記入などを含む授業中の活動と授業内小テスト、学期末レポートをもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、2回の小テストについては授業内でつまずきの多かった問題について解説を加える。			
履修に際しての 注意事項	受講者自身が考え、学び合っていくことを重視し、グループワークを毎回取り入れていく。積極的な参加を期待したい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	L.ヴィゴツキー『障害児教育論集』新読書社 N.グロース『みんなが手話で話した島』築地書館 阿部五月 他『障害児保育』萌文書林 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-特別の支援を必要とする子どもの保育とは何か-
事前	特別な支援を必要とする子どもに対する自分のイメージについてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育論における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	障害とは何か？-みんなが手話で話した島と関係論的障害観-
事前	「障害とは何か？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した社会モデルの障害観に関する論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(1)-セグリゲーションからインテグレーションへ-
事前	特別支援教育におけるインテグレーションという言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(2)-インクルージョンの時代-
事前	特別支援教育におけるとインクルージョンいう言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

5	現代日本の特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念
事前	特殊教育と特別支援教育の違いについて調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

6	関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成
事前	特別の支援を必要とする子どもの個別の支援計画について調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

7	通級による指導・自立活動　小テスト(1)
事前	小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(90分)
事後	授業で提示した通級による指導・自立活動をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

8	心理学から見た障害-ヴィゴツキーの心理学を中心に-
事前	ヴィゴツキーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーの心理学と障害観、障害のある子どもへの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

9	障害の特性と支援の方法(1)-視覚障害、聴覚障害、言語障害-
事前	視覚障害、聴覚障害、言語障害について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した視覚障害、聴覚障害、言語障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	障害の特性と支援の方法(2)-肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害-
事前	肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)

事後	授業で提示した肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	障害の特性と支援の方法(3)-自閉症スペクトラム症-
事前	自閉症スペクトラム症について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した自閉症スペクトラム症をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

12	障害の特性と支援の方法(4)-注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)-
事前	注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

13	障害はないが特別のニーズを持つ子どもの保育
事前	障害はないが特別のニーズを持つ子どもについて調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	障害はないが特別のニーズを持つ子どもをめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

14	療育と保育をめぐる問題、小テスト(2)
事前	小テスト(2)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(90分)
事後	療育と保育ををめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

15	授業のまとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した現代社会における教育を特別支援保育をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2020/07/16(木)20:56

科 目 名	特別支援保育論 [子]			授業コード	4180052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	ノーマライゼーション、人権、社会モデル

到達目標	・特別の支援を必要とする子どもの保育に関する歴史的変遷や、制度の理念と仕組み、障害観の歴史的変遷やバリエーションを理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの特性、心身の発達を理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援の方法を理解すること。 ・特別の支援を必要とする子どもの事例を通して、子どもに対する理解を関係の中で絶えず新たにしていくことの必要性について認識すること。			
授業の概要	「障害」というカテゴリーは歴史的、社会的状況の中でその意味や位置づけが変化してきた。特別の支援を必要とするをもつ子どもの保育、教育に携わることはこうした歴史的、社会的背景を理解した上で、子どもがよりよく生きていくことができるように子ども個人に働きかけるだけでなく、インクルーシブな社会のビジョンを思い描いていくことでもある。 本授業では障害児保育の歴史や心理学等の学問の中で障害がどのように理解されてきたかを学ぶ中で、「障害」観の変遷やバリエーションについて学ぶ。また、特別の支援を必要とする子どもの特性について学び、支援の方法を学ぶ。さらに、関係論的な視点から時には既存の枠組みにとらわれず、子どもと一人の人間としてかかわっていくことの必要性についても適宜事例を紹介しながら考えていく。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、リアクションシートの記入などを含む授業中の活動と授業内小テスト、学期末レポートをもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、2回の小テストについては授業内でつまずきの多かった問題について解説を加える。			
履修に際しての注意事項	受講者自身が考え、学び合っていくことを重視し、グループワークを毎回取り入れていく。積極的な参加を期待したい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	L.ヴィゴツキー『障害児教育論集』新読書社 N.グロース『みんなが手話で話した島』築地書館 阿部五月 他『障害児保育』萌文書林 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-特別の支援を必要とする子どもの保育とは何か-
事前	特別な支援を必要とする子どもに対する自分のイメージについてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育論における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	障害とは何か？-みんなが手話で話した島と関係論的障害観-
事前	「障害とは何か？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した社会モデルの障害観に関する論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(1)-セグリゲーションからインテグレーションへ-
事前	特別支援教育におけるインテグレーションという言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(2)-インクルージョンの時代-
事前	特別支援教育におけるとインクルージョンいう言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

5	現代日本の特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念
事前	特殊教育と特別支援教育の違いについて調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

6	関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成
事前	特別の支援を必要とする子どもの個別の支援計画について調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

7	通級による指導・自立活動　小テスト(1)
事前	小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(90分)
事後	授業で提示した通級による指導・自立活動をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

8	心理学から見た障害-ヴィゴツキーの心理学を中心に-
事前	ヴィゴツキーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーの心理学と障害観、障害のある子どもへの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

9	障害の特性と支援の方法(1)-視覚障害、聴覚障害、言語障害-
事前	視覚障害、聴覚障害、言語障害について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した視覚障害、聴覚障害、言語障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	障害の特性と支援の方法(2)-肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害-
事前	肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)

事後	授業で提示した肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	障害の特性と支援の方法(3)-自閉症スペクトラム症-
事前	自閉症スペクトラム症について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した自閉症スペクトラム症をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

12	障害の特性と支援の方法(4)-注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)-
事前	注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

13	障害はないが特別のニーズを持つ子どもの保育
事前	障害はないが特別のニーズを持つ子どもについて調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	障害はないが特別のニーズを持つ子どもをめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

14	療育と保育をめぐる問題、小テスト(2)
事前	小テスト(2)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(90分)
事後	療育と保育ををめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

15	授業のまとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した現代社会における教育を特別支援保育をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2020/07/16(木)10:55

科 目 名	保育内容（環境I） [子]			授業コード	4180061
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	環境を通した教育、子どもが経験する環境、自己充実、環境構成

到達目標	・保育における環境を子どもがいかにそれを経験するかという視点から考えることができるようになる。 ・子どもによる環境の経験を充実させるという観点から保育者のあり方を考えることができるようになる。 ・保育の実践事例や保育現場の環境構成の事例を通して具体的な環境構成の方法について考えることができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(2)、C-2(4)、D-2(1)(2)(3)(5)(6)、D-3(1)～(5)】			
授業の概要	幼児教育において「環境を通して行う教育」という表現が通例化して用いられている。この表現には保育者の願いや意図を環境を通して実現するという意味合いも込められているが、保育における環境は第一義的には子ども自身によって経験され、意味を与えられるものであると言える。保育者の環境構成に込める教育的意図や価値も子どもにとっての環境の意味を踏まえて初めて意味をもつ。 そこで、本授業においても子どもの側から環境の意味を考えることが主たる方針となる。子どもがそれをいかに経験するかという観点から実践事例や文献の検討を通して保育における環境の問題について考えていく。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。また、グループ研究と発表を行う（全3回）。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、ワークシートの記入などを含む授業中の活動(45%)、グループ研究発表(25%)、学期末レポート(30%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、グループ研究発表についてその場で口頭でコメントする。			
履修に際しての注意事項	受講者自身が考え、学び合っていくことを重視し、グループワークを毎回取り入れていく。積極的な参加を期待したい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III				○			
IV							

V	○						

テキスト1	厚生労働省『平成29年告示保育所保育指針解説』	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館　2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館　2018年 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション/ 領域「環境」の位置づけ
事前	5領域について『幼稚園教育要領解説』を利用して調べ、内容をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した保育内容(環境Ⅰ)における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

2	環境の中で生き、学ぶということ
事前	子どもの頃に好きだった場所や物について振り返り、ノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した生きられる空間としての環境についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

3	保育環境の中での子どもの経験とその評価
事前	『幼稚園教育要領解説』のp28～32を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した保育環境の中での子どもの経験とその評価についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

4	子どもの側から環境の意味を考えるとはどのようなことか(1)　人的環境としての保育者
事前	『幼稚園教育要領解説』のp45～49を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した人的環境としての保育者の役割についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

5	子どもの側から環境の意味を考えるとはどのようなことか(2)　園が子どもの居場所となること
事前	『幼稚園教育要領解説』のp10～17を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した園が子どもの居場所となることやそのための保育者の環境構成の重要性についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

6	保育理念を表現した環境構成の事例
事前	『幼稚園教育要領解説』のp41～44を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した保育理念を表現する環境構成についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

7	子どもと自然-生命とのかかわりの事例-
事前	『幼稚園教育要領解説』のp193～199を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した子どもと自然のかかわりついての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

8	砂場における子どもの遊びと学び
事前	自身の砂場遊びについての経験を振り返り、ノート等にまとめておく。(45分)
事後	授業で提示した子どもの発達における砂場遊びの役割についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

9	子どもと文字、数量、図形
事前	『幼稚園教育要領解説』のp68,69,203.204を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した子どもと文字、数量、図形とのかかわりについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(75分)

10	子ども自身が創り上げる環境

事前	『幼稚園教育要領解説』のp68,69,203.204を読み、要点をノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した子ども自身が創り上げる環境についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、グループ研究発表にむけた準備、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

11	海外の保育環境に学ぶ
事前	日本の子どもを取り巻く環境の特徴について自分なりに考え、ノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した海外の保育環境についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、グループ研究発表にむけた準備、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

12	環境としての文化
事前	「文化とは何か？」について自分なりの考えをノート等にまとめる。(45分)
事後	授業で提示した文化としての環境についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、グループ研究発表にむけた準備、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

13	グループ研究準備
事前	グループ研究発表に向けてグループメンバーで集まり、『幼稚園真諦』の読み合わせをしておく。(45分)
事後	グループ研究発表のための資料を作成する。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

14	グループ研究発表前半-環境を通して行う教育とは何か-
事前	グループ研究発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(45分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

15	グループ研究発表後半-環境を通して行う教育とは何か-、授業のまとめ
事前	グループ研究発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(45分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(75分)

2020/07/16(木)20:49

科 目 名	保育方法の研究/幼児教育方法論 [子]			授業コード	4180072
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	保育の目的と方法、副産物、子ども理解
到達目標	・保育の具体的な方法及び技術について、保育者の抱く目的との関係において理解することができること。 ・保育者の目的を背景として用いられる教育・保育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)が、子どもの遊びと成長にどのように寄与するかを保育者の目的を越える点まで含めて考えることができること。 ・他者の考えに触れることで、保育の目的と方法、子どもの遊びと成長について複眼的な視点を獲得することができること。また、保育者として同僚とともに育ち合うための基礎を養うことができること。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(2)(3)(4)、B-3(1)～(6)、C-2(4)、D-2(1)(2)(3)(5)(6)、D-3(1)～(5)、D-4(1)～(3)】
授業の概要	方法という語のギリシア語における語源は「道に沿って」という意味である。道には向かうべき目的がある。保育の方法について考えることは、保育者の抱く目的について考えることと不可分の営みである。 また、保育の目的と方法を考える上では対象である子どもの理解が不可欠である。そして子どもの遊びと成長が一人ひとり固有のものである限り、保育方法の実践は対象である子どもに対して保育者の目的には回収しきれない副産物を必ず生み出すことになる。 本授業では文献や実践事例の検討を通して、保育方法、技術を保育者の目的、保育の場における子どもの遊びと成長とともに理解していくことを目指す。このことを通して、受講生が保育の目的、方法、対象(子ども)の関連性に対して自覚的になり、反省的実践のための基礎を養うことを目指す。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。また、グループ研究と発表を行う（全9回）。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、グループ研究への取り組み、ワークシートの記入、などを含む授業中の活動(50%)と中間レポート(30%)学期末レポート(20%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、グループ研究については口頭で授業内にコメントする。			
履修に際しての注意事項	知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V	○	○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	実習体験を振り返り、自らが実践した保育方法についてノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した保育方法の研究における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	様々な保育理論とその実践
事前	これまでに学んだ保育理論について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した様々な保育理論とその実践 についての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	子どもの自由な遊びについて考える(1)-見守りと環境への配慮-
事前	保育実践において子どもの自由な遊び、活動を尊重することの意義について自分の考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの自由な遊びについての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	子どもの自由な遊びについて考える(2)-自由な遊びが子どもにもたらすもの-
事前	保育実践において子どもの遊びを見守ることの意義について自分の考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	中間レポートのための課題文書を読み、執筆計画を立てておく。(150分)

5	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(1) きっかけづくりとしての援助
事前	『幼稚園教育要領解説』のp33～40を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの遊びの広がりと深まりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

6	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(2) 臨機応変に判断する
事前	『幼稚園教育要領解説』のp45～49を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの遊びの広がりと深まりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

7	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(150分)

8	子ども同士の関係づくりを援助する(1) 環境を通して
事前	『幼稚園教育要領解説』のp10～13を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもを同士の関係づくりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

9	子ども同士の関係づくりを援助する(2) 子どもとともに葛藤する保育者
事前	『幼稚園教育要領解説』のp182～192を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
	授業で提示した子どもを同士の関係づくりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまと

事後	め、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

10	子ども同士の関係づくりを援助する(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。(150分)

11	園生活に困難を抱える子どもの援助(1) 子どもの背景を踏まえる
事前	実習経験等を踏まえ、友だちに手が出てしまったり感情の制御が難しい子どもに出会ったときの保育者のかかわり方について、自分なりの考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した園生活に困難を抱える子どもの援助についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。(150分)

12	園生活に困難を抱える子どもの援助(2) 子どもにとって今、大切にしたい経験を考える
事前	実習経験等を踏まえ、気持ちを言葉にすることが難しく、孤立しがちな子どもに対する保育者のかかわり方について、自分なりの考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した園生活に困難を抱える子どもの援助についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。(150分)

13	園生活に困難を抱える子どもの援助(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

14	障がいのある子どもの保育
事前	『幼稚園教育要領解説』のp124～128を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した障害のある子どもの保育 についての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

15	まとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

2020/07/16(木)21:19

科 目 名	保育方法の研究/幼児教育方法論 [子]			授業コード	4180082
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	保育の目的と方法、副産物、子ども理解
到達目標	・保育の具体的な方法及び技術について、保育者の抱く目的との関係において理解することができること。 ・保育者の目的を背景として用いられる教育・保育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)が、子どもの遊びと成長にどのように寄与するかを保育者の目的を越える点まで含めて考えることができること。 ・他者の考えに触れることで、保育の目的と方法、子どもの遊びと成長について複眼的な視点を獲得することができること。また、保育者として同僚とともに育ち合うための基礎を養うことができること。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(2)(3)(4)、B-3(1)～(6)、C-2(4)、D-2(1)(2)(3)(5)(6)、D-3(1)～(5)、D-4(1)～(3)】
授業の概要	方法という語のギリシア語における語源は「道に沿って」という意味である。道には向かうべき目的がある。保育の方法について考えることは、保育者の抱く目的について考えることと不可分の営みである。 また、保育の目的と方法を考える上では対象である子どもの理解が不可欠である。そして子どもの遊びと成長が一人ひとり固有のものである限り、保育方法の実践は対象である子どもに対して保育者の目的には回収しきれない副産物を必ず生み出すことになる。 本授業では文献や実践事例の検討を通して、保育方法、技術を保育者の目的、保育の場における子どもの遊びと成長とともに理解していくことを目指す。このことを通して、受講生が保育の目的、方法、対象(子ども)の関連性に対して自覚的になり、反省的実践のための基礎を養うことを目指す。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。また、グループ研究と発表を行う（全9回）。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、グループ研究への取り組み、ワークシートの記入、などを含む授業中の活動(50%)と中間レポート(30%)学期末レポート(20%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、グループ研究については口頭で授業内にコメントする。			
履修に際しての注意事項	知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							

V	○	○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	実習体験を振り返り、自らが実践した保育方法についてノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した保育方法の研究における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	様々な保育理論とその実践
事前	これまでに学んだ保育理論について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した様々な保育理論とその実践 についての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	子どもの自由な遊びについて考える(1)-見守りと環境への配慮-
事前	保育実践において子どもの自由な遊び、活動を尊重することの意義について自分の考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの自由な遊びについての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	子どもの自由な遊びについて考える(2)-自由な遊びが子どもにもたらすもの-
事前	保育実践において子どもの遊びを見守ることの意義について自分の考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	中間レポートのための課題文書を読み、執筆計画を立てておく。(150分)

5	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(1) きっかけづくりとしての援助
事前	『幼稚園教育要領解説』のp33～40を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの遊びの広がりと深まりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

6	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(2) 臨機応変に判断する
事前	『幼稚園教育要領解説』のp45～49を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもの遊びの広がりと深まりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

7	子どもの遊びの広がりと深まりを援助する(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく。(150分)

8	子ども同士の関係づくりを援助する(1) 環境を通して
事前	『幼稚園教育要領解説』のp10～13を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した子どもを同士の関係づくりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

9	子ども同士の関係づくりを援助する(2) 子どもとともに葛藤する保育者
事前	『幼稚園教育要領解説』のp182～192を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
	授業で提示した子どもを同士の関係づくりを援助することについての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまと

事後	め、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。また、中間レポートに向けた準備、執筆作業を進めておく(150分)

10	子ども同士の関係づくりを援助する(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。(150分)

11	園生活に困難を抱える子どもの援助(1) 子どもの背景を踏まえる
事前	実習経験等を踏まえ、友だちに手が出てしまったり感情の制御が難しい子どもに出会ったときの保育者のかかわり方について、自分なりの考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した園生活に困難を抱える子どもの援助についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。(150分)

12	園生活に困難を抱える子どもの援助(2) 子どもにとって今、大切にしたい経験を考える
事前	実習経験等を踏まえ、気持ちを言葉にすることが難しく、孤立しがちな子どもに対する保育者のかかわり方について、自分なりの考えをノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した園生活に困難を抱える子どもの援助についての論点やディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。担当グループのメンバーは発表に向けた準備を行う。(150分)

13	園生活に困難を抱える子どもの援助(3) グループ発表
事前	グループ発表のための打ち合わせや各自の役割の確認をしておく。(90分)
事後	クラスメートや教員からのフィードバックをもとにグループ研究発表の振り返りをしておく。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

14	障がいのある子どもの保育
事前	『幼稚園教育要領解説』のp124～128を読み、要点をノート等にまとめる。(90分)
事後	授業で提示した障害のある子どもの保育 についての論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

15	まとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	最終レポートに向けた準備、執筆作業を行う。(150分)

2020/07/16(木)21:34

科 目 名	障害児保育I [子]			授業コード	4180092
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	ノーマライゼーション、人権、社会モデル

到達目標	・特別の支援を必要とする子どもの保育に関する歴史的変遷や、制度の理念と仕組み、障害観の歴史的変遷やバリエーションを理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの特性、心身の発達を理解すること。 ・障害の有無にかかわらず、特別の支援を必要とする子どもの教育課程及び支援の方法を理解すること。 ・特別の支援を必要とする子どもの事例を通して、子どもに対する理解を関係の中で絶えず新たにしていくことの必要性について認識すること。			
授業の概要	「障害」というカテゴリーは歴史的、社会的状況の中でその意味や位置づけが変化してきた。特別の支援を必要とするをもつ子どもの保育、教育に携わることはこうした歴史的、社会的背景を理解した上で、子どもがよりよく生きていくことができるように子ども個人に働きかけるだけでなく、インクルーシブな社会のビジョンを思い描いていくことでもある。 本授業では障害児保育の歴史や心理学等の学問の中で障害がどのように理解されてきたかを学ぶ中で、「障害」観の変遷やバリエーションについて学ぶ。また、特別の支援を必要とする子どもの特性について学び、支援の方法を学ぶ。さらに、関係論的な視点から時には既存の枠組みにとらわれず、子どもと一人の人間としてかかわっていくことの必要性についても適宜事例を紹介しながら考えていく。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回の授業でグループワークを取り入れる。
評価方法及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、リアクションシートの記入などを含む授業中の活動(45%)と授業内小テスト(40%)、学期末レポート(15%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。また、2回の小テストについては授業内でつまずきの多かった問題について解説を加える。			
履修に際しての注意事項	受講者自身が考え、学び合っていくことを重視し、グループワークを毎回取り入れていく。積極的な参加を期待したい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	L.ヴィゴツキー『障害児教育論集』新読書社 N.グロース『みんなが手話で話した島』築地書館 阿部五月 他『障害児保育』萌文書林 その他、授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション-特別の支援を必要とする子どもの保育とは何か-
事前	特別な支援を必要とする子どもに対する自分のイメージについてノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した特別支援保育論における授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

2	障害とは何か？-みんなが手話で話した島と関係論的障害観-
事前	「障害とは何か？」という問いに対する自分の考えをノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した社会モデルの障害観に関する論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

3	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(1)-セグリゲーションからインテグレーションへ-
事前	特別支援教育におけるインテグレーションという言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

4	特別の支援を必要とする子どもの保育の歴史(2)-インクルージョンの時代-
事前	特別支援教育におけるとインクルージョンいう言葉の意味や背景について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した特別支援保育の歴史をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(30分)

5	現代日本の特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念
事前	特殊教育と特別支援教育の違いについて調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した特別の支援を必要とする子どもの保育に関する制度と理念をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(30分)

6	関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成
事前	特別の支援を必要とする子どもの個別の支援計画について調べてノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した関係機関、家庭と連携した支援・個別の支援計画の作成をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(30分)

7	通級による指導・自立活動　小テスト(1)
事前	小テスト(1)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(30分)
事後	授業で提示した通級による指導・自立活動をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

8	心理学から見た障害-ヴィゴツキーの心理学を中心に-
事前	ヴィゴツキーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーの心理学と障害観、障害のある子どもへの教育論をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

9	障害の特性と支援の方法(1)-視覚障害、聴覚障害、言語障害-
事前	視覚障害、聴覚障害、言語障害について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した視覚障害、聴覚障害、言語障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

10	障害の特性と支援の方法(2)-肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害-
事前	肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した肢体不自由、重症心身障害児、医療的ケア児、知的障害をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

11	障害の特性と支援の方法(3)-自閉症スペクトラム症-
事前	自閉症スペクトラム症について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した自閉症スペクトラム症をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

12	障害の特性と支援の方法(4)-注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)-
事前	注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

13	障害はないが特別のニーズを持つ子どもの保育
事前	障害はないが特別のニーズを持つ子どもについて調べ、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	障害はないが特別のニーズを持つ子どもをめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

14	療育と保育をめぐる問題、小テスト(2)
事前	小テスト(2)に向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(30分)
事後	療育と保育ををめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

15	授業のまとめ
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(30分)
事後	授業で提示した現代社会における教育を特別支援保育をめぐる論点と、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(30分)

2020/07/16(木)21:23

科 目 名	学習心理学 [子]			授業コード	4180102
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関する キーワード	学び、行動、意味、動機、コミュニケーション

到達目標	・様々な学習心理学のアプローチについて、それぞれの利点と限界を理解し、学習という複雑なプロセスを理解するための基礎を養うことができること。 ・それぞれのアプローチを教育や心理臨床の実践に活かすための課題と方策について理解することができること。 【「履修ファイル」の対応項目：A-4(3),B-1(1)】			
授業の概要	1+1=2であることはほとんどの人が理解しているであろうが、1+1=2であることをどのように自分が学んだかを理解している人は少ないだろう。人が何かを学習するということは複雑で入り組んだプロセスであり、それを学問として科学的に解明するための道はまだ端緒についたばかりと言える。 本授業ではこの学習プロセスの解明という困難な課題に挑戦した心理学的研究を古典的なアプローチから、現代のアプローチまで取り上げて検討していく。人間の学習プロセスを解明する上でそれぞれのアプローチが持っている利点とともに限界も検討し、学習というプロセスを深く理解するための基礎を養う。また、具体的な事例をもとにそれぞれのアプローチを教育や心理臨床の実践に活かすための課題と方策についても考えていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	受講生の人数によるが、毎回の授業でグループワークを取り入れる予定である。受講生が2名の時にはペアでのディスカッションを、1名の時には教員とのディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	グループワークへの参加、リアクションシートの記入などを含む授業中の活動(45%)と授業内テスト(40%)、学期末レポート(15%)をもとに評価する。		
フィードバック	毎回の授業におけるワークシートは提出を課し、適宜コメントやポイントとなる記述にアンダーラインを付すなどして返却する。			
履修に際しての 注意事項	講義科目ではあるが知識の獲得よりは受講者自身が毎回のトピックについて考え、学び合うことを重視する。そのため、毎回の授業にグループワークを設ける。積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	内田樹 『先生はえらい』 ちくまプリマー新書 ピーター・グレイ 『遊びが学びに欠かせないわけ 自立した学び手を育てる』築地書館 G.シュタイナー 『新しい学習心理学 その臨床的適用』 北大路書房 波多野誼余夫・稲垣佳世子 『人はいかに学ぶか 日常的認知の世界』 中公新書 波多野誼余夫・稲垣佳世子 『知的好奇心』 中公新書 その他、授業内でその都度提示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	「学習」という言葉でイメージするところをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したにおける学習心理学の授業の目的や概要、ディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

2	学習とは何か？
事前	自分自身が何かを深く学んだ経験について振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した学びをめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

3	学習(学び)の多様性
事前	意図せずに何かを学んだ経験について、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したと多様な学びとディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

4	行動の変化としての学習(1) -古典的条件付け-
事前	古典的条件付けについて、自分なりに調べてノートにまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した古典的条件付けをめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

5	行動の変化としての学習(2)-道具的条件付け-
事前	道具的条件付けについて自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した道具的条件付けをめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

6	学習の動機(1)-外発的動機づけと内発的動機づけ-
事前	どのような時に自分は学びたいという動機が生まれるか、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した外発的動機付けと内発的動機付けをめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

7	学習の動機(2)-学習性無力感-
事前	無気力になり、何をしても無駄だと感じるときのことについてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した学習性無気力をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

8	ヴィゴツキーの心理学における学習(1)-関係から個人へ-
事前	ヴィゴツキーの人物像や思想について自分なりに調べてノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーの文化的発達の理論をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

9	ヴィゴツキーの心理学における学習(2)-発達の最近接領域と言語的思考の発達-
事前	発達の最近接領域の概念について自分なりに調べ、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーの発達の最近接領域と言語的思考の発達をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

10	ヴィゴツキーの心理学における学習(3)-遊びと学習、発達-
事前	遊びと学習(学び)の関係について、自分の考えをノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示したヴィゴツキーのを遊び論と学習との関係をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。(150分)

11	参加としての学習(1)-獲得メタファーと参加メタファー-
事前	アルバイト等でコミュニティーの新参者から古参者へと移行した経験について、その間の自分の学びの内容とともに振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した学習の獲得メタファーと参加メタファーめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、確認のテストに向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

12	参加としての学習(2)-状況に埋め込まれた学習-
事前	状況に埋め込まれた学習の概念について、自分なりに調べてまとめておく。(90分)
事後	授業で提示しためぐる状況に埋め込まれた学習をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。また、確認のテストに向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

13	学習の転移
事前	学校で学んだことが学校外の生活で活かされた経験、活かされなかった経験について振り返ってまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した学習の転移をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。学期末レポートに向けた準備、及び執筆活動を行っておく。また、確認のテストに向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

14	言葉を学習するということ
事前	幼児期の言葉の学習について、自分なりに調べてまとめておく。(90分)
事後	授業で提示した幼児期の言葉の学習をめぐる論点とディスカッション課題に関する振り返りをノート等にまとめ、振り返る。学期末レポートに向けた準備、及び執筆活動を行っておく。また、確認のテストに向けてこれまでの授業内容を復習しておく。(150分)

15	確認のテスト及び授業の総括
事前	これまでの授業内容を振り返り、ノート等にまとめておく。(90分)
事後	確認のテストの結果、理解が曖昧であった部分について、復習してノート等にまとめておく。また、学期末レポートに向けた準備、及び執筆活動を行っておく。(150分)

2020/07/16(木)20:39

科 目 名	専門演習 [子]			授業コード	4180110
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関するキーワード	個人研究テーマ、発表、学び合い、ゼミ論文
到達目標	・何かに関心を持ち、こだわり、問いを立てて探求すること。 ・探求のプロセスを通して、それまでの自分とは違う視点で社会が見えるようになること。 ・仲間の研究に関心を向け、仲間から学んだことを自分の学びに活かすことができるようになること。 ・ 総じて学び上手な人間となるための習慣の獲得。
授業の概要	各自が自由に研究の問いとテーマを設定し、ゼミ論の執筆に向けて研究を進める。演習の主役は学生である。受講生一人ひとりが個人研究テーマを持ち、自分の仲間に研究成果を発表すること、仲間の研究テーマを聞き、質問やコメントをする中で仲間とともに学びあうことを主たる活動とする。 担当教員の専門は教育学であり、研究テーマは教育や保育にかかわるものであることが望ましいが、受講生の関心に応じて直接、教育、保育とリンクしないものも歓迎する。教育、保育が文化を創造し、継承する人間の営みである以上、いかなるテーマも深いレベルで教育、保育とつながるはずである。
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○	毎回の授業が学生による個人研究テーマを題材としたプレゼンテーションとディスカッションによって行われる。
評価方法及び評価基準	レポート	個人研究テーマに基づく半期に2回程度（年間で4回程度）の発表やディスカッションへの参加(55%)、最終レポート(ゼミ論)(45%)をもとに評価する。
フィードバック	学生の発表に対してはその場で内容や今後の研究の進め方について口頭でフィードバックを行う。	
履修に際しての注意事項	本演習内では普段の友人関係とは別の、ともに学び、高め合うことができるような学びでつながる関係を築きたい。普段の仲が良い、悪いにかかわらず、受講生同士で互いの学びに関心を持ち、支え合いながら演習計画を練り上げ、実践に移していくことを求める。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III				○			
IV							○

V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	演習全体としての参考文献はないが、各自の研究テーマに応じて自分で収集する。また、必要に応じて教員より助言する。共通文献として、以下を使用することを検討している。 ヨーラン・スバリネッド 他著『スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む: 日本の大学生は何を感じたのか』新評論 2016年 アーネ・リンドクウィスト 他著『あなた自身の社会—スウェーデンの中学教科書』新評論 1997年 文部科学省著 『民主主義』 角川ソフィア文庫	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	前期、後期ともに初回の授業で半期の計画を立て、必要に応じて修正しながら進めていく。前期はそれぞれの研究テーマの確定が最初の課題となる。個人面談等も実施しながら研究テーマを決めていく(研究を進めていく中での修正、変更はあり)。その後、発表順を決め、週に2人程度のペースで発表とディスカッションを行う。教育学の共通文献を用いた研究も何回か取り入れる予定。年間で3回程度、その他受講生の必要に応じて、研究内容や計画について相談するための個人面談の機会を設ける。 参考までに過去の受講生の研究テーマを例示する。 「子どもと悪の関係に関する研究」、「アニメとジェンダー意識の関係に関する研究」、「自由教育を行う学校の研究」、「スローフードの研究」、「子どもの絵に用いられる色の意味の研究」etc
事前	半期に2回程度の自分の発表に向けて準備をしておく。一回の授業につき、30分程度が目安となる。
事後	授業でのディスカッションの内容を踏まえ、個人研究を進めていく。最終評価はゼミ論文で行うため、それに向けた準備、執筆作業を行う。一回の授業につき、30分程度が目安となる。

2020/07/16(木)22:35

科 目 名	保育インターンシップ [子]			授業コード	4180133
副 題					
開講期	集中	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	吉國 陽一				

科目に関する キーワード	職業体験、子ども理解、省察
到達目標	・自身におけるインターンシップの目的を明確にし、社会人としての心構えとマナーを身につけると共に、保育現場における施設の機能や役割、保育者の職務について理解を深め、実際の就業を具体的にイメージすることができるようになること。 ・保育所や幼稚園などの保育現場における現場での体験を通して、幼児理解を深め、職業としての保育者意識を高めることができること。 【「履修ファイル」の対応項目：C-1(1)(2),C-2(2)～(4),C-3(1)～(5),C-4(1)～(8),D-4(1)～(3)】
授業の概要	インターンシップとは、在学中に将来のキャリアに関連した就業体験をすることであり、本科目「保育インターンシップ」では、保育所・幼稚園でのインターンを行う。これまでの実習で培った経験や知識を活かし、4年次教育実習終了後～約5ヶ月間にわたる長期の現場体験を通して、乳幼児理解、保育理解、職場理解を深め、保育職への実感をしっかりともつことを目的とする。 4月に行う「保育インターンシップ説明会」に参加し、インターンシップ先を決定。教育実習終了後～12月くらいまで週1日、10日以上自分の希望した園で実施する。 大学において事前指導、中間指導、事後指導を行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	中間指導、事後指導は学生による実習における学びのプレゼンテーションとそれに基づくディスカッションによって行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	インターン先の評価70%、レポート20%、授業への取組み10%		
フィードバック	中間指導、事後指導における学生のプレゼンテーションに対してはその場で口頭でコメントする。			
履修に際しての 注意事項	・履修は、将来保育者志望の学生に限る。 ・履修希望者は4月に行う「保育インターンシップ説明会」に必ず出席し、履修の要件を確認すること。 （履修登録は履修登録期間には行わず、説明会参加者で要件を満たす者に対して後日行う。）			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V	○					○	○

テキスト1	『幼稚園教育実習　実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』,田園調布学園大学子ども未来部子ども未来学科	
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1回目：事前指導：保育インターンシップの目的と意義 2回目：事前指導：インターンシップ実施の流れ、書類について 3回目～14回目　各園にて保育インターンシップ実施　/　期間中に中間報告を実施、また必要に応じて個別指導を実施 15回目：事後指導：インターンシップ体験報告 中間報告、事後指導において提出された課題については、授業内でコメントを行う。
事前	インターンシップ先の情報について事前に把握し、ノート等に整理しておく。インターンシップ期間中は前の週の日誌を見返しながら、次回出勤日の目標を立て、日誌に記入する。毎週60分程度が目安となる。
事後	毎回の出勤後に日誌を記入し、保育体験を省察する。毎週60分程度が目安となる。

2020/07/16(木)21:23

科 目 名	基礎演習 [子]			授業コード	4190010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	学びの姿勢と技術・建学の精神・自己と社会へのまなざし
到達目標	1. 充実した学生生活を送るための基本的姿勢を身につける。 ・ 挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。 ・ 自分の心と身体の健康を維持・管理できる。 ・ 提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。 ・ 社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。 2. 建学の精神を知る。 ・ 捨我精進:自分のためでなく、人のために何ができるかを常に考えることができる。 3. 学習の習慣と技術を習得する。 ・ 学業において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。 4. 社会に目を向け、その動きに敏感になる。 ・ 初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。 ・ 保育・教育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見を持つことができる。 5. 保育者に求められる基本的教養を身につける。 ・ 保育職・教育職を自分の将来の職業として意識しながら、学業に励むことができる。
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座(合同実施)と、演習形式で行う講座(個別実施)で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価。 授業中の課題や諸活動への取り組み(50%)、および授業の理解程度(20%)、レポート課題等(30%)を総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で提出した課題・リアクションペーパーなどは、授業において適宜フィードバックし、ポイントについて解説する。			
履修に際しての 注意事項	・ 配付資料等はすべてファイルに保存しておくこと。 ・ 主体的に課題に取り組み、積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						

II	○						
III							
IV						○	
V							

テキスト1	適宜プリントや資料等を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内・日本語テスト〔合同実施〕
事前	シラバス内容を把握し、学ぶことの意味を自分なりに整理すること。(0.5時間)
事後	講義内で得た視点を整理し、周辺の情報収集等を継続すること。(0.5時間)

2	大学生活（時間管理・マナー・ボランティア等）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	卒業までに自己がなすべきことを、多角度から検討すること。(0.5時間)

3	コミュニケーションの理論（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

4	コミュニケーションの技法（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

5	コミュニケーション技術の実践（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

6	図書館ツアー（情報収集　文献・資料の調べ方）
事前	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書資料を見出すこと.。(0.5時間)
事後	実際に図書館を利用し、興味関心のある図書を検索して借出すること。(0.5時間)

7	大学生活（建学の精神・講義とノート）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	ノートの取り方に関して、自分なりに工夫する作業を実施すること(0.5時間)

8	入学前課題を用いたグループ討議と発表
事前	示された課題に関連する情報収集、整理を行うこと。(0.5時間)
事後	事前準備と発表で見えた自らの課題を整理すること。(0.5時間)

9	自己を見つめる（私はなぜこの分野に関心を持ったのか）
事前	入学前と現在の、自身の興味関心の方向や深さの違いについて整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

10	社会に目を向ける（保育・幼児教育・福祉に関する問題）
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を多角的に整理すること。(0.5時間)

11	講演「思春期と性」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

12	地域研究・大学周辺のマップ制作の計画
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

13	地域研究・大学周辺のまち歩き（学外研修）
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

14	地域研究・大学周辺のマップ制作
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

15	地域研究発表会〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らが居住する地域について関心を持ち、その魅力と課題、社会資源の現況について整理すること。(0.5時間)

16	大学生活（GPA）、夏休みのふり返り
事前	夏期休業中における示された課題を整理すること。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションから見えた、後期の自身の課題について整理すること。(0.5時間)

17	異文化理解・「海外研修について」〔合同実施〕
事前	現代日本における多文化共生について、自身の居住地の現況も踏まえて整理すること。(0.5時間)
事後	幼児教育における多文化共生思想の重要性について、自身の考えを整理すること。(0.5時間)

18	チームビルディングの理論と体験
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

19	チームビルディングの実践と発表
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	ワンチームが一つの目標に向かって有機的に取り組むために必要な事柄を、自分なりに整理すること。(0.5時間)

20	講演「DV被害防止について」（外部招聘講師）〔合同実施〕
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

21	ショー&トークの表現方法　聴くことと話すこと
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

22	ディスカッション・ディベートのテーマの選定 グループ討議
事前	自らが興味関心を持つものを複数整理し、他者に対して説明できるようにしておくこと。(0.5時間)
事後	他者が興味関心を示すものに興味関心を示し、チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

23	ディスカッション・ディベート
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	多様な価値観の存在を認識した上でまずは受容し咀嚼し、自らの価値観の幅を広げるよう情報収集に努めること。(0.5時間)

24	研究テーマの選定　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

25	研究レポートの書き方・まとめ方
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

26	研究テーマに基づいた資料・文献の収集　グループ討議
事前	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)
事後	示された課題に関連する情報収集もしくはレポート作成を行うこと。(0.5時間)

27	講演「キャリアプラン」〔合同実施〕

事前	自身の進路選択の動機と、その実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)
事後	自身の進路実現のために必要な事柄を整理すること。(0.5時間)

28	研究テーマに基づいた資料・文献の分析とまとめ グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおける他者の思いや動きを観察し、目標に対して有機的に取り組めるよう整理すること。(0.5時間)

29	研究発表の準備　プレゼンテーションの方法 資料の作成　グループ討議
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)

30	後期学習まとめ・研究発表〔合同実施〕
事前	チームにおいて自分のやるべきことを能動的に見出し、整理すること。(0.5時間)
事後	自らの進路のために必要な準備を、多角的に整理すること。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:08

科 目 名	施設実習指導I [子]			授業コード	4190020
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関するキーワード	施設における保育者の役割、社会的養護、障がい児理解

到達目標	1:実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 2:実習関係書類の作成、施設のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 3:児童福祉施設等における機能や社会的役割について理解し、実習の目的を明確にもつ。 4:実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。			
授業の概要	「施設実習Ⅰ」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、実習の段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成することなど、実習に向けた準備を行う。 また、児童福祉施設等で生活する社会的養護を必要とする子どもや利用者について理解を深めるとともに、実習施設の種別ごとのそれぞれの機能や社会的役割について学習する。 さらに、実習終了後は、事後指導授業を行い、実習を振り返ることにより学びを確かなものにすると同時に、各自の課題を明らかにし、次なる実践や学びにつなげる。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	・リアクションペーパーを使用し、授業での気付き、自己課題の記入を行う。 ・少人数でのグループワークを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加:70%、最終レポート・実習関係書類・課題・実習日誌などの提出状況:30%、などを総合して評価する。		
フィードバック	授業時に提出を課した課題は、授業時及び、授業外で適宜フィードバックする。			
履修に際しての注意事項	「施設実習Ⅰ」につながる教科である。実習と同様、欠席および遅刻を禁ずる。特に、無断欠席は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○	○				
IV							

V					○		

テキスト1	・「施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き」田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 ・「事例を通して学びを深める施設実習ガイド」田中利則監修,ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館,2018 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	施設実習オリエンテーション①ガイダンス・施設実習の意義と概要
事前	シラバスを読み、授業全体の流れを把握しておくこと。(20分)
事後	実習の手引き1・2・4・7章を読み、理解を深めること。(40分)

2	施設実習オリエンテーション②障がい児(者)理解、施設種別に関する説明
事前	教科書第6章を読み、障がい児に関する知識を自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

3	施設実習オリエンテーション③社会的養護についての理解、施設種別に関する説明
事前	教科書第5章を読み、養護系施設に関して自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

4	施設用語における支援の意味について
事前	教科書第1章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

5	実習施設への配属発表、自己課題の設定について
事前	第1～第3回までの授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと。(20分)
事後	配属先の施設に関して調べ、まとめておくこと。(40分)

6	実習施設の概要
事前	個人票・自己課題の下書きの作成をすること。(40分)
事後	個人票の清書をしておくこと。(20分)

7	実習日誌の書き方
事前	実習の手引き第8章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	実習日誌のうち、すでに記入可能な欄を記入していくこと。(40分)

8	児童福祉施設についての理解(講演会)【合同授業】
事前	障がい児施設について理解を深めておくこと。(20分)
事後	講演を聴いてのメモ・感想をまとめておくこと。(40分)

9	記録の意義とその書き方①養護記録の意義、時系列記録
事前	過去に経験した実習の記録(日誌)を振り返っておくこと。(20分)
事後	授業の内容を振り返り、時系列記録の必要性について理解を深めておくこと。(40分)

10	記録の意義とその書き方②各記録様式と記入上の注意点、事例と考察
事前	実習の手引き第8章を読み、自己課題を把握しておくこと。(20分)
事後	授業で扱った事例を振り返り、別の視点からも考察可能かどうか検討すること。(40分)

11	実習施設でのオリエンテーション
事前	実習の手引き第4章を読み、オリエンテーションの意義について自分なりに理解してくること。(20分)
事後	日誌に関して、実習前に記入しておく欄をすべて記入済みであるか確認し、不備のないようにしておくこと。(40分)

12	実習直前指導:実習中・実習後の注意事項、実習に向けての最終確認、実習の評価
事前	実習の手引き第5・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	8～9月の実習に向けて、日誌の作成等、練習を積んでおくこと。(40分)

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	「施設実習Ⅰ」事後指導①実習の振り返り、グループディスカッションとまとめ
事前	実習を振り返り、自己の課題を把握しておくこと。(20分)
事後	グループディスカッションにおけるワークシートの作成をしておくこと。(40分)

17	「施設実習Ⅰ」事後指導②グループディスカッションまとめの発表、実習施設評価と自己評価との比較
事前	グループディスカッションの内容を振り返り全体への発表の準備をしておくこと。(20分)
事後	他のグループの発表を振り返りワークシートの記入をしておくこと。自己評価表の記入をしておくこと。(40分)

18	「施設実習Ⅰ」事後指導③:実習日誌の返却及び講評
事前	自己評価表の記入をし、事前指導を踏まえた実際の実習の内容を振り返っておくこと。(20分)
事後	施設評価と自己評価の照合を踏まえ、自己課題を再確認しておくこと。(40分)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)11:24

科 目 名	施設実習指導I [子]			授業コード	4190030
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	施設における保育者の役割、社会的養護、障がい児理解

到達目標	1:実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 2:実習関係書類の作成、施設のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 3:児童福祉施設等における機能や社会的役割について理解し、実習の目的を明確にもつ。 4:実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。			
授業の概要	「施設実習Ⅰ」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、実習の段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成することなど、実習に向けた準備を行う。 また、児童福祉施設等で生活する社会的養護を必要とする子どもや利用者について理解を深めるとともに、実習施設の種別ごとのそれぞれの機能や社会的役割について学習する。 さらに、実習終了後は、事後指導授業を行い、実習を振り返ることにより学びを確かなものにすると同時に、各自の課題を明らかにし、次なる実践や学びにつなげる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーを使用し、授業での気付き、自己課題の記入を行う。 ・少人数でのグループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加:70%、最終レポート・実習関係書類・課題・実習日誌などの提出状況:30%、などを総合して評価する。		
フィードバック	授業時に提出を課した課題は、授業時及び、授業外で適宜フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	「施設実習Ⅰ」につながる教科である。実習と同様、欠席および遅刻を禁ずる。特に、無断欠席は厳禁とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○	○				
IV							

V					○		

テキスト1	・「施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き」田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 ・「事例を通して学びを深める施設実習ガイド」田中利則監修,ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館,2018 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	施設実習オリエンテーション①ガイダンス・施設実習の意義と概要
事前	シラバスを読み、授業全体の流れを把握しておくこと。(20分)
事後	実習の手引き1・2・4・7章を読み、理解を深めること。(40分)

2	施設実習オリエンテーション②障がい児(者)理解、施設種別に関する説明
事前	教科書第6章を読み、障がい児に関する知識を自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

3	施設実習オリエンテーション③社会的養護についての理解、施設種別に関する説明
事前	教科書第5章を読み、養護系施設に関して自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

4	施設用語における支援の意味について
事前	教科書第1章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

5	実習施設への配属発表、自己課題の設定について
事前	第1～第3回までの授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと。(20分)
事後	配属先の施設に関して調べ、まとめておくこと。(40分)

6	実習施設の概要
事前	個人票・自己課題の下書きの作成をすること。(40分)
事後	個人票の清書をしておくこと。(20分)

7	実習日誌の書き方
事前	実習の手引き第8章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	実習日誌のうち、すでに記入可能な欄を記入していくこと。(40分)

8	児童福祉施設についての理解(講演会)【合同授業】
事前	障がい児施設について理解を深めておくこと。(20分)
事後	講演を聴いてのメモ・感想をまとめておくこと。(40分)

9	記録の意義とその書き方①養護記録の意義、時系列記録
事前	過去に経験した実習の記録(日誌)を振り返っておくこと。(20分)
事後	授業の内容を振り返り、時系列記録の必要性について理解を深めておくこと。(40分)

10	記録の意義とその書き方②各記録様式と記入上の注意点、事例と考察
事前	実習の手引き第8章を読み、自己課題を把握しておくこと。(20分)
事後	授業で扱った事例を振り返り、別の視点からも考察可能かどうか検討すること。(40分)

11	実習施設でのオリエンテーション
事前	実習の手引き第4章を読み、オリエンテーションの意義について自分なりに理解してくること。(20分)
事後	日誌に関して、実習前に記入しておく欄をすべて記入済みであるか確認し、不備のないようにしておくこと。(40分)

12	実習直前指導:実習中・実習後の注意事項、実習に向けての最終確認、実習の評価
事前	実習の手引き第5・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	8～9月の実習に向けて、日誌の作成等、練習を積んでおくこと。(40分)

13	
事前	
事後	

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	「施設実習Ⅰ」事後指導①実習の振り返り、グループディスカッションとまとめ
事前	実習を振り返り、自己の課題を把握しておくこと。(20分)
事後	グループディスカッションにおけるワークシートの作成をしておくこと。(40分)

17	「施設実習Ⅰ」事後指導②グループディスカッションまとめの発表、実習施設評価と自己評価との比較
事前	グループディスカッションの内容を振り返り全体への発表の準備をしておくこと。(20分)
事後	他のグループの発表を振り返りワークシートの記入をしておくこと。自己評価表の記入をしておくこと。(40分)

18	「施設実習Ⅰ」事後指導③:実習日誌の返却及び講評
事前	自己評価表の記入をし、事前指導を踏まえた実際の実習の内容を振り返っておくこと。(20分)
事後	施設評価と自己評価の照合を踏まえ、自己課題を再確認しておくこと。(40分)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)10:36

科 目 名	施設実習指導II [子]			授業コード	4190062
副 題					
開講期		配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	施設の社会的役割、障がい児・者施設の理解、保育者としての専門性
到達目標	【3年次用】 1:実習に必要な心構えや態度、留意点について確認し、実習関係書類等の事前準備を進めながら、実習に向けて意欲を高める。 2:施設種別による養護内容や援助・支援の方法を理解した上で、実習に向けた自己課題を設定する。 3:施設のもつ機能や、社会的役割及び、保育士の職務内容について、より専門的な理解を深める。 【4年次用】 実習を振り返り、自らの学びの成果や反省から自己の課題を明確にする。
授業の概要	【3年次用】 「施設実習Ⅱ」は、「施設実習Ⅰ」などで得た経験をふまえ、さらなる知識や技能の習得後に、より専門的な学びを深めていく。本授業では、実習に臨むにあたっての心構えや知識等を整理し、現場での実践的な学びを十分に得られるよう事前・事後指導を行う。特に事前指導授業では、それぞれの施設が担う養護内容や援助・支援の方法などを十分に理解できるよう、より具体的で実践に即した授業を行う。 【4年次用】 実習終了後の事後指導では、グループディスカッションなどを通して、実習施設という現場での実践から得られた個人の実習経験をより確かなものにしていく。同時に、他の学生と実習経験を共有することによって保育者としての実践力の向上を図るとともに、様々な実践場面での保育士のありようへの理解を深める。
授業方法	演習 / アクティブラーニング: ○ / ・リアクションペーパーを使用し、授業での気付き、自己課題の記入を行う。 ・少人数でのグループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート ディスカッションにおける発言等の授業への参加:70%、最終レポート・実習関係書類・課題・実習日誌などの提出状況:30%、などを総合して評価する。
フィードバック	授業時に提出を課した課題は、授業時及び、授業外で適宜フィードバックする。
履修に際しての 注意事項	「施設実習Ⅱ」につながる教科である。実習同様、欠席及び遅刻は禁ずる。特に、無断欠席は厳禁とする。 本講座は、3年次から4年次にかけて16回実施される。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1	・「施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き」田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 ・「事例を通して学びを深める施設実習ガイド」田中利則監修,ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館,2018 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	施設実習オリエンテーション①施設実習の意義と概要・実習の段階と内容・実習の共通課題
事前	シラバスを読み、授業全体の流れを把握しておくこと。(20分)
事後	実習の手引き第3章を読み、理解を深めること。(40分)

2	施設実習オリエンテーション②:実習施設の種別の理解
事前	実習の手引きp.30の共通課題を頭に入れておくこと。(20分)
事後	授業で学んだ各施設の役割について理解を深めること。(40分)

3	社会的養護が必要な子どもの理解:養護系施設の理解
事前	社会的養護について、教科書第5章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

4	障がいをもつ子どもの理解:障がい児・者施設の理解
事前	教科書第6章を読み、障がい児・者に関する知識を自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

5	施設実習の配属発表、自己課題の設定について
事前	各々の自己課題を考え、授業時に記入できるようにしておくこと。(20分)
事後	配属先の施設に関して調べ、まとめておくこと。(40分)

6	社会的養護の現状と課題について(講演会)【合同授業】
事前	児童養護施設の概要について振り返っておくこと。(20分)
事後	講演会の内容のメモと感想を記入してくること。(40分)

7	実習日誌の書き方:養護記録の意義と書き方
事前	実習の手引き第7章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	個人票の清書をしてくること。養護記録の内容について振り返り、理解を深めること。(40分)

8	実習体験報告会【合同授業】
事前	自分自身の過去の実習を振り返っておくこと。(20分)
事後	報告会での気付き・感想をワークシートに記入すること。(40分)

9	実習施設でのオリエンテーション:事前オリエンテーションに関する注意事項の説明
事前	実習の手引き第4・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	施設でのオリエンテーションに必要な内容をまとめておくこと。(40分)

10	事前学習発表会準備①実習施設種別ごとのグループ別学習
事前	配属先の施設の種類・役割についてまとめておくこと。(20分)
事後	グループで発表する内容について担当箇所の調査を進めておくこと。(40分)

11	事前学習発表会準備②実習施設種別ごとの資料作成
事前	施設種別ごとの資料について情報を収集しておくこと。(20分)
事後	発表に使用する資料を完成させておくこと。(20分)

12	事前学習発表会:グループ別学習成果の発表
事前	各々、発表の準備をすること。(20分)

事後	発表の感想ワークシートの記入をすること。(40分)

13	実習直前指導:実習での留意事項についての確認、実習の評価について
事前	実習の手引き第4・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	2～3月の実習に向けて、日誌の作成等、練習を積んでおくこと。(40分)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	実習事後指導①実習の振り返り、グループディスカッション
事前	実習を振り返り、自己の課題を把握しておくこと。(20分)
事後	グループディスカッションにおけるワークシートの作成をしておくこと。(40分)

17	実習事後指導②:グループディスカッションまとめの発表
事前	グループディスカッションの内容を振り返り、全体への発表の準備をしておくこと。(20分)
事後	発表からの気付き・感想をワークシートに記入しておくこと。(40分)

18	実習事後指導②共通課題と自己課題についてのまとめ、実習の自己評価及び、実習施設の評価と自己評価の比較、実習日誌の返却及び個人面談、講評
事前	自己課題について自分なりに実習の振り返りをしておくこと。(10分)
事後	施設評価と自己評価と併せて、実習を振り返ること。施設実習Ⅰ・Ⅱすべての振り返りを行うこと。(50分)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)11:14

科 目 名	施設実習指導II [子]			授業コード	4190072
副 題					
開講期		配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	施設の社会的役割、障がい児・者施設の理解、保育者としての専門性

到達目標	【3年次用】 1:実習に必要な心構えや態度、留意点について確認し、実習関係書類等の事前準備を進めながら、実習に向けて意欲を高める。 2:施設種別による養護内容や援助・支援の方法を理解した上で、実習に向けた自己課題を設定する。 3:施設のもつ機能や、社会的役割及び、保育士の職務内容について、より専門的な理解を深める。 【4年次用】 実習を振り返り、自らの学びの成果や反省から自己の課題を明確にする。			
授業の概要	【3年次用】 「施設実習Ⅱ」は、「施設実習Ⅰ」などで得た経験をふまえ、さらなる知識や技能の習得後に、より専門的な学びを深めていく。本授業では、実習に臨むにあたっての心構えや知識等を整理し、現場での実践的な学びを十分に得られるよう事前・事後指導を行う。特に事前指導授業では、それぞれの施設が担う養護内容や援助・支援の方法などを十分に理解できるよう、より具体的で実践に即した授業を行う。 【4年次用】 実習終了後の事後指導では、グループディスカッションなどを通して、実習施設という現場での実践から得られた個人の実習経験をより確かなものにしていく。同時に、他の学生と実習経験を共有することによって保育者としての実践力の向上を図るとともに、様々な実践場面での保育士のありようへの理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーを使用し、授業での気付き、自己課題の記入を行う。 ・少人数でのグループワークを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	ディスカッションにおける発言等の授業への参加:70%、最終レポート・実習関係書類・課題・実習日誌などの提出状況:30%、などを総合して評価する。		
フィードバック	授業時に提出を課した課題は、授業時及び、授業外で適宜フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	「施設実習Ⅱ」につながる教科である。実習同様、欠席及び遅刻は禁ずる。特に、無断欠席は厳禁とする。 本講座は、3年次から4年次にかけて16回実施される。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1	・「施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き」田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 ・「事例を通して学びを深める施設実習ガイド」田中利則監修,ミネルヴァ書房	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館,2018 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	施設実習オリエンテーション①施設実習の意義と概要・実習の段階と内容・実習の共通課題
事前	シラバスを読み、授業全体の流れを把握しておくこと。(20分)
事後	実習の手引き第3章を読み、理解を深めること。(40分)

2	施設実習オリエンテーション②:実習施設の種別の理解
事前	実習の手引きp.30の共通課題を頭に入れておくこと。(20分)
事後	授業で学んだ各施設の役割について理解を深めること。(40分)

3	社会的養護が必要な子どもの理解:養護系施設の理解
事前	社会的養護について、教科書第5章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

4	障がいをもつ子どもの理解:障がい児・者施設の理解
事前	教科書第6章を読み、障がい児・者に関する知識を自分なりに理解してくること。(20分)
事後	授業時に見たDVDの視聴シートを記入してくること。(40分)

5	施設実習の配属発表、自己課題の設定について
事前	各々の自己課題を考え、授業時に記入できるようにしておくこと。(20分)
事後	配属先の施設に関して調べ、まとめておくこと。(40分)

6	社会的養護の現状と課題について(講演会)【合同授業】
事前	児童養護施設の概要について振り返っておくこと。(20分)
事後	講演会の内容のメモと感想を記入してくること。(40分)

7	実習日誌の書き方:養護記録の意義と書き方
事前	実習の手引き第7章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	個人票の清書をしてくること。養護記録の内容について振り返り、理解を深めること。(40分)

8	実習体験報告会【合同授業】
事前	自分自身の過去の実習を振り返っておくこと。(20分)
事後	報告会での気付き・感想をワークシートに記入すること。(40分)

9	実習施設でのオリエンテーション:事前オリエンテーションに関する注意事項の説明
事前	実習の手引き第4・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	施設でのオリエンテーションに必要な内容をまとめておくこと。(40分)

10	事前学習発表会準備①実習施設種別ごとのグループ別学習
事前	配属先の施設の種類・役割についてまとめておくこと。(20分)
事後	グループで発表する内容について担当箇所の調査を進めておくこと。(40分)

11	事前学習発表会準備②実習施設種別ごとの資料作成
事前	施設種別ごとの資料について情報を収集しておくこと。(20分)
事後	発表に使用する資料を完成させておくこと。(20分)

12	事前学習発表会:グループ別学習成果の発表
事前	各々、発表の準備をすること。(20分)

事後	発表の感想ワークシートの記入をすること。(40分)

13	実習直前指導:実習での留意事項についての確認、実習の評価について
事前	実習の手引き第4・6章を読み、自分なりに理解してくること。(20分)
事後	2～3月の実習に向けて、日誌の作成等、練習を積んでおくこと。(40分)

14	
事前	
事後	

15	
事前	
事後	

16	実習事後指導①実習の振り返り、グループディスカッション
事前	実習を振り返り、自己の課題を把握しておくこと。(20分)
事後	グループディスカッションにおけるワークシートの作成をしておくこと。(40分)

17	実習事後指導②:グループディスカッションまとめの発表
事前	グループディスカッションの内容を振り返り、全体への発表の準備をしておくこと。(20分)
事後	発表からの気付き・感想をワークシートに記入しておくこと。(40分)

18	実習事後指導②共通課題と自己課題についてのまとめ、実習の自己評価及び、実習施設の評価と自己評価の比較、実習日誌の返却及び個人面談、講評
事前	自己課題について自分なりに実習の振り返りをしておくこと。(10分)
事後	施設評価と自己評価と併せて、実習を振り返ること。施設実習Ⅰ・Ⅱすべての振り返りを行うこと。(50分)

19	
事前	
事後	

20	
事前	
事後	

21	
事前	
事後	

22	
事前	
事後	

23	
事前	
事後	

24	
事前	
事後	

25	
事前	
事後	

26	
事前	
事後	

27	
事前	
事後	

28	
事前	
事後	

29	
事前	
事後	

30	
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:35

科 目 名	施設実習I [子]			授業コード	4190083
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	施設の機能、教育と福祉、子ども（利用者）理解、保育者の援助と役割
到達目標	＜「施設実習Ⅰ」の実習課題＞※以下の共通課題の他、各自の自己課題を設定して実習に臨む。 ①実習施設での一日の生活の流れや支援の内容を理解し、主体的に子どもや利用者の生活にかかわっていく。 ②実習施設における保育士等の子どもや利用者へのかかわりや支援内容を観察し、また支援に携わることに より、個別の子どもや利用者についての理解を深める。 ③実習施設がもつ機能や社会的役割について理解する。 ④実習施設を利用している子どもや利用者が抱える問題やニーズについて理解する。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)～(3),D-2(1)～(3)(6),D-3(1)～(5)）
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設などでの2週間の参加実習を行う。児童福祉施設などにおける子どもや利用者への生活支援を実際に行うことにより、施設で生活する子どもや利用者について理解を深めるとともに、施設の機能や社会的役割、保育士の職務について学ぶ。本実習を通して、大学における学びを基盤として、総合的な社会的養護や福祉活動の実践力を培い、様々な実践場面での保育士のありようについて理解を深める。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	観察実習、参加実習、部分実習
評価方法 及び評価基準	―	実習施設による評価、自己評価、実習日誌等により総合的に評価する。		
フィードバック	実習施設による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・「施設実習指導Ⅰ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として、欠勤及び遅刻・早退は認めない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV		○					

V						○	

テキスト1	『施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』 2018年、フレーベル館 その他、必要に応じて授業内で適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 施設の一日の生活の流れを把握し、次の活動を見通しつつ自らも支援に携わっていけるようなる。 2. 子どもや利用者と積極的にコミュニケーションを取ることにより、信頼関係を構築することに努める。 3. 子どもや利用者への様々な生活援助や支援を通して、子どもや利用者の立場に立って物事を考え、共感することについて学ぶ。 4. 実習施設がもつ機能と社会的役割について理解を深める。 5. 子どもや利用者に積極的に関わることにより、児童福祉施設等における保育士の役割や職務内容について理解を深める。 6. 実習施設における様々な職種の職務内容と職種間の連携や役割分担・チームワークについて学ぶ。 7. 施設が行っている地域活動・地域交流について学ぶ。
事前	各自において実習への事前学習・事前準備を確実に行うことが望まれる。 施設から個別に事前課題が課された場合は、施設実習指導Ⅰの担当教員の添削を受けた上で提出を行うこと。
事後	実習後は、事後指導授業に出席し、実習からの学びを振り返り、次なる課題を明確にする。

2020/07/16(木)22:36

科 目 名	施設実習II [子]			授業コード	4190093
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	恒川 丹				

科目に関するキーワード	保育士の職務、個別支援、家族支援、権利擁護
到達目標	<「施設実習Ⅱ」の実習課題>※以下の共通課題の他、各自自己課題を設定して実習に臨む。 ①実習施設における支援の内容について理解を深め、子どもや利用者との関係づくりに努める。 ②実習施設における子どもや利用者への支援活動の実際を経験することにより、個別支援のあり方や支援技術などについて理解を深めるとともに、支援の意味についても考察する。 ③実習施設の機能や社会的役割について、地域とのかかわりや家族支援など実際の活動を通して理解を深め、幅広い施設の役割について考察する。 ④実習施設に入所(通所)している子どもや利用者がもつ困難な問題やニーズについて理解を深めるとともに、施設職員による権利擁護および専門職としての職業倫理に基づいた支援の実際について学ぶ。 (履修ファイルの対応項目:A-2(3),A-5(1)～(3),D-2(1)～(3)(6),D-3(1)～(5))
授業の概要	保育士資格取得にかかわる保育士課程の選択必修の実習として、児童福祉施設などでの2週間の実習を行う。「施設実習Ⅰ」での学びをふまえ、施設における子どもや利用者への様々な生活支援を通して、より専門性の高い実習を行う。また、施設で生活する子どもや利用者への理解を深め、施設の機能や社会的役割、保育士の職務や専門的倫理のありかたについて学ぶ。さらに本実習によって得られる現場体験を大学における学びを基盤として統合化し、現場における実践力の向上を目指す。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	参加実習、部分実習、責任実習
評価方法及び評価基準	―	実習施設による評価、自己評価、実習日誌により総合的に評価する。		
フィードバック	実習施設による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	・「施設実習Ⅰ」を履修済みであること。 ・「施設実習指導Ⅱ」を併せて履修していること。 ・実習期間中は原則として欠勤及び遅刻・早退は認められない。 ・その他、『実習の手引き』に記載されている要件に注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III						○	
IV							

V							○

テキスト1	『施設実習Ⅰ・Ⅱ実習の手引き』, 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「施設実習指導Ⅱ」で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1. 児童福祉施設などにおける援助や支援の内容について、「施設実習Ⅰ」での理解をさらに深め、子どもや利用者との関係づくりに努める。 2. 子どもや利用者と積極的にかかわり、生活支援に必要な具体的な知識や技術の習得を図るとともに、求められる支援のあり方について考察する。 3. 一人ひとりの子どもや利用者のもつ個性や背景を理解し、家族支援を含めた施設の活動を体験することを通して、児童福祉施設等の機能や社会的役割について理解を深める。 4. 子どもや利用者がもつ個別的ニーズに対する支援の実際から、施設職員の専門性や権利擁護・職業倫理に基づいた支援について学ぶ。
事前	各自において実習に対する事前学習・事前準備を具体的に進めることが望まれる。 施設から個別に事前課題が課された場合は、施設実習指導Ⅰの担当教員の添削を受けた上で提出を行うこと。
事後	実習後は、事後指導授業に出席し、実習からの学びや課題を整理し、保育実践力の向上を目指す。

2020/07/16(木)21:01

科 目 名	子育て支援実習・子育て支援実習指導 [子]			授業コード	4190100
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	子育て支援・保護者支援・保育者の役割

到達目標	・子育て支援施設での実習とその経験の省察を通して、支援者の役割と求められる専門性について理解を深めること。 ・地域社会における子育ての実態や保護者のニーズについて理解を深めること。			
授業の概要	子育て支援施設での実習を通して職務内容を学び、実習経験の省察を通して子育て支援の現状と課題、支援者の役割などについて考察する。 実習にあたっては、事前・事後の指導を学内において行う。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	リアクションペーパーを使用し、授業での学びからから気付いた点、自己課題の記入を行う。
評価方法 及び評価基準	―	実習先の評価70%、提出物評価20%、授業への取り組み10%		
フィードバック	実習施設による評価、自己評価、実習担当教員による実習日誌評価等について説明し、課題についてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	履修者は原則として「子育て支援論」の受講者とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV		○					

V				○			

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1回目：オリエンテーション 2回目：事前指導ー子育て支援実習の目的と意義ー 3回目：事前指導ー子育て支援実習実施の流れ・書類についてー 4～8回目：各園にて子育て支援実習実施（必要に応じて期間中に中間報告会や個別指導を実施） 9回目：事後指導ー子育て支援実習報告会ー 10回目：事後指導ー実習経験の省察と子育て支援における課題の考察ー
事前	子育て支援実習前に「子育て支援論」等における学習を振り返り、課題を明確にすること。事後指導の授業には、それまでの実習における学びをまとめたレポートを持参すること。（各授業前30分程度を要する。）
事後	毎回の実践を日誌記録にて振り返り、次の実践に向けて準備をすること。 （各授業後30分程度を要する。）

2020/07/16(木)10:56

科 目 名	保育相談支援 [子]			授業コード	4190112
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	保護者支援・援助、リフレーミング、マッピング技法

到達目標	1:地域における保育相談支援の意義とその機能について理解できるようになる。 2:子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況等について理解できるようになる。 3:保育相談支援の制度、体制について理解できるようになる。 4:保育相談支援の多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できるようになる。 5:保育相談支援における保育者の役割を理解できるようになる。			
授業の概要	近年、少子化や核家族化の進行もあり、子育ては家庭だけでなく、社会全体で子育てを行っていくという考え方が主流になりつつある。 また、子どもの発達は育つ環境との関係に大きく依存しており、子どもとその家庭が所属している地域の影響も大きく受けている。 保育相談支援の授業では、地域の子育て資源を活用しながら、子ども・親・地域が一体になって子育てすることの意義について学び、家庭の子育てと緊密な連携を図り、子育て支援ネットワークの中核的役割を担う人材を育成することを目指す。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーを使用し、授業での学びから気付いた点、自己課題の記入を行う ・少人数のグループワークを実施した後、全体への発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内レポート、ポートフォリオ(30%)、授業への参加度(20%)、期末レポートの提出状況および内容(50%)で総合的に評価する。 S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下(不合格)		
フィードバック	・授業内で提出した提出物の内容については、授業において適宜フィードバックする。 ・期末レポートについての解説は、「でんでんばん」を通じてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・授業内容に連続性があるため、前回までの授業の内容を復習してから授業に臨むようにする必要がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV			○				

V				○			

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 「演習・保育と保護者への支援」 編集：小原敏郎 他,みらい,2019	9784860154905
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・授業の目的および計画の説明
事前	テキストの目次に目を通し、どのような内容を習得する授業であるか、自分なりに理解してくること。(30分)
事後	授業で扱った近年の子育て家庭を取り巻く環境について振り返り、理解を深めること。(30分)

2	保育相談支援の意義とその機能について
事前	近年の子育て環境に関連した新聞記事を選択し、内容を要約し、記事に対する考えをまとめてくること。(30分)
事後	テキスト第1章における子育て支援の意義と目的を読み返し、保育者がなぜ保護者・子どもの支援を行うのか、保育者の役割について理解を深めておくこと。(30分)

3	子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況について①－保育相談支援の背景－
事前	テキスト第3章を読み、保育所(者)の専門性と子育て支援に求められる態度・知識・技術を自分なりに理解してくること。(30分)
事後	保護者への支援に必要な知識・技術について理解を深めること。また、保護者から相談された際に応答が難しいと感じられる内容に関して解決策を検討すること。(30分)

4	子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況について②－地域にある社会資源－
事前	テキスト第8章を読み、社会資源とは何を示し、保育相談支援になぜ欠かせないのか、自分なりに理解してくること。(30分)
事後	地域にあるフォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について、地域の範囲を広げて調べ、各社会資源の役割について理解を深めること。(30分)

5	保護者の理解、信頼関係の構築①ーリフレーミングー
事前	テキストp.109～114を読み、エンパワーメント・リフレーミングという用語について自分なりに理解してくること。(30分)
事後	保護者からの相談に対して行ったリフレーミングを振り返り、より良い応答がなかったか、他の応答を検討しながら理解を深めること。(30分)

6	保護者の理解、信頼関係の構築②－バイスティックの7原則－
事前	テキスト第6章を読み、保護者とのラポールの形成、バイスティックの7原則について自分なりに理解してくること。(30分)
事後	バイスティックの7原則に沿って行った保護者との対話を振り返り、より良い応答がなかったか、他の応答を検討しながらバイスティックの7原則の理解を深めること。(30分)

7	子育て支援における計画・記録・評価
事前	テキスト第5章を読み、子育て支援における計画・記録・評価の必要性と内容について自分なりに理解しておくこと。(30分)
事後	授業で作成したジェノグラムとエコマップについて作成方法を復習し、他者も状況把握が可能なエコマップとなるよう書き方の改善を図ること。(30分)

8	保育所の特性を生かした保護者への支援①－ニーズの把握、実践の過程の基礎的理解－
事前	テキストp.133.134のショート事例を読み、内容の把握、保護者からの相談状況をイメージをしておくこと。(30分)
事後	保護者からの相談を踏まえて保育所(者)の対応の意図を再度確認し、保育所における子育て支援の展開について理解を深めること。(30分)

9	保育所の特性を生かした保護者への支援②－省察、改善の過程・方法－
事前	テキストp.135を読み、保育におけるドキュメンテーションについて自分なりに理解してくること。また、園における保護者向けのドキュメンテーションにはどのようなものがあるか想像しておくこと。(30分)
事後	園におけるドキュメンテーションの意図・内容を復習すること。連絡ノートの模擬作成を踏まえ、子どもの発達をどのように捉え、記述するのかを改めて考えること。(30分)

10	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習① －発達に課題をもつ子どもとその保護者への支援について－

事前	テキスト第10章（3）を読み、発達に課題をもつ子どもへの支援について自分なりに理解をしておくこと。（30分）
事後	発達に課題をもつ子どもへの支援として園内で行う支援、園外の社会資源と協力して行う支援を整理し、理解を深めること。（30分）

11	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習② －虐待の予防と地域資源の活用、調整－
事前	テキスト第10章（1）を読み、児童虐待の定義及びその支援方法について自分なりに理解しておくこと。（30分）
事後	虐待の種類や、起こりうる原因、虐待がもたらす影響について理解を深めること。児童虐待を受けた子どもやその家庭に対して保育者としてできる支援をまとめておくこと。（30分）

12	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習③ －ロールプレイング「保護者と保育者の年度初め面談」－
事前	第1回から今までのレジュメを復習し、支援をする際に必要な技法等を振り返っておくこと。（30分）
事後	保育者役を担った際の自分の応答を振り返り、良かった点・改善点を見つけ、良かったと感じる理由及び難しいと感じた原因を分析すること。（30分）

13	子育て支援の1つとなる保護者向け情報誌の作成
事前	グループ内でどのような情報誌を作成したいのか、各自検討し調査しておくこと。保護者が子育てをする上で必要とするであろう情報を収集すること。（30分）
事後	内容の濃い情報誌となるよう、グループで決定・作成した内容について再検討し、まとめておくこと。（30分）

14	子育て支援の1つとなる保護者向け情報誌の発表
事前	自分自身が発表する内容に関して、知識・情報を増やし、理解を深めておくこと。また、発表がスムーズに進むよう練習しておくこと。（30分）
事後	他グループの発表を踏まえ、さらに深める必要性を感じた保育相談支援の内容を調べること。（30分）

15	授業のまとめ
事前	テキスト第12章（1）を読み、事例の把握をしておくこと。事例に登場する夫婦の相談内容、保育者が行う支援について熟慮しておくこと。（30分）
事後	第1～15回の授業を通して学んだ保育所における子育て支援の役割、保育者として必要な知識・技術・態度を振り返り、理解を深めること。（30分）

2020/07/16(木)20:55

科 目 名	保育相談支援 [子]			授業コード	4190122
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	恒川 丹				

科目に関する キーワード	保護者支援・援助、リフレーミング、マッピング技法

到達目標	1:地域における保育相談支援の意義とその機能について理解できるようになる。 2:子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況等について理解できるようになる。 3:保育相談支援の制度、体制について理解できるようになる。 4:保育相談支援の多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できるようになる。 5:保育相談支援における保育者の役割を理解できるようになる。			
授業の概要	近年、少子化や核家族化の進行もあり、子育ては家庭だけでなく、社会全体で子育てを行っていくという考え方が主流になりつつある。 また、子どもの発達は育つ環境との関係に大きく依存しており、子どもとその家庭が所属している地域の影響も大きく受けている。 保育相談支援の授業では、地域の子育て資源を活用しながら、子ども・親・地域が一体になって子育てすることの意義について学び、家庭の子育てと緊密な連携を図り、子育て支援ネットワークの中核的役割を担う人材を育成することを目指す。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・リアクションペーパーを使用し、授業での学びから気付いた点、自己課題の記入を行う ・少人数のグループワークを実施した後、全体への発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内レポート、ポートフォリオ(30%)、授業への参加度(20%)、期末レポートの提出状況および内容(50%)で総合的に評価する。 S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下(不合格)		
フィードバック	・授業内で提出した提出物の内容については、授業において適宜フィードバックする。 ・期末レポートについての解説は、「でんでんばん」を通じてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・授業内容に連続性があるため、前回までの授業の内容を復習してから授業に臨むようにする必要がある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV			○				

V				○			

テキスト1	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 「演習・保育と保護者への支援」 編集：小原敏郎 他,みらい,2019	9784860154905
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・授業の目的および計画の説明
事前	テキストの目次に目を通し、どのような内容を習得する授業であるか、自分なりに理解してくること。(30分)
事後	授業で扱った近年の子育て家庭を取り巻く環境について振り返り、理解を深めること。(30分)

2	保育相談支援の意義とその機能について
事前	近年の子育て環境に関連した新聞記事を選択し、内容を要約し、記事に対する考えをまとめてくること。(30分)
事後	テキスト第1章における子育て支援の意義と目的を読み返し、保育者がなぜ保護者・子どもの支援を行うのか、保育者の役割について理解を深めておくこと。(30分)

3	子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況について①－保育相談支援の背景－
事前	テキスト第3章を読み、保育所(者)の専門性と子育て支援に求められる態度・知識・技術を自分なりに理解してくること。(30分)
事後	保護者への支援に必要な知識・技術について理解を深めること。また、保護者から相談された際に応答が難しいと感じられる内容に関して解決策を検討すること。(30分)

4	子育て家庭や地域を取り巻く社会的状況について②－地域にある社会資源－
事前	テキスト第8章を読み、社会資源とは何を示し、保育相談支援になぜ欠かせないのか、自分なりに理解してくること。(30分)
事後	地域にあるフォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について、地域の範囲を広げて調べ、各社会資源の役割について理解を深めること。(30分)

5	保護者の理解、信頼関係の構築①ーリフレーミングー
事前	テキストp.109～114を読み、エンパワーメント・リフレーミングという用語について自分なりに理解してくること。(30分)
事後	保護者からの相談に対して行ったリフレーミングを振り返り、より良い応答がなかったか、他の応答を検討しながら理解を深めること。(30分)

6	保護者の理解、信頼関係の構築②－バイスティックの7原則－
事前	テキスト第6章を読み、保護者とのラポールの形成、バイスティックの7原則について自分なりに理解してくること。(30分)
事後	バイスティックの7原則に沿って行った保護者との対話を振り返り、より良い応答がなかったか、他の応答を検討しながらバイスティックの7原則の理解を深めること。(30分)

7	子育て支援における計画・記録・評価
事前	テキスト第5章を読み、子育て支援における計画・記録・評価の必要性と内容について自分なりに理解しておくこと。(30分)
事後	授業で作成したジェノグラムとエコマップについて作成方法を復習し、他者も状況把握が可能なエコマップとなるよう書き方の改善を図ること。(30分)

8	保育所の特性を生かした保護者への支援①－ニーズの把握、実践の過程の基礎的理解－
事前	テキストp.133.134のショート事例を読み、内容の把握、保護者からの相談状況をイメージをしておくこと。(30分)
事後	保護者からの相談を踏まえて保育所(者)の対応の意図を再度確認し、保育所における子育て支援の展開について理解を深めること。(30分)

9	保育所の特性を生かした保護者への支援②－省察、改善の過程・方法－
事前	テキストp.135を読み、保育におけるドキュメンテーションについて自分なりに理解してくること。また、園における保護者向けのドキュメンテーションにはどのようなものがあるか想像しておくこと。(30分)
事後	園におけるドキュメンテーションの意図・内容を復習すること。連絡ノートの模擬作成を踏まえ、子どもの発達をどのように捉え、記述するのかを改めて考えること。(30分)

10	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習① －発達に課題をもつ子どもとその保護者への支援について－

事前	テキスト第10章（3）を読み、発達に課題をもつ子どもへの支援について自分なりに理解をしておくこと。（30分）
事後	発達に課題をもつ子どもへの支援として園内で行う支援、園外の社会資源と協力して行う支援を整理し、理解を深めること。（30分）

11	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習② －虐待の予防と地域資源の活用、調整－
事前	テキスト第10章（1）を読み、児童虐待の定義及びその支援方法について自分なりに理解しておくこと。（30分）
事後	虐待の種類や、起こりうる原因、虐待がもたらす影響について理解を深めること。児童虐待を受けた子どもやその家庭に対して保育者としてできる支援をまとめておくこと。（30分）

12	福祉・心理領域の支援方法および技法等を用いた演習③ －ロールプレイング「保護者と保育者の年度初め面談」－
事前	第1回から今までのレジュメを復習し、支援をする際に必要な技法等を振り返っておくこと。（30分）
事後	保育者役を担った際の自分の応答を振り返り、良かった点・改善点を見つけ、良かったと感じる理由及び難しいと感じた原因を分析すること。（30分）

13	子育て支援の1つとなる保護者向け情報誌の作成
事前	グループ内でどのような情報誌を作成したいのか、各自検討し調査しておくこと。保護者が子育てをする上で必要とするであろう情報を収集すること。（30分）
事後	内容の濃い情報誌となるよう、グループで決定・作成した内容について再検討し、まとめておくこと。（30分）

14	子育て支援の1つとなる保護者向け情報誌の発表
事前	自分自身が発表する内容に関して、知識・情報を増やし、理解を深めておくこと。また、発表がスムーズに進むよう練習しておくこと。（30分）
事後	他グループの発表を踏まえ、さらに深める必要性を感じた保育相談支援の内容を調べること。（30分）

15	授業のまとめ
事前	テキスト第12章（1）を読み、事例の把握をしておくこと。事例に登場する夫婦の相談内容、保育者が行う支援について熟慮しておくこと。（30分）
事後	第1～15回の授業を通して学んだ保育所における子育て支援の役割、保育者として必要な知識・技術・態度を振り返り、理解を深めること。（30分）

2020/07/17(金)20:29

科　目　名	保育所実習指導I [子]			副題	なし
担　当　者	舟生　直美				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	2
授業の概要	＜2年次＞ 「保育所実習Ｉ」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成するなど、実習に向けた準備を行う。保育所における保育内容を理解し、実習日誌の書き方や責任実習（部分実習）の指導案立案の仕方について学習する。 ＜3年次＞ 実習終了後は、事後指導授業を行い、実践から得た学びや反省から、各自の課題について明らかにし、先の実践や学びにつなげる 保育現場における豊富な保育者経験がある担当教員が、その経験を生かして実習指導を行う。				
授業のねらい・到達目標	＜2年次＞ １．実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 ２．実習関係書類の作成、実習園のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 ３．実習園について理解を深め、実習の目的を明確にもつ。 ４．実習日誌の書き方、指導案立案の仕方が分かり、具体的な実習準備にとりかかることができる。 ＜3年次＞ ５．実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。(事後指導) 【「履修ファイル」との対応項目：A-2(3),A-4(4),A-5(1)(2)(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5)】				

授業の方法・授業計画

1	保育所実習Ｉオリエンテーション① （実習園への配属・実習関係書類）	16	実習事後指導① （実習の振り返り・実習日誌提出）
2	保育所実習Ｉオリエンテーション② （保育所実習Ｉの意義と概要・学外実習の概要）	17	実習事後指導② （園評価と自己評価の比較・考察）
3	自己課題の設定① （個人票の下書き、自己課題の設定）	18	実習事後指導③ （実習日誌の返却および講評）
4	実習日誌の書き方① （日誌の配布と確認）	19	
5	実習日誌の書き方② （保育所の1日の流れ・時系列記録）	20	
6	責任実習の実施① （責任実習について、試作）	21	
7	責任実習の実施② （指導案の立案方法・教材研究）	22	
8	責任実習の実施③ （指導案の相互添削）	23	
9	情報交換会【3年生と合同】 （先輩との交流を通して学ぶ）	24	
10	実習園でのオリエンテーション （巡回担当教員発表） 実習日誌の書き方③ （エピソード記録）	25	
11	直前指導① （実習の心得、腸内検査）	26	
12	実習直前指導② （実習の評価・事後指導について）	27	
13		28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、2年次から3年次にかけて16回実施される。
上記左列13回（1～12）は、2年次後期に実施される事前指導である。
上記右列3回（16～18）は、3年次前期に実施される事後指導である

授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。		
評価方法 及び評価基準	実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、授業への参加態度などを総合し、2年次（事前指導）と3年次（事後指導）を一体として評価する。	
事前・事後 学習の内容	<2年次> ・授業前に授業計画を確認し、該当する手引きの箇所を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、手引きや配付資料等で復習し、課題に取り組み、知識や理解をさらに確実なものにすること。 <3年次> ・事後指導授業用の資料を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、配付資料等を参考に課題に取り組み、反省と学びを確実なものにすること 各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。	
履修上の注意	<2年次> 「保育所実習Ⅰ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については、厳禁とする。 <3年次> 「保育所実習Ⅰ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席については、厳禁とする。 授業内面談以外に、授業外面談も予定している	
テキスト	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』（平成30年度入学生対象）田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
–	厚生労働省『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2018	
–		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内に適宜紹介する。	

2020/07/17(金)20:31

科　目　名	保育所実習指導II [子]			副題	
担　当　者	舟生　直美				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	3
授業の概要	＜3年次＞ 「保育所実習Ⅱ」は、「保育所実習Ⅰ」の経験を踏まえ、参加・指導実習を中心として展開される、より専門性の高い実習である。 3年次後期の事前指導授業「保育所実習指導Ⅱ」では、「保育所実習Ⅱ」において現場での実践的な学びをより深めるために必要な心構えや知識・技術の整理や修得を行う。具体的には、「保育所実習Ⅱ実習日誌」の書き方、子どもの生活に即した保育の展開に向けた指導案立案学習と模擬保育、保育所の社会的責任や子育て支援の実際などについて、より深く実践的に学ぶものである。 ＜4年次＞ 4年次前期の事後指導授業では、グループでの保育カンファレンスを通して個人の実習体験を深く経験化していくとともに、他の学生の体験知を学ぶことによって、保育者としての実践力や資質の向上を目指し、4年次の幼稚園教育実習や、将来の保育実践に備える。 保育現場における豊富な保育者経験がある担当教員がその経験を生かして実技指導を行う。				
授業のねらい・到達目標	＜3年次＞ １．実習に必要な心構えや態度について確認し、実習関係書類や手続きを滞りなく進める。 ２．これまでの実習の成果および自己の課題を十分認識し、保育所の社会的役割や、保育士の多様な職務内容について、より専門的な理解を深める。 ３．子どもの発達過程や生活する姿に即して、適切なねらいと内容に基づいた指導案を立案し、部分実習・一日実習を実践する力量を身につける。 ＜4年次＞ １．自らの実習経験を振り返り、その内容について具体的な反省を言語化する。 ２．保育カンファレンスにより、なかまとともにそれぞれの実習経験を共有し、検討すべきテーマに関する認識を深める。 ３．保育者としての実践力や資質の向上を目指し、先の保育実践へ向けて自己の課題を明確化する。 【「履修ファイル」の対応項目：A-2(3),A-4(4),A-5(1)(2)(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5)】				

授業の方法・授業計画

1	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション① （実習園への配属発表、実習関係書類の作成指示）	16	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導① （学習内容の振り返り）
2	「保育所実習Ⅱ」オリエンテーション② （実習の意義と概要、実習課題について）	17	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導② （保育カンファレンス、園評価と自己評価の照合）
3	自己課題の設定 実習日誌の書き方① （実習日誌の配布）	18	「保育所実習Ⅱ」実習事後指導③ （実習日誌返却と講評）
4	実習日誌の書き方② （予備のページの活用・模擬保育指導案作成）	19	
5	責任実習実施の手順と方法 （模擬保育要領解説・グループ別指導案作成）	20	
6	模擬保育・保育カンファレンス実施	21	
7	模擬保育の振り返り	22	
8	実習体験報告会	23	
9	子育て支援の実践発表	24	
10	情報交換会【2年生と合同】 （先輩としてアドバイスをする）	25	
11	実習園でのオリエンテーション （巡回担当教員による指導）	26	
12	実習直前指導① （実習における留意点の確認）	27	
13	実習直前指導② （実習の評価・事後指導について）	28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、3年次から4年次にかけて17回実施される。

上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。 上記右列4回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。 授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。		
評価方法 及び評価基準	実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、授業への参加態度などを総合し、3年次（事前指導）と4年次（事後指導）を一体として評価する。	
事前・事後 学習の内容	<3年次> ・授業前に授業計画を確認し、該当する手引きの箇所を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、手引きや配付資料等で復習し、課題に取り組み、知識や理解をさらに確実なものにすること。 <4年次> ・事後指導用の資料を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、「実習の手引き」や配付資料等を復習し、課題に取り組み、反省と学びをさらに確実なものにすること。 各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。	
履修上の注意	<3年次> 「保育所実習Ⅱ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。 <4年次> 「保育所実習Ⅱ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については厳禁とする。授業内面談以外に、授業外面談も予定している。	
テキスト	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き(平成29年度入学生対象)』，田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科	
–	厚生労働省『保育所保育指針解説書』，フレーベル館,2018年	
–		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 その他、必要に応じて適宜授業内に紹介する。	

2020/07/17(金)20:32

科　目　名	施設実習指導II [子]			副題	
担　当　者	関　維子				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	3
授業の概要	＜３年次用＞ 「施設実習指導Ⅱ」は「施設実習Ⅰ」などで得た経験をふまえ、さらなる知識や技能の習得後に、より専門的な学びを深めていく。本授業では、実習に臨むにあたっての心構えや知識等を整理し、現場での実践的な学びを十分に得られるよう事前・事後指導を行う。特に事前指導授業では、それぞれの施設が担う養護内容や援助・支援の方法などを十分に理解できるよう、より具体的で実践に即した授業を行う。 ＜４年次用＞ 実習終了後の事後指導では、グループディスカッションなどを通して、実習施設という現場での実践から得られた個人の実習経験をより確かなものにしていく。同時に、他の学生と実習経験を共有することによって保育者としての実践力の向上を図るとともに、様々な実践場面での保育士のありようへの理解を深める。				
授業のねらい・到達目標	＜３年次用＞ １．実習に必要な心構えや態度、留意点について確認し、実習関係書類等の事前準備を進めながら、実習に向けて意欲を高める。 ２．施設種別による養護内容や援助・支援の方法を理解した上で、実習に向けた自己課題を設定する。 ３．施設のもつ機能や社会的役割及び、保育士の職務内容について、より専門的な理解を深める。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)） ＜４年次用＞ １．実習を振り返り、自らの学びの成果や反省から自己の課題を明確にする。 （履修ファイルの対応項目：A-2(3),A-5(1)(2)(3),D-2(6)）				

授業の方法・授業計画

1	施設実習オリエンテーション①：施設実習の意義と概要・実習の段階と内容・実習の共通課題	16	実習事後指導①：実習の振り返り、グループディスカッション
2	施設実習オリエンテーション②：実習施設の種別の理解	17	実習事後指導②：グループディスカッションまとめの発表
3	社会的養護が必要な子どもの理解：養護系施設の理解（視聴覚教材）	18	実習事後指導③：共通課題と自己課題についてのまとめ、実習の自己評価及び、実習施設の評価と自己評価の比較、実習日誌の返却および個人面談、講評
4	障害をもつ子どもの理解：障害児・者施設の理解（視聴覚教材）	19	
5	施設実習の配属発表、自己課題の設定について	20	
6	講演会：社会的養護の現状と課題について【合同授業】	21	
7	実習日誌の書き方②：養護記録の意義と書き方	22	
8	実習体験報告会【合同授業】	23	
9	実習施設でのオリエンテーション：事前オリエンテーションに関する注意事項の説明	24	
10	事前学習発表会準備①：実習施設種別ごとのグループ別学習	25	
11	事前学習発表会準備②：実習施設種別ごとの資料作成	26	
12	事前学習発表会：グループ別学習成果の発表	27	
13	実習直前指導：実習での留意事項についての確認、実習の評価について	28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、3年次から4年次にかけて16回実施される。
上記左列13回（1～13）は、3年次後期に実施される事前指導である。
上記右列3回（16～18）は、4年次前期に実施される事後指導である。
授業内や授業後に課される課題については、事後指導の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。

評価方法及び評価基準	ディスカッションにおける発言等の授業への参加（70%）、実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況（30%）などを総合して評価する。
事前・事後	事前学習では、授業計画に基づき手引きを予習し、授業内容の確実な理解に備えること。事後学習で

学習の内容	は、手引きや配布資料などで復習し、課題に取り組み、学びを確かなものにすること。各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。	
履修上の注意	「施設実習Ⅱ」につながる教科である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席は厳禁とする。	
テキスト	『施設実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』，田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 『事例を通して学びを深める　施設実習ガイド』，田中利則監修，ミネルヴァ書房	
–		
–		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	

2020/07/17(金)20:29

科　目　名	保育所実習指導I [子]			副題	なし
担　当　者	舟生　直美				
開講期	通年	単位数	1	配当年次	2
授業の概要	＜2年次＞ 「保育所実習Ｉ」の事前指導授業として、実習に必要な心構えや態度、基本的な知識・技能について学ぶ。実習の意義と目的、段階と内容、手順と方法、実習における留意点を確認し、実習関係書類を作成するなど、実習に向けた準備を行う。保育所における保育内容を理解し、実習日誌の書き方や責任実習（部分実習）の指導案立案の仕方について学習する。 ＜3年次＞ 実習終了後は、事後指導授業を行い、実践から得た学びや反省から、各自の課題について明らかにし、先の実践や学びにつなげる 保育現場における豊富な保育者経験がある担当教員が、その経験を生かして実習指導を行う。				
授業のねらい・到達目標	＜2年次＞ １．実習に必要な心構えや態度、留意点などを十分に理解し、実習に対する意欲を高める。 ２．実習関係書類の作成、実習園のオリエンテーションなど、事前の手続きを滞りなく進める。 ３．実習園について理解を深め、実習の目的を明確にもつ。 ４．実習日誌の書き方、指導案立案の仕方が分かり、具体的な実習準備にとりかかることができる。 ＜3年次＞ ５．実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。(事後指導) 【「履修ファイル」との対応項目：A-2(3),A-4(4),A-5(1)(2)(3),D-2(1)～(6),D-3(1)～(5)】				

授業の方法・授業計画

1	保育所実習Ｉオリエンテーション① （実習園への配属・実習関係書類）	16	実習事後指導① （実習の振り返り・実習日誌提出）
2	保育所実習Ｉオリエンテーション② （保育所実習Ｉの意義と概要・学外実習の概要）	17	実習事後指導② （園評価と自己評価の比較・考察）
3	自己課題の設定① （個人票の下書き、自己課題の設定）	18	実習事後指導③ （実習日誌の返却および講評）
4	実習日誌の書き方① （日誌の配布と確認）	19	
5	実習日誌の書き方② （保育所の1日の流れ・時系列記録）	20	
6	責任実習の実施① （責任実習について、試作）	21	
7	責任実習の実施② （指導案の立案方法・教材研究）	22	
8	責任実習の実施③ （指導案の相互添削）	23	
9	情報交換会【3年生と合同】 （先輩との交流を通して学ぶ）	24	
10	実習園でのオリエンテーション （巡回担当教員発表） 実習日誌の書き方③ （エピソード記録）	25	
11	直前指導① （実習の心得、腸内検査）	26	
12	実習直前指導② （実習の評価・事後指導について）	27	
13		28	
14		29	
15		30	
期末	試験実施なし	期末	試験実施なし

本講座は、2年次から3年次にかけて16回実施される。
上記左列13回（1～12）は、2年次後期に実施される事前指導である。
上記右列3回（16～18）は、3年次前期に実施される事後指導である

授業内や授業後に課される課題については、事後の授業において添削もしくはコメントを付して返却するため、各自十分復習した上で実習に臨むこと。	
評価方法 及び評価基準	実習関係書類、課題、実習日誌などの提出状況、授業への参加態度などを総合し、2年次（事前指導）と3年次（事後指導）を一体として評価する。
事前・事後 学習の内容	<2年次> ・授業前に授業計画を確認し、該当する手引きの箇所を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、手引きや配付資料等で復習し、課題に取り組み、知識や理解をさらに確実なものにすること。 <3年次> ・事後指導授業用の資料を必ず予習しておくこと。 ・授業後は、配付資料等を参考に課題に取り組み、反省と学びを確実なものにすること 各回の事前・事後学習に最低でも1時間程度は必要となる。
履修上の注意	<2年次> 「保育所実習Ⅰ」につながる科目である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に、無断欠席については、厳禁とする。 <3年次> 「保育所実習Ⅰ」実施後の授業である。実習同様、欠席および遅刻は禁ずる。特に無断欠席については、厳禁とする。 授業内面談以外に、授業外面談も予定している
テキスト	『保育所実習Ⅰ・Ⅱ　実習の手引き』（平成30年度入学生対象）田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科
–	厚生労働省『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2018
–	
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館,2018 その他、必要に応じて授業内に適宜紹介する。

2020/07/16(木)20:31

科 目 名	カウンセリング [介]			授業コード	5010021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	新井 彩加				

科目に関するキーワード	カウンセリング、傾聴、心理療法
到達目標	カウンセリングに必要な基礎知識、具体的技法（スキル）について理解し、実践できるようになる。カウンセリングに必要な基本的態度と留意点について、理解し、説明できるようになる。カウンセリングを学ぶことにより、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識とスキルを習得する。
授業の概要	カウンセリングは、心理学における一介入手続き（心理療法）にとどまらず、多くの対人援助職の基礎訓練に取り入れられている。本講義では、その背景となっている理論と、実践的技法（スキル）について学ぶ。特にクライアントの理解、支援に極めて有効である「傾聴」の技法を、ロールプレイを交えながら解説する。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○	授業の理解度や疑問点等を確認、共有するため各回にて発言を求める。また、カウンセリングの具体的技法(スキル)を理解、実践できるように、少人数でのロールプレイを行うことがある。ロールプレイを行う場合は、各グループの内容を全体で共有する。リアクションペーパーを使用することもある。
評価方法及び評価基準	レポート	成績評価は、授業内で実施するリポート（70%）、授業への参加度（30%）の割合で行うが、得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。
フィードバック	授業内で実施した小課題やロールプレイ、リアクションペーパーは事後の授業において共有し講評する。	
履修に際しての注意事項	遅刻・欠席をしないこと（ロールプレイを行うので、他の受講生の迷惑となる）。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○	○				

IV							
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	カウンセリング・心理療法の基礎　金沢吉展（編）有斐閣アルマ 臨床心理学　丹野義彦, 石垣琢麿,毛利伊吹,佐々木淳,杉山明子 (著)　有斐閣	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	カウンセリングの基礎概念
事前	心理学に関する事柄、用語、知識を書き出しまとめること。更に、過去に受講したことがある心理学講義があれば復習すること。人物や用語においては、説明できるようにまとめておくこと。（学習時間目安1.5時間）
事後	カウンセリングとは何か説明できるようにすること。また、授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること。(学習時間目安2.5時間）

2	カウンセリングにおける態度、条件
事前	第一回目に授業内で配布された事前学習課題について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

3	カウンセリングにおける出会い：無条件の受容と共感的理解を求めて
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べ、理解を深めておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	共感的理解とは何か説明できるようにすること。また、授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること。(学習時間目安2.5時間）

4	カウンセラーになるために：自己理解を求めて
事前	配布された事前学習課題について参考文献等を用いて調べること。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

5	「傾聴」とは・沈黙の重要性
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について調べまとめること。また、関連する本や文献があれば読むこと。(学習時間目安2.5時間）

6	簡易カウンセリング体験：聴いてもらえない体験
事前	第一回目に授業内で配布された事前学習テーマについて参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

7	簡易カウンセリング体験：非言語的メッセージのやり取り
事前	参考文献等を利用し、事前に授業内で提示された事柄について調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

8	傾聴技法実践：反復（繰り返し）、明確化
事前	第一回目に授業内で配布された事前学習課題について参考文献等により理解しておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

9	傾聴技法実践：要約、言い換え、リフレーミング
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間）
事後	授業内で行った、要約、言い換え、リフレーミングを日常生活で用いることを想定してみること。授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間）

10	カウンセリングの実際（映像視聴）

事前	授業内で配布された事前学習課題について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

11	カウンセリングの実際(映像視聴:解説編)
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間)
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

12	カウンセリングを超えて:心理療法総論
事前	心理療法の種類、および、事前に授業内で配布されたテーマについて参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間)
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

13	カウンセリングを超えて:心理療法各論
事前	前回取り上げた心理療法の基本的理論や背景について調べておくこと。また、事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間)
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

14	各心理療法とその対象
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間)
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

15	対応の難しいクライアントを巡って:語れない(語らない)クライアント、多弁なクライアント、等々
事前	事前に授業内で提示された事柄について参考文献等を利用し調べてまとめておくこと。(学習時間目安1.5時間)
事後	授業で新たに知った専門用語について参考文献等を利用し調べ、理解を深めること。授業内で紹介された関連する本や文献がある場合は各自で読み理解を深めること(学習時間目安2.5時間)

2020/07/16(木)22:17

科 目 名	家族関係の形成と変化 [科]			授業コード	5010112
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	新井 彩加				

科目に関するキーワード	家族心理学、ジェノグラム、守秘義務

到達目標	【授業のねらい】 家族の歴史的変遷を踏まえた現代家族の特徴と、家族関係の時間的変化について親子、きょうだい等の活動を中心に理解する。また、様々な要因が家族成員に及ぼす心理的影響と、心理的困難に対する支援について理解する。 【到達目標】 ・現代家族の特徴と家族関係の時間的変化について理解し説明出来る。 ・家族や家族成員の心理的困難となる諸要因について理解し説明出来る。 ・家族の代表的な心理支援について理解し説明出来る。			
授業の概要	家族関係の形成と発展、変化（関係悪化と修復を含む）について、親、子、祖父母の時間軸をとおして多面的に学んでいく。家族関係は家族心理学や家族社会学などを中心として様々に検討されている。これら各領域の代表的な理論や知識を紹介しつつ、関係の時間的変化に注目して解説する。また、家族成員の障がいや疾患、離婚や再婚、貧困など、多様な要因が家族に及ぼす心理的影響やその支援についても考察を深める。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業の理解度や疑問点等を確認、共有するため各回にて発言を求める。また、授業の理解を深めるため、少人数でのディスカッションを行い全体で共有することがある。リアクションペーパーを使用し授業の理解度や疑問点を確認する。
評価方法及び評価基準	試験	試験(70%)、課題(20%)、リアクションペーパーへの取組・授業への取組姿勢(10%)で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小課題やディスカッション、リアクションペーパーは、同授業内、若しくは、事後の授業において共有し講評する。			
履修に際しての注意事項	授業開始時間や課題期限を守ることや授業に積極的に参加すること、自分の疑問・考察を深めることが求められる。また、授業中に他者へ迷惑をかける行為等があった場合は退出を求めるなどの対応を行うことがある。リアクションペーパーによりコメントを求め、その回答は講義時におこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○		○		
III							

IV							
V							

テキスト1	家族心理学　家族システムの発達と臨床的援助〔第2班〕 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（著）有斐閣ブックス	9784641184466
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション
事前	テキストの該当箇所（第1章第2節まで）を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	家族とは何か、家族心理学史について説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

2	現代社会と家族構造
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	家族構造の形態、現代社会の傾向について説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

3	家族のライフサイクルと発達課題
事前	エリクソンのライフサイクルを理解しておくこと。テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	ライフサイクル論について説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

4	ライフイベントが家庭における親子に与える影響
事前	ホームズらの社会再適応評価尺度について調べておくこと。テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	ライフサイクル論と家族構造を念頭に置き、ライフイベントが与えるストレスがどのようなものなのか熟考しておくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

5	発達心理学ときょうだいの精神的活動
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	発達障害について調べ理解を深めておくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

6	家族に対する心理療法
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で紹介された心理療法について説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

7	家族図（ジェノグラム）からみる家族と世代性
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	自身のジェノグラムを描けるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

8	心理臨床アセスメントと家族
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	心理臨床アセスメントについて説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

9	法律と家族支援
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で取り扱った法律について説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

10	守秘義務と心理支援（連携との兼ね合い）
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	守秘義務とは何か説明できるように復習をすること。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

11	家族に対する心理療法と多職種連携（事例①：虐待、不登校等の子どもが抱える問題）
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で取り扱った事例以外の事例論文を読んでおくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

12	家族に対する心理療法と多職種連携（事例②：夫婦間暴力などの夫婦が抱える問題）
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で取り扱った事例以外の事例論文を読んでおくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

13	家族に対する心理療法と多職種連携（事例：中年期以降の夫婦関係）
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で取り扱った事例以外の事例論文を読んでおくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

14	家族に対する心理療法と多職種連携（事例④：高齢期と介護）
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業内で取り扱った事例以外の事例論文を読んでおくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

15	まとめ
事前	テキストの該当箇所を読み、不明点・疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	授業全体を振り返り、理解を深めておくこと。授業内で参考文献等の紹介があった場合には読んでおくこと。（2時間）

2020/07/16(木)11:18

科 目 名	基礎演習 [科]			授業コード	5020010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸、伊東 正裕、櫻井 優太				

科目に関するキーワード	スタディ・スキル、心理学で共生を考える

到達目標	・大学の授業に必要なスキルを身に付ける。 ・大学生活を主体的に過ごすことができるような態度を身に付ける。 ・研究倫理、フィールドワークの方法を説明できる。 ・人間科学部の共通テーマである人間共生を、初歩的な心理学的視点で考察することができる。 ・グループ学習の課題について適切なプレゼンテーションを実施できる。			
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座（合同実施）と、演習形式で行う講座（個別実施）で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	小グループでのディスカッション、プレゼンテーションの実施、フィールドワークの実施、外部機関への見学学習
評価方法及び評価基準	レポート	レポート（80%）、グループディスカッションでの発言等授業態度（20%）で評価する。		
フィードバック	授業中のグループワークや簡潔な課題についてはその場、もしくは後の回の授業でおこなう。レポート課題についてはコメントをつけて返却、あるいは、でんでんばん上にておこなう			
履修に際しての注意事項	大学生としての自覚をもって授業の臨むこと。 レポートについては、コメントを付けてフィードバックする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、自己紹介
事前	本シラバスをよく読み、授業の全体像を理解しておこう（30分以上）
事後	オリエンテーションの内容を振り返り、不明な点は書き出して次回の授業で確認しよう（30分以上）

2	論文検索Ｉ図書館での検索
事前	本学図書館のホームページとキャンパスガイドの図書館に関するページから、図書館利用について調べておこう（30分以上）
事後	図書館利用における注意点を整理しておこう（30分以上）

3	論文検索2インターネットでの検索
事前	インターネットで情報を得る場合の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	インターネットで論文を調べる方法と、調べた論文の引用方法についてまとめておこう（30分以上）

4	論文検索3資料の整理
事前	授業等で用いた資料の整理について、自分がどのようにおこなってきたか考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された整理方法をまとめておこう（30分以上）

5	ノート・テイキングの技術
事前	自分のノートの取り方について特徴（良い点、悪い点を含む）をまとめておこう（30分以上）
事後	授業で示されたノート・テイクの方法をまとめておこう（30分以上）

6	レポートの書き方
事前	授業で出されるレポートの作成について気をつける点を調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示されたレポートの書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

7	小論文の書き方
事前	感想文、レポート、小論文の違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された小論文の書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

8	引用の方法
事前	文献を引用することと参考にすることとの違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された引用の方法についてまとめておこう（30分以上）

9	コミュニケーション能力1伝わる話し方
事前	聴き手に話を正しく伝えるために必要なことはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された話し方のポイントをまとめておこう（30分以上）

10	コミュニケーション能力2傾聴
事前	相手の話を正しく理解するために、聴き手としてどのようなことに注意したらよいか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された聴き方のポイントをまとめておこう（30分以上）

11	アルバイトから労働を考える
事前	大学生としてアルバイトする場合に気をつけることはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	アルバイトで学べることについて様々な視点からまとめておこう（30分以上）

12	人権侵害とは何か（SNSで人を傷つけるとは）
事前	SNSで人を傷つける行為にはどのようなものがあるか、考えてみよう（30分以上）
事後	人権侵害とはどのようなことか、まとめておこう（30分以上）

13	時間管理学（主体的に生きるための方法）
事前	自分の時間管理能力について長所、短所をまとめておこう（30分以上）
事後	時間管理に必要な能力や方法についてまとめておこう（30分以上）

14	研究方法（様々な研究方法を知る）
事前	研究とはなにか、なぜ研究が必要なのか、調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示された研究方法について特徴をまとめておこう（30分以上）

15	まとめ
事前	ここまでを振り返り、自分のスタディ・スキルについて評価しておこう（30分以上）
事後	後期のフィールドワークに備え、ボランティア活動の準備を進めよう（30分以上）

16	現場から課題を見出す-フィールドワークと倫理的配慮-
事前	フィールドワークとはなにか、調べておこう（30分以上）
事後	フィールドワークをおこなう場合の倫理的配慮についてまとめておこう（30分以上）

17	フィールドワークの方法と共生に関する課題の発見
事前	ボランティア先において、人々の共生と関連する出来事はなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	フィールドワークで用いる方法についてまとめておこう（30分以上）

18	フィールドワークと心理学的考え方を結びつける
事前	ボランティア先の出来事でこれまでに学んだ心理学的知識や理論と関係づけれられるものを書き出してみよう（30分以上）
事後	関連づけられる心理学的知識や理論について詳しく調べておこう（30分以上）

19	フィールドワークの対象と適用可能な心理学的知識や理論をまとめる
事前	フィールドワークの出来事（対象）を具体的に絞り込んでおこう（30分以上）
事後	フィールドワークの出来事（対象）について説明出来る体系的な心理学的知識や理論を構成しよう（30分以上）

20	グループ研究の進め方
事前	グループで発表内容をまとめる際の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	授業でのグループ分けに従い、発表に向けたスケジュールを立てよう（30分以上）

21	テーマを決めてグループ研究
事前	グループで共通テーマを決めておこう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けたスケジュールを決めよう（30分以上）

22	フィールドワークの準備
事前	フィールドワークに必要な資料、道具等準備を進めよう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けた最終チェックをしておこう（30分以上）

23	フィールドワークに出かける1
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

24	フィールドワークに出かける2
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

25	収集資料の整理、分析
事前	グループで分析可能な記録のまとめをしておこう（30分以上）
事後	記録の分析にしたがい、必要な資料等をまとめておこう（30分以上）

26	プレゼンテーションの進め方
事前	研究発表のプレゼンテーション方法について調べておこう（30分以上）
事後	授業で示された進め方にしたがい、グループ発表の段取りをつけよう（30分以上）

27	パワーポイントの作り方
事前	PCルーム等でパワーポイントの基本的操作方法について確認しておこう（30分以上）
事後	グループで発表用スライドを作成しよう（30分以上）

28	グループ研究の発表1
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

29	グループ研究の発表2
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

30	まとめ
事前	フィールドワークの設定からグループ発表までの流れを振り返っておこう（30分以上）
事後	共生と心理学の関連付けについて、この演習で得られたことをまとめておこう（30分以上）

2020/07/16(木)21:00

科 目 名	精神保健福祉援助技術総論I [社]			授業コード	5020022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				

科目に関する キーワード	精神保健福祉士の専門性、倫理、精神保健福祉の基礎
到達目標	精神保健福祉士として精神障害者等の生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を身に着けつため、精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義を理解するとともに、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解することをねらいとし、以下の4点を到達目標とする。 ・精神保健福祉士の専門性を説明できる。 ・精神保健福祉士が守るべき倫理を説明できる。 ・精神障害者と精神保健福祉の基礎的な部分を説明できる。 ・精神保健福祉士の相談援助について基本的な説明ができる。
授業の概要	精神保健福祉士の役割と異議、社会福祉士の役割と意義について、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について学習する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	精神保健福祉に関することについてグループ学習し、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	課題の発表（50%）、小テスト（30%）、授業態度（20%）をもって総合的に評価する。		
フィードバック	小テストは、授業内で解説してフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	精神保健福祉士受験資格取得希望の学生は、必ず履修すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V				○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神保健福祉士法の理解
事前	精神保健福祉士法を調べる。(2時間)
事後	精神保健福祉士法について整理する。(2時間)
2	精神保健福祉士法改正の背景
事前	精神保健福祉士法の改正内容について調べる。(2時間)
事後	授業内容を整理する。(2時間)
3	精神保健福祉士の専門性
事前	精神保健福祉士の専門性とは何か考える。(2時間)
事後	精神保健福祉士の専門性について整理する。(2時間)
4	日本精神保健福祉士協会倫理綱領
事前	日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を調べる。(2時間)
事後	倫理綱領を整理する。(2時間)
5	国際ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領
事前	国際ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領を調べる。(2時間)
事後	授業内容を整理する。(2時間)
6	社会福祉士及び介護福祉士法の理解
事前	社会福祉士及び介護福祉士法を通読する。(2時間)
事後	社会福祉士及び介護福祉士法について整理する。(2時間)
7	社会福祉士の専門性
事前	社会福祉士の専門性について考える。(2時間)
事後	社会福祉士の専門性について整理する。(2時間)
8	国際ソーシャルワーカー連盟の定義
事前	ソーシャルワークの定義を確認する。(2時間)
事後	ソーシャルワークの定義を整理する。(2時間)
9	ソーシャルワークの形成過程
事前	ソーシャルワークの形成過程について、復習する。(2時間)
事後	授業内容を整理する。(2時間)
10	人権擁護
事前	基本的人権について確認する(2時間)
事後	基本的人権について整理する。(2時間)
11	社会正義
事前	正義とは何か考える。(2時間)
事後	授業内容を整理する。(2時間)
12	利用者主体
事前	利用者とは、どのような人か確認する。(2時間)
事後	利用者主体について整理する。(2時間)
13	自立支援
事前	自立とは何か考える。(2時間)

事後	自立について整理する。(2時間)

14	インクルージョンなどの考え方
事前	福祉に関する思想を復習する。(2時間)
事後	インクルージョンについて整理する。(2時間)

15	グループ発表
事前	グループ発表の準備をする。(2時間)
事後	発表の内容を振り返る。(2時間)

2020/07/16(木)10:54

科 目 名	精神保健福祉論I [社]			授業コード	5020030
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	4
担 当 者	伊東 秀幸				

科目に関する キーワード	精神保健福祉法、医療観察法、精神障害者を対象とした施策
到達目標	精神保健福祉士として精神障害者等の生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を身に着けるため、精神障害者に関連した相談援助活動と精神保健福祉法との関わり、制度及び福祉サービスの支援内容、支援において係わる施設・団体・関係機関について理解を深めるとともに、更生保護制度と医療観察法、社会調査の概要について理解することを狙いとし、以下の6点を到達目標とする。 ・精神保健福祉法の内容を説明できる。 ・更生保護と医療観察法の内容を説明できる。 ・支援に関連する制度及び福祉サービスについて説明できる。 ・関係機関の役割を説明できる。 ・社会調査について説明できる。 ・精神保健福祉の歴史について説明できる。
授業の概要	精神保健福祉法及び医療観察法の内容、支援に関連する制度及び福祉サービス、関係機関の役割、更生保護制度、社会調査の基礎について習得する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	各章のまとめとして、グループでのディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	学年末試験（100%）		
フィードバック	リアクションペーパーについては、後日フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	精神保健福祉士の受験資格取得を希望する学生は、必ず履修すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○				○	
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	「精神保健福祉に関する制度とサービス」第6版、中央法規出版	9784805855966
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神保健福祉法の意義
事前	精神h保健福祉法の第1章総則を通読する。(2時間)
事後	授業内容を整理しておく。(2時間)

2	入院形態について
事前	精神科の入院形態の種類を確認する。(2時間)
事後	授業内容を整理しておく。(2時間)

3	精神障害者保健福祉手帳の内容
事前	身体障害者手帳、知的障害者の手帳について復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

4	障害者基本法と精神障害者施策の歴史
事前	「障害者福祉論」で学んだ障害者基本法を復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

5	障害者総合支援法と精神障害者の福祉サービス
事前	「障害者福祉論」で学んだ障害者総合支援法を復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

6	精神障害者を対象とした福祉施策・事業
事前	教科書の該当ページを通読する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

7	医療保険制度の意義と内容
事前	自身が使っている健康保険を確認しておく。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

8	介護保険制度の意義と内容
事前	「高齢者福祉論」で学んだ介護保険制度を復習する。(2時間)
事後	介護保険制度と精神障害者の関係を整理しておく。(2時間)

9	経済的支援に関する制度の意義と内容
事前	「公的扶助」で学んだ生活保護制度を復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

10	行政組織と民間組織の役割と実際
事前	行政組織を確認しておく。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

11	福祉サービス提供施設・機関
事前	「障害者福祉論」で学んだ障害者総合支援法におけるサービス提供施設を確認する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

12	精神保健福祉の歴史(明治・大正)
事前	日本史の明治・大正時代を復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

13	精神保健福祉の歴史(戦前・戦後)
事前	日本史(戦前・戦後)を復習する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

14	精神保健福祉の歴史（精神衛生法から精神保健法）
事前	昭和40年代から昭和60年代は、どのような時代だったか確認する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

15	精神保健福祉の歴史（精神保健福祉法から現在）
事前	平成は、どのような時代だったか確認する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

16	更生保護制度とその担い手
事前	裁判制度を復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

17	司法、医療、福祉の連携
事前	司法、医療、福祉の特徴を考える。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

18	保護観察所のやり取りと実際
事前	執行猶予制度を復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

19	医療観察法の意義と内容
事前	措置入院について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

20	社会復帰調整官の役割と実際
事前	保護観察官について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

21	精神保健参与員の役割と実際
事前	審判期日について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

22	入院者・通院者に関する処遇
事前	措置入院者に関する処遇について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

23	社会調査の意義と目的
事前	「社会調査法」で学んだ社会調査法を復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

24	社会調査の対象
事前	教科書の該当するページを通読する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

25	社会調査における倫理
事前	「社会調査法」で学んだ倫理について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

26	量的調査の方法と活用
事前	「社会調査法」で学んだ量的調査について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

27	質的調査の方法と活用
事前	「社会調査法」で学んだ質的調査について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

28	精神科救急と医龍へのアクセス
事前	入院形態について復習する。（2時間）
事後	授業の内容を整理しておく。（2時間）

29	諸外国の精神保健福祉
事前	教科書の該当のページを通読する。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

30	精神保健福祉領域の今日的問題
事前	今日的問題を予想してくる。(2時間)
事後	授業の内容を整理しておく。(2時間)

2020/07/16(木)20:51

科 目 名	加齢・障害の理解 [心]			授業コード	5020041
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸、馬場 康徳				

科目に関する キーワード	高齢者、障害者についての基本的な知識、当事者・家族を取り巻く環境、社会資源の活用
到達目標	・高齢者や認知症、障害について基礎的な知識を学び、日常生活で発生する様々な介護ニーズに対応できるようになる。 ・サービス利用者の生活や心身の教協に加え、家族を含めた周囲の環境にも十分留意する必要があることを理解できるようになる。 ・高齢者や障害者に多く見られる疾病や機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、高齢者や障害者の尊厳ある介護の基本を理解できるようになる。 ・家庭にかかわる様々な福祉問題に応じた支援に、社会福祉や心理に関係する地域の諸機関と連携、調整を行い、主体的に取り組むことができるようになる。
授業の概要	1～11「加齢」領域は馬場、12～15「障害」領域は伊東が担当する。 高齢者や障害者等のサービス利用者が尊厳ある生活を実現するための介護を実践するうえで必要な、心身の状況や疾病による機能低下が及ぼす日常生活への影響などを学ぶ。 また、高齢者や障害者等の家族を含めた周囲の環境、社会資源の活用に関して学ぶ。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事前学習で考えてきたことについて、グループディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（50%）、授業態度（20%）、提出物等（30%）で総合的に評価する。		
フィードバック	提出されたレポート等に関しては、でんでんばんで、総合的なコメントをもってフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III							
IV							

V				○			

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（馬場）
事前	高齢者、障害者について考えてくる。（2時間）
事後	授業の内容を整理する。（2時間）

2	こころとからだの基本的理解（馬場）
事前	自分自身のこころと体について考えてくる。（2時間）
事後	授業内容を整理する。（2時間）

3	生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解（馬場）
事前	こころとは何か、体とは何か考えてくる。（2時間）
事後	生活支援について整理する。（2時間）

4	人間の成長と発達（馬場）
事前	発達とは何か調べる。（2時間）
事後	発達障害について整理する。（2時間）

5	老年期の理解と日常生活（馬場）
事前	老年期とは何か調べる。（2時間）
事後	授業内容を整理する。（2時間）

6	高齢者と健康1（高齢者に多い疾病と日常生活の留意点）（馬場）
事前	高齢者がかかりやすい疾病を調べる。（2時間）
事後	高齢者の疾患について整理する。（2時間）

7	高齢者と健康2（高齢者の健康管理と保健医療職との連携）（馬場）
事前	高齢者の健康管理について調べる。（2時間）
事後	授業内容を整理する。（2時間）

8	認知症の基礎的理解（馬場）
事前	認知症について調べる。（2時間）
事後	認知症について整理する。（2時間）

9	認知症に伴う心身の変化と日常生活（馬場）
事前	認知症の日常生活の変化について調べる。（2時間）
事後	授業内容を整理する。（2時間）

10	認知症の家族への支援（馬場）
事前	認知症の家族の現状を調べる。（2時間）
事後	認知症の家族支援について整理する。（2時間）

11	認知症を取り巻く状況（馬場）
事前	認知症を取り巻く環境について調べる。（2時間）
事後	認知症と環境について整理する。（2時間）

12	障害の基礎的理解（伊東）
事前	障害とは何か調べる。（2時間）
事後	障害について整理する。（2時間）

13	生活機能障害の理解（伊東）
事前	ICFについて調べる。（2時間）

事後	生活機能障害について整理する。(2時間)

14	障害者の生活理解(伊東)
事前	障害者の生活実態を調べる。(2時間)
事後	障害者の生活実態について整理する。(2時間)

15	障害者の家族への支援(伊東)
事前	障害者の家族について調べる。(2時間)
事後	障害者と家族について整理する。(2時間)

2020/07/16(木)10:38

科 目 名	関係行政論 [科]			授業コード	5020052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				
行政機関での心理支援実践経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関する キーワード	福祉・教育・医療・司法・産業に関する法律、関係機関、

到達目標	・法律、制度を理解し、説明できる。 ・行政機関の役割が説明できる。 ・各法律・制度と心理専門職の関係を説明できる。"			
授業の概要	この講義では、心理専門職に関係する法律や制度、行政機関について学んでいく。具体的には保健・医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野で心理専門職が関係する法律や制度である。また、関係や協力する行政機関、組織なども適宜解説し、人々の心理的健康を維持、増進させる全体像についても理解出来ることを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事前学習で調べてきた内容について順番に発表してもらう。
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験（100%）		
フィードバック	リアクションペーパーは、コメントをつけてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	公認心理師取得を目指す学生は、必ず履修すること。授業に関する連絡は、でんでんばんを用いて連絡する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	六法全書	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	公認心理師と法制度と倫理
事前	公認心理師法を調べる。(2時間)
事後	公認心理師法を整理する。(2時間)
2	精神保健福祉法の理解-精神科医療を中心に-
事前	精神保健福祉法の入院形態を調べる。(2時間)
事後	精神科の入院形態を整理する。(2時間)
3	精神保健福祉法の理解-精神障害者福祉を中心に-
事前	精神障害者保健福祉手帳制度を調べる。(2時間)
事後	手帳の申請手続きを整理する。(2時間)
4	保健・医療分野に関係する法律-地域保健法、医療法を中心に-
事前	医療法を調べる。(2時間)
事後	医療法を整理する。(2時間)
5	児童福祉分野に関係する法律-児童福祉法を中心に-
事前	児童福祉法を調べる。(2時間)
事後	児童福祉法を整理する。(2時間)
6	障害者総合支援法の理解
事前	障害者総合支援法を調べる。(2時間)
事後	障害者総合支援法を整理する。(2時間)
7	障害者福祉分野に関係する法律-知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に-
事前	身体者福祉法、知的障害者福祉法を調べる。(2時間)
事後	身体障碍者福祉法、知的障害者福祉法を整理する。(2時間)
8	高齢者福祉分野に関係する法律-老人福祉法を中心に-
事前	老人福祉法を調べる。(2時間)
事後	老人福祉法を整理する。(2時間)
9	高齢者福祉分野に関係する法律-介護保険法を中心に-
事前	介護保険法を調べる。(2時間)
事後	介護保険法を整理する。(2時間)
10	司法分野に関係する法律-刑法を中心に-
事前	刑法を調べる。(2時間)
事後	刑事司法を整理する。(2時間)
	司法分野に関係する法律-少年法を中心に-

11	
事前	少年法を調べる。(2時間)
事後	少年法を整理する。(2時間)

12	医療観察法の理解-医療機関での処遇を中心に-
事前	医療観察法を調べる。(2時間)
事後	医療観察法を整理する。(2時間)

13	医療観察法の理解-地域での処遇を中心に-
事前	保護観察所の社会復帰調整官について調べる。(2時間)
事後	保護観察所の業務を整理する。(2時間)

14	教育分野に関係する法律
事前	教育に関係する法律について概要を調べてくる。(2時間)
事後	教育基本法を整理する。(2時間)

15	産業・労働分野に関係する法律
事前	労働に関係する法律の概要を調べてくる。(2時間)
事後	労働3法を整理する。(2時間)

2020/07/16(木)10:59

科 目 名	精神保健福祉援助実習指導(事前) [社]			授業コード	5020090
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				

科目に関するキーワード	実習課題、個人票、実習施設の理解
到達目標	精神保健福祉士として精神障害者等の生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を身に付けるため、必要な専門知識や技術の習得を目的として、精神保健福祉援助実習が効果的に実施できるよう、実習の意義や目的、援助者としての在り方等を学習することをねらいとし、以下の4点を到達目標とする。 ・実習先の施設を説明できる。 ・実習課題を作成できる。 ・アセスメントをし、支援計画を作成できる。 ・実習中のマナーを意識した行動ができる。
授業の概要	精神保健福祉援助実習が効果的に実施できるように実習機関の役割、機能、記録の書き方、実習中のマナーを学習するとともに実習課題の作成等を行う。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	調べてきた課題について、発表する。 課題について、グループディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート(60%)、授業態度(40%)		
フィードバック	課題については、コメントをつけてフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	実習を前提に遅刻、欠席は、原則認めない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○		○		
II							
III							
IV			○				

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の概要とスケジュール
事前	ソーシャルワーク実習のスケジュールを確認する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

2	実習を体験して(4年生からのメッセージ)
事前	精神保健福祉実習に対する不安を整理する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

3	実習生への期待(現場からのメッセージ)
事前	現場の精神保健福祉士の業務内容について調べる。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

4	実習の意義を理解する
事前	精神保健福祉士法を通読する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

5	精神保健福祉士に期待するもの(当事者からのメッセージ)
事前	精神障害について確認する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

6	実習先(精神科病院)の理解
事前	精神科医療機関について調べる。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

7	実習先(医療機関)の見学
事前	見学先の医療機関を調べる。(1時間)
事後	見学した内容を整理する。(1時間)

8	実習先(保健所、精神保健福祉センター)の理解
事前	保健所、精神保健福祉センターについて調べる。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

9	実習先(地域活動支援センター1型)の理解
事前	地域活動支援センター1型について調べる。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

10	実習先(地域機関)の見学
事前	見学先の地域機関を調べる。(1時間)
事後	見学した内容について整理する。(1時間)

11	実習ノートの意義と記載方法
事前	記録の書き方について復習する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

12	実習で必要とされる社会資源の知識
事前	社会資源について復習する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

13	実習に必要とされる法律知識
事前	精神保健福祉法を通読する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

14	4年生との交流会
事前	実習に対する期待と不安を整理する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

15	実習報告会への参加
事前	精神保健福祉実習の位置づけについて考える。(1時間)
事後	実習報告会の内容を整理する。(1時間)

16	ソーシャルワーク実習を振り返って
事前	ソーシャルワーク実習での経験について整理する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

17	実習先の配属
事前	実習先施設を確認する。(1時間)
事後	配属先施設の内容を確認する。(1時間)

18	個人プロフィールの作成
事前	個人プロフィールの素材をまとめる。(1時間)
事後	個人プロフィールを清書する。(1時間)

19	実習課題の意味
事前	実習課題の意義を考える。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

20	医療分野における実習課題の作り方
事前	医療分野における疑問点を整理する。(1時間)
事後	医療分野における課題をまとめる。(1時間)

21	医療分野における実習課題の作成
事前	医療分野での課題を整理する。(1時間)
事後	医療分野の実習課題を確定する。(1時間)

22	地域分野における実習課題の作り方
事前	地域分野における疑問点を整理する。(1時間)
事後	地域分野における課題をまとめる。(1時間)

23	地域分野における実習課題の作成
事前	地域分野での課題を整理する。(1時間)
事後	地域分野での実習課題を確定する。(1時間)

24	実習中のマナーについて
事前	マナーについて考える。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

25	実習中のプライバシー保護について
事前	プライバシーについて考える。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

26	オリエンテーションでの諸注意
事前	オリエンテーションの注意事項を考える。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

27	実習中のトラブルについて
事前	実習中のトラブルについて考える。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

28	実習配属先の機能について
事前	配属先の機能を整理する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

29	実習配属先の特徴について
事前	配属先の特徴を整理する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

30	実習課題と実習への意気込み
事前	実習課題を再確認する。(1時間)
事後	授業内容を整理する。(1時間)

2020/07/16(木)22:32

科 目 名	精神保健福祉援助実習I [社]			授業コード	5020103
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	精神保健福祉士 精神障害 相談援助 地域生活支援
到達目標	精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、実習を通して精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求めれる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをねらいとし、以下の6点を到達目標とする。 ・利用者とコミュニケーションがとれ,信頼関係の形成ができるようになる。 ・その人と社会との関係をふまえたアセスメントができ、自己決定を尊重した支援計画が立てられる。 ・多様な人々や多職種と連携し支援の実際が行える能力が身につく。 ・専門職としての高い倫理観を持って相談記録が書け、多職種他機関と連携した支援計画をたてられるようになる。 ・総合的かつ包括的な地域生活支援を実践的に理解し、新たな視点で現状を把握し改善を提案できるようになる。 ・精神障害者の生活問題を理解し、その解決に向けた社会資源の活用を判断し、連携して支援できるようになる。
授業の概要	精神保健福祉士に必要な資質、技能、倫理を持ち、クライエントの課題に対して総合的に対応できる能力を身につけるため、地域の施設・機関等の現場において、実習指導者の指導のもと、精神障害者の置かれている現状を理解し、生活上の課題やニーズをアセスメントし支援を考える。
授業方法	実習 / アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準		実習施設での評価、実習ノートの記入内容、実習への取組等を総合的に評価する。 質問、コメントにはその都度説明する。	
フィードバック	実習中は毎日及び帰校日に実習の振返りと課題についてディスカッションをおこなう。		
履修に際しての注意事項	実習では欠席は認められない。既定の時間数及び内容が満たされなければならない。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III						○	
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー8（第6版）精神保健福祉援助実習指導・現場実習、 へるす出版 新・精神保健福祉士養成講座第9巻「精神保健福祉援助実習指導・実習、中央法規出版 PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き―、へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	1 実習に関するガイダンス 2 地域の施設・機関の役割、特徴の把握 3 福祉サービスの把握 4 福祉サービスの実践 6 利用者とのコミュニケーション 7 関係機関の理解 8 関係機関との連絡会への出席 9 アセスメントの実施 10 ケア計画の作成 11 ケア会議への出席 12 ボランティア、住民に関する理解 13 事例発表の準備 14 事例検討会
事前	講義科目、演習、実習事前学習を整理して実習に臨むこと。
事後	実習ノート、実習中の出来事など学んだ内容を整理し実習事後の学習課題を考察すること。

2020/07/16(木)22:33

科 目 名	精神保健福祉援助実習II [社]			授業コード	5020113
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				
精神科医療機関で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	精神保健福祉士 精神障害 相談援助 精神科医療
到達目標	精神科医療機関における精神保健福祉援助実習をとして、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、実習を通して、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをねらいとし、以下の5点を到達目標とする。 ・入院患者とのコミュニケーションがとれ,信頼関係の形成ができるようになる。 ・グループワークや家族支援について理解を深め運営する能力が身につく。 ・権利擁護の視点と自己決定の尊重をはじめとする精神保健福祉士の基本姿勢が身につく。 ・多職種チームが連携する会議で主体的に発言し責任を持った支援活動を行えるようになれる。 ・政審障害者の生活問題を理解し、その解決に向けた社会資源の活用を判断し連携して支援できるようになる。
授業の概要	精神保健福祉士に必要な資質、技能、倫理を持ち、クライエントの課題に対して総合的に対応できる能力を身につけるため、精神科医療機関の現場において、実習指導者の指導のもと、精神障害者の置かれている現状を理解し、生活上の課題やニーズをアセスメントし支援を考える。
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準		実習施設での評価、実習ノートの記入内容、実習への取り組み等を総合的に評価する。 質問、コメントにはその都度説明する。
フィードバック	実習中は毎日及び帰校日に実習の振返りと課題についてディスカッションをおこなう。	
履修に際しての 注意事項	実習では欠席は認められない。既定の時間数及び内容が満たされなければならない。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III						○	
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健福祉士養成セミナー8（第6版）精神保健福祉援助実習指導・現場実習、へるす出版 新・精神保健福祉士養成講座第9巻「精神保健福祉援助実習指導・実習、中央法規出版 PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き―、へるす出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	1 実習に関するガイダンス 2 精神科医療機関の役割、特徴の把握 3 入院患者とのコミュニケーション 4 入院患者のアセスメント 5 通院医療の把握 6 相談援助の実践 7 デイケアでのグループワーク 8 訪問での相談援助の実践 9 ケア計画の作成 10 ケア会議への出席 11 多職種チーム連携会議への出席 12 事例発表の準備 13 事例検討会 14 まとめ
事前	講義科目、演習、実習事前学習を整理して実習に臨むこと。
事後	実習ノート、実習中の出来事など学んだ内容を整理し実習事後の学習課題を考察すること。

2020/07/16(木)10:39

科 目 名	健康・医療心理学 [科]			授業コード	5020121
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				

科目に関する キーワード	ストレスと心身の疾患、医療における心理支援、災害時の心理支援
到達目標	公認心理師として必要な医療現場等における課題と必要な支援について理解し、以下の4点を到達目標とする。 ・ストレスと心身の疾病との関係について説明できる。 ・医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ・公衆衛生領域における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ・災害時に必要な心理支援について説明できる。
授業の概要	健康活動や医療現場で重視される心理社会的ストレスと心身の疾病との関係についての心理学的知見や理論を学ぶ。これを踏まえて医療現場や保健活動がおこなわれている現場での心理社会的問題の全体的把握と具体的な支援技法についても学んでいく。また、災害時等に必要な心理支援についても、症状に合わせた具体的手法が分かるようにする。加えて、生活場面での心の健康や医療的ケアに関する心理支援についても理解を深める。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事前学習の内容を順番で発表してもらう。
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験（100%）		
フィードバック	リアクションションペーパーは、コメントをつけてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	疑問を持ちながら授業を聞くようにすること。 授業の中で理解できなかったところは、リアクションペーパーに記述すること。次回の授業の中で疑問点を説明する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV				○			

V							

テキスト1	健康・医療心理学、宮脇稔、大野太郎、藤本豊著、医歯薬出版	9784263265772
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ストレスの心理とアセスメント
事前	ストレスの心理に与える影響を調べる。(2時間)
事後	ストレスについて整理する。(2時間)
2	ストレスの生理と心身の疾病
事前	ストレスの体に与える影響を調べる。(2時間)
事後	ストレスが原因の疾病について整理する。(2時間)
3	心の健康とストレスマネジメント
事前	ストレスマネジメントの内容を調べる。(2時間)
事後	ストレスマネジメントについて整理する。(2時間)
4	医療現場における活動の基本と制度・倫理
事前	医療機関について調べる。(2時間)
事後	授業内容を整理する。(2時間)
5	精神科(小児・思春期)
事前	思春期の精神疾患を調べる。(2時間)
事後	思春期の精神疾患について整理する。(2時間)
6	精神科(成年期)
事前	成年期の精神疾患について調べる。(2時間)
事後	成年期の精神疾患について整理する。(2時間)
7	精神科(高齢期)
事前	高齢期の精神疾患について調べる。(2時間)
事後	高齢期の精神疾患について整理する。(2時間)
8	心療内科・内科
事前	心療内科について調べる。(2時間)
事後	心療内科について整理する。(2時間)
9	神経科・リハビリテーション領域
事前	リハビリテーションについて調べる。(2時間)
事後	リハビリテーションについて整理する。(2時間)
10	アディクション領域
事前	依存症について調べる。(2時間)
事後	アディクションについて整理する。(2時間)
	さまざま医療現場とコンサルテーション

11	
事前	コンサルテーションとは何かを調べる。(2時間)
事後	コンサルテーションについて整理する。(2時間)

12	さまざまな保健活動
事前	保健活動とは何かを調べる。(2時間)
事後	保健活動について整理する。(2時間)

13	健康支援活動とストレスチェック
事前	職場のストレスチャックについて調べる。(2時間)
事後	ストレスチェックについて整理する。(2時間)

14	自殺予防活動
事前	近年の自殺の動向について調べる。(2時間)
事後	自殺予防対策について整理する。(2時間)

15	災害時に必要な心理支援
事前	災害時のPTSDについて調べる。(2時間)
事後	災害とPTSDについて整理する。(2時間)

2020/07/16(木)20:56

科 目 名	障がい者スポーツ支援 [科]			授業コード	5020132
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊東 秀幸				

科目に関する キーワード	障がい者スポーツ大会の歴史、障がい者スポーツ大会の企画・運営、障がい者スポーツの意義
到達目標	障がいとの共生を目指して、障がい者スポーツの意義を理解し、障がい者スポーツ大会の企画・運営ができるような知識、技術を修得することを目指し、以下の4項目を到達目標とする。 ・障がい者スポーツの歴史を説明できる。 ・各障がいとスポーツの関係を説明できる。 ・障がい者のスポーツ大会を企画できる。 ・障がい者のスポーツ大会を運営できる。
授業の概要	パラリンピックへの注目などにより、障がい者のスポーツ活動は活発になってきている。しかしながら、こうした活動をサポートする人的資源はまだまだ不十分であり、地域で関心を高め協力する人材を養成することが必要である。この授業では障がい者スポーツの意義や課題を学ぶこと共に、障がい者スポーツ活動へのサポート体験を演習課題として地域支援活動の重要性を学んでいく。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	毎回の授業で、グループ討議を行い、発表を行う。
評価方法 及び評価基準	試験及びレポート	試験（70%）、課題（30%）で総合的に評価する。		
フィードバック	課題は、コメントをつけてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	グループで障がい者スポーツ大会の企画書を作成してもらい、フィードバックする。 グループ研究では、各自積極的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III				○			
IV							

V				○			

テキスト1	テキストは用いないが、必要な資料を配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障がい者スポーツの歴史
事前	障がい者スポーツ大会の起源を調べる。(2時間)
事後	障がい者スポーツ大会の発展経過を整理する。(2時間)
2	パラリンピックの歴史
事前	パラリンピックの起源を調べる。(2時間)
事後	過去3大会の内容を一覧に整理する。(2時間)
3	全国障害者スポーツ大会の歴史と実践
事前	全国障害者スポーツ大会の起源を調べる。(2時間)
事後	これまでのっ全国障害者スポーツ大会の内容を一覧に整理する。(2時間)
4	障がい者スポーツの捉え方と意義
事前	障がい者スポーツの必要性を考えて、まとめる。(2時間)
事後	授業の中で行ったディスカッションを参考に障がい者にスポーツが必要な意味を考え、まとめる。(2時間)
5	知的障がい者とスポーツ
事前	知的障害について調べる。(2時間)
事後	知的障がい者を対象とした種目を調べる。(2時間)
6	視覚障がい者とスポーツ
事前	視覚障がいについて調べる。(2時間)
事後	視覚障がい者を対象とした種目を調べる。(2時間)
7	聴覚障がい者とスポーツ
事前	聴覚障がいについて調べる。(2時間)
事後	聴覚障がい者を対象とした種目を調べる。(2時間)
8	身体障がい者とスポーツ
事前	身体障がいについて調べる。(2時間)
事後	身体障がい者を対象とした種目を調べる。(2時間)
9	精神障がい者とスポーツ
事前	精神障がいについて調べる。(2時間)
事後	精神障がい者を対象とした種目を調べる。(2時間)
10	障がい者スポーツの支援のあり方
事前	障がい者スポーツの支援について、その方法を考える。(2時間)
事後	授業の内容を整理する。(2時間)
11	スポーツに関する安全管理
事前	障がい者スポーツの安全とは何か考える。(2時間)
事後	授業の内容を整理する。(2時間)
12	障がい者スポーツ大会の企画
事前	障がい者スポーツ大会の企画を考える。(2時間)
事後	授業内でのグループディスカッションを基に自身の企画案をまとめる。(2時間)
13	障がい者スポーツ大会の運営
事前	障がい者スポーツ大会の運営計画を考える。(2時間)

事後	授業内でのグループディスカッションを基に自身の運営企画案をまとめ。(2時間)

14	障がい者スポーツ大会の体験
事前	障がい者スポーツの体験をする。(4時間)
事後	授業内での発表を基に体験を整理する。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの授業内容を整理する。(2時間)
事後	授業内でのディスカッションを基にこれまでの授業を整理する。(2時間)

2020/07/16(木)20:51

科 目 名	発達心理学/発達心理学I [科]			授業コード	5030021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	伊東 正裕、新井 彩加				

科目に関する キーワード	青年期までの認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係の発達、非定型な発達

到達目標	・青年期までの認知機能発達、感情・社会性の発達について理解し説明できる。 ・生まれてから青年期までの、自己と他者の関係のあり方とその心理的発達の過程について理解し説明できる。 ・生まれてから青年期までの、心身機能の発達や変化について理解し説明できる。 ・非定型な発達（発達障害など）についての基礎的な知識、およびこうした発達上の困難を有する人々が他の人々と生活するうえで生じる心理的課題について理解し説明できる。			
授業の概要	乳幼児から青年期までの心の発達について、認知、感情、社会性の発達、自己と他者の関係性の心理的発達とスタイル、誕生後の身体的成長に対応した心の発達の青年期までの特徴、および発達の遅れや障害など非定型な発達に対する基本的な知識と考え方を習得する。加えて、発達の遅れや障害を抱えた人々が地域で生活するうえでの心理的な課題についても理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事前に事前学習課題用紙を配布し、各自が専門用語についてまとめ、授業に臨むこととする。（授業後に提出） リアクションペーパーを用いて疑問点を確認し、次回授業時に回答・解説する。
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験70%、課題など授業への取り組み状況30%で総合的に判断する。		
フィードバック	授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は、実施回以降の授業でおこなう。			
履修に際しての 注意事項	授業中の私語など他受講生への迷惑となる行為を行わないこと。注意しても繰り返される場合は退出を求めることがあるので注意すること。 授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							

IV							
V				○			

テキスト1	公認心理師の基礎と実践12「発達心理学」, 本橋一夫(編), 遠見書房, 2018年	9784866160627
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション:到達目標の説明、授業の進め方、履修上の留意事項
事前	授業シラバスとテキストの「はじめに」と「目次」をよく読んでおこう。(学修目安時間2時間)
事後	オリエンテーションの内容を確認しておこう。(学修目安時間2時間)

2	発達を理解する諸理論:身体・生理・知的発達の方向性、発達段階と発達課題
事前	事前学習課題用紙に、「発達段階と発達課題」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、発達を理解する諸理論についての理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

3	胎児、新生児、乳児期1:生物学的基盤と能力、環境との相互作用、外的知覚の発達
事前	事前学習課題用紙に、「遺伝と環境の関係」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、胎児と・新生児の発達に関する理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

4	胎児、新生児、乳児期2:運動能力と知覚、認知の発達、ことばの芽生え、愛着の芽生え
事前	事前学習課題用紙に、「運動能力・知覚・認知の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、乳児の運動能力、知覚・認知の発達に関する知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

5	胎児、新生児、乳児期3:感情の発達、自他の区別と自己意識の芽生え、社会性の発達
事前	事前学習課題用紙に、「感情・自己意識・社会性の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、感情・自己意識・社会性の発達に関する知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

6	幼児期1:言語獲得とコミュニケーションの発達、思考の発達
事前	事前学習課題用紙に、「言語獲得と思考の発達」に関する専門用語をまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、言語・思考の発達に関する知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

7	幼児期2:感情機能と対人関係の発達、自己認知と他者認知の発達、愛着形成
事前	事前学習課題用紙に、「アタッチメントの成立」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、感情機能・アタッチメントの発達に関する知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

8	幼児期3:社会性の発達
事前	事前学習課題用紙に、「社会性の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、社会性の発達に関する理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

9	児童期1:読み書きの発達、思考と学習活動の発達
事前	事前学習課題用紙に、「思考と学習活動の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、思考と学習活動の発達に関する理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

10	児童期2:身体運動の発達と行動の変化
事前	事前学習課題用紙に、「身体運動の発達」について専門用語をまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、身体運動の発達と行動の変化について、理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

11	児童期3:友人関係の発達と変化
事前	事前学習課題用紙に、「友人関係の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、友人関係の発達と変化について、理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

12	青年期1:身体、生理的変化と自己意識、対人的枠組みの変化と発達
事前	事前学習課題用紙に、「身体・生理的変化、自己意識の発達」についてまとめておこう。(学修時間目安2時間)
事後	十分な復習を行い、思春期の身体的・心理的変化に関する理解と知識の定着を図ろう。(学修目安時間2時間)

13	青年期2:価値観、道徳、自己概念、自尊心と自己効力感の形成と変化

事前	事前学習課題用紙に、「自己概念・自己効力感の形成」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、自己概念と自己効力感の形成と変化に関する理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

14	発達上の困難に対する理解：発達障害、コミュニケーションや身体運動、感情制御の課題など
事前	事前学習課題用紙に、「非定型発達（発達障害）」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、発達上の困難に関する理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

15	発達上の困難を有する人々が安全で安心な生活を送るためにできる心理支援とは？
事前	事前に配布する事前学習課題用紙に専門用語をまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、発達障害への心理支援について理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

2020/07/16(木)21:02

科 目 名	発達心理学II [科]			授業コード	5030032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊東 正裕、新井 彩加				

科目に関する キーワード	生涯発達、青年期後期以降の認知・感情・社会性の変化、対人関係の変化、高齢期の心理社会的変化と心理的支援

到達目標	・青年後期以降の認知・感情・社会性の変化について理解し説明できる。 ・青年期以降の対人関係について、家族的、社会的役割の変化を踏まえて理解し説明できる。 ・青年期以降の心身機能の変化について理解し説明できる。 ・高齢期の心理社会的変化と特徴、及びそれにより生じる心理的支援について理解し説明できる。			
授業の概要	成人期以降、高齢期に至るまでの心の特徴と変容を、生涯発達的観点から学ぶ。認知、感情、社会性の変容、自己と他者の関係性の心理的変容、心身機能の変化と行動の関係について、発達という視点でどのように人を理解可能できるかについて、この時期に起きうる疾病や障害による心理的影響も含めて考えていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事前に事前学習課題用紙を配布し、各自が専門用語についてまとめ、授業に臨むこととする。(授業後に提出) リアクションペーパーを用いて疑問点を確認し、次回授業時に回答・解説する。
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験70%、課題など授業への取り組み状況30%で総合的に判断する。		
フィードバック	授業に関する連絡は、授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			
履修に際しての 注意事項	授業中の私語など他受講生への迷惑となる行為を行わないこと。注意しても繰り返される場合は退出を求めることがあるので注意すること。 授業に関する連絡は、授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は、実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							

IV							
V				○			

テキスト1	公認心理師の基礎と実践12「発達心理学」, 本橋一夫（編）, 遠見書房, 2018年	9784866160627
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：「発達心理学Ⅰ」を踏まえた到達目標の説明、授業の進め方と注意点
事前	授業シラバスをよく読むとともに、発達心理学Ⅰで配布したプリント等により、学修した内容を十分復習しておこう。（学修目安時間2時間）
事後	オリエンテーションの内容をよく確認しておこう。（学修目安時間2時間）

2	青年期後期1：思考、感情機能の成熟
事前	事前学習課題用紙に、「アイデンティティ」「青年期自己中心性」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、青年期後期の思考・感情機能について理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

3	青年期後期2：対人関係の拡がりと親密化、親子関係の変化と再評価
事前	事前学習課題用紙に、「心理的離乳」「第二の分離固体化」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、対人関係の拡がりと親子関係の変化について、知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

4	青年期後期3：キャリアの形成と選択
事前	事前学習課題用紙に、「キャリアの選択」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、キャリアの形成と選択について、理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

5	成人期1：親からの独立と停滞、結婚と出産
事前	事前学習課題用紙に、「成人期初期の親との関係の変化」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、親からの独立・結婚と出産について、理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

6	成人期2：子育て期における親の心、親子関係の形成と変化
事前	事前学習課題用紙に、「子育て期の親の心」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、親子関係の形成と変化について知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

7	成人期3：ワーク・ライフバランス、ワーク・ライフコンフリクト
事前	事前学習課題用紙に、「職業性ストレス」に関連する要因についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、ワークライフ・バランスについて知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

8	成人期4：中年期～向老期の心身機能と心理的変化
事前	事前学習課題用紙に、「中年期の危機」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、中年期の心身機能と心理的変化について知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

9	高齢期1：心身機能の老化に関するメカニズム
事前	事前学習課題用紙に、向老期の心身機能の変化についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、心身機能の老化に関するメカニズムについて、知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

10	高齢期2：高齢期の認知・感情機能の特徴
事前	事前学習課題用紙に、「高齢期の認知・感情機能」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、高齢期の認知・感情機能の特徴について知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

11	高齢期3：社会的役割変化の影響
事前	事前学習課題用紙に、「高齢期の社会的役割の変化」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、高齢期の社会的役割の変化の影響について、知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

12	高齢期4：サクセスフル・エイジングとプロダクティブ・エイジング
事前	事前学習課題用紙に、「サクセスフル・エイジング」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、老いに対する心理的適応について、知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

13	成人期以降に起きうる障害・心理的困難の理解1：強い孤独やうつ病、慢性疾患と心理支援
事前	事前学習課題用紙に、「高齢者のうつ病」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、高齢者のうつ病・慢性疾患への心理支援について知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

14	成人期以降に起きうる障害・心理的困難の理解2：認知症と心理支援
事前	事前学習課題用紙に、主な「認知症」についてまとめておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、主な認知症の特徴と心理支援について理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

15	全体のまとめ：人の一生から見た「心の発達」とは
事前	事前学習課題用紙に、生涯発達の観点から発達の定義を確認しておこう。（学修時間目安2時間）
事後	十分な復習を行い、心理的発達を支える主な軸について、理解と知識の定着を図ろう。（学修目安時間2時間）

2020/07/16(木)21:11

科 目 名	心理学 [社介]			授業コード	5040011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	五島 史子				

科目に関するキーワード	心理学 こころの科学 心理学の基礎領域と応用領域
到達目標	心理学の基礎的な概念や理論、研究法を学び、心理学とはいかなる学問であるかを知ることができる。 心理学の歴史や代表的研究を知ることができる。 心理学の諸領域を、基礎から臨床まで広く知ることができる。 認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学、神経心理学など、心理学の全体像を説明できる。 これらにより、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理を理解し、実践することができるようになる。
授業の概要	心理学の分野は基礎から臨床まで幅広いテーマが展開される。その中でも生活場面における人間の行動の理解や支援に役立つ分野、特に介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理の基礎的な知識を中心に学習する。心理学の基礎理論、すなわち人間に共通する一般論を学び、ついで個々人を理解し支援するための理論や方法(介入法)を学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○	事後課題について，次週授業のはじめに発表の時間を取り，意見交換を行い理解を深める。
評価方法及び評価基準	試験	成績評価は、試験(50%)・授業内に実施する小リポート(50%)の割合で行うが、得点の分布によって配点を調整する可能性もある。
フィードバック	課題や質問については授業内でフィードバックする。	
履修に際しての注意事項	試験は、単なる知識の確認のために行う問題は出さない。論述を予定している。授業内で実施するリポート作成を通して、自分の考えを文章にまとめる練習を積んでおくこと。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	特に指定しない。毎回の授業で資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	鹿取廣人、他編集「心理学（第5版）」東京大学出版会	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学とは：心理学の分野、福祉・医療・リハビリテーションにおける心理学
事前	心理学がどのような学問領域なのか自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

2	こころとは何か：パーナリティ
事前	パーソナリティについて自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

3	情動（感情）
事前	情動（感情）について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

4	欲求と動機づけ
事前	欲求と動機づけについて自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

5	感覚・知覚・認知
事前	感覚・知覚・認知の違いについて自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

6	学習と記憶、言語
事前	学習と記憶，言語について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

7	知能と思考
事前	知能と思考について，また知能と思考の関係について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

8	社会心理学① 人間環境と集団、個人と集団
事前	集団の特性について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

9	社会心理学② 対人交流とコミュニケーション
事前	コミュニケーションに欠かせないものについて自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

10	発達心理学と発達障害
事前	発達障がいにどのようなものがあるか自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

11	ストレスを巡って：ストレス反応、ストレッサー、ストレスコーピング
事前	ストレス反応にどのようなものがあるか自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

12	脳と心：神経心理学
事前	神経心理学では何が明らかになるのか自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。（2時間）

13	臨床心理学
事前	臨床心理学が扱う内容について自分なりに調べてくること。（2時間）

事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。(2時間)

14	面接法、カウンセリング、心理療法
事前	特に，心理療法について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめてくること。(2時間)

15	心理学的支援の実際：心理師の役割の理解と心理師との協働のあり方
事前	心理師との協働のありかたについて自分なりに考えてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深め，まとめること。(2時間)

2020/07/16(木)21:30

科 目 名	児童心理学 [社心]			授業コード	5040032
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	五島 史子				

科目に関する キーワード	児童期，児童期の心理的特徴

到達目標	児童心理学における基礎的な知識を学び，児童期の心理学的特徴を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	児童心理学では，児童に関する心理学的理論を学ぶ。具体的には児童はことばをどのように発達させていくか，心をどのように理解しているか，コミュニケーションをどのように発達させていくかなど，児童に関する幅広い心理学的理論について解説する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	事後課題について，次週授業のはじめに発表の時間を取り，意見交換を行い理解を深める。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（60%）、授業中の課題等への取り組み（20%）、事前・事後学習課題への取り組み（20%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で課題や質問へのフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合講義室からの退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III		○					
IV							

V		○					

テキスト1	特に使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	児童期の発達
事前	児童期の発達について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

2	幼児から児童へ
事前	幼児期について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

3	ことばの発達
事前	幼児期のことばの発達について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

4	科学的認識の形成
事前	幼児期の科学的認識について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

5	表現力と感性の発達
事前	児童期の表現力と感性の発達について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

6	自己の成長と人間関係
事前	児童期の自己の成長と人間関係について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

7	心の理解
事前	心の理論について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

8	情動の理解
事前	児童期の情動の理解について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

9	社会的ルールの理解
事前	児童期の社会的ルールの理解について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

10	出来事の理解
事前	児童期の出来事の理解について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

11	向社会的行動
事前	向社会的行動について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

12	道徳性と価値観の発達
事前	児童期の道徳性について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

13	コミュニケーションの発達
事前	児童期のコミュニケーションの発達について自分なりに調べてくること。(2時間)

事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

14	メタ認知と社会性
事前	メタ認知と社会性の関係について，自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

15	家庭生活と家族関係
事前	児童期の家庭生活と家族関係について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

2020/07/16(木)21:46

科 目 名	学習・言語心理学 [科]			授業コード	5040041
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	五島 史子				

科目に関するキーワード	学習，行動の変容，言語習得の機序

到達目標	学習に関する代表的な心理学的理論について理解し説明できる。 学習の心理学的理論に基づき、経験を通して人の行動が変化する過程を理解し説明できる。 言語の習得や発達に関する心理学的理論について理解し説明できる。 言語の習得における機序について説明できる。			
授業の概要	人の学習について、その形成と変容に関する心理学的理論を学ぶ。これにより人の行動が変化する過程を理解し説明出来るようにする。また、言語習得についての心理学的理論を学び、言語を習得する諸条件や機序を理解し説明出来るようにする。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業後半では，授業内で解説した内容について，グループに分かれ話し合う。その後，話し合いで得られた内容を発表し内容の理解を深める。
評価方法及び評価基準	試験	試験（60%）、授業中の課題等への取り組み（20%）、事前・事後学習課題への取り組み（20%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で課題や質問へのフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合講義室からの退出を求めることもあるので留意されたい。 授業中の課題、リアクションペーパー等へのフィードバックは、その後の授業もしくは「でんでんばん」の通知機能を用いて行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II						○	
III				○			

IV							
V							

テキスト1	特に使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：授業概要と到達目標等の説明
事前	学習・言語心理学について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

2	学習とはなにか：学習、行動をとらえる研究の歴史と変遷
事前	学習とは何かついて自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

3	行動の捉え方：測定法と研究法
事前	行動の測定法について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

4	生得的な行動の特徴と種類
事前	生得的行動について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

5	レスポンデント（古典的）条件づけによる学習
事前	レスポンデント条件づけについて自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

6	オペラント（道具的）条件づけによる学習
事前	オペラント条件づけについて自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

7	強化随伴性の機能
事前	強化随伴性とは何か，自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

8	刺激による制御
事前	刺激による制御について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

9	学習・行動と言語：言語に対する心理学的アプローチ
事前	言語に対する心理学的アプローチについて自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

10	言語発達に関する心理学的研究
事前	言語発達に関する心理学的研究について自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

11	言語発達の環境・社会的基盤：顕在学習と潜在学習
事前	顕在学習と潜在学習の違いを自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

12	ワーキングメモリと言語習得（1）音韻能力の発達と習得
事前	言語の音韻能力の発達について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

13	ワーキングメモリと言語習得（2）語彙能力の発達と習得

事前	語彙能力の発達について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

14	ワーキングメモリと言語習得(3)文法能力の発達と習得
事前	文法能力の発達について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

15	語用論とコミュニケーション能力の発達と習得
事前	語用論とコミュニケーション能力の発達について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

2020/07/16(木)21:42

科 目 名	認知心理学/知覚・認知心理学 [子]			授業コード	5040072
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	五島 史子				

科目に関するキーワード	認知，認知神経科学，感性認知
到達目標	認知心理学における基礎的な知識を学び，認知心理学の研究方法を理解できる。 日常生活の身近な問題に，習得した認知心理学の知識や手法を適用できる。
授業の概要	認知心理学は，心の働きを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。情報処理アプローチを中心に記憶，思考，認知と感情といった認知心理学の幅広い領域に関して，それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルを紹介する。授業では，情報の選択（注意），ワーキングメモリ，長期記憶，知識の表象，問題解決，身体化された認知などについて，楽しく実感できるように実例をあげながら，認知神経科学を含めた人の情報処理について解説してゆく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング：○ / 事後課題について，次週授業のはじめに発表の時間を取り，意見交換を行い理解を深める。
評価方法及び評価基準	レポート / レポート（60%）、授業中の課題等への取り組み（20%）、事前・事後学習課題への取り組み（20%）で総合的に評価する。
フィードバック	毎回の授業内で質問へのフィードバックを行う。
履修に際しての注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合講義室からの退出を求めることもあるので留意されたい。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III							
IV							

V		○					

テキスト1	特に使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス
事前	認知心理学について自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

2	認知心理学について
事前	心の働きを解明する情報処理アプローチについて自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

3	認知神経科学について：認知の神経基盤
事前	認知の神経基盤について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

4	身体化された認知：判断，印象，交渉
事前	身体化された認知とは何か，自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

5	認知と感情(1)：感情と認知の相互作用
事前	感情と認知の相互作用について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

6	認知と感情(2)：感情認知のプロセスとルート
事前	感情認知のプロセスについて自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

7	感性認知：単純接触効果，視線と感性
事前	感性とは何か，自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

8	注意と意識：注意の理論，選択的聴取，変化の見落とし
事前	注意とは何か，自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

9	記憶(1)：感覚記憶，ワーキングメモリ
事前	感覚記憶とワーキングメモリとは何か，自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

10	記憶(2)：長期記憶；潜在記憶，顕在記憶
事前	長期記憶について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

11	記憶(3)：日常記憶：再構成的記憶，目撃者の証言
事前	目撃者の証言について，問題点を自分なりに考えてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

12	知識の表象：意味のネットワークと活性化拡散，スキーマ
事前	スキーマとは何か，自分なりに調べてくること。(2時間)
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。(2時間)

13	意思決定と問題解決：問題解決の方略
事前	問題解決の方略について自分なりに理解してくること。(2時間)

事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

14	推論：演繹的推論，帰納的推論，ヒューリスティク，アルゴリズム
事前	ヒューリスティクとアルゴリズムについて自分なりに調べてくること。（2時間）
事後	授業内容に関連した課題を出すので，授業内で説明した内容を十分に理解し深めまとめてくること。（2時間）

15	授業内試験と解説等（学習成果を測定）
事前	14回分の授業内容について資料を見返してくること。（2時間）
事後	レポート課題について，授業内で説明した内容を十分に理解し深めること。（2時間）

2020/07/16(木)22:17

科 目 名	神経・生理心理学 [科]			授業コード	5050021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	櫻井 優太				

科目に関する キーワード	脳、神経、生理学、脳と心

到達目標	・脳神経系の構造と機能を理解し説明出来る ・記憶や感情、動機づけ等の生理学的反応機序について理解し説明出来る ・高次脳機能障害の代表的症状も含めた概要を理解し説明出来る ・精神疾患と脳神経系および生理学的な関連性、向精神薬の作用機序についての概要を理解し説明出来る			
授業の概要	人の脳神経系の構造と機能を理解し、それを踏まえて記憶、感情など様々な知覚や感覚、認知をもたらす生理学的反応機序を学ぶ。さらに高次脳機能障害の概要と、脳神経系の構造と機能が人の高次機能とどのように関係しているのかについても理解出来るようにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業内容を確認する小テストを隔週行う。各回、集計後の授業においてこのテストの解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験（80%）、授業中に実施する小テスト（20%）にて評価する。		
フィードバック	隔週の小テストにおいては授業に関する質問やコメントを自由に書き込める欄を設ける。提出された質問やコメントに対しては授業内で随時返答する。			
履修に際しての 注意事項	小テストや事後学習課題によって自分の理解度を把握し、不明点については教員への質問や資料を読み込むことを通じて内容を把握するよう努めること。 授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV			○				

V	○						

テキスト1	使用しない。適宜、プリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修における留意点の説明
事前	本科目のシラバスをよく確認し、授業内容を把握する（0.5時間）。今まで生物の授業で学修してきたことを振り返る（2時間）。
事後	脳と心の関連性について自分なりに考えてみる、心と身体の関連性を考えてみる（1.5時間）。

2	脳神経系の解剖学的説明
事前	神経細胞（ニューロン）の構造について予習する（1.5時間）。
事後	脳神経の全体像と、脳の各部位の名称について復習する（2.5時間）。

3	神経系の情報伝達
事前	神経細胞が興奮する（活動電位を生じる）というのは、具体的にどのような仕組みであるのか予習する（1.5時間）。
事後	活動電位の仕組みの詳細、活動電位の伝導、シナプスでの情報伝達の仕組みについて復習する（2.5時間）。

4	大脳皮質の機能局在
事前	大脳の各部位がどのような機能を担っているか予習する（1.5時間）。
事後	全体論から局在論へと移り変わった経緯を復習する。脳の各部位の機能を詳しく復習する。（2.5時間）

5	脳神経系機能の研究方法
事前	脳神経系の研究方法である破壊法、刺激法、記録法について予習する（1.5時間）。
事後	授業で扱った研究法を詳しく復習する。特に「記録法」として脳活動をとらえる方法を復習する。（2.5時間）

6	神経の可塑性と環境の影響
事前	「可塑性」という概念について予習する（1.5時間）。
事後	海馬において生じる可塑性のひとつである「長期増強」について詳しく復習する。神経ネットワークの形成と臨界期について復習する。（2.5時間）

7	感覚・知覚と脳神経系
事前	第3回に扱った神経細胞の興奮について復習し、視細胞の仕組みについて予習する（1.5時間）。
事後	脳における視覚情報の処理について復習する（2.5時間）。

8	運動と脳神経系
事前	「一次運動皮質」「二次運動皮質」について予習する（1.5時間）。
事後	脳において運動に関わる情報処理がどのようになされているか詳しく復習する（2.5時間）。

9	記憶と脳神経系
事前	記憶に関わる心理学用語である「符号化」「貯蔵」「検索」について予習する（1.5時間）。
事後	記憶に関わる脳部位と、記憶障害である「健忘」について復習する（2.5時間）。

10	感情と脳神経系
事前	感情とはどのようなものであるか、どのような場合に感情が生じるか考えておく（1.5時間）。
事後	感情と脳、感情と身体の関わりについて詳しく復習する（2.5時間）。

11	動機づけと脳神経系
事前	心理学用語である「動機づけ（モチベーション）」とは何であるか、予習する（1.5時間）。
事後	動機づけに関わる脳神経の働きについて詳しく復習する（2.5時間）。

12	高次脳機能障害
事前	脳の損傷による障害について予習する（1.5時間）。
事後	授業で扱った様々な高次脳機能障害について詳しく復習する（2.5時間）。

13	精神疾患と脳神経系
事前	統合失調症、うつ病、不安障害について予習する（1.5時間）。

事後	授業で扱った様々な精神疾患の症状と、それぞれの治療に用いられる薬剤の作用について詳しく復習する（2.5時間）。

14	神経・生理心理学の知識を現場の心理支援にいかに役立てるか
事前	本科目で扱った生理心理学の知識が、対人的な援助においてどのように役立つか、あらかじめ考えておく（1.5時間）。
事後	脳機能の知識を応用した心理支援や、ポリグラフ検査をはじめとする実務への応用について詳しく復習する（2.5時間）。

15	まとめ
事前	これまでに学修してきたことの全体を振り返っておく（2時間）。
事後	脳と心の関連性、心と身体の関連性について改めて振り返り、心を理解する道すじとしての生理心理学の全体像を復習する（2時間）。

2020/07/16(木)21:05

科 目 名	人格心理学/感情・人格心理学 [心科]			授業コード	5050031
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	櫻井 優太				

科目に関するキーワード	感情，感情の理論，人格，性格
到達目標	・感情に関する代表的な理論及び感情喚起の機序について理解し説明出来る ・感情が行動に及ぼす影響について理解し説明出来る ・人格の概念及び形成過程について理解し説明出来る ・類型、特性など人格の代表的理論と、人格の障害について理解し説明出来る
授業の概要	この講義では、感情と人格についての心理学的理論や研究的枠組みを学んでいく。具体的には感情に関する心理学的理論を歴史的経緯も踏まえて概観し、感情喚起の機序や感情と行動の相互作用について理解を深める。また、人格については人格の概念、人格形成の過程と人格を理解する類型や特性などの枠組みについて学び、人格の偏りや形成上の課題が人の生活にいかなる影響を及ぼすかについても解説する。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	授業内容を確認する小テストを隔週行う。各回、集計後の授業においてこのテストの解説を行う。
評価方法及び評価基準	試験	定期試験（80%）、授業中に実施する小テスト（20%）にて評価する。		
フィードバック	隔週の小テストにおいては授業に関する質問やコメントを自由に書き込める欄を設ける。提出された質問やコメントに対しては授業内で随時返答する。			
履修に際しての注意事項	小テストや事後学習課題によって自分の理解度を把握し、不明点については教員への質問や資料を読み込むことを通じて内容を把握するよう努めること。 授業に関する連絡は、授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							
IV				○			

V				○			

テキスト1	使用しない。適宜、プリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の留意点について説明
事前	本科目のシラバスをよく確認し、授業内容を把握する（0.5時間）。 感情とはどのようなものであるか、どのような場合に感情が生じるか考えておく（1.5時間）。
事後	授業内容を振り返り、自分なら「感情」という用語にどのような定義を与えるか考える。 感情に関係する要因にはどのようなものがあるか考える。（2時間）

2	感情とは：感情の基礎
事前	感情が生じるプロセスはどのようなものであるか、考えておく（1.5時間）。
事後	感情の3つの側面である「生理的反応」「主観的感情体験」「感情表出」について詳しく復習する（2.5時間）。

3	感情の生物学的基礎
事前	感情が生じるときに起こる身体反応について予習する（1.5時間）。
事後	感情に関わる脳部位の働きについて詳しく復習する（2.5時間）。

4	感情の理論1：古典的理論
事前	ジェームズ・ランゲ説など、感情に関する理論について調べておく（1.5時間）。
事後	授業で扱った様々な感情理論を詳しく復習する（2.5時間）。

5	感情の理論2：基本的感情説と次元説
事前	「基本」となる数種類の感情があると考えるのが基本感情説であるが、どのような感情が「基本」と考えられるか、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	基本感情説と次元説、それぞれの特徴を詳しく復習する。 両理論とも優れた点があるが、感情を完全に説明する理論として完成していないことを見直しておく。（2.5時間）。

6	感情と行動
事前	感情が表に現れる形としてどのようなものがあるか、考えておく（1.5時間）。
事後	感情がもたらす行動面への影響である、表情、動機づけ、対人関係について詳しく復習する（2.5時間）。

7	感情の測定
事前	どのような方法によって感情を「正確に」測れるか、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	主要な感情測定法である質問紙、行動指標、生理指標について詳しく復習する（2.5時間）。

8	援助行動と共感性
事前	相手を助ける行動が生じるプロセスについて、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	共感性を構成する要素や、援助を阻害する要因について詳しく復習する（2.5時間）。

9	感情の制御
事前	感情をコントロールする方法について、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	感情制御に関わる脳部位や、感情を制御する有効な手段について詳しく復習する（2.5時間）。

10	人格の概念
事前	人格（パーソナリティ）の個人差はどのようなものがあるか、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	人格（パーソナリティ）を測定する方法について詳しく復習する（2.5時間）。

11	知的機能の個人差
事前	「知能」とはどのようなものであるか、どのように理解できるものであるか、自分なりに考えておく（1.5時間）。
事後	代表的な知能検査や、知能に影響する要因について詳しく復習する（2.5時間）。

12	人格の形成と変容
事前	人格（パーソナリティ）の個人差はどのように生まれるか、自分なりに考えておく（1.5時間）。

事後	人格発達に関わる要因や、パーソナリティと適応に関して詳しく復習する（2.5時間）。

13	人格の理論
事前	「類型論」と「特性論」について予習する（1.5時間）。
事後	「類型論」と「特性論」を中心に、性格の個人差を理解する理論について詳しく復習する（2.5時間）。

14	性格5因子論
事前	5つの因子によって性格をとらえる理論について、第13回の講義を中心に振り返っておく（1.5時間）。
事後	人格の個人差と適応について詳しく復習する（2.5時間）。

15	人格の障害：人格の障害の内容と特徴、障害を抱えて生きるための支援とは
事前	人格障害（パーソナリティ障害）について予習する（1.5時間）。
事後	人格障害（パーソナリティ障害）の症状について復習し、援助のあり方について振り返る（2.5時間）。

2020/07/16(木)22:09

科 目 名	心理学実験 [科]			授業コード	5050051
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	櫻井 優太、新井 彩加				

科目に関するキーワード	実験、測定、データ分析、論文としての表現

到達目標	・心理学の基礎的な実験を計画し、それに基づき実験手続きを理解し説明することが出来る。 ・心理学の基礎的な実験について計画、必要な実験器具、実験環境の整備を理解し説明することが出来る。 ・それぞれの実験結果を適切な分析手法により処理し考察することが出来る。 ・報告書として適切なレポートを作成することが出来る。			
授業の概要	心理学の複数の分野から古典的あるいは代表的な実験を参考として、実験を実際におこないレポートを作成する。ここには仮説に基づく実験計画の生成から実験環境の準備、実験実施、統計手法を用いた分析と考察などが含まれる。分析は各自が背景となる基本的統計理論を十分理解し自ら分析作業をおこなう。			
授業方法	実験	アクティブラーニング	○	各単元で与えられた実験のテーマに沿って、自ら実際に実験を実施してデータを収集し、データ分析を行う。最終的に論文としてまとめる。
評価方法及び評価基準	レポート	毎回の実験レポートを提出することを前提とし、実験レポートの内容に基づいて評価する。		
フィードバック	授業に関する質問は口頭またはリアクションペーパー等の方法によって求め、授業内で随時返答する。提出されたレポートに関する解説等も行う。			
履修に際しての注意事項	パソコンを使用して作業するので、データを保存するための媒体(USBメモリーキーなど)を用意することが望ましい。授業は小グループの実習形式で行うため、遅刻はしないこと。レポートは個別に提出することが求められる。この授業は複数の教員が担当している。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II	○						
III							
IV							

V			○				

テキスト1	使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	本科目のシラバスをよく確認し、授業内容を把握する（0.5時間）。
事後	「心理学における実験の重要性」について詳しく復習する（0.5時間）。

2	心理学実験とは：実験法の概要、レポートの書き方、実験の倫理
事前	実験を行う上でどのようなことが倫理的に問題となるか考えておく（0.5時間）。
事後	実験法の概要と、研究結果の報告方法について復習する（0.5時間）。

3	心理測定の基礎1：調整法、極限法、恒常法、マグニチュード測定法、一対比較法
事前	調整法、極限法、恒常法について調べておく（0.5時間）。
事後	授業で扱った測定法について復習する（0.5時間）。

4	心理測定の基礎2：正反応・誤反応、反応時間、潜在性
事前	反応時間が心理学においてどのような目的で測定されているか調べておく（0.5時間）。
事後	反応時間を測定した場合、どのようにデータを処理するか復習する（0.5時間）。

5	心理学実験とモデル構成、理論構成
事前	「意味記憶のネットワークモデル」について調べておく（0.5時間）。
事後	実験結果に基づいて心をモデル化することについて、復習する（0.5時間）。

6	心理学実験と基礎的な統計
事前	「平均値」「標準偏差」などの統計用語を調べておく（0.5時間）。
事後	授業で扱った統計分析法について復習する（0.5時間）。

7	情報の伝達と記憶の変容1：実験の計画
事前	「うわさの伝わり方」について調べておく（0.5時間）。
事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

8	情報の伝達と記憶の変容2：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。
事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

9	情報の伝達と記憶の変容3：データ処理とレポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

10	鏡映描写による学習の実験1：実験の計画
事前	「学習」について調べておく（0.5時間）。
事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

11	鏡映描写による学習の実験2：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。
事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

12	鏡映描写による学習の実験3：データ処理とレポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

13	幾何学的錯視の実験1：実験の計画
事前	「錯視」について調べておく（0.5時間）。

事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

14	幾何学的錯視の実験2：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。
事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

15	幾何学的錯視の実験3：データ処理とレポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

2020/07/16(木)22:10

科 目 名	心理学応用実験 [科]			授業コード	5050062
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	櫻井 優太、新井 彩加				

科目に関するキーワード	実験、測定、データ分析、論文としての表現

到達目標	・心理学の応用的な実験を計画し、それに基づく実験手続きを理解し説明することが出来る。 ・心理学の応用的な実験について計画、必要な実験器具、実験環境の整備を理解し説明することが出来る。 ・それぞれの実験結果を適切な分析手法により処理し考察することが出来る。 ・報告書として適切なレポートを作成することが出来る。			
授業の概要	「心理学実験」を踏まえ、最近の認知心理学や実験社会心理学、あるいはフィールド実験など応用的な実験をおこなう。基本的には実験計画からレポート作成まで「心理学実験」と同様な実施形態となるが、フィールドなどによる実施の工夫や制約性の克服、倫理性へのより強い配慮など実験実施における高度な態度形成を目指す。			
授業方法	実験	アクティブラーニング	○	各単元で与えられた実験のテーマに沿って、自ら実際に実験を実施してデータを収集し、データ分析を行う。最終的に論文としてまとめる。
評価方法及び評価基準	レポート	毎回の実験レポートを提出することを前提とし、実験レポートの内容に基づいて評価する。		
フィードバック	授業に関する質問は口頭またはリアクションペーパー等の方法によって求め、授業内で随時返答する。提出されたレポートに関する解説等も行う。			
履修に際しての注意事項	パソコンを使用して作業するので、データを保存するための媒体(USBメモリーキーなど)を用意することが望ましい。授業は小グループの実習形式で行うため、遅刻はしないこと。レポートは個別に提出することが求められる。この授業は複数の教員が担当している。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II				○			
III							
IV							

V					○		

テキスト1	使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	本科目のシラバスをよく確認し、授業内容を把握する（0.5時間）。
事後	「心理学における実験の重要性」について復習する（0.5時間）。

2	心理学における実験の論理と倫理
事前	「統制群」「インフォームドコンセント」など、実験に関連する用語を調べておく（0.5時間）。
事後	実験計画のパターンについて復習する（0.5時間）。

3	心理学実験において用いる統計分析法
事前	心理学統計の授業において学修した内容を復習しておく（0.5時間）。
事後	実験で得られたデータの分析方法と、報告の方法を復習する（0.5時間）。

4	反応時間を用いた認知処理に関する実験（1）：実験の計画
事前	反応時間が心理学においてどのような目的で測定されているか調べておく（0.5時間）。
事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

5	反応時間を用いた認知処理に関する実験（2）：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。
事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

6	反応時間を用いた認知処理に関する実験（3）：データ処理
事前	得られたデータに対してどのような統計分析を行うか考えておく（0.5時間）。
事後	分析結果をまとめる（0.5時間）。

7	反応時間を用いた認知処理に関する実験（4）：レポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

8	生理指標を用いた感情に関する実験（1）：実験の計画
事前	生理指標が心理学においてどのような目的で測定されているか調べておく（0.5時間）。
事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

9	生理指標を用いた感情に関する実験（2）：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。
事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

10	生理指標を用いた感情に関する実験（3）：データ処理
事前	得られたデータに対してどのような統計分析を行うか考えておく（0.5時間）。
事後	分析結果をまとめる（0.5時間）。

11	生理指標を用いた感情に関する実験（4）：レポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

12	ストループ効果に関する実験（1）：実験の計画
事前	ストループ効果について調べておく（0.5時間）。
事後	本実験の手順と測定方法について復習する（0.5時間）。

13	ストループ効果に関する実験（2）：実験の実施
事前	実験実施の具体的な準備をしておく（0.5時間）。

事後	得られたデータの整理をする（0.5時間）。

14	ストループ効果に関する実験（3）：データ処理
事前	得られたデータに対してどのような統計分析を行うか考えておく（0.5時間）。
事後	分析結果をまとめる（0.5時間）。

15	ストループ効果に関する実験（4）：レポート作成
事前	論文の書き方について復習しておく（0.5時間）。
事後	本実験の結果をまとめ、レポートを執筆する（0.5時間）。

2020/07/16(木)11:01

科 目 名	心理学統計法 [心科][ET(心理福祉)]			授業コード	5050082
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	櫻井 優太				

科目に関する キーワード	データの分析、質的データ、数量的データ、分析結果の報告

到達目標	・心理学で用いられる主要な統計手法について理解し説明出来る ・統計に関する基礎的知識を理解し説明出来る			
授業の概要	記述統計および推測統計について、心理学でよく使用される統計理論と分析手法を取り上げ実際に分析ソフトウェアにより解析もおこないながら学んでいく。また、統計理論とデータ収集の対応や素データの適切な加工法について理解し、実際に統計的分析をおこなうことに付随する留意点についても解説することで適切な統計手法の適用が可能となることを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	学生自らの手で実際にデータを分析し、その結果を論文として報告するための文章表現をする練習を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験（80%）、授業中に実施する小テスト（20%）にて評価する。		
フィードバック	授業に関する質問は口頭またはリアクションペーパー等の方法によって求め、授業内で随時返答する。小テスト等の結果は随時解説する。			
履修に際しての 注意事項	小テストや事後学習課題によって自分の理解度を把握し、不明点については教員への質問や資料を読み込むことを通じて内容を把握するよう努めること。 授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II				○			
III							
IV							

V							

テキスト1	使用しない。適宜、プリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	本科目のシラバスをよく確認し、授業内容を把握する（0.5時間）。 「データ」という言葉がどのような意味合いを持つか考え、社会にあふれるデータは具体的にどのようなものがあるか考えておく（1.5時間）。
事後	本科目15回の内容および進行を十分に振り返る。 「統計学」とは具体的にどのようなものであるか詳しく復習する。（2時間）

2	記述統計１：代表値と散布度
事前	「数値で表せるデータ」と「数値で表せないデータ」について考えておく（2時間）。
事後	「数値で表せるデータ」と「数値で表せないデータ」それぞれを集計する方法について詳しく復習する（2時間）。

3	記述統計２：相関と相関係数
事前	「比例」「反比例」という語を手がかりに、数量的な値の関係性について考えておく（2時間）。
事後	相関係数の求め方について詳しく復習する（2時間）。

4	記述統計３：回帰直線と回帰分析
事前	「運動した量とカロリー消費」のように関連する2つの変数を考え、この関連性の表し方について考えておく（2時間）。
事後	回帰分析の方法について詳しく復習する（2時間）。

5	離散分布：二項分布を中心に
事前	「コインを5回投げる」ことを繰り返したとき、「表が出た回数」はどのような分布になるか考えておく（2時間）。
事後	二項分布の意味を詳しく復習する（2時間）。

6	連続分布：正規分布を中心に
事前	「日本人の身長」をヒストグラムに集計した場合、どのような分布になるか考えておく（2時間）。
事後	正規分布の意味と偏差値の意味、求め方について詳しく復習する（2時間）。

7	推測統計の基礎１：母集団と標本
事前	「大きな集団から標本を収集する」というとき、統計学的にどのようなことが考えられるか調べておく（2時間）。
事後	母集団、標本、サンプリング、母数、標本統計量、それぞれの用語を詳しく復習する（2時間）。

8	推測統計の基礎２：確率と確率分布
事前	「標本分布」という用語について詳しく予習しておく（2時間）。
事後	母集団と標本の関係性について詳しく復習する（2時間）。

9	推測統計１：基本的考え方
事前	統計学における「推定」という語について詳しく予習しておく（2時間）。
事後	「母数」と「推定値」について詳しく復習する（2時間）。

10	推測統計２：代表値と散布度
事前	「t検定」という用語について詳しく予習しておく（2時間）。
事後	t検定の考え方と計算方法を詳しく復習する（2時間）。

11	推測統計３：頻度や比率をめぐって
事前	「カイ2乗検定」という用語について詳しく予習しておく（2時間）。
事後	カイ2乗検定の考え方と計算方法を詳しく復習する（2時間）。

12	より高度な記述や推定を目指す
事前	研究したい対象とデータの扱い方について考えておく（2時間）。
事後	講義で扱った分析法の考え方と計算方法を詳しく復習する（2時間）。

13	統計ソフトを用いた操作1：統計ソフトの基本操作
事前	ここまでに学修した内容について全体的に復習しておく（2時間）。
事後	統計ソフトの扱い方について詳しく復習する（2時間）。

14	統計ソフトを用いた操作2：実際のデータを用いた初歩の分析
事前	与えられたデータに応じてどのような集計、分析方法を選択するのが良いのか考えておく（2時間）。
事後	それぞれの分析を行うための統計ソフトの扱い方について詳しく復習する（2時間）。

15	統計ソフトを用いた操作3：分析結果の視覚化
事前	集計したデータをどのような形で表すと、論文として十分な表現になるか考えておく（2時間）。
事後	本講義全体を詳しく復習する（2時間）。

2020/07/16(木)10:35

科 目 名	精神保健学 [社心]			授業コード	5060020
副 題	精神保健の課題と支援				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	筒井 順子				

科目に関する キーワード	ライフサイクル、エリクソンの心理発達段階、精神疾患
到達目標	本科目は精神保健福祉士受験の指定科目ならびにスクールソーシャルワーク教育課程の指定科目である。本科目は以下の点を到達目標とする。 1. 精神保健福祉士またはスクールソーシャルワーカーにとって必要な精神保健に関する基礎知識を習得し、メンタルヘルスへの実践が出来る。 2. 精神保健の知識を獲得し、事例にあてはめて対応を考えることが出来る。 3. 我が国で起きている様々なメンタルヘルス領域の問題とその施策を理解することが出来る。 4. スクールソーシャルワーカーを目指すものにとっては、多様な精神保健の課題に触れ、幅広い視点で考察することが出来る。 社会福祉士を目指す受講生にとっては、より専門性の高い知識を習得することが出来る。
授業の概要	生きていく上で重要である精神的健康とは何かを学習する。ライフサイクルにおける精神保健上の問題や疾患を理解し、その治療や援助の在り方を総合的に学習する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	5名程度の班に分かれ、テーマに基づいたディスカッションを行ったのち、意見を統合して発表する
評価方法 及び評価基準	レポート	学期末レポート（60%）、授業中の課題（40%）で総合的に評価する。		
フィードバック	小テストは授業内で解説しテスト用紙は返還する			
履修に際しての 注意事項	実際の症例の内容を取り上げるため、受講者は守秘義務厳守のこと。厳守できない方は履修を見合わせること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							

V	○						

テキスト1	中央法規　新・精神保健福祉士養成講座第2巻「精神保健の課題と支援：日本保険福祉士養成校協会編	9784805855959
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを確認し授業に備える。またこれまで履修してきた講義における精神医学領域における知識を整理しておくこと(2時間)
事後	精神保健学を学ぶ目的と意義を考える。これまで履修してきた講義の中で本講義で扱う予定のテーマをすでに学習済みであれば知識を整理しておくこと（2時間）

2	精神保健学とは何か
事前	教科書の該当箇所を精読し精神保健学の領域および精神医学について理解しておくこと（2時間）
事後	精神保健の概念、健康を決める基準、精神が健康であるための条件などについて整理しておくこと（2時間）

3	ライフサイクルにおける精神保健1　胎児期、乳児期
事前	教科書該当箇所を精読し胎児期および乳児期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	胎児期の精神保健に影響を与える要因について理解し説明できるにしておくこと（2時間）

4	ライフサイクルにおける精神保健2　幼児期
事前	教科書該当箇所を精読し幼児期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	反応性愛着障害など幼児期の精神保健上の問題と発達課題の関連について理解し説明できるようにしておくこと（2時間）

5	ライフサイクルにおける精神保健3　学童期
事前	教科書該当箇所を精読し学童期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	学童期の発達課題と関連して小1プロブレムが理解し説明できるようしておくこと。反抗挑戦性障害と行為障害を区別して理解しておくこと（2時間）

6	ライフサイクルにおける精神保健4　思春期
事前	教科書該当箇所を精読し思春期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	思春期の発達課題、第二反抗期について説明できるようにしておくこと（2時間）

7	ライフサイクルにおける精神保健5　青年期
事前	教科書該当箇所を精読し青年期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	アイデンティティの確立と拡散について説明できるようにしておくこと（2時間）

8	ライフサイクルにおける精神保健6　成人期
事前	教科書該当箇所を精読し成人期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	親としての発達課題と子供への虐待との関連について考察しておくこと（2時間）

9	ライフサイクルにおける精神保健7　壮年期
事前	教科書該当箇所を精読し壮年期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	空の巣症候群、中年期危機など主要概念の背景を理解し説明できるようにしておくこと（2時間）

10	ライフサイクルにおける精神保健8　老年期
事前	教科書該当箇所を精読し老年期における精神保健上の課題を理解すること（2時間）
事後	サクセスフル・エイジングにまつわる3つの理論を区別して説明できるようにしておくこと（2時間）

11	認知症に対する対策～若年認知症から高齢者まで～
事前	教科書該当箇所を精読し認知症における精神保健上の問題を整理しておくこと（2時間）
事後	認知症の代表的なサブタイプについて理解を深めておくこと（2時間）

12	精神疾患と精神障害
事前	教科書の該当箇所を熟読し精神疾患に由来する代表的な精神障害について理解しておくこと（2時間）
事後	代表的な精神疾患とその症状について説明できるようにしておくこと（2時間）

13	学校教育における精神保健の課題～不登校やいじめ～

事前	教科書の該当箇所を熟読し学校内の精神保健について理解しておくこと（2時間）
事後	不登校やいじめを理解するための理論的枠組みについて整理して説明できるようにしておくこと（2時間）

14	社会的ひきこもりに対する対策
事前	教科書の該当箇所を熟読しひきこもりの概念と対策を理解しておくこと（2時間）
事後	精神医学上ひきこもり状態がどのように理解されているか説明できるようにしておくこと（2時間）

15	前期のまとめ
事前	これまでの授業で配布された資料と教科書の該当箇所を読み直し、疑問点を整理しておくこと（2時間）
事後	レポート課題に備えて授業内で扱った精神保健上の課題について理解を深めておくこと（2時間）

16	アルコール問題に対する対策
事前	教科書の該当箇所を熟読しアルコール関連問題、アルコール依存症に関する現状と対策をまとめておくこと（2時間）
事後	アルコール依存症の形成メカニズムについて説明できるようにしておくこと（2時間）

17	薬物依存対策
事前	教科書の該当箇所を熟読し薬物乱用、依存と中毒について理解しておくこと（2時間）
事後	代表的な依存性薬物の種類と特徴を把握し有効な予防策や依存症者の支援について考察しておくこと（2時間）

18	事例から学ぶ一薬物依存のケース
事前	前回授業の資料を再読し薬物依存の症状形成メカニズムを確認しておくこと（2時間）
事後	授業内で提示された事例を踏まえながら薬物依存に対する対策の課題について考えてまとめておくこと（2時間）

19	勤労者の抱える精神保健の課題
事前	教科書の該当箇所を熟読し職場内のメンタルヘルスおよび関連法規について整理しておくこと（2時間）
事後	授業内容を踏まえ勤労者のメンタルヘルスを支えるための精神保健福祉士の役割について理解を深めておくこと（2時間）

20	自殺対策
事前	教科書の該当箇所を熟読し自殺対策に関する国の政策の変遷と今後の課題について理解しておくこと（2時間）
事後	自殺対策基本法、自殺総合対策大綱の骨子を理解し説明できるようにしておくこと。ゲートキーパーについて理解を深めておくこと（2時間）

21	事例から学ぶ～思春期の自殺～
事前	教科書の該当箇所を熟年子供の自殺の危険因子よび自殺予防の基本的な考えについて理解しておくこと（2時間）
事後	紹介された事例を踏まえ思春期の精神保健上の課題と自殺の予防や対策について考えをまとめること（2時間）

22	災害時の精神保健対策
事前	教科書の該当箇所を精読し災害時の精神保健について理解しておくこと（2時間）
事後	防災対策基本法の概要が理解できるようにしておくこと。また災害により生じる精神的問題とこころのケアの基本と注意点にについて説明できる要因にしておくこと

23	犯罪被害者の精神保健対策
事前	教科書の該当箇所を精読し犯罪被害者の精神保健対策について理解しておくこと（2時間）
事後	犯罪被害者への支援の原則と注意点、犯罪被害者への迅速な支援法について考えまとめておくこと（2時間）

24	ホームレスおよび貧困問題と精神保健
事前	教科書の該当箇所を精読しホームレスの精神保健上の課題について理解しておくこと（2時間）
事後	ホームレス自立支援などの関する特別措置法の主旨を説明できるようにしておくこと（2時間）

25	性的違和と精神保健
事前	教科書の該当箇所を精読し性的違和と精神保健上の課題について法制度の変遷を含めて理解すること（2時間）
事後	授業中に紹介した事例を踏まえて性的違和の精神保健の課題について考察を深めておくこと（2時間）

26	緩和ケアと精神保健
事前	教科書の該当箇所を熟読しターミナルケアから緩和ケアへの歴史的変遷を理解しておくこと（2時間）
事後	全人的苦痛について説明できるようにしておくこと。また緩和ケアにおけるソーシャルワーカーの役割について整理しておくこと（2時間）

27	精神保健統計

事前	教科書の該当箇所を精読し精神保健における調査の目的と活用について理解しておくこと（2時間）
事後	精神保健におけるニーズを理解し援助必要性を判断するための指標について説明できるようにしておくこと。また層化無作為調査の精神保健領域における適用法についても整理しておくこと（2時間）

28	事例から学ぶ～訪問支援の実際～
事前	配布資料を熟読しコミュニティ心理学や地域支援について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介した事例を踏まえて訪問支援や地域支援の課題について考察しておくこと（2時間）

29	諸外国の精神保健活動の現状と対策
事前	教科書該当箇所を精読し諸外国における精神保健上の課題について理解すること(2時間）
事後	mhGAPなど諸外国の精神保健の現状を理解するための重要な概念や対策について理解すること

30	まとめ～精神保健の課題～
事前	講義全体を振り返り教科書および配布資料を読み返して、疑問点を整理しておくこと（2時間）
事後	講義で学習した内容を整理した後、精神保健上の課題や対策について知識を刷新し続ける自分なりの方法を身に付けてるkと（2時間）

2020/07/16(木)20:49

科 目 名	心理学的支援法 [科]			授業コード	5060042
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	筒井 順子				

科目に関するキーワード	心理療法、地域支援、プライバシー保護、心の健康教育

到達目標	・代表的な心理療法、カウンセリングの歴史、概念、意義及び適応と限界を理解し説明出来る ・訪問支援や地域支援の意義を理解し説明出来る ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法について理解し説明出来る ・心理支援におけるプライバシーへの配慮について理解し説明出来る ・心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について意義、内容と技法を理解し説明出来る ・心の健康教育について意義、内容と技法を理解し説明出来る			
授業の概要	代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義と適用法および限界について学ぶ。また、支援的関わりの基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法についても学ぶ。さらに訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援のあり方、心理支援におけるプライバシーへの配慮についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	5名程度の班に分かれ、テーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションを行う
評価方法及び評価基準	試験	定期試験70%、課題など授業への取組状況30%で総合的に判断する。		
フィードバック	リアクションペーパーに記述された疑問点等については次回の授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」にておこなう。リアクションペーパー記載内容への回答は実施回以降の授業でおこなう。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV							

V		○					

テキスト1	公認心理師標準テキスト　心理学的支援法　杉原保史・福島哲夫・東斉彰（編）2019年 北大路書房	9784762830563
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを確認し授業に備える。また教科書を入手し目次に目を通して全体を把握しておくこと（2時間）
事後	心理学的支援について学ぶ際の目的と意義について、これまでの経験を踏まえてを考え記述しておく（2時間）

2	精神分析療法と力動的心理療法
事前	教科書該当箇所を精読し要点をまとめる。特に理解しにくい単語や概念や心理学用語辞典などであらかじめ調べておくこと（2時間）
事後	授業内で提示された症例の具体的な言動などと合わせて心理力動理論の特徴および主要概念についてまとめておくこと（2時間）

3	芸術療法と表現療法
事前	配布資料を精読し芸術療法、表現療法の特徴について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内での取り組みを振り返り、芸術療法、表現療法の概要、目的および施行時の注意点について理解を深めること（2時間）

4	行動療法
事前	教科書該当箇所を精読し「レスポンデント条件づけ」と「オペラント条件づけ」を区別して理解すること（2時間）
事後	日常生活において習慣化している自分の行動を行動理論で説明し、検証し知識の定着を図ること（2時間）

5	行動分析
事前	配布資料を熟読し、連合理論の2つの条件付けを区別して理解しておくこと（2時間）
事後	オペラント条件づけにおける強化4種類について具体歴を示しながら説明できるようにしておくこと（2時間）

6	パーソンセンタード・アプローチと人間学的アプローチ
事前	配布資料を熟読し自己理論の概要を図示しながら説明できるようにしておくこと（2時間）
事後	カウンセラーの態度の3条件について授業内で見た動画の具体的な場面を思い出しながら、整理して理解しておくこと（2時間）

7	認知療法と認知行動療法
事前	教科書の該当箇所を精読し認知的変数が重視されてきた背景を理解すること。また認知行動モデルの5つの要素を区別して説明できるようにしておくこと（2時間）
事後	認知的再構成法の基本的な考え方を理解し、授業内で紹介された認知の偏りのパターンについて理解を深めておくこと（2時間）

8	集団療法とグループ・カウンセリング
事前	教科書該当箇所を精読し、個人療法との違いおよび集団を対象に心理支援を行う利点を理解しておくこと（2時間）
事後	集団療法の種類をすべて区別して説明できるようにしておくこと。また集団療法に特徴的な治療要因について理解しておくこと（2時間）

9	家族療法
事前	教科書の該当箇所を精読しシステムズ・アプローチの3つの属性について理解しまとめておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された家族療法で用いられる技法について概念を理解しておくこと（2時間）

10	ストレスと心の健康への支援法
事前	配布資料を精読しストレス理論の基本を理解しておくこと。またストレス反応として心身症がどのように発症、維持されるか説明できるようにしておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介されたストレスによるさまざまな不調を予防するための取り組みについて説明できるようにしておくこと（2時間）

11	カウンセリングの多様性
事前	これまで学んだ心理学的支援法の振り返りどのように各支援法の学習を進めていくべきか考えておくこと（2時間）
事後	心理学的支援には多様な学派が存在する理由を説明できるようにしておくこと。また各学派との付き合い方についても自分の考えをまとめておくこと（2時間）

12	コミュニティ・アプローチと訪問支援、地域支援、関係者への支援

事前	教科書の該当箇所を精読しコミュニティ心理学誕生の背景を理解し、地域支援で重視されている考え方について把握しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介されたアウトリーチにの長所と短所についてまとめておくこと。また諸外国における同様の取り組みについても調べておくこと（2時間）

13	技法の選択と効果のエビデンス
事前	教科書該当箇所を精読し技法選択に関する指標を理解する
事後	興味なる心理的支援法の効果研究論文を授業内で紹介されたサイトで検索し要約を読むこと。またメタ分析において重要な統計学上の指標を調べておくこと（2時間）。

14	良好な人間関係を築くコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮
事前	配布資料を精読し心理職における守秘義務と例外事象について理解すること（2時間）
事後	多重関係の禁止の理由とその背景について理解を深めておくこと（2時間）

15	心の健康教育と多様な人々の共生
事前	配布資料を精読し心の健康教育について説明できるようにしておくこと（2時間）
事後	多様性を考慮した心の健康について授業内で紹介された例以外にもニーズがないか調べておくこと（2時間）

2020/07/16(木)21:34

科 目 名	心理学的支援法演習 [科]			授業コード	5060051
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	筒井 順子、新井 彩加				
臨床心理士として病院での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	精神力動論的アプローチ、来談者中心的アプローチ、認知行動論的アプローチ、家族システム論的アプローチ

到達目標	1. 心理支援に関する基本的、全般的な知識を簡潔な言葉で説明できること。 2. 代表的な心理支援法を深く理解し、各技法を比較検討する力をつけること。 3. 特に医療、福祉、教育および産業領域で用いられることが多い心理支援について、最新の情報を収集する習慣を身に付けること。			
授業の概要	「心理学的支援法」の授業を踏まえ、基本的な個別・集団心理面接技法、遊戯や箱庭などを導入した支援法、認知行動論的な課題を導入した支援技法を、シナリオ等を用いた模擬的演習課題としておこなう。支援をおこなう側だけではなく、支援を受ける立場も役割として交代でおこない、要支援者の立場について理解を深めることもねらいとする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	毎回、4,5名の班に分かれて班ごとに事前学習の課題に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後は、受講者同士で質疑応答を行う。
評価方法及び評価基準	試験	試験（60%）、プレゼンテーション（40%）として総合的評価する		
フィードバック	プレゼンテーションに対してはコメントし、必要に応じて具体例などを示しながら解説を行う。 リアクションペーパーに記載された疑問点等は次回の授業内で回答する。			
履修に際しての注意事項	事前学習を指示通り行っている前提で授業が進行する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II				○			
III							
IV							

V							

テキスト1	心理学のポイント・シリーズ　臨床心理学　玉瀬耕治・佐藤容子　学文社　2009年	9784762018879
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション、臨床心理学とは① 臨床心理学、精神医学
事前	教科書1章臨床心理学とは 問題1-4を精読しておくこと（30分以上）
事後	臨床心理学の意義、精神医学との関係について説明できるようにしておくこと（30分以上）

2	臨床心理学とは② カウンセリング、病理、発達と障害、資格と倫理
事前	教科書1章 臨床心理学とは問題5-8を精読しておくこと（30分以上）
事後	臨床心理学における病理の考え方、発達と障害の理解の仕方について具体例を用いながら説明できるようにしておくこと。資格と倫理の問題について多角的に理解すること（30分以上）

3	精神力動論的アプローチ① 自我の発達と機能、防衛機制、対象関係
事前	教科書2章 精神力動論的アプローチの問題9－12を精読しておくこと（30分以上）
事後	自我の発達と機能、防衛機制の種類、対象関係についてわかりやすい言葉でまとめておくこと（30分以上）

4	精神力動論的アプローチ② 転移／逆転移、愛着関係、解釈と洞察
事前	教科書 2章精神力動論的アプローチの問題13－16を精読しておくこと（30分以上）
事後	転移と逆転移および治療抵抗についてそれぞれ説明できるようにしておくこと。また解釈の基本図式、洞察の種類についてまとめておくこと（30分以上）

5	来談者中心的アプローチ① 傾聴技法、セラピストの基本的態度、共感的理解
事前	教科書3章 来談者中心的アプローチの問題17－20を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）。
事後	授業内で提示された具体例と照らし合わせながら傾聴技法について理解を深めておくこと（30分以上）。

6	来談者中心的アプローチ① 自己概念、フォーカシング、エンカウンター
事前	教科書3章 来談者中心的アプローチの問題21－24を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	ロジャースの考えた経験と自己概念のずれについて図示しながら説明できるようにしておくこと。パーソンセンタードの意義についてまとめておくこと（30分以上）

7	認知行動論的アプローチ① 学習理論、系統的脱感作、モデリング
事前	教科書4章 認知行動論的アプローチの問題25-28を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	系統的脱感作の一般的な手続きについて説明できるようにしておくこと。モデリングの理論とモデリングを用いた治療技法について理解を深めておくこと（30分以上）

8	認知行動論的アプローチ② 強化、認知行動モデル、不合理な信念
事前	教科書4章 認知行動論的アプローチの問題29-32を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	論理情動療法と認知療法の共通点について説明できるようにすること。パニック障害などの疾患に認知行動モデルを用いる際の一般的な手続きについて説明できるようにすること（30分以上）

9	家族システム論的アプローチ① 円環的認識論、世代間境界
事前	家族システム論的アプローチの問題33-36を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	家族システム論について重要な概念を踏まえて説明できるように理解を深めること（30分以上）

10	家族システム論的アプローチ② 機能不全家族、IP、リフレーミング
事前	教科書5章 家族システム論的アプローチの問題37-40を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	機能不全家族をいくつかのパターンを家族システム論の概念を用いながら説明できるようにしておくこと（30分以上）

11	臨床心理面接の実践① インテーク面接、治療的変化、危機対応
事前	教科書7章 臨床心理面接の実践の問題49－51を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	面接過程における治療変化の一般的なプロセスに対する理解を深めておくこと。また危機対応の一般的な流れを説明できるようにしておくこと（30分以上）

12	臨床心理面接の実践② 遊戯療法、動作法、森田療法

事前	教科書7章　臨床心理面接の実践の問題52-54を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	授業内で紹介された各技法の概要を説明できるようにしておくこと。また適用の際の留意点に対する理解を深めておくこと（30分以上）

13	事例研究による概念化①　事例研究、不登校、病気と障害
事前	教科書8章　事例研究による概念化の問題57-60を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	事例研究の基本的なデザインについて説明できるようにしておくこと。不登校や病気など要支援者が心理的援助を必要な場合の問題の概念化について理解を深めておくこと（30分以上）

14	事例研究による概念化②　コンサルテーション、ケースカンファレンス、ケースレポート
事前	教科書8章　事例研究による概念化の問題61-64を精読しプレゼンテーションできるようにまとめておくこと（30分以上）
事後	コンサルテーションの特徴について整理しておくこと。ケースレポートの構成要素について説明できるようにしおくこと。またケースレポートをケースカンファレンスで発表する意義について理解を深めること（30分以上）

15	授業全体の振り返りとまとめ
事前	授業全体で得られた知識をノートに記載した要点を振り返りながら整理し疑問点を書き出しておくこと（30分以上）
事後	興味のある技法や領域について研究論文を読み絶えず知識を刷新しておくこと（30分以上）

2020/07/16(木)20:57

科 目 名	精神保健 [介]			授業コード	5060081
副 題	認知症の理解				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	筒井 順子				

科目に関する キーワード	認知症、中核症状、周辺症状、スクリーニング検査

到達目標	中核的な役割を担う介護専門職として，自律的に介護を展開するための根拠となる，認知症の基礎的な医学知識を習得する。 医療職と連携を行う上で必要となる認知症に関する専門用語を習得する。 認知症の人を中心に据えた適切なケアを行うために必要な，本人の主観的な体験および心理特性を理解し、説明できる。 認知症の人およびその家族への支援に医学的知識を活用できる。			
授業の概要	1．精神保健および精神医学の概念を理解する。 2．認知症の定義や疫学，取り巻く状況を学習する。 3．認知症の症状を理解する。 4．認知機能，日常生活能力および行動障害・精神症状に関するアセスメントを学習する。 5．認知症の原因となる主な疾患について学習する。 6．認知症の治療や予防について学習する。 7．認知症のある人の心理行動特性を理解する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	アセスメント法（演習）においては、ロールプレイ形式で検査者および被検者の体験をする。
評価方法 及び評価基準	レポート	学期末レポート（60%）、授業中の小テスト（40%）として評価する。		
フィードバック	授業内で行う小テストは次の授業内で解説する。			
履修に際しての 注意事項	特になし			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV							

V					○		

テキスト1	介護福祉士養成テキストブック11　認知症の理解第2版　ミネルヴァ書房	978-4-623-06527-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	精神保健と精神医学の概念
事前	シラバスを確認し授業に備える。またこれまで履修してきた授業の中で学んできた認知症に関する知識をまとめておくこと（2時間）
事後	精神保健と精神医学の概念について理解を深めておくこと（2時間）

2	脳および神経の生理・解剖
事前	配布資料を熟読し脳および神経の生理・解剖を理解する（2時間）
事後	脳および神経の生理・解剖について理解すること（2時間）

3	認知症とは
事前	配布資料を熟読し認知症の定義について調べておくこと（2時間）
事後	認知症を理解し、中核症状および周辺症状について説明できるようにすること（2時間）

4	認知症を取り巻く状況の理解
事前	配布資料を熟読し認知症を取り巻く状況の理解について把握すること（2時間）
事後	認知症を取り巻く状況の理解の具体例を調べておくこと（2時間）

5	認知症の症状
事前	教科書を精読し代表的な認知症の症状について理解を深めておくこと（2時間）
事後	認知症の症状の特徴が区別して説明できるようしておくこと（2時間）

6	認知症のアセスメント方法①（理論）
事前	教科書の該当箇所を読み、認知機能検査の種類とそれぞれの概要を把握しておくこと（2時間）
事後	スクリーニングの概念と目的を理解しておく。また長谷川式簡易知能検査の項目を通読して演習の準備をしておくこと（2時間）

7	認知症のアセスメント方法②（演習）
事前	教科書の該当箇所を精読し認知症のアセスメントの用いられる方法を整理しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介されたアセスメント方法それぞれの長所、短所をまとめておくこと（2時間）

8	認知症の診断と間違われやすい症状
事前	教科書の該当箇所を精読し認知症の診断と間違われやすい症状について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された認知症の診断と間違われやすい症状について理解を深めておくこと（2時間）

9	アルツハイマー型認知症
事前	アルツハイマー型認知症について発症の原因と症状について概要を理解しておくこと（2時間）
事後	アルツハイマー型認知症の進行段階による特徴を具体的な症例を念頭に置き理解を深めておくこと（2時間）

10	血管性認知症
事前	教科書該当箇所を精読し血管性認知症の原因とリスクファクターについて把握すること（2時間）
事後	血管性認知症の進行の特徴について他の認知症と区別してして理解すること（2時間）

11	レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症
事前	教科書該当箇所を精読しレビー小体型認知症および前頭側頭型認知症の発症の原因と症状の特徴を理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で説明された各疾患の特徴と鑑別診断のポイントとなる症状をまとめて理解しておくこと（2時間）

12	その他の認知症性疾患、軽度認知障害
事前	クロイツフェルト・ヤコブ病、慢性硬膜下血種、正常圧水頭症の症状の特徴を把握しておくこと（2時間）
事後	クロイツフェルト・ヤコブ病、慢性硬膜下血種、正常圧水頭症含め授業内で紹介した認知症について、介護上確認しやすい症状や注意点について調べておくこと（2時間）

13	認知症の治療と予防

事前	教科書の該当箇所を熟読し認知症のサブタイプごとの治療法を理解しておくこと（2時間）
事後	認知症における治療のターゲットを理解し、非薬物療法の役割について調べて理解を深めること（2時間）

14	認知症の心理行動特性
事前	教科書の該当箇所を熟読し認知症の心理行動特性について理解しておくこと（2時間）
事後	認知症の心理行動特性について具体例を念頭に置きながら理解を深めておくこと（2時間）

15	まとめ
事前	これまで授業で配布された資料を読み返し、問題を再度解き、理解が不十分な個所を確認しておく（2時間）
事後	授業全体を振り返り、レポート課題に必要な情報を整理し授業内で紹介された書籍やサイトなどでさらに情報を収集しておくこと（2時間）

2020/07/16(木)21:23

科 目 名	心理検査法実習 [心]			授業コード	5060091
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	筒井 順子				

科目に関する キーワード	心理検査、検査施行時の倫理的問題

到達目標	1. 各心理検査の解釈および心理アセスメント全体の中で心理検査の位置づけについて説明することができる。 2. 各心理検査（知能検査、発達検査、人格検査）の目的について説明することができる。 3. 各心理検査の実施法について説明することができる。 4. 検査を実施する際の留意点、倫理的問題、テストバッテリーを組む際の留意点について説明することができる。			
授業の概要	本授業では、福祉や教育の現場でよく用いられている発達検査、知能検査、人格検査について理解し、各心理検査の目的、解釈に必要な統計学的知識について学ぶ。 心理検査はあくまでも人間理解の補助的な役割を担っているにすぎず、人間のあらゆる面をすべて理解するものではない。心理検査の限界を正しく認識し心理アセスメント全体の中の検査の位置づけについて理解する。 また、検査者、被験者の体験を通じて、心理検査を実施する際の倫理的問題についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	原則二人一組で検査を施行し、検査者・被検者体験を通じて学習する
評価方法 及び評価基準	レポート	検査レポート（60%）、授業中小テスト（40%）として総合的に判定する。		
フィードバック	授業中に行う小テストの解説は次の授業内で行う			
履修に際しての 注意事項	統計学の基礎知識を有している前提で授業は進行する。 私語などの不適切な行為、授業課題に取り組まないものには単位を与えない場合がある。 各回の授業は連続して行うため欠席しないこと。期日を過ぎたレポート提出は採点の対象外とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II				○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを確認し授業に備える(2時間)
事後	心理検査法を学ぶ目的と意義を考察する。またアセスメントの定義、信頼性と妥当性について理解しておくこと(2時間)

2	発達検査①：検査の解説・検査の実施
事前	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査に関する配布資料を精読し概要を要約すること(2時間)
事後	紹介された検査の作成経緯を含む概要および施行時の留意点等について理解を深め授業内で用いた記録用紙を見返し疑問点を書き出しておく(2時間)

3	発達検査②：採点法、解釈
事前	配布された資料を読み課題に取り組み、乳幼児の運動、社会性の発達段階について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で紹介された発達検査の採点および解釈における注意点をまとめて記述しておくこと(2時間)

4	言語発達に関する検査①：検査の解説・検査の実施
事前	配布資料を熟読し絵画語い発達検査の概要、実施法、検査項目などについて理解しておくこと(2時間)
事後	検査の手続きに対する理解を深め検査施行時の倫理的問題について考察すること(2時間)

5	言語発達に関する検査②：検査の採点・解釈
事前	配布資料を熟読し検査の採点、解釈について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

6	社会生活能力に関する検査①：検査の解説・検査の実施
事前	配布資料を熟読しSM社会生活能力検査の概要、実施法と検査項目について理解しておくこと(2時間)
事後	検査の手続きに対する理解を深め検査施行時の倫理的問題について考察すること(2時間)

7	社会生活能力に関する検査②：採点法・解釈
事前	配布資料を熟読し検査の採点、解釈について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

8	描画による発達検査
事前	配布資料を熟読しグッドイナフ人物知能検査の概要、実施法について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

9	知能検査①：検査の解説
事前	配布資料を熟読しWISC-IVの特徴、用語、検査項目などについて理解しておくこと(2時間)
事後	Wechslerによる知能検査の開発に至るまでの知能の評価に関する心理学上の歴史について理解を深めておくこと(2時間)

10	知能検査②：検査の実施（言語理解・知覚推理）
事前	配布資料を熟読し言語理解、知覚推理の構成概念、合算得点の算出法、解釈に必要な統計学的知識を整理しておくこと(2時間)
事後	授業内で実施した下位尺度の施行時のポイントと注意点および評価点の算出法について理解を深めておくこと(2時間)

11	知能検査③：検査の実施（ワーキングメモリー、処理速度）
事前	配布資料を熟読しワーキングメモリ、処理速度の構成概念、合算得点の算出法、解釈に必要な統計学的知識を整理しておくこと(2時間)
事後	授業内で実施した下位尺度の施行時のポイントと注意点および評価点の算出法について理解を深めておくこと(2時間)

12	知能検査④：採点法
事前	配布資料を熟読しWISC-Vの採点法について理解しておくこと(2時間)

事後	授業内の解説に基づき採点におけるポイントと注意点について理解を深めておくこと（2時間）

13	知能検査⑤：解釈
事前	配布資料を熟読し、WISC-IV解釈において必要な用語や概念について理解しておく（2時間）
事後	授業内で説明したパーセンタイル順位、信頼区間、有意差について説明できるようにしておくこと（2時間）

14	親子関係に関する検査
事前	配布資料を熟読し動的家族描画法の歴史と特徴、概要と実施法について理解しておくこと（2時間）
事後	授業後に配布された論文を読み授業内で実習した内容と照らし合わせ、動的家族描画法についての理解を深めておくこと（2時間）

15	人格に関する検査
事前	配布資料を熟読し人格検査の種類とそれぞれの特徴について理解しておくこと（2時間）
事後	授業後に配布された論文を読み授業内で実施した人格検査に対する理解を深めておくこと（2時間）

2020/07/16(木)10:49

科 目 名	心理検査法実習 [子]			授業コード	5060101
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	筒井 順子				

科目に関する キーワード	心理検査、検査施行時の倫理的問題

到達目標	1. 各心理検査の解釈および心理アセスメント全体の中で心理検査の位置づけについて説明することができる。 2. 各心理検査（知能検査、発達検査、人格検査）の目的について説明することができる。 3. 各心理検査の実施法について説明することができる。 4. 検査を実施する際の留意点、倫理的問題、テストバッテリーを組む際の留意点について説明することができる。			
授業の概要	本授業では、福祉や教育の現場でよく用いられている発達検査、知能検査、人格検査について理解し、各心理検査の目的、解釈に必要な統計学的知識について学ぶ。 心理検査はあくまでも人間理解の補助的な役割を担っているにすぎず、人間のあらゆる面をすべて理解するものではない。心理検査の限界を正しく認識し心理アセスメント全体の中の検査の位置づけについて理解する。 また、検査者、被験者の体験を通じて、心理検査を実施する際の倫理的問題についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	原則二人一組で検査を施行し、検査者・被検者体験を通じて学習する
評価方法 及び評価基準	レポート	検査レポート（60%）、授業中小テスト（40%）として総合的に判定する。		
フィードバック	授業中に行う小テストの解説は次の授業内で行う			
履修に際しての 注意事項	統計学の基礎知識を有している前提で授業は進行する。 私語などの不適切な行為、授業課題に取り組まないものには単位を与えない場合がある。 各回の授業は連続して行うため欠席しないこと。期日を過ぎたレポート提出は採点の対象外とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○	○	
II				○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを確認し授業に備える(2時間)
事後	心理検査法を学ぶ目的と意義を考察する。またアセスメントの定義、信頼性と妥当性について理解しておくこと(2時間)

2	発達検査①：検査の解説・検査の実施
事前	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査に関する配布資料を精読し概要を要約すること(2時間)
事後	紹介された検査の作成経緯を含む概要および施行時の留意点等について理解を深め授業内で用いた記録用紙を見返し疑問点を書き出しておく(2時間)

3	発達検査②：採点法、解釈
事前	配布された資料を読み課題に取り組み、乳幼児の運動、社会性の発達段階について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で紹介された発達検査の採点および解釈における注意点をまとめて記述しておくこと(2時間)

4	言語発達に関する検査①：検査の解説・検査の実施
事前	配布資料を熟読し絵画語い発達検査の概要、実施法、検査項目などについて理解しておくこと(2時間)
事後	検査の手続きに対する理解を深め検査施行時の倫理的問題について考察すること(2時間)

5	言語発達に関する検査②：検査の採点・解釈
事前	配布資料を熟読し検査の採点、解釈について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

6	社会生活能力に関する検査①：検査の解説・検査の実施
事前	配布資料を熟読しSM社会生活能力検査の概要、実施法と検査項目について理解しておくこと(2時間)
事後	検査の手続きに対する理解を深め検査施行時の倫理的問題について考察すること(2時間)

7	社会生活能力に関する検査②：採点法・解釈
事前	配布資料を熟読し検査の採点、解釈について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

8	描画による発達検査
事前	配布資料を熟読しグッドイナフ人物知能検査の概要、実施法について理解しておくこと(2時間)
事後	授業内で配布された論文を熟読し授業内で紹介された検査の利用法と限界点について理解を深めること(2時間)

9	知能検査①：検査の解説
事前	配布資料を熟読しWISC-IVの特徴、用語、検査項目などについて理解しておくこと(2時間)
事後	Wechslerによる知能検査の開発に至るまでの知能の評価に関する心理学上の歴史について理解を深めておくこと(2時間)

10	知能検査②：検査の実施（言語理解・知覚推理）
事前	配布資料を熟読し言語理解、知覚推理の構成概念、合算得点の算出法、解釈に必要な統計学的知識を整理しておくこと(2時間)
事後	授業内で実施した下位尺度の施行時のポイントと注意点および評価点の算出法について理解を深めておくこと(2時間)

11	知能検査③：検査の実施（ワーキングメモリー、処理速度）
事前	配布資料を熟読しワーキングメモリ、処理速度の構成概念、合算得点の算出法、解釈に必要な統計学的知識を整理しておくこと(2時間)
事後	授業内で実施した下位尺度の施行時のポイントと注意点および評価点の算出法について理解を深めておくこと(2時間)

12	知能検査④：採点法
事前	配布資料を熟読しWISC-Vの採点法について理解しておくこと(2時間)

事後	授業内の解説に基づき採点におけるポイントと注意点について理解を深めておくこと（2時間）

13	知能検査⑤：解釈
事前	配布資料を熟読し、WISC-IV解釈において必要な用語や概念について理解しておく（2時間）
事後	授業内で説明したパーセンタイル順位、信頼区間、有意差について説明できるようにしておくこと（2時間）

14	親子関係に関する検査
事前	配布資料を熟読し動的家族描画法の歴史と特徴、概要と実施法について理解しておくこと（2時間）
事後	授業後に配布された論文を読み授業内で実習した内容と照らし合わせ、動的家族描画法についての理解を深めておくこと（2時間）

15	人格に関する検査
事前	配布資料を熟読し人格検査の種類とそれぞれの特徴について理解しておくこと（2時間）
事後	授業後に配布された論文を読み授業内で実施した人格検査に対する理解を深めておくこと（2時間）

2020/07/16(木)21:11

科 目 名	精神疾患と心理療法 [科]			授業コード	5060112
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	筒井 順子				
臨床心理士として精神科病院で心理療法の実務経験を有する教員が授業を担当する					

科目に関するキーワード	精神科医療、心理師の役割、心理療法
到達目標	1.代表的な精神疾患に対する心理療法の基礎的な知識と技法を理解し説明できる。 2.専門的な心理支援に必要な基本理念を各精神疾患の特徴に適用させながら理解することができる。 3.精神科医療において用いられることが多い心理支援のポイントと注意点について理解し説明できる。
授業の概要	いわゆる本格的な心理療法は、精神科領域で治療技法として使われることがポピュラーであろう。臨床心理学が広まることで厳密な心理療法とその治療効果として症状改善の対応関係が分かりにくくなったところもある。この講義では公認心理師養成を鑑み、高度の心理支援技術の理解として精神疾患の治療に適応となる心理療法について学び、心理支援に関する知識の精緻化をおこなう。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 4，5名程度の班に分かれディスカッションを行う。
評価方法及び評価基準	試験 / 期末試験（70%）、授業内での課題への取り組み（30%）として総合的判定する。
フィードバック	リアクションペーパーに記載された疑問等は次の授業内で回答する。
履修に際しての注意事項	1年次に「精神疾患とのその治療」を履修済みであること。事例を用いて解説を行うため守秘義務を遵守できない者は履修しないこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV							○

V				○			

テキスト1	公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　下山晴彦・中嶋義文（編）2016年、医学書院	9784260027991
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバスを事前に確認し授業に備える。またこれまでの履修した講義で学んだことを整理しておくこと（2時間）
事後	精神疾患に対する心理学的支援を学ぶ目的と意義について考えておくこと。これまで履修した講義の中で本講義で扱われる疾患については理解を深めておくこと（2時間）

2	心理師の役割とスキル① 生物ー心理—社会モデル、機能分析
事前	教科書の該当箇所を熟読し生物ー心理—社会モデルおよび機能分析について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された症例について別の角度から機能分析を行い理解を深めておくこと（2時間）

3	心理師に求められるスキル② ケースフォーミュレーション、エビデンスベースド・アプローチ
事前	教科書の該当箇所を熟読しケースフォーミュレーションの定義、作成手続きおよび活用について理解しておくこと。また効果研究、メタ分析を実施、利用する際の留意点について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された症例について授業内で示されたケース・フォーミュレーションを自分なりに把握しながら図示して理解を深めること（2時間）

4	心理アセスメント技法
事前	教科書の該当箇所を熟読し、初回面接、行動観察について理解しておくこと。各検査については簡単に特徴を整理しておくこと（2時間）
事後	各種検査の特徴について整理し、テストバッテリーを組む際の留意点を理解しておくこと。またアセスメント結果の解釈と結果のフィードバックにおける基本事項を説明できるようにしておくこと（2時間）

5	抑うつ障害と心理療法① 心理学的メカニズムと代表的心理学的支援
事前	教科書の該当箇所を熟読しうつ病の心理学的メカニズムと代表的な心理学的支援法、掲載されているプロトコルの実際について理解しておくこと（2時間）
事後	セルフ・モニタリング、行動活性化、認知再構成法等について具体例と照らし合わせて理解を深めること。further readingの文献を参考に他の書籍等でさらに学習を続けること（2時間）

6	抑うつ障害と心理療法② 対人関係論等
事前	配布資料を熟読し対人関係論等うつ病に対する有効性が示されている心理学的支援について理解しまとめておくこと（2時間）
事後	対人関係論における主要概念を整理し説明できるようにしておくこと。授業内で紹介された他の心理学的支援法についても参考文献を読み理解を深めておくこと（2時間）。

7	不安関連障害と心理療法① パニック症、社交不安症、全般不安症
事前	教科書の該当箇所を熟読するとともに、パニック症、社交不安症、全般不安症について既存の知識を確認し整理しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された各不安関連障害の心理学的メカニズムと治療法の相違点について整理して理解し説明できるようにしておくこと（2時間）

8	不安関連障害と心理療法② 強迫症、心的外傷後ストレス障害
事前	教科書の該当箇所を熟読するとともに自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症、局限性学習症についてそれぞれ既存の知識を確認しまとめておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された各不安関連障害の心理学的メカニズムと治療法の相違点について整理して理解し説明できるようにしておくこと（2時間）

9	発達障害と心理療法
事前	教科書の該当箇所を熟読するとともに自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症、局限性学習症についてそれぞれ既存の知識を確認しまとめておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された各発達障害の心特徴と心理学的支援法の相違点について整理して理解し説明できるようにしておくこと（2時間）

10	心身症と心理療法① 神経性やせ症、神経性過食症
事前	教科書の該当箇所を熟読し神経性やせ症および神経性過食症それぞれに対する心理的介入の特徴と相違点について整理しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された神経性やせ症および過食症の心理学的メカニズムを理解し治療法についても理解を深めておくこと（2時間）

11	心身症と心理療法② 不眠障害、過敏性腸症候群
事前	教科書の該当箇所を熟読し不眠症および過敏性腸症候群の疾患の特徴を調べておくことまたそれぞれに対する心理的介入のポイントについて整理しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された不眠症および過敏性腸症候群の心理学的メカニズムを理解し治療法についても理解を深めておくこと（2時間）

12	パーソナリティ障害と心理療法
事前	配布資料を熟読しパーソナリティ障害の特徴と心理療法を行う際のポイントと注意点をまとめておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介されたパーソナリティ障害の特徴について理解を深め心理学的支援におけるポイントと注意点を整理し説明できるようにしておくこと（2時間）

13	物質関連障害および嗜癖性障害に対する心理療法
事前	教科書の該当箇所を熟読しアルコール関連障害、薬物関連障害、ギャンブル障害のそれぞれの特徴と心理的介入におけるポイントと留意点をまとめておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された物質関連障害および嗜癖性障害の特徴を理解し心理学的支援法ついても理解を深めておくこと（2時間）

14	触法精神医療における心理的アプローチ
事前	教科書の該当箇所を熟読し触法行為に伴った精神疾患について理解しておくこと。また性犯罪者の再犯防止の現状と課題について理解しておくこと（2時間）
事後	授業内で紹介された触法行為に伴った精神疾患の特徴を理解し心理的支援におけるポイントと注意点を整理し説明できるようにしておくこと（2時間）

15	まとめ～これからの心理師の必要な知識と技術～
事前	配布資料を熟読しこれまで学んだことを振り返り整理しておくこと。また試験に備え疑問点などは書き出しておくこと（2時間）
事後	精神疾患に対する心理学的支援の効用と限界について自分の考えを整理して記述しておくこと（2時間）

2020/07/16(木)22:09

科 目 名	生涯学習概論I [科]			授業コード	5070021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	生涯学習社会、地域づくりと学習活動、学び直し

到達目標	・生涯学習の概念について正しく理解し説明できる。 ・生涯学習概念の社会的役割について理解し、説明できる。 ・生涯学習の現代的課題について理解し、説明できる。			
授業の概要	生涯学習社会の構築を目指した取り組みは、こんにち様々おこなわれている。この講義では生涯学習の理論と歴史的展開、生涯学習や社会教育に関する法律と制度、政策や組織、機関、施設について解説し生涯学習の全体像を理解する。また、これを踏まえて生涯学習や社会教育をおこなう施設や専門職員が果たす役割と課題について考察する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・提示されたテーマをもとにグループ討議を行う。 ・自分の意見をまとめ、自らのことばで述べ、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題等への取り組み（20 %）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートによる質問等、その解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合、退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							
IV							○

V	○						

テキスト1	『生涯学習のグローバルな展開：ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成』、長岡智寿子・近藤牧子編、東洋館出版社、2020年	9784491039398
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要、到達目標、進め方について
事前	授業開始までに指定されたテキストに目を通してくること。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、再度、確認し理解を深めておくこと。（2時間半）

2	生涯学習とは何か？：概念とその歴史的経緯
事前	生涯学習について、自分なりに調べておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、再度、確認し理解を深めておくこと。（2時間半）

3	生涯学習社会におけるおとなの学びとは？
事前	「おとな」とは、どのような存在なのか、調べておくこと。(1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、再度、確認し理解を深めておくこと。（2時間半）

4	高齢者の学習活動とその在り方について
事前	高齢者の学習活動に伴う具体的なイメージやその課題について確認しておくこと。（1時間半）
事後	高齢社会における具体的課題について説明できるようにしておくこと。（2時間半）

5	地域社会における学習活動とその展開について
事前	自らが暮らす地域社会の現状について、調べておくこと。（1時間半）
事後	地域社会の課題や問題点を具体的に問題提起できるように整理しておくこと。（2時間半）

6	社会教育施設について①：公民館
事前	身近な社会教育施設を調べておくこと。（1時間半）
事後	公民館の社会的意義について、説明できるようにまとめておくこと。（2時間半）

7	社会教育施設について② 博物館、美術館
事前	博物館、美術館では、どのような展示、イベントが行われているのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	博物館、美術館の社会的意義について、説明できるようにまとめておくこと。（2時間半）

8	多文化共生社会と生涯学習について① その関連性と意義
事前	「多文化共生」とはどのような意味なのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、再度、確認し理解を深めておくこと。（2時間半）

9	多文化共生社会と生涯学習について② 課題と展望
事前	前回の授業を踏まえ、不明な点や疑問点など整理し、発表できるようにまとめておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、再度、確認し理解を深めておくこと。（2時間半）

10	中間総括
事前	これまでの授業において、不明な点や疑問点など整理し、まとめておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や課題について、確認し、理解を深めておくこと。（2時間半）

11	現代社会における学習活動：ESDと学習活動
事前	ESDとはどのような概念なのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	ESDの課題として、実践可能な項目を調べ、整理しておくこと。（2時間半）

12	現代社会における学習活動：メディアと生涯学習
事前	メディアを活用した学習活動のあり方について、調べておくこと。（1時間半）

事後	メディア活用の学習課題の論点について、整理しておくこと。(2時間半)

13	現代社会における学習活動:地域づくりと生涯学習
事前	地域づくりとはどのようなことを意味するのか、調べておくこと。(1時間半)
事後	地域社会における学習活動の意義について、説明できるようにまとめておくこと。(2時間半)

14	「学び直し」を尊重する生涯学習社会の創造を目指して
事前	「学び直し」とはどのようなことなのか、具体的に調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で説明した用語や課題について、確認し、理解を深めておくこと。(2時間半)

15	まとめ:本授業をふりかえる
事前	授業全体を振り返り、疑問点や質問項目など、整理しておくこと。(1時間半)
事後	授業全体を振り返り、生涯学習社会における課題について整理しておくこと。(2時間半)

2020/07/16(木)22:09

科 目 名	生涯学習概論II [科]			授業コード	5070032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	生涯学習と国際社会、多様な教育活動、生涯学習の社会的役割

到達目標	・生涯学習の概念について国際的な動向を理解する。 ・生涯学習概念の社会的役割について理解し、説明できる。 ・生涯学習の現代的課題について理解し、説明できる。			
授業の概要	生涯学習論概論Ⅰを踏まえ、この講義では国外の生涯学習や社会教育に関する制度と取り組み、UNESCOなどにおける国際会議での議論や提言などを取り上げ国際的な視点から生涯学習の課題と展望を考察する。また、日本国内も含めた地域的特色のある取り組みにも触れ、多様な生涯教育のあり方について理解を深める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・提示されたテーマをもとにグループ討議を行う。 ・自分の意見をまとめ、自らのことばで述べ、プレゼンテーションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題等への取り組み（20%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートによる質問等、その解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合、退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II				○			
III							
IV							

V	○						

テキスト1	『生涯学習のグローバルな展開：ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成』、長岡智寿子・近藤牧子編、東洋館出版社、2020年。	9784491039398
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要と進め方について
事前	生涯学習概論Ⅰで取り組んだ課題をテキスト等をもとに総確認しておくこと。（1時間半）
事後	授業において説明された論点を整理しておくこと。（2時間半）

2	生涯学習の国際的動向①：Unescoの成立とその歴史的展開
事前	Unescoはどのような組織なのか、事前に調べておくこと。（1時間半）
事後	Unescoの成立過程、現代における役割等について、説明できるようにしておくこと。（2時間半）

3	生涯学習の国際的動向②：EFA(Education for All)運動の展開
事前	EFAの概念について、テキストの該当箇所に目を通しておくこと。（1時間半）
事後	EFA運動とはどのようなことなのか、自分のことばで説明できるように整理しておくこと。（2時間半）

4	生涯学習の国際的動向③：国際成人教育会議とその展開
事前	国際成人教育会議について、テキスト等をもとに調べておくこと。（1時間半）
事後	国際成人教育会議の今日的な課題、役割とは何か、整理しておくこと。（2時間半）

5	生涯学習の国際的動向④：SDGSとは何か？
事前	SDGsとは何か、テキスト等を使用し、事前に調べておくこと。（1時間半）
事後	SDGsの今日における課題について、実践可能な事柄を整理しておくこと。（2時間半）

6	世界の生涯学習①：欧州における事例
事前	欧州における生涯学習の事例について、調べておくこと。（1時間半）
事後	欧州の生涯学習の特徴や課題、問題点について整理しておくこと。（2時間半）

7	世界の生涯学習②：アフリカ地域の事例
事前	アフリカ地域の生涯学習の課題について、調べておくこと。（1時間半）
事後	アフリカ社会を取り巻く課題や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

8	世界の生涯学習③：東南アジア地域の事例
事前	東南アジア地域の生涯学習の課題について、調べておくこと。（1時間半）
事後	東南アジア地域を取り巻く課題や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

9	世界の生涯学習④：南アジア地域の事例
事前	南アジア地域の生涯学習の課題について調べておくこと。（1時間半）
事後	南アジア地域を取り巻く課題や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

10	世界の生涯学習⑤：その他の地域の事例
事前	世界の生涯学習について、興味を持った地域の事例を調べてくること。（1時間半）
事後	世界の生涯学習の概況について、日本社会との違いを説明できるように整理しておくこと。（2時間半）

11	日本社会の生涯学習について①：現代的課題の把握
事前	日本社会における生涯学習活動について、具体的に調べてくること。（1時間半）
事後	授業内で説明した用語や地域行政の仕組みについて、整理しておくこと。（2時間半）

12	日本社会の生涯学習について②：基礎教育支援活動の事例
事前	日本社会における基礎教育支援活動について、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業において説明された論点を整理しておくこと。（2時間半）

13	日本社会の生涯学習について③：外国につながる子どもの教育支援

事前	外国につながる子どもたちの置かれた状況について、調べておくこと。(1時間半)
事後	どのような支援活動が望ましいのか、授業における議論を踏まえ、課題を整理しておくこと。(2時間半)

14	グローバリゼーションの下での生涯学習の課題
事前	国際社会が求める生涯学習の課題とは何か？　テキストを中心に確認しておくこと。(1時間半)
事後	グローバリゼーションの下での生涯学習の課題について、自分のことばで説明できるようにしておくこと。(2時間半)

15	まとめ:本講義をふりかえって
事前	これまでの授業を振り返り、疑問や不明な点を整理しておくこと。(1時間半)
事後	授業全体を振り返り、論点を整理し、学年末の課題に備えること。(2時間半)

2020/07/16(木)21:52

科 目 名	現代社会と人権 [科]			授業コード	5070041
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	多様性、共生、人権

到達目標	・人権の概念について理解する。 ・現代社会における多様性とは何かについて、説明できること。 ・様々な立場の人とどのように共生していくことが望ましいのか、多文化共生社会における課題に応えるための知識を養うこと。			
授業の概要	交通網の発達やネット環境の普及などによりグローバル化した現代社会は、人々の多様性、多元性尊重を前提とした上で、こうした人々の社会的包摂における様々な軋轢を積極的に解決していかなければならない。この授業では、いわゆるヘイトスピーチの問題など、現代社会において表れた新たな人権問題に関わる話題を取り上げ、多様性、多元性を踏まえて人権を相互に尊重出来る共生社会実現のための方策について考察していく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループディスカッションにより、議論を深め、課題について発表を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題等への取り組み（20%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートによる質問等、その解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合、退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	指定テキストは無し。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要、進め方について説明する。
事前	人権という概念について、予め調べてくること。（1時間半）
事後	授業で提示された項目を確認、整理しておくこと。（2時間半）

2	人権とは何か？：その歴史的経緯を踏まえて
事前	「人権」という概念がどのような国や社会で形成されてきたのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明された事例や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

3	人権をめぐる課題①：様々な国、社会の事例から　日本社会の事例
事前	日本社会における人権をめぐる問題について調べておくこと。（1時間半）
事後	授業で提示された項目を確認、整理しておくこと。（2時間半）

4	人権をめぐる課題②：様々な国、社会の事例から　アジア諸国の事例
事前	アジア諸国における人権をめぐる課題について調べておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明された事例や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

5	人権をめぐる課題③：様々な国、社会の事例から　欧州社会の事例
事前	欧州社会における人権をめぐる課題について調べておくこと。（1時間半）
事後	授業内で説明された事例や問題点について、整理しておくこと。（2時間半）

6	多様性を問う①：グループ討議　テーマ設定
事前	これまでの授業を踏まえ、世界各国における人権をめぐる課題について整理しておくこと。（1時間半）
事後	授業において興味、関心をもった課題を選定し、発表に向けて準備を始めること。（2時間半）

7	多様性を問う②：グループ討議　プレゼンテーションの準備
事前	どのような形式で発表することが望ましいのか、テーマに基づく内容、構成を考えてくること。（1時間半）
事後	授業において興味、関心をもった課題を選定し、発表に向けて準備を始めること。（2時間半）

8	多様性を問う③：グループ討議　プレゼンテーション
事前	プレゼンテーションに向けて、より詳細に準備を行うこと。（1時間半）
事後	実際に発表を行ったことを踏まえ、反省点や課題について、整理しておくこと。（2時間半）

9	人権について考える　①：子どもの人権について
事前	「子ども」の人権をめぐり、今、どのような事が問題となっているのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業において説明された論点を整理しておくこと。（2時間半）

10	人権について考える　②：高齢者の人権について
事前	「高齢者」の人権をめぐり、今、どのような事が問題となっているのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業で提示された項目を確認、整理しておくこと。（2時間半）

11	人権について考える　③：障害を抱える人々について
事前	「障害を抱える人々」の人権について、今、どのような事が問題となっているのか、調べてくること。（1時間半）

事後	授業で提示された項目を確認、整理しておくこと。(2時間半)

12	人権について考える ④:女性の社会参加について
事前	「女性の社会参加」をめぐり、今、どのような事が問題となっているのか、調べてくること。(1時間半)
事後	授業で提示された項目を確認、整理しておくこと。(2時間半)

13	人権について考える ⑤:社会的マイノリティーの社会参加について
事前	「社会的マイノリティー」とは、どのような事を意味するのか、調べておくこと。(1時間半)
事後	「社会的マイノリティー」について説明できるように整理しておくこと。(2時間半)

14	豊かな人権社会の構築に向けて
事前	「人権社会」とはどのような社会を意味するのか、自分のことばで説明できるようにしておくこと。(1時間半)
事後	授業内での議論を踏まえ、「人権社会」について整理しておくこと。(2時間半)

15	まとめ:本講義全体をふりかえって
事前	講義全体を振り返り、どのような課題を見出したのか、確認しておくこと。(1時間半)
事後	講義全体を振り返り、人権の概念について、具体的に説明できるように整理しておくこと。(2時間半)

2020/07/16(木)21:29

科 目 名	社会教育演習I [科]			授業コード	5070061
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	地域づくり、まちづくり、人づくり

到達目標	・社会教育の目的について理解する。 ・社会教育の社会的役割について理解し、説明できること。 ・社会教育施設の課題について理解する。			
授業の概要	現代社会において、生涯学習や社会教育の活動を目的とした多様な施設が用意されている。この授業ではそうした施設で興味あるものを取り上げ、その目的、機能や具体的活動内容、利用状況等を学生自らが調査し報告をおこなう。特に地域での学習支援にいかなる貢献を果たしているか、そのためにいかなる工夫をおこなっているかを明確にし、こうした施設の意義について理解を深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループまたは、各人における研究テーマに基づきフィールドワークを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業態度(20%)、および、成果発表内容等(80%)により、評価。 積極的な学習活動への参加を希望する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートにおける質問等、授業時にフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。本授業は社会教育士の資格取得を目的とするものであるため、フィールドワークへの積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II		○					
III							
IV							

V		○					

テキスト1	『生涯学習のグローバルな展開：ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成』、長岡智寿子・近藤牧子編、東洋館出版社、2020年	9784491039398
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要、到達目標、進め方について
事前	指定されたテキストを準備しておき、生涯学習、社会教育についてどのような課題があるのか確認しておくこと。（1時間半）
事後	授業において説明された論点を整理しておくこと。（2時間半）

2	社会教育の役割とは何か？
事前	社会教育とはどのような学習活動なのか、テキスト等を利用し、調べておくこと。（1時間半）
事後	今日の社会教育の課題について、自分のことばで説明できるようにまとめておくこと。（2時間半）

3	現代社会教育の基本的構図から考える
事前	社会教育の行政における役割、位置づけについて、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業において提示された課題について、整理しておくこと。（2時間半）

4	「公共性」の理解から学習支援者の専門性を考える。
事前	「公共性」とはどのようなことを意味するのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業において提示された課題について、整理しておくこと。（2時間半）

5	地域社会に根差した生涯学習・社会教育実践について
事前	身近な社会教育活動について、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業における議論を踏まえ、実践可能な社会教育活動の課題を整理しておくこと。（2時間半）

6	アクションリサーチの視点から社会教育実践を考える
事前	市民による社会教育活動の事例について調べておくこと。（1時間半）
事後	市民が参画しやすい社会教育活動とはどのような活動であるのか、整理しておくこと。（2時間半）

7	社会教育が提案する新しい専門職像について考える
事前	地域行政職の役割について、調べておくこと。（1時間半）
事後	授業において提示された課題を整理し、次の授業に備えておくこと。（2時間半）

8	社会教育施設における学習活動の事例から① 様々な地域の事例
事前	様々な社会教育施設における活動について、調べておくこと。（1時間半）
事後	望ましい社会教育施設の在り方について、整理しておくこと。（2時間半）

9	社会教育施設における学習活動の事例から② 川崎市の事例
事前	川崎市の社会教育施設における具体的な活動について、調べておくこと。（1時間半）
事後	どのような学習活動が求められているのか、これまでの講義を踏まえ、整理しておくこと。（2時間半）

10	講座のつくりかた① 学習テーマの設定、プログラムについて

事前	地域社会における学習活動について、具体的に調べてくること。(1時間半)
事後	今、どのような学習活動が取り組まれているのか、地域社会の課題をも考慮し、整理しておくこと。(2時間半)

11	講座のつくりかた② 広報・宣伝の方法、講座の準備と運営について
事前	どのような広報が望ましいのか、準備、運営の側の観点から考えてくること。(1時間半)
事後	実際に活動に取り組むには、どのような配慮が必要となるのか、整理しておくこと。(2時間半)

12	講座のつくりかた③ 講師や職員の役割について
事前	社会教育活動の講師や職員の役割とは何か、事前に調べておくこと。(1時間半)
事後	学習支援者の課題について整理しておくこと。(2時間半)

13	講座のつくりかた④ 講座終了後の支援、評価ついて
事前	講座が終了した後の支援、評価について、どのようなことができるのか、調べておくこと。(1時間半)
事後	授業において提示された課題についてまとめ、次の授業に備えておくこと。(2時間半)

14	講座のつくりかた⑤ 発表
事前	プレゼンテーションの準備を行う。(1時間半)
事後	プレゼンテーションを振り返り、課題や反省点を整理しておくこと。(2時間半)

15	まとめ
事前	本演習全体を振り返り、学習支援者の役割と課題について整理しておく。(1時間半)
事後	学習支援者や学習者など、それぞれの立場における視点を比較分析しておく。(2時間半)

2020/07/16(木)21:58

科 目 名	社会教育演習II [科]			授業コード	5070072
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	地域づくり、人づくり、自分史

到達目標	・社会教育の概念を理解し、実践に向けて課題を把握する。 ・社会教育活動を支援する立場の今日的課題に向けて理解する。 ・社会教育活動に取り組む学習者の立場としての課題を理解する。			
授業の概要	社会教育演習Ⅰを踏まえ、この授業では社会教育活動として興味あるテーマを学生自らが選び、そのテーマに沿った社会教育の学習プログラムを構成し実施計画を策定する。この計画をプレゼンテーションしディスカッションをおこなうことで、よりよい学習プログラム、実施計画の作成を学んでいく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループまたは、各人における研究テーマに基づきフィールドワークを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業態度(20%)、および、成果発表内容等「80%)により、評価。 積極的な学習活動への参加を希望する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートにおける質問等、授業時にフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。本授業は社会教育士の資格取得を目的とするものであるため、 フィールドワークへの積極的な参加を期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV				○			

V			○				

テキスト1	『生涯学習のグローバルな展開：ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成』、長岡智寿子・近藤牧子編、東洋館出版社、2020年	9784491039398
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜、紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	社会教育演習Ⅰでの学習を振り返り、整理しておくこと。（1時間半）
事後	授業の際に提示された課題について、確認、整理しておくこと。（2時間半）

2	人生各期における課題について
事前	人生各期にはどのような学習課題があるのか、今一度、確認しておくこと。（1時間半）
事後	生涯学習の概念を踏まえ、人生各期の課題について、整理しておくこと。（2時間半）

3	成人の学習活動としての自分史について
事前	成人期とは、どのような時期区分であるのか、調べておくこと。（1時間半）
事後	成人期の特質について、整理しておくこと。（2時間半）

4	学習活動の展開：自分史の作成に向けて① 調べてみよう
事前	「自分史」について、予め調べておくこと。（1時間半）
事後	自分史をまとめることの意義について、説明できるようにしておくこと。（2時間半）

5	学習活動の展開：自分史の作成に向けて② 様々な自分史について
事前	今日の様々な「自分史」の形態について調べておくこと。（1時間半）
事後	様々な文献も活用し、望ましいテーマ選定に向けて準備しておくこと。（2時間半）

6	学習活動の展開：グループワーク③ 成人期の学習活動のねらい
事前	成人期の学習活動のねらいについて、調べておくこと。（1時間半）
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。（2時間半）

7	学習活動の展開：グループワーク④ 発表
事前	発表の準備をしておくこと。（1時間半）
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。（2時間半）

8	自分史を作成してみよう。① 計画立案 テーマの明確化に向けて
事前	どのようなテーマで「自分史」を書くことができるのか、より具体的に考えておくこと。（1時間半）
事後	実際に作成する中で、疑問点や課題など、質問できるように整理しておくこと。（2時間半）

9	自分史を作成してみよう。② 計画立案 構成内容の検討
事前	構成や内容について、説明できるように準備しておくこと。（1時間半）
事後	具体的な課題や反省点についても整理し、自分史の作成に向けて整理しておくこと。（2時間半）

10	自分史を作成してみよう。③ グループワーク テーマ設定に向けて

事前	グループ内でテーマについて発表できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

11	自分史を作成してみよう。④ グループワーク 構想発表に向けて
事前	前回の議論を踏まえ、グループ内で発表できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

12	自分史を作成してみよう。⑤ グループワーク 具体的課題について
事前	前回の議論を踏まえ、グループ内で発表できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

13	自分史を作成してみよう。⑥ グループワーク 成果発表の準備
事前	前回の議論を踏まえ、グループ内で発表できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループワークでの議論を踏まえ、論点を整理し、作成途上の自分史に加筆、修正をしておくこと。(2時間半)

14	学習活動の成果発表、および、評価について
事前	成果発表にむけて、準備しておくこと。(1時間半)
事後	作成した「自分史」を相互に評価するとともに、課題を整理しておくこと。(2時間半)

15	まとめ
事前	初めて作成した「自分史」について、どのように評価することができるのか、考えておくこと。(1時間半)
事後	本演習全体を振り返り、改めて自分史作成の意義について、文章化できるように整理しておくこと。(2時間半)

2020/07/16(木)22:17

科 目 名	心の発達と生涯学習 [科]			授業コード	5070081
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	おとなの学び、生涯発達、成人教育

到達目標	・成人期の学びとそれまでの時期区分との違いについて、把握、理解すること。 ・おとなの学びを豊かに創造する生涯学習社会の在り方について、理解し、説明できること。			
授業の概要	成人以降の発達とは、青年期までの能力の量的増大とは異なり、技能や行動、生き方などの質的向上が主体となる。これらは職場や地域、家庭などにおいて実現されると考えられてきたが、インターネットの普及などにより新たな枠組みも存在すると考えられる。この講義では現代成人が生き方の質的向上を果たす生涯学習の機会として具体的にどのような活動や活動場所が存在し、そこでの活動が成人の地域生活にいかなる影響を与えているのか、多様な人々が地域で共生するためにこうした活動が果たす役割について学んでいく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業中に適宜、グループ討議を行い、内容理解を深めていく。
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題等への取り組み（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートによる質問等、その解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合、退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III			○				
IV							

V				○			

テキスト1	指定テキストは無し。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要、その進め方について
事前	人生各期における学びについて、特に、成人期の特徴について調べておくこと。(1時間半)
事後	授業において提起された課題についてまとめ直し、疑問点等、確認できるように整理しておくこと。(2時間半)

2	成人期とはどのような時期区分であるのか？：人の発達課題を踏まえて
事前	「成人期」の特質について、調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で提示された課題について、今一度、整理しておくこと。(2時間半)

3	おとなの学びを考える① ：成人教育の概念を踏まえて
事前	成人教育とはどのような教育活動であるのか、調べておくこと。(1時間半)
事後	おとなの学びと子どもの学びの違いについて、説明できるように整理しておくこと。(2時間半)

4	おとなの学びを考える② ：成人教育の現代的課題について
事前	成人期の学習課題にについて、調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で提示された課題について、今一度、整理しておくこと。(2時間半)

5	おとなの学びを考える③ ：日本社会の成人教育の事例
事前	日本社会における成人教育活動の事例について、具体的に調べておくこと。(1時間半)
事後	日本社会の成人教育の課題について、まとめておくこと。(2時間半)

6	おとなの学びを考える④ ：世界の成人教育の事例　東アジア社会の事例
事前	東アジア社会の成人教育の事例について調べておくこと。(1時間半)
事後	日本社会との相違があるとすれば、どのような点であるのか。論点を整理しておくこと。(2時間半)

7	おとなの学びを考える⑤ ：世界の成人教育の事例　南アジア社会の事例
事前	南アジア社会の成人教育の事例について、調べておくこと。(1時間半)
事後	日本社会との相違があるとすれば、どのような点であるのか。論点を整理しておくこと。(2時間半)

8	中間総括
事前	これまでの講義を振り返り、どのような課題を見出したのか、整理しておくこと。(1時間半)
事後	中間総括における課題を整理し、自分のことばで説明できるようにしておくこと。(2時間半)

9	「学び直し」とは何か？：夜間中学校における学びの実践①　公立夜間中学校の事例
事前	夜間中学校について、予め調べておくこと。(1時間半)
事後	教育保障について、今日的課題を整理しておくこと。(2時間半)

10	「学び直し」とは何か？：夜間中学校における学びの実践② その他の学習活動の事例
事前	地域社会における教育支援活動について、調べておくこと。(1時間半)
事後	地域社会における教育支援活動の課題について、整理しておくこと。(2時間半)

11	「学び直し」とは何か？：成人教育とジェンダー① 日本社会の事例
事前	ジェンダー概念について、調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で提示された課題について、今一度、整理しておくこと。(2時間半)

12	「学び直し」とは何か？：成人教育とジェンダー②　諸外国の事例
事前	成人期とジェンダーの問題について、調べておくこと。(1時間半)
事後	授業内で提示された課題について、今一度、整理しておくこと。(2時間半)

13	地域社会を支える成人学習の課題①　国際的な視点から考える

事前	今日、国際社会におけるジェンダー概念に扱われ方について調べておくこと。(1時間半)
事後	授業において提起された課題について、整理しておくこと。(2時間半)

14	地域社会を支える成人学習の課題② 身近な社会の事例から考える
事前	地域社会における成人の学習課題について、身近な事例を調べておくこと。(1時間半)
事後	授業において提起された課題について、整理しておくこと。(2時間半)

15	まとめ :本授業全体をふりかえって
事前	これまでの講義を振り返り、どのような課題を見出したのか、整理しておくこと。(1時間半)
事後	講義全体を踏まえ、心の発達と生涯学習の課題について具体的に説明できるように備えておくこと。(2時間半)

2020/07/16(木)21:53

科 目 名	現代社会とジェンダー [科]			授業コード	5070092
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子				

科目に関する キーワード	ジェンダー、地域づくり、共生社会

到達目標	・現代社会におけるジェンダーに関する課題について理解し、説明できること。 ・ジェンダー概念を理解し、その今日的課題に対し理解を深めること。 ・地域社会におけるジェンダーに関する問題点について、解決につながる視点を持つこと。			
授業の概要	この講義では、ジェンダーに関する現代的課題とその解決のあり方について学んでいく。現代社会の特徴とジェンダーの現代的課題との関連について理解を深めるとともに、地域生活において生じるジェンダーに関する様々な問題について、解決につながる視点を形成出来るようにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループ討議により、提示された課題について理解を深めていく。
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題等への取り組み（20%）で総合的に評価する。		
フィードバック	授業における課題やコメントシートによる質問等、その解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	他受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。頻回の場合、退出を求めることもあるので留意されたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III							
IV			○				

V		○					

テキスト1	指定テキストは無し。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：本講義の概要と進め方について
事前	ジェンダー概念について、現代社会においてどのような問題があるのか、調べておくこと。 (1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理しておくこと。(2時間半)

2	ジェンダーとは何か？：概念理解とその歴史的展開から考える
事前	ジェンダー概念とその歴史的経緯について、予め調べておくこと。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理しておくこと。(2時間半)

3	男らしさ、女らしさとは？：社会における性役割から考える
事前	○○らしさとは、どのようことなのか。説明できるように備えておくこと。(1時間半)
事後	性役割が社会にもたらす問題について、整理しておくこと。(2時間半)

4	家族とジェンダー
事前	家族とジェンダーについて、社会問題となっていることを調べておくこと。(1時間半)
事後	ジェンダー概念が家族にもたらす問題点を整理しておくこと。(2時間半)

5	性暴力とジェンダー
事前	性暴力の問題点について、調べておくこと。(1時間半)
事後	性暴力の問題解決に向けて、どのようなアプローチが望ましいのか、整理しておくこと。(2時間半)

6	教育とジェンダー
事前	教育におけるジェンダーの問題について、調べておくこと。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理し、知識の定着を図ること。(2時間半)

7	メディアとジェンダー
事前	メディアとジェンダーから想起される問題について調べておくこと。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理し、知識の定着を図ること。(2時間半)

8	労働とジェンダー
事前	労働活動にジェンダー概念がどのように関わってくるのか、調べておくこと。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理し、知識の定着を図ること。(2時間半)

9	スポーツとジェンダー

事前	スポーツにおけるジェンダーについて、現代的課題を調べてくること。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理し、知識の定着を図ること。(2時間半)

10	社会政策とジェンダー
事前	社会の政策におけるジェンダー概念の扱われ方について、調べてくること。(1時間半)
事後	講義内で扱った専門用語や課題について、整理し、知識の定着を図ること。(2時間半)

11	グループワーク:ジェンダーの視点から日常生活を見渡せば・・・① 事例検討
事前	ジェンダーに関する身近な事例を説明できるように備えておくこと。(1時間半)
事後	グループでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

12	グループワーク:ジェンダーの視点から日常生活を見渡せば・・・② 問題解決に向けて
事前	日常生活における問題とその解決に向けて、具体的に提示できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

13	グループワーク:ジェンダーの視点から現代社会を問う① 事例検討
事前	現代社会におけるジェンダー問題について、自分のことばで説明できるように備えておくこと。(1時間半)
事後	グループでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

14	グループワーク:ジェンダーの視点から現代社会を問う② 問題解決に向けて
事前	社会問題の解決に向けて、具体的に提示できるように準備しておくこと。(1時間半)
事後	グループでの議論を踏まえ、論点を整理しておくこと。(2時間半)

15	まとめ:本講義をふりかえって
事前	これまでの講義を振り返り、どのような課題を見出したのか、整理しておくこと。(1時間半)
事後	本講義全体を振り返り、学年末の課題に向けてまとめておくこと。(2時間半)

2020/07/16(木)11:18

科 目 名	基礎演習 [科]			授業コード	5080010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	長岡 智寿子、新井 彩加				

科目に関するキーワード	スタディ・スキル、心理学で共生を考える

到達目標	・大学の授業に必要なスキルを身に付ける。 ・大学生活を主体的に過ごすことができるような態度を身に付ける。 ・研究倫理、フィールドワークの方法を説明できる。 ・人間科学部の共通テーマである人間共生を、初歩的な心理学的視点で考察することができる。 ・グループ学習の課題について適切なプレゼンテーションを実施できる。			
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座（合同実施）と、演習形式で行う講座（個別実施）で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	小グループでのディスカッション、プレゼンテーションの実施、フィールドワークの実施、外部機関への見学学習
評価方法及び評価基準	レポート	レポート（80%）、グループディスカッションでの発言等授業態度（20%）で評価する。		
フィードバック	授業中のグループワークや簡潔な課題についてはその場、もしくは後の回の授業でおこなう。レポート課題についてはコメントをつけて返却、あるいは、でんでんばん上にておこなう			
履修に際しての注意事項	大学生としての自覚をもって授業の臨むこと。 レポートについては、コメントを付けてフィードバックする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、自己紹介
事前	本シラバスをよく読み、授業の全体像を理解しておこう（30分以上）
事後	オリエンテーションの内容を振り返り、不明な点は書き出して次回の授業で確認しよう（30分以上）

2	論文検索Ｉ図書館での検索
事前	本学図書館のホームページとキャンパスガイドの図書館に関するページから、図書館利用について調べておこう（30分以上）
事後	図書館利用における注意点を整理しておこう（30分以上）

3	論文検索2インターネットでの検索
事前	インターネットで情報を得る場合の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	インターネットで論文を調べる方法と、調べた論文の引用方法についてまとめておこう（30分以上）

4	論文検索3資料の整理
事前	授業等で用いた資料の整理について、自分がどのようにおこなってきたか考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された整理方法をまとめておこう（30分以上）

5	ノート・テイキングの技術
事前	自分のノートの取り方について特徴（良い点、悪い点を含む）をまとめておこう（30分以上）
事後	授業で示されたノート・テイクの方法をまとめておこう（30分以上）

6	レポートの書き方
事前	授業で出されるレポートの作成について気をつける点を調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示されたレポートの書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

7	小論文の書き方
事前	感想文、レポート、小論文の違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された小論文の書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

8	引用の方法
事前	文献を引用することと参考にすることとの違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された引用の方法についてまとめておこう（30分以上）

9	コミュニケーション能力1伝わる話し方
事前	聴き手に話を正しく伝えるために必要なことはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された話し方のポイントをまとめておこう（30分以上）

10	コミュニケーション能力2傾聴
事前	相手の話を正しく理解するために、聴き手としてどのようなことに注意したらよいか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された聴き方のポイントをまとめておこう（30分以上）

11	アルバイトから労働を考える
事前	大学生としてアルバイトする場合に気をつけることはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	アルバイトで学べることについて様々な視点からまとめておこう（30分以上）

12	人権侵害とは何か（SNSで人を傷つけるとは）
事前	SNSで人を傷つける行為にはどのようなものがあるか、考えてみよう（30分以上）
事後	人権侵害とはどのようなことか、まとめておこう（30分以上）

13	時間管理学（主体的に生きるための方法）
事前	自分の時間管理能力について長所、短所をまとめておこう（30分以上）
事後	時間管理に必要な能力や方法についてまとめておこう（30分以上）

14	研究方法（様々な研究方法を知る）
事前	研究とはなにか、なぜ研究が必要なのか、調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示された研究方法について特徴をまとめておこう（30分以上）

15	まとめ
事前	ここまでを振り返り、自分のスタディ・スキルについて評価しておこう（30分以上）
事後	後期のフィールドワークに備え、ボランティア活動の準備を進めよう（30分以上）

16	現場から課題を見出す-フィールドワークと倫理的配慮-
事前	フィールドワークとはなにか、調べておこう（30分以上）
事後	フィールドワークをおこなう場合の倫理的配慮についてまとめておこう（30分以上）

17	フィールドワークの方法と共生に関する課題の発見
事前	ボランティア先において、人々の共生と関連する出来事はなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	フィールドワークで用いる方法についてまとめておこう（30分以上）

18	フィールドワークと心理学的考え方を結びつける
事前	ボランティア先の出来事でこれまでに学んだ心理学的知識や理論と関係づけれられるものを書き出してみよう（30分以上）
事後	関連づけられる心理学的知識や理論について詳しく調べておこう（30分以上）

19	フィールドワークの対象と適用可能な心理学的知識や理論をまとめる
事前	フィールドワークの出来事（対象）を具体的に絞り込んでおこう（30分以上）
事後	フィールドワークの出来事（対象）について説明出来る体系的な心理学的知識や理論を構成しよう（30分以上）

20	グループ研究の進め方
事前	グループで発表内容をまとめる際の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	授業でのグループ分けに従い、発表に向けたスケジュールを立てよう（30分以上）

21	テーマを決めてグループ研究
事前	グループで共通テーマを決めておこう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けたスケジュールを決めよう（30分以上）

22	フィールドワークの準備
事前	フィールドワークに必要な資料、道具等準備を進めよう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けた最終チェックをしておこう（30分以上）

23	フィールドワークに出かける1
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

24	フィールドワークに出かける2
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

25	収集資料の整理、分析
事前	グループで分析可能な記録のまとめをしておこう（30分以上）
事後	記録の分析にしたがい、必要な資料等をまとめておこう（30分以上）

26	プレゼンテーションの進め方
事前	研究発表のプレゼンテーション方法について調べておこう（30分以上）
事後	授業で示された進め方にしたがい、グループ発表の段取りをつけよう（30分以上）

27	パワーポイントの作り方
事前	PCルーム等でパワーポイントの基本的操作方法について確認しておこう（30分以上）
事後	グループで発表用スライドを作成しよう（30分以上）

28	グループ研究の発表1
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

29	グループ研究の発表2
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

30	まとめ
事前	フィールドワークの設定からグループ発表までの流れを振り返っておこう（30分以上）
事後	共生と心理学の関連付けについて、この演習で得られたことをまとめておこう（30分以上）

2020/07/16(木)21:09

科 目 名	臨床心理学概論 [心科]			授業コード	5080022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	教員名は後日発表				

科目に関する キーワード	臨床心理学　精神分析学　認知行動療法　人間性心理学　精神医学
到達目標	・フロイトの精神分析学及び力動的心理療法の各流派について説明できる。 ・条件づけ理論にもとづく介入法および観察学習にもとづく介入法について説明できる。 ・ロジャース、マズローに代表される人間性心理学の各流派について説明できる。 ・ベックの認知療法、エリスの論理的情動療法及び第三世代の認知行動療法について説明できる。 ・個人療法と集団療法の違いについて説明できる。 ・日本独自の心理療法について説明できる。 ・心理的アセスメントについて概説できる。
授業の概要	臨床心理学の代表的な理論について、各理論の特徴、長所と短所、他の理論との関連性も含めて学ぶ。また、臨床心理学の形成と発展について歴史的経緯や隣接学問との関連性についても学ぶ。加えて、さまざまな臨床的困難を抱えた人々の日常生活における心理的課題と対処についても理解を深める。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験（60%）と、毎回実施するリアクション・ペーパーの内容（40%）を合わせて評価する。	
フィードバック	毎回実施するリアクションペーパーの内容（質問）に対する回答、解説を次回の授業冒頭でフィードバックする。		
履修に際しての 注意事項	疑問を持ちながら授業に臨むこと。授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」で行う。授業中のリアクション・ペーパー等への回答は実施回以降の授業で行う。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III			○				
IV							

V				○			

テキスト1	使用しない。必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学の中の臨床心理学
事前	心理学における臨床心理学の位置づけについて予め考え、授業に臨むこと、(1.5時間)
事後	臨床心理学の適応範囲、応用の可能性について復習しておくこと。(2時間)

2	精神分析学と力動的心理療法の成り立ち
事前	精神分析の理論、考え方を復習した上で、授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	精神分析学の発展と、現代の位置づけについて復習しておくこと。(2.5時間)

3	行動理論と行動療法の成り立ち:条件づけ理論から観察学習、応用行動理論まで
事前	条件づけを含む、行動理論の基礎知識を復習しておくこと。(1.5時間)
事後	行動理論の発展と現状を復習しておくこと。(2.5時間)

4	人間性心理学と人間中心アプローチの成り立ち
事前	ロジャース、マズローの提唱理論を復習しておくこと。(1.5時間)
事後	人間性心理学の発展と臨床応用について復習しておくこと。(2.5時間)

5	認知理論と認知行動療法の成り立ち
事前	3回目の内容を復習しつつ、認知的考え方の重要性について調べておくこと。(2時間)
事後	認知行動療法、認知療法の可能性について復習しておくこと。(2時間)

6	心理療法の諸理論の成り立ち
事前	2〜5回目までの内容を十分復習し、授業に臨むこと。(2時間)
事後	これまでの回の内容を十分復習し、臨床心理学の理論、実践の可能性についてまとめておくこと。(2時間)

7	心理アセスメントの成り立ち:心理検査の歴史、心理測定理論の歴史
事前	心理アセスメントの意義について予め調べた上で、授業に臨むこと。(2時間)
事後	心理アセスメントの役割、実践について十分復習しておくこと。(2時間)

8	臨床心理学の基本概念:基本的理論モデル、医学モデルと心理学モデルの違い
事前	改めて、心とは何か、心の病とは何かについて、考えを巡らせながら授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	心理学モデルと医学モデルの違いについてしっかり復習しておくこと。(2.5時間)

9	心理アセスメントの理論と技法(1):面接法
事前	面接法の意義について調べた上で、授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	アセスメントにおける面接法の役割について復習しておくこと。(2.5時間)

10	心理アセスメントの理論と技法(2):知能検査・発達検査・認知機能検査
事前	知能、発達、認知の定義につてい復習しておくこと。(2時間)
事後	各検査の概要、役割について復習しておくこと。(2.5時間)

11	心理アセスメントの理論と技法(3):性格・パーソナリティ検査
事前	性格、パーソナリティの定義について復習しておくこと。(1.5時間)
事後	各検査の概要、役割について復習しておくこと。(2.5時間)

12	ケースフォーミュレーションと異常心理学:見立て、心理診断、心の病理学
事前	「ケースフォーミュレーション」とは何か。予め調べた上で、授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	ケースフォーミュレーションの流れについて事例を想定し、十分復習しておくこと。(2.5時間)

13	心理療法の技法選択と効果のエビデンス
事前	エビデンス・ベースドという考え方について予め調べた上で、授業に臨むこと。(1.5時間)

事後	事例を想定しながらエビデンス・ベースドの重要性を復習しておくこと。（2.5時間）

14	臨床心理学の実践（1）：保健・医療、福祉
事前	想定される臨床心理学の実践領域について調べた上で、授業に臨むこと。（1.5時間）
事後	保健・医療分野における臨床心理学の実践について、事例を想定しながら復習しておくこと。（2.5時間）

15	臨床心理学の実践（2）：教育、司法・犯罪、産業・組織
事前	教育、司法・犯罪、産業・労働分野における臨床心理学の実践の可能性について予め考えた上で、授業に望むこと。（1.5時間）
事後	今回学んだ各分野における臨床心理学実践の可能性について、事例を想定し復習すること。（2.5時間）

2020/07/16(木)11:09

科 目 名	心理学の歴史と発展 [科]			授業コード	5080032
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	教員名は後日発表				

科目に関する キーワード	心理学史 ゲシュタルト心理学 精神分析学 行動科学 認知科学 コンピュータ科学 脳科学

到達目標	・心の捉え方の歴史的変遷について概説できる。 ・科学的心理学の成立と発展について概説できる。 ・20世紀の3大潮流を説明できる。 ・心理学の発展に大きな影響を与えてきているコンピュータ科学、脳科学との関係について説明できる。 ・20世紀後半より大きく発展してきている認知心理学、社会心理学、発達心理学の歴史的変遷を説明できる。			
授業の概要	心理学は、そのルーツは古いが歴史は新しい、とされる。これは、現代心理学が自然科学的思考の影響を強く受けたことで成立していると考えるからであるが、それでも多様な学問領域や社会、文化の影響を受け、複線的な歴史と発展を遂げている学問であるといえる。本講義ではこの複線を研究法、心の所在とモデル、心理学の応用の3つに設定し、歴史的変遷と発展について理解を進める。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	リポート	毎回実施するリアクションペーパーの内容（60%）と、総合的理解を確認するために実施する最終リポートの内容（40%）を合わせて評価する。		
フィードバック	毎回実施するリアクションペーパーの内容（質問）について、次回の授業冒頭で回答、解説を加えフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	学の成立はその歴史的積み重ねによってのみ達成されるものである。その変遷を知ることにより、心理学を真に理解することができるといえる。欠席せず、関心をもって授業に臨んでほしい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV							

V						○	

テキスト1	使用しない。適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学の成り立ちと心理学史を学ぶ意義
事前	心理学を学ぶ上で、その歴史を学ぶ意義について考えた上で、授業に臨むこと。(1･5時間)
事後	心理学という学の成り立ちとその歴史を学ぶ意義について再度振り返り関心を深めておくこと。(2.5時間)

2	心理学と諸科学との関係:心理学と哲学、経済学、社会学、教育学、行動生物学、進化生物学、脳科学など
事前	心理学は他の分野とどのように関連し、連携が可能なのか、予め考えを巡らせながら授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	非常に広範囲にわたる諸科学との関連を持つ現代心理学のありようを振り返り、今後の授業の展開に備えること。(2.5時間)

3	ブント以前の心理学:デカルト以前の心の捉え方、デカルト以降の心の捉え方
事前	人間は心をどのように捉え、考えてきたのだろうか。ギリシャ時代以降の時代を任意に設定して、調べてみること。(1・5時間)
事後	現代心理学の祖となるブント以前のこころをめぐる歴史を振り返り、現代心理学への影響について考えてみること。(2・5時間)

4	「心身問題」について
事前	心身問題、心身二元論、をキーワドとして調べて上で授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	二元論から心脳一元論までの変遷を振り返り復習しておくこと。(2.5時間)

5	科学的心理学の成立と展開:内観、構成、機能、意識の流れ、操作主義、行動主義、客観性、論理主義など
事前	内観、構成主義、意識の流れ、操作主義をキーワードに、検索し調べておくこと。(1・5時間)
事後	科学的心理学の意味を改めて考え、現代心理学のあり方について考察しておくこと。(2・5時間)

6	20世紀の3大潮流:ゲシュタルト心理学、精神分析、行動主義
事前	ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析について復習した上で授業に臨むこと。(1・5時間)
事後	授業で学んだ3大潮流と現代心理学への変遷を改めて振り返っておくこと。(2・5時間)

7	認知心理学の成り立ち
事前	認知心理学の研究領域を復習した上で、授業に臨むこと。(1・5時間)
事後	AIn急速な発展に支えられながら急速に進化してきた認知心理学の全容をしっかり復習しておくこと。(2・5時間)

8	社会心理学の成り立ち
事前	社会心理学の研究テーマの概要を復習した上で、授業に臨むこと。(1・5時間)
事後	時代性の影響を受けながら発展を続けている社会心理学について、他の分野との関連について考察を深めておくこと。(2・5時間)

9	発達心理学の成り立ち
事前	発達心理学の研究テーマを復習した上で、授業に臨むこと。(1・5時間)
事後	高齢社会迎え、全生涯を包含した発達心理学研究が可能となってきた。発達心理学研究の意義について復習しておくこと。(2・5時間)

10	臨床現場からの心理学の成り立ち
事前	臨床心理学の研究テーマと変遷を復習しておくこと。(1・5時間)
事後	心理学が臨床に役立つようになって、歴史は浅い。反面、臨床心理学の研究範囲は膨大に膨れ上がってきているのも現状である。臨床心理学の可能性について改めて復習しておくこと。(2・5時間)

11	実用からの心理学の成り立ち:教育、司法・犯罪、産業・労働、保健医療、福祉
事前	心理学を活かす専門職としての国の資格が漸く制定された。公認心理師の主要5分野について、調べておくこと。(1・5時間)
事後	心理学活かす職域の発展について、臨床以外の可能性について考察してみること。(2・5時間)

12	世界の心理学史
事前	自分の関心のある国を複数選び、その国の心理学研究の特徴を調べておくこと。(1・5時間)
事後	先行して発展してきた世界の心理学を振り返り、日本への影響について考察してみること。(2・5時間)

13	日本の心理学史
事前	日本独自の心理学あるのだろうか。心をどのように捉えてきたのか、可能な範囲で調べた上で、授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	日本独自の心理学の発展の可能性について考察してみること。（2・5時間）

14	心理学と計算機科学（コンピュータ科学）：認知主義、言語学、PDPモデル、人工知能（AI）、行動経済学など
事前	認知主義、言語学、PDPモデル、人工知能（AI）、行動経済学、をキーワドに関心のある用語を検索し、調べた上で、授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	AIの発展に代表されるコンピュータ科学の発展と恩恵の視点から、今後の心理学のあり方について考察すること。（2・5時間）

15	心理学と脳科学：脳からみた心
事前	脳とこころ、神経心理学の研究テーマについて改めて復習しておくこと。（1・5時間）
事後	現代心理学の発展に多大な影響を与えている脳科学の研究成果について十分復習しておくこと。（2・5時間）

2020/07/16(木)10:57

科 目 名	心理的アセスメント [心科]			授業コード	5080052
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	教員名は後日発表				

科目に関する キーワード	アセスメント　観察法　心理検査　テストバッテリー

到達目標	・心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。 ・心理的アセスメントの観点及び展開につして説明できる。 ・心理的アセスメントの方法（種類、特徴、意義及び限界）について説明できる。			
授業の概要	心理的アセスメント（心理査定）について目的と倫理、アセスメントをおこなう観点や過程、アセスメント後の処遇、展開について学ぶ。また、心理的アセスメント法としての面接、観察、心理検査等の種類と実施法、及び心理的アセスメントにおける適切な記録と報告のあり方についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	リポート	課題リポート（40%）と毎回提出のリアクションペーパー（60%）を合わせて評価する。		
フィードバック	毎回実施するリアクションペーパーの内容（質問）に対して、次回の授業冒頭で回答、解説する。			
履修に際しての 注意事項	実際の検査場面を想像しながら授業に望むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	使用しない。適宜、資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じ、授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理的アセスメントの目的及び倫理について：心理的アセスメントの意義
事前	アセスメントはなにか？あらかじめ調べた上で、授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	心理的アセスメントの意義について復習しておくこと。（2・5時間）

2	心理的アセスメントと心理診断：目的と倫理的配慮
事前	臨床現場における、心理学モデルと医学モデルの違いについて調べておくこと。（1・5時間）
事後	心理的診断の目的と倫理について、復習しておくこと。（2・5時間）

3	心理的アセスメントの観点と展開（1）：現病歴、生活史、家族史等の情報の意義
事前	心理アセスメントおいて、生活史、家族史の情報がなぜ必要なるのか。考えてみること。（1・5時間）
事後	任意に事例を想定し、ジェノグラム作成の練習をしてみること。（2・5時間）

4	心理的アセスメントの観点及び展開（2）：検査法における信頼性、妥当性、標準化の意義
事前	臨床に用いられる検査法には、妥当性と信頼性が強く求められる。妥当性、信頼性についてあらかじめ調べておいた上で授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	検査法における信頼性、妥当性、標準化の手続きの重要性についてしっかり復習しておくこと。（2・5時間）

5	面接法：診断面接と治療面接
事前	心理的アセスメントにおける「面接」と日常用語でもある「面接」との違いは何か。あらかじめ考察しておくこと。（1・5時間）
事後	「診断面接」、「治療面接」につてい十分復習すること。（2・5時間）

6	観察法：自然的観察と実験的観察
事前	観察とはただ見ているということではない。その用語の持つ意味について考察し、授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	改めて心理的アセスメントにおける観察の持つ意味について考察してみること。（2・5時間）

7	知能検査：知能検査の成り立ちと種類
事前	知能とはなにか。心理学の構成概念としての知能について、調べ、考えおくこと。（1・5時間）
事後	知能検査の適応と限界について復習しておくこと。（2・5時間）

8	発達検査：発達検査の成り立ちと種類
事前	人間発達と発達障害について復習しておくこと。（1・5時間）
事後	発達検査の適応範囲、発達障害の検査の在り方について復習しておくこと。（2・5時間）

9	人格検査（1）：質問紙法−質問紙法の種類と特徴
事前	パーソナリティに関する理論にていて復習しておくこと。（1・5時間）
事後	質問紙法の適応範囲と限界について復習しておくこと。（2・5時間）

10	人格検査（2）：投影法−投影法の種類と特徴
事前	「投影」、「投映」の用語を調べてみること。（1・5時間）
事後	投影法の適応と限界について復習しておくこと。（2・5時間）

11	症状評価法・診断面接基準
事前	心理学モデルと医学モデルとの違いを改めて復習し、心理学的査定の可能性について考えておくこと。（1・5時間）
事後	医療現場における心理的アセスメントの果たす役割について十分復習しておくこと。（2・5時間）

12	神経心理学検査：神経心理学検査法の種類と高次脳機能障害の理解
事前	神経心理学的症状、高次脳機能障害について調べておくこと。（1・5時間）
事後	神経心理学的検査法の適応範囲と可能性について復習しておくこと。（2・5時間）

13	認知機能検査：認知機能検査の種類と適用
事前	認知機能、認知機能障害について調べておくこと。（1・5時間）

事後	認知機能検査の種類と適応性について復習しておくこと。（2・5時間）

14	テストバッテリ：心理検査の組み合わせの必要性と結果の総合的理解
事前	バッテリー、の言葉の意味を調べてみること。テスト・バッテリーへのイメージを作り授業に臨むこと。（1・5時間）
事後	クライエントの総合的理解にとって、重要となるテスト・バッテリーの意義を復習しておくこと。（2・5時間）

15	記録及び報告のあり方：記録の保管、報告書の作成、フィードバック
事前	「ケースフォーミュレーション」についてあらかじめ調べておくこと。（1・5時間）
事後	記録、報告書を事例を想定し、作成してみること。また、その取扱いについて倫理課題を含め復習すること。（2・5時間）

2020/07/16(木)21:20

科 目 名	心理的アセスメント演習 [科]			授業コード	5080071
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	筒井 順子、新井 彩加				
臨床心理士として病院、教育機関での勤務経験を有する教員が授業を担当する。					

科目に関するキーワード	心理的アセスメント 質問紙法 知能検査法 投映法 発達検査法 神経心理学的検査法 ケースフォーミュレーション

到達目標	・心理的アセスメントの理論・目的が説明できる。 ・アセスメントに用いられる検査法（質問紙法、知能検査法、発達検査法、投映法、神経心理学的検査法）の主なものが実践できる。 ・アセスメント結果を分析し、介入への仮説設定ができる。 ・ケースフォーミュレーションを含む報告書の作成ができる。			
授業の概要	「心理アセスメント」の授業を踏まえ、面接、観察、心理検査による具体的なアセスメントの基礎的演習をおこなう。知的・認知的側面、情動的側面、行動特徴などいくつかの側面を模擬的にアセスメントする演習をおこない、その結果の分析と報告書作成および報告までを実施する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	使用する検査により、適宜、個別実施、小グループ実施の形式で授業を行う。
評価方法及び評価基準	リポート	授業で実施した検査、結果の振り返りを各回リアクションペーパーで提出（80%）、最終回に実施する総合振り返りリポート（20%）を合わせて評価する。		
フィードバック	各回終了時に提出されたリアクションペーパーに内容に対して、次回の授業冒頭で回答、解説を行う。			
履修に際しての注意事項	演習授業であり、グループで実践することが多いため、遅刻をせず、積極的に授業へ参加することが求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II				○			
III					○		
IV							

V							

テキスト1	指定しない。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	心理アセスメント　森田美弥子、他（監修） ナカニシヤ出版 その他、授業内で適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理的アセスメントの基礎理論
事前	「心理的アセスメント」の授業で学んだ内容を概観し、授業に望むこと。（1.5時間）
事後	次回より始まる実践演習に向けて、それぞれの検査法の基礎となっている理論的背景の知識について十分復習しておくこと。（2.5時間）

2	心理検査の習得（1）：発達検査(1) KIDS（乳幼児発達スケール）、新版K式発達検査2001、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、その他の発達検査
事前	人間発達について知識を整理した上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

3	心理検査の習得（2）：発達検査（2） ASD・ADHD・LD関連の検査、その他の検査
事前	発達障害について知識を整理した上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

4	知能検査（1）：DN-CAS、KABC-II
事前	知能の定義、概念について予め調べた上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

5	知能検査（2）：WISC-IV、WAIS-IV
事前	ウェクスラー法の種類について予め調べた上で授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

6	人格・心の健康に関する検査（1）：新版TEG-II、YG性格検査、PFスタディ、その他の検査
事前	性格、人格の心理学的定義、概念について予め調べた上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

7	人格・心の健康に関する検査（2）：STAI、MAS、CMI、POMS、IES-R改定出来事インパクト尺度日本版、その他の検査
事前	心の健康概念について予め調べた上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

8	投映法（1）：ロールシャッハ法
事前	ロールシャッハ・テストの結果の解釈には複数の立場が存在する。あらかじめ調べた上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	ロールシャッハ・テストの実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

9	投映法（2）：TAT、SCT、バウムテスト、風景構成法、その他の検査
事前	「心理的アセスメント」で学んだ投影法のうち、ロールシャッハ・テスト以外の種類を復習し、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

10	神経心理学的検査（1）：MMSE－J、長谷川式認知症スケール（HDS-R)、COGNISTAT、ベンダー・ゲシュタルト・テスト、その他の検査
事前	神経心理学的症状について概観し、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

11	神経心理学的検査（2）：時計描画検査、改訂版ウェクスラー記憶検査、三宅式記銘力検査、リバーミード行動記憶検査、その他の検査
事前	前回を受け、臨床領域における神経心理学的アセスメントの意義について調べた上で、授業に臨むこと。（2時間）
事後	実践した検査の実施手続き、結果の処理、解釈について十分復習しておくこと。（2時間）

12	医療における心理的アセスメントの実践：精神科領域、高齢者領域、小児科・児童精神科領域

事前	医療分野における心理的アセスメントの役割ついて予め調べた上で、授業に臨むこと。(2時間)
事後	医療各分野における心理的アセスメントの違い特徴について十分復習しておくこと。(2時間)

13	教育領域、福祉領域における心理アセスメント実践
事前	教育、福祉分野における心理的アセスメントの意義について予め調べた上で、授業に臨むこと。(2時間)
事後	教育、福祉分野における心理的アセスメントの実際について事例を想定しつつ復習しておくこと。(2時間)

14	司法領域における心理的アセスメント実践
事前	司法・犯罪分野における心理的アセスメントの意義について予め調べた上で、授業に臨むこと。(2時間)
事後	司法・犯罪分野における心理的アセスメントの実際について事例を想定しつつ復習しておくこと。(2時間)

15	産業領域における心理的アセスメントの実践
事前	産業・労働分野における心理的アセスメントの意義について予め調べた上で、授業に臨むこと。(2時間)
事後	産業・労働分野における心理的アセスメントの実際について事例を想定しつつ復習しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)21:29

科 目 名	臨床心理学研究法 [科]			授業コード	5080082
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	教員名は後日発表				

科目に関する キーワード	臨床心理学研究　臨床的記述研究　アセスメント技法研究　一事例研究　メタ分析　研究倫理

到達目標	・臨床心理学研究の理念と方法について説明できる。 ・臨床記述研究（質的研究、事例研究、精神病理学的研究、生態学的研究）について概説できる。 ・心理臨床活動の評価研究について説明できる。・臨床心理学研究における倫理性について説明できる。			
授業の概要	臨床心理学では、心理的治療やケアと研究が表裏一体となり発展していく。このような性格から臨床心理学研究はフィールドでの研究実施が主となり、様々な制約から厳密な実験計画適用の限界も生じる。こうした諸条件を踏まえつつ可能な限り統制された研究を行うための知識と手法について学んでいく。また、実験室研究以上に倫理性についての感受性を高める必要もあるため、フィールド研究における研究者の倫理性について詳細な解説も行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	リポート	毎回実施するリアクションペーパー（60%）、総合的理解を確認するために行う課題リポート（40%）を合わせて評価する。		
フィードバック	リアクションペーパーに書かれた質問、疑問に対して次の授業で回答、解説する。			
履修に際しての 注意事項	心理臨床活動にとって研究法は必須の知識となる。関心をもって臨んでほしい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	使用しない。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講座心理学2 臨床心理学研究 下山晴彦・丹野義彦(編) 東京大学出版会 その他、授業内で適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	臨床心理学研究の多様性と可能性
事前	臨床心理学概論で用いた配布資料、ノートを読み、臨床心理学の概要を復習しておくこと。(2時間)
事後	臨床心理学の研究手続きの概要を復習し次回に臨むこと。(2時間)

2	臨床心理学の実証的方法
事前	キーワードとなる、エビデンス・ベイストについて調べ授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	臨床心理学研究の基本となる実証研究のあり方についてしっかりと復習すること。(2.5時間)

3	臨床的記述研究(1):質的研究
事前	臨床現場で重要となる質的研究の意義について予め調べて授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	質的研究の手続きについてしっかり復習すること。(2.5時間)

4	臨床的記述研究(2):事例研究
事前	事例研究の意義について予め調べ授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	臨床医現場で重要である事例研究の手続きについてしっかり復習すること。(2.5時間)

5	臨床的記述研究(3):精神病理学研究
事前	DSM-5、ICD－10をキーワードに検索し、精神疾患の分類、症状概要について復習しておくこと。(2時間)
事後	精神疾患とその病態の捉え方について知識を整理しておくこと。(2時間)

6	臨床的記述研究(4):生態学的研究
事前	クライアント理解の理論的基礎となる「生物心理社会モデル」の考え方を復習しておくこと。(1.5時間)
事後	生態学的研究の意義について復習しておくこと。(2.5時間)

7	アセスメント技法研究(1):投影法
事前	投影法について復習し、授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	投影法を用いた臨床研究について、事例を参照しつつ復習しておくこと。(2.5時間)

8	アセスメント技法研究:質問紙法
事前	質問紙法について復習し、授業に望むこと。(1.5時間)
事後	質問紙法を用いた研究において、事例研究と集団研究の手続きの違いを確認して復習すること。(2.5時間)

9	効果研究とプログラム評価研究
事前	今回の授業に関連する、2・3・4回で学んだ授業内容について復習し、授業に望むこと。(2時間)
事後	今回学んだ研究手続きについて復習しておくこと。(2時間)

10	一事例実験とメタ分析
事前	臨床現場では一事例に真摯に向き合うことが求められる。その手続き、メタ分析について予め調べて授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	一事例に実験的に関わることの意義についてしっかり復習しておくこと。(2.5時間)

11	調査研究
事前	調査研究の進め方ついて予め調べ、授業に臨むこと。(1.5時間)
事後	調査研究の方法、手続きについて復習しておくこと。(2.5時間)

12	実験的研究
事前	臨床心理学における実験的研究の意義について、10回目の授業内容も振り返りながら考えておくこと。(1.5時間)
事後	臨床心理学研究における実験的手続きの意義について復習しておくこと。(2.5時間)

13	生理的研究
事前	臨床心理学研究における生理的研究の意義について予め調べ、授業に臨むこと。(2時間)

事後	臨床心理学研究において生理指標を用いた研究の意義について復習しておくこと。(2時間)

14	神経心理学的研究
事前	神経心理学的症状について概観しておくこと。(2時間)
事後	神経心理学的症状分類とその基となった神経心理学研究の方法論を復習すること。(2時間)

15	臨床心理学研究における倫理
事前	日本心理学会のHPにアクセスし、心理学研究倫理について概観しておくこと。(1.5時間)
事後	守秘義務を含め臨床心理学研究を巡る倫理性についてしっかり復習すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)22:25

科 目 名	ゼミナールII/専門演習II [社]			授業コード	5080110
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	教員名は後日発表				

科目に関する キーワード	卒業論文　臨床研究　研究手続き

到達目標	対人援助を行っていくうえで、その成果を客観的に自覚するためにも、臨床研究の方法を身につけておくことは重要である。具体的には以下に示す臨床研究の基礎能力の獲得を目指す。 ・問題意識を研究テーマとして設定できる。 ・研究計画（研究手続き）が立案できる。 ・スケジュールに沿って研究を進行できる。 ・データの統計的分析ができる。 ・文献やデータに基づいた論文が書ける。 ・わかりやすいプレゼンテーションができる。			
授業の概要	福祉・リハビリテーション・臨床心理学に関連する領域でテーマを設定し、卒業論文を執筆する。 前期の前半は、具体的研究法について学び、前期の後半および後期は、卒業論文に関わる文献の発表と卒業論文の中間発表を行い、学期末にゼミ内発表会、卒業論文発表会を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	それぞれの関心、テーマに合わせて、履修者全員によるディスカッション、プレゼンテーションを行なう。
評価方法 及び評価基準	リポート・論文	卒業論文の進度とレベル70%、発表内容30%、で評価する。 全出席を必須とする。		
フィードバック	論文完成に向けて続きを進めて行くなかで生じた疑問、迷いに対して適宜、個別に対応する。			
履修に際しての 注意事項	欠席をしないこと。他のゼミ生たちの研究テーマにも積極的に関心を持つこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II						○	
III							
IV							

V					○		

テキスト1	適宜指示する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

授業計画	【春期】 1. オリエンテーション 2. 文献検索の方法 3. 研究手続きと方法 4. 統計学的分析法の理解 5～15. 卒業論文に関わる先行研究の発表 【秋期】 1～12. 卒業論文の中間発表 13～14. 卒業論文ゼミ内発表 15. 卒業論文発表会
事前	自ら研究テーマを絞り込み、決定するという目標を明確にもち、取り組むことが求められる。日頃から積極的に問題意識を持って自己の知的関心を広げる努力をすること。(1時間)
事後	論文完成に向けて継続して行く中で、現状の整理を行い次の段階へと進展させて行く努力が求められる。そのためにはステップごとの振り返りが必要となる。(1時間)

2020/07/16(木)11:18

科 目 名	基礎演習 [科]			授業コード	5090010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己、筒井 順子、五島 史子				

科目に関する キーワード	スタディ・スキル、心理学で共生を考える

到達目標	・大学の授業に必要なスキルを身に付ける。 ・大学生活を主体的に過ごすことができるような態度を身に付ける。 ・研究倫理、フィールドワークの方法を説明できる。 ・人間科学部の共通テーマである人間共生を、初歩的な心理学的視点で考察することができる。 ・グループ学習の課題について適切なプレゼンテーションを実施できる。			
授業の概要	本講座は、高校から大学への移行、ならびに専門教育への橋渡しが円滑に行われるための初年次教育として位置づけられています。高校までの授業は受け身の勉強が中心ですが、大学の授業は主体的な学習が中心となります。そして、大学で専門知識を高く積み上げていくためには、何よりも基礎固めが肝心です。この講座を通して主体的な学習習慣を身につけ、しっかりとした土台を築いてください。なお授業は、ねらいに則した内容を、講義形式で行う講座（合同実施）と、演習形式で行う講座（個別実施）で構成されています。特に、ねらいの1～5の下位項目はこの1年の達成目標として常に意識して行動してください			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	小グループでのディスカッション、プレゼンテーションの実施、フィールドワークの実施、外部機関への見学学習
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（80%）、グループディスカッションでの発言等授業態度（20%）で評価する。		
フィードバック	授業中のグループワークや簡潔な課題についてはその場、もしくは後の回の授業でおこなう。レポート課題についてはコメントをつけて返却、あるいは、でんでんばん上にておこなう			
履修に際しての 注意事項	大学生としての自覚をもって授業の臨むこと。 レポートについては、コメントを付けてフィードバックする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、自己紹介
事前	本シラバスをよく読み、授業の全体像を理解しておこう（30分以上）
事後	オリエンテーションの内容を振り返り、不明な点は書き出して次回の授業で確認しよう（30分以上）

2	論文検索Ｉ図書館での検索
事前	本学図書館のホームページとキャンパスガイドの図書館に関するページから、図書館利用について調べておこう（30分以上）
事後	図書館利用における注意点を整理しておこう（30分以上）

3	論文検索2インターネットでの検索
事前	インターネットで情報を得る場合の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	インターネットで論文を調べる方法と、調べた論文の引用方法についてまとめておこう（30分以上）

4	論文検索3資料の整理
事前	授業等で用いた資料の整理について、自分がどのようにおこなってきたか考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された整理方法をまとめておこう（30分以上）

5	ノート・テイキングの技術
事前	自分のノートの取り方について特徴（良い点、悪い点を含む）をまとめておこう（30分以上）
事後	授業で示されたノート・テイクの方法をまとめておこう（30分以上）

6	レポートの書き方
事前	授業で出されるレポートの作成について気をつける点を調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示されたレポートの書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

7	小論文の書き方
事前	感想文、レポート、小論文の違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された小論文の書き方についてポイントをまとめておこう（30分以上）

8	引用の方法
事前	文献を引用することと参考にすることとの違いについて考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された引用の方法についてまとめておこう（30分以上）

9	コミュニケーション能力1伝わる話し方
事前	聴き手に話を正しく伝えるために必要なことはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された話し方のポイントをまとめておこう（30分以上）

10	コミュニケーション能力2傾聴
事前	相手の話を正しく理解するために、聴き手としてどのようなことに注意したらよいか、考えてみよう（30分以上）
事後	授業で示された聴き方のポイントをまとめておこう（30分以上）

11	アルバイトから労働を考える
事前	大学生としてアルバイトする場合に気をつけることはなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	アルバイトで学べることについて様々な視点からまとめておこう（30分以上）

12	人権侵害とは何か（SNSで人を傷つけるとは）
事前	SNSで人を傷つける行為にはどのようなものがあるか、考えてみよう（30分以上）
事後	人権侵害とはどのようなことか、まとめておこう（30分以上）

13	時間管理学（主体的に生きるための方法）
事前	自分の時間管理能力について長所、短所をまとめておこう（30分以上）
事後	時間管理に必要な能力や方法についてまとめておこう（30分以上）

14	研究方法（様々な研究方法を知る）
事前	研究とはなにか、なぜ研究が必要なのか、調べてみよう（30分以上）
事後	授業で示された研究方法について特徴をまとめておこう（30分以上）

15	まとめ
事前	ここまでを振り返り、自分のスタディ・スキルについて評価しておこう（30分以上）
事後	後期のフィールドワークに備え、ボランティア活動の準備を進めよう（30分以上）

16	現場から課題を見出す-フィールドワークと倫理的配慮-
事前	フィールドワークとはなにか、調べておこう（30分以上）
事後	フィールドワークをおこなう場合の倫理的配慮についてまとめておこう（30分以上）

17	フィールドワークの方法と共生に関する課題の発見
事前	ボランティア先において、人々の共生と関連する出来事はなにか、考えてみよう（30分以上）
事後	フィールドワークで用いる方法についてまとめておこう（30分以上）

18	フィールドワークと心理学的考え方を結びつける
事前	ボランティア先の出来事でこれまでに学んだ心理学的知識や理論と関係づけれられるものを書き出してみよう（30分以上）
事後	関連づけられる心理学的知識や理論について詳しく調べておこう（30分以上）

19	フィールドワークの対象と適用可能な心理学的知識や理論をまとめる
事前	フィールドワークの出来事（対象）を具体的に絞り込んでおこう（30分以上）
事後	フィールドワークの出来事（対象）について説明出来る体系的な心理学的知識や理論を構成しよう（30分以上）

20	グループ研究の進め方
事前	グループで発表内容をまとめる際の注意点について考えてみよう（30分以上）
事後	授業でのグループ分けに従い、発表に向けたスケジュールを立てよう（30分以上）

21	テーマを決めてグループ研究
事前	グループで共通テーマを決めておこう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けたスケジュールを決めよう（30分以上）

22	フィールドワークの準備
事前	フィールドワークに必要な資料、道具等準備を進めよう（30分以上）
事後	フィールドワークに向けた最終チェックをしておこう（30分以上）

23	フィールドワークに出かける1
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

24	フィールドワークに出かける2
事前	日程や行程をグループで確認し、緊急連絡等の対応もしておこう（30分以上）
事後	発表テーマに合わせたフィールドワークの記録を作成しよう（30分以上）

25	収集資料の整理、分析
事前	グループで分析可能な記録のまとめをしておこう（30分以上）
事後	記録の分析にしたがい、必要な資料等をまとめておこう（30分以上）

26	プレゼンテーションの進め方
事前	研究発表のプレゼンテーション方法について調べておこう（30分以上）
事後	授業で示された進め方にしたがい、グループ発表の段取りをつけよう（30分以上）

27	パワーポイントの作り方
事前	PCルーム等でパワーポイントの基本的操作方法について確認しておこう（30分以上）
事後	グループで発表用スライドを作成しよう（30分以上）

28	グループ研究の発表1
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

29	グループ研究の発表2
事前	発表時間の確認など、予行演習をしておこう（30分以上）
事後	発表後の質疑応答も踏まえてグループで発表の振り返りをしておこう（30分以上）

30	まとめ
事前	フィールドワークの設定からグループ発表までの流れを振り返っておこう（30分以上）
事後	共生と心理学の関連付けについて、この演習で得られたことをまとめておこう（30分以上）

2020/07/16(木)11:09

科 目 名	心理学概論 [科]			授業コード	5090021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	知識と理論、パースペクティブ、個人と環境

到達目標	・現代心理学の成り立ち（歴史、経緯、構成、近接諸科学との関係など）についての概要を理解し説明出来る ・人の心の基本的な仕組みと働きについて理解し説明出来る ・現代心理学における、諸科学との統合も含めた新たな展開について理解し説明出来る			
授業の概要	心理学を本格的に学ぶ第一歩として、心理学が扱う各領域における主要な理論と研究手法を概観する。具体的には人の心の基本的な仕組みと働きを、個人、集団や様々な環境、文化、社会などの枠組みも通して、また、現代科学としての心理学の成り立ちと発展に至る経緯も踏まえつつ理解出来るようにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験70%、課題など授業への取組状況30%で総合的に判断する。		
フィードバック	授業中のリアクション・ペーパーや簡単な課題へのフィードバックは後の回の授業でおこなう。試験に対するフィードバックはでんでんばんを通しておこなう。			
履修に際しての 注意事項	授業中の私語など他受講者への迷惑となる行為をおこなわないこと。注意しても繰り返される場合は退出を求めることがあるので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	繁桝算男（編），公認心理師の基礎と実践2「心理学概論」，遠見書房，2018年	9784866160528
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修における注意点を説明
事前	本シラバスをよく確認し、到達目標やDCU基礎力と「卒業時に身につく資質・能力」との関わりについて確認しておくこう（2時間以上）
事後	授業計画と使用テキストの内容について、対応関係を確認しておこう（2時間以上）

2	心理学とは：心理学と関連諸科学
事前	テキストP11～P24をよく読んで、心理学を成り立たせた隣接科学についてまとめておこう（2時間以上）
事後	「関連諸科学に対して、なぜ心理学が独立した学問大系になり得たか」について考えをまとめておこう（2時間以上）

3	心理学の歴史1：ヴント以前の心理学、科学的心理学の成立と展開
事前	テキストP11～P14とP42～P45をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	心理学においてなにが「科学的」なのか、考えてみよう（2時間以上）

4	心理学の歴史2：計算機科学と脳科学の影響
事前	テキストP19～P25とP27～P40をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	計算機と脳の違いはなにか、考えてみよう（2時間以上）

5	心理学の諸分野1：生物学的、系統発生的基盤　生理、神経、比較（動物）
事前	配布資料を読んで、要点をまとめておこう（2時間以上）
事後	人とサルの心理機能の違いはなにか、考えてみよう（2時間以上）

6	心理学の諸分野2：個体発生的基盤　学習、発達、感情（情動）
事前	テキストP56～P68、P108～P118をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	人が成長する中で、学習や感情はどのように発達するか、考えてみよう。（2時間以上）

7	心理学の諸分野3：認知的基盤　感覚、知覚、認知
事前	テキストP45～P52をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	各感覚器官と外界の認知はどのように関係づけることができるか、考えてみよう（2時間以上）

8	心理学の諸分野4：言語的基盤　言語、思考
事前	テキストP89～P107をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	ヒトの言葉の発達と思考はどのように関係しているか、考えてみよう（2時間以上）

9	心理学の諸分野5：社会的基盤　集団、社会、家族
事前	テキストP161～P176をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	ヒトはなぜ集団（社会）でまとまって生活するのか、心理学の立場から考えてみよう（2時間以上）

10	心理学の諸分野6：制度的基盤　教育、学校、司法、犯罪
事前	テキストP177～P188をよく読んでまとめておこう（2時間以上）
事後	学校や教育現場が影響する非行の問題を、心理学の点から考えてみよう（2時間以上）

11	心理学の諸分野7：文化的基盤　産業、組織、文化
事前	文化により異なるヒトの行動や考え方、感じ方についていくつか例をあげてみよう（2時間以上）
事後	職場で生じる心の問題について、職場環境の影響としてどのようなことがあげられるか、考えてみよう（2時間以上）

12	心理学の諸分野8：適応的基盤　健康、医療、福祉、障がい
事前	障がいを抱えて生きる人々にはどのような悩みが生じるか、いくつか具体的に考えてみよう（2時間以上）
事後	医療や福祉の現場で心理専門職は何をしているか、考えてみよう（2時間以上）

13	心理学の諸分野9：個人的基盤　臨床、パーソナリティ

事前	心理的困難を抱えやすいヒトの特徴にはどのようなものがあるか、考えてみよう（2時間以上）
事後	心を健康に保つ、とは具体的にどのような状態であるか、考えてみよう（2時間以上）

14	心理学の新しい展開1：諸科学統合としての心理学、フロンティアを志向する心理学
事前	ヒトの心を研究することにより今後どのような技術や生活スタイルが生まれるか、考えてみよう（2時間以上）
事後	授業で聴いた内容から、心理学を応用した新しいビジネスを考えてみよう（2時間以上）

15	心理学の新しい展開2：人間の共生に寄与する心理学とは
事前	様々なヒトが共生するうえで生じる心の問題にはどのようなものがあるか、考えてみよう（2時間以上）
事後	この授業で学んだ心理学の知識や理論からヒトの共生に役立つものを選んでみよう。どのようなところが役立つかについても具体的に考えてみよう（2時間以上）

2020/07/16(木)11:01

科 目 名	社会・集団・家族心理学 [科]			授業コード	5090032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	社会的認知、社会・集団・家族における態度と行動、時代や文化的影響

到達目標	・対人関係や集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解し説明出来る ・人の態度及び行動について心理学的に理解し説明出来る ・家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について心理学的に理解し説明出来る			
授業の概要	対人関係や集団内における人の意識や行動が、どのような心の働きによりいかなる過程を経ていくのかについて心理学的に学んでいく。また、集団や社会、家族における人の態度や行動の形成と変容の心理学的機序と、集団や家族、文化が個人に及ぼす心理学的影響についても学ぶ。加えて、多様な人々が共生していく上での心理学的課題についても考察を深めていく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験60%、授業中での課題等への取組40%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業中のリアクションペーパーや小課題はその場、もしくは後の授業でおこなう。試験のフィードバックはでんでんばんを用いておこなう			
履修に際しての 注意事項	私語など他学生の迷惑になる行為をしないこと。繰り返す場合は退出を求めることがあるので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III		○					
IV							

V							

テキスト1	繁桝算男（編），公認心理師の基礎と実践11「社会・集団・家族心理学」，遠見書房，2018年	9784866160610
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	授業のシラバスをよく読み、授業全体の流れや到達目標を理解しておこう。テキスト第1章を読んでおこう（2時間以上）
事後	シラバスの各授業回とテキストとの対応関係を確認しておこう（2時間以上）

2	社会的認知
事前	テキスト第2章を読んでおこう（2時間以上）
事後	対人認知の促進要因と阻害要因をまとめておこう（2時間以上）

3	社会的自己
事前	テキスト第3章を読んでおこう（2時間以上）
事後	他者の存在による行動の変化についてまとめておこう（2時間以上）

4	対人関係と対人行動1：対人魅力　社会的交換
事前	テキスト第10章を読んでおこう（2時間以上）
事後	対人魅力に影響する要因をまとめておこう（2時間以上）

5	対人関係と対人行動2：協力と競争　援助行動と攻撃行動
事前	テキスト第5章を読んでおこう（2時間以上）
事後	向社会的行動、反社会的行動に影響する要因をまとめておこう（2時間以上）

6	コミュニケーション1：言語コミュニケーション　アサーションと傾聴理解
事前	自己をアピールする際に重要なこととはなにか、書き出してみよう（2時間以上）
事後	言葉によるコミュニケーションの長所と短所をまとめておこう（2時間以上）

7	コミュニケーション2：非言語コミュニケーション　コミュニケーション・ネットワーク
事前	テキスト第6章を読んでおこう（2時間以上）
事後	コミュニケーションを高める要因、低める要因についてまとめておこう（2時間以上）

8	集団・組織
事前	テキスト第8章を読んでおこう（2時間以上）
事後	集団を形成するプロセスにおいて必要な要因をまとめておこう（2時間以上）

9	態度の機能と構造
事前	テキスト第4章を読んでおこう（2時間以上）
事後	集団における態度変容についてまとめておこう（2時間以上）

10	説得による態度と行動の変化
事前	テキスト第7章を読んでおこう（2時間以上）
事後	説得の促進要因と妨害要因についてまとめておこう（2時間以上）

11	家族の機能
事前	テキスト第11章Ⅰ、Ⅱを読んでおこう（2時間以上）
事後	家族の機能について、時代的変化も含めてまとめておこう（2時間以上）

12	家族内関係
事前	テキスト第11章Ⅲ、Ⅳを読んでおこう（2時間以上）
事後	児童虐待やDVの発生における心理的特徴をまとめておこう（2時間以上）

13	集団・組織の影響
事前	集団の雰囲気について、自分の身近な集団を思い出していくつか書き出してみよう（2時間以上）

事後	組織や集団から個人が受ける影響についてまとめておこう（2時間以上）

14	文化の影響
事前	テキスト第13章を読んでおこう（2時間以上）
事後	文化の違いが人間行動に及ぼす影響について代表的なものをまとめておこう（2時間以上）

15	全体のまとめ　人間の共生と社会・集団・家族における心理学的特徴との関係
事前	テキストでアンダーラインを引いた部分について読み直しをしておこう（2時間以上）
事後	授業で伝えられたポイントをまとめておこう（2時間以上）

2020/07/16(木)20:29

科 目 名	人間共生マインド実践講座 [科]			授業コード	5090040
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己、伊東 秀幸、伊東 正裕、長岡 智寿子、筒井 順子、五島 史子、櫻井 優太、新井 彩加				

科目に関するキーワード	人間の共生、課題発見、グループワーク ボランティア体験
到達目標	座学、見学、グループワーク等により「人間共生マインド」を醸成する。 到達目標は、以下の通りである。 ・多様な障害、文化、宗教等を理解し、説明することができる。 ・社会には様々な格差、差別、偏見があることを説明できる。 ・コミュニケーションを取り協力して活動ができるようになる。 ・ボランティア活動など地域貢献活動に主体的に参加できる。
授業の概要	建学の精神「捨我精進」の理念に基づき、多様な立場にある人々が安心で安全な共生を志向し、その実現に心理や生涯学習の知識と技法で専心、貢献出来る「人間共生マインド」を有する人材となる第一歩として、この授業では多様な人々が共に地域生活を営む上で生じる諸問題を学生自らが見出し、掘り下げ、解決策を検討していく。単に座学だけでなく、こうした諸問題の解決に取り組んでいる機関等への見学や協力も行っていく。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	ディスカッション、施設等見学、グループワーク、プレゼンテーション
評価方法及び評価基準	レポート	レポート（80%）及びグループワークでの発言等授業態度（20%）によって評価する。		
フィードバック	授業中のグループワークや簡潔な課題についてはその場、もしくは後の回の授業でおこなう。レポート課題についてはコメントをつけて返却、あるいは、でんでんばん上にておこなう			
履修に際しての注意事項	授業に障害当事者による体験談等があるので、真摯な態度で受講すること 学外の見学では、大学生としてふさわしい行動等を心掛けること 入学前課題を活用するので必ず実施し持ってくること 提出されたレポートについては、コメントを付けてフィードバックする 夏休み中、ボランティア活動をすることが望ましい			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							○

V	○						

テキスト1	テキストは用いない。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業の構成）
事前	履修要項とシラバスをよく読み、この授業全体の流れと履修上の位置付けを理解しよう（30分以上）
事後	オリエンテーションで示された要点をまとめておこう（30分以上）

2	大学での学び～なぜ学ぶのか～
事前	あなたが大学で学ぶ理由について、様々な視点から考えてみよう（30分以上）
事後	授業から、自分の学びの理由に不足している点をまとめてみよう（30分以上）

3	共生社会の実現にむけて
事前	共生社会とはどのような社会であるか？　現代社会は共生社会と言えるか考えてみよう（30分以上）
事後	共生社会実現に向けた課題をまとめてみよう（30分以上）

4	建学の精神
事前	大学HPなどを参考に本学の建学の精神を調べておこう（30分以上）
事後	共生と建学の精神との関係について考えてみよう（30分以上）

5	障害とは何か
事前	身体障害と精神障害についてまとめてみよう。入学前課題の1番と2番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	身体障害にも精神障害にも共通する「障害」とは何なのか、考えてみよう（30分以上）

6	障害当事者が語る（身体障害）
事前	身体障害を抱えて生きる人々の心理的困難にはどのようなものがあるか、考えてみよう（30分以上）
事後	身体障害を有する当事者の話を聴いて感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

7	障害当事者が語る（精神障害）
事前	精神障害を抱えて生きる人々の心理的困難にはどのようなものがあるか、考えてみよう（30分以上）
事後	精神障害を有する当事者の話を聴いて感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

8	LGBTとは 青年期の性に関する諸問題
事前	LGBTについて調べてまとめてみよう。入学前課題の3番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	LGBTとそうでない人々が共生するうえでの課題にはどのようなものがあるか、まとめてみよう（30分以上）

9	当事者が語るLGBT
事前	LGBTへの支援としてどのようなことがおこなわれているか、調べてみよう（30分以上）
事後	LGBT当事者の話を聴いて感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

10	高齢社会における格差
事前	日本の高齢社会の特徴を考えてみよう。入学前課題の5番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	高齢社会における格差にはどのようなものがあったか、まとめてみよう（30分以上）

11	貧困と差別
事前	日本の貧困についてまとめてみよう。入学前課題の4番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	貧困が差別につながる心理的要因について考えてみよう（30分以上）

12	疾病と差別
事前	疾病が差別につながった歴史的出来事を2つ調べてそれぞれまとめてみよう（30分以上）
事後	疾病が差別につながる心理的要因について考えてみよう（30分以上）

13	福祉施設への見学
事前	見学先がどのような施設であるか、ホームページ等を見てしらべておこう（30分以上）

事後	施設の様子や施設職員の話を参考に、施設利用者と私達の共生についての課題を考えてみよう（30分以上）

14	福祉施設への見学
事前	見学先がどのような施設であるか、ホームページ等を見てしらべておこう（30分以上）
事後	施設の様子や施設職員の話を参考に、施設利用者と私達の共生についての課題を考えてみよう（30分以上）

15	ボランティア活動について
事前	ボランティア活動の長所、短所についてまとめてみよう（30分以上）
事後	今後、ボランティア活動を「人間共生マインド実践講座」と「基礎演習」でどのように扱っていくか、授業で説明された内容をまとめておこう（30分以上）

16	多文化を理解する（アジアの文化）
事前	アジアの文化的特徴を調べてみよう。入学前課題の6番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	アジアの文化的特徴を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

17	多文化を理解する（ヨーロッパの文化）
事前	ヨーロッパの文化的特徴を調べてみよう。入学前課題の7番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	ヨーロッパの文化的特徴を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

18	多文化を理解する（アメリカの文化）
事前	アメリカの文化的特徴を調べてみよう。入学前課題の8番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	アメリカの文化的特徴を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

19	多文化を理解する（アフリカの文化）
事前	アフリカの文化的特徴を調べてみよう。入学前課題の9番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	アフリカの文化的特徴を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

20	宗教を理解する（仏教）
事前	仏教の歴史についてまとめてみよう。入学前課題の10番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	仏教の考え方を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

21	宗教を理解する（キリスト教）
事前	キリスト教の歴史についてまとめてみよう。入学前課題の11番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	キリスト教の考え方を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

22	宗教を理解する（イスラム教）
事前	イスラム教の歴史についてまとめてみよう。入学前課題の12番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	イスラム教の考え方を学んで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

23	地域における格差
事前	日本の地域による違い（言葉、食べ物、習慣など）を5つ調べてみよう。入学前課題の13番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	地域により格差が生じる要因について様々な点から考えてみよう（30分以上）

24	若者の抱える格差
事前	あなたの考える、現代若者の格差は何ですか？　なるべく具体的に書いてみよう。入学前課題の14番をやった人はそれを再度見直してまとめてみよう（30分以上）
事後	格差によってどのような心理的反応が生じやすくなりますか、考えてみよう（30分以上）

25	相談機関への見学
事前	どのような相談や支援をおこなう機関であるか、ホームページ等を見てまとめてみよう（30分以上）
事後	相談機関の様子や職員の話などを参考に、相談機関が地域においてどのような役割を果たしているか考えてみよう（30分以上）

26	グループワーク（テーマを決める）
事前	各グループで役割分担をおこない、テーマ決めに必要な資料や情報を集めておこう（30分以上）
事後	テーマに基づき役割分担等の調整をおこない、授業外での打合せなど計画し実行してみよう（30分以上）

27	グループワーク（問題点の検討）
事前	各グループで役割分担をおこない、問題点の検討に必要な資料や情報を集めておこう（30分以上）

事後	問題点を詳細に検討する役割分担等の調整をおこない、授業外での打合せなど計画し実行してみよう（30分以上）

28	グループワーク（解決策の検討）
事前	各グループで役割分担をおこない、解決策の検討に必要な資料や情報を集めておこう（30分以上）
事後	解決策を詳細に検討する役割分担等の調整をおこない、授業外での打合せなど計画し実行してみよう（30分以上）

29	グループワークの発表
事前	設定された発表時間に合わせて予行演習をおこなってみよう（30分以上）
事後	発表時の質問や指摘をまとめ、発表内容と統合させてみよう（30分以上）

30	共生社会の実現にむけたこれからの学び
事前	これまでの授業を振り返り、共生社会の実現に向けた諸課題を確認しておこう（30分以上）
事後	課題解決に役立つアイデアや手法を可能な範囲で見出すとともに、ここまでの学びを発展させる見方にはどのようなものがあるか考えてみよう（30分以上）

2020/07/16(木)20:35

科 目 名	心理演習I [科]			授業コード	5090052
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	渡邉 由己、伊東 秀幸、伊東 正裕、筒井 順子				
公認心理師や臨床心理士として病院・行政機関・大学等での心理支援実践経験を有する教員が演習を担当する。					

科目に関するキーワード	公認心理師、心理支援の基本的知識と技法、ロール・プレイ
到達目標	「心理実習Ⅰ」で取り組む実習領域と関連した、心理に関する支援を要する者等に対して、 ・コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等、心理支援の基本的な知識及び技法を理解し、適切な適用についても説明することが出来る ・心理支援ニーズの把握及び支援計画を作成することが出来る ・チームアプローチ、多職種連携、地域連携を理解しその内容について説明することが出来る ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し説明することが出来る
授業の概要	「心理実習Ⅰ」で取り組む実習領域に関連した、シナリオを用いたロールプレイ形式の演習を以下の点からおこなう。①実習領域で支援を要する者へのコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援など、②支援を要する者の理解とニーズ把握、支援計画作成、③支援を要する者の現実生活を踏まえたチームアプローチのあり方、特に多職種連携や地域連携についてのシミュレーション、④実習領域における公認心理師としての職務倫理と法的義務の理解と適用。 なお、「心理実習Ⅰ」の事前指導も演習担当者が兼ねる。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	ロール・プレイ、ディスカッション、プレゼンテーション
評価方法及び評価基準	レポート	演習課題への取組50%、レポート課題30%、授業への参加状況20%で総合的に評価する		
フィードバック	授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」でおこなう。授業中のリアクション・ペーパー等への回答は実施回以降の授業でおこなう。			
履修に際しての注意事項	「心理実習Ⅰ」の事前指導を兼ねるため、なるべく欠席をしないこと			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III					○		
IV			○				

V			○				

テキスト1	特に使用しない、必要に応じて資料を配布する	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意、実習との関連を説明
事前	授業シラバスと、履修要項の実習や公認心理師資格取得に関する部分をよく読んでおこう（30分以上）
事後	オリエンテーションの内容をまとめておこう。特にこの演習と心理実習との関係について分からないことがないようにしておこう（30分以上）

2	「心理実習Ⅰ」における実習先の特徴と機能の理解
事前	「実習の手引」などにより心理実習Ⅰでの実習先を確認しておこう（30分以上）
事後	授業から、実習先の具体的な特徴や心理支援における機能についてまとめておこう（30分以上）

3	基本的コミュニケーション・スキルの必要性と内容
事前	心理支援に役立つコミュニケーション・スキルにはどのようなものがあるか、思いつくものをまとめてみよう（30分以上）
事後	授業で得られたコミュニケーション・スキルについて、心理支援になぜ必要なのかまとめておこう（30分以上）

4	基本的コミュニケーション・スキルの獲得：ロール・プレイを活用したトレーニング
事前	自分のコミュニケーション・スキルについて、良い点、悪い点も含めてまとめておこう（30分以上）
事後	授業でのトレーニングを通して感じた事、考えた事をまとめておこう（30分以上）

5	心理検査の必要性と基本的な実施法1：心理検査の実際
事前	代表的な心理検査と、それらが何を検査しているのかについてまとめておこう（30分以上）
事後	授業から、心理検査を実施するうえでのポイントをまとめておこう（30分以上）

6	心理検査の必要性と基本的な実施法2：心理検査の分析、事後の取り扱いと報告書作成
事前	心理検査の結果を取り扱う場合にどのようなことに注意すべきか、思いつくことをまとめておこう（30分以上）
事後	心理検査実施から報告書作成までの流れを、注意点を中心にまとめておこう（30分以上）

7	心理面接の基本的な実施法1：心理面接の実際
事前	心理面接における代表的な技法についてまとめておこう（30分以上）
事後	授業から、心理面接の流れについてまとめておこう（30分以上）

8	心理面接の基本的な実施法2：心理面接のロール・プレイを活用したトレーニング
事前	授業で扱うロール・プレイ課題の内容についてよく理解しておこう（30分以上）
事後	ロール・プレイのトレーニングで感じた事、考えた事をまとめてみよう（30分以上）

9	地域支援としてのチーム・アプローチの実際
事前	心理支援が必要な地域の問題にはどのようなものがあり、どのような職種が支援に関わるか、まとめておこう（30分以上）
事後	チームで支援をおこなう場合の長所と短所についてまとめておこう（30分以上）

10	心理支援計画の作成1：心理に関する支援を要する者等の有するニーズ把握の手段と実施法
事前	心理支援計画を立てる場合にどのような情報が必要か、考えてみよう（30分以上）
事後	心理支援を必要とする人々のニーズ把握の方法についてまとめておこう（30分以上）

11	心理支援計画の作成2：心理に関する支援を要する者等への支援計画策定と計画書の作成
事前	支援計画書の書式や記述方法について調べておこう（30分以上）
事後	支援計画書作成までの流れについてまとめておこう（30分以上）

12	心理支援計画の作成3：心理に関する支援を要する者等へのフィードバックとインフォームドコンセント
事前	支援の対象者にフィードバックやインフォームドコンセントをおこなう際の注意点について、思いつくことをまとめておこう（30分以上）
事後	心理支援におけるフィードバックやインフォームドコンセントについてポイントをまとめておこう（30分以上）

13	心理支援計画の作成4：模擬事例を用いた支援計画の作成

事前	支援計画作成に必要な情報とはどんなものか、再度まとめておこう（30分以上）
事後	課題としておこなった支援計画書作成を振り返り、感じた事、考えた事をまとめておこう（30分以上）

14	チーム・アプローチ、多職種連携、地域連携における留意点：役割と機能、作法と心得、配慮
事前	チーム・アプローチによる支援をおこなう場合、メンバーはどんな事に配慮すべきか、考えてみよう（30分以上）
事後	心理専門職がチーム・アプローチのメンバーになる場合の課題についてまとめておこう（30分以上）

15	公認心理師としての職業倫理と法的義務
事前	公認心理師法を読んでおこう（30分以上）
事後	この演習の全体を振り返りまとめておこう（30分以上）

2020/07/16(木)22:38

科 目 名	心理実習I [科]			授業コード	5090063
副 題					
開講期	集中	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	渡邉 由己、伊東 秀幸、本多 潤子、温泉 美雪、伊東 正裕、筒井 順子、五島 史子、櫻井 優太、新井 彩加				
実習先施設・機関において臨床心理士もしくは公認心理師の資格を有し心理専門職として勤務する実習指導者から直接指導を受け実習を行う					

科目に関するキーワード	心理支援の現場体験、観察学習、専門性理解
到達目標	・実習先となる病院、施設、機関等における支援や処遇、業務の流れについて理解し説明出来る ・実習先となる病院、施設、機関等における、心理に関する支援を要する者等への具体的なチーム・アプローチ、多職種連携、地域支援について理解し説明出来る ・実習先となる病院、施設、機関等において公認心理師が遵守すべき職業倫理および法的義務について理解し説明出来る
授業の概要	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野から、この開講期に指定された施設、機関へ見学等の実習をおこない、実習指導者または教員による指導を受ける。

授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実地体験、実習日誌の作成、ディスカッション
評価方法及び評価基準	レポート	実習先病院、施設、機関等や実習先指導者による評価と実習担当教員による評価、および実習への取組(実習日誌への記載状況を含む)を含めて総合的に評価する		
フィードバック	実習日誌に対しては所定欄に直接記載する。その他実習先での事項については直接口頭にて、もしくはでんでんばんにておこなう			
履修に際しての注意事項	実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III		○					
IV		○					

V							

テキスト1	使用しない	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	・実習先指導者もしくは実習担当教員の指導により、配属された病院、施設、機関等において見学等による実習をおこなう ・実習の内容について必要に応じ実習先指導者もしくは実習担当教員による個別指導がおこなわれる ・実習中の基本的態度や心理アセスメント、心理支援に関する基本的技法については「心理演習Ⅰ」において事前指導をおこなうので、その際に十分身についている必要がある。また、「心理演習Ⅰ」において配布される「実習のてびき」を熟読し理解されていることが実習参加の条件となる ・実習では心理職の機能と役割、心理アセスメントの実際、心理支援活動の実際を現場で観察し理解することに加えて、支援におけるチーム・アプローチ、多職種連携や地域支援の実際、公認心理師の立場で遵守すべき職業倫理、法的義務についても観察等を通じて理解することが必要である ・実習中は必ず「実習日誌」への記載をおこなう。これに基づき実習先指導者もしくは実習担当教員による個別指導がおこなわれるので、適切かつ詳細に記録することが求められる
事前	その日の実習に必要な下調べ、知識や体験の整理と目標設定をおこなう(毎回30分以上)
事後	日々の実習中及び実習後におこなわれる実習先指導者もしくは実習担当教員によるフィードバックを受け、これらを踏まえて実習日誌を作成する(毎回30分以上)

2020/07/16(木)11:12

科 目 名	老年心理学 [社]			授業コード	5090071
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	加齢と心、高齢者のポジティヴ心理学的理解、高齢者ケアと心理支援
到達目標	・高齢者の心理社会的変化と特徴、生物・認知科学的変化と特徴、人格・行動科学的特徴について理解し説明できる。 ・上記を考慮した援助の方向性と、適切な関わり方について、ポジティブ心理学的発想も取り入れて理解し説明できる。 ・高齢者ケアの現代的な課題と多職種による援助の実際を理解し説明できる。
授業の概要	この授業では、高齢者の心身の変化にともなう心理学的影響とその支援、および生涯発達心理学的観点から人生における高齢者の心理学的位置づけを、高齢者を取り巻く人々との関係も含めて学んでいく。高齢者の抱える様々な問題に感受性をもち、高齢者の立場を理解したうえで、高齢者と周囲の人々との共生を踏まえた適切な理解につなげることが求められる。高齢者のことを考える時、衰えや低下といったネガティブな側面にとらわれがちであるが、高齢者のもつポジティブな側面にも十分気を配り心理支援に活かすことを考慮しつつ授業をおこなう。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題や討論への取り組み（20%）で評価する。なお、試験の得点分布によっては評価比率の調整をおこなうことがある。
フィードバック	授業中のリアクションペーパーや小課題についてはその場、もしくは後の授業回でおこなう。試験のフィードバックなどはでんでんばんを通じておこなう。
履修に際しての 注意事項	他学生の受講を妨げる行為はしないこと。頻回の場合退室を求めることがある。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	佐藤眞一・権藤恭之（編）「よくわかる高齢者心理学」 ミネルヴァ書房 2016年	9784623076550
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	補足的・発展的な学習に役立つものを授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション 授業概要、授業のねらいと到達目標等の説明
事前	授業計画とテキストの内容について対応づけさせておこう（2時間以上）
事後	授業の到達目標をよく理解し、テキストとの対応関係をつけておこう（2時間以上）

2	高齢期の生物学・社会科学的変化と特徴
事前	テキストⅠ章、Ⅱ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	高齢期の生物学的、社会科学的変化について要点をまとめておこう（2時間以上）

3	高齢者の加齢にともなう変化1 社会学的理論
事前	テキストⅢ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	活動理論、離脱理論、継続性理論とプロダクティブエイジングについてまとめておこう（2時間以上）

4	高齢者の加齢にともなう変化2 心理学的理論
事前	テキストⅣ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	加齢を説明する心理学的理論の特徴についてまとめておこう（2時間以上）

5	高齢者の加齢にともなう変化3 認知情報処理理論
事前	テキストⅤ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	認知機能低下への加齢の影響についてまとめておこう（2時間以上）

6	高齢者の認知情報処理の特徴1 注意機能
事前	テキストⅥ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	注意機能と加齢の関連についてまとめておこう（2時間以上）

7	高齢者の認知情報処理の特徴2 記憶と学習
事前	テキストⅦ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	記憶の仕組みと、加齢が及ぼす影響についてまとめておこう（2時間以上）

8	高齢者の認知情報処理の特徴3 その他の高次情報処理機能
事前	テキストⅧ章、Ⅸ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	高齢者の知的能力についての新しい考え方についてまとめておこう（2時間以上）

9	高齢者の情動の特徴1 人格的側面
事前	テキストⅩ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	性格や人格と加齢の関連についてまとめておこう（2時間以上）

10	高齢者の情動の特徴2 感情と自己認知
事前	テキストⅩⅠ章、ⅩⅡ章を読んでおこう(2時間以上）
事後	高齢者の感情経験について特徴をまとめておこう（2時間以上）

11	老いの自覚、死と死別への態度
事前	テキストⅩⅤⅠ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	高齢者の死生観と、悲嘆からの回復プロセスについてまとめておこう（2時間以上）

12	高齢期の社会的活動
事前	テキストⅩⅢ章を読んでおこう（2時間以上）
事後	高齢者が社会的活動をおこなうことの心理学的効果についてまとめておこう（2時間以上）

13	高齢者の対人関係とコミュニケーション
事前	テキストⅩⅠⅤ章を読んでおこう（2時間以上）

事後	高齢者の対人関係についてその特徴と心理学的効果についてまとめておこう(2時間以上)

14	高齢者の社会的援助と介護
事前	テキストＸＶⅡ章を読んでおこう(2時間以上)
事後	介護をおこなう側と介護を受ける側の心理学的特徴についてまとめておこう(2時間以上)

15	高齢者を取り巻く現代的問題　全体のまとめ
事前	テキストＸＶⅢ章を読んでおこう(2時間以上)
事後	高齢者を取り巻く現代的課題に対して、高齢者の有するポジティブな側面をどのように活用できるか、考えてみよう(2時間以上)

2020/07/16(木)21:55

科 目 名	心理学研究法 [心子科]			授業コード	5090081
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	心理学的実証、定量化と定性化、探索と仮説検証、研究の倫理

到達目標	・心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について理解し説明出来る ・データを用いた実証的な思考方法について理解し説明出来る ・研究における倫理について理解し説明出来る			
授業の概要	心理学の代表的な研究手法として実験、観察、調査を取り上げ、実証的な研究の具体的な実施手法と過程を学ぶ。ここには数値データを用いた量的研究と、記述データなどの質的研究が含まれる。単にデータを取得するだけでなく先行研究に基づく演えき・帰納的思考を用いた結果としての探索的態度や仮説生成、批判的思考の導入やデータに依拠した実証的思考なども理解し活用出来ることを目的とする。また、研究における倫理についても具体例を用いて解説し、倫理的態度の形成をおこなう。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ワークシートを用いた個別もしくはグループワーク、ディスカッション
評価方法 及び評価基準	試験	定期試験60%、授業中の課題などへの取組40%で総合的に評価する		
フィードバック	授業中のリアクションペーパーや小課題はその場、もしくは後の授業でおこなう。試験のフィードバックはでんでんばんを用いておこなう			
履修に際しての 注意事項	私語など他学生への迷惑行為をしないこと。繰り返す場合は退出を求めることもあるので注意すること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II							
III							
IV			○				

V				○			

テキスト1	繁桝算男（編），公認心理師の基礎と実践4「心理学研究法」，遠見書房，2018年	9784866160542
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意について説明
事前	授業シラバスをよく読んでおこう。目に見えない「心」はどうやって捉えることが可能か考えておこう（2時間以上）
事後	毎回の授業とテキストとの対応箇所につおて確認しておこう（2時間以上）

2	科学と実証、実証の方法（実験的方法と観察的方法）
事前	テキスト第1章を読んでおこう（2時間以上）
事後	心を研究する方法の全体像をまとめておこう（2時間以上）

3	実証の手続き
事前	実証とは何か、自然科学と心理学の実証における共通点と相違点を考えてみよう（2時間以上）
事後	実証における手続き上の注意点についてまとめておこう（2時間以上）

4	実験的方法1：実験法
事前	テキスト第2章を読んでおこう（2時間以上）
事後	実験法における変数設定と実施上の注意点についてまとめておこう（2時間以上）

5	実験的方法2：実験法と準実験法
事前	テキスト第3章を読んでおこう（2時間以上）
事後	準実験における注意点についてまとめておこう（2時間以上）

6	観察的方法1：調査法
事前	テキスト第4章、第5章を読んでおこう（3時間以上）
事後	調査法の種類とそれぞれの注意点についてまとめておこう（1時間以上）

7	観察的方法2：検査法
事前	テキスト第10章を読んでおこう（2時間以上）
事後	検査法実施の注意点についてまとめておこう（2時間以上）

8	観察的方法3：観察法
事前	テキスト第6章、第7章を読んでおこう（3時間以上）
事後	観察法の種類と観察データの処理方法についてまとめておこう（1時間以上）

9	観察的方法4：面接法
事前	テキスト第8章、第9章を読んでおこう（3時間以上）
事後	面接法の種類と実施上の注意点についてまとめておこう（1時間以上）

10	相関関係から因果関係へ、定性的研究から定量的研究へ
事前	テキスト第11章を読んでおこう（2時間以上）
事後	研究場面と研究成果を活かす実践場面とのつながりについて、その課題も踏まえてまとめておこう（2時間以上）

11	データの統計的記述
事前	変数、尺度、代表値、相関について調べておこう（2時間以上）
事後	心を数量的に考えることのメリットとデメリットについて具体例をあげて考えてみよう（2時間以上）

12	複雑な心理事象のモデリング
事前	テキスト第12章を読んでおこう（2時間以上）
事後	仮説的心理モデルの生成とその検証についてまとめておこう（2時間以上）

13	人権尊重とインフォームドコンセント
事前	テキスト第13章を読んでおこう（2時間以上）

事後	古典的研究と人権尊重の関係を確認しておこう。研究におけるインフォームドコンセントの注意点をまとめておこう（2時間以上）

14	研究不正の禁止と予防
事前	テキスト第14章を読んでおこう（2時間以上）
事後	研究不正の内容を整理しておこう。研究不正とならないための予防的対策についてまとめておこう（2時間以上）

15	心理学研究を人間の共生促進に活かす
事前	人間の共生に関わる課題を取り上げ、心理学的研究に沿った変数設定、仮説的モデル生成をしてみよう（2時間以上）
事後	様々な心理学的知見を人間の共生にどう活用できるか、具体的に書き出してみよう（2時間以上）

2020/07/16(木)21:48

科 目 名	組織心理学/産業・組織心理学 [心子]			授業コード	5090112
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	組織と個人、キャリア発達、リーダーシップ、売り手と買い手の心理

到達目標	・組織活動に関連する心理学的知見について理解し説明できる ・組織を構成する個人と組織との相互作用性について理解し説明できる ・組織を構成する人々の心理的困難と支援のあり方について理解し説明できる ・売り手と買い手の間で生じる心理について理解し説明できる			
授業の概要	本講義では主に、職務活動に関連する組織についての心理学的知見を学んでいく。具体的には、職務キャリアに関するもの、人事評価に関するもの、職務活動におけるリーダーシップとフォロワーに関するもの、職務ストレスとサポートに関するもの、職場の人間関係に関するもの、組織の協力と葛藤、意志決定に関するものである。さらにこれらの知見を土台として組織を構成する人々の心理アセスメントと支援についても学ぶ			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、授業中の課題や討論への取り組み（20%）。ただし試験の評価分布によっては配点比率を調整することがある。		
フィードバック	授業中のリアクションペーパーや小課題はその場や後の授業でおこなう。試験のフィードバックはでんでんばんでおこなう。			
履修に際しての 注意事項	他学生の受講を妨げる行為については厳しく対処する。繰り返される場合は退室を求めることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V	○						

テキスト1	田中堅一郎（編） 2011 「産業・組織心理学エッセンシャルズ」（改定三版） ナカニシヤ出版	9784779505638
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	発展的学習として授業時適宜提示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講義オリエンテーション：職務組織とは
事前	授業シラバスをよく読んでおこう。仕事を組織的におこなう理由について考えてみよう（2時間以上）
事後	組織で仕事をするメリット、デメリットについてまとめておこう（2時間以上）

2	仕事への動機づけ
事前	テキスト第1章1～2を読んでおこう（2時間以上）
事後	動機づけの古典的考え方についてまとめておこう（2時間以上）

3	動機づけ理論と職務行動
事前	テキスト第1章3～5を読んでおこう（2時間以上）
事後	動機づけの内容理論と過程理論についてまとめておこう（2時間以上）

4	人事評価の理論と方法
事前	テキスト第2章、第3章を読んでおこう（2時間以上）
事後	人事評価のバイアスと人事測定手法についてまとめておこう（2時間以上）

5	職務キャリアの形成
事前	テキスト第8章を読んでおこう（2時間以上）
事後	キャリア形成の代表的な理論についてまとめておこう（2時間以上）

6	リーダーシップ理論1：古典的理論
事前	テキスト第5章1～3を読んでおこう（2時間以上）
事後	リーダーシップ行動の変遷についてまとめておこう（2時間以上）

7	リーダーシップ理論2：現代的な発想に基づく理論
事前	テキスト第5章4～6を読んでおこう（2時間以上）
事後	交流型リーダーシップと変革型リーダーシップについてまとめておこう（2時間以上）

8	職務ストレスと精神的健康
事前	テキスト第6章1～2を読んでおこう（2時間以上）
事後	職務ストレスの過程を説明出来るようにしておこう（2時間以上）

9	職務ストレスへのサポート
事前	テキスト第6章3を読んでおこう（2時間以上）
事後	組織におけるソーシャル・サポートについてまとめておこう（2時間以上）

10	職場の対人関係1：職務上の関係
事前	テキスト第4章1～2を読んでおこう（2時間以上）
事後	組織における問題解決についてまとめておこう（2時間以上）

11	職場の対人関係2：交友的関係と職場の雰囲気
事前	職場の雰囲気について、望ましいと思う状態を書き出しておこう（2時間以上）
事後	職場の雰囲気を良い状態に維持するために必要な条件をまとめておこう（2時間以上）

12	組織内協力と組織内葛藤
事前	テキスト第7章を読んでおこう（2時間以上）
事後	組織内での協力や葛藤の解消についてまとめておこう（2時間以上）

13	労働者の精神的健康に影響する諸要因
事前	職務活動において精神的健康を低下させる出来事、向上させる出来事についていくつか考えてみよう（2時間以上）

事後	労働者の精神的健康を維持する条件についてまとめておこう(2時間以上)

14	売り手と買い手の心理1:購買促進に関するもの
事前	テキスト第9章を読んでおこう(2時間以上)
事後	購買要請に関する技法と理論についてまとめておこう(2時間以上)

15	売り手と買い手の心理2:詐欺・悪徳商法、広告宣伝の効果
事前	不適切な販売活動や広告について具体例をいくつか書き出してみよう(2時間以上)
事後	詐欺・悪徳商法や不適切な宣伝に対する心理学的対策をまとめておこう(2時間以上)

2020/07/16(木)21:59

科 目 名	産業カウンセリング [心]			授業コード	5090132
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	渡邉 由己				

科目に関する キーワード	産業領域における心の問題、カウンセリング、心理支援のシステム

到達目標	・産業領域における臨床心理学的課題について理解し説明できる ・上記にもとづいて、この領域の心理臨床活動の必要性と役割について理解し説明できる。 ・産業領域における心理臨床活動の土台となる心理学的理論と関連分野の知識について理解し説明出来る。 ・産業領域における心理臨床的事例について、心理アセスメントから介入に至る科学的方法論に基づいた理解ができる。			
授業の概要	本講義では、産業界を中心とする職務領域で生じる様々な心理的、精神的問題と、その予防・解決を支援する臨床心理学的支援技法について、アセスメントから介入支援にいたる科学的方法論の立場から解説する。この領域では勤労者のメンタルヘルス対策支援、職場の人間関係開発、キャリア形成支援などが焦点となるが、近年うつ病等による一時的休職者の復職支援をおこなうリ・ワークも注目されてきたことを鑑み、産業領域でのカウンセリングとこれらの活動との関連性も含めて解説する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ワークシートを用いた個別及びグループワーク、ディスカッション
評価方法 及び評価基準	試験	試験（80%）、受講態度を含む授業への取り組み（20%）。ただし、試験の得点分布によっては配点比率を調整する可能性がある。		
フィードバック	授業中のリアクション・ペーパー小課題についてはその場、もしくはその後の授業でおこなう。試験の解説が必要な場合はでんでんばんによりおこなう。			
履修に際しての 注意事項	他学生の受講を妨げる行為には厳しく対応する。繰り返す場合は退出を求めることがある。 より深い理解のためには「組織心理学」の受講が役立つ。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II					○		
III							
IV							

V		○					

テキスト1	金井篤子(編) 心の専門家養成講座⑧「産業心理臨床実践 個(人)と職場・組織を支援する」 ナカニシヤ出版 2016年	9784779510649
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	発展的学習のために、授業中適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講義オリエンテーション、授業概要、授業のねらいと到達目標等の説明
事前	授業シラバスをよく確認しておこう。職場で生じる心の問題についてどのようなものがあるか調べておこう(2時間以上)
事後	授業の到達目標をよく理解しておこう。両親など身近な人々に仕事での悩み体験を聴いてみよう(2時間以上)

2	産業発達とメンタルヘルスの関係
事前	テキスト「第Ⅰ部 産業心理臨床とは」を読んでおこう(2時間以上)
事後	授業の内容とテキストとの対応を確認し要点をまとめておこう(2時間以上)

3	産業発達とメンタルヘルスの、近年の特徴と課題
事前	第二次大戦後の日本における産業構造の変化とそれに伴う心理的課題について調べておこう(2時間以上)
事後	授業の要点を整理しまとめておこう(2時間以上)

4	産業領域での心理臨床の基礎理論1 ストレスの心理学
事前	テキスト「第Ⅱ部2 ストレスの心理学」を読んでおこう(2時間以上)
事後	ストレッサー、認知的評価、ストレス反応、コーピングの意味と関係についてまとめておこう(2時間以上)

5	産業領域での心理臨床の基礎理論2 キャリアの心理学
事前	テキスト「第Ⅱ部 キャリアの心理学」を読んでおこう(2時間以上)
事後	代表的なキャリア理論とキャリア発達の課題についてまとめておこう(2時間以上)

6	産業領域での心理臨床の基礎理論3 グループ・ダイナミクス
事前	個人が集団から受ける圧力について、仕事との関連で具体例をいくつか考えてみよう(2時間以上)
事後	グループ・ダイナミクスが仕事にもたらす影響についてまとめておこう(2時間以上)

7	関連する知識1 労働法規と精神的健康
事前	テキスト「テキスト第Ⅱ部4 関連法規」を読んでおこう(2時間以上)
事後	関連法規により職場における心の問題がいかに解決されるか、まとめておこう(2時間以上)

8	関連する知識2 産業精神医学
事前	テキスト「第Ⅱ部5 産業精神保健」および「第Ⅱ部6 産業医学の基礎知識と新たな視点」を読んでおこう(2時間以上)
事後	職務現場において注意すべき精神疾患、障がい、心理学的症候についてまとめておこう(2時間以上)

9	産業心理臨床におけるアセスメント1 アセスメント面接
事前	心理アセスメントとはなにか、アセスメント面接とカウンセリングの違いについて調べておこう(2時間以上)
事後	アセスメント面接における注意点と面接の流れをまとめておこう(2時間以上)

10	産業心理臨床におけるアセスメント2 心理検査
事前	代表的な心理検査について調べておこう(2時間以上)
事後	職場において心理検査を実施する際の注意点についてまとめておこう(2時間以上)

11	産業心理臨床の実際例1 組織内キャリア形成
事前	テキスト「第Ⅲ部1 組織内キャリア発達を支援する」を読んでおこう(2時間以上)
事後	組織内キャリア発達を促進するカウンセリングの特徴と注意点をまとめておこう(2時間以上)

12	産業心理臨床の実際例2 神経症と精神障害
事前	テキスト「第Ⅲ部2 うつと自殺の予防」を読んでおこう(2時間以上)
事後	神経症や精神障害を抱えて仕事をする人々への支援について、注意点をまとめておこう(2時間以上)

13	産業心理臨床の実際例3 高次脳機能障害・発達障害
事前	高次脳機能障害や発達障害を有する人々が職場で感じる困難について調べておこう(2時間以上)

事後	高次脳機能障害や発達障害を有する人々の就労における心理支援についてまとめておこう（2時間以上）

14	復職支援と転職支援
事前	テキスト「第Ⅲ部3　職場復帰支援」を読んでおこう（2時間以上）
事後	職場復帰のプロセスと、転職における支援の注意点をまとめておこう（2時間以上）

15	各支援機関の機能と特徴　全体のまとめ
事前	テキスト「第Ⅲ部7　職場における連携」および「第Ⅲ部8　外部EAP活用のために」を読んでおこう（2時間以上）
事後	職務組織内外と連携する際の注意点や課題についてまとめておこう（2時間以上）

2020/07/16(木)11:24

科 目 名	子どもと言葉 [子]			授業コード	6010011
副 題	子どもとつくる「対話的な保育」の可能性。				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	青山 誠				
幼稚園教諭、保育士として保育現場での勤務、また保育園園長の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関する キーワード	子どもの声に耳を澄ます、対話的な保育、子どもを見る実践力、子どもを語る実践力、子どもへの肯定的な態度

到達目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえながら、領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深め、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現するための指導上の留意点や教材の活用方法を身につける。			
授業の概要	乳幼児が体験や経験に基づいて、感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、他者の話すことを理解していく言葉の発達や学びの過程について考察する。また、保育者に求められる援助や環境構成、教材研究等について、演習形式で学びを深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・少人数でのグループワーク、ディスカッションを実施した後、グループ発表を行う ・複数の問いに対してディベートを行う
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験（ 60%）コメントシート（20%)授業への取り組み（20%)として評価する。		
フィードバック	グループワークでのディスカッションの発表後に、各グループの良い点、改善点等を授業内でその都度フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	遅刻しないこと（グループ分けに支障が生じる） 対話がテーマの授業なので各自授業内での積極的な参加が必要であるとともに、対話者への開かれた肯定的な態度も必要とされる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V		○					

テキスト1	あなたも保育者になれる　青山誠（著）　小学館	4098401797
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもと言葉についての保育課題について
事前	教科書「あなたも保育者になれる」を通読し、実際の保育現場について自分なりに想像し、理解してみること。（30分）
事後	教科書「あなたも保育者になれる」のなかの、特に子ども同士のトラブルが記述されている箇所を読み、自分ならどうするかを考察してみること。（30分）

2	言葉の獲得、形成について―母子関係、自我と言語発達の関係―
事前	愛着形成という用語からなにを連想するかを書き留める（30分）
事後	愛着形成という用語について授業で得た知見をまとめる（30分）

3	乳幼児期の言葉の発達について(1) ―0～2才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に乳児期の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれが身体表現になり、いかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

4	乳幼児期の言葉の発達について(2) ―3～4才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に3～4才児の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれがいかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

5	乳幼児期の言葉の発達について(3) ―5～6才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に5～6才児の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれがいかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

6	言葉の発達を支援する「言葉かけ」について
事前	保育者の言葉がけとして不適切であろうと思う用語を書き留める（30分）
事後	保育者の言葉がけとして適切な言葉がけが言葉の発達にいかに影響するかを書き留める（30分）

7	言葉の発達と障害及びその支援について
事前	障害を持つ子どもの「言葉」と聞いてどのようなことを思いうかべるかを書き留める（30分）
事後	障害を持つ子どもの「言葉」について授業で得た知見をまとめる（30分）

8	児童文化財と言葉の発達について
事前	図書館、本屋等で実際の絵本を手に取り、数冊下読みしてみる（30分）
事後	童話と児童文学の違い、また絵本の歴史について授業で得た知見をまとめる（30分）

9	効果的な「対話的読み聞かせ」の工夫について
事前	自分が読み聞かせしてみたい絵本を選ぶ（30分）
事後	黙読したときと、読み聞かせしたときの違いについて感想をまとめる（30分）

10	対話的保育実践の試みについて(1)　言葉の前にある子どもとの非言語的な関わり
事前	言葉によらないコミュニケーションの方法、種類について書き留める（30分）
事後	実際の保育現場での非言語的な関わりについて授業で得た知見をまとめる（30分）

11	対話的保育実践の試みについて(2)　対話から始まる保育実践
事前	保育における行事の意味合いについて自分なりに考察してみること（30分）
事後	遊びを広げる子どもたちの対話において、保育者の関わりがどのような意味合いにおいて重要か、教科書の該当箇所を読み返し、考察すること（30分）

12	対話的保育実践の試みについて(3)　対話から広がる対話的な保育実践
事前	保育における行事の意味合いについて自分なりに考察してみる（30分）
事後	授業で得た知見をまとめるとともに、保育者のかかわりがどのような意味合いにおいて重要か教科書を読み返す（30分）

13	『保育所保育指針』の領域「言葉」の内容について
事前	幼稚園教育要領の該当箇所を読み込む（30分）
事後	授業で見た実際の保育実践を念頭に、あらためて保育所保育指針の該当箇所を読み込む（30分）

14	『幼稚園教育要領』の領域「言葉」の内容について
事前	幼稚園教育要領の該当箇所を読み込む（30分）
事後	授業で見た実際の保育実践を念頭に、あらためて保育所保育指針の該当箇所を読み込む（30分）

15	保育の現代的課題と気になる子どもたちへの支援について
事前	ニュース等から得られる情報をもとに何が「保育の現代的課題」となりうるか書き留める（30分）
事後	「保育の現代的課題」およびその解決について授業で議論したことをもとに、自分なりの知見をまとめる(30分）

2020/07/16(木)20:30

科 目 名	子どもと言葉 [子]			授業コード	6010021
副 題	子どもとつくる「対話的な保育」の可能性。				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	青山 誠				
幼稚園教諭、保育士として保育現場での勤務、また保育園園長の経験を有する教員が授業を行う。					

科目に関する キーワード	子どもの声に耳を澄ます、対話的な保育、子どもを見る実践力、子どもを語る実践力、子どもへの肯定的な態度

到達目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育所保育の基本を踏まえながら、領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深め、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現するための指導上の留意点や教材の活用方法を身につける。			
授業の概要	乳幼児が体験や経験に基づいて、感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、他者の話すことを理解していく言葉の発達や学びの過程について考察する。また、保育者に求められる援助や環境構成、教材研究等について、演習形式で学びを深める。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・少人数でのグループワーク、ディスカッションを実施した後、グループ発表を行う ・複数の問いに対してディベートを行う
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験（ 60%）コメントシート（20%)授業への取り組み（20%)として評価する。		
フィードバック	グループワークでのディスカッションの発表後に、各グループの良い点、改善点等を授業内でその都度フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	遅刻しないこと（グループ分けに支障が生じる） 対話がテーマの授業なので各自授業内での積極的な参加が必要であるとともに、対話者への開かれた肯定的な態度も必要とされる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V		○					

テキスト1	あなたも保育者になれる　青山誠（著）　小学館	4098401797
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもと言葉についての保育課題について
事前	教科書「あなたも保育者になれる」を通読し、実際の保育現場について自分なりに想像し、理解してみること。（30分）
事後	教科書「あなたも保育者になれる」のなかの、特に子ども同士のトラブルが記述されている箇所を読み、自分ならどうするかを考察してみること。（30分）

2	言葉の獲得、形成について―母子関係、自我と言語発達の関係―
事前	愛着形成という用語からなにを連想するかを書き留める（30分）
事後	愛着形成という用語について授業で得た知見をまとめる（30分）

3	乳幼児期の言葉の発達について(1) ―0～2才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に乳児期の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれが身体表現になり、いかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

4	乳幼児期の言葉の発達について(2) ―3～4才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に3～4才児の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれがいかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

5	乳幼児期の言葉の発達について(3) ―5～6才児の発達とことばの特徴と保育支援―
事前	主に5～6才児の意思表出について思い浮かべたことを書き留める（30分）
事後	各発達段階における自我の表出とそれがいかに言葉と結びついていくかをまとめる（30分）

6	言葉の発達を支援する「言葉かけ」について
事前	保育者の言葉がけとして不適切であろうと思う用語を書き留める（30分）
事後	保育者の言葉がけとして適切な言葉がけが言葉の発達にいかに影響するかを書き留める（30分）

7	言葉の発達と障害及びその支援について
事前	障害を持つ子どもの「言葉」と聞いてどのようなことを思いうかべるかを書き留める（30分）
事後	障害を持つ子どもの「言葉」について授業で得た知見をまとめる（30分）

8	児童文化財と言葉の発達について
事前	図書館、本屋等で実際の絵本を手に取り、数冊下読みしてみる（30分）
事後	童話と児童文学の違い、また絵本の歴史について授業で得た知見をまとめる（30分）

9	効果的な「対話的読み聞かせ」の工夫について
事前	自分が読み聞かせしてみたい絵本を選ぶ（30分）
事後	黙読したときと、読み聞かせしたときの違いについて感想をまとめる（30分）

10	対話的保育実践の試みについて(1)　言葉の前にある子どもとの非言語的な関わり
事前	言葉によらないコミュニケーションの方法、種類について書き留める（30分）
事後	実際の保育現場での非言語的な関わりについて授業で得た知見をまとめる（30分）

11	対話的保育実践の試みについて(2)　対話から始まる保育実践
事前	保育における行事の意味合いについて自分なりに考察してみること（30分）
事後	遊びを広げる子どもたちの対話において、保育者の関わりがどのような意味合いにおいて重要か、教科書の該当箇所を読み返し、考察すること（30分）

12	対話的保育実践の試みについて(3)　対話から広がる対話的な保育実践
事前	保育における行事の意味合いについて自分なりに考察してみる（30分）
事後	授業で得た知見をまとめるとともに、保育者のかかわりがどのような意味合いにおいて重要か教科書を読み返す（30分）

13	『保育所保育指針』の領域「言葉」の内容について
事前	幼稚園教育要領の該当箇所を読み込む（30分）
事後	授業で見た実際の保育実践を念頭に、あらためて保育所保育指針の該当箇所を読み込む（30分）

14	『幼稚園教育要領』の領域「言葉」の内容について
事前	幼稚園教育要領の該当箇所を読み込む（30分）
事後	授業で見た実際の保育実践を念頭に、あらためて保育所保育指針の該当箇所を読み込む（30分）

15	保育の現代的課題と気になる子どもたちへの支援について
事前	ニュース等から得られる情報をもとに何が「保育の現代的課題」となりうるか書き留める（30分）
事後	「保育の現代的課題」およびその解決について授業で議論したことをもとに、自分なりの知見をまとめる(30分）

2020/07/16(木)20:54

科 目 名	保育内容（健康II）[子]			授業コード	6020011
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	有川 いずみ				

科目に関する キーワード	子どもの心身の健康を維持・促進するための指導法 保育活動を安全・安心に計画・実践

到達目標	1. 保育における、健康指導と健康管理の役割と実践方法を学ぶ。 2・子どもの心と身体の健康を維持・促進するために、保育目標や発育・発達に応じた指導案を作成する。 3. 作成した指導案に基づいて、適切に活動を行うことができるようにする。 4. 模擬保育で保育者と子どもそれぞれの立場に立ち、安全の確認、子どもの興味や関心を引き出す働きかけ、子ども同士の学び合いの工夫など、指導方法を検討し理解する。 5. 保育環境や保育教材を、子どもの状況に応じて柔軟に対応し、発展的に応用展開できる力をつける。 6. 保育者として、保育活動を行う上での自分の特性、特技を発見する。 【「履修ファイル」の対応項目: A-3(1)～(3), C-2(4),D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】			
授業の概要	子どもの心と身体の健康を守り育てるために必要な活動についての理解を深める。 それらを保育活動の中で、安全に活用するための実践方法や知識を学ぶ。 指導計画や指導案を作成し、実践、応用展開できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	5名程度のグループに分かれ、発育・発達に応じた運動実践を考案し、発表を行う。（全5回） 保育活動を想定し、2～3名のグループに分かれ、与えられた課題で指導案を作成し、模擬保育形式で実践し、検討する。（全5回）
評価方法 及び評価基準	レポート	グループワークにおける発言等の授業への意欲・授業中の課題や諸活動への取り組み(35%) 模擬指導・教材作成（35%）、実技小テスト（30%）として評価する。		
フィードバック	模擬保育後、各グループの良い点・改善点を授業内に全員で検討し、フィードバックする。 発表担当グループは、翌週までに、検討された点をまとめて指導案を改善し、レポートを提出する。 授業内に提出・発表する課題については、その都度、授業内にフィードバックし、理解を深める。			
履修に際しての 注意事項	活動にふさわしい服装（体育着・体育館履きなど）、及び筆記用具など指示に従ってください。 必要に応じて資料を配布するので、ファイリング保存すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							○

IV							
V	○				○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) 「保育と幼児期の運動遊び」萌文書林　岩崎洋子編	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　保育者としての健康管理と、子どもの心と身体の健康指導
事前	子どもを取り巻く環境（人的・物的・社会）を考慮して、子どもにとっての健康の意味を自分なりに考えてくる。（1時間）
事後	子どもや保育に影響する保育者自身の健康の大切さを理解し、自分自身の今後の健康のあり方を具体的に考える。子どもにとっての健康の意味への理解を深める。(1時間)

2	エクササイズ　生活の中での健康指導
事前	子どもの園生活とはどのような経験か、健康の視点から調べて理解しておく。(30分)
事後	授業で学んだ健康的な生活リズムを確立するための、園生活と遊びのポイントをまとめ理解する。 幼児期に獲得したい動きと運動を復習する。(1時間)

3	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から（0～2歳児）
事前	0～2歳児における身体の発育と、運動の発達の特徴を参考文献で調べて、自分なりに理解してくる。（30分）
事後	0～2歳児の発育・発達の特徴をまとめて、具体的な指導・援助方法を復習する。 保育者としての動きの発見やイメージを膨らませる体験、グループ活動の復習。（40分）

4	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から（3～4歳児）
事前	3～4歳児における身体の発育と、運動の発達の特徴を参考文献で調べて、自分なりに理解してくる。（30分）
事後	3～4歳児の発育・発達の特徴をまとめて具体的な指導・援助方法を復習する。 保育者としての動きの発見やイメージを膨らませる体験、グループ活動の復習。（40分）

5	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から（5～6歳児）
事前	5～6歳児における身体の発育と、運動の発達の特徴を参考文献で調べて、自分なりに理解してくること。（30分）
事後	5～6歳児の発育・発達の特徴をまとめて具体的な指導・援助方法を復習する。 保育者としての動きの発見やイメージを膨らませる体験、グループ活動の復習。（40分）

6	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から（まとめ）
事前	3～5回の授業で学んだ各年齢の発育・発達の特徴を踏まえて、乳・幼児期の遊びを中心とした身体活動の在り方についての考えをまとめる。（30分）
事後	多様な動き、体力・運動能力を培うだけでなく、意欲や創造性を育む身体活動の在り方を考え理解を深める。 グループ活動の復習と発表準備。（40分）

7	エクササイズ発表（健康につながる身体の動かし方）
事前	グループ活動の発表準備と活動内容を配布する用紙にまとめて授業時に提出できるようにする。（30分）
事後	次回提出予定の、自グループと他グループの活動の発表内容の検討と考察をレポートにまとめる。（40分）

8	ビデオによる子どもの活動研究
事前	幼児期における発育・発達の特徴をまとめ、小・中・高・成人と、その後の成長過程にどう関係していくのかを、自分なりに理解してくる。
事後	幼児期の発育・発達がその後にどう関係していくのかの理解を深める。

9	グループで教材・指導案作り キネシオテーピングの基礎
事前	保育者として、自分の生活習慣を見直してみる。（20分）
事後	キネシオテーピングの基礎の復習とテーピングを試してみる。 グループで指導案を完成させる。

10	模擬指導Ⅰ　指導と援助方法の検討 （身体をたくさん動かせる遊び）
事前	身体をたくさん動かせる遊び（鬼ごっこ・走りっこなど）の特徴とねらいを考える。（30分）
事後	行われた模擬指導について検討して、配られる用紙に考察をまとめる。（30分）

11	模擬指導Ⅱ　指導と援助方法の検討 （リズムに乗って一緒に遊ぼう）
事前	みんなで一緒にリズムに乗って遊ぶことができる活動の特徴とねらいを考える。（30分）
事後	行われた模擬指導について検討し、配られる用紙に考察をまとめる。（30分）

12	模擬指導Ⅲ　指導と援助方法の検討 （リング・ボールを使った遊び）
事前	リングとボールを使った遊びの特徴とねらいを考える。（30分）
事後	行われた模擬指導について検討し、配られる用紙に考察をまとめる。（30分）

13	模擬指導Ⅳ　指導援助方法の検討 （なわ・その他体育教材を使った遊び）
事前	縄・その他体育教材を使った遊びの特徴とねらいを考える。（30分）
事後	行われた模擬指導について検討し、配られる用紙に考察をまとめる。（30分）

14	模擬指導Ⅴ　指導と援助方法の検討 （しんぶんしなど生活教材を使った遊び）
事前	生活教材（新聞紙）を使った遊びの特徴とねらいを考える。（30分）
事後	行われた模擬指導について検討し、配られる用紙に考察をまとめる。（30分）

15	まとめ
事前	幼児期の終わりまでに健やかに成長する子どもの姿を想像しながら、その過程で保育者はどう支え、援助していくべきかを自分なりにまとめる。（30分）
事後	授業ノートを参考に、これまでの講義を通して学んだこと、理解したこと、工夫したことを実践の場で活用してみる。

2020/07/16(木)21:01

科 目 名	保育内容（健康II）[子]			授業コード	6020021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	有川 いずみ				

科目に関する キーワード	子どもの心身の健康を維持・促進するための指導法 保育活動を安全・安心に計画・実践
到達目標	1. 保育における、健康指導と健康管理の役割と実践方法を学ぶ。 2・子どもの心と身体の健康を維持・促進するために、保育目標や発育・発達に応じた指導案を作成する。 3. 作成した指導案に基づいて、適切に活動を行うことができるようにする。 4. 模擬保育で保育者と子どもそれぞれの立場に立ち、安全の確認、子どもの興味や関心を引き出す働きかけ、子ども同士の学び合いの工夫など、指導方法を検討し理解する。 5. 保育環境や保育教材を、子どもの状況に応じて柔軟に対応し、発展的に応用展開できる力をつける。 6. 保育者として、保育活動を行う上での自分の特性、特技を発見する。 【「履修ファイル」の対応項目: A-3(1)～(3), C-2(4),D-2(1)(2)(3)(5)(6), D-3(1)～(5)】
授業の概要	子どもの心と身体の健康を守り育てるために必要な活動についての理解を深める。 それらを保育活動の中で、安全に活用するための実践方法や知識を学ぶ。 指導計画や指導案を作成し、実践、応用展開できるようにする。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	5名程度のグループに分かれ、発育・発達に応じた運動実践を考案し、発表を行う。（全5回） 保育活動を想定し、2～3名のグループに分かれ、与えられた課題で指導案を作成し、模擬保育形式で実践し、検討する。（全5回）
評価方法 及び評価基準		グループワークにおける発言等の授業への意欲・授業中の課題や諸活動への取り組み(35%) 模擬指導・教材作成（35%）、実技試験（30%）として評価する。		
フィードバック	模擬保育後、各グループの良い点・改善点を授業内に全員で検討し、フィードバックする。 発表担当グループは、翌週までに、検討された点をまとめて指導案を改善し、レポートを提出する。 授業内に提出・発表する課題については、その都度、授業内にフィードバックし、理解を深める。			
履修に際しての 注意事項	活動にふさわしい服装（体育着・体育館履きなど）、及び筆記用具など指示に従ってください。 必要に応じて資料を配布するので、ファイリング保存すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							○

IV							
V	○				○		

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) 「保育と幼児期の運動遊び」萌文書林　岩崎洋子編	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　保育者としての健康管理と、子どもの心と身体の健康指導
事前	
事後	

2	エクササイズ　生活の中での健康指導
事前	
事後	

3	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から(0～2歳児)
事前	
事後	

4	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から(3～4歳児)
事前	
事後	

5	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から(5～6歳児)
事前	
事後	

6	エクササイズ　子どもの健康指導　発育・発達から(まとめ)
事前	
事後	

7	エクササイズ発表(健康につながる身体の動かし方)
事前	
事後	

8	ビデオによる子どもの活動研究
事前	
事後	

9	グループで教材・指導案作り キネシオテーピングの基礎
事前	
事後	

10	模擬指導Ⅰ　指導と援助方法の検討 (身体をたくさん動かせる遊び)
事前	
事後	

11	模擬指導Ⅱ　指導と援助方法の検討 (リズムに乗って一緒に遊ぼう)
事前	
事後	

12	模擬指導Ⅲ　指導と援助方法の検討 (リング・ボールを使った遊び)

事前	
事後	

13	模擬指導Ⅳ　指導援助方法の検討 （なわ・その他体育教材を使った遊び）
事前	
事後	

14	模擬指導Ⅴ　指導と援助方法の検討 （しんぶんしなど生活教材を使った遊び）
事前	
事後	

15	まとめ
事前	
事後	

2020/07/16(木)22:01

科 目 名	文学入門 [子]			授業コード	6030012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	安藤 公美				

科目に関する キーワード	近代文学、芥川龍之介、メディア、多様性

到達目標	授業を通して、以下を到達目標とする。 1. 文学を読む基本的な視点と方法論を獲得する 2. 他者への共感、言語表現への意識向上など、多様な価値観をもてるようになる。 3. 文学とメディアを通して、柔軟な対応力や日本の新たな価値創造を可能にする 4. 興味をもって読み、知り、考え、書くという主体性を獲得する			
授業の概要	文学を、人生を豊かにする優良コンテンツとしてとらえ、解説する。 授業は講義形式をとり、主に芥川龍之介の作品や作家紹介をしながら、読む力、気づく力、共感や考える習慣を身に付けられるようガイドする。 文学が、映像、演劇、絵本、漫画、アニメ、ゲームなど他メディアにより表現されることも増えてきた。現代の文学状況を見据えつつ、柔軟にテクストを解釈する方法を伝える。文学のもつコンテンツとしての豊かさに気付き、また、人間理解を基本として、読者側の感性や批評性を強める経験とする。言葉を扱うプロによる表現力や発想法に触れることで、自らの思考法を問い直す場とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	理解度を確認するため、コメントシートの記入や確認の小テストを行う。 また、当該テーマに関しての興味、関心の度合いや、事前情報の確認のためアンケートを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 コメントシート（参加度　理解度）40%　確認テスト・レポート60%		
フィードバック	1. 毎授業に提出する、授業内容の確認や課題に対する意見などを記入したリアクションペーパーに適宜回答する。 2. 授業時にテスト、レポートの解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	文学を読むに相応しい環境作りに協力的であること以外、特になし			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II		○					
III							

IV							
V			○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	阿刀田高　短編小説のレシピ　集英社新書　2002. 11　4087201651 笠井潔著　探偵小説は「セカイ」と遭遇した　南雲堂　2008.11　9784523264804 安藤公美　芥川龍之介　絵画開化都市映画　翰林書房　2006. 3　4877372245	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス～文学とは・作家とは・読み方とは
事前	シラバスを読み、文学や作家について、その論じ方について考察しておく。(1時間)
事後	他の文学や作家について調べ、理解を深める。(3時間)

2	日本を代表する作家と作品解説～ノーベル文学賞・芥川賞・ベストセラー
事前	近代日本文学史について情報を調べ、整理しておく。(2時間)
事後	近代日本文学史について調べ、理解を深めておく。(2時間)

3	メディアミックスの時代～昔話・絵本・小説・CM
事前	メディアのなかの物語性を意識し、整理しておく。(2時間半)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(1時間半)

4	文学のなかの正義と悪・闘いと友情～多様性の時代に読む文学
事前	ガイダンスを参考に、当該作品を読み、不明点や疑問点を整理しておく。(3時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(1時間)

5	日本初の長編アニメと手塚治虫～戦争と平和を考える
事前	当該作家、および事項について情報を収集しておく。(2時間)
事後	映像表現と言語表現の違いを整理し、理解を深める。(2時間)

6	名作誕生の秘密～失恋から生まれた物語
事前	ガイダンスを参考に、当該作品について情報を調べ、整理しておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(2時間)

7	作家の手紙に愛と友情と孤独を読む～夏目漱石・芥川龍之介・太宰治
事前	近代日本文学史について必要な情報を調べ、整理しておく。(3時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(1時間)

8	ミステリの誕生～想像力の臨界
事前	文学ジャンルについて情報収集をし、疑問点を整理しておく。(3時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(1時間)

9	怪奇・幻想・ゴシックロマンス～美と崇高と畏れ
事前	文学ジャンルのもつ問題点や共通点について調べ、整理しておく。(1時間半)
事後	当該ジャンルの作品を精読する。(2時間半)

10	小説と映画～国際映画賞を初めて受賞した日本映画と原作
事前	国際的な文学情報について調べ、疑問点を整理しておく。(2時間)
事後	映像表現と文学表現について比較し、考察を深める。(2時間)

11	映画鑑賞・黒澤明《羅生門》1950
事前	当該作品の情報収集を行い、鑑賞の基礎的知識を整理しておく。(2時間)
事後	興味をもった他の映像表現を鑑賞する。(2時間)

12	人はなぜユートピアを求めるのか～「杜子春」「河童」
事前	「ユートピア」という語や、関連する物語について調べておく。(2時間半)

事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。（1時間半）

13	〈文豪〉ブームを読み解く～教科書定番と作家アイコン
事前	遍在する作家アイコンについて気づいた点を整理しておく。（2時間）
事後	プリントを復習し、知識の定着を図る。（2時間）

14	確認テスト・レポート作成
事前	プリントや資料を総復習し、知識の定着を図る。（2時間）
事後	必要となる情報を収集し、レポートにまとめる。（2時間）

15	文学講義まとめ
事前	プリントや資料を総復習し、知識の定着を図る。（2時間）
事後	文学作品を読み、メディアとの関連や現代的考察を試みる。（2時間）

2020/07/16(木)21:53

科 目 名	日本語表現法I [社]			授業コード	6030020
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	安藤 公美				

科目に関するキーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:47

科 目 名	日本語表現法I [心]			授業コード	6030030
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	安藤 公美				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:17

科 目 名	家族社会学 [社心]			授業コード	6050012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	石川 円				

科目に関するキーワード	家族、社会学、多様なパートナーシップ、社会的包摂
到達目標	①家族社会学の主要な理念・学説を理解し、正しく説明することができる。 ②家族に関する現代社会の問題について、家族社会学の知見に関連付けながら考察することができる。 ③現代家族の様相をふまえ、自分の「家族」観を相対化し、他者に説明すること（論理的に文章化）できる。
授業の概要	どんな人も「家族」のなかに生まれ、育ち、暮らしています。「家族」はすべての人々にとって最も「身近な」集団です。しかしながら、その構造や形式、関係性は多種多様です。人が成長するように、「家族」も内外からの影響をつぶさに受けながら、変わっていきます。あたなが当たり前のように思っている「家族」のイメージは、隣にいる人のそれとは大きく異なるかもしれません。 一体、「家族」とは何なのでしょうか？改めて「家族」について一緒に考えてみましょう。 本講義では、社会福祉に必要不可欠である「家族」に社会学的視点からアプローチします。家族に関する基本概念を学ぶとともに、ライフステージで起こりうる家族の関係性の変容や問題を多面的に考察できるようになることをめざします。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○	毎回、リアクションペーパーに授業についてのふりかえりや疑問点などを記述し提出する。 次回、疑問点について解説する。
評価方法及び評価基準	試験と授業中の課題	期末試験70%、リアクションペーパー30%
フィードバック	リアクションペーパーなどで寄せられた疑問点について次回の授業で解説する。	
履修に際しての注意事項	私語は厳禁です。 試験では記述式をとるため、対策として、日ごろから文章を書く力を培えるよう、新聞や書物などを読むようにしてください。リアクションペーパーはその練習でもあります。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III			○				
IV		○					

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	岩間暁子、大和礼子、田間泰子著『問いからはじめる家族社会学-多様化する家族の包摂に向けて』2015年、有斐閣	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：家族を社会学的視点からとらえる
事前	昨今の家族にまつわるできごとについて資料を集める。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、家族のさまざまな形について理解を深めること。(2.5時間)

2	家族規範の成立と変容：家族のイメージはどのように形成されたのか？
事前	あなたが抱く家族のイメージについて文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、核家族の定義、社会関係としての親族組織、研究者たちが示した現代家族の定義について、理解を深めること。(2.5時間)

3	家族の変化と家族関係
事前	あなたにとって家族とは誰かについて文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、世帯についてその意味、規模の変化と社会的背景との関連、家族の機能について理解を深めること。(2.5時間)

4	就労と家族
事前	ワークライフバランスについて情報を集めて、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、就労と家族について理解を深めること。(2.5時間)

5	結婚とパートナー関係
事前	あなたが結婚についてどのような考えを持っているか、文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、結婚制度の変容、未婚化・晩婚化・非婚化、離婚について理解を深めること。(2.5時間)

6	多様なパートナーシップ
事前	多様なパートナーシップについて資料を集め、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、法律によらないパートナーシップの世界的動向と日本の現状、グローバル化と多民族・多国籍化する家族について理解を深めること。(2.5時間)

7	家族の近代化と子育て① 少子化と家族
事前	子どもと家族にまつわるイベントやできごと、事件などで、あなたが興味のある事柄について資料を集め、考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、戦後日本の家族と少子化について理解を深めること。(2.5時間)

8	家族の近代化と子ども② 子どもをもつ／そだてることの現代的意味
事前	生殖医療や里親制度について資料を集め、自分の考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、生殖医療や里親制度などについての理解を深めること。(2.5時間)

9	成人した子どもと親の関係
事前	就学を終えた子どもとその親の関係について情報を集め、考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、成人子と親の関係の変化とその背景について理解を深めること。(2.5時間)

10	障害のある子どもとその家族について
事前	障害のある子ども(18歳未満)とその家族にまつわるできことや事件などの情報を集め、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、障害のある子どもとその家族をとりまく環境について理解を深めること。(2.5時間)

11	障害のある人の生活・恋愛・結婚
事前	障害のある人の恋愛や結婚に関する情報を集めて、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、障害のある人の生活や恋愛、結婚について理解を深めること。(2.5時間)

12	家族と医療の変遷
事前	家族と医療をテーマとする小説や漫画、テレビドラマや映画など、あなたの印象に残っている作品を一つとりあげ、その理由を文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、医療の社会化と社会の医療化などについて理解を深めること。(2.5時間)

13	老いと家族① 高齢社会と家族
事前	高齢者にまつわるできごとや事件について調べ、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、高齢者と家族の関係について理解を深めること。(2.5時間)

14	老いと家族② 介護と看取り
事前	介護にまつわるできごとや事件について調べ、あなたの考えを文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	配布資料を読み直し、介護と看取りについて理解を深めること。(2.5時間)

15	授業のまとめ
事前	これまでの授業をふりかえり、関心が高かったトピックスについて文章にまとめておく。(1.5時間)
事後	これまでの配布資料を読み直し、家族をとりまく環境、現代的な特徴とその背景について深く理解すること。(2.5時間)

2020/07/16(木)21:06

科 目 名	社会福祉学総論I [社]			授業コード	6050022
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	石川 円				

科目に関する キーワード	社会福祉の理念、ニーズ、対象、資源、制度、福祉国家、社会的包摂
到達目標	まず、個人と社会をめぐる様々な分野の知識や技能を習得し、相談援助の実践において積極的に活用することができること。 つぎに、以下の点について、理解できるようになることである。 ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係 ・福祉の原理、思想、哲学 ・福祉政策におけるニーズと資源 ・福祉政策の課題
授業の概要	この授業では、現代社会における福祉制度と福祉政策、福祉の原理、福祉制度の発達過程、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素および課題、相談援助活動と福祉政策の関連などを学びます。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の理解度を深めるために、復習プリントを課し、添削・解説を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	復習プリント20%、学期末レポート80%		
フィードバック	復習プリントについての解説をでんでんばんに掲載する。 復習プリントは添削のうえ返却するので、各自、定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	私語は厳禁とします。 復習プリントは指定された日時に提出してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV		○					

V							

テキスト1	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集 『新・社会福祉士養成講座4　現代社会と福祉　第4版』 中央法規　2014年	9784805839317
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉の視点と枠組み
事前	1.5時間：教科書pp.2~11を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。

2	社会の変化と福祉
事前	1.5時間：教科書pp.12～30を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 社会の変化と福祉の関係についての理解を深めること。

3	福祉と福祉政策
事前	1.5時間：教科書pp.32～53を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 福祉と福祉施策の意味と内容、社会福祉に期待される役割と機能について理解を深めること。

4	福祉の思想と哲学
事前	1.5時間：教科書pp.56～76を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 社会福祉を支える思想、市場の論理、権利や人権について理解を深めること。

5	社会政策と福祉政策
事前	1.5時間：教科書pp.78～96を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 福祉政策や社会福祉政策、他の社会政策との関係など整理して、理解を深めること。

6	福祉政策の発展過程
事前	1.5時間：教科書pp.98～119を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 日本の慈善事業からはじまり、福祉政策の発展過程までについて理解を深めること。

7	少子高齢化時代の福祉政策
事前	1.5時間：教科書pp.122～155を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書と副資料の該当部分の読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 日本の社会福祉の変遷（社会福祉の見直しから2000年代まで）について理解を深めること。

8	福祉政策における必要と資源
事前	1.5時間：教科書pp.158～178を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を返し、ノートの整理などの復習をしてください。 「必要」「資源」について理解を深めること。

9	福祉政策の理念・主体・手法
事前	11.5時間：教科書pp.180～202を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 福祉政策が誰によってどのように策定されるか、理念や手法もあわせて、正しく理解すること。

10	福祉政策の関連領域
事前	1.5時間：教科書pp.204～241を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。

事後	福祉施策の関連領域について、理解を深めること。

11	社会福祉制度の体系
事前	1.5時間：教科書pp.244～263を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 社会福祉制度の構造や体系について理解を深めること。

12	福祉サービスの提供
事前	1.5時間：教科書pp.266～282を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書とを読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 多元化・多様化している供給体制、社会福祉や社会福祉士の役割について理解を深めること。

13	福祉政策の国際比較
事前	1.5時間：教科書pp.302～340を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書と副資料の該当部分の読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 日本の障害者福祉の展開と近年の課題について理解を深めること。

14	福祉政策の課題と展望
事前	1.5時間：教科書pp.342～359を熟読し、読めない漢字は調べてルビをふっておくこと。
事後	2.5時間：教科書を読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。 地域福祉の展開と必要性について理解を深めること。

15	授業のまとめ
事前	これまでの復習プリントを解きなおし、間違えた問題を確認しておいてください。
事後	2.5時間：教科書と副資料の該当部分の読み返し、ノートの整理などの復習をしてください。

2020/07/16(木)21:49

科 目 名	医学概論/人体の構造と機能及び疾病 [社介心]			授業コード	6060011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	石川 由美				

科目に関する キーワード	身体構造と心身機能、疾病・傷害の概要、健康の捉え方
到達目標	・人間の成長・発達の基礎的な知識を習得する。 ・ライフサイクルの各期の特徴を理解し、説明できる。 ・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期における身体的、心理的、社会的特徴と発達段階における課題、特徴的な疾患や障害について理解し、説明できる。 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解し、説明できる。 ・リハビリテーションの概要について理解し、説明できる。 ・健康増進と疾病予防には、個人の認識や生活背景が大きく影響していることを理解したうえで、福祉職として人々の尊厳と人権、生命を守っていくために、どのように行動していけばよいか、柔軟な発想で物事をとらえ、学生自身の頭で考えることができるようになる。
授業の概要	介護福祉の専門職として必要な基本的な医学知識を学ぶ。 人間の成長・発達の基礎的な知識を学ぶ。 加齢・老化の理解をし、心身機能と身体構造の概要、疾病と障害、リハビリテーションの概要について学ぶ。 上記に関連した保健医療対策の現状、健康増進と疾病予防について理解する。 対象者を中心とした多職種のチームアプローチの視点から、保健医療職と福祉職の連携の必要性、また、各々の役割について学び考える。
授業方法	講義 / アクティブラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験60%、課題提出20%、授業中の発言や諸活動への取り組み20%として、総合的に評価を行う。	
フィードバック	課題に対するフィードバックについては、「でんでんばん」の「課題提出」を通じてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	科目の特徴、専門領域の違いから考えて、欠席・遅刻などがあると、体系的、関連性を持った知識の習得に支障をきたすので、積極的に授業に参加することが望ましい。授業中にポイントは伝えるようにするが、自分なりのノートをまとめるなど知識を確実なものとするような主体的な姿勢で臨むことが大切である。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	人体の構造と機能及び疾病 社会福祉士養成講座編集委員会　編集 （中央法規出版株式会社）	9784805851005
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。配布資料もある。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	福祉職になぜ医学が必要か。身体・精神の成長と発達・加齢と老化。
事前	テキストの該当箇所を読み、身体および精神の成長と発達、老化について、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業で学んだ内容を再確認し、各自理解を深めるとともに、福祉職・心理職にとって、医学的知識がなぜ必要なのか、自身の専門領域と他領域との関連性についても理解を深めること。（2時間）

2	心身機能と身体構造の概要（人体各部の名称、各器官の構造と機能、主な症状とその意味）
事前	テキストの該当箇所を読み、体の名称、器官の名称、および、各器官の構造と機能について、自分なりに理解してくること（2時間）
事後	人体各部の名称は覚えること、また、各器官の働きについての概要や他器官との関連について理解を深めておくこと。（2時間）

3	健康の捉え方ー健康増進と疾病予防（健康の概念・健康増進と疾病予防）
事前	テキストの該当箇所を読み、器官の名称および、器官の構造と機能について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	各器官の働きについての概要や、他器官との関連について理解を深めておくこと。（2時間）

4	疾病と障害の概要、保健医療対策の現状①（生活習慣病・がん）
事前	テキストの該当箇所を読み、生活習慣病とは何か、悪性新生物・脳血管疾患の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	生活習慣病、悪性新生物、脳血管疾患の概要と症状、予後についての理解を深めること。また予防と各疾患の関連性についても理解を深めること。（2時間）

5	疾病と障害の概要、保健医療対策の現状②（感染症）
事前	テキストの該当箇所を読み、心疾患・高血圧・糖尿病と内分泌疾患の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	心疾患・高血圧・糖尿病と内分泌疾患の概要と症状、予後についての理解を深めること。（2時間）

6	疾病と障害の概要、保健医療対策の現状③（神経疾患、難病）
事前	テキストの該当箇所を読み、呼吸器疾患・消化器疾患・血液疾患と膠原病の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	呼吸器疾患・消化器疾患・血液疾患と膠原病の概要と症状、予後について理解を深めること。（2時間）

7	疾病と障害の概要、保健医療対策の現状④（精神障害、精神保健福祉）
事前	テキストの該当箇所を読み、腎疾患・泌尿器系疾患・骨関節疾患・目耳の疾患の概要について、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	腎疾患・泌尿器系疾患・骨関節疾患・目耳の疾患の概要と症状、予後について理解を深めること。（2時間）

8	障害の概念・定義・障害の理解（呼吸器、言語、視覚、腎機能、肢体不自由、内部障害等）
事前	テキストの該当箇所を読み、感染症・神経疾患と難病・先天性疾患・高齢者に多い疾患についての概要を自分なりに理解してくること。また、終末期医療と緩和ケアの現状と自分なりの考え方をもって授業に臨むこと。（2時間）
事後	感染症・神経疾患と難病・先天性疾患・高齢者に多い疾患についての概要と症状、予後についての理解を深めること。また、これまで学んだ疾患と終末期医療の関連性や緩和ケアと尊厳の保持について理解を深めること。（2時間）

9	疾病と障害の概要（骨関節・統合組織の疾患）
事前	テキストの該当箇所を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害・肢体不自由・内部障害についての概要を、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	各障害の概要と症状について理解するとともに、支援の方法や他職種との連携についての理解を深めること。（2時間）

10	母子保健対策　障害者のための医療と臓器移植
事前	テキストの該当箇所を読み、知的障害・発達障害・認知症の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	各障害の概要と症状について理解するとともに、支援の方法や他職種との連携についても理解を深めること。（2時間）

11	リハビリテーションの概要（概念と範囲、国際生活機能分類ICFの基本的考え方と概要、リハビリテーションの対策、方法、留意点）

事前	テキストの該当箇所を読み、高次脳機能障害・精神障害について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	高次脳機能障害の症状および、原因となる疾患や外傷、支援の方法について理解を深めること。また、主な精神障害の概要と症状、支援の方法、他職種との連携についての理解を深めること。(2時間)

12	医療と介護(医療と介護の協働・連携、医療保険と介護保険)
事前	テキストの該当箇所を読み、リハビリテーションの概要について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	リハビリテーションの定義と対象、リハビリテーションの諸段階、リハビリテーションに関わる専門職の役割等について理解を深めること。(2時間)

13	看護と医療介護(地域包括医療・ケア、介護福祉における医療介護)
事前	テキストの該当箇所を読んで、ICFの概念について自分なりに理解をしてくること。(2時間)
事後	ICIDHからICFへの考え方の変遷について再確認するとともに、構成要素と背景因子についての理解を深め、利用者へのアプローチの方法についての基本的な視点について理解すること。(2時間)

14	保健医療とソーシャルワーク(医療施設、医療関連施設、保健医療福祉の連携)
事前	テキストの該当箇所を読み、健康の概念や我が国の人口統計、高齢化と医療費、健康づくり対策の概要について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で学んだことを再確認し、健康を多面的に捉える視点と、医療や保健施策との関わりについて理解を深めること。また、現在の我が国の人口統計や高齢化の状況と健康、健康観と尊厳などについて、他科目の学びと関連付けながら自分の考えを整理していくこと。(2時間)

15	これからの医療と福祉職のあり方、まとめ、振り返り
事前	テキストの該当箇所を読み、疾病の予防と健康の保持増進に向けての各施策、および、職場、学校などの生活環境との関連について自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	これまで学んだ各疾患や障害に関する知識を振り返りながら、健康とは何か、疾病や障害を抱える人の尊厳を守る関わり方や支援の方法について理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)21:44

科 目 名	コミュニケーション技術I [介]			授業コード	6060031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	石川 由美				

科目に関する キーワード	自己覚知、尊厳の保持、受容、連携

到達目標	・自己覚知と内省を意識づけ、多様な価値観を持つ人々の人格を尊重・受容し発展させるための基本姿勢を身につけることができる。 ・本人・家族等の関係性の構築のための基本的なコミュニケーション技法を習得することができる。 ・他職種と連携して介護を必要とする人の生活を支え支援していくために、他者への情報伝達に必要な基本的知識・技術を習得することができる。			
授業の概要	・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、利用者・家族等の尊厳・人権・生命を守るという使命を基本に、人間および人間関係の構築の方法について理解するために必要な知識・技術を学ぶ。 ・各領域で学んだ知識と技術の関連を意識し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うための学習を行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験 受験資格は学則に規定されている通りである。 試験による評価と、授業への参加度・受講への意欲、課題の提出等で総合的に評価する。		
フィードバック	適宜、次回の授業で補足説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	積極的かつ主体的な姿勢で授業に臨む事。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○			○	
IV			○				

V							

テキスト1	『最新介護福祉全書4　介護　コミュニケーション技術』松井　奈美　編集（メヂカルフレンド社）	9784839231934
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。配布資料もある。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、授業の概要とスケジュールの説明
事前	テキスト全体の概要を俯瞰し、当該科目を受講する目的を自分なりに考えてくること。（2時間）
事後	授業を受けて、受講の目的意識を明確にするとともに、「求められる介護福祉士像」との関連や必要性について理解すること。（2時間）

2	介護におけるコミュニケーションの基本、コミュニケーションの意義・目的・役割
事前	テキストの当該箇所を読み、コミュニケーションの意義・目的・役割の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	専門的コミュニケーションのキーワードである「自立」「予防」「人権」「尊厳」の意味を理解し、専門職としてのコミュニケーションのあり方について理解を深めること。（2時間）

3	人間の理解と人間関係
事前	テキストの当該箇所を読んで、利用者・家族との関係づくりの方法や留意点について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	高齢者・障害者の特徴を知り、各利用者に応じた関係づくりの必要性について理解を深めること。（2時間）

4	自己覚知、適切な敬語の使い方
事前	テキストの当該箇所を読み、介護職にとってなぜ自己覚知が必要なのかということを自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	自身の思考の傾向や得手不得手を覚知することで、今後の対人関係に意識しできるように努める。また、相手を尊重し、信頼関係を築く第一歩としての敬語のつかい方について理解を深めること。（2時間）

5	他者理解と内省
事前	テキストの当該箇所を読んで、受け止めるコミュニケーションに必要な介護者の姿勢・態度について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容を振り返り、自分の価値観はどういうものか、自分と同様に多様な価値観を受け止め理解しようとすることの大切さを理解すること。（2時間）

6	話の聞き方
事前	テキストの当該箇所を読んで、話を聴く技法について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	同じ目線で聴くこと、話を聴く表情や相づち、言葉遣いなど、専門職としての傾聴の技術について理解を深めること。（2時間）

7	言語・非言語コミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、言語・非言語のコミュニケーションが表すメッセージについて、事例を参考にしながら自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	ワークシートでのチェック項目を振り返り、自身の洞察力や考え方の傾向を認識する。また、それを、今後の言語・非言語メッセージに意識して活用していくように努めること。（2時間）

8	コミュニケーションの原則
事前	配布資料を読み、バイステックの7原則について自分なりに理解して臨むこと。（2時間）
事後	福祉専門職として必要な、相談援助の基本的な考え方について理解を深めること。（2時間）

9	信頼関係を築くための基本姿勢・技法
事前	テキストの当該箇所を読んで、基本的なコミュニケーション技術の意味と方法について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業で使用したワークシートを振り返り、傾聴、共感、受容、促し、反復、沈黙、明確化、要約といった、コミュニケーション技術について理解を深めること。（2時間）

10	利用者との関係づくり
事前	テキストの当該箇所、特jに事例をよく読み、利用者の様々な感情とその表現について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	ロールプレイングを振り返り、自分の傾向と今後の課題を明確にしておくこと。（2時間）

11	家族との関係づくり

事前	\テキストの当該箇所を読んで、家族との関係づくりおいて大切なことを、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	利用者と家族とのこれまでの歴史、家族の持つ力を丁寧にアセスメントすることの大切さを理解すること。また、利用者と家族双方の尊厳を守る働きかけの方法について、授業を振り返って理解を深めること。(2時間)

12	利用者の気持ちとコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所、特に事例をよく読み、独特の訴えや感情表現をする利用者に対するコミュニケーションの取り方について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	記入したプロセスレコードを振り返り、気づいたことを再度整理して考えてみる。またグループメンバーの気づきと自分の気づきとの違いを通して、自分自身を振り返ること。(2時間)

13	家族とのコミュニケーションの基本姿勢
事前	テキストの当該箇所を読んで、家族との基本的なコミュニケーションのあり方について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	ワークシートを振り返り、家族への具体的な声掛けや対応について、自身の現在の力を把握するとともに、今後の課題を明確にしておくこと。(2時間)

14	さまざまな場面における家族とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所、特に事例をよく読み、様々な状況の中での家族の感情や対応について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	これまでの学びを通して、利用者と家族との信頼関係を築くために、どのような姿勢で臨むことが大切か、再度振り返り、言葉遣い、表情、表現方法などを復習すること。(2時間)

15	コミュニケーションと介護展開
事前	コミュニケーション技術と介護展開の関係について自分なりに考えをまとめてくること。(2時間)
事後	適切な介護展開を行うためには、様々な知識と技術が必要であるが、その中でのコミュニケーション技術の位置付けと必要性について、授業内容を再確認して理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)21:39

科 目 名	コミュニケーション技術II [介]			授業コード	6060042
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	石川 由美				

科目に関する キーワード	情報共有、チームコミュニケーション、連携

到達目標	・障害について理解し、その特性に応じたコミュニケーション技術を習得する。 ・介護におけるチームのコミュニケーション技法を習得することができる。 ・他職種と連携して利用者・家族を支援していくために、介護実践に必要な報告、記録の意義を理解し、その情報の管理についても理解することができる。			
授業の概要	・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する授業とする。 ・情報を適切にまとめ、記録、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解できる授業とする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験 受験資格は学則に規定されている通りである。 試験による評価と、授業への参加度・受講への意欲、課題の提出等で総合的に評価する。		
フィードバック	適宜、次回の授業で補足説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	積極的かつ主体的な姿勢で授業に臨む事。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III				○	○		
IV							

V							

テキスト1	『最新介護福祉全書4　介護　コミュニケーション技術』松井　奈美　編集（メヂカルフレンド社）	9784839231934
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。配布資料もある。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、授業の概要とスケジュールの説明
事前	前期で学んだコミュニケーション技術Ⅰの内容を復習しておくとともに、当該科目で使用するテキストの概要を俯瞰してくること。（1時間）
事後	基本的なコミュニケーション技術を踏まえたうえで、障害や状況に応じた利用者とのコミュニケーション技術、また職種間・他職種との円滑なチームワークの必要性との関連性について理解すること。（1時間）

2	記録の意義と目的、記録の種類と構成
事前	テキストの当該箇所を読んで、記録の意義と目的、記録の種類と構成について自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	授業で学んだことを再確認し、介護記録の重要性、および、記録の種類と構成について理解を深めること。（1時間）

3	記録の方法と留意点
事前	テキストの当該箇所を読んで、記録の方法と留意点について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	ワークシートを振り返り、要約記録、叙述記録、逐語記録、説明体など必要に応じた記録の使い分けや方法について理解を深めること。（1時間）

4	記録の書き方
事前	テキストの当該箇所を読んで、記録の種類に応じた方法について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	施設・在宅における記録、およびITを用いた記録などの違いや穂応報について理解を深めること。また、記録の管理の重要性についても理解すること。（1時間）

5	わかりやすい記録と、記録の活用
事前	テキストの当該箇所を読んで、わかりやすい記録の方法について自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	テキストおよび配布資料の具体例を再確認しながら、適切な記録方法と、だれが読んでも明確で適切な内容の記録の仕方について理解を深めること。（1時間）

6	障害のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、障害のある利用者とのコミュニケーション技術の基本について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	授業で学んだことを再確認し、コミュニケーションの必要性と、傾聴するときの心構えについて理解を深めること。また、様々な障害に応じたコミュニケーションの取り方について理解すること。（1時間）

7	認知症のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、認知症のある人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	主な認知症の症状とコミュニケーションの方法について、配布資料と事例を振り返りながら理解を深めること。何より、自尊心の尊重、不安を和らげる関わりの重要性について理解すること。（1時間）

8	視覚障害のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、視覚障害のある人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	視覚症状のある人とのコミュニケーションの留意点、必要なことを具体的に、わかりやすく伝える技術について理解を深めること。（1時間）

9	聴覚障害のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、聴覚障害のある人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。（1時間）
事後	利用者の障害レベルやコミュニケーションをとる状況などにより、適切なコミュニケーション方法を選択すること、また口話の場合の留意点、その他の方法などについて理解を深めることができる。（1時間）

10	失語症・構音障害のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、失語症・構音障害のある人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。（1時間）
	授業で学んだことを再確認する。特に、運動性失語と感覚性失語の特徴と対応、、構音障害のある人の表現方法の特徴と対応方

事後	法などについて理解を深めることができる。(1時間)

11	高次脳機能障害・肢体不自由のある人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、高次脳機能障害のある人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。(1時間)
事後	テキストおよび配布資料を再確認し、高次脳機能障害の原因・症状、コミュニケーションの留意点について理解を深めること。(1時間)

12	精神障害・知的障害のある人、難病を持つ人とのコミュニケーション
事前	テキストの当該箇所を読んで、精神障害・知的障害のある人、難病をもつ人とのコミュニケーションの基本について、自分なりに理解してくること。(1時間)
事後	テキストと資料を再確認し、いくつかの代表的な障害についての原因、症状、コミュニケーションの留意点について、理解を深めること。また、様々な障害によって多様な症状があり、そのためコミュニケーション方法も一様ではないことを理解しておく。(1時間)

13	報告と申し送り
事前	テキストの当該箇所を読んで、報告と申し送りの意義・目的方法などについて、自分なりに理解してくること。(1時間)
事後	授業で学んだことを再確認する。特に報告の留意事項(簡潔で的確に、タイミングよく迅速に、主観と客観を分けてなど)について理解を深めること。(1時間)

14	会議の目的・意義・種類
事前	テキストの当該箇所を読んで、会議の目的・意義・種類について、自分なりに理解してくること。(1時間)
事後	会議を開催する方法と留意点、案内文書の書き方、会議の種類(組織運営に必要な会議と利用者のケアについて検討する会議)とその違いについて理解を深めることができる。(1時間)

15	会議の進め方
事前	テキストの当該箇所を読んで、会議の進め方についてシュミレーションしておくこと。(1時間)
事後	授業で行った模擬会議を振り返り、今後の実習に向けての気づきや、自身の課題について明確にしておくこと。(1時間)

2020/07/16(木)21:38

科 目 名	医学概論/人体の構造と機能及び疾病 [科]			授業コード	6060051
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	石川 由美				

科目に関する キーワード	身体構造と心身機能、疾病・障害の概要、健康の捉え方
到達目標	・心身機能と身体構造について理解し説明出来る。 ・心身の疾病や障害について理解し説明出来る。 ・がん、難病等心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し説明出来る。
授業の概要	心身の総合的働きや相互関連性を理解するため、身体構造とそれに基づく心身の諸機能を学ぶ。その上で様々な疾病や障害の特徴や分類を理解し、さらにがんや難病等の、心理に関する支援が必要な主な疾病について詳しく学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング
評価方法 及び評価基準	試験 / 試験80%、授業中の課題などへの取組20%で総合的におこなう。
フィードバック	課題に対するのフィードバックについては、「でんでんばん」の「課題提出」を通じてコメントを返す。
履修に際しての 注意事項	他学生の迷惑となる行為をおこなわないこと。繰り返す場合は退出を求めることもあるので注意すること。授業に関する連絡は授業中の他、ポータルサイト「でんでんばん」を通しておこなう。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	人体の構造と機能及び疾病　斎藤清二　公認心理師の基礎と実践（遠見書房）	9784866160719
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意について説明
事前	心理職を目指すにあたって、本科目で学びたいことや自分なりの目的を明確にして授業に臨む（2時間）
事後	心理職にとってなぜ医学的知識が必要かということを考える。また、医学・医療そのものが依って立つ世界観や価値感について学ぶという目的意識を明確にすること。（2時間）

2	身体構造と機能1：細胞と組織
事前	テキストの該当箇所を読み、人の細胞と組織について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	細胞・組織の働きについての概要や他器官との関連について理解を深めること。（2時間）

3	身体構造と機能2：器官と器官系
事前	テキストの該当箇所を読み、人体各部の名称、各器官の名称、および各機関の構造と機能について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	人体各部の名称は覚えること、また、各器官の働きの概要や、他器官との関連について理解を深めること。（2時間）

4	主な疾病や障害
事前	主な疾病や障害にはどのようなものがあるか、テキストの該当箇所を俯瞰し、自分なりに理解をして臨むこと。（2時間）
事後	疾病や障害の概要について知識を深めること。とくに、病理学の総論として、健康・老化・死・病気、炎症、腫瘍についての概要についてつかんでおくこと。（2時間）

5	身体疾患に伴う精神症状に対して精神的ケアが必要な疾患1：がん、心筋梗塞、糖尿病
事前	テキストの該当箇所を読み、がん、心筋梗塞、糖尿病の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	がん、心筋梗塞、糖尿病の概要と症状、予後について理解する。また、それらの疾患が心に及ぼす影響と、専門職として配慮すべきことを理解する。（2時間）

6	身体疾患に伴う精神症状に対して精神的ケアが必要な疾患2：脳血管性の疾患、その他の疾患
事前	テキストの該当箇所を読み、脳血管性の疾患、その他の疾患の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	脳血管性の疾患、その他の疾患の概要と症状、予後について理解する。また、それらの疾患が心に及ぼす影響と、専門職として配慮すべきことを理解する。（2時間）

7	心身相関のはっきりした疾患（心身症など）
事前	テキストの該当箇所を読み、心身症と呼ばれる病態の概念や、現代医療における捉え方について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	いわゆる心身症という特別な存在としてではなく、すべての病態・疾病における心理・社会的ケアの必要性について理解すること。（2時間）

8	身体症状を呈する精神疾患
事前	テキストの該当箇所を読み、主要な身体症状にはどのようなものがあるか、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容を振り返り、身体症状を呈する主な精神疾患の概要、症状、予後について理解すること。（2時間）

9	器質性精神障害1：アルツハイマー型認知症
事前	テキストの該当箇所や参考書を読み、アルツハイマー型認知症の概要について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	アルツハイマー型認知症の概要と症状、予後について理解する。また、その他の認知症との違いや対応の仕方について理解を深める。（2時間）

10	器質性精神障害2：パーキンソン病、てんかん、その他の疾患
事前	パーキンソン病、てんかん等の疾患の概要について、参考書を用いて、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	パーキンソン病、てんかん、その他の疾患の概要と症状、予後について理解する。（2時間）

11	症状精神病
事前	症状精神病の要因や概要について、参考書を用いて、自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	授業内容を振り返り、症状精神病の要因や、疾患、症状などの基本的な知識を深めること。（2時間）

12	痛みと心
事前	テキストの該当箇所を読み、痛み・苦痛、緩和のための対応について自分なりに理解してくること。（2時間）
事後	痛みや症状そのものの問題と、痛みが心に及ぼす影響や精神的苦痛について理解する。また、苦痛への対処法について知識を深める。（2時間）

13	医学的治療における心理的ケアの役割
事前	これまでの授業を振り返り、医学的治療医おける心理的ケアの役割、公認心理師の役割について自分なりに考えをまとめて臨むこと。（2時間）
事後	疾病とともに生きる人々の心理・社会的なニーズと、心理専門職としての公認心理師に求められる役割について理解を深めること。（2時間）

14	多職種チーム医療と公認心理師の役割
事前	これまでの授業を振り返り、医療における多職種連携の意義と、その中における公認心理師の役割について自分なりに理解して臨むこと。（2時間）
事後	心理学の専門的訓練を受けた公認心理師が多職種連携チームの参加することの意義と、対象者だけでなくチーム自体の支援者としての重要性や役割について理解を深めること。（2時間）

15	まとめ：疾患を抱えて生きる人々が安全、安心であるために
事前	これまでの授業内容から、様々な疾患の概要や症候を振り返るとともに、医療を受ける人々の安全・安心を得るための公認心理師のありようについて自分なりに考えをまとめて臨むこと。（2時間）
事後	医療における尊厳の保持、満足とはどのようなことかについて深く考察すること。国家資格を持つ公認心理師のに求められる姿について明確にすることができる。（2時間）

2020/07/16(木)21:37

科 目 名	数学入門 [社介心子]			授業コード	6070011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	石塚 辰郎				

科目に関する キーワード	数的思考、基礎学力、リメディアル

到達目標	基礎的理解を深めることで数学に対する苦手意識を克服し、大学での学習／研究活動、アンケート集計、就職活動、社会人としての実務活動など、生活すべての面で数字を適切に取り扱えるようになる。			
授業の概要	大学での学習や研究活動を行うためには、基礎数学の知識は必須である。また、昔から庶民の基礎能力として「読み書き算盤が大切」と言われているように、社会生活をするうえでも最低限の数学知識がなければならない。しかし文系学生の場合は数学から離れて久しく、苦手科目とする学生が多くみられる。本講義では数学が特に苦手な学生を対象に、中学数学の復習から始め、大学の学習・研究活動や就職活動、さらには社会生活で必要となる基本的な算術／数学技術を学習する。また、与えられた数式を機械的に解くだけでなく、「原理を理解すること」と「考える力」を養うことを重視する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	基本的な解法を解説したのちに、自力で問題を解くことを繰り返していく。
評価方法 及び評価基準	レポート	中間テストおよび総合問題で80%、毎回の課題提出20%で評価を行う。		
フィードバック	授業内外での課題については、授業中に正答と解法を提示する。			
履修に際しての 注意事項	毎回、授業外での課題（復習プリント）が出されるのでこれを確実に行うこと。わからない事はそのままにしておかず、理解できるまで徹底的に考え、質問すること。そして必ず自分の「もの」にすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III							
IV						○	

V							

テキスト1	教科書は無く、プリント配付とする。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で、適時紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、実力テスト
事前	シラバスを確認し、基本計算、文章題、確率・統計、図形等について復習しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、解けなかったり間違えた問題を再度解き直し、理解を深めておくこと。(学修時間目安2.0時間)

2	数とは(数の原理、整数と小数、無理数)、加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、数に関する基本的なことを確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、数に関する基礎を身につけること。(学修時間目安2.0時間)

3	分数、小数、指数、文字式
事前	配布プリントを事前に読み、分数、小数、指数、文字式の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、分数、小数、指数、文字式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

4	比例と反比例、割合、比率(定価と売価、伸び率、%など)
事前	配布プリントを事前に読み、比例と反比例、割合、比率の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、比例と反比例、割合、比率について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

5	方程式、式の変形、多項式の加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、方程式、式の変形、多項式の加減乗除についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、方程式、式の変形、多項式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

6	倍数と公倍数、約数と公約数
事前	配布プリントを事前に読み、倍数と公倍数、約数と公約数についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、倍数と公倍数、約数と公約数について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

7	中間テスト
事前	1～6回目の授業内容を復習し、理解を深めておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、未解答、不正解の問題等について解き直し、十分に理解を深めること。(学修時間目安1.0時間)

8	単位(度量衡、距離／時間／速度、濃度／密度)
事前	配布プリントを事前に読み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

9	文章問題の練習1(単純な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、今まで身につけた数的な基礎力を用いて解く文章題についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)

事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、単純な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

10	文章問題の練習2(やや複雑な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、第9回の簡単な文章題と今回の複雑な文章題がどのようにちがうのかについて確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、複雑な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

11	連立方程式
事前	配布プリントを事前に読み、連立方程式についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、連立方程式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

12	場合の数と確率、統計
事前	配布プリントを事前に読み、場合の数と確率、統計についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、場合の数と確率、統計について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

13	図形問題1(平面図形)
事前	配布プリントを事前に読み、平面図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、平面図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

14	図形問題2(立体図形)
事前	配布プリントを事前に読み、立体図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、立体図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

15	総合問題に取り組む
事前	今までの配付プリントを整理し、まとめておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	授業で実施した総合問題について、解答出来なかった部分を授業プリント等で確認・復習しておくこと。(学修時間目安1.0時間)

2020/07/16(木)21:41

科 目 名	数学入門 [社介心子]			授業コード	6070021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	石塚 辰郎				

科目に関する キーワード	数的思考、基礎学力、リメディアル

到達目標	基礎的理解を深めることで数学に対する苦手意識を克服し、大学での学習／研究活動、アンケート集計、就職活動、社会人としての実務活動など、生活すべての面で数字を適切に取り扱えるようになる。			
授業の概要	大学での学習や研究活動を行うためには、基礎数学の知識は必須である。また、昔から庶民の基礎能力として「読み書き算盤が大切」と言われているように、社会生活をするうえでも最低限の数学知識がなければならない。しかし文系学生の場合は数学から離れて久しく、苦手科目とする学生が多くみられる。本講義では数学が特に苦手な学生を対象に、中学数学の復習から始め、大学の学習・研究活動や就職活動、さらには社会生活で必要となる基本的な算術／数学技術を学習する。また、与えられた数式を機械的に解くだけでなく、「原理を理解すること」と「考える力」を養うことを重視する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	基本的な解法を解説したのちに、自力で問題を解くことを繰り返していく。
評価方法 及び評価基準	レポート	中間テストおよび総合問題で80%、毎回の課題提出20%で評価を行う。		
フィードバック	授業内外での課題については、授業中に正答と解法を提示する。			
履修に際しての 注意事項	毎回、授業外での課題（復習プリント）が出されるのでこれを確実に行うこと。わからない事はそのままにしておかず、理解できるまで徹底的に考え、質問すること。そして必ず自分の「もの」にすること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III							
IV						○	

V							

テキスト1	教科書は無く、プリント配付とする。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で、適時紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、実力テスト
事前	シラバスを確認し、基本計算、文章題、確率・統計、図形等について復習しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、解けなかったり間違えた問題を再度解き直し、理解を深めておくこと。(学修時間目安2.0時間)

2	数とは(数の原理、整数と小数、無理数)、加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、数に関する基本的なことを確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、数に関する基礎を身につけること。(学修時間目安2.0時間)

3	分数、小数、指数、文字式
事前	配布プリントを事前に読み、分数、小数、指数、文字式の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、分数、小数、指数、文字式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

4	比例と反比例、割合、比率(定価と売価、伸び率、%など)
事前	配布プリントを事前に読み、比例と反比例、割合、比率の基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、比例と反比例、割合、比率について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

5	方程式、式の変形、多項式の加減乗除
事前	配布プリントを事前に読み、方程式、式の変形、多項式の加減乗除についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、方程式、式の変形、多項式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

6	倍数と公倍数、約数と公約数
事前	配布プリントを事前に読み、倍数と公倍数、約数と公約数についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、倍数と公倍数、約数と公約数について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

7	中間テスト
事前	1～6回目の授業内容を復習し、理解を深めておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	テスト内容を振り返り、未解答、不正解の問題等について解き直し、十分に理解を深めること。(学修時間目安1.0時間)

8	単位(度量衡、距離／時間／速度、濃度／密度)
事前	配布プリントを事前に読み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、距離・時間・速度、濃度・密度などの単位について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

9	文章問題の練習1(単純な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、今まで身につけた数的な基礎力を用いて解く文章題についての基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)

事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、単純な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

10	文章問題の練習2(やや複雑な問題)
事前	配布プリントを事前に読み、第9回の簡単な文章題と今回の複雑な文章題がどのようにちがうのかについて確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、配布する課題プリントに取り組み、複雑な文章題ついて十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

11	連立方程式
事前	配布プリントを事前に読み、連立方程式についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、連立方程式について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

12	場合の数と確率、統計
事前	配布プリントを事前に読み、場合の数と確率、統計についての基礎を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、場合の数と確率、統計について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

13	図形問題1(平面図形)
事前	配布プリントを事前に読み、平面図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、平面図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

14	図形問題2(立体図形)
事前	配布プリントを事前に読み、立体図形の種類や面積を求める公式などの基本を確認しておくこと。(学修時間目安2.0時間)
事後	授業内容をまとめるなどした上で、立体図形について十分理解を深めること。(学修時間目安2.0時間)

15	総合問題に取り組む
事前	今までの配付プリントを整理し、まとめておくこと。(学修時間目安3.0時間)
事後	授業で実施した総合問題について、解答出来なかった部分を授業プリント等で確認・復習しておくこと。(学修時間目安1.0時間)

2020/07/16(木)20:25

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [社]			授業コード	6080010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊藤 綾香				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:31

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [社]			授業コード	6080020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	伊藤 綾香				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)11:19

科 目 名	メディア文化論 [社]			授業コード	6080031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	伊藤 綾香				

科目に関するキーワード	メディア、リテラシー、文化、福祉広報、ポスター

到達目標	メディアからの情報を無批判、受動的に受け止めるのではなく、積極的に解釈・批判・評価する能力を身につけることができる。特に、メディアの情報を適切に取捨選択し、自らの評価軸を養うことを重視する。講義やアクティブ・ラーニングを通して、人間に必要な教養・素養を備え、広い視野で物事を捉えて主体的に学ぶことができるようになる。			
授業の概要	本授業では、講義やアクティブ・ラーニングを通してメディア・リテラシーについて学ぶ。メディアと文化のつながり、福祉広報活動、パブリック・リレーション、社会的コンテキストなど、様々なキーワードを通して、メディアの持つ効果やそれが人々や社会に与える影響について学ぶ。特に福祉広報については複数回の授業をあて、重点的に分析・考察を試みる。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	福祉広報に関するポスターを作成し、その内容を授業内で他の学生に向けて発表する。また、授業内で「メディア」という言葉の理解を深めるためのグループワークを行う。
評価方法及び評価基準	ポスター制作および最終レポート	授業内の課題および諸活動への取り組み（30%）、ポスター（20%）、最終レポート（50%）によって評価する。		
フィードバック	授業内で取り組む課題（ポスター）、最終レポートの作成方法については、授業内で解説します。			
履修に際しての注意事項				

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○		○		
II				○			
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜指定します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	メディア・リテラシーとは何か？
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

2	「メディア」の定義について
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

3	イメージの作られかた(社会的コンテクスト)
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

4	福祉広報1(概要)
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

5	福祉広報2(インターネット概論・ホームページ)
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

6	福祉広報3(ホームページの分析)
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

7	PR(パブリック・リレーションズ)について
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

8	声の文化と文字の文化
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。(学修時間2時間)
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。(学修時間2時間)

9	福祉ポスターをデザインしてみよう1 - テーマを決める
事前	好きな福祉ポスターを自分で選び、印刷・手配する。(学修時間1時間)
事後	自分で選んだポスターを模した福祉広報ポスターを作成する。授業内で完成しない場合は、事後学修の時間を適宜利用する。(学修時間3時間程度)

10	福祉ポスターをデザインしてみよう2 - 内容のアウトラインを考える
事前	前回の授業で示された資料などを参考に、不明な点について自分で調べる。(学修時間2時間程度)
事後	福祉広報ポスターを作成するにあたり、授業で説明した内容を確認する。(学修時間2時間程度)

11	福祉ポスターをデザインしてみよう3 - 伝わりやすい文言を考える
事前	前回の授業で示された資料などを参考に、不明な点について自分で調べる。(学修時間2時間程度)
事後	福祉広報ポスターを作成するにあたり、授業で説明した内容を確認する。(学修時間2時間程度)

12	福祉ポスターをデザインしてみよう4 - ユーザ・エクスペリエンスに配慮したレイアウト
事前	前回の授業で示された資料などを参考に、不明な点について自分で調べる。(学修時間2時間程度)
事後	福祉広報ポスターを作成するにあたり、授業で説明した内容を確認する。(学修時間2時間程度)

13	広報を実践する:広報活動の実際

事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。（学修時間2時間）
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。（学修時間2時間）

14	「文化」の話をしよう
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。（学修時間2時間）
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。（学修時間2時間）

15	まとめ・最終レポート提出
事前	シラバスに記載の内容を確認し、不明な点については授業前に自分で調べる。（学修時間2時間）
事後	授業で説明した内容・授業資料を確認し、不明な点については自分で調べる。（学修時間2時間）

2020/07/16(木)11:12

科 目 名	ソーシャルワークIII [社]			授業コード	6100012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	遠藤 建人				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ケアマネジメント、ケースマネジメント

到達目標	・個人と社会をめぐる様々な分野の知識や技能を習得し、相手とのコミュニケーションや多様な人々との協働の中での意思疎通に積極的に活用することができるようになる。 ・支援を必要としている人の話に耳をかたむけその人が抱えている生活問題を発見し、問題解決のプロセスにおいて必要に応じた社会資源の活用について判断し、助言することができるようになる。 ・利用者に対して、ケアマネジメントとは何か、説明することができるようになる。			
授業の概要	ケアマネジメントとは、利用者の持つ複数のニーズと複数の社会資源を適切に結びつけることによって、利用者の心身の安定を図る社会福祉の方法の一つである。 この授業では、ケアマネジメントの目的と成り立ち、構成要素、展開過程、ワーカーの留意点などについて、学んでいく。あわせて、ケアマネジメントに必要なネットワーキングについても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	適宜学生同士のディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	授業中に行われるディスカッションへの積極的参加やリアクションペーパー等(30%)、試験(70%) 受験資格は学則に規定されている通りである		
フィードバック	学生から受けた質問やコメントに対して授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	授業に主体的に出席できるように、予習、復習並びに日常的に問題意識を持つこと			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	社会福祉士養成テキスト『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション ケアマネジメントとは何か ソーシャルワークとケアマネジメントとの関連について
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』p.176-178を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

2	ケアマネジメントの目的
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 P.178－179を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

3	ケアマネジメントの機能
事前	社会福祉士養成テキスト『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』ミネルヴァ書房 p.179-185を熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

4	ケアマネジメントにおける社会資源
事前	参考文献の索引より「社会資源」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

5	ケアマネジメントの利用者
事前	参考文献の索引より「利用者」、「クライエント」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

6	ケアマネジメントとケアマネジャー
事前	ホームページ等でケアマネジャーの役割、養成課程について検索し、理解しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

7	ケアマネジメントの視点
事前	第1回から第6回までの事前学習の内容を復習する。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。授業内評価の準備をする。(2時間)

8	ケアマネジメントにおけるニーズ、授業内評価
事前	参考文献の索引より「ニード」、「ニーズ」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

9	ケアマネジメントの展開過程について (1)ケースの発見について
事前	各回のシラバスにある単語(キーワード)を参考文献の索引より検索し、該当ページを熟読しておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

10	ケアマネジメントの展開過程について (2)アセスメントについて
事前	参考文献の索引より「アセスメント」検索し、該当ページを熟読し、分からない語句の意味を調べておく。ソーシャルケースワークの

	展開過程と各過程の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

11	ケアマネジメントの展開過程について (3)ケアプランの作成について
事前	参考文献の索引より「ケアプラン作成」、「プランニング」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

12	ケアマネジメントの展開過程について (4)ケアプランの実施について
事前	参考文献の索引より「支援の実施」、「インターベンション」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

13	ケアマネジメントの展開過程について (5)モニタリングと評価について
事前	参考文献の索引より「モニタリング」、「評価」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

14	ネットワーキングについて
事前	参考文献の索引より「ネットワーク」、「ネットワーキング」、「連携」、「多職種連携」を検索し、該当ページを熟読し、分からない語句等の意味を調べておく。(2 時間)
事後	授業中に修得した新しい知識、情報については再度確認し、定着を図る。(2時間)

15	ケアマネジメントの復習
事前	ケアマネジメントとは何か、について自分の考えを表現できるよう準備する。(2 時間)
事後	15回の授業を振り返り、期末試験に備える。(2時間)

2020/07/16(木)11:11

科 目 名	スクールソーシャルワーク演習 [社心]			授業コード	6100021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	遠藤 建人				

科目に関する キーワード	スクールソーシャルワーク、一般システム論、生態学的視点、ストレングス、エンパワメント

到達目標	現代の学校教育の現場においては、いじめや不登校、暴力行為等児童生徒の行動上の問題が生じ、それによって児童生徒の学校生活への参加が阻害されているケースが多く存在する。 それらの行動上の問題が生じる背景には、児童虐待、貧困、孤立等に代表されるような家庭環境や社会構造上の問題が潜んでいるケースが少なくない。それらの改善に向け、学校-家庭-地域の連携・協働が希求され、その連携・協働を推進するのが、スクールソーシャルワーカーである。 本授業は、講義とグループワークを重ねることにより、学校をフィールドとしたソーシャルワーク実践に必要な知識および援助技術を習得し活用できるようになることを目的とする。			
授業の概要	学校をフィールドとしたソーシャルワークを展開していくうえで必要な知識と援助技術の習得・活用をねらいとし、以下の4点を到達目標とする。 ・個別のケースについて、生態学的視点や生活モデル、ストレングスモデルなどの理論に基づいたアセスメントができるようになる。 ・児童生徒にとっての環境となる学校や地域のアセスメントができるようになる。 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルのアプローチについて、理解し実践できるようになる。 ・学校におけるチームアプローチを推進できるようになる。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	・主に、少人数のグループにおいて、ディスカッション形式にて授業を行う。 ・すべての授業において、リアクションペーパーにて学びのふりかえりおよび質問等の受付を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価（30%） レポート（70%） ※授業内評価は、授業への参加姿勢や提出物の内容等を総合的に評価する。 ※受験資格は、学則に規定されている通り。		
フィードバック	学生から受けた質問やコメントに対して、授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	グループでの学習が主なため、やむを得ない事由がない限り、欠席や遅刻のないよう授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		

IV							
V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	門田光司『スクール（学校））ソーシャルワーク論』中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 学校におけるソーシャルワークの価値
事前	参考文献の第2章を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

2	一般システム論的視点
事前	参考文献の第5章第2節を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

3	生態学的視点
事前	参考文献の第5章第3節を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

4	ストレングスとエンパワメント
事前	参考文献の第5章第4～5節を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

5	ミクロ・メゾ・マクロアプローチ
事前	参考文献の第6章のうち、指定された箇所を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

6	社会資源とネットワーキング
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

7	ケースカンファレンス
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

8	ケースマネジメント
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

9	情報の管理および連携
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

10	記録
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

11	事例検討（1）不登校
事前	講師が事前に配布した事例を読み、アセスメントをしておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

12	事例検討（2）校内暴力
事前	講師が事前に配布した事例を読み、アセスメントをしておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

13	事例検討(3)いじめ
事前	講師が事前に配布した事例を読み、アセスメントをしておくこと(0.5 時間)。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること(0.5時間)。

14	事例検討(4)児童虐待
事前	講師が事前に配布した事例を読み、アセスメントをしておくこと(0.5 時間)。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること(0.5時間)。

15	事例検討(5)非行
事前	講師が事前に配布した事例を読み、アセスメントをしておくこと(0.5 時間)。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること(0.5時間)。

2020/07/16(木)11:19

科 目 名	スクールソーシャルワーク実習指導 [社心]			授業コード	6100041
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	遠藤 建人				

科目に関するキーワード	スクールソーシャルワーカー、学校教育、教育委員会、チーム学校
到達目標	いじめや不登校、暴力行為等児童生徒の行動上の問題の背景に潜む家庭環境や社会構造の課題の改善に当たっては、学校-家庭-地域の連携・協働が不可欠であり、その推進を志向するスクールソーシャルワーカーについては、福祉のみならず、教育についても十分な知識を備えていることが望まれる。 そのような意味において、これまで知識としての学校教育現場しか知り得ることができなかった社会福祉を学ぶ学生にとっては、実習を通して体験的に学ぶ機会に恵まれる価値は、非常に大きいといえよう。 本授業は、「スクールソーシャルワーク実習」が能動的な学びとなるよう、その前提としての学校教育現場およびその隣接領域に関する基礎知識を獲得することと並行して、履修生が個別に、また相互の学び合いを通して、実習課題を整理し、その課題を達成し得る実習計画を立てることを目的とする。
授業の概要	スクールソーシャルワーク実習における能動的な学びの実現をねらいとし、以下の3点を到達目標とする。 ・実習先となる学校教育現場や関係機関について理解することができる。 ・実習課題の設定ができる。 ・実習計画の作成ができる。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	実習課題票および実習計画書の作成に当たり、履修生間の相互の学びとなるよう、ディスカッション等も採り入れながら行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内評価（50%） レポート（50%） ※授業内評価は、授業への参加姿勢や提出物の内容等を総合的に評価する。 ※受験資格は、学則に規定されている通り。		
フィードバック	学生から受けた質問やコメントに対して、授業内でフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	・スクールソーシャルワーク論およびスクールソーシャルワーク演習の単位を取得した者に限り、履修可能とする。 ・実習先への提出物については、期限を厳守すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○			
IV		○					

V			○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	門田光司『スクール（学校））ソーシャルワーク論』中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション スクールソーシャルワーク実習に臨む目的・意義
事前	自分なりの実習に臨む目的・意義について考えを整理してくること（0.5 時間）。
事後	授業で得られた学びを踏まえて、自分なりの実習に臨む目的・意義について再度整理しておくこと（0.5時間）。

2	学校教育とは
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

3	児童生徒とは
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

4	保護者とは
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

5	教師と学校組織
事前	参考文献の第6章のうち、指定された箇所を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

6	教育委員会の役割と機能
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

7	地域のなかの学校
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

8	地域における社会資源
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

9	学校・家庭・地域の連携・協働
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5 時間）。
事後	授業を通して得られた学びを整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

10	実習先地域の理解（1）討論
事前	各自が居住する地域の特徴についてまとめてくること（0.5 時間）。
事後	授業を通しての学びを踏まえて、各自の実習先地域についてまとめてくること（0.5時間）。

11	実習先地域の理解（2）発表
事前	各自の実習先地域についてまとめてくること（0.5時間）。
事後	授業を通しての学びを踏まえて、各自の実習先地域についてのまとめを仕上げること（0.5時間）。

12	実習記録作成に向けて
事前	講師が事前に配布した資料を熟読しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を整理・確認し、定着を図ること（0.5時間）。

13	実習課題の明確化
事前	自身の実習課題について考察しまとめてくること（0.5時間）。

事後	授業を通しての学びを踏まえて、実習課題票を仕上げること(0.5時間)。

14	実習計画作成(1)討論
事前	自身の実習動機をまとめてくること(0.5時間)。
事後	授業を通しての学びを踏まえて、自身の実習目的をまとめてくること(0.5時間)。

15	実習計画作成(2)発表
事前	自身の実習目的を達成する実習計画を検討してくること(0.5時間)。
事後	授業を通しての学びを踏まえて、自身の実習計画書を仕上げてくること(0.5時間)。

2020/07/16(木)11:01

科 目 名	生活 [子]			授業コード	6110012
副 題	生活と遊び―子どもの育つ姿				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	大沢 裕				

科目に関するキーワード	乳幼児、遊び、生活習慣、保幼小接続
到達目標	・幼児期における遊びをはじめとした活動の意義について理解し、自然や社会との関係の中で子どもが育っていく環境の工夫・構成の考え方を理解できる。 ・具体的な活動に見られる幼児の試行錯誤や表現などの活動に対して、適切な支援の工夫をすることができる。 ・幼稚園・保育園と小学校との交流や小学校の入学期のスタートカリキュラムについて具体的な事例を学び、連携・交流を積極的に推進しようとする意欲をもつことができる。
授業の概要	幼児期は、「遊びを通して育つ」といわれるように、子どもは遊びを通して様々なことを学んでいる。しかし「遊び」だけが、子どもを成長させるわけではない。遊びを含む子どもの幼児期の生きる姿、それは「生活」である。子どもが生活の中で行う様々な活動の意味を再認識しつつ、一人ひとりのよさをのばす指導者のかかわりや役割を学ぶ。 また、幼稚園・保育所と小学校との交流の意義や幼稚園・保育園と小学校とを接続する入学期のスタートカリキュラムなどのあり方を学び、連続した子どもの育ち、その支援を考えていく。
授業方法	講義 / アクティブラーニング	
評価方法及び評価基準	レポート	授業毎の振り返りの記録 30%　授業時の課題 30%　授業外のレポート 40%
フィードバック	15回の授業のうち複数回課題を課すが、課題の達成具合を次回の授業においてフィードバックする。
履修に際しての注意事項	欠席時には、受講した学生から内容を聞いておくなど、講義内容や課題の把握に努め、次回の授業に臨むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1	『子どもと生活』　谷田貝公昭・大沢裕編著　一藝社	2020年3月末刊行のため、ISBN番号未定.
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの生活は主として遊び―「子どもの生活」を学ぶために
事前	自身が過ごした幼児期、児童期の生活を振り返り、ノートにまとめておくこと。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

2	「生活」とは何か？―基本的生活習慣をめぐって
事前	テキストの該当個所を読み、基本的生活習慣の意味を自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

3	生活活動と遊び―「遊び」とは何か？
事前	テキストの該当個所を読み、乳幼児の遊びの意味を自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

4	子どもの生活の動因―素質と環境の問題
事前	テキストの該当個所を読み、素質と環境との関係を自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

5	幼児の生活活動の展開
事前	テキストの該当個所を読み、乳幼児の生活活動の広がりについて、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

6	遊びの発達段階
事前	テキストの該当個所を読み、遊びの発達段階について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

7	望ましい経験としての「生活」―「保育内容」とは？
事前	テキストの該当個所を読み、保育内容の5領域について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

8	身近な自然を生かした保育内容
事前	テキストの該当個所を読み、乳幼児をとりまく「自然」の環境について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

9	生活活動の展開と保育内容
事前	テキストの該当個所を読み、保育内容5領域と乳幼児の生活との関係を、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

10	「生活」と保育の計画
事前	テキストの該当個所を読み、乳幼児の生活と保育の計画の関係について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

11	子どもの「生活」を高める保育方法
事前	テキストの該当個所を読み、保育方法と乳幼児の生活との関係を、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

12	ルソーの生活教育論―自然、人間、事物の教育
事前	J.J.ルソーの教育思想について、自分なりに下調べをし理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

13	幼保と小の接続へ向けて―円滑な生活活動の展開
事前	テキストの該当個所を読み、就学前の保育と就学後の教育との関係を、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

14	幼児教育と小学校「生活科」―スタートカリキュラム
事前	テキストの該当個所を読み、生活科とスタートカリキュラムの基本的意味について、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	授業で説明した諸概念をまとめ、理解すること。(2時間)

15	まとめ・総復習
事前	全14回の授業を振り返り、乳幼児期の子どもの生活のあり方について、自分なりにまとめ、整理してくること。(3時間)
事後	然授業で説明した諸概念をまとめ、総合的に理解すること。(3時間)

2020/07/16(木)20:41

科 目 名	児童心理学 [子]			授業コード	6130012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	岡田 啓子				

科目に関する キーワード	生涯発達理論、認知発達理論、愛着形成と社会性の発達、集団の中での育ち
到達目標	発達心理学を学ぶにあたって基本的な知識となる「心理社会的発達理論」「認知発達理論」について説明することができ、また、それを実際の子どもの行動と照らし合わせて理解できるようになる。 乳児期～青年期にかけての発達課題について十分に理解し、各段階における留意点についても説明することができる。 幼児期から児童期にかけて生じやすい仲間関係での葛藤の原因について複数の要因を挙げることができ、その対応策について具体的に考えることができる。
授業の概要	ヒトの一生は胎児期から始まり、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と変化の連続である。 それぞれの発達期にはそれぞれの発達課題があり、それをこなしていく過程が発達そのものであるという考え方が台頭し、発達心理学はまさに人間の生涯を対象とする生涯発達心理学であるといえよう。 しかしながら、最も変化が著しく、自己同一性の基盤を形成するのは、人生の初期である乳幼児～児童期であることに変わりない。 本講では、乳幼児期の発達の過程を愛着や社会認知能力を中心に据えて詳細に検討するとともに、この時期にはどのような発達課題が存在し、それを達成していくことがその後の発達にどのようにつながっていくかを学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブラーニング ○ / 理解度を確認するため、小テストを実施し、当日解説を行う。また、誤答が多く見受けられた部分については返却時にフィードバックを行う。
評価方法 及び評価基準	試験 / 授業レポート（15%）、リアクションペーパー（5%）、授業内に実施する小テスト（20%）、期末試験（60%）で総合的に評価する。
フィードバック	講義内容の理解の定着を図るため、小テストを2回実施する。 なお、小テストは実施当日に解説を行い、フィードバックを行う。
履修に際しての 注意事項	遅刻・欠席をしないこと（連続する内容を扱うため、事象を理解することが難しくなるため） 期末試験は小テストをベースとしているため、事後学習を十分に行うこと。 授業内レポート作成では教科書を使用するため、必ず準備すること。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○		○		
III							
IV							

V							

テキスト1	「子どものこころ－児童心理学入門－」桜井 茂男, 向井 隆代, 浜口 佳和著　有斐閣アルマ	4-641-12193-1
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	スタンダード発達心理学 (ライブラリスタンダード心理学)　松井 豊 (監修), 櫻井 茂男 (編集), 佐藤 有耕 (編集)　サイエンス社 その他、授業内で適宜指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス／発達を規定する要因
事前	テキスト第1章(p.3-19)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（1時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

2	認知発達～自分を取り巻く世界の認識：ピアジェ理論
事前	テキスト第5章2(p.89-95)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること。特にピアジェ理論についてはその発達の順番や内容についても図表を見直して、理解を深めておくこと（1時間）

3	認知発達～自分を取り巻く世界の認識：共同注意と三項関係の成立／ことばの獲得
事前	テキスト第4章(p.68-79）を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること。テキストの記載がない部分については、レジュメを参考に前言語的コミュニケーションから指さし、言語の獲得までの一連の経緯と獲得時期までを整理しておくこと（1時間）

4	愛着形成とその発達
事前	テキスト第9章(p.160-166）を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（2時間）

5	対人関係の発達～自分を取り巻く人々との関わり
事前	前回の授業で取り扱ったストレンジシチュエーション法の分類とAAIの分類との関連について、自分なりに整理しておくこと。テキスト第9章2(p.167-169)、第10章5(p.192-196)までを読み、理解しておくこと。(2時間)
事後	授業内で視聴した動画に関して、指示に従って自分の意見をまとめること（2時間）

6	対人関係の発達～家族の問題・虐待と愛着障害
事前	第14章(p.258-274)までを読み、理解しておくこと（2時間）
事後	第4～6回までの授業を自分なりに整理し、愛着が子どもにもたらす影響とは何か、自分なりに論ずることができるようになること。また、保護者の支援に何ができるかについても、直接的および間接的な支援それぞれについて提案できるように整理すること(2時間)

7	記憶～覚えること、記憶の種類
事前	テキスト第6章1(p.104-113)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

8	確認テスト①（第1～7回）と前半の復習
事前	試験範囲のプリントの復習とテキストの該当箇所を熟読し、理解すること（4時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、記述・論述問題の整理をテキストやレジュメを利用して行うこと（4時間）

9	学習と動機づけ、原因帰属理論、達成動機付け
事前	テキスト第7章2(p.121-142)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	授業内で視聴した動画に関して、自分なりの見立てを立てて内容を整理すること。レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

10	パーソナリティと自己効力感・自尊感情
事前	テキスト第8章3(p.149-158)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

11	自己の発達～自分自身を知ること、性同一性と性役割の獲得
事前	テキスト第8章2(p.143-148)、第11章を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

12	社会性の獲得～向社会的行動と集団力動
事前	テキスト第10章(p.177-192)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること（1時間）

13	IQと軽度発達障害～知的能力障害、AD/HD、ASD、LD
事前	テキスト第15章(p.275-300)を読み、太字ゴシックになっている用語について自分なりに理解してくること（2時間）
事後	レジュメに記載した用語の概念について、テキストと照らし合わせを行い、自分なりの言葉でまとめることができるようにすること。特に各障害の特徴についての理解を深めるため、DSM-5での診断基準も目を通しておくことが望ましい（1時間）

14	授業内レポートの作成／発達障害に起因する2次障害
事前	第13回の授業内にて、授業内レポートの対象となる用語を示す。各用語について索引を利用し、その用語だけではなく、対比される概念や類似概念についても説明できるよう、テキストを十分に読み込んでくること(3時間)
事後	授業内レポートを作成できなかった部分については、授業内で配布する解答例をもとに、自分なりの言葉でまとめられるようにすること。／二次障害に関してはレジュメを中心に見直しを行うこと（3時間）

15	確認テスト②（第9～14回）と前半の復習
事前	試験範囲のプリントの復習とテキストの該当箇所を熟読し、理解すること（4時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、記述・論述問題の整理をテキストやレジュメを利用して行うこと／期末試験に向け、小テスト①での解説も併せて見直しておくこと（4時間）

2020/07/16(木)20:45

科 目 名	障害児保育II [子]			授業コード	6130021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	岡田 啓子				

科目に関する キーワード	インテグレーション教育と合理的配慮・軽度発達障害・保護者への支援・他機関との連携

到達目標	事例検討などの演習を通じ、障害児にとって適切な保育計画を自ら立案することができる。 子どもが示す問題行動がなぜ生ずるのか、原因を知識に基づいて推測し、具体的な対応を示すことがげきる力を身につける。 小グループでの事例検討においては、自分の考えを過不足なく伝え、かつ、相手の考えも尊重したやりとりができるよう、身近な他者との適切なコミュニケーションが身につくことを目指す。			
授業の概要	障害児保育の実践では保育者の障害児（者）観が非常に大切である。そのため、障害児教育の歴史から障害観の変遷を学ぶことや障害児保育実践の映像を通して考えることを通して、障害に関しての自身の捉え方を明らかにする。 また、知的障害や軽度発達障害等様々な障害特性および個々の特性に応じた適切な援助の方法について学ぶことを主眼とする。特別な発達的ニーズに即した指導を実現するために個別指導計画等を立案を通じて、障害児と健常児が共に育ちあう保育実践とは何かを考えたい。計画立案はグループ討議を通じて行い、その経験から自らの考えを適切にまとめ、周囲に伝わるような表現ができる力を身につけることも目指す。さらに、障害児と健常児を含めたクラス運営のあり方や、障害児をもつ親の心情を理解しその悩みに添うなどの家族支援や他機関との連携についても学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	4名前後のグループで配布された事例について検討を行う。事例は問題行動の見立てとその対応をグループの代表者に発表してもらい、教員に提出後にフィードバックをして返却する。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内における事例検討への参加・発表および事例検討シートの提出（20%）、授業内に実施する小テスト（30%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。		
フィードバック	基本的には講義形式で行うが、事例検討についてはグループワークを実施する。 グループでの検討した内容をシートにまとめ、教員に提出し、その内容について良い点、改善点ともにコメントし、返却を行う。 講義内容の理解の定着を図るため、小テストを2回実施する。なお、小テストは実施日に解説を行い、フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	障害児保育Ｉの内容を十分に理解した上で履修すること。 履修希望者は初回のオリエンテーションにも必ず出席すること。 グループでの話し合いを行うため、遅刻・欠席をしないように努めること。 試験は小テストをベースとしているため、事後学習を十分に行うこと。 実習だけでなく、ボランテイア等によって日頃から障害児（者）と関わる機会を積極的に持ってほしい。 授業中に行うグループクークにも積極的に参加し、学生同士で学びを深めてもらいたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III					○		
IV							○
V			○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	発達が気になる子の個別の指導計画　Gakken保育Books,2013 これからの発達障害のアセスメント　金子書房,2015 子どものとかかわる力を培う　実践・発達心理学ワークブック　みらい,2013 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他授業内にて適宜指示します	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障害児保育を考える視座（オリエンテーションを含む）／障害観の変遷及び障害児教育・障害児保育の歴史
事前	障害児保育Ⅰで学んだ「インクルーシブ教育」「合理的配慮」の内容を復習しておくこと（0.25時間）
事後	害児保育の形態、合理的配慮、ダンピングなどキーワードをレジュメに沿って見直すこと（0.25時間）

2	障害児保育における学級経営／問題行動の原因を考える1～子どもの意図
事前	レスポンデント条件付け・オペラント条件付け・観察学習について復習しておくこと（0.25時間）
事後	問題行動の背景にある子どもの意図とは何か、レジュメに沿って整理すること（0.25時間）

3	問題行動の原因を考える2～記録の目的
事前	保育所保育指針に基づいて指導計画を立案するにあたって、留意すべき点とはなにか見直しておくこと（0.25時間）
事後	目的に沿った形の指導計画案やその記載法について整理しておくこと（0.25時間）

4	視覚障害・聴覚障害・肢体不自由の理解と援助
事前	事例を読み、障害によって生ずる経験不足とは何か、自分なりに考えてくること（0.25時間）
事後	授業内にて配布した事例について、自分の意見をまとめておくこと（0.25時間）

5	ことばの発達
事前	発達のマイルストーンや遊びの発達について、見直しておくこと（0.5時間）
事後	ことばの獲得がもたらす相互交渉の質的な変化について、レジュメをもとにまとめておくこと（0.5時間）

6	知的障害の理解と援助
事前	知能指数についての定義を理解しておくこと。授業内にて配布した事例を読んでおくこと（0.25時間）
事後	授業内で示した事例について、授業内で示されたまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

7	小テスト1（第1～6回まで）と解説／発達障害の子どもがもつ不器用さ
事前	試験範囲のレジュメの復習と見直し、事例についての自分なりのまとめを行うこと（1時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、事例の整理を行うこと（1 時間）

8	注意欠陥多動性障害（AD/HD）・学習障害（LD）の理解
事前	DSM-5における注意欠陥多動性障害（AD/HD）と限局性学習障害（LD）の診断基準を読んでおくこと（0.25時間）
事後	幼児期における注意欠陥多動性障害（AD/HD）および、限局性学習障害（LD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）

9	注意欠陥多動性障害（AD/HD）・学習障害（LD）の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

10	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解
事前	幼児期における自閉症スペクトラム障害（ASD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）
事後	幼児期における自閉症スペクトラム障害（ASD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）

11	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

12	重複障害の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

13	保護者や家族に対する理解と支援（障害受容）
事前	保護者が障害を疑う場面とはどのようなものがあるか、障害を告知されたときに生ずる不安にはどのようなものがあるか、自分なりに考えてくること（0.25時間）
事後	「悲嘆のプロセス」「喪の作業」「対象喪失」「きょうだい児」について自分なりに説明できるよう、見直しをしておくこと（0.25時間）

14	専門機関との連携・小学校との連携と引き継ぎ
事前	法定健診の目的と実施項目について、調べておくこと（0.5時間）
事後	在園中の専門機関との連携における留意点（対機関・対家庭）や保幼小連携時に必要な情報とは何かを示せるようにすること（0.5 時間）

15	小テスト2（第8～14回）
事前	試験範囲のレジュメの復習と見直し、事例についての自分なりのまとめを行うこと（1時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、事例の整理を行うこと（1 時間）

2020/07/16(木)20:48

科 目 名	障害児保育II [子]			授業コード	6130031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	岡田 啓子				

科目に関する キーワード	インテグレーション教育と合理的配慮・軽度発達障害・保護者への支援・他機関との連携

到達目標	事例検討などの演習を通じ、障害児にとって適切な保育計画を自ら立案することができる。 子どもが示す問題行動がなぜ生ずるのか、原因を知識に基づいて推測し、具体的な対応を示すことがげきる力を身につける。 小グループでの事例検討においては、自分の考えを過不足なく伝え、かつ、相手の考えも尊重したやりとりができるよう、身近な他者との適切なコミュニケーションが身につくことを目指す。			
授業の概要	障害児保育の実践では保育者の障害児（者）観が非常に大切である。そのため、障害児教育の歴史から障害観の変遷を学ぶことや障害児保育実践の映像を通して考えることを通して、障害に関しての自身の捉え方を明らかにする。 また、知的障害や軽度発達障害等様々な障害特性および個々の特性に応じた適切な援助の方法について学ぶことを主眼とする。特別な発達的ニーズに即した指導を実現するために個別指導計画等を立案を通じて、障害児と健常児が共に育ちあう保育実践とは何かを考えたい。計画立案はグループ討議を通じて行い、その経験から自らの考えを適切にまとめ、周囲に伝わるような表現ができる力を身につけることも目指す。さらに、障害児と健常児を含めたクラス運営のあり方や、障害児をもつ親の心情を理解しその悩みに添うなどの家族支援や他機関との連携についても学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	4名前後のグループで配布された事例について検討を行う。事例は問題行動の見立てとその対応をグループの代表者に発表してもらい、教員に提出後にフィードバックをして返却する。
評価方法 及び評価基準	試験	授業内における事例検討への参加・発表および事例検討シートの提出（20%）、授業内に実施する小テスト（30%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。		
フィードバック	基本的には講義形式で行うが、事例検討についてはグループワークを実施する。 グループでの検討した内容をシートにまとめ、教員に提出し、その内容について良い点、改善点ともにコメントし、返却を行う。 講義内容の理解の定着を図るため、小テストを2回実施する。なお、小テストは実施日に解説を行い、フィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	障害児保育Ｉの内容を十分に理解した上で履修すること。 履修希望者は初回のオリエンテーションにも必ず出席すること。 グループでの話し合いを行うため、遅刻・欠席をしないように努めること。 試験は小テストをベースとしているため、事後学習を十分に行うこと。 実習だけでなく、ボランテイア等によって日頃から障害児（者）と関わる機会を積極的に持ってほしい。 授業中に行うグループクークにも積極的に参加し、学生同士で学びを深めてもらいたい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							

III					○		
IV							○
V			○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	発達が気になる子の個別の指導計画　Gakken保育Books,2013 これからの発達障害のアセスメント　金子書房,2015 子どものとかかわる力を培う　実践・発達心理学ワークブック　みらい,2013 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018 その他授業内にて適宜指示します	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障害児保育を考える視座（オリエンテーションを含む）／障害観の変遷及び障害児教育・障害児保育の歴史
事前	障害児保育Ⅰで学んだ「インクルーシブ教育」「合理的配慮」の内容を復習しておくこと（0.25時間）
事後	害児保育の形態、合理的配慮、ダンピングなどキーワードをレジュメに沿って見直すこと（0.25時間）

2	障害児保育における学級経営／問題行動の原因を考える1～子どもの意図
事前	レスポンデント条件付け・オペラント条件付け・観察学習について復習しておくこと（0.25時間）
事後	問題行動の背景にある子どもの意図とは何か、レジュメに沿って整理すること（0.25時間）

3	問題行動の原因を考える2～記録の目的
事前	保育所保育指針に基づいて指導計画を立案するにあたって、留意すべき点とはなにか見直しておくこと（0.25時間）
事後	目的に沿った形の指導計画案やその記載法について整理しておくこと（0.25時間）

4	視覚障害・聴覚障害・肢体不自由の理解と援助
事前	事例を読み、障害によって生ずる経験不足とは何か、自分なりに考えてくること（0.25時間）
事後	授業内にて配布した事例について、自分の意見をまとめておくこと（0.25時間）

5	ことばの発達
事前	発達のマイルストーンや遊びの発達について、見直しておくこと（0.5時間）
事後	ことばの獲得がもたらす相互交渉の質的な変化について、レジュメをもとにまとめておくこと（0.5時間）

6	知的障害の理解と援助
事前	知能指数についての定義を理解しておくこと。授業内にて配布した事例を読んでおくこと（0.25時間）
事後	授業内で示した事例について、授業内で示されたまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

7	小テスト1（第1～6回まで）と解説／発達障害の子どもがもつ不器用さ
事前	試験範囲のレジュメの復習と見直し、事例についての自分なりのまとめを行うこと（1時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、事例の整理を行うこと（1 時間）

8	注意欠陥多動性障害（AD/HD）・学習障害（LD）の理解
事前	DSM-5における注意欠陥多動性障害（AD/HD）と限局性学習障害（LD）の診断基準を読んでおくこと（0.25時間）
事後	幼児期における注意欠陥多動性障害（AD/HD）および、限局性学習障害（LD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）

9	注意欠陥多動性障害（AD/HD）・学習障害（LD）の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

10	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解
事前	幼児期における自閉症スペクトラム障害（ASD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）
事後	幼児期における自閉症スペクトラム障害（ASD）の行動特徴についてレジュメを見直しておくこと（0.25時間）

11	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

12	重複障害の理解と援助
事前	授業内で配布した事例を読み、見立て・対応・必要な期間について自身の考えを整理し、次回のグループワークで話せるようにしておくこと（0.75時間）
事後	授業内で示した事例について、自身のグループや他グループのまとめを自分だけで行ったまとめと比較し、不足していた視点を明確化しておくこと（0.75時間）

13	保護者や家族に対する理解と支援（障害受容）
事前	保護者が障害を疑う場面とはどのようなものがあるか、障害を告知されたときに生ずる不安にはどのようなものがあるか、自分なりに考えてくること（0.25時間）
事後	「悲嘆のプロセス」「喪の作業」「対象喪失」「きょうだい児」について自分なりに説明できるよう、見直しをしておくこと（0.25時間）

14	専門機関との連携・小学校との連携と引き継ぎ
事前	法定健診の目的と実施項目について、調べておくこと（0.5時間）
事後	在園中の専門機関との連携における留意点（対機関・対家庭）や保幼小連携時に必要な情報とは何かを示せるようにすること（0.5 時間）

15	小テスト2（第8～14回）
事前	試験範囲のレジュメの復習と見直し、事例についての自分なりのまとめを行うこと（1時間）
事後	授業内での解説をもとに、解答できなかった問題の見直し、事例の整理を行うこと（1 時間）

2020/07/16(木)10:40

科 目 名	心理統計法 [心]			授業コード	6140011
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	奥田 訓子				
指導健康心理士、公認心理師として、企業、施設、研究所等で、メンタルヘルス等の諸問題を統計的な手法を用いて研究している教員が担当している。					

科目に関するキーワード	心理統計 データ 検定 量的検証 仮説検証
到達目標	1. データから人の行動を理解する意味を理解する。 2. 統計の基礎知識を習得すること。 3. 分析方法：群間の比較(t検定、分散分析)、カテゴリー間の関連(相関)については、実際に活用できるようになること。 4. 卒業論文等で統計手法を活用し、研究することができるようになること。
授業の概要	心理学では、人の行動をデータ化し、分析することにより、客観的に人の心を理解しようと試みる。したがってこの授業では、人の心(行動)を数量化し、分析することの意味や意義を理解できるよう、心理統計の基本的な考え方と方法をできるだけ分かりやすく説明する。 また、実際にアンケートを作成し、演習を通して人の行動を測定し、分析することを体験する。 分析には統計分析ソフトとしてExcelやSPSSを利用し、自身の課題にも実際に使えるようにする。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワークにて統計練習用のアンケート(心理尺度)を作成し、データを取り、学んだ統計手法を用いて検証する。
評価方法及び評価基準	レポート	各単元で実施する小テスト(30%)、演習課題(30%)、期末レポート(40%)で評価を行う。		
フィードバック	各単元での小テストはその日、または、次回授業の冒頭で答え合わせと解説を行う。演習では、個々の質問を受けながら取り組んでもらい、質問の多かった項目については、開設用の補足資料を配布、またはでんでんばんを通じて開示する。			
履修に際しての注意事項	統計ソフト(SPSS)を操作するにあたり、Excelの基本的な操作ができることが望ましい。Excelの操作に自信がなくても受講できるが、できるだけたくさん操作する機会を設けるなど、各自の習得度合により各自努力すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							
IV							

V				○			

テキスト1	向後千春, 富永敦子 統計学がわかる ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学 技術評論社	9784774131900
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	山田剛史 村井潤一郎 「よくわかる心理統計」 ミネルヴァ書房 ISBN9784623039999	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心を数量的に把握することとその意義
事前	テキストの該当箇所を読み、分かりづらい個所などをノートに書きだしておく(およそ0.5時間)
事後	授業で学んだ重要語句を整理し、説明できるよう、理解する。(およそ1.0時間)

2	データ解析の考え方と基本知識
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく(およそ1.0時間)
事後	授業で学んだ重要語句を整理し、説明できるよう、理解する。(およそ1.0時間)

3	変数の理解:心理テストで測っているもの
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく(およそ1.0時間)
事後	授業で学んだ重要語句を整理し、説明できるよう、理解する。(およそ1.0時間)

4	データの種類と特徴:平均や標準偏差、代表値
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく(およそ1.0時間)
事後	授業で学んだ重要語句を整理し、説明できるよう、理解する。(およそ1.0時間)

5	統計的仮説検定について
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく(およそ1.0時間)
事後	授業で学んだ重要語句を整理し、説明できるよう、理解する。(およそ1.0時間)

6	検定方法:2群間の変数の比較検定(t検定)
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

7	t検定の練習
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 10回目以降は、授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

8	検定方法:3群間以上の変数の比較検定(分散分析)
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

9	分散分析の練習
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)

事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

10	変数間の関連の検討：相関係数と算出の仕方
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

11	SPSS操作演習：データの入力、エクセルファイルからのインポート
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	小テストの見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

12	SPSS操作演習：t検定
事前	前回授業より、理解が曖昧な部分などをノートに書きだし、調べ学習や質問にまとめておく.。また、授業で取り組んだ練習問題を改めて自分で解いてみる。(およそ1.5時間)
事後	練習問題の見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

13	SPSSの操作演習：分散分析
事前	前回授業で操作した手順を、一通り自分で実践してみる。(およそ1.0時間)
事後	練習問題の見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

14	SPSSの操作演習：相関
事前	前回授業で操作した手順を、一通り自分で実践してみる。(およそ1.0時間)
事後	練習問題の見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 授業内で取り扱ったデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、一通り自分で動かしてみること(およそ1時間)。 その他、Excelの操作方法に不安のあるものは、データ入力や基本的な関数の使用方法も練習してくること(任意)。

15	SPSSの操作演習：総合演習
事前	前回授業で操作した手順を、一通り自分で実践してみる。(およそ1.0時間)
事後	練習問題の見直しと授業内で取り組んだ課題の復習(およそ0.5時間)。 課題用に準備したデータを用いてデータ処理、分析方法をExcelやSPSSを使って、課題に取り組むこと(およそ2時間)。

2020/07/16(木)22:20

科 目 名	地理学 [心]			授業コード	6150011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	小倉 拓郎				

科目に関する キーワード	地理学, 人文地理学, 自然地理学, 地誌学, 地理教育

到達目標	・地理学（自然地理学，人文地理学，地誌学）の基礎的な知識を身に付けることができる. ・中学校社会科地理的分野の教科書の内容について分析・利活用できる. ・授業を行う際に必要な手法（アクティブラーニングなど）を利用することができる.			
授業の概要	本講義は中学校社会科の教員免許を取得するために必要な科目です. 地理学（自然地理学，人文地理学，地誌学）の基礎的な内容について理解することを目的とします. その上で，適宜中学校・高等学校の教授内容を確認しながら，実際に学校現場で地理学をどう教えればよいのか，内容の取扱い方について学びます. さらに，地理学の内容を教えることに必要な基礎的な技能・手法を，講義，アクティブラーニング（グループワーク，ディスカッション，ポスターツアー）などを通して体系的に身に付けます.			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワーク, ポスターツアー, ディスカッション, Google Formを 利用した授業後アンケート
評価方法 及び評価基準	試験およびレポート	※講義には，3分の2以上の出席を必要とします. 期末試験 60% グループワーク等の評価 40%（教科書分析小レポート 10% × 3回，ポスターツアー 10%）		
フィードバック	必要に応じて，レポートやリアクションペーパーの内容や体裁についてのフィードバックを実施します.			
履修に際しての 注意事項	・開講日程に注意してください。 ・高等学校で地理学を学習していない学生が多い現状です。 わかりやすい講義を心掛けます。ご安心ください。 ・本講義は，中学校教諭一種免許状（社会）取得希望者においては，必修科目となります. そのため，教員養成を意識した授業科目の構成を心掛けています. 教員免許取得者以外の学生も履修の受け入れを行いますが，その点を留意していただきたいです. ・テキストは，4冊全て必ず購入してください（昨年度からの変更点）. 授業やレポート作成に使用します. ・質問等あれば、メールにて対応いたします。ご連絡ください。 takuogu＊csis.u-tokyo.ac.jp（＊を@に変えてください。） ・researchmap（https://researchmap.jp/geoguraphy/）			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7

I				○			
II				○			
III				○			
IV							
V							

テキスト1	『新編 新しい社会 地理』 矢ケ崎典隆ほか, 東京書籍	978-4487122318
テキスト2	『中学社会 地理 地域にまなぶ』 竹内裕一ほか, 教育出版	978-4316203102
テキスト3	『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』 谷内 達ほか, 帝国書院 『中学社会 地理的分野』 水内俊雄ほか, 日本文教出版	978-4807161690 978-4536181013
参考文献	①『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省 ②『小学生に教える「地理」—先生のための最低限ガイド』 荒木一視ほか, ナカニシヤ出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション:「地理学」とは何か？ ｷｰﾜｰﾄﾞ:自然地理学・人文地理学・地誌学
事前	これまで受けてきた「地理学」に関する教育について振り返ってみる. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

2	第1部・自然地理学:世界と日本の地形 ｷｰﾜｰﾄﾞ:プレートテクトニクス・火山の分布・侵食
事前	教科書の「地形」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

3	第1部・自然地理学:世界と日本の気候区分 ｷｰﾜｰﾄﾞ:ケッペンの気候区分・大気の大循環
事前	教科書の「気候」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

4	第1部・自然地理学:自然災害と防災・減災 ｷｰﾜｰﾄﾞ:地震災害・気象災害・ハザードマップ
事前	教科書の「自然環境と防災」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. 住んでいる地域のハザードマップを確認する. (2時間)

5	第1部・自然地理学:自然地理学分野の中学校教科書での取り扱い ｷｰﾜｰﾄﾞ:教科書
事前	第2回～第4回の学習内容について確認する. (2時間)
事後	レポート課題①中学校の教科書における自然地理学の学習内容について整理する. (2時間)

6	第2部・人文地理学:都市の成り立ち ｷｰﾜｰﾄﾞ:バージェス・都市の内部構造
事前	教科書の「都市のなりたち」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

7	第2部・人文地理学:農業と食のネットワーク ｷｰﾜｰﾄﾞ:フードシステム・食のグローバル化
事前	教科書の「日本の農業」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

8	第2部・人文地理学:工業立地変動のメカニズムと地域構造 ｷｰﾜｰﾄﾞ:工業立地・ウェーバー
事前	教科書の「日本の工業」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

9	第2部・人文地理学:人文地理学分野の中学校教科書での取り扱い ｷｰﾜｰﾄﾞ:教科書
事前	第6回～第8回の学習内容について確認する. (2時間)
事後	レポート②中学校の教科書における人文地理学の学習内容について整理する. (2時間)

10	第3部・地誌学(世界地誌):東アジア地誌 ｷｰﾜｰﾄﾞ:中国・韓国・経済成長
事前	教科書の「東アジアの地誌」の単元を読んでおく. (2時間)
事後	教科書やレジュメを見直す. (2時間)

11	第3部・地誌学(世界地誌):アメリカ地誌 ｷｰﾜｰﾄﾞ:アメリカ・メキシコ・貿易

事前	教科書の「アメリカ」の単元を読んでおく．（2時間）
事後	教科書やレジュメを見直す．（2時間）

12	第3部・地誌学（日本地誌）：地域とジオパーク キーワード：ジオパーク・地域資源活用
事前	日本のジオパークについてインターネットで検索する．（2時間）
事後	教科書やレジュメを見直す．（2時間）

13	第3部・地誌学：地誌学分野の中学校教科書での取り扱い キーワード：教科書
事前	第10回～第12回の学習内容について確認する．（2時間）
事後	レポート③中学校の教科書における地誌学の学習内容について整理する．（2時間）

14	第4部・まとめ：地理情報システム（GIS）の活用・実践／ポスターツアーの準備 キーワード：GIS
事前	「地理院地図」と検索し，実際に使用してみる．（2時間）
事後	教科書やレジュメを見直す．（2時間）

15	第4部・まとめ：ポスターツアー・学んだ内容を整理しよう キーワード：ポスターツアー・アクティブラーニング
事前	これまでの学習内容を整理する．（2時間）
事後	期末試験に向けてこれまでの学習内容を整理する．（2時間）

2020/07/16(木)11:13

科 目 名	生徒指導論 [心]			授業コード	6160012
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	小澤 昌之				

科目に関する キーワード	生徒指導、学習指導、教育問題、地域との連携

到達目標	生徒指導は学校教育目標を達成する上で重要だが、価値観の多様化や生活の乱れにより、生徒指導をめぐる課題はいっそう複雑化し、その指導は難しくなってきている。本授業では、生徒指導の基本的内容や指導方法などについて実践的に学びながら、生徒指導の基礎的な能力を身につけ、問題解決に向けて必要なエッセンスを習得する。			
授業の概要	①一人一人の児童生徒の人格を理解し、個性の伸長を図りながら、社会的資質・行動力を高めるという生徒指導に関する基本原理を理解する。②生徒指導体制と教育相談体制に関する基本的な考え方を理解する。③基礎的な生活習慣や規範意識の醸成だけでなく、暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導の現状や課題に対して興味・関心をもつ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の単元によっては討論形式や発表形式をとり、受講者が資料を作成し、調べた成果を発表する機会を設ける。
評価方法 及び評価基準	試験	授業への参加状況（30%）、定期試験（70%）の総合評価		
フィードバック	授業では毎回コメントカードを配布し、授業の意見・感想などを記入する。次の授業では、コメントカードの記入内容をもとに、フォローアップやフィードバックを実施する。			
履修に際しての 注意事項	生徒指導は現代の教育問題と密接に関わるため、新聞やネット、テレビなどで紹介されている生徒指導に関連する記事を読むなど、生徒指導にかかわる問題に関心をもっておくことが望ましい。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III	○						
IV							

V	○						

テキスト1	特になし（授業担当者が資料を配布）。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	黒川雅子・山田知代・坂田仰編『生徒指導・進路指導論』教育開発研究所、2019年 岩城孝次・森嶋昭伸編『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房、2008年 広岡義之編『教育実践で役に立つ生徒指導・進路指導論』あいり出版、2013年 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：生徒指導とは何か？
事前	新聞やインターネット、もしくは様々な媒体で流れるニュースなどをもとに、日常生活で感じる生徒指導にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

2	生徒指導をめぐる現状
事前	新聞やインターネット、もしくは様々な媒体で流れるニュースなどをもとに、日常生活で感じる生徒指導にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

3	生徒指導の原理：学習指導要領
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、日常生活で感じる生徒指導にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

4	生徒指導の理論：教師－生徒関係と生徒理解の方法
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、生徒―教師関係にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

5	生徒指導と学級経営
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、生徒指導と学校経営にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

6	生徒指導と教員間の連携
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、生徒指導にかかわる教員連携の疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

7	教育行政的視点からみた生徒指導のあり方
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、教育行政と生徒指導の関連性にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

8	生徒指導・問題行動に向けたアプローチ①（いじめ・不登校）
事前	新聞やインターネット・テレビでのニュース、配布資料や参考書などをもとに、いじめ・不登校にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

9	生徒指導・問題行動に向けたアプローチ②（校則、校内暴力・少年犯罪）
事前	新聞やインターネット・テレビでのニュース、配布資料や参考書などをもとに、校則や少年犯罪・少年非行にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

10	生徒指導・問題行動に向けたアプローチ③（児童虐待・家庭問題）
事前	新聞やインターネット・テレビでのニュース、配布資料や参考書などをもとに、児童虐待や家庭問題にかかわる疑問点を明確にしておくこと。（2時間）
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。（2時間）

11	生徒指導・問題行動に向けたアプローチ④（子どもの貧困）

事前	新聞やインターネット・テレビでのニュース、配布資料や参考書などをもとに、子どもの貧困にかかわる疑問点を明確にしておくこと。(2時間)
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。(2時間)

12	生徒指導・問題行動に向けたアプローチ⑤(子どもの性とSNS・インターネットをめぐる問題)
事前	新聞やインターネット・テレビでのニュース、配布資料や参考書などをもとに、子どもの性被害やSNS・インターネットにかかわる疑問点を明確にしておくこと。(2時間)
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。(2時間)

13	生徒指導に関する法的アプローチ
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、生徒指導の法律にかかわる疑問点を明確にしておくこと。(2時間)
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。(2時間)

14	学校・家庭・地域の連携:生徒指導・問題行動に向けたアプローチ
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、家庭・学校・地域社会の連携にかかわる疑問点を明確にしておくこと。(2時間)
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。(2時間)

15	まとめ
事前	新聞やインターネット、配布資料や参考書などをもとに、日常生活で感じる生徒指導にかかわる疑問点を明確にしておくこと。(2時間)
事後	配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておくこと。(2時間)

2020/07/16(木)11:17

科 目 名	環境科学 [社介心]			授業コード	6170011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小畑 晶子				

科目に関する キーワード	生態学、昆虫の休眠、社会性昆虫，送粉共生、利他行動

到達目標	私たちがさまざまな生物に取り囲まれて生活していることを理解し、それらの生物とくに動物の行動とくらしに目を向け関心を持つことができる。自然や生き物についての知識を深めることを通して、それらを大切にする気持ちを育み、自然と人間のより良い共生を考えて生活を構築する意識を持つことができる。			
授業の概要	環境とは「生物を取り巻く外界の事物の中でその生物の生活に影響を与えるすべてのもの」と定義される。私たち人間のくらしに影響を及ぼす環境について考えてみると、光条件、気温、降水量といった物理的な要因のほかにさまざまな植物や動物との関係、さらには人間同士の関係も重要な要因であることがわかる。この授業では、植物の光合成、ミミズなど土壌生物のはたらき，チョウチョ、ミツバチやアリ，ホタルや鳴く虫の生活、鳥のさえずり、この世に花や果実が存在する理由など身近な生物に関する話題をとりあげて解説していく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		授業の区切りで小テストを5回実施する（15点満点、合計75点)授業中に課す課題が5回(5点満点、合計25点）		
フィードバック	小テストと課題は採点して返却し、まちがいが多かった点について解説する。			
履修に際しての 注意事項	遅刻はしないこと。配布したプリントはなくさず各項目ごとに整理しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	私たちをとりまく環境とは
事前	環境問題の現状、その原因と考えられることは何かを調べ、解決するための対策について自分自身の生活とむすびつけて考えること。(1時間30分)
事後	身近な植物や動物を観察し、どのような生態系が構成されているか図にまとめてみること。再び環境問題について考え、自分の生活の中で見直すべき点を書き出してみること。(2時間30分)

2	生物界のつながり、植物の光合成は地球上に生きる生物にどのような影響を及ばしているか
事前	緑色植物の光合成について復習しておくこと。植物、動物。菌類の栄養のとり方について身近な生物を観察して比較すること。(1時間30分)
事後	植物の光合成が私たち人間も含めた地球上の生物にどのような恩恵を与えているか箇条書きにをまとめておくこと。食物連鎖、瀬田ピラミッドをもとに人類の食糧問題について考察すること。(2時間30分)

3	生物の季節への適応～昆虫の休眠を例にして
事前	各自が住んでいる地域の直近1週間の日の出と日の入りの時刻を調べ記録しておくこと。日本に生息する植物や動物が寒い冬の間どのようにすごしているか具体t的な例をいくつか調べておくこと。(2時間)
事後	アゲハチョウの光周反応を調べる実験について、実験方法、実験結果、結果から考えられることをまとめ，分かりやすく説明できるようにしておくこと。(2時間)

4	昆虫のコミュニケーション①～チョウチョとホタルの配偶行動
事前	モンシロチョウ、アゲハチョウ、ゲンジボタル、ヘイケボタルについて昆虫図鑑などで調べ予備知識をもっておくこと。ヒトと昆虫の視覚の違いについて調べておくこと。(2時間)
事後	講義でとりあげた3種のチョウチョの配偶行動の共通点、相違点を表にまとめておくこと。ホタルはなぜ光るのか説明できるようにしておくこと。(2時間)

5	昆虫のコミュニケーション②～コオロギなど鳴く虫の行動
事前	鳴く虫の例をできるだけ多くあげられるようにしておくこと。(1時間)
事後	昆虫の鳴き声検索を利用して、できるだけ多くの虫の鳴き声を聞いてみること。セミの音の出し方について調べ、講義で説明したコオロギなど直翅目の音の出し方と比較してみること。(3時間)

6	昆虫のコミュニケーション③～ガの配偶行動、フェロモンについて
事前	フェロモンについて調べておくこと。(1時間)
事後	フェロモンにはどんな種類があり、それぞれどのような働きがあるかをまとめておくこと。 第4回で取り上げたチョウチョの配偶行動と今回のガの配偶行動を比較し違っている点を見つけ、なぜ違っているのかを考察すること。(3時間)

7	真社会性昆虫の生活①～アリの生活とコミュニケーション
事前	野外でアリを見つけて歩き方などの行動を観察しておくこと。社会性昆虫の具体例とその特徴について調べておくこと。(3時間)
事後	道しるべフェロモンの働きと他の巣にまちがって入り込まないためのしくみについて説明できるようにしておくこと。(1時間)

8	真社会性昆虫の生活②～ミツバチの生活とコミュニケーション
事前	ミツバチの生態について図鑑などで調べておくこと。(1時間)
事後	映像で見せたミツバチのエサのありかを伝える行動について、エサ場への方向と距離をどのようにして仲間に伝えているのかを分かりやすく説明できるようにしておくこと。 アリやミツバチの性決定について調べておくこと。(3時間)

9	魚類の行動～なわばりをめぐる行動を中心に
事前	「なわばり」とはどのようなもので動物は何のためになわばりをもつのかを調べておくこと。(1時間30分)

事後	講義で取り上げたセダカスズメダイの攻撃行動が適応的であることをプリントの図式に従ってまとめて考察しておくこと。ブルーギルサンフィッシュ以外のスニーカーオスの例について調べておくこと。(2時間30分)

10	動物の一腹卵数の比較～魚や鳥は一回に何個の卵を産むか？
事前	食用のタラコ(タラの卵)とｲｸﾗ(サケの卵)について、1個の卵の大きさと1腹の卵の数を観察すること。身近な魚類、鳥類、ほ乳類の数種について、1回の産卵数もしくは出産する子の数を調べておくこと。(2時間)
事後	タラコとイクラの卵の大きさと1腹の卵の数がどうして違うのかを説明できるようにしておくこと。動物の産卵数、出産数が進化の過程で決まってきたことを理解し、ヒトが原則として1回にひとりの子を産むことの意味について考察すること。(2時間)

11	鳥類の行動～鳥はなぜさえずるのか？
事前	野外で鳥のさえずりに耳をかたむけてみること。鳥のさえずり検索などでできるだけ多くの鳥のさえずりを聞いてみること。(2時間)
事後	鳥のさえずりの発達について、「遺伝的要因」、「すりこみ」、「聴覚的フィードバック」という3つキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(2時間)

12	植物による動物の利用①～この世に花が存在する理由、送粉共生
事前	植物における花の起源と役割について調べ、被子植物と裸子植物のちがいを復習しておくこと。(2時間)
事後	共進化について具体例をあげて説明できるようにしておくこと。この世に花が存在する生物学的な理由を「送粉共生」というキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(2j時間)

13	植物による動物の利用②～この世に果実(フルーツ)が存在する理由、種子散布共生
事前	果実(フルーツ)の構造を観察すること。植物の種子がどのように散布されるか、できるだけ多くの例を調べておくこと。 (2時間30分)
事後	この世に果実が存在する生物学的な理由を、「種子散布共生」というキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(1時間30分)

14	利他行動と互恵的行動
事前	利他行動とはどのような行動かを調べること。7回・8回の講義でとりあげた社会性昆虫のワーカー(働きアリや働きバチ)の行動が利他行動にあたることを理解しておくこと。(1時間30分)
事後	鳥類・哺乳類のヘルパーについて、講義でとりあげた以外のいくつかの具体例を調べること。互恵的行動に着目してヒトの行動について考察すること。(2時間30分)

15	人間はどのような動物か、自然と人間の共生とは
事前	これまでの講義内容から人間と他の生物との横のつながり(生態的なつながり)と縦のつながり(進化的なつながり()を実感したテーマを1つずつあげ発表できるようにしておくこと。(1時間30分)
事後	15回の講義で学んだことをもとに、人間と自然のより良い共生をめざすにはどのようなことが必要かを考えること。そのために自分の生活の中で改善したいこと、今後あらたに行動していきたいことを文章にまとめること。(2時間30分)

2020/07/16(木)11:10

科 目 名	人間と環境 [子科]			授業コード	6170021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	小畑 晶子				

科目に関する キーワード	生態学、昆虫の休眠、社会性昆虫，送粉共生、利他行動

到達目標	私たちがさまざまな生物に取り囲まれて生活していることを理解し、それらの生物とくに動物の行動とくらしに目を向け関心を持つことができる。自然や生き物についての知識を深めることを通して、それらを大切にする気持ちを育み、自然と人間のより良い共生を考えて生活を構築する意識を持つことができる。			
授業の概要	環境とは「生物を取り巻く外界の事物の中でその生物の生活に影響を与えるすべてのもの」と定義される。私たち人間のくらしに影響を及ぼす環境について考えてみると、光条件、気温、降水量といった物理的な要因のほかにさまざまな植物や動物との関係、さらには人間同士の関係も重要な要因であることがわかる。この授業では、植物の光合成、ミミズなど土壌生物のはたらき，チョウチョ、ミツバチやアリ，ホタルや鳴く虫の生活、鳥のさえずり、この世に花や果実が存在する理由など身近な生物に関する話題をとりあげて解説していく。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		授業の区切りで小テストを5回実施する（15点満点、合計75点)授業中に課す課題が5回(5点満点、合計25点）		
フィードバック	小テストと課題は採点して返却し、まちがいが多かった点について解説する。			
履修に際しての 注意事項	遅刻はしないこと。配布したプリントはなくさず各項目ごとに整理しておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○		○				
III							
IV							

V		○					

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	私たちをとりまく環境とは
事前	環境問題の現状、その原因と考えられることは何かを調べ、解決するための対策について自分自身の生活とむすびつけて考えること。(1時間30分)
事後	身近な植物や動物を観察し、どのような生態系が構成されているか図にまとめてみること。再び環境問題について考え、自分の生活の中で見直すべき点を書き出してみること。(2時間30分)

2	生物界のつながり、植物の光合成は地球上に生きる生物にどのような影響を及ばしているか
事前	緑色植物の光合成について復習しておくこと。植物、動物。菌類の栄養のとり方について身近な生物を観察して比較すること。(1時間30分)
事後	植物の光合成が私たち人間も含めた地球上の生物にどのような恩恵を与えているか箇条書きにをまとめておくこと。食物連鎖、瀬田ピラミッドをもとに人類の食糧問題について考察すること。(2時間30分)

3	生物の季節への適応～昆虫の休眠を例にして
事前	各自が住んでいる地域の直近1週間の日の出と日の入りの時刻を調べ記録しておくこと。日本に生息する植物や動物が寒い冬の間どのようにすごしているか具体t的な例をいくつか調べておくこと。(2時間)
事後	アゲハチョウの光周反応を調べる実験について、実験方法、実験結果、結果から考えられることをまとめ，分かりやすく説明できるようにしておくこと。(2時間)

4	昆虫のコミュニケーション①～チョウチョとホタルの配偶行動
事前	モンシロチョウ、アゲハチョウ、ゲンジボタル、ヘイケボタルについて昆虫図鑑などで調べ予備知識をもっておくこと。ヒトと昆虫の視覚の違いについて調べておくこと。(2時間)
事後	講義でとりあげた3種のチョウチョの配偶行動の共通点、相違点を表にまとめておくこと。ホタルはなぜ光るのか説明できるようにしておくこと。(2時間)

5	昆虫のコミュニケーション②～コオロギなど鳴く虫の行動
事前	鳴く虫の例をできるだけ多くあげられるようにしておくこと。(1時間)
事後	昆虫の鳴き声検索を利用して、できるだけ多くの虫の鳴き声を聞いてみること。セミの音の出し方について調べ、講義で説明したコオロギなど直翅目の音の出し方と比較してみること。(3時間)

6	昆虫のコミュニケーション③～ガの配偶行動、フェロモンについて
事前	フェロモンについて調べておくこと。(1時間)
事後	フェロモンにはどんな種類があり、それぞれどのような働きがあるかをまとめておくこと。 第4回で取り上げたチョウチョの配偶行動と今回のガの配偶行動を比較し違っている点を見つけ、なぜ違っているのかを考察すること。(3時間)

7	真社会性昆虫の生活①～アリの生活とコミュニケーション
事前	野外でアリを見つけて歩き方などの行動を観察しておくこと。社会性昆虫の具体例とその特徴について調べておくこと。(3時間)
事後	道しるべフェロモンの働きと他の巣にまちがって入り込まないためのしくみについて説明できるようにしておくこと。(1時間)

8	真社会性昆虫の生活②～ミツバチの生活とコミュニケーション
事前	ミツバチの生態について図鑑などで調べておくこと。(1時間)
事後	映像で見せたミツバチのエサのありかを伝える行動について、エサ場への方向と距離をどのようにして仲間に伝えているのかを分かりやすく説明できるようにしておくこと。 アリやミツバチの性決定について調べておくこと。(3時間)

9	魚類の行動～なわばりをめぐる行動を中心に
事前	「なわばり」とはどのようなもので動物は何のためになわばりをもつのかを調べておくこと。(1時間30分)

事後	講義で取り上げたセダカスズメダイの攻撃行動が適応的であることをプリントの図式に従ってまとめて考察しておくこと。ブルーギルサンフィッシュ以外のスニーカーオスの例について調べておくこと。(2時間30分)

10	動物の一腹卵数の比較～魚や鳥は一回に何個の卵を産むか？
事前	食用のタラコ(タラの卵)とｲｸﾗ(サケの卵)について、1個の卵の大きさと1腹の卵の数を観察すること。身近な魚類、鳥類、ほ乳類の数種について、1回の産卵数もしくは出産する子の数を調べておくこと。(2時間)
事後	タラコとイクラの卵の大きさと1腹の卵の数がどうして違うのかを説明できるようにしておくこと。動物の産卵数、出産数が進化の過程で決まってきたことを理解し、ヒトが原則として1回にひとりの子を産むことの意味について考察すること。(2時間)

11	鳥類の行動～鳥はなぜさえずるのか？
事前	野外で鳥のさえずりに耳をかたむけてみること。鳥のさえずり検索などでできるだけ多くの鳥のさえずりを聞いてみること。(2時間)
事後	鳥のさえずりの発達について、「遺伝的要因」、「すりこみ」、「聴覚的フィードバック」という3つキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(2時間)

12	植物による動物の利用①～この世に花が存在する理由、送粉共生
事前	植物における花の起源と役割について調べ、被子植物と裸子植物のちがいを復習しておくこと。(2時間)
事後	共進化について具体例をあげて説明できるようにしておくこと。この世に花が存在する生物学的な理由を「送粉共生」というキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(2j時間)

13	植物による動物の利用②～この世に果実(フルーツ)が存在する理由、種子散布共生
事前	果実(フルーツ)の構造を観察すること。植物の種子がどのように散布されるか、できるだけ多くの例を調べておくこと。 (2時間30分)
事後	この世に果実が存在する生物学的な理由を、「種子散布共生」というキーワードを必ず使って分かりやすく文章にまとめておくこと。(1時間30分)

14	利他行動と互恵的行動
事前	利他行動とはどのような行動かを調べること。7回・8回の講義でとりあげた社会性昆虫のワーカー(働きアリや働きバチ)の行動が利他行動にあたることを理解しておくこと。(1時間30分)
事後	鳥類・哺乳類のヘルパーについて、講義でとりあげた以外のいくつかの具体例を調べること。互恵的行動に着目してヒトの行動について考察すること。(2時間30分)

15	人間はどのような動物か、自然と人間の共生とは
事前	これまでの講義内容から人間と他の生物との横のつながり(生態的なつながり)と縦のつながり(進化的なつながり()を実感したテーマを1つずつあげ発表できるようにしておくこと。(1時間30分)
事後	15回の講義で学んだことをもとに、人間と自然のより良い共生をめざすにはどのようなことが必要かを考えること。そのために自分の生活の中で改善したいこと、今後あらたに行動していきたいことを文章にまとめること。(2時間30分)

2020/07/16(木)20:40

科 目 名	日本文化体験 [社介心子科][ET]			授業コード	6180010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	柿澤 文子				

科目に関する キーワード	書道、臨書、創作、漢字、仮名、毛筆、硬筆、実用の書、書写検定

到達目標	漢字と仮名の基本的な筆づかいが書けるようになり、それぞれの書体と古典の特徴を理解し、表現することができる。また、それらをくらしの中の実用の書で生かすことができる。 1月、6月、11月に実施される硬筆書写技能検定3級に合格し、資格取得を目指す。			
授業の概要	「手で書く」ということは、日本の文化としても極めて大切なものである。本講義では、書の表現や鑑賞の能力を伸ばすとともに、書文化への理解を深めていく。 毎時間、プリント等のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返し行い、漢字の各書体と仮名の基本的な筆づかいや運筆法を学び、作品の創作を行う。 実用の書として、筆ペンや硬筆を使用し、のし袋や手紙、はがきの書き方を学び、硬筆書写技能検定3級受験のための練習を行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	課題（50%）、レポート（作品の提出）25%、授業中の活動状況（25%）を目安として評価する。		
フィードバック	授業内に書いた作品や課題については、添削後に返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	毎回、筆記用具と書道用具（筆、硯、墨、下敷き、文鎮、水滴）、雑巾、古新聞紙、半紙を持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III							
IV				○			

V							○

テキスト1	『硬筆書写技能検定3級のドリル』(日本書写技能検定協会)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『書道入門』(今井凌雪著、講談社) 『かなのレッスン』(村上翠亭著、二玄社)等。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス…授業の進め方と持ち物の説明 書道の基本的な知識と文字の変遷
事前	身の回りにある毛筆作品(看板やポスターなど)を見て、毛筆で書かれたものと硬筆で書かれたもの、また手書きの文字とパソコンなどの文字の印象の違いについて考えておく。(0.5時間)
事後	配布されたプリントをよく読んで、書道の基本知識と文字の変遷について理解する。(0.5時間)

2	「楷書」基本的な用筆・運筆 (練習)
事前	書道用具を準備しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,20をよく読み、p,22の課題を硬筆で書き、楷書の基本的な用筆と運筆を確認する。(0.75時間)

3	「楷書」基本的な用筆・運筆(清書)
事前	前回配布したプリントで、毛筆の楷書の基本的な用筆と運筆の確認をしておく。(0.25時間)
事後	テキストp,23の課題を硬筆で書き、楷書の基本的な用筆と運筆を確認する。(0.75時間)

4	「楷書」古典の鑑賞と臨書 (練習)
事前	「古典」や「臨書」など書道用語と漢字の変遷の確認をしておく。(0.5時間)
事後	配布したプリントで臨書した作品の作者や書風を理解する。(0.5時間)

5	「楷書」古典の鑑賞と臨書 (清書)
事前	前回臨書した作品の書風を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp.8のポイントをよく読み、p,9の楷書部分を書く。(0.75時間)

6	「行書」基本的な用筆・運筆 (練習)
事前	書体の変遷を復習して、行書がどのように生まれたのか確認しておく。(0.25時間)
事後	行書の一覧表を見ながら、テキストp,9の行書の部分を書き、行書の基本的な用筆を確認する。(0.75時間)

7	「行書」基本的な用筆・運筆 (清書)
事前	行書の基本的な用筆と運筆を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストのp,10をやり、楷書と行書の違いを確認する。(0.75時間)

8	「行書」古典の鑑賞と臨書 (練習)
事前	王羲之について調べてくる。(0.5時間)
事後	配布されたプリントやお手本、自分で調べた資料から、王羲之についてまとめる。(0.5時間)

9	「行書」古典の鑑賞と臨書 (清書)
事前	前回臨書した作品の書風を確認しておく。(0.25時間)
事後	硬筆で漢字の行書を練習し、行書の基本点画の書き方を習得する。(0.75時間)

10	「草書」基本的な用筆・運筆 (練習)
事前	書体の変遷を復習して、草書がどのように生まれたのか確認しておく。(0.25時間)
事後	プリントに硬筆で、草書を練習し、草書の基本点画の書き方を習得する。(0.75時間)

11	「草書」基本的な用筆・運筆 (清書)
事前	自分の氏名の草書体を調べて、硬筆で書いてくる。(0.5時間)
事後	小筆で草書体の氏名を練習する。(0.5時間)

12	「草書」古典の鑑賞と臨書 (練習)
事前	草書の基本的な用筆と運筆を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,38、39の理論問題を解いて、漢字の草書が読めるようにする。(0.75時間)

13	「草書」古典の鑑賞と臨書 (清書)
事前	前回臨書した作品の書風を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,40、41の理論問題を解いて、漢字の草書が読めるようにする。(0.75時間)

14	硬筆書写技能検定3級の実技問題の練習
事前	テキストp,3、24、28の解説をよく読み、ポイントを確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,4～7で授業内に終わらなかった課題を行う。(0.75時間)

15	硬筆書写技能検定3級の理論問題の学習と模擬試験
事前	テキストp,31、32の漢字の部分の名称の練習問題を解いておく。(0.5時間)
事後	授業で行った模擬試験の間違えた部分を復習したり、実技問題を練習する。(0.5時間)

16	「隷書」基本的な用筆・運筆 （練習・清書）
事前	書体の変遷を復習して、隷書がどのように生まれたのか確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,11をやり、楷書と行書の基本点画の書き方を身につける。(0.75時間)

17	「隷書」古典の鑑賞と臨書 （練習）
事前	隷書の基本的な用筆と運筆を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,28をよく読み、p,30の課題を行い、掲示文を(ポスター)を体裁よく書けるように練習する。(0.75時間)

18	「隷書」古典の鑑賞と臨書 （清書）
事前	前回臨書した作品の書風を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,28をよく読み、p,30の課題を行い、掲示文を(ポスター)を体裁よく書けるように練習する。(0.75時間)

19	葉書に濃墨と薄墨を用いて「字てがみ」を書く。
事前	「字てがみ」に書く内容を考えておく。(0.25時間)
事後	テキストp,24をよく読み、p,26、27を練習し、葉書の宛名書きの決まりを身につける。(0.75時間)

20	「篆書」基本的な用筆・運筆 （練習・清書）
事前	書体の変遷を復習して、篆書がどのように生まれたのか確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,31、32の漢字の部首の練習問題を解く。(0.75時間)

21	「篆書」古典の鑑賞と臨書 （練習）
事前	篆書の基本的な用筆と運筆を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,33～35の漢字の筆順の練習問題を解く。(0.75時間)

22	「篆書」古典の鑑賞と臨書 （清書）
事前	前回臨書した作品の書風を確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,36、37の漢字の筆順の練習問題を解く。(0.75時間)

23	「篆刻」白文と朱文の2種類の名前の印を作成する
事前	自分の名前の篆書体を調べてくる。(0.25時間)
事後	テキストp,42、43の常用漢字の正誤の練習問題を解く。(0.75時間)

24	自分の好きな漢字1文字と書体で、色紙の書作品を創作する。
事前	漢字1字を選び、五つの書体を調べてくる。(0.5時間)
事後	テキストp,44、45の常用漢字の正誤の練習問題を解く。(0.5時間)

25	「仮名」仮名の成立と基本的な用筆、平仮名の単体(いろは歌)
事前	漢字と仮名のつながりについて確認しておく。(0.25時間)
事後	プリントに硬筆で行書の漢字に調和する平仮名を練習する。(0.75時間)

26	「仮名」連綿と変体仮名
事前	仮名の成立や種類、筆使いを確認しておく。(0.25時間)
事後	プリントに硬筆で仮名の連綿の練習をする。(0.75時間)

27	「仮名」古典の作品を短冊に臨書する
事前	仮名の筆使いや変体仮名について確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,12をよく読み、p,16、17の漢字仮名交じり文の課題を行う。(0.75時間)

28	「仮名」料紙に百人一首を書く
事前	仮名の筆使いや変体仮名について確認しておく。(0.25時間)
事後	テキストp,12をよく読み、p,18、19の漢字仮名交じり文の課題を行う。(0.75時間)

29	「漢字仮名交じりの書」
事前	好きな詩文(詩、短歌、俳句、小説、歌詞)や格言などを探してくる。(0.5時間)
事後	自分や他の人の作品を振り返り、「漢字仮名交じりの書」についての感想や考えをまとめ、プリントに記入する。(0.5時間)

30	筆ペンなどを用いた実用の書
事前	筆ペンを準備し、筆ペンで自分の氏名を楷書と行書で書いてくる。(0.5時間)
事後	お手本や添削されたものをよく見て、筆ペンで氏名の練習をし、これまでの硬筆や毛筆の学習を、暮らしの中の書に活かしていく。(0.5時間)

2020/07/16(木)11:17

科 目 名	日本語表現法I [子]			授業コード	6180020
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	柿澤 文子				

科目に関する キーワード	事実と意見 敬語 物語プレゼンテーション

到達目標	保育の専門家として、日本語の基本的な知識を身につける。特に以下の点に重点を置く。 1、相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。特に、子どもにわかりやすい言葉や表現を使って、説明や発表ができるようになる。 2、情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 3、言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習において実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力を養う。「実習日誌」等を意識して、見やすい、わかりやすい報告書の書き方について考え、実際に書いてみる。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（音読と発表）を試みる。また、「大人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数グループで物語の音読発表を行う。併せて、発表前後に作品についてのプレゼンテーションも行う。 理解度を確認するための小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	①提出物は提出期限を厳守すること。 ②テキストの辞書を必ず持参し、授業中に携帯電話等は用いないこと。 ③配付プリント等を入れるクリアファイル（A4、20ポケット）、鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III		○					
IV							
V					○		

テキスト1	『現代実用国語辞典(第3版)』 学研辞典編集部　学習研究社	4-05-3042-31-6
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス(授業の目的と内容)、日本語力チェック第1回(漢字・語彙)
事前	シラバスを熟読し1年間の流れを理解しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく。(0.5時間)

2	文章の基本1 辞書の使い方
事前	テキスト(辞書)をよく観察しておく。これまで使ってきた国語辞書を調べておく。(0.5時間)
事後	新聞等を読み、難解な言葉を探し、テキスト(辞書)を用いて確認する。(0.5時間)

3	文章の基本2 表記のきまりを知る
事前	日本語を書く際の文字の種類とその役割について、実際の文章に触れて考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する(0.5時間)。

4	文章の基本3　ことばを選ぶ
事前	話し言葉と書き言葉の違いについて考えておく。(0.5時間)
事後	配付されたプリントで復習しておく(0.5時間)。

5	レポートの基本1 事実と意見
事前	配付プリントの文章を読んで「事実」と「意見」を区別できるようにしておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し復習する。

6	レポートの基本2 レポートの構成
事前	配付プリントの文章がどのような構成になっているか考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する(0.5時間)。

7	レポートの基本3 わかりにくい文
事前	配付プリントの問題を解いて「わかりにくい文」とは何か考えておく(0.5時間)。
事後	配付プリントで「わかりにくい」文について復習する(0.5時間)。

8	日本語力チェック第2回(漢字・敬語)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく(0.5時間)。

9	敬語の基本
事前	日常使用している言葉遣いについて気になる点について考えておく(0.5時間)。
事後	学んだ敬語の基本について、整理し、理解する(0.5時間)。

10	敬語演習1 尊敬語
事前	配付した敬語の資料(尊敬語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	尊敬語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

11	敬語演習2 謙譲語
事前	配付した敬語の資料(謙譲語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	謙譲語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

12	敬語演習3 丁寧語・美化語等
事前	配付した敬語の資料(丁寧語・美化語等)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	丁寧語・美化語等を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

13	敬語演習4 場面の敬語
事前	配付した敬語の資料（場面の敬語）を用いて実践できるように練習しておく（0.5時間）。
事後	場面の敬語が正しく使えるように復習する（0.5時間）。

14	敬語総まとめ
事前	尊敬語と謙譲語など敬語の誤用に注意し、敬語の用法全般について復習しておく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

15	振り返りと自己評価
事前	前期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習しておく（0.5時間）。

16	日本語力チェック第3回（漢字・文法）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェックテストで間違えた箇所を確認し復習する（0.5時間）。

17	文章の実践1 報告文を書く
事前	配付された4コマ漫画の内容を100字以内文章にまとめる（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

18	文章の実践2　意見文を書く
事前	配付された文章を読んでおく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

19	文章の実践3　日誌の書き方の基本
事前	配付プリント（誤字直し）を完成させる（0.5時間）。
事後	添削を受けた文章の問題点を確認し、復習しておく（0.5時間）。

20	文章の実践　まとめ　実習日誌に挑戦
事前	配付プリント（表現直し）を完成させる。（0.5時間）
事後	日誌の書き方について復習し、実習に向け資料をまとめておく（0.5時間）。

21	日本語総合演習1「お話を語る」ガイダンス
事前	配付プリント（『お話とは』の抜粋）を読んでおく（0.5時間）。
事後	担当する作品を音読し、わからない言葉の意味などを調べておく。

22	日本語総合演習2 作品の紹介と音読のための資料収集
事前	音読の際にどのような情報があると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	音読の練習をし、調べた資料をまとめ、不足分は補っておく（0.5時間）。

23	日本語総合演習3 作品の紹介と音読のためのディスカッション
事前	音読の前、音読の後にどのようなことを説明すると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	発表の準備、担当、練習予定などを確認する（0.5時間）。

24	日本語総合演習4 グループAの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

25	日本語総合演習5 グループBの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

26	日本語総合演習6　グループCの発表と相互批評,まとめ　《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

27	日本語力チェック第4回（漢字・表現）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく（0.5時間）。

28	手紙文の基本1 手紙文の形式を知る
事前	テキスト（辞書）の見開きページにある手紙文に関する説明を読んでおく（0.5時間）。
事後	手紙文特有の表現を復習しておく（0.5時間）。

29	手紙文の基本2　礼状を書く
事前	形式を理解するために礼状の例文を配付した用紙に模写する（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

30	総まとめ　振り返りと自己評価
事前	後期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習し今後の課題を確認する（0.5時間）。

2020/07/16(木)11:25

科 目 名	日本語表現法I [子]			授業コード	6180030
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	柿澤 文子				

科目に関する キーワード	事実と意見 敬語 物語プレゼンテーション

到達目標	保育の専門家として、日本語の基本的な知識を身につける。特に以下の点に重点を置く。 1、相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。特に、子どもにわかりやすい言葉や表現を使って、説明や発表ができるようになる。 2、情報収集能力を身につけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 3、言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習において実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力を養う。「実習日誌」等を意識して、見やすい、わかりやすい報告書の書き方について考え、実際に書いてみる。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（音読と発表）を試みる。また、「大人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数グループで物語の音読発表を行う。併せて、発表前後に作品についてのプレゼンテーションも行う。 理解度を確認するための小テストを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学びに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	①提出物は提出期限を厳守すること。 ②テキストの辞書を必ず持参し、授業中に携帯電話等は用いないこと。 ③配付プリント等を入れるクリアファイル（A4、20ポケット）、鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III		○					
IV							
V					○		

テキスト1	『現代実用国語辞典(第3版)』 学研辞典編集部　学習研究社	4-05-3042-31-6
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス(授業の目的と内容)、日本語力チェック第1回(漢字・語彙)
事前	シラバスを熟読し1年間の流れを理解しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく。(0.5時間)

2	文章の基本1 辞書の使い方
事前	テキスト(辞書)をよく観察しておく。これまで使ってきた国語辞書を調べておく。(0.5時間)
事後	新聞等を読み、難解な言葉を探し、テキスト(辞書)を用いて確認する。(0.5時間)

3	文章の基本2 表記のきまりを知る
事前	日本語を書く際の文字の種類とその役割について、実際の文章に触れて考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する(0.5時間)。

4	文章の基本3　ことばを選ぶ
事前	話し言葉と書き言葉の違いについて考えておく。(0.5時間)
事後	配付されたプリントで復習しておく(0.5時間)。

5	レポートの基本1 事実と意見
事前	配付プリントの文章を読んで「事実」と「意見」を区別できるようにしておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し復習する。

6	レポートの基本2 レポートの構成
事前	配付プリントの文章がどのような構成になっているか考えておく。(0.5時間)
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する(0.5時間)。

7	レポートの基本3 わかりにくい文
事前	配付プリントの問題を解いて「わかりにくい文」とは何か考えておく(0.5時間)。
事後	配付プリントで「わかりにくい」文について復習する(0.5時間)。

8	日本語力チェック第2回(漢字・敬語)
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく。(0.5時間)
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく(0.5時間)。

9	敬語の基本
事前	日常使用している言葉遣いについて気になる点について考えておく(0.5時間)。
事後	学んだ敬語の基本について、整理し、理解する(0.5時間)。

10	敬語演習1 尊敬語
事前	配付した敬語の資料(尊敬語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	尊敬語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

11	敬語演習2 謙譲語
事前	配付した敬語の資料(謙譲語)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	謙譲語を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

12	敬語演習3 丁寧語・美化語等
事前	配付した敬語の資料(丁寧語・美化語等)を用いて実践できるように練習しておく(0.5時間)。
事後	丁寧語・美化語等を正しく活用できるように復習する(0.5時間)。

13	敬語演習4 場面の敬語
事前	配付した敬語の資料（場面の敬語）を用いて実践できるように練習しておく（0.5時間）。
事後	場面の敬語が正しく使えるように復習する（0.5時間）。

14	敬語総まとめ
事前	尊敬語と謙譲語など敬語の誤用に注意し、敬語の用法全般について復習しておく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

15	振り返りと自己評価
事前	前期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習しておく（0.5時間）。

16	日本語力チェック第3回（漢字・文法）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェックテストで間違えた箇所を確認し復習する（0.5時間）。

17	文章の実践1 報告文を書く
事前	配付された4コマ漫画の内容を100字以内文章にまとめる（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

18	文章の実践2　意見文を書く
事前	配付された文章を読んでおく（0.5時間）。
事後	採点した課題について、問題の箇所を確認し復習する（0.5時間）。

19	文章の実践3　日誌の書き方の基本
事前	配付プリント（誤字直し）を完成させる（0.5時間）。
事後	添削を受けた文章の問題点を確認し、復習しておく（0.5時間）。

20	文章の実践　まとめ　実習日誌に挑戦
事前	配付プリント（表現直し）を完成させる。（0.5時間）
事後	日誌の書き方について復習し、実習に向け資料をまとめておく（0.5時間）。

21	日本語総合演習1「お話を語る」ガイダンス
事前	配付プリント（『お話とは』の抜粋）を読んでおく（0.5時間）。
事後	担当する作品を音読し、わからない言葉の意味などを調べておく。

22	日本語総合演習2 作品の紹介と音読のための資料収集
事前	音読の際にどのような情報があると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	音読の練習をし、調べた資料をまとめ、不足分は補っておく（0.5時間）。

23	日本語総合演習3 作品の紹介と音読のためのディスカッション
事前	音読の前、音読の後にどのようなことを説明すると効果的か考えておく（0.5時間）。
事後	発表の準備、担当、練習予定などを確認する（0.5時間）。

24	日本語総合演習4 グループAの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

25	日本語総合演習5 グループBの発表と相互批評 《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

26	日本語総合演習6　グループCの発表と相互批評,まとめ　《合同》
事前	音読の練習をグループで行い発表に備える（0.5時間）。
事後	自分の発表の反省、他グループの発表のよい点をまとめておく（0.5時間）。

27	日本語力チェック第4回（漢字・表現）
事前	漢字・慣用句・敬語などを復習しておく（0.5時間）。
事後	チェック問題でわからなかった問題を辞書等で調べておく（0.5時間）。

28	手紙文の基本1 手紙文の形式を知る
事前	テキスト（辞書）の見開きページにある手紙文に関する説明を読んでおく（0.5時間）。
事後	手紙文特有の表現を復習しておく（0.5時間）。

29	手紙文の基本2　礼状を書く
事前	形式を理解するために礼状の例文を配付した用紙に模写する（0.5時間）。
事後	採点した課題について、誤答箇所を確認し復習する（0.5時間）。

30	総まとめ　振り返りと自己評価
事前	後期に学んだことを整理し、ファイル等にまとめておく（0.5時間）。
事後	自己評価が十分でなかった項目について復習し今後の課題を確認する（0.5時間）。

2020/07/16(木)20:53

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [介]			授業コード	6200010
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	金井 直子				

科目に関する キーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)10:42

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [社]			授業コード	6200020
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	金井 直子				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)20:47

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [介]			授業コード	6200030
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	金井 直子				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:52

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	6200040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	金井 直子				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。		
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:29

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	6200053
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	金井 直子				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)21:02

科 目 名	認知心理学/知覚・認知心理学 [心科]			授業コード	6210012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	川上 克樹				

科目に関するキーワード	知覚、スキーマ、錯覚
到達目標	・人の感覚・知覚等の心理学的機序とその機能低下や障害について理解し説明出来る ・人の感覚・知覚等の心理学的機序とその機能低下や障害について、神経・生理学的要因との関連性を理解し説明出来る ・認知・思考等の心理学的機序とその機能低下や障害について理解し説明出来る ・認知・思考等の心理学的機序とその機能低下や障害について、神経・生理学的要因との関連性を理解し説明出来る
授業の概要	人の感覚・知覚等の心理学的機序とその機能低下や障害について、神経・生理学的要因との関連性も踏まえながら学んでいく。また、認知・思考等の心理学的機序とその機能低下や障害についても同様に学んでいく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	コメントシート、リアクションペーパー（授業についての振り返り、疑問点等を記述したもの）を使用
評価方法及び評価基準	試験	試験60%、授業中の課題などへの取組40%で総合的に評価する。		
フィードバック	授業内で行った小テスト等については、事後の授業において説明し講評する。			
履修に際しての注意事項	私語など他学生の迷惑になる行為をおこなわないこと。繰り返す場合は退出を求めることがあるので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	「基礎から学ぶ認知心理学」、服部雅史ら、有斐閣 2015	9784641150270
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、履修上の注意点を説明
事前	シラバス、テキスを概観し、「知覚・認知心理学」について、自分なりに理解し、疑問点をもつこと。(2時間)
事後	授業内で行った説明に対して、自身の経験を踏まえながらまとめ、整理すること。(2時間)

2	感覚の種類と構造及び感覚・知覚の基本的特性
事前	テキストの該当箇所(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・体性感覚等)について熟読し、疑問点を整理すること(2時間)
事後	授業内で行った説明に対して、重要点をまとめ整理すること(2時間)

3	視覚
事前	視覚について、仕組み・構造、伝導路、錯覚等をテキストやインターネット等で調べ疑問点を整理すること(2時間)
事後	視覚における知覚・恒常性についてまとめ、整理すること(2時間)

4	聴覚
事前	聴覚について、仕組み・構造、伝導路、錯覚等をテキストやインターネット等で調べ疑問点を整理すること(2時間)
事後	聴覚情報を処理する脳の部位、認知特性についてまとめ、整理すること(2時間)

5	化学的感覚、体性感覚他
事前	嗅覚・味覚・体性感覚(触覚)についてそれぞれの関連性を調べ、整理すること(2時間)
事後	授業内で行った実験(嗅覚・味覚)について、実験方法・結果を考察すること(2時間)

6	対象の認知他
事前	物事を認知するための心理的な仕組みや理論を調べ疑問点を整理すること(2時間)
事後	授業で説明した仕組みや理論が日常生活の中でどのように使われているか調べること(2時間)

7	感覚・知覚の障害と、これを抱えて生きる人々が安全、安心であるための心理支援
事前	感覚・知覚の障害(特に感覚過敏)についてどのような種類・支援方法があるか調べること(2時間)
事後	授業内で伝えた支援方法以外にもどのような支援方法が適切か考察すること(2時間)

8	認知の基本的特性
事前	人が物事を認知うるための必要な要素について調べ整理すること(2時間)
事後	授業で説明した認知的な特徴について、自身の経験に基づき考察すること(2時間)

9	記憶のメカニズム1：ワーキングメモリ
事前	ワーキングメモリについて、その特徴と機能を調べ、疑問点を整理すること(2時間)
事後	ワーキングメモリが関わる日常の活動について調べること(2時間)

10	記憶のメカニズム2：長期記憶
事前	長期記憶についてどのような種類があるか、またどのような特徴があるか調べ整理すること(2時間)
事後	それぞれの長期記憶について特徴と具体例をまとめること(2時間)

11	記憶のメカニズム3：日常的記憶
事前	日常的記憶、特に虚偽記憶について調べ疑問点を整理すること(2時間)
事後	記憶が変化する事例について、自身の経験を踏まえ考察すること(2時間)

12	注意のメカニズム
事前	注意とは、日常生活の中でどのような機能を持っているのか調べること(2時間)
事後	注意が障害された場合の心理的支援の方法についてまとめること(2時間)

13	知識の表象と構造
事前	知識やスキーマについてどのような理論があるか調べ疑問点を整理すること(2時間)

事後	スキーマが扱われる心理療法と対象についてまとめること（2時間）

14	問題解決と推論
事前	問題解決のプロセス、帰納的・演繹的推論について調べ疑問点を整理すること（2時間）
事後	問題解決、特にアルゴリズムとヒューリスティックについて重要点をまとめること（2時間）

15	認知・思考の障害と、これを抱えて生きる人々が安心、安全であるための心理支援
事前	今までの授業内容を振り返り重要箇所をまとめ、疑問点を整理すること（2時間）
事後	今までの授業内容をまとめ、整理すること（2時間）

2020/07/16(木)21:03

科 目 名	老年心理学 [介]			授業コード	6210031
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	川上 克樹				

科目に関する キーワード	生涯発達、エイジズム、高齢者支援

到達目標	・高齢者の心理社会的変化と特徴、生物・認知科学的変化と特徴、人格・行動科学的特徴について理解し説明できる。 ・上記を考慮した援助の方向性と、適切な関わり方について理解し説明できる。 ・高齢者ケアの現代的な課題と他職種による援助の実際を理解し説明できる。			
授業の概要	この授業では、高齢者の心身の変化にともなう心理学的影響とその支援、および生涯発達心理学的観点から、人生における高齢者の心理学的位置づけを、高齢者を取り巻く人々との関係も含めて学んでいく。高齢者の抱える様々な問題に感受性をもち、高齢者の立場を理解したうえで適切な支援をおこなえることが、福祉専門職にとって必須の知識とスキルである。高齢者のことを考える時、衰えや低下といったネガティブな側面にとらわれがちであるが、高齢者のもつポジティブな側面も十分理解し支援に活かせることも考慮しつつ授業を行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	コメントシート、リアクションペーパー（授業についての振り返り、疑問点等を記述したもの）を使用
評価方法 及び評価基準	試験	試験(80%)、受講態度を含む授業中の取り組み(20%)で評価する。なお、試験の得点分布によっては評価比率の調整をおこなうことがある。		
フィードバック	授業内で行った小テスト等については、事後の授業において説明し講評する。			
履修に際しての 注意事項	他学生の受講を妨げる行為はしないこと。頻回の場合退室を求めることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III			○				
IV							○

V							

テキスト1	佐藤眞一・権藤恭之(編) 「よくわかる高齢者心理学」ミネルヴァ書房 2016年	9784623076550
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	補足的・発展的な学習に役立つものを授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション 授業概要、授業のねらいと到達目標等の説明
事前	シラバス、テキスを概観し、「高齢者の心理」について、自分なりに理解し、疑問点をもつこと。(2時間)
事後	授業内で行った説明に対して、自身の経験を踏まえながらまとめ、整理すること。(2時間)

2	高齢期の生物学・社会科学的変化と特徴
事前	生物の老化理論、老化に伴う社会的変化について、テキストやインターネット等で調べ疑問点を整理すること(2時間)
事後	授業内で行った説明、特にエイジズムに対して、重要点をまとめ整理すること(2時間)

3	高齢者の加齢にともなう変化1 社会学的理論
事前	社会学的理論(活動理論、離脱理論など)について自分なりに整理すること(2時間)
事後	老化についてどの理論がより適切か自身の考えを考察すること(2時間)

4	高齢者の加齢にともなう変化2 心理学的理論
事前	サクセスフルエイジング、社会情動的選択性理論について、どのようなものか調べること(2時間)
事後	授業で行った説明を受け、自分にとってのサクセスフルエイジングとは何かを考察すること(2時間)

5	高齢者の加齢にともなう変化3 認知情報処理理論
事前	老化にともなう認知機能の変化を脳機能の観点から調べること(2時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、整理すること(2時間)

6	高齢者の認知情報処理の特徴1 注意機能
事前	注意とは、日常生活の中でどのような機能を持っているのか調べること(2時間)
事後	注意が障害された場合の心理的支援の方法についてまとめること(2時間)

7	高齢者の認知情報処理の特徴2 記憶と学習
事前	記憶、学習についてどのような種類があるか、またどのような特徴があるか調べ整理すること(2時間)
事後	記憶の種類についてそれぞれの特徴をまとめること(2時間)

8	高齢者の認知情報処理の特徴3 その他の高次情報処理機能
事前	高次情報処理機能としての知能と心理検査ではかれない知能について調べること(2時間)
事後	流動性知能、結晶性知能、創造性等について老化の影響を踏まえその特徴をまとめること(2時間)

9	高齢者の情動の特徴1 人格的側面
事前	老化による人格的側面の変化について、テキストの該当箇所を熟読し疑問点を整理すること(2時間)
事後	授業での内容を受け、パーソナリティと健康、幸福感の関係を整理しまとめること(2時間)

10	高齢者の情動の特徴2 感情と自己認知
事前	感情の種類、表出の仕方、自尊感情等について調べ疑問点をまとめること(2時間)
事後	実習等での経験を踏まえ、高齢者の感情表出の仕方、自尊感情の在り方についてまとめること(2時間)

11	老いの自覚、社会的活動
事前	自身が高齢者となった状況を想像し、どのようなことから老いを感じるか考察すること(2時間)
事後	授業の内容を受け、自身は老後どのような社会的活動を選択するか考察すること(2時間)

12	高齢者の対人関係とコミュニケーション
事前	高齢者とのコミュニケーションをとるうえで、実習等の体験を踏まえて重要点を整理すること(2時間)
事後	授業で説明した内容を踏まえ、今後高齢者と接する際の配慮点を整理すること(2時間)

13	高齢者の社会的援助、死と死別
事前	悲嘆、エンドオブライフケアについて概要を調べ疑問点を挙げること(2時間)

事後	授業の内容を受け、悲嘆、エンドオブライフケア等の終末期に対する支援について考察すること（2時間）

14	高齢者を取り巻く介護と現代的問題
事前	介護者、介護される者の心理についてテキストを熟読し、自分の身に置き換えながら考察すること（2時間）
事後	実習等で経験した内容と照らし合わせて自身の対応を振り返りを行うこと（2時間）

15	全体のまとめ
事前	今までの授業内容を振り返り重要箇所をまとめ、疑問点を整理すること（2時間）
事後	今までの授業内容をまとめ、整理すること（2時間）

2020/07/16(木)21:35

科 目 名	SST [社][ET]			授業コード	6220010
副 題	体験と実践から学ぶ				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	河島 京美				

科目に関する キーワード	認知行動療法、行動リハーサル、正のフィードバック、改善のフィードバック、モデリング

到達目標	1）SSTの基盤的な知識と実践力を習得することができる 2）SSTが行なわれている現場を理解し、そこでのSSTの役割を学ぶことができる 3）SSTを福祉サービスとして広めていく意義とSSTが実践されている各分野におけるソーシャルワーカーの役割を理解することができる			
授業の概要	SSTは認知行動療法に理論的基盤を置き、クライエントの対人技能の学習を支援する方法であり、医療、保健、福祉、学校教育、矯正教育（刑務所や少年院）、更生保護などの分野で実践されている。この授業ではSSTの理論や方法を学ぶばかりでなく、実際にSSTを使う力を習得することを目指す。科目終了者には希望に応じて、SST普及協会の初級修了証書を与える。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題や諸活への取組（50%）、実践及び期末レポート（50%）として評価をする		
フィードバック	毎回の授業終了後に記入してもらうフィードバックシートにコメントを書き、次の授業で返す。			
履修に際しての 注意事項	本講座は、通年の授業を通じて、SSTという認知行動療法が実践できるようになることを目指します。専門職となった場合に、SSTを自分の専門技能として提供できることを目指すため、自らSSTを学びたいと思う人の履修を希望します。 SSTは対人援助の様々な場面で活用できるため、社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得希望者、コミュニティ・ソーシャルワーカーを目指す人など、ぜひ受講をお勧めします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II		○					
III				○			
IV							

V							

テキスト1	授業内容に応じて、指定された文献を読む、DVDを見る、配布された資料を使うなど、 指示いたします。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『基本から学ぶSST ～精神の病からの回復を支援する～』前田ケイ 星和書店 『生きる力をつける支援のために ～保護司面接のためのSSTマニュアル～』前田ケイ 日本更生保護協会	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の進め方の説明とSSTの概要
事前	参考文献を一読し、SSTについて大まかにイメージを持つよう予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

2	SSTのためのウォーミングアップ
事前	参考文献から、グループワークにおけるウォーミングアップについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

3	SSTとは、活用されている分野／SST体験①「挨拶」
事前	参考文献から、SSTが活用される分野について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

4	SSTの基本理論、特色／SST体験②「会話のきっかけ」
事前	参考文献から、SSTの基本理論や特色について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

5	コミュニケーション技能／SST体験③「尋ねる」
事前	参考文献から、コミュニケーション技能について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

6	SSTの実施方法「基本訓練モデル」
事前	参考文献から、SSTの基本理論や特色を調べる実施方法について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

7	スキルの細分化／SST体験④「声をかける」
事前	参考文献から、スキルの細分化について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

8	スキルの階層化／SST体験⑤「理解を得る」
事前	参考文献から、スキルの階層化について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

9	目標と課題の設定／SST体験⑥「感謝の気持ちを伝える」

事前	参考文献から、目標と課題の設定について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

10	SSTの構造「ひとりSST」「グループSST」
事前	参考文献から、SSTの構造について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

11	リーダーとコリーダーの役割と心得
事前	参考文献から、リーダーとコリーダーの役割と心得について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

12	認知の改善を支援する「問題解決法」
事前	参考文献から、問題解決法について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

13	実習に必要なスキル・カテゴリー分け
事前	実習事前授業で学んだ実習に必要なスキルについて考えて来ること 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

14	SST体験⑦「実習で必要なスキル～職員に声をかける」
事前	実習事前授業で学んだ実習に必要なスキルについて自分に当てはめて考えて来ること 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

15	SST体験⑧「実習で必要なスキル～利用者に声をかける」
事前	実習事前授業で学んだ実習に必要なスキルについて自分に必要なスキルを考えて来ること 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

16	後期授業の進め方の説明、前期振り返り
事前	参考文献や前期配布された資料を見直し、前期の振り返りをしてくること 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

17	日本でのSST歴史と将来の課題
事前	参考文献から、日本でのSSTの歴史と将来の課題について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

18	リーダー体験：学校生活で必要なスキル・対先生
事前	参考文献や前期配布された資料から、SSTのためのウォーミングアップについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

19	リーダー体験：学校生活で必要なスキル・対友達
	参考文献や前期配布された資料から、SSTの基本理論や特色について予習を行うこと

事前	事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

20	リーダー体験：学校生活で必要なスキル・部活
事前	参考文献や前期配布された資料から、コミュニケーション技能について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

21	リーダー体験：地域生活で必要なスキル・バイト
事前	参考文献や前期配布された資料から、SSTの基本訓練モデルについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

22	リーダー体験：就職活動で必要なスキル・面接
事前	参考文献や前期配布された資料から、スキルの細分化・階層化について予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

23	実践分野別SSTの理解：児童養護施設でのSST
事前	参考文献や前期授業から、児童養護施設におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

24	実践分野別SSTの理解：障害者施設でのSST
事前	参考文献や前期授業から、障害者施設におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

25	実践分野別SSTの理解：高齢者施設でのSST
事前	参考文献や前期授業から、高齢者施設におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

26	実践分野別SSTの理解：学校教育でのSST
事前	参考文献や前期授業から、学校教育におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

27	実践分野別SSTの理解：矯正施設でのSST
事前	参考文献や前期授業から、矯正施設におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

28	実践分野別SSTの理解：地域社会でのSST
事前	参考文献や前期授業から、地域社会におけるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

29	福祉事業所等での職員研修に活用されるSST
事前	参考文献や前期授業から、福祉事業所における職員研修に活用されるSSTについて予習を行うこと 事前予習1.5時間

事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

30	学習のまとめ
事前	参考文献や前期後期配布された資料を見直し、振り返りをしてくること 事前予習1.5時間
事後	授業内で配布した資料を一読し、不明点を調べるなどし、理解を深めること 事後復習2.5時間

2020/07/16(木)10:40

科 目 名	スポーツI [子]			授業コード	6230010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	川原 布紗子				

科目に関する キーワード	球技スポーツ、ラケットスポール、子どもの運動、スポーツ理論
到達目標	球技スポーツやラケットスポーツ、子どものスポーツなど様々なスポーツの基本的な技術の習得ができ、楽しむことができるようになる。この時スポーツの理論を元にした体力の維持・向上をめざす。また幼稚園・保育園でおこなうスポーツのマスターと指導ができるようにする。
授業の概要	スポーツを楽しみ、実践するための授業とする。バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー（フットサル）、卓球、レクリエーションスポーツを主な教材として、理論と実技を併用した授業をおこなう。実技では、楽しみながら実践するので、ゲームを中心におこなう。理論では、そのスポーツの概念と歴史の他に、生涯スポーツをつづける上での基礎的理論を学修する。また幼稚園・保育園でおこなっている基本的な運動もできるようにする。

授業方法	講義・実技	アクティブ ラーニング	○	ゲームをおこなう時に、チームでパフォーマンスを上げる方法を話し合って、結果につながる工夫をすること。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価とし、レポート課題10%、運動能力30%、授業の活動状況35%、実技小テスト25%の割合で評価する。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。授業中の活動状況は主体的・積極的な参加を重視する。実技小テストは、子どもの運動を授業内テストとしておこなう。		
フィードバック	授業内で実施したレポートは、コメントをして返却し、出題の意図について説明する。			
履修に際しての 注意事項	①授業中は、スポーツウェアーと体育館用シューズを使用すること。②着替えは体育館更衣室におこない、必ず貴重品は体育館フロアに持ってくること。教員控え室には、貴重品を入れるロッカーとその鍵がある。③更衣室に、常時私物を置かないこと。④シャワーを使用したい時は、教員に連絡すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III						○	
IV							○

V						○	

テキスト1	「健康・フィットネスと生涯スポーツ」東海大学一般体育研究室編、大修館書店	9784469267433
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 『保育所保育指針解説』フレーベル館 必要に応じて配付する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、スポーツの理論1（健康、運動、生活）
事前	教科書Ⅰの1:「日常生活と健康」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活と健康」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2	スポーツの理論2（体力トレーニング論：ストレッチの科学と準備運動）
事前	教科書Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-4「ストレッチング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「ストレッチング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	バレーボール1（基本技術：トスとサーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

4	バレーボール2（基本技術：アタックとレシーブ）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

5	バレーボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

6	バスケットボール1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

7	バスケットボール2（基本技術：マンツーマンデフェンス）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

8	バスケットボール3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-1「バスケットボール」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

9	サッカー1（基本技術：ドリブルとシュート）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった内容を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

10	サッカー2（基本技術：ルールとフォーメーション）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

11	サッカー3（ゲーム）
事前	教科書Ⅱの2-2「サッカー」の基本戦術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「サッカー」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

12	ラケットスポーツ1（卓球・バドミントンの基本）

事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の歴史と特性と楽しみ方を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

13	ラケットスポーツ2（卓球・バドミントンのゲームの進め方）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」の基本技術を読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」の基本戦術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

14	ラケットスポーツ3（卓球・バドミントンのゲームの実際）
事前	教科書Ⅱの2-8「卓球」、2-9「バドミントン」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「卓球・バドミントン」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

15	スポーツの理論3（大学生の健康）
事前	教科書、Ⅰの1-7:「大学生の健康」、Ⅱの1-7「大学生とスポーツ」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「大学生の健康・大学生とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

16	スポーツの理論4（体力トレーニング論：筋力トレーニングの科学と方法）
事前	教科書、Ⅰの2「フィットネスの実践」、特に1の2-3「筋力トレーニング」を読んで、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「筋力トレーニング」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

17	子どもの運動1（マット運動・鉄棒・フラフープ）
事前	マット運動・鉄棒・フラフープを調べて、基本技術を理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「マット運動・鉄棒・フラフープ」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

18	バレーボール4（ゲームの役割と方法）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のルールを読んで理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

19	バレーボール5（ゲームの運営）
事前	教科書Ⅱの2-4「バレーボール」のゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バレーボール」のゲームを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

20	子どもの運動2（竹馬・縄跳び）
事前	「竹馬・縄跳び」を調べて、基本技術を理解すること（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「竹馬・縄跳び」の基本技術を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

21	バスケットボール4（ゲームの役割と方法）
事前	「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを調べて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」のマンツーマンデフェンスとゾーンデフェンスを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

22	バスケットボール5（ゲームの運営）
事前	「バスケットボール」のゲームをみて、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「バスケットボール」の見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

23	子どもの運動3（スキルチェック）
事前	スキルチェックをするので、事前に練習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスキルチェックを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

24	サッカー4（ゲームの役割と方法）
事前	フットサルのルールを調べてその違いを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フットサル」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

25	サッカー5（ゲームの運営）
事前	サッカーのゲームを見て、見る楽しさを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったサッカーの見る楽しさを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

26	子どもの運動4（運動会の練習）
	運動会の種目、特に綱引き、玉入れ、障害物競走リレー、徒競走リレーの運営について調べて理解すること。（学修時間目安0.5

事前	時間）
事後	授業内でおこなった綱引き、「玉入れ・障害物競走リレー・徒競走リレー」の運営を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

27	子どもの運動5（運動会の運営）
事前	運動会に必要な道具や運営方法を調べて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった運動会に必要な道具や運営方法を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	様々なレクリエーションスポーツ2（雪合戦）
事前	スポンジボールを使った遊びについて調べておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなったスポンジボールを使った遊びを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	様々なレクリエーションスポーツ3（フロアホッケー）
事前	フロアーホッケー、アイスホッケーのルールを調べて理解すること。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「フロアーホッケー・アイスホッケー」のルールを復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	スポーツの理論5（日常生活とスポーツ、まとめ）
事前	教科書、Ⅱの1「日常生活とスポーツ」を読んで、理解しておくこと（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内でおこなった「日常生活とスポーツ」を復習し、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)10:47

科 目 名	スポーツ・コミュニケーション/スポーツII(スポーツ [社介心][ET]			授業コード	6230021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	川原 布紗子				

科目に関する キーワード	球技スポーツ，各種スポーツの基本技術，コミュニケーションスキル

到達目標	スポーツを通じた仲間とのコミュケーション能力を獲得できる. また，体力トレーニングの理論やスポーツの基本的技術を学び，体力の維持・向上に積極的に取り組むことができる.
授業の概要	生涯を通じてスポーツを楽しみ実践できるために，各種スポーツの体力・技術論に加えて，スポーツを通したコミュニケーションスキルの獲得を目指す．球技を主な教材として，理論と実技を併用した授業を行う．理論では，スポーツの概念と歴史，体力トレーニングの理論・方法，スポーツのルールや怪我の予防・防止などを学ぶ.

授業方法	実技	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		運動能力(40%)，プレーに対する積極的な取り組み（25%），チームメイトとのコミュニケーションが取れる(25%)，授業の理解度(10%)を総合して評価する. なお，授業日数の2/3以上の欠席がみられた場合は単位を認定しない.		
フィードバック	個人技術の獲得に関しては，授業内でその都度フィードバックを行う. 戦術，ルールおよびゲームに関しては，各授業内にて全体に時間を設けて確認とフィードバックを行う.			
履修に際しての 注意事項	①履修希望者が多い場合，人数制限をすることがある. ②授業ではスポーツウェアと体育館シューズを必ず着用すること. ③着替えは体育館更衣室で行い，貴重品は必ず体育館アリーナに持ってくること．なお，教員控室に貴重品を入れる鍵付きロッカーがあるため利用を勧める. ④授業時以外は更衣室に私物を置かないこと. ⑤体育館は土足厳禁.			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III	○					○	

IV							○
V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「アクティブスポーツ総合版」大修館書店	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション，スポーツの概念・歴史
事前	履修上の注意に留意し，体調を整えてくること (15分).
事後	授業を共に受講する仲間とのコミュニケーションを図ること (15分).

2	バレーボール1 (パス・サーブ)
事前	バレーボールのルールおよび技術の種類(パス・サーブ)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(パス・サーブ)を行い，技能の向上を図ること (30分).

3	バレーボール2 (スパイク・レシーブ)
事前	バレーボールのルールおよび技術の種類(スパイク・レシーブ)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(スパイク・レシーブ)を行い，技能の向上を図ること (30分).

4	バレーボール3 (ゲーム)
事前	バレーボールのルールおよび試合方法を調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

5	バスケットボール1 (ドリブル・パス・シュート)
事前	バスケットボールのルールおよび技術の種類(ドリブル・パス・シュート)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(ドリブル・パス・シュート)を行い，技能の向上を図ること (30分).

6	バスケットボール2 (マンツーマンディフェンス)
事前	バスケットボールのルールおよび戦術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	戦術確認(マンツーマンディフェンス)を行い，戦術の定着を図ること (30分).

7	バスケットボール3 (ゲーム)
事前	バスケットボールのルールおよび試合方法などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

8	バドミントン1 (サーブ・クリア・ドライブ)
事前	バドミントンのルールおよび技術の種類(サーブ・ショット)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(サーブ・ショット)を行い，技能の向上を図ること (30分).

9	バドミントン2 (スマッシュ・ドロップ・ヘアピン)
事前	バドミントンのルールおよび技術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(スマッシュ・ドロップ・ヘアピン)を行い，技能の向上を図ること (30分).

10	フットサル1 (ドリブル・パス・シュート)
事前	フットサルのルールおよび技術の種類(ドリブル・パス・シュート)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(ドリブル・パス・シュート)を行い，技能の向上を図ること (30分).

11	フットサル2 (ゲーム)
事前	フットサルのルールおよび試合方法などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

12	卓球1 (サーブ・各種ラリー技術)
事前	卓球のルールおよび技術の種類(サーブ・ショット)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(サーブ・ショット)を行い，技能の向上を図ること (30分).

13	卓球2 (ゲーム)

事前	卓球のルールおよび試合方法などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

14	アルティメット
事前	アルティメットルールおよび試合方法などを調べ把握しておくこと (45分).
事後	反復練習および試合の反省を行い，技能の向上や優れた点および改善点の把握を図ること (30分).

15	体力トレーニングの理論と実践，フィールドホッケー
事前	自分自身の体力トレーニングの経験を整理しておくこと. フィールドホッケーのフットサルのルールおよび試合方法などを調べ把握しておくこと (45分).
事後	授業終了後もスポーツ活動を積極的に行うこと (30分).

2020/07/16(木)10:58

科 目 名	球技スポーツ/スポーツI(球技) [心][ET]			授業コード	6230031
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	川原 布紗子				

科目に関する キーワード	球技スポーツ，各種スポーツの基本技術，コミュニケーションスキル

到達目標	スポーツを通じた仲間とのコミュニケーション能力を獲得できる．また，球技スポーツの基本的技術を学び，体力維持・向上に積極的に取り組むことができる．			
授業の概要	生涯を通じてスポーツを楽しみ実践できるために，球技スポーツの基本的技術の習得とスポーツを通したコミュニケーションスキルの獲得を目指す．球技種目を教材とし，実技型の授業を実施する．各種目ごとに，個人技術，集団戦術の獲得およびゲームを行う．また，「選択」と記載のある授業は，2種目からか各自選択して行う．			
授業方法	実技	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		運動能力(40%)，プレーに対する積極的な取り組み（25%），チームメイトとのコミュニケーションが取れる(25%)，授業の理解度(10%)を総合して評価する． なお，授業日数の2/3以上の欠席がみられた場合は単位を認定しない．		
フィードバック	個人技術の獲得に関しては，授業内でその都度フィードバックを行う． 戦術，ルールおよびゲームに関しては，各授業内にて全体に時間を設けて確認とフィードバックを行う．			
履修に際しての 注意事項	①授業ではスポーツウェアと体育館シューズを必ず着用すること． ②着替えは体育館更衣室で行い，貴重品は必ず体育館アリーナに持ってくること．なお，教員控室に貴重品を入れる鍵付きロッカーがあるため利用を勧める． ③授業時以外は更衣室に私物を置かないこと． ④体育館は土足厳禁．			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III	○					○	
IV							○

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「アクティブスポーツ総合版」大修館書店 最新版わかりやすいゲートボールー新ルールによる基本からチームプレーまでー高橋隆輔 梧桐書院	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	履修上の注意に留意し，体調を整えてくること (15分).
事後	授業を共に受講する仲間とのコミュニケーションを図ること (20分).

2	バスケットボール2 個人技術(ドリブル・パス・シュート)
事前	バスケットボールのルールおよび技術の種類(ドリブル・パス・シュート)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(ドリブル・パス・シュート)を行い，技能の向上を図ること (30分).

3	バスケットボール3 集団戦術(オフェンス・ディフェンス)
事前	バスケットボールのルールおよび戦術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	戦術確認を行い，戦術の定着を図ること (30分).

4	バスケットボール1 ゲーム
事前	バスケットボールのルールおよび試合方法を調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

5	フットサル1 個人技術(ドリブル・パス・シュート)
事前	フットサルのルールおよび技術の種類(ドリブル・パス・シュート)などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(ドリブル・パス・シュート)を行い，技能の向上を図ること (30分).

6	フットサル2 集団戦術(オフェンス・ディ フェンス)
事前	フットサルのルールおよび戦術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	戦術確認を行い，戦術の定着を図ること (30分).

7	フットサル3 ゲーム
事前	フットサルのルールおよび試合方法を調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

8	選択 バスケットボール 集団戦術（オフェンス・ディフェンス）/ゲートボール 個人技術 (ルール理解・打つ)
事前	バスケットボールのルールおよび戦術の種類を確認しておくこと. ゲートボールのルールおよび技術の種類などを調べ把握しておくこと (40分).
事後	バスケットボールの戦術確認を行い，戦術の定着を図ること. ゲートボールの反復練習を行い，技能の向上を図ること (30分).

9	選択 バスケットボール 集団戦術 (オフェンス・ディフェンス)/ゲートボール 集団戦術
事前	バスケットボールのルールと戦術の種類を確認しておくこと. ゲートボールのルールおよび戦術の種類を調べ把握しておくこと (40分).
事後	バスケットボールもしくはゲートボールの戦術確認を行い，戦術の定着を図ること (30分).

10	選択 フットサル 集団戦術（オフェンス・ディフェンス）/フリンゴ 個人技術 (サーブ・アタック・レシーブ) チーム練習
事前	フットサルのルールおよび戦術の種類を確認しておくこと. フリンゴのルールおよび技術の種類などを調べ把握しておくこと (40分).
事後	フットサルの戦術確認を行い，戦術の定着を図ること. フリンゴの反復練習を行い，技能の向上を図ること (30分).

11	選択 フットサル 集団戦術（オフェンス・ディフェンス）/フリンゴ 集団戦術 (ラリー・様々なテクニック)
事前	フットサルのルールおよび戦術の種類を確認しておくこと. フリンゴのルールおよび戦術の種類などを調べ把握しておくこと (40分).

事後	フットサルもしくはフリンゴの戦術確認を行い，戦術の定着を図ること (30分).

12	アルティメット1 ルール理解・個人技術 (スロー・キャッチ)
事前	アルティメットのルールおよび技術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	反復練習(スロー・キャッチ)を行い，技能の向上を図ること (30分).

13	アルティメット2 集団戦術
事前	アルティメットのルールおよび戦術の種類などを調べ把握しておくこと (30分).
事後	戦術確認を行い，戦術の定着を図ること (30分).

14	アルティメット3 ゲーム
事前	アルティメットのルールおよび試合方法を調べ把握しておくこと (30分).
事後	試合の反省を行い，試合における優れた点および改善点を把握すること (30分).

15	レクリエーションスポーツ1
事前	これまでに行った種目のルールなどを確認し体調を整えくること (15分).
事後	授業終了後もスポーツ活動を積極的に行うこと (30分).

2020/07/16(木)10:35

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	6240010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	河原 眞利				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)10:46

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	6240020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	河原 眞利				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)10:55

科 目 名	子どもと造形表現I [子]			授業コード	6240030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	河原 眞利				

科目に関するキーワード	幼児の造形表現、モダンテクニック、紙工作、自己表現
到達目標	造形表現とは何か、幼児の表現を支援するために、どのような教材が考えられるかを探求するとともに、幼児の創造性を育み援助するために必要な基礎的造形力を身に付ける。 (1) 子どもと造形表現 一般目標:子どもの造形表現について理解する。 到達目標: 1)幼児教育に繋がる題材の実践を通し、創造する喜びや感動を幼児と共有できる視点を獲得する。 2)造形活動としての制作過程について理解している。 (2) 造形表現における基礎的な内容 一般目標:子どもの造形表現を生成する様々な表現の知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を錬磨する。 到達目標: 1)幼児の表現を見取り、感動を共有する美的感性を深める。 2)生活の中から造形活動に繋がる素材・要素を発見して、創作に結び付けることができる。 3)協働して學び合う実践を通し、発展的な自己課題を見つけることができる。 4)幼児の表現活動を適切に援助できる基礎的・汎用的造形力を獲得する。
授業の概要	幼児の創造性を育み、表現活動を支援するために必要な基礎的造形力を養成する。造形活動における基本を実修し、素材に対する知識と技能を習得する。前期授業では絵画表現を中心とした平面による表現、後期授業では紙工作など立体による表現を実践することによって、幼児の造形活動における専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループワーク
評価方法及び評価基準	試験	授業への姿勢・取り組み(30%)、作品課題(30%)、試験(40%)として評価します。		
フィードバック	授業内で提出した提出物については、授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。			
履修に際しての注意事項	絵の具や粘土などの造形材料を用いるので、運動性があり汚れても良い服装が望ましい。大きさF6・画用紙20ページ以上のスケッチブック等、オリエンテーション時に説明する制作用具を各自準備し、制作後も最後まで責任を持って制作用具と作品を管理すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		

III				○		○	
IV							
V							

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 おかもとみわこ・大沢裕〔編著〕『造形表現』 一藝社 その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション(授業に関する諸注意・領域「表現」・子どもの造形表現とは何か)
事前	中学校・高等学校において使用した美術の教科書・資料集を見返し、これまでの制作活動について振り返っておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、考えたことや感じたことを記録しておく(0.5時間)

2	色彩の基礎(色彩学)
事前	これまでの色彩表現を振り返り、表現と色彩について考えておく(0.5時間)
事後	学んだ色の仕組みについて記録しておく(0.5時間)

3	モダンテクニックによる表現1(フィンガーペインティング、デカルコマニー)
事前	これまでの絵の具を使用した経験について振り返っておく。授業に必要な制作用具を準備する(0.5時間)
事後	制作活動を振り返り、作品をスケッチブックにまとめる(0.5時間)

4	モダンテクニックによる表現2(にじみ、バチック)
事前	クレヨンを用いた制作活動を振り返っておく。制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	にじみとバチックを使用した表現を振り返り記録しておくこと(0.5時間)

5	モダンテクニックによる表現3(スクラッチ、スタンピング)
事前	スタンプしたら面白そうな素材を準備しておく(0.5時間)
事後	スクラッチとスタンピングの技法を振り返り記録しておく(0.5時間)

6	モダンテクニックによる表現4(ドリッピング、スパッタリング)
事前	制作用具を準備しておく(0.5時間)
事後	ドリッピングとスパッタリングの技法を振り返り、作品をスケッチブックにまとめておく(0.5時間)

7	モダンテクニックによる表現5(フロッタージュ、コラージュ)
事前	コラージュに使う雑誌や広告などを準備してしておく(0.5時間)
事後	フロッタージュやコラージュによる表現について記録しておく(0.5時間)

8	技法の応用1(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・構想と下描き)
事前	モダンテクニックについて振り返っておく(0.5時間)
事後	担当する場面に適したモダンテクニックについて考えておく(0.5時間)

9	技法の応用2(これまで学んだ技法を用い、絵本の挿絵を描く・色付けと仕上げ)
事前	作品発表に向けて、グループのメンバーの進捗状況を確認しあっておく(0.5時間)
事後	発表に向けて読み合わせなどをしておく(0.5時間)

10	技法の応用3(作品発表と講評、子どもの造形表現への援用と指導法)
事前	作品の発表に向けてグループで担当箇所を確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの発表を鑑賞した上で、自身の制作やグループワークにおける役割りについて振り返っておく(0.5時間)

11	ペープサートの制作1(構想と下描き)
事前	ペープサートがどういったものか調べておく(0.5時間)

事後	グループで決めた演じる内容について振り返り、自分の担当する箇所を確認しておく(0.5時間)

12	ペープサートの制作2(彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	制作するキャラクターや台座などを制作するための材料を準備する(0.5時間)
事後	演じるにあたっての背景や持ち物などの見せ方について考えておく(0.5時間)

13	ペープサートの制作3(仕上げ発表準備)
事前	制作に必要な用具や材料を準備しておく(0.5時間)
事後	発表に向けて、練習をしておく(0.5時間)

14	ペープサートの制作4(発表と相互鑑賞、保育現場における造形活動と指導法)
事前	セリフや動かし方など最終の確認をしておく(0.5時間)
事後	他のグループの中で、良いと思ったグループの工夫などをプリントに記録しておく(0.5時間)

15	前期のまとめと振り返り
事前	スケッチブックを整理し、前期に学んできた技法について振り返る(0.5時間)
事後	前期で学修した内容を振り返り、子どもの造形活動を援助するために気を付けることなどを記録しておく(0.5時間)

16	後期オリエンテーション(授業の諸注意・子どもの造形表現と発達について)
事前	幼児教育において取り組まれている紙工作について調べてくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、記録しておく(0.5時間)

17	紙工作1(紙を用いたからくり)
事前	糊などの制作用具を準備してくる(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、子どもが道具を使用する際に注意すべき点を記録しておく(0.5時間)

18	紙工作2(ジャバラ折りの切り絵)
事前	制作の材料を準備する(0.5時間)
事後	授業の内容を復習し、カードの装飾について考えてくる(0.5時間)

19	紙工作3(紋切りの基礎、江戸期の子どもの遊びについて)
事前	折り紙を用意しておく(0.5時間)
事後	折り紙の面白さや楽しさについて考え、記録しておく(0.5時間)

20	紙工作4(自分の家紋を創作する)
事前	自分の家紋を調べてくる(0.5時間)
事後	配布資料を見返し、江戸期の紋切り遊びについて記録しておく(0.5時間)

21	紙工作5(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・構想とパーツ制作)
事前	スケッチブックを整理し、これまでの課題を整理しておく(0.5時間)
事後	切り絵において、残す箇所と切り取る箇所について復習し、アイデアスケッチを見直す(0.5時間)

22	紙工作6(切り紙のみを用いて風景や人物を表現する・張り付けと仕上げ)
事前	背景に貼る色画用紙などを準備しておく(0.5時間)
事後	作品をアイデアスケッチに貼って復習をしておく(0.5時間)

23	身近にある材料を用いた制作1(作品構想とアイデアスケッチ)
事前	幼児教育の環境で見られる自然物について考えてくる(0.5時間)
事後	自分で決めたコンセプトに従い、アイデアスケッチを描いておく(0.5時間)

24	身近にある材料を用いた制作2(作品の試作と発表準備)
事前	自分の構想に沿って、材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見返し、使用する技法と材料などについて構想を練る(0.5時間)

25	身近にある材料を用いた制作3(発表と相互鑑賞、子どもの感性と造形表現について)
事前	作品の配色や構図の効果などについて見返しておく(0.5時間)
事後	授業を振り返り、自然物へ触れる経験が、子どもにとってどのような影響があるか考えて記録しておく(0.5時間)

26	自己表現1(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・構想と下描き)
事前	自分とは何か、自分を表すのに適している主題などについて考えておく(0.5時間)

事後	これまでに学んだ技法を振り返り、主題に即した技法を用いて構想を練る(0.5時間)

27	自己表現2(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・彩色、組み立てなど技法の工夫)
事前	必要な材料を準備しておく(0.5時間)
事後	アイデアスケッチを見直し、構想を練る(0.5時間)

28	自己表現3(これまで学んだ技法を用いて自分自身を表現する・仕上げ)
事前	プリントを見直し、技法の名前と効果について確認をしておく(0.5時間)
事後	仕上げに向けて作品の進捗状況を確認しておく(0.5時間)

29	自己表現4(作品発表と相互鑑賞、造形表現の方法と指導の仕方について)
事前	発表に向けてプレゼンテーションできるように準備しておく(0.5時間)
事後	他の人の発表を受けて、自己の作品や発表について振り返っておく(0.5時間)

30	総括
事前	これまでに準備した制作用具を使用する技法と効果について振り返っておく(0.5時間)
事後	配布されたプリントとスケッチブックを整理し、子どもの造形表現についての考えを記録しておく(0.5時間)

2020/07/16(木)11:00

科 目 名	子どもと造形表現II [子][ET]			授業コード	6240040
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	河原 眞利				

科目に関する キーワード	造形技法　自己表現　造形活動企画　グループワーク

到達目標	本授業の到達目標は下記の通りである。1)様々な素材や造形技法にふれ、実践することで、子どもの造形活動を適切に支援出来る知識と造形力を獲得すること。2)創造する楽しさや喜びを感じ、子どもと共にいきいきと楽しめる造形課題を自ら発想出来る感性を養うこと。3)子どもの感性や発達に見合った造形活動を実践的に計画できるようにすること。			
授業の概要	子どもと造形表現Ⅰで習得した造形力や知識を基に、新たな素材や技法に取り組み、一歩進んだ自分らしい創作活動を発展させる。表現の楽しさ、喜びを実感しながらその楽しさについて分析し、保育者として日常生活の中で子どもとともに楽しむ造形活動を自ら創出できる発想力を養うため、素材研究や共同制作も行っていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループによる人形劇の制作・上演。
評価方法 及び評価基準	レポート	自己課題への取り組み姿勢とその成果（35%）、授業内レポート(35%)、提出作品（30%）		
フィードバック	課題ごとに配布されるプリントを、その課題終了時に記入し、作品写真を貼って提出する。 返却されたプリントは順番にクリアファイルに保管し、一年間で造形表現アイデアBOOKとして完成させる。			
履修に際しての 注意事項	F6程度の大きさのスケッチブック　B4ファイル（20ポケット程度のもの） 課題ごとに指示される、材料、必要な道具を準備してくること。 運動性があり、汚れても良い服装でのぞむこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III		○			○		
IV							

V							○

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 日本文教出版　小学校図画工作 日本文教出版　図画工作・美術 forme 開隆堂出版　図画工作　他	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション(領域「表現」と造形表現)
事前	シラバスを読んでくること(0.5h)
事後	これまでの自己の造形体験や造形に対する興味について分析を行う(0.5h)

2	版画1ステンシル(構想・原画制作)
事前	ステンシルについて調べておく。授業に必要な制作用具を準備する。(0.5h)
事後	ステンシル原画の制作注意点について記録する。(0,5h)

3	版画2ステンシル(型紙制作)
事前	ステンシル型の制作に必要な画材、道具を準備する。(0.5h)
事後	ステンシル型制作での注意点について記録する。(0.5h)

4	版画3ステンシル(着色)　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	ステンシルの着色に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	スタンピングによる着色について振り返り、記録する。

5	版画4紙はんが　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	自分のステンシル作品に有効な道具類について考え、準備する。(0.5h)
事後	制作を通じてわかったことを記録する。 ステンシル技法を使った子供の造形活動を考え、レポートする。(0,5h)

6	染色1マーブリング・折り染め　技法のまとめ・振り返り及び、活動指導案作成について
事前	マーブリング・折染めについて調べておく。(0、5h)
事後	授業の経験をもとに、実際の子どもの活動として指導案を制作する。(0,5h)

7	染色2藍染　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	染色に必要な装備を準備する。(0,5h)
事後	絞り染めの体験の活動を企画する。(0,5h)

8	塑造1(デッサン)
事前	作りたい動物を決めて、色々な方向からの写真をプリントアウトして準備する。(0,5h)
事後	作りたい動物の骨格について調べる。(0,5h)

9	塑造2(芯棒制作)
事前	実際に作るポーズを決定する。(0,5h)
事後	制作で気づいたことを記録する。(0,5h)

10	塑造3(粘土づけ)　粘土の種類とその特性について
事前	塑像に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	制作で気づいたこと、留意点を記録する。(0,5h)

11	塑造4(着色)　素材・技法のまとめ・振り返りレポート
事前	制作している動物にふさわしい描写の仕方について考え、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作を振り返り、体験から学んだことを記録する。(0,5h)

12	素材研究1-1ダンボール(素材研究・構想)　ダンボールの特性について

事前	制作に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	ダンボール素材についてわかったことを記録する。(0,5h)

13	素材研究1-2ダンボール（部品制作）
事前	作りたいものを決め、作り方について考える。設計図を描く。(0,5h)
事後	制作を通じて気づいたことを記録する。(0,5h)

14	素材研究1-3ダンボール（組み立て） 振り返りと、ダンボール素材の造形活動企画
事前	制作に必要な道具や、付け加えたい材料を準備する。(0,5h)
事後	ダンボールを用いた、ダイナミックな子どもの造形活動を考えレポートする。(0,5h)

15	前期のまとめ・作品発表と講評
事前	講評会に向けて前期の制作作品をすべて準備しておく。(0,5h)
事後	前期のプリントを全てファイリングして提出する。(0,5h)

16	石膏による手形制作1（型取り） 石膏素材とその取り扱いについて
事前	石膏取りに必要な指定された材料・道具を準備する。(0,5h)
事後	制作を通じて石膏素材について分かったことを記録する。(0,5h)

17	石膏による手形制作2（着色） 技法のまとめ・振り返り及び、活動指導案作成について
事前	石膏手形の着色に必要な道具を準備する。(0,5)
事後	授業を通じて分かったことを記録する。手形を使った子どもの共同制作について企画する。(0,5h)

18	風船はりこによる造形1（デッサン・構想）
事前	「はりこ」制作に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作するもののデザインを考える。(0,5h)

19	風船はりこによる造形2（貼りこみ）
事前	制作に必要な道具、材料を準備する。(0,5h)
事後	制作して、気づいたことを記録しておく。(0,5)

20	風船はりこによる造形3（部品制作）
事前	制作に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作して、気づいたことを記録する。(0,5h)

21	風船はりこによる造形4（着色） 技法のまとめ、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	自分のイメージに合う仕上げの方法について考え、準備する、(0,5h)
事後	はりこ技法を用いた子どもの造形活動について企画し、レポートする。(0,5h)

22	共同制作1（題材設定・構想）
事前	人形劇制作にふさわしい物語について考える。(0,5h)
事後	グループで決めた内容、役割分担について記録する。(0,5h)

23	素材研究2-1羊毛フェルト（フェルトボール制作） フェルト化について
事前	自分の作るキャラクターについて、イメージをかためておく。(0,5h)
事後	洗剤によるフェルト化について気づいたことを記録する。(0,5h)

24	素材研究2-2羊毛フェルト（部品制作）
事前	キャラクターデザインを考える。(0,5h)
事後	ニードルによるフェルト化について気づいたことを記録する。(0,5h)

25	素材研究2-3羊毛フェルト（ニードルによる造形）
事前	キャラクターの性格について考える。(0,5h)
事後	フェルト素材についてわかったことを記録する。(0,5h)

26	素材研究2-4羊毛フェルト（組み立て） 素材のまとめ、保育現場での素材の活用方法について
事前	作っているキャラクターに合う、手袋を用意する。(0,5h)

事後	保育現場における、フェルト素材の活用の可能性について考え、レポートする。(0,5h)

27	共同制作2（演出計画）
事前	選んだ物語の台本を見つけてくる。(0,5h)
事後	背景、小道具、音響効果などについて分担する。(0,5h)

28	共同制作3（背景・部品制作・稽古）
事前	自分の役割に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	観客によりよく伝わる、表現力を高める演技について考える(0,5h)

29	共同制作4(上演・撮影）
事前	音響・背景・小道具など全てを統合した演出について考える。(0.5h)
事後	人形劇制作の振り返りと、共同制作のポイントについて分析を行う。(0,5h)

30	まとめ・作品発表と講評・ファイル提出
事前	配布されたプリントを順番に全てファイリングし、提出できるように準備する。(0,5h)
事後	一年間で作り上げた「造形表現アイデアBOOK」と、作品を整理して持ち帰る。(0,5h)

2020/07/16(木)11:08

科 目 名	子どもと造形表現II [子][ET]			授業コード	6240050
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	河原 眞利				

科目に関する キーワード	造形技法　自己表現　造形活動企画　グループワーク

到達目標	本授業の到達目標は下記の通りである。1)様々な素材や造形技法にふれ、実践することで、子どもの造形活動を適切に支援出来る知識と造形力を獲得すること。2)創造する楽しさや喜びを感じ、子どもと共にいきいきと楽しめる造形課題を自ら発想出来る感性を養うこと。3)子どもの感性や発達に見合った造形活動を実践的に計画できるようにすること。			
授業の概要	子どもと造形表現Ⅰで習得した造形力や知識を基に、新たな素材や技法に取り組み、一歩進んだ自分らしい創作活動を発展させる。表現の楽しさ、喜びを実感しながらその楽しさについて分析し、保育者として日常生活の中で子どもとともに楽しむ造形活動を自ら創出できる発想力を養うため、素材研究や共同制作も行っていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	グループによる人形劇の制作・上演。
評価方法 及び評価基準	レポート	自己課題への取り組み姿勢とその成果（35%）、授業内レポート(35%)、提出作品（30%）		
フィードバック	課題ごとに配布されるプリントを、その課題終了時に記入し、作品写真を貼って提出する。 返却されたプリントは順番にクリアファイルに保管し、一年間で造形表現アイデアBOOKとして完成させる。			
履修に際しての 注意事項	F6程度の大きさのスケッチブック　B4ファイル（20ポケット程度のもの） 課題ごとに指示される、材料、必要な道具を準備してくること。 運動性があり、汚れても良い服装でのぞむこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III		○			○		
IV							

V							○

テキスト1	授業の進行に伴い適宜資料を配布。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館 日本文教出版　小学校図画工作 日本文教出版　図画工作・美術 forme 開隆堂出版　図画工作　他	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション(領域「表現」と造形表現)
事前	シラバスを読んでくること(0.5h)
事後	これまでの自己の造形体験や造形に対する興味について分析を行う(0.5h)

2	版画1ステンシル(構想・原画制作)
事前	ステンシルについて調べておく。授業に必要な制作用具を準備する。(0.5h)
事後	ステンシル原画の制作注意点について記録する。(0,5h)

3	版画2ステンシル(型紙制作)
事前	ステンシル型の制作に必要な画材、道具を準備する。(0.5h)
事後	ステンシル型制作での注意点について記録する。(0.5h)

4	版画3ステンシル(着色)　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	ステンシルの着色に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	スタンピングによる着色について振り返り、記録する。

5	版画4紙はんが　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	自分のステンシル作品に有効な道具類について考え、準備する。(0.5h)
事後	制作を通じてわかったことを記録する。 ステンシル技法を使った子供の造形活動を考え、レポートする。(0,5h)

6	染色1マーブリング・折り染め　技法のまとめ・振り返り及び、活動指導案作成について
事前	マーブリング・折染めについて調べておく。(0、5h)
事後	授業の経験をもとに、実際の子どもの活動として指導案を制作する。(0,5h)

7	染色2藍染　技法のまとめ・振り返り及び、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	染色に必要な装備を準備する。(0,5h)
事後	絞り染めの体験の活動を企画する。(0,5h)

8	塑造1(デッサン)
事前	作りたい動物を決めて、色々な方向からの写真をプリントアウトして準備する。(0,5h)
事後	作りたい動物の骨格について調べる。(0,5h)

9	塑造2(芯棒制作)
事前	実際に作るポーズを決定する。(0,5h)
事後	制作で気づいたことを記録する。(0,5h)

10	塑造3(粘土づけ)　粘土の種類とその特性について
事前	塑像に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	制作で気づいたこと、留意点を記録する。(0,5h)

11	塑造4(着色)　素材・技法のまとめ・振り返りレポート
事前	制作している動物にふさわしい描写の仕方について考え、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作を振り返り、体験から学んだことを記録する。(0,5h)

12	素材研究1-1ダンボール(素材研究・構想)　ダンボールの特性について

事前	制作に必要な道具を準備する。(0,5h)
事後	ダンボール素材についてわかったことを記録する。(0,5h)

13	素材研究1-2ダンボール（部品制作）
事前	作りたいものを決め、作り方について考える。設計図を描く。(0,5h)
事後	制作を通じて気づいたことを記録する。(0,5h)

14	素材研究1-3ダンボール（組み立て） 振り返りと、ダンボール素材の造形活動企画
事前	制作に必要な道具や、付け加えたい材料を準備する。(0,5h)
事後	ダンボールを用いた、ダイナミックな子どもの造形活動を考えレポートする。(0,5h)

15	前期のまとめ・作品発表と講評
事前	講評会に向けて前期の制作作品をすべて準備しておく。(0,5h)
事後	前期のプリントを全てファイリングして提出する。(0,5h)

16	石膏による手形制作1（型取り） 石膏素材とその取り扱いについて
事前	石膏取りに必要な指定された材料・道具を準備する。(0,5h)
事後	制作を通じて石膏素材について分かったことを記録する。(0,5h)

17	石膏による手形制作2（着色） 技法のまとめ・振り返り及び、活動指導案作成について
事前	石膏手形の着色に必要な道具を準備する。(0,5)
事後	授業を通じて分かったことを記録する。手形を使った子どもの共同制作について企画する。(0,5h)

18	風船はりこによる造形1（デッサン・構想）
事前	「はりこ」制作に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作するもののデザインを考える。(0,5h)

19	風船はりこによる造形2（貼りこみ）
事前	制作に必要な道具、材料を準備する。(0,5h)
事後	制作して、気づいたことを記録しておく。(0,5)

20	風船はりこによる造形3（部品制作）
事前	制作に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	制作して、気づいたことを記録する。(0,5h)

21	風船はりこによる造形4（着色） 技法のまとめ、子どもの造形活動への援用と指導方法について
事前	自分のイメージに合う仕上げの方法について考え、準備する、(0,5h)
事後	はりこ技法を用いた子どもの造形活動について企画し、レポートする。(0,5h)

22	共同制作1（題材設定・構想）
事前	人形劇制作にふさわしい物語について考える。(0,5h)
事後	グループで決めた内容、役割分担について記録する。(0,5h)

23	素材研究2-1羊毛フェルト（フェルトボール制作） フェルト化について
事前	自分の作るキャラクターについて、イメージをかためておく。(0,5h)
事後	洗剤によるフェルト化について気づいたことを記録する。(0,5h)

24	素材研究2-2羊毛フェルト（部品制作）
事前	キャラクターデザインを考える。(0,5h)
事後	ニードルによるフェルト化について気づいたことを記録する。(0,5h)

25	素材研究2-3羊毛フェルト（ニードルによる造形）
事前	キャラクターの性格について考える。(0,5h)
事後	フェルト素材についてわかったことを記録する。(0,5h)

26	素材研究2-4羊毛フェルト（組み立て） 素材のまとめ、保育現場での素材の活用方法について
事前	作っているキャラクターに合う、手袋を用意する。(0,5h)

事後	保育現場における、フェルト素材の活用の可能性について考え、レポートする。(0,5h)

27	共同制作2（演出計画）
事前	選んだ物語の台本を見つけてくる。(0,5h)
事後	背景、小道具、音響効果などについて分担する。(0,5h)

28	共同制作3（背景・部品制作・稽古）
事前	自分の役割に必要な材料、道具を準備する。(0,5h)
事後	観客によりよく伝わる、表現力を高める演技について考える(0,5h)

29	共同制作4(上演・撮影）
事前	音響・背景・小道具など全てを統合した演出について考える。(0.5h)
事後	人形劇制作の振り返りと、共同制作のポイントについて分析を行う。(0,5h)

30	まとめ・作品発表と講評・ファイル提出
事前	配布されたプリントを順番に全てファイリングし、提出できるように準備する。(0,5h)
事後	一年間で作り上げた「造形表現アイデアBOOK」と、作品を整理して持ち帰る。(0,5h)

2020/07/16(木)21:54

科 目 名	日本語表現法I [社]			授業コード	6250010
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	神田 久義				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:47

科 目 名	日本語表現法I [心]			授業コード	6250020
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	神田 久義				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:59

科 目 名	日本語表現法III [子]			授業コード	6250032
副 題	小論文を中心に				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	神田 久義				

科目に関する キーワード	論理的 根拠 自己PR

到達目標	自分の考えをわかりやすく論理的に書いたり、話したりする技術を習得することをねらいとする。 1、就職活動を視野に入れ、そのための作文・面接の技術の習得を目指す。具体的には、1000字程度で、説得力のある文章を書けるようになる。 2、他人に自分の思いを的確に伝えることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅲ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 就職活動を視野に入れ、そのために必要な文章力、会話力の向上を図る。自己を表現する際の工夫や注意点を学び、添削を通して改善するという流れの中で、表現に磨きをかけていく。具体的には、文章を書く際の基礎的な技術、よりよい自己PRの方法、小論文の書き方などを学ぶ。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	情報の収集・整理と共有を通して、文章化を図る。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み20%、授業内テスト20%、提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	日本語力をより高めたい学生の受講を希望する。受講する以上は欠席をせず意識をもって取り組むことまた、提出物は提出期限を厳守すること。赤ペン、清書用のボールペン、プリント類を整理するファイル、国語辞典を必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（総合日本語チェック）
事前	これまでに受講した日本語表現法で学んだ漢字・語句を復習する（0.5時間）。
事後	日本語チェックを用い、誤って答えた個所については辞書で調べ、知識の定着を図る（0.5時間）。

2	説得力のある文章とは？
事前	専門性の高い文章を読み、論者の主張を整理する（0.5時間）。
事後	配布した資料を用い、説得力の有無を判断できるようにする（0.5時間）。

3	根拠を明確にした文章（600字）
事前	専門性の高い文章を読み、論者の主張の根拠を整理する（0.5時間）。
事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

4	出来事をわかりやすく説明する（600字）
事前	身近に起こった出来事を時系列順に記録、因果関係を把握する（0.5時間）。
事後	添削した文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

5	自分で新聞記事を探して意見を述べる（口頭発表）
事前	対象とする新聞記事を選び、自分の意見をまとめる（0.5時間）。
事後	講評をもとに、事実の理解と自らの意見を深める（0.5時間）。

6	意見文を書く（600字）口頭発表をまとめる
事前	前回授業を踏まえ、文章の構成を考える（0.5時間）。
事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

7	自己PRの資料をつくる(履歴書とエントリーシート)
事前	自身の経歴と保有資格などを確認する（0.5時間）。
事後	自己分析を深め、自身の魅力を引き出す文章を書けるようにする（0.5時間）。

8	模擬面接①（マナーと言葉遣い）
事前	敬語の種類と使い方について復習する（0.5時間）。
事後	その場に応じた言動が選べるように、シチュエーションを考え、ロールプレイする（0.5時間）。

9	模擬面接②（プレゼンテーション）
事前	自己分析を踏まえてプレゼンテーションの内容を決め、質問を想定して答え方を考える（0.5時間）。
事後	講評をもとに、自己分析を深める（0.5時間）。

10	面接についての振り返り
事前	面接について振り返り、個々の課題を発見する（0.5時間）。
事後	課題の解決に至った過程を整理し、自己分析に生かして、自身の魅力を最大限に表現する方法を考える（0.5時間）。

11	小論文を書く①（1000字）自分（未来）に関するテーマ
事前	自身の進路について、できるだけ具体的にまとめ、必要な資料を収集・整理する（0.5時間）。
事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

12	小論文を書く②（1000字） 自分（過去）に関するテーマ
事前	自らの過去を振り返り、そこから得た「学び」についてまとめる（0.5時間）。
事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

13	小論文を書く③（1000字）社会に関するテーマ1
事前	興味のある社会事象について、資料を収集・整理し、自身の意見をまとめる（0.5時間）。

事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

14	小論文を書く④（1000字）社会に関するテーマ2（時事問題）
事前	自らの進路と関わりのある社会事象について、資料を収集・整理し、自身の意見をまとめる（0.5時間）。
事後	添削された文章をもとに、推敲し、完成させる（0.5時間）。

15	振り返りとまとめ
事前	半期の内容を整理し、知識の定着を図る。
事後	半期で学んだことを実践できるよう、日々、自身と社会に対するまなざしを養う（0.5時間）。

2020/07/16(木)20:25

科 目 名	人格心理学/感情・人格心理学 [子]			授業コード	6260011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	木甲斐 智紀				

科目に関する キーワード	類型論／特性論／状況論／行動主義／正常と異常
到達目標	人格に関する多様な観点を理解し，それぞれの観点から人間の個人差や個性を説明できる。 人格に関する研究知見に基づく心理アセスメント技法を理解し，説明できる。 人格に関する知識から，社会的な場面での困難を改善する方法を案出できる。
授業の概要	人間は，ある人がどのような人間なのかを見定めようとしながら生きている。これは，集団で生活する人類にとって，他者の「人格」あるいは「性格」を見抜くことが，生きる上で有用であったためであろう。同様に，私たちは自分の人格に対しても何らかのイメージを抱いている。しかし，そうした素朴な人格理解はしばしば不正確なものになる。自他の人格の不十分な理解は，偏見や差別，思わぬトラブル，支援の失敗などにつながることもあり，ときに自他を傷つける結果を招く。反対に，自他の人格の適切な理解は，良好な関係の形成や有効な支援の土台となりうる。本講義では，「人格」をめぐる多様な心理学理論やアセスメントの方法論を紹介し，人格についての専門的な知識を多様な場面で活用できるよう学習を深めていく。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	小グループでのグループディスカッションを行う（5回程度）。
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験（70%），授業態度および提出物（30%）として，総合的に評価する。		
フィードバック	講義内で求める提出物における学生からの質問等には以降の講義において回答する。			
履修に際しての 注意事項	本講義の総括として実施される定期試験に際しては，結果が評価の中で大きなウェイトを占めることから，各自入念な準備が必要となる。厳格な姿勢をもって臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III							
IV			○				

V		○					

テキスト1	特になし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「パーソナリティ心理学概論ー性格理解への扉ー」 鈴木公啓（編） ナカニシヤ出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：観察の理論負荷性
事前	不要
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（4時間）。

2	人格とはなにか？：人格を定義する
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

3	人格を理解する方法：体験してみる
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

4	タイプで見る人格理論：類型論
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

5	バランスで見る人格理論：特性論
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

6	人格のない人格理論：状況論
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

7	生育環境と人格：家族の観点から
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

8	生育環境と人格：文化と時代の観点から
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

9	遺伝と人格：「生まれつき」を考える
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

10	人格は変わるのか？：人生史を読み解く
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

11	人格の正常と異常：パーソナリティ障害

事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

12	人格と対人援助：フロイトとロジャーズ
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

13	人格と対人援助：認知行動療法
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

14	人格心理学を日常に活かすために
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

15	まとめ
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

2020/07/16(木)20:31

科 目 名	グループダイナミックス [心子]			授業コード	6260022
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	木甲斐 智紀				

科目に関する キーワード	同調／権威と支配／偏見／社会的アイデンティティ／進化
到達目標	グループ・ダイナミックスに関連する基礎概念や理論について理解し，説明できる。 現代の様々な社会問題について，グループ・ダイナミックスの観点から理解し，解決の方法を探求することができる。
授業の概要	人間は集団で生きる動物である。集団の単位は，家族・恋人（配偶者）・友人といった親密なものから，たまたまそこに居合わせた人々といった希薄なものまで，多様なあり方を考えることができる。本講義では，そうした集団がいかにして形成されるのかや，集団が形成されたことによって個人がいかに影響を受けるのかなど，集団的現象に働く「力」について学習する。加えて，そうした「力」の由来の一つとして，人類の進化という観点も検討していく。講義では，歴史的に重要な古典的研究から最新の研究まで，実証的な研究を紹介する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	小グループでのグループディスカッションを行う（5回程度）。
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験（70%），授業態度および提出物（30%）として，総合的に評価する。		
フィードバック	講義内で求める提出物における学生からの質問等には以降の講義において回答する。			
履修に際しての 注意事項	本講義の総括として実施される定期試験に際しては，結果が評価の中で大きなウェイトを占めることから，各自入念な準備が必要となる。厳格な姿勢をもって臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○	○					
III							
IV							

V		○					

テキスト1	「進化と感情から解き明かす社会心理学」 北村英哉・大坪庸介（著） 有斐閣アルマ	978-4-641-12466-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「グラフィック社会心理学（第2版）」 池上知子・遠藤由実（共著） サイエンス社 「社会心理学再入門―ブレークスルーを生んだ12の研究―」 ジョアンヌ・R・スミス & アレクサンダー・ハスラム（編）樋口匡貴・藤島喜嗣（監訳） 新曜社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：生き残った人類
事前	不要
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（4時間）。

2	人間の自動性：私の行動を決めるのは私か？
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

3	生き残るための感情：人はなぜ感情を持つのか
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

4	集団とは：「私たち」を考える
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

5	親密な関係：家族を考える
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

6	親密な関係：恋愛・結婚を考える（1）
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

7	親密な関係：恋愛・結婚を考える（2）
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

8	親密な関係：友人・仲間を考える
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

9	同調と規範：「みんなが言っているから」
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること（2時間）。

10	集団を感じる心：自尊心の正体
事前	前回講義の最後に指定された（配布された）文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと（2時間）。
	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明で

事後	きるようにすること(2時間)。

11	囚人と看守:支配の力学
事前	前回講義の最後に指定された(配布された)文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと(2時間)。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること(2時間)。

12	服従か反抗か:権威に屈する人間
事前	前回講義の最後に指定された(配布された)文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと(2時間)。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること(2時間)。

13	差別と偏見:「私たち」と「彼ら」
事前	前回講義の最後に指定された(配布された)文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと(2時間)。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること(2時間)。

14	傍観者になる人間:手を差し伸べられないのはなぜか
事前	前回講義の最後に指定された(配布された)文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと(2時間)。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること(2時間)。

15	まとめ
事前	前回講義の最後に指定された(配布された)文献に目を通し，疑問点を整理しておくこと(2時間)。
事後	講義内で配布する資料を熟読し，紹介される概念を十分に理解すること。また，解説される研究知見の詳細を再度確認し，説明できるようにすること(2時間)。

2020/07/16(木)21:37

科 目 名	コンピュータ・リテラシーI/コンピュータ・リテラシー [心]			授業コード	6270010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	窪田 尚				

科目に関する キーワード	情報モラル、Word、Excel、PowerPoint、レポート

到達目標	情報および基礎的なコンピュータの概念を身につけることができ、大学生活で必要な情報機器を活用するための学内ネットワークの知識、様々なコンピュータソフトの利用方法などを知ることができる。 インターネットの様々なサービスの安全な利用方法、インターネットや電子メール等のネットワーク活用方法、レポート作成やビジネス文書などの文書作成方法、数式や関数を利用した計算とグラフ作成など表計算ソフトの利用方法、プレゼンテーション技法やソフトの活用方法など、知識と技術を習得して利活用することができるようになる。			
授業の概要	現代社会ではコンピュータは情報収集、整理、分析、報告のために必要不可欠な道具である。また、大学での学習活動においても十分に活用できる能力を身につけることが望まれている。情報機器を安全に利用するため、技術的な説明や基本的な使用方法を講義するとともに、身につけた知識を実践力にすべく演習を通して主体的に学ぶことを繰り返し行なっていく。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	基本事項を説明したのちに練習問題を解き、授業後に確認テストや実践ドリルに取り組む。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内の課題及び諸活動への取り組み (40%)、レポート作成等 (60%) によって評価する。		
フィードバック	授業内での取り組む課題、練習問題等については、授業内で解説します。総合演習問題については、授業内またはでんでんばん などを通じて、正答率の低かった内容について説明します。			
履修に際しての 注意事項	Microsoft Office2016以降を使用して授業を行う。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○			○	
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】、noa出版	9784908434358
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業概要と学内システムの説明）
事前	シラバスの内容を確認し、でんでんばんの各項目を再確認する。（学修時間0.5時間）
事後	授業で説明した内容を確認し、不明な点について調べる。（学修時間0.5時間）

2	セキュリティと情報モラル
事前	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、セキュリティと情報モラルについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、セキュリティと情報モラルについて十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

3	インターネットと電子メール、メール作成のマナー
事前	事前に配布するプリントを読み、インターネット、電子メール、メール作成のマナーについて理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	パソコンのWebブラウザを利用してインターネット検索したり、身近な人に電子メールで近況報告するなど学んだことを利用して十分に理解を深めておくこと。（学修時間目安0.5時間）

4	文書作成1)文書作成ソフトの基礎（入力と修正）
事前	教科書P29～59を読み、文書作成ソフトを用いた文章入力や修正方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの入力に関する知識・技能の定着を図ること（学修時間目安0.5時間）

5	文書作成2) チラシ作成(書式)
事前	教科書P60～67を読み、例題にあるチラシ作成の方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、文書作成に関する書式設定などの知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

6	文書作成3) チラシ作成(表や図形の作成)
事前	教科書P68～80を読み、文書作成ソフトで表、図形等の作成方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実践ドリルを実施し、文書作成ソフトの表や図形等の作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

7	文書作成4) レポート作成
事前	教科書P81～98を読み、例題にあるレポートを作成する方法について確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、レポート作成に関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

8	文書作成5) 実例を使った練習問題（図形の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた図の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、図形を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

9	文書作成6) 実例を使った練習問題（表の利用）
事前	事前に配布するプリントを読み、学んできた表の作成方法を再確認した上で完成見本の作成手順をイメージしておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	完成見本をもとに取り組んだファイルを完成させ、表を利用した文書の作成について知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

10	プレゼンテーション1) プレゼンテーションとは
事前	教科書P177～189を読み、プレゼンテーションの基本を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

11	プレゼンテーション2) 基本操作とスライド作成
事前	教科書P191～203を読み、プレゼンテーションソフトの操作方法を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	確認テストを実施し、プレゼンテーションソフトに関する知識・技能の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

12	プレゼンテーション3) スライドの書式と図表

事前	教科書P204～221を読み、プレゼンテーションソフトの書式や図表等について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、プレゼンテーションソフトの書式や図表等に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

13	プレゼンテーション4) 効果と発表準備
事前	教科書P222～248を読み、プレゼンテーションソフトの効果や発表の方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストおよび実践ドリルを実施し、プレゼンテーション(発表)に関する知識・技能の定着を図ること。(学修時間目安0.5時間)

14	文書作成の総合演習問題1(ビジネス文書)
事前	今までの授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	総合演習問題1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

15	文書作成の総合演習問題2(レポート作成)
事前	前回の総合演習問題1の内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	前期授業内容を振り返り、まとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)

16	表計算ソフトの概要と計算式に必要な数学の復習
事前	教科書P99～106を読み、表計算ソフトの基本的な操作方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業で説明した内容をまとめ、計算が苦手だと感じた学生は四則演算、割合、率などの簡単な計算練習をしておくこと。(学修時間目安0.5時間)

17	表計算1)データ入力と編集
事前	教科書P107～110を読み、表計算ソフトのデータ入力と編集方法について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのデータ入力や編集に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

18	表計算2) 表作成と書式設定
事前	教科書P111～129を読み、表計算ソフトの表作成と書式設定について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの表作成や書式設定に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

19	表計算3) 計算式
事前	教科書P130～138を読み、表計算ソフトの計算式について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの計算式に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

20	表計算4) 相対参照と絶対参照
事前	教科書P139～140を読み、相対参照と絶対参照について理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、相対参照と絶対参照に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

21	表計算5) 関数1(合計、平均、四捨五入等)
事前	教科書P141～147を読み、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(合計、平均、四捨五入等)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

22	表計算6) 関数2(IFとネスト)
事前	教科書P148～152を読み、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実践ドリルを実施し、表計算ソフトの関数利用(INT、IF、関数のネスト)に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

23	表計算7) 関数練習問題
事前	教科書で紹介されている以外の関数について調べ、その用法についてまとめておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	配付したデータの練習問題を完成させておくこと。(学修時間目安0.5時間)

24	表計算8) 基本的なグラフ作成(棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート)
事前	教科書P153～171を読み、表計算ソフトのグラフ作成の基本について確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトのグラフ作成の基本に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

25	表計算9) 複合グラフの作成
事前	教科書P152～176を読み、表計算ソフトの複合グラフの作成ついて確認しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	確認テストを実施し、表計算ソフトの複合グラフの作成に関する知識・技能の定着を図ること(学修時間目安0.5時間)

26	表計算応用1)アンケート作成とデータ

事前	事前に配布するプリントを読み、身近に行われているアンケートにどのようなものがあるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	紙やWebで実施されたアンケート調査のデータがどのように処理されるのかを理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

27	表計算応用2)アンケートデータの単純集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータの単純集計でどのようなことが分かるかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどで単純集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

28	表計算応用3)アンケートデータのクロス集計
事前	事前に配布するプリントを読み、アンケートデータのクロス集計とはどのようなことかをまとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	授業内で取り扱った内容を確認し、練習問題に取り組むなどでクロス集計についての知識・技術の定着を図ること。（学修時間目安0.5時間）

29	総合演習問題1（表計算総括）
事前	後期の授業内容を再度確認し、弱点を克服しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	総合演習1の内容を振り返り、次回に活かせるよう復習しておくこと。（学修時間目安0.5時間）

30	総合演習問題2（レポート作成と表計算の複合）
事前	前回の総合演習1の内容を振り返り、同様の演習問題に必要な知識・技能を確認しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	通年の内容を今後の学習に活かせるよう、まとめておくこと。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)10:42

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [社]			授業コード	6280010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	津久井 康明				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:33

科 目 名	ヘルスケアシステム論 [社]			授業コード	6290011
副 題	時代の変化と関連政策からヘルスケアシステムを理解する				
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	栗田 駿一郎				

科目に関する キーワード	公的医療保険制度、認知症、公共政策
到達目標	「生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力」を修得することが本講義の主たるねらいです。具体的目標として以下の点を想定しています。 ・ヘルスケアシステムを取り巻く環境の変化について、具体的な数値を引用し、説明できるようになる ・ヘルスケアシステムに関係する各ステークホルダーについて理解し、それぞれの関係性や取り巻く課題について自分の考えと共に説明できるようになる ・ヘルスケアシステムをはじめとした社会を構成する諸政策の立案の流れを理解し、各制度の歴史的変遷と共に、説明できるようになる
授業の概要	今、ヘルスケアの在り方が大きく変わろうとしています。これまでの感染症との戦いから、超高齢社会を迎えた今後は、がん、脳血管疾患、心疾患、糖尿病、精神疾患といった非感染性疾患（NCDs）が世界的な課題となり、「治す」から「支える」ヘルスケアが求められています。病気と共に暮らすこと、また社会全体が様々なハンデや個性を抱えた人を受け入れ共に暮らす体制に変わっていく必要があります。 本講義では、日本のヘルスケアシステムの基盤となっている国民皆保険の歴史とあり方について、そして今後の「支えるヘルスケアシステム」における大きな課題となる「認知症」の2テーマを通じ、ヘルスケアシステムを取り巻く歴史や環境の変化、ステークホルダーに関する理解を深めます。また最新の報道などを題材に、具体的な事例を通じて、ヘルスケアシステムに関わる諸政策の立案過程など、公共政策学的な側面からも講義を行います。 本講義が、行政や多職種さらには市民との連携を深める際に、広い視野で社会とりわけヘルスケアシステムを捉える際の一助となることを目指します。将来的に現場の最前線でプロフェッショナルとして活躍する皆さんが、適切なデータ・エビデンスに基づいて自らの想い（Vision）を持ち、自ら行動（Action）し、周囲を巻き込みながら、多くの人が暮らしやすい社会へと変革（Reformation）を起こせる人材になることを願っています。
授業方法	講義	アクティブ ラーニング ○	毎回講義内容に即したテーマを与え、コメントシートの作成 1人1回の時事テーマに関するプレゼンテーション
評価方法 及び評価基準	レポート	各回のコメントシート（40%） プレゼンテーション（30%） まとめ小レポート（30%）	
フィードバック	コメントシートについては、コメント記載後、次回以降に返却する プレゼンテーションへのフィードバックは発表後に口頭で行う		
履修に際しての 注意事項	プレゼンテーションの日程は受講者と相談の上、最終的に決定する 欠席回のコメントシートの取り扱いについては、初回授業時に説明する		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							

IV							
V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義中に適宜紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション
事前	自身が関心を持つ社会課題について整理しておくこと(1.5時間)
事後	講義資料を再確認し、ヘルスケア領域を取り巻く変化について理解すること(2.5時間)

2	「平成」のヘルスケアシステムを振り返る
事前	平成の30年間の国内外の出来事、その背景について整理しておくこと(1時間)
事後	講義資料を再確認し、平成時代のヘルスケアシステムの変化とその背景について理解すること(3時間)

3	公共政策入門1(誰が決めるか)
事前	国や地方自治体の議会や行政の仕組みについて、これまで学んだことを振り返り、整理しておくこと(3時間)
事後	講義資料を再確認し、行政機構の特徴や最近の傾向について理解すること(1時間)

4	公共政策入門2(どのように決めるか)
事前	法律の策定過程など、自身の関心のあるテーマを題材に調べて、整理しておくこと(2時間)
事後	講義資料を再確認し、政策過程の学説を振り返り、事前学習で調べたテーマを照合し理解すること(2時間)

5	公的医療保険制度1(公的医療保険制度について)
事前	公的医療保険制度の仕組みについて、厚生労働省のウェブサイトなどを通じて、整理しておくこと(1.5時間)
事後	講義資料を再確認し、公的医療保険制度の現状や課題について具体的なデータを通じて理解すること(2.5時間)

6	公的医療保険制度2(戦前～戦後期)
事前	戦前～戦後期の出来事について、事前に確認をしておくこと(1.5時間)
事後	講義資料を再確認し、時代背景を踏まえて、公的医療保険制度誕生の経緯を理解すること(2.5時間)

7	公的医療保険制度3(高度経済成長期)
事前	高度経済成長期の出来事について、事前に確認をしておくこと(1.5時間)
事後	講義資料を再確認し、時代背景を踏まえて、制度の変化や発展について理解すること(2.5時間)

8	公的医療保険制度4(高齢化進行期)
事前	第2回講義の資料を再確認し、高齢化の進行やそれにまつわる変化について整理しておくこと(2時間)
事後	講義資料を再確認し、介護保険制度の誕生経緯や、保険者を巡る動きについて理解すること(2時間)

9	プレゼンテーション1(私が注目したニュース)
事前	ヘルスケアに関係する新聞記事を取り上げ、自身の見解を交え、発表資料を作成する(3.5時間)
事後	他の学生のプレゼンテーションや教員からのフィードバックを振り返り、新たな着眼点や発想を理解する(0.5時間)

10	プレゼンテーション2(私が注目したニュース)
事前	ヘルスケアに関係する新聞記事を取り上げ、自身の見解を交え、発表資料を作成する(3.5時間)
事後	他の学生のプレゼンテーションや教員からのフィードバックを振り返り、新たな着眼点や発想を理解する(0.5時間)

11	認知症1(社会課題としての認知症)
事前	これまで他の講義で扱った認知症に関する資料や実習の経験を振り返り、整理しておくこと(1時間)
事後	講義資料を再確認し、社会全体での広い視点で認知症について理解すること(3時間)

12	認知症2(認知症政策の変遷と展望)
事前	事前に指定する記事や資料に目を通し、近年の認知症政策について疑問点などを洗い出しておくこと(3時間)
事後	講義資料を再確認し、認知症政策を巡るステークホルダーの動きや今後の展望を理解すること(1時間)

13	認知症3（事例紹介Ⅰ：認知症の人が社会で活躍すること）
事前	事前に指定する記事や資料に目を通し、認知症の人が社会で活躍するために必要なことを考えておくこと（1.5時間）
事後	講義資料を再確認し、紹介した事例などから他の施設や事業所でどのように応用できるかを考えること（3時間）

14	認知症4（事例紹介Ⅱ：「空白期間」への対応をスコットランドの事例から学ぶ）
事前	事前に指定する記事や資料に目を通し、スコットランドの医療介護制度や政策背景を整理しておくこと（2時間）
事後	講義資料を再確認し、スコットランドの認知症政策が大切にしていることを理解すること（2時間）

15	まとめ小レポート作成
事前	これまでの講義資料を再確認し、自身の関心領域と重ね合わせながら理解を深める（3.5時間）
事後	これまでの講義で紹介した参考文献などを読み、講義全体の理解を深める（0.5時間）

2020/07/16(木)22:11

科 目 名	グリーフワーク論 [社]			授業コード	6300012
副 題	悲嘆とソーシャルワーク				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	鈴木 剛				

科目に関するキーワード	グリーフ(悲嘆)、死生観、

到達目標	授業では、生と死、喪失をテーマに講義と映像資料等による理解、テーマに対する意見交換等により、グリーフ(悲嘆)についての理解を深めることを目的とする。 ・グリーフ(悲嘆)について基礎的概念を理解できる。 ・生と死、喪失について具体的な事例を通じ、専門職として実践を理解できる。 ・グリーフ(悲嘆)について、ソーシャルワーカーとしての相談業務を理解する。			
授業の概要	グリーフ(悲嘆)について基礎的な知識を身につける。また、人の生と死、様々なグリーフ(悲嘆)についての各様相や具体的な事例を学び、理解を深める。 授業は、配付資料や映像等を用いて進め、各テーマに基づいて受講生間での意見交換を行い、自己理解、他者理解を図る。 なお、受講生の状況により、授業計画を前後させて行うことがある。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	リアクションペーパーの使用及び、グループワークを実施した後、意見交換を行う
評価方法及び評価基準	試験	学期末試験(40%)、リアクションペーパー(40%)、授業中の課題や主体的な諸活動への取り組み(20%)として評価する。		
フィードバック	グループワークの意見交換やリアクションペーパーに対する講評は、授業内で講評を行う。			
履修に際しての注意事項	授業では、毎回テーマを設けディスカッションを行います。人の生と死に関する内容のため、自身の気持ちや感情に触れるため、相手の話を尊重することができること、話の内容も繊細になることから、真摯に向き合い、真剣に話し合いができる姿勢で臨んでください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III			○				
IV				○			

V							

テキスト1	必要に応じて、授業内で資料を配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	高木慶子「グリーフケア入門－悲嘆のさなかにある人を支える」勁草書房 2012年 坂口幸広「悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ」昭和堂 2010年 溝口元「生命倫理と人間福祉」アイ・ケイコーポレーション 2016年 臨床死生学テキスト編集委員会「テキスト臨床死生学－日常生活における「生と死」の向き合い方」勁草書房 2014年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：グリーブワークとは
事前	「グリーフ（悲嘆）」について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
2	「生と死」に関する基礎的な知識と概念
事前	生殖技術・出生前診断・脳死について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
3	生と死と法律
事前	厚生労働省の終末期医療ガイドライン、医師法を各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
4	臨床現場における困難
事前	配布資料を事前に読み、「死生観」について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
5	グリーフワークの事例（1）自殺と自傷行為
事前	自殺の現状や自殺対策について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
6	グリーフワークの事例（2）事故と災害
事前	救急医療の現状や自然災害について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
7	グリーフワークの事例（3）難病が抱える課題
事前	難病や難病対策について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
8	グリーフワークの事例（4）認知症患者と家族
事前	認知症や認知症対策について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
9	グリーフワークの事例（5）小児がん患者と家族
事前	小児がんや小児がん治療について、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
10	グリーフワークの事例（6）緩和ケアと在宅ケア
事前	緩和ケアや在宅ケアについて、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
11	グリーフケアの実際
事前	喪失体験やグリーフケアについて、各自調べておくこと（1.5時間）
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う（2.5時間）
12	グリーフワークの事例（7）埋葬と葬祭儀礼
事前	日本の葬儀や諸外国の葬送儀礼について、各自調べておくこと（1.5時間）

事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う(2.5時間)

13	グリーフワークの事例(8)遺族会
事前	遺族会やセルフヘルプグループについて、各自調べておくこと(1.5時間)
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う(2.5時間)

14	日本社会のグリーフケア
事前	配布資料を読み、支援支援について、各自調べておくこと(1.5時間)
事後	配布資料の読み返し授業の振り返りを行う(2.5時間)

15	まとめ
事前	これまで配布した資料について再読し、興味があるテーマについて再度調べておくこと(1.5時間)
事後	これまでの配布資料の読み返し授業の振り返りを行う(2.5時間)

2020/07/16(木)11:16

科 目 名	英語 [子]			授業コード	6310010
副 題	保育現場の英語				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	嵯峨野 美香				

科目に関する キーワード	こども英語、保育英語、保育現場の英語

到達目標	基礎英語力に加え、保育の現場で必要な語彙ならびに頻出表現等、保育英検3級に相当する英語力を身に付け、保育現場に即した使い方ができるようになる。			
授業の概要	この講座では、保育現場を教材としたテキストを使用して、高校までに学習した基本事項を復習します。文法・語法の基本事項を確認し、バランスの取れた4技能（Reading・Listening・Writing・Speaking）修得のための基礎を築きます。 テキストの各ユニットは、保育者と、子どもや保護者とのコミュニケーションを軸として、語彙練習、表現練習、聞き取り練習、読解練習で構成されています。それぞれの練習を通して、4技能の定着を図ります。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	授業内容に沿った「復習テスト」と「予習確認テスト」を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト（80%）と期末試験（20%）で評価します。		
フィードバック	各小テスト後に授業内で解答を提示し、解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	毎回の授業で「復習テスト（Close）」と「予習確認テスト（Open）」の2種類の小テストを行い、また半期に2回「Review Test」を行って知識の定着を図ります。 小テスト、「Review Test」とも、模範解答を提示して解説し、採点後返却します。 なお、欠席した場合、上記テストは0点となります。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			
III							
IV						○	

V							

テキスト1	『新・保育の英語』 森田和子　三修社	9784384333992
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業案内、英語と日本語の違い
事前	テキストに目を通し、Unit 1の予習をすること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

2	Unit 1: The School Year Begins
事前	Unit 1の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

3	Unit 2: Arrival
事前	Unit 2の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

4	Unit 3: Playing in the Classroom
事前	Unit 3の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

5	Unit 4: In the Sandbox
事前	Unit 4の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

6	Unit 5:In the Playground
事前	Unit 5の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

7	Grammar 1: 一般動詞・be動詞
事前	Grammar 1の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「Review Test」に備えること。(30分)

8	Review Test 1: Unit 1～5 & Grammar 1
事前	Unit 1～5 & Grammar 1の範囲を再度見直すこと。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

9	Unit 6: Lunchtime
事前	Unit 6の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

10	Unit 7: Changing Clothes and Story Time
事前	Unit 7の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

11	Unit 8: Nap Time
事前	Unit 8の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

12	Unit 9: Blowing Bubbles
事前	Unit 9の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

13	Unit 10: A Sick Child
事前	Unit 10の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)

事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

14	Grammar 2: 疑問文・否定文・命令文
事前	Grammar 2の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「Review Test」に備えること。(30分)

15	Review Test 2: Unit 6～10 & Grammar 2
事前	Unit 6～10 & Grammar 2の範囲を再度見直すこと。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

16	前期授業内容の復習
事前	前期の内容を見直し、Unit 11の予習をすること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

17	Unit 11: Preparation for the Sports Day
事前	Unit 11の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

18	Unit 12: The Sports Day
事前	Unit 12の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

19	Unit 13: Going for a Walk
事前	Unit 13の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

20	Unit 14: Discovering Autumn
事前	Unit 14の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

21	Unit 15: Drawing and Letter Writing
事前	Unit 15の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

22	Grammar 3: 前置詞
事前	Grammar 3の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「Review Test」に備えること。(30分)

23	Review Test 3: Units 11～15 & Grammar 3
事前	Unit 11～15 & Grammar 3の範囲を再度見直す。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

24	Unit 16: A Snowy Day
事前	Unit 16の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

25	Unit 17: Leaving for Home
事前	Unit 17の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

26	Unit 18: School Diary
事前	Unit 18の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

27	Unit 19: Bean-Throwing Day
事前	Unit 19の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

28	Unit 20: With Thanks for a Wonderful School Year

事前	Unit 20の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（30分）

29	Grammar 4: 疑問詞を使った疑問文
事前	Grammar 4の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「Review Test」に備えること。（30分）

30	Review Test 4: Units 16～20 & Grammar 4
事前	Unit 16～20 & Grammar 4の範囲を再度見直すこと。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、期末試験に備えること。（30分）

2020/07/16(木)11:25

科 目 名	英語 [子]			授業コード	6310020
副 題	保育現場の英語				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	嵯峨野 美香				

科目に関する キーワード	こども英語、保育英語、保育現場の英語

到達目標	英語学習を習慣化し、保育の現場で必要な語彙ならびに頻出表現を身に付け、保育英検4級に合格することができるようになる。			
授業の概要	この講座では、保育の現場で使用される表現を活用した多彩なアクティビティを通して、保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みます。 テキストは、保育園や幼稚園での保育者と園児、また保育者と保護者とのやり取りを想定した内容で構成されています。 また、補助教材（プリント）を用いて、保育現場で使われる英語の語彙や表現を学修します。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	授業の最初に「保育語彙テスト」を行う。 授業内容に沿った「復習テスト」と「予習確認テスト」を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト（80%）と期末試験（20%）で評価します。		
フィードバック	各小テスト後に授業内で解答を提示し、解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	「保育語彙テスト」、前回の「復習テスト（Close）」、そして「予習確認テスト（Open）」の3種類の小テストを毎回行い、知識の定着を図ります。それぞれのテストは、模範解答を提示して解説し、採点終了後返却します。 「保育語彙テスト」・「復習テスト（Close）」は定期試験の準備の際に活用すること。また、「予習確認テスト（Open）」は翌週の「復習テスト（Close）」の準備に活用すること。 なお、欠席した場合、上記テストは0点となります。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			
III							

IV						○	
V							

テキスト1	*Happy English for Childcare* 土屋麻衣子 金星堂	9784764740082
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業案内、Pre-Unit（基本事項）
事前	Pre-Unitの下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

2	Unit 1（挨拶）
事前	pp.4～5の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

3	Unit 1（自己紹介）
事前	pp.6～8の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

4	Unit 2（園内の案内）
事前	pp.9～10の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

5	Unit 2（戸外の道案内）
事前	pp.11～13の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

6	Unit 3（登園時の会話）
事前	pp.14～15の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

7	Unit 3（数）
事前	pp.16～18の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

8	Unit 4（工作時間の会話）
事前	pp.19～20の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

9	Unit 4（昔話1）
事前	pp.21～23の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

10	Unit 5（園外散歩での会話）
事前	pp.24～25の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

11	Unit 5（位置）
事前	pp.26～28の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

12	Unit 6（園庭での会話）
事前	pp.29～30の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

13	Unit 6（昔話2）
事前	pp.31～33の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。（30分）

事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

14	Unit 7(保護者からの相談)
事前	pp.34～35の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

15	Unit 7(食材)
事前	pp.36～38の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

16	前期授業内容の復習
事前	前期の内容を見直し、Unit 8の予習をすること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

17	Unit 8(お昼寝時間の会話)
事前	pp.39～40の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

18	Unit 8(身体表現)
事前	pp.41～43の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

19	Unit 9(降園時の会話)
事前	pp.44～45の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

20	Unit 9(文化行事)
事前	pp.46～48の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

21	Unit 10(行事予定についての会話)
事前	pp.49～50の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

22	Unit 10(運動)
事前	pp.51～53の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

23	Unit 11(TAとの会話)
事前	pp.54～55の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

24	Unit 11(動物)
事前	pp.56～58の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

25	Unit 12(体調不良の園児との会話)
事前	pp.59～60の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

26	Unit 12(家族関係)
事前	pp.61～63の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

27	Unit 13(保護者との電話)
事前	pp.64～65の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

28	Unit 13(昔話3)

事前	pp.66～68の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

29	Unit 14(最後の日の会話)
事前	pp.69～70の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

30	Unit 14(お誕生会)
事前	pp.71～73の下調べをし、「予習確認テスト」に備えて予習すること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、期末試験に備えること。(1時間)

2020/07/16(木)11:09

科 目 名	実用英語I/実用英語 [社介心][ET]			授業コード	6310030
副 題	TOEIC Bridge® L&R Testsの対策				
開講期	通年	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	嵯峨野 美香				

科目に関する キーワード	実用英語、TOEIC Bridge®

到達目標	・各自が目標とするスコアをクリアできるようになる。 ・音声変化などの発音に慣れ、聴き、音読してリスニング力を高めることができる。 ・語彙を増やし、英文を読み、内容を理解してリーディング力を強化することができる。 ・文法・用法や口語表現を理解し、定着させることができる。
授業の概要	TOEIC Bridge® L&R Testsのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リスニングとリーディングの力をバランスよく磨くタスクを行います。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	授業内容に沿った「復習テスト」と「予習確認テスト」を行う。
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト（80%）と期末試験（20%）で評価します。		
フィードバック	各小テスト後に授業内で解答を提示し、解説を行う。			
履修に際しての 注意事項	毎回の授業で「復習テスト(Close)」と「予習確認テスト(Open)」の2種類の小テストを行い、知識の定着を図り、実践力を養っていきます。 小テストは解答を提示して解説し、採点後返却します。 なお、欠席した場合、上記テストは0点となります。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III							
IV		○				○	

V							

テキスト1	*Practical TOEIC Bridge® L&R Tests* Alison Kitzman他 南雲堂	9784523179085
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業案内、Unit 1 Activities & 現在時制・過去時制
事前	pp.10～12の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

2	Unit 1 Activities & Quiz
事前	pp.13～15の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

3	Unit 2 Eating Out & 未来形・完了形
事前	pp.16～18の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

4	Unit 2 Eating Out & Quiz
事前	pp.19～21の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

5	Unit 3 Entertainment & 進行形・助動詞
事前	pp.22～24の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

6	Unit 3 Entertainment & Quiz
事前	pp.25～27の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

7	Unit 4 Travel & 受動態・使役動詞
事前	pp.28～30の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

8	Unit 4 Travel & Quiz
事前	pp.31～33の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

9	Unit 5 Housing & There構文・付加疑問文
事前	pp.34～36の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

10	Unit 5 Housing & Quiz
事前	pp.37～39の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

11	Unit 6 School & 名詞
事前	pp.40～42の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

12	Unit 6 School & Quiz
事前	pp.43～45の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

13	Unit 7 Health & 冠詞・代名詞・It
事前	pp.46～48の予習をしてくること。(30分)

事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

14	Unit 7 Health & Quiz
事前	pp.49～51の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

15	Unit 8 Shopping & 形容詞・副詞
事前	pp.52～54の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

16	Unit 8 Shopping & Quiz
事前	pp.55～57の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

17	Unit 9 Family & 比較
事前	pp.58～60の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

18	Unit 9 Family & Quiz
事前	pp.61～63の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

19	Unit 10 News & 不定詞・動名詞
事前	pp.64～66の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

20	Unit 10 News & Quiz
事前	pp.67～69の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

21	Unit 11 Job Hunting & 前置詞・接続詞
事前	pp.70～72の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

22	Unit 11 Job Hunting & Quiz
事前	pp.73～75の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

23	Unit 12 Advertisements & 直接話法・間接話法
事前	pp.76～78の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

24	Unit 12 Advertisements & Quiz
事前	pp.79～81の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

25	Unit 13 Office Work & 命令文・感嘆文
事前	pp.82～84の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

26	Unit 13 Office Work & Quiz
事前	pp.85～87の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

27	Unit 14 Office Messages & 関係詞
事前	pp.88～90の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(1時間)

28	Unit 14 Office Messages & Quiz

事前	pp.91～93の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

29	Uint 15 Meetings & 仮定法
事前	pp.94～96の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（1時間）

30	Uint 15 Meetings & Quiz
事前	pp.97～99の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、期末試験に備えること。（1時間）

2020/07/16(木)21:36

科 目 名	実用英語I/実用英語 [子]			授業コード	6310040
副 題	TOEIC Bridge L&R Testsの対策				
開講期	通年	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	嵯峨野 美香				

科目に関するキーワード	実用英語、TOEIC Bridge®、資格試験

到達目標	・各自が目標とするスコアをクリアできるようになる。 ・音声変化などの発音に慣れ、聴き、音読してリスニング力を高めることができる。 ・語彙を増やし、英文を読み、内容を理解してリーディング力を強化することができる。 ・文法・用法や口語表現を理解し、定着させることができる。			
授業の概要	TOEIC Bridge L&R Testsのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リスニングとリーディングの力をバランスよく磨くタスクを行います。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	授業内容に沿った「復習テスト」と「予習確認テスト」を行う。
評価方法及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト（80%）と期末試験（20%）で評価します。		
フィードバック	各小テスト後に授業内で解答を提示し、解説を行う。			
履修に際しての注意事項	毎回の授業で「復習テスト(Close)」と「予習確認テスト(Open)」の2種類の小テストを行い、知識の定着を図り、実践力を養っていきます。 小テストは解答を提示して解説し、採点後返却します。 なお、欠席した場合、上記テストは0点となります。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			
III							
IV		○				○	

V							

テキスト1	*Practical TOEIC Bridge L&R Tests* Alison Kitzman他 南雲堂	9784523179085
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業案内、Unit 1 Activities & 現在時制・過去時制
事前	pp.10～12の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

2	Unit 1 Activities & Quiz
事前	pp.13～15の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

3	Unit 2 Eating Out & 未来形・完了形
事前	pp.16～18の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

4	Unit 2 Eating Out & Quiz
事前	pp.19～21の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

5	Unit 3 Entertainment & 進行形・助動詞
事前	pp.22～24の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

6	Unit 3 Entertainment & Quiz
事前	pp.25～27の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

7	Unit 4 Travel & 受動態・使役動詞
事前	pp.28～30の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

8	Unit 4 Travel & Quiz
事前	pp.31～33の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

9	Unit 5 Housing & There構文・付加疑問文
事前	pp.34～36の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

10	Unit 5 Housing & Quiz
事前	pp.37～39の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

11	Unit 6 School & 名詞
事前	pp.40～42の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

12	Unit 6 School & Quiz
事前	pp.43～45の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

13	Unit 7 Health & 冠詞・代名詞・It
事前	pp.46～48の予習をしてくること。(30分)

事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

14	Unit 7 Health & Quiz
事前	pp.49～51の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

15	Unit 8 Shopping & 形容詞・副詞
事前	pp.52～54の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

16	Unit 8 Shopping & Quiz
事前	pp.55～57の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

17	Unit 9 Family & 比較
事前	pp.58～60の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

18	Unit 9 Family & Quiz
事前	pp.61～63の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

19	Unit 10 News & 不定詞・動名詞
事前	pp.64～66の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

20	Unit 10 News & Quiz
事前	pp.67～69の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

21	Unit 11 Job Hunting & 前置詞・接続詞
事前	pp.70～72の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

22	Unit 11 Job Hunting & Quiz
事前	pp.73～75の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

23	Unit 12 Advertisements & 直接話法・間接話法
事前	pp.76～78の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

24	Unit 12 Advertisements & Quiz
事前	pp.79～81の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

25	Unit 13 Office Work & 命令文・感嘆文
事前	pp.82～84の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

26	Unit 13 Office Work & Quiz
事前	pp.85～87の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

27	Unit 14 Office Messages & 関係詞
事前	pp.88～90の予習をしてくること。(30分)
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。(30分)

28	Unit 14 Office Messages & Quiz

事前	pp.91～93の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（30分）

29	Uint 15 Meetings & 仮定法
事前	pp.94～96の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、次回の「復習テスト」に備えること。（30分）

30	Uint 15 Meetings & Quiz
事前	pp.97～99の予習をしてくること。（30分）
事後	充分な復習をして知識の定着をはかり、期末試験に備えること。（30分）

2020/07/16(木)21:42

科 目 名	こども英語 [子]			授業コード	6310050
副 題	遊びの中の英語				
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	嵯峨野 美香				

科目に関する キーワード	こども英語、保育英語、英語の歌

到達目標	こどもたちに身近な単語や表現を英語で言えるようになる。また、英語のゲームや歌を用いてこどもたちを積極的に活動に参加させることができるようになる。
授業の概要	2020年度に始まる小学校3年生からの英語の必須化に伴い、早期英語教育の需要が高まっている。そのため、英語に接する機会を提供する幼稚園・保育園・児童館・こども文化センターなどが増えている。このような現状を踏まえ、本講座では、こどもを対象とした英語をさまざまな側面から考察する。具体的には、英語に対するこどもたちの興味を育むための基本的知識を修得し、指導に必要な教室表現、遊びの中の英語表現・語彙を身に付ける。また、こどもたちは音声面で語学を吸収することに鑑み、正しい発音・イントネーション・リズムを修得して英語に対する語感を磨く。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業内容に沿った確認テストを行う。 各種Activityを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内テスト（60%）、期末試験（20%）、授業中の活動状況（20%）で評価する。		
フィードバック	授業内テスト後は授業内で解答を提示し、解説を行う。 Avtivity後に各グループの良い点などを授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	前期は発音練習を、後期は発音練習と音読練習を随時行う。また、随時英語によるActivityを取り上げる。表現や語彙に関するプリントは随時配布する。 英語で積極的に発話することが求められる。 授業内テストは、模範解答を提示して解説し、採点終了後返却する。 なお、欠席した場合、授業内テストは0点となる。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなす。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○	○			
III							

IV						○	
V							

テキスト1	*The World of Mother Goose* 来住正三 南雲堂	9784523185109
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内
事前	テキストに目を通し、下調べをする。(1時間半)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間半)

2	表現(終始)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

3	表現(終始)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

4	表現(指示)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

5	表現(指示)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

6	語彙(陸の生物)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

7	語彙(陸の生物)Test ・早口言葉・Mother Goose
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

8	語彙(海の生物)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

9	語彙(海の生物)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

10	語彙(昆虫)Pretest ・表現(時刻)・Mother Goose
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

11	語彙(昆虫)Test ・表現(数学)・Mother Goose
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

12	語彙(遊び)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

13	語彙(遊び)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)

事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

14	表現(評価)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

15	表現(評価)Test ・前期まとめ・Presentation
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。Presentationの練習をする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

16	前期授業内容の復習
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

17	語彙(身体)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

18	語彙(身体)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

19	語彙(家族)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

20	語彙(家族)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

21	語彙(運動)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

22	語彙(運動)Test ・早口言葉・Mother Goose
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

23	語彙(学校生活)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

24	語彙(学校生活)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

25	語彙(日常生活)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

26	語彙(日常生活)Test ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

27	語彙(健康)Pretest ・Mother Goose ・Favorite Song
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

28	語彙(健康)Test ・Mother Goose ・Favorite Song

事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

29	Mother Goose
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。(2時間)
事後	充分な復習をして、知識・技能の定着を図りTestに備える。また、繰り返し発話練習をして語感を磨く。(2時間)

30	後期まとめ・Presentation
事前	テキストの該当部分および配布プリントの下調べをする。Presentationの練習をする。(2時間)
事後	期末試験に備えて復習をする。(2時間)

2020/07/16(木)21:54

科 目 名	日本語表現法I [社]			授業コード	6320010
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:47

科 目 名	日本語表現法II [社介心]			授業コード	6320021
副 題	小論文からディスカッションへ				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関する キーワード	小論文、ディスカッション、批評
到達目標	広い視野で物事を捉え、考察し、表現する力や協働的作業に必要なコミュニケーション力を養う。特に以下の点に重点を置く。 1．論文・レポートに求められる要件を理解して書けるようになる。 2．論理的な話し方ができるようになる。 3．課題に相応しい表現方法で書けるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅱ」では、「日本語表現法Ⅰ」で学んだことを踏まえて、発展的な課題に取り組む。 〈読む・書く〉に関しては、資料を読み、小論文を作成する中で、論文・レポートに役立つ表現技法を身につける。また、物語を書くことで、豊かな表現力を養う。 〈聞く・話す〉に関しては、ディスカッションを行うことで、発言の仕方やマナーなどを身につける。 なお、授業のはじめに、漢字・慣用句などの小テストを実施し、基礎知識を習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループに分かれ、ディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価　授業参加度20%　授業内テスト20%　レポートなどの提出物60パーセントの総合で評価する		
フィードバック	・授業内で提出した小論文は、事後の授業において添削して返却し、講評するので、清書する際に役立てること。 ・授業内で実施した小テストは、事後の授業において返却するので、授業内の復習テストに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	赤ペン、プリント類を整理するためのファイル、国語辞典を用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II							
III					○		
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・日本語チェック(漢字・慣用句・語彙など)
事前	日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	漢字・慣用句を学ぶ
事前	四字熟語・慣用句について調べ、意味や用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントの漢字・慣用句を復習する。(0.5時間)

3	視聴覚教材を利用して、「論理の力」を学ぶ
事前	論理的表現とはどのようなものか調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

4	要約の方法1(キーワード・中心文を用いる)
事前	要約のポイントを調べ、理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

5	要約の方法2(論点・主張を見抜く)
事前	新聞記事などを用いて、論点や筆者の主張をまとめておく。(0.5時間)
事後	テストに備え、課題の要約の下書きを作成する。(0.5時間)

6	ディスカッションの方法を学ぶ
事前	指定されたディスカッション・小論文の題目について調べ、どの題目を選ぶか決めておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションの際の注意点や評価のポイントについて、整理しておく。(0.5時間)

7	資料を調べて、整理する
事前	選択した題目についての意見やその理由について調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	授業内で調べきれなかった箇所について資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

8	小論文を書く(下書き)
事前	調べた資料をもとに、小論文のアウトラインを作成しておく。(0.5時間)
事後	自分の論文に説得力を持たせるための資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

9	小論文を書く(清書)
事前	原稿用紙の使い方、表記の注意点など、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	質問を予想し、回答できるように資料を調べ、まとめておく。(0.5時間)

10	ディスカッション1(練習)
事前	相手への質問を考え、まとめておく。(0.5時間)
事後	練習において不十分だった点について、調べておく。(0.5時間)

11	ディスカッション2(発表1　Aグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

12	ディスカッション3(発表2　Bグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

13	物語を書く
事前	物語を書く際の注意事項を理解し、アウトラインを作成しておく。(0.5時間)

事後	物語を書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

14	物語を批評する（批評・コメントの書き方）
事前	物語の批評を読み、その特徴を理解しておく。(0.5時間)
事後	批評・コメントを書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう、復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:48

科 目 名	日本語表現法II [社介心]			授業コード	6320032
副 題	小論文からディスカッションへ				
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関する キーワード	小論文、ディスカッション、批評

到達目標	広い視野で物事を捉え、考察し、表現する力や協働的作業に必要なコミュニケーション力を養う。特に以下の点に重点を置く。 1．論文・レポートに求められる要件を理解して書けるようになる。 2．論理的な話し方ができるようになる。 3．課題に相応しい表現方法で書けるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅱ」では、「日本語表現法Ⅰ」で学んだことを踏まえて、発展的な課題に取り組む。 〈読む・書く〉に関しては、資料を読み、小論文を作成する中で、論文・レポートに役立つ表現技法を身につける。また、物語を書くことで、豊かな表現力を養う。 〈聞く・話す〉に関しては、ディスカッションを行うことで、発言の仕方やマナーなどを身につける。 なお、授業のはじめに、漢字・慣用句などの小テストを実施し、基礎知識を習得する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	少人数のグループに分かれ、ディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価　授業参加度20%　授業内テスト20%　レポートなどの提出物60パーセントの総合で評価する		
フィードバック	・授業内で提出した小論文は、事後の授業において添削して返却し、講評するので、清書する際に役立てること。 ・授業内で実施した小テストは、事後の授業において返却するので、授業内の復習テストに役立てること。			
履修に際しての 注意事項	赤ペン、プリント類を整理するためのファイル、国語辞典を用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○		○	
II							
III					○		
IV							

V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・日本語チェック(漢字・慣用句・語彙など)
事前	日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	漢字・慣用句を学ぶ
事前	四字熟語・慣用句について調べ、意味や用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントの漢字・慣用句を復習する。(0.5時間)

3	視聴覚教材を利用して、「論理の力」を学ぶ
事前	論理的表現とはどのようなものか調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

4	要約の方法1(キーワード・中心文を用いる)
事前	要約のポイントを調べ、理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

5	要約の方法2(論点・主張を見抜く)
事前	新聞記事などを用いて、論点や筆者の主張をまとめておく。(0.5時間)
事後	テストに備え、課題の要約の下書きを作成する。(0.5時間)

6	ディスカッションの方法を学ぶ
事前	指定されたディスカッション・小論文の題目について調べ、どの題目を選ぶか決めておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションの際の注意点や評価のポイントについて、整理しておく。(0.5時間)

7	資料を調べて、整理する
事前	選択した題目についての意見やその理由について調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	授業内で調べきれなかった箇所について資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

8	小論文を書く(下書き)
事前	調べた資料をもとに、小論文のアウトラインを作成しておく。(0.5時間)
事後	自分の論文に説得力を持たせるための資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

9	小論文を書く(清書)
事前	原稿用紙の使い方、表記の注意点など、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	質問を予想し、回答できるように資料を調べ、まとめておく。(0.5時間)

10	ディスカッション1(練習)
事前	相手への質問を考え、まとめておく。(0.5時間)
事後	練習において不十分だった点について、調べておく。(0.5時間)

11	ディスカッション2(発表1　Aグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

12	ディスカッション3(発表2　Bグループ)
事前	ディスカッションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	ディスカッションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

13	物語を書く
事前	物語を書く際の注意事項を理解し、アウトラインを作成しておく。(0.5時間)

事後	物語を書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

14	物語を批評する（批評・コメントの書き方）
事前	物語の批評を読み、その特徴を理解しておく。(0.5時間)
事後	批評・コメントを書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう、復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:20

科 目 名	日本語表現法II [子]			授業コード	6320041
副 題	日本語をみがく				
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関するキーワード	プレゼンテーション、物語、批評
到達目標	既に履修した「日本語表現法Ⅰ」の基本知識をもとに、保育の実習や現場で生かせる表現技術を身につける。 1. 日本語の基本的な知識を応用して、目的に応じた文章を書けるようになる。 2. 論理的な話し方ができるようになる。 3. 状況に応じて、わかりやすい言葉や表現を使って、説明や指示ができるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅱ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 保育・幼児教育の現場ではさまざまな文章を書いたり、人前で話したりする機会がきわめて多い。またその際、目的に応じて文章を書き分ける能力や話す力が必要とされる。この授業では、総合的な日本語表現能力をみがくために、相互批評や発表を通して、それぞれの場合における適切で効果的な表現法について考えていく。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	質疑応答を含むプレゼンテーションを行う。
評価方法及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については、事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての注意事項	日本語力をより高めたい学生の受講を希望する。受講する以上は欠席をせず意識をもって取り組むこと。また、提出物は提出期限を厳守すること。赤ペン、清書用のボールペン、プリント類を整理するファイル、国語辞典を必ず持参する。日本語表現法Ⅰの単位を必ず習得していること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II					○		
III					○		
IV							

V							

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業時に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション～ 日本語チェック
事前	日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	漢字・慣用句を学ぶ
事前	四字熟語・慣用句について調べ、意味や用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントの漢字・慣用句を復習する。(0.5時間)

3	メールを書く
事前	メールの書き方について調べ、ポイントを理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

4	プレゼンテーション・ガイダンス
事前	指定されたプレゼンテーションの題目について調べ、どの題目を選ぶか決めておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

5	資料を調べて、整理する
事前	選択した題目について調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	授業内で調べきれなかった箇所について資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

6	発表原稿を書く(下書き)
事前	調べた資料をもとに、発表原稿のアウトラインを作成しておく。(0.5時間)
事後	原稿の内容に説得力を持たせるための資料を調べ、ポイントを整理する。(0.5時間)

7	発表原稿を書く(清書)
事前	原稿用紙の使い方、表記の注意点など、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	自分への質問を予想し、回答できるように資料を調べておく。また、相手への質問をまとめておく。(0.5時間)

8	プレゼンテーション1(Aグループの発表と相互批評)
事前	プレゼンテーションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

9	プレゼンテーション2(Bグループの発表と相互批評)
事前	プレゼンテーションを行うに際しての注意事項を理解し、練習しておく。(0.5時間)
事後	プレゼンテーションを振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

10	プレゼンテーション3(振り返り)
事前	プレゼンテーションについてのレポートを書くためのポイントを整理しておく。(0.5時間)
事後	振り返りで学んだことを生かして、プレゼンテーションを再度行ってみる。(0.5時間)

11	演劇を鑑賞する(学外研修)
事前	当該作品について調べ、作品を読んでおく。(0.5時間)
事後	鑑賞によって、気づいたことや疑問点などをまとめておく。(0.5時間)

12	物語の文体・レトリックを学ぶ
事前	レトリックについて調べ、用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

13	物語を書く
事前	物語を書く際の注意事項を理解し、アウトラインを作成しておく。(0.5時間)

事後	物語を書く際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

14	創作物語の相互批評
事前	物語の批評を読み、その特徴を理解しておく。(0.5時間)
事後	物語を批評する際のポイントを理解し、整理する。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう、復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:30

科 目 名	日本語表現法III [子]			授業コード	6320052
副 題	自己を表現する				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関する キーワード	自己ピーアール、面接、コミュニケーション

到達目標	自分の考えをわかりやすく論理的に書いたり、話したりする技術を習得することをねらいとする。 1、自己について適切に表現できるようになる。 2、他人と適切に会話することができるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅲ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 就職活動を視野に入れ、そのために必要な文章力、会話力の向上を図る。自己を表現する際の工夫や注意点を学び、添削を通して改善するという流れの中で、表現に磨きをかけていく。具体的には、文章を書く際の基礎的な技術、よりよい自己PRの方法、面接の仕方などを学ぶ。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	面接官役・学生役をもうけ、数人ずつで模擬面接を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業参加度20%、授業内テスト20%、レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	日本語力をより高めたい学生の受講を希望する。受講する以上は欠席をせず意識をもって取り組むことまた、提出物は提出期限を厳守すること。赤ペン、清書用のボールペン、プリント類を整理するファイル、国語辞典を必ず持参すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○	○			
IV			○				

V							

テキスト1	プリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（総合日本語チェック）
事前	表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

2	漢字・慣用句を学ぶ
事前	四字熟語・慣用句について調べ、意味や用法を理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントの漢字・慣用句を復習する。(0.5時間)

3	自己紹介文を書く(下書き)
事前	自分の長所・短所、趣味、特技などについて、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、清書の際、不足の部分を補えるよう準備する。(0.5時間)

4	明確な文章を書く1(文の組み立て)
事前	話し言葉と書き言葉の違いや主語と述語の関係など、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

5	自己紹介文を書く(清書)
事前	原稿用紙の使い方、表記の注意点など、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	自己紹介文のポイントについて復習し、理解を深める。(0.5時間)

6	自己PR文を書く(下書き)
事前	自分のアピールポイントについて、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、清書の際、不足の部分を補えるよう準備する。(0.5時間)

7	明確な文章を書く2(文と文のつながり)
事前	助詞の働きや接続詞の用法について、理解しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

8	自己PR文を書く(清書)
事前	文章のレイアウト、印象的なアピールポイントの表現方法について考え、整理しておく。(0.5時間)
事後	自己PR文のポイントについて復習し、理解を深める。(0.5時間)

9	会話力をつける1(基本)
事前	敬語の用法について、日本語表現法Ⅰで学んだことを復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

10	会話力をつける2(応用)
事前	円滑に会話をするためのポイントを理解し、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、内容の理解を深める。(0.5時間)

11	面接のポイントを学ぶ
事前	面接評価のポイントについて調べ、整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントの質問事項について、回答を準備しておく。(0.5時間)

12	面接の練習
事前	プリントの質問事項について、回答できるように練習しておく。(0.5時間)
事後	練習内容を振り返り、不足部分について準備する。(0.5時間)

13	模擬面接1(Aグループの模擬面接と相互批評)
事前	相手への質問を考え、さらにその回答に対し、どのように質問するとよいか考えておく。(0.5時間)

事後	面接内容を振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

14	模擬面接2(Bグループの模擬面接と相互批評)
事前	相手への質問を考え、さらにその回答に対し、どのように質問するとよいか考えておく。(0.5時間)
事後	面接内容を振り返り、よかった点・改善点を整理する。(0.5時間)

15	総復習・まとめ
事前	プリントを復習し、テストの準備をしておく。(0.5時間)
事後	授業で学んだことを生かせるよう、復習する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:29

科 目 名	国語II（文学と子ども）[子]			授業コード	6320062
副 題	昔話・童話を読む				
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	嶌田 明子				

科目に関するキーワード	児童文学、子ども観、作品分析
到達目標	1．日本児童文学史の知識を習得し、代表作を読むことで、文学作品への理解を深めることができるようになる。 2．子どもの実態や保育・教育のねらいに基づき、教材研究を適切に行うことができるようになる。 3．グループ活動を行うことによって、他の参加者と協力して、目的を達成することができるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目：D－2（2）（3），D－3（4）】
授業の概要	子どもの感性や表現力を豊かにするという保育の課題を考えるにあたって、文学作品を様々な視点をもってより深く理解し、鑑賞する能力を養うことは重要である。 本講義では、絵本・昔話・童話などをとりあげ、考察していく。作品の背景や関連作品についても紹介し、理解を深めていく。その過程において、作品の魅力を発見し、考え、表現する能力を身につける。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	少人数のグループに分かれ、作品についての考察を発表する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業内評価　授業への参加度10%　レポート20%　コメントシート30パーセント　小テスト40パーセントの総合で評価する。ただし、小テストを受験できる者は、全授業の2／3以上出席した者とする。		
フィードバック	・原則として、授業内で授業に関するコメントを書く。事後の授業にて、紹介及び講評する。 ・発表者に対する相互批評は、事後の授業において、紹介及び講評する。			
履修に際しての注意事項	プリント類を整理するためのファイルを用意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○						
III						○	
IV							

V	○						

テキスト1	授業中にプリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	・芥川龍之介作『蜘蛛の糸・杜子春』(新潮文庫) ・『日本の童話名作選　昭和篇』(講談社文芸文庫) ・『幼稚園教育要領解説』 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 ・『保育所保育指針解説』	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　文学・児童文学と子ども時代
事前	子ども時代とはどのような時代か、童話・児童文学とはどのようなものか、自分なりに理解してくる。(2時間)
事後	童話や児童文学作品を読み、童話や児童文学について理解を深める。(2時間)

2	絵本を読む(絵と文の分業)
事前	絵本を読んで、絵と文の関係について理解を深めてくる。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

3	日本児童文学史1(明治～大正)
事前	明治～大正時代にかけての日本の児童文学史について、調べておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

4	昔話を読む 「桃太郎」
事前	複数の「桃太郎」を読み、その違いについて整理しておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

5	童話を読む1　芥川龍之介作「蜘蛛の糸」
事前	当該作品を読み、疑問点や気づいたことを整理しておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

6	童話を読む2　小川未明作「野ばら」
事前	当該作品を読み、疑問点や気づいたことを整理しておく。また、テストのための準備をしておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

7	童話を読む3　浜田廣介作「りゅうの目のなみだ」
事前	当該作品を読み、疑問点や気づいたことを整理しておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

8	発表準備1　物語の魅力を伝える(内容紹介の方法)
事前	指定された作品をすべて読み、どの作品について発表するか考えておく。(2時間)
事後	自分の発表作品について理解を深め、発表原稿の下書きを作成しておく。(2時間)

9	発表準備2　物語の魅力を伝える(解釈・鑑賞)
事前	発表の際に使用するポスターの図案を考えておく。(2時間)
事後	発表原稿を推敲しておく。(2時間)

10	発表1　物語の魅力を伝える(Aグループの発表と相互批評)
事前	発表に向けての注意事項を理解し、発表の練習をしておく。(2時間)
事後	発表を聞いて、当該作品についての理解を深める。(2時間)

11	発表2　物語の魅力を伝える(Bグループの発表と相互批評)
事前	発表に向けての注意事項を理解し、発表の練習をしておく。(2時間)
事後	発表を聞いて、当該作品についての理解を深める。(2時間)

12	発表3　物語の魅力を伝える(Cグループの発表と相互批評)
事前	発表に向けての注意事項を理解し、発表の練習をしておく。(2時間)

事後	発表を聞いて、当該作品についての理解を深める。(2時間)

13	日本児童文学史2(大正～昭和)
事前	大正～昭和にかけての日本の児童文学史について、調べておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

14	児童文学を読む　中川李枝子作「いやいやえん」
事前	当該作品を読み、疑問点や気づいたことを整理しておく。(2時間)
事後	プリントを復習し、内容についての理解を深める。(2時間)

15	まとめ・総復習
事前	プリントや資料の総復習を行い、テストのための準備をしておく。(2時間)
事後	授業で取り上げた内容について、教材研究を行う。(2時間)

2020/07/16(木)10:58

科 目 名	カウンセリング [子]			授業コード	6330011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	下山 晃司				

科目に関する キーワード	心理療法、ロールプレイング、サポート

到達目標	カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、基礎的な内容（理論・時代背景・対象者等）を理解すること。 理論間の相違点および共通部分を理解すること。			
授業の概要	カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（創始者の哲学・対象者）や限界について学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようになることを目標とします。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	ロールプレイング（全5回）
評価方法 及び評価基準	試験	前半の講義範囲の理解度を測定する「確認テスト1」（50%）、後半の講義範囲の理解度を測定する「確認テスト2」（50%）によって評価します。		
フィードバック	ロールプレイングを行う場合は、ロールプレイングでの観察結果を一人一人にコメントします。			
履修に際しての 注意事項	受講者数によりますが、講義だけでなくロールプレイングも行います。コミュニケーション抜きのカウンセリングはあり得ませんので、対人コミュニケーションに苦手意識のある人も「食わず嫌い」にならずに克服することに挑戦してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III							
IV	○						○

V							

テキスト1	窪内節子・吉武光世 2003 やさしく学べる心理療法の基礎 培風館	978-4563056698
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	W. ドライデン & J. ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング/心理 療法の 4 つの源流と比較 北大路書房 ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神 分析・行動療法・家族療法 金剛出版 文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館 厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論に共通する基盤
事前	シラバスをを読み、授業の概要を理解すること（目安として1時間）
事後	オリエンテーション内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

2	精神分析1：理論と対象者
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

3	精神分析2：防衛機制・転移感情
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

4	フロイトからの分派
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

5	パーソンセンタード・アプローチ1：クライエント中心療法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

6	パーソンセンタード・アプローチ2：エンカウンター・グループ
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

7	行動療法1：行動療法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

8	行動療法2：行動変容
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

9	まとめと確認テスト1
事前	これまでの講義内容を復習する（目安として3.5時間）
事後	「確認テスト1」で分からなかった部分を復習する（目安として1時間）

10	自律訓練法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

11	認知行動療法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

12	ブリーフ・セラピー
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）

事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

13	芸術・表現療法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

14	森田療法・内観療法
事前	テキストの該当部分を予習すること（目安として1時間）
事後	授業内容を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）

15	まとめと確認テスト2
事前	後半の講義内容を復習する（目安として2.5時間）
事後	「確認テスト2」で分からなかった部分を復習する（目安として1時間）

2020/07/16(木)21:35

科　目　名	教育相談 [子]			授業コード	6330022
副　題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単　位　数	2
担　当　者	下山　晃司				

科目に関する キーワード	3段階の援助サービスモデル、アセスメント、ニーズおよびサポート、神経発達障害

到達目標	学校における教育相談の意義と理論を理解する 教育相談を勧める際に必要な基礎的知識を理解する 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する 「3段階の援助サービスモデル」の教育現場での活用の実際を理解する 人間の「具体的な行動」を観察・記述できる 「6・3・3」と教育を受けてきた側としての知識・経験を授業内容と結びつけることができる			
授業の概要	本講義（実習も含む）では学校心理学における「3段階の援助サービス」モデルに基づき、心理教育的な援助（進路指導を含む）を必要とする児童生徒に対する有効な支援について、体系的に説明します。基本的に学校現場を想定して講義を行いますが、家庭や職場等、どのような対人援助場面においても役立つ内容が含まれます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	フィールドワーク、実験、グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイング（全7回）
評価方法 及び評価基準	試験およびレポート	本授業の到達目標は、「3段階の援助サービスモデル」の実際を理解し、教育を受けてきた側としての知識・経験を授業内容と結びつけた上で、「カウンセリングマインド豊かな対応」を観察・記述できるようになることである。小テスト（50%）と課題レポート(50%)を指標として、その到達度合いを測定し、評価を行う。 私語や学生証不携帯等、授業運営に非協力的な学生の受講もしくは単位は認定しません。 2/3以上の出席をしなかった学生についても単位を認定しません。		
フィードバック	レポートで選択された人物、時期、行動を集計し、フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	講義だけではなく、グループワーク、グループディスカッションも行います。コミュニケーション抜きの対人援助はありえませんので、知識のインプットだけでなく、積極的なアウトプット（質問・発言・リアクションペーパーへの記入）が歓迎されます。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III			○				

IV							
V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	石隈利紀 『学校心理学 ー教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービスー』 誠信書房、1999、ISBN: 978-4414301496 長谷川博一 『カウンセリングマインドの重要性 学校臨床の現場から』 樹花舎、2004 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼稚園教育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針』	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション（授業の概要・到達目標と評価基準）
事前	シラバスを読み、授業の概要を理解すること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

2	3段階の援助サービスモデルと解決志向セラピーの3原則（教育相談に関わる心理学の基礎的理論・概念）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

3	1次的援助サービス（問題行動に対する2種類の予防）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

4	2次的援助サービス1（子どもを理解する枠組みおよび関係者との連携の必要性）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

5	2次的援助サービス2（子どもを理解する3種類のアセスメント方法）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

6	2～3次的援助サービス（褒めるのが難しい場合の褒め方）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

7	3次的援助サービス1（4種類のサポートおよび子どもが発するニーズ）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

8	3次的援助サービス2（援助目標・計画の立て方）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

9	前半部分のまとめと小テストおよび解答の解説（カウンセリングマインドとは）
事前	これまでの範囲のテストに向けた復習をすること（目安として7時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

10	ノンバーバルの世界（言語・非言語コミュニケーションの違い）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

11	いじめ被害者への対応
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

12	いじめ加害者への対応
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

13	発達障害の理解1（LD・ADHD）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

14	発達障害の理解2（ASD）
事前	シラバスの授業計画に記載されたテーマについて、調べること（目安として1時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

15	まとめとレポートフィードバック（カウンセリングマインドを身につけるには）
事前	課題図書を読み、レポートを作成すること（目安として4時間）。
事後	授業資料を復習し、課題に取り組むこと（目安として1時間）。

2020/07/16(木)20:50

科 目 名	生活科学 [社]			授業コード	6340011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	末﨑 潤一				

科目に関する キーワード	建築とはどう言うものか 地域風土と住空間について 住空間の指標 住空間のバリアフリー

到達目標	普段過ごしている建築物や建築空間そして周辺の環境を、科学的に評価するために どのような方法を取っているのかと言うことの基本的な理解ができるようになる。 日常的に意識せずに使っている公共空間が人の手により、バリアフリーや環境共生などの観点から 『設計』されていることを理解できるようになる。			
授業の概要	人間の生活とは、人間が生きていくために行なうすべての行為の過程であり、さまざまな捉え方が出来ますが、これらの諸生活を空間的側面から捉えた住生活として取り上げます。 授業では、まず、人間の住まいの変遷と日本の状況について概略を学習した上で、日本の風土や文化・歴史との関連で住生活の歴史と特徴を学びます。 その後、今日の少子高齢社会における住宅・住生活を対象とし、どのように快適な空間を実現するかを多角的に考えていきます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（30%）、授業内小テスト（50%）、授業内の課題の取り組み（20%）として評価します。 ただし、全体の理解度等により若干の調整を行うこともあります		
フィードバック	授業最後に小テストなどを行い理解度をあげる。 また、授業の内容に関する小レポートを当日回収し、次回の授業でそのレポートの狙いを総評としてフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	遅刻をしないように。 また、授業はレジメを中心に行うのでレジュメをまとめるようなファイルを作ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV	○						

V							

テキスト1	テキストは特になし。毎回レジュメを配ります。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	はじめに（全体概要と各回スケジュールについて）
事前	初回は住空間についての講義の導入となりますので、『建築』や『住空間』とう言う言葉を聞いてどのようなものであるのかを考えてくること。またその言葉から興味がありそうなことを考えてくること。初回の授業でアンケートをとります。(1.5時間)
事後	当日の講義で出てきた言葉や概念をまとめること。また、それらの内、興味がある分野について調べておくこと(2.5時間)

2	気候風土と住まい
事前	この回では砂漠のような『乾いた気候の土地』と『熱帯の気候の土地』の風土や生活について講義するので、この二つについてどのような場所であるかを調べておくこと。また、日本はそのどちらの土地に属するのかを考えておくこと。（1.5時間）
事後	当日講義で出来てた言葉や概念をまとめること。特に今回は概念的なものが多くなる。(2.5時間)

3	伝統的な日本の住まい
事前	『伝統的な日本の住まい』と聞いてどのような住まいを考えますか？当日レポートで確認します。 そのレポートに記述できるようにまとめておくこと。（イラストでも構いません）(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。(2.5時間)

4	日本の住まい
事前	前回に続き日本の住空間についてですが、今回は現代の住宅についてです。 現代の住宅と言う時にどのようなものでしょうか？自分なりの現代的な住宅について考えてくること。（1.5時間）
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。また、自分の住んでいる住空間について、講義内容を考察してみること。(2.5時間)

5	住空間の性能
事前	現代の住空間に求められる性能とは何か各自考えてくること。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。(2.5時間)

6	快適な室内の温熱環境
事前	室温についての講義となります。冬の快適な室温と夏の快適な室温の違いなどがあります。各季節や本人の状態によって感じる『快適さ』が違うことを自分なりにまとめてくること。この講義では、それらをどのように『指標化』するのかを説明します。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。(2.5時間)

7	湿度・空気環境の調整
事前	湿度とは何か。基本的なことを一度考えてくること。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。また授業で出た表を一度確認すること。（2.5時間）

8	光・色環境の調整
事前	照明計画についての講義です。身の回りにある照明についてどのようなものがあるか調べてくること。（1.5時間）
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。（2.5時間）

9	音環境の調整
事前	騒音と感じるものは何か、それを考えてくること。講義で騒音について説明をします。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。また、自分が騒音と感じるものについて、講義を受け改めて感がてみること。(2.5時間)

10	日照環境と緑環境
事前	日照についての授業になります。夏至や冬至、春秋分の日の太陽の動きを確認すること。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。

11	水環境
事前	自分が住んでいる家の水道、トイレ、洗面を観察してくること。給水・排水はどのようになっているか調べてみること。（1.5時間）
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。

12	環境共生住宅
事前	『環境共生』と言う言葉について調べて来る事。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。(2.5時間)

13	知覚と住空間
事前	これまでの講義から、人はどのように空間を評価してきたかをまとめておく事。(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。 特に環境と言う言葉についてまとめておく事。(2.5時間)

14	物語の中の住空間
事前	授業で行った内容の空間の定義をまとめておく事(1.5時間)
事後	当日の講義で出た言葉や概念をまとめること。 (2.5時間)

15	これからの住空間について（バリアフリー・ユニバーサルデザインについて）
事前	自分の周りにあるバリアフリー・ユニバーサルデザインについて調べてみる事。(1.5時間)
事後	講義を聞いてもう一度バリアフリーとユニバーサルデザインについて知らべてみる事。(2.5時間)

2020/07/16(木)21:36

科 目 名	身体構造と機能II [介]			授業コード	6350012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	菅 泰博				

科目に関する キーワード	身体構造　身体機能　介護職と医療職の連携　人間の諸臓器の知識
到達目標	・介護を必要とする人の生活支援実践を行うため、実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解し、説明できる。 ・認知症や障害のある人の生活を支援する観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
授業の概要	身体構造と機能Ⅰにおいて心身の構造・機能、発達段階とその課題の理解、身体的・心理的・社会的側面の学習をふまえて、医療職との連携、心身機能障害や疾病、支援について学ぶ。
授業方法	講義　／　アクティブラーニング
評価方法 及び評価基準	試験は毎回の講義の後に行う確認テストを行う。期末試験は予定なし。　／　授業態度、試験結果等で総合的に評価する。
フィードバック	適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。
履修に際しての 注意事項	主体的に受講する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V							○

テキスト1	小板橋喜久代他編集 『こころとからだのしくみ』 メヂカルフレンド社 (身体構造と機能Ⅰと同じテキストを使用する)	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿った資料を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	初回は準備は不要。授業を受ける心構えを持って臨むこと。
事後	講義の復習を行い、次回からの講義に向けて自らの学ぶ姿勢を確認する。(1時間)

2	こころのしくみ(意欲・思考・感情・記憶・学習、他)
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

3	移動に関連したこころとからだのしくみ(骨折・転倒のリスク、他)
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ① 感覚器(眼、爪、口腔、舌、他)
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ② 身じたくに関連する機能低下・障害
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

6	食事に関連したこころとからだのしくみ① 栄養・味覚・消化吸収
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

7	食事に関連したこころとからだのしくみ② 嚥下障害・歯牙
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

8	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(入浴の効果、陰部、肛門、他)
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

9	排泄に関連したこころとからだのしくみ① 排尿
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

10	排泄に関連したこころとからだのしくみ② 排便
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(睡眠障害、他)
事前	これまでの介護知識をもって学習予定のテキストを一読し、介護現場を想定しながら予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

12	認知症の基礎的理解
事前	「身体構造と機能Ⅲ」でも取り扱うテーマなので、学習予定のテキストを想定しながら一読すること。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

13	急変・緊急時に関連したこころとからだのしくみ(医療職との連携)
事前	日常で起こった緊急時や急変時を思い返し、自分のとった行動について検証もしくは想定し考察しておくこと。(2時間)

事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ(看取り)
事前	重いテーマなので、日頃から個々が抱いている当該テーマをもって予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする。(2時間)

15	総括
事前	前回までの講義内容を全て復習し、介護の現場に置き換えた視点で講義に臨むようにする。(4時間)
事後	講義内容が実践の場で生かせるように、学習内容を反芻および実践する。(4時間)

2020/07/16(木)21:36

科 目 名	身体構造と機能III [介]			授業コード	6350021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	菅 泰博				
病院の医師であるため、介護士の経験は特になし					

科目に関する キーワード	身体構造、身体機能、介護職と医療職の連携、介護に必要な医学的知識　疾患に対する理解
到達目標	・身体構造と機能Ⅱを基に、介護を必要とする人の生活支援実践を行うため、実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解し、説明できる。 ・認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を支援する継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。
授業の概要	身体構造と機能Ⅰ・Ⅱにおいてこころとからだのしくみを理解し、身体的・心理的・社会的側面の学習、障害のある人の生活支援者の観点から、医療職と連携して支援実施するための心身の機能や障害の知識をふまえて、高齢者に多い疾患、家族も視野に入れた看取り等の支援について学ぶ。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング	
評価方法 及び評価基準	試験は毎回の講義の後に行う確認テストを行う。期末試験は予定なし。	授業態度、試験結果等で総合的に評価する。
フィードバック	適宜それぞれのポイントについてフィードバックを実施する。	
履修に際しての 注意事項	主体的に受講する。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV							

V							○

テキスト1	特に指定のテキストなし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	各回のテーマに沿った資料を紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	初回は準備は不要。授業を受ける心構えを持って臨むこと。
事後	講義の復習を行い、次回からの講義に向けて自らの学ぶ姿勢を確認する。(1時間)

2	悪性新生物とその支援(がん)
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の予習よりも復習をしっかり行って、実践の場でその知識と技術を生かせるようにする(講義後から介護職である間ずっと)

3	心臓疾患とその支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

4	脳血管疾患、および後遺症の支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

5	内分泌疾患とその支援(糖尿病、他)
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

6	難病 ①脳・神経疾患とその支援(パーキンソン病、ALS、他)
事前	難病とは何か。受講者が自ら調べ、疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識を生かせるよう定着させる。(2時間)

7	難病 ②関節疾患とその支援(関節リウマチ、他)
事前	難病とは何か。受講者が自ら調べ、疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識を生かせるよう定着させる。(2時間)

8	呼吸器疾患とその支援(肺炎、他)
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

9	腎臓・泌尿器疾患とその支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

10	肝臓疾患とその支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

11	消化管疾患とその支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、医学的知識を定着させる。(2時間)

12	認知症とその家族への支援
事前	該当講義テーマについて基礎的内容を自ら調べ、講義内容で疑問や発見が生まれるような予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識を生かせるよう定着させる。(2時間)

13	感染症とその支援(インフルエンザ、ノロウイルス等)
事前	特に興味深いテーマだと思うので、日常での疑問をもって事前の予習を行うこと。(2時間)

事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識を生かせるよう定着させる。(2時間)

14	ターミナル期・グリーフケア・老衰の支援
事前	重いテーマなので、日頃から個々が抱いている当該テーマをもって予習を行うこと。(2時間)
事後	講義の復習と確認テストの答え合わせを行い、実践の場でその知識を生かせるよう定着させる。(2時間)

15	総括
事前	前回までの講義内容を全て復習しなおした上で、実践に置き換えた視点で講義に臨むようにする。(4時間)
事後	講義内容が実践の場で生かせるように、学習内容を反芻する。(4時間)

2020/07/16(木)21:36

科 目 名	倫理学 [介]			授業コード	6360011
副 題	倫理的問題とは何か				
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	杉下 文子				

科目に関するキーワード	倫理的葛藤、よさ、功利主義、正義、尊厳、

到達目標	・代表的な倫理学思想を知ることで、人権思想、福祉理念の歴史的変遷を理解し、説明できる。 ・人間の尊厳や人権尊重、権利擁護の考え方を理解し、倫理学的方法を適用して日常の社会生活や介護場面における事例を考察することができる。 ・人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を倫理学的に理解し、説明できる。			
授業の概要	我々は生きていく中で「～はよい」「～は悪い」「～すべきだ」「～すべきではない」と言った判断を行なっている。こうした判断の根拠を明らかしようとする学問が倫理学である。本講義では、倫理学の代表的な知識を習得し、日常の社会生活における倫理的な場での判断が、いかなる理由で行われていると考えられるのかを理解すると共に、人生の終盤期という大切な時期の人々のケアを担当するであろう介護福祉職が直面することが予想される倫理的課題への対応能力の基礎を養う。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	・5人程度の班に分かれ、課題に対する議論を行い、結果を発表する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中のグループワークやワークシート及びリアクションペーパー(50%)、学期末レポート(50%)		
フィードバック	毎回の授業でワークシートやリアクションペーパーの提出を求め、次週にフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	講義形式が中心の授業となるが、習得した知識を用いて、受講生自身が考察することや、他の受講生と意見を交わし合う作業が重要となる。積極的な授業への参加が望まれる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特に指定しない	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997年 永井均『倫理とは何か』ちくま学術文庫、2011年 箕岡真子『認知症ケアの倫理』ワールドプランニング、2010年 箕岡真子・稲葉一人『ケースから学ぶ高齢者ケアにおける介護倫理』医歯薬出版株式会社、2008年	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション：倫理学とは
事前	身近に聞いたことがあったり、これまで触れたことのある「倫理」には、どのようなものがあるか、振り返って考えてみる。（2時間を目安）
事後	配布資料を熟読する。（2時間を目安）

2	倫理学とは
事前	事前配布資料を読み、課題「人の命を救うために嘘をつくことは許されるか」について考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、要点を整理するとともに、自分の考えを記す。（2時間を目安）

3	論理学の基本問題(1)「よさ」とは何か
事前	事前配布資料を読み、課題「10人の命を助けるために1人の人を殺すことは許されるか」について考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、要点を整理するとともに、授業の感想をまとめる。（2時間を目安）

4	論理学の基本問題(2)功利主義
事前	事前配布資料を読み、課題「10人の患者に対して特効薬が一人分しかない時どうするか」について考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、授業で交わした意見についてまとめる。（2時間を目安）

5	論理学の基本問題(3)義務論
事前	事前配布資料を熟読し、課題「「～である」から「～するべきである」を導き出すことはできるか」について考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、日常生活の中で「～べきである」とされている例について考える。（2時間を目安）

6	現代社会と倫理思想(1)正義と平等
事前	事前配布資料を熟読する。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、現代社会で「正義と平等」の対立が問題になっている事例について考える。（2時間を目安）

7	現代社会と倫理思想(2)生命と倫理
事前	事前配布資料を熟読する。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、現代社会で「生命と倫理」が問題になっている事例について考える。（2時間を目安）

8	中間まとめ：身近な倫理的課題についてのディスカション
事前	学習してきた様々な概念を活用できるように、これまでの配布資料やノートを熟読しておく。（2時間を目安）
事後	ディスカションで出された意見と自らの意見とを比較検討し、さらに考察を深める。（2時間を目安）

9	介護倫理の基礎知識(1)自己決定と意思能力
事前	介護場面での事例についての事前配布資料を読み、問題点は何かを考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、要点を整理するとともに、授業の感想をまとめる。（2時間を目安）

10	介護倫理の基礎知識(2)QOL
事前	介護場面での事例についての事前配布資料を読み、問題点は何かを考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、授業で交わした意見についてまとめる。（2時間を目安）

11	介護場面における尊厳と人権
事前	介護場面での事例についての事前配布資料を読み、自分が介護者だったらどうするか考える。（2時間を目安）
事後	資料や授業ノートを読み返し、授業で交わした意見についてまとめる。（2時間を目安）

12	終末期ケアの介護倫理(1)看取り
事前	介護場面での事例についての事前配布資料を読み、自分が介護者だったらどうするか考える。（2時間を目安）

事後	資料や授業ノートを読み返し、要点を整理するとともに、授業の感想をまとめる。(2時間を目安)

13	終末期ケアの介護倫理(2)尊厳死
事前	介護場面での事例についての事前配布資料を読み、問題点は何かを考察する。(2時間を目安)
事後	資料や授業ノートを読み返し、授業で交わした意見についてまとめる。(2時間を目安)

14	介護倫理の実践分析
事前	これまでに配布された資料や授業ノートを読み返しておく。(2時間を目安)
事後	ディスカッションで出た意見と自らの意見を比較し、考察をさらに深める。(2時間を目安)

15	まとめ
事前	14講までに配られた資料やノートを読み返しておく。(2時間を目安)
事後	資料や授業ノートを読み返し、考察をさらに深める。(2時間を目安)

2020/07/16(木)21:45

科 目 名	幼児教育史 [子]			授業コード	6360021
副 題	「子ども」への眼差しの歴史				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	杉下 文子				

科目に関する キーワード	子ども観、子どもの発見、消極教育、子ども中心主義、メディアと子ども
到達目標	本授業のねらいは、幼児教育の歴史を紐解くことで、今日あるような幼児教育をその在り方を批判的に検討できるよう、以下のような理解に到達することである。 (1)教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 1.教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2.子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 (2)教育に関する歴史 1.家族と社会による教育の歴史を理解している。 2.近代教育制度の成立と展開を理解している。 3.現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 (3)教育に関する思想 1.家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 2.学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3.代表的な教育家の思想を理解している。
授業の概要	幼児教育の歴史を学ぶことは、取りも直さず「子ども(幼児)」という概念がいかなるものとして人々に抱かれてきたか、を検討することである。本講ではまず、17世紀～20世紀前半に活躍した欧米の教育思想家や実践家が「子ども」や、彼らに相応しい家庭教育や学校教育をどのようなものと考えたか、また彼らにとって望ましい学習をいかなるものとして捉えたかを見ていく。その上で、明治期以来、西洋幼児教育思想や、それを反映した教育制度がわが国に導入されてきた過程を追い、近現代日本の幼児教育への理解を深めると共に、私たちの社会の「子ども」が如何なる存在であると言えるのか、考察することへと繋げていく。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	成績評価はレポート(50%)・小テストの成績(20%)・授業への参加度(30%)の割合で行うが、得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。		
フィードバック	毎回リアクションペーパーを回収し、質問等については次講授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	・初回授業時に出欠席や提出物の扱いについて説明するので、履修希望者は出席することが望ましい。 ・適宜リアクションペーパーや小テストを課す。その回に欠席した場合も、基本的には再提出や追試の機会は設けない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				

III							
IV	○						
V							

テキスト1		
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	ニール・ポストマン『子どもはもういない』(小柴一訳)1995年、新樹社 今井康雄『教育思想史』2009年、有斐閣アルマ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年、フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018年、フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』2018年、フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション:子どもへの眼差しの歴史　序論
事前	自らが受けた教育や、実習等の機会に接した幼児教育の現場を振り返り、そこでは「子ども」をどんな存在として扱っているか、考察する。(1.5時間)
事後	授業で配布された資料を熟読する。(2.5時間)

2	子どもの誕生(1)17世紀以前の「子ども」たち:コメニウス、ロックの家庭教育
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

3	子どもの誕生(2)ルソーと「子ども」の誕生
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返し、ルソーの教育論の特徴について考察する。(2.5時間)

4	子どもの誕生(3)ルソー『エミール』読解
事前	事前配布資料を熟読し、特徴的な箇所や疑問点を見つけておく。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返し、ルソーについてまとめる。(2.5時間)

5	子どもの誕生(4)『エミール』にみる近代的「子ども」観、小テスト①
事前	第1～4講の資料やノートを読み返し、ルソーについての知識を整理しておく。(3時間)
事後	ノートを読み返し、まとめる。(1時間)

6	子どもと学習(1)幼稚園創設:ペスタロッチからフレーベルへ
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

7	子どもと学習(2)幼稚園の展開:「遊び」の教育学と子ども中心主義
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

8	子ども・家庭・社会～保育のはじまり
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

9	西洋幼児教育思想のわが国への影響明治初期の幼児教育制度、小テスト②
事前	第6～8講の資料やノートを読み返す。(3時間)
事後	ノートを読み返し、まとめる。(1時間)

10	我が国における幼児教育の成立
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

11	我が国における幼児教育の発展

事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(2.5時間)

12	現代の子どもたち(1)メディアの影響を考える
事前	幼児教育の問題について新聞やメディアは、どのようなことを挙げているか、調べる。(3時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(1時間)

13	現代の子どもたち(2)ポストマン『子どもはもういない』を読む
事前	子どものメディア利用や、そこから受ける影響について、どのようなことが言われているか、調べる(2.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(1.5時間)

14	現代の「子ども」を考察する～情報化・国際化・少子化社会における子どもたち
事前	事前配布資料を熟読する。(1.5時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(1.5時間)

15	まとめ、小テスト③
事前	第14講までの資料やノートを読み返し、「子ども」観の歴史を辿ってみる(3時間)
事後	資料及び授業ノートを読み返す。(1時間)

2020/07/16(木)22:14

科 目 名	精神保健福祉論II [社]			授業コード	6370011
副 題	生活支援の理解				
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	鈴木 剛				

科目に関する キーワード	精神障害者、精神保健福祉士、生活支援、

到達目標	精神保健福祉士として、相談支援方法と法律を理解することで、相談者の生活問題の解決に向け支援を実戦する能力を身につけることできることを目標とする。そのために、精神障害者に関する生活支援の意義と特徴、居住支援に関する制度と施策、職業リハビリテーションの概念及び就労支援に関する制度・施策について理解することができる。また、行政機関における精神保健福祉士の支援活動や地域生活支援についてのシステムを理解することができる。			
授業の概要	・精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 ・居住支援及び就労支援についての制度・施策と相談支援について理解する。 ・行政機関における相談支援活動について理解する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	学生によるプレゼンテーション
評価方法 及び評価基準	試験	提出物及び授業内発表評価（40パーセント） 学期末試験（60パーセント）		
フィードバック	各テーマに応じ作成された提出物及びプレゼンテーション内容について、テーマごとに提出物含め解説を行い、授業内にて講評を行う。			
履修に際しての 注意事項	精神保健福祉士受験資格を希望する学生は、必ず履修すること。 授業計画に基づき、学生間で担当を決め、事前に調べてきた内容の発表を行う。 発表内容についての意見交換と講義を行います。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV					○		

V							

テキスト1	新・精神保健福祉士養成講座　第7巻　精神障害者の生活支援システム　第3版 中央法規	9784805855973
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	精神保健医療福祉白書　2018/2019 中央法規	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション／精神障害者の概念(1) 障害概念と精神障害
事前	テキスト第1章第1節から第2節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

2	精神障害者の概念(2) 精神障害の法的定義と特性
事前	テキスト第1章第3節から第4節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

3	精神障害者の生活の実態
事前	テキスト第2章第1節から第2節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

4	精神障害者の生活と人権
事前	テキスト第2章第3節から第3章第1節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

5	精神障害者の居住支援(1) 居住支援制度の経過
事前	テキスト第3章第2節から第4章第1節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

6	精神障害者の居住支援(2) 居住支援と精神保健福祉士
事前	テキスト第4章第2節から第4章第3節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

7	精神障害者の居住支援(3) 居住支援と専門職
事前	テキスト第4章第4節から第5章第1節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

8	精神障害者の就労支援(1) 就労支援の意義
事前	テキスト第5章第2節から第5章第2節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

9	精神障害者の就労支援(2) 就労支援制度の経過
事前	テキスト第5章第3節から第5章第4節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

10	精神障害者の就労支援(3) 就労支援の実際
事前	テキスト第5章第5節から第5章第6節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

11	行政における相談援助(1) 自治体における相談支援
事前	テキスト第5章第7節から第6章第1節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

12	行政における相談援助(2) 行政機関における精神保健福祉士
事前	テキスト第6章第2節から第6章第3節までを読む、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

13	精神障害者の地域生活支援システム(1) 生活支援と社会参加
事前	テキスト第7章第1節から第7章第2節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

14	精神障害者の地域生活支援システム(2) ソーシャルサポートと危機介入
事前	テキスト第7章第3節から第7章第4節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

15	精神障害者の地域生活支援システム(3) 海外モデルと生活支援システム ／まとめ
事前	テキスト第7章第5節から第7章第6節までを読み、各自内容をまとめておくこと（学習時間1.5時間）
事後	発表されたレポートとテキストの内容を再度確認し復習すること。また、授業内で配布した資料も合わせ、十分な理解を深めること。（2.5時間）

2020/07/16(木)21:52

科 目 名	子どもと環境 [子]			授業コード	6380012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	仙田 考				

科目に関する キーワード	子ども、環境、自然、あそび、生活
到達目標	・保育内容における領域「環境」について理解し、子どもの生活と環境の関わりを理解する。 ・環境について、実践、現場の視点を持ちつつ、子どもの発達に寄与する環境のあり方を理解し、保育者としての必要な技能についての理解を深める。 ・自らが自然をはじめ、環境に興味、関心を持ち、子どもたちに望ましい環境の在り方や関わり方について理解する。
授業の概要	子どもは環境の中で、もの、人、自然に出会い、様々な体験を通して成長していく。子どもたちの身の回りにある様々な環境について理解し、また、子どもたちが周囲の環境に気づき、主体的に関わってゆく体験の機会を促す保育者の在り方について学びを深める。また、子どもたちのよりよい生活をめざし、自然や周囲の環境に目を向け、環境を保育者自らが変えてゆく、環境設定の重要性に気付き、そのあり方について理解を深める。
授業方法	演習 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	小課題30%、授業取組20%、最終レポート50%	
フィードバック	授業内の課題発表等の際、フィードバックを行う。		
履修に際しての 注意事項	遅刻をしないこと。課題提出の期日を守ること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	高橋貴志・目良秋子[編著]コンパス『保育内容 環境』建帛社	978-4-7679-5062-4
テキスト2	文部科学省・厚生労働省・内閣府「平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領」チャイルド本社	9784577814475
テキスト3		
参考文献	鈴木敏正・降旗信一[編著]『教育の課程と方法- 持続可能で包容的な未来のために』学文社 そのほか、授業内で適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

2	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり1：領域「環境」のねらい
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

3	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり2：領域「環境」の内容
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

4	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり3：身近な4つの環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

5	子どもと栽培
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

6	子どもと自然1：自然あそび
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

7	保育者のかかわりと環境1：季節とのかかわり
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

8	保育者のかかわりと環境2：役割について
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

9	子どもと自然2：生き物と環境　子どもと生き物環境、園外保育環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

10	子どもと自然3：子どもと自然、環境学習
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

11	子どもとあそび環境1：子ども時代のあそびをふり返る
事前	自身の子ども時代の遊びやあそび環境を振り返ること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

12	子どもとあそび環境2：園でのあそびと環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

13	子どもと数量、図形、文字、標識1：身近な環境を通して知る

事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

14	子どもと数量、図形、文字、標識2：身近な環境を通して考える
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

15	子どもと保育環境－室内外環境、子どもの安全と環境、まとめ
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

2020/07/16(木)21:57

科 目 名	子どもと環境 [子]			授業コード	6380022
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	仙田 考				

科目に関するキーワード	子ども、環境、自然、あそび、生活
到達目標	・保育内容における領域「環境」について理解し、子どもの生活と環境の関わりを理解する。 ・環境について、実践、現場の視点を持ちつつ、子どもの発達に寄与する環境のあり方を理解し、保育者としての必要な技能についての理解を深める。 ・自らが自然をはじめ、環境に興味、関心を持ち、子どもたちに望ましい環境の在り方や関わり方について理解する。
授業の概要	子どもは環境の中で、もの、人、自然に出会い、様々な体験を通して成長していく。子どもたちの身の回りにある様々な環境について理解し、また、子どもたちが周囲の環境に気づき、主体的に関わってゆく体験の機会を促す保育者の在り方について学びを深める。また、子どもたちのよりよい生活をめざし、自然や周囲の環境に目を向け、環境を保育者自らが変えてゆく、環境設定の重要性に気付き、そのあり方について理解を深める。
授業方法	演習 / アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	レポート	小課題30%、授業取組20%、最終レポート50%	
フィードバック	授業内の課題発表等の際、フィードバックを行う。		
履修に際しての注意事項	遅刻をしないこと。課題提出の期日を守ること。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	高橋貴志・目良秋子[編著]コンパス『保育内容 環境』建帛社	978-4-7679-5062-4
テキスト2	文部科学省・厚生労働省・内閣府「平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領」チャイルド本社	9784577814475
テキスト3		
参考文献	鈴木敏正・降旗信一[編著]『教育の課程と方法- 持続可能で包容的な未来のために』学文社 そのほか、授業内で適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

2	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり1：領域「環境」のねらい
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

3	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり2：領域「環境」の内容
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

4	子どもにとって環境とはなにか―幼児と環境の関わり3：身近な4つの環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

5	子どもと栽培
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

6	子どもと自然1：自然あそび
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

7	保育者のかかわりと環境1：季節とのかかわり
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

8	保育者のかかわりと環境2：役割について
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

9	子どもと自然2：生き物と環境　子どもと生き物環境、園外保育環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

10	子どもと自然3：子どもと自然、環境学習
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。周囲の自然を見る、ふれる、関わる、感じること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

11	子どもとあそび環境1：子ども時代のあそびをふり返る
事前	自身の子ども時代の遊びやあそび環境を振り返ること。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

12	子どもとあそび環境2：園でのあそびと環境
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

13	子どもと数量、図形、文字、標識1：身近な環境を通して知る

事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

14	子どもと数量、図形、文字、標識2：身近な環境を通して考える
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

15	子どもと保育環境－室内外環境、子どもの安全と環境、まとめ
事前	教科書で授業に該当する箇所を読み込むこと。
事後	授業内容についてノートや配布資料を基にふり返り、理解を深めること。

2020/07/16(木)10:44

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [社]			授業コード	6390011
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	染野 享子				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	6390022
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	染野 享子				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)21:14

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [介]			授業コード	6390032
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	染野 享子				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)10:53

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	6390040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	染野 享子				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○ / 少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。		
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:29

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	6390053
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	染野 享子				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)21:43

科 目 名	臨床心理学 [子]			授業コード	6400011
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	高城 絵里子				

科目に関する キーワード	こころの問題 臨床心理学的支援 臨床心理と保育との連携

到達目標	・臨床心理学の基本的な知識を身につけ、理論や技法に関する説明ができる。 ・子どもの育ちや子育て家庭及びそれを取り巻く環境等に関する知識や技能を獲得し、保育実践の場で活かすことができる。 ・臨床心理学の視点や援助技法の理解をもとに、専門家との連携および協力の必要性があることを認識し、その協働の具体的方法について考え、主体的に取り組むことができる。 ・臨床心理学で用いられるコミュニケーション技法を学び、子どもや保護者とのコミュニケーションや、保育者間の、あるいは保育の場と関係機関との協働において積極的に活用することができる。 ・受講生自身がすこやかで充実した生活をおくるために、臨床心理学の知識を活かすことができる。
授業の概要	本講義では、臨床心理学の基本的内容を概観すると共に、臨床心理学の援助対象となるこころの問題について理解を深める。さらに心理アセスメントや臨床心理学的支援技法の学習によって、こころの問題に対する臨床心理学的なアプローチの方法を理解する。 臨床心理学の知識や技術は、臨床心理の専門家として活用する以外にも非常に有用である。よって本稿では、学生自身の生活や、保育・幼児教育の実践において、臨床心理学の知識や技術をどのように役立てていけるかについても考えていく。具体的には、こころの問題に関する知識が学生自身と周りの健康保持、予防活動にいかに役立てられるか、またコミュニケーション技法が、保育の専門家として、または個人として円滑な対人関係を築くためにどのように活用できるか等について、考察を深めていく。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・コミュニケーション技法については、個人、あるいはグループでの実習を通して実践的な理解を目指す。 ・毎回講義終了後にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに記述された疑問、質問に対しては、次回の講義で回答をフィードバックする。 ・こころの問題等繊細なテーマを扱うため、講義中に学生間でのグループディスカッションを実施し、疑問や意見の共有を行う。またグループディスカッションの結果を全体で共有し、教員と対話することによって、講義内で学生の疑問が解消できるようにする。 ・小グループによる事例検討を実施し、活発な議論を通して幅広い視点を身につける。

評価方法 及び評価基準	レポート	授業中の課題やディスカッションへの取り組み(20%)、毎回のフィードバックおよび授業内で求められた提出物(20%)、期末レポート(60%)から総合的に判断する。
フィードバック	・毎回授業後に提出を求めるリアクションペーパー、また授業内で指示された提出物については、次回の講義開始時に疑問や質問への回答・コメントをフィードバックする。 ・授業内のディスカッションや実習で出された意見・疑問については、その授業内で回答・コメントをフィードバックする。	
履修に際しての 注意事項	・体験やディスカッションを積極的に取り入れ、教員との対話を重視する授業であるため、学生の積極的な参加を求める。 ・リアクションペーパーは基本的に毎回提出を求める。 ・期末レポートは、毎回授業に参加していないと作成が困難な課題を出す。	

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							
V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	臨床心理学の定義・歴史・役割
事前	「臨床心理学」「臨床心理士」「公認心理師」に対する自身のイメージを文章にまとめ、整理しておくこと。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

2	臨床心理学の援助の対象～こころの問題の定義
事前	臨床心理学の援助対象であるこころの問題についてどのように考えるか、自分自身の心の健康を振り返りながら文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

3	「臨床心理士」、「公認心理師」の視覚と役割、保育との連携
事前	「臨床心理士」と「公認心理師」についての、どのような資格であるかあらかじめ調べておく。 臨床心理士、公認心理師と保育士との間で、そのような連携が出来そうか、自分の考えを文章にまとめる。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

4	こころの問題の理解と対応① ストレスとうつ病
事前	ストレスとうつ病について予習し、自分自身のストレスについての考えを文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

5	こころの問題の理解と対応② 物質関連障害と摂食障害
事前	物質関連障害と摂食障害について予習し、自分自身のストレス対処法についての考えを文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

6	コミュニケーション実習① 協働を目指すコミュニケーション体験
事前	自分自身の対人関係の取り方の特徴を考え、文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

7	こころの問題の理解とその対応③ 統合失調症と双極性障害
事前	「統合失調症」と「双極性障害」について予習し、サポートの仕方ついて考え、文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

8	こころの問題の理解と対応④ 児童虐待とその影響
事前	児童虐待について予習し、保育者としての対応について考え、文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

9	コミュニケーション実習② 対人援助の基本姿勢
事前	対人援助のコミュニケーションで必要な姿勢について考えをまとめ、文章にまとめておく。(学修時間2時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間2時間)

10	こころの問題とその対応⑤ DVなど暴力の問題
事前	ドメスティックバイオレンスについて予習し、暴力の心理的影響について自身の考えを文章にまとめておく。(学修時間2時間)

事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

11	こころの問題の理解とその対応⑥　こどものこころの問題
事前	こどものこころの問題について、どのようなものがあるか予習し、保育士としての対応について考えを文章にまとめておく。（学修時間2時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

12	コミュニケーション実習③　自分も相手も大切にするコミュニケーション
事前	自他共に大切にするコミュニケーションとはどのようなものであるか、自分の考えを文章にまとめておく。（学修時間2時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

13	臨床心理アセスメント
事前	臨床心理アセスメントについて予習し、保育士業務との関連や共通性を検討して文章にまとめておく。（学修時間2時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

14	臨床心理学的支援①　主な面接法とその活用
事前	臨床心理学のカウンセリング技法について予習し、保育士として以下に活用できそうか考え、文章にまとめておく。（学修時間2時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

15	臨床心理学的支援②　臨床心理学的地域援助～地域社会での実践と連携
事前	これまでの講義で学んだ知識をもとに、臨床心理の専門家と保育、幼児教育との間でいかに連携ができそうか考え、文章にまとめておく。（学修時間2時間）
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること（学修時間2時間）

2020/07/16(木)20:30

科 目 名	生命科学 [社心子科]			授業コード	6410012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	高橋 弘之				

科目に関するキーワード	メンデル遺伝、DNAの構造・複製・変異・転写・翻訳、ウイルス、進化、環境と生存・繁殖の関係、生物多様性、移入種問題

到達目標	・メンデル遺伝、DNAの構造・複製・変異・転写・翻訳について理解し、説明できるようになる。 ・進化の定義について理解し、進化をもたらすメカニズムについて説明できるようになる。 ・種について、移入種問題について、また環境と生存・繁殖の関係について、ヒト以外の霊長類の研究成果をふまえながら説明できるようになる。			
授業の概要	生命科学（ライフサイエンス）は、狭義では生物学分野と医学分野まとめた領域を指すが、広義では生命現象の解明、人間の理解とそれを基本にした科学技術や社会システムの開発を目指した総合的な学問を指す。この講義では広義の生命科学領域から、前半では生命現象の理解の端緒となる遺伝およびDNAの仕組みの基礎知識の習得する。それをベースに進化、種、外来種問題、環境と生存・繁殖の関係などのトピックを、ヒト以外の霊長類の事例を中心に扱う。			
授業方法	講義	アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	レポート	3回実施予定の授業内小テスト（50%）及び10回実施予定のワークシート（30%）、移入種問題についてのレポート課題（20%）によって評価する（試験およびワークシートの成績によっては事前学習の成果を測るワークシートを追加するかもしれない）。得点の分布によっては配点を調整する可能性もある。なお、初回講義時に知識確認のための小テストを実施するが、これは評価の対象とはしない。		
フィードバック	ワークシートは評価・添削の上、返却する。授業内小テストに備え、必ず復習しておくこと。			
履修に際しての注意事項	パワーポイントは使用せず、板書を中心に講義をすすめるので、私語は厳に慎むこと。講義中はスマホの電源を切り、かならず鞄にしまうこと。いうまでもないことであるが、遅刻・途中退出はなるべくしないこと、講義は知識の積み重ねに他ならないのでやむを得ない場合を除き休まず出席すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III							
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で適宜指示する。	
参考HP	https://www.jstage.jst.go.jp/article/psj/29/2/29_29.015/_pdf	

授業計画及び事前・事後学修

1	生物の定義と有性生殖、レポート課題についての説明
事前	参考HPにあげた論文集を最初から最後まで読み通し、わからなかった点についてまとめておくこと。(3時間)
事後	講義内容及び知識確認のための小テストを復習しておくこと。(1時間)

2	メンデル遺伝の基礎(1)優性の法則と分離の法則
事前	「メンデル遺伝の優性の法則と分離の法則」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	ワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第1報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

3	メンデル遺伝の基礎(2)独立の法則及びメンデルの3つの法則のまとめ(授業内小テスト)
事前	「メンデル遺伝の独立の法則」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。授業内小テストに備えて優性の法則と分離の法則について復習しておくこと。(2時間30分)
事後	講義内容及び授業内小テストを復習しておくこと。(1時間30分)

4	DNAの構造
事前	「分子間の結合」及び「DNAの構造」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第4報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。なお第2報と第3報は遺伝・DNAに関する講義を履修してから精読すること。(2時間30分)

5	DNAの複製
事前	「DNAの複製」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第5報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

6	DNAの転写、選択的スプライシング
事前	「DNAの転写、選択的スプライシング」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第6報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

7	翻訳と変異
事前	「翻訳と変異」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第7報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

8	ウイルスの基礎
事前	「ウイルスの基礎」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第2報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

9	インフルエンザウイルスの構造と増殖・変異の仕組み(授業内小テスト)
事前	「インフルエンザウイルス」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。授業内小テストに備えて第4回から第8回までの資料・ノートそ整理し、復習しておくこと(2時間30分)
事後	講義内容及び授業内小テストを復習しておくこと。(1時間30分)

10	進化と生物多様性(1)自然選択
事前	「進化」及び「自然選択」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。自然選択の数式は必ず解いておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第3報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

11	進化と生物多様性(2)性選択
事前	「性選択」について配付資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)

事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第8報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

12	進化と生物多様性(3)種とはなにか？
事前	「形態学的種概念と生物学的種概念」について配布資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第9報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

13	進化と生物多様性(4)環境と生存・繁殖の関係
事前	「野生動物の研究から得られた生存・繁殖に関する知見」について配布資料を読み込んで理解しておくこと。(1時間30分)
事後	講義内容及びワークシートを復習しておくこと。参考HPにあげた報告集の第10報を精読し、内容を簡潔にまとめておくこと。(2時間30分)

14	生物多様性とは何か？(授業内小テストおよびレポート課題提出)
事前	「生物多様性」について配付資料を読み込んでおくこと。授業内小テストに備えて第10回から第13回までの資料・ノートそ整理し、復習しておくこと。レポート課題を作成すること(3時間30分)
事後	講義内容を復習しておくこと。(30分)

15	授業内小テスト及びレポート課題の講評
事前	前回の授業内小テストを復習しておくこと。(1時間)
事後	レポート課題をフォローする論文(講義中に提示する)を精読すること。(3時間)

2020/07/16(木)22:12

科 目 名	障害者福祉論I/障害者福祉論 [介]			授業コード	6420011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	瀧澤 学				

科目に関する キーワード	障害者福祉 障害者総合支援法 当事者支援 家族支援

到達目標	障害者福祉の理念や歴史を理解して、説明できる。 障害者を支える法制度や支援体制を理解して、説明できる。 障害者の障害特性や生活実態を踏まえたうえで、障害者や家族に対して医学的・心理的・社会的側面から多職種が連携・協働して支援することを理解し、説明できる。
授業の概要	障害者施策は、社会情勢、当事者や家族・支援者の活動等とともに変遷している。本講義では、障害者福祉の理念や歴史を踏まえつつ、障害について基礎的理解を深め、具体的な法制度や支援に必要とされる知識を講義する。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポートの結果（70%）に、授業態度とリアクションペーパーの内容（30%）を加味して評価する。		
フィードバック	授業の補足やリアクションペーパーへのフィードバックについては、「授業資料」を通じてコメントするので、必ず確認すること。			
履修に際しての 注意事項	特になし。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II		○					
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・基礎からの社会福祉4　障害者福祉　第2版』ミネルヴァ書房 竹端寛、山下幸子、尾崎剛志、圓山里子編著	4623080420
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション「障害」とは(障害の基礎的理解)
事前	今まで関わったことがある、学んだことがある障害や生活しづらさがある方について振り返ってくる。(2時間)
事後	授業の内容を振り返りつつ、本講で学習することとなる様々な障害者制度等について自己学習する。(2時間)

2	障害者福祉とは何か(障害者の身体、心理、社会的側面について)
事前	教科書の当該箇所(第1章)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者福祉とは何か」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

3	障害者福祉の理念
事前	教科書の当該箇所(第2章)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害福祉の理念」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

4	障害者福祉の歴史的展開①　社会福祉基礎構造改革まで
事前	教科書の当該箇所(第3章・第1・2節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者福祉の歴史と展開」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

5	障害者福祉の歴史的展開②　支援費制度から
事前	教科書の当該箇所(第3章・第3節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者福祉の歴史と展開」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

6	障害者総合支援法の体系と概要(障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)①　障害者総合支援法の全体像
事前	教科書の当該箇所(第4章・第1節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者総合支援法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

7	障害者総合支援法の体系と概要(障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)②　支給決定と障害支援区分
事前	教科書の当該箇所(第4章・第2節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者総合支援法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

8	障害者総合支援法の体系と概要(障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)③　障害者総合支援法の概要
事前	教科書の当該箇所(第4章・第3節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者総合支援法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

9	障害者に関わる法体系①　障害者基本法　身体障害者福祉法
事前	教科書の当該箇所(第5章・第1・2節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「障害者基本法・身体障害者福祉法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

10	障害者に関わる法体系②　知的障害者福祉法　精神保健福祉法
事前	教科書の当該箇所(第5章・第3・4節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「知的性が視野福祉法・精神保健福祉法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

11	障害者に関わる法体系③　発達障害者支援法　児童福祉法
事前	教科書の当該箇所(第5章・第5・6節)を読み、要点をまとめておく。(2時間)
事後	「発達障害者支援法・児童福祉法」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

12	障害者に関わる法体系④　医療観察法　虐待防止法　バリアフリーと生活環境
事前	教科書の当該箇所（第6章・第1・2・6節）を読み、要点をまとめておく。（2時間）
事後	「医療観察法・虐待防止法・バリアフリーと生活環境」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。（2時間）

13	障害者に関わる法体系⑤　障害者と雇用　所得保障と障害者年金
事前	教科書の当該箇所（第6章・第4・5節）を読み、要点をまとめておく。（2時間）
事後	「障害者雇用・障害者年金等」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。（2時間）

14	相談支援　自立支援協議会　当事者団体　家族支援
事前	教科書の当該箇所（第9章・第3・4・5節）を読み、要点をまとめておく。（2時間）
事後	「当事者団体・家族支援等」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。（2時間）

15	相談支援とソーシャルワーク　期末レポートについて
事前	教科書の当該箇所（第8章）を読み、要点をまとめておく。（2時間）
事後	本講で学習した様々な障害者制度等について振り返り、期末レポートに反映する。（2時間）

2020/07/16(木)22:18

科 目 名	障害者福祉論II/障害の理解 [介]			授業コード	6420021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	瀧澤 学				

科目に関する キーワード	身体障害　精神障害　知的障害　発達障害　難病

到達目標	障害の理解についての国際的な流れを理解し、国内での制度のあり方が説明できる。 個々の障害の特性やその具体的な支援方法について理解し、説明できる。			
授業の概要	障害のある人々の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度などの基礎的な知識、具体的な援助方法を理解する。障害の医学的・心理学的な基礎理解や、障害者のライフステージを学ぶこと、地域や家庭で支えるための支援について理解する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	期末レポートの結果（70%）に、授業態度とリアクションペーパーの内容（30%）を加味して評価する。		
フィードバック	授業の補足やリアクションペーパーへのフィードバックについては、「授業資料」を通じてコメントするので、必ず確認すること。			
履修に際しての 注意事項	テキストは昨年同様なので、新たに購入する必要はない。 ただし、インターネット上でダウンロードできる資料を提供するので、事前に予習を行なうこととする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II		○					
III							
IV							

V							

テキスト1	『新・基礎からの社会福祉4 障害者福祉』ミネルヴァ書房 ◆端寛、◆下幸◆、尾崎剛志、圓◆◆◆編著	4623080420
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	特になし	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	障害の概念
事前	今まで関わったことがある、学んだことがある障害や生活しづらさがある方について振り返ってくる。(2時間)
事後	授業の内容を振り返りつつ、本講で学習することとなる様々な障害の特性について自己学習する。(1時間)

2	障害者福祉の理念
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(知的障害)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	本日の内容についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

3	視覚障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(発達障害)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「知的障害」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

4	聴覚・言語障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(◆体障害(肢体不◆由・平衡機能障害・脳卒中・切断))に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「発達障害」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

5	重複障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(◆体障害(◆声◆語そしゃく機能障害・失語症))に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「肢体不自由・平衡機能障害・脳卒中・切断」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

6	肢体不自由
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(◆体障害(視覚障害・聴覚障害・内部障害))に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「音声言語そしゃく機能障害・失語症」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

7	知的障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(精神障害(統合失調・躁鬱・てんかん等))に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「視覚障害・聴覚障害・内部障害」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

8	自閉症
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(脳性◆痺)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「脳性麻痺」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

9	精神障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(脊髄損傷)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)

事後	「脊髄損傷」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

10	高次脳機能障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(難病(筋萎縮性側索硬化症・筋ジストロフィー等))に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「難病」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

11	発達障害
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(次脳機能障害)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「高次脳機能障害」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

12	内部障害・難病
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(重症障害児者・医療的ケア)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「重症心身障害児・医療的ケア」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

13	障害者への支援
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(障害者と活環境・福祉具)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「障害者と生活環境・福祉用具」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

14	家族への支援
事前	自分の身の回り等に、本日のテーマ(障害者とリハビリテーション・社会参加)に該当する方や関係者がいるか、いる場合は該当する方や関係者の生活課題等について考えてくる。いない場合も、そのようなテーマに該当する案件等をメディア等で探し、生活課題等を検討してくる。(2時間)
事後	「障害者とリハビリテーション・社会参加」についてレジュメを見ながら振り返るとともに、でんでんばんにアップした授業資料を参照すること。(2時間)

15	地域サポートづくり
事前	本講で学習した様々な障害の特性ついて振り返ってくる。(2時間)
事後	本講で学習した様々な障害の特性ついて振り返り、期末レポートに反映する。(2時間)

2020/07/16(木)21:06

科 目 名	発達障害福祉論 [社]			授業コード	6440012
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	滝島 真優				

科目に関する キーワード	発達障害・当事者主体・家族支援

到達目標	①発達障害の定義を理解し、具体的な配慮や支援方法を説明できる ②発達障害者およびその家族に対する支援のあり方を理解することができる ③相談援助職を目指す立場として、また地域社会の一員として、発達障害の理解と支援に主体的に取り組むことができる			
授業の概要	発達障害の基本的な知識と支援方法について、医療・教育・福祉・心理の各領域から◆総合的に理解を深め、ライフステージを通じた支援について考えていく。また、社会モデルの考え方に基づき、インクルーシブな支援のあ◆り方を理解する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・支援技法、アセスメント方法に関する演習を行う ・リアクションペーパーの活用を行う
評価方法 及び評価基準	試験	授業内の課題や諸活動への取り組み（20%）、リアクションペーパー（20%）、試験（60%）により総合的に評価する		
フィードバック	リアクションペーパーの内容・質問を踏まえ、各回冒頭に前回の講義内容の復習を行う。 講義終了前に次回講義内容の予告と事前学習の内容に係る説明を行う。			
履修に際しての 注意事項	板書の撮影およびインターネット閲覧は禁止とする			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○		
III			○				
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	自閉症スペクトラム児・者の理解と支援―医療・教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識　日本自閉症スペクトラム学会編　教育出版 こんなサポートがあれば！2―LD、ADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症の人たち自身の声　梅永雄二編著　エンパワメント研究所 発達障害情報・支援センター,http://www.rehab.go.jp/ddis/	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
1	オリエンテーション・発達障害とは
事前	発達障害者福祉法を一読すること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
2	障害特性と支援方法①知的障害
事前	ICD-10・DSM-Vにおける知的障害の定義について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
3	障害特性と支援方法②自閉症スペクトラム障害（自閉症）
事前	ICD-10における自閉症、DSM-Vにおける自閉症スペクトラム障害の定義について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
4	障害特性と支援方法③自閉症スペクトラム障害（アスペルガー症候群）
事前	ICD-10におけるアスペルガー症候群、DSM-Vにおける自閉症スペクトラム障害の定義について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
5	障害特性と支援方法④学習障害（LD）
事前	DSM-Vにおける限局性学習症の定義について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
6	障害特性と支援方法⑤注意欠陥多動性障害（ADHD）
事前	DSM-Vにおける注意欠如・多動症の定義について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
7	基本的な支援技術①心理学的介入法
事前	フォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメントの特徴について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
8	基本的な支援技術②アセスメントの基本
事前	発達障害児者に対する構造化による支援の必要性について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
9	ライフステージに応じた支援①乳幼児期（療育）
事前	発達障害者支援法を読み、発達障害児に対する就学前の支援施策について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
10	ライフステージに応じた支援②学童期（教育）
事前	発達障害者支援法を読み、発達障害児に対する教育制度・支援施策について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
11	ライフステージに応じた支援③青年・成人期1（就労支援）
事前	発達障害者支援法を読み、発達障害者に対する就労支援施策について調べること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。
12	ライフステージに応じた支援④青年・成人期2（生活支援・権利擁護）
事前	発達障害者支援法を読み、発達障害者に対する生活支援施策について調べること（学修時間2時間）

事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。

13	発達障害当事者に学ぶ支援
事前	授業時に配布された資料を読み、発達障害当事者の立場に立ち、必要とされる支援について考えてくること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。

14	発達障害者の家族支援①親支援
事前	授業時に配布された資料を読み、発達障害児者の親の立場に立ち、必要とされる支援について考えてくること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。

15	発達障害者の家族支援②きょうだい支援、まとめ
事前	授業時に配布された資料を読み、発達障害児者のきょうだいの立場に立ち、必要とされる支援について考えてくること（学修時間2時間）
事後	授業時に配布された資料をもとに十分な復習を行う（学修時間2時間）。

2020/07/16(木)21:35

科 目 名	日本史 [心]			授業コード	6460012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	田中 達実				

科目に関する キーワード	通史の把握、歴史分析と論理的説明、授業計画の作成

到達目標	日本史の知識を深めるとともに、中等教育で扱う歴史的事項を理解します。 日本が歩んできた歴史を探求することにより、21世紀の日本の針路を考える力をつけます。 高等学校の教科書の出来事を掘り下げることにより、歴史学の研究方法を学びます。			
授業の概要	日本の歴史を概観して、日本という国がどのように生まれ、成長してきたのかを学びます。そして、19世紀後半に近代国家となった日本が、第1次世界大戦後に「一等国」となり、列強の仲間入りを果たした背景を考え、戦争への道を進んだ原因を考察します。第2次世界大戦後の「ゼロからの出発」から、再び先進国となっ行く過程をたどり、国際社会とどのような交流・接触を経てきたのかを学びます。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験の結果（85%）に、授業での質問に対する発言などの活動（15%）を加味して評価します。		
フィードバック	今日の日本が、国際政治・世界経済の中で、どのような位置にあるかを理解してもらうために、授業中の学生諸君への質問を通じて各歴史的段階をまとめるとともに、最終授業で概観を説明し、学生諸君の質疑に答える。			
履修に際しての 注意事項	出席と授業への参加態度を重視する。 開講時に配付する講義プリントで、次回の講義内容を把握しておくこと。 受講後は、講義の内容を整理して、疑問点があれば、つぎの講義で質問すること。 事前・事後学習にそれぞれ2時間程度を必要とする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II				○			
III				○			
IV							

V				○			

テキスト1	授業でプリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	高等学校で使用していた山川出版社の「詳説日本史B」などの日本史教科書・図説、「高等学校学習指導要領　地歴」、そのほか必要に応じて、授業で紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	日本文化のあけぼの
事前	日本の歴史区分について、高等学校の教科書などで調べておく。(2時間)
事後	縄文文化と弥生文化の伝播経路・影響を受けた領域などの相違点と稲作文化が社会構造にどのような影響をもたらしたかをまとめておく。(2時間)

2	ヤマト政権の誕生
事前	ヤマト政権の中心と支配領域を調べておく。(2時間)
事後	ヤマト政権の支配構造と社会の状況についてまとめておく。(2時間)

3	律令国家の形成
事前	律令の意味と奈良の寺院仏閣について調べておく。(2時間)
事後	律令体制の整った制度と人々の生活についてまとめておく。(2時間)

4	平安時代の貴族政治
事前	国風文化が生まれた背景と代表作を調べておく。(1時間30分)
事後	貴族社会に生まれた日本文化と律令体制が崩壊する理由をについてまとめておく。(2時間30分)

5	中世社会の成立
事前	源氏と平家の主な人物と主な合戦の場所を調べておく。(1時間30分)
事後	武家の出現と中世の支配体制と土地制度の変化をまとめる。(2時間30分)

6	武家社会の成長
事前	「国人」と「悪党」の語句および鎌倉幕府と室町幕府の中心地を調べておく。(2時間)
事後	原稿を撃退できた理由とその後の日本社会への影響をまとめる。そして、中世の武家政権が衰退する理由をまとめておく。(2時間)

7	幕藩体制の確立
事前	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康について調べておく。(2時間)
事後	戦国時代を終わらせ、天下統一による強い中央集権体制が成立した民衆の成長と経済的変化の背景をまとめる。(2時間)

8	幕藩体制の展開と動揺
事前	3大改革について調べておく。(1時間30分)
事後	3大改革によっても江戸幕府が財政を立て直せなかった理由をまとめ、庶民文化が広がりを見せた背景を考える。(2時間)

9	近代国家の成立
事前	明治維新を成し遂げた戊辰戦争で、官軍の中心となった藩を調べておく。(1時間30分)
事後	明治政府がめざした国家体制とその体制を築くために実施した諸政策をまとめる。(2時間30分)

10	近代日本とアジア
事前	日清戦争と日露戦争について調べておく。(1時間30分)
事後	日本国内の急速な経済発展が、アジア諸国への経済進出となり領土的侵略へとなってゆく経緯をまとめる。(2時間30分)

11	大正デモクラシーと恐慌の時代
事前	「市民層」とはどのような人々をさすのかを調べておく。(1時間30分)
事後	大正デモクラシーの主な文化的社会的動きをまとめ、大正デモクラシーの限界について考える。(2時間30分)

12	軍部の台頭と第2次世界大戦
事前	1920年代と1930年代の日本国内の主な出来事を調べておく。(2時間)
事後	軍部の台頭を許した国内の状況と軍部の台頭を指示した人英人についてまとめる。(2時間)

13	占領時代の日本
事前	マッカーサーについて調べておく。(1時間30分)
事後	アメリカの対日占領政策を初期と中期以降についてまとめ、その理由を考える。(2時間30分)

14	朝鮮戦争と主権回復
事前	挑戦戦の背景となった東西対立(冷戦)について調べておく。(2時間)
事後	東西対立の中で日本が経済的発展を遂げた理由と戦後日本の外交政策についてまとめる。(2時間)

15	高度経済成長と経済大国への道
事前	1964年の東京オリンピック当時の日本について調べておく。(2時間)
事後	高度経済成長の要因と1970年代の安定成長および1980年代の経済大国の時代の変化をまとめる。(2時間)

2020/07/16(木)21:35

科 目 名	世界史 [社心子科]			授業コード	6460021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	田中 達実				

科目に関する キーワード	通史の把握、歴史分析と論理的説明、授業計画の作成

到達目標	主権国家間の対立や民族・宗教対立発生の歴史的背景を学ぶことにより、現代の国際問題を理解できるようになる。 国際政治の中における日本の歴史を学ぶことにより、これからの日本の針路を考える力をもつことができる。 歴史上の出来事や人物を憶えるだけでなく、「なぜその出来事が起こったのか？」 「その歴史的意義はなになのか？」をといつた歴史の流れを把握して、これからの日本や世界を考察できるようになる。			
授業の概要	各地域の文化圏の成立と発展を概観し、近代の主権国家の形成と国際社会の成立過程を学ぶ。そして、帝国主義列強による世界分割から、2つの世界大戦を経て21世紀へとつながる過程を考察して行く。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	学期末試験の結果（85%）に、授業での質問に対する発言などの活動（15%）を加味して評価します。		
フィードバック	今日の国際政治・世界経済が、どのような歴史的背景によって形成されたのかを毎日の授業でまとめるとともに、最終授業で概観を説明し、学生諸君の質疑に答える。授業を受け止めるのではなく、授業での疑問点をその時間内に理解して、自分の意見を持てるようにする。			
履修に際しての 注意事項	講義を受け止めるのではなく、疑問点を質問し、授業内容をその時間内に理解して、自分の意見を持てるようにする。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II				○			
III				○			
IV							

V				○			

テキスト1	授業中にプリントを配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	高等学校で使用していた山川出版社の「詳説世界史B」などの世界史教科書・図説、「高等学校学習指導要領　地歴」、そのほか必要に応じて、授業で紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	世界史の時代区分
事前	世界史の時代区分確認しておくこと。(2時間)
事後	世界史の歴史区分が、どのような歴史観によって構成されているのかを確認するとともに、時代の区切りとなった出来事の歴史的意義を考察すること。(2時間)

2	古代の世界1(オリエントと地中海世界)
事前	「オリエント」と「地中海世界」の歴史的領域と現在の国々を把握しておく。(1時間30分)
事後	それぞれの文化圏で文明が起こった理由を確認するとともに、人類が文明世界に入ったことによりその生活や社会がどのように変化したのかを考える。(2時間30分)

3	古代の世界2(アジア・アメリカの古典文明)
事前	「アジア」と「アメリカ」の古代文明の領域と現在の国々・地域を把握しておく。(2時間)
事後	古代文明の地域的特色を理解し、現在の地域的相違について考える。(2時間)

4	中世の世界1(西ヨーロッパの封建社会)
事前	封建社会とはどのような社会なのかを調べておく。(1時間30分)
事後	封建社会が現代の社会とどのように違うかを確認するとともに、「国家」とはなにかについて考えてみる。(2時間30分)

5	中世の世界2(イスラム世界の発展)
事前	イスラム教について調べておく。(1時間30分)
事後	イスラム世界の価値観と欧米的価値観の違いについて考え、世界のイスラム世界の国や地域を確認する。(2時間30分)

6	近代ヨーロッパの成立と発展
事前	ヨーロッパ諸国の名称と地理的位置を調べておく。(1時間30分)
事後	近代国家が中世世界とどのように違うのかを確認し、近代国家の中心となる国がどのように国家を統一したのかを整理する。(2時間30分)

7	ヨーロッパ主権国家体制の展開
事前	「主権」とは何かを考えておく。(1時間30分)
事後	「主権国家」の構成要件を確認し、市民革命の意義と問題点を考察する。(2時間30分)

8	近代国民国家の成長と発展
事前	前回の授業から、「市民層」が成長してきた背景と「市民層」と呼ばれる人々の社会的地位をまとめておく。(2時間)
事後	国家の政策に議会を通して関与するようになった「市民層」が、国内政策と国家の世界戦略にどのような影響を与えてゆくのかをまとめる。(2時間)

9	アジア帝国の発展と動揺
事前	中国王朝(明・清)とインド(ムガル)帝国の支配領域を確認しておく。(1時間30分)
事後	アジア帝国と西ヨーロッパ諸国の国家体制の違いと国内の対立をまとめておく。(2時間30分)

10	帝国主義時代の世界
事前	「帝国主義」と「帝国主義時代」の言葉の意味を調べておく。(1時間30分)
事後	帝国主義列強の世界分割の背景となった国内の経済状況とこの時代のアジア・アフリカの侵略を受けてしまう国内状況をまとめておく。(2時間30分)

11	2つの世界大戦
事前	2つの世界大戦のはじまった年と終った年を調べるとともに対立したそれぞれの国々をまとめておく。(2時間)
事後	戦争の原因となった国々の国内経済の発展状況をまとめ、総力戦となった理由を考察する。また、第1次世界大戦の20年後に第2次世界大戦がおこってしまった理由を考える。(2時間)

12	戦後世界と東西対立
事前	第2次世界大戦後に強国となった国々と世界政治への影響力を低下させた国々を調べておく。(1時間30分)
事後	資本主義と社会主義の相違点をまとめ、社会主義国家となった国々のその時代の特色を確認する。(2時間30分)

13	多極化と国際経済の危機
事前	国連加盟国の増加状況を年代別に調べておく。(1時間30分)
事後	アジア・アフリカ諸国が独立を果たした背景をまとめる。また、東西対立が日本に与えた影響を考える。(2時間30分)

14	社会主義国家の崩壊と地域紛争
事前	資本主義と社会主義の問題点を考えておく。また、経済的統合の動きをまとめる。(2時間)
事後	資本主義と社会主義の問題点まとめ、戦後の国際政治や世界経済が従来とは異なってきたことをまとめる。(2時間)

15	21世紀の課題
事前	いままでの授業で扱った内容を確認し、世界史の流れをまとめる。(2時間)
事後	これからの国際政治と国際社会の中で日本が置かれた状況を理解して、今後の日本の国内および対外政策らついて考察する。(2時間)

2020/07/16(木)21:48

科 目 名	国際関係論 [社]			授業コード	6470011
副 題	日本と東アジアの関係を理解する。				
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	崔 汀我				

科目に関する キーワード	冷戦後の国際関係、安全保障、日本と東アジア

到達目標	・国際関係の基礎知識を習得し、今日の国際社会の状況について理解できる。 ・国際関係の観点からグローバル課題を認識し、自分の意見を述べることができる。 ・日本と東アジアの関係を理解し、説明できる。			
授業の概要	国際関係においては、民族、領土、資源などに起因する紛争が絶えず発生している。その一方で経済のグローバル化が進み、各国間の関係はより緊密になった。また、テロへの対策、地球環境の保護などをめぐって、グローバルな協力体制も進んでいる。本講義では、国際関係の基礎知識の習得とグローバル時代における国際課題や諸問題について学ぶ。そのうえでグローバル化が進む国際社会と日本や私たちはどのように関連しているのかについて理解を深めていく。とくに日本と東アジア関係について、日中関係と日韓関係に焦点を当てて詳しく学ぶことにする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業についての振り返り、疑問点を確認するため、リアクションペーパーを実施する。また、授業の理解度を確認するため、第9回と第14回の授業において授業内レポートを行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内レポート（40%）、リアクションペーパー（40%）、授業参加活動（20%）として評価する。		
フィードバック	リアクションペーパー、授業内レポートのコメントは、次回の授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	リアクションペーパー、授業内レポートは、授業に参加していないとその分のポイントが加算されない。その意味でも、授業への積極的参加と毎回の予習・復習が必要である。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							○

V		○					

テキスト1	「特になし」 プリントを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編（2018）『国際関係論（第3版）』弘文堂。 村田晃嗣・君塚直隆他（2015）『国際政治学をつかむ』有斐閣。 山田高敬・大矢根聡編（2011）『グローバル社会の国際関係論（新版）』有斐閣コンパクトなど。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス（国際関係論の授業内容、講義の進め方、成績評価の仕方など）
事前	参考文献,書物などで国際関係論はどのような学問なのかについて調べること。（2時間）
事後	授業内で触れた国際関係論を学ぶ意義、研究領域とその特徴などについて参考文献、資料を読んで理解を深めること。（2時間）

2	19世紀の世界
事前	17世紀～19世紀のヨーロッパの歴史について学習してくること。（2時間）
事後	授業で説明した「主権国家」概念の形成過程、「産業革命」、「植民地拡大」などのキーワードを用いて、配布プリントとノートを再読し、ヨーロッパの歴史について理解を深めること。（2時間）

3	20世紀における国際関係の理解（1） 第2次世界大戦と米ソ冷戦
事前	世界大戦（第1次と第2次）の背景（国際情勢、世界大恐慌、全体主義など）について調べること。（2時間）
事後	授業内で説明したバルカン半島、ヴェルサイユ体制、ポツダム宣言、アメリカとソ連（イデオロギーの対立）、冷戦のキーワードで配布プリントとノートを再読し、世界大戦と冷戦に関する知識の定着を図ること。（2時間）

4	20世紀国際関係の理解（2） 安全保障
事前	外務省Websiteで、国際連合（国連）の成り立ちと役割、日本の安全保障政策について調べてくること。（2時間）
事後	国連の集団安全保障体制、活動分野、変容する国連の役割と国連改革など配布プリントで再読し、理解を深めること。（2時間）

5	20世紀国際関係の理解（3） ポスト冷戦
事前	ポスト冷戦時代の国際関係について調べてくること。（2時間）
事後	授業内で説明したポスト冷戦時代の国際関係の特徴について、湾岸戦争、民族紛争、国際社会の変化について、配布プリントで再確認し、理解を深めること。（2時間）

6	国際経済関係（1） グローバリゼーションの進展
事前	冷戦終結による資本主義市場経済の世界化について調べること。（2時間）
事後	授業内で説明した1990年代以降加速化する経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）の国境を越えた動きがどれほど進展しているのか、国際社会への影響などについて配布プリントで再確信し、理解を深めること。（2時間）

7	国際経済関係（2） リージョナリズム（地域主義）
事前	EU（欧州連合）、NAFTA（北米自由貿易協定）、AFTA（ASEAN自由貿易地域）、アジア太平洋経済協力、ASEAN地域フォーラムなどについて調べること。（2時間）
事後	授業内で説明したリージョナリズム（地域主義）台頭の背景と国際分業ネットワークによる地域内貿易など配布プリントで再確認すると共に理解を深めること。（2時間）

8	ナショナリズムと民族問題
事前	地域紛争について調べてくること。（2時間）
事後	授業で説明を行った地域紛争が多発する地域の歴史を理解し、ナショナリズムと民族問題について配布プリント、参考文献などで再読し、理解を深めること。（2時間）

9	移民問題と人口移動
事前	日本における移民政策と外国労働者について調べてくること。（2時間）
事後	移民問題と日本の移民政策について配布プリントで再確認し、理解を深めること。（2時間）

10	地球環境問題（1） 地球温暖化と国際的取り組み
事前	地球温暖化問題と国際的取り組みについて調べること。（2時間）
事後	授業で説明を行ったオゾン層の破壊、地球温暖化などを解決する「持続可能な開発」の考え方について理解を深めること。（2時間）

11	地球環境問題（2） ゴミ問題とリサイクル
事前	ゴミ問題とリサイクル制度について調べてくること。（2時間）
事後	ゴミ問題とリサイクル対策などの環境問題について配布プリントで再確認し、理解を深めること。（2時間）

12	国家領域と国際関係
事前	日本の領域（海上保安庁海洋情報部HPなどで）と国際関係について調べて自分なりに理解をしてくること。（2時間）
事後	授業で説明を行った歴史的観点から国家領域と国際関係について理解を深めること。（2時間）

13	日本と東アジアの関係（1） 日中関係
事前	第2次世界大戦後の日中関係について調べてくること。（2時間）
事後	授業で説明を行った日中関係の歴史と現状について、配布プリントを再読し理解を深めること。（2時間）

14	日本と東アジアの関係（2） 日韓関係
事前	朝鮮半島の歴史（植民地支配からの解放、南北分断、朝鮮戦争とその後）について調べてくること。（2時間）
事後	朝鮮半島と東アジアの平和、安全保障と日韓関係などについて配布プリントで再確信し、理解を深めること。（2時間）

15	総括
事前	事前に配布したワークシートに国際関係のキーワードを入れながら国際社会について理解すること。（2時間）
事後	ワークシートを基に十分な復習を行い、知識の定着を図ること。（2時間）

2020/07/16(木)20:52

科 目 名	児童・家庭福祉論/児童・家庭福祉論I [介心]			授業コード	6480012
副 題	子どもの最善の利益とは？				
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	辻本 すみ子				

科目に関する キーワード	子どもの最善の利益　児童の権利に関する条約　児童福祉法　社会的養護　発達保障
到達目標	[授業のねらい]子どもの成長発達には家庭及び地域・社会環境が大きく影響する。福祉従事者として必要な法律、実施体制についての知識を身につけ、子どもの最善の利益とは何かを考える。また支援ニーズを明らかにし支援の必要性・重要性について理解する。[到達目標]　福祉従事者としてまた生活者として、子どもや家庭が抱えている問題・ニーズに気付き、把握する感性を養う。さらに子ども一人一人の存在そのものが大切であるという明確な信念に支えられた児童・家庭福祉の基本的態度を身につけることができる。【「履修ファイル」の対応項目：B-2(3)、B-3(6)】
授業の概要	現代社会は、少子化や児童虐待、いじめ、不登校、引きこもり、非行、子どもの貧困など多くの課題を抱え、その解決を求められている。この科目では、子どもの発達を保障する法律や制度及び具体的なサービス体系の現状を理解する。また、事例を通して福祉従事者としての視点を養う。

授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・授業の振り返りや疑問点等を記述したリアクションペーパー の提出を授業終了時に求める。 ・「子どもの最善の利益とは?」と言う課題についてグループディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	成績評価は、試験(70%)、コメントシート及び課題(20%)、授業への参加度(10%）の割合で評価する。得点の分布により配点を調整する可能性もある。		
フィードバック	授業内小テストについては、事後の授業またはでんでんばんを通じて解答並びに解説をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	児童に関わるニュースや社会情勢に関心を持って授業に出席する。また各自の子ども時代を振り返る課題を課すが、特別な配慮が必要な場合は事前に申し出ること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						

III							
IV							
V		○					

テキスト1	大溝茂・太田由加里/編著『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』電気書院 最新版	978-4-485-30402-0 C3036
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『児童福祉六法令和2年版』中央法規 『はじめまして、子どもの権利条約』東海教育研究所	
参考HP	https://www.unicef.or.jp	

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもを取り巻く現代社会の状況―児童福祉から児童・家庭福祉への視座の転換―
事前	シラバスの内容を読み、子どもや家庭が抱えている問題・ニーズについて自己学習する(学修時間1.5時間)
事後	世界の子どもがどのような現実の中で生きているのか、授業をから学んだことを発展させ自己学習する(学修時間2.5時間)

2	児童・家庭福祉の基本理念
事前	児童福祉法の概要について教科書の該当箇所を事前学習する(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る(学修時間2.5時間)

3	児童福祉の歴史的展開
事前	我が国の児童福祉の歴史的展開について教科書の該当箇所を読んでおく(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る(学修時間2.5時間)

4	世界の子どもたちの現状と児童の権利
事前	参考HPの「児童の権利に関する条約」を読みに自己学習しておく(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る。「児童の権利に関する条約」について指示された課題に取り組む①(学修時間2.5時間)

5	児童(子ども)の権利条約
事前	「児童の権利に関する条約」について指示された課題に取り組む②(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る(学修時間2.5時間)

6	児童・家庭福祉の課題(児童虐待その他)
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み事前学習を行う(学修時間1.5時間)
事後	児童虐待について過去の事例に関する資料を読み、防止策について考える。さらに教科書の該当部分を読み、復習を行う(学修時間2.5時間)

7	児童福祉と法・制度① 児童福祉六法
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み、事前学習を行う(学修時間1.5時間)
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る(学修時間2.5時間)

8	児童福祉と法・制度② 児童福祉関連その他の法律
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み、事前学習を行う（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

9	児童・家庭福祉の実施体制① 行政機関・関連機関
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み、事前学習を行う（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

10	児童・家庭福祉の実施体制② 児童福祉施設
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み、事前学習を行う（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

11	児童・家庭福祉の実施体制③ 在宅支援
事前	授業に関わる教科書の該当箇所を読み、事前学習を行う（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る。また「自分自身の子ども時代を振り返り、十大ニュースを分かり易くエピソードにまとめる」と言う課題に取り組む①（学修時間2.5時間）

12	母子保健
事前	「自分自身の子ども時代を振り返り、十大ニュースを分かり易くエピソードにまとめる」と言う課題に取り組む②（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行いキーワードを整理して、知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

13	障害のある子どもと家庭への支援
事前	障がいについて関連する科目を復習しておく（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

14	地域における子育て支援と青少年の健全育成
事前	「子どもの最善の利益とは何か」について自分の意見をまとめておく（学修時間1.5時間）
事後	配布資料を基に復習を行い、キーワードを整理して知識の定着を図る（学修時間2.5時間）

15	まとめ
事前	初回から14回目までの配布資料を整理して、キーワードを説明出来るようにしておく（学修時間1.5時間）
事後	試験のための準備をする（2.5時間）

2020/07/16(木)20:49

科 目 名	人間と癒やし [社介]			授業コード	6490012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関する キーワード	癒やし，カタルシス，芸術療法，マインドフルネス，セルフ・コンパッション

到達目標	・人々の心に癒やしの効果をもたらす各種セラピーの理論と効果について理解が出来ている。 ・将来活躍するフィールドにおいて関わる人々のストレスに効果を発揮するセラピーの知識を獲得する。			
授業の概要	今日の情報社会が人々にもたらす多量の情報は，私たちの生活を豊かにすることに貢献しているが，一方で過度のストレスも生んでいる。結果として心身の不調をきたす人々も少なくない。その様なストレスからの解放に効果的なセラピーを紹介し，理論だけではなく，体験のためのワークを行う。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	2回行う小テスト（40%）授業への参加態度（30%） リアクションペーパー（30%）		
フィードバック	リアクションペーパーの内容に関し，毎回授業内で講評しフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	セラピーの理論とワークを行う都合上、遅刻をしないこと。 毎回授業の評価につながるリアクションペーパーを求めるため、授業に参加することが重要です。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV				○			

V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーリング
事前	シラバスに目を通して授業内容を理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理解を深めること（2時間）。

2	癒やしとは
事前	定義を理解しておくこと。事前にでんでんばんに授業資料を掲載するので確認し理解をしておくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理解を深めること（2時間）。

3	芸術療法Ⅰ：理論
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習で理論を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

4	芸術療法Ⅱ：コラージュ療法
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

5	芸術療法Ⅲ：音楽療法
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

6	芸術療法Ⅳ：カラーセラピー
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

7	イメージ表現
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

8	カラーセラピー
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

9	塗り絵
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

10	まとめ　小テスト1
事前	9回までの授業内容を振り返り、十分に理解をしテストに臨む（2時間）。
事後	テスト内容について再度十分復習し理解を深める（2時間）。

11	マインドフルネスⅠ：理論
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理論について十分に理解すること（2時間）。

12	マインドフルネスⅡ：実践
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

13	アニマルセラピー
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。

事後	授業内容を十分理解し，ワークを通して得た知識と感覚を深めるために，自宅でも試してみる（2時間）。

14	セルフ・コンパッション
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を確認して理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理論を十分理解すること（2時間）。

15	まとめ　小テスト2
事前	11回からＩ4回までの内容について再度復習し十分理解をする（2時間）。
事後	テスト内容について再度十分復習し理解を深める（2時間）。

2020/07/16(木)20:56

科 目 名	カウンセリング [心]			授業コード	6490021
副 題					
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関する キーワード	自由連想法，無条件の肯定的配慮，レスポンデント行動，オペラント行動，カタルシス

到達目標	・心理的対人援助としてのカウンセリング及び心理療法の主要理論を理解する。 ・問題解決のための複数のアプローチの実際の適用例に触れ対人援助の方法を理解する。			
授業の概要	カウンセリングとは問題解決のための行動変容を援助する人間関係である。その実際的技法としての代表的な技法の背景となる心理的理論を学び，主なカウンセリング技法とその技法の臨床適用例について触れることで対人援助の方法を学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業への参加態度（20%） 授業内容の理解度を求めるリアクションペーパー（30%） 確認テスト2回（50%）		
フィードバック	毎回授業内でリアクションペーパーの内容を講評し，フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	毎回リアクションペーパーを求める。成績評価につながる為積極的に授業参加をすることが必要です。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III		○					
IV							○

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	カウンセリングの理論　國分康孝著　誠信書房，参考文献はその都度適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	事前にシラバスを読み理解しておくこと（2時間）。
事後	授業内容について復習し理解を深める（2時間）。

2	精神分析Ⅰ:精神分析理論の糖質と人間観
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

3	精神分析Ⅱ:性格論
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

4	精神分析Ⅲ:面接理論と長所・短所
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

5	来談者中心療法Ⅰ:人間観
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

6	来談者中心療法Ⅱ:性格論
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

7	来談者中心療法Ⅲ:自己理論と諸問題
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

8	行動療法Ⅰ:行動主義の概説
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

9	行動療法Ⅱ:人間観と性格論
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

10	行動療法Ⅲ:行動カウンセリング
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

11	まとめ　確認テスト1
事前	精神分析理論，自己理論，行動主義の理論について復習をし，十分理解をしておくこと（2時間）。
事後	確認テスト内容について再度復習し，十分に理解をしておくこと（2時間）。

12	芸術療法Ⅰ:箱庭療法の理論と臨床例
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

13	芸術療法Ⅱ:コラージュ療法の理論と臨床例
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。

事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

14	解決志向短期療法（SFA），内観療法
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し，十分に理解をすること（2時間）。

15	まとめ　確認テスト2
事前	箱庭療法，コラージュ療法，解決志向短期療法，内観療法の理論について復習し，十分理解をしておくこと（2時間）。
事後	確認テスト内容について再度復習し，十分に理解をしておくこと（2時間）。

2020/07/16(木)20:57

科 目 名	発達心理学/発達心理学I [心]			授業コード	6490032
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関する キーワード	遺伝と環境，愛着と愛着の個人差，エリクソンの発達課題，ノーマライゼーション

到達目標	1.生涯発達心理学の観点から各発達段階における発達課題と個人差，発達支援の在り方について理解することができる。 2. 遺伝要因と環境要因が各発達段階に及ぼす影響について理解することができる。 3. 自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索し，人生における生きがいを考えることができる。			
授業の概要	ヒトは誕生から死まで継続な流れの中で生涯を通じて発達を遂げていくことを理解する。 ヒトをライフサイクルの観点から捉える視点を養い，各段階における生物的，心理的，認知的発達について理解する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験(50%)，講義終了時に提出するリアクションペーパー(50%)により総合的に評価する。		
フィードバック	授業内において毎回リアクションペーパーの講評をフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	毎回リアクションペーパーを求めるので，授業への積極的な参加が必要。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III	○						
IV						○	

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	「よくわかる発達心理学」第2版　無藤隆・岡本裕子・大坪治彦編　ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	発達心理学とは
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

2	周産期：生命の芽生えから誕生まで
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

3	乳幼児期Ⅰ：知覚，認知，言語の発達，発達のメカニズム
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

4	乳幼児期Ⅱ：人との関係の始まり
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

5	幼児期Ⅰ：感覚，知覚，表象
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

6	幼児期Ⅱ：自己の育ちと他者との関係
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

7	児童期Ⅰ：思考の深まり
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

8	児童期Ⅱ：社会性の発達
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

9	青年期Ⅰ：自分らしさへの気づき
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

10	青年期Ⅱ：他者を通して自分を見る
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

11	成人期Ⅰ：結婚，出産，子育て
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

12	成人期Ⅱ：仕事と家庭
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

13	老年期：老いと生涯発達，人生の振り返り
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。

事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

14	教育と発達Ⅰ：発達障がいの諸相について
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

15	教育と発達Ⅱ：発達障がいの支援，合理的配慮の考え方
事前	事前にでんでんばんに掲載されている授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理解を深めること（2時間）。

2020/07/16(木)20:50

科 目 名	教育心理学 [社]			授業コード	6490042
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関する キーワード	個人差，内発的動機づけ，外発的動機づけ，観察学習，インクルーシブ教育

到達目標	1．子どもの発達・学習・動機づけなどの実際の教育場面での子どもの理解を助ける知識を取得することができる。 2．学級経営に関する知識を習得することができる。 3．指導計画に関する知識を習得することができる。 4．子どもの問題行動の背景にある要因の理解とその支援について理解することができる。 5．ユニバーサルな教育環境と合理的配慮に基づく支援について理解することができる。			
授業の概要	教育心理学とは学ぶ存在としてのヒトを心理的な観点から理解し，支援することについて検討するための学問である。本講義では教育心理学の理論や知識について学ぶことを目的とする。具体的には，発達，学習，適応，評価という教育心理学の基礎領域について学ぶ。発達領域においては，幼児期から青年期までの心身の発達について，学習領域においては，ヒトの認知・記憶における学習過程，適応領域においては学級集団への適応と発達の問題，評価においては学力の評価とその問題について学ぶ。この授業を通じ，教育心理学の多岐にわたる内容とその知識を実生活の様々な場で役立てられるようになることを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験(50%)，講義終了時に提出するリアクションペーパー(50%)により総合的に評価する。		
フィードバック	リアクションペーパーについては毎回の授業内で講評し，フィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	毎回リアクションペーパーを求めるので，授業への積極的参加が必要。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV	○						

V			○				

テキスト1	特に指定はしない	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	教育心理学エッセンシャルズ〔第2版〕西村純一・井森澄江編　ナカニシヤ出版	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	教育心理学とは
事前	でんでんばんに掲載された「教育心理学について」の授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

2	学習への行動論的アプローチ
事前	でんでんばんに掲載された「学習への行動論的アプローチ」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

3	学習への認知論的アプローチ
事前	でんでんばんに掲載された「学習への認知論的アプローチ」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

4	個人差ーパーソナリティ，知能，学力，創造性ー
事前	でんでんばんに掲載された「個人差ーパーソナリティ，知能，学力，創造性—」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

5	動機づけー外発的動機づけ，内発的動機づけー
事前	でんでんばんに掲載された「動機づけ—外発的動機づけ，内発的動機づけ—」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

6	学習過程
事前	でんでんばんに掲載された「学習過程」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

7	発達と教育
事前	でんでんばんに掲載された「発達と教育」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

8	乳幼児期の発達
事前	でんでんばんに掲載された「乳幼児期の発達」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

9	児童期の発達
事前	でんでんばんに掲載された「児童期の発達」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

10	青年期の発達
事前	でんでんばんに掲載された「青年期の発達」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

11	教師と児童，生徒
事前	でんでんばんに掲載された「教師と児童，生徒」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

12	学校生活への不適応
事前	でんでんばんに掲載された「学校生活への不適応」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

13	発達障がいの諸相
事前	でんでんばんに掲載された「発達障がいの諸相」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。

事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

14	発達障がい児への支援ー合理的配慮，ユニバーサルデザインー
事前	でんでんばんに掲載された「発達障がい児への支援―合理的配慮，ユニバーサルデザイン―」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容の復習と授業内容を深めるため出題された課題について調べること（2時間）。

15	教育評価
事前	でんでんばんに掲載された「教育評価」についての授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理解を深めること（2時間）。

2020/07/16(木)21:02

科 目 名	心理学基礎実験 [心][ET]			授業コード	6490050
副 題					
開講期	通年	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関するキーワード	SD法、記憶の変容、パーソナルスペース、幾何学的錯視、認知的葛藤

到達目標	＜到達目標＞ 1.心理学における実験研究、調査研究に必要とされる基礎的な知識について理解し、説明できる。 2.実験(調査)者・実験(調査)協力者体験を通して、心理学実験・調査の技法を理解し、実践できる。 3.実験・調査レポートの書き方を理解し、実践できる。 4.実験・調査に必要な基礎的な統計的分析手法を理解し、実践できる。 5.実験研究・調査研究に関する知識・技能を幅広く活用することができる。			
授業の概要	基礎的な心理学実験を実験者・実験協力者として体験し、さまざまな心理現象について関心を高めるとともに、心理学の実験について体験的に学ぶことを目的とします。小グループによる実験実習を通して、実験の遂行、データ処理、実験レポートの書き方など、心理学における実験研究に必要とされる基礎的な知識と技法を習得することを目的とします。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	グループごとに実験を実施し、データを処理し、レポートを作成することを通して、実験の方法や実験結果のまとめ方を実践的に学びます。
評価方法及び評価基準	レポート	毎回の実験レポートを提出することを前提とし、実験への取り組み(30%)およびレポートの内容(70%)に基づいて評価します。		
フィードバック	提出レポートについては、フィードバックをしますので、指摘を受けた点については見直し、改善に努めてください。			
履修に際しての注意事項	パソコンを使用して作業するので、データを保存するための媒体(USBメモリーキーなど)を用意してください。 授業は小グループの実習形式で行いますので遅刻をしないでください。 この授業は複数の教員が担当しています。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II				○			
III						○	
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	西口利文・松浦均(編著)『心理学実験法・レポートの書き方』(ナカニシヤ出版)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	これまで学んだ心理学の実験にどのようなものがあったかを振り返っておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに、授業内容を振り返り、1年間の実験スケジュールのイメージを持つこと(学修時間0.5時間)。

2	心理学実験とは
事前	独立変数と従属変数について、それぞれ調べて理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

3	心理統計の基礎(平均値・標準偏差・尺度水準)
事前	エクセルの基本操作(演算子)について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

4	SD法(1)実験の実施
事前	ワードの基本操作について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

5	SD法(2)データ処理・レポートの作成(方法・結果)
事前	エクセルでの棒グラフの描き方と、罫線のひき方について、確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

6	SD法(3)レポートの作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと(0.5時間)。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

7	情報の伝達と記憶の変容(1)実験の実施
事前	実験の一般的な留意点について、確認をしておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと(学修時間0.5時間)。

8	情報の伝達と記憶の変容(2)データ処理
事前	授業で扱ったエクセルの操作について確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに、授業で扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること(学修時間0.5時間)。

9	情報の伝達と記憶の変容(3)レポートの作成(方法・結果)
事前	エクセルでの折れ線グラフの作成の方法を確認しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

10	情報の伝達と記憶の変容(4)レポートの作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと(0.5時間)。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと(学修時間0.5時間)。

11	心理統計の基礎(t検定)
事前	t検定について、調べて理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

12	パーソナルスペースの実験(1)実験の実施
事前	自分のパーソナルスペースの特徴について予測し、まとめておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと(学修時間0.5時間)。

13	パーソナルスペースの実験(2)データ処理
事前	「対応のないt検定」について理解しておくこと(学修時間0.5時間)。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

14	パーソナルスペースの実験(3)レポート作成(方法，結果)
事前	レポート作成の際のルールについて確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

15	パーソナルスペースの実験(4)レポート作成(問題と目的・考察)
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

16	心理学の研究法、心理統計の基礎
事前	心理学における研究法の種類について調べておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

17	観察法(1)実験の実施
事前	観察法の留意点について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、二つの記録の方法の特徴について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

18	観察法(2)データ処理
事前	授業で扱った、ワードやエクセルの操作について確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	クラスのデータを確認し、記録方法の特徴について改めて考えておくこと（学修時間0.5時間）。

19	観察法(3)レポートの作成（方法・結果）
事前	授業で扱った、図表作成のルールについて確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

20	観察法(4)レポートの作成（問題と目的・考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

21	幾何学的錯視(1)実験の実施
事前	これまでに実施した実験を振り返り、実験実施の際の留意点を確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

22	幾何学的錯視(2)データ処理
事前	「対応のあるt検定」について理解しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

23	幾何学的錯視(3)レポートの作成（方法・結果）
事前	配布資料をもとに、今回の実験の条件について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

24	幾何学的錯視(4)レポートの作成（問題と目的・考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

25	認知的葛藤(1)実験の実施
事前	これまで配布した資料を整理し、疑問点等がないか確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに実験を振り返り、今回実施した実験の独立変数と従属変数について考えておくこと（学修時間0.5時間）。

26	認知的葛藤(2)データ処理
事前	授業で扱った、ワードとエクセルの操作について確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

27	認知的葛藤(3)レポートの作成（方法）
事前	配布資料をもとに、今回の実験の4条件について確認をしておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること(学修時間0.5時間)。

28	認知的葛藤(4)レポートの作成（結果）
事前	返却されたレポートを見直し、レポート作成の際の留意点を確認しておくこと（学修時間0.5時間）。
事後	配布資料をもとに復習を行ない、知識の定着を図ること。図表は完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

29	認知的葛藤（5）レポートの作成（考察）
事前	先行研究の資料に目を通しておくこと（0.5時間）。
事後	授業内容を踏まえて、レポートを完成させておくこと（学修時間0.5時間）。

30	まとめ
事前	これまでに作成したレポートを見直して、自身の学びの成果を振り返ること（学修時間0.5時間）。
事後	一年間の学びを振り返り、学びを今後どのように活用できるかについて考えること（学修時間0.5時間）。

2020/07/16(木)20:41

科 目 名	臨床心理学実習 [子]			授業コード	6490062
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	土田 弥生				

科目に関するキーワード	自己理解，受容と傾聴，ソーシャルスキル，職業倫理

到達目標	1．心理臨床の基本姿勢について理解を深めることができる。 2．非言語的・言語的コミュニケーションの感性を養うことができる。 3．体験を通して，自己理解を深めることができる。 4．心理臨床の基本倫理，活動許容範囲について学ぶことができる。			
授業の概要	本実習において，心理臨床におけるかかわりの基本を学ぶ。心理臨床におけるかかわりにおいて必須である非言語的・言語的コミュニケーションの感性をロールプレイなどの体験を通して学び，他者とかかわる中で，自己についての体験的な理解を深め，援助者としての職業倫理および活動範囲について学ぶことを目的とする。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	面接技法については2～3名のグループに分かれロールプレイ形式にて授業を行う
評価方法及び評価基準	レポート	授業中の課題や諸活動への取り組み(50%),講義終了時に提出するリアクションペーパー(25%),レポート課題(25%)により総合的に評価します。		
フィードバック	ロールプレイについては，良かった点，改善点について授業内でフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	実習にはグループを組んで行うことが多いので，遅刻をしないこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○			○		
IV			○				

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	日本教育カウンセラー協会編 『友達をヘルプするカウンセリング ピアヘルパーハンドブック』図書文化社2013年他，適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーリング：エゴグラムー自己理解を深める
事前	事前にシラバスを読み，授業内容を理解しておく(2時間)。
事後	授業内容を復習し、理解する(2時間)。

2	交流分析ーエゴグラムの背景にある理論ー
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容を復習し、エゴグラムと合わせて理解を深める(2時間)。

3	自律訓練法
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	手順を覚え練習し活用できるようにする(2時間)。

4	表現法Ⅰ：バウムテスト
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内で体験したバウムテストから自己理解を深める(2時間)。

5	表現法Ⅱ：雨の中の私テスト
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容を復習し，体験を振り返りながら理解を深める(2時間)。

6	心理臨床における現状と職業倫理
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容について理解を深める(2時間)。

7	心理面接ロールプレイⅠ：傾聴，受容
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容と共に面接技法である傾聴と受容について実際に使用してみて，理解を深める(2時間)。

8	心理面接ロールプレイⅡ：繰り返し，明確化
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容と共に面接技法である繰り返しと明確化について実際に試してみて理解を深める(2時間)。

9	構成的グループエンカウンターⅠ：理論
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料について読んでおくこと(2時間)。
事後	構成的グループエンカウンターの理論と目的について理解を深める(2時間)。

10	構成的グループエンカウンターⅡ： 自己理解を中心としたエクササイズ
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料について読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内容について復習し、理解を深める(2時間)。

11	構成的グループエンカウンターⅢ： 他者理解を中心としたエクササイズ
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料について読んでおくこと(2時間)。
事後	授業での体験を振り返り理解を深める(2時間)。

12	構成的グループエンカウンターⅣ： 人間関係を円滑にするスキルを中心としたエクササイズ
事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料を読んでおくこと(2時間)。
事後	授業内で行った内容について復習し理解を深める(2時間)。

13	アセスメントⅠ：観察法

事前	事前にでんでんばんに掲載された授業資料について読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を再度復習し理解を深める（2時間）。

14	アセスメントⅡ：質問紙法
事前	事前に掲載されたでんでんばんの授業資料を読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を復習し理解を深める（2時間）。

15	まとめ
事前	これまでの授業内容について振り返り、更に必要とされる内容についてでんでんばんに掲載するので、読んでおくこと（2時間）。
事後	授業内容を振り返り理解を深める（2時間）。

2020/07/16(木)20:59

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	6510010
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	武 千晴				

科目に関する キーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)20:53

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [介]			授業コード	6510020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	武 千晴				

科目に関するキーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)21:14

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [心]			授業コード	6520010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	永田 隆二				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:25

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [心]			授業コード	6520021
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	永田 隆二				

科目に関する キーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)21:26

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	6520032
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	永田 隆二				

科目に関する キーワード	相談援助実習、実習施設、実習記録
到達目標	・実習を実施する意義を説明できるようになる。 ・実習施設の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習施設を選択できるようになる。 ・社会人としての基礎的マナーを意識でき、実践できるようになる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 なお、本科目はソーシャルワーク実習を履修するための要件科目として位置づけられている。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	実習先の選択に際して、各学生は実習施設についての調べ学習を授業内外で行い、担当教員による面接・指導を受けたうえで、実習先希望届を提出する。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的に授業に参加すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II				○			
III							
IV			○				

V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	実習に関する基礎知識（制度、構造、プロセス、方法）
事前	実習の手引のI章とII章を読んでおく。(30分)
事後	授業で学習した実習に関する基礎知識について復習する。(30分)

3	実習の動機付けと実習施設の希望・選択（自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	実習の手引のIII章を読んでおく。(30分)
事後	自分自身の適性や将来の進路を考え、自分にとっての実習の意義を言語化する。(30分)

4	実習施設の理解(1) 児童、高齢、障害分野等
事前	児童、高齢、障害分野等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

5	実習施設の理解(2) 福祉事務所、社会福祉協議会等
事前	福祉事務所、社会福祉協議会等に関する授業内容をふりかえり、実習施設の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、実習施設についてより詳細に調べる。(30分以上)

6	実習先希望届の作成(1) 各自の調べ学習
事前	キャリア支援センターのファイルやインターネット等で自主的に実習施設について調べる。(30分以上)
事後	授業内容を参考に、引き続き実習施設について調べる。(30分以上)

7	実習先希望届の作成(2) 個別面接
事前	実習先希望届の下書きを作成する。(30分)
事後	担当教員による個別面接・指導を参考に、改めて情報収集や実習先希望届の作成を行う。(30分以上)

8	実習記録の作成方法(1) 記録の意義、書き方
事前	実習の手引のV章の実習記録に関する部分を読んでおく。(30分)
事後	課題として指定された模擬記録を作成する。(30分)

9	実習記録の作成方法(2) 模擬記録の添削指導
事前	課題として指定された模擬記録を見直し、推敲する。(30分)
事後	担当教員から添削を受けた模擬記録について書き直す。(30分)

10	実習への目的意識及び学習達成度に関する確認テスト
事前	事前の案内に従い、確認テストに向けた予習を行う。(30分以上)
事後	確認テストの出題内容に関して復習を行う。(30分)

11	実習報告会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、実習報告会で視聴したい分野やテーマについて検討する。(30分)
事後	視聴した報告内容をもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

12	3年生との交流会への参加（合同授業）
事前	事前の案内に従い、交流会で3年生に聴きたいことをあげておく。(30分)
事後	交流会で聴き取ったことをもとに、実習先の希望について再検討し、実習先希望届を書き上げる。(30分)

13	社会人としての基礎的マナー(1) 一般的なマナー
事前	実習の手引のVI章を読んでおく。(30分)

事後	挨拶や敬語等の言葉遣いやマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

14	社会人としての基礎的マナー(2) 組織人としてのマナー
事前	自分自身の経験や性格から、十分に身に付けられていないマナーについて考える。(30分)
事後	報告・連絡・相談といった組織人としてのマナーについて復習する。(30分の復習に加え、常時意識する)

15	まとめ(実習コンピテンス自己評価)
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	実習コンピテンス自己評価をもとに、これから重点的に取り組むべき課題を導き出す。(30分)

2020/07/16(木)22:01

科 目 名	障害者福祉論I/障害者福祉論 [社]			授業コード	6530011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	中野 陽子				

科目に関する キーワード	ソーシャル・インクルージョン、アドボカシー、エンパワメント、障害者権利条約、
到達目標	人間理解を基礎とし、障害について必要な知識および思考する力を身につける。 具体的には下記の3点である。 ・障害者を取り巻く社会情勢、生活実態について理解し説明できる。 ・障害者福祉の理念、歴史、制度、サービスについて理解し説明できる。 ・障害者総合支援法について理解し説明できる。
授業の概要	わが国の障害者施策は大きな転換点を迎えている。本講義では、最新の障害者施策の動向を念頭におきながら、今後、障害者支援に携わるソーシャルワーカーが身に付けておくべき理念や思想、歴史、法制度等必要な知識を講義する。
授業方法	講義 / アクティブラーニング
評価方法 及び評価基準	レポート レポート課題（30%）、中間試験（70%）として評価する。 中間試験はテーマごとに行うため、15回のうち10回の授業において実施する。
フィードバック	確認試験を実施し、解答解説を行う。 リアクションペーパーを紹介しながら良い点等をフィードバックする。
履修に際しての 注意事項	本科目は社会福祉士国家試験を見据えた授業を展開しているため私語厳禁、携帯電話等の使用禁止、授業に関係のない言動については厳しく対処する。 試験は15回のうち10回の授業で実施する。原則、前週に学んだことの確認試験となるが、その日のうちに実施する場合もある。よって、毎回の授業において予習復習をして臨むこと。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○	○				
III							
IV					○		

V							

テキスト1	『新・基礎からの社会福祉4　障害者福祉　第3版』ミネルヴァ書房 竹端寛、山下幸子、尾崎剛志、圓山里子編著	9784623089345
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業内で随時紹介する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、障害者とは
事前	シラバスを熟読する。教科書「目次及びはじめに」を読み全体像を把握しておくこと。（1時間）
事後	「障害者とは」との問いに対し、現時点での自身の考えをまとめておくこと。（1時間）

2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態① 障害者の生活実態
事前	教科書「障害者の定義」と「障害者の生活実態」を熟読し理解してくること。（1時間）
事後	障害者の定義、生活実態について理解を深め知識を定着させること。（2時間）

3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態② 障害とは、障害構造論
事前	教科書「障害の概念」と「障害構造論」を熟読し理解してくること。（1時間）
事後	教科書該当箇所を再度熟読し、授業で行った事例についてもう一度自身で実施をすること。（2時間）

4	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 障害者福祉の歴史的展開① 社会福祉基礎構造改革まで
事前	教科書「障害者福祉の歴史」の箇所（最初から社会福祉基礎構造改革まで）を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	障害者福祉の歴史について理解を深め知識を定着させること。（2時間）

5	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態④ 障害者福祉の歴史的展開② 支援費制度から
事前	教科書「障害者福祉の歴史」の箇所（支援費制度から最後まで）を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	障害者福祉の歴史について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。（2時間）

6	障害者福祉をささえる思想
事前	教科書「障害者福祉をささえる思想」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	DVDの内容についてまとめ復習すること。また、さまざまな思想について自身の考え方をまとめておくこと。（3時間）

7	障害者にかかわる法体系① 障害者基本法
事前	教科書「障害者基本法」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	障害者基本法ついて理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。（2時間）

8	障害者にかかわる法体系② 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法
事前	教科書「身体障害者基本法」「知的障害者福祉法」「精神障害者福祉法」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。（2時間）

9	障害者にかかわる法体系③ 発達障害者支援法
事前	教科書「発達障害者支援法」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	DVDの内容も含め、発達障害者支援法について理解を深め知識を定着させること。（2時間）

10	障害者にかかわる法体系④ 障害者権利条約、バリアフリー新法、障害者雇用促進法
事前	教科書「障害者権利条約」「バリアフリー新法」「障害者雇用促進法」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	障害者権利条約、バリアフリー新法、障害者雇用促進法について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。（2時間）

11	障害者にかかわる法体系⑤ 年金手当て、障害者差別解消法、障害者虐待防止法
事前	教科書「年金手当」「障害者差別解消法」「障害者虐待防止法」を熟読し理解してくること。（2時間）
事後	年金手当、障害者差別解消法、障害者虐待防止法について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。（2時間）

12	障害者自立支援制度① 障害者総合支援法、サービス利用の流れ
事前	教科書「障害者総合支援法」サービス利用の流れを中心に熟読し理解してくること。（2時間）

事後	障害者総合支援法の成り立ち、サービス利用の流れ、利用者負担について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。(2時間)

13	障害者自立支援制度② サービス等利用計画、サービスの概要
事前	教科書「障害者総合支援法」をサービス利用概要を中心に熟読し理解してくること。(2時間)
事後	サービス等利用計画、サービスの概要について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。(2時間)

14	障害者自立支援制度③ 相談支援、協議会、自立支援医療、さまざまな専門職
事前	教科書「障害者総合支援法」「さまざまな専門職」を熟読し理解してくること。(2時間)
事後	相談支援、協議会、自立支援医療、さまざまな専門職について理解を深め知識を定着させること。配布した参考資料も熟読すること。(2時間)

15	現代社会における障害者の福祉について
事前	今まで学んだことを総復習し授業に臨むこと。(2時間)
事後	教科書、プリント、配布資料をもとに障害者福祉について自身の考えをまとめること。(5時間)

2020/07/16(木)21:56

科 目 名	ソーシャルワーク演習III [介]			授業コード	6530021
副 題					
開講期	前期	配当年次	4	単 位 数	1
担 当 者	中野 陽子				

科目に関するキーワード	実践モデル、スーパービジョン、倫理的ジレンマ、多職種連携、総合的・包括的な援助

到達目標	・実習等による個別的な体験で得た知識・技術を一般化し、個人や地域社会の多様な問題に対して、解決のために適したアプローチを判断できるようになる。 ・困難事例やジレンマ事例に関する検討を通して、事例検討会やスーパービジョン等の援助者としての資質向上の方法を理解し実践できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対して、地域の中で関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助を実施するための具体的な方法を理解し実践できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習III においては、ソーシャルワーク実習での経験を踏まえ、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V				○		○	○

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業の到達目標と授業概要
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	実習での学びをふりかえる(1) 個別的な学びの共有
事前	実習ノートをもとに体験や学びをふりかえっておく。（30分）
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。（30分）

3	実習での学びをふりかえる(2) 知識・技術の一般化
事前	実習ノートをもとに、実習先の分野・種別等に限らない知識・技術について考える。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、自身の課題と今後の学びについて考察する。（30分）

4	実践モデルに基づいた事例検討(1) 実践モデルの適用ケース
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの実践モデル・アプローチについて調べる。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデル等の理論について復習する。（30分）

5	実践モデルに基づいた事例検討(2) 実践モデルの効用
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用が期待される事例について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの効用について復習する。（30分）

6	実践モデルに基づいた事例検討(3) 実践モデルの課題・限界
事前	実習等の経験を参考に、実践モデルの適用による課題・限界について考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った実践モデルの課題・限界について復習する。（30分）

7	支援困難事例の検討(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、どのような支援困難事例があったかを考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その問題状況について復習する。（30分）

8	支援困難事例の検討(2) 支援方法の検討
事前	実習等の経験から、支援困難事例にどのように対応していたか考察する。（30分）
事後	授業で取り扱った支援困難事例について、その支援方法について復習する。（30分）

9	スーパービジョン演習(1) 倫理的ジレンマ
事前	参考文献等から、スーパービジョンの機能や方法について調べる。（30分）
事後	実習等の経験から、倫理的ジレンマに関する実際のスーパービジョンの取り組みについて考察する。（30分）

10	スーパービジョン演習(2) 自己覚知
事前	実習等の経験から、自己覚知に関する気づきや学びについて考察する。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、スーパービジョンや自己覚知の意義や方法について復習する。（30分）

11	多職種連携による模擬ケア会議の実施(1) ロールプレイング準備
事前	実習等の経験から、多職種連携の事例について説明できるようにしておく。（30分）
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。（30分）

12	多職種連携による模擬ケア会議の実施(2) ロールプレイングの実施とふりかえり
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。（30分）
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきや課題についてまとめる。（30分）

13	地域の中での総合的・包括的な援助(1) 問題状況の分析
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助の事例について説明できるようにしておく。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題状況について復習する。(30分)

14	地域の中での総合的・包括的な援助(2) 問題解決方法の検討
事前	実習等の経験から、地域の中での総合的・包括的な援助において生じている実際の課題について考察する。(30分)
事後	授業で取り扱った事例の問題解決方法について復習する。(30分)

15	学びのふりかえりと自己評価
事前	これまでのソーシャルワークに関する自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の目標について検討する。(30分)

2020/07/16(木)11:23

科 目 名	子どもの食と栄養 [子]			授業コード	6540010
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	西村 かおる				

科目に関するキーワード	乳汁期の食生活、離乳食の進め方、幼児期の食生活、食物アレルギーの対応、食育
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等
授業の概要	子どもの健康と食生活の意義や、発達過程にそった望ましい栄養摂取や食品の知識、取扱いについて理解する。子どもの食環境の変化に起因する健康問題(偏食、食物アレルギー、生活習慣病)、障害のある子どもへの対応についても理解する。さらに「食育」への取り組みについて現状と内容を学び、計画づくりと実際を体験する。実習では食品に対する衛生管理を実践する。また、子どもの発達段階に応じた献立と調理の工夫点を理解する。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	調理実習(全18回)は3～4人の班に分かれ、各回のテーマに沿って調理を行う。後期の食育活動は、調理実習と同じ班で食育を計画して発表する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中に行う小テスト(40%)、毎回の実習(前期9回・後期9回)ごとに作成する実習プリント(30%)、レポート課題(10%)、グループワークにおける発言等の授業への参加、及び諸活動に取り組む態度(20%)		

フィードバック	食育の発表後、各班の良い点、改善点を授業内にフィードバックする。 小テストの設問の解説を授業内にフィードバックする。 レポート課題「食育バランスガイド」は授業内で返却の際、講評する。
履修に際しての注意事項	実習では包丁、火を扱うので、気を引き締めて授業にのぞむ。また、調理実習時に、マニキュア、香水、アクセサリー等を身につけることは、衛生面の観点から厳禁とする。エプロン・三角巾・布巾等を忘れずに持参する。実習開始前に着替えを済ませる。第1回の授業からテキストを使うので準備する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III						○	
IV					○		

V							

テキスト1	『発育期の子どもの食生活と栄養』 菅原園、辻ひろみ 他 学建書院	9784762428777
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018	
参考HP	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの健康と食生活の意義
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

2	食生活・栄養に関する基本的知識①(栄養とは？五大栄養素とその働き)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

3	食生活・栄養に関する基本的知識②(食事摂取基準)、子どもの発育・発達と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

4	献立作成と調理の基本、授乳・離乳の支援ガイドについて、衛生管理、調理実習オリエンテーション
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

5	実習:調乳法(育児用ミルク・アレルギー用ミルク等、いろいろな種類の調乳法)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

6	実習:日本の伝統的な「出汁(だし)」のとり方、旨み成分、活用法
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

7	実習:離乳開始期のおかゆの作り方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

8	実習:離乳開始期の野菜の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(疾病、アレルギー、障害のある子どもへの対応)、食育の概要
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

10	実習:離乳開始期の豆腐、小魚の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

11	実習:主食となるパン、うどんの月齢による調理法の違い
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

12	実習:主菜・副菜の同じ食材による月齢の調理法の違い、ベビーフードの使い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

13	実習:離乳完了期に近づいた献立。軟飯を使った調理
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

14	実習:離乳完了期「旬」の食材を使ったおやつ・「手づかみ食べ」の工夫
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

15	乳児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	乳児期の発達段階に応じた食生活と栄養について、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

16	幼児期の食生活と栄養、幼児期の間食のあり方と食生活上の問題点(偏食、肥満、食物アレルギー)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

17	幼児期の家庭や児童福祉施設における食事と栄養、ライフステージ別(学童期・思春期・成人期・妊娠期・授乳期)の食生活と栄養
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

18	実習:幼児期の食事(食物アレルギーに対応した食事)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

19	実習:幼児期の食事(噛む力を身につけるビタミン・ミネラル・食物繊維の豊富な乾物を使った料理)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

20	食事バランスガイド、食育の基本と内容
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

21	実習:幼児期の食事(食育の実践:加工食品作り・生クリームからバターを作る)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

22	演習:食育をテーマにした課題の説明と取り組み
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	食育テーマについて、適切な発表法を検討する。(学修時間目安0.5時間)

23	実習:幼児期の食事(穀類・果物を活用した間食作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

24	実習:幼児期の食事(野菜を工夫して食べる料理で偏食を減らす)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

25	演習:食育をテーマにしたグループワークの発表
事前	食育テーマについて、適切な発表法を検討・準備する。(学修時間目安0.5時間)
事後	発表で得られた知見をふまえて、食育の各テーマについて適切な発表法を考察する。(学修時間目安0.5時間)

26	実習:幼児期の食事(食育のねらいを実践する:うどん作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

27	実習:クッキング保育(行事食・お祝い料理)

事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	実習：クッキング保育（行事食・お正月料理）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	実習：クッキング保育（ひと手間加えたおやつ作り）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	食育の現状と課題、乳幼児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	乳児期～幼児期の食生活と栄養について、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:28

科 目 名	子どもの食と栄養 [子]			授業コード	6540020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	西村 かおる				

科目に関するキーワード	乳汁期の食生活、離乳食の進め方、幼児期の食生活、食物アレルギーの対応、食育
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等
授業の概要	子どもの健康と食生活の意義や、発達過程にそった望ましい栄養摂取や食品の知識、取扱いについて理解する。子どもの食環境の変化に起因する健康問題(偏食、食物アレルギー、生活習慣病)、障害のある子どもへの対応についても理解する。さらに「食育」への取り組みについて現状と内容を学び、計画づくりと実際を体験する。実習では食品に対する衛生管理を実践する。また、子どもの発達段階に応じた献立と調理の工夫点を理解する。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	調理実習(全18回)は3～4人の班に分かれ、各回のテーマに沿って調理を行う。後期の食育活動は、調理実習と同じ班で食育を計画して発表する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中に行う小テスト(40%)、毎回の実習(前期9回・後期9回)ごとに作成する実習プリント(30%)、レポート課題(10%)、グループワークにおける発言等の授業への参加、及び諸活動に取り組む態度(20%)		

フィードバック	食育の発表後、各班の良い点、改善点を授業内にフィードバックする。 小テストの設問の解説を授業内にフィードバックする。 レポート課題「食育バランスガイド」は授業内で返却の際、講評する。
履修に際しての注意事項	実習では包丁、火を扱うので、気を引き締めて授業にのぞむ。また、調理実習時に、マニキュア、香水、アクセサリー等を身につけることは、衛生面の観点から厳禁とする。エプロン・三角巾・布巾等を忘れずに持参する。実習開始前に着替えを済ませる。第1回の授業からテキストを使うので準備する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III						○	
IV					○		

V							

テキスト1	『発育期の子どもの食生活と栄養』 菅原園、辻ひろみ 他 学建書院	9784762428777
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018	
参考HP	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの健康と食生活の意義
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

2	食生活・栄養に関する基本的知識①(栄養とは？五大栄養素とその働き)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

3	食生活・栄養に関する基本的知識②(食事摂取基準)、子どもの発育・発達と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

4	献立作成と調理の基本、授乳・離乳の支援ガイドについて、衛生管理、調理実習オリエンテーション
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

5	実習:調乳法(育児用ミルク・アレルギー用ミルク等、いろいろな種類の調乳法)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

6	実習:日本の伝統的な「出汁(だし)」のとり方、旨み成分、活用法
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

7	実習:離乳開始期のおかゆの作り方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

8	実習:離乳開始期の野菜の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(疾病、アレルギー、障害のある子どもへの対応)、食育の概要
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

10	実習:離乳開始期の豆腐、小魚の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

11	実習:主食となるパン、うどんの月齢による調理法の違い
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

12	実習:主菜・副菜の同じ食材による月齢の調理法の違い、ベビーフードの使い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

13	実習:離乳完了期に近づいた献立。軟飯を使った調理
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

14	実習:離乳完了期「旬」の食材を使ったおやつ・「手づかみ食べ」の工夫
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

15	乳児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	乳児期の発達段階に応じた食生活と栄養について、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

16	幼児期の食生活と栄養、幼児期の間食のあり方と食生活上の問題点(偏食、肥満、食物アレルギー)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

17	幼児期の家庭や児童福祉施設における食事と栄養、ライフステージ別(学童期・思春期・成人期・妊娠期・授乳期)の食生活と栄養
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

18	実習:幼児期の食事(食物アレルギーに対応した食事)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

19	実習:幼児期の食事(噛む力を身につけるビタミン・ミネラル・食物繊維の豊富な乾物を使った料理)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

20	食事バランスガイド、食育の基本と内容
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

21	実習:幼児期の食事(食育の実践:加工食品作り・生クリームからバターを作る)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

22	演習:食育をテーマにした課題の説明と取り組み
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	食育テーマについて、適切な発表法を検討する。(学修時間目安0.5時間)

23	実習:幼児期の食事(穀類・果物を活用した間食作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

24	実習:幼児期の食事(野菜を工夫して食べる料理で偏食を減らす)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

25	演習:食育をテーマにしたグループワークの発表
事前	食育テーマについて、適切な発表法を検討・準備する。(学修時間目安0.5時間)
事後	発表で得られた知見をふまえて、食育の各テーマについて適切な発表法を考察する。(学修時間目安0.5時間)

26	実習:幼児期の食事(食育のねらいを実践する:うどん作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

27	実習:クッキング保育(行事食・お祝い料理)

事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	実習：クッキング保育（行事食・お正月料理）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	実習：クッキング保育（ひと手間加えたおやつ作り）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	食育の現状と課題、乳幼児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	乳児期～幼児期の食生活と栄養について、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:35

科 目 名	子どもの食と栄養 [子]			授業コード	6540030
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	西村 かおる				

科目に関するキーワード	乳汁期の食生活、離乳食の進め方、幼児期の食生活、食物アレルギーの対応、食育
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等
授業の概要	子どもの健康と食生活の意義や、発達過程にそった望ましい栄養摂取や食品の知識、取扱いについて理解する。子どもの食環境の変化に起因する健康問題(偏食、食物アレルギー、生活習慣病)、障害のある子どもへの対応についても理解する。さらに「食育」への取り組みについて現状と内容を学び、計画づくりと実際を体験する。実習では食品に対する衛生管理を実践する。また、子どもの発達段階に応じた献立と調理の工夫点を理解する。

授業方法	演習	アクティブラーニング	○	調理実習(全18回)は3～4人の班に分かれ、各回のテーマに沿って調理を行う。後期の食育活動は、調理実習と同じ班で食育を計画して発表する。
評価方法及び評価基準	レポート	授業中に行う小テスト(40%)、毎回の実習(前期9回・後期9回)ごとに作成する実習プリント(30%)、レポート課題(10%)、グループワークにおける発言等の授業への参加、及び諸活動に取り組む態度(20%)		

フィードバック	食育の発表後、各班の良い点、改善点を授業内にフィードバックする。 小テストの設問の解説を授業内にフィードバックする。 レポート課題「食育バランスガイド」は授業内で返却の際、講評する。
履修に際しての注意事項	実習では包丁、火を扱うので、気を引き締めて授業にのぞむ。また、調理実習時に、マニキュア、香水、アクセサリー等を身につけることは、衛生面の観点から厳禁とする。エプロン・三角巾・布巾等を忘れずに持参する。実習開始前に着替えを済ませる。第1回の授業からテキストを使うので準備する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I		○					
II							
III						○	
IV					○		

V							

テキスト1	『発育期の子どもの食生活と栄養』 菅原園、辻ひろみ 他 学建書院	9784762428777
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018	
参考HP	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	子どもの健康と食生活の意義
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

2	食生活・栄養に関する基本的知識①(栄養とは？五大栄養素とその働き)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

3	食生活・栄養に関する基本的知識②(食事摂取基準)、子どもの発育・発達と食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

4	献立作成と調理の基本、授乳・離乳の支援ガイドについて、衛生管理、調理実習オリエンテーション
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

5	実習:調乳法(育児用ミルク・アレルギー用ミルク等、いろいろな種類の調乳法)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

6	実習:日本の伝統的な「出汁(だし)」のとり方、旨み成分、活用法
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

7	実習:離乳開始期のおかゆの作り方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

8	実習:離乳開始期の野菜の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(疾病、アレルギー、障害のある子どもへの対応)、食育の概要
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

10	実習:離乳開始期の豆腐、小魚の扱い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

11	実習:主食となるパン、うどんの月齢による調理法の違い
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

12	実習:主菜・副菜の同じ食材による月齢の調理法の違い、ベビーフードの使い方
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)

事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

13	実習:離乳完了期に近づいた献立。軟飯を使った調理
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

14	実習:離乳完了期「旬」の食材を使ったおやつ・「手づかみ食べ」の工夫
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

15	乳児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	乳児期の発達段階に応じた食生活と栄養について、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

16	幼児期の食生活と栄養、幼児期の間食のあり方と食生活上の問題点(偏食、肥満、食物アレルギー)
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

17	幼児期の家庭や児童福祉施設における食事と栄養、ライフステージ別(学童期・思春期・成人期・妊娠期・授乳期)の食生活と栄養
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

18	実習:幼児期の食事(食物アレルギーに対応した食事)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

19	実習:幼児期の食事(噛む力を身につけるビタミン・ミネラル・食物繊維の豊富な乾物を使った料理)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

20	食事バランスガイド、食育の基本と内容
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	授業内で取り扱った専門用語の意味を復習し、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

21	実習:幼児期の食事(食育の実践:加工食品作り・生クリームからバターを作る)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

22	演習:食育をテーマにした課題の説明と取り組み
事前	指定した教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	食育テーマについて、適切な発表法を検討する。(学修時間目安0.5時間)

23	実習:幼児期の食事(穀類・果物を活用した間食作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

24	実習:幼児期の食事(野菜を工夫して食べる料理で偏食を減らす)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

25	演習:食育をテーマにしたグループワークの発表
事前	食育テーマについて、適切な発表法を検討・準備する。(学修時間目安0.5時間)
事後	発表で得られた知見をふまえて、食育の各テーマについて適切な発表法を考察する。(学修時間目安0.5時間)

26	実習:幼児期の食事(食育のねらいを実践する:うどん作り)
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。(学修時間目安0.5時間)
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。(学修時間目安0.5時間)

27	実習:クッキング保育(行事食・お祝い料理)

事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

28	実習：クッキング保育（行事食・お正月料理）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

29	実習：クッキング保育（ひと手間加えたおやつ作り）
事前	実習プリントと教科書の該当箇所を事前に読み、内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	実習プリントを仕上げ、実習テーマの意義を振り返り、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

30	食育の現状と課題、乳幼児期の栄養のまとめ・小テスト
事前	まとめのプリント・実習プリント・教科書の内容をまとめて、理解しておくこと。（学修時間目安0.5時間）
事後	乳児期～幼児期の食生活と栄養について、十分に理解を深めること。（学修時間目安0.5時間）

2020/07/16(木)20:45

科 目 名	英語コミュニケーションI/英語コミュニケーション [社介心][ET]			授業コード	6550010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江澤 富士子				

科目に関する キーワード	Participate, reason, opinion. immigration, success

到達目標	本授業のねらいは、英語を楽しく学び、自分の気持ちを英語で自己発信できるようになることである。 到達目標は、基礎的な質疑応答や簡単な挨拶ができ、基礎レベルの英語が聞き取れ、様々な場面での意思の疎通や情報交換ができるようにすることである。			
授業の概要	コミュニケーションとは、相手を理解し、自分も理解してもらうこと。本授業では英語でのコミュニケーションができるよう、学生が日常身近に体験する話題を取り上げ、サンプル英会話でListening力の訓練、Repeating・Shadowing・OverlappingによるSpeaking力の訓練を行う。その上でペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション活動により、学んだ英語表現を自分のものとして使うことができるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	Group Presentations discussion group work individual presentations Projects
評価方法 及び評価基準	試験	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間) Test: 20%　Class work:　80% (Projects, assignments,homework-Vocabulary related to your Major		
フィードバック	I think the class went well and students learned basic English. However, I wish students would study harder.			
履修に際しての 注意事項	授業態度ならびに授業中の積極性が重視されます。授業に対する参加意欲と予習・復習が必要です。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III							
IV			○				
V			○				

テキスト1	Mark Helgesen, English Firsthand Access, Pearson	9789813130203
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	Orientation
事前	事前にシラバスを確認し、授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

2	Hobbies and Time Activities-Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

3	Going through Immigration - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

4	Asking for Office Items - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

5	Talking about Time - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

6	Describing a Sister or Brother - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

7	Shopping for Clothes - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

8	Start Preparing Group Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

9	Work on Group Project Presentation, and Talking about Family
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

10	Perform Group Project Presentation in front of our class
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

11	Start Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

12	Finish Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

13	Calling a Family Member in another country - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

14	Moving into a new house - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

15	Moving into a New House - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

16	Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

17	Finish Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

18	Start individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

19	Work on individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

20	Perform Individual Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

21	Vacation Plans and activities
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

22	Asking for and Following directions
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

23	Talking about Weekends
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

24	Talking about Movies, books, games and comics
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

25	Talking about Music
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

26	Avoiding a direct question - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

27	Visiting a Fortune Teller - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

28	Start Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

29	Finish Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

30	Review
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学修した内容を復習し、試験に備えること（0.5時間）

2020/07/16(木)20:50

科 目 名	英語コミュニケーションI/英語コミュニケーション [社介心][ET]			授業コード	6550020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	江澤 富士子				

科目に関する キーワード	Participate, reason, opinion. immigration, success

到達目標	本授業のねらいは、英語を楽しく学び、自分の気持ちを英語で自己発信できるようになることである。 到達目標は、基礎的な質疑応答や簡単な挨拶ができ、基礎レベルの英語が聞き取れ、様々な場面での意思の疎通や情報交換ができるようにすることである。			
授業の概要	コミュニケーションとは、相手を理解し、自分も理解してもらうこと。本授業では英語でのコミュニケーションができるよう、学生が日常身近に体験する話題を取り上げ、サンプル英会話でListening力の訓練、Repeating・Shadowing・OverlappingによるSpeaking力の訓練を行う。その上でペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション活動により、学んだ英語表現を自分のものとして使うことができるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	Group Presentations discussion group work individual presentations Projects
評価方法 及び評価基準	試験	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間) Test: 20%　Class work:　80% (Projects, assignments,homework-Vocabulary related to your Major		
フィードバック	I think the class went well and students learned basic English. However, I wish students would study harder.			
履修に際しての 注意事項	授業態度ならびに授業中の積極性が重視されます。授業に対する参加意欲と予習・復習が必要です。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III							
IV			○				
V			○				

テキスト1	Mark Helgesen, English Firsthand Access, Pearson	9789813130203
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	Orientation
事前	事前にシラバスを確認し、授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

2	Hobbies and Time Activities-Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

3	Going through Immigration - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

4	Asking for Office Items - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

5	Talking about Time - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

6	Describing a Sister or Brother - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

7	Shopping for Clothes - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

8	Start Preparing Group Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

9	Work on Group Project Presentation, and Talking about Family
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

10	Perform Group Project Presentation in front of our class
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

11	Start Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

12	Finish Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

13	Calling a Family Member in another country - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

14	Moving into a new house - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

15	Moving into a New House - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

16	Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

17	Finish Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

18	Start individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

19	Work on individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

20	Perform Individual Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

21	Vacation Plans and activities
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

22	Asking for and Following directions
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

23	Talking about Weekends
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

24	Talking about Movies, books, games and comics
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

25	Talking about Music
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

26	Avoiding a direct question - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

27	Visiting a Fortune Teller - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

28	Start Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

29	Finish Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

30	Review
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学修した内容を復習し、試験に備えること（0.5時間）

2020/07/16(木)20:56

科 目 名	英語コミュニケーションII/英語コミュニケーション [子科][ET]			授業コード	6550030
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	江澤 富士子				

科目に関する キーワード	Participate, reason, opinion. immigration, success

到達目標	本授業のねらいは、英語を楽しく学び、自分の気持ちを英語で自己発信できるようになることである。 到達目標は、基礎的な質疑応答や簡単な挨拶ができ、基礎レベルの英語が聞き取れ、様々な場面での意思の疎通や情報交換ができるようにすることである。			
授業の概要	コミュニケーションとは、相手を理解し、自分も理解してもらうこと。本授業では英語でのコミュニケーションができるよう、学生が日常身近に体験する話題を取り上げ、サンプル英会話でListening力の訓練、Repeating・Shadowing・OverlappingによるSpeaking力の訓練を行う。その上でペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション活動により、学んだ英語表現を自分のものとして使うことができるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	Group Presentations discussion group work individual presentations Projects
評価方法 及び評価基準	試験	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間) Test: 20%　Class work:　80% (Projects, assignments,homework-Vocabulary related to your Major		
フィードバック	I think the class went well and students learned basic English. However, I wish students would study harder.			
履修に際しての 注意事項	授業態度ならびに授業中の積極性が重視されます。授業に対する参加意欲と予習・復習が必要です。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							

III							
IV			○				
V			○				

テキスト1	Mark Helgesen, English Firsthand Access, Pearson	9789813130203
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に指示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	Orientation
事前	事前にシラバスを確認し、授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

2	Hobbies and Time Activities-Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

3	Going through Immigration - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

4	Asking for Office Items - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

5	Talking about Time - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

6	Describing a Sister or Brother - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

7	Shopping for Clothes - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

8	Start Preparing Group Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

9	Work on Group Project Presentation, and Talking about Family
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

10	Perform Group Project Presentation in front of our class
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

11	Start Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

12	Finish Cooking Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

13	Calling a Family Member in another country - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

14	Moving into a new house - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

15	Moving into a New House - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

16	Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

17	Finish Our Dream Home Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

18	Start individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

19	Work on individual project presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

20	Perform Individual Project Presentation
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

21	Vacation Plans and activities
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

22	Asking for and Following directions
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

23	Talking about Weekends
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

24	Talking about Movies, books, games and comics
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

25	Talking about Music
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

26	Avoiding a direct question - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

27	Visiting a Fortune Teller - Textbook
事前	必ず予習をして授業に臨むこと(0.5時間)。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする(0.5時間)

28	Start Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

29	Finish Music Project
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学習した英語表現を暗記し、自分のものとして使えるようにする（0.5時間）

30	Review
事前	必ず予習をして授業に臨むこと（0.5時間）。
事後	授業で学修した内容を復習し、試験に備えること（0.5時間）

2020/07/16(木)10:40

科 目 名	精神保健 [心]			授業コード	6560012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	橋本 優				

科目に関する キーワード	心の健康、ストレス、予防、支援ニーズ、ソーシャルサポート

到達目標	・概念の理解を通して、精神保健の問題を自身にも直接関わりうる問題としてとらえることができる。 ・精神的健康に関連する要因と課題について理解し、日常生活の中に存在する支援ニーズに気づくことができる。 ・精神保健に関する問題解決のためにどのようなリソースを活用できるかについて、対象や状況に応じて判断することができる。			
授業の概要	身体の健康と同様、精神的健康の維持や促進は、私たちが生きていく上での重要な課題の一つです。精神保健の重要性への意識を高めること、活用できる身近にあるサポートへの気付きと予防の実践が本科目の目標です。講義を通して、精神保健に関連する要因や今日的課題に関する理解を深めていきます。また精神保健にまつわるさまざまな課題の中から各自で1つキーワードを設定し、支援ニーズや実際の支援例について調べ紹介する機会を設けます。ライフサイクルや生活環境が心身の健康にどのような影響を与えるのかを考えながら心の健康にかかわる取り組み例に注目することで、自分自身や身近な他者が精神的健康の危機に直面した場合に積極的に対処できる姿勢の獲得を目指します。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	・双方向的なコミュニケーションを通して各トピックに関する理解や考察を深めるために、随時リアクションペーパーを活用する。 ・講義のまとめとして、各自関心のあるキーワードを選択し、具体的な支援体制や課題について、ポスター発表形式のプレゼンテーションを実施する。
評価方法 及び評価基準	レポート	成績評価は、次の2側面を総合して行う。 ①レポートとなる個人ワーク・コメントの提出状況と考察内容（50%） ②授業内でのポスター制作への取り組み及び発表内容（50%）		
フィードバック	・リアクションペーパーにて挙げられた疑問点や気づきについて、講義内で解説を行う。 ・個人ワークについては、事後の授業において添削のうえ返却し、講評を行う。 ・ポスター制作および発表においては、最終回にて講評を行う。			
履修に際しての 注意事項	・精神保健に関するキーワードの中から1つを各自で選択し、ポスター制作ならびに発表会（第14回）を行います。取り組み方やスケジュールに関する説明を実施しますので、履修者（予定者含む）は全員、第1回授業に必ず出席するようにしてください。 ※やむを得ず欠席の場合は、後日指示しますのでご相談ください。 ・ポスター発表会では、自由度の高い枠の中でディスカッションをしながら、キーワード・テーマに関する考察を相互に深めていきます。そのため、各自入念な準備が必要となります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	

II			○				
III							
IV							
V				○			

テキスト1	特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス　※ポスター制作・発表に関する説明を行います。
事前	・健康とは何か、心の健康にかかわる具体的な事象について、自分なりのイメージを言語化できるよう整理しておくこと。ならびに、「精神保健」「心の健康」が注目される出来事や事象について、気づいた限り具体例を探してみること。(2時間)
事後	自分が持つ「精神保健」「心の健康」に関するイメージと、他者が挙げたイメージについて、類似点や相違点を整理すること。ならびに、現在自分が興味関心を持っている精神保健に関連しそうなテーマを新聞やニュース、日常生活での観察を通して3つ以上挙げること。(2時間)

2	精神保健とは何か
事前	「精神保健」というキーワードを、日常生活のどこで、どのような形態で目にするかについてまとめておくこと。あわせて、「健康である」とは具体的にどのような状態にあることか、100字以上でまとめてみること。(2時間)
事後	・講義内で取り上げたキーワードについて復習を行い、自分の言葉で説明できるようにすること。また精神保健に関連する法律について、実際の条文を調べ理解を深めること。(2時間)

3	心の健康と予防
事前	「予防」の意味と、予防が重要である理由について自分なりの考えを整理しまとめておくこと。また、予防が重要となる具体的な問題について、日常生活の中から3つ以上例を探してみること。(2時間)
事後	第1次予防・第2次予防・第3次予防に該当する具体的な例を、それぞれ3つ以上、複数の形態で探してみること。(2時間)

4	新聞記事から精神保健について考える
事前	少なくとも3日以上ニュースや新聞に注目し、精神保健・心の健康について取り上げる必要のある現代社会の課題について注目すること。また、その理由について自分なりに考察してみること。(2時間)
事後	ニュース・新聞で取り上げられた出来事について、生物-心理-社会モデルか健康に関する課題を整理すること。(2時間)

5	ライフサイクルと精神保健①：胎児期～学童期・思春期
事前	誕生から小学生の間までに、どのような環境変化があったのかについて自分自身の経験を振り返ること。その際、他者とのかかわりの規模や内容の変化に注目すること。(2時間)
事後	生涯発達の考え方・視点について理解を深めるとともに、子どもを取り巻く社会環境や、その中で子どもの心の成長や健康にかかわるための環境整備について、現在ある取り組み例を探しながら理解を深めること。(2時間)

6	ライフサイクルと精神保健②：思春期・青年期～老年期”
事前	思春期以降に生じうる生活上の大きな変化・転換期について思いつくものを整理すること。また環境変化に伴い、どのような心理的変化が伴う可能性があるのかについて、各時期ごとに1つ以上挙げてみること。(2時間)
事後	世代ごとの精神保健の課題を整理するとともに、各世代がどのように地域社会とつながることができるかについて自身の生活環境の中から探し。その概要について調べること。(2時間)

7	“家族”に関する精神保健の課題／ポスター発表準備：発表テーマ決め
事前	戦前から現代にかけての家族形態の変化について調べるとともに、現代の家族形態の特徴について整理してみること。(2時間)
事後	心理的距離が近いがゆえに生じやすい人間関係の課題について整理するとともに、授業内で紹介した相談先の詳細について1つ以上調べまとめること。(2時間)

8	“教育現場”に関する精神保健の課題／ポスター発表準備：支援ニーズの整理
事前	特に学齢期の子どもたちが、学校という場においてどのような枠の中において、どのような他者とかかわりながら生活しているかを整理すること。(2時間)
事後	「チーム学校」の構造について整理するとともに、誰が、どのような形で何をサポートできるかを整理すること。(2時間)

9	“働くこと”に関する精神保健の課題／ポスター発表準備：具体的な取り組みを探す
事前	労働環境の整備にかかわる法律や条例にはどのようなものがあるか、自分なりに調べて予習すること。（2時間）
事後	働く人が自身の心身健康について相談できる公的な窓口について調べ、相談方法について整理すること。（2時間）

10	“地域（コミュニティ）”に関する精神保健の課題／ポスター発表準備：支援活動の成果と課題
事前	人々の健康や生活を支える地域資源にはどのようなものがあるか、特に福祉制度などを調べておくこと。（2時間）
事後	私たちが地域社会とつながることのメリット並びにその際に課題となるものについて、理由と合わせて考察し整理すること。（2時間）

11	ストレスと精神保健①：ストレッサーとストレス反応／ポスター発表準備：まとめとポスター作成
事前	自分自身の生活を振り返り、「ストレス」と考えるものについてできるだけたくさん挙げること。また、その時の自分の状態について整理しておくこと。（2時間）
事後	事前の学習時に挙げた「ストレス」が、どのような種類のストレッサーとなっているかについて分類すること。またその際のストレス反応についても分類・整理をしてみること。（2時間）

12	ストレスと精神保健②：ストレスマネジメント／ポスター発表準備：まとめとポスター作成（つづき）
事前	自分にとっての「ストレス解消・発散法」をできるだけたくさん列挙し、具体的にどのような場面で用いているかを紹介できるよう整理しておくこと。（2時間）
事後	授業内で紹介したリラクセーション法の中から1つを選択し、実際に取り組んでみた結果と課題について挙げること。（2時間）

13	現代社会と精神保健／ポスター発表準備：ポスター仕上げ・発表会準備
事前	自身の睡眠・食事・運動の状況について最近一週間の様子を振り返り、それぞれの状況や問題点を書き出してみること。（2時間）
事後	事前の学習時に挙げた睡眠・食事・運動における問題点を改善する場合の目標と、そのための具体的な方略をスモールステップに分けて整理し、実践可否について検討してみること。（2時間）

14	ポスター発表会
事前	作成したポスター内容の概要について1分で口頭説明ができるようにするとともに、質疑応答に向けた準備を行うこと。（2時間）
事後	発表時のディスカッションを通して得た気づきをもとに詳細について再度調べるとともに、他者の発表を聞いて新たに知った内容・取り組みについて調べること。（2時間）

15	総括
事前	前回の事後の学習において新たに分かったことを、質問者に再度フィードバックするための準備を行うこと。（2時間）
事後	本科目全体を通して取り上げた各種相談機関・支援リソースについて、対応する精神保健上の課題とともに整理しておくこと。（2時間）

2020/07/16(木)21:30

科 目 名	スポーツII [子科][ET]			授業コード	6570010
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	波戸 謙太				

科目に関する キーワード	球技、レクリエーションスポーツ、ニュースポーツ

到達目標	スポーツを生涯通して楽しむために3つの到達目標を設定する。 1.球技スポーツのルールや実施方法について理解する。 2.レクリエーションや仲間づくりゲームを通して、コミュニケーションの方法を理解する。 3.仲間とのスポーツ実践を通して、協調性やリーダーシップについて理解する。			
授業の概要	生涯にわたり、運動、スポーツを楽しみ、実践するために、様々な種目の運動実践を通して運動・スポーツを仲間と行うことの奥深い楽しみや身体を動かす解放感・爽快感を体感することを目的とする。ここでは、フットサル、ベースボール型スポーツ、バレーボール、バドミントン、卓球などの球技スポーツに加え、レクリエーションや仲間づくりゲームなども取り扱う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	球技スポーツのゲームを通じて、グループ内で試合に勝利するための戦術や戦法等を話し合う。これらの話し合いを通じて、頭と体を連動させる取り組みを目指す。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業回数の3分の2以上の出席を求める。授業への参加貢献度を70%、コメントカード等の記入内容を30%として、毎回の授業の中で総合的に評価する。		
フィードバック	毎回のコメントカードに対するフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	スポーツ上ウエアの着用、シューズを必ず持参すること。運動に適さない服装（ジーパン、サンダル）や装身具を身につけての授業参加は原則として認めません。遅刻等は厳しく評価するため、時間厳守を心掛けましょう。 授業計画は適宜変更する場合があります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1	必要に応じて配布する	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新しい体育の授業づくり 大日本図書 新しい体育実技 東京書籍	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期オリエンテーション（授業内容、展開、履修上の注意、評価方法の説明）
事前	スポーツの歴史等について調べてくる（30分）
事後	スポーツをする目的や意義は何かを自分自身の私生活に置き換えて考える（30分）

2	仲間作りゲーム・レクリエーション・ライントレーニング
事前	仲間づくりゲームやレクリエーションスポーツには、どんな種類の種目があるのかを把握してくる（30分）
事後	未成熟の子ども達でもできそうなライントレーニングの応用編を考える（30分）

3	フットサル①個人戦術
事前	フットサルの動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

4	フットサル②集団戦術
事前	フットサルの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

5	フットサル③ゲーム
事前	フットサルの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	フットサルの実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

6	ベースボール型スポーツ①逃げよう！捕ろう！投げよう！
事前	野球やソフトボールに関する動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

7	ベースボール型スポーツ②飛ばそう！！ペサパッロ編
事前	野球以外のベースボール型スポーツについて調べる（30分）
事後	未成熟の子ども達が安全にできるベースボール型スポーツについて考える（30分）

8	ベースボール型スポーツ③実践編～並びっこベースボール～
事前	並びっこベースボールのルールを調べる（30分）
事後	未成熟の子ども達が安全にできる並びっこベースボールを実施する方策について考える（30分）

9	バスケットボール①個人戦術
事前	バスケットボールの動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

10	バスケットボール②対人戦術
事前	バスケットボールの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

11	バスケットボール③ゲーム
事前	未成熟の子ども達が安全にできるバスケットボールについて考える（30分）A
事後	バスケットボールの実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

12	バレーボール個人戦術（パス・スパイク・サーブ）
事前	バレーボールの動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

13	バレーボール集団戦術（スパイク及びブロックの種類の理解と技術習得）
事前	バレーボールの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）

事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

14	バレーボールの試合、審判法、ゲーム分析
事前	バレーボールのルールを調べる（30分）
事後	試合での課題から次回のチーム対抗マッチに向けてチーム戦略を考えてくる（30分）

15	バレーボール～チーム対抗マッチ～
事前	未成熟の子ども達が安全にできるバレーボールについて考える（30分）
事後	バレーボールの実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

16	後期オリエンテーション（授業内容・展開の説明）
事前	未成熟の子ども達がスポーツをする意義を考える（30分）
事後	周りの意見を聞き、スポーツをする本質とは何かを考える（30分）

17	ニュースポーツ①
事前	ニュースポーツとは何か事前に調査する（30分）
事後	ドキドキペットを新しく改良できるかを実践しながら、考える（30分）

18	ニュースポーツ②
事前	ラグビーのルールについて調べてくる（30分）
事後	未成熟の子ども達に応用するためには、どんなルールを設けたらいいのかを考える（30分）

19	卓球①シングル
事前	卓球に関する動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

20	卓球②ダブルス
事前	卓球に関する具体的な戦術を調べる（30分）
事後	卓球の実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

21	レクリエーションスポーツ①計画とルール
事前	レクリエーションスポーツには具体的にどんな種目があるのかを調べる（30分）
事後	全員が楽しめるための具体的方策について考える（30分）

22	レクリエーションスポーツ②ゲーム
事前	未成熟の子ども達が安全にできるレクリエーションスポーツについて考える（30分）
事後	レクリエーションスポーツの中で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

23	バドミントン①シングルス
事前	バドミントンに関する動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

24	バドミントン②シングルス対抗戦
事前	バドミントンの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	試した戦術がダブルスで活かすための方法を考える（30分）

25	バドミントン③ダブルス
事前	バドミントンにおけるダブルスでの具体的な戦術を動画等を見ながら考えてくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

26	バドミントン④ダブルス対抗戦
事前	ペアの仲間と試合で勝つための戦術について考えてくる（30分）
事後	バドミントンや卓球のような打具を使用するスポーツを未成熟の子ども達が安全に取り組むための方策について考える（30分）

27	自主運営授業
事前	今まで実践してきたスポーツの中で、運営したい競技について調べてくる（30分）
事後	具体的な授業計画について考えてくる（30分）

28	自主運営授業①発表と評価

事前	具体的な授業計画について考えてくる（30分）
事後	授業を実践してみての課題について振り返る（30分）

29	自主運営授業②発表と評価
事前	具体的な授業計画について考えてくる（30分）
事後	授業を実践してみての課題について振り返る（30分）

30	自主運営授業③まとめ
事前	授業を実践してみての課題を次に活かすための計画を練る（30分）
事後	未成熟の子ども達が安全にスポーツに取り組むための自分なりの考えを整理する（30分）

2020/07/16(木)21:21

科 目 名	球技スポーツ/スポーツI(球技) [社介][ET]			授業コード	6570021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	波戸 謙太				

科目に関する キーワード	ベースボール型スポーツ、ネット型スポーツ、ゴール型スポーツ

到達目標	この授業科目では、スポーツを通じた仲間とのコミュニケーション能力の獲得を目指す。さらに、体力トレーニングの理論やスポーツの基本的技術を学び、体力の維持・向上に積極的に取り組むことを期待する。			
授業の概要	生涯を通じてスポーツを楽しみ実践できるために、各種スポーツの体力・技術論に加えて、スポーツを通じたコミニュケーションスキルの獲得を目指す。球技を主な教材として、理論と実技を併用した授業を実施する。実技では、基本的技術の獲得およびゲームを実施する。理論では、スポーツの概念と歴史、体力トレーニングの理論・方法、スポーツのルールやけがの予防・防止などを学ぶ。			
授業方法	実技	アクティブ ラーニング	○	球技スポーツのゲームを通じて、グループ内で試合に勝利するための戦術や戦法等を話し合う。これらの話し合いを通じて、頭と体を連動させる取り組みを目指す。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業回数の3分の2以上の出席を求める。毎授業時に実施するレポートの内容、授業態度等を総合的に判断して評価する。 ＊筆記試験は実施しない。		
フィードバック	毎回のコメントカードに対するフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	スポーツ上ウエアの着用、シューズを必ず持参すること。運動に適さない服装（ジーパン、サンダル）や装身具を身につけての授業参加は原則として認めません。遅刻等は厳しく評価するため、時間厳守を心掛けましょう。 授業計画は適宜変更する場合があります。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II						○	
III					○		
IV							

V				○			

テキスト1	必要に応じて配布します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	新しい体育の授業づくり 大日本図書 新しい少年野球の教科書 KANZEN 新しい体育実技 東京書籍	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、スポーツの概念・歴史～東京オリンピックについて考えよう～
事前	オリンピックの歴史について調査する（30分）
事後	東京オリンピックで実施される種目を取り上げて調査する（30分）

2	アイスブレイク（ライントレーニング）、スポーツ鬼ごっこ
事前	スポーツ鬼ごっこの戦術について調べる（30分）
事後	未成熟の子ども達でもできそうなライントレーニングの応用編を考える（30分）

3	タグラグビー
事前	ラグビーに関する動画を見てくる（30分）
事後	未成熟の子ども達でもできそうなタグラグビーのルールを考える（30分）

4	バレーボールの個人戦術（パス・スパイク・サーブ）
事前	バレーボールの動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

5	バレーボールのグループ戦術（3対3での3弾攻撃のリズムづくり）
事前	バレーボールの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

6	バレーボール集団戦術（グループ対抗）
事前	未成熟の子ども達が安全にできるバレーボールの実施方法について考える（30分）
事後	バレーボールの実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

7	ベースボール型スポーツ（逃げよう！捕ろう！投げよう！）
事前	野球やソフトボールに関する動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

8	ベースボール型スポーツ（フィンランド式ベースボール～ペサパッロ～）
事前	野球以外のベースボール型スポーツについて調べる（30分）
事後	未成熟の子ども達が安全にできるベースボール型スポーツの実施方法について考える（30分）

9	ベースボール型スポーツ（並ぴっこベースボール）
事前	未成熟の子ども達が安全にできるベースボール型スポーツの実施方法について考える（30分）
事後	ベースボール型スポーツの実践で身についたこと、今後身につけてみたいことを振り返る（30分）

10	バドミントン①個人戦術（サーブ、クリア、ドライブ）
事前	バドミントンに関する動画を見てくる（30分）
事後	実践したことをより高度な技術に変えられるように練習をしてくる（30分）

11	バドミントン②個人戦術（実践編）
事前	バドミントンの戦術に関する具体的な方法を調べてくる（30分）
事後	試した戦術がダブルスで活かすための方法を考える（30分）

12	バドミントン③（ダブルス）
事前	ペアの仲間と試合で勝つための戦術について考えてくる（30分）
事後	バドミントンや卓球のような打具を使用するスポーツを未成熟の子ども達が安全に取り組むための方策について考える（30分）

13	アルティメット
事前	アルティメットに関する動画を見てくる（30分）
事後	アルティメット以外のニュースポーツには何があるのか調べてくる（分）

14	障碍者スポーツを体験しよう（ブラインドサッカーorブラインドベースボール）
事前	障碍者スポーツには何があるのかを調べる（30分）
事後	障碍者が安全にスポーツを実施するための留意点について考える（30分）

15	体力トレーニングの理論と実践
事前	自分自身がやってきたトレーニングの効果について考える（30分）
事後	今後体力トレーニングをする際の留意点について考える（30分）

2020/07/16(木)21:00

科 目 名	ソーシャルワーク演習I [社]			授業コード	6580020
副 題					
開講期	通年	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	馬場 康徳				

科目に関する キーワード	自己覚知、価値と倫理、コミュニケーション、面接技術、アセスメント

到達目標	・相談援助を実践するために必要なコミュニケーションや面接についての基本的な技術と共感的な姿勢を身につけ実践できるようになる。 ・社会福祉専門職として基本的な倫理・原則を習得し、相談援助場面等において適切な考え方や行動が判断できるようになる。 ・人々が抱える生活問題を発見し、その解決に向けた相談援助のプロセスについて理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習I においては、相談援助における基本的な価値、知識、技術を習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III				○	○		
IV							

V	○						

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著(2010)『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著(2010)『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ソーシャルワーク演習で学ぶことのオリエンテーション
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

2	ソーシャルワークにおける価値、知識、技術の理解
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの定義について調べる。(30分)
事後	ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んで、価値、知識、技術について復習する。(30分)

3	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークの構造
事前	ソーシャルワークIの授業で学習したソーシャルワークの構成要素について復習する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、疑問点や不明確な点について、参考文献等で調べる。(30分)

4	ソーシャルワーク技術の理解　ソーシャルワークにおけるニーズ
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおけるニーズの意味について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

5	自己覚知　自分の価値観を知る
事前	自分の考え方の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	専門的援助職にとって自己覚知が大切となる場面や事例について考察する。(30分)

6	自己覚知　自分の感情を認識する
事前	自分の性格の特徴を探り、言語化する。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、改めて自己の価値観やその背景・要因について考察する。(30分)

7	他者理解　利用者の価値観を知る
事前	人々の価値観が多様であるために生じる課題について例をあげる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、他者理解のために何が大切かを考察する。(30分)

8	他者理解　生活歴から理解する
事前	参考文献等から、生活歴を把握する意義を調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、生活歴から他者を理解する際の留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

9	基本的なコミュニケーション技術の習得　言語コミュニケーション
事前	言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

10	基本的なコミュニケーション技術の習得　非言語のコミュニケーション
事前	非言語によるコミュニケーションについて、自分の得意・不得意な点を考察する。(30分)
事後	非言語によるコミュニケーションについて、その長所と短所を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

11	基本的な面接技術の習得　話の聴き方
事前	参考文献等から、傾聴技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

12	基本的な面接技術の習得　話し方
事前	参考文献等から、質問や積極技法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、学習した面接技術の意図と方法を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

13	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの設定

事前	参考文献等から、初回相談の目的や内容等について調べる。(30分)
事後	授業に引き続き、ロールプレイングの準備を行う。(30分)

14	ロールプレイング技法の習得　ロールプレイングの体験
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングから得た自己の気づきをまとめる。(30分)

15	ロールプレイング体験から援助者、利用者を理解する
事前	ロールプレイングの設定を読み込み、その準備をする。(30分)
事後	ロールプレイングを通して気づいた援助者と利用者の感情等について考察する。(30分)

16	前期の振り返りと後期の授業概要とスケジュールの説明
事前	前期の授業内容をふりかえり、自己についての気づきや学びを考える。(30分)
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。(30分)

17	記録の意義と目的
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の意義を簡潔に説明できるように復習する。(30分)

18	記録の種類と構成
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の種類について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の種類について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

19	記録の方法と留意点　記録の管理
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける記録の方法について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークにおける記録の方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

20	記録の方法と留意点　個人情報の保護
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの記録における個人情報保護の方法や留意点について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

21	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　インテーク面接
事前	参考文献等から、インテークの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、インテークにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

22	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　アセスメント
事前	参考文献等から、アセスメントの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、アセスメントにおける基本的な視点や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

23	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　面接の技法
事前	参考文献等から、面接技法の概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、基礎的な面接技法を使用できるように復習する。(30分)

24	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　ジェノグラム
事前	参考文献等から、ジェノグラムの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、ジェノグラムを使用できるように復習する。(30分)

25	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　エコマップ
事前	参考文献等から、エコマップの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、エコマップを使用できるように復習する。(30分)

26	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　プランニング
事前	参考文献等から、プランニングの意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、プランニングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。(30分)

27	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の実施
事前	参考文献等から、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、援助計画の実施におけるチームアプローチ等の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。

	（30分）

28	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画のモニタリング
事前	参考文献等から、モニタリングの意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、モニタリングの意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

29	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の評価
事前	参考文献等から、ソーシャルワークにおける評価の意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、評価の意義や方法について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

30	事例を通じて社会福祉の援助方法を学ぶ　援助計画の終結
事前	参考文献等から、ソーシャルワークの終結に関する意義について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ソーシャルワークの終結に関する留意点について簡潔に説明できるように復習する。（30分）

2020/07/16(木)10:42

科 目 名	ソーシャルワーク演習II [社]			授業コード	6580030
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	馬場 康徳				

科目に関する キーワード	相談援助、個別支援、地域支援、アセスメント、プランニング

到達目標	・相談援助の各展開過程において必要となる知識・技術を身につけ実践できるようになる。 ・利用者の自己決定の尊重や自立支援、権利擁護、生活の質の追求などの専門的な価値を、実践の中で反映する方法を理解し判断できるようになる。 ・人々の生活課題や社会的環境が抱える問題に対する関連職種や関係機関と協働した総合的・包括的な援助について、地域の中での具体的な実践方法を理解し説明できるようになる。			
授業の概要	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 1. 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 演習II においては、具体的な課題別の相談援助事例等を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得できるようにする。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	各回の演習において、具体的な援助場面を想定したグループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等を行う。
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート60%、リアクションペーパーや授業中の課題等への取り組み40%		
フィードバック	授業内で実施したリアクションペーパーや課題については、事後の授業においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	演習は段階的に学習していくので全出席を前提とする。また、演習への取り組み姿勢が重要なので真摯に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II							
III							
IV							

V		○	○				

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	以下に示すテキスト3冊は、1年次に購入済みのため、改めての購入は不要。 MINERVA社会福祉士養成テキストブック2・3・4、大橋謙策・白澤政和・米本秀仁編著（2010）『相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房、岩間伸之・白澤政和・福山和女編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法I』ミネルヴァ書房、同編著（2010）『ソーシャルワークの理論と方法II』ミネルヴァ書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	本演習のねらいと授業方法・計画・到達目標について
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく。（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する。（30分）

2	専門的援助者としての価値・倫理
事前	参考文献等から、相談援助の価値・倫理に関してこれまでに学習したことをふりかえる。（30分）
事後	授業で取り扱った倫理基準や原則等について、その意味や具体例について考察する。（30分）

3	個別支援におけるインテーク(1) 援助関係の形成
事前	参考文献等から、援助関係の形成に関する理論・技術について調べる。（30分）
事後	援助関係の形成について、自身が取り組むべき課題について考察する。（30分）

4	個別支援におけるインテーク(2) アウトリーチの方法
事前	参考文献等から、アウトリーチの意義や方法について調べる。（30分）
事後	授業内容を参考に、アウトリーチの具体例について考察する。（30分）

5	個別支援におけるアセスメント(1) ニーズ把握の方法
事前	参考文献等から、アセスメントの概要について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、ニーズ把握を実施するための自身の課題について考察する。（30分）

6	個別支援におけるアセスメント(2) 記録の方法
事前	参考文献等から、アセスメントのためのツール（ジェノグラム、エコマップ等）について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、適切な記録方法について復習する。（30分）

7	個別支援におけるプランニング(1) 利用者主体の目標設定
事前	参考文献等から、プランニングの概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、支援目標の設定方法について復習する。（30分）

8	個別支援におけるプランニング(2) 社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、社会資源の意味や活用方法等について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、社会資源の活用方法等について復習する。（30分）

9	個別支援における支援の実施 チームアプローチとネットワーキング
事前	参考文献等から、チームアプローチやネットワーキングの意味や概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、チームアプローチやネットワーキングの意義や方法について復習する。（30分）

10	個別支援におけるモニタリング、効果測定および終結・アフターケア
事前	参考文献等から、モニタリング、効果測定（評価）、終結の概要について調べる。（30分）
事後	授業資料や作成した記録を読み返し、モニタリング、効果測定（評価）、終結に関する留意点等について復習する。（30分）

11	集団支援の展開方法(1) 準備、開始
事前	参考文献等から、集団支援の構造や機能について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援が実施される具体例について考察する。（30分）

12	集団支援の展開方法(2) 実施、評価・終結
事前	参考文献等から、集団支援の展開過程や実施原則について調べる。（30分）
事後	授業内容をふりかえり、集団支援を実施する際の課題について考察する。（30分）

13	地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握
事前	参考文献等から、地域を基盤とした支援が求められる背景について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるアウトリーチとニーズ把握に関する課題を考察する。(30分)

14	地域支援におけるネットワーキングと社会資源の活用・調整・開発
事前	参考文献等から、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の意義や概要について調べる。(30分)
事後	授業内容をふりかえり、地域支援におけるネットワーキングや社会資源の活用等の具体例を考察する。(30分)

15	地域における総合的かつ包括的な援助の方法
事前	参考文献等から、地域における総合的かつ包括的な援助の基本的な考え方について調べる。(30分)
事後	授業内容を参考に、自身の身近な地域における総合的かつ包括的な援助の実施状況を調べる。(30分)

16	ソーシャルワーク実習後の自己評価・自己覚知
事前	実習での体験や学びをふりかえり、自身の気づきや成長について考える。(30分)
事後	他の学生の体験や学びを参考に、改めて自身の体験や学びをふりかえる。(30分)

17	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除の意味や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

18	社会的排除に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、社会的排除に関する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会的排除に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

19	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害の問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

20	虐待やDVなど権利侵害に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、虐待やDVなどの権利侵害に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で虐待やDVなどの権利侵害に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

21	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に関する問題状況や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の問題状況について調べる。(30分)

22	低所得者やホームレスなど生活困窮者に対するソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、生活困窮に対する支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で生活困窮に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

23	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(1) インテークからアセスメント
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護が必要となる問題状況について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護が必要となる現実の問題状況について調べる。(30分)

24	権利擁護活動を含むソーシャルワーク実践(2) プランニングから終結
事前	関係科目をふりかえり、権利擁護のための支援方法について調べる。(30分)
事後	インターネット等で権利擁護に関する現実の対策や支援方法について調べる。(30分)

25	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(1) 多職種の連携
事前	関係科目をふりかえり、多職種連携の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における多職種連携のための実践例について調べる。(30分)

26	地域における総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践(2) 公私協働による社会資源の開発
事前	関係科目をふりかえり、社会資源の開発のための方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における社会資源の開発の実践例について調べる。(30分)

27	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(1) 住民参加によるニーズ把握
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画策定の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画の策定方法について調べる。(30分)

28	地域福祉計画に関するソーシャルワーク実践(2) 計画の運営・管理
事前	関係科目をふりかえり、地域福祉計画の運営・管理の方法や論点について調べる。(30分)
事後	インターネット等で身近な地域における地域福祉計画に基づく実践内容について調べる。(30分)

29	社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価
事前	関係科目をふりかえり、社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価についての概要を調べる。(30分)
事後	インターネット等で社会福祉施設・機関の運営管理とサービス評価に関する制度や取り組みについて調べる。(30分)

30	専門的援助者としての自己評価
事前	授業内容をふりかえり、自身の学びと課題について考える。(30分)
事後	到達目標に対する自己評価をもとに、自身の今後の課題について検討する。(30分)

2020/07/16(木)10:53

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	6580040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	馬場 康徳				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング：○ / 少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。		
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。	
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。		
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:29

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	6580053
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	馬場 康徳				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)20:48

科 目 名	保育内容（言葉II）[子]			授業コード	6600012
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	深民 麻衣佳				

科目に関する キーワード	絵本、紙芝居、幼年童話、読み聞かせ

到達目標	・『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「言葉」のねらい・内容を理解し、絵本を主とした児童文化財に関する知識を身につける。 ・子どもの言葉の発達・獲得を援助する保育者として、保育活動の中で児童文化財を適切に運用できるようになる。			
授業の概要	絵本の歴史、ジャンルごとの特徴などを学び、絵本・紙芝居・幼年童話といった児童文化財の個々の特性に対する理解を深める。その上で、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「言葉」のねらい・内容を踏まえ、保育現場において児童文化財が果たす役割について考える。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	コメントペーパーを含む平常点（40%）とレポート（60%）で評価する。		
フィードバック	コメントペーパーの質問・感想等に対して授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	積極的に授業に参加すること。 授業で配布するブックリスト等を元に、多くの作品に触れること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	特になし。必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著『ベーシック絵本入門』(ミネルヴァ書房、2013年)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション:授業の流れ・内容確認
事前	シラバスを読んでくる。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

2	絵本の役割:絵本とは何か・保育現場において絵本が果たす役割
事前	絵本のメディアとしての特徴について自分の考えをまとめる。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

3	絵本の読み聞かせ
事前	「読み聞かせ」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

4	絵本の歴史① ～1950年代
事前	第三回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

5	絵本の歴史② 1960年代～1980年代
事前	第四回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

6	絵本の歴史③ 1990年代～現在
事前	第五回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

7	さまざまなジャンルの絵本① 物語絵本
事前	「物語絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

8	8さまざまなジャンルの絵本② 言葉の絵本
事前	「言葉あそび」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

9	さまざまなジャンルの絵本③ ナンセンス絵本
事前	「ナンセンス絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

10	さまざまなジャンルの絵本④ 昔話・民話絵本
事前	「昔話・民話絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

11	さまざまなジャンルの絵本5 赤ちゃん絵本
事前	「赤ちゃん絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

12	さまざまなジャンルの絵本6 科学絵本
事前	「科学絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

13	紙芝居の特性・作品紹介
事前	「紙芝居」について下調べをする。(0.5時間)

事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

14	幼年童話の特性・作品紹介
事前	「幼年童話」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

15	まとめ
事前	授業で取り上げた作品を振り返る。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:54

科 目 名	保育内容（言葉II）[子]			授業コード	6600022
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	1
担 当 者	深民 麻衣佳				

科目に関する キーワード	絵本、紙芝居、幼年童話、読み聞かせ

到達目標	・『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「言葉」のねらい・内容を理解し、絵本を主とした児童文化財に関する知識を身につける。 ・子どもの言葉の発達・獲得を援助する保育者として、保育活動の中で児童文化財を適切に運用できるようになる。			
授業の概要	絵本の歴史、ジャンルごとの特徴などを学び、絵本・紙芝居・幼年童話といった児童文化財の個々の特性に対する理解を深める。その上で、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「言葉」のねらい・内容を踏まえ、保育現場において児童文化財が果たす役割について考える。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	コメントペーパーを含む平常点（40%）とレポート（60%）で評価する。		
フィードバック	コメントペーパーの質問・感想等に対して授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	積極的に授業に参加すること。 授業で配布するブックリスト等を元に、多くの作品に触れること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	特になし。必要に応じて資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著『ベーシック絵本入門』(ミネルヴァ書房、2013年)	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	イントロダクション:授業の流れ・内容確認
事前	シラバスを読んでくる。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

2	絵本の役割:絵本とは何か・保育現場において絵本が果たす役割
事前	絵本のメディアとしての特徴について自分の考えをまとめる。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

3	絵本の読み聞かせ
事前	「読み聞かせ」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

4	絵本の歴史① ～1950年代
事前	第三回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

5	絵本の歴史② 1960年代～1980年代
事前	第四回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

6	絵本の歴史③ 1990年代～現在
事前	第五回で配布したリストの作品について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

7	さまざまなジャンルの絵本① 物語絵本
事前	「物語絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

8	8さまざまなジャンルの絵本② 言葉の絵本
事前	「言葉あそび」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

9	さまざまなジャンルの絵本③ ナンセンス絵本
事前	「ナンセンス絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

10	さまざまなジャンルの絵本④ 昔話・民話絵本
事前	「昔話・民話絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

11	さまざまなジャンルの絵本5 赤ちゃん絵本
事前	「赤ちゃん絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

12	さまざまなジャンルの絵本6 科学絵本
事前	「科学絵本」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

13	紙芝居の特性・作品紹介
事前	「紙芝居」について下調べをする。(0.5時間)

事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

14	幼年童話の特性・作品紹介
事前	「幼年童話」について下調べをする。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

15	まとめ
事前	授業で取り上げた作品を振り返る。(0.5時間)
事後	配布資料・ノート等を用いて授業内容を振り返る。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:25

科 目 名	起業経営論 [社]			授業コード	6610012
副 題	メルカリもビックリ！！ あっと言わせる仕事を創ってみよう！				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	福島 達也				

科目に関する キーワード	起業、社会起業、ソーシャルビジネス、社会事業、NPO

到達目標	社会起業家とは何か？ ソーシャルビジネスって面白い？？ 社会と行政、企業活動はどのように協働すれば、社会で必要とされるサービスの一翼を担うことができるのか、新しい公共の理念のもと、自ら起業し成功するシステムを会得する。 [1] 起業するための組織や設立、運営に関する実践的な手法や課題を理解できる。 [2] 社会事業や起業のCSR活動、NPOなどによる非営利組織への支援システムを理解できる。 [3] 世のため人のための仕事をしながら、ビジネスとして成功する秘訣を理解できる。
授業の概要	仕事が大変な割に給料が安い、自分のやりたい仕事ができない・・・など就職してもすぐに辞める人が増えている。 その逆に、仕事が面白くなり、もっと上を目指したい、自分ならこうするのに・・・と思う人も。 一見両極端だが、その結果向かう方向は同じ、そう、NPOや会社の起業だ！ この授業では、チャレンジ精神のもと、自分で会社や非営利団体を立ち上げ、実際に様々な事業を興した講師が、自らの体験を通し、君たちがいつか自分で起業しようと思った時に役に立つ情報と知識、さらに成功する秘訣を伝授する。 また、この事業の最大の目玉は、雇用する立場（社長・理事長）の者が講師なので、「どうすれば就職時に採用されやすくなるか」「どうすれば給料が上がるのか」「どうすれば出世できるのか」「どうすれば人に好かれるのか」という、他大学では学べないような特ダネ情報を提供する。 乞うご期待！

授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート（創業計画書）と受講態度。 授業内の課題や諸活動への取組み50%、創業計画書50%		
フィードバック	最終授業において創業計画書の発表を行うので、他の発表を聞きながら、良い点、改善点を授業内でフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	遅刻や早退は課題制作に支障をきたすので、極力しないこと。 また、創業計画書作成時には、人真似ではなく、まったく新しいビジネスプランを作ることや将来に予想されるビジネスを創造すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○	○	

III							
IV							
V		○					

テキスト1	プロが教える・よくわかるNPO入門（福島　達也・Jリサーチ出版）	9784901429498
テキスト2	未来の年表 人口減少日本でこれから起きること（河合雅司　講談社現代新書）	9784062884310
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	すべての仕事は福祉につながる！ 「人に使われるのではなく、仕事を創る世界に飛び込もう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

2	人口減でこれからの日本は大きく変わる！ 「どのような仕事や会社が求められてくるかを探ろう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

3	どんなサービス？どんな事業？？ 「起業を成功に導く要素を知ろう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

4	何をやるにもお金は必要？？ 「資金はどのくらい必要なのか、資金計画と調達方法を考えよう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

5	法人って株式会社もNPO法人も社会福祉法人もいろいろだ！ 「さまざまな法人格を知ろう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

6	何でも好きかってやるわけにはいかない！ 「許認可って何だ？」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

7	何をやるにもお金は大事！ 「経理や財務、税金について学ぼう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

8	自分一人では限界がある！ 「人を雇うときの注意点について学ぼう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)

事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

9	「世の中の、あっと驚くビジネスモデルを見てみよう①」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

10	「世の中の、あっと驚くビジネスモデルを見てみよう②」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

11	「全く新しいビジネスプランを考えよう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

12	「創業計画書の作り方①業種や事業内容を決めよう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

13	「創業計画書の作り方②開業資金はどうやって集めるの！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討をすること。(2時間)

14	「創業計画書の作り方③売り上げや経費を予測してみよう！」
事前	参考図書「プロが教える・よくわかるNPO入門」と「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること」を読み、今後の日本社会にどのようなソーシャルビジネスが必要か、どのような方向に進まなければいけないかを考えておくこと。(2時間)
事後	授業内で説明した内容のポイントを理解し、自分の考えをまとめ、新たなソーシャルビジネスの検討し、創業計画書にまとめること。(2時間)

15	「夢の創業計画を話してみよう！」
事前	提出する「創業計画書」の発表が上手にできるよう、事前に内容を確認して練習しておくこと。(2時間)
事後	他の人の創業計画を参考に、これからの社会でどのようなビジネスが起こり、そして自分はどのようにかかわっていくのか、未来に向けて何をすべきか、検討をして、将来のために蓄積しておくこと(2時間)

2020/07/16(木)20:44

科 目 名	生活支援技術II/自立に向けた介護II [介]			授業コード	6620012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	藤田 美子				

科目に関する キーワード	自立、生活支援、入浴・清潔、排泄、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護
到達目標	1.介護者、対象者双方の体験を通して、介護に必要なコミュニケーション能力を身につけ、対象者に対して共感的な理解を持ち心情に寄り添う介護が実践できる。 2.ICFの視点を持ち対象者の心身の状況を的確に把握し、自立に向けた介護方法を選択し実践できる。 3.入浴・清潔、排泄、休息・睡眠などの介護場面に応じて対応できる基礎的な生活支援技術の知識、技術を身につけ、介護の目的、留意点、手順及び根拠を説明できる。 4.人生の最終段階にある人と家族へのケアおよびチームケアについて説明できる。 5.対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用できる。
授業の概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 自立に向けた介護Ⅱでは、観察とアセスメント、記録と報告、福祉用具の意義と活用方法や自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、休息・睡眠の介護、緊急時の対応、人生の最終段階における介護における技法を学び習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	生活支援技術の演習（実技）に際しては、課題にそってグループごとに利用者・介護者双方の体験、グループディスカッションを行う。
評価方法 及び評価基準	試験	実技レポート、実技授業内総括、小テスト、学期末試験により総合的に評価する。		
フィードバック	実技終了後に出されたレポート課題については、事後の授業において添削し返却するので定期試験の準備に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	実技の時は、授業開始までに実技を行うにふさわしい服装に着替え、遅刻をしないこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○		○	

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座生活支援技術II」中央法規 2019	
テキスト2	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座生活支援技術I」中央法規 2019（「自立に向けた介護I」と同じテキストを使用する。）	
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業計画のオリエンテーション（講義）
事前	シラバスに記載されている到達目標、授業の概要、授業計画について確認すること。（1時間）
事後	生活支援の知識・技術の習得方法について理解を深めること。（1時間）

2	記録・報告（講義　グループディスカッション・発表）
事前	支援者に求められる記録・報告について自分なりに考えてくること。（0.5時間）
事後	授業で配付した「ケアに役立てる記録の書き方」を復習し、提示した課題に取り組み適切な記録の書き方を理解しておくこと。（1.5時間）

3	観察とアセスメント:主観的・客観的観察（講義　グループディスカッション、発表）
事前	支援者にとって観察はなぜ必要か事前にテキストで下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	授業で提示した食欲不振や夜間不眠がみられる利用者を例に、介護者に必要な観察の視点について再度復習しておくこと。また、医療職へ報告する際の留意点についても再度復習しておくこと。（1.5時間）

4	観察とアセスメント:バイタルサイン（実技）
事前	バイタルサインとは何か、体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法について下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法と基準値について正しく説明できるよう復習すること。また、バイタルサインを正しく測定することの重要性について説明できるようにしておくこと。（1.5時間）

5	自立に向けた清潔保持の介護（講義）
事前	清潔の意義と目的についてテキストを読み込んで理解しておくこと。また、皮膚の構造と機能について、参考書などで下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	実技で学んだ爪切りの介護と足浴の介護についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験での学びや気づきについては提示したシートに整理し十分な復習を行うこと。（1.5時間）

6	自立に向けた入浴の介護（講義）
事前	テキストで入浴の意義と目的、入浴による高齢者の事故について、入浴に関する利用者のアセスメント、利用者の状況に応じた入浴方法、清潔の意義と目的について予習しておくこと。（0.5時間）
事後	安全な入浴の介護方法と清潔保持の介護方法について、テキストと提示した資料を基に復習しておくこと。（1.5時間）

7	自立に向けた清潔保持の介護　爪切り（実技）
事前	配付された資料で爪の構造を確認し、爪切りのチェックリストを熟読して実技に備えること。(0.5時間）
事後	実技で学んだ爪切りの介護方法について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

8	自立に向けた清潔保持の介護　足浴（実技）
事前	テキストと配付された足浴の介護のチェックリストを熟読し、実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ足浴の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

9	自立に向けた入浴の介護　機械浴（実技）
事前	配付された機械浴の介護のチェックリストを熟読し実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ機械浴の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

10	自立に向けた入浴の介護　一般浴（実技）
事前	配付された家庭浴槽での介護のチェックリストを熟読して、実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ家庭浴槽での介護について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

11	身体の清潔の介護　清拭　部分清拭　（実技）
事前	配付された清拭の介護のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ清拭の介護方法についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

12	身体の清潔の介護　清拭　全身清拭　（実技）
事前	配付された全身清拭の介護のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ清拭の介護方法についてチェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

13	自立に向けた排泄の介護　排泄の意義と目的　（講義）
事前	排泄の意義と目的について、テキストを熟読して理解しておくこと。 尊厳のある排泄の介護について自分自身の考えをまとめておくこと。（0.5時間）
事後	排泄のメカニズムにつにいてテキストや配付資料を基に予習しておくこと。（0.5時間）

14	自立に向けた排泄の介護　アセスメントと介護の技法　（講義）
事前	排泄の一連の流れについてテキストや配付の資料を基に確認し、利用者の状況に応じた排泄の介護方法について予習しておくこと。（0.5時間）
事後	排泄の自立を促すために必要なアセスメントについて、テキストや配付資料を熟読して説明できるようにしておくこと。 自らリハビリパンツを着用。排尿した体験を提示したシートに記入し、介護を受ける人の尊厳の保持について十分に考え実技に備えること。（1.5時間）

15	自立に向けた排泄の介護　ポータブルトイレの介助　（実技）
事前	排泄関連の福祉用具について下調べをしておくこと。配付されたチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだポータブルトイレの介護について、チェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

16	自立に向けた排泄の介護　オムツ交換（実技）
事前	排泄パッドの種類と使用方法について下調べをし、オムツ交換の介護方法について配付したチェックリストを熟読し実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだオムツ交換の介護についてチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

17	自立に向けた排泄の介護　立ちオムツ（実技）
事前	立ちオムツの介護方法、尿器・便器等の使用方法など、テキストと配付資料のチェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ立おむつのチェックリストを見直し、知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

18	自立に向けた排泄の介護　車椅子でのトイレ介助（実技）
事前	車いす使用者のトイレでの排泄介護について、チェックリストを熟読して実技に備えること。（0.5時間）
事後	実技で学んだ車いすでのトイレ介助について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 また、学内にある障害者トイレを実際に使用しトイレやトイレ周辺のバリアフリーについて学びを深めること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。（1.5時間）

19	自立に向けた休息・睡眠の介護　休息・睡眠の意義と目的　（講義　グループワーク）
事前	なぜ睡眠が必要なのか、睡眠のメカニズムと良質な睡眠について、テキストや参考資料から自分なりの考えを整理しておくこと。（0.5時間）
事後	レム睡眠、ノンレム睡眠の特徴、睡眠中に分泌されるホルモンなどテキストと提示した資料を基に復習しておくこと。（1.5時間）

20	休息・睡眠の介護（実技）
事前	高齢者の睡眠障害の特徴と安眠を促す介護の技法について、テキストと提示した資料で確認しておくこと。（0.5時間）
事後	実技で学んだ高齢者の不眠の訴えに対する介護者のアセスメントと介護方法についてテキストや配付資料を見直し知識・技術の定着を図ること。（1.5時間）

21	緊急事故時の対応（講義）
事前	日常生活で起こりうる緊急事故にはどのようなものがあるのか、その原因は何か、予防策について下調べをしておくこと。（0.5時間）
事後	食事関連では誤嚥・窒息・誤薬・異食、入浴関連ではヒートショック・熱傷、移動関連では転倒・表皮剥離・骨折、感染関連では嘔吐下痢・発熱・ノロウイルス・インフルエンザ、災害関連では熱中症などそれぞれについて提示したシートに整理し知識・技術の定

	着を図ること。(1.5時間)

22	口腔ケア　点眼・点鼻　内服(実技)
事前	口腔ケア(義歯の手入れ)、点眼・点鼻、内服(服薬介助・座薬介助)の基本についてテキストや配付の資料を基に下調べをしておくこと。(0.5時間)
事後	実技で学んだ服薬介助、座薬挿入介助について、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。 介護者体験、利用者体験を通して学んだ気づきを提示したシートに整理し、十分な復習を行うこと。(1.5時間)

23	人生の最終段階における介護 家族へのケア・チームケア(講義)
事前	テキストで人生の最終段階における介護について、介護者に求められる役割とは何かテキストと提示した資料を基に予習をしておくこと。(0.5時間)
事後	自分自身のソーシャルマップを作成し、人生の最後をどこで迎えたいか介護施設での看取りの在り方を参考に、提示したシートに自らの考えを整理しておくこと。(1.5時間)

24	人生の最終段階における介護　臨終時の介護と死後の処置(講義)
事前	人生の最終段階における利用者の意思決定のあり方・ケアのあり方について、テキスト提示した資料を熟読し介護者に必要な基本姿勢を整理しておくこと。(0.5時間)
事後	テキスト、提示した資料を熟読し、死に対する身体的・生理的・社会的・霊的側面について、死に対する心理的変化、臨終時の介護、死亡時の介護について知識の定着を図ること。(1.5時間)

25	人生の最終段階における介護　グリーフケア(実技)
事前	グルーフワーク(悲嘆)とは何か、テキストと提示した資料を熟読して理解しておくこと。(0.5時間)
事後	提示した資料を基に、残された家族のグリーフケアのプロセスを確認し、介護職に求められている家族へのグリーフケアの基本姿勢について十分な復習を行うこと。(1.5時間)

26	福祉用具の意義と活用　介護ロボット、対象者の能力に応じた福祉用具の選択と活用(講義)
事前	生活支援に関連する福祉用具について、テキストを熟読し福祉用具の種類と活用方法について確認しておくこと。(0.5時間)
事後	授業で提示した障害のある人の居住環境と福祉用具の活用から福祉用具の役割と重要性について説明できること。 介護ロボットが移乗介助、移動支援、排泄支援、見守り支援などで活用されていることについて理解を深めておくこと。(1.5時間)

27	事例課題の検討　ベッド上でのおむつ交換(実技)
事前	提示したベッド上でのオムツ交換の事例を熟読して介護方法を検討し、実技の習熟度確認のために備えること。(0.5 時間)
事後	提示したベッド上でのオムツ交換の事例について介護方法を振り返り、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。(1.5時間)

28	事例課題の検討　ポータブルトイレでの排泄介助(実技)
事前	提示したポータブルトイレでの排泄介護の事例を熟読して介護方法を検討し、実技の習熟度確認のために備えること。(0.5 時間)
事後	提示したポータブルトイレでの排泄介護の事例について介護方法を振り返り、チェックリストを見直し知識・技術の定着を図ること。(1.5時間)

29	授業内総括　ベッド上でのオムツ交換の実施(実技)
事前	ベッド上でのオムツ交換の習熟度確認のため十分な実技練習を行うこと。(0.5時間)
事後	ベッド上でのオムツ交換の習熟度確認後、チェックリストを見直し知識・技術の十分な復習を行うこと。(1.5時間)

30	授業内総括　ポータブルトイレでの排泄介助の実施(実技)
事前	ポータブルトイレでの排泄介護の習熟度確認のため十分な実技練習を行うこと。(0.5時間)
事後	ポータブルトイレでの排泄介護の習熟度確認後、チェックリストを見直し知識・技術の十分な復習を行うこと。(1.5時間)

2020/07/16(木)20:44

科 目 名	子どもと運動III/スポーツIII/(サッカー) [子科][ET]			授業コード	6630010
副 題	「指導」を考える				
開講期	通年	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	藤原 隆詞				

科目に関するキーワード	観察、考察、働きかけ

到達目標	本授業を通じて、指導者になるための意識や心構えを身につけてください。 主要な到達目標は次の2点です。 ・自分の考えを伝えるために、事前の準備から発表に至るまで努力が出来る。 ・こどもの興味・関心を惹きつけて、活動への意欲を高めさせるための努力が出来る。 【「履修ファイル」の対応項目：D-2（2）（3）、D-3（4）】			
授業の概要	講義・実技・指導実践・ディスカッション等を展開していく中で、こどもの発育発達や特徴を知り、接し方や伝え方（話し方や見せ方）・指導現場での留意事項等、さまざまな角度から「指導」に必要なことを考えます。 ※前期は主に知識を得ること（インプット）を中心とした展開、後期は主に知識を活用していくこと／表現していくこと（アウトプット）を中心とした展開になります。 ※川崎フロンターレスクールへの見学も検討しています。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	講義・実技ともに、それぞれディスカッション等を交えながら展開していきます。
評価方法及び評価基準	レポート	講義・実技時のディスカッションにおける発言等を含めた授業への取り組み（30%）・指導実践（20%）・スピーチ（20%）・確認テスト（20%）・レポート（10%）にて総合的に判断します。		
フィードバック	指導実践・スピーチにおいては良かった点・改善点等を都度授業内に、確認テスト・レポートにおいては実施後にフィードバックしていきます。			
履修に際しての注意事項	遅刻に対しては厳しく評価します。 運動のできる服装・室内シューズを必ず用意してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II							
III				○			
IV							

V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『保育所保育指針解説』(平成30年)フレーベル館・『幼稚園教育要領解説』(平成30年)フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年)フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	前期ガイダンス＋実技　ゲーム
事前	授業計画を確認した上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

2	実技　コミュニケーション
事前	コミュニケーションとは何か、またその必要性を下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

3	講義　こどもへの指導(環境の変化／指導の実際)
事前	こどもに指導する上で何が必要か、考慮すべきことを下調べした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

4	実技　動きづくり
事前	こどもの成長のためになぜ動き作りが必要か、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

5	講義　こどもへの指導(発育発達／特徴)
事前	発育発達とは何か、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

6	実技　鬼ごっこ
事前	鬼ごっこの必要性、獲得できることは何かを下調べした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

7	講義　コーチング法
事前	コーチングとは何か、またコーチングする上で何が必要か、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

8	実技　ボールフィーリング(ボールを扱う)
事前	ボールフィーリング(ボールを扱う)を通じてこどもをどのように導いていくか、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

9	実技　ボールフィーリング(運ぶ)
事前	ボールフィーリング(運ぶ)を通じてこどもをどのように導いていくか、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

10	講義　熱中症とケガの処置
事前	熱中症やケガの発生時にどのような処置が必要か、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

11	講義　指導計画案作成
事前	指導計画案を作成していくために必要なことを下調べした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

12	実技　グループ指導実践
事前	実践する(発表する)上でどのようなことを考慮すべきか、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

13	講義　前期内容まとめ
事前	前期に取り組んできたことを振り返り、目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

14	確認テスト
事前	前期に取り組んできたことを振り返り、目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

15	実技　前期内容まとめ
事前	前期に取り組んできたことを振り返り、目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

16	後期ガイダンス＋実技　ゲーム
事前	授業計画を確認した上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

17	講義　コミュニケーションスキル(必要性／問答のスキル)
事前	コミュニケーションスキルの必要性について下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

18	講義　コミュニケーションスキル(説明・報告・分析のスキル)
事前	(前回の講義にて学んだ)問答のスキルをよく振り返り、目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

19	実技　ボールフィーリング(蹴る)
事前	ボールフィーリング(蹴る)を通じてこどもをどのように導いていくか、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

20	講義　スピーチトレーニング(論理的に話す)
事前	論理的に話すとはどういうことか、下調べをした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

21	講義　スピーチトレーニング(発表①)
事前	論理的に話すための準備(メモ・スライド等の用意)をした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

22	講義　スピーチトレーニング(発表②)
事前	論理的に話すための準備(メモ・スライド等の用意)をした上で目的意識をもって参加してください。(0.5時間程度)
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。(0.5時間程度)

23	講義　スピーチトレーニング（発表③／まとめ）
事前	論理的に話すための準備（メモ・スライド等の用意）をした上で目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

24	講義　指導実践に向けて（指導計画案作成含む）
事前	指導計画案を作成していくために必要なことをより掘り下げていくための下調べをした上で目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

25	指導実践＋ディスカッション（Aグループ発表）
事前	実践する（発表する）上でどのようなことを考慮すべきか、より良い準備（指導計画案作成・指導手順の確認等）の上、目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

26	指導実践＋ディスカッション（Bグループ発表）
事前	実践する（発表する）上でどのようなことを考慮すべきか、より良い準備（指導計画案作成・指導手順の確認等）の上、目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

27	指導実践＋ディスカッション（Cグループ発表）
事前	実践する（発表する）上でどのようなことを考慮すべきか、より良い準備（指導計画案作成・指導手順の確認等）の上、目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

28	指導実践＋ディスカッション（Dグループ発表）
事前	実践する（発表する）上でどのようなことを考慮すべきか、より良い準備（指導計画案作成・指導手順の確認等）の上、目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

29	指導実践＋ディスカッション（Eグループ発表／まとめ）
事前	実践する（発表する）上でどのようなことを考慮すべきか、より良い準備（指導計画案作成・指導手順の確認等）の上、目的意識をもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

30	実技　まとめ
事前	授業計画を再確認し、年間を通じて学んできたことを振り返った上で目的意識ををもって参加してください。（0.5時間程度）
事後	今後の実習や将来を見据えて、学んだことを身に着けるようノートを作成、知識を定着させるために記録してください。（0.5時間程度）

2020/07/16(木)21:15

科 目 名	福祉サービスの組織と経営 [社]			授業コード	6640012
副 題	～組織・経営・マネジメントについて営利組織と比較しながら福祉サービス提供組織とその経営に関する基礎的理解を目指して～				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	別府 政行				

科目に関するキーワード	組織とは何か？ マネージメントとは何か？ 経営とは何か？ 法人とは何か? 社会福祉法人におけるヒト・モノ・カネ・情報

到達目標	「組織とは何か？」、「経営とは何か？」、「マネジメントとは何か？」という問いを説明することができる。 福祉サービスに係る組織や団体の特性を理解し、説明することができる。 福祉サービスの組織と経営の基礎的な概念・理論について理解することができる。 福祉サービスの経営や管理運営の方法とその実際を時代の流れとともに整理し、今後の福祉サービスのあり方について論じることができる。			
授業の概要	本授業は、社会福祉士国家試験受験資格に関するの指定科目です。 社会福祉基礎構造改革後、社会福祉施設のあり方は、介護保険制度の開始から大きく動き出し、各分野において「措置から契約に」をキーワードとして大変革を遂げてきました。 援助対象者の福祉ニーズや社会経済活動等は急速に変化しており、福祉サービスが新たな産業へと発展すると同時に、提供する福祉サービスの質が問われるようになり、福祉サービス提供者にとって組織および経営管理が重要課題となってきています。 この授業では、営利組織の経営と比較しながら、福祉サービスに係る組織とその経営に関連する共通的基礎構造、経営理論、その他実務的方法などを多角的に学び理解することを目指します。			
授業方法	講義	アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	試験	授業内の課題や諸活動への取り組み（40%）、開講期寒中に課す課題レポート（1～2回分）（30%）、期末試験（30%）		
フィードバック	講義科目であるため、質問等の回答は次回以降の講義で実施します。			
履修に際しての注意事項	本講義課目は必修科目です。授業に対しての共通目的や貢献意欲を持って、臨んでください。 卒業や国家試験受験も控えていますので、3年次での単位修得を目指して真剣に学習してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○			○			
III							
IV	○						

V							

テキスト1	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営　第5版』2017年、中央法規出版	978-4-8058-5431-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	・浦野正男編『社会福祉施設経営管理論2019』2019年、社会福祉法人全国社会福祉協議会 ・特定非営利活動法人経営能力開発センター (編集)「1経営学の基本 (経営学検定試験公式テキスト) 」2018年、中央経済社 その他、講義の中にも適時提示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎理論の理解　組織と経営とマネジメント
事前	経営学に関する参考書に目を通してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。「組織」、「経営」、「マネジメント」について、他者に説明できるようにする。(4時間)

2	基礎理論の理解　営利組織の経営
事前	配布資料やテキストの該当箇所(93ページ～119ページ)を事前に確認してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。経営の基礎理論について、興味のある提唱者を探す。(2時間)

3	基礎理論の理解　組織とは
事前	配布資料やテキストの該当箇所(107ページ～119ページ)を事前に確認してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。組織論について、説明ができるようにまとめる。(2時間)

4	基礎理論の理解　まとめと非営利組織の経営
事前	配布資料やテキストの該当箇所を事前に確認してくる。経営の基礎理論提唱者について、レポートに取り組み始める。(3時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。非営利組織と営利組織の比較ができるようになる。(1時間)

5	福祉サービスに係る組織や団体　法人とは
事前	テキストの該当箇所(20ページ～32ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。自然人や法人格について、説明ができるようになる。(2時間)

6	福祉サービスに係る組織や団体①　社会福祉法人
事前	テキストの該当箇所(33ページ～47ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。国家試験の傾向をみて、社会福祉法人についての出題と重要ポイントを理解する。(3時間)

7	福祉サービスに係る組織や団体②　NPO法人とその他の組織や団体
事前	テキストの該当箇所(47ページ～75ページ)を熟読してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人との比較で考えるようにする。(3時間)

8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論①　戦略と事業計画
事前	テキストの該当箇所(78ページ～92ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。レポート作成の準備を進め、具体的に進めていく。(2時間)

9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論②　組織と管理運営
事前	テキストの該当箇所(93ページ～106ページ)を熟読してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。レポート作成の準備を進め、具体的に進めていく。(2時間)

10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論③　集団の力学とリーダーシップ
事前	テキストの該当箇所を熟読してくる。レポートの完成に全力を投入する。(4時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。国家試験の出題傾向と合わせて、学習するようにする。(2時間)

11	福祉サービスの管理運営の方法①　サービス管理
事前	テキストの該当箇所(122ページ～174ページ)を熟読してくる。(1時間30分)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人におけるサービス管理を中心に学習を進める。(2時間)

12	福祉サービスの管理運営の方法② 人事管理・労務管理
事前	テキストの該当箇所（176ページ～222ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人におけるサービス管理と人事労務管理を中心に学習を進める。（3時間）

13	福祉サービスの管理運営の方法と実際 実践家招聘
事前	配布資料やテキストの該当箇所（122ページ～222ページ）を確認してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。講演を聞き、自分自身の考えをまとめて、レポートを作成する。（3時間）

14	福祉サービスの管理運営の方法③ 会計管理・財務管理
事前	テキストの該当箇所（224ページ～256ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人における財務会計管理を中心に学習を進める。（2時間）

15	福祉サービスの管理運営の方法④ 情報管理・戦略的広報とまとめ
事前	テキストの該当箇所（258ページ～276ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人における財務会計管理と情報管理を中心に学習を進める。学期末試験範囲を復習する。（4時間）

2020/07/16(木)21:31

科 目 名	福祉サービスの組織と経営 [介心]			授業コード	6640022
副 題	～組織・経営・マネジメントについて営利組織と比較しながら福祉サービス提供組織とその経営に関する基礎的理解を目指して～				
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	別府 政行				

科目に関するキーワード	組織とは何か? マネージメントとは何か？ 経営とは何か？ 法人とは何か? 社会福祉法人におけるヒト・モノ・カネ・情報

到達目標	「組織とは何か？」、「経営とは何か？」、「マネジメントとは何か？」という問いを説明することができる。 福祉サービスに係る組織や団体の特性を理解し、説明することができる。 福祉サービスの組織と経営の基礎的な概念・理論について理解することができる。 福祉サービスの経営や管理運営の方法とその実際を時代の流れとともに整理し、今後の福祉サービスのあり方について論じることができる。			
授業の概要	本授業は、社会福祉士国家試験受験資格に関するの指定科目です。 社会福祉基礎構造改革後、社会福祉施設のあり方は、介護保険制度の開始から大きく動き出し、各分野において「措置から契約に」をキーワードとして大変革を遂げてきました。 援助対象者の福祉ニーズや社会経済活動等は急速に変化しており、福祉サービスが新たな産業へと発展すると同時に、提供する福祉サービスの質が問われるようになり、福祉サービス提供者にとって組織および経営管理が重要課題となってきています。 この授業では、営利組織の経営と比較しながら、福祉サービスに係る組織とその経営に関連する共通的基礎構造、経営理論、その他実務的方法などを多角的に学び理解することを目指します。			
授業方法	講義	アクティブラーニング		
評価方法及び評価基準	試験	授業内の課題や諸活動への取り組み（40%）、開講期寒中に課す課題レポート（1～2回分）（30%）、期末試験（30%）		
フィードバック	講義科目であるため、質問等の回答は次回以降の講義で実施します。			
履修に際しての注意事項	本講義課目は必修科目です。授業に対しての共通目的や貢献意欲を持って、臨んでください。 卒業や国家試験受験も控えていますので、3年次での単位修得を目指して真剣に学習してください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II	○			○			
III							
IV	○						

V							

テキスト1	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営　第5版』2017年、中央法規出版	978-4-8058-5431-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	・浦野正男編『社会福祉施設経営管理論2019』2019年、社会福祉法人全国社会福祉協議会 ・特定非営利活動法人経営能力開発センター (編集)「1経営学の基本 (経営学検定試験公式テキスト) 」2018年、中央経済社 その他、講義の中にも適時提示します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	基礎理論の理解　組織と経営とマネジメント
事前	経営学に関する参考書に目を通してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。「組織」、「経営」、「マネジメント」について、他者に説明できるようにする。(4時間)

2	基礎理論の理解　営利組織の経営
事前	配布資料やテキストの該当箇所(93ページ～119ページ)を事前に確認してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。経営の基礎理論について、興味のある提唱者を探す。(2時間)

3	基礎理論の理解　組織とは
事前	配布資料やテキストの該当箇所(107ページ～119ページ)を事前に確認してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。組織論について、説明ができるようにまとめる。(2時間)

4	基礎理論の理解　まとめと非営利組織の経営
事前	配布資料やテキストの該当箇所を事前に確認してくる。経営の基礎理論提唱者について、レポートに取り組み始める。(3時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。非営利組織と営利組織の比較ができるようになる。(1時間)

5	福祉サービスに係る組織や団体　法人とは
事前	テキストの該当箇所(20ページ～32ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。自然人や法人格について、説明ができるようになる。(2時間)

6	福祉サービスに係る組織や団体①　社会福祉法人
事前	テキストの該当箇所(33ページ～47ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。国家試験の傾向をみて、社会福祉法人についての出題と重要ポイントを理解する。(3時間)

7	福祉サービスに係る組織や団体②　NPO法人とその他の組織や団体
事前	テキストの該当箇所(47ページ～75ページ)を熟読してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人との比較で考えるようにする。(3時間)

8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論①　戦略と事業計画
事前	テキストの該当箇所(78ページ～92ページ)を熟読してくる。(2時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。レポート作成の準備を進め、具体的に進めていく。(2時間)

9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論②　組織と管理運営
事前	テキストの該当箇所(93ページ～106ページ)を熟読してくる。(1時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。レポート作成の準備を進め、具体的に進めていく。(2時間)

10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論③　集団の力学とリーダーシップ
事前	テキストの該当箇所を熟読してくる。レポートの完成に全力を投入する。(4時間)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。国家試験の出題傾向と合わせて、学習するようにする。(2時間)

11	福祉サービスの管理運営の方法①　サービス管理
事前	テキストの該当箇所(122ページ～174ページ)を熟読してくる。(1時間30分)
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人におけるサービス管理を中心に学習を進める。(2時間)

12	福祉サービスの管理運営の方法② 人事管理・労務管理
事前	テキストの該当箇所（176ページ～222ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人におけるサービス管理と人事労務管理を中心に学習を進める。（3時間）

13	福祉サービスの管理運営の方法と実際 実践家招聘
事前	配布資料やテキストの該当箇所（122ページ～222ページ）を確認してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。講演を聞き、自分自身の考えをまとめて、レポートを作成する。（3時間）

14	福祉サービスの管理運営の方法③ 会計管理・財務管理
事前	テキストの該当箇所（224ページ～256ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人における財務会計管理を中心に学習を進める。（2時間）

15	福祉サービスの管理運営の方法④ 情報管理・戦略的広報とまとめ
事前	テキストの該当箇所（258ページ～276ページ）を熟読してくる。（1時間30分）
事後	授業内で説明した用語やキーワードをまとめ理解すること。社会福祉法人における財務会計管理と情報管理を中心に学習を進める。学期末試験範囲を復習する。（4時間）

2020/07/16(木)21:27

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導I [社]			授業コード	6640032
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	1
担 当 者	別府 政行				

科目に関する キーワード	
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4点を授業の到達目標とする。 ・実習の仕組み、意義を理解し説明できるようになる。 ・実習機関の役割及び機能を理解し説明できるようになる。 ・実習中の正しいマナーで行動できるよう意識でき、実践できるようになる。 ・自分自身の適性、将来の希望に沿って、実習機関を選択できるようになる。
授業の概要	実習の事前指導として、相談援助実習の意義、実習の概要、実習分野、実習施設の機能の理解等基礎的な部分の学習をするとともに、マナーや実習記録の書き方等も習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準		レポート及び提出物（40%）、授業内の確認テスト（20%）、授業態度（40%）		
フィードバック				
履修に際しての 注意事項	毎回出席し、積極的授業に参加すること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III							
IV							

V							

テキスト1	本学作成の「実習のてびき」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	実習及び実習指導の意義
事前	
事後	
2	実習制度、実習構造の理解
事前	
事後	
3	実習プロセス、実習方法の理解
事前	
事後	
4	実習施設の選択方法
事前	
事後	
5	実習施設の理解 （高齢者、障害者施設等）
事前	
事後	
6	実習施設の理解 （児童施設、福祉事務所、社会福祉協議会等）
事前	
事後	
7	確認テスト
事前	
事後	
8	実習報告会への参加 （合同授業）
事前	
事後	
9	3年生との交流会 （合同授業）
事前	
事後	
10	実習先の希望について （自分自身の適性と将来の進路を考える）
事前	
事後	
11	実習記録の作成方法 （記録の意義、書き方）
事前	
事後	
12	実習記録の作成方法 （記録作成上の注意点）
事前	
事後	
13	マナーについて （利用者への対応）
事前	

事後	

14	マナーについて （職員への対応）
事前	
事後	

15	まとめ（実習コンピテンス自己評価）
事前	
事後	

2020/07/16(木)10:53

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	6640040
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	別府 政行				

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る
授業方法	演習 / アクティブラーニング ○			少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法 及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての 注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:30

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	6640053
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	別府 政行				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関する キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士
到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。

授業方法	実習	アクティブ ラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法 及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての 注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)20:55

科 目 名	社会的養護/社会的養護I [子]			授業コード	6650011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	細井 純子				

科目に関するキーワード	「社会的養護」「国の取り組み」(内閣府)「子どもの最善の利益」「社会的養護の法体系」「社会的養護のあるべき姿へ」

到達目標	親の養育能力の低下が問題視されている現在、保育士は社会的養護を担う一員であるため、社会的養護の基本的なあり方を学ぶことは必須のことと言えるでしょう。授業では、基本的概念(「ノーマライゼーション」「インクルージョン」「児童の最善の利益」など)を理解したうえで、さらに、1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷についての理解 2.子供の人権擁護を踏まえた社会的養護の基本についての理解 3.社会的養護の制度や実施体系等についての理解 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等についての理解 5. 社会的養護の現状と課題についての理解を目指すことで、汎用的な知識・技能の獲得や、それらを活用する能力の養成を目標として行きます。また、子ども一人ひとりの発達に即して適切な援助を行う能力も養うことができるようになります。			
授業の概要	昨今、子どもを取り巻く社会的状況が変化し、虐待を受けた子ども、非行を犯した子ども、さまざまな理由で社会的支援を受けながら生活している子どもが少なからずいます。子どもの抱える問題はそれぞれの子どもなりの背景や理由があると考えられますが、その背景や理由が理解できなければ、子どもの援助関係に入ることは難しいと言えるでしょう。授業では社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族に向き合う姿勢、援助計画の立て方、援助の進め方、援助において活用する資源等、かかわりの基本を学ぶこととします。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワークでの事例研究によるディスカッション及び解決型学習(全3回) 小論文やレポートによる課題発見、解決型学習(全2回)
評価方法及び評価基準	レポート	レポート(40%)、小論(40%)、授業中の活動状況〔コメントシートやディスカッションにおける発言などの授業への参加など〕(20%)で評価します。		
フィードバック	「レポート」や「小論」に関しては、授業内で全体の総評や講評、そして解説を行います。			
履修に際しての注意事項	授業は、対話型・参加型の授業としますので、積極的に取り組むこと。 遅刻(早退)3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III					○		
IV							

V							

テキスト1	毎回、プリント配布	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』ミネルヴァ書房 2016年 相澤仁・林浩康編集『社会的養護Ⅰ』中央法規出版株式会社 2019年 厚生労働省 「社会的養護の現状について(参考資料)」 平成29年12月 URL:http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000187952.pdf 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会における社会的養護の意義:社会的養護の理念と概念
事前	「社会的養護」にはどのようなものがあるか、調べておくこと(1.5hrs)
事後	「社会的養護」の種類、また施設養護における施設名と対象児童を理解すること (2.5hrs)

2	社会的養護と児童家庭福祉:現代社会に暮らす子どもと家庭
事前	現代の日本社会、子どもの置かれた状況を調べておくこと (1.5hrs)
事後	現代の日本社会や子どもと家族の置かれた状況、子どもを産み育てることの意味を学ぶとともに、内閣府の資料による「これまでの取組」の流れを理解すること (2.5hrs)

3	児童の権利擁護と社会的養護
事前	児童の権利に関する歴史を下調べしておくこと(1.5hrs)
事後	児童の権利に関する歴史及び「子どもの権利条約」の内容理解、そして、日本のみならず世界における子どもたちの現状から子どもの養護のあり方を考えること (2.5hrs)

4	社会的養護の歴史的変遷:世界における子どもの養護の歴史
事前	海外の子どもの養護の歴史として、イギリスとアメリカの歴史を調べておくこと (1.5hrs)
事後	イギリスとアメリカの養護の歴史の理解と、今後の子どもの養護の展開を「里親制度」の下で習得していくこと(2.5hrs)

5	社会的養護の歴史的変遷:日本における子どもの養護の歴史
事前	日本の明治時代以降の児童保護について調べておくこと (1.5hrs)
事後	明治維新前と明治維新以後、そして大正時代、昭和時代から平成時代に至るまでの歴史の流れを理解すると共に、3回目の授業の日本における「これまでの取組」の流れを復習すること (2.5hrs)

6	児童養護の制度と法体系
事前	1回目のプリント「社会的養護の現状」の施設養護の役割を復習しておくこと (1.5hrs)
事後	社会養護の制度、相談機関、家庭養護、施設養護を理解したうえで、社会的養護の施設とその役割のみならず、社会的養護の法体系における法律名も覚えること (2.5hrs)

7	施設養護の特質
事前	第1回目のレジュメを参考にしながら、施設養護の種類と役割を調べておくこと(1.5hrs)
事後	施設養護の役割を理解すると共に、施設養護のマイナス面から、今後の養護のあり方を学び、理解すること (2.5hrs)

8	施設養護の基本原理
事前	施設養護における「養護の目的」及び「養護の基本原理」は何か、調べておくこと (1.5hrs)
事後	「児童の権利に関する条約」「児童福祉法」「児童憲章」における社会的養護の基本理念を理解すること (2.5hrs)

9	施設養護の実際:日常生活および自立支援
事前	施設養護の役割にはどのようなものがあるのか調べ、自分なりにまとめておくこと (1.5hrs)
事後	「自立支援」の実際として自立にはどのようなものがあるのか、また、「経済的職業的自立」「心理社会的自立」「生活技術的自立」などの側面を理解すること (2.5hrs)

10	施設養護の実際：治療的・支援的援助
事前	施設養護において治療的・支援的援助にはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	施設における治療的・支援的援助を理解すると共に、施設における親子関係の調整機能を学ぶこと (2.5hrs)

11	施設養護の実際：親子・地域との関係調整
事前	前回に続いて、施設養護における親子関係調整のために、施設ではどのような治療的援助が行われているのか調べること (1.5 hrs)
事後	実際に行われている親子関係の調整についてどのような支援が行われているのかを理解し、調整方法の有効な在り方を学ぶこと (2.5hrs)

12	社会的養護とソーシャルワーク
事前	「ソーシャルワークとは」「ソーシャルワークが大切にするものは」を調べておくこと (1.5hrs)
事後	「ソーシャルワークが大切にすること」を中心に、ソーシャルワークが社会的養護と児童自立支援計画との間にどのような関わりを持つのかを理解すること (2.5hrs)

13	児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理
事前	児童家庭福祉援助者としてどのような資質や倫理が求められるのか調べておくこと (1.5hrs)
事後	援助者としての資質や倫理について学んだうえ、今後の「施設の小規模化と家庭的推進」の視点から援助者の役割を理解すること

14	社会的養護の現状と課題：社会的養護のあるべき姿へ
事前	これまでの授業の学びを通して、「社会的養護のあるべき姿」を自分なりに考えておくこと(1.5hrs)
事後	海外における里親の委託率と国際組織の活動を通して、日本の社会的養護のあり方の考察を深めること (2.5hrs)

15	まとめ
事前	これまでの復習とともに、里親制度と養子制度の違いを調べておくこと (1.5hrs)
事後	里親制度と養子縁組制度の違いを理解したうえで、これから求められる社会的養護のあり方を振り返り、理解すること (2.5hrs)

2020/07/16(木)21:01

科 目 名	社会的養護/社会的養護I [子]			授業コード	6650021
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	細井 純子				

科目に関する キーワード	「社会的養護」「国の取り組み」(内閣府)「子どもの最善の利益」「社会的養護の法体系」「社会的養護のあるべき姿へ」

到達目標	親の養育能力の低下が問題視されている現在、保育士は社会的養護を担う一員であるため、社会的養護の基本的なあり方を学ぶことは必須のことと言えるでしょう。授業では、基本的概念(「ノーマライゼーション」「インクルージョン」「児童の最善の利益」など)を理解したうえで、さらに、1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷についての理解 2.子供の人権擁護を踏まえた社会的養護の基本についての理解 3.社会的養護の制度や実施体系等についての理解 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等についての理解 5. 社会的養護の現状と課題についての理解を目指すことで、汎用的な知識・技能の獲得や、それらを活用する能力の養成を目標として行きます。また、子ども一人ひとりの発達に即して適切な援助を行う能力も養うことができるようになります。			
授業の概要	昨今、子どもを取り巻く社会的状況が変化し、虐待を受けた子ども、非行を犯した子ども、さまざまな理由で社会的支援を受けながら生活している子どもが少なからずいます。子どもの抱える問題はそれぞれの子どもなりの背景や理由があると考えられますが、その背景や理由が理解できなければ、子どもの援助関係に入ることは難しいと言えるでしょう。授業では社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族に向き合う姿勢、援助計画の立て方、援助の進め方、援助において活用する資源等、かかわりの基本を学ぶこととします。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	グループワークでの事例研究によるディスカッション及び解決型学習(全3回) 小論文やレポートによる課題発見、解決型学習(全2回)
評価方法 及び評価基準	レポート	レポート(40%)、小論(40%)、授業中の活動状況〔コメントシートやディスカッションにおける発言などの授業への参加など〕(20%)で評価します。		
フィードバック	「レポート」や「小論」に関しては、授業内で全体の総評や講評、そして解説を行います。			
履修に際しての 注意事項	授業は、対話型・参加型の授業としますので、積極的に取り組むこと。 遅刻(早退)3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III					○		
IV							

V							

テキスト1	毎回、プリント配布	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』ミネルヴァ書房 2016年 相澤仁・林浩康編集『社会的養護Ⅰ』中央法規出版株式会社 2019年 厚生労働省 「社会的養護の現状について(参考資料)」 平成29年12月 URL:http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000187952.pdf 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館,2018 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	現代社会における社会的養護の意義:社会的養護の理念と概念
事前	「社会的養護」にはどのようなものがあるか、調べておくこと(1.5hrs)
事後	「社会的養護」の種類、また施設養護における施設名と対象児童を理解すること (2.5hrs)

2	社会的養護と児童家庭福祉:現代社会に暮らす子どもと家庭
事前	現代の日本社会、子どもの置かれた状況を調べておくこと (1.5hrs)
事後	現代の日本社会や子どもと家族の置かれた状況、子どもを産み育てることの意味を学ぶとともに、内閣府の資料による「これまでの取組」の流れを理解すること (2.5hrs)

3	児童の権利擁護と社会的養護
事前	児童の権利に関する歴史を下調べしておくこと(1.5hrs)
事後	児童の権利に関する歴史及び「子どもの権利条約」の内容理解、そして、日本のみならず世界における子どもたちの現状から子どもの養護のあり方を考えること (2.5hrs)

4	社会的養護の歴史的変遷:世界における子どもの養護の歴史
事前	海外の子どもの養護の歴史として、イギリスとアメリカの歴史を調べておくこと (1.5hrs)
事後	イギリスとアメリカの養護の歴史の理解と、今後の子どもの養護の展開を「里親制度」の下で習得していくこと(2.5hrs)

5	社会的養護の歴史的変遷:日本における子どもの養護の歴史
事前	日本の明治時代以降の児童保護について調べておくこと (1.5hrs)
事後	明治維新前と明治維新以後、そして大正時代、昭和時代から平成時代に至るまでの歴史の流れを理解すると共に、3回目の授業の日本における「これまでの取組」の流れを復習すること (2.5hrs)

6	児童養護の制度と法体系
事前	1回目のプリント「社会的養護の現状」の施設養護の役割を復習しておくこと (1.5hrs)
事後	社会養護の制度、相談機関、家庭養護、施設養護を理解したうえで、社会的養護の施設とその役割のみならず、社会的養護の法体系における法律名も覚えること (2.5hrs)

7	施設養護の特質
事前	第1回目のレジュメを参考にしながら、施設養護の種類と役割を調べておくこと(1.5hrs)
事後	施設養護の役割を理解すると共に、施設養護のマイナス面から、今後の養護のあり方を学び、理解すること (2.5hrs)

8	施設養護の基本原理
事前	施設養護における「養護の目的」及び「養護の基本原理」は何か、調べておくこと (1.5hrs)
事後	「児童の権利に関する条約」「児童福祉法」「児童憲章」における社会的養護の基本理念を理解すること (2.5hrs)

9	施設養護の実際:日常生活および自立支援
事前	施設養護の役割にはどのようなものがあるのか調べ、自分なりにまとめておくこと (1.5hrs)
事後	「自立支援」の実際として自立にはどのようなものがあるのか、また、「経済的職業的自立」「心理社会的自立」「生活技術的自立」などの側面を理解すること (2.5hrs)

10	施設養護の実際：治療的・支援的援助
事前	施設養護において治療的・支援的援助にはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	施設における治療的・支援的援助を理解すると共に、施設における親子関係の調整機能を学ぶこと (2.5hrs)

11	施設養護の実際：親子・地域との関係調整
事前	前回に続いて、施設養護における親子関係調整のために、施設ではどのような治療的援助が行われているのか調べること (1.5 hrs)
事後	実際に行われている親子関係の調整についてどのような支援が行われているのかを理解し、調整方法の有効な在り方を学ぶこと (2.5hrs)

12	社会的養護とソーシャルワーク
事前	「ソーシャルワークとは」「ソーシャルワークが大切にするものは」を調べておくこと (1.5hrs)
事後	「ソーシャルワークが大切にすること」を中心に、ソーシャルワークが社会的養護と児童自立支援計画との間にどのような関わりを持つのかを理解すること (2.5hrs)

13	児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理
事前	児童家庭福祉援助者としてどのような資質や倫理が求められるのか調べておくこと (1.5hrs)
事後	援助者としての資質や倫理について学んだうえ、今後の「施設の小規模化と家庭的推進」の視点から援助者の役割を理解すること

14	社会的養護の現状と課題：社会的養護のあるべき姿へ
事前	これまでの授業の学びを通して、「社会的養護のあるべき姿」を自分なりに考えておくこと(1.5hrs)
事後	海外における里親の委託率と国際組織の活動を通して、日本の社会的養護のあり方の考察を深めること (2.5hrs)

15	まとめ
事前	これまでの復習とともに、里親制度と養子制度の違いを調べておくこと (1.5hrs)
事後	里親制度と養子縁組制度の違いを理解したうえで、これから求められる社会的養護のあり方を振り返り、理解すること (2.5hrs)

2020/07/16(木)20:53

科 目 名	ソーシャルワークIV [社]			授業コード	6650032
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	細井 純子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーカーの倫理綱領、実践モデルとアプローチ、スーパービジョン、権利擁護、事例分析

到達目標	・ソーシャルワークの学びにおいて相談援助及び対人援助のあり方を専門的に学習し、ソーシャルワーカーの役割や意義が理解できるようになります。 ・ソーシャルワークの必要な知識や技術を習得することを目標とします。そして、これらの目標に到達できるよう、いろいろな文献や事例研究により学びを深めることができるようになります。 ・講義を通して、汎用的な知識・技能を習得し、グループワークでのディスカッションを通して、活用する能力、そして、事例問題を通して生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を養うことができるようになります。			
授業の概要	この授業では、相談援助専門職における基本としての役割と意義、概念と範囲、チームアプローチの意義と内容等について、講義を通して理解を深めることとします。また、より良い相談援助の展開のために必要とされるスーパービジョン、記録の取り方、個人情報保護、事例分析の方法を学ぶこととします。また、数多くの事例研究を行うことにより、現場での援助のあり方を考察することとします。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワークでの事例研究によるディスカッション及び解決型学習 小論文による課題発見、解決型学習
評価方法及び評価基準	試験	学期末試験(40%)、小論(35%)、授業中の活動状況〔小テストやコメントシートなど〕(25%)で評価します。		
フィードバック	小論については、授業内でテーマ別にタイトルの紹介を行い、内容を学生にフィードバックします。 期末試験については「でんでんばん」に総評を載せます。			
履修に際しての注意事項	社会福祉実践における相談援助技術を学ぶ基盤的科目であるため、主体的、積極的に授業に取り組むこと。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	毎回、プリント配布	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	MINERVA社会福祉士養成テキストブック 『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』など	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義
事前	社会福祉士及び精神保健福祉士の役割とはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	社会福祉士及び精神保健福祉士が職場においてどのような役割を果たしているのかを理解すること (2.5hrs)

2	相談援助の概念と範囲
事前	国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義及び新定義を調べ、その内容について考えておくこと (1.5hrs)
事後	国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義及び新定義それぞれの内容を比較することで、新定義が新たに求めているもの、そして、ソーシャルワークが介入する範囲を理解すること (2.5hrs)

3	相談援助における権利擁護の意義
事前	「権利擁護」とは何か、またそれが必要とされる背景にはどのようなものがあるか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	「権利擁護」及び、「成年後見制度」と「日常自立支援事業」の違いを学び、社会的弱者が必要なサービスに至るまでの過程を理解すること (2.5hrs)

4	相談援助にかかわる専門職の概念と範囲
事前	専門職としての社会福祉士であるための条件にはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	相談援助専門職の概念を学び、生活支援の専門職としてのソーシャルワーカーについて理解すること。また相談援助専門職にはどのような職場があるのか知識を得ること (2.5hrs)

5	総合的かつ包括的な援助と他職種連携
事前	ケースワーク、グループワーク、コミュニティオーガニゼーションの成立について調べておくこと (1.5hrs)
事後	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・アプローチの成立及び特質を理解すること (2.5hrs)

6	スーパービジョンの意味と目的、留意点・方法
事前	スーパービジョンの意義と目的を調べておくこと (1.5hrs)
事後	スーパービジョンの定義、意義、目的、形態、必要性を理解すること (2.5hrs)

7	相談援助における記録の意味と方法
事前	相談援助における記録の意味と目的を調べておくこと (1.5hrs)
事後	相談援助における記録の意味と目的を理解したうえで、公式記録などの記録の方法を学び、また図表を用いた記録として「ジェノグラム」「エコマップ」を自分で書くことができるように習得すること (2.5hrs)

8	記録と相談援助における個人情報保護 (1) ICTとソーシャルワーク
事前	情報通信技術が実際どのように利用されているか調べること (1.5hrs)
事後	「情報化とICT」及び「ICT活用の問題点や課題」、そして「OECDの8原則」を理解すること (2.5hrs)

9	記録と相談援助における個人情報保護 (2) 個人情報保護制度の概要
事前	個人情報保護法制整備の背景を調べておくこと (1.5hrs)
事後	個人情報保護制度関係の主な経緯を理解し、個人情報保護制度の概要及びOECDの8原則の知識を得ること (2.5hrs)

10	事例研究の意義と目的、留意点・方法
事前	事例研究の意義と目的について調べること (1.5hrs)
事後	事例研究の起源、意義と目的、及び方法を学び、方法におけるキーワードを習得すること (2.5hrs)

11	実践モデルとアプローチ (1) 概要
事前	ソーシャルケースワークの歴史を調べておくこと (1.5hrs)
事後	ソーシャルケースワークが誕生した背景と歴史、及びケースワーク理論を理解すること (2.5hrs)

12	実践モデルとアプローチ (2) 各アプローチにおける展開

事前	ケースワークのアプローチについて調べておくこと (1.5hrs)
事後	実践モデルと各アプローチの背景を学び、各アプローチを理解すること (2.5hrs)

13	相談援助の実際 (1) 虐待へのソーシャルワーク活動
事前	児童虐待に対するソーシャルワーク活動について調べておくこと (1.5hrs)
事後	具体的な児童虐待例に対するソーシャルワーク活動を学び、ソーシャルワークの現場の仕事と意味が理解できるようになること (2.5hrs)

14	相談援助の実際 (2) 貧困・ホームレスへのソーシャルワーク活動
事前	貧困に関するソーシャルワーク活動について調べておくこと (1.5hrs)
事後	貧困の中には見えない貧困があること、そして貧困に伴う問題点などの理解を深めることができるようになること (2.5hrs)

15	相談援助の実際 (3) 地域包括ケアへのソーシャルワーク活動
事前	「地域包括ケア」とは何か、調べておくこと (1.5hrs)
事後	地域ケア会議の目的と機能、地域包括ケアシステム実現につながるプロセスを学ぶことで地域包括ケアの理解を深めることができるようになること (2.5hrs)

2020/07/16(木)20:58

科 目 名	ソーシャルワークIV [介心]			授業コード	6650042
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	細井 純子				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーカーの倫理綱領、実践モデルとアプローチ、スーパービジョン、権利擁護、事例分析
到達目標	・ソーシャルワークの学びにおいて相談援助及び対人援助のあり方を専門的に学習し、ソーシャルワーカーの役割や意義が理解できるようになります。 ・ソーシャルワークの必要な知識や技術を習得することを目標とします。そして、これらの目標に到達できるよう、いろいろな文献や事例研究により学びを深めることができるようになります。 ・講義を通して、汎用的な知識・技能を習得し、グループワークでのディスカッションを通して、活用する能力、そして、事例問題を通して生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を養うことができるようになります。
授業の概要	この授業では、相談援助専門職における基本としての役割と意義、概念と範囲、チームアプローチの意義と内容等について、講義を通して理解を深めることとします。また、より良い相談援助の展開のために必要とされるスーパービジョン、記録の取り方、個人情報保護、事例分析の方法を学ぶこととします。また、数多くの事例研究を行うことにより、現場での援助のあり方を考察することとします。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループワークでの事例研究によるディスカッション及び解決型学習 小論文による課題発見、解決型学習
評価方法及び評価基準	試験	学期末試験(40%)、小論(35%)、授業中の活動状況〔小テストやコメントシートなど〕(25%)で評価します。		
フィードバック	小論については、授業内でテーマ別にタイトルの紹介を行い、内容を学生にフィードバックします。 期末試験については「でんでんばん」に総評を載せます。			
履修に際しての注意事項	社会福祉実践における相談援助技術を学ぶ基盤的科目であるため、主体的、積極的に授業に取り組むこと。 遅刻（早退）3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	毎回、プリント配布	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	MINERVA社会福祉士養成テキストブック 『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』など	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義
事前	社会福祉士及び精神保健福祉士の役割とはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	社会福祉士及び精神保健福祉士が職場においてどのような役割を果たしているのかを理解すること (2.5hrs)

2	相談援助の概念と範囲
事前	国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義及び新定義を調べ、その内容について考えておくこと (1.5hrs)
事後	国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義及び新定義それぞれの内容を比較することで、新定義が新たに求めているもの、そして、ソーシャルワークが介入する範囲を理解すること (2.5hrs)

3	相談援助における権利擁護の意義
事前	「権利擁護」とは何か、またそれが必要とされる背景にはどのようなものがあるか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	「権利擁護」及び、「成年後見制度」と「日常自立支援事業」の違いを学び、社会的弱者が必要なサービスに至るまでの過程を理解すること (2.5hrs)

4	相談援助にかかわる専門職の概念と範囲
事前	専門職としての社会福祉士であるための条件にはどのようなものがあるのか、調べておくこと (1.5hrs)
事後	相談援助専門職の概念を学び、生活支援の専門職としてのソーシャルワーカーについて理解すること。また相談援助専門職にはどのような職場があるのか知識を得ること (2.5hrs)

5	総合的かつ包括的な援助と他職種連携
事前	ケースワーク、グループワーク、コミュニティオーガニゼーションの成立について調べておくこと (1.5hrs)
事後	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・アプローチの成立及び特質を理解すること (2.5hrs)

6	スーパービジョンの意味と目的、留意点・方法
事前	スーパービジョンの意義と目的を調べておくこと (1.5hrs)
事後	スーパービジョンの定義、意義、目的、形態、必要性を理解すること (2.5hrs)

7	相談援助における記録の意味と方法
事前	相談援助における記録の意味と目的を調べておくこと (1.5hrs)
事後	相談援助における記録の意味と目的を理解したうえで、公式記録などの記録の方法を学び、また図表を用いた記録として「ジェノグラム」「エコマップ」を自分で書くことができるように習得すること (2.5hrs)

8	記録と相談援助における個人情報保護 (1) ICTとソーシャルワーク
事前	情報通信技術が実際どのように利用されているか調べること (1.5hrs)
事後	「情報化とICT」及び「ICT活用の問題点や課題」、そして「OECDの8原則」を理解すること (2.5hrs)

9	記録と相談援助における個人情報保護 (2) 個人情報保護制度の概要
事前	個人情報保護法制整備の背景を調べておくこと (1.5hrs)
事後	個人情報保護制度関係の主な経緯を理解し、個人情報保護制度の概要及びOECDの8原則の知識を得ること (2.5hrs)

10	事例研究の意義と目的、留意点・方法
事前	事例研究の意義と目的について調べること (1.5hrs)
事後	事例研究の起源、意義と目的、及び方法を学び、方法におけるキーワードを習得すること (2.5hrs)

11	実践モデルとアプローチ (1) 概要
事前	ソーシャルケースワークの歴史を調べておくこと (1.5hrs)
事後	ソーシャルケースワークが誕生した背景と歴史、及びケースワーク理論を理解すること (2.5hrs)

12	実践モデルとアプローチ (2) 各アプローチにおける展開

事前	ケースワークのアプローチについて調べておくこと (1.5hrs)
事後	実践モデルと各アプローチの背景を学び、各アプローチを理解すること (2.5hrs)

13	相談援助の実際 (1) 虐待へのソーシャルワーク活動
事前	児童虐待に対するソーシャルワーク活動について調べておくこと (1.5hrs)
事後	具体的な児童虐待例に対するソーシャルワーク活動を学び、ソーシャルワークの現場の仕事と意味が理解できるようになること (2.5hrs)

14	相談援助の実際 (2) 貧困・ホームレスへのソーシャルワーク活動
事前	貧困に関するソーシャルワーク活動について調べておくこと (1.5hrs)
事後	貧困の中には見えない貧困があること、そして貧困に伴う問題点などの理解を深めることができるようになること (2.5hrs)

15	相談援助の実際 (3) 地域包括ケアへのソーシャルワーク活動
事前	「地域包括ケア」とは何か、調べておくこと (1.5hrs)
事後	地域ケア会議の目的と機能、地域包括ケアシステム実現につながるプロセスを学ぶことで地域包括ケアの理解を深めることができるようになること (2.5hrs)

2020/07/16(木)20:47

科 目 名	公民科教育法I/公民科教育法 [心]			授業コード	6660012
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	本田 清				

科目に関する キーワード	学習指導要領・様々な教育法・現代社会・倫理・政治経済・ニュースプレゼン

到達目標	・高等学校公民科の現代社会・倫理・政治経済の各科目の目標・内容・内容の取扱いについて理解する。 ・公民科で使える様々な学習の仕方について知り、活用できるようになる。			
授業の概要	「公民科教育法Ⅰ」においては、高等学校学習指導要領に示された公民科各教科目、現代社会、倫理、政治・経済の各科目の目標・内容・内容の取扱いについて理解し、公民科教育員として必要な基礎的知識を身につける。 ①ニュースプレゼンは、キャスター役がニュースの概要とキャスターとしての意見を2～3分で発表し、キャスターは聴衆のコメントを評価する。 ②授業内で提出するミニレポートは、その授業内での重要事項を説明したり、それらに対する自分の意見や考えをまとめるものである。 ③最終レポートは、授業内で学習した事柄から課題を出し、自分の意見や考えをまとめるものである。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	様々な情報からテーマを決め、ニュースの事実とキャスターとしての考えを3分で発表する。
評価方法 及び評価基準	レポート	ニュースプレゼン30% 及び レポート(ミニ20%・最終50%)		
フィードバック	レポートは、コメントを返す。ニュースプレゼンはコメント及び相互評価する。			
履修に際しての 注意事項	「公民科教育法Ⅱ」を必ず履修すること。各授業ごとにミニレポートを提出するので、欠席するとその分のポイントが加算されない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I					○		
II			○				
III							
IV						○	

V							

テキスト1	高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年告示）文部科学省	
テキスト2	高等学校教科書「現代社会」東京書籍	
テキスト3		
参考文献	新版　社会・地歴・公民の教育　大森正・石渡延男編　梓出版社	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション「公民科教育法Ⅰ」の概要
事前	高等学校学習指導要領解説・公民を入手し、目を通す。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
2	ニュースプレゼン① 公民科とは何か・公民科の歴史
事前	「現代社会」の教科書に目を通す。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
3	ニュースプレゼン② 高等学校・公民科の学習指導要領
事前	高等学校学習指導要領解説・公民を読む。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
4	ニュースプレゼン③ 中学校・社会科の学習指導要領との関連、高等学校公民科各科目の内容連携
事前	中学校学習指導要領解説・社会を読む。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
5	ニュースプレゼン④ パワーポイントを活用した授業
事前	パワーポイントの使い方の復習（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
6	ニュースプレゼン⑤ 新聞、インターネット、実物教材等の扱い方
事前	本日の（なければ最近の）新聞持参（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
7	ニュースプレゼン⑥ ディベート、討論、プレゼンテーション等様々な学習形態
事前	ディベートのやり方を知る。（2時間）
事後	論題のメリット・デメリットを考える。（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
8	ニュースプレゼン⑦ 「現代社会」の内容と学習指導①日本国憲法と民主政治
事前	日本国憲法をすべて読む。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
9	ニュースプレゼン⑧ 「現代社会」の内容と学習指導②現代の経済と国民福祉
事前	「戦後復興と高度経済成長」「環境保全と循環型社会」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
10	ニュースプレゼン⑨ 「現代社会」の内容と学習指導③国際社会と人類の課題
事前	「国際紛争を避けるしくみ」「地域紛争と難民問題」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
11	ニュースプレゼン⑩ 「倫理」の内容と学習指導①人間としての自覚と生き方
事前	「人権思想の形成」「社会の発展と幸福の追求」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
12	ニュースプレゼン⑪ 「倫理」の内容と学習指導②現代社会と倫理
事前	「生命科学と倫理」「地球環境と倫理」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）
13	ニュースプレゼン⑫ 「政治・経済」の内容と学習指導①現代の国際政治と日本
事前	「現代の国際政治」「核兵器と軍縮の動き」「国際社会における日本の役割」を熟読する。（2時間）

事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）

14	ニュースプレゼン⑬ 「政治・経済」の内容と学習指導②現代経済のしくみと特質
事前	「経済社会の変容と経済思想」「三つの経済主体と経済の循環」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、ニュースプレゼンの準備（担当者）（2時間）

15	ニュースプレゼン⑭ まとめ 自己評価
事前	後期半年間の授業の振り返り準備（2時間）
事後	後期半年間の授業の振り返り（2時間）

2020/07/16(木)20:54

科 目 名	公民科教育法II/公民科指導法 [心]			授業コード	6660022
副 題					
開講期	後期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	本田 清				

科目に関する キーワード	学習指導案・模擬授業・模擬授業の総括・望ましい学習指導案

到達目標	学習指導案の書き方を身につけ、模擬授業を通して授業実践力を身につけることで、高等学校公民科教師として授業ができるようになる。			
授業の概要	「公民科教育法Ⅱ」においては、授業実践力を身につけるため、 ①学習指導案の書き方を身につける。 ②教科書・資料を読み込み、学習指導案を作成する。 ③作成した学習指導案に基づき、模擬授業する。 ④模擬授業を振り返り、良かった点と修正すべき点を認識する。 ⑤模擬授業をした学習指導案を、より良いものに修正する。(これが、改訂版望ましい学習指導案です。)			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	作成した学習指導案に基づいて50分の模擬授業をする。
評価方法 及び評価基準	レポート	学習指導案30% 模擬授業30% 模擬授業の振り返り20% 改訂版望ましい学習指導案20% A:よくできている B:まあよくできている C:工夫や努力が必要		
フィードバック	①学習指導案を事前に提出させ、改善の方向性をアドバイスする。 ②模擬授業の良かった点を評価し、改善すべき点を指摘する。 ③望ましい学習指導案を評価する。			
履修に際しての 注意事項	「公民科教育法Ⅰ」を必ず履修すること。毎授業ごとにミニレポートを提出するので、欠席するとその分のポイントが加算されない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III			○				
IV							

V						○	

テキスト1	高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年告示）文部科学省	
テキスト2	高等学校教科書「現代社会」東京書籍	
テキスト3		
参考文献	高等学校現代倫理　改訂版　清水書院・高等学校新政治・経済　最新版　清水書院	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 「公民科教育法Ⅱ」の概要
事前	高等学校学習指導要領解説・公民を入手し、目を通す。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、「学習指導案作成教本」を読む。（全員）（2時間）
2	学習指導案の書き方
事前	「学習指導案作成教本」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、「学習指導案作成教本」を読む。（全員）（2時間）
3	教材研究と学習指導案の作成①構想から略案、そして濟案へ
事前	「学習指導案作成教本」を熟読する。（2時間）
事後	授業の復習（全員）、「学習指導案作成教本」を読み返す。（全員）（2時間）
4	教材研究と学習指導案の作成②目標と評価規準の関係
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
5	教材研究と学習指導案の作成③指導過程―導入・展開・まとめ―
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
6	模擬授業と反省・評価①宗教と人間
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
7	模擬授業と反省・評価②基本的人権の保障
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
8	模擬授業と反省・評価③国会と立法
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
9	模擬授業と反省・評価④選挙のしくみと課題
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
10	模擬授業と反省・評価⑤司法と人権
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
11	模擬授業と反省・評価⑥戦後復興と高度経済成長
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
12	模擬授業と反省・評価⑦自立した消費者への道
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
13	模擬授業と反省・評価⑧国際連合の目的と課題
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）

事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）

14	模擬授業と反省・評価⑨地域紛争と難民問題
事前	模擬授業小単元を熟読する。（全員）学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）
事後	望ましい学習指導案を考える。（全員）、改訂版望ましい学習指導案を完成させる。（授業者）（2時間）

15	まとめ、自己評価
事前	後期半年間の授業の振り返り準備（2時間）
事後	後期半年間の授業の振り返り（2時間）

2020/07/16(木)22:12

科 目 名	人間と性 [社介]			授業コード	6670012
副 題	あなたをとりまく性と生を学ぶ				
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	正岡 美麻				

科目に関する キーワード	セクシュアリティ、性、マジョリティ／マイノリティ

到達目標	各テーマについて、正しい基本的知識をもち、かつ真剣に向き合う姿勢を養うことがねらいです。 普段なかなか語られにくい性に関する事象について熟考することを通じて自分なりの意見を持てるようになって欲しいと思います。 その上で、 1.「誰かのこと」でなく「自分のこと」「隣のこの人のこと」として性に関する情報に触れ、自分の生活と絡めて考えられるようになる。 2. 対人支援の場で適切な支援を行う素地を持つことができる。 この二点を目標とします。			
授業の概要	「性」は表立って話したり真正面から取り上げられることが少ないためか間違った知識をもち、それを修正する機会をもつことが難しくなりがちなテーマです。しかし、本当は生きることに関わり、「自分には全く関係ない」という人は1人もいない大事なテーマです。 そして、対人支援の場に身を置くのであれば、支援する相手と自分のために絶対に知っておきたい話が非常に多く含まれています。 本授業では、身体の成長や妊娠・出産など生殖に関する性の基本的な話から、デートDV、ゲイ，レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）、性別違和（性同一性障害）などのセクシュアルマイノリティ、障害者／障がい者（身体、知的、精神）や高齢者の性についてなど、幅広いトピックを取り扱います。 映像資料や配布資料を通して、学問的な学びはもちろん、様々な「専門家」や「当事者」「現場の人たち」の“今の声”を聞く機会もできるだけ多く設けます。 さらに、その知識をつかって「自分はどう思うか？」を沢山考えてほしいと思っています。 性について、いろいろ知っていると思う人も、まだあまり知らないと思う人も、マジョリティ（多数派）だと思う人も、マイノリティ（少数派）だと思う人も、自分について色々考えたい人も、支援者として力をつけたい人も、ぜひ一緒に話を聞いて自分の姿勢を探ってみませんか？ 「生」と「性」について真面目に、でも固くなりすぎずに考えてみたい人を歓迎します。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	受講生同士でのグループワーク・ディスカッション等（個々のプライベートなことについて無理に話すよう求めることはありません。）
評価方法 及び評価基準	レポート	①毎回の授業に臨む態度とリアクションペーパー（5点×14回＝70点） ②学期末課題（みなさんが性の話題について適切に（＝正しい知識を、他者を尊重する意識をもって）発信できるかを問う・30点） を併せて評価します。		
フィードバック	毎回、リアクションペーパーの提出が求められます。許可が得られたものに関して匿名で次回授業の際に受講生全体でシェアし、講評等行いますので、他者の考えも聞きつつ自身のさらなる学びを深めてください。			
履修に際しての 注意事項	①性はプライバシーに関わる事柄が多く含まれます。自分の意見を述べて（書いて）もらうことが多いですが、あくまで「話したいと思える」範囲で構いません。また、他者の話を無理に聞き出さないようにしましょう。リアクションペーパーも、皆さんの前で匿名で読んで構わないか確認しますので、嫌な場合はリアクションペーパーにそのように書いてください。 お互いの距離を守り、無理なく参加してください。（私も気をつけますので、気になることがあれば指摘してください！） ②基本的には、授業にしっかり参加していただくことできちんと学べ、単位も取得できる内容になっていますので、予習復習もさることながら、授業を一番大事にしてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○		○			
IV							○
V							

テキスト1	必要に応じて資料を配布します。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて授業中にご紹介します。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	セクシュアリティ入門 ＜性別の4つのものさし＞
事前	シラバスに目を通し、知らない（意味を説明できない）用語に○を付けてください。その上で授業に期待すること、自身の授業での目標をメモしてきてください。事前の問い:「あなたの性別は何ですか？」「なぜそう答えましたか？」（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

2	スポーツの性別検査（セックスチェック）の歴史に学ぶ ＜性別の線はどこに引く？＞
事前	事前の問い:「スポーツの性別チェックはどうやって行う（行ってきた）か？」「男女別々に行う競技スポーツで、性別チェックをするべきであると思うか？」「なぜそう思ったか？」（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

3	身体の性別 ＜第一次性徴・第二次性徴、性分化疾患・DSD（身体的な発達の多様性）＞
事前	事前の問い:「体の性には様々な発達があります。どのような発達があり、どのような生活をしている人がいるでしょう？」考えた後に、前週にお伝えする資料に目を通してください。（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

4	生殖と妊娠、人工中絶、出産
事前	事前の問い:「自分の親友が妊娠し、産むかどうかを迷っていた場合、どのような声掛けをしますか？」（判断に必要となる情報を調べた上で答えてください。）（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

5	避妊、性感染症
事前	事前の問い:「古今東西の避妊法・性感染症予防法を調べてできるだけ挙げてください」「その中で、現在最も効果が高いとされているものを選んでください」（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

6	デートDV
事前	事前の問い:「(前週に配布するいくつかのシチュエーションに対し)あなたならどのように対応するか？」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

7	レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー(LGBT)、性別違和(性同一性障害)
事前	第一回授業の「セクシュアリティ」について自分で定義を説明できるよう復習してくること。事前の問い:「LGBTや性別違和／性同一性障害という言葉を聞いたことはあるか？どこで？」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

8	LGBT以外の様々なセクシュアリティとSOGIの概念
事前	前週に配布する資料に目を通してくること。事前の問い:「LGBTという言葉が広まる良い点、懸念点は？」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

9	障害者の性1 ＜身体障害/ 障がいなど＞
事前	前週に示す資料に目を通して、印象に残った箇所にラインを引いてくること。事前の問い:「脊髄損傷者の一日の生活を想像して(当事者であれば振り返って)みよう」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

10	障害者の性2 ＜知的障害/障がいなど＞
事前	事前の問い:「知的障害者の通所施設で恋愛・交際があった時、あなたが職員ならどういったサポートをするか(あるいはしないか)」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

11	障害者の性3 ＜精神障害/障がいなど＞
事前	前週に示す資料に目を通して、統合失調症とリカバリーについて理解しておく。事前の問い:「統合失調症の人が子どもを産み育てる時、どんなサポートがあるといいだろう？」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

12	高齢者の性1 ＜高齢者施設での性をめぐる話＞
事前	事前の問い:「(前週に配布するいくつかのシチュエーションに対し)あなたならどのように対応するか？どのような対応が高齢者支援の場にマッチすると思うか？」(目安となる事前学習1.5時間)
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。(目安となる事後学習2.5時間)

13	高齢者の性2 ＜人間としての尊厳、性と生＞
事前	事前の問い:「自身のこれまでの高齢者との関わりを思い出してみよう」「自分が将来支援を受ける時に、どんな対応は嬉しいか、どんな対応は嫌だと感じるか考えよう」(目安となる事前学習1.5時間)
	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。

事後	②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

14	メディアにおける「性」の扱われ方 ＜ドラマ、バラエティ、ニュースなどを通じて性と生を考える＞
事前	何らか「性」に関するメディア情報を選び、メディアリテラシーの観点からその情報を評価しメモしてくること。（目安となる事前学習1.5時間）
事後	①今回の授業で押さえておくべき知識を「ミニレポート」として配布します。それを中心に、今回の授業の目的・目標が達成できるように内容を振り返ってきてください。 ②翌週にリアクションペーパーの一部の内容を、許可が得られた方の分のみ匿名でフィードバックしますので、自分と違う考え方に触れながら、再度そのトピックについて考えてみてください。（目安となる事後学習2.5時間）

15	学期末課題 ＜性について適切に他者に伝える力が身に付いたか＞
事前	これまでのミニレポートを全て復習し、全14回の授業内容のポイントについて正しい知識を押さえられているか、他者を尊重する意識をもって、相手に伝わるように説明できるか、確認する。（目安となる事前学習1.5時間）
事後	期末課題の講評を聞き、実際の生活の中で、性の話題について正しい知識を押さえ、他者を尊重する意識をもって、相手と話していくことができそうか確認する。（目安となる事後学習2.5時間）

2020/07/16(木)21:57

科 目 名	リハビリテーション論 [介]			授業コード	6680011
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	松井 伸子				

科目に関する キーワード	リハビリテーション，多職種連携，地域連携

到達目標	・リハビリテーションの理念 ・リハビリテーション専門職の役割と機能を理解できる。 ・ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するためのリハビリテーションの方法について理解し、説明できる。 ・自立支援のための福祉用具と環境整備について理解できる。			
授業の概要	リハビリテーションとは、病気や外傷が原因で心身が障害され生活上に支障が生じたり、またはその恐れのある場合、患者やその家族のもつ障害に対して、多くの専門職が連携して問題を解決していく総合的アプローチである。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する、特にリハビリテーションの理念とその専門性や役割を理解し、対象者の自立支援に向けて対応できる授業とする。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業のはじめに前回の授業についての小テストを実施し，理解度の確認と解説を行う．またグループワークを実施した後，グループ発表を行う．
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内小テスト（20%），レポート内容（70%），授業への参加度（10%）の割合で行う．		
フィードバック	授業内で理解できるような進行を心がけ，不足があった場合には翌週に解説や追加説明を行う．			
履修に際しての 注意事項	授業への積極的参加と毎回の予習・復習が必要である．			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○			
II			○				
III				○			
IV							

V							

テキスト1	リハビリテーションビジュアルブック第2版　落合慈之監修　Gakken	978-4-7809-1193-0
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	リハビリテーションの理念（リハビリテーションの目指すもの）
事前	テキストの該当箇所を読み，リハビリテーションの目指すものについて考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，リハビリテーションの理念につて十分に理解を深めること．（2.5時間）

2	リハビリテーションの最近の動向・領域と役割
事前	テキストの該当箇所を読み，リハビリテーションの最近の動向・領域と役割について考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，リハビリテーションの領域と役割について理解を深めること．（2.5時間）

3	ICFの視点とリハビリテーション
事前	テキストの該当箇所を読み，ICFの考え方について理解してくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，ICIDHとICFの考え方の違いについて理解しておくこと．（2.5時間）

4	リハビリテーション評価（関節可動域・筋力）
事前	テキストの該当箇所を読み，関節可動域・筋力の評価の目的，方法について考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，関節可動域・筋力の評価の意義について理解を深めること．（2.5時間）

5	リハビリテーション評価（痛み・認知機能）
事前	テキストの該当箇所を読み，痛み・認知機能の評価の目的，方法について考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，痛み・認知機能の評価の意義について理解を深めること．（2.5時間）

6	加齢に対するリハビリテーション
事前	加齢に伴う心身機能の変化について考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，加齢に対するリハビリテーションの介入について理解を深めること．（2.5時間）

7	脳血管疾患に対するリハビリテーション
事前	テキストの該当箇所を読み，脳血管障害の概要について理解してくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，脳血管障害に対するリハビリテーションについて理解を深めること．（2.5時間）

8	神経筋疾患・パーキンソン病に対するリハビリテーション
事前	テキストの該当箇所を読み，神経筋疾患・パーキンソン病の概要について理解してくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，神経筋疾患・パーキンソン病に対するリハビリテーションについて理解を深めること．（2.5時間）

9	運動器疾患に対するリハビリテーション
事前	テキストの該当箇所を読み，運動器疾患にはどのような疾患が含まれるのかを考えてくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，運動器疾患に対するリハビリテーションについて理解を深めること．（2.5時間）

10	呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーション
事前	テキストの該当箇所を読み，呼吸器・循環器疾患の概要について理解してくること．（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーションについて理解を深めること．（2.5時間）

11	補装具・日常生活用具の種類と環境整備
事前	テキストの該当箇所を読み，補装具・日常生活用具の種類と適応について理解してくること．（1.5時間
事後	授業内容を復習し，補装具・日常生活用具の種類と適応について理解を深めること．（2.5時間）

12	リハビリテーションからみた基本動作の考え方

事前	テキストの該当箇所を読み，基本動作とはどのような動作なのか理解してくること.（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，各動作の特徴を知り，介護技術に活かせるよう理解を深めること.（2.5時間）

13	生活期のリハビリテーション・多職種協働アプローチ
事前	テキストの該当箇所を読み，生活期のリハビリテーションの目的について考えてくること.（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，生活期のリハビリテーションにおける多職種連携の意義について理解を深めること.（2.5時間）

14	地域連携と介護予防
事前	入院をしないように，また退院した後の生活を維持していくために必要なことを考えておくこと.（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，介護予防にかかわる評価についてや地域との連携について理解を深めること.（2.5時間）

15	リハビリテーションにおけるリスクマネージメント
事前	リハビリテーションの理念を介護に活かすとはどうゆうことか考えておくこと.（1.5時間）
事後	授業内容を復習し，リハビリテーションの理念につて十分に理解を深めること.（2.5時間）

2020/07/16(木)21:58

科 目 名	世界史 [社子]			授業コード	6690011
副 題	アジアから世界を知ろう				
開講期	前期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	丸山 雄				

科目に関する キーワード	世界史、今日の世界状況、世界各地域の多様性、アジア

到達目標	アジアから世界全体を歴史的に思考する姿勢を身につけることができるようになる。歴史の変わり目を考え、各地域の特色・問題から多様性を理解し、今日の世界が成り立つ背景の一端を主体的に考察できるようになる。			
授業の概要	前半ではアジア各地域の歴史を学ぶ。まず、今日の状況を概観し、世界遺産なども確認しながら各地の特色ある文化を学び、植民地化以降の歴史もおさえる。加えて、日本とのつながりにも目配りする。講義の終盤では、地域にとらわれないテーマ史も学び、広い視野で世界史について考えることができるようになる。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	授業の初めと終わりに、コメントシート・リアクションペーパーの作成を行い（学生間の対話、授業の振り返り等を含む）、理解度を確認する。
評価方法 及び評価基準	レポート	成績評価は、授業内で取り組むコメントシート（30%）・レポート課題（70%）の作成で行う。		
フィードバック	授業内で実施した課題について、事後の授業の初めに概況を説明し講評する。			
履修に際しての 注意事項	授業では高い集中力が求められる。授業を熱心に受けることが必要となる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○				
II			○				
III							
IV	○						

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	毎時、資料を提示・配布する。参考文献も授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション　講義の目標
事前	これまでに経験してきた世界史学習を振り返り、覚えている事がらを自分なりに整理して理解し、関心を高めておくこと。(2時間)
事後	授業で提示された内容を理解し、知識の定着を図り、今後の学習計画の流れを十分に確認しておくこと。(2時間)

2	カンボジアの歴史
事前	カンボジア地域の歴史や文化について広く調べ、事前に提示された課題に取り組み、コメントシート作成の準備をしておくこと。(2時間)
事後	カンボジアの歴史のキーワード等を確認して復習し、十分に理解を深めておくこと。(2時間)

3	タイの歴史
事前	タイの世界遺産等について下調べを行い、事前に提示された課題をまとめて、理解しておくこと。(2時間)
事後	タイの歴史の変わり目等を振り返って復習を行い、知識の定着を図ること。(2時間)

4	ミャンマーの歴史
事前	ミャンマーをめぐる報道や文化について調査し、事前に提示された課題を行い、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	ミャンマーの歴史の特色や問題等を確認し、今日の状況に対する関心を深めること。(2時間)

5	ベトナムの歴史
事前	ベトナムの歴史について広く調べ、事前に提示された課題に取り組み、理解しておくこと。(2時間)
事後	ベトナムの歴史のキーワード等を確認して復習し、十分に理解を深めておくこと。(2時間)

6	マレーシア・シンガポール・ブルネイの歴史
事前	マレーシア・シンガポール・ブルネイの文化について下調べを行い、事前に提示された課題をまとめて、コメントシートの作成に備えておくこと。(2時間)
事後	マレーシア・シンガポール・ブルネイの歴史の変わり目等を振り返って復習を行い、知識の定着を図ること。(2時間)

7	インドネシアの歴史
事前	インドネシアの文化遺産等について調査し、事前に提示された課題を行い、コメントシート作成の準備をすること。(2時間)
事後	インドネシアの歴史の特色や問題を確認し、今日の状況に対する関心を深めておくこと。(2時間)

8	フィリピンの歴史
事前	フィリピンの文化や歴史について広く調べ、事前に提示された課題に取り組み、自分なりに理解してくること(2時間)
事後	フィリピンの歴史のキーワード等を確認して復習を行い、十分に理解を深めておくこと。(2時間)

9	香港・マカオ・台湾の歴史
事前	香港・マカオ・台湾地域の報道等について下調べを行い、事前に提示された課題をまとめて、各自で理解してくること。(2時間)
事後	香港・マカオ・台湾の歴史の特色や問題点を確認し、今日の状況に対する関心を深めること。(2時間)

10	中国とアジア諸国の関係史
事前	中国の世界遺産等について各自で調査し、事前に提示された課題を行い、理解しておくこと。(2時間)
事後	中国とアジア諸国の関係史の変わり目等を振り返り、知識の定着を図っておくこと。(2時間)

11	中国の民族問題の歴史
事前	中国における民族問題に関する報道等について広く調べ、コメントシート作成のための関心を高めておくこと。(2時間)
事後	中国の民族問題の歴史に関する問題点等を確認し、今日の状況に対する理解を深めておくこと。(2時間)

12	太平洋地域の歴史(ハワイ・中南米を中心に)
事前	ハワイ地域等の文化について下調べを行い、事前に提示された課題に取り組み、理解しておくこと。(2時間)
事後	太平洋地域の歴史の変わり目等を振り返って復習し、知識の定着を図ること。(2時間)

13	飲食・環境の歴史
事前	食料品や環境の変化が世界史に影響を与える側面について各自で調査し、関心を高めておくこと。(2時間)
事後	飲食・環境の歴史の特色や問題を確認し、今日起きている状況への関心を深めること。(2時間)

14	歴史学の周辺
事前	為政者が行う大きなできごとだけが歴史ではないこと、歴史学の隣接分野が歴史を考える上で参考になること等について広く調べ、自分なりに理解しておくこと。(2時間)
事後	授業で提示されたキーワード等を確認して復習を行い、十分に理解を深めること。(2時間)

15	まとめ
事前	これまでの授業を振り返り、各自で整理してまとめを行い、理解を深めて課題作成のための準備をしてくること。(2時間)
事後	授業で配布されてきた資料をもとに十分に復習し、理解を深めること。(2時間)

2020/07/16(木)21:54

科 目 名	日本語表現法I [社]			授業コード	6700010
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	皆吉 淳延				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/17(金)08:27

科 目 名	日本語表現法I [介]			授業コード	6700020
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	皆吉 淳延				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。			
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%の総合で評価する。		
フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。			
履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語彙）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)21:59

科 目 名	日本語表現法I [社介心子科]			授業コード	6700030
副 題	日本語表現の基本技術を身につける				
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	皆吉 淳延				

科目に関する キーワード	レポート、敬語、プレゼンテーション

到達目標	社会と主体的に関わるための日本語の基本的な知識を身につけ、適切な運用能力を養う。特に以下の点に重点を置く。 ①相手や場面に応じた、わかりやすく正しい適切な表現や指示ができるようになる。 ②情報収集能力をつけ、事実と意見を区別して表現できるようになる。 ③言語活動を行うにあたって、適切なルールやマナーを守ることができるようになる。
授業の概要	「日本語表現法Ⅰ」では、人間理解を基礎として社会と主体的に関わるための日本語能力（読む・聞く・書く・話す）を養う。 前期は、文章を書くうえでの基本的な技術を習得し、それらを授業中のコメントシートや発表、レポート課題など、大学生活によりよい形で生かしていく方法を考え、実際に試みる。また、敬語の基本的な知識を身につけ、場面に応じた話し方について考え、敬語演習やスピーチにおいて実践する。 後期は、実習や専門的カリキュラムに備え、身につけておくべき日本語能力や、多様な人々との協働的作業に必要なコミュニケーション能力を養う。さらに、適切な文献を調べる力を培い、それを用いて日本語能力（読む・聞く・書く・話す）の総合演習（プレゼンテーション）を試みる。また、「社会人」としての手紙のマナーと技術を身につけ、実際に手紙文を書く。 なお、漢字、語彙、文法等に関する、年4回の日本語チェックを行う。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	前期のスピーチで身につけたコミュニケーション・スキルを後期のプレゼンテーション（質疑応答を含む）に生かす。

評価方法 及び評価基準	レポート	授業内評価 授業参加度20% 授業内テスト20% レポートなどの提出物60%で評価する

フィードバック	授業内で実施した小テストや課題については事後の授業においてコメントのうえ、返却して講評するので、以後の学習に役立てること。

履修に際しての 注意事項	鉛筆やシャープペンシルだけでなく、添削用の赤ペン、清書用のボールペンを必ず用意すること。 また、随時、漢字等の小テストを実施する。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III		○					

IV							
V						○	

テキスト1	『現代実用国語辞典』 学研辞典編集部　学習研究社	4－05－301336－4
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に指示する	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	ガイダンス・日本語チェック第1回（漢字・語句）
事前	シラバスを熟読し、高等学校で学習した漢字の復習をしておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

2	表記の基本1　(辞書－聞く・引く・書く)
事前	テキスト辞書を見て、使い方を確認しておく。（0.5時間）
事後	新聞などを読んで、難解な言葉を探し、辞書を用いて確認する。（0.5時間）

3	表記の基本2　(書式に応じた書き方を学ぶ)
事前	新聞などを読んで、ひらがな表記および漢字表記の違いについて考えてくる。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

4	文章を書く1　(メモ・コメント・ノート)
事前	メモ・コメント・ノートにおける書き方の違いについて整理しておく。（0.5時間）
事後	場合に応じた書き方の重要性を理解する。（0.5時間）

5	文章を書く2　(要約)
事前	表記の復習を行っておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

6	日本語チェック第2回（漢字・敬語）
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。（0.5時間）
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。（0.5時間）

7	文章を書く3（レポートの構成）
事前	レポートとはどのようなものか調べて、理解しておく。（0.5時間）
事後	レポートの構成について、ポイントを理解する。（0.5時間）

8	文章を書く4（レポートを書く）
事前	レポートを書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	添削されたレポートを推敲し、完成させる。（0.5時間）

9	話し言葉の基本1（敬語の基本）
事前	日常使用している言葉遣いに注意し、敬語の理解を深めておく。（0.5時間）
事後	学んだ敬語の用法について、整理し、理解する。（0.5時間）

10	話し言葉の基本2（敬語の応用）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

11	基礎演習1（敬語を使って話す）
事前	配付した敬語の資料を用いて、実践できるように練習しておく。（0.5時間）
事後	敬語を正しく活用できるように復習する。（0.5時間）

12	基礎演習2（資料を調べる）
事前	スピーチの原稿を書くために必要な資料を調べておく。（0.5時間）
事後	スピーチの原稿を書くために不足している資料を補う。（0.5時間）

13	基礎演習3（資料に基づいて書く）
事前	スピーチの原稿の構成を考えておく。（0.5時間）

事後	書き上げたスピーチの原稿を推敲し、完成させる。(0.5時間)

14	話し言葉の応用(スピーチ)
事前	スピーチの練習をしておく。(0.5時間)
事後	効果的なスピーチとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

15	優秀者合同発表会・前期ふりかえり
事前	前期に学んだことを振り返り、整理しておく。(0.5時間)
事後	前期に学んだことを振り返り、知識の定着を図る。(0.5時間)

16	日本語チェック第3回(漢字・文法)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

17	様々な文体を知る
事前	時代や地域の異なる文章に触れておく。(0.5時間)
事後	それぞれの文体の特徴について理解を深める。(0.5時間)

18	話し言葉と書き言葉
事前	新聞講読、およびテレビ閲覧を行い、話し言葉と聞き言葉の違いを整理しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深める。(0.5時間)

19	資料の検索(図書・Webサイトなど)
事前	大学および公共の図書館を利用し、検索方法について調べておく。(0.5時間)
事後	検索した資料を整理・分類する。(0.5時間)

20	文章を書く5(事実と意見)
事前	前期に行った文章の構成について復習しておく。(0.5時間)
事後	プリントを復習し、理解を深めておく。(0.5時間)

21	総合演習1(プレゼンテーション・ガイダンス)
事前	プレゼンテーションについて、前期のスピーチで学んだことを参考に、調べておく。(0.5時間)
事後	ガイダンス内容を踏まえ、プレゼンテーションのテーマを決定する。(0.5時間)

22	総合演習2(プレゼンテーションの準備)
事前	プレゼンテーションに必要な資料を収集する。(0.5時間)
事後	スピーチの原稿を推敲する。(0.5時間)

23	総合演習3(プレゼンテーション第1回Aグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

24	総合演習4(プレゼンテーション第2回Bグループ)
事前	効果的なプレゼンテーションになるように、練習しておく。(0.5時間)
事後	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解を深める。(0.5時間)

25	総合演習5(まとめ・優秀者合同発表会)
事前	プレゼンテーションを振り返り、個々の課題を発見する。(0.5時間)
事後	解決した課題を今後の発表に生かせるよう再度行ってみる。(0.5時間)

26	文章を書く6(報告と考察)
事前	第20回「文章を書く5(事実と意見)」で学んだことを確認しておく。(0.5時間)
事後	報告と考察を円滑に行えるように復習する。(0.5時間)

27	日本語チェック第4回(漢字・表現)
事前	漢字・慣用句・敬語などを学習しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

28	文章を書く7(手紙の基本)

事前	テキストの辞書の見返し部分を読み、手紙の基本的な書き方を理解しておく。(0.5時間)
事後	手紙特有の表現を復習する。(0.5時間)

29	文章を書く8(手紙を書く)
事前	手紙特有の形式を理解しておく。(0.5時間)
事後	採点した課題に対して、誤答箇所を確認し、復習する。(0.5時間)

30	1年間のまとめ
事前	1年間の学習を振り返り、自己評価しておく。(0.5時間)
事後	自己評価が十分でなかった項目について、今後の自己の課題を確認する。(0.5時間)

2020/07/16(木)20:28

科 目 名	児童文化I/児童文化 [子]			授業コード	6710012
副 題	子どもの幸せを考える児童文化				
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	宮崎 麻子				

科目に関するキーワード	児童文化、児童文学、絵本、昔話、童謡
到達目標	本授業のねらいは、主に次の3点である。 1）子どもが出会う児童文化財（絵本・童謡・遊び・児童文学）を鑑賞・再体験することができる。 2）児童文化のゆたかな世界への理解を深めると共に、保育者としての感性を磨き、想像力を養うことができる。 3）「文化」の視点から子どもと社会（世界）とのかかわりを探り、時代が子どもにどのようなまなざしを向けているか理解して、説明できるようになる。 【「履修ファイル」の対応項目: A-4(3),D-2(2)(3),D-3(4) 】
授業の概要	「児童文化」とは何か、そのことばの概念や歴史、児童文化がもたらす意義などを学ぶ。 また絵本・児童文学などの作品を具体的に考察して、子ども文化に親しみ、その特性とは何かについて学ぶ。 その上で、子どもをとりまく社会・文化の状況や内包する問題を検討して、子どもがすこやかに主体的に育つことへの知見を深めてゆく。

授業方法	講義	アクティブラーニング	○	グループや個人でのプレゼンテーション・ディスカッションを行う（3回程度）。
評価方法及び評価基準	レポート	平常点(40%・授業中の課題や諸活動への取組み)とレポート(60%)を総合して評価する。		
フィードバック	リアクションペーパー、授業内小課題については、適宜授業内でフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	絵本の読み聞かせや遊び歌などでは、実技を行う。動きやすい服装で積極的に取り組むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II	○						
III				○			
IV							

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館, 2018年) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館,2018年) 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館,2018年) その他、授業内で紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション／「児童文化」とは何か
事前	自分の子ども時代を思い出し、記憶に残っている絵本や物語、遊びや童謡について記録すること。 かこさとし『だるまちゃんとてんぐちゃん』を読み、子どもにとって絵本の魅力とは何かを自分なりに検討すること。(2時間)
事後	児童文化とは何か、授業内で提起された内容について再考し、理解を深めること。 「だるまちゃん」シリーズの他の作品を読み、かこさとしの描く子ども像を捉えること。(2時間)

2	絵本／物語とは何か・古典と現代の作品
事前	マリー・ホール・エッツ『もりのなか』、レオ・レオニ『スイミー』『フレデリック』『チコときんいろのつばさ』を読んで、感想をまとめる。(2時間30分)
事後	授業の内容を再考し、理解を深めること。 エッツやレオニの他の作品を読むこと。(2時間)

3	絵本／絵本概論と赤ちゃん絵本
事前	絵本の役割とは何か、自分なりに考え検討すること。(1時間30分)
事後	赤ちゃん絵本、絵本の役割について再考し、理解を深めること。(2時間)

4	絵本／絵本のジャンルとバリアフリー絵本
事前	絵本のジャンルとは何か、バリアフリー絵本とは何か、自分なりに理解してくること。(2時間)
事後	バリアフリー絵本の役割について再考し、理解を深めること。(2時間)

5	絵本／表現のひろがり
事前	成長する子どもにふさわしい絵本のテーマ・内容とはどういうものかを自分なりに検討すること。(2時間)
事後	絵本のテーマの広がりについて、授業内で触れた作品と提起された内容について再考し、理解を深めること。(2時間)

6	おもちゃ／子どもと遊び・おもちゃづくりと自己表現
事前	自分にとって子ども時代の遊びとは、どのような意味があったのか考えること。(1時間30分)
事後	授業内で作成したおもちゃを観察すること。 子どもにとってのおもちゃの存在意義とは何か理解を深めること。(2時間)

7	昔話と子どもの成長
事前	自分の知っている昔話を思い出すこと。 昔話(絵本・紙芝居・昔話集)を5つ以上読むこと。(2時間)
事後	昔話とは何か、語りの形式や特徴について復習すること。 「三びきのこぶた」のテーマと再話の違いについて再検証すること。(2時間)

8	子どもの歌／わらべうたと日本の童謡史
事前	記憶に残っている子どもの歌について思い出すこと。 幼稚園や小学校でうたった子どもの歌の題名を書き出すこと。(1時間)
事後	わらべうた・唱歌・童謡の定義について再確認して理解を深めること。 たくさんの子どもの歌を聴くこと。(2時間)

9	子どもの歌／幼年童謡・子ども讃歌・遊び歌
事前	「子どもの歌」確認テストに向けて、前回内容をおさらいすること。(2時間)
事後	「子どもの歌」確認テストの解き直しをすること。 授業内で扱った「ことばあそび」を再読して、日本語の美しさや面白さに理解を深めること。(2時間)

10	児童文学／児童文学入門
事前	授業内で執筆する「私の一行」で取り上げる作品(児童文学・物語)を準備すること。(2時間)

事後	児童文学とは何か、その定義について授業内で説明した内容をまとめて理解すること。(2時間)

11	児童文学／テーマとジャンルについて
事前	児童文学作品を2作品以上読むこと。(2時間～可能な限り)
事後	児童文学の特質とは何か、授業内で説明した内容について再検討して理解を深めること。(2時間)

12	児童文学／英米の作品
事前	A.A.ミルン『クマのプーさん』『プー横丁にたった家』を読むこと。(2時間30分)
事後	アン・スウェイト『グッバイ・クリストファー・ロビン―『クマのプーさん』の知られざる真実』の内容について、各自で十分に理解を深めること。(2時間30分)

13	児童文学／日本の作品
事前	丘修三『ぼくのお姉さん』を精読すること。(2時間)
事後	授業内でディスカッションした内容についてまとめること。 日本の児童文学作家が語るテーマや時代背景について、再検討して理解を深めること。(2時間30分)

14	子どもとメディア／子ども像・子ども観の変容
事前	授業や自主学習で触れた作品に描かれた子ども像の特徴について、書き出すこと。(2時間)
事後	子ども・大人の境界について再考することを通して、子どもについて理解を深めること。(2時間)

15	まとめ／「児童文化」のこれからについて考える
事前	授業内で執筆する課題の準備をすること。(2時間30分)
事後	児童文学の豊かな世界の意義について、まとめの授業で説明された内容を再確認すること。 自分なりの児童文化・児童文学へのものさしを構築できるように作品を読み続け、努力を続けること。(可能な限り)

2020/07/16(木)22:18

科 目 名	肢体不自由者の生理・病理 [心]			授業コード	6720012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	宮崎 敦子				

科目に関する キーワード	肢体不自由児（者）・障害特性・医学的特性
到達目標	肢体不自由児・者の病理的・生理的特徴を知り、行動特性、生活実態といった現状及び動向を理解する。さらに、彼らの発達支援に必要な事柄を理解することで、障害を配慮した知識や対応策を身につけることができる。
授業の概要	肢体不自由児・者が持つ、生活上あるいは学習上の困難性を理解し、療育、教育、支援に必要な発達的知識とその障害、脳病理、リハビリテーションなどについて概説する。さらに、肢体不自由の代表的疾患とした脳性麻痺を中心に脳疾患の合併症、後遺症、病理的に随伴しやすい障害を詳細に取り上げ、リハビリテーションについての考え方も含め解説する。
授業方法	講義 / アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	期末試験の得点を90%、講義への参加度10%に基づいて評価する。	
フィードバック	宿題として出された課題に取り組むこと。単元ごとにテキスト内のまとめ課題を用いた小テストによりフィードバックを行う。		
履修に際しての 注意事項	事前に提示された課題について下調べを行うこと。参考文献等を用いて自分のノートをまとめておくこと。		

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III			○				
IV							

V	○						

テキスト1	肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学/ジアース教育新社/竹田一則	9784921124915
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	講義使用の際に文献を提示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、講義の目的、内容、進め方、評価方法、参考書について 肢体不自由についての概説
事前	テキストの購入と持参。(0時間)
事後	現在肢体不自由の原因となっている疾患について概観する。(4時間)

2	運動と発達(1) 骨格器
事前	テキスト該当箇所から骨格器について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	筋骨格収縮メカニズムとエネルギー供給経路を理解すること。(2時間)

3	運動と発達(2) 反射・神経
事前	テキスト該当箇所から反射神経について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	病的反射を理解すること。(2時間)

4	肢体不自由者の理解(1) 肢体不自由の定義と肢体不自由の起因疾患について
事前	テキスト該当箇所から肢体不自由の定義について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	肢体不自由の原因が時代で変化することを理解すること。(2時間)

5	肢体不自由者の理解(2) 脳性麻痺について、肢体不自由児に重複してみられる障害とその病理について
事前	テキスト該当箇所から脳性麻痺について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	脳性麻痺の定義と発症原因を理解すること。(2時間)

6	肢体不自由児の理解(3) 筋ジストロフィー、二分脊椎等の病理について、肢体不自由との重複障害児の生理・病理
事前	テキスト該当箇所から各疾患について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	各疾患の主な症状と臨床経過について理解すること。(2時間)

7	肢体不自由児の教育(1) 脳損傷性肢体不自由と生理、病理に応じた自立活動の実際
事前	テキスト該当箇所から脳損傷性肢体不自由について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	筋緊張と麻痺の部位による影響を知ること。(2時間)

8	肢体不自由児の教育(2) 非脳損傷性肢体不自由と生理、病理に応じた自立活動の実際
事前	テキスト該当箇所から非脳損傷性肢体不自由について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	骨形成不全症の主な症状を理解すること。(2時間)

9	肢体不自由児の教育(3) 様々な合併症及び知的障害と病弱の重複障害児の病理・生理・心理に応じた指導について
事前	テキスト該当箇所から重複障害児について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	超重症児への理解を深めること。(2時間)

10	病理・生理の特徴から見た医療的ケアの基本的な考え方
事前	テキスト該当箇所から医療的ケアの基本的な考え方について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	当該手技に関する理解を知ること。(2時間)

11	障害児者に関する法律と制度

事前	テキスト該当箇所から障害児者に関する法律と制度について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	近年の日本における問題点を知ること。(2時間)

12	障害児・者のQOL(quality of life 生活の質)
事前	テキスト該当箇所から障害児・者のQOLについて調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	児・者のQOLを得るために不可欠なことを考えること。(2時間)

13	リハビリテーション医療の現状
事前	テキスト該当箇所からリハビリテーション医療の現状について調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	リハビリテーション医療の現状と限界について知ること。(2時間)

14	バリアフリー 肢体不自由の心理・生理・病理を踏まえた物理的、社会的、心理的バリアについて
事前	テキスト該当箇所から物理的、社会的、心理的バリアについて調べて理解しておくこと。(2時間)
事後	バリアの弊害をよく理解し、解決について考察すること。(2時間)

15	まとめ
事前	総括を自分でまとめておくこと。(2時間)
事後	テキストのサマリー項目が理解できていること。(2時間)

2020/07/16(木)20:42

科 目 名	介護技術 [心]			授業コード	6730012
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	1
担 当 者	茂木 高利				

科目に関する キーワード	ボディメカニクス、安全と安楽、自立支援、利用者主体、尊厳の保持
到達目標	1 利用者の自立支援を支える生活支援技術の概要を理解できる。 2 各生活支援技術の意義・目的、留意点、手順、及びそれらの根拠が理解できる。 3 演習により、介助者・利用者双方の体験を通して、支援を受ける利用者の気持ちを理解した介護ができる。
授業の概要	介護における生活支援のあり方について理解する。居住環境の整備、移動・移乗の介護、身じたくの介護、食事の介護、身体の清潔、排泄の介護の基本概要について学ぶ。また、介護を行うにあたって、利用者の心身状況や障害特性に応じた個別性のある生活支援技術の基本的なあり方を習得する。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	演習において、「介助の基本ポイントと留意点」「疾病や障がいの状況をふまえた個別的かつ具体的な実施」「演習後の気づきや感想」について、グループワークを行う。(全8回)
評価方法 及び評価基準	試験	試験60%、グループワーク・ディスカッションや講師問いかけ時における返答発言等の授業への参加20%、技術演習中の課題や諸活動への取り組み20%をもって評価する。		
フィードバック	課題・リアクションペーパー・コメントシートについてのフィードバックは、次回以降の講義時間において①講師コメント記入にて個別返却 ②フィードバックであることを告げたうえで、講義内でその内容について解説及び演習デモンストレーションによって全体共有化、という方法をとる。			
履修に際しての 注意事項	授業開始時までに、実技演習を行うにふさわしい服装に着替え、遅刻をしないこと。試験は、授業に参加していないと解答が困難な出題となるので、授業への積極的参加と毎回の予習、復習が求められる。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○		○	

テキスト1	『改訂　介護概論・基本介護技術』 千葉典子（編著）共栄出版	未取得（出版社確認済）
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、適宜配布・紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション: 介護の基本理念　介護過程と生活支援技術の概要　使用する語彙の理解
事前	テキストPART Ⅰ「介護概論」全体に目を通し、介護についての基礎的理解を深めるとともに、所属学科において学習してきた内容との共通点や差異、そして疑問点について自分なりに理解し意識をする。（2時間）
事後	授業内で学んだ介護の原則や対象者、介護者の役割と介護過程の概要や、手洗いをはじめとする介護者自身の健康と安全管理について復習し、理解を深める。（1時間）

2	ボディメカニクスの理解・住生活環境の整備
事前	テキストPART Ⅱ第1章2ボディメカニクスを読み、自分なりに理解するとともに、快適な生活とはなにか、快適な住環境の要素はなにか、について現在修得している知識を確認しておく。（1時間）
事後	授業内で学んだ、加齢や、認知症等疾病の影響がある利用者には、どんな特性があり、どんな環境が適しているかについて、その整備のポイントを含めて復習し、理解を深める。（1時間）

3	睡眠の環境整備と援助：ベッドメーキング
事前	テキストPARTⅡ第2章1睡眠を読み、自らの睡眠の状況を振り返り、意識するとともに、第5章寝床の整え方を読み、その概要やベッドメーキングの手順やポイントについて自分なりに理解をしておく。（2時間）
事後	授業で学んだ、ベッドメーキング関連の各項目（ベッドの基本操作方法と留意点、シーツのたたみ方、広げ方、マットレスへの敷き込み方、三角コーナーの作り方、枕の整え方、等）について、きちんと理解できているかを復習する。（1時間）

4	ベッド上の移動介助(水平・上方移動)
事前	テキストPARTⅡ第4章1人体各部・関節の名称、2姿勢の名称を読み、理解しておく。その上で、3ベッド上での移動・体位変換を読み、水平・上方移動介助のイメージを構築するとともに、自力での方法を試行してみる。（1時間）
事後	授業内容の復習を通して、水平・上方移動介助の手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、自室にて利用者がいる想定での模擬演習をし、技術の定着につとめる。（1時間）

5	ベッド上の移動介助（仰臥位⇔側臥位）
事前	テキストPARTⅡ第4章3ベッド上での移動・体位変換を読み、仰臥位から側臥位に変換する介助のイメージを構築するとともに、自力での方法を試行してみる。（1時間）
事後	授業内容の復習を通して、仰臥位から側臥位への介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、自室にて利用者がいる想定での模擬演習をし、技術の定着につとめる。（1時間）

6	ベッド上の移動介助（起き上がり、仰臥位⇔端座位）
事前	テキストPARTⅡ第4章3ベッド上での移動・体位変換を読み、起き上がりと、仰臥位から端座位への介助イメージを構築するとともに、自力での方法を試行してみる。（1時間）
事後	授業内容の復習を通して、起き上がりと、仰臥位から端座位への介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、自室にて利用者がいる想定での模擬演習をし、技術の定着につとめる。（1時間）

7	立位に向けた準備動作と介助・移乗介助の基本視点（ベッド⇔車いす）
事前	テキストPARTⅡ第1章2ボディメカニクスを読み、第2回目講義内容を思い出しながら、自らの座位から立位への移行過程を観察・分析しどんな特徴と要素があるか、どんな順番で行うか、などを自分なりに意識化し、言語化できるようにしておく。加えて、4ベッドから車いすの移乗介助を読み、介助のイメージを構築する。（2時間）
事後	授業内容の復習を通して、筋力低下や片麻痺の利用者に対する座り直しと立位への介助, そしてベッドから車いすへの移乗介助の手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや試行演習し、技術の定着につとめる。（1時間）

8	さまざまな移乗介助（⇔Pトイレ・⇔浴槽　他）
事前	第7回目講義内容を思い出しそれを応用させ、Pトイレや浴槽への移乗介助においては、どのように、どんな順番で行うか、など介助のイメージを自分なりに構築する。（1時間）

事後	授業内容の復習を通して、片麻痺の利用者に対するPトイレや浴槽などへの移乗介助の手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

9	車いすの介助
事前	テキストPARTⅡ第8章2車いすの介助を読み、車いすの種類や各部の名称、基本操作についてポイントを理解しておく。その上で、5車いすの介助方法を読み、車いすでの移動介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、車いすの開き方や閉じ方、そして車いす移動の介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

10	歩行の介助
事前	テキストPARTⅡ第8章1歩行介助を読み、歩行のもつ意味や、歩行動作のポイントを理解しておく。その上で、2歩行の介助方法を読み、患側を支える介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、片麻痺の利用者に対する介助手順やポイントを思い出し、加えて自らが片麻痺利用者になった想定での杖歩行を、脳内でのシミュレーションや、試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

11	身じたくの介助(座位及びベッド上での着脱介助と自立に向けた支援)
事前	テキストPARTⅡ第7章1更衣を読み、自らの更衣習慣やこだわりなどを意識化するとともに、衣服の役割や着替えのもつ意味を理解しておく。その上で、2着脱介助の実際を読み、介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、片麻痺の利用者に対する衣服着脱の介助手順やポイントを思い出し、加えて自らが片麻痺利用者になった想定での衣服の着脱を、脳内でのシミュレーションや、試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

12	身体の清潔に向けた介助
事前	テキストPARTⅡ第6章を読み、自らの入浴や整容の習慣や手順、こだわりなどを意識化するとともに、入浴や整容の意義や文化的側面を思考しておく。その上で、2からの介助の実際を読み、介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、身体清潔の介助や整容の介助における手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

13	食事の介助
事前	テキストPARTⅡ第9章を読み、自らの食事の習慣や嗜好やこだわり、そして口腔ケアの方法と手順などを意識化するとともに、食事の意義や文化的側面を思考しておく。その上で、1からの介助の実際を読み、介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、片麻痺の利用者に対する食事や口腔ケアの介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや自らの生活場面での試行演習をし、技術の定着につとめる。(1時間)

14	排泄の介助 (ポータブルトイレ、便器・尿器の介助)
事前	テキストPARTⅡ第10章を読み、自らの排泄の習慣や頻度などを意識化するとともに、排泄の意義や羞恥心やプライバシーへの配慮について思考しておく。その上で、2からの内容と介助の実際を読み、介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、ポータブルトイレや便器・尿器の介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

15	排泄の介助(おむつ交換)
事前	第14回目講義内容を思い出し、おむつ交換における配慮や留意点について思考しておく。その上で、5からの介助の実際を読み、介助のイメージを構築する。(1時間)
事後	授業内容の復習を通して、おむつ交換の介助手順やポイントを思い出し、脳内でのシミュレーションや、試行演習し、技術の定着につとめる。(1時間)

2020/07/16(木)20:43

科 目 名	生活支援技術I/自立に向けた介護I [介]			授業コード	6730021
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	茂木 高利				

科目に関する キーワード	自立、生活支援、居住環境の整備、移動の介護、身じたくの介護、食事の介護、

到達目標	1.ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、説明できる。 2.住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解し、説明できる。 3.対象者の能力を活用・発揮し自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる。			
授業の概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護における技法を学び習得する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	生活支援技術の演習(実技)に際しては課題に沿ってグループ毎に利用者・介護者双方の体験、グループディスカッションを行う。(全8回)
評価方法 及び評価基準	試験	試験50%、演習課題30%、授業態度20%をもって評価する。		
フィードバック	演習終了後に提出するレポート課題については、添削してフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	実技の時は、授業開始前までに実技を行うのにふさわしい服装に着替え準備すること。積極的な取り組みを期待する。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							

V				○		○	

テキスト1	介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』中央法規	9784805857663
テキスト2	介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ』中央法規	9784805857670
テキスト3		
参考文献	適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション
事前	テキスト6　第1章生活支援の理解第1節、第2節を読み生活支援の基本的な考え方について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業内で説明した実習室の使い方、授業の受け方、レポート提出方法について再度見直しを行い理解する。生活支援、ICF、自立の考え方について復習し理解を深める。(1時間)

2	自立に向けた居住環境の整備
事前	テキスト6 第2章居住環境の整備を読み,住まいの役割、安全に暮らすための生活環境のあり方について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業内で学んだ居住環境の整備のあり方を見直し、自分の暮らす住居の生活環境と比較検討を行い理解を深める。(1時間)

3	ベッドメーキング
事前	テキスト7　第5章第2節1休息・睡眠環境を整える(ベッドメーキング)2特殊寝台と付属用具を読み、介護用のベッドと付属用具について知るとともにベッドメーキングの意義、方法について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(ベッドメーキング)の作成に取り組み、ベッドメーキングの復習とともに自己評価を行う。(1時間)

4	臥床者のシーツ交換
事前	テキスト7　第5章第2節休息・睡眠環境を整える(ベッドメーキング)のうち、臥床者のシーツ交換の箇所を読み、介助のイメージおよび留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(臥床者のシーツ交換)の作成に取り組み、臥床者のシーツ交換の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

5	自立に向けた移動の介護　移動の意義　ベッド上の移動
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第1節自立した移動とはを読み、自立した移動の意義について理解する。(1時間)
事後	授業内容の復習をとおして、自立した移動とは何かについて理解を深めるとともに移動の介護における介護福祉職の役割を理解する。(1時間)

6	自立に向けた移動の介護　体位変換
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第1節1自立した移動とは、2自立した移動の一連の流れを読み、自立した移動とは何かについて自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で学んだボディメカニクスついて、実際に身体を動かし理解を深めるとともにボディメカニクスの動作を身につける。(1時間)

7	ベッド上の移動　水平移動
事前	前回の授業内で配付したプリントを読み、水平移動の介助についてイメージするとともに、介助の留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(移動の介護〔水平移動〕)の作成に取り組み、体位変換の介助の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

8	ベッド上の移動　体位変換
事前	前回の授業内で配付したプリントを読み、体位変換の介助についてイメージするとともに、介助の留意点について理解する。(1時間)
事後	授業レポート(移動の介護〔体位変換〕)の作成に取り組み、体位変換の介助の復習とともに自己評価を行う。(1時間)

9	自立に向けた移乗の介護
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第2節1移動・移乗の基本的理解を読み、移乗の介護について自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で説明した移乗介護の意義、留意点について理解を深める。(1時間)

10	自立に向けた歩行、車いすの介助
事前	テキスト6　第3章第2節4車いすの介助、6歩行の介助を読み、車いすと歩行の介助の留意点を自分なりに理解する。(1時間)
事後	授業で学んだ車いすの介助の留意点について理解を深める。片麻痺の利用者を想定し自立した歩行について、実際に歩行の動きを実践しながら理解を深める。(1時間)

11	移乗の介護　ベッド⇔車いす
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、利用者の状態像に合わせた移乗介護（ベッド⇔車いす）の方法についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（移乗の介助　ベッド⇔車いす）の作成に取り組み、移乗介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

12	歩行の介助　車いすの介助
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、歩行の介助、車いすの介助についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（歩行の介助・車いすの介助）の作成に取り組み、歩行の介助・車いすの介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

13	自立に向けた移動の介護（総括）
事前	テキスト6　第3章自立に向けた移動の介護第2節1、2、配付したプリントを再復習し、移動の介護について理解しておく。（1時間）
事後	授業で実施した利用者の状態・状況に応じた移動の介助について理解を深める。（1時間）

14	自立に向けた移動・移乗の介護（総括）
事前	配付したプリント(移動・移乗介護）を再復習し、移動・移乗の介護について理解しておく。（1時間）
事後	授業で実施した利用者の状態・状況に応じた移動・移乗の介護について復習し、介護の組み立て方や留意点について理解を深める。（1時間）

15	リフト・ストレッチャーを利用した移動の介助
事前	テキスト6　第3章第2節5移動・移乗のための道具・用具を読み、移動・移乗に用いられる道具・用具を知る。（1時間）
事後	配付したプリントを復習し、リフトやストレッチャーを利用した移動の介助の留意点について理解を深める。（1時間）

16	ベッド⇔ストレッチャー　ベッド⇔リフト
事前	前回の授業で配付したプリントを読み、ベッド⇔ストレッチャー、ベッド⇔リフトの介助についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（ベッド⇔ストレッチャー　ベッド⇔リフト）の作成に取り組み、ベッド⇔ストレッチャー、ベッド⇔リフトの介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

17	環境整備、福祉用具の活用
事前	テキスト6　第4章福祉用具の意義　第1節生活支援における福祉用具の重要性を読み、福祉用具の活用の意義について自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ福祉用具の活用の意義、環境整備のあり方、福祉用具導入の視点について理解を深める。（1時間）

18	福祉用具を活用した移動・移乗介助
事前	テキスト6　第4章第2節福祉用具の種類を読み、福祉用具の分類と種類について知る。（1時間）
事後	授業レポート（福祉用具を活用した移動・移乗介助）の作成に取り組み、福祉用具活用の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

19	安楽な体位の工夫　安楽な体位の説明
事前	テキスト6　第3章第2節3安楽な姿勢・体位を保持する介助を読み、安楽な体位を保持する意義について自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ安楽な姿勢・体位を保持する意義と方法について理解を深める。（1時間）

20	安楽な体位の工夫　褥瘡予防
事前	講義で学んだ安楽な体位、褥瘡の知識を基にして、自分なりに安楽な体位と褥瘡予防の工夫について考えてくる。（1時間）
事後	授業レポート（安楽な体位の工夫・褥瘡予防）の作成に取り組み、安楽な体位と褥瘡予防の工夫の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

21	自立に向けた身じたくの介護　身じたくの意義と目的
事前	テキスト7　第1章自立に向けた身じたくの介護　第1節自立した身じたくとはを読み、身じたくの意義と目的について自分なりに理解するとともに身じたくを行う一連の流れについて考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ身じたくの意義と目的について理解を深める。（1時間）

22	楽しみと装いを支える身じたくの工夫
事前	テキスト7　第1章第1節3自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきことを読み、楽しみと装いを支える身じたくの工夫について自分なりに考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ楽しみと装いを支える身じたくの工夫について理解を深める。（1時間）

23	身じたくの介護　座位での着脱の介助
事前	テキスト7　第1章第2節3利用者の状態に応じた身じたくの介助（座位での着脱介助）を読みイメージする。片麻痺を想定して自力での着脱に取り組んでみる。（1時間）

事後	授業レポート（座位での着脱の介助）の作成に取り組み、座位での着脱の介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

24	身じたくの介護　臥位での着脱の介助
事前	テキスト7　第1章第2節3利用者の状態に応じた身じたくの介助（臥位での着脱介助）を読みイメージする。　（1時間）
事後	授業レポート（臥位での着脱の介助）の作成に取り組み、臥位での着脱の介助の復習とともに自己評価を行う。（1時間）

25	自立に向けた食事の介護　食事の意義と目的
事前	テキスト7　第2章自立に向けた食事の介護第1節食事の意義と目的を読み自分なりに理解する。自立した食事の一連の流れについて考えてくる。（1時間）
事後	講義で学んだ食事の意義と目的、自立した食事の一連の流れについて理解を深める。（1時間）

26	食事の姿勢　安全で的確な食事介助　口腔ケア
事前	テキスト7　第2章第2節自立に向けた食事の介護1食事の介助を行うにあたって、2介護の基本原則にのっとった食事の介護、5食後の口腔ケアを読み、安全で的確な食事介助のあり方と口腔ケアについて自分なりに理解する。（1時間）
事後	授業で学んだ食事の姿勢、安全で的確な食事介助のあり方、口腔ケアの意義について理解を深める。（1時間）

27	食事介助　自助具の活用
事前	テキスト7　第2章第2節自立に向けた食事の介護 3利用者の状態に応じた食事の介助、4誤嚥の予防のための支援を読み、食事介助のイメージをする。（1時間）
事後	授業レポート（食事の介助）の作成に取り組み、食事介助の復習とともに自己評価を行う。食事の自助具の活用について理解を深める。（1時間）

28	口腔ケア
事前	テキスト7　第2章第2節5食後の口腔ケアを読み、口腔ケアの方法についてイメージする。（1時間）
事後	授業レポート（口腔ケア）の作成に取り組み、口腔ケアの復習とともに自己評価を行う。（1時間）

29	〔総括〕ベッド上の移動　衣服の着脱
事前	提示した課題（事例）に沿ってベッド上の移動と衣服の着脱の介助方法を検討し練習に取り組む。（1時間）
事後	授業で実施したベッド上の移動と衣服の着脱の介助方法の評価を基に振り返りを行い、自身の課題を明らかにする。（1時間）

30	〔総括〕ベッド→車いす　車いすの介助
事前	提示した課題（事例）に沿ってベッドから車いすと車いすの介助方法を検討し練習に取り組む。（1時間）
事後	授業で実施したベッドから車いす、車いすの介助方法の評価を基に振り返りを行い、自身の課題を明らかにする。（1時間）

2020/07/16(木)22:07

科 目 名	臨床心理学実習 [社介]			授業コード	6750011
副 題					
開講期	前期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	横山 孝行				

科目に関するキーワード	自他理解、基本的な援助態度、基本的な援助的コミュニケーション、援助場面での倫理、ソーシャルスキルトレーニング

到達目標	1 心理臨床の基本的な態度やコミュニケーションについて説明できる。 2 自他の理解を深める。 3 心理臨床における基本的な倫理について説明できる。			
授業の概要	本授業は心理臨床的な関わり方の基本について学ぶ科目である。基本的な援助態度やコミュニケーションスキルを講義やグループワーク、ロールプレイなどを通じて学習する。また、自己および他者について理解を深め、援助者としての職業倫理などについても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブラーニング	○	毎回、4～5人一組になってグループワークやロールプレイ等を行う。
評価方法及び評価基準	レポート	小テスト（40%）、レポート課題（40%）、受講態度を含む授業中の取り組み（20%）から評価する。 小テストは9回目の授業で行い、レポート課題は14回目の授業時に提出してもらう予定である。 レポート課題の内容は提出日の1ヶ月前に授業の中で説明する。 なお、授業への参加態度に問題がある場合は減点もしく単位認定しないことがある。		
フィードバック	毎回のグループワーク等について、その場で良い点や課題をフィードバックする。 また、小テストの点数やレポートの評価等は毎回の振り返り用紙で個別にフィードバックする。			
履修に際しての注意事項	ワークはペアもしくはグループで行うため、欠席・遅刻しないこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II		○					
III		○					
IV			○				

V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション コミュニケーションとは？
事前	シラバスを事前に読み込むこと。援助関係におけるラポールに調べてくること。(1.5時間)
事後	視力・聴力がなく、発声が難しい方とのコミュニケーション方法について考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

2	自己理解を深める①:自他認知の違い
事前	「ステレオタイプ」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	10代～50代のそれぞれ男性・女性から、自身がどのように認知されやすいか振り返り、その理由を考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

3	自己理解を深める②:感情表現
事前	「バーンアウト」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	喜怒哀楽が強く生じるとき、どのような場面が多いか振り返り、そのような場面の特徴について考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

4	自己理解を深める③:ストレスマネジメント
事前	「コーピング」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	周囲の人達が日常生活の中でどのようなコーピング行動を行っているのかインタビューし、その共通点について考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

5	援助場面における非言語:対人距離と座席位置
事前	「パーソナルスペース」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	日常で関わる人達との物理的距離を確かめ、自身にとって距離と相手との関係性について考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

6	援助的コミュニケーションの基礎
事前	「カウンセリングにおけるロジャースの3条件」について調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	TVや雑誌などの人と人の質問・応答場面を見聞きして、閉じた質問か開かれた質問か分類し、それぞれに対する応答の特徴について考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

7	援助的コミュニケーションの応用①:受容・共感に関するロールプレイ
事前	「リフレーミング」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	過去の相談体験を振り返り、「相談して良かったとき」と「相談しない方が良かったとき」の相違点について考え、相手にどのように関わってもらえば安心感や信頼を持てるか検討し、ノート等にまとめる(2.5時間)

8	援助的コミュニケーションの応用②:質問・言い換えに関するロールプレイ
事前	前回のロールプレイの中で自身の良かったところ、課題になったところをノート等にまとめ、課題点に対する改善策を考えてくる(1.5時間)
事後	ロールプレイの中で周囲からフィードバックされたことを書き出し、自身の良かったところ・課題になっているところについて考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

9	ソーシャルスキルの理解
事前	「ソーシャルスキル(社会的スキル)」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	人付き合いが上手い人をよく観察し、なぜ上手いのかを考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

10	ソーシャルスキルトレーニング①:概要
事前	「ソーシャルスキルトレーニング」という言葉を調べ、ノート等にまとめる(1.5時間)
事後	グループワークで出てきた様々なソーシャルスキルをリスト化し、スキルの背景にある価値観を考え、ノート等にまとめる(2.5時間)

11	ソーシャルスキルトレーニング②:企画立案
事前	「対人関係能力を育むプログラム」を調べ、その特徴についてノート等にまとめる(1.5時間)

事後	授業の中で検討しているプログラムをより良くするために、内容や物品、説明方法などについて考え、アイディアをノート等にまとめる（2.5時間）

12	ソーシャルスキルトレーニング③：実施・体験
事前	考えたアイディアをグループのメンバーに効果的に説明するための準備をする（1.5時間）
事後	他のグループのプログラムを体験して、実際に自分達が考えたプログラムを行ってみて、感じたこと・思ったことをノート等にまとめる（2.5時間）

13	ソーシャルスキルトレーニング④：実施・体験・振り返り
事前	考えたアイディアをグループのメンバーに効果的に説明するための準備をする（1.5時間）
事後	他のグループのプログラムを体験して、実際に自分達が考えたプログラムを行ってみて、感じたこと・思ったことをノート等にまとめる（2.5時間）

14	心理臨床における倫理と活動領域
事前	「インフォームド・コンセント」と「守秘義務」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	心理職、福祉職、介護職など、様々な対人援助職の職業倫理に関するガイドラインを調べ、共通点と相違点について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

15	まとめ
事前	授業中に配布したプリント、事前・事後学習としてまとめてきたものを読み返し、改めて援助場面における関わり合いで重要なことを考え、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	自身の持ち味を援助場面でどのように活かすか、授業を振り返って考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

2020/07/16(木)20:40

科 目 名	学習心理学 [心]			授業コード	6750022
副 題					
開講期	後期	配当年次	カリキュラムにより異なります。	単 位 数	2
担 当 者	横山 孝行				

科目に関する キーワード	条件づけ、応用行動分析、社会的学習、記憶、概念学習と言語獲得、技能学習、問題解決と推理、自己調整学習、動機づけ

到達目標	1 学習心理学における基本的な理論を理解し説明できる。 2 人間行動を学習心理学の観点から考えることができる。 【「履修ファイル」の対応項目：A-2（6）、B-1（4）（5）（6）（7）】			
授業の概要	心理学では人間の学習のメカニズムを説明するために様々な理論が提案してきた。また、教育や福祉などの対人援助場面では、学習に関する理論に基づいた支援が行われている。本科目は、学習心理学における基本的な理論や知見を学び、指導や支援について理解を深めていく。また、この授業の全体をとおして、生徒一人ひとりの特長理解や生徒間の人間関係の理解、クラス集団の雰囲気作り等にも探求していきたい。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	時折、授業の中で学習に関するワークシートを使用する。ワークシートに書いた内容を小グループ内で発表することがある。
評価方法 及び評価基準	レポート	小テスト①（30%）、小テスト②（30%）、レポート課題（40%）から評価する。 小テスト①は5回目の授業、小テスト②は13回目の授業で行う予定である。 レポート課題は14回目の授業の中で提出してもらう予定である。 レポート課題の内容は提出日の1ヶ月前に授業の中で説明する。 なお、授業への参加態度に問題がある場合は減点もしく単位認定しないことがある。		
フィードバック	小テストの得点や間違った所、期末レポートの評価は振り返り用紙で個別にフィードバックする。			
履修に際しての 注意事項	正当な理由なく欠席・遅刻しないこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III					○		
IV							

V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	実森正子・中島定彦（2000）学習の心理―行動のメカニズムを探る. サイエンス社. 山内光哉・春木豊編著（2001）グラフィック学習心理学―行動と認知. サイエンス社. G. シュタイナー著　塚野州一・若井邦夫・牧野美知子訳（2005）新しい学習心理学―その臨床的適用. 北大路書房. 山本淳一・池田聡子（2005）応用行動分析で特別支援教育が変わる―子どもへの指導方略を見つける方程式. 図書文化社. 上野一彦監修　岡田智・中村敏秀・森村美和子（2012）特別支援教育をサポートする 図解よくわかるソーシャルスキルトレーニング(SST)実例集. ナツメ社. B. ジマーマン・D. シャンク編著　塚野州一・伊藤崇達訳（2014）自己調整学習ハンドブック. 北大路書房. 中学校学習指導要領（平成30年）東山書房. 高等学校学習指導要領（平成31年）東山書房.	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	心理学における学習
事前	シラバスをよく読むこと。心理学における「学習」「行動」「認知」という言葉の定義を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	学習における行動論的アプローチと認知論的アプローチについて調べ、ノート等にまとめる（2.5時間）

2	古典的条件づけ：理論の概要と般化・弁別
事前	「パブロフの犬」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	系統的脱感作法の適応例について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

3	オペラント条件づけ①：理論の概要
事前	「スキナー箱」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	正の強化・弱化、負の強化・弱化の例について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

4	オペラント条件づけ②：行動の獲得と消去
事前	「スモールステップ」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	プログラム学習を応用した個別学習指導の工夫を考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

5	小テスト 応用行動分析①：概要
事前	「応用行動分析におけるベースライン」とはどのようなものか調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	応用行動分析の要点をノート等にまとめる（2.5時間）

6	応用行動分析②：支援事例
事前	障害児教育において応用行動分析がどのように使われているか調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	応用行動分析の適用例を考えノート等にまとめる（2.5時間）

7	社会的学習
事前	「自己効力感」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	効果的な観察学習の方法、自己効力感を育む指導法について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

8	記憶
事前	「ワーキングメモリー」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	障害児も含めたクラスで一斉授業を行う際の、工夫点や気をつけることをノート等にまとめる（2.5時間）

9	技能学習
事前	「プラトー現象」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	個別のスポーツ競技における練習上の留意点を考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

10	概念理解と言語獲得
事前	「内言と外言」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）

事後	抽象的な概念を効果的に学習するにはどうしたら良いか考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

11	問題解決と推理
事前	「演繹的推論と帰納的推論」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	問題解決の能力を育む指導法について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

12	自己調整学習と学習意欲
事前	「内発的動機づけ」という言葉を調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	テスト前の自身の学習方法について振り返り、改善点を考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

13	小テスト ソーシャルスキルトレーニング①：概要
事前	「WHOのライフスキル」について調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	ソーシャルスキル・ライフスキルを育む環境の特徴について考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

14	ソーシャルスキルトレーニング②：支援事例
事前	学校におけるソーシャルスキル教育について調べ、ノート等にまとめる（1.5時間）
事後	小学生・中学生・高校生に対する集団作りの指導を行う際、各校種で注意することや工夫することを考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

15	まとめ
事前	これまでの授業の配布プリントを読み返し、学習心理学のアウトラインを図などで表し、各種理論の特徴を書き出す（1.5時間）
事後	これまで授業の配布プリント、事前・事後学習でまとめたノート等を見返し、学習者への直接的・間接的な働きかけにおいて重要なことを考え、ノート等にまとめる（2.5時間）

2020/07/16(木)21:46

科 目 名	手話I [社介子][ET]			授業コード	6760011
副 題					
開講期	前期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	吉川 あゆみ、山部 啓子				

科目に関する キーワード	手話、聴覚障がい、コミュニケーション

到達目標	＊手話で簡単な自己紹介ができる、一対一での簡単なやりとりができるようになる。 ＊聴覚障がいや手話を取り巻く環境ならびに背景について学び、その多様性を理解できる。			
授業の概要	手話は一つの「言語」、そして「文化」と言われています。日本語とは異なる文法体系や言い回し等を備えており、手話を学ぶほどにその奥行きに驚かされることでしょう。すなわち、手話は、聴覚障がい者の「コミュニケーションツール」を超えた魅力を持ち合わせると同時に、その習得にあたっては外国語習得と同等の時間と労力、そして異文化に対峙する姿勢もを求められます。本講義では、手話そのものの学習と併行して、文化とは何か、聴覚障がい者はどのような生活をしているのか等のさまざまな視点からのアプローチを通して、聴覚障がいの多様性に対する理解を深め、共生の道を模索していきましょう。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	＊毎回不特定多数の方とペアワークやグループワークを通して手話で会話します。 ＊毎回リアクションペーパーを提出します。
評価方法 及び評価基準	レポート	＊成績評価は授業への参加度（60%）、レポート（20%）、授業内確認テスト（20%）の割合で行います。得点の分布によっては配点を調整する可能性もあります。 ＊レポートの提出は必須となります。		
フィードバック	提出物やリアクションペーパーに質問や疑問点があった場合は、次回以降の授業で取り扱うことがあります。			
履修に際しての 注意事項	＊主に聴覚障がい講師との対話の中で手話を習得し、主に聴講師によって聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。 ＊手話学習は、音声日本語の無い状況で進められます。無音の中で手話を読み取り、言いたいことを持てる手話を駆使して表現し、知らない方であっても会話を楽しみ、なおかつ、自分の手話表現が通じない時も他者に頼らずに忍耐強く通じるポイントを探るという根気が求められます。 ＊毎回、不特定多数の方とランダムにペアやグループを作って会話練習をします。自分でペアやグループを選ぶことはできません。初めて会う方やあまり知らない方とも話してみたいという強い気持ちを持ち続けることが不可欠です。 ＊手話や聴覚障がい者についての理解が深まるような外部イベント・関連施設でのボランティアなどに参加し、その様子や感想をまとめるレポートが課されます。 ＊毎回の出席と積極的な授業参加が、終了時の手話スキルを大きく左右することを念頭においてください。			

DCU基礎力							

	1	2	3	4	5	6	7
I							
II							
III		○					
IV							○
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『新・手話通訳がわかる本』全国手話通訳問題研究会（編著） 中央法規	
参考HP	https://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	導入：アイコンタクト
事前	聞こえない人が日常生活で困る内容を箇条書きでまとめる（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

2	[手話]挨拶、名前の表現 [講義]コミュニケーション方法
事前	自分の名前の手話表現を調べ、覚える（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

3	[手話]数字、色 [講義]聞こえない人の日常生活1 音のない生活を想像する
事前	配付資料に沿って、色々な人名の手話表現を練習する（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

4	[手話]年齢、ライフステージ [講義]聞こえない人の日常生活2 日常生活で困ること
事前	配付資料に沿って、名前の手話文表現を練習する（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

5	[手話]家族構成 [講義]聞こえの仕組み
事前	配付資料に沿って、誕生～死までの手話表現を練習する（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

6	[手話]月日、誕生日 [講義]生活を支える福祉機器、福祉制度
事前	配付資料に沿って、家族に関する手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

7	[手話]一日の生活 [講義]聞こえない子どもへの教育1 幼児教育
事前	配付資料に沿って、月日の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

8	[手話]学部、学科 [講義]聞こえない子どもへの教育2 義務教育
事前	配付資料に沿って、朝～夜の生活に関する手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

9	[手話]都道府県名、出身地 [講義]手話とろう者
事前	配付資料に沿って、学部学科および科目名の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

10	[手話]地名、住所 [講義]社会参加へのあゆみ
事前	配付資料に沿って、都道府県名の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

11	[手話]交通手段、通学方法 [講義]運転免許

事前	配付資料に沿って、地名や駅名の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

12	[手話]読み取り学習 ［講義］災害時の聴覚障がい者
事前	ゲストへの質問項目を考えてまとめてくる（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

13	当事者の体験から学ぶ
事前	質問項目の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

14	前期のまとめ、復習
事前	第1～13回の配付資料に沿って、学習した手話表現を手を動かして練習する（30分）
事後	指定動画の手話表現を覚え、練習する（30分）

15	授業内確認テスト及び解説
事前	第1～13回の配付資料に沿って、学習した手話表現を手を動かして練習する（30分）
事後	前期の確認テストを読み返して、学習内容を振り返る（30分）

2020/07/16(木)21:46

科 目 名	手話II [社介子][ET]			授業コード	6760022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	吉川 あゆみ、山部 啓子				

科目に関する キーワード	手話、聴覚障がい、コミュニケーション

到達目標	＊手話で一対一での簡単なやりとりができるようになる。 ＊手話による自己紹介のスピーチができるようになる。 ＊聴覚障がいや手話を取り巻く環境ならびに背景について学び、その多様性を理解できるようになる。			
授業の概要	手話は一つの「言語」、そして「文化」と言われています。日本語とは異なる文法体系や言い回し等を備えており、手話を学ぶほどにその奥行きに驚かされることでしょう。すなわち、手話は、聴覚障がい者の「コミュニケーションツール」を超えた魅力を持ち合わせると同時に、その習得にあたっては外国語習得と同等の時間と労力、そして異文化に対峙する姿勢もを求められます。本講義では、手話そのものの学習と併行して、文化とは何か、聴覚障がい者はどのような生活をしているのか等のさまざまな視点からのアプローチを通して、聴覚障がいの多様性に対する理解を深め、共生の道を模索していきましょう。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	＊毎回不特定多数の方とペアワークやグループワークを通して手話で会話します。 ＊毎回リアクションペーパーを提出します。
評価方法 及び評価基準	レポート	＊成績評価は授業への参加度（60%）、レポート（20%）、授業内確認テスト（20%）の割合で行います。得点の分布によっては配点を調整する可能性もあります。 ＊レポートの提出は必須となります。		
フィードバック	＊提出物やリアクションペーパーに質問や疑問点があった場合は、次回以降の授業で取り扱うことがあります。			
履修に際しての 注意事項	＊前期に「手話Ⅰ」を履修した方を対象としています。手話をはじめて学ぶ方が本講義に入ると、途中リタイアする可能性がありますので、「手話Ⅰ」を履修後に「手話Ⅱ」に進んでください。 ＊主に聴覚障がい講師との対話の中で手話を習得し、主に聴講師によって聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。 ＊手話学習は、音声日本語の無い状況で進められます。無音の中で手話を読み取り、言いたいことを持てる手話を駆使して表現し、知らない方であっても会話を楽しみ、なおかつ、自分の手話表現が通じない時も他者に頼らずに忍耐強く通じるポイントを探るという根気が求められます。 ＊毎回、不特定多数の方とランダムにペアやグループを作って会話練習をします。自分でペアやグループを選ぶことはできません。初めて会う方やあまり知らない方とも話してみたいという強い気持ちを持ち続けることが不可欠です。 ＊手話や聴覚障がい者についての理解が深まるような外部イベント・関連施設でのボランティアなどに参加し、その様子や感想をまとめるレポートが課されます。 ＊毎回の出席と積極的な授業参加が、終了時の手話スキルを大きく左右することを念頭においてください。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				
III							
IV							
V							

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『新・手話通訳がわかる本』全国手話通訳問題研究会（編著） 中央法規	
参考HP	https://www.nhk.or.jp/heart-net/syuwa/index.html	

授業計画及び事前・事後学修

1	[手話]前期の復習 [講義]手話の歴史
事前	手話Ｉでの配付資料に沿って、手を動かして練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
2	[手話]校内ツアー [講義]ろう教育の歴史
事前	配付資料に沿って、イベント関連の手話表現を練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
3	[手話]図形、位置の表現 [講義]高等教育
事前	配付資料に沿って、学内の各施設・設備に関する手話表現を練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
4	[手話]店名、店頭の会話 [講義]ノートテイク体験
事前	配付資料に沿って、お店に関する手話表現を練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
5	[手話]校内案内 [講義]社会参加へのあゆみ1 ろうあ運動の柱
事前	配付資料に沿って、形の手話表現を練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
6	[手話]町案内 [講義]社会参加へのあゆみ2 ろうあ運動の歴史
事前	配付資料に沿って、基本的な道案内の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
7	[手話]教科、部活 [講義]障害者権利条約と国内の動き
事前	配付資料に沿って、室内の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
8	[手話]食べ物 [講義]仕事
事前	配付資料に沿って、部活に関する手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
9	[手話]趣味、特技 [講義]余暇、文化、スポーツ活動
事前	配付資料に沿って、食べ物の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）
10	[手話]職業、アルバイト [講義]高齢ろう者、ろう重複障害者
事前	配付資料に沿って、趣味・特技の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）

11	[手話]自由会話発表 [講義]手話通訳とは
事前	第1～10回の配付資料に沿って、学習した手話表現を手を動かして練習する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）

12	[手話]読み取り学習 [講義]手話通訳体験
事前	ゲストへの質問項目を考えてまとめてくる（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）

13	当事者の体験から学ぶ
事前	質問項目の手話表現の練習をする（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）

14	後期のまとめ、復習
事前	自己紹介の手話スピーチ内容を考えて練習し、わからない手話表現を把握する（30分）
事後	指定の手話動画を覚え、練習する（30分）

15	授業内確認テストおよび解説
事前	自己紹介の手話スピーチを覚え、仕上げの練習をする（30分）
事後	後期の確認テストを読み返して、学習内容を振り返る（30分）

2020/07/16(木)21:51

科 目 名	子どもの遊び [子]			授業コード	6770012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	和田 靖子				

科目に関する キーワード	遊びを通しての総合的な指導　伝承遊び　遊び歌　保育者として必要な遊びの援助方法

到達目標	本授業の到達目標は以下の3点である。 1）様々な伝承遊びを体験することにより、子どもの成長と発達を促す遊びについて理解している。 (1)幼児の遊びには成長や発達にとって重要な体験が多く含まれていることを理解している。 (2)担当する伝承遊びを企画し、実践することができる。 2）子どもと関わるための遊びとして遊び歌を身につける。 (1)年齢や状況に応じた様々な遊び歌を身につけることができる。 (2) 創意工夫を行い、遊び歌を作り変えることができる。 (3)遊び歌を創作し、実演することができる。 3)一人ひとりの発達に応じた指導について理解している。 (1)遊び歌を子どもの発達に合わせて作り変えることができる。 (2)子どもの遊びの種類と発達について理解している。			
授業の概要	幼稚園教育において保育の基本とされている「遊びを通しての総合的な指導」を実践していくために、鬼遊び、わらべ歌遊びなどの伝承遊びを実践する。遊びはそれ自体が目的であり、色々な力がつくのは遊んだ結果であるということを体験する。遊びを伝える担当学生は、遊びの伝承と展開を保育者の目線で実践する。子どもと関わるための遊びとして遊び歌を実施する。年齢に応じた様々な遊び歌を行うことで、一人ひとりの発達に応じた指導について理解する。遊び歌の創意工夫を経て、遊び歌を創作し実演する。			
授業方法	演習	アクティブ ラーニング	○	4グループに分かれ、伝承あそび(鬼遊び、わらべ歌遊び、新聞紙遊び、ゴム縄遊び)を実践するため、書籍や情報機器を利用し、担当する遊びについて調べた上で企画を行う。また実践準備をし、リーダーとして各遊びの実践を行う。 タオルを用いてパペットを作り、紹介を兼ねて発表する。 各自で遊び歌の創意工夫を行い、発表する。 グループで遊び歌の創意工夫を行い、発表する。 各自でオリジナルの遊び歌を創作し、発表する。 1学年全員分の遊び歌作品を1冊の冊子にまとめる。
評価方法 及び評価基準	レポート	創作遊び歌の実技発表(40%)、レポート・課題提出(30%)、授業中の活動状況（30%）の割合で行う。		
フィードバック	グループ及び個人による作品発表や実技発表については、授業内においてフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	上履きを持参し、動きやすい服装で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○	○	
III						○	
IV							
V							

テキスト1	『改訂うたっておどっておもちゃ箱』鈴木恵津子編著　教育芸術社	9.78488E+12
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説平成30年3月』文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説平成30年3月』内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 『保育所保育指針解説平成30年3月』厚生労働省　フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	遊びを通しての総合的指導の意義
事前	シラバスを読む (15分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する (30分)

2	子どもと関わるための遊び(1) コミュニケーションを図る遊び歌 / グループ活動(1) 伝承遊びの企画
事前	興味のある伝承遊びについて調べる(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

3	子どもと関わるための遊び(2) ストーリー性のある遊び歌 / グループ活動(2) 伝承遊びの実践準備
事前	自分の担当する伝承遊びについて調べる (30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

4	子どもと関わるための遊び(3) 遊び歌の創意工夫 / グループ活動(3) 伝承遊びの実践工夫
事前	自分の担当する伝承遊びのワークシートを仕上げる(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

5	伝承遊び(1) 鬼遊びで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる (30分)

6	伝承遊び(2) 新聞紙を使って遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

7	伝承遊び(3) わらべうたで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

8	伝承遊び(4) 縄遊びで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)

事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

9	子どもの遊びの種類と発達のみちすじについて理解する
事前	『幼稚園教育要領解説』第1章　第1節を熟読する(15分)
事後	今回までのノートを見直し、整理する(30分)

10	子どもと関わるための遊び(4)　冬にちなんだ遊び歌
事前	今までに学んだ遊び歌を復習する(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 遊び歌の復習をする　　(30分)

11	子どもと関わるための遊び(5) タオル人形づくりと乳児の遊ばせ歌
事前	タオルを準備し、自分の作りたいものをイメージしておく (30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 遊び歌の復習をする　　(30分)

12	遊び歌の創作
事前	遊び歌を創作する(120分)
事後	創作した遊び歌を生き生きと実演できるように練習する(30分)

13	「子どものあそびうた」冊子作製　遊び歌実技発表の準備
事前	ノート提出に向けて仕上げを行う(60分)
事後	「子どものあそびうた」の冊子を熟読する(30分)

14	遊び歌の実技発表
事前	実技発表の練習を行う(30分)
事後	発表を終えた上で「子どものあそびうた」の冊子を見直し、他の人の作品から学ぶものを見つける(30分)

15	年齢や発達に即した遊びの援助
事前	今までの授業を振り返り、質問事項などをまとめておく(30分)
事後	15回の学びを確認する(30分)

2020/07/16(木)21:57

科 目 名	子どもの遊び [子]			授業コード	6770022
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	1
担 当 者	和田 靖子				

科目に関するキーワード	遊びを通しての総合的な指導　伝承遊び　遊び歌　保育者として必要な遊びの援助方法

到達目標	本授業の到達目標は以下の3点である。 1）様々な伝承遊びを体験することにより、子どもの成長と発達を促す遊びについて理解している。 (1)幼児の遊びには成長や発達にとって重要な体験が多く含まれていることを理解している。 (2)担当する伝承遊びを企画し、実践することができる。 2）子どもと関わるための遊びとして遊び歌を身につける。 (1)年齢や状況に応じた様々な遊び歌を身につけることができる。 (2) 創意工夫を行い、遊び歌を作り変えることができる。 (3)遊び歌を創作し、実演することができる。 3)一人ひとりの発達に応じた指導について理解している。 (1)遊び歌を子どもの発達に合わせて作り変えることができる。 (2)子どもの遊びの種類と発達について理解している。			
授業の概要	幼稚園教育において保育の基本とされている「遊びを通しての総合的な指導」を実践していくために、鬼遊び、わらべ歌遊びなどの伝承遊びを実践する。遊びはそれ自体が目的であり、色々な力がつくのは遊んだ結果であるということを体験する。遊びを伝える担当学生は、遊びの伝承と展開を保育者の目線で実践する。子どもと関わるための遊びとして遊び歌を実施する。年齢に応じた様々な遊び歌を行うことで、一人ひとりの発達に応じた指導について理解する。遊び歌の創意工夫を経て、遊び歌を創作し実演する。			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	4グループに分かれ、伝承あそび(鬼遊び、わらべ歌遊び、新聞紙遊び、ゴム縄遊び)を実践するため、書籍や情報機器を利用し、担当する遊びについて調べた上で企画を行う。また実践準備をし、リーダーとして各遊びの実践を行う。 タオルを用いてパペットを作り、紹介を兼ねて発表する。 各自で遊び歌の創意工夫を行い、発表する。 グループで遊び歌の創意工夫を行い、発表する。 各自でオリジナルの遊び歌を創作し、発表する。 1学年全員分の遊び歌作品を1冊の冊子にまとめる。
評価方法及び評価基準	レポート	創作遊び歌の実技発表(40%)、レポート・課題提出(30%)、授業中の活動状況（30%）の割合で行う。		
フィードバック	グループ及び個人による作品発表や実技発表については、授業内においてフィードバックを行う。			
履修に際しての注意事項	上履きを持参し、動きやすい服装で授業に臨むこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II					○	○	
III						○	
IV							
V							

テキスト1	『改訂うたっておどっておもちゃ箱』鈴木恵津子編著　教育芸術社	9.78488E+12
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	『幼稚園教育要領解説平成30年3月』文部科学省　フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説平成30年3月』内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 『保育所保育指針解説平成30年3月』厚生労働省　フレーベル館	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	遊びを通しての総合的指導の意義
事前	シラバスを読む (15分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する (30分)

2	子どもと関わるための遊び(1) コミュニケーションを図る遊び歌 / グループ活動(1) 伝承遊びの企画
事前	興味のある伝承遊びについて調べる(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

3	子どもと関わるための遊び(2) ストーリー性のある遊び歌 / グループ活動(2) 伝承遊びの実践準備
事前	自分の担当する伝承遊びについて調べる (30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

4	子どもと関わるための遊び(3) 遊び歌の創意工夫 / グループ活動(3) 伝承遊びの実践工夫
事前	自分の担当する伝承遊びのワークシートを仕上げる(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 教科書の該当箇所を熟読する 遊び歌の復習をする　(30分)

5	伝承遊び(1) 鬼遊びで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる (30分)

6	伝承遊び(2) 新聞紙を使って遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

7	伝承遊び(3) わらべうたで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

8	伝承遊び(4) 縄遊びで遊ぼう
事前	伝承遊びを担当する学生は準備を行う(30分)

事後	授業内容をノートにまとめる(30分)

9	子どもの遊びの種類と発達のみちすじについて理解する
事前	『幼稚園教育要領解説』第1章　第1節を熟読する(15分)
事後	今回までのノートを見直し、整理する(30分)

10	子どもと関わるための遊び(4)　冬にちなんだ遊び歌
事前	今までに学んだ遊び歌を復習する(30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 遊び歌の復習をする　　(30分)

11	子どもと関わるための遊び(5) タオル人形づくりと乳児の遊ばせ歌
事前	タオルを準備し、自分の作りたいものをイメージしておく (30分)
事後	授業内容をノートにまとめる 遊び歌の復習をする　　(30分)

12	遊び歌の創作
事前	遊び歌を創作する(120分)
事後	創作した遊び歌を生き生きと実演できるように練習する(30分)

13	「子どものあそびうた」冊子作製　遊び歌実技発表の準備
事前	ノート提出に向けて仕上げを行う(60分)
事後	「子どものあそびうた」の冊子を熟読する(30分)

14	遊び歌の実技発表
事前	実技発表の練習を行う(30分)
事後	発表を終えた上で「子どものあそびうた」の冊子を見直し、他の人の作品から学ぶものを見つける(30分)

15	年齢や発達に即した遊びの援助
事前	今までの授業を振り返り、質問事項などをまとめておく(30分)
事後	15回の学びを確認する(30分)

2020/07/16(木)11:13

科 目 名	知的障害者の生理・病理 [心]			授業コード	6780012
副 題					
開講期	後期	配当年次	2	単 位 数	2
担 当 者	長田 洋和				

科目に関する キーワード	知的発達症（知的能力障害），染色体異常，生理と病理，合併症，薬物療法（服薬管理）

到達目標	知的障害児・者の定義，分類を世界的な基準をもとに理解できるようになる．世界保健機構の理論的モデルの理解から，診断基準，分類（分類体系および病因と予防）に焦点を当て，知識が獲得できるようになる．さらに，知的障害医療の現状についても把握できるようになる他，病理・生理の実際を視聴覚教材から主体的に学ぶことで実践的な理解もできる．			
授業の概要	知的障害（intellectual disability）は，その用語ですら，いまだ流動的であり，世界中での 理解が統一されていないと言えます．例えば，アメリカ精神医学会のDSM-5では 知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）とされている一方，アメリカの公法では精神遅滞（mental retardation）とされています。世界保健機構のICD-11 では，知的能力障害とされています． 診断基準も徐々に改訂が進んでいます．知的障害の生理・病理についての現在のおよび発展しつつある理解と社会の中での人々の生活に影響を与える要因を取り入れるためにも，世界的な基準をもとに知的障害の生理・病理を理解し，知的障害を有する児・者をよりよく援助するための知識を得ます．			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	レポート	授業内レポート（60%），平常点評価（40%）		
フィードバック	提出された課題に対しては，各学生の個人名が分からないようにして，総評あるいは統計化して フィードバックします。			
履修に際しての 注意事項	プレゼンテーション（PPT, Keynote）での講義を行います． 視聴覚教材を用いた講義の際には，課題を出します．			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I			○	○			
II							
III							
IV						○	

V							

テキスト1	プリントを配布します.	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	知っておきたい知的障害者の医療と保健衛生　基礎編―正しい理解と適切な支援のために 日本知的障害者福祉協会（編著）	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	知的障害の定義
事前	知的障害について，自身の知識・経験を思い出しまとめておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

2	知的障害の生理と病理の違い
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

3	染色体とその異常
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

4	知的障害の病理に関わる染色体異常とその合併症（1）ダウン症など
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

5	知的障害の病理に関わる染色体異常とその合併症（2）ウィリアムズ症など
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

6	知的障害の病理に関わる染色体異常とその合併症（3）脆弱X症など
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

7	知的障害の病理に関わる染色体異常とその合併症（4）プラダー・ウィリ症など
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

8	知的障害の病理に関わる染色体異常とその合併症（5）ネコなき症など
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

9	知的障害の病理に関わる神経疾患（1）てんかんなど
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

10	知的障害の病理に関わる神経疾患（2）脳性マヒなど
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

11	知的障害の病因論（危険因子）
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

12	知的障害の病因（行動的表現型）
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

13	知的障害児・者にみられる身体的健康の障害
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）

事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

14	知的障害児・者にみられる精神障害
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	前回の講義で理解したことをまとめなおし，疑問点があれば次回の講義で質問できるようにしておく（2時間）

15	まとめと最新研究動向
事前	前回の講義内で配布した資料を熟読し，疑問点があれば適宜調べておく（2時間）
事後	講義内課題について，自己採点と自身の課題についてまとめておく（2時間）

2020/07/16(木)22:18

科 目 名	障害児の心理・生理・病理 [心]			授業コード	6780021
副 題					
開講期	前期	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	宮崎 敦子				

科目に関する キーワード	障害のとらえ方・身体障害・知的障害・発達障害・医学的特性・心理的特性

到達目標	障害を生理学、病理学、心理学的観点から理解することを目標とする。知的・発達・行動障害、運動障害、小児健康障害、感覚障害、音声・言語障害など基本的な障害の定義や原因と分類、障害児の心理学的特徴について学ぶ。			
授業の概要	「障害とは何か」「障害をどう理解するか」と「人間とは何か」という根源的な問いについて考えることと同意である。「障害」が自分とは異なる特別なことではなく、誰にでも共有する現象である。障害を理解するためには、障害に関する科学的認識を持ち、対象となる障害の病態を十分に理解していることが必要不可欠である。基本的な障害の病態を概説する。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	筆記試験	期末試験の得点を90%、講義への参加度10%に基づいて評価する。		
フィードバック	宿題として出された課題に取り組むこと。単元ごとにテキスト内のまとめ課題を用いた小テストによりフィードバックを行う。			
履修に際しての 注意事項	事前に提示された課題について下調べを行うこと。参考文献等を用いて自分のノートをまとめておくこと。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II		○					
III			○				
IV							

V							

テキスト1	プリントを配布しそれに沿って進めるため、指定教科書なし。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	使用の際に文献を提示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション、講義の目的、内容、進め方、評価方法について 講義についての概説
事前	シラバスを一読してくる(2時間)
事後	資料（障害の概念）について一読する(2時間)
2	障害理解とリハビリテーションの考え方
事前	障害の概念について確認する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から障害理解について理解すること(2時間)
3	障害の定義
事前	現在障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から障害の定義と支援の在り方について理解すること(2時間)
4	身体障害の生理と病理(1)
事前	身体障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から身体障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)
5	身体障害の生理と病理(2)
事前	身体障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から身体障害の原因疾患について理解すること(2時間)
6	身体障害に対する支援の実際・事例検討
事前	身体障害児の支援の在り方を考察する(2時間)
事後	配布資料事例から身体障害児の支援の在り方を考察する(2時間)
7	発達障害の生理と病理(1)
事前	発達障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から発達障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)
8	発達障害の生理と病理(2)
事前	発達障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から発達障害の原因疾患について理解すること(2時間)
9	発達障害に対する支援の実際・事例検討
事前	発達障害児の支援の在り方を考察する(2時間)
事後	配布資料事例から発達障害児の支援の在り方を考察する(2時間)
10	知的障害の生理と病理
事前	知的障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から知的障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)
11	感覚障害の生理と病理
事前	感覚障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から感覚障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)
12	音声・言語障害の生理と病理
事前	音声・言語障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から音声・言語障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)
13	健康障害の生理と病理
事前	健康障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)

事後	配布資料該当箇所から健康障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)

14	その他障害の生理と病理
事前	障害の原因となっている疾患について概観する(2時間)
事後	配布資料該当箇所から障害の定義と原因疾患について理解すること(2時間)

15	まとめ
事前	総括を自分でまとめておくこと(2時間)
事後	配布資料のサマリー項目が理解できていること(2時間)

2020/07/16(木)20:49

科 目 名	福祉とスポーツ [社介心]			授業コード	6790032
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	岸本 太一				

特別支援学校（肢体不自由、知的障害）での教科（保健体育）指導（9年間）
身体障害者、知的障害者を対象とした水泳指導（15年間）
パラリンピックスポーツに関わる用器具の研究開発
他大学での講師経験：アダプテッドスポーツ

科目に関するキーワード	障害・福祉、レクリエーションスポーツ、パラスポーツ、アダプテッドスポーツ

到達目標	・知識の「わかる」から実践の「できる」になるだけではなく、「できる」から自ら「行動する」マインドを身につけることができる。 ・「知識」だけではなく、それを活かす「知恵」を身につけることができる。

授業の概要	レクリエーションスポーツとパラスポーツを対話を重視したワークショップ形式で学ぶ。ワークショップ形式では、学びを深めるための「問い」をつくるスキルや、レゴシリアスプレイのメソッドとリフレクションカードを活用し、社会で必要となる「対話力（コミュニケーション）」「創造力（クリエイティブ）」「表現力（主にクリティカル）」「協働力（コレクティブ）」を育成することを目的とする。 授業後半では、プロジェクトチームを立ち上げ、障害・福祉と競技スポーツに内在する課題に対して各チームが取り組むプロジェクト型授業（PBL）を実施する。障害・福祉とスポーツに限らず、社会に貢献する力を身につけたい、新しいことにチャレンジしたい学生におすすめです。

授業方法	講義	アクティブラーニング		

評価方法及び評価基準	期末実施無し	毎回の授業においてリフレクションとフィードバックをグループで行います。期末試験を実施しないため、毎回の授業での取り組みが重要となります。 評価方法及び評価基準 各授業でのリフレクション 50% 授業への参加度 30% 最終的な成果物 20%

フィードバック	グループワーク等での良かった点、改善点を授業内でフィードバックする。

履修に際しての注意事項	・授業は基本グループワークで行うため、遅刻は周りに迷惑をかけます。 ・授業ごとのリフレクションは、欠席をするとその分は評価に加算されません。

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							

II						○	
III							
IV							
V		○					

テキスト1	特になし	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	パラスポーツルールブック 陶山哲夫(監)コンデックス情報研究所(編) 清水書院 すべての人が輝くみんなのスポーツを 芝田徳造ら(編) クリエイツかもがわ 障害者スポーツ指導教本初級・中級改訂版 (公財)日本障害者スポーツ協会(編) パラスポーツボランティア入門 松尾哲矢、平田竹男(編) 旬報社 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 東山書房 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部科学省 東山書房	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	レクリエーションスポーツ1ー障害・福祉への理解とスポーツとの関係性
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

2	レクリエーションスポーツ2ー障害・福祉とスポーツの意義・魅力
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

3	レクリエーションスポーツ3ー障害・福祉とスポーツの工夫・支援
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

4	レクリエーションスポーツ4ーリフレクションワーク(カードを使った内省・振り返り)
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

5	パラスポーツ1ー障害者とパラリンピック
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

6	パラスポーツ2ー競技者への支援方法と関係づくり
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

7	パラスポーツ3ー競技スポーツのルールと工夫・支援(水泳)
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

8	パラスポーツ4ー競技スポーツのルールと工夫・支援(ボッチャ)
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

9	パラスポーツ5ー競技スポーツのルールと工夫・支援(陸上)
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

10	パラスポーツ6ーリフレクションワーク(カードを使った内省・振り返り)
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。(1時間)
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。(1時間)

11	プロジェクトの生成1ー障害・福祉と競技スポーツからみる課題と取り組み
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。（1時間）
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。（1時間）

12	プロジェクトの生成2ープロジェクトチームづくりと定義・概要・内容の検討
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。（1時間）
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。（1時間）

13	プロジェクトの生成3ー課題と取り組みの明確化、情報収集
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。（1時間）
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。（1時間）

14	プロジェクトの生成4ープロジェクトの生成、成果物（発表資料）の作成
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。（1時間）
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。（1時間）

15	プロジェクトの生成5ープロジェクトの成果物発表
事前	事前に配布する資料を読み込んでから授業に臨む。（1時間）
事後	次の授業までに必要な情報を調べてくる。（1時間）

2020/07/16(木)11:17

科 目 名	英語 [子]			授業コード	6800010
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	中島 尚樹				

科目に関する キーワード	Be動詞の現在形と過去形、一般動詞の現在形と過去形、現在(過去)進行形
到達目標	英語という外国語の学習を通して、その背後にある異なる社会・文化の在り方を学ぶことで人間・社会についての一般的な理解を深め、実際に日常生活での基本的なコミュニケーションが英語でできるようになること。具体的な目標は以下の通り。 1. Be動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 2. 一般動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 3. 日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。
授業の概要	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の歌や月の名前の由来など英語の素朴な疑問や文化的な話題などにも触れたいと思っています。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング		空欄
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト(80%)、期末試験(20%)で評価すします。		
フィードバック	授業中のテストは、実施後に解答を示し、各自どの部分が理解できていないか確認してもらいます。また、達成度などに関してもコメントを加えます。			
履修に際しての 注意事項	遅刻(早退)3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	English Aid（Robert Hickling・臼倉美里、金星堂）	9784764740365
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業説明と英語診断テスト
事前	テキストの音声をダウンロードする。シラバスを読む。(授業の流れはテキスト通りに進まないことに注意) (30分)
事後	1年間の授業の流れを確認し、診断テストの間違いをまとめる。(20分)

2	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)
事前	テキストのPre-Unitの部分を読んで、問題をやる。(30分)
事後	各品詞の例を自分で考えてみる。(以下の「復習」はすべて何日かに分けてやること) (60分)

3	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)
事前	代名詞の分類をしてみる。(30分)
事後	指示に沿って代名詞についてまとめる。(60分)

4	文法：Be動詞の現在形(肯定文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント1の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント1の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

5	文法：Be動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント2の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント2の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

6	文法：Be動詞の過去形 (肯定文，否定文，疑問文)
事前	プリント3の説明部分を読む。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

7	Unit 1 First Day of Class (be動詞の構文)
事前	テキストU1のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U1のConversationのBを聞いて音読する。(音読の「復習」は毎日するのが望ましい。以下同じ) (60分)

8	文法：There 構文 (人やモノの存在を表す表現)
事前	プリント4の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまで出てきたBe動詞の構文をまとめる。(60分)

9	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)
事前	プリント5の説明部分を読む。(30分)
事後	プリント5の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

10	文法：一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn'tの区別と使い方)
事前	プリント6の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	プリント6の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

11	文法：一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Doesの区別と使い方)
事前	プリント7の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

12	Unit 2 I love Bread! (一般動詞の現在形)
事前	テキストU2のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U2のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

13	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)
事前	テキストU3のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U3のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

14	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞：所有格、目的格)
事前	テキストU4のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U4のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

15	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)
事前	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。(30分)
事後	プリント8の時間表現を訳して自分でまとめる。(60分)

16	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)
事前	テキストU7のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U7のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

17	まとめ：be動詞と一般動詞の現在形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまで学んだ構文を自分で整理する。(30分)
事後	これまで出てきた単語を整理し，まとめる。(60分)

18	文法：現在と過去の区別(時制) (過去の時点を表す副詞と動詞の形)
事前	プリント9の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント9の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

19	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)
事前	プリント10の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。(60分)

20	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … とdidn't の使い方)
事前	プリント11の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント11の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

21	Unit 5 What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)
事前	テキストU5のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U5のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

22	文法：Wh疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合のWh疑問文)
事前	知っている疑問詞をまとめる。(30分)
事後	これまでに出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。(60分)

23	Unit 13 I'm Meeting a Friend (疑問詞)
事前	テキストU13のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U13のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

24	Unit 11 Hitomi wants a New Look (接続詞)
事前	テキストU11のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U11のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

25	文法：現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)
事前	プリント12の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント12の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

26	文法：過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)
事前	現在形と現在進行形の違いについて考え、まとめる。(30分)
事後	プリント13の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

27	Unit 6 It Won't Hurt (進行形)
事前	テキストU6のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U6のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

28	Unit 8 Small Talk (未来形)
事前	テキストU8のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U8のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

29	Unit 14 Date Night (助動詞)
事前	テキストU14のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	テキストU14のGrammar Topperの例文をすべて訳し、ノートに書く。(60分)

30	まとめ：一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまでの構文を整理して，疑問点をまとめる。(30分)
事後	小テストで間違えた部分の正しい答えをまとめる。(30分)

2020/07/16(木)20:24

科 目 名	英語 [子]			授業コード	6800020
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	中島 尚樹				

科目に関する キーワード	Be動詞の現在形と過去形、一般動詞の現在形と過去形、現在(過去)進行形
到達目標	英語という外国語の学習を通して、その背後にある異なる社会・文化の在り方を学ぶことで人間・社会についての一般的な理解を深め、実際に日常生活での基本的なコミュニケーションが英語でできるようになること。具体的な目標は以下の通り。 1. Be動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 2. 一般動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 3. 日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。
授業の概要	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の歌や月の名前の由来など英語の素朴な疑問や文化的な話題などにも触れたいと思っています。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング		空欄
評価方法 及び評価基準	試験	原則として、授業内実施の小テスト(80%)、期末試験(20%)で評価すします。		
フィードバック	授業中のテストは、実施後に解答を示し、各自どの部分が理解できていないか確認してもらいます。また、達成度などに関してもコメントを加えます。			
履修に際しての 注意事項	遅刻(早退)3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	English Aid（Robert Hickling・臼倉美里、金星堂）	9784764740365
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業説明と英語診断テスト
事前	テキストの音声をダウンロードする。シラバスを読む。(授業の流れはテキスト通りに進まないことに注意) (30分)
事後	1年間の授業の流れを確認し、診断テストの間違いをまとめる。(20分)

2	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)
事前	テキストのPre-Unitの部分を読んで、問題をやる。(30分)
事後	各品詞の例を自分で考えてみる。(以下の「復習」はすべて何日かに分けてやること) (60分)

3	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)
事前	代名詞の分類をしてみる。(30分)
事後	指示に沿って代名詞についてまとめる。(60分)

4	文法：Be動詞の現在形(肯定文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント1の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント1の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

5	文法：Be動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント2の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント2の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

6	文法：Be動詞の過去形 (肯定文，否定文，疑問文)
事前	プリント3の説明部分を読む。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

7	Unit 1 First Day of Class (be動詞の構文)
事前	テキストU1のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U1のConversationのBを聞いて音読する。(音読の「復習」は毎日するのが望ましい。以下同じ) (60分)

8	文法：There 構文 (人やモノの存在を表す表現)
事前	プリント4の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまで出てきたBe動詞の構文をまとめる。(60分)

9	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)
事前	プリント5の説明部分を読む。(30分)
事後	プリント5の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

10	文法：一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn'tの区別と使い方)
事前	プリント6の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	プリント6の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

11	文法：一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Doesの区別と使い方)
事前	プリント7の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

12	Unit 2 I love Bread! (一般動詞の現在形)
事前	テキストU2のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U2のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

13	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)
事前	テキストU3のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U3のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

14	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞：所有格、目的格)
事前	テキストU4のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U4のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

15	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)
事前	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。(30分)
事後	プリント8の時間表現を訳して自分でまとめる。(60分)

16	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)
事前	テキストU7のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U7のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

17	まとめ：be動詞と一般動詞の現在形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまで学んだ構文を自分で整理する。(30分)
事後	これまで出てきた単語を整理し，まとめる。(60分)

18	文法：現在と過去の区別(時制) (過去の時点を表す副詞と動詞の形)
事前	プリント9の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント9の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

19	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)
事前	プリント10の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。(60分)

20	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … とdidn't の使い方)
事前	プリント11の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント11の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

21	Unit 5 What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)
事前	テキストU5のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U5のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

22	文法：Wh疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合のWh疑問文)
事前	知っている疑問詞をまとめる。(30分)
事後	これまでに出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。(60分)

23	Unit 13 I'm Meeting a Friend (疑問詞)
事前	テキストU13のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U13のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

24	Unit 11 Hitomi wants a New Look (接続詞)
事前	テキストU11のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U11のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

25	文法：現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)
事前	プリント12の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント12の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

26	文法：過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)
事前	現在形と現在進行形の違いについて考え、まとめる。(30分)
事後	プリント13の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

27	Unit 6 It Won't Hurt (進行形)
事前	テキストU6のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U6のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

28	Unit 8 Small Talk (未来形)
事前	テキストU8のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U8のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

29	Unit 14 Date Night (助動詞)
事前	テキストU14のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	テキストU14のGrammar Topperの例文をすべて訳し、ノートに書く。(60分)

30	まとめ：一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまでの構文を整理して，疑問点をまとめる。(30分)
事後	小テストで間違えた部分の正しい答えをまとめる。(30分)

2020/07/16(木)20:30

科 目 名	英語 [科][ET]			授業コード	6800030
副 題					
開講期	通年	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	中島 尚樹				

科目に関する キーワード	Be動詞の現在形と過去形、一般動詞の現在形と過去形、現在(過去)進行形
到達目標	英語という外国語の学習を通して、その背後にある社会・文化の多様性・多元性を理解し尊重する姿勢を身につけ、実際に日常生活での基本的なコミュニケーションが英語でできるようになること。 具体的な目標は以下の通り。 1. Be動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 2. 一般動詞の構文(現在と過去)を正しく使うことができる。 3. 日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。
授業の概要	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の素朴な疑問や言葉の背後にある文化的な話題などにも触れたいと思っています。

授業方法	演習	アクティブ ラーニング	空欄	空欄
評価方法 及び評価基準	レポート	小テスト(90%)、授業内活動への取り組み(10%)で評価します。		
フィードバック	授業中のテストは、実施後に解答を示し、各自どの部分が理解できていないか確認してもらいます。また、達成度などに関してもコメントを加えます。			
履修に際しての 注意事項	遅刻(早退)3回で欠席1回とみなします。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I				○	○		
II							
III				○			
IV							

V							

テキスト1	English Aid（Robert Hickling・臼倉美里、金星堂）	9784764740365
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業説明と英語診断テスト
事前	テキストの音声をダウンロードする。シラバスを読む。(授業の流れはテキスト通りに進まないことに注意) (30分)
事後	1年間の授業の流れを確認し、診断テストの間違いをまとめる。(20分)

2	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)
事前	テキストのPre-Unitの部分を読んで、問題をやる。(30分)
事後	各品詞の例を自分で考えてみる。(60分) (以下の「復習」はすべて何日かに分けてやること)。

3	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)
事前	代名詞の分類をしてみる。(30分)
事後	指示に沿って代名詞についてまとめる。(60分)

4	文法：Be動詞の現在形(肯定文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント1の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント1の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

5	文法：Be動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be動詞＋名詞句、Be動詞＋形容詞句、Be動詞＋前置詞句)
事前	プリント2の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント2の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

6	文法：Be動詞の過去形 (肯定文，否定文，疑問文)
事前	プリント3の説明部分を読む。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

7	Unit 1 First Day of Class (be動詞の構文)
事前	テキストU1のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U1のConversationのBを聞いて音読する。(音読の「復習」は毎日するのが望ましい。以下同じ) (60分)

8	文法：There構文 (人やモノの存在を表す表現)
事前	プリント4の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまで出てきたBe動詞の構文をまとめる。(60分)

9	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)
事前	プリント5の説明部分を読む。(30分)
事後	プリント5の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

10	文法：一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn'tの区別と使い方)
事前	プリント6の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	プリント6の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

11	文法：一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Doesの区別と使い方)
事前	プリント7の説明部分を読み，例文を訳す。(30分)
事後	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。(60分)

12	Unit 2 I love Bread! (一般動詞の現在形)
事前	テキストU2のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U2のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

13	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)
事前	テキストU3のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U3のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

14	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞：所有格、目的格)
事前	テキストU4のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U4のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

15	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)
事前	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。(30分)
事後	プリント8の時間表現を訳して自分でまとめる。(60分)

16	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)
事前	テキストU7のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U7のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

17	まとめ：be動詞と一般動詞の現在形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまで学んだ構文を自分で整理する。(30分)
事後	これまで出てきた単語を整理し，まとめる。(60分)

18	文法：現在と過去の区別(時制) (過去の時点を表す副詞と動詞の形)
事前	プリント9の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント9の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

19	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)
事前	プリント10の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。(60分)

20	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … とdidn't の使い方)
事前	プリント11の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント11の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

21	Unit 5 What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)
事前	テキストU5のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U5のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

22	文法：Wh疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合のWh疑問文)
事前	知っている疑問詞をまとめる。(30分)
事後	これまでに出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。(60分)

23	Unit 13 I'm Meeting a Friend (疑問詞)
事前	テキストU13のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U13のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

24	Unit 11 Hitomi wants a New Look (接続詞)
事前	テキストU11のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U11のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

25	文法：現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)
事前	プリント12の説明部分を読み、例文を訳す。(30分)
事後	プリント12の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

26	文法：過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)
事前	現在形と現在進行形の違いについて考え、まとめる。(30分)
事後	プリント13の練習問題の訳をノートに書く。(60分)

27	Unit 6 It Won't Hurt (進行形)
事前	テキストU6のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U6のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

28	Unit 8 Small Talk (未来形)
事前	テキストU8のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	U8のConversationのBを聞いて音読する。(60分)

29	Unit 14 Date Night (助動詞)
事前	テキストU14のGrammar Aidの部分を読む。(30分)
事後	テキストU14のGrammar Topperの例文をすべて訳し、ノートに書く。(60分)

30	まとめ：一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)
事前	これまでの構文を整理して，疑問点をまとめる。(30分)
事後	小テストで間違えた部分の正しい答えをまとめる。(30分)

2020/07/16(木)10:54

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導II [社介]			授業コード	6810010
副 題					
開講期	通年	配当年次	3	単 位 数	2
担 当 者	神 朝弘				

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	生活問題の解決に向けた相談援助を実践する能力を修得することが本授業の主たるねらいである。具体的には、相談援助実習の意義を理解するとともに、実習に係る個別指導及び集団指導を通して相談援助に関する知識・技術について具体的かつ実際的に理解し、技術等を体得する。さらに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を獲得し実践できることをねらいとし、以下の4項目を到達目標とする。 ・相談援助実習の意義について理解し、説明できるようになる。 ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、授業での演習や実習の場で実践できるようになる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養し、その能力を実習の場で検証し、説明できるようになる。			
授業の概要	社会福祉士養成過程における最も重要な授業の1つであるソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習を行うにあたって必要とされる知識や技術の習得を行う授業を展開する（前期）。そしてソーシャルワーク実習での体験を統合し現場での実践に備える（後期）。具体的内容は以下のとおりである。 ・実習の配属先決定後に実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定する ・対人援助を行うにあたって守るべき倫理について十分に理解する ・実習記録等の取り方を演習を通じて習得する ・実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて社会福祉士としての自己の形成を図る			
授業方法	演習	アクティブラーニング	○	少人数のグループワークを実施した後、グループ発表を行う。 実習終了後にグループによる実習報告会を開催する。
評価方法及び評価基準	レポート	提出物50%、授業への参加態度50%として総合的に評価する。		
フィードバック	提出物については、事後の授業や個別面接においてコメントを返す。			
履修に際しての注意事項	・授業に欠席しないこと ・提出物等は定められた期日に必ず提出すること ・演習科目でもあるので、特に主体的、協同的な授業参加を心がけること			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II			○				

III				○			
IV			○				
V							

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献		
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	オリエンテーション 授業概要とスケジュールの説明
事前	シラバスを読んで、到達目標や授業概要について自分なりにイメージしておく（30分）
事後	到達目標の達成に向けて、自分の現在の状況や課題について考察する（30分）

2	実習先の理解1　実習先の概要理解等
事前	実習を希望している施設等の根拠法を熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

3	実習先の理解2　実習先の利用者理解等
事前	実習先の利用者について講義科目で使用したテキスト等のインデックスから該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

4	個人プロフィールの作成
事前	自分自身のPRポイント、長所や短所等についてあらかじめ考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

5	実習計画書の作成
事前	実習計画書の各項目について事前に考えておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

6	実習先事前訪問と実習計画の三者協議に関する指導
事前	『実習の手引』 P17～P26を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

7	「実習記録ノート」への記録内容に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

8	「実習記録ノート」への記録方法に関する理解
事前	『実習の手引』P27～P33を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

9	実習先の社会福祉士の業務に関する理解
事前	『実習の手引』 P5～P7、P53～P54を読んでくる（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

10	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
事前	講義科目で使用したテキスト等のインデックスから,「相談援助」に該当するページを判別し、当該ページを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

11	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
事前	介護福祉士、保育士の役割機能等について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

12	実習先事前訪問・協議を踏まえた実習計画の調整
事前	事前訪問の内容をまとめておく（30分）

事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

13	実習における個人プライバシーの保護と守秘義務等の理解
事前	個人情報保護法について調べておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

14	実習前の最終確認指導　配属施設・機関の業務の確認
事前	配属施設、機関の業務を再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

15	実習前の最終確認指導　巡回指導、帰校日等の確認等
事前	『実習の手引』 Ⅳ. 実習にあたっての心構えと注意事項を読んでおく（30分）
事後	前期授業で修得した知識等を総合的に振り返り、本実習に向けてイメージする（30分）

16	実習の振り返り
事前	「配属実習を終えて」、「実習の振り返り」を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

17	実習記録・体験を踏まえた課題の整理1　施設の役割等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

18	実習記録・体験を踏まえた課題の整理2　業務内容等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

19	実習記録・体験を踏まえた課題の整理3 利用者理解等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

20	実習記録・体験を踏まえた課題の整理4　相談援助技術等
事前	「実習日誌」の該当部分を読んでおく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

21	実習の自己評価 実習教員による個別面接指導
事前	実習中に得た成果と、課題について箇条書きでまとめておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

22	実習総括レポートの作成準備
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

23	実習総括レポートの作成
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

24	実習報告会の準備1　グループ形成、テーマ設定
事前	「実習日誌」を読み返して実習で得たことを再度確認しておく（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

25	実習報告会の準備2　報告原稿・資料の作成
事前	発表テーマに沿って発表原稿等を作成する（30分）
事後	グループで話し合われた内容を再度確認しておく（30分）

26	実習報告会の準備3　最終確認、リハーサル
事前	発表原稿等必要な資料を完成させる（30分）
事後	リハーサル等の結果を踏まえて資料等の修正を行う（30分）

27	実習報告会1　報告する

事前	発表の準備を入念に行う（30分）
事後	発表の振り返りを行い、気づいたことをまとめる（30分）

28	実習報告会2　報告を聞く
事前	他のグループの発表原稿を熟読する（30分）
事後	実習報告会への参加を通じて気づいたことをまとめる（30分）

29	実習報告会の振り返り　実習総括レポートの完成
事前	第27回、第28回の事後学修の内容を再度確認する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

30	実習総括レポートの発表
事前	実習総括レポートを熟読する（30分）
事後	授業で新たに修得した知識について再確認し、知識の定着を図る（30分）

2020/07/16(木)22:30

科 目 名	ソーシャルワーク実習 [社介]			授業コード	6810023
副 題					
開講期	集中	配当年次	3	単 位 数	4
担 当 者	神 朝弘				
福祉現場で働く職員から直接指導を受けて実習を行う。					

科目に関するキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習、社会福祉士

到達目標	(1)相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解、修得し、実践的な技術等を体得し実践できるようになる (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できるようになる (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できるようになる			
授業の概要	養成校担当教員は、社会福祉現場における相談援助実践経験豊富な教員、もしくは厚生労働省の定める要件を満たしている教員である。それら教員が配属先実習施設・機関の、やはり厚生労働省の定める資格要件を満たした実習指導者と連携をとりながら、180時間以上の現場実習を行う。担当教員と実習指導者の綿密な連携を基盤としたうえで、実習期間中の指導は主として配属先実習指導者が行い、養成校担当教員は2度の実習巡回指導と2度の帰校日指導を実施することを原則とする。			
授業方法	実習	アクティブラーニング	○	実習現場における様々な体験の中で、主体的、協働的に、知識や技能の活用を図る。
評価方法及び評価基準	—	実習施設・機関による実習評価、実習への取り組み等を総合的に評価する		
フィードバック	日々の取り組みや課題に対して、実習先の実習指導者から対面や記録による指導を受けることになる。また、担当教員からは巡回や帰校日及び個別的な連絡によって指導を行う。			
履修に際しての注意事項	・実習は欠席は認められず、既定の時間数及び求められる実習内容を満たさなくてはならない。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I	○						
II							
III							
IV		○					

V					○		

テキスト1	本学作成の「実習の手引」	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	適宜提示	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修	
授業計画	実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を通じて以下を実習項目とする。 ・利用者やその関係者、施設・機関等の職員、地域住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ・社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員の就業などに関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際 ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関等であることへの理解 ・地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
事前	振り返りを通じた学びや発見を以降の実習に反映させていく準備を行うこと。
事後	実習指導者からのスーパービジョンや実習記録ノートを用いて、振り返りや反省、課題の整理・把握を行うこと。

2020/07/16(木)21:55

科 目 名	英米児童文学 [子]			授業コード	6820012
副 題	本を読もう				
開講期	後期	配当年次	4	単 位 数	2
担 当 者	印藤 京子				

科目に関する キーワード	読書

到達目標	①児童文学の大きな流れを理解し、保育者に必要な教養ならびに汎用的な知識を培う。 ②授業で取り上げる作品について、児童文学の視点から作品解説ができるようになる。			
授業の概要	文学は、それを生み育んだ時代の精神やその時代に生きる人々の内面を表現する芸術です。そして児童文学は、大人の社会を如実に反映しつつ、時代時代の子どもの姿を描いています。このことを念頭において、英語圏の児童文学の大きな流れを概観し、テーマの変遷に目を向け、よく知られたなじみ深い作品を考察します。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング	○	作品鑑賞後、書籍と映像を比較し、意見交換をする
評価方法 及び評価基準	レポート	原則として、「読書レポート」(50%)、「鑑賞レポート」(30%)、意見交換(20%)を目安として評価する。		
フィードバック	「読書レポート」ならびに「鑑賞レポート」は、意見交換の材料として適宜利用し、講評の上返却する。			
履修に際しての 注意事項	＊履修希望者は、初回授業に必ず出席すること。 ＊指定図書の中から6冊以上を熟読し、それぞれに関する所定のレポートを作成することが求められる。 ＊課題図書 4 は履修者の希望により変更することがある。 ＊課題図書(選択)の「読書レポート」の提出期限は、最終授業日とする。 ＊最終レポート(課題 6 の「鑑賞レポート」)は当日中の提出とする。 ＊遅刻(早退)3回で欠席1回とみなす。 ＊作品鑑賞日の授業は、延長されることがある。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I							
II				○			

III					○		
IV						○	
V							

テキスト1	初回授業で、各回の解説項目をプリントして配付する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	講座案内（児童文学とは）
事前	これまでに読んだ（含む漫画）、もしくは映像で見た児童文学作品の一覧表を作成する（1時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

2	児童書の夜明け前
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 1 を熟読する（2時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

3	黎明期の作家・作品紹介
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 1 を熟読する（2時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

4	開花期の作家・作品紹介
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 2 を熟読する（4時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

5	作品鑑賞1（『フランダースの犬』）
事前	①課題図書 1の「読書レポート」を作成する（2時間） ②課題図書 2 を熟読する（4時間）
事後	課題図書 1の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

6	発展期の作家・作品紹介、意見交換（課題図書 1)
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 2 を熟読する（4時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

7	作品鑑賞2（『赤毛のアン』）
事前	①課題図書 2 の「読書レポート」を作成する（2時間） ②課題図書 3 を熟読する（5時間）
事後	課題図書 2 の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

8	確立期の作家・作品紹介、意見交換（課題図書 2)
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 3 を熟読する（5時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

9	作品鑑賞3（『秘密の花園』）
事前	①課題図書 3 の「読書レポート」を作成する（2時間） ②課題図書 4 を熟読する（4時間）
事後	課題図書 3 の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

10	円熟期の作品・作家紹介、意見交換（課題図書 3)
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 4 を熟読する（4時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

11	作品鑑賞4（『ナルニア国物語』）
事前	①課題図書 4 の「読書レポート」を作成する（2時間） ②課題図書 5 を熟読する（4時間）
事後	課題図書 4 の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

12	ファンタジーの動向、 意見交換（課題図書 4)
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 5 を熟読する（4時間）

事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

13	作品鑑賞5（『マチルダはちいさな大天才』）
事前	①課題図書 5 の「読書レポート」を作成する（2時間） ②課題図書 6 を熟読する（5時間）
事後	課題図書 5 の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

14	リアリズムの動向・新しいテーマ、意見交換（課題図書 5）
事前	①配付資料を参照し、★印のついた項目を調べる（1時間） ②課題図書 6 を熟読する（5時間）
事後	講義内容を要領よくまとめる（1時間）

15	作品鑑賞6（『ワンダー』）
事前	①課題図書 6 の「読書レポート」を作成する（2時間）
事後	課題図書 6 の「鑑賞レポート」を作成する（1時間）

2020/07/16(木)21:51

科 目 名	精神疾患とその治療 [科]			授業コード	6830012
副 題					
開講期	後期	配当年次	1	単 位 数	2
担 当 者	中川 正俊				

科目に関する キーワード	精神疾患，診断法，治療法

到達目標	・代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む精神疾患総論について理解し説明出来る。 ・向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について理解し説明出来る。 ・医療機関との連携について理解し説明出来る。			
授業の概要	精神疾患に関する総論として、代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法および経過を、本人および家族への支援法も含めて学ぶ。また、治療法に関係して向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化と影響、医療機関等との連携についても学ぶ。			
授業方法	講義	アクティブ ラーニング		
評価方法 及び評価基準	試験	試験80%、授業中の課題等への取り組み20%で総合的におこなう。		
フィードバック	リアクションペーパーに記載された疑問点については，事後の授業においてコメントする。			
履修に際しての 注意事項	他学生の迷惑となる行為をおこなわないこと。 繰り返す場合は退出を求めることもあるので注意すること。			

DCU基礎力							
	1	2	3	4	5	6	7
I						○	
II	○						
III							
IV						○	

V							

テキスト1	特に使用しない。授業中に資料を配布する。	
テキスト2		
テキスト3		
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
参考HP		

授業計画及び事前・事後学修

1	授業オリエンテーション、精神疾患とは何かについて
事前	配布プリントの「精神疾患とな何か」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「精神疾患とな何か」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

2	総論1:正常と異常、健康と病気、本人の支援と家族等への支援、医療機関への紹介と連携
事前	配布プリントの「正常と異常，健康と病気，本人の支援と家族等への支援，医療機関への紹介と連携」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「正常と異常，健康と病気，本人の支援と家族等への支援，医療機関への紹介と連携」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

3	総論2:精神症状のみかた、精神症状の分類
事前	配布プリントの「精神症状のみかた，精神症状の分類」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「精神症状のみかた，精神症状の分類」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

4	各論1:器質性・外因性・症状性精神障害について
事前	配布プリントの「器質性・外因性・症状性精神障害」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「「器質性・外因性・症状性精神障害」」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

5	各論2:統合失調症と関連障害について
事前	配布プリントの「統合失調症と関連障害」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「「統合失調症と関連障害」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

6	各論3:双極性障害、抑うつ性障害について
事前	配布プリントの「双極性障害，抑うつ性障害」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「双極性障害，抑うつ性障害」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

7	各論4:不安症群、強迫症と関連症群について
事前	配布プリントの「不安症群，強迫症と関連症群」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「「不安症群，強迫症と関連症群」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

8	各論5:発達障害(神経発達症群／神経発達障害群)について
事前	配布プリントの「発達障害(神経発達症群/神経発達障害群)」を通読しておくこと。(学修時間1.5時間)
事後	配布プリントを基に「発達障害(神経発達症群/神経発達障害群)」について復習し，知識の定着を図ること。(学修時間2.5時間)

9	各論6:適応障害について

事前	配布プリントの「適応障害」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「適応障害」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

10	各論7：児童・思春期の心理的問題（摂食障害を含む）について
事前	配布プリントの「児童思春期の心理的問題（摂食障害を含む）」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「児童思春期の心理的問題（摂食障害を含む）」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

11	各論8：パーソナリティ障害について
事前	配布プリントの「パーソナリティ障害」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「パーソナリティ障害」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

12	各論9：認知症（神経認知障害）について
事前	配布プリントの「認知症（神経認知障害）」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「認知症（神経認知障害）」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

13	各論10：その他の精神疾患（物質関連障害、嗜癖性障害などを含む）について
事前	配布プリントの「その他の精神疾患（物質関連障害，嗜癖性障害などを含む）」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「その他の精神疾患（物質関連障害，嗜癖性障害などを含む）」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

14	向精神薬の種類、効用、副作用について
事前	配布プリントの「向精神薬の種類，効用，副作用」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「向精神薬の種類，効用，副作用」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）

15	医学的治療と心理的ケアについて、精神科医療における公認心理師の役割について
事前	配布プリントの「医学的治療と心理的ケア，精神科医療における公認心理師の役割」を通読しておくこと。（学修時間1.5時間）
事後	配布プリントを基に「医学的治療と心理的ケア，精神科医療における公認心理師の役割」について復習し，知識の定着を図ること。（学修時間2.5時間）